

IBM File Manager for z/OS®
ユーザース・ガイドおよびリファレンス (Db2 データ用)
バージョン 14.1.19

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[特記事項 ページ mclxiv](#)に記載されている情報をお読みください。

本書に関する注意事項

本書(2023年2月発行)は、IBM® File Manager for z/OS® バージョン 14 リリース 1 モディフィケーション・レベル 19 (プログラム番号 5655-Q42)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

目次

本書について.....	xv	FM/Db2 システム・オプション (オプション 0.2).....	65
本書の対象読者.....	xvi	Job card specifications (option 0.3)(ジョブ・カード仕様 (オプション 0.3)).....	65
国別文字.....	xvi	コンパイラ言語の選択 (オプション 0.4).....	66
前提条件および関連情報.....	xvii	COBOL compiler specifications (option 0.5) (COBOL コンパイラ仕様 (オプション 0.5)).....	66
構文図の見方.....	xvii	HLASM compiler specifications (option 0.6) (HLASM コンパイラ仕様 (オプション 0.6)).....	66
変更の要約.....	xxi	PL/I compiler specifications (option 0.7) (PL/I コンパイラ仕様 (オプション 0.7)).....	67
第 1 部. FM/Db2 での作業.....	23	Temporary Data Set Allocations (一時データ・セット割り振り) (オプション 0.8).....	67
第 1 章. FM/Db2 の概要.....	24	Output Data Set Allocations (出力データ・セット割り振り) (オプション 0.9).....	67
FM/Db2 で実行できること.....	24	トレース・オプション (オプション 0.10).....	67
テンプレート.....	24	ISPF settings (option 0.11) (ISPF 設定 (オプション 0.11)).....	68
テンプレートとは?.....	24	View options (表示オプション) と Edit options (編集オプション) (オプション 1 と 2).....	68
テンプレートを使用できる場所.....	25	Utilities (option 3) (ユーティリティ (オプション 3)).....	68
第 2 章. File ManagerDb2® のシステム要件.....	27	Print utility options (option 3.1) (印刷ユーティリティ・オプション (オプション 3.1)).....	69
第 3 章. FM/Db2 入門.....	28	Copy utility options (option 3.3) (コピー・ユーティリティ・オプション (オプション 3.3)).....	69
FM/Db2 の開始と終了.....	28	Object List Options (option 3.4) (オブジェクト・リスト・オプション (オプション 3.4)).....	69
TSO 領域サイズ.....	28	Export utility options (option 3.7) (エクスポート・ユーティリティ・オプション (オプション 3.7)).....	70
FM/Db2 の使用を開始.....	29	Db2® LOAD utility options (option 3.L) (LOAD ユーティリティ・オプション (オプション 3.L)).....	70
ご使用の FM/Db2 バージョンの検査.....	30	Db2® Utility LISTDEF options (option 3.UL) (ユーティリティ LISTDEF オプション (オプション 3.UL)).....	70
使用している COBOL コンパイラの確認.....	31	Db2® Utility OPTIONS options (option 3.UO) (ユーティリティ OPTIONS オプション (オプション 3.UO)).....	71
FM/Db2 の終了.....	31	Db2® ユーティリティ TEMPLATE オプション (オプション 3.UT).....	71
複数の Db2® サブシステムが使用可能な場合のサブシステムの選択.....	32	Db2® アンロード・ユーティリティ・オプション (オプション 3.UU).....	71
Db2 SSID フィールドの使用による Db2® サブシステムの選択.....	32	DBCS 文字の表示または編集.....	72
SSID コマンドの入力による Db2® サブシステムの選択.....	34	SAF 規則で制御された監査.....	72
Db2® サブシステム選択メニューの使用法.....	35	SAF 規則で制御された監査が有効である場合の判別.....	73
FM/Db2 インターフェースの使用.....	37	監査のための SAF ルール.....	73
FM/Db2 でのナビゲート.....	37	SAF ルール制御による監査が無効な場合.....	73
FM/Db2 パネルの機能.....	39	SAF 規則で制御された監査が有効であり、監査が行われない場合.....	74
画面サイズ.....	41	SAF ルール制御による監査が有効で、監査可能な場合.....	74
ロング・ネーム用のスクロール可能入力および表示フィールド.....	41	第 4 章. テンプレートの処理.....	75
FM/Db2 パネルでのオプションの選択.....	46		
Db2® オブジェクト名の指定.....	47		
SQLID の指定.....	52		
データ・セットおよびメンバー名の指定.....	53		
実行時間が長い Db2® 照会の取り消し.....	57		
ヘルプの使用.....	57		
チュートリアル用ヘルプへのアクセス.....	58		
フィールド・レベル・ヘルプ情報の表示.....	60		
拡張書式でのエラー・メッセージの表示.....	61		
デフォルト処理オプションの設定.....	63		
System Options (option 0) (システム・オプション (オプション 0)).....	64		
Print settings (option 0.1) (印刷設定 (オプション 0.1)).....	65		

テンプレートの Db2® オブジェクトとの関連付け.....	75	別の FM/Db2 エディター・セッションの開始.....	137
テンプレートに保管された情報.....	76	表示する Db2® オブジェクトの指定.....	138
テンプレートの印刷.....	78	FM/Db2 が Db2® からロードするデータの制限.....	140
非 Db2 データを含むテンプレートの使用.....	78	ストレージの考慮事項.....	140
FM/Db2 がコピーブックをテンプレートにコンパイルする方法.....	80	大きな表またはビューの表示.....	141
COBOL データ記述項目のサポート.....	82	File Manager/Db2 エディター・セッションでのデータの表示.....	144
HLASM データ記述項目のサポート.....	82	File Manager/Db2 エディター・セッションで取り出された行のカウンタ.....	144
PL/I データ記述記入項目のサポート.....	82	行の位置決め.....	144
可変長配列のサポート.....	83	列の位置決め.....	144
テンプレートの編集.....	84	ストリングの検索.....	148
テンプレートへの記述の追加.....	86	特定の列内のデータの検索.....	149
行の選択.....	86	データの特定期間内のストリングの検索.....	151
列ごとの行選択.....	87	除外行または非除外行内のデータの検索.....	151
フリー・フォーム・スタイルでの行選択基準.....	92	ラベル範囲内のデータの検索.....	152
「Row Selection Criteria (行選択基準)」フィールドのスクロール.....	94	数値列の検索.....	154
「Row Selection Criteria (行選択基準)」フィールドの拡張.....	95	表示データのビューの変更.....	154
SQL 編集セッションの使用.....	95	特殊データの処理.....	170
列の操作.....	98	DATE および TIME 列.....	170
列の選択.....	99	大きい数値フィールド.....	171
スクロール時の画面上の列の保持.....	100	大きな表の処理.....	171
表示または印刷データの順序の変更.....	101	ヌル値と VARCHAR の処理.....	184
列属性の変更.....	104	Unicode データ.....	185
ROWID 列.....	107	データの變更.....	186
スクランブル・オプションの指定.....	107	CAPS に影響を与えるインストール設定.....	186
スクランブル・オプションを指定するための列の選択.....	108	上書きによるデータの變更.....	187
データの マッピング.....	112	CHANGE コマンドによるデータの變更.....	188
データをマップできる場所.....	113	接頭部コマンドを使用したデータの變更.....	192
FM/Db2 によるマッピング.....	113	データの大文字変換.....	195
独自マッピングの指定.....	114	「読み取り専用」のビュー、更新不可の列.....	196
列のマッピング規則.....	119	行の削除.....	197
File Manager/Db2 テンプレートからのコピーブックの作成.....	121	除外行または非除外行内のデータの削除.....	197
第 5 章. Db2® データの表示と変更.....	123	ラベル範囲内の行の削除.....	198
FM/Db2 エディター・セッション.....	124	関連表の編集.....	198
File Manager/Db2 エディター・セッションの開始.....	124	関連表のリスト.....	199
エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」または「大規模モード」.....	125	自己参照制約.....	200
FM/Db2 エディター・セッションの開始位置の指定.....	127	参照保全エラー.....	201
現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定.....	128	関連表の編集セッションの開始.....	201
File Manager/Db2 エディター・セッションでの變更の検証と保管.....	129	関連表を編集する際の相違.....	201
File Manager/Db2 エディター・セッションの終了.....	135	関連表の編集集中に保管または取り消す際の相違.....	202
		編集セッションの間のナビゲート.....	202
		基本キーの削除.....	203
		新しい外部キーの挿入.....	203
		基本キーの更新.....	204
		基本キーの追加.....	205

File Manager/Db2 セッション内からの Db2® コマンドの発行.....	205	特殊タイプの作成.....	245
「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネルから Db2® コマンドを発行.....	206	関数の作成.....	245
コマンド行からの Db2® コマンドの発行.....	206	パラメーター (関数の作成).....	246
編集セッション中のエラー処理.....	207	パラメーター・タイプ (関数の作成).....	246
エラーが起こった理由の判別.....	208	戻りデータ・タイプ (関数の作成).....	246
「重複行」エラー.....	208	オプション・リスト 1/2 (関数の作成).....	247
「基本キーなし」エラー.....	209	オプション・リスト 2/2 (関数の作成).....	247
「削除制限規則」エラー.....	209	プロシージャの作成.....	247
「検査制約」エラー.....	210	プロシージャ・パラメーター (プロシージャの作成).....	247
「行不在」エラー.....	210	パラメーター・タイプ (プロシージャの作成).....	248
デッドロックまたはタイムアウト.....	210	オプション・リスト 1/2 (プロシージャの作成).....	248
編集セッション中に起こったエラーの訂正例.....	211	オプション・リスト 2/2 (プロシージャの作成).....	248
第 6 章. Db2® オブジェクトの作成および除去.....	213	トリガーの作成.....	248
「作成」パネルおよび「除去」パネルでの処理.....	214	詳細 (トリガーの作成).....	249
SQL キーワード.....	215	検索条件 (トリガーの作成).....	249
データベースの作成.....	230	SQL ステートメント (トリガーの作成).....	249
表スペースの作成.....	230	補助表の作成.....	249
表スペース・タイプ (表スペースの作成).....	231	Db2® オブジェクトの除去.....	250
表スペース割り振り (表スペースの作成).....	231	第 7 章. Db2® 表へのデータの追加.....	251
データ・ストレージ (表スペースの作成).....	232	テンプレートの編集.....	252
ロック (表スペースの作成).....	232	第 8 章. データのコピー.....	253
データ共用 (表スペースの作成).....	232	ある Db2® オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー.....	253
区画 (表スペースの作成).....	232	「From (元)」表の詳細の指定.....	254
表の作成.....	233	「To (宛先)」表の詳細の指定.....	257
モデルを使用した表の作成.....	234	VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー.....	259
モデルを使用しない表の作成.....	237	インポート・ユーティリティを使用すべき場合と使用すべきでない場合.....	260
表の作成オプション.....	237	「From (元)」データ・セットの詳細の指定.....	261
1. 列 (表の作成).....	238	「To (宛先)」表の詳細の指定.....	263
2. nul値およびデフォルト値 (表の作成).....	238	インポート・ユーティリティでの REXX プロシージャの使用.....	265
3. オプション (表の作成).....	238	REXX についての一般情報.....	266
4. 固有制約 (表の作成).....	239	REXX プロシージャを使用したインポート・ユーティリティの拡張.....	276
5. 参照制約 (表の作成).....	239	VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー.....	287
6. 検査制約 (表の作成).....	240	「From (元)」表の詳細の指定.....	289
7. プロシージャ出口 (表の作成).....	241	「To (宛先)」データ・セットの詳細の指定.....	292
8. 値の生成 (表の作成).....	242	File Manager/Db2 エディター・セッションまたは SQL ステートメントからのデータの複製.....	297
ビューの作成.....	242	データのスクランブル.....	301
別名の作成.....	242	データをスクランブルするタイミング.....	301
索引の作成.....	243	スクランブルの規則.....	301
索引タイプ (索引の作成).....	244	操作方法.....	302
索引列の選択 (索引の作成).....	244		
割り振り (索引の作成).....	244		
索引 (索引の作成).....	244		
索引区画 (索引の作成).....	244		
区画値オプション (索引の作成).....	245		
同義語の作成.....	245		

同じ Db2® システム上の Db2® 表から別の表にデータをコピーする方法.....	302	LOAD ユーティリティー.....	367
Db2® 表から別の (接続可能な) システム上にある別の Db2® 表にデータをコピーする方法.....	303	入力データ.....	368
Db2® 表から別の (接続不可能な) システム上にある別の Db2® 表にデータをコピーする方法.....	303	LOAD ユーティリティー制御ステートメントを使用したデータのロード.....	369
選択したデータを Db2® 表から順次ファイルにコピーして再配列する方法.....	304	コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータのロード.....	371
順次ファイルにエクスポートしたデータを記述するコピーブックを定義する方法.....	304	REBUILD ユーティリティー.....	375
FM/Db2 エクスポート・ユーティリティーで使われているデータ形式とは異なるデータ形式を記述するコピーブックを使用してデータをエクスポートする方法.....	310	REBUILD ユーティリティー (索引).....	376
第 9 章. Db2® オブジェクトのリストの処理.....	312	REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引).....	377
オブジェクト・リストの表示または印刷.....	313	RECOVER ユーティリティー.....	378
処理、オブジェクト・リスト・パネル.....	316	RECOVER (表スペース).....	379
表示されるデータの制限.....	318	RECOVER (索引スペース).....	380
Db2® オブジェクトのリストの中で行または列を探し出す.....	323	REORG ユーティリティー.....	382
Db2® オブジェクトのリストでストリングを検出する.....	323	REORG (表スペース).....	382
行コマンド域 (Cmd) の使用法.....	323	REORG (索引).....	385
表示されたデータのソート.....	332	RUNSTATS ユーティリティー.....	386
リバース・エンジニアリング.....	333	RUNSTATS (表スペース).....	387
パフォーマンス上のヒント.....	335	RUNSTATS (索引).....	389
第 10 章. 印刷.....	337	UNLOAD ユーティリティー.....	391
Db2® 表の内容の印刷.....	337	UNLOAD (表).....	392
印刷出力の形式設定.....	338	UNLOAD (表スペース).....	398
テンプレートの編集.....	340	第 13 章. SQL ステートメントの処理.....	402
印刷のバッチ実行.....	340	SQL プロトタイピングの選択 (基本と拡張).....	402
Db2® 表からの行の印刷.....	340	基本 SQL プロトタイピングの使用.....	402
FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示.....	342	述部の指定.....	406
監査証跡報告書の印刷.....	344	基本 SELECT プロトタイピングの使用例.....	407
監査証跡報告書.....	346	拡張 SQL プロトタイピングの使用.....	411
第 11 章. Db2® 特権の管理.....	348	タブ付けおよびカラー・コーディング.....	413
「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルの使用.....	349	拡張 SELECT プロトタイピング・パネルを使用した SELECT ステートメントの作成.....	414
特権の表示.....	351	SQL ステートメントの変更.....	419
特権の認可.....	351	構文における繰り返し項目の取り扱い.....	428
特権の取り消し.....	353	SELECT ステップをプロトタイピングを使用して作成した後の実行.....	436
第 12 章. Db2® ユーティリティー・ジョブ用のバッチ JCL の生成.....	356	SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレイン.....	437
Db2® ユーティリティーのオプションの設定.....	358	SQL ステートメントの入力.....	437
Db2® ユーティリティー・ジョブでの LISTDEF ステートメントの生成.....	360	SQL ステートメントの実行.....	439
Db2® ユーティリティー・ジョブの生成.....	360	SQL のエクスプレイン.....	440
LISTDEF ユーティリティー・パネルの操作.....	363	データ・セットからの SQL ステートメントの編集と実行.....	442
コピー・ユーティリティー.....	364	SQL エクスプレインで使用される表の管理.....	443
デフォルト値.....	364	SQL プロトタイピングの終了.....	443
COPY (表スペース).....	365	第 14 章. バッチ・ジョブでの FM/Db2 機能の使用.....	444
COPY (索引スペース).....	366	File Manager/Db2 バッチ・ジョブの JCL 構文.....	444
		File Manager/Db2 編集モデルの使用.....	445
		編集モデルの例: DBP 関数を呼び出す JCL.....	446
		第 15 章. Db2® 対話機能とのインターフェース.....	450
		第 II 部. FM/Db2 参照.....	451

第 16 章. Db2® データ型	452		
ラージ・オブジェクト (LOB).....	454		
第 17 章. FM/Db2 パネルおよびフィールド	456		
FM/Db2 パネルのスクロール可能フィールド.....	456		
アクション・バー・プルダウン・メニュー.....	456		
「Additional LISTDEF Statements (追加 LISTDEF ステートメント)」 パネル.....	460		
「Additional TEMPLATE Statements (追加 TEMPLATE ステートメント)」 パネル.....	461		
「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイプング)」 パネル.....	462		
「Alter Database (データベースの変更)」 パネル.....	464		
「Alter External Scalar Function (外部スカラー関数の変更)」 パネル.....	465		
「Alter Index (索引の変更)」 パネル.....	466		
「Alter Stored Procedure (ストアド・プロシージャの変更)」 パネル.....	467		
「Alter Table (表の変更)」 パネル.....	468		
「Alter Table - ADD CHECK Constraint (変更表 - ADD CHECK 制約)」 パネル.....	469		
「Alter Table - ADD Column (変更表 - ADD 列)」 パネル.....	470		
「Alter Table - ADD FOREIGN KEY Constraint (変更表 - ADD FOREIGN KEY 制約)」 パネル.....	471		
「Alter Table - ADD PRIMARY KEY (変更表 - ADD PRIMARY KEY)」 パネル.....	472		
「Alter Table - AUDIT (変更表 - AUDIT)」 パネル.....	473		
「Alter Table - DATA CAPTURE (変更表 - DATA CAPTURE)」 パネル.....	474		
「Alter Table - DROP CHECK Constraint (変更表 - DROP CHECK 制約)」 パネル.....	475		
「Alter Table - DROP FOREIGN KEY Constraint (変更表 - DROP FOREIGN KEY 制約)」 パネル.....	476		
「Alter Table - DROP PRIMARY KEY (変更表 - DROP PRIMARY KEY)」 パネル.....	477		
「Alter Table - RESTRICT ON DROP (変更表 - RESTRICT ON DROP)」 パネル.....	478		
「Alter Table - VALIDPROC (変更表 - VALIDPROC)」 パネル.....	479		
「Alter Table Space (表スペースの変更)」 パネル.....	480		
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」 パネル.....	480		
「Application Plans (アプリケーション・プラン)」 パネル.....	483		
「Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイプング)」 パネル.....	485		
「Bind Application Plan (アプリケーション・プランのバインド)」 パネル.....	490		
「Bind Package (パッケージのバインド)」 パネル.....	490		
「Children of Table (表の子)」 パネル.....	491		
「Collections (コレクション)」 パネル.....	491		
「Column Attributes (列属性)」 パネル (英数字).....	492		
「Column Attributes (列属性)」 パネル (DATE).....	497		
		「Column Attributes (列属性)」 パネル (数値).....	498
		「Column Attributes (列属性)」 パネル (TIME).....	502
		「Column Attributes (列属性)」 パネル (TIMESTAMP).....	503
		「Column Distribution (列の配分)」 パネル.....	505
		「Column Part Statistics (列部分の統計)」 パネル.....	505
		「Column Selection/Edit (列選択/編集)」 パネル.....	505
		「Columns (列)」 パネル.....	510
		「Columns in Index (索引の列)」 パネル.....	512
		「Columns in Table (表の列)」 パネル.....	512
		コメント・パネル.....	512
		「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」 パネル.....	513
		「Constraint Columns for (制約列)」 パネル.....	515
		「Copy Options (コピー・オプション)」 パネル.....	515
		「Copy Utility ("From") (コピー・ユーティリティの「元」)」 パネル.....	518
		「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」 パネル.....	522
		LISTDEF を指定した「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」 パネル.....	524
		「Copy Utility ("To") (コピー・ユーティリティの「宛先」)」 パネル.....	526
		「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティ (表スペース))」 パネル.....	529
		LISTDEF を指定した「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティ (表スペース))」 パネル.....	531
		「Create Alias (別名の作成)」 パネル.....	533
		「Create Auxiliary Table (補助表の作成)」 パネル.....	534
		「Create Database (データベースの作成)」 パネル.....	535
		「Create Distinct Type (特殊タイプの作成)」 パネル.....	537
		「Create Function (関数の作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」 パネル.....	539
		「Create Function (関数の作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」 パネル.....	540
		「Create Function (関数の作成)」 パネル.....	542
		「Create Function (関数の作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」 パネル.....	543
		「Create Function (関数の作成): Parameters (パラメーター)」 パネル.....	545
		「Create Function (関数の作成): Returned Data Type (戻りデータ・タイプ)」 パネル.....	546
		「Create Index (索引作成)」 パネル.....	549
		「Create Index (索引の作成): Allocation (割り振り)」 パネル.....	551
		「Create Index (索引の作成): Column Selection (列選択)」 パネル.....	552
		「Create Index (索引の作成): Options (オプション)」 パネル.....	553

「Create Index (索引の作成): Partitions (パーティション)」パネル.....	555	「Create Table (表の作成): Unique Constraints (固有制約)」パネル.....	602
「Create Index (索引の作成): Partition Values (区画値)」パネル.....	556	「Create Trigger (トリガーの作成)」パネル.....	603
「Create Index (索引の作成): Type (タイプ)」パネル.....	558	「Create Trigger (トリガーの作成): Details (詳細)」パネル.....	604
「Create Procedure (プロシージャの作成)」パネル.....	559	「Create Trigger (トリガーの作成): Search Condition (検索条件)」パネル.....	606
「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」パネル.....	561	「Create Trigger (トリガーの作成): SQL statement (SQL ステートメント)」パネル.....	607
「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネル.....	562	「Create View (ビューの作成)」パネル.....	608
「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネル.....	563	「Create View Source Statements (ビュー・ソース・ステートメントの作成)」パネル.....	610
「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameters (パラメーター)」パネル.....	565	「Data Create Utility (データ作成ユーティリティ)」パネル.....	610
「Create Synonym (同義語作成)」パネル.....	566	「Database Request Modules (データベース要求モジュール)」パネル.....	614
「Create Table (表の作成)」パネル.....	567	「Database Structure (データベース構造)」パネル.....	616
「Create Table Space (表スペースの作成)」パネル.....	570	「Databases (データベース)」パネル.....	616
「Create Table Space (表スペースの作成): Allocation (割り振り)」パネル.....	572	Db2® 「Browse (ブラウズ)」パネル.....	618
「Create Table Space (表スペースの作成): Data Sharing Options (データ共用オプション)」パネル.....	574	「Db2® Edit (編集)」パネル.....	622
「Create Table Space (表スペースの作成): Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)」パネル.....	575	「Db2® Location Selection (位置選択)」パネル.....	628
「Create Table Space (表スペースの作成): Define Partitions (区画の定義)」パネル.....	577	「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネル.....	629
「Create Table Space (表スペースの作成): Locking Options (ロック・オプション)」パネル.....	579	「Db2® Save Error Action (保管エラー・アクション)」パネル.....	631
「Create Table Space (表スペースの作成): Type (タイプ)」パネル.....	580	「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル.....	631
「Create Table (表の作成): Column Check Constraints (列検査制約)」パネル.....	582	「Db2® Template Description (テンプレート記述)」パネル.....	633
「Create Table (表の作成): Column Referential Constraints (列参照制約)」パネル.....	583	「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネル.....	635
「Create Table (表の作成): Columns (列)」パネル.....	584	Db2® 「View (表示)」パネル.....	639
「Create Table (表の作成): Generate Values (値の生成)」パネル.....	587	「Db2I Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル.....	643
「Create Table (表の作成): Model Load (モデル・ロード)」パネル.....	588	詳細パネル.....	644
「Create Table (表の作成): Nulls and Default Values (ヌルとデフォルト値)」パネル.....	590	「Display Row (表示行)」パネル.....	644
「Create Table (表の作成): Options (オプション)」パネル.....	594	「Distinct Types (特殊タイプ)」パネル.....	645
「Create Table (表の作成): Procedure Exits (プロシージャ出口)」パネル.....	596	除去パネル.....	646
「Create Table (表の作成): Table Check Constraints (表検査制約)」パネル.....	597	「Drop Confirmation (除去確認)」パネル.....	647
「Create Table (表の作成): Table Referential Constraint (表参照制約)」パネル.....	598	「Edit/Execute SQL (Data Set) (SQL の編集/実行 (データ・セット))」パネル.....	648
「Create Table (表の作成): Table Referential Constraints (表参照制約)」パネル.....	600	「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル.....	651
		「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネル.....	656
		「Editor Options (3 of 8) (編集オプション (8 の 3))」パネル.....	661
		「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」パネル.....	667
		「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (8 の 5))」パネル.....	671
		「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」パネル.....	674

「Editor Options (7 of 8) (編集オプション (8 の 7))」パネル.....	677	「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」パネル.....	728
「Editor Options (8 of 8) (編集オプション (8 の 8))」パネル.....	683	「Load from (ロード元)」パネル.....	730
「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネル.....	685	「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネル.....	732
「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン)」パネル.....	686	Db2® テンプレートを使用している「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネル.....	734
「EXPLAIN Interpretation (EXPLAIN 解釈)」パネル.....	688	「LOAD Utility - Using Templates (LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用)」パネル.....	735
「Explain Utilities (エクスペレイン・ユーティリティー)」パネル.....	688	「LOAD Utility Options (LOAD ユーティリティー・オプション)」パネル.....	737
「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネル.....	691	「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネル.....	740
「Export Options (2 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 2))」パネル.....	694	「Object List Line Commands (オブジェクト・リスト行コマンド)」パネル.....	741
「Export Options (3 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 3))」パネル.....	696	「Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」パネル.....	741
「Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティーの「元」)」パネル.....	698	「Object List Options (2 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 2))」パネル.....	745
「Export Utility ("To") (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル.....	702	「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」パネル.....	747
「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネル.....	706	「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネル.....	749
「FM/Db2 Release News (リリース・ニュース)」パネル.....	709	「Package Dependencies (パッケージの従属関係)」パネル.....	751
「Foreign Keys for Table (表の外部キー)」パネル.....	709	「Package List (パッケージ・リスト)」パネル.....	751
「Free Application Plan (フリー・アプリケーション・プラン)」パネル.....	709	「Parents of Table (表の親)」パネル.....	752
「Free Package (パッケージの解放)」パネル.....	710	「Partitioned Table Statistics (区分された表統計)」パネル.....	752
「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネル.....	710	「Plan Dependencies (プランの従属関係)」パネル.....	752
「Functions (関数)」パネル.....	710	「Plan Enabled/Disabled Connections (接続使用可能/使用不可プラン)」パネル.....	752
「Generate SQL From Db2® Catalog (カタログからのSQLの生成)」パネル.....	712	「Plan Table Rows (プラン表行)」パネル.....	752
特権の認可パネル.....	715	「Primary Key for Table (表の基本キー)」パネル.....	756
「Import Options (インポート・オプション)」パネル.....	716	「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル.....	756
「Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティーの「元」)」パネル.....	718	「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネル.....	757
「Import Utility ("To") (インポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル.....	720	「Print Utility Options (印刷ユーティリティー・オプション)」パネル.....	758
「Index Parts (索引 パーツ)」パネル.....	724	「Print Utility (印刷ユーティリティー)」パネル.....	760
「Indexes (索引)」パネル.....	724	特権の詳細パネル.....	764
「Indexes and Columns for (索引と列の該当表)」パネル.....	726	特権パネル.....	764
「ISPF Primary Option (ISPF 基本オプション)」パネル.....	726	「Rebind Application Plan (アプリケーション・プランの再バインド)」パネル.....	766
「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネル.....	727	「Rebind Package (パッケージの再バインド)」パネル.....	768
「Label Column (列のラベル)」パネル.....	727	「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」パネル.....	769
「Label Table (表のラベル)」パネル.....	728	LISTDEF が指定された「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」パネル.....	771
「LISTCAT Output Display (LISTCAT 出力表示)」パネル.....	728	「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」パネル.....	773
		LISTDEF が指定された「REBUILD (Indexes) (REBUILD (索引))」パネル.....	775

「Record Type Selection (レコード・タイプ選択)」パネル.....	776	「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル.....	820
「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER UTILITY (索引スペース))」パネル.....	777	「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネル.....	821
LISTDEF が指定された「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER ユーティリティー (索引スペース))」パネル.....	778	「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル.....	824
「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER UTILITY (表スペース))」パネル.....	780	「Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)」パネル.....	827
LISTDEF が指定された「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER ユーティリティー (表スペース))」パネル.....	782	「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」パネル.....	830
「Recovery Information (リカバリ情報)」パネル.....	783	「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」パネル.....	831
「Related tables (関連表)」パネル.....	783	「Set Utility Options (ユーティリティー・オプションの設定)」パネル.....	833
「Remote Db2® Location Selection (リモート・ロケーション選択)」パネル.....	787	「Sort Fields (ソート・フィールド)」パネル.....	834
「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」パネル.....	788	「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」パネル.....	836
LISTDEF が指定された「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」パネル.....	790	「Statement Table Rows (ステートメント表行)」パネル.....	838
「REORG Utility (Table Spaces) (REORG UTILITY (表スペース))」パネル.....	792	「Storage Group(s) (ストレージ・グループ)」パネル.....	840
LISTDEF を指定した「REORG Utility (Table Spaces) (REORG ユーティリティー (表スペース))」パネル.....	794	「Storage Group Usage Privileges (ストレージ・グループ使用特権)」パネル.....	842
特権の取り消しパネル.....	795	「Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)」パネル.....	843
「Routine Parameters (ルーチン・パラメーター)」パネル.....	796	「Synonym Dependencies (同義語の従属関係)」パネル.....	845
「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネル.....	796	「Synonyms (同義語)」パネル.....	845
「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS UTILITY (索引))」パネル.....	801	「Systems Options (1 of 4) (システム・オプション (4 の 1))」パネル.....	847
LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS ユーティリティー (索引))」パネル.....	803	「Systems Options (2 of 4) (システム・オプション (4 の 2))」パネル.....	850
「RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS UTILITY (表スペース))」パネル.....	804	「Systems Options (3 of 4) (システム・オプション (4 の 3))」パネル.....	852
LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS ユーティリティー (表スペース))」パネル.....	806	「Systems Options (4 of 4) (システム・オプション (4 の 4))」パネル.....	854
「Schemas (スキーマ)」パネル.....	807	「Table Browse (表ブラウズ)」パネル.....	855
「Scramble Exit Specification (スクランブル出口指定)」パネル.....	809	「Table Check Constraint Dependencies (表検査制約の従属関係)」パネル.....	857
「Select Statement Browse (選択ステートメントのブラウズ)」パネル.....	811	「Table Check Constraint Details (表検査制約の詳細)」パネル.....	857
「Select Statement Edit (選択ステートメントの編集)」パネル.....	811	「Table Check Constraints (表検査制約)」パネル.....	857
「Sequences (シーケンス)」パネル.....	811	「Table Edit (表編集)」パネル.....	857
「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネル.....	813	「Table Edit (related) (表編集 (関連))」パネル.....	864
「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネル.....	814	「Table Selection (表選択)」パネル.....	864
「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」パネル.....	816	「Table Space Parts (表スペースのパーツ)」パネル.....	866
「Set Optimizer Hint (最適化プログラム設定のヒント)」パネル.....	817	「Table Spaces (表スペース)」パネル.....	866
「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネル.....	818	「Table View (表表示)」パネル.....	868
		「Table/View/Alias Selection (表/ビュー/別名選択)」パネル.....	873
		「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル.....	875
		「TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))」パネル.....	877

「TEMPLATE Options (2 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 2))」 パネル.....	880	FORMAT 基本コマンド.....	937
「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」 パネル.....	881	FORWARD 基本コマンド.....	937
「Template Save (テンプレートの保管)」 パネル.....	883	FREE 基本コマンド.....	939
「Triggers (トリガー)」 パネル.....	884	FS 基本コマンド.....	940
「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」 パネル.....	885	FT 基本コマンド.....	940
「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」 パネル.....	889	HEX 基本コマンド.....	941
LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」 パネル.....	889	HIDE 基本コマンド.....	941
「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「From (元)」 パネル.....	891	HINT 基本コマンド.....	942
「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「To (宛先)」 パネル.....	892	HOLD 基本コマンド.....	943
LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」 パネル.....	894	INDEXINF 基本コマンド.....	944
「Utility Functions (ユーティリティ機能)」 パネル.....	896	INSRPT 基本コマンド.....	945
「Value List Edit (値リスト編集)」 パネル.....	898	LEFT 基本コマンド.....	945
「Volumes (ボリューム)」 パネル.....	900	LHEX 基本コマンド.....	947
第 18 章. FM/Db2 コマンド.....	902	LOBBRWS 基本コマンド.....	948
ABOUT 基本コマンド.....	902	LOBEDIT 基本コマンド.....	949
ALL 基本コマンド.....	902	LOBLEN 基本コマンド.....	950
BACKWARD 基本コマンド.....	903	LOBVIEW 基本コマンド.....	951
BOTTOM 基本コマンド.....	904	LOCATE 基本コマンド.....	951
BROWSE 基本コマンド.....	904	LZERO 基本コマンド.....	956
CANCEL 基本コマンド.....	905	NEW、NEWS 基本コマンド.....	956
CAPS 基本コマンド.....	906	NEXT 基本コマンド.....	956
CASE 基本コマンド.....	907	NEXTRPT 基本コマンド.....	957
CHANGE 基本コマンド.....	907	ORDER 基本コマンド.....	957
COL 基本コマンド.....	913	PB 基本コマンド.....	958
CHARPOS 基本コマンド.....	913	PLAN 基本コマンド.....	959
DELCOL 基本コマンド.....	914	PREFIX 基本コマンド.....	959
DELETE 基本コマンド.....	915	PREVIOUS 基本コマンド.....	960
DESCRIBE 基本コマンド.....	916	PREVRPT 基本コマンド.....	961
DESELECT 基本コマンド.....	916	PRINT 基本コマンド.....	961
DOWN 基本コマンド.....	917	PROTCOL 基本コマンド.....	962
EDIT 基本コマンド.....	919	PURGE 基本コマンド.....	963
EDITCOL 基本コマンド.....	919	QUIT 基本コマンド.....	963
END 基本コマンド.....	920	RCHANGE 基本コマンド.....	963
EXCLUDE 基本コマンド.....	921	RD 基本コマンド.....	963
EXECUTE 基本コマンド.....	925	REDIT 基本コマンド.....	964
EXPAND 基本コマンド.....	926	REFRESH 基本コマンド.....	965
EXPLAIN 基本コマンド.....	926	REFS 基本コマンド.....	965
EXPORT 基本コマンド.....	927	RESET 基本コマンド.....	966
FILE 基本コマンド.....	929	RFIND 基本コマンド.....	967
FIND 基本コマンド.....	930	RIGHT 基本コマンド.....	967
FMAP 基本コマンド.....	936	RP 基本コマンド.....	969
		RUNTEMP 基本コマンド.....	970
		SAVE 基本コマンド.....	970
		SAVEAS 基本コマンド.....	971
		SHADOW 基本コマンド.....	971
		SHOW 基本コマンド.....	972
		SHOW 基本コマンド.....	972

SHOWCOB 基本コマンド.....	974
SORT 基本コマンド.....	974
SQL 基本コマンド.....	975
SQLID 基本コマンド.....	976
TEDIT 基本コマンド.....	977
TOP 基本コマンド.....	977
TP 基本コマンド.....	977
TYPE 基本コマンド.....	978
UNDO 基本コマンド.....	978
UP 基本コマンド.....	978
VER 基本コマンド.....	980
VIEW 基本コマンド.....	980
WIDTH 基本コマンド.....	981
XMLBRWS 基本コマンド.....	982
XMLEDIT 基本コマンド.....	983
XMLLEN 基本コマンド.....	984
XMLVIEW 基本コマンド.....	985
ZOOM 基本コマンド.....	986
第 19 章. FM/Db2 機能.....	987
このリファレンス章の使用方法.....	987
File Manager 機能を使用する際のパフォーマンスに関する一般的なヒント.....	987
FM/Db2 バッチ関数.....	988
BATSQ (バッチ SQL) バッチ・コマンド.....	988
DBC (コピー) バッチ・コマンド.....	996
DBI (インポート) バッチ・コマンド.....	1003
DBP (印刷) バッチ・コマンド.....	1009
DBX (エクスポート) バッチ・コマンド.....	1012
D2G (データ生成) バッチ・コマンド.....	1025
D2TP (テンプレート作成/更新) バッチ・コマンド.....	1028
Db2® オブジェクト名の指定.....	1031
Db2® オブジェクト用テンプレートの指定.....	1032
データ・セット用テンプレート/コピーブックの指定.....	1032
メッセージ.....	1033
FM/Db2 メッセージ.....	1033
サポート・リソース.....	mclxiii
特記事項.....	mclxiv
プログラミング・インターフェース情報.....	mclxvii
索引.....	1168

ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス (Db2 データ用)

本書では、File Manager Db2® コンポーネント (FM/Db2) ユーザーのためのガイドと参照情報を提供します。

本書について

本書は、File Manager for z/OS® Db2® コンポーネント (FM/Db2) のユーザーのためのガイドと参照情報を提供します。

本書は、以下の 3 部から構成されています。

第 I 部 FM/Db2 の操作

主要な概念を紹介し、ISPF のもとで FM/Db2 パネルを使用してタスクを実行する方法を段階的に説明します。情報は、タスク・ベースの形式で提示されており、現在のタスクに関連のある場合にはパネルとコマンド定義が記載されています。特定のパネルまたはコマンドについては、『第 II 部 FM/Db2 参照』の該当する章を参照してください。

第 I 部は、新しいユーザー用の学習ツールとして、および特定のタスクの手順を迅速に検索方法として両方使用することができます。

第 II 部 FM/Db2 の解説

FM/Db2 のパネルおよびコマンドを検索するための参照が記載されています。情報は、以下の 2 つの章に提示されています。

- **FM/Db2 のパネルとフィールド:** FM/Db2 パネルを英文パネル・タイトルのアルファベット順にリストしています。リストされたパネルごとに 1 つ以上の、“親”パネル (当該パネルに到達できる元のパネル) への相互参照が用意されており、必要に応じて“子”パネル (このパネルから到達できる先のパネル) への相互参照も用意されています。いくつかのパネルには、パネル内のそれぞれのフィールドに対する定義があり、該当する場合には、それぞれのフィールドの有効な値の範囲が含まれています。
- **FM/Db2 コマンド:** FM/Db2 で使用できる基本コマンドをリストし、それらの構文と使用法の説明が含まれています。

FM/Db2 の新規ユーザーと経験を積んだユーザーのどちらも、第 II 部を使用して、コマンドの正確な構文やパネル内のフィールドの許容値などを速やかに調べることができます。

第 III 部 付録

“FM/Db2 メッセージ”。すべての FM/Db2 バッチ・エラー・メッセージについてフルテキストで説明します。このサポート情報では、質問に答えて問題を解決するのに役立つ IBM Web サイトに関する情報を提供します。

File Manager for z/OS® には、File Manager の以下の 4 つの“フレーバー”が含まれています。

- **FM/Db2 コンポーネント** は、Db2® データを処理します。
- **File Manager “Base”** は、データ・セット、PDS メンバー、Websphere MQ キュー、および HFS ファイルを処理します。
- **FM/IMS コンポーネント** は、IMS™ データを処理します。
- **FM/CICS** は、CICS® リソースを処理します。

本書では、FM/Db2 コンポーネントについてのみ説明します。File Manager の“Base”、FM/IMS、および FM/CICS コンポーネントについては、以下の資料を参照してください。

- File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス
- File Manager for z/OS ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス (IMS データ用)
- File Manager for z/OS ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス (CICS 用)

本書の対象読者

本書は、以下の 3 種類の Db2® ユーザーを対象としています。

- プログラムをテストおよびデバッグする必要がある、アプリケーション・プログラマー
- 問題を分析および修正する必要がある、サービス・サポート担当員
- 大量データを移動するなどのルーチン作業を行う必要のある、システム管理者およびシステム・オペレーター

本書の読者は Db2® と ISPF の使用に精通しているものと想定しています。

バッチ・ジョブで FM/Db2 機能を使用するには、JCL に精通している必要があります。

国別文字

File Manager では、[表 1: 国別文字 ページ xvi](#) に示されている国別文字が使用されます。

表 1. 国別文字

文字	16 進値	コード・ページ 37 および 500 での表示
ドル記号	X'5B'	\$
ポンド記号	X'7B'	#
アットマーク	X'7C'	@




注:

1. ドル記号 (\$) とポンド記号 (#) は File Manager の構文で特別な構文上の意味を持っています。
2. アットマーク (@) は、“ヌル列入力標識”に使用されるデフォルト値です。
3. 37 および 500 以外のコード・ページを使用している国では、次のようになります。

表 1. 国別文字

(続く)

文字	16 進値	コード・ページ 37 および 500 での表示
	<p>a. 端末キーボードにあるドル記号 (\$)、ポンド記号 (#)、およびアットマーク記号 (@) を押すと、別の 16 進数表記が表示されることがあります。</p> <p>これによりエラーや望ましくない結果がもたらされる場合があります。例えば、国によっては \$ 文字が X'4A' となる可能性があります。</p> <p>b. 表 1 : 国別文字 ページ xvi の 16 進値は、現在記載されている文字とは別の文字が表示される可能性があります。</p>	

バッチまたはオンラインで File Manager コマンドを入力するときは、[表 1 : 国別文字 ページ xvi](#) に記載される 16 進値に対応するキーボードの文字を使用してください。

前提条件および関連情報

FM/Db2 の関連資料では、以下の作業もサポートしています。

FM/Db2 の計画、インストール、カスタマイズ、および保守

最初に *File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。この資料では、一部の情報について File Manager Program Directory (プロダクト・テープに含まれている) を参照しています。

FM/Db2 の使用

本書「*File Manager* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス (DB2 データ用)」は、FM/Db2 を使用するためのガイドです。ISPF で FM/Db2 を使用している時は、オンライン・ヘルプも参照できます。

構文図の見方

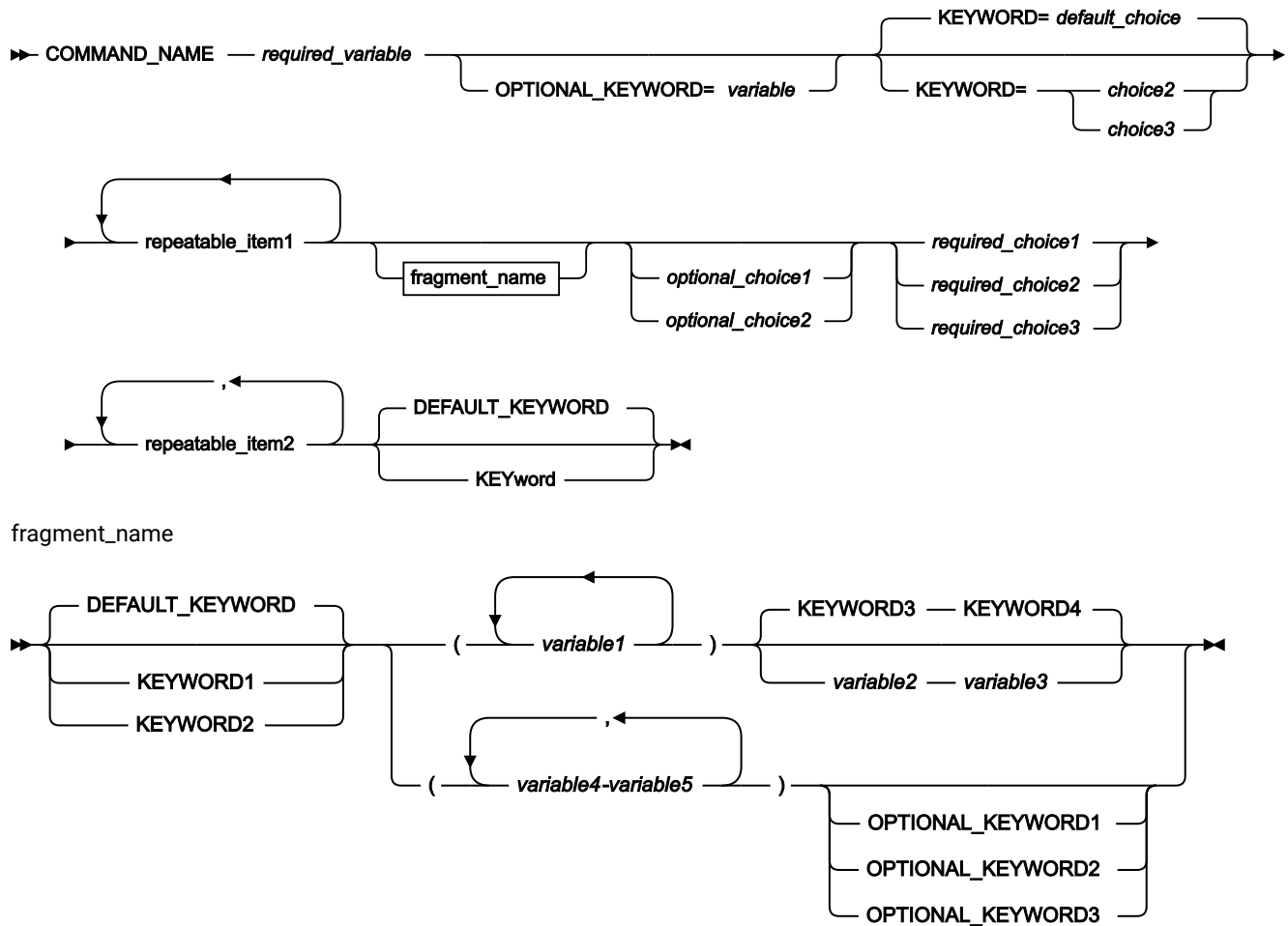
本書で説明するコマンドの構文構造は、構文図で示されています。

[図 1 : 構文図 ページ xviii](#) に、次のような項目を示すさまざまな表記が含まれた構文図の例を示します。

- 項目がキーワードであるか、変数であるか。
- 項目が必須であるか、オプションであるか。
- 選択が可能であるかどうか。
- 値を指定しない場合、デフォルトを適用するかどうか。
- 項目の反復が可能であるかどうか。

図 1. 構文図

図 1. Syntax



構文図を読んで理解するためのヒントをいくつか示します。

読む順序

構文図は、直線のパスをたどって左から右、上から下に読みます。

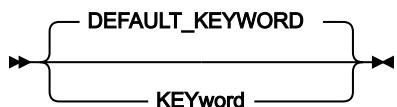
- ▶— 記号は、ステートメントの開始を示しています。
- ▶ 記号は、ステートメントが次の行に継続していることを示しています。
- ▶— 記号は、ステートメントが前の行から継続していることを示しています。
- ▶ 記号は、ステートメントの終了を示しています。

キーワード

キーワードは、大文字で示します。

▶ COMMAND_NAME ▶

キーワードの最初の数文字を入力するだけでよいことがあります。この場合、キーワードの必須部分は大文字で示します。



この例では、「KEY」、「KEYW」、「KEYWO」、「KEYWOR」または「KEYWORD」と入力できます。

短縮したキーワードまたはキーワード全体を入力する場合、示されたとおりに正確に入力する必要があります。

変数

変数は、小文字で示します。変数はユーザーが指定する名前または値を表します。

▶▶ *required_variable* ◀◀

必須項目

必須項目は、水平線 (メインパス) 上に示されます。

▶▶ *COMMAND_NAME* — *required_variable* ◀◀

オプション項目

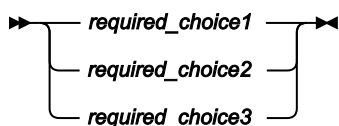
オプション項目は、メインパスの下に示されます。



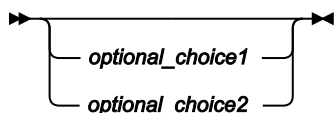
項目の選択

複数の項目から選択可能な場合、これらの項目は縦方向に重ねて示されます。

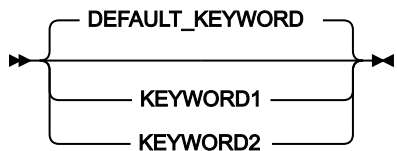
複数の項目から 1 項目を選択する必要がある場合には、項目のいずれかがメインパス上に表示されます。



複数の項目から任意で 1 項目を選択する場合は、縦にスタックされた選択項目全体がメインパスの線よりも下に表示されます。

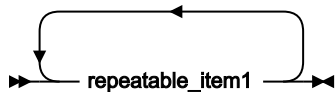


いずれの項目も選択しなかったときにデフォルト値が適用される場合は、デフォルト値をメインパスの上方に示します。

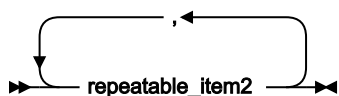


反復可能な項目

メインパスの上にある左向きの矢印は、繰り返し可能な項目を示します。

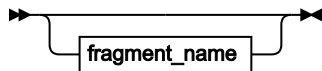


反復可能な項目の間に分離文字 (コンマなど) を指定する必要がある場合は、左に戻る矢印付きの線の中で、指定する必要がある分離文字を示します。

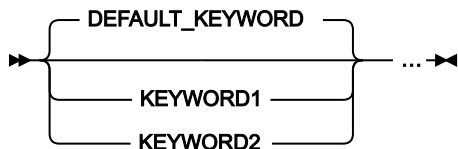


フラグメント

構文図を読みやすくするために、構文のセクションまたはフラグメントを分けて示すことがあります。



fragment_name



変更の要約

2023年2月、V14R1M19

本書のこの版では、File Manager for z/OS® バージョン 14 リリース 1 モディフィケーション・レベル 19 に適用可能な情報を提供します。これには、前のバージョンの情報に対する軽微な変更や説明が含まれています。

2022年11月、V14R1M18

本書のこの版では、File Manager バージョン 14 リリース 1 モディフィケーション・レベル 18 に適用可能な情報を提供します。これには、前のバージョンの情報に対する軽微な変更や説明が含まれています。

2022年6月、V14R1M17

本書のこの版では、File Manager バージョン 14 リリース 1 モディフィケーション・レベル 17 に適用可能な情報を提供します。これには、前のバージョンの情報に対する軽微な変更や説明が含まれています。

2021年10月、V14R1M15

本書のこの版では、File Manager for z/OS® バージョン 14 リリース 1 に適用される情報を記載しています。前の版 (バージョン 14 リリース 1) からの主な変更点を以下に示します。

- 数値フィールドを使用して先行ゼロをフォーマット設定するデフォルト値を変更する機能。 [LZERO 基本コマンド on page 956](#) を参照してください。

これらの変更箇所や、より細かな修正や追加は、ページの左マージンにある変更バー “|” で示されています。

2020年10月、V14R1M12

本書のこの版では、File Manager for z/OS® バージョン 14 リリース 1 に適用される情報を記載しています。前の版 (バージョン 14 リリース 1) からの主な変更点を以下に示します。

- SNGL 表示形式でスクロールするときに、フィールドを保持できるようになりました。 [スクロール時の画面上の列の保持 on page 100](#)、 [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル on page 505](#) を参照してください。

これらの変更箇所や、より細かな修正や追加は、ページの左マージンにある変更バー “|” で示されています。

2020年3月、V14R1M10

本書のこの版では、File Manager for z/OS® バージョン 14 リリース 1 に適用される情報を記載しています。前の版 (バージョン 14 リリース 1、SC27-9043-01) からの主な変更点を以下に示します。

- **「索引標識の表示」** オプションでは、固有の索引の一部である列と、追加の非固有キー列とを区別できるようになりました。 [「Editor Options \(4 of 8\) \(編集オプション \(8 の 4\)\)」パネル on page 667](#) を参照してください。

SC27-9043-01: 2019 年 6 月、V14R1M7

本書のこの版では、File Manager for z/OS® バージョン 14 リリース 1 に適用される情報を記載しています。本書に対する、前の版 (バージョン 14 リリース 1、SC27-9043-00) からの主な変更点を以下に示します。

- バッチ・エクスポート・コマンドにいくつかの変更があります。詳しくは、[DBX \(エクスポート\) バッチ・コマンド on page 1012](#) を参照してください。
- DATE 列の表示形式を設定できる新しいオプション。 [「Systems Options \(2 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 2\)\)」パネル on page 850](#) を参照してください。
- LOB 列または XML 列を使用したオブジェクトのコピーが、Db2® V10 以降でサポートされるようになりました。
- いくつかのメッセージが追加されました:
FMNBF135、FMNDA050-54、FMNDB120、FMNDB360、FMNDB362-64、FMNDB367-68。

SC27-9043-00: 2019 年 9 月、V14R1M0

本書のこの版で提供される情報は、File Manager for z/OS® バージョン 14 リリース 1 に適用されます。

第 I 部. FM/Db2 での作業

第 1 章. FM/Db2 の概要

FM/Db2 は、Db2® データを操作するための包括的な使いやすいツールを提供します。これらのツールには、ISPF にある、よく知られた表示、編集、コピー、および印刷のユーティリティーを、アプリケーション開発者のニーズに合わせて拡張したものが含まれています。

本章では、FM/Db2 を使用して実行できるアクションのタイプの概要と、テンプレート (FM/Db2 内で Db2® データを表示するための手段) に関する詳細な概念情報を提供します。

FM/Db2 で実行できること

FM/Db2 は、Db2® データを編集、ブラウズ、印刷、コピー、および保守するための、ユーティリティー機能の強力なセットです。FM/Db2 でサポートされる Db2® データ・タイプについては、[Db2 データ型 ページ 452](#) を参照してください。

また、Db2® オブジェクトのリスト、Db2® 特権の管理、Db2® スタンドアロン・ユーティリティーを実行する JCL の生成、Db2® 表の QSAM または VSAM データ・セットとのエクスポートおよびインポート、Db2® 表を取り込むためのデータの作成、および SQL SELECT ステートメントのプロトタイピングを実行するためのユーティリティーも提供します。

FM/Db2 は ISPF アプリケーション・プログラムです。パネルを使用して、オプションを選択したり、共通機能の要求、および情報の表示と編集用のフルスクリーン形式を単純化するパラメーター、コマンド、およびプログラム機能 (F) キーを指定することができます。データが画面に収まらないときには、ISPF によって 4 方向すべてにスクロールできます。

テンプレート

FM/Db2 は、テンプレートを使用して、データの定様式ビューを提供し、ユーザーが、処理している表の列およびデータ・タイプに従ってデータを表示、編集、および操作できるようにします。

テンプレートとは?

File Manager/Db2 テンプレートは、Db2® オブジェクトの表および列を選択および形式設定するために使用できる情報のコレクションです。非 Db2 データとのインターフェースを持つ File Manager/Db2 機能を使用すると、対応するテンプレートに、データ・セット内のレコードおよびフィールドが記述されます。

テンプレートにデータに関連付ける場合には、以下のことが可能です。

列の操作

処理対象の列を選択し、列の表示順序を調整し、列見出しを変更することができます。

数値列に先行ゼロを表示するように選択することができます(デフォルトでは、数値列の先行ゼロが抑制されます。例えば、00057 は 57 と表示されます。)

データのマップ

データをコピーしたり、インポートしたり、エクスポートしたり、またはロードしたりしている場合に、データをソースから宛先に転送する方法を“マップ”することができます。

行の選択

行選択基準を指定して、データを処理する行に制限することができます。

データの作成

新規の表を作成したり、データを移動する際に新規の列を追加したりする場合、列値を初期化するために FM/Db2 が使用する作成属性を指定することができます。

Db2® オブジェクト用のテンプレートを使用する File Manager/Db2 機能を使用する場合、以下のオプションのいずれかを選択できます。

- 既存のテンプレートの名前を指定する
- FM/Db2 を使用して、(Db2®オブジェクト用の Db2® カタログからの情報を使用して) テンプレートを生成する
- Db2® オブジェクトで最後に使用したテンプレートを使用する
- FM/Db2 を使用して、テンプレートを生成し、指定した名前を使用してそのテンプレートを即時に保管する

関連するタスク

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

テンプレートを使用できる場所

テンプレートを使用して、データの表示、ブラウズ、編集、印刷、コピー、インポート、エクスポート、作成、またはロードを行うことができます。以下の表に、テンプレートの使用が可能なパネルをリストします。

タスク	パネル
データのブラウズ	View (表示) (オプション B)
データの表示	View (表示) (オプション 1)
データの編集	Edit (編集) (オプション 2)
データの印刷	Print (印刷) (オプション 3.1)
データのコピー	Copy (コピー) (オプション 3.3)
データのインポート	Import (インポート) (オプション 3.6) ¹
データのエクスポート	Export (エクスポート) (オプション 3.7) ¹
データの作成	Create (作成) (オプション 3.8)
データのロード	Utilities (ユーティリティー) (オプション 3.9)、Db2® LOAD ユーティリティー ¹
データのアンロード	Utilities (ユーティリティー) (オプション 3.9)、Db2® UNLOAD ユーティリティー ¹

関連するタスク

1. これらの機能で、テンプレートまたはコピーブックを使用することができます。非 Db2 データを含むテンプレートの使用 [ページ 78](#) を参照してください。

Db2 データの表示と変更 ページ 123
Db2 表の内容の印刷 ページ 337
ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253
VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259
VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287
Db2 表へのデータの追加 ページ 251
LOAD ユーティリティー ページ 367
UNLOAD (表) ページ 392
UNLOAD (表スペース) ページ 398

関連する参照先

Db2 「Browse (ブラウズ)」 パネル ページ 618
Db2 「View (表示)」 パネル ページ 639
「Db2 Edit (編集)」 パネル ページ 622
「Print Utility (印刷ユーティリティー)」 パネル ページ 760
「Copy Utility ("From") (コピー・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 518
「Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 718
「Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 698
「Data Create Utility (データ作成ユーティリティー)」 パネル ページ 610
「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」 パネル ページ 732
「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティー (表))」の「From (元)」 パネル ページ 891
LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティー (表))」 パネル ページ 894
「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティー (表スペース))」 パネル ページ 889
LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティー (表スペース))」 パネル ページ 889

第 2 章. File ManagerDb2® のシステム要件

FM/Db2 は以下をサポートします。

- Db2® バージョン 10
- Db2® バージョン 11
- Db2® バージョン 12

使用している Db2® のバージョンによって FM/Db2 内で違いがある場合は、本書では、これらの違いを示す説明文の始めと終りを識別する標識によって、強調表示しています。例えば次のようになります。



注: 本書に記載されている例の多くは、DB2® バージョン 9 を使用して作成されたものです。それ以降の Db2® バージョンを使用している場合は、FM/Db2 パネルの外観が若干異なることがあります。

第3章. FM/Db2 入門

本章では、「どのようにしてアプリケーションに出入りするか?」、「どのようにしてアプリケーション間で移動するか?」、「どのようにしてヘルプを表示するか?」、および「作業を開始する前に何を行ったらよいか?」などの質問に対する回答を提供します。

関連するタスク

[FM/Db2 の開始と終了 ページ 28](#)

[複数の Db2 サブシステムが使用可能な場合のサブシステムの選択 ページ 32](#)

[FM/Db2 インターフェースの使用 ページ 37](#)

[ヘルプの使用 ページ 57](#)

[デフォルト処理オプションの設定 ページ 63](#)

FM/Db2 の開始と終了

FM/Db2 は ISPF 開発のアプリケーションであり、通常、ISPF セッション内から実行します。FM/Db2 を終了すると、ISPF セッションに戻ります。

関連するタスク

[FM/Db2 の使用を開始 ページ 29](#)

[FM/Db2 の終了 ページ 31](#)

TSO 領域サイズ

FM/Db2 のサポートされる最小の TSO 領域サイズは 16MB です。FM/Db2 は 4 MB から 16 MB の範囲の領域サイズを使用して動作可能ですが、これらの領域サイズ指定によって“16 MB 境界より下の”ストレージの量が制限されます。16 MB より少ない TSO 領域サイズを使用して実行しているときに、ストレージ関連の異常終了が“16 MB 境界より下の”ストレージの不足に起因して発生する場合、解決策は TSO 領域サイズを増やすことです。

Db2® ラージ・オブジェクトを処理するときは、かなりの量の 31 ビット・ストレージが必要になります。

ほとんどのアプリケーションでは、TSO 領域サイズ 32 MB は適切な開始点となりますが、Db2® ラージ・オブジェクトを処理する必要がある場合にはサイズを増やさなければなりません。

GEN 接頭部コマンドを使用する場合、推奨される最小 TSO 領域サイズは 32MB です。大きなデータベースを処理する場合は、64MB まで大きくしてください。

関連するタスク

[ストレージの考慮事項 ページ 140](#)

[大きな表またはビューの表示 ページ 141](#)

FM/Db2 の使用を開始

FM/Db2 を起動する方法は、ユーザーのシステムでそれをどのようにインストールしたかによって異なります。一般的に、FM/Db2 は、z/OS® の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」に 1 つのオプションとしてインストールされます。

図 3. FM/Db2 オプションを表示している z/OS® の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル

```

Menu Utilities Compilers Options Status Help
-----
                          z/OS Primary Option Menu
0 Settings          Terminal and user parameters      User ID . . : FMNUSER
1 View             Display source data or listings                    Time. . . . : 15:11
2 Edit            Create or change source data                          Terminal. . : 3278
3 Utilities       Perform utility functions                            Screen. . . : 1
4 Foreground     Interactive language processing                       Language. . : ENGLISH
5 Batch          Submit job for language processing                    Appl ID . . : ISR
6 Command        Enter TSO or Workstation commands                     TSO logon : ISPFPROC
7 Dialog Test    Perform dialog testing                               TSO prefix: FMNUSER
9 IBM Products   IBM program development products                    System ID  : FMD2
10 SCLM          SW Configuration Library Manager                    MVS acct. : USER
11 Workplace    ISPF Object/Action Workplace                         Release . . : ISPF 5.0
F File Manager   File Manager for z/OS®
FD FM/Db2      FM/Db2          ◀ New

Option ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap
F10=Actions  F12=Cancel

```

FM/Db2 を開始するには、以下を実行します。

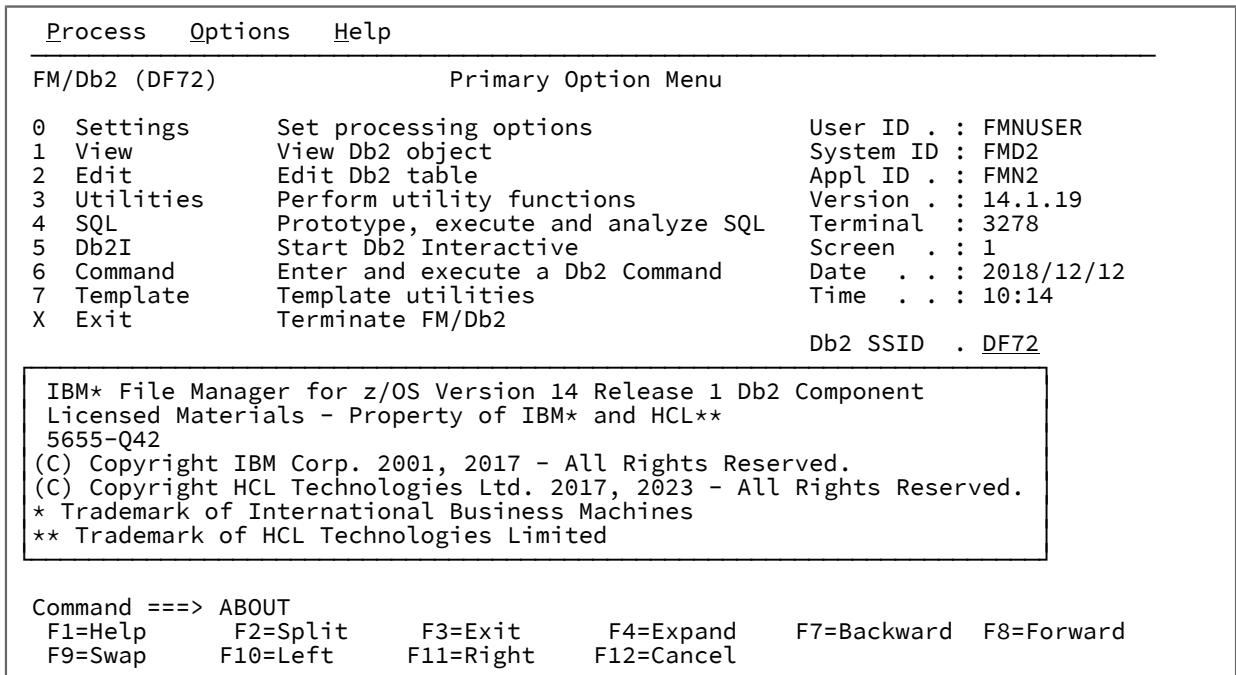
1. z/OS® の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から FM/Db2 オプションを選択してください。



注: ご使用のメニューに FM/Db2 オプションがない場合は、ご使用のサイトで使用される開始プロセスに関して、システム管理者に説明を求めてください。

FM/Db2 を開始すると、FM/Db2 の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」が表示され、現行バージョンの情報がポップアップ・メッセージ・ボックスに表示されます。

図 4. バージョン情報が表示された FM/Db2 の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル

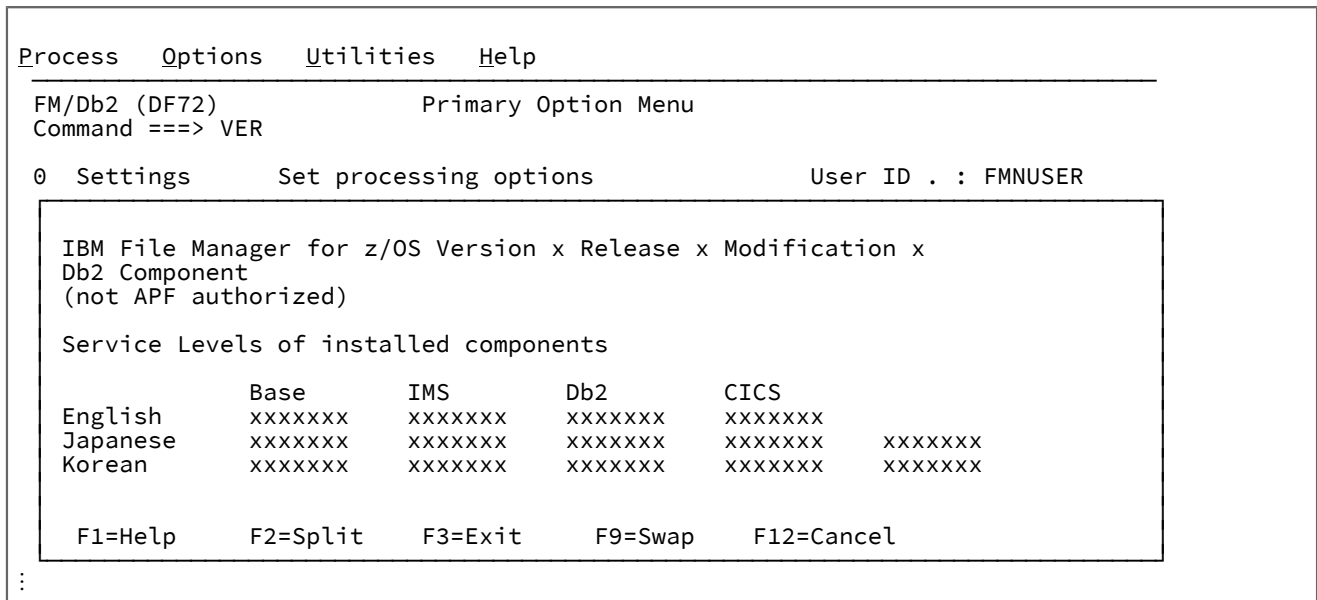


2. Enter キーを押して、バージョンのウィンドウを閉じます。

ご使用の FM/Db2 バージョンの検査

FM/Db2 の完全バージョン情報を表示するには、いずれかのパネルのコマンド行に VER を入力します。現行の FM/Db2 のバージョン番号と各 FM/Db2 コンポーネントの PTF 番号が、ウィンドウに表示されます。ポップアップには、FM/Db2 が APF 許可されているかどうかも示されます。

図 5. PTF 情報が表示された FM/Db2 の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」



バージョン情報を表示するための代替の方法として、アクション・バーから、「**Help (ヘルプ)**」 > 「**7. About (7. 製品情報)**」を選択する方法があります。FM/Db2 の現行バージョン番号と Db2® コンポーネントの PTF 番号が表示されます。また、このポップアップ・パネルには、著作権情報と、製品と一緒に出荷されたメモがあれば、それも表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DF72)                Primary Option Menu
Command ==> ABOUT

0  Settings          Set processing options          User ID . : FMUSER
1
2
3  IBM File Manager for z/OS Version x Release x Modification x
4  Db2 Component
5  PTF level: xxxxxxxx
6
7  xxxx-xxx
X  (C) Copyright HCL Technologies Ltd. 2017, 2023 - All rights reserved.
  (C) Copyright IBM Corporation 1986, 2017 - All rights reserved.
  Note to US Government Users -- Documentation related to restricted
  rights -- Use, duplication or disclosure is subject to restrictions
  set forth in GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp.

  F1=Help    F2=Split    F3=Exit    F9=Swap    F12=Cancel

F1=Help    F2=Split    F3=Exit    F4=Expand    F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap    F10=Left   F11=Right  F12=Cancel

```

関連する参照先

[VER 基本コマンド ページ 980](#)

[アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456](#)

使用している COBOL コンパイラーの確認

FM/Db2 は現在ロードされている COBOL コンパイラーを使用して、COBOL コピーブックからテンプレートを作成します。

現行の COBOL コンパイラーに関する詳細を表示するには、パネルのコマンド行に SHOWCOB と入力します。FM/Db2 はウィンドウに現行 COBOL コンパイラーの詳細を表示します。

関連トピック

[SHOWCOB 基本コマンド ページ 974](#)

FM/Db2 の終了

以下のいずれかの方法で、「Primary Options Menu (基本オプション・メニュー)」パネルで FM/Db2 を終了することができます。

- 「Exit」機能キー (F3) を押します。
- コマンド行に「x」(または「EXIT」または「END」) を入力します。
- アクション・バーから「**Process (プロセス)**」 > 「**Exit FM/Db2 (FM/Db2 の終了)**」を選択します。

FM/Db2 内の任意のパネルからアプリケーションを終了するには、以下の通りにします。

- コマンド行で `=x` を入力します。

関連する参照先

[END 基本コマンド ページ 920](#)

[アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456](#)

複数の Db2® サブシステムが使用可能な場合のサブシステムの選択

ほとんどの FM/Db2 パネルにおいて、現在接続されている Db2® サブシステムは製品名のすぐ後ろに表示されます。

例えば、[図 6: 「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」 パネル ページ 33](#) では、「FM/Db2 (DFG2)」(パネル・タイトルの前) に現在の Db2® サブシステムが DFG2 であることが表示されます。

システムに複数のアクティブな Db2® サブシステムが含まれている場合は、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」の「**Db2 SSID**」フィールドに値を入力して、FM/Db2 を接続するサブシステムを選択できます。一部の FM/Db2 パネルでは、SSID コマンドを使用することもできます。

初めて FM/Db2 を使用するとき、システムに複数のアクティブな Db2® サブシステムがあると、FM/Db2 はまず「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルを表示します。



注:

1. FM/Db2 は、サポートされるバージョンの Db2® を使用するアクティブな Db2® サブシステムが少なくとも 1 つあるシステムでしか実行できません。
2. システムにアクティブな Db2® サブシステムが 1 つしかない場合には、FM/Db2 が自動的にそのサブシステムと接続します。

関連するタスク

[Db2 SSID フィールドの使用による Db2 サブシステムの選択 ページ 32](#)

[SSID コマンドの入力による Db2 サブシステムの選択 ページ 34](#)

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」 パネル ページ 756](#)

[「Db2 Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」 パネル ページ 631](#)

Db2 SSID フィールドの使用による Db2® サブシステムの選択

FM/Db2 を開始すると、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルが表示されます。

図 6. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル

```

  Process  Options  Utilities  Help
  -----
FM/Db2 (DFG2)          Primary Option Menu

0 Settings      Set processing options      User ID . . : FMNUSER
1 View          View Db2 object             System ID . : MVS8
2 Edit          Edit Db2 table               Appl ID . . : FMN2
3 Utilities     Perform utility functions   Version . . : 14.1.19
4 SQL           Prototype, execute and analyze SQL Terminal . : 3278
5 Db2I          Start Db2 Interactive        Screen . . : 1
6 Command       Enter and execute a Db2 Command Date . . . : 2019/01/07
7 Template      Template utilities           Time . . . : 08:54
X Exit          Terminate FM/Db2

                                Db2 SSID . DFG2
                                SQL ID . . FMNUSER +

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Expand      F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Left     F11=Right   F12=Cancel

```

【Db2 SSID】フィールドには、FM/Db2 が現在接続している Db2® サブシステムの ID が表示されます。(Db2® サブシステムはパネル・タイトルの前にも表示されます)。図 6: 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル ページ 33 では、FM/Db2 は DFG2 サブシステムに接続されています。

【Db2 SSID】フィールドを使用して Db2® サブシステムを選択するには、以下のいずれかの方法が使用できます。

- 現在表示されている SSID に別のアクティブな Db2® サブシステムの ID を上書きして、Enter キーを押します。

例えば、図 6: 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル ページ 33 で、Db2® サブシステム DFB2 に接続するには、DFG2 を DFB2 と上書きして Enter キーを押します。

- 【Db2 SSID】フィールドにアスタリスク (*) を入力するか、ブランクのままにして、Enter キーを押します。FM/Db2 は、ご使用の環境内のすべての Db2® サブシステムのリストを示す「Db2 Subsystem Selection (Db2 サブシステム選択)」パネルを表示し、そこから希望する Db2® サブシステムを選択できます。
- 【Db2 SSID】フィールドに、先頭または終了にアスタリスク (*) を含む (2 つのアスタリスクで囲まれた) 部分 ID を入力し、Enter キーを押します。FM/Db2 は、Db2® サブシステムの制限されたリストを示す「Db2 Subsystem Selection (Db2 サブシステム選択)」パネルを表示し、そこから希望する Db2® サブシステムを選択できます。

以下の例では、Db2® サブシステムの部分 ID を指定するときに (*) ワイルドカードを使用する方法を示します。

DB*

ID が "DB" で始まるすべての Db2® サブシステムがリストされます。

*TST

ID が "TST" で終わるすべての Db2® サブシステムがリストされます。

2

ID に "2" が入っているすべての Db2® サブシステムがリストされます。



注: 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル以外のパネルから Db2® サブシステムを変更するには、SSID コマンドを使用します。

関連するタスク

[Db2 サブシステム選択メニューの使用法 ページ 35](#)

[SSID コマンドの入力による Db2 サブシステムの選択 ページ 34](#)

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[「Db2 Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 631](#)

SSID コマンドの入力による Db2® サブシステムの選択

別の Db2® サブシステムに接続するには、SSID コマンドの後に接続する Db2® サブシステムの名前を使用します。

SSID コマンドは、メニュー・パネル、オプション・パネル、およびほとんどの機能入力パネルから使用できます。例えば、DB27 サブシステムに変更するには、以下のコマンドを入力します。

```
SSID DB27
```

SSID コマンドを使用する場合は、以下の制限事項に注意してください。

- 指定する名前は、アクティブな Db2® サブシステムでなければなりません。
- 指定する名前にアスタリスク (*) またはワイルドカードが含まれてはなりません。
- 一旦 File Manager/Db2 ダイアログが開始すると、現在接続されている Db2® サブシステムを SSID コマンドを使用して変更できません。

ご使用の環境内のすべての Db2® サブシステムのリストを表示するには、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルの「**Db2 SSID**」フィールドを使用します。



注:

- DB2SYS は SSID コマンドの同義語です。FM/Db2 がインストールされている場合、これらのコマンド名は別の名前にカスタマイズされている可能性があります。この場合、この文書の SSID コマンドへの参照は、これらのカスタマイズされたコマンド名に適用されます。

ご使用のサイトで SSID コマンドの名前を検証するには、「Db2 Subsystem Selection Tutorial Help (Db2 サブシステム選択チュートリアルヘルプ)」パネルを参照してください。



1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、「Help」機能キー (F1) を押します。
2. “FM/Db2 Tutorial - Table of Contents (チュートリアル - 目次)”パネルから項目 **D** (Db2 SSID) を選択します。

“FM/Db2 Tutorial - Db2 Subsystem Selection (チュートリアル - Db2 サブシステム選択)”パネルには、FM/Db2 のインストール時に設定されたコマンドの名前とその同義語が表示されます。

- コマンド名は、4 文字まで短縮することができます。

関連するタスク

[Db2 サブシステム選択メニューの使用法 ページ 35](#)

[Db2 SSID フィールドの使用による Db2 サブシステムの選択 ページ 32](#)

[チュートリアル用ヘルプへのアクセス ページ 58](#)

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

Db2® サブシステム選択メニューの使用法

「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」メニューは、FM/Db2 に接続する Db2® サブシステムを選択するために使用します。このメニューには、ユーザー環境の Db2® サブシステムのリストが表示され、以下の場合に表示されます。

- 初めて FM/Db2 を使用する場合 (システムに複数のアクティブな Db2® サブシステムがある場合)
- 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」の「**Db2® SSID**」フィールドで以下のいずれかを入力した場合
 - アスタリスク (*)
 - スペース
 - アスタリスク (*) で始まっているか終わっている (あるいはその両方の) 部分 ID

「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」の「**Db2® SSID**」フィールドで部分 ID を入力すると、Db2® サブシステムのリストはそれに応じて制限されます。

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[「Db2 Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 631](#)

サブシステムの選択

「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」メニューから Db2® サブシステムを選択する方法は次の通りです。

1. 希望する Db2® サブシステムの「Sel」列に「s」(または「?」)を入力します。

選択するサブシステムの状況は、「ACTIVE」または「GROUP」である必要があり、サブシステムが FM/Db2 インストール・モジュールに定義されている必要があります。これらの基準を満たしていない Db2® システムでは、選択フィールドは使用不可です。

2. Enter キーを押します。

FM/Db2 は、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」を表示します。FM/Db2 が現在その Db2® サブシステムと接続していることを示す選択したサブシステムの ID が「Db2® SSID」フィールドに表示されます。

関連する参照先

[\[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)\] パネル ページ 756](#)

[\[Db2 Subsystem Selection \(サブシステム選択\)\] パネル ページ 631](#)

Db2® サブシステムのリストの最新表示

[Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)] メニューで Db2® サブシステムのリストを最新表示するには、「Refresh」機能キー (F5) を使用するか、または基本コマンド REFRESH を入力します。

最新表示された Db2® サブシステムのリストには、そのリストの最後の表示以後に行った変更 (例えば、それぞれの Db2® サブシステムの状況) が反映されています。

関連する参照先

[REFRESH 基本コマンド ページ 965](#)

[\[Db2 Subsystem Selection \(サブシステム選択\)\] パネル ページ 631](#)

Db2® サブシステムのリストの制限

SHOW 基本コマンドまたは「Show」機能キー (F6) を使用して、「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)] メニューに表示される Db2® サブシステムのリストを制限することができます。

以下のコマンドのいずれかで、すべての Db2® サブシステムがリストされます。

```
SHOW *
```

```
SHOW
```

以下の例では、SHOW 基本コマンドを使用し、アスタリスク (*) ワイルドカードおよび Db2® サブシステムの部分 ID を使用して、「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)] メニューに表示される Db2® サブシステムのリストを制限する方法を示します。

SHOW MM*

リストを、ID が “MM” で始まる Db2® サブシステムに制限します。

SHOW *PBJ

リストを、ID が “PBJ” で終わる Db2® サブシステムに制限します。

SHOW *V*

リストを、ID に “V” が入っている Db2® サブシステムに制限します。

「Show」機能キー (F6) は、選択基準としてコマンド行の内容が使用される点を除き SHOW コマンドと同様に機能します。例:

- コマンド行がブランクのとき「Show」機能キー (F6) を押すと、FM/Db2 にすべての Db2® サブシステムが表示されます(コマンド行にアスタリスク (*)が入っている場合と同じ結果になります)。
- コマンド行に「DBT*」を入力して「Show」機能キー (F6) を押すと、FM/Db2 には、ID が「DBT」で始まるすべての Db2® サブシステムがリストされます。
- コマンド行に「*26」を入力して「Show」機能キー (F6) を押すと、FM/Db2 には、ID が「26」で終わるすべての Db2® サブシステムがリストされます。
- コマンド行に「*AB*」を入力して「Show」機能キー (F6) を押すと、FM/Db2 には、ID に「AB」が入っているすべての Db2® サブシステムがリストされます。

関連する参照先

[「Db2 Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 631](#)

[SHOW 基本コマンド ページ 972](#)

FM/Db2 インターフェースの使用

FM/Db2 インターフェースは、ISPF モデルをベースにしています。タスクを実行するには、該当するパラメーターを指定して機能を処理します。使いやすいパネルを使用して、機能を選択し、パラメーター情報を提供できます。一部の機能では、「フォアグラウンド」モードか「バッチ」モードを選択して処理できます。フォアグラウンド・モードでは、選択された機能が即時に処理され、その結果は、デフォルト設定で指示されたとおりに、画面に戻されるか、または印刷出力に送られます。バッチ・モードでは、パネル情報から JCL が生成され、編集できるようにユーザーに提供されます。このコードを変更して、処理キューに実行依頼することができます。

この節では、FM/Db2 内のパネルをナビゲートする方法、および共通のパネル情報を指定する方法について説明します。

FM/Db2 でのナビゲート

FM/Db2 パネルは、ISPF の下の他のパネルと同じ方法でナビゲートします。つまり、メニュー・パネルから、コマンド行に該当するメニュー・オプション番号を入力することによって、処理パネルを立ち上げます。FM/Db2 は「Primary Options Menu (基本オプション・メニュー)」パネルを使用して、特定の機能または機能グループに関連する処理パネルへのアクセスを提供しています。場合によっては、「Primary Options Menu (基本オプション・メニュー)」の 1 つのオプションから別のメニュー・パネルに進み、そこから必要な処理パネルを選択できるものもあります。

パネルにアクセスするには、以下の方法の 1 つを選択してください。

- コマンド行にメニュー・オプション番号を入力して Enter キーを押します。必要な処理パネルが表示されるまで、ネストされたそれぞれのメニューを繰り返します。
- 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から、必要なパネルへの完全なメニュー・パスを各メニュー・レベルをピリオドで区切って入力した後、Enter キーを押します。例えば、3.4 と入力すると、「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」パネルに直接進みます。
- メニュー・パネルのフィールドに「point-and-shoot (ポイント・アンド・シュート)」を使用します。この機能を使用するには、該当するメニュー・オプションの名前の上にカーソルを置いて、Enter キーを押します。



注: ISPF は、オプション選択の前に指定可能な「=」パラメーターを提供します。例えば、=3.4 です。これがサポートされている場合は、「=」パラメーターを使用すると、ISPF アプリケーション内の関連のない別のオプションから指定されたメニュー・オプションに直接ナビゲートできます。

「=」パラメーターは FM/Db2 ではサポートされていません。

パネルを終了するには、以下の方法のいずれかを選択します。

- 「Exit」機能キー (F3) を押します。
- コマンド行に x と入力して、Enter キーを押します。
- コマンド行に END と入力して、Enter キーを押します。

多くの FM/Db2 パネルには、1つの画面で見ることができるとは異なるよりも多くの情報があります (特に、80x24 のディスプレイで実行している場合)。この場合には、パネルの右上隅の近くに、正符号 (+)、負符号 (-)、またはその両方が付いた、「More (続く)」標識が表示されます。

図 7. 「More (続く)」メッセージが表示されたパネルの例

```

FM/Db2 Tutorial - Ed/Br Options
                                     More:  - +
session are only presented to Db2 when an explicit save command is issued,
or at the end of the edit session.

Save data
When this option is selected, all pending changes are submitted to Db2 for
processing whenever the enter key is pressed (and no other operations are
    
```

“More (続く)” という語の隣の正符号 (+) は、次のパネルにさらに情報が使用可能であることを示しています。次の情報パネルを表示するには、「NxtPage」機能キー (F11) を押します。

“More (続く)” という語の隣の負符号 (-) は、前のパネルにさらに情報が使用可能であることを示しています。前の情報パネルを表示するには、「PrvPage」機能キー (F10) を押します。

パネルをスクロールダウンするには、以下の方法のいずれかを選択します。

- 「Forward」機能キー (F8) を押します。これにより、1画面分の行がスクロールダウンします。
- コマンド行に「FORWARD」または「DOWN」を入力します。これらのコマンドにより、1画面分の行がスクロールダウンします。
- コマンド行で BOTTOM を入力します。これにより、パネルの最下部に進みます。

パネルをスクロールアップするには、以下のいずれかの方法を選択します。

- 「Backward」機能キー (F7) を押します。これにより、1 画面分の行がスクロールアップします。
- コマンド行に「BACKWARD」または「UP」を入力します。これらのコマンドにより、1 画面分の行がスクロールアップします。
- コマンド行で TOP を入力します。これにより、パネルの最上部に進みます。

関連する参照先

スクロール ページ 162
 BACKWARD 基本コマンド ページ 903
 BOTTOM 基本コマンド ページ 904
 DOWN 基本コマンド ページ 917
 END 基本コマンド ページ 920
 FORWARD 基本コマンド ページ 937
 TOP 基本コマンド ページ 977
 UP 基本コマンド ページ 978
 画面サイズ ページ 41

FM/Db2 パネルの機能

この節では、FM/Db2 パネルの一般的な機能について説明します。

図 8: 典型的な FM/Db2 パネル ページ 39 に、典型的な FM/Db2 パネルを示します。

図 8. 典型的な FM/Db2 パネル

Process	Options	Utilities	Help					①
FM/Db2 (DFG2)				Table Edit				②
TABLE FMUSER.EMP				0 of 42				③
				Format TABL				
EMPNO	FIRSTNME	MIDINIT	LASTNAME	WORKDEPT	PHONENO	HIREDATE		
#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7		
CH(6)	VARCHAR(12)	CH(1)	VARCHAR(15)	CH(3)	CH(4)	DATE		
PU-->	<----+-----1-->	-	<----+-----1----->	<-NF	<-->	<----+----->		
000001	000010	CHRISTINE<	I	HAAS<	A00	3978	01.01.1965	
000002	000020	MICHAEL<	L	THOMPSON<	B01	3476	10.10.1973	
000003	000030	SALLY<	A	KWAN<	C01	4738	05.04.1975	
000004	000050	JOHN<	B	GEYER<	E01	6789	17.08.1949	
000005	000060	IRVING<	F	STERN<	D11	6423	14.09.1973	
000006	000070	EVA<	D	PULASKI<	D21	7831	30.09.1980	④
000007	000090	EILEEN<	W	HENDERSON<	E11	5498	15.08.1970	
000008	000100	THEODORE<	Q	SPENSER<	E21	0972	19.06.1980	
000009	000110	VINCENZO<	G	LUCCHESI<	A00	3490	16.05.1958	
000010	000120	SEAN<	H	O'CONNELL<	A00	2167	05.12.1963	
000011	000130	DOLORES<	M	QUINTANA<	C01	4578	28.07.1971	
000012	000140	HEATHER<	A	NICHOLLS<	C01	1793	15.12.1976	
000013	000150	BRUCE<	A	ADAMSON<	D11	4510	12.12.1972	
Command ==>				Scroll PAGE				
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange			
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel			⑥

一般に、次の行が FM/Db2 パネルに表示されます。

① アクション・バー

その製品内を迅速に移動する方法を提供する、プルダウン・メニューへのアクセスを提供します。



注: アクション・バーは、「Start Db2® Interactive (対話機能の開始)」(オプション 5) を選択している場合は表示されません。

② パネル・タイトル

実行している機能を識別します。

③ 行数情報 (エディター・セッションのみ)

現行 FM/Db2 エディター・セッションについて、取り出された (現在表示されている先頭行の) 行番号および行の総数を表示します。

④ パネル本体

パネルに関連する情報を表示します。

⑤ コマンド行

コマンドを入力する、またはメニューでコマンドまたはオプションのいずれかを入力するのに使用します。このコマンドは任意の ISPF コマンドあるいは実行している FM/Db2 機能で有効な FM/Db2 基本コマンドとすることができます。

コマンド行の位置 (パネルの上部または下部) を変更する方法については、「対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

⑥ ファンクション・キー

“プログラマブル機能”キー、つまり“PF”キーとして知られる機能キーの設定が表示されます。FM/Db2 のほとんどのパネルでは、これらの設定は ISPF 機能キーの値です。ただし、FM/Db2 の一部のパネルでは、これらの設定は FM/Db2 機能で必要となる値と対応させるために事前設定されています。

デフォルトの機能キーの値、およびユーザー独自の機能キーの値の定義方法については、「対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

アクション・バーからの項目の選択

アクション・バーから項目を選択する方法は、次の通りです。

- カーソルを「Options (オプション)」などのアクション・バーの項目に移動します (図 9: アクション・バー・メニュー ページ 41 参照)。
- Enter キーを押します。FM/Db2 は、選択されたアクション・バー項目に関連した選択項目のあるプルダウン・メニューを表示します。
- プルダウン・メニューから選択項目を選びます。以下のいずれかです。
 - プルダウン・メニュー選択番号 (例えば、「Print settings (印刷設定)」では 6) を入力して Enter キーを押します。または
 - 上または下の矢印キーで、カーソルを必要な選択項目に移動して Enter キーを押します。

メニューの選択項目の前にあるアスタリスクは、その選択項目が現行のパネルでは使用不可であることを表します。

図 9. アクション・バー・メニュー

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (42 rows)	— 1. Print settings		Top of 42		
E	2. FM/Db2 system options		Format TABL		
#	3. Job card specifications	WORKDEPT	PHONENO HIREDATE		
C	4. Compiler language selection	#5	#6 #7		
P	5. COBOL compiler specifications	CH(3)	CH(4) DATE		
***** *	6. HLASM compiler specifications	<-NF	<--> <----+---->		
000001 0	7. PL/I compiler specifications	A00	3978 01.01.1965		
000002 0	8. Temporary Data Set Allocations	B01	3476 10.10.1973		
000003 0	9. Output Data Set Allocations	C01	4738 05.04.1975		
000004 0	10. ISPF settings	E01	6789 17.08.1949		
000005 0	11. Editor options	D11	6423 14.09.1973		
000006 0	12. Copy utility options	D21	7831 30.09.1980		
000007 0	13. Object list utility options	E11	5498 15.08.1970		
000008 0	14. Export utility options	E21	0972 19.06.1980		
000009 0	15. Db2 LOAD utility options	A00	3490 16.05.1958		
000010 0	16. Db2 Utility LISTDEF options	A00	2167 05.12.1963		
000011 0	17. Db2 Utility OPTIONS options	C01	4578 28.07.1971		
000012 0	18. Db2 Utility TEMPLATE options	C01	1793 15.12.1976		
000012 0	19. Db2 Unload utility options		Scroll PAGE		
Command			F6=RChange		
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetrieve	F5=RFind	F6=RChange
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

関連する参照先

[アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456](#)

画面サイズ

FM/Db2 は、24 x 80 文字よりも大きい画面サイズを扱うように設計されています。

端末特性に影響を与える ISPF 設定については、「対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

ロング・ネーム用のスクロール可能入力および表示フィールド

FM/Db2 では、FM/Db2 パネルでスクロール可能フィールドを使用しており、フィールド長より長い値を入力および表示できます。

FM/Db2 パネルには、以下の 2 つのタイプのスクロール可能フィールドがあります。

入力フィールド

所有者 (または作成者) の名前、Db2® オブジェクトの名前、Db2® 列の名前などの情報を入力できる FM/Db2 パネルのフィールド。

表示フィールド

実行されたアクションの結果として情報を表示する、FM/Db2 パネルのフィールド。

以下の 2 つのセクションでは、両方のタイプのスクロール可能フィールドの処理方法について説明します。

スクロール可能入力フィールドでの作業

パネルでは、次のいずれかの名前を入力できます。

- 所有者 (または作成者)
- Db2® オブジェクト
- 列

FM/Db2 では、入力フィールドの表示長より長い値を入力できるスクロール可能入力フィールドが複数のパネルにあります。

スクロール可能フィールドは、入力フィールドの端の横に、以下のいずれかが表示されることにより認識できます。

+

正符号。フィールドを右側にスクロールできることを示します。

-

負符号。フィールドを左側にスクロールできることを示します。

+-

正符号と負符号。フィールドを右側または左側にスクロールできることを示します。

パネルに表示された入力フィールドの長さが、入力する必要がある値に不十分である場合は、次のいずれかのアクションを実行してください。

- 値の入力につれて、「Right」機能キー (F11) を押して、または RIGHT 基本コマンドを入力して (カーソルを入力フィールド内に置いて)、右に少しずつスクロールさせる。
- 「Expand」機能キー (F4) を押すか、EXPAND 基本コマンドを入力して、値の全長の入力が可能になるウィンドウを表示させる。

図 10: 「Db2 View (表示)」パネル: Db2 V8 システムに接続した場合に表示される形式 ページ 42 は、「Db2® View (表示)」パネルの形式を示します。「Owner (所有者)」および「Name (名前)」入力フィールドに隣接する“+”記号は、両方ともスクロール可能フィールドであることを示します。

図 10. 「Db2® View (表示)」パネル: Db2® V8 システムに接続した場合に表示される形式

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Db2 View
Specify the Db2 Object:			
Location	_____	Database	_____ (optional)
Owner	_____	+	Table space _____ (optional)
Name	_____		_____ +
Row count	100	Number of rows to browse	
Template:			
Data set name	'FMUSER.TEMPLATE'		
Member	SALARY		
Processing Options:			
Template usage	Enter "/" , "A" always to select option		
3 1. Above	- Edit options		
2. Previous	- Edit template		
3. Generate from table	- Re-edit template		
4. Generate/Replace			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right
			F5=Actions
			F7=Backward
			F12=Cancel

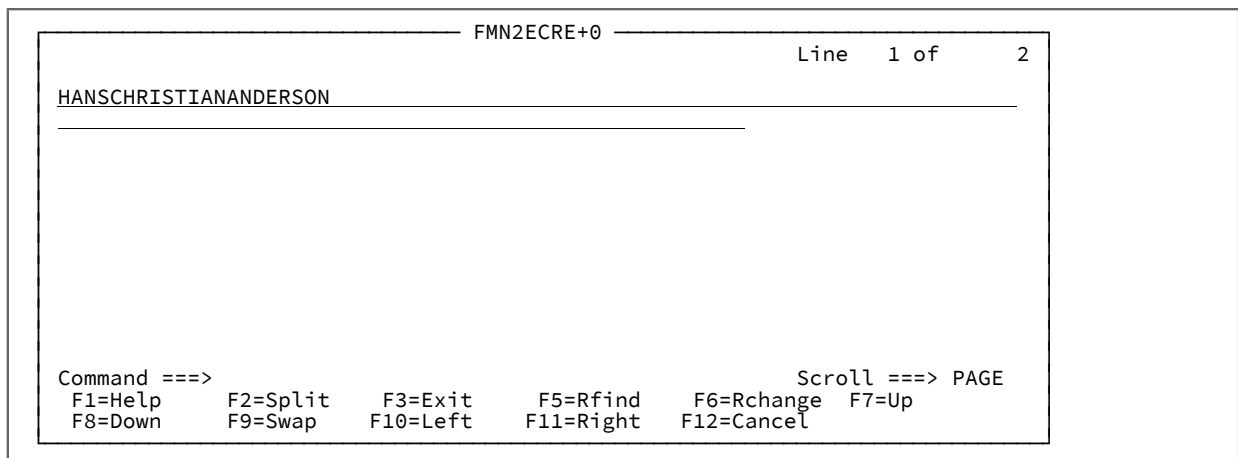
パネルに表示されている「Owner (所有者)」入力フィールドでは、最大 16 文字までの入力が許可されています。16 文字より長い所有者名を入力するには、「Owner (所有者)」入力フィールドのスクロールまたは拡張機能を使用する必要があります。

例えば、21 文字の名前 “HANSCHRISTIANANDERSON” を入力するには、次のいずれかのアクションを実行できます。

- 名前 (HANSCHRISTIANAND) の最初の 16 文字を「Owner (所有者)」フィールドに入力し、左矢印キー (←) を使用してカーソルを戻して「Owner (所有者)」入力フィールドに置きます。「Right」機能キー (F11) を押して右にスクロールし、続いて名前の残り (ERSON) を「Owner (所有者)」フィールドに入力します。
- 「Expand」機能キー (F4) を押すか、EXPAND 基本コマンドを入力して、絶対パス名を入力できるウィンドウを表示します。その後、「Exit」機能キー (F3) を押して「Db2® View (表示)」パネルに戻ります。

図 11: 長い入力名を入力するときのウィンドウ ページ 43 は、フルネームが入力された「Owner (所有者)」フィールドのウィンドウを示します。

図 11. 長い入力名を入力するときのウィンドウ



「Exit」機能キー (F3) を押して「Db2® View (表示)」パネルに戻ると、「Owner (所有者)」入力フィールドに、入力した名前の最初の 16 文字が示されます。

```

:
Specify the Db2 Object:
Location . . . . . _____ Database . . _____ (optional)
Owner . . . . . HANSCHRISTIANAND + Table space _____ (optional)
Name . . . . . _____ +
:

```

「Owner (所有者)」入力フィールドにある名前の残りを確認するには、「Right」機能キー (F11) を押すか、または RIGHT 基本コマンドを入力して (カーソルが「Owner (所有者)」入力フィールド内に置かれていることを確認)、右にスクロールします。

```

:
Specify the Db2 Object:
Location . . . . . _____ Database . . _____ (optional)
Owner . . . . . ERSON + Table space _____ (optional)
Name . . . . . _____ +
:

```

スクロール可能入力フィールドでのデータの削除

スクロール可能入力フィールドとして表示されているフィールド内の全データを削除する場合は、表示されているデータのみでなく、実際に全データを間違いなく削除するよう注意してください。

フィールド削除キーの組み合わせを使用してデータを削除する場合、FM/Db2 は、現在表示されているデータしか削除しません。フィールドに含まれるデータが表示内容より多い場合は、表示されていないデータが未削除のままになります。

スクロール可能入力フィールドとして表示されるフィールド内のデータを削除する前に、「Expand」機能キー (F4) を押すか、または EXPAND 基本コマンドを入力して、まず、フィールドの内容全体を表示することをお勧めします。その後で、フィールド削除キーの組み合わせを使用すると、フィールド内の全データを一度に削除できます。

スクロール可能表示フィールドでの作業

多くの FM/Db2 パネルでは、スクロール可能フィールドにデータが表示されます。FM/Db2 では、フィールドの含む表示対象データの長さが、パネルに表示されるフィールドより長い場合に、このようなフィールドが使用されます。

スクロール可能フィールドでは、以下のいずれかが表示フィールドの末尾の隣に表示されているのが認識できます。

+

正符号。フィールドを右側にスクロールできることを示します。

-

負符号。フィールドを左側にスクロールできることを示します。

+-

正符号と負符号。フィールドを右側または左側にスクロールできることを示します。

表示されるデータの長さがパネル上の表示フィールドよりも長い場合、次のいずれかのアクションを実行することでデータの残りを表示することができます。

- 「Right」機能キー (F11) を押して、または RIGHT 基本コマンドを入力して (カーソルを表示フィールド内に置いて)、右に少しずつスクロールさせる。
- 「Expand」機能キー (F4) を押すか、EXPAND 基本コマンドを入力して、フィールドの内容全体の表示が可能になるウィンドウを表示させる。

図 12: 「Table Details (表の詳細)」パネル: スクロール可能フィールドを示す例 ページ 45 は、多数のスクロール可能表示フィールドが組み込まれている「Table Details (テーブルの詳細)」パネルを示します (“+”記号がフィールド「Table owner (表所有者)」、「Table name (表名)」、「Created by (作成者)」、「Created (作成日時)」、「Altered (変更日時)」の末尾の隣に表示されています)。スクロール可能表示フィールドは、可能性として、フィールド内に保持されているデータは必ずしもすべてが表示されているわけではないことを示します。



注: “+”記号は、フィールドがスクロール可能であること、および現在表示されている以外のデータがある可能性があることを示します。ただし、現在表示されている以外のデータが必ず存在しているということを意味しているわけではありません。

図 12. 「Table Details (表の詳細)」パネル: スクロール可能フィールドを示す例

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Table Details		More: +
Details about table (label) : KPS8610L01234567890123456789012345678901234567			
General Data:			
Table owner	: KPS8610LO +	Table name	: DUMMY_TABLE_WI +
Created by	: SHRIKES +	Database name	: DSNDB04
Table space name	: DUMMYRTA	DB ID for database	: 4
Object ID for table	: 3	Primary key OBID	: N/A
Maximum row length	: 69	Primary key columns	: N/A
Number of columns	: 4	Edit procedure name	: N/A
Validation proc.	: N/A	Check pending flag	: No
Parent relations	: 0	Check constraints	: None
Child relations	: 0	Encoding scheme	: E - EBCDIC
Auditing	: AUDIT NONE	Status	: No primary key
Data capture	: No	Created	: 2004-05-10-11. +
Restrict on DROP	: No	Altered	: 2004-05-10-11. +
Release created	: L	Dep. query tables	: 0
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right
			F5=Actions
			F7=Backward
			F12=Cancel

例えば、**【Created (作成)】**表示フィールド(「Table Details (表の詳細)」パネルの右下)にあるデータの残りを確認するには、次のいずれかのアクションを実行できます。

- 「Right」機能キー (F11) を押すか、または RIGHT 基本コマンドを入力して (カーソルが **【Created (作成)】** フィールド内に置かれていることを確認)、右にスクロールする。

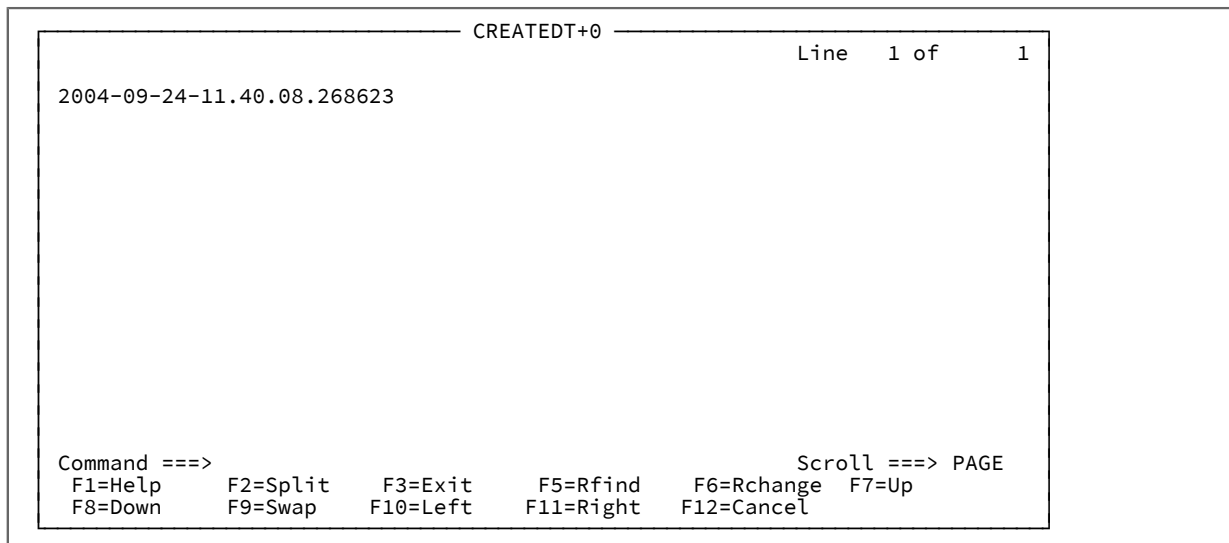
これで、**【Created (作成)】**表示フィールドに、残りのデータが表示されます。

:	Data capture	: No	Created	: 1.40.08.268623 -
:				

スクロール記号が “+” から “-” に変更されていることに注意してください。この場合は、フィールドの終わりまでスクロールしたことを示します。

- 「Expand」機能キー (F4) を押すか、EXPAND 基本コマンドを入力して、「Created (作成)」表示フィールドの内容全体が表示されるウィンドウを表示させる。

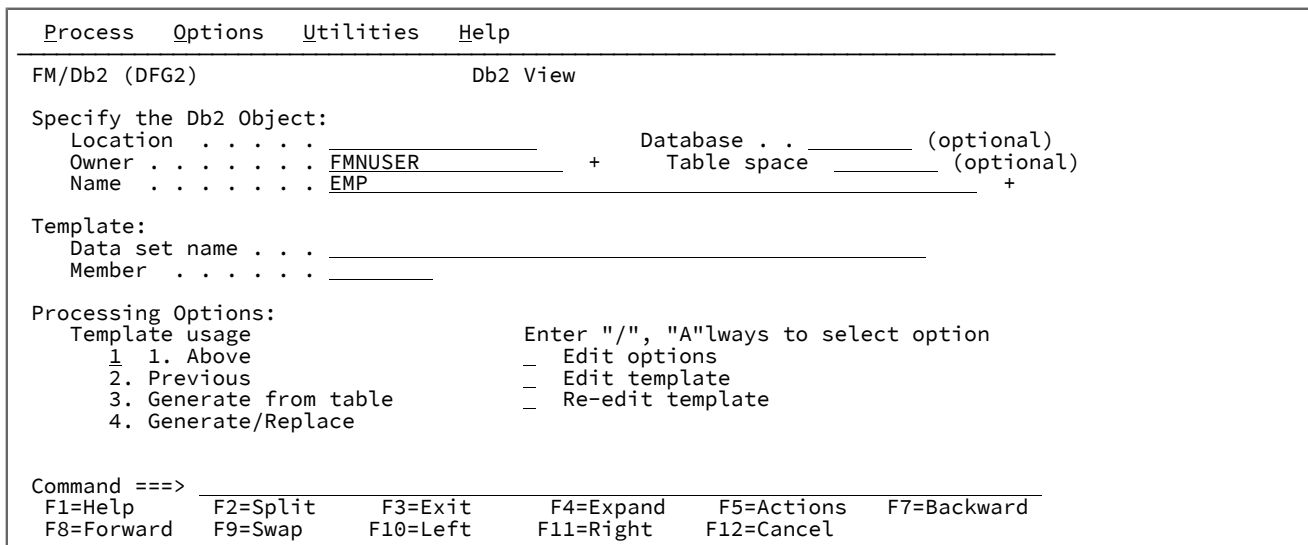
図 13. 表示フィールドの内容全体を表示するウィンドウ



FM/Db2 パネルでのオプションの選択

図 14: 選択できるオプションを表示する FM/Db2 パネル ページ 46 に示す「Db2® View (表示)」パネルなど、いくつかの FM/Db2 パネルがあり、使用する FM/Db2 機能のための 1 つ以上のオプションを選択できます。

図 14. 選択できるオプションを表示する FM/Db2 パネル



FM/Db2 パネルのオプションは次の 2 つの形式で表示されます。

- メニュー形式の番号付きオプションのリスト。

これらのオプションの1つを選択するには、提供される入力フィールドにそのオプション番号を入力します。例えば、[図 14: 選択できるオプションを表示する FM/Db2 パネル ページ 46](#) に示された「Db2® View (表示)」パネルで「**Previous (直前の指定)**」を選択するには、「2」と入力します。

- 選択または選択解除できる1つ以上のオプション。

FM/Db2 機能専用の現行セッションでこれらのオプションの1つを選択するには、提供される入力フィールドに“/”を入力します。オプションを選択解除するには、入力フィールドにスペースを入力します。

“/”または“A”を入力することによって、オプションを選択できることをパネルが示している場合は(例えば、「Db2® View (表示)」パネルのように)、以下のようにします。

- FM/Db2機能専用の現行セッションのオプションを選択するには、「/」を入力します。
- FM/Db2機能のあるセッションで選択したオプションを次のセッションに保存するには、「A」を入力します。FM/Db2 機能の処理を続行する前に、FM/Db2 が常にこのオプションを選択する場合には、この選択文字を使用します。

例えば、データを表示する前にテンプレートを常に編集するには「Db2® View (表示)」パネルで、選択文字「A」を使用して「**テンプレートの編集**」を選択します。

Enter キーを押す前に、必須指定のオプションをすべて選択する必要があります。

関連する参照先

[Db2 \[View \(表示\)\] パネル ページ 639](#)

Db2® オブジェクト名の指定

以下に示す FM/Db2 機能のいずれかを使用する場合は、処理する Db2® 表またはビューの名前を、同じ方法で指定してください。

- View (表示) (オプション 1)
- Edit (編集) (オプション 2)
- Print (印刷) (オプション 3.1)
- Copy (コピー) (オプション 3.3)
- Import (インポート) (オプション 3.6)
- Export (エクスポート) (オプション 3.7)
- Create (作成) (オプション 3.8)
- プロトタイピング基本 (オプション 4.1)
- 「Browse (ブラウズ)」 (「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルでは B コマンド、または Db2® オブジェクトのリスト内のオブジェクトに対しては B 接頭部コマンド)

[図 15: 「Print Utility \(印刷ユーティリティ\)」パネル ページ 48](#) に、Db2® オブジェクトを指定するための入力フィールドが含まれている、典型的なパネルを示します。

図 15. 「Print Utility (印刷ユーティリティー)」 パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Print Utility

Db2 Object:
① Location . . . . . _____ ④ Database . . . . . (optional)
② Owner . . . . . DSN8810 + ⑤ Table space _____ (optional)
③ Name . . . . . EMP +

Row count . . . . . ALL _____ Number of rows to print

Db2 Template:
Data set name . . . . . _____
Member . . . . . _____

Processing Options:
Print Mode      Template usage      Enter "/", "A"lways to select
 ① 1. Table      ③ 1. Above           - Edit template
  2. Single      2. Previous         - Batch execution
                  3. Generate from table - Use uncommitted read
                  4. Generate/Replace  - Print HEX representation

Command ==>>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Expand      F5=Actions      F7=Backward
F8=Forward   F9=Swap       F10=Left     F11=Right     F12=Cancel
    
```

上記の各 FM/Db2 機能のパネルには、次の入力フィールドがあります。この入力フィールドは「Name (名前)」以外は任意指定です。

① Location (場所)

パネル表またはビューの場所。

処理する表またはビューが現在場所にある場合は、このフィールドはブランクのままにしてください。そうでない場合は、以下を入力してください。

- リモート位置の絶対パス名
- すべての使用可能なリモート位置を表示するためのアスタリスク (*)
- ワイルドカード文字を使用したパターン

アスタリスクを単独またはパターンで指定すると、FM/Db2 はその入力仕様と一致した位置を示す選択リストを表示します。希望する位置を選択するには、必要な項目に対して「s」を入力して Enter キーを押します。特定の Db2® カタログ表へのアクセスが FM/Db2 ユーザーに認可されていない場合、位置選択リストは使用できません。アクセスができない場合でも、正確なロケーション名を指定することで、リモート Db2® システムにアクセスできます。

このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

また、以下を使用して、Db2® システムの位置を指定することもできます。

- Db2® サブシステム ID。
- Db2® システムに対して定義された位置ニックネーム



注: 以下では、Db2® サブシステム ID または位置ニックネームのいずれかを使用することを代替の位置参照と呼びます。

これらの代替を使用できるようにするには、システム・プログラマーは、Db2® システムごとの FMN2SSDM マクロ定義 (FMN2POPT モジュール) に位置値と位置ニックネームを定義しておく必要があります。「Help (ヘルプ)」プルダウン・メニューから「**About Db2 (Db2 について)**」を選択することで、位置および位置ニックネームが定義されているかどうかを確認できます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFE2)                               Copy Utility

From Db2 Object:
-----
Db2 Connection Information -----
)
+
Db2 Subsystem . . . . : DFE2
SQLID . . . . . : PERTHAP
Description . . . . . : Db2 Version 12 - Development system
Release . . . . . : 0915
F FM/Db2 Plan names . : FMN2PLNA
                          : FMN2GENA
Attach facility . . . : CAF
P Auditing . . . . . : SAF-RULE CONTROLLED
Location . . . . . : QXPFD2DFE2
Location nickname . . : V10DEV
DECFLOAT Round mode : ROUND Half Even

F1=Help    F2=Split    F3=Exit    F4=Expand    F9=Swap    F12=Cancel

Command ===>
F1=Help    F2=Split    F3=Exit    F4=Expand    F7=Backward F8=Forward
F9=Swap    F10=Left    F11=Right   F12=CanCommand ===> D2SSCI

```

位置値が指定されている場合は、Db2® サブシステム ID (例えば、DFE2) を実際の位置名の代替として使用できます。位置および位置ニックネーム値が指定されている場合は、位置ニックネーム (例えば、V9DEV) を実際の位置名の代替として使用できます。

代替の位置参照の指定時にはワイルドカードを使用できません。代替の位置参照を指定する場合は、実際の位置は、FM/Db2 によって表示される位置参照 (つまり、File Manager/Db2 エディター・セッションで表示される Db2® オブジェクト名) に表示されます。同様に、Db2® バッチ・ジョブで指定された Db2® オブジェクト名は、実際の位置名です。File Manager/Db2 バッチ・ジョブで代替の位置参照を指定することはサポートされていません。

リモート位置にアクセスできるのは、ローカル Db2® サブシステムを定義している場合だけです。

② 所有者

表、ビュー、別名の所有者の許可ID

このフィールドを空白のままにしておくと、FM/Db2 は現行の SQL ID を使用します。そうでない場合には、所有者のフルネーム、所有者を突き合わせるためのアスタリスク (*)、あるいはワイルドカード文字を使用するパターンを入力してください。

オブジェクト名フィールドに同義語を指定するには、このフィールドを空白のままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「Table space (表スペース)」

「Database (データベース)」、 「Location (ロケーション)」 フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。



注: Db2® 別名は認識されます。 Db2® 同義語は認識されません。

③ 名前

Db2® オブジェクトの名前。

この入力フィールドは必須です。 Db2® オブジェクトの完全名、使用可能なオブジェクトの名前をすべて表示するためのアスタリスク、あるいはワイルドカード文字を使用するパターンを入力してください。

このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、所有者フィールドをブランク、現行の SQLID を含む総称名、または現行の SQLID にします。「表スペース」、「データベース」、「場所」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

④ データベース

選択を制限する必要のあるデータベースの名前。

選択を特定のデータベースに制限する必要がない場合には、このフィールドはブランクのままにしてください。 そうでない場合には、データベースの絶対パス名、すべてのデータベースを突き合わせるためのアスタリスク (*)、あるいはワイルドカード文字を使用するパターンを入力してください。

このフィールドに値を入力すると、同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

⑤ 表スペース

選択を制限する必要のある表スペースの名前。

選択を特定の表スペースに制限する必要がない場合には、このフィールドはブランクのままにしてください。 そうでない場合には、表スペースの絶対パス名、表スペースを突き合わせるためのアスタリスク (*)、あるいはワイルドカード文字を使用するためのパターンを入力してください。

このフィールドに値を入力すると、同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

上記の1つ以上の入力フィールド (「Owner (所有者)」、「Name (名前)」、「Database (データベース)」、「Table space (表スペース)」) にアスタリスク (*) またはパターンを指定すると、FM/Db2 は、これらのフィールドに入力したすべての選択基準に一致する Db2® 表およびビューが記載された選択リストを表示します。 選択リストには、前述の環境下の同義語項目も含まれる場合があります。

必要な表、ビュー、または同義語を選択するには、必要な項目の横にある選択列に「s」を入力してください。

例えば、「Owner (所有者)」入力フィールドに「_DB2」、「Name (名前)」入力フィールドに「*EMP*」、「Database (データベース)」入力フィールドに「FM*」を指定したとします。 FM/Db2 には Db2® 表およびビューの選択リストが表示されます。 各部の意味は以下のとおりです。

- 所有者の名前は長さが 5 文字で、最後の 3 文字は “Db2@” です。
- Db2@ 表またはビューの名前には文字「EMP」が含まれています。
- データベースの名前は「FM」で始まっています。

例えば、ビュー VEMP を選択するには、その項目の横にある選択列に「s」を入力します。

関連するタスク

[入力フィールドでのアスタリスク \(*\) またはパターンの使用 ページ 51](#)

関連する参照先

[\[Table/View/Alias Selection \(表/ビュー/別名選択\)\] パネル ページ 873](#)

[\[Db2 Location Selection \(位置選択\)\] パネル ページ 628](#)

入力フィールドでのアスタリスク (*) またはパターンの使用

FM/Db2 パネルの入力フィールドでは、アスタリスク (*) またはワイルドカードを以下のように使用できます。

- すべての値を突き合わせる場合は、アスタリスク (*) を単独で使用する。または
- パターンを突き合わせするオブジェクトをすべて選択する場合は、ワイルドカード文字を使用したパターンを使用する

いずれの場合も、FM/Db2 は選択リストを表示します。必要なリスト項目を選択するには、必要な項目に対して「s」を入力して Enter キーを押します。

次の文字を使用したパターンを指定することができます。

他の 1 つ以上のワイルドカード文字と組み合わせたアスタリスク (*)

nul文字または 1 文字以上のストリングを表します。パーセント記号 (%) と同じ働きをします。

パーセント記号 (%)

nul文字または 1 文字以上のストリングを表します。アスタリスク (*) と同じ働きをします。

'_' (下線)

任意の単一文字を表し、末尾ブランクを含みます。

その他の文字

入力フィールドに有効な、その他の任意の文字。

次の例は、以下のリストからの項目の選択で使用されるときに各種のパターンの働きを示します。

- AGE
- AGREE
- GUM
- IGLOO
- MAN

- MANE
- MANY
- MANAGE
- MANAGES

Pattern (パターン)

選択される項目

AGE

AGE、MANAGE、および MANAGES

MAN_

MAN、MANE、および MANY

MANAGE%

MANAGE および MANAGES

_G*

AGE、AGREE、および IGLOO

%G_

AGE、MANAGE、および MANAGES

SQLID の指定

「FM/Db2 Primary Option (基本オプション・メニュー)」パネルの **【SQLID】** フィールドに必要な値を入力することで、Db2® への接続の一部として使用されるように SQLID を指定することができます。デフォルトは、ユーザーの TSO ログオン ID です。

FM/Db2 が正常に Db2® システムに接続されるまで、SQLID 値を変更することはできません。

ユーザーの TSO ログオン ID 以外の値に SQLID 値を変更するには、権限が必要です。この権限が必要な場合は、Db2® システム管理者に連絡してください。

SQLID 基本コマンドを使用して、SQLID 値を動的に変更することもできます。

「Help (ヘルプ)」プルダウン・メニューから「Db2® About (について)」を選択することで、SQLID の現在の値を判別することができます。

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)
[SQLID 基本コマンド ページ 976](#)

データ・セットおよびメンバー名の指定

一部の FM/Db2 パネルでは、現行プロセスで使用したいデータ・セットを指定する必要があります。データ・セットが PDS、CA-Panvalet ライブラリー、または Library Management System Exit によってアクセスされるライブラリーである場合には、メンバー名も入力しなければなりません。これらのパネルをひとまとめにして、入力パネルと呼びます。

いずれかの入力パネルでデータ・セットを指定するには、以下のようにします。

1. **「Data set name (データ・セット名)」** フィールドに、完全修飾データ・セット名または名前パターンを入力します。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した **「Member (メンバー)」** フィールドは空でなければなりません。



注: コピーブックの場合、これは CA-Panvalet ライブラリーの名前、または Library Management System Exit によってアクセスされるライブラリーの名前にすることができます。

データ・セット名を引用符で囲まない場合は、ユーザー ID に対する TSO 接頭部が、高位修飾子として使用されません。

パターンを入力すると、入力パネルが処理されたときに、FM/Db2 はそのパターンに一致するデータ・セットのリストを表示します。

パターンには、単一文字を表すパーセント記号 (%) と、1 つの修飾子内の 1 つ以上の数の文字を表すアスタリスク (*) を含めることができます。2 つのアスタリスク (**) は任意の数の修飾子内の任意の数の文字を表します。

パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。

2. **「データ・セット名」** フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに、区分データ・セット (PDS) の名前、CA-Panvalet ライブラリーの名前、または Library Management System Exit を使用してアクセスされるライブラリーの名前を指定した場合は、**「Member (メンバー)」** フィールドに名前または名前パターンを入力してください。

メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と、次の 2 つの特殊パターン文字とで構成することができます。

アスタリスク (*)

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクがメンバー名のどこに表示されても構いません。例えば、*d* と入力すると、名前に「d」が含まれるデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。

パーセント記号 (%)

単一文字を表す置き換え文字。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、%**** と入力すると、名前の長さが 4 文字のデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。

以下のいずれかのアクションを実行する場合、つまり

- 括弧に入れたメンバー名または名前パターンを「データ・セット名」フィールドに組み込まずに、「メンバー」フィールドをブランクのままにするか「メンバー」フィールドにあるパターンを指定した場合
- 「Data set name (データ・セット名)」フィールドに小括弧で囲んだメンバー名パターンを含めて、「Member (メンバー)」フィールドをブランクのままにした場合

は、入力パネルが処理され、データ・セットが指定されるか選択されたときに、FM/Db2 はメンバー名リストを表示します。

3. カタログされていないデータ・セットの場合、データ・セットが入っているボリュームの通し番号を「Volume serial (ボリューム通し番号)」フィールドに入力します。
4. 残りのパネル固有のフィールドの入力を完了した後、Enter キーを押して、パネルの機能を処理します。

データ・セット名とメンバー名の両方が完全に指定されていれば、パネル・アクションは、その次のステージに進みます。

データ・セット名またはメンバー名に対してパターンを入力した場合、「Data Set Selection (データ・セット選択)」パネルが表示され、必要であればその後「Member Selection (メンバー選択)」パネルが表示されます。これらのパネルから選択を行うと、入力パネル・アクションはその次のステージに進みます。

5. 「Data Set Selection (データ・セット選択)」パネルが表示されたら、必要なデータ・セットの横にある「Sel」フィールドに s と入力して、データ・セットを選択します。このリストから、1 つの名前だけを選択できます。
6. 「Member Selection」パネルが表示されたときに、それぞれのメンバーの隣の「Sel」フィールドに「s」を入力することによって、メンバーを選択します。

このリストから、必要な数の名前を選択することができます。パネルが処理されるときに、リスト上の最初のメンバーが、関連機能で使用されます。機能が完了すると、リスト内の次のメンバーが使用されます。例えば、編集する複数のメンバーを選択すると、最初のメンバーが「Edit Session (編集セッション)」パネルに表示されます。このパネルを終了すると、選択されたすべてのメンバーが処理されるまで、次々とメンバーが表示されます。

データ・セット名パターンの例

以下の例では、USERID 高位修飾子のもとに以下のデータ・セットが存在することを想定しています。

```
USERID.FMN.DATA
USERID.FMN.TEMPLATES
USERID.COBOL.COPY
USERID.COBOL.SOURCE
USERID.PLI.COPY
USERID.PLI.SOURCE
USERID.MISC.DATA.BACKUP
USERID.WORK
```

例 1

次のパターン (単一アスタリスク) を入力します。

```
'USERID.*'
```

これは、USERID の後ろに 1 レベルの修飾子のみを持つ項目だけを表示します。

```
USERID.WORK
```

例 2

次のパターン (2 個のアスタリスク) を入力します。

```
'USERID.**'
```

USERID という高位修飾子を持つデータ・セットの完全なリストが表示されます。

例 3

次のパターンを入力します。

```
'USERID.*.%%%'
```

これは、次のリスト (3 つの修飾子から成り、3 レベル目の修飾子が正確に 4 文字から成るデータ・セットを含む) を表示します。

```
USERID.FMN.DATA
USERID.COBOL.COPY
USERID.PLI.COPY
```

メンバー名またはパターンの指定例

以下の例では、下記のメンバーが、FMNUSER.DATA という名前のデータ・セット内に存在するものと想定しています。

```
DATA1
FMNCDATA
FMNCTAM
FMNCTEM
FMNCTMP
NEWDATA
NEWSTUFF
TEMPA
TEMPB
```

例 1

入力パネルで次のように入力すると、

```

:
:  Data set name . . . . . FMNUSER.DATA
:  Member . . . . . -----
:

```

全メンバー名のリストが表示されます。

```
DATA1
FMNCDATA
FMNCTAM
FMNCTEM
FMNCTMP
NEWDATA
NEWSTUFF
TEMPA
TEMPB
```

例 2

入力パネルで次のように入力すると、

```
⋮  
Data set name . . . . . FMNUSER.DATA  
Member . . . . . FMNCT*  
⋮
```

メンバー名リストが表示されます。

```
FMNCTAM  
FMNCTEM  
FMNCTMP
```

例 3

入力パネルで次のように入力すると、

```
⋮  
Data set name . . . . . FMNUSER.DATA(NEWDATA)  
Member . . . . . _____  
⋮
```

データ・セット FMNUSER.DATA のメンバー NEWDATA の詳細が表示されます。

例 4

入力パネルで次のように入力すると、

```
⋮  
Data set name . . . . . FMNUSER.DATA(TEM*)  
Member . . . . . _____  
⋮
```

メンバー名リストが表示されます。

```
TEMPA  
TEMPB
```

例 5

入力パネルで次のように入力すると、

```
⋮  
Data set name . . . . . FMNUSER.DATA(*)  
Member . . . . . _____  
⋮
```

全メンバー名のリストが表示されます。

```
DATA1  
FMNCDATA  
FMNCTAM  
FMNCTEM  
FMNCTMP  
NEWDATA  
NEWSTUFF  
TEMPA  
TEMPB
```

関連する参照先

[「Copy Utility \("From"\) \(コピー・ユーティリティーの「元」\)」](#) パネル ページ 518

[「Copy Utility \("To"\) \(コピー・ユーティリティーの「宛先」\)」](#) パネル ページ 526

- 「Data Create Utility (データ作成ユーティリティー)」 パネル ページ 610
- Db2 「View (表示)」 パネル ページ 639
- Db2 「Browse (ブラウズ)」 パネル ページ 618
- 「Db2 Edit (編集)」 パネル ページ 622
- 「Export Utility ("To") (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」 パネル ページ 702
- 「Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 698
- 「Import Utility ("To") (インポート・ユーティリティーの「宛先」)」 パネル ページ 720
- 「Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 718
- 「Load from (ロード元)」 パネル ページ 730
- 「LOAD Utility - Using Templates (LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用)」 パネル ページ 735
- 「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティー (表))」の「To (宛先)」 パネル ページ 892
- 「Print Utility (印刷ユーティリティー)」 パネル ページ 760

実行時間が長い Db2® 照会の取り消し

大容量の Db2® データを処理しているときに、FM/Db2 が処理している FM/Db2 照会に関連した応答時間が非常に長い場合がしばしばあります。

以下の FM/Db2 ユーティリティーのいずれかを使用している場合は、アテンション割り込みキーを使用して照会を取り消すことができます。

- View (表示)
- Browse (参照)
- Edit (編集)
- Print (印刷)
- Copy (コピー)
- Import (インポート)
- Export (エクスポート)
- 作成
- SQL

Db2® の処理中にアテンション割り込みキーを押すと、現在の Db2® 機能が取り消されます。作業単位の開始後に行われた変更のうち、コミットされていない変更はすべて失われます。

ヘルプの使用

FM/Db2 は、2つのレベルのヘルプ情報を提供します。チュートリアル用ヘルプと、入力フィールド (および一部の出力フィールド) ではフィールド・レベル・ヘルプ情報です。チュートリアル用ヘルプはコンテキスト依存のヘルプ・システムであり、FM/Db2 パネルと其中で使用されるプロセスについての詳細説明を提供します。フィールド・レベル・ヘルプ情報は、現行フィールドの説明を提供します。さらに、すべてのエラー・メッセージにフルテキストの説明が関連付けられ、問題の原因を判別するのに役立ちます。

この節では、必要なヘルプ情報を見つける方法について説明します。

関連するタスク

- [チュートリアル用ヘルプへのアクセス ページ 58](#)
- [フィールド・レベル・ヘルプ情報の表示 ページ 60](#)
- [拡張書式でのエラー・メッセージの表示 ページ 61](#)

チュートリアル用ヘルプへのアクセス

チュートリアル用ヘルプ・システムは、コンテキスト依存と構造的な編成の両方で構成されます。コンテキスト依存のアクセス方式を使用して必要な情報を直接入手するか、または特定の場所でヘルプ・システムに入り、トピック情報について構造内をナビゲートすることができます。

コンテキスト依存のチュートリアル用ヘルプ・ページにアクセスするには、以下のようにします。

1. カーソルをコマンド行に置くか、またはパネル内のフィールド入力行の外の任意の場所に置きます。
2. 「Help」機能キー (F1) を押します。現行パネルに関連するチュートリアル用ヘルプ・ページが表示されます。

このようにしてチュートリアル用ヘルプにアクセスしたときに表示される最初のページは、開始したコンテキストに応じて、関連するサブトピックをリストしたメニューのあるメイン・トピック・ページである場合と、サブトピック・ページの場合があります。

3. チュートリアル用ヘルプ・ページをナビゲートして、必要な情報を見つけます (ナビゲーション・コマンドのリストは、下記を参照してください)。
4. 完了したら、「Exit」機能キー (F3) を押して、開始したパネルに戻ります。

チュートリアル用ヘルプ・システムは、FM/Db2 の「Primary Options menu (基本オプション・メニュー)」をベースにした、目次構造で編成されています。目次の中のそれぞれのエントリから、いくつかの関連するサブトピックを持つ、メイン・トピックに進みます。さらに、チュートリアル用ヘルプからの選択されたトピックを、主題ごとにアルファベット順にリストした索引があります。

チュートリアル用ヘルプの中の開始点を選択するには、以下のようにします。

1. パネル・アクション・バーから、「Help (ヘルプ)」プルダウン・メニューを選択します。
2. 必要なチュートリアル用ヘルプの入り口点のオプション番号を入力します。これらは、以下のとおりです。

1. Help for help (ヘルプのヘルプ)

チュートリアル用ヘルプ・システムのヘルプ・パネルを表示します。

2. Extended Help (拡張ヘルプ)

現行の FM/Db2 パネルに関連するチュートリアル用ヘルプ・パネルを表示します (FM/Db2 パネルから F1 を押すのと同じ)。「Primary Options menu (基本オプション・メニュー)」上では、これは、「Tutorial - Table of Contents (チュートリアル - 目次)」パネルになります。

3. Keys help (キー・ヘルプ)

現行の FM/Db2 パネル上でアクティブである機能キーについてのヘルプを提供するパネルを表示します。

4. Help index A-M (ヘルプ索引 A から M)

「A」から「M」で始まる主題のヘルプ索引を表示します。

5. Help index N-Z (ヘルプ索引 N から Z)

「N」から「Z」で始まる主題のヘルプ索引を表示します。

6. Tutorial (チュートリアル)

「Tutorial - Table of Contents (チュートリアル - 目次)」パネルを表示します。

7. About (製品情報)

ウィンドウに、FM/Db2 のバージョン、PTF レベル、および著作権情報を表示します。

8. About Db2® (概要)

ウィンドウに、Db2® サブシステム、Db2® のバージョンとリリースの情報、FM/Db2 プラン名、および監査オプションを表示します。



注: 監査オプションについて詳しくは、[SAF 規則で制御された監査 ページ 72](#)を参照してください。

9. News about FM/Db2 (関連ニュース)

現在の FM/Db2 のバージョン/リリースに関する一般情報を提供するパネルを表示します。

チュートリアル用ヘルプをナビゲートするには、いずれかのチュートリアル・ページで、次のコマンドをコマンド行に入力します。

BACK または B

直前に表示したページまで戻る場合

SKIP または S

現在のトピックをスキップして、次のトピックから続ける場合

UP または U

より高いレベルのトピックのリストを表示する場合

TOC または T

目次を表示する場合

INDEX または I

チュートリアル索引を表示する場合索引が表示されたら、「Right」機能キー (F11) および「Left」機能キー (F10) を使用してリストをスクロールして 1 つの主題にカーソルを置き、Enter キーを押してトピックを表示します。

代わりに、チュートリアルを表示中に以下のキーを使用することもできます。

Enter (Ctrl)

トピック内の次のページを表示する場合

Help (F1)

チュートリアル用ヘルプ・システム内のヘルプ解説ページ (つまり、チュートリアル用ヘルプを使用する方法を記述したページ) を表示する場合

End (F3)

チュートリアルを終了する場合

Up (F7)

より高いレベルのトピック・リストを表示する場合 (UP と入力する代わり)

Down (F8)

次のトピックにスキップする場合 (SKIP と入力する代わり)

Right (F11)

トピック内の次のページを表示する場合 (Enter キーを押す代わり)。

Left (F10)

トピック内の直前のページを表示する場合 (BACK と入力する代わり)



注: リストされたキーは、デフォルトのキー・マッピングです。キー・マッピングはカスタマイズすることができるので、ご使用のシステムでは、これらのキーが異なっている場合があります。

関連する参照先

[\[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)\] パネル ページ 756](#)

フィールド・レベル・ヘルプ情報の表示

File Manager/Db2 パネルのフィールドに関するフィールド・レベル・ヘルプ情報を表示するには、以下のようにします。

1. カーソルをフィールド入力行に置きます。
2. 「Help」機能キー (F1) を押します。フィールド・レベル・ヘルプ情報がポップアップ・ウィンドウで表示されます。

さらに情報が必要な場合は、「Extended Help」機能キー (F5) を押して、現在のパネルのチュートリアル用ヘルプ・ページにアクセスします。

フィールド情報ウィンドウが表示されているときに「Help (ヘルプ)」を押すと、チュートリアル用ヘルプ・システム内の「ヘルプ解説」ページ (つまり、チュートリアル用ヘルプの使用方法を説明するページ) が表示されます。

3. メッセージ、または関連するチュートリアル用ヘルプ・ページの確認が終了したら、「Exit」機能キー (F3) を押して、開始パネルに戻ります。

例えば、[図 16: 「PAGESIZE」フィールドについてのフィールド・レベル・ヘルプ情報 ページ 61](#) は、「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルの「PAGESIZE」フィールドから F1 が押されたときに表示されるメッセージを示しています。

図 16. 「PAGESIZE」フィールドについてのフィールド・レベル・ヘルプ情報

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFE2)          Set Print Processing Options

Set processing options as desired and enter EXIT (F3) to save your changes.
Enter RESET to restore installation defaults.

Print Options:
PRINTO _____ Set Page Size _____ , TERMINAL or REXX
PRINTD _____
PRINTL _____
PAGESI _____ Range: 1-999
PRTRRA _____ Default: 60, unless changed in your
PRTDIS _____ File Manager installation.
PAGESK _____ Specifies the number of lines per
WIDEPR _____ page on any File Manager print
output.

Command = F1=Help F2=Split F3=Exit
          F4=Resize F5=Ex-help v F6=Reset F7=Backward
          F8=Forwa

```

拡張書式でのエラー・メッセージの表示

FM/Db2 がパネルを処理しようとしてエラーが発生すると、短いテキスト・メッセージが画面の右上隅に表示されます。[図 17: 短いテキスト・メッセージを表示する「Db2 View \(表示\)」 ページ 61](#) は、FM/Db2 が指定された Db2® オブジェクトを見つけられない場合の例を示しています。

図 17. 短いテキスト・メッセージを表示する「Db2® View (表示)」

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFE2)          Db2 View          Object not found (DFE2)

Specify the Db2 Object:
Location . . . . . _____ Database . . _____ (optional)
Owner . . . . . DSN8910 + Table space _____ (optional)
Name . . . . . EMPX _____ +

Row count . . . . . ALL _____

Template:
Data set name . . . 'FMNUSER.FMSKELS' _____
Member . . . . . _____

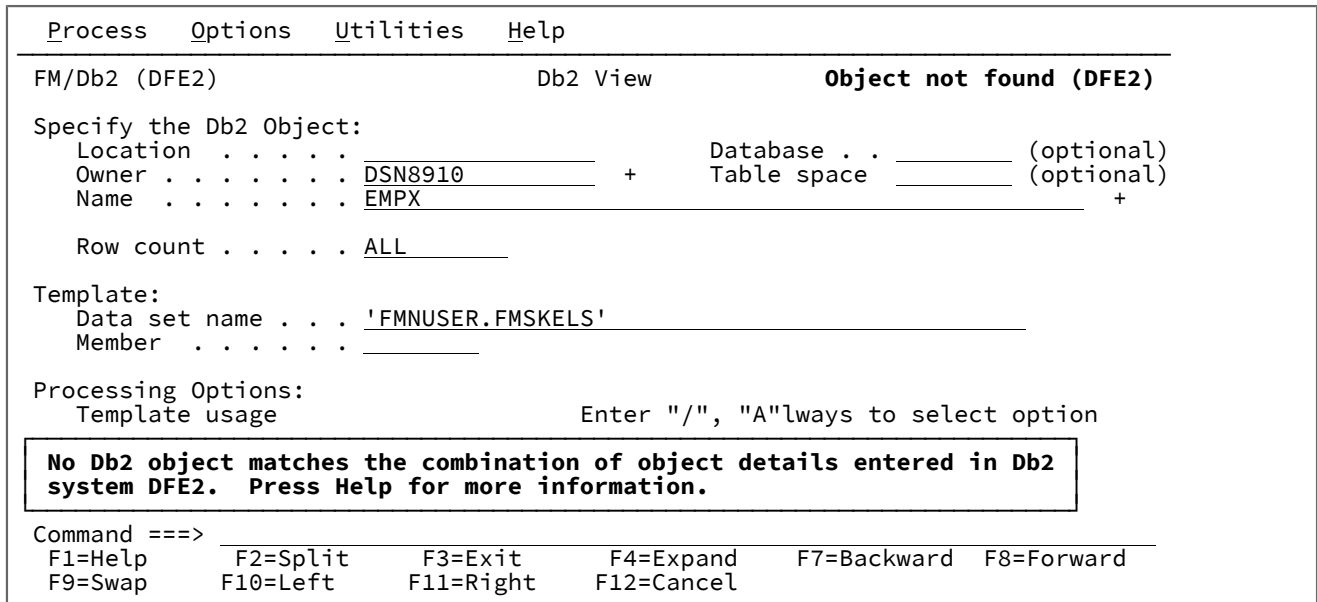
Processing Options:
Template usage          Enter "/", "A" always to select option
 3 1. Above             _ Edit options
   2. Previous          _ Edit template
   3. Generate from table _ Re-edit template
   4. Generate/Replace

Command ==>
F1=Help   F2=Split   F3=Exit   F4=Expand   F7=Backward   F8=Forward
F9=Swap   F10=Left    F11=Right F12=Cancel

```

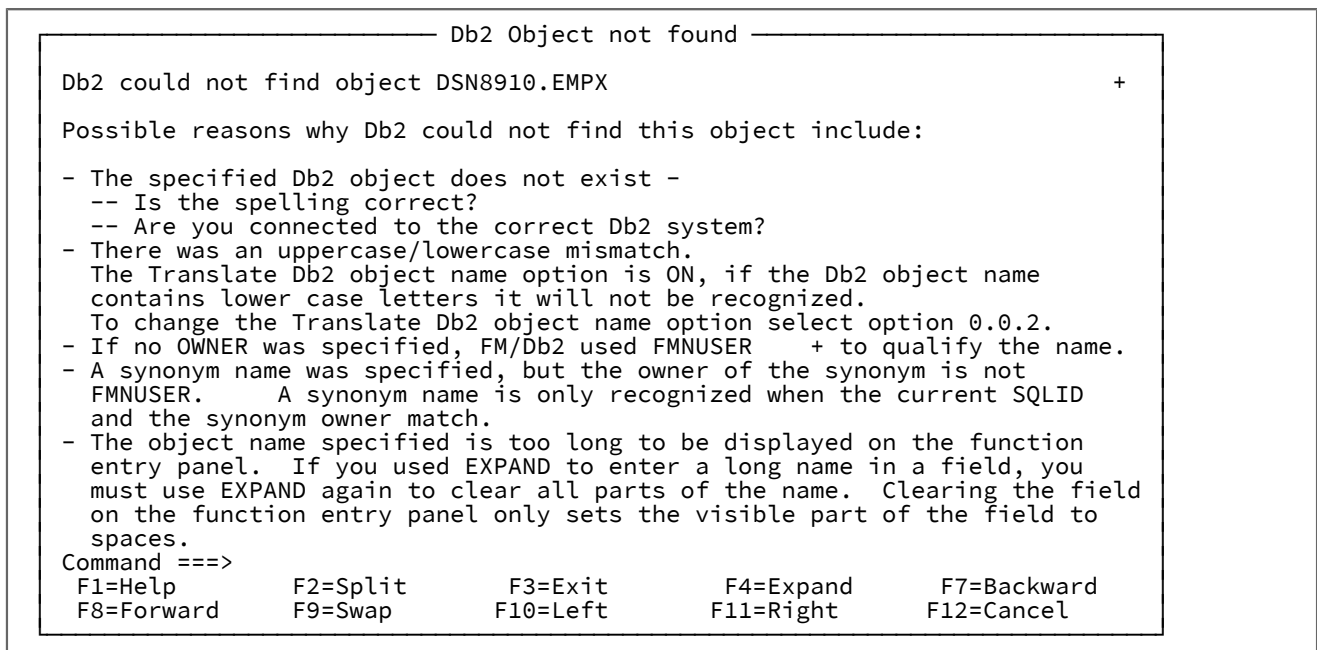
このメッセージが表示されている間に「Help」機能キー (F1) を押すと、[図 18: 拡張メッセージを表示する「Db2 View \(表示\)」](#) ページ 62 に示すように、画面の下部に拡張テキストのエラー・メッセージが表示されます。

図 18. 拡張メッセージを表示する「Db2® View (表示)」



[図 18: 拡張メッセージを表示する「Db2 View \(表示\)」](#) ページ 62 に示したメッセージなど、一部のメッセージには、長メッセージ・テキストの「Press Help for more information. (詳細については「Help (ヘルプ)」を押してください。)」があります。この場合は、長メッセージが表示されたときに「Help」機能キー (F1) を (再度) 押して、[図 19: 長いエラー・メッセージに関する追加情報を表示する「Help \(ヘルプ\)」パネル](#) ページ 62 に示すような追加情報が示されたヘルプ・パネルを表示します。

図 19. 長いエラー・メッセージに関する追加情報を表示する「Help (ヘルプ)」パネル



デフォルト処理オプションの設定

File Manager によって実行される処理オプションの多くでは、FM/Db2アプリケーション内から設定可能なデフォルト値が使用されます。これらの値を調整することによって、その動作が要件に最適になるように、FM/Db2 をカスタマイズできます。

最初に FM/Db2 を使用する場合には、おそらく、処理オプションのデフォルト値 (インストール時に設定したもの) で十分です。FM/Db2 の操作に慣れてきたら、これらのオプションの一部をニーズに合うように変更することを選択できます。

関連する処理オプション・パネル (例えば、[FM/Db2 System Options (システム・オプション)] パネル、[Editor Options (編集オプション)] パネルなど) にアクセスすることによって、これらのデフォルト値を更新できます。変更内容は、以後の FM/Db2 セッションで使用できるように、ISPF ユーザー・プロファイルに保管されます。これは、このオプションをもう一度変更するまで有効となります。

処理オプション・パネルにアクセスするには、以下の方法のいずれかを使用します。

- FM/Db2 の [Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)] パネルから次を行います。

1. オプション 0 (「設定」) を選択します。[Set Processing Options (処理オプションの設定)] パネルが表示されます。

図 20. [Set Processing Options (処理オプションの設定)] メニュー

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Set Processing Options	
0	System	System options	
1	View	View options	
2	Edit	Edit options	
3	Utilities		
3.3	Copy	Copy utility options	
3.4	Object List	Object list utility options	
3.7	Export	Export utility options	
3.L	Load	Db2 LOAD utility options	
3.U1	LISTDEF	Db2 Utility LISTDEF options	
3.U0	OPTIONS	Db2 Utility OPTIONS options	
3.UT	TEMPLATE	Db2 Utility TEMPLATE options	
3.UU	Unload	Db2 Unload utility options	
Command ==>			
F1=Help		F2=Split	F3=Exit
F12=Cancel		F7=Backward	F8=Forward
		F9=Swap	

2. メニューから、必要な処理オプション・タイプを選択します。

例えば、現在の FM/Db2 システム・オプションを表示するには、コマンド行で 0.2 と入力し、Enter キーを押して [FM/Db2 System Options (1 of 3) (システム・オプション (3 の 1))] パネルを表示します。



注: [Set Processing Options (処理オプションの設定)] パネルに表示されるパス (0.2 や 3.7 など) を入力すれば、希望のオプション・パネルに直接ナビゲートできます。また、システムとユーティリ



ティー・オプションの場合は、0 または 3 を入力して、最初に「Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)」または「Set Utility Processing Options (ユーティリティー処理オプションの設定)」パネルをそれぞれに表示し、必要なオプションを選択します。

- いずれかの FM/Db2 パネルから、「Options (オプション)」プルダウン・メニューを使用して、必要な処理オプション・タイプを選択します。

図 21. 「Options (オプション)」プルダウン・メニュー

```

FM/Db2 (
0  Setti
1  View
2  Edit
3  Utili
4  SQL
5  Db2I
6  Comma
X  Exit

  1. Print settings
  2. FM/Db2 system options
  3. Job card specifications
  4. Compiler language selection
  5. COBOL compiler specifications
  6. HLASM compiler specifications
  7. PL/I compiler specifications
  8. Temporary Data Set Allocations
  9. Output Data Set Allocations
 10. ISPF settings
 11. Editor options
 12. Copy utility options
 13. Object list utility options
 14. Export utility options
 15. Db2 LOAD utility options
 16. Db2 Utility LISTDEF options
 17. Db2 Utility OPTIONS options
 18. Db2 Utility TEMPLATE options
 19. Db2 Unload utility options

User ID . . : FMNUSER
System ID . : FMD2
Appl ID . . : FMN2
Version . . : 14.1.19
Terminal . . : 3278
Screen . . . : 1
Date . . . . : 2018/11/04
Time . . . . : 14:54

Db2 SSID . . DFE2
SQL ID . . . : FMNUSER  +

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward   F9=Swap
F12=Cancel
    
```

オプションの処理タイプを選択すると、File Manager はそれらのオプションおよびその現行値がリストされているパネルを表示します。これらのオプション・パネルには、すべて以下の注が適用されます。

- オプションの値を変更するには、その現行値の上から重ねて入力します。
- 変更したオプションを保管してパネルを終了するには、「Exit」機能キー (F3) を押します。
- 変更内容を保管せずにパネルを終了するには、「Cancel」機能キー (F12) を押します。
- これらのパネルのオプションは、FM/Db2 パネルの動作にしか影響を与えません。

関連するタスク

[アクション・バーからの項目の選択 ページ 40](#)

関連する参照先

[「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」パネル ページ 824](#)

[「Set System Processing Options \(システム処理オプションの設定\)」パネル ページ 827](#)

[「Set Utility Options \(ユーティリティー・オプションの設定\)」パネル ページ 833](#)

System Options (option 0) (システム・オプション (オプション 0))

システム・オプションによって、「Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)」パネルを表示します。そのパネルでその後のシステム・オプション・パネルを選択および表示できます。

関連する参照先

- [「Set System Processing Options \(システム処理オプションの設定\)」 パネル ページ 827](#)
- [「Set Print Processing Options \(印刷処理オプションの設定\)」 パネル ページ 821](#)
- [「Systems Options \(1 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 1\)\)」 パネル ページ 847](#)
- [「Set Batch Job Card Information \(バッチ・ジョブ・カード情報の設定\)」 パネル ページ 813](#)
- [「Compiler Language Selection \(コンパイラ言語の選択\)」 パネル ページ 513](#)
- [「Set COBOL Processing Options \(COBOL 処理オプションの設定\)」 パネル ページ 814](#)
- [「Set PL/I Processing Options \(PL/I 処理オプションの設定\)」 パネル ページ 820](#)
- [「Set Temporary Data Set Allocation Options \(一時データ・セット割り振りオプション設定\)」 パネル ページ 830](#)
- [「Set Output Data Set Allocation Options \(出力データ・セット割り振りオプション設定\)」 パネル ページ 818](#)
- [「Set Trace options \(トレース・オプションの設定\)」 パネル ページ 831](#)
- [「ISPF Settings \(ISPF 設定\)」 パネル ページ 727](#)

Print settings (option 0.1) (印刷設定 (オプション 0.1))

「Print settings (印刷設定)」 オプションは、印刷出力の宛先および使用する ページ・フォーマットなどを制御します。

関連するタスク

[Db2 表の内容の印刷 ページ 337](#)

関連する参照先

[「Set Print Processing Options \(印刷処理オプションの設定\)」 パネル ページ 821](#)

FM/Db2 システム・オプション (オプション 0.2)

FM/Db2 システム・オプションは、Db2® オブジェクト名と入力 SQL ステートメントの大文字への変換、SQL ID での二重引用符の使用、および TIME 列の外部フォーマットなどを制御します。

関連する参照先

- [「Systems Options \(1 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 1\)\)」 パネル ページ 847](#)
- [「Systems Options \(2 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 2\)\)」 パネル ページ 850](#)
- [「Systems Options \(3 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 3\)\)」 パネル ページ 852](#)

Job card specifications (option 0.3)(ジョブ・カード仕様 (オプション 0.3))

「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」 パネルでは、バッチ・ジョブ実行依頼の JCL の生成に使用されるバッチ・ジョブ・カード情報を指定できます。「バッチ・ジョブ・カード情報」 パネルは、この情報を入力できる複数の空白行 (「**Batch Submission Job Statement Information (バッチ実行依頼ジョブ・ステートメント情報)**」) を提供します。

FM/Db2 では、非ブランク行は JCL ジョブ・カードの定義と見なされ、これらの行から情報が生成された JCL にコピーされます。すべての行がブランクの場合には、JCL 生成プロセスは、システム変数からの情報を使用して基本ジョブ・カードを生成します。

関連する参照先

[\[Set Batch Job Card Information \(バッチ・ジョブ・カード情報の設定\)\] パネル ページ 813](#)

コンパイラ言語の選択 (オプション 0.4)

「Compiler language selection (コンパイラ言語の選択)」オプションにより、FM/Db2 のインポートおよびエクスポートのユーティリティー用に COBOL または PL/I コピーブックから テンプレートを生成するために、どのコンパイラを使用するかを選択できます。

関連するタスク

[FM/Db2 がコピーブックをテンプレートにコンパイルする方法 ページ 80](#)

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

関連する参照先

[\[Compiler Language Selection \(コンパイラ言語の選択\)\] パネル ページ 513](#)

COBOL compiler specifications (option 0.5) (COBOL コンパイラ仕様 (オプション 0.5))

「COBOL compiler specifications (COBOL コンパイラ仕様)」は、FM/Db2 のインポートおよびエクスポートのユーティリティーで使用される、COBOL コピーブックからのテンプレートを生成するために、COBOL コンパイラによって使用されるさまざまなオプションを制御します。

関連するタスク

[FM/Db2 がコピーブックをテンプレートにコンパイルする方法 ページ 80](#)

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

関連する参照先

[\[Set COBOL Processing Options \(COBOL 処理オプションの設定\)\] パネル ページ 814](#)

HLASM compiler specifications (option 0.6) (HLASM コンパイラ仕様 (オプション 0.6))

「HLASM compiler specifications (HLASM コンパイラ仕様)」は、FM/Db2 のインポートおよびエクスポートのユーティリティーで使用される、HLASM コピーブックからのテンプレートを生成するために、HLASM コンパイラによって使用されるさまざまなオプションを制御します。

関連するタスク

[FM/Db2 がコピーブックをテンプレートにコンパイルする方法 ページ 80](#)
[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)
[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

関連する参照先

[\[Set HLASM Processing Options \(HLASM 処理オプションの設定\)\] パネル ページ 816](#)

PL/I compiler specifications (option 0.7) (PL/I コンパイラ仕様 (オプション 0.7))

「PL/I compiler specifications (PL/I コンパイラ仕様)」は、FM/Db2 のインポートおよびエクスポートのユーティリティで使用される、PL/I コピーブックからのテンプレートを生成するために、PL/I コンパイラによって使用されるさまざまなオプションを制御します。

関連するタスク

[FM/Db2 がコピーブックをテンプレートにコンパイルする方法 ページ 80](#)
[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)
[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

関連する参照先

[\[Set PL/I Processing Options \(PL/I 処理オプションの設定\)\] パネル ページ 820](#)

Temporary Data Set Allocations (一時データ・セット割り振り) (オプション 0.8)

「Temporary Data Set Allocations (一時データ・セット割り振り)」では、一時データ・セットを割り振るために UNIT、DATA CLASS、STORAGE CLASS、および MANAGEMENT CLASS 名を指定できます。

関連する参照先

[\[Set Temporary Data Set Allocation Options \(一時データ・セット割り振りオプション設定\)\] パネル ページ 830](#)

Output Data Set Allocations (出力データ・セット割り振り) (オプション 0.9)

「Output Data Set Allocations (出力データ・セット割り振り)」では、出力データ・セットを割り振るために UNIT、DATA CLASS、STORAGE CLASS、および MANAGEMENT CLASS 名を指定できます。

関連する参照先

[\[Set Output Data Set Allocation Options \(出力データ・セット割り振りオプション設定\)\] パネル ページ 818](#)

トレース・オプション (オプション 0.10)

「Trace (トレース)」オプションによって、「[Set Trace options (トレース・オプションの設定)]」パネルが表示されます。

関連する参照先

[\[Set Trace options \(トレース・オプションの設定\)\] パネル ページ 831](#)

ISPF settings (option 0.11) (ISPF 設定 (オプション 0.11))

「ISPF settings (ISPF 設定)」オプションは、「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネルを表示します。

関連する参照先

[\[ISPF Settings \(ISPF 設定\)\] パネル ページ 727](#)

View options (表示オプション) と Edit options (編集オプション) (オプション 1 と 2)

「View options (表示オプション)」と「Edit options (編集オプション)」(これらのどちらのオプションでも、最初の「Editor Options (編集オプション)」パネルが表示されます) は、表示または編集時にデータを表示する形式を設定するために使用する、さまざまなオプションを制御します。



注: データの表示または編集中に、「Options (オプション)」プルダウン・メニューを使用してこれらのオプションを変更すると、その変更は次回の FM/Db2 エディター・セッションまで有効になりません。現行 FM/Db2 エディター・セッションの動作のみを一時的に変更するには、「Db2® View (表示)」パネルまたは「Db2® Edit (編集)」パネルで、「Edit options (編集オプション)」オプションを使用します。

関連するタスク

[Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)

[現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)

関連する参照先

[\[Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)\] パネル ページ 651](#)

Utilities (option 3) (ユーティリティー (オプション 3))

ユーティリティーによって、「Set Utility Processing Options (ユーティリティー処理オプションの設定)」パネルを表示します。そのパネルでその後のユーティリティー・オプション・パネルを選択および表示できます。

関連する参照先

[\[Set Utility Options \(ユーティリティー・オプションの設定\)\] パネル ページ 833](#)

[\[Copy Options \(コピー・オプション\)\] パネル ページ 515](#)

[\[Export Options \(1 of 3\) \(エクスポート・オプション \(3 の 1\)\)\] パネル ページ 691](#)

[\[LOAD Utility Options \(LOAD ユーティリティー・オプション\)\] パネル ページ 737](#)

[\[LISTDEF Options \(LISTDEF オプション\)\] パネル ページ 728](#)

[\[OPTIONS Options \(OPTIONS オプション\)\] パネル ページ 749](#)

[\[TEMPLATE Options \(1 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 1\)\)\]](#) パネル ページ 877

[\[UNLOAD Options \(UNLOAD オプション\)\]](#) パネル ページ 885

Print utility options (option 3.1) (印刷ユーティリティー・オプション (オプション 3.1))

「Print utility options (印刷ユーティリティー・オプション)」は、印刷モード (表または単一、ヌル列標識文字、バッチ実行、コミットされていない読み取り、16 進表記など) などを制御します。

関連するタスク

[Db2 表の内容の印刷 ページ 337](#)

関連する参照先

[\[Print Utility Options \(印刷ユーティリティー・オプション\)\]](#) パネル ページ 758

Copy utility options (option 3.3) (コピー・ユーティリティー・オプション (オプション 3.3))

「Copy utility options (コピー・ユーティリティー・オプション)」は、Db2® 表の間でデータをコピーするときの、並行性、表ロック、および複写キー処理を制御します。

関連するタスク

[ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)

関連する参照先

[\[Copy Options \(コピー・オプション\)\]](#) パネル ページ 515

Object List Options (option 3.4) (オブジェクト・リスト・オプション (オプション 3.4))

「Object List Utility Options (オブジェクト・リスト・ユーティリティー・オプション)」は、以下のユーティリティー機能で作成されるカタログ表表示の動作に影響を及ぼします。

- Object List Utility (3.4) (オブジェクト・リスト・ユーティリティー (3.4))
- Manage Db2® Privileges (3.5) (特権の管理 (3.5))
- Explain Utilities (4.5) (エクスプレン・ユーティリティー (4.5))

関連する参照先

[\[Object List Options \(1 of 2\) \(オブジェクト・リスト・オプション \(2 の 1\)\)\]](#) パネル ページ 741

[\[Object List Options \(2 of 2\) \(オブジェクト・リスト・オプション \(2 の 2\)\)\]](#) パネル ページ 745

Export utility options (option 3.7) (エクスポート・ユーティリティー・オプション (オプション 3.7))

「Export utility options (エクスポート・ユーティリティー・オプション)」によって、「Export」ユーティリティーが作動する方法を調整できます。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

関連する参照先

[「Export Options \(1 of 3\) \(エクスポート・オプション \(3 の 1\)\)」 パネル ページ 691](#)

[「Export Options \(2 of 3\) \(エクスポート・オプション \(3 の 2\)\)」 パネル ページ 694](#)

[「Export Options \(3 of 3\) \(エクスポート・オプション \(3 の 3\)\)」 パネル ページ 696](#)

Db2® LOAD utility options (option 3.L) (LOAD ユーティリティー・オプション (オプション 3.L))

「Load utility options (LOAD ユーティリティー・オプション)」は、Db2® LOAD ユーティリティー用に FM/Db2 が JCL を生成する方法を制御します。

関連するタスク

[LOAD ユーティリティー ページ 367](#)

関連する参照先

[「LOAD Utility Options \(LOAD ユーティリティー・オプション\)」 パネル ページ 737](#)

Db2® Utility LISTDEF options (option 3.UL) (ユーティリティー LISTDEF オプション (オプション 3.UL))

「Listdef」ユーティリティー・オプションは、「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」パネルを表示します。

関連するタスク

[Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)

関連する参照先

[「LISTDEF Options \(LISTDEF オプション\)」 パネル ページ 728](#)

Db2® Utility OPTIONS options (option 3.UO) (ユーティリティー OPTIONS オプション (オプション 3.UO))

「Option (オプション)」ユーティリティー・オプションは、「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネルを表示します。

関連するタスク

[Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)

関連する参照先

[「OPTIONS Options \(OPTIONS オプション\)」パネル ページ 749](#)

Db2® ユーティリティー TEMPLATE オプション (オプション 3.UT)

「Template (テンプレート)」ユーティリティー・オプションは、「TEMPLATE Options (TEMPLATE オプション)」パネルを表示します。

関連するタスク

[Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)

関連する参照先

[「TEMPLATE Options \(1 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 1\)\)」パネル ページ 877](#)

[「TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)」パネル ページ 880](#)

Db2® アンロード・ユーティリティー・オプション (オプション 3.UU)

「Unload (アンロード)」ユーティリティー・オプションは、「Unload Options (アンロード・オプション)」パネルを表示します。

「Unload (アンロード)」ユーティリティー・オプションは、「Utilities (ユーティリティー)」(3.9)の LOAD ユーティリティーがデータ転送に使用されているときに適用されます。

関連するタスク

[Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)

[UNLOAD ユーティリティー ページ 391](#)

関連する参照先

[「UNLOAD Options \(UNLOAD オプション\)」パネル ページ 885](#)

DBCS 文字の表示または編集

DBCS 対応の端末があり、FM/Db2 で DBCS 文字を表示または編集したい場合は、「ISPF Settings (ISPF 設定)」に、これらの文字をサポートする端末タイプを必ず指定する必要があります。

ISPF に端末タイプを指定するには、以下のようにします。

1. FM/Db2 を終了して、z/OS® の「Primary Options Menu (基本オプション・メニュー)」パネルに戻ります。

FM/Db2 の実行中に ISPF 端末タイプを変更することはできますが、その変更は、次回に FM/Db2 が起動されるまで反映されません。

2. オプション「0. Settings (0. 設定)」を選択します。「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネルが表示されます。

図 22. 「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネル

```

Log/List  Function keys  Colors  Environ  Workstation  Identifier  Help
-----
                                ISPF Settings
                                More:  -
- Session Manager mode          Command delimiter . ;
/ Jump from leader dots
/ Edit PRINTDS Command
/ Always show split line
- Enable EURO sign

Terminal Characteristics
Screen format  1  1. Data    2. Std    3. Max    4. Part

Terminal Type  3
                1. 3277    2. 3277A  3. 3278   4. 3278A
                5. 3290A  6. 3278T  7. 3278CF  8. 3277KN
                9. 3278KN 10. 3278AR 11. 3278CY 12. 3278HN
                13. 3278H0 14. 3278IS 15. 3278L2 16. BE163
                17. BE190 18. 3278TH 19. 3278CU 20. DEU78
                21. DEU78A 22. DEU90A 23. SW116 24. SW131
                25. SW500

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward F8=Forward  F9=Swap
F10=Actions  F12=Cancel
    
```

3. 「Terminal Type (端末タイプ)」のリストから 3277KN または 3278KN のいずれかを選択します。「Terminal Type (端末タイプ)」のリストを見つけるために、このパネルのスクロールダウンが必要な場合があります。
4. 「Exit (終了)」(F3) を押して、選択を保管し、z/OS® の「Primary Options Menu (基本オプション・メニュー)」パネルに戻ります。
5. FM/Db2 を再始動します。

関連するタスク

[FM/Db2 の使用を開始 ページ 29](#)

[FM/Db2 の終了 ページ 31](#)

SAF 規則で制御された監査

File Manager/Db2 セッション中に実施される監査の方法については、ご使用のシステムの監査要件に応じて、SAF ルールによって決定されることになります。

SAF 規則で制御された監査が有効である場合の判別

「Help (ヘルプ)」プルダウン・メニューで「**About Db2® (概要)**」を選択することで、SAF 規則で制御された監査が有効であるかどうかを判別することができます。

- SAF 規則で制御された監査が有効になっている場合、「**AboutDb2®(概要)**」ポップアップ・パネルの「**Auditing (監査)**」行に「SAF-RULE CONTROLLED (SAF 規則制御)」と表示されます。
- SAF 規則で制御された監査がアクティブで、監査が実行されない場合、監査が禁止されていることを示すメッセージが表示されます。
- SAF 規則で制御された監査がアクティブで、監査が実行される可能性のある場合、SAF 規則で制御された監査がアクティブであるということのみ、メッセージで表示されます。



注: 監査が実行されるかどうかに関する最終的な決定は FM/Db2 機能と、FM/Db2 機能によってアクセスされる Db2® オブジェクト名、SQL ステートメント、または Db2® コマンドに定義された該当する SAF XFACILIT 規則によって決まります。

監査のための SAF ルール

監査が SAF ルールによって決まる場合:

- 監査ログ・データ・セットまたは SMF、あるいはそれらの両方を宛先にして、FM/Db2 によってアクセスされる各 Db2® システムごとに個別に監査を指定することができます。
- SQL ステートメントの実行を許可するすべての FM/Db2 機能は監査の対象になります。ただし、FM/Db2 の内部プロセス用の Db2® カタログ・テーブルへのアクセスに使用される SQL ステートメントは例外です。
- SAF 規則は、「**Create audit trail (*) (監査証跡の作成 (*))**」オプションが FM/Db2 パネルに表示される場合と表示される場所を制御します。「(*)」が「**Create audit trail (監査証跡の作成)**」オプションに付加されている場合は、監査が SAF の制御下にあることを示しています。

Db2® オブジェクトに適用する選択ステートメントの場合、SAF 規則を Db2® オブジェクト名レベルで指定して、READ または UPDATE、あるいは両方のタイプの操作に対して監査を行えるようにすることができます。UPDATE 操作には、INSERT、DELETE、および UPDATE などの Db2® データを変更するすべての SQL ステートメントが含まれます。

SAF ルール制御による監査が無効な場合

SAF 規則で制御された監査が有効ではない場合 (つまり、FMN2POPT での設定によって監査が制御されている場合)、

「**Create audit trail (監査証跡の作成)**」オプションが最初のグローバル編集オプション・パネルに表示されます。表示される値は、現在の動作を反映します。最初のローカル編集オプション・パネルを表示すると、「**Create audit trail (監査証跡の作成)**」オプションは「editor function entry (エディター機能入力)」パネルに表示されるため、そのオプション・パネルには表示されません。

SAF 規則で制御された監査が有効であり、監査が行われない場合

SAF 規則で制御された監査が有効であるときに、Db2® システムに対して監査が行われない場合、「**Create audit trail (*) (監査証跡の作成 (*))**」オプションは、「editor function entry (エディター機能入力)」パネル、または最初の「editor options (編集オプション)」パネルのいずれにも表示されません。

SAF ルール制御による監査が有効で、監査可能な場合

SAF 規則で制御された監査が有効であるときに、Db2® システムに対して監査が行われる可能性のある場合、監査ログを作成するかどうかに関する実際の決定は、処理される Db2® オブジェクト名によって決まります。

このため、「editor function entry (エディター機能入力)」パネルで Enter (キー) を押すと、現在の編集タイプ (参照または編集) と Db2® オブジェクト名に対応して、監査を実行すべきかどうかを確認されます。

「**Create audit trail (*) (監査証跡の作成 (*))**」オプションが適切に設定されている場合 (つまり、関連する SAF 規則に指定されているとおりに監査要件と一致する場合)、処理は続行し、データが表示され、選択したオプションに従って、監査レコードの書き込みが実行されるか、もしくは実行されません。

「**Create audit trail (*) (監査証跡の作成 (*))**」オプションを選択していない場合に、監査が必要なときは、監査が必要であることを示すメッセージとともに機能入力パネルがもう一度表示されます。監査オプションを選択しなければ、オブジェクトを処理することはできません。

「**Create audit trail (*) (監査証跡の作成 (*))**」オプションを選択した場合に、監査が必要ではないときは、監査が必要ではないことを示すメッセージとともに機能入力パネルがもう一度表示されます。監査オプションを選択解除しなければ、オブジェクトを処理することはできません。

前述のシナリオでは両方とも、ユーザーが、対象の Db2® オブジェクトに対する監査制御アクセス権限を持っていないことを前提としていることに注意してください。Db2® オブジェクトに対する制御レベルの監査アクセス権限を持っている場合は、「**Create audit trail (*) (監査証跡の作成 (*))**」オプションの現在の値によって、監査レコードが書き込まれるかどうかが決まります。

関連する参照先

[「Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)」パネル ページ 651](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」パネル ページ 622](#)

[Db2 「View \(表示\)」パネル ページ 639](#)

第4章. テンプレートの処理

FM/Db2 は、テンプレートを使用して、データの定様式ビューを提供し、ユーザーが、処理している表の列およびデータ・タイプに従ってデータを表示、編集、および操作できるようにします。

最初に、FM/Db2 は Db2® カタログ表からテンプレートを生成します。テンプレートを保管した後、FM/Db2 を使用して、そのテンプレートを拡張できます。

以下のセクションでは、FM/Db2 でテンプレートを使用する方法について説明します。

テンプレートの Db2® オブジェクトとの関連付け

File Manager/Db2 パネルで既存のテンプレートを使用するには、「Template (テンプレート)」の「**Data set name (データ・セット名)**」入力フィールド(およびオプションで、「Template (テンプレート)」の「**Member (メンバー)**」入力フィールド)に、テンプレートの名前を指定してから、「**Template usage (テンプレートの使用法)**」入力フィールドで、オプション 1 (「Above (上の指定)」) を選択します。

```
Template:
Data set name . . . FMUSER.TEMPLATE
Member . . . . . SALARIES

Processing Options:
Template usage          Enter "/", "A"lways to select option
 1 1. Above             - Edit options
   2. Previous          - Edit template
   3. Generate from table - Re-edit template
   4. Generate/Replace
```

前に入力 Db2® オブジェクトでテンプレートを使用したことがある場合には、オプション 2 (「Previous (直前の指定)」) を選択することができます。「Previous (直前の指定)」オプションは、「Template (テンプレート)」フィールドの内容を無視して、代わりに入力データ・セットと関連した、最後に使用したテンプレートを使用するよう FM/Db2 に指示します。テンプレートを使用する前に、そのテンプレートを編集する場合には、「**Edit template (テンプレートの編集)**」フィールドを選択します。

指定された Db2® オブジェクトのテンプレートを生成するには、オプション 3 (「Generate from table (表からの作成)」) を選択します。このオプションは、「Template (テンプレート)」フィールドの内容を無視して、Db2® カタログ表からの情報を使って Db2® オブジェクトのテンプレートを生成するように FM/Db2 に指示します。これはデフォルト設定です。

指定した Db2® オブジェクト用のテンプレートを生成して、そのテンプレートを即時保管するには、FM/Db2 でテンプレートに使用する名前を、テンプレート「**Data set name (データ・セット名)**」入力フィールド(および、オプションで、テンプレート「**Member (メンバー)**」入力フィールド)に指定してから、「**Template usage (テンプレートの使用法)**」入力フィールドでオプション 4 (「Generate/Replace (生成/置き換え)」) を選択します。

関連するタスク

[テンプレートの編集 ページ 84](#)

関連する参照先

[Copy Utility ("From") (コピー・ユーティリティの「元」)] パネル ページ 518

[Copy Utility ("To") (コピー・ユーティリティの「宛先」)] パネル ページ 526

[Data Create Utility (データ作成ユーティリティ)] パネル ページ 610

Db2 [Browse (ブラウズ)] パネル ページ 618

[Db2 Edit (編集)] パネル ページ 622

Db2 [View (表示)] パネル ページ 639

[Export Utility ("To") (エクスポート・ユーティリティの「宛先」)] パネル ページ 702

[Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティの「元」)] パネル ページ 698

[Import Utility ("To") (インポート・ユーティリティの「宛先」)] パネル ページ 720

[Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティの「元」)] パネル ページ 718

[Load from (ロード元)] パネル ページ 730

[Print Utility (印刷ユーティリティ)] パネル ページ 760

[UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))] の「From (元)」 パネル ページ 891

[UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))] の「To (宛先)」 パネル ページ 892

テンプレートに保管された情報

以下のセクションでは、テンプレートに含むことができる情報、および FM/Db2 がその情報をどこでどのように使用するかについて説明します。



注: この章では、「データの転送」は、FM/Db2 のいずれかの機能を使用していることを示します。

- Copy (コピー) (オプション 3.3)
- Import (インポート) (オプション 3.6)
- Export (エクスポート) (オプション 3.7)
- Utilities (ユーティリティ) (オプション 3.9)、Db2® LOAD ユーティリティ、Db2® UNLOAD ユーティリティ

行選択基準

選択する行を決定します。

行選択基準に適合しない行は、比較、コピー²、または印刷時に除外されます。

列の選択

どの列が表示されるか (ブラウズまたは編集時)、あるいは印刷されるかを決定します。

データのエクスポート時を除いて、Db2® オブジェクトの転送時または作成時には、この情報は無視されます。(データのコピー時、インポート時、エクスポート時、またはロード時に、入力の中の一部のデータを出

2. コピーしている場合、FM/Db2 は「From (元)」テンプレートでこの情報を使用します。「To (宛先)」テンプレートでは、この情報は無視されます。ただし、比較時には、「Old (旧)」と「New (新規)」の両方のテンプレートの選択情報が使用されます。

力への転送から除外する場合は、それらのフィールドのない“宛先”テンプレートを“マップ”する必要があります。)

列順序

列が表示される (ブラウザまたは編集時)、あるいは印刷されるデフォルトの順序をオーバーライドします。デフォルトでは、列は、Db2® カタログのオブジェクト内でその列が定義されている順序 (SYSIBM.SYSCOLUMNS の COLNO 列) で表示または印刷されます。

この情報は、Db2® オブジェクトの転送時または作成時には無視されます。(データのコピー時、インポート時、エクスポート時、またはロード時に、入力の中の一部のデータを出力への転送から除外する場合は、それらのフィールドのない“宛先”テンプレートを“マップ”する必要があります。)

列見出し

ブラウザ、編集、または印刷時に、デフォルトの列見出しをオーバーライドします。(デフォルトの列見出しとは、Db2® カタログで定義されている列名をいいます。)

列固定属性

テンプレートが基準としている Db2® カタログで定義された列名およびデータ・タイプです。

列使用属性

2つの属性があります。

Output width (出力幅)

ブラウザ、編集、または印刷時に、列に割り振られる桁数を定義します。

デフォルトの幅は、データ・タイプによって異なり、そのデータの“外部”形式と関連します。例えば、SMALLINT 列のデフォルトの幅は 6 バイト (通常の外部表示サイズ) です。

数値フィールドに有効な数値が入っているが、その値が大きすぎて出力幅に収まらない場合には、ブラウザまたは編集時にこの値が切り捨てられて強調表示されます。

先行ゼロ (数値列のみ)

ブラウザ、編集、または印刷時に、列値が先行ゼロを付けて表示されるかどうかを定義します。

列作成属性

データを転送している場合、または表を作成している場合、列を初期化するときの値を定義します。

データを転送している場合、FM/Db2 は“宛先”テンプレートでこの情報を使用します。“元”テンプレートでは、この情報は無視されます。

列マッピング

データを転送している場合、“元”テンプレートのどの列が“宛先”テンプレートの列にマップされるかを定義します。

データを転送している場合、FM/Db2 は“宛先”テンプレートでこの情報を使用します。“元”テンプレートでは、この情報は無視されます。

スクランブル・オプション

コピー、インポート、またはエクスポート・プロセス中に列の内容のスクランブルを行う場合は、そのスクランブル方法を決定します。

関連するタスク

[ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

[LOAD ユーティリティー ページ 367](#)

[UNLOAD ユーティリティー ページ 391](#)

[データの マッピング ページ 112](#)

関連する参照先

[Db2 データ型 ページ 452](#)

[「Copy Utility \("From"\) \(コピー・ユーティリティーの「元」\)」 パネル ページ 518](#)

[「Import Utility \("From"\) \(インポート・ユーティリティーの「元」\)」 パネル ページ 718](#)

[「Export Utility \("From"\) \(エクスポート・ユーティリティーの「元」\)」 パネル ページ 698](#)

[「Data Create Utility \(データ作成ユーティリティー\)」 パネル ページ 610](#)

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」 パネル ページ 635](#)

テンプレートの印刷

テンプレートを印刷するには、TP 基本コマンドを使用します。

関連するタスク

[FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342](#)

関連する参照先

[TP 基本コマンド ページ 977](#)

[PB 基本コマンド ページ 958](#)

非 Db2 データを含むテンプレートの使用

FM/Db2 の機能の中には、非 Db2 データとのインターフェースを持つものがあります。

- 以下の FM/Db2 機能を使用して、非 Db2 データを検索できます。
 - 「Import (インポート)」 (オプション 3.6) - VSAM または QSAM データ・セットから非 Db2 データを検索する場合。
 - 「Utilities (ユーティリティー)」 (オプション 3.9) の Db2® LOAD ユーティリティー - 順次データ・セットからデータを検索する場合。
- 以下の FM/Db2 機能を使用して、非 Db2 ファイルへのデータの書き込みができます。

- 「Export (エクスポート)」 (オプション 3.7) - VSAM データ・セット、順次データ・セット、または区分データ・セットのメンバーにデータを書き込む場合。
- 「Utilities (ユーティリティ)」 (オプション 3.9) の Db2® UNLOAD ユーティリティ - 順次データ・セットにデータをアンロードする場合。

これは非 Db2 データであるため、FM/Db2 は Db2® カタログ表からテンプレートを作成できません。代わりに、ユーザーがテンプレートのソースを指定する必要があります。ソースは、(非 Db2) テンプレートかコピーブックのいずれかになります。このテンプレートは、データ・セットまたはメンバー内のレコードとフィールドを記述したものです。コピーブックを指定した場合、FM/Db2 がそれをコンパイルしてテンプレートにします。このテンプレートを保管しておき、同じレコード構造を持つアプリケーション・データ・セットで再利用することができます。

コピーブックは、アプリケーション・データ・セットのレコード構造を記述した、COBOL、HLASM、または PL/I ソース・ステートメントが入っているデータ・セットです。

COBOL データ記述項目

コピーブックの各レベル 01 グループ項目には、アプリケーション・データのレコード・タイプが記述されています。グループの基本項目には、レコード・タイプのフィールドが記述されています。

例えば、以下の項目には、ORDER と ITEM という 2 つのレコード・タイプを含むアプリケーション・データのレコード構造が記述されています。

```
01 ORDERS.
  02 ORDER-ID      PIC X(5).
  02 CUSTOMER-ID   PIC X(5).
  02 ORDER-DATE.
    03 ORDER-YEAR  PIC X(4).
    03 ORDER-MONTH PIC X(2).
    03 ORDER-DAY   PIC X(2).
01 ITEM.
  02 PRODUCT-ID    PIC X(9).
  02 QUANTITY      PIC 9(4) BINARY.
  02 UNIT-COST     PIC 9(8) BINARY.
```

ORDER レコードには、次の 5 つのフィールドがあります: それは、ORDER-ID、CUSTOMER-ID、ORDER-YEAR、ORDER-MONTH、および ORDER-DAY です。ITEM レコードには、次の 3 つのフィールドがあります: それは、PRODUCT-ID、QUANTITY、および UNIT-COST です。

HLASM DSECT 定義

HLASM コピーブックは COBOL コピーブックと似ていて、大構造 (DSECT 名) にはレコード・タイプが、基本名にはフィールドが記述されます。

```
ORDER      DESCT
ORDERID    DS  CL9
CUSTOMERID DS  CL5
ORDERDATE  DS  0CL8
ORDERYEAR  DS  CL4
ORDERMONTH DS  CL2
ORDERDAY   DS  CL2
ITEM       DESCT
PRODUCTID  DS  CL9
```

```
QUANTITY  DS  H
UNITCOST  DS  F
```

PL/I DECLARE ステートメント

COBOL コピーブックと同じように、主要構造 (レベル 1 名) にはレコード・タイプが、基本名にはフィールドが記述されています。

```
DECLARE 1 ORDER,
        2 ORDER_ID      CHAR(9),
        2 CUSTOMER_ID   CHAR(5),
        2 ORDER_DATE,
          3 ORDER_YEAR   CHAR(4),
          3 ORDER_MONTH  CHAR(2),
          3 ORDER_DAY    CHAR(2);
DECLARE 1 ITEM,
        2 PRODUCT_ID    CHAR(9),
        2 QUANTITY       BIN(15),
        2 UNIT_COST      BIN(31);
```

コピーブックには、COBOL、HLASM、または PL/I プログラムのソース全体を入れるか、あるいは COBOL データ記述項目、HLASM DSECT 定義、または PL/I DECLARE ステートメントだけを入れることができます。FM/Db2 は、COBOL データ記述項目、HLASM DSECT 定義、または PL/I DECLARE ステートメントを除く、コピーブックのすべてを無視します。

FM/Db2 は、以下のいずれかに保管されたコピーブックをサポートします。

- PDS
- PDSE
- CA-Panvalet ライブラリー
- Library Management System Exit を使用してアクセスされるライブラリー



注:

1. ライブラリー・メンバーは、ISPF によってパックされていない場合があります。
2. CA-Panvalet ライブラリー、または Library Management System Exit を使用してアクセスされるライブラリーを File Manager で使用できるようにする方法の詳細については、*File Manager カスタマイズ・ガイド* を参照してください。

関連するタスク

[FM/Db2 がコピーブックをテンプレートにコンパイルする方法 ページ 80](#)

FM/Db2 がコピーブックをテンプレートにコンパイルする方法

コピーブックを指定すると、FM/Db2 は以下のステップを実行します。

1. 選択されているコンパイラ言語が HLASM でない場合、コピーブックが完全なソース・プログラムであるのか、あるいは COBOL データ宣言または PL/I DECLARE ステートメントのみが含まれているのかを検査します。コピーブックが完全でない場合には、FM/Db2 は、シェル・プログラムにコピーブックを組み込みます。
2. 選択されているコンパイラを呼び出してコピーブックの構文を検査し、ADATA ファイルを作成します。

「Utilities (設定)」: 「Compiler language selection (コンパイラ言語の選択)」パネル (オプション 0.0.4) を使用して、FM/Db2 が COBOL を呼び出すか、HLASM を呼び出すか、PL/I コンパイラを呼び出すかを指定できます。

COBOL および PL/I コピーブックの場合は、「Compiler language selection (コンパイラ言語の選択)」パネルの「**Auto detect (自動検出)**」オプションを選択して、File Manager がコピーブックの言語を検出し、適切なコンパイラを呼び出すように指示できます。この場合、FM/Db2 はソースを分析して、ソースの言語が COBOL か PL/I かを判別し、結果に基づいてテンプレートを作成します。

File Manager がアセンブラー・コピーブックを処理するように指示するには、「Compiler Language Selection コンパイラ言語の選択」パネルで言語オプションを「HLASM」に設定する必要があります。オプションを「HLASM」に設定すると、コピーブックをサポートするすべての機能をアセンブラー・コピーブックで使用できるようになります。HLASM コンパイラ仕様に従って、追加の SYSLIB を提供し、ALIGN および DBCS 処理オプションを変更してください。

選択されている言語のコンパイラ仕様パネルで、コンパイルで許容される戻りコード・レベルを指定できます。

コンパイルで指定された最大値以下の戻りコードを生成すると、FM/Db2 は、ADATA ファイルの情報を処理してテンプレートを作成します。

コンパイルで指定された最大値より大きい戻りコードを生成すると、FM/Db2 は、ポップアップ・メニューを表示します。ポップアップ・メニューでは以下の操作を行うことができます。

- 「Print Browse (印刷ブラウズ)」(オプション 3.11) を使用して、コンパイル・リストを表示します。
- テンプレート作成処理を取り消す。
- コンパイルを再試行する。このオプションを選択する前に、コンパイル・リストを調べて、コピーブックのエラーを修正してください。コンパイル・リストが表示されているときには、ISPF 分割画面機能を使用して他の ISPF セッションにスワップし、エディターを使ってコピーブックのエラーを修正することができます。
- エラーを無視して、テンプレートの作成に進む。このオプションを使用できるのは、FM/Db2 がテンプレートを作成できる場合のみです。警告のような一部のコンパイル・エラーは、テンプレートの作成には影響しません。不確実な場合には、コンパイル・リストを表示してください。重大なコンパイル・エラーの場合には、FM/Db2 はテンプレートを作成できません。
- 別の言語でコンパイラを試行する。HLASM コンパイラ言語が選択されている場合、このオプションは使用できません。

関連するタスク

[コンパイラ言語の選択 \(オプション 0.4\) ページ 66](#)

[「Compiler Language Selection \(コンパイラ言語の選択\)」パネル ページ 513](#)

関連する参照先

[\[Set COBOL Processing Options \(COBOL 処理オプションの設定\)\]](#) パネル ページ 814

[\[Set PL/I Processing Options \(PL/I 処理オプションの設定\)\]](#) パネル ページ 820

[\[Set HLASM Processing Options \(HLASM 処理オプションの設定\)\]](#) パネル ページ 816

COBOL データ記述項目のサポート

コピーブックで指定されている COBOL データ記述項目のうち、FM/Db2 は、以下の文節をサポートします。

- ASSIGN 文節
- OCCURS 文節 (OCCURS DEPENDING ON を含む)
- PICTURE 文節 (数値編集を除く)
- REDEFINES 文節
- RENAMES 文節
- USAGE 文節
- VALUE 文節

FM/Db2 は、以下を無視します。

- BLANK WHEN ZERO 文節
- DATE FORMAT 文節
- EXTERNAL 文節
- GLOBAL 文節
- JUSTIFIED 文節
- PICTURE 文節の数値編集
- SYNCHRONIZED 文節

FM/Db2 は、レベル 88 (条件名) を除く、すべてのデータ項目レベル番号をサポートします。

HLASM データ記述項目のサポート

コピーブックで指定された HLASM データ記述項目を使用して、FM/Db2 は、対応する DS/DC フィールドで見つかった各 DSECT のレコードまたはセグメントを作成します。


詳細については、ベースになる「*File Manager* ユーザズ・ガイドおよびリファレンス」の『*File Manager* での HLASM コピーブックの使用』を参照してください。

PL/I データ記述記入項目のサポート


コピーブックで指定されている PL/I データ記述項目のうち、FM/Db2 は、以下をサポートします。

- 1 バイトおよび 2 バイト文字ストリングの PL/I データ属性 VARYING および VARYINGZ。
- VARYING 属性が組み込まれた PL/I ビット変数。
- 2 進数、10 進数、浮動小数点、および数値ピクチャー・データ (シンボルを除く)。
- 配列エクステントの REFER 変数。上限および下限の配列エレメントはどちらも、次元ごとに宣言できます。次元ごとのエクステントの数は常に次のようになります。

```
upper bound - lower bound + 1
```

 **注:** PL/I の次元の場合、ゼロ・エクステントは許可されていません。境界が指定されていない場合、PL/I は 1 の値を想定します。

- スtring変数、文字 (AN)、可変長文字 (VC)、またはゼロ終了文字String (ZC) の長さをバイトで宣言する REFER 変数。
- FM/Db2 は、バイトのペアとして PL/I 2 バイト文字変数 (DB)、可変長 2 バイト文字 (VD)、およびゼロ終了 2 バイト文字 (Z2) もサポートします。FM/Db2 は、ビット・String (BT) および可変長ビット・String (VB) 変数もサポートします。
- REFER 変数は、整数、固定 2 進数、パック 10 進数、浮動小数点、または文字String変数として宣言することができます。
- 可変長 (REFER String長または REFER 配列エクステント) を持つことができる任意のレベルの UNION 宣言。


 **注:** UNION は異なるデータ・タイプのオーバーレイを含むことができます。それには、テンプレートのワークベンチ・レコード選択基準、またはデータを表示できない場合には SHOW 制御が必要となることがあります。

FM/Db2 は、以下を無視します。

- INIT データ値。
- REFER 開始式。以下に例を示します。

```
VAR(, expr Refer abc, ) or  
CHAR(expr Refer abc).
```

- EXTERNAL 属性。
- DEFINED 構造オーバーレイ。
- LIKE 構造属性。

 **注:** 一般的に、FM/Db2 は数字編集フィールドを英数字として扱います。特殊コード ZA は、サポートされないゾーン 10 進数に使用されます。

可変長配列のサポート

可変長配列は、COBOL コピーブックでは OCCURS DEPENDING ON (ODO) 文節で定義され、PL/I コピーブックでは、上限または下限 (または両方) が REFER オプションによって定義される次元属性で定義されます。

可変長配列を含むテンプレートを使用している場合には、以下の考慮事項が適用されます。

- 1 つのレコード構造には複数の可変長配列を含めることができます。しかし、配列のサイズ (ODO または “オブジェクト” 参照) を定義するフィールドは、すべて最初の可変長配列パネルの前のレコードになければなりません。
- 以下のいずれかが該当する場合:

- (COBOL コピーブックのみ。) オブジェクトが、ODO 文節の指定範囲外にある。
- レコード長が、オブジェクトの指定する配列項目数で計算したレコード長と一致しない。

その後、データ・セットの編集時には、長さが誤りでレコードが選択されなかったことを示す「=LGTH」という記述が接頭部域に含められます。

- オブジェクト・フィールドの値を変更すると、配列内の項目の数が自動的に展開または縮小されます。

新規項目は、現行の配列の終わり (かつ、配列の後のフィールドの前) に挿入され、数値項目はゼロに初期化され、英数字項目はブランクに初期化されます。

同様に、項目は配列の最後から削除されるので、表の最後から後のフィールドは影響を受けません。

PL/I の場合には、配列内の項目の数は、次元属性の上限から下限を引いた値に 1 を加えることによって決定されます。REFER オプションを使用して上限と下限の両方が指定されている場合には、参照オブジェクト・フィールドのいずれかの値を変更すると、それに応じて配列項目が挿入または削除されます。

- (COBOL コピーブックのみ。) オブジェクト・フィールドを、ODO 文節によって指定される範囲の外にある値に変更することはできません (FM/Db2 は ODO の下限値 0 をサポートします)。
- (COBOL コピーブックのみ。) 新規レコードを挿入すると、レコードは ODO 定義で指定された配列項目の最小数になります。例:
 - 次の ODO 文節があるとします。

```
ODO-ONE OCCURS 0 TO 10 TIMES DEPENDING ON ODO-CNTRL-ONE.
```

新規レコードを挿入すると、ODO-CNTRL-ONE フィールドがゼロに初期化されて、新規レコードには ODO-ONE 配列項目は存在しません。

- 次の ODO 文節があるとします。

```
ODO-ONE OCCURS 5 TO 7 TIMES DEPENDING ON ODO-CNTRL-ONE.
```

ODO-CNTRL-ONE は 5 に初期化されて、その新規レコードには 5 つの ODO-ONE 配列項目が存在します。

- (PL/I コピーブックのみ。) 新規レコードを挿入すると、そのレコードは、配列項目数がゼロになります。上限および下限の参照オブジェクト・フィールドはゼロに初期化されます。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[LOAD ユーティリティ ページ 367](#)

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

テンプレートの編集

FM/Db2 は常にテンプレートを使用して Db2® データを表示します。

このセクションでの説明は、[図 142: サンプル・データ ページ 856](#) に示されているサンプル・データのブラウズ中でのテンプレートの編集を基にした例を示しています。

テンプレートは、以下のいずれの方法でも編集可能です。

- テンプレートを使用できる入力パネルで以下のようにします。
 1. FM/Db2 で使用するテンプレートを指定します (適切な「**Template usage (テンプレートの使用法)**」オプションを選択し、必要な場合にはテンプレートの名前を指定する)。
 2. 「**Edit template (テンプレートの編集)**」フィールドを選択します。
 3. Enter キーを押します。

FM/Db2 は、編集用のテンプレートを表示し、編集が終了した後に、機能を実行します。

この方法でテンプレートを編集した場合には、テンプレートのすべての部分 (行選択基準を含む) を変更することができます。

- 「Browse (ブラウズ)」 (オプション B)、 「View (表示)」 (オプション 1)、または 「Edit (編集)」 (オプション 2) を使用してデータをブラウズ、表示、または編集するときに、TEDIT 基本コマンドを使用できます。



注:

1. TEDIT 基本コマンドは、File Manager/Db2 エディター・セッション (データを表示した場合) の中からのみ使用できます。TEDIT を 「Db2® View (表示)」 または 「Db2® Edit (編集)」 機能パネルから使用することはできません。
2. TEDIT 基本コマンドによって、 「**Order (順序)**」、 「**A/D**」、または 「**Row Selection Criteria (行選択基準)**」 入力フィールドを変更することはできません。

テンプレートのこれらの部分を変更できない理由は、File Manager/Db2 エディター・セッションが進行中で、セッションにデータに対するコミットされていない変更が含まれている可能性があることです。テンプレートの上記の部分の変更には、新しい (および可能であれば別の) SQL ステートメントを使用して、Db2® からデータを検索することが必要な場合があります。

(前のどちらかの方式を使用して) テンプレートを編集すると、FM/Db2 は 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」 パネルを表示します。

「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」 パネルを使用してテンプレートの編集を終了すると、以下の操作を行えます。

- 「RunTemp」 機能キー (F6) を押すことにより、編集済みテンプレートを保管しないで、「すぐに」テンプレートを使用する。
- FM/Db2 を押すことにより、オプションで 「Exit」 機能キー (F3) 機能パネルに戻る前に、編集済みテンプレートを保管する。または
- FM/Db2 を押すことにより、テンプレートを保管しないで、「Cancel」 機能キー (F12) 機能パネルに戻る。

関連するタスク

[テンプレートを使用できる場所 ページ 25](#)

[Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)

関連する参照先

[TEDIT 基本コマンド ページ 977](#)

[\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

テンプレートへの記述の追加

テンプレートを作成または編集しているときに、DESCRIBE 基本コマンドを発行して、テンプレートに記述を追加することができます。

テンプレートの記述を追加または変更するには、以下のようにします。

1. 以下のいずれかを行って、テンプレートの「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示します。
 - テンプレートを使用できる入力パネルで「**Edit template (テンプレートの編集)**」フィールドを選択する。
 - データを表示するためにテンプレートを使用している File Manager/Db2 エディター・セッションの中から TEDIT 基本コマンドを発行する。
2. DESCRIBE 基本コマンドを入力します。

FM/Db2 は、「Db2® Template Description (テンプレートの説明)」パネルを表示します。

3. 「**Template Description (説明)**」入力フィールドで、テンプレートの説明を入力するか、変更します。
4. 「Exit」機能キー (F3) を押して、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルに戻ります。

関連する参照先

[DESCRIBE 基本コマンド ページ 916](#)

[TEDIT 基本コマンド ページ 977](#)

[\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

[\[Db2 Template Description \(テンプレート記述\)\] パネル ページ 633](#)

行の選択

データを表示または編集する前に、テンプレートを編集し、行選択基準を指定して、表示する行を選択できます。

行選択基準を指定するには、テンプレートを使用できる入力パネルで「**Edit template (テンプレートの編集)**」フィールドを選択して、まず「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示する必要があります。(TEDIT 基本コマンドを使用して「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示した場合は、行選択基準を変更することはできません。)

以下のいずれかで、行選択基準を指定できます。

- 列ごと
- フリー・フォーム・スタイル

以下のセクションでは、これらの2つの方法について説明します。

フルスクリーン編集の場合には、SQL 基本コマンドを使用するか、「SQL」機能キー (F4) を押します。

列ごとの行選択

列ごとに行選択基準を入力するには、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルのコマンド行で **1** を入力し、Enter キーを押します。FM/Db2 は、「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルを表示します。

選択基準を指定する各列の行で、演算子 (= または > など) を **Op** 列に、またほとんどの場合「**Value (値)**」列に値を指定します。

例えば、姓が SMITH の従業員のみを従業員の表から選択するには、以下のようにします。

1. 列 LASTNAME の行で、Op 列に **1** を入力し、「Value (値)」列に SMITH (オプションで一重引用符で囲む) を入力します。

図 23. 例 1: 単一値に一致する単純な述部を指定

Cmd	Con	Column name	Data type(length)	Op	Value
<->	-	<-----1----->	<-----1----->	<->	<----->
***	****	Top of data	****		
		EMPNO	CHARACTER(6)		
AND		FIRSTNME	VARCHAR(12)		
AND		MIDINIT	CHARACTER(1)		
AND		LASTNAME	VARCHAR(15)	=	SMITH

この述部は、表のデータが大文字で保管されているシチュエーションで、理想的に動作します。ただし、表のデータが大/小文字混合 (「Smith」など) であるか、またはデータに誤り (「SmiTH」など) が含まれている場合、Db2® は目的の行の一部を返しません。

通常、「Op」列に入力された演算子は、列名に影響しません。以下の 2 つの演算子によって、列関数を指定できます。

LKL

この式から得られる結果: LOWER(colname) LIKE 値。

LKU

この式から得られる結果: UPPER(colname) LIKE 値。

次の例では、値にある大文字によって一致は得られないため、FM/Db2 は自動的に、入力された値を小文字に変換します。詳しくは、『例 2 の式から生成されるデータ ページ 88』を参照してください。

図 24. 例 2: LKL 演算子の指定

Cmd	Con	Column name	Data type(length)	Op	Value
<->	-	<-----1----->	<-----1----->	<->	<-----1----->
***	****	Top of data	****		
		EMPNO	CHARACTER(6)		
AND		FIRSTNME	VARCHAR(12)		
AND		MIDINIT	CHARACTER(1)		
AND		LASTNAME	VARCHAR(15)	LKL	'%SMITH%'

次の例では、値にある小文字によって一致は得られないため、FM/Db2 は自動的に、入力された値を大文字に変換します。詳しくは、『例 3 の式から生成されるデータ ページ 89』を参照してください。

図 25. 例 3: LKU 演算子の指定

Cmd	Con	(Column name	Data type(length)	Op	Value
<->	-	<-----1-----2----->	<-----1----->	<->	<----->
***	****	Top of data	****		
		EMPNO	CHARACTER(6)		
	AND	FIRSTNME	VARCHAR(12)		
	AND	MIDINIT	CHARACTER(1)		
	AND	LASTNAME	VARCHAR(15)	LKU	'%smith%'

必要に応じて、列式を直接指定することもできます。列式を入力するためには、式が必要な列名に対して、EDITCOL エディター基本コマンドを実行するか、または EC 接頭部コマンドを入力します。これらのコマンドを実行した後、列名フィールドは入力フィールドに変わります。

図 26: 例 4: エスケープ文字を使用して列式およびデータ値を入力 ページ 88 には、列式と「」エスケープ文字の使用法が示されています。この例は、従業員が 3 月に雇用された行をどのように表示するかを説明しています。エスケープ文字を使用すると、FM/Db2 は、タイプに応じた値フィールドのデータの検証を試みません。列のデータタイプは DATE ですが、列関数 MONTH は、月を表す整数 (1 から 12) を返します。

図 26. 例 4: エスケープ文字を使用して列式およびデータ値を入力

Cmd	Con	(Column name	Data type(length)	Op	Value
<->	-	<-----1-----2----->	<-----1----->	<->	<----->
***	****	Top of data	****		
		EMPNO	CHARACTER(6)		
	AND	FIRSTNME	VARCHAR(12)		
	AND	MIDINIT	CHARACTER(1)		
	AND	LASTNAME	VARCHAR(15)		
	AND	WORKDEPT	CHARACTER(3)		
	AND	PHONENO	CHARACTER(4)		
	AND	MONTH(HIREDATE)		=	\3

2. 「Exit」機能キー (F3) を押します。

FM/Db2 は、パネル上部の「Row Selection Criteria (行選択基準)」フィールドに、生成された行選択基準 (WHERE 文節) が示された、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示します。

例 1 から例 4 で入力された式の結果は、以下のとおりです。

図 27. 例 1 の式から生成される式

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Co
Command ==>			
TABLE DSN81010.EMP			
----- Row Selection Criteria			
1 Sel: WHERE "LASTNAME" = 'SMITH'			

図 28. 例 2 の式から生成されるデータ

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Co
Command ==>			
TABLE DSN81010.EMP			
----- Row Selection Criteria			
1 Sel: WHERE LOWER("LASTNAME") LIKE '%smith%'			

図 29. 例 3 の式から生成されるデータ

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                                     Co
Command ==>
TABLE DSN81010.EMP
----- Row Selection Criteria
1 Sel: WHERE UPPER("LASTNAME") LIKE '%SMITH%'

```

図 30. 例 4 の式から生成されるデータ

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                                     Co
Command ==>
TABLE DSN81010.EMP
----- Row Selection Criteria
1 Sel: WHERE MONTH(HIREDATE) = 3

```

3. 「Exit」機能キー (F3) を押します。

FM/Db2 には、選択したデータが表示されます。

図 31. 例 1 から例 4 の式から得られるデータ

```

FM/Db2 (DFG2)                                     Table Edit
Command ==>
2 rows - End of object.
EMPNO  FIRSTNME      MIDINIT  LASTNAME      WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE
#1     #2                #3       #4             #5         #6       #7
CH(6)  VARCHAR(12)      CH(1)    VARCHAR(15)   CH(3)     CH(4)    DATE
PUN->> <-N-+-----1-> -          <-N-+-----1-----> <-N      <-->    <----+----->
***** **** Top of data ****
000001 000250 DANIEL<    S          SMITH<      D21        0961     1969-10-30
000002 000300 PHILIP<    X          SMITH<      E11        2095     1972-06-19

```

図 32. 例 4 の式から得られるデータ

```

FM/Db2 (DFG2)                                     Table Edit
Command ==>
3 rows - End of object.
EMPNO  FIRSTNME      MIDINIT  LASTNAME      WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE
#1     #2                #3       #4             #5         #6       #7
CH(6)  VARCHAR(12)      CH(1)    VARCHAR(15)   CH(3)     CH(4)    DATE
PUN->> <-N-+-----1-> -          <-N-+-----1-----> <-N      <-->    <----+----->
***** **** Top of data ****
000001 000200 DAVID<     BROWN<      D11         4501     1966-03-03
000002 000280 ETHEL<     R           SCHNEIDER<  E11         8997     1967-03-24
000003 200280 EILEEN<    R           SCHWARTZ<   E11         8997     1967-03-24

```

図 23 : 例 1: 単一値に一致する単純な述部を指定 ページ 87 で入力された式を続行するにあたって、例えば、ここで、姓が SMITH または JONES の従業員を選択する場合は、行選択基準を変更する必要があります。これを行うには、「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルに戻る必要があります。

1. 表示されたデータのパネルから、「Exit」機能キー (F3) を押し、「Db2® Edit (編集)」入力パネルに戻ります。
2. 「Edit template (テンプレートの編集)」フィールドを選択し、「Exit」機能キー (F3) を押し「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示します。

このパネルの「Row Selection Criteria (行選択基準)」フィールド (前の WHERE "LASTNAME" = 'SMITH' 文節が表示されています) は保護されていることがわかります。これは、列ごとにまたはフリー・フォーム式で入力された行選択基準は交換可能でないためです。「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルに戻るにより、列ごとに入力された行選択基準を変更できます。「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」で SQL コマンドを発行して、データ

を保管することにより、列ごとに入力した行選択基準からフリー・フォーム式に変換できます。変換により、列ごとの指定は除去されます。フリー・フォーム式から列ごとに入力された行選択基準に変換することはできません。

3. コマンド行に **1** を入力して、「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルを表示します。
4. 同一の列で複数の値を選択する (この場合、SMITH と JONES の両方を選択します) には、以下の 2 つの方法を使用できます。

- 以下のように、列に対して複数行を使用する。
 - a. 該当する列の名前の行を繰り返すには、**Cmd** 列で R (反復) 接頭部コマンドを入力します。
 - b. 列名の反復される行で、AND に **o** または **OR** を上書きして、結合子 (**Con** 列内) を “OR” に変更します。
 - c. 「Value (値)」列に値を入力します。

例では、選択行は以下のようになります。

```

Cmd Con ( Column name                               Op Value
  <-> - <-----1-----2-----3-----> <-> <-----1-----2----- )
*** **** Top of data ****
:
___ AND _ LASTNAME                                 = SMITH
___ OR  _ LASTNAME                                 = JONES
    
```

- 以下のように、IN 演算子を使用する。
 - a. LASTNAME の行で、演算子 (=) を IN に変更します。IN 演算子を使用すると、選択する値のリストを指定できます。
 - b. 「Value (値)」列に、選択する値を入力します。英数字の列の場合、値のリストを指定するときは、各値を引用符で囲み、コンマで区切る必要があります。

例では、選択行は以下のようになります。

```

Cmd Con ( Column name                               Op Value
  <-> - <-----1-----2-----3-----> <-> <-----1-----2----- )
*** **** Top of data ****
:
___ AND _ LASTNAME                                 IN 'SMITH','JONES'
    
```

5. 選択したデータを表示するには、「Exit」機能キー (F3) を 2 回押します。SMITH または JONES の行選択基準を指定するためにどちらの方法を使用しても、同じ結果が得られます。

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Table Edit
TABLE FMNUSER.EMP			Template saved
EMPNO	FIRSTNAME	MIDINIT	LASTNAME
#1	#2	#3	#4
CH(6)	VARCHAR(12)	CH(1)	VARCHAR(15)
PU-->	<-----1->	-	<-----1----->
000000	****	Top of data	****
000001	000210	WILLIAM<	T
000002	000250	DANIEL<	S
000003	000300	PHILIP<	X
000004	****	End of data	****
:			

引き続きこの同じ例を使用して、姓が SMITH または JONES で、部門 D21 にいる従業員を選択する場合は、行選択基準を再度変更する必要があります。

今回は、あいまいさを避けるために、括弧を使用して、結果の WHERE 文節の評価の順序を定義することが必要になることがあります。「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルで、(および) 列を使用して、式のグループを括弧で囲むことができます。

例では、選択行はこの時点で以下ようになります。

```

Cmd Con ( Column name                               Op Value )
<-> - <-----1-----2-----3-----> <-> <-----1-----2-----> -
*** **** Top of data ****
:
___ AND ( LASTNAME                                 = SMITH )
___ OR  ( LASTNAME                                 = JONES )
___ AND ( WORKDEPT                                = D21 )

```

選択されたデータは、以下のように表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Table Edit                Template saved
TABLE FMUSER.EMP                Format TABL
EMPNO  FIRSTNME  MIDINIT  LASTNAME  WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE
#1     #2           #3       #4        #5        #6       #7
CH(6)  VARCHAR(12)  CH(1)    VARCHAR(15)  CH(3)    CH(4)    DATE
PU--> <-----1--> - <-----1-----> <-NF <-> <----->
000000 **** Top of data ****
000002 000250 DANIEL< S SMITH< D21 0961 30.10.1969
000004 **** End of data ****
:

```

表示の変更 (80 文字画面のみ)

幅の広い画面では、FM/Db2 は「**Column Name (列名)**」と「**Data type(length) (データ・タイプ (長さ))**」の両方の詳細を「**Row Selection Criteria (行選択基準)**」パネルの各列に表示します。しかし 80 文字画面では、FM/Db2 にはデフォルトで「**Column Name (列名)**」の詳細のみが表示されます。

80 文字画面では、以下の 5 つの異なるバージョンの「**Row Selection Criteria (行選択基準)**」パネルがあります。

1. 列名フィールドがあってデータ・タイプ・フィールドがないデフォルト画面。
2. データ・タイプ・フィールドがあって列名フィールドがない画面。
3. 列名フィールドと省略形データ・タイプ・フィールドがある画面。
4. 切り捨てられた列名フィールドがあってデータ・タイプ・フィールドがない画面。
5. バージョン 4 に類似した画面。ただし、列名データは (左揃えではなく) 右揃えで表示されます。

上のリストで説明されている 5 つのバージョンの画面を切り替えるには、PF10/PF11 ファンクション・キーを使用してください。画面 1 で PF10 を押すと画面 5 が表示され、画面 5 で PF11 を押すと画面 1 が表示されます。



注: カーソルを「**Value (値)**」入力フィールドに置かないでください。

DATE、TIME、および TIMESTAMP 列の形式の確認

指定している行選択基準に DATE、TIME、または TIMESTAMP 列が含まれている場合は、(「**Value (値)**」入力フィールドで) その列に指定する値は、正しい形式にしてください。

使用する必要がある形式が確かではない場合は、以下のようにします。

1. 必要な演算子(“=”など)を「**Op**」入力フィールドに入力します。
2. “=”を「**Value (値)**」入力フィールドに入力します。
3. Enter キーを押す

FM/Db2 では、現行値を示すフィールドが必要な形式で表示されます。

例えば、“=”を TIMESTAMP(4) 列の **「Value (値)」** 入力フィールドに入力すると、FM/Db2 は TIMESTAMP(4) 列に必要な形式で現在の日付と時刻を返します。

```

Cmd Con ( Column name                               Op Value
  <-> - <---+-----1-----+-----2-----+-----3-----> <-> <---+-----1-----+-----2-----+
*** **** Top of data ****
:
: AND - TSTAMP                                     = 2004-09-24-09.19.36.7749
:

```

末尾の 2 桁が除去されていることに注意してください。TIMESTAMP(4) は、4 桁の精度を意味します。

同じ形式を使用して、FM/Db2 が戻す値を、行選択基準の一部として使用する値で上書きできるようになりました。

関連するタスク

[「Row Selection Criteria \(行選択基準\)」フィールドのスクロール ページ 94](#)

[「Row Selection Criteria \(行選択基準\)」フィールドの拡張 ページ 95](#)

関連する参照先

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

[「Row Selection Criteria \(行選択基準\)」パネル ページ 796](#)

フリー・フォーム・スタイルでの行選択基準

フリー・フォームの行選択基準を入力するには、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルの上部の **「Row Selection Criteria (行選択基準)」** 入力フィールドを使用します。入力フィールドは保護されており、以下のいずれかの場合には更新できません。

- 列によって生成された WHERE 文節がすでに入っている場合
- TEDIT コマンドを使用して「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示した場合

この入力フィールドでは、有効な SQL WHERE 文節を入力して、表示または編集するデータを選択するための選択基準を指定します。

例えば、WORKDEPT および LASTNAME という 2 つの列があり、その姓が “A” から “M” の範囲で始まる、部門 A00 の人々の詳細のみを表示する場合には、以下のようになります。

1. 次の選択基準を入力してください。

```
WORKDEPT = 'A00' AND LASTNAME BETWEEN 'A%' AND 'M%'
```

これに代え、FM/Db2 参照番号を列名の省略形として使用することができます。例えば、上記の式は次のように書くことができます。

```
#5 = 'A00' AND #4 BETWEEN 'A%' AND 'M%'
```

列名の省略形を使用した場合、Enter キーを押すと、FM/Db2 がそれらを完全な列名に展開します。キーワード WHERE を省略すると、Enter キーを押したときに、FM/Db2 がそれを挿入します。

「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルは、次のように表示されます。

図 33. 行選択基準を示す基本「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Column Selection/Edit                Line 1 of 16
TABLE FMUSER.EMP
----- Row Selection Criteria ----- (Use SQL/PF4 for full screen edit) -----
1 Sel: WORKDEPT = 'A00' AND LASTNAME BETWEEN 'A%' AND 'M%'                +

Cmd Seq SHEX CL# Column name      Data type(length)  Null Default  Order A/D
-----
      S      1 EMPNO                CHARACTER(6)              None      -
      S      2 FIRSTNME             VARCHAR(12)               None      -
      S      3 MIDINIT              CHARACTER(1)              None      -
      S      4 LASTNAME              VARCHAR(15)               None      -
      S      5 WORKDEPT              CHARACTER(3)               Y Null    -
      S      6 PHONENO              CHARACTER(4)               Y Null    -
      S      7 HIREDATE              DATE                       Y Null    -
      S      8 JOB                  CHARACTER(8)               Y Null    -
      S      9 EDLEVEL              SMALLINT                   Y Null    -
      S     10 SEX              CHARACTER(1)               Y Null    -
      S     11 BIRTHDATE          DATE                       Y Null    -
      S     12 SALARY             DECIMAL(9,2)               Y Null    -
Command ==> -----
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=SQL        F5=RFind      F6=RunTemp
F7=Up        F8=Down       F9=Swap      F10=Left     F11=Right     F12=Cancel
  
```

- 「Exit」機能キー (F3) を押します。

FM/Db2 には、選択した行が表示されます。

図 34. 選択した列を示す例

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Table Edit                3 rows fetched
TABLE FMUSER.EMP
EMPNO  FIRSTNME  MIDINIT  LASTNAME  WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE
#1     #2        #3       #4        #5        #6       #7
CH(6)  VARCHAR(12) CH(1)    VARCHAR(15) CH(3)     CH(4)    DATE
PU--> <-----1- -> <-----1-----> <-NF <--> <----->
000000 **** Top of data ****
000001 000110 VINCENZO<  G          LUCCHESI<  A00        3490       16.05.1958
000002 200010 DIAN<      J          HEMMINGER< A00        3978       01.01.1965
000003 000010 CHRISTINE< I          HAAS<      A00        3978       01.01.1965
000004 **** End of data ****

Command ==> -----
F1=Help      F2=Zoom      F3=Exit      F4=CRetrie v  F5=RFind      F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Left     F11=Right     F12=Cancel
  
```

関連するタスク

[SQL 編集セッションの使用 ページ 95](#)

[「Row Selection Criteria \(行選択基準\)」フィールドのスクロール ページ 94](#)

[「Row Selection Criteria \(行選択基準\)」フィールドの拡張 ページ 95](#)

関連する参照先

[\[Row Selection Criteria \(行選択基準\)\] パネル ページ 796](#)

「Row Selection Criteria (行選択基準)」フィールドのスクロール

「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルで「**Row Selection Criteria (行選択基準)**」入力フィールドをスクロールするには、以下を使用できます。

- 「Right」機能キー (F11) および 「Left」機能キー (F10)、または
- RIGHT および LEFT 基本コマンド

いずれの場合も、どちらかの基本コマンドを発行するために機能キーまたは Enter キーを押す前に、「**Row Selection Criteria (行選択基準)**」入力フィールドにカーソルを置く必要があります。

式の右側のスクロール標識 (+ または -) は、スクロールできる方向を示しています。

+

右にスクロール可能な入力フィールド

-

左にスクロール可能な入力フィールド

スクロールの移動量を制御するには、以下の「**Scroll (スクロール)**」フィールドにスクロール移動量を入力してください。

スクロール移動量

スクロール方法

MAX

式の先頭または最後の位置へ

PAGE

一度に表示可能なデータの幅

HALF

一度に表示可能なデータの幅の半分

DATA

一度に表示可能なデータの幅より 1 文字少なく

CSR

右にスクロールする場合、FM/Db2 は、カーソルが置かれている文字のあるフィールドを、表示可能な式の左端の位置に移動するように位置付けます。

左にスクロールする場合、FM/Db2 は、カーソルが置かれている文字のあるフィールドを、表示可能な式の右端の位置に移動するように位置付けます。

nnnn

一度に nnnn 文字

スクロール移動量を変更するには、「**Scroll (スクロール)**」フィールドに新規の値を入力します。`MAX` を入力すると、FM/Db2 は、操作後にスクロール移動量を前の値に復元します。その他のスクロール移動量を入力すると、再度変更するまでその値は有効なままになります。

関連するタスク

[列ごとの行選択 ページ 87](#)

[フリー・フォーム・スタイルでの行選択基準 ページ 92](#)

関連する参照先

[RIGHT 基本コマンド ページ 967](#)

[LEFT 基本コマンド ページ 945](#)

「Row Selection Criteria (行選択基準)」フィールドの拡張

以下によって、「**Row Selection Criteria (行選択基準)**」入力フィールドを拡張できます。

- コマンド SQL を入力するか、「SQL」機能キー (F4) を押して、SQL 式が入っている ISPF 編集セッションを表示します。
- EXPAND コマンドを使用します。
 1. コマンド行で `EXPAND` と入力します。
 2. 「**Row Selection Criteria (行選択基準)**」入力フィールドにカーソルを置きます。
 3. Enter キーを押します。

FM/Db2 は、長さが 32,767 バイトまでの行選択基準を入力できる、拡張された入力パネルを表示します。

関連するタスク

[列ごとの行選択 ページ 87](#)

[フリー・フォーム・スタイルでの行選択基準 ページ 92](#)

[SQL 編集セッションの使用 ページ 95](#)

関連する参照先

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

[EXPAND 基本コマンド ページ 926](#)

SQL 編集セッションの使用

SQL 編集セッションを開始するには、SQL 基本コマンドを使用します。この編集セッションには、FM/Db2 が Db2® からデータを検索するために使用する SQL ステートメントが含まれます。

SQL 編集セッションを使用して、Db2® からデータを検索する前に行選択基準 (WHERE 文節) を変更できます。

SQL 基本コマンドをエディター・セッション内から使用した場合は、FM/Db2 は、[図 35: SQL編集セッション: エディター・セッション内から出される SQL コマンド ページ 96](#) に示されているようなパネルを表示します。

図 35. SQL編集セッション: エディター・セッション内から出される SQL コマンド

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
EDIT      SYS02203.T120510.RA000.FMNUSER.R0113662      Columns 00001 00072
*****  ***** Top of Data *****
=NOTE= All changes made during this Edit session will be discarded at the end
=NOTE= of the Edit session.
=NOTE= Use the CREATE or REPLACE commands to take a copy of the SQL.
000001 SELECT "EMPNO", "FIRSTNME", "MIDINIT", "LASTNAME", "WORKDEPT",
000002         "PHONENO", "HIREDATE", "JOB", "EDLEVEL", "SEX", "BIRTHDATE",
000003         "SALARY", "BONUS", "COMM"
000004 FROM   "DSN8810"."EMP"
000005 WHERE  "WORKDEPT" = 'A00' AND "LASTNAME" BETWEEN 'A' AND 'M'
000006 WITH   UR
000007 FOR    FETCH ONLY
*****  ***** Bottom of Data *****

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down      F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

(データの表示に先立って) テンプレートを編集していて、SQL 基本コマンドを使用した (または「SQL」機能キー (F4) を押した) 場合には、FM/Db2 は、[図 36: SQL編集セッション: テンプレートの編集集中に出される SQL コマンド ページ 96](#) に示されているようなパネルを表示します。

図 36. SQL編集セッション: テンプレートの編集集中に出される SQL コマンド

```

File  Edit  Edit_Settings  Menu  Utilities  Compilers  Test  Help
-----
EDIT      SYS02248.T145911.RA000.FMNUSER.R0103542      Columns 00001 00072
*****  ***** Top of Data *****
=NOTE= Only changes to the WHERE clause will be recognized at the end of the
=NOTE= Edit session. All other changes will be ignored.
=NOTE= Use the CREATE or REPLACE commands to take a copy of the SQL.
=NOTE=
=NOTE= Columns for "DSN8810"."EMP"
=NOTE=  Cl# Column name           Data type(length)  Null
=NOTE=  1  EMPNO                 CHARACTER(6)
=NOTE=  2  FIRSTNME                VARCHAR(12)
=NOTE=  3  MIDINIT                 CHARACTER(1)
=NOTE=  4  LASTNAME                 VARCHAR(15)
=NOTE=  5  WORKDEPT                 CHARACTER(3)      Y
=NOTE=  6  PHONENO                 CHARACTER(4)      Y
=NOTE=  7  HIREDATE                 DATE              Y
=NOTE=  8  JOB                     CHARACTER(8)      Y
=NOTE=  9  EDLEVEL                 SMALLINT          Y
=NOTE= 10  SEX                     CHARACTER(1)      Y
=NOTE= 11  BIRTHDATE                DATE              Y
Command ==> ----- Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down      F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

ISPF エディター・コマンド CREATE および REPLACE を使用して、SQL ステートメントを別の永続データ・セットにコピーすることができます。

Db2@ オブジェクトに関する列の詳細が、ISPF 編集セッションの最上部に、注の行 (=NOTE=) として表示されることがあります。それらは、WHERE 文節を変更できる場合にのみ表示されます。

関連する参照先

[SQL 基本コマンド ページ 975](#)

変更

SQL 編集セッションの最上部の注の行(=NOTE=)は、SQL ステートメントに対して変更を行えるかどうかを示します。データが File Manager/Db2 エディター・セッションに表示されている場合、先に現行のエディター・セッションを終了しなければ、SQL ステートメントを変更できません。SQL ステートメントを対話式にテストして変更するには、「Prototyping (プロトタイピング)」: 「Enter (入力)」 (オプション 4.3) を使用するか「Db2® View (表示)」パネルまたは「Db2® Edit (編集)」パネルの「**Re-edit template (テンプレートの再編集)**」オプションを使用してください。

FM/Db2 参照番号を列名の省略形として使用することができます。

「Exit」機能キー (F3) を押すことによって SQL 編集セッションを終了すると、FM/Db2は FM/Db2 参照番号を対応する Db2® 列名に変換し、ステートメントの妥当性検査を行います。妥当性検査に失敗すると、FM/Db2 はその SQL ステートメントをエラー・メッセージとともに再表示します。



注:

1. WHERE キーワードより前の SQL ステートメントのどの部分も変更できません。これには、SELECT 文節内の列のリストが含まれます (注 2 を参照)。
2. 一部の列を選択解除するようにテンプレートを編集してあった場合でも、表のすべての列が SQL ステートメントの (SELECT キーワードの後に続く) SELECT 文節に組み込まれます。1 つの列を選択解除すると、FM/Db2 はその列を表示しなくなります。これは FM/Db2 が Db2® からデータを検索するために使用する SQL コマンドには影響しません。
3. SQL コマンドによって表示される ISPF エディター・セッションで指定可能な WHERE 文節の最大長は、32767 文字です。

関連するタスク

[File Manager/Db2 エディター・セッションの終了 ページ 135](#)

[SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン ページ 437](#)

[行の選択 ページ 86](#)

[列の選択 ページ 99](#)

関連する参照先

[Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)

[SQL 基本コマンド ページ 975](#)

変更の保存

SQL 編集セッションで行った変更は、WHERE 文節の変更が可能で、かつ、結果の SQL ステートメントが Db2® に受け入れ可能である場合にのみすべて保管することができます。

必要な変更を行った場合には、「Exit」機能キー (F3) を押して、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを再表示します。パネルの「Row Selection Criteria (行選択基準)」セクションに、編集セッションで WHERE 文節に対して行った変更が表示されます。

変更を保管しないで「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルに戻るには、「Cancel」機能キー (F12) を押してください。

関連する参照先

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

長い WHERE 文節

FM/Db2 編集セッションを使用して、長い WHERE 文節 (ホスト Db2® システムによる制限を受けます) を入力することができます。DB2 for z/OS SQL 解説書を参照してください。

SQL 式が「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルの「Row Selection Criteria (行選択基準)」セクションに表示するには大きすぎる場合には、FM/Db2 は式の可能な限り多くの部分を表示します。この状態で「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルの式に対して変更を行うと、FM/Db2 は完全な SQL 式が入っている ISPF 編集セッションを表示します。

SQL コマンドによって表示される ISPF エディター・セッションで指定可能な WHERE 文節の最大長は、32767 文字です。

関連する参照先

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

列の操作

FM/Db2 は、行内の列を操作する、いくつかの方法を提供しています。「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを使用すると、以下のことが可能になります。

- 列を選択する
- 列が表示される順序を変更する
- 列見出しを変更する
- 個々の列属性を変更するために、「Column Attributes (列属性)」パネルにアクセスする

関連するタスク

[列の選択 ページ 99](#)

[表示または印刷データの順序の変更 ページ 101](#)

[列見出しの変更 ページ 105](#)

[列属性の変更 ページ 104](#)

関連する参照先

[\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

列の選択

File Manager/Db2 エディター・セッションで表示する列を選択するには、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルを使用します。選択した列は「S」列に「S」を入れて表示されます。列の選択と選択解除を切り替えるには、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルの「Cmd」列に s を入力します。

デフォルトでは、FM/Db2 により、Db2® に対して定義された順序で、Db2® オブジェクトのすべての列が表示用に選択されます。初期表示では、ROWID 列を除くすべての列が選択済みとして表示されます。



注: 列を選択解除しても、FM/Db2 がデータを Db2® から検索するために使用する SQL ステートメントは変更されません。File Manager/Db2 エディター・セッションでは、FM/Db2 は Db2® オブジェクト内のすべての列を指定する SQL ステートメントを常に生成します。

複数列の選択状況の一度での切り替え

以下の選択コマンドの 1 つを入力することによって、複数列の選択と選択解除を一度に切り替えることができます。

SS

列のブロックを選択または選択解除します。

SS を 2 回入力します。最初は、選択または選択解除したいブロックの先頭で「Cmd」列に入力し、次にブロックの終わりに入力します。FM/Db2 は、選択されたブロック内のそれぞれの列の選択状況を切り替えます。

Sn

n 列を選択または選択解除します。

選択または選択解除したい最初の列の「Cmd」フィールドに Sn と入力します。FM/Db2 は最初に選択した列から始まって各列の選択状況を切り替えて、n 個の列にわたりこれを続行します。

S*

列のブロックを、選択された最初の列から順に、それ以降のすべての列を選択または選択解除します。

選択または選択解除したい最初の列の「Cmd」フィールドに S* と入力します。FM/Db2 は最初に選択した列から始まって各列の選択状況を切り替えて、最後の列までこれを続行します。



注: テンプレート内のすべての列を選択解除した場合、FM/Db2 はテンプレート内のすべての列を選択して処理を行います。

関連するタスク

[ROWID 列 ページ 107](#)

関連する参照先

[\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

スクロール時の画面上の列の保持

列を保持して、スクロールする距離に関係なく常に列が表示されるようにすることができます。

TABL 表示形式での左方または右方へのスクロール時には、列が (スクロールする移動量とは無関係に) 常に画面の左側に表示されるように、それらの列を保持することができます。

列を保持するには、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルの **[Cmd]** 列に **H** を入力します。列を解放するには、**[Cmd]** 列に再び **H** を入力します。

列を保持すると、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルの **[H]** 列に **"H"** が表示され、それが最初の保持列であることを示すために **[Seq]** 列に **"1"** が表示されます。2 番目の列を保持すると、それが 2 番目の保持列であることを示すために **[Seq]** 列に **"2"** が表示されるといったようになります。



注:

1. 保持列の **[Seq]** 列に示される順序番号は、表示される列の順序を変更するために入力できる順序番号とは無関係です。保持列は、常にパネル上の左端の列として (テンプレートの編集時に保持した順序で) 表示され、(列が左から右への順序で表示される順序に関する限り) 他の列より優先されます。
2. 複数の列を保持した場合には、保持されていない列のための余地が表示上にほとんど残らない、あるいはまったく残らないことがあります。これは、80 バイト表示の使用時の特有の問題です。この状態では、右方にスクロールできない場合があります。

複数列の保留状況の切り替え

以下の保持コマンドの 1 つを「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルの **[Cmd]** 列に入力することによって、複数列の保持または解放を一度に切り替えることができます。

HH

列のブロックを保持または解放します。

HH を 2 回入力します。最初は、保持または「解放」したい列のブロックの先頭で **[Cmd]** 列に入力し、もう一度はブロックの終わりに入力します。FM/Db2 は、選択されたブロック内のそれぞれの列の保持状況を切り替えます。

Hn

n 列を保持または解放します。

保持または「解放」したい最初の列の **[Cmd]** フィールドに *Hn* と入力します。FM/Db2 は最初に選択した列から始めて各列の保持状況を切り替えて、*n* 個の列にわたりこれを続行します。

関連するタスク

[表示または印刷データの順序の変更 ページ 101](#)

関連する参照先

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

表示または印刷データの順序の変更

テンプレートを編集して、以下を変更することができます。

- 列の表示または印刷順序
- 行の表示または印刷順序

関連するタスク

[表示または印刷される列の順序の変更 ページ 101](#)

[表示または印刷される行の順序の変更 ページ 103](#)

表示または印刷される列の順序の変更

デフォルトでは、FM/Db2 は、Db2® カタログで定義された順序で列を表示または印刷します。これは、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルに列名が表示される順序と同じです。

列を表示または印刷する順序を変更するには、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルの「**Seq**」フィールドを使用して代替順序を指定します。



注: 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル上の「**Seq**」フィールドは、FM/Db2 が列を表示または印刷する順序にのみ影響を与えます。このフィールドは、エクスポート・ユーティリティー機能 (3.7) を使用するときの、列のエクスポートされる順序には影響しません。

例えば、[図 37: 列順序選択を示す基本「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 102](#) に示された「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルで、「JOB」列を最初に表示し、次に「HIREDATE」列を表示する (その後に残りの列が続くようにする) には、以下のようにします。

1. 「JOB」列に対して「**Seq**」列に「1」を入力します。
2. 「HIREDATE」列に対して「**Seq**」列に「2」を入力します。

「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルは、次のように表示されます。

図 37. 列順序選択を示す基本「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Column Selection/Edit                Line 1 of 16
TABLE FMNUSER.EMP
----- Row Selection Criteria ---- (Use SQL/PF4 for full screen edit) -----
1 Sel: _____ +

Cmd Seq SHEX CL# Column name          Data type(length)  Null Default  Order A/D
-----
      S      1 EMPNO                CHARACTER(6)       None      _____
      S      2 FIRSTNME             VARCHAR(12)        None      _____
      S      3 MIDINIT              CHARACTER(1)       None      _____
      S      4 LASTNAME              VARCHAR(15)        None      _____
      S      5 WORKDEPT             CHARACTER(3)       Y Null     _____
      S      6 PHONENO              CHARACTER(4)       Y Null     _____
      2 S      7 HIREDATE              DATE               Y Null     _____
      1 S      8 JOB                  CHARACTER(8)       Y Null     _____
      S      9 EDLEVEL              SMALLINT           Y Null     _____
      S     10 SEX                CHARACTER(1)       Y Null     _____
      S     11 BIRTHDATE         DATE               Y Null     _____
      S     12 SALARY           DECIMAL(9,2)      Y Null     _____
Command ==>
F1=Help      F2=Split     F3=Exit     F4=SQL      F5=RFind    F6=RunTemp
F7=Up        F8=Down     F9=Swap     F10=Left   F11=Right   F12=Cancel
-----

```

3. 「RunTemp」機能キー (F6) を押します。

修正された列順でデータが表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Table Browse                42 rows fetched
TABLE FMNUSER.EMP
JOB      HIREDATE      EMPNO  FIRSTNME  MIDDLE INITIAL  LASTNAME  WORKDEP
#8       #7            #1     #2        #3              #4       #5
CH(8)   DATE         CH(6)  VARCHAR(12) CHARACTER(1)  VARCHAR(15) CH(3)
<-----> <-----> PU--> <-----1-> - <-----1-----> <-NF
**** Top of data ****
PRES    01/01/1965  000010 CHRISTINE<  I          HAAS<      A00
MANAGER 10/10/1973  000020 MICHAEL<   L          THOMPSON<  B01
MANAGER 04/05/1975  000030 SALLY<     A          KWAN<      C01
MANAGER 08/17/1949  000050 JOHN<      B          GEYER<     E01
MANAGER 09/14/1973  000060 IRVING<    F          STERN<     D11
MANAGER 09/30/1980  000070 EVA<       D          PULASKI<  D21
MANAGER 08/15/1970  000090 EILEEN<   W          HENDERSON< E11
MANAGER 06/19/1980  000100 THEODORE< Q          SPENSER<   E21
SALESREP 05/16/1958  000110 VINCENZO< G          LUCCHESI<  A00
CLERK   12/05/1963  000120 SEAN<     O'CONNELL< A00
ANALYST 07/28/1971  000130 DOLORES<  M          QUINTANA<  C01
ANALYST 12/15/1976  000140 HEATHER<  A          NICHOLLS<  C01
Command ==>
F1=Help      F2=Zoom     F3=Exit     F4=CRetriev F5=RFind    F6=RChange
F7=Up        F8=Down     F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel
-----

```

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

関連する参照先

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

表示または印刷される行の順序の変更

行が表示または印刷される順序を変更するには、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルの「Order (順序)」フィールド、およびオプションで「A/D」フィールドを使用します。最も重要な列に対して、「Order (順序)」フィールドに「1」を入力します。その次に重要な列に対して、「Order (順序)」に「2」を入力します。以下同様です。「Order (順序)」フィールドを使用した場合、行はデフォルトで昇順に表示されます。行を降順で表示するには、「A/D」フィールドに「D」を入力します。

「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルの「Order (順序)」か「A/D」のいずれかのフィールドを使用すると、FM/Db2 は Db2® からのデータの検索に使用される SQL SELECT ステートメントに ORDER BY 文節を追加します。

例えば、[図 38 : 行順序選択を示す基本](#)「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 103 に示す「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルでは、「Order (順序)」および「A/D」フィールドが、WORKDEPT の降順で LASTNAME の昇順という順序で行を表示するように指定されています。

図 38. 行順序選択を示す基本「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル

Process	Options	Utilities	Help						
FM/Db2 (DFG2)		Column Selection/Edit	Line 1 of 16						
TABLE FMUSER.EMP									
----- Row Selection Criteria ----- (Use SQL/PF4 for full screen edit) -----									
1 Sel: _____ +									
Cmd	Seq	SHEX	CL#	Column name	Data type(length)	Null	Default	Order	A/D
				**** Top of data ****	****				
---	---	S	1	EMPNO	CHARACTER(6)		None	---	---
---	---	S	2	FIRSTNME	VARCHAR(12)		None	---	---
---	---	S	3	MIDINIT	CHARACTER(1)		None	---	---
---	---	S	4	LASTNAME	VARCHAR(15)		None	2	A
---	---	S	5	WORKDEPT	CHARACTER(3)	Y	Null	1	D
---	---	S	6	PHONENO	CHARACTER(4)	Y	Null	---	---
---	---	S	7	HIREDATE	DATE	Y	Null	---	---
---	---	S	8	JOB	CHARACTER(8)	Y	Null	---	---
---	---	S	9	EDLEVEL	SMALLINT	Y	Null	---	---
---	---	S	10	SEX	CHARACTER(1)	Y	Null	---	---
---	---	S	11	BIRTHDATE	DATE	Y	Null	---	---
---	---	S	12	SALARY	DECIMAL(9,2)	Y	Null	---	---
Command ==>								Scroll	PAGE
F1=Help		F2=Split		F3=Exit		F4=SQL		F5=RFind	
F7=Up		F8=Down		F9=Swap		F10=Left		F11=Right	
								F6=RunTemp	
								F12=Cancel	

データが表示されるときには、修正された順序になります。

図 39. 「Table Browse (表ブラウズ)」パネル

Process	Options	Utilities	Help				
FM/Db2 (DFG2)			Table Browse				42 rows fetched
TABLE FMNUSER.EMP			Format TABL				
EMPNO	FIRSTNAME	MIDINIT	LASTNAME	WORKDEPT	PHONENO	HIREDATE	JOB
#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8 +
CH(6)	VARCHAR(12)	CH(1)	VARCHAR(15)	CH(3)	CH(4)	DATE	CH(8)
PU-->	<---+-----1-->	-	<---+-----1----->	<-NF	<-->	<---+----->	<---+--
**** Top of data ****							
200340	ROY<	R	ALONZO<	E21	5698	05/05/1947	FIELDR
000340	JASON<	R	GOUNOT<	E21	5698	05/05/1947	FIELDR
000330	WING<		LEE<	E21	2103	02/23/1976	FIELDR
000320	RAMLAL<	V	MEHTA<	E21	9990	07/07/1965	FIELDR
000100	THEODORE<	Q	SPENSER<	E21	0972	06/19/1980	MANAGE
200330	HELENA<		WONG<	E21	2103	02/23/1976	FIELDR
000090	EILEEN<	W	HENDERSON<	E11	5498	08/15/1970	MANAGE
000290	JOHN<	R	PARKER<	E11	4502	05/30/1980	OPERAT
000280	ETHEL<	R	SCHNEIDER<	E11	8997	03/24/1967	OPERAT
200280	EILEEN<	R	SCHWARTZ<	E11	8997	03/24/1967	OPERAT
000310	MAUDE<	F	SETRIGHT<	E11	3332	09/12/1964	OPERAT
000300	PHILIP<	X	SMITH<	E11	2095	06/19/1972	OPERAT
Command ==>						Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

関連する参照先

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

列属性の変更

属性は、列の表示、印刷、または作成方法を決定するために使用されます。

列属性を変更するには、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルを使用して、1 つ以上の列に対する「Cmd」フィールドに「E」を入力します。選択した列ごとに、FM/Db2 は「Column Attributes (列属性)」パネルを表示します。

変更できる属性は、以下のとおりです。

- 列見出し
- Output width (出力幅)
- 先行ゼロを表示するかどうか (数値列)
- 新規列の作成に使用する値



注:

1. 数値、DATE、TIME、および TIMESTAMP 列の場合、英数字列の場合と同様に列見出しを変更することができます。
2. DATE、TIME、および TIMESTAMP 列の場合、英数字列の場合と同様に出力幅を変更することができます。
3. 非常に長い列の場合には、表示幅をより小さい値に変更して、より多くのデータが画面に表示されるようにしてください。

関連するタスク

[英数字列の属性の変更 ページ 105](#)

[数値列の属性の変更 ページ 106](#)

関連する参照先

[\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(英数字\) ページ 492](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(数値\) ページ 498](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(DATE\) ページ 497](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(TIME\) ページ 502](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(TIMESTAMP\) ページ 503](#)

英数字列の属性の変更

英数字列の「**Cmd**」フィールドに **E** を入力すると、英数字の「Column Attributes (列属性)」パネルが表示されます。このパネルは、英数字列の作成時に、英数字列の見出しや幅を変更したり、パターンを設定するために使用します。

列見出しの変更

デフォルトでは、FM/Db2 は列見出しとして列名 (Db2® カタログで定義) を使用します。これはテンプレートを編集して、**見出し** 入力フィールドで代替りの列見出しを指定して変更することができます。

列見出しによって、表示列の幅が変更されることがあります。例えば、[図 39: \[Table Browse \(表ブラウズ\)\] パネル ページ 104](#) で、MIDINIT 列の見出しをより長い見出し "MIDDLE INITIAL" に変更する場合に、どのように表示が変わるかを調べるには、以下のようにします。

1. TEDIT 基本コマンドを入力します。

FM/Db2 では、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示します。

2. MIDINIT 列の行で、「**E**」を「**Cmd**」フィールドに入力します。

FM/Db2 では、MIDINIT 列のための「Column Attributes (列属性)」パネルを表示します。

3. 新規の見出し「MIDDLE INITIAL」を「**Heading (見出し)**」入力フィールドに入力します。
4. 「Exit」機能キー (F3) を押します。

FM/Db2 では、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示します。

5. 「Exit」機能キー (F3) をもう一度押します。

FM/Db2 で、「Template Save (テンプレートの保管)」パネルが表示されます。

6. 「RunTemp」機能キー (F6) を押します。

FM/Db2 で、新規の見出しが付いたデータが表示されます。

図 40: より長い見出しのために変更された表示列の幅を示す「Table Browse (表ブラウズ)」パネル ページ 106 は、見出しの変更によって、3 番目の列の幅が、図 39: 「Table Browse (表ブラウズ)」パネル ページ 104 で当初表示されていた幅からどの程度変更されたかを示しています。

図 40. より長い見出しのために変更された表示列の幅を示す「Table Browse (表ブラウズ)」パネル

Process	Options	Utilities	Help			
FM/Db2 (DFG2)			Table Browse			42 rows fetched
TABLE FMUSER.EMP						Format TABL
EMPNO	FIRSTNME	MIDDLE INITIAL	LASTNAME	WORKDEPT	PHONENO	HIREDATE
#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7
CH(6)	VARCHAR(12)	CHARACTER(1)	VARCHAR(15)	CH(3)	CH(4)	DATE
PU--->	<-----1->	-	<---+----1---	<-NF	<-->	<---+----->
**** Top of data ****						
200340	ROY<	R	ALONZO<	E21	5698	05/05/1947
000340	JASON<	R	GOUNOT<	E21	5698	05/05/1947
000330	WING<		LEE<	E21	2103	02/23/1976
000320	RAMLAL<	V	MEHTA<	E21	9990	07/07/1965
000100	THEODORE<	Q	SPENSER<	E21	0972	06/19/1980
200330	HELENA<		WONG<	E21	2103	02/23/1976
000090	EILEEN<	W	HENDERSON<	E11	5498	08/15/1970
:						
Command ===>						Scroll PAGE
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange	
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel	

出力幅の変更

出力幅を変更するには、新しい幅を「**Output width (出力幅)**」入力フィールドに入力します。

出力幅は、表示、編集、ブラウズ、および印刷の各パネルで、TABL 表示または印刷形式で列を表示するために使用する文字桁数です。デフォルトの出力幅は、コピーブックの列定義に従って、列見出し (または、見出しが指定されていない場合には列名) を表示するために必要な最大文字数、および列の値を表示するために必要な文字数になります。

最小幅は 6 文字です。最大幅は、30 文字、または列の幅 + 10 文字のうちの大きい方です。

関連する参照先

[「Column Attributes \(列属性\)」パネル \(英数字\) ページ 492](#)

数値列の属性の変更

数値列の「**Cmd**」フィールドに **N** を入力すると、数値の「Column Attributes (列属性)」パネルが表示されます。このパネルは、数値列の作成時に、数値列の見出しや表示属性を変更したり、パターンを設定するために使用します。

数値列の場合、英数字列の場合と同様に列見出しを変更します。[英数字列の属性の変更 ページ 105](#) を参照してください。

出力幅の変更

出力幅を変更するには、新しい幅を「**Output width (出力幅)**」列に入力します。出力幅は、表示、編集、ブラウズ、および印刷の各パネルで、TABL 表示または印刷形式で列を表示するために使用する文字桁数です。デフォルトの出力幅は、コピーブックの列定義に従い、符号文字および小数点を含めて、列見出し (または、見出しが指定されていない場合には列名) を表示するために必要な最大文字数、および列の値を表示するために必要な文字数になります。

許容される幅は 6 ~ 32 文字です。

先行ゼロの表示

先行ゼロを表示するには、「**Leading zeros (先行ゼロ)**」列に「**YES**」と入力します。デフォルト設定は NO (先行ゼロの抑制) です。図 41: 列 (「**SALARY**」) に先行ゼロが表示されている画面の例 ページ 107 には、SALARY (給与) に先行ゼロが表示されています (他の 2 つの数値列には表示されていません)。

図 41. 列 (「**SALARY**」) に先行ゼロが表示されている画面の例

Process	Options	Utilities	Help			
FM/Db2 (DFG2)			Table Browse		42 rows fetched	
TABLE FMUSER.EMP			Format <u>TABL</u>			
JOB	EDLEVEL	SEX	BIRTHDATE	SALARY	BONUS	COMM
#8	#9	#10	#11	#12	#13	#14
CH(8)	SMINT	CH(1)	DATE	DEC(9,2)	DEC(9,2)	DEC(9,2)
<----->	<----->	-	<----->	<-----1>	<-----1>	<-----1>
**** Top of data ****						
PRES	18	F	08/14/1933	0052750.00	1000.00	4220.00
MANAGER	18	M	02/02/1948	0041250.00	800.00	3300.00
MANAGER	20	F	05/11/1941	0038250.00	800.00	3060.00
MANAGER	16	M	09/15/1925	0040175.00	800.00	3214.00
MANAGER	16	M	07/07/1945	0032250.00	600.00	2580.00
MANAGER	16	F	05/26/1953	0036170.00	700.00	2893.00
MANAGER	16	F	05/15/1941	0029750.00	600.00	2380.00
:						
Command ==>			-----			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange	
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel	

関連する参照先

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(数値\) ページ 498](#)

ROWID 列

ROWID 列を使用して、明らかな固有索引列のない表について固有索引を作成することができます。

行を挿入した後では、ROWID 列のデータを更新することはできません。ROWID 値は、「GENERATED BY DEFAULT」として定義された ROWID 列に対する挿入操作にのみ指定することができます。DB2 for z/OS SQL 解説書を参照してください。

FM/Db2 が ROWID 列の入っている表のためのテンプレートを生成すると、ROWID 列は選択解除されて、File Manager/Db2 エディター・セッションで最初から表示されることはありません。

スクランブル・オプションの指定

データをスクランブルすると、実動(または「ライブ」)データを基にしてテスト・データを作成しながら、特定の列の値を変更できます。

コピー・ユーティリティー (オプション 3.3)、インポート・ユーティリティー (オプション 3.6)、またはエクスポート・ユーティリティー (オプション 3.7) を使用する場合は、コピーする列の一部をスクランブルするか、またはすべての列をスクランブルするかを選択できます。スクランブルする列を指定するには、出力テンプレートでこれらの列にスクランブルのマークを付けます。

列にスクランブルのマークを付けるには、テンプレート内のその列のスクランブル・オプションを設定します。

スクランブル・オプションの指定または変更は、「Column Attributes (列属性)」パネルで行うことができます。パネルには2つの種類があります。英数字列用と数値列用の2つです。

[スクランブル・オプションを指定するための列の選択 ページ 108](#)

[データのスクランブル ページ 301](#)

[「Column Attributes \(列属性\)」パネル \(英数字\) ページ 492](#)

[「Column Attributes \(列属性\)」パネル \(数値\) ページ 498](#)

[「Value List Edit \(値リスト編集\)」パネル ページ 898](#)

[「Scramble Exit Specification \(スクランブル出口指定\)」パネル ページ 809](#)

スクランブル・オプションを指定するための列の選択

「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルから列を選択します。スクランブル・オプションを指定するために列を選択するには、該当する列の隣にある「Cmd」フィールドに「E」を入力します。必要な数の列に対して「E」を入力できません。選択した列ごとに、File Manager は「Column Attributes (列属性)」パネルを表示します。

列のスクランブル・オプション (またはその他の列属性) を更新した後で、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルに戻ると、その列の属性が変更されたことを示す「E」が、E 列 (「SHEX」見出しの下) に表示されます。

指定できるスクランブル・オプションは以下のとおりです。

- スクランブル・タイプ
- 値オプション
- 値入力列
- 値出力列
- 数値範囲の最小値と最大値
- 値データ・セット名

スクランブル・オプションは、入力データのコピー、インポート、またはエクスポート時にその入力データをスクランブルする場合、そのスクランブル方法を決定します。

関連トピック

[スクランブル・タイプの指定 ページ 109](#)

[値オプションの指定 ページ 109](#)

[値入力列および値出力列の指定 ページ 110](#)

[範囲値の指定 ページ 111](#)

[値データ・セット名の指定 ページ 111](#)

[値リストの指定と編集 ページ 111](#)

スクランブル・タイプの指定

【**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**】 オプションは、データのコピー、インポート、またはエクスポート時にデータをスクランブルする方法を決定します。

スクランブル・タイプを次の値のいずれかに設定します。

空白

データは順序変更されません。

1 (「ランダム」)

個々の呼び出しでランダム出力値を生成するように順序変更されたデータ。

2 (「反復可能」)

個々の呼び出しで同じ出力値を生成するように順序変更されたデータ。

3 (「変換」)

値データ・セット (【**Dsn**】 フィールドで指定) に保持されている入力値および出力値を使用して順序変更されたデータ。

このオプションでは、入力列と出力列 (【**IN**】 および 【**OUT**】) および値データ・セット名 (【**DSN**】) で 【**Value (値)**】 オプションを選択する必要があります。変換データ・セットに含まれるすべてのレコードは、コピー操作にメモリーにロードされます。入力列と出力列には、データ・セットに保管されている入力フィールド値および出力フィールド値の位置が示されます。その長さは、コピー、インポート、またはエクスポート操作のためにマップされた、それぞれの入力列と出力列によって決定されます。一致する入力列値が見つかると、一致するレコードから対応する出力列値が取得されます。一致が見つからない場合は、列は、ゼロ、またはデータ作成属性によって決定された値に初期化されます。

4 (「終了」)

スクランブル出口 (別のパネルで指定されます) を使用して順序変更されたデータ。スクランブル出口の記述について詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

関連トピック

[値オプションの指定 ページ 109](#)

[値入力列および値出力列の指定 ページ 110](#)

[範囲値の指定 ページ 111](#)

[値データ・セット名の指定 ページ 111](#)

値オプションの指定

【**Value (値)**】 オプションおよび対応するフィールドは、スクランブル・プロセスの出力を制御します。

このオプションを選択または指定する方法は、関連付けられた列が英数字か数値かによって異なります。

- 英数字列の場合は、以下のいずれかを行います。
 - ブランクを入力して **「Value (値)」** オプションの選択を解除します。
 - **「/」** を入力して **「Value (値)」** オプションの選択を行います。
- 数値列の場合は、以下のいずれかを行います。
 - ブランクを入力して **「Value (値)」** オプションの選択を解除します。
 - **「1」** を入力して範囲を選択します。
 - **「2」** を入力して **「Value (値)」** オプションの選択を行います。

値オプションの選択 (**「/」**)

このオプションを選択すると、以下を提供することができます。

- **変換データ・セット**。これは、**「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」** の 3 (**「Translate (変換)」**) を入力列および出力列と値データ・セットで選択した場合に適用されます。
- **検索データ・セット**。これは、**「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」** の 1 (**「Random (ランダム)」**) または 2 (**「Repeatable (反復可能)」**) を値データ・セット名とともに選択した場合に適用されます。データ・セットはメモリーにロードされ、出力値はロードされたレコードのいずれかからランダムにまたは反復可能なものとして選択されます。出力列は、この列のために選択される値の位置を決定します。
- **値リスト**。これは、値データ・セット名を指定せずに **「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」** の 1 (**「Random (ランダム)」**) または 2 (**「Repeatable (反復可能)」**) を選択する場合に適用されます。この場合、Enter キーを押すと表示されるパネルでこの列の選択値を入力できます。指定する値の 1 つは、コピー、インポート、またはエクスポート操作中にランダムにまたは繰り返し選択されます。入力する値はテンプレートに保管されます。値リストについては、後で詳しく説明します。

値オプションの選択解除 (ブランク)

このオプションを選択解除すると、入力列がスクランブルされ、ランダムまたは反復可能な出力値が作成されます。**「スクランブル・タイプ」** は、1 (**「ランダム」**) または 2 (**「反復可能」**) に設定する必要があります。

値入力列および値出力列の指定

入力列フィールド (**「IN」**) は、値データ・セットでの入力フィールド値の開始位置を定義します。また、入力列を値データ・セットの値と突き合わせるために、コピー、インポート、またはエクスポート操作中に変換プロセスを実行する際に使用されます。このフィールドの長さは、コピー、インポート、またはエクスポート・プロセス中にこの列にマップされる入力列の長さに設定されます。



注: この値は、**「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」** の 3 (**「変換」**) を選択する場合にのみ必要です。

出力列フィールド (**「OUT」**) は、値データ・セットの出力フィールド値の開始位置を定義するもので、コピー操作で以下の方法で使用されます。

- **「変換」**。値データ・セットで入力列値の突き合わせが行われ、対応する出力値が使用されます。
- **「ランダム」** または **「反復可能」**。入力値は、値データ・セットから出力値をランダムにまたは反復可能なものとして選択するために使用されます。



注: この値は、「スクランブル・タイプ」の3(「変換」)を選択する場合に必要です。

「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の1(「Random (ランダム)」)または2(「Repeatable (反復可能)」)を選択して、「**Value (値)**」オプションも選択すると、値データ・セット名 (**DSN**) を指定した場合に出力列が1にデフォルト設定されます。

範囲値の指定

数値列にスクランブル・オプションを指定する場合は、スクランブルされた結果の値を選択する値の範囲を指定できます。

範囲の最小値を「**Min (最小)**」フィールドに指定し、範囲の最大値を「**Max (最大)**」フィールドに指定します。

範囲オプションは、ランダム・スクランブルおよび反復可能スクランブルが指定された場合にのみ選択できます。出力値は、指定された範囲内の数値から、ランダムにまたは反復可能なものとして選択されます。

値データ・セット名の指定

出力データ・セット名フィールドである「**DSN**」フィールドは、値データ・セットを定義します。これは、コピー、インポート、またはエクスポート・プロセス中に出力列値を決定するために使用されるデータが入った、任意のカタログされた順次データ・セット、区分データ・セット、または VSAM データ・セットにできます。

「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の3(「Translate (変換)」)を選択する場合、データ・セットには、入力列および出力列で指定した位置の入力値および出力値が含まれている必要があります。

「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の1(「ランダム」)または2(「Repeatable (反復可能)」)を選択する場合、データ・セットには、出力列で指定した位置の出力値が含まれている必要があります。



Notes:

1. このフィールドは、「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の3(「Translate (変換)」)を選択する場合に必要です。「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の1(「Random (ランダム)」)または2(「Repeatable (反復可能)」)を選択して、「**Value (値)**」オプションも選択すると、オプションでデータ・セット名を指定することができます。このフィールドを空白のままにして「**Value (値)**」オプションを選択すると、テンプレートに保管されている値リストを入力するようにプロンプトが出されます。
2. 値データ・セット・レコードの長さは、フィールドの長さよりも長いまたは同じである必要があります。

値リストの指定と編集

値リストは、コピー、インポート、またはエクスポート操作中に列に取り込む値を選択するために、スクランブル・オプションとともに使用される値のリストです。出力列に値を取り込む場合は、このリスト内のいずれかの値が選択されます。スクランブル・オプションは、元の値をランダム・シードまたは反復可能シードと組み合わせて、リストから値を選択します。

ランダム・スクランブルおよび反復可能スクランブルの場合、値データ・セット・フィールド (**Dsn**) をブランクのままにして、**「Value (値)」** オプションを選択することにより、値リストをインラインで指定できます。

関連する値リストを編集するには、**「Value (値)」** オプションを選択して Enter を押します。FM/Db2 は **「Value List Edit (値リストの編集)」** パネルを表示します。

指定する値は、対応するデータ・タイプで有効である必要があります。値リストを削除すると、前のパネルの値リスト・オプションがオフになります。

16 進値を入力するには、以下のように X'hhhh' 形式を使用します。

```
x'C1C2C3'
```

先行ブランクまたはブランク値を指定するには、以下のように引用符付きストリングを使用します。

```
' SMITH'  
' '
```

ブランク値の行 (引用符なし) は無視されます。

指定されたストリングが含まれる値またはこのストリングで始まる値を現在行に入れるには、FIND コマンドおよび LOCATE コマンドを使用します。

行のコピー、挿入、移動、反復、または削除を行うために接頭部コマンドを使用できます。

値を保管するには F3 を押します。変更を無視するには **「キャンセル」** を押します。

関連トピック

[「Value List Edit \(値リスト編集\)」 パネル ページ 898](#)

データの マッピング

マッピングでは、古い表から新しい表へ列をどのように転送するかを FM/Db2 に指示されます。極端な場合には、ある列を、名前、長さ、およびデータ・タイプ (互換性のある) がそれぞれ異なる列にコピーするように、マッピングを設定することもできます。マッピングは単純なものが大半を占めています。

FM/Db2 でサポートされるその他のタイプのマッピングには、以下のものがあります。

- ある表の列を別の表にマップする。

このタイプのマッピングは、FM/Db2 コピー・ユーティリティで使えます。

- 表の列をファイル内のフィールドにマッピングする。

このタイプのマッピングは、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティおよび Db2® UNLOAD ユーティリティで使えます。

- ファイル内のフィールドを Db2® 表の列にマッピングする。

このタイプのマッピングは、FM/Db2 インポート・ユーティリティーおよび Db2® LOAD ユーティリティーで使用できます。

データをマップできる場所

テンプレートを使用して、以下の FM/Db2 機能でデータをマップすることができます。

- Copy (コピー) (オプション 3.3)
- Import (インポート) (オプション 3.6)
- Export (エクスポート) (オプション 3.7)
- Utilities (ユーティリティー) (オプション 3.9)

関連するタスク

[ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

[LOAD ユーティリティー ページ 367](#)

FM/Db2 によるマッピング

必要な場合には、FM/Db2 を使用してマッピングをセットアップすることができます。これは、「Copy “To” (コピーの宛先)」パネルで「**Edit template mapping (TEMPLATE MAPPING 編集)**」を選択していなければ、自動的に行われます。「宛先」テンプレートにマッピングがない場合には、以下の 2 つのステップを行うことにより、FM/Db2 は対応する移動を実行します。

1. 列名に基づいてマッピングを生成します。すなわち、「From (元)」テンプレートの列は、「To (宛先)」テンプレートの似た名前の列にマップされます。FM/Db2 は、この方法で、できるだけ多くの列にマッピングを行います。
2. 「From (元)」テンプレートの「一致しない」残りの列 (もしあれば) については、FM/Db2 はデータ属性に基づいてマッピングを生成します。
 - FM/Db2 は、「From (元)」テンプレートで一致しない最初の列の属性を、「To (宛先)」テンプレートで一致しない最初の列の属性と比較します。2 つの列の属性が同じ場合には、FM/Db2 はその 2 つの列の間でマッピングを生成します。
 - FM/Db2 は、「From (元)」テンプレートのすべての列に対してマッピングが生成されるか、あるいは 2 つの列の属性が一致しないことがわかるまで、2 つのテンプレートの一致しない列の次のペアで前のステップを繰り返します。

関連する参照先

[「Copy Utility \(“To”\) \(コピー・ユーティリティーの「宛先」\)」パネル ページ 526](#)

[「Import Utility \(“To”\) \(インポート・ユーティリティーの「宛先」\)」パネル ページ 720](#)

[「Export Utility \(“To”\) \(エクスポート・ユーティリティーの「宛先」\)」パネル ページ 702](#)

[\[Load from \(ロード元\)\] パネル ページ 730](#)

[\[UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表\)\)\] の \[To \(宛先\)\] パネル ページ 892](#)

独自マッピングの指定

独自のマッピングを設定する場合は、関連する FM/Db2 機能の “To (宛先)” パネルで **[Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)]** オプションを選択して、“To (宛先)” テンプレートを編集する必要があることを示します。このオプションを選択すると、FM/Db2 は **[Template Mapping (テンプレート・マッピング)]** パネルを表示します (図 42: [\[Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)\] パネル ページ 114](#) を参照)。

図 42. [Template Mapping (テンプレート・マッピング)] パネル

Process		Options		Utilities		Help		
FM/Db2 (DFG2)				Template Mapping				
To	FMUSER.EEMP							
From	FMUSER.EMP							
Cmd	CL#	To Column name	Datatype	NI	CL#	From Column name	Datatype	NI
		**** Top of data ****						
---	1	EMPNO	CH(6)	NN	1	EMPNO	CH(6)	NN
---	2	FIRSTNME	VC(12)	NN	2	FIRSTNME	VC(12)	NN
---	3	MIDINIT	CH(1)	NN	3	MIDINIT	CH(1)	NN
---	4	LASTNAME	VC(15)	NN	4	LASTNAME	VC(15)	NN
---	5	WORKDEPT	CH(3)		5	WORKDEPT	CH(3)	
---	6	PHONENO	CH(4)		6	PHONENO	CH(4)	
---	7	HIREDATE	DATE		7	HIREDATE	DATE	
---	8	JOB	CH(8)		8	JOB	CH(8)	
---	9	EDLEVEL	SMINT		9	EDLEVEL	SMINT	
---	10	SEX	CH(1)		10	SEX	CH(1)	
---	11	BIRTHDATE	DATE		11	BIRTHDATE	DATE	
---	12	SALARY	DEC(9,2)		12	SALARY	DEC(9,2)	
---	13	BONUS	DEC(9,2)		13	BONUS	DEC(9,2)	
---	14	COMM	DEC(9,2)		14	COMM	DEC(9,2)	
S	15	RID	CH(4)					
---	16	TSTAMP	TIMESTAMP					
		**** End of data ****						
Command ==>						Scroll PAGE		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RunTemp			
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F12=Cancel					

図 42: [Template Mapping (テンプレート・マッピング)] パネル ページ 114 では、“宛先”列 RID および TSTAMP に対する “元”列がないことに注意してください。これは、“宛先”テンプレートのこの 2 つの列に対して、“元”テンプレートに対応する列がないことを示しています。表のコピー時に、FM/Db2 は RID および TSTAMP に新しい値を作成します。

関連する参照先

[\[Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)\] パネル ページ 881](#)

[\[Copy Utility \("To"\) \(コピー・ユーティリティーの \[宛先\]\)\] パネル ページ 526](#)

[\[Import Utility \("To"\) \(インポート・ユーティリティーの \[宛先\]\)\] パネル ページ 720](#)

[\[Export Utility \("To"\) \(エクスポート・ユーティリティーの \[宛先\]\)\] パネル ページ 702](#)

[\[Load from \(ロード元\)\] パネル ページ 730](#)

[\[UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表\)\)\] の \[To \(宛先\)\] パネル ページ 892](#)

列のマッピングの設定

列のマッピングを設定または変更するには、その列名に対して **[Cmd]** フィールドに **[s]** を入力します。**[From Column Mapping (元列のマッピング)]** パネルが表示されます。

図 43. 「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                From Column Mapping
To Db2 object . . . : DSN8810.EEMP
From Db2 object . . . : DSN8810.EMP
To column . . . . . : #15 RID
From column . . . . . :

Sel  Cl#  From Column                Data Type(length)
----  ---  -
      D  Delete "From column"
      1  EMPNO                      CHARACTER(6)
      2  FIRSTNME                   VARCHAR(12)
      3  MIDINIT                   CHARACTER(1)
      4  LASTNAME                  VARCHAR(15)
      5  WORKDEPT                  CHARACTER(3)
      S  6  PHONENO                     CHARACTER(4)
      7  HIREDATE                   DATE
      8  JOB                       CHARACTER(8)
      9  EDLEVEL                    SMALLINT
     10  SEX                       CHARACTER(1)
Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Up        Scroll PAGE
F9=Swap      F12=Cancel

```

パネルの一番上の情報が、現在のマッピングを示しています。図 43: 「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネル ページ 115この図で、「To column (宛先列)」は「RID」です。「元」テンプレートに同じ名前の列がないので、「From column (元の列)」は現在表示されていません。

“To (元)”列を変更するには、新しい“From (元)”列に対して「s」を入力します。パネルの最上部の情報が即時に変更されて、新しいマッピングが反映されます。例えば、列 #6 (PHONENO) に対して「s」を入力すると、パネルの最上部の情報は次のように変更されます。

```

;
FM/Db2 (DFG2)                From Column Mapping
To Db2 object . . . : DSN8810.EEMP
From Db2 object . . . : DSN8810.EMP
To column . . . . . : #15 RID
From column . . . . . : #6 PHONENO

```

さらに「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルも変更されて、PHONENO が RID にマップされたことが示されます。

```

;
FM/Db2 (DFG2)                Template Mapping

To      FMNUSER.EEMP
From    FMNUSER.EMP

Cmd CL# To Column name  Datatype  NI  CL# From Column name  Datatype  NI
----  ---  -
      1  EMPNO                CH(6)     NN  |  1  EMPNO                CH(6)     NN
:
      12 SALARY             DEC(9,2)
      13 BONUS              DEC(9,2)
      14 COMM                DEC(9,2)
      15 RID                 CH(4)
      16 TSTAMP              TIMESTAMP
      **** End of data ****
Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F5=RFind     Scroll PAGE
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F12=Cancel   F6=RunTemp

```

これで、RID に対して“元”列に項目が設定されました。

“宛先”列の現在のマッピングを除去するには、その列の「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネルで「Delete “From column” (「元列」の削除)」に対して「s」を入力してください。例えば、[図 42: 「Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)」パネル ページ 114](#) に示す「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルには、“To (宛先)”列 BONUS が “From (元)”列 BONUS にマップされたことが示されています。BONUS のマッピングを除去(どの“元”列にもマップされないように)するには、以下のようにします。

1. [図 42: 「Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)」パネル ページ 114](#) に示す「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルで、列 #13 (「BONUS」) に対して「Cmd」フィールドに「S」を入力します。

[図 44: 「Delete “From column” \(「元列」の削除\)」が選択されたことを示す「From Column Mapping \(元列のマッピング\)」パネル ページ 116](#) に示されているような「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネルが表示されます。

2. 「Delete From column (「元列」の削除)」に対して「S」を入力します。

[図 44. 「Delete “From column” \(「元列」の削除\)」が選択されたことを示す「From Column Mapping \(元列のマッピング\)」パネル](#)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          From Column Mapping
To Db2 object . . . : DSN8810.EEMP
From Db2 object . . : DSN8810.EMP
To column . . . . . : #13 BONUS
From column . . . . : #13 BONUS

Sel  Cl#  From Column          Data Type(length)
----  ---  -
S__   D  Delete "From column"
----  ---  -
1     EMPNO                CHARACTER(6)
2     FIRSTNME           VARCHAR(12)
3     MIDINIT            CHARACTER(1)
4     LASTNAME           VARCHAR(15)
5     WORKDEPT           CHARACTER(3)
6     PHONENO            CHARACTER(4)
7     HIREDATE           DATE
8     JOB                 CHARACTER(8)
9     EDLEVEL            SMALLINT
10    SEX                 CHARACTER(1)
11    BIRTHDATE          DATE
12    SALARY              DECIMAL(9,2)
13    BONUS               DECIMAL(9,2)
14    COMM                DECIMAL(9,2)
----  ---  -
      **** End of data ****

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Up        Scroll PAGE
F9=Swap      F12=Cancel
    
```

3. Enter キーを押します。

BONUS の “元列” のマッピング情報 (「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネルの 4 行目) が表示されます。

図 45. 元列のマッピング情報が削除されたことを示す「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                From Column Mapping
To Db2 object . . . : DSN8810.EEMP
From Db2 object . . . : DSN8810.EMP
To column . . . . . : #13 BONUS
From column . . . . . :

Sel   Cl#   From Column              Data Type(length)
----  -
      D   Delete "From column"
      1   EMPNO                    CHARACTER(6)
      2   FIRSTNME                 VARCHAR(12)
      3   MIDINIT                 CHARACTER(1)
      4   LASTNAME                VARCHAR(15)
      5   WORKDEPT                CHARACTER(3)
      6   PHONENO                 CHARACTER(4)
      7   HIREDATE                 DATE
      8   JOB                      CHARACTER(8)
      9   EDLEVEL                 SMALLINT
     10   SEX                      CHARACTER(1)
     11   BIRTHDATE                DATE
     12   SALARY                   DECIMAL(9,2)
     13   BONUS                     DECIMAL(9,2)
     14   COMM                      DECIMAL(9,2)
      14   COMM                      DECIMAL(9,2)
      **** End of data ****

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Up        F8=Down
F9=Swap      F12=Cancel

```

4. 「Exit」機能キー (F3) を押します。

“To (宛先)”列 BONUS がどの “From (元)”列にもマップされていないことを示す「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルが表示されます。

図 46. 「To (宛先)」列「BONUS」がどの「From (元)」列にもマップされていないことを示す「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネル

```

FM/Db2 (DFG2)                Template Mapping
To          FMUSER.EEMP
From        FMUSER.EMP

Cmd CL# To Column name  Datatype  NI  CL# From Column name  Datatype  NI
---- -
      **** Top of data ****
      1  EMPNO            CH(6)     NN  |  1  EMPNO            CH(6)     NN
      12 SALARY           DEC(9,2)  |  12 SALARY           DEC(9,2)
      13 BONUS            DEC(9,2)  |  13 BONUS            DEC(9,2)
      14 COMM              DEC(9,2)  |  14 COMM              DEC(9,2)
      15 RID                CH(4)     |  6  PHONENO          CH(4)
      16 TSTAMP            TIMESTAMP
      **** End of data ****

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F5=RFind     F6=RunTemp
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F12=Cancel

```



注: Db2® は、Db2® カタログの列の定義に従ってマップされていない列のデフォルト値を決定します。

「To (宛先)」列の属性の変更

“To (宛先)”列の属性を変更するには、「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネル (図 42: 「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネル ページ 114) の列名に対して「E」を入力して、「Column Attributes (列属性)」パネルを表示します。

関連するタスク

[列属性の変更 ページ 104](#)

列のデータの作成

“To (宛先)”列にマッピングがなく、FM/Db2 がこれを “From (元)” と突き合わせることができない場合には、FM/Db2 はその列に対してデータを作成します。

関連するタスク

[データのマッピング ページ 112](#)

別のテンプレートを使用するマッピング

マッピングの関係は、“To (宛先)”テンプレートに保管されます。マッピング情報は、列番号および列名です。テンプレートを再使用してデータをコピー、インポート、エクスポート、またはロードする場合は、マッピング情報が検査されます。FM/Db2 は、指定された位置にある列が、指定された名前を持っていることを確認します。そうでない場合には、FM/Db2 は、マッピングが失敗したことを示して、FM/Db2 機能を終了するか、または “To (宛先)”テンプレートのマッピング情報を更新するかのオプションを提供します。

このことは、マッピングの設定に使用した “From (元)”テンプレートと異なるテンプレートを使用してもよいことを意味しています。ただし、新しいテンプレートの構造が古いテンプレートの構造と異なってはいけません。すなわち、マッピングに使用された列には、位置が異なる列や名前が異なる列はないことになります。しかし、新しい “From (元)”テンプレートは、異なる選択条件を持つことができます。

“To (宛先)”テンプレートを “From (元)”テンプレートとして使用することもできます。ただし、この場合は、マッピング情報に関連性はなくなります。

隣接する列のマッピング

隣接する列をマップする必要がある場合には、SS、Sn、または S* コマンドを使用すると便利です。

複数の列を一度に選択すると、FM/Db2 を押すたびに 「Exit」機能キー (F3) は、次に選択された列の 「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネルを表示します。最後に選択したフィールドの 「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネルを表示して、「Exit」機能キー (F3) を押すと、File Manager は 「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルに戻ります。

関連するタスク

[複数列の選択状況の一度での切り替え ページ 99](#)

関連する参照先

[「From Column Mapping \(元列のマッピング\)」パネル ページ 710](#)

[「Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)」パネル ページ 881](#)

列のマッピング規則

FM/Db2は、表 2: 列のマッピング規則 ページ 119 に示す規則に基づいて、指定された「From (元)」列を指定された「To (宛先)」列にマッピングできるかどうかを判断します。「可」は、マッピングが有効であることを示します。「不可」は、そのマッピングが無効であることを示します。



注: マッピングを行う場合、「宛先」列のデータ・タイプとの互換性がないデータ・タイプの「元」列を選択することはできません。例えば、図 44: 「Delete “From column” (「元の列」の削除) が選択されたことを示す「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネル ページ 116 は、2つの DATE 「元」列の HIREDATE および BIRTHDATE を数値「宛先」列の BONUS へのマッピングには選択できないものとして示しています。

表 2. 列のマッピング規則

「From (元)」列	「To (宛先)」列				
	DATE	TIME	TIMESTAMP	文字	数字
DATE	可	不可	不可	可	不可
TIME	不可	可	不可	可	不可
TIMESTAMP	可 ³	可 ⁴	可 ⁵	可	不可
文字 ⁶	可 ⁷	可 ⁷	可 ⁷	可	可 ⁸

3. TIMESTAMP (タイム・スタンプ) の DATE (日付)

データ・タイプへの変換によって、時刻の値は切り捨てられます。Db2® でインストール定義された日付の形式が LOCAL の場合には、データ・タイプの変換はサポートされません。

4. TIMESTAMP (タイム・スタンプ) の TIME (時刻)

データ・タイプへの変換によって、日付およびマイクロ秒の値は切り捨てられます。Db2® でインストール定義された時刻の形式が LOCAL の場合には、データ・タイプの変換はサポートされません。

5. 非類似 TIMESTAMP

データ・タイプ間で変換を行うと、精度が失われるか、または秒の小数部分にゼロが埋め込まれる可能性があります。同様に、タイム・ゾーン情報が消失するか、または現行サーバーのデフォルトのタイム・ゾーンが追加される可能性があります。例えば次のようになります。

```
TIMESTAMP(4)          ->    TIMESTAMP(10)
2012-12-02-12.34.56.1234      2012-12-02-12.34.56.1234567890

TIMESTAMP(4) WITH TIME ZONE ->    TIMESTAMP(0)
2012-12-02-12.34.56.1234-12:00    2012-12-02-12.34.56
```

6. カテゴリー「文字」には、CHAR および VARCHAR データ・タイプが含まれます。

7. 文字の値は、有効な形式でなければならず、Db2®

のインストールで定義された日付および時刻の形式によって異なります。そうでない場合には、「宛先」列は、データ作成属性で指定されたデフォルト値に設定されます。Db2®

表 2. 列のマッピング規則

(続く)

「From (元)」列	「To (宛先)」列				
	DATE	TIME	TIMESTAMP	文字	数字
数値 ⁹	不可	不可	不可	不可	可

これらの規則は、有効にマップされた「From (元)」列を、どのように「To (宛先)」列に移動するかを規定しています。「To (宛先)」列が以下の場合は次のようになります。

DATE

「From (元)」列にデータ・タイプ TIMESTAMP (タイム・スタンプ) がある場合には、「From (元)」列の 1-4 バイトだけが「宛先」列に移動されます。そうでない場合には、「From (元)」列の完全な 4 バイトが「To (宛先)」列に移動されます。

TIME

「From (元)」列にデータ・タイプ TIMESTAMP (タイム・スタンプ) がある場合には、「From (元)」列の 5-7 バイトだけが「To (宛先)」列に移動されます。そうでない場合には、「From (元)」列の完全な 3 バイトが「To (宛先)」列に移動されます。

TIMESTAMP

「FROM (元)」列と「To (宛先)」列のデータ・タイプが同一であるときは、「From (元)」列のすべてのバイトが「To (宛先)」列に移動します。

精度および TIME ZONE コンポーネントが「FROM (元)」列と「To (宛先)」列では異なる場合、次のようになります。

- 「FROM (元)」列の精度の桁数が「To (宛先)」列の精度の桁数より多い場合、秒の小数部分にある超過した桁は失われます。
- 「FROM (元)」列の精度の桁数が「To (宛先)」列の精度の桁数より少ない場合、秒の小数部分の右側にゼロが埋め込まれます。
- TIME ZONE が「FROM (元)」列に含まれていて「To (宛先)」列には含まれない場合、TIME ZONE 情報は失われます。
- TIME ZONE が「FROM (元)」列に含まれないときに「To (宛先)」列には含まれる場合、TIME ZONE 情報が追加されます。

でインストール定義された日付または時刻の形式が LOCAL の場合には、FM/Db2 はこれを「宛先」列に挿入する前に「元」列の妥当性を検査することはできません。

8. 「From (元)」列は、数字だけで構成されていなければならない、数値列として扱われます。
9. カテゴリー「数値」には、DECIMAL、NUMERIC、SMALLINT、INTEGER、REAL、DOUBLE、DOUBLE PRECISION、FLOAT、および DECFLOAT データ・タイプが含まれます。

文字

データは左端の文字位置に合わせられ、必要に応じて右側のスペースが切り捨てられるか、右側にスペースが埋め込まれます。

「From (元)」列が数値列の場合は、絶対値 (符号なし) が使用されます。列が符号付きとして定義されて符号が 1 文字分を占めている場合は、その文字は移動されず、送られる項目は実際のサイズより 1 文字だけ小さいものと見なされます。

整数またはパック

データは、想定した小数点位置に合わせられ、必要に応じてゼロが切り捨てられるか、埋め込まれます。約束上の小数点は、列の定義で明示的に指定されていない場合は列の右端にあるものと見なされます。

「From (元)」列が数値の場合には、データは、「From (元)」列と「To (宛先)」列が両方とも符号付きとして記述されている場合と同様に移動されます。

「From (元)」列が英数字の場合には、データは、「From (元)」列が符号付き数値として記述されている場合と同様に移動されます。

内部浮動小数点

小数点は、列の左端にあるものと即時に見なされます。データは、小数点に続いて左端の数字位置に合わせられ、指数部の位置合わせもそれに応じて行われます。

外部浮動小数点

データは左端の桁位置に合わせられて、指数もそれに応じて調整されます。

関連するタスク

[列属性の変更 ページ 104](#)

File Manager/Db2 テンプレートからのコピーブックの作成

FM/Db2 は、File Manager/Db2 テンプレートから PL/I または COBOL コピーブックを作成するために使用できる、サンプルの REXX exec (FMN2CPYB) を用意しています。

exec を実行するには、以下のようにします。

1. FMN2CPYB をサンプル・ライブラリー SFMNSAM1 から、TSO セッション (例えば、SYSPROC や SYSEXEC) に割り振られた REXX ライブラリーにコピーします。
2. 以下のステートメントを発行します。

```
FMN2CPYB input_file output_file copybook_type
```

各部の意味は以下のとおりです。

input_file

File Manager/Db2 テンプレートの名前。これは通常、区分データ・セットのメンバーです。

output_file

LRECL=80 順次ファイル、または区分データ・セットのメンバーの名前。出力ファイルには、テンプレートから派生したコピーブックが入っています。順次ファイルまたはメンバー内の既存のデータはすべて上書きされます。

copybook_type

このパラメータはオプションです。これは、作成されるコピーブックのタイプを指定します。有効な値は以下のとおりです。

COBOL

作成される COBOL コピーブック。

PLI

作成される PL/I コピーブック。

第 5 章. Db2® データの表示と変更

Db2® 表またはビューの内容を表示するには、FM/Db2 表示ユーティリティ (オプション 1)、FM/Db2 編集ユーティリティ (オプション 2)、または FM/Db2 ブラウズ・ユーティリティ (オプション B) を使用します。

以下の手順は、FM/Db2 エディターに関して提供されています。多くの場合、これらの操作は「表示」、「編集」、または「ブラウズ」で実行でき、ここでは「エディター」という用語を使用しています。同様に、「FM/Db2 エディター・セッション」という用語は、表示エディター・セッション、編集エディター・セッション、またはブラウズ・エディター・セッションのいずれかを指します。

FM/Db2 View Utility (表示ユーティリティ)

FM/Db2 表示ユーティリティ (オプション 1) を使用すると、データを表示して、一時的に変更できます。ただし、変更を保存することはできません。

表示ユーティリティを使用して FM/Db2 エディターを開始する場合、これは「表示エディター・セッション」(または単に「表示」) 中であると呼ばれます。

ISPF ビューと似ている FM/Db2 表示ユーティリティは、基本的には編集ユーティリティと同じように機能する File Manager/Db2 エディター・セッションを提供します。この機能には、データへの一時的変更を保持できるインターフェースがあります。これは、例えば、ライブ・データを変更するリスクを発生させずに変更を評価する場合に役立ちます。表示エディター・セッションで初めてデータに変更を加えると、FM/Db2 により、次の警告が表示されます。

```
Save is not possible in a View session. Use Edit if you want to be able to
save changes.
```

エディター・セッションでデータを変更した場合に、「Exit」機能キー (F3) を押して View エディター・セッションを終了すると、FM/Db2 により、FM/Db2 に示されているような警告が表示されます。図 47: データ変更後に、View セッションを終了するときに表示される警告 ページ 123

図 47. データ変更後に、View セッションを終了するときに表示される警告

```
Process  Options  Utilities  Help
-----  -
F          You are currently in Data View mode:
T          Press Enter to confirm exit from View.  No changes will be
          saved.
*          Enter the END or EXIT command to return to View.
0
0          Command ==>
0          F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward
0          F8=Forward   F9=Swap      F12=Cancel
0
000007 000090 EILEEN<    W      HENDERSON<    E11      5498
000008 000100 THEODORE<  Q      SPENSER<      E21      0972
000009 000110 VINCENZO< G      LUCCHESI<    A00      3490
Command ==>
F1=Help      F2=Zoom      F3=Exit      F4=CRetrieve  F5=RFind      F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Left     F11=Right    F12=Cancel

Top of 42
Format TABL
0 HIREDATE
#7
DATE
<---->
01.01.1965
10.10.1973
05.04.1975
17.08.1949
14.09.1973
30.09.1980
15.08.1970
19.06.1980
16.05.1958
Scroll PAGE
```

FM/Db2 Edit Utility (編集ユーティリティー)

FM/Db2 編集ユーティリティー (オプション 2) では、データの表示と変更 (挿入や削除、あるいは Db2® 表またはビューの内容の変更) を行ったり、変更内容を保存したりできます。

編集ユーティリティーを使用して FM/Db2 エディターを開始する場合、これは「編集エディター・セッション」(または単に「編集」) 中であると呼ばれます。

FM/Db2 ブラウズ・ユーティリティー

FM/Db2 ブラウズ・ユーティリティー¹⁰ (オプション B) を使用すると、データを表示できます。ただし、変更を保管することはできません。

FM/Db2 エディターをブラウズ・モードで開始する場合、これは「ブラウズ・エディター・セッション」(または単に「ブラウズ」) 中であると呼ばれます。

ブラウズ・エディター・セッションを開始するには、以下のいずれかの操作を実行します。

- 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルで、**B** コマンドを入力します。
- File Manager/Db2 エディター・セッション中に、**BROWSE** コマンドを入力します。
- Db2® オブジェクトのリストで、**B** コマンドを入力します (許可されている場合)。

ブラウズ・エディター・セッションを開始すると、FM/Db2 に「Db2® Browse (ブラウズ)」入力パネルが表示されます。

関連する参照先

- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)
- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」パネル ページ 868](#)
- [Db2 「Browse \(ブラウズ\)」パネル ページ 618](#)
- [BROWSE 基本コマンド ページ 904](#)

FM/Db2 エディター・セッション

このトピックでは、File Manager/Db2 エディター・セッションを開始および終了する方法を示し、“*normal mode* (通常モード)” または “*large mode* (大規模モード)” の指定や、変更の検証と保管などの機能についていくつか説明します。

File Manager/Db2 エディター・セッションの開始

File Manager/Db2 エディター・セッションを開始するには、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルで以下のいずれかを選択します。

1 View (表示)

「Db2® View (表示)」パネルが表示されます。

10. ISPF との整合性を維持するため、FM/Db2 ブラウズ・ユーティリティーは FM/Db2 メインメニューに表示されません。ただし、B コマンドを入力することによって、FM/Db2 ブラウズ・ユーティリティーを選択できます。

2 Edit (編集)

「Db2® Edit (編集)」パネルが表示されます。

B Browse (ブラウズ)

「Db2® Browse (ブラウズ)」パネルが表示されます。



注: 「View (表示)」および「Browse (ブラウズ)」オプションでは、データに対して行った変更は保存できません。

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[Db2 「View \(表示\)」パネル ページ 639](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」パネル ページ 622](#)

エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」または「大規模モード」

FM/Db2 エディターは、「normal mode (通常モード)」または「large mode (大規模モード)」で動作できます。

通常モード

FM/Db2 エディター・セッションを「normal mode (通常モード)」で操作するには、エディター入力パネルの「**Row count (行カウント)**」フィールドに、0、*、ALL 以外の値を入力します。

FM/Db2 エディターは、Db2® オブジェクトから行を取り出し、次の条件のいずれかが発生するまでエディターにその行をロードします。

- Db2® オブジェクトの末尾に達した。
- エディターにロードした行の数が、「**Row count (行カウント)**」フィールドで指定された値と同じになった。
- 使用可能なストレージを使い切った。

FM/Db2 エディターが各行の保管に使用するストレージの量については、[ストレージの考慮事項 ページ 140](#)を参照してください。

エディター・セッションにロードされる行の数の制限については、[行選択基準を指定することによる表示する行の制限 ページ 141](#)を参照してください。

大規模モード

FM/Db2 エディター・セッションを「large mode (大規模モード)」で操作するには、エディター入力パネルの「**Row count (行カウント)**」フィールドに、0、*、または ALL と入力します。FM/Db2 エディターは、Db2® オブジェクトから行を取り出し、次の条件のいずれかが発生するまでエディターにその行をロードします。

- Db2® オブジェクトの末尾に達した。
- 約 3 画面分の行がロードされた。

エディター・データ・パネル (表形式) に表示される行の数は、端末エミュレーション設定 (24 x 80、27 x 132、40 x 132 など) およびオプションの列ヘッダーの数によって異なります。

「大規模モード」では、FM/Db2 エディターは現在の表示要件を満たすのに十分な行だけをメモリーに保持します。必要に応じてスクロールアップまたはスクロールダウンして、Db2® オブジェクトのすべての行を表示することができます。

「大規模モード」の編集セッションでは、現在の表示位置にかかわらず、FM/Db2 エディターは変更されたすべての行もメモリーに保持します。そのため、多くの行が変更された場合、編集セッションに必要なストレージが大幅に増加することがあります。エディター・セッションにロードされる行の数の制限については、[行選択基準を指定することによる表示する行の制限 ページ 141](#)を参照してください。


適切なエディター・モードの選択

「通常モード」と「大規模モード」の2つのエディター・モードには異なる特性があります。その概要を[表 3: エディター・モードの特性 ページ 126](#)で示します。ほとんどの場合、Db2® オブジェクトを処理するためにどちらのモードでも使用できます。

表 3. エディター・モードの特性

	通常モード	大規模モード
ストレージ使用量	ロードする行の数に直接依存します。行数の多いオブジェクトの処理は、非常に大きな TSO 領域サイズを必要とするか、実行できません。	Db2® オブジェクトの行数に依存しません。オブジェクトの行が変更されるに従い、ストレージ使用量が増加します。
Db2®要件	初期データ・ロードは、小さい Db2® オブジェクトの場合は高速で、オブジェクトのサイズが大きくなるに従い遅くなります。ロード後、Db2® オブジェクト内のスクロールは非常に高速です。	初期データ・ロードは、小さい Db2® オブジェクトの場合は高速で、オブジェクトのサイズが大きくなるに従い大幅に遅くなります。ロード後、近い位置へのスクロールは高速ですが、遠い位置へのスクロールは低速の場合があります。
自動コミット機能	使用可能。	使用不可。大規模モードが選択されている場合、自動コミット・オプションは無効になります。データ変更の自動コミットを最初に試行したときに、警告メッセージが表示されます。
データの可視性	ロード後、エディター・セッションのデータは静的で、他のプロセスがデータを変更しても、エディター・セッションのデータは変更されません。	インセンシティブ・カーソルを使用している場合、エディター・セッションで表示されるデータは静的で、他のプロセスがデータを変更しても、エディター・セッションのデータは変更されません。 センシティブ・カーソルを使用している場合、他のプロセスが行を削除または更新すると、エディター・セッションで表示されているデータが変更されます。他のプロセスが挿入した行は、表示されません。

表 3. エディター・モードの特性 (続く)

通常モード		大規模モード
 注: インセンシティブ・カーソルとセンシティブ・カーソルの詳細については、 「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」 パネル ページ 656 を参照してください。		
行の移動 ¹¹	許可。	禁止。
Sort コマンド	許可。	禁止。
行サイズ	制限なし	行サイズは、最大ページ・サイズ (32704) から 16 バイトを差し引いた値を超えてはなりません。この制限を超えると、「The record length of the table exceeds the page size limit」という内容の SQLCODE-670 がエディター・セッションで報告されます。これは、大規模モードでは Db2® スクロール可能カーソルが使用されるためです。この場合は、行ごとに追加の 16 バイトが必要です。SQLCODE-670 が報告される場合は、Db2® 表の表示や更新に「通常モード」を使用してください。

FM/Db2 エディター・セッションの開始位置の指定

処理する Db2® オブジェクトの行のロードは、最初の行から開始することも、別の位置から開始することもできます。

エディター入力パネルの **「Start position (開始位置)」** 入力フィールドで、要求する開始位置を指定します。デフォルトは、1 です。

FM/Db2 エディターが「通常モード」で動作している場合、エディター・セッションには、指定された開始位置から始まる行が含まれます。ロードされる行の総数は、**「Row count (行カウント)」** で指定された値か、必要な数の行をロードする前に Db2® オブジェクトの末尾に達した場合は、これより小さな数となります。スキップされた行を、スクロールアップして表示することはできません。

11. 1. “Moving a row (行の移動)”とは、行の相対位置を変更するあらゆる操作のことです。このような操作には、次のようなものがあります。
- 新しい行または行のグループを挿入する。
 - 行または行のグループを繰り返す。
 - 行または行のグループを移動する。
 - 行または行のグループを新しい位置にコピーする。

これらすべての操作は「大規模」エディター・モードでは禁止されています。

行または行のグループの削除は「大規模」エディター・モードでサポートされています。これは、削除される行はエディター・セッションで特別なマーカーを使用してマークされるため、行の相対位置が変更されないためです。

FM/Db2 エディターが「大規模モード」で動作している場合、最初にエディター・セッションには、指定された開始位置から始まる行が含まれます。スクロールアップして、開始位置より前の行を表示でき、必要であれば、Db2® オブジェクトの最初の行まで表示できます。

使用上の注意: 「Start position (開始位置)」の値を使用して、エディター・セッションにロードされる行を制限したり、Db2® オブジェクトの途中から開始したりできます。例えば、姓の順に並べられた人名が数約 100 万行に含まれているような大きな表があり、S で始まる名前だけをロードしたい場合、「S」で始まる姓のおおよその開始位置が 700,000 くらいであることが分かっているならば、この値を開始値として入力できます。

現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定

現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションを設定するには、ここで示す値のいずれかを「Db2® View (表示)」または「Db2® Edit (編集)」パネルの「Edit options (編集オプション)」で入力して、7つの「Editor Options (編集オプション)」パネルの1番目を表示します。

「/」または「A」

処理する Db2® オブジェクトのデータを表示する前に、最初の「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。最初の「Editor Options (編集オプション)」パネルが表示されると、その他の1つ以上の「Editor Options (編集オプション)」パネルにナビゲートできるようになります。

使用上の注意: オプション・フィールドに「A」と入力すると、ダイアログの動作が変わり、「Editor Options (編集オプション)」パネルが常に表示されます。編集オプションを1回参照するだけでよい場合は、「/」文字を使用します。「/」は、オプションが処理された後で消去され、ダイアログがデフォルトの動作(各種の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示しない)に戻ります。

1 から 8 までの数値

「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルの n 番目を直接表示します。 n は、入力された値です。



注: 「Editor Options (編集オプション)」パネルで設定したオプションは、現行 FM/Db2 エディター・セッションにのみ適用されます。FM/Db2 エディター・セッションを終了すると、編集オプションは、グローバル・編集オプションに戻ります。

ただし編集では、現行の Db2® サブシステムに接続するために、インストールの設定で AUDIT=OPTIONAL,OFF を指定している場合は、監査オプションは例外です。この場合は、グローバル・オプションを使用して設定される監査オプション間、または個々の編集セッションごとに違いはありません。また、指定された値は FM/Db2 セッションが終了した時点で廃棄されます。

関連する参照先

[Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)

[「Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)」 パネル ページ 651](#)

File Manager/Db2 エディター・セッションでの変更の検証と保管

編集の場合にのみ、データを変更し、その変更を Db2® に保管できます。

Db2® オブジェクトの編集セッションには、データ・セットの編集セッションと比較すると、重要な違いがあります。File Manager/Db2 の編集セッションを最大限に有効に使用するには、この違いを理解する必要があります。

Db2® データには、Db2® 呼び出しによってアクセスします。いくつかの重要な Db2® の概念をここで説明します。FM/Db2 エディターが動作する方法を理解するには、これらの概念を理解することが重要になるからです。

Db2® の作業単位

Db2® の作業単位は、プロセスが最初に Db2® に接続するか、データにアクセスしたときに開始されます。作業単位は、プロセスが接続を終了するか、明示的な Db2® COMMIT または ROLLBACK ステートメントを発行するまで続きます。作業単位の開始から終了の間、プロセスは Db2® を何度も呼び出して、行の読み取り(取り出し)、変更(更新)、挿入、または削除を行います。

Db2® COMMIT

これは、現行作業単位の終了を示すために使用する Db2® コマンドです。Db2® コミットは、プロセスの終了時に自動的に行われますが、Db2® データに対する保留中の変更をファイナライズするために Db2® コミットを発行することもできます。Db2® コミットは、取り消しができないステップです。コミットした後、作業単位の開始後に行われた変更を元に戻す(バックアウトする)ことはできません。

Db2® ROLLBACK

これは、現在の作業単位で保留中になっているすべての変更を元に戻す(バックアウトする)ことを示すために使用する Db2® コマンドです。ロールバックを処理した後、Db2® データの状態は、作業単位の開始時点または最後のコミット点での状態と同じになります。

Db2® の作業単位、コミット、およびロールバックの詳細については、該当するバージョンの Db2® の「SQL リファレンス」マニュアルの『Db2® 概念(アプリケーションのプロセス、並行性、およびリカバリー)』を参照してください。

Db2® オブジェクト内の行の順序付けは保証されない

Db2® が基づいているリレーショナル・モデルでは、Db2® 表のデータが特定の順序になっている必要はありません。これは、確かに Db2® オブジェクトのデータは特定の順序で保管されませんが、そのことを意味しているわけではありません。また、Db2® 表での行の保管方法に影響を与える多数のメソッド(CLUSTERING など)を使用できます。FM/Db2 エディターに関しては、次の考慮事項が適用されます。

- データは、Db2® が FM/Db2 に送信する順序で Db2® から読み取られます。入力されるデータに対して ORDER BY 文節が明示的に存在する場合(「Column Selection/Edit(列選択/編集)」パネル上)または暗黙的に存在する場合(VIEW を処理するとき、その VIEW に ORDER BY 文節が含まれているなど)を除いて、2つの行の相対位置について、どのような予測も行われません。
- File Manager/Db2 編集セッションで、ある位置から別の位置に行を移動しても、FM/Db2 が表にデータを保管する方法に影響はありません。
- エディターが「大規模モード」で動作している場合、ある位置から別の位置に行を移動することはできません。

LOB データおよび XML 文書の表示および変更

FM/Db2 エディターでの LOB データや XML データの扱いは他の列のデータの扱いと異なります。その主な理由として、LOB データや XML データの場合は、潜在的に非常に大きなサイズを扱えるということがあります。

エディター・オプション (「[Editor Options \(8 of 8\) \(編集オプション \(8 の 8\)\)](#)」 [パネル ページ 683](#)を参照) を使用して、FM/Db2 エディターに表示される LOB 列または XML 列のデータの量 (存在する場合) を制御できます。デフォルトでは、FM/Db2 エディターでは XML データや XML データの列名は表示されますが、データは表示されません。これにより、FM/Db2 エディターによって使用されるストレージの量が最小限に抑えられます。

処理対象の Db2® オブジェクトに LOB 列が含まれる場合は、エディター基本コマンド LOBBRWS、LOBEDIT、または LOBVIEW を使用して開始した個別の FM/Db2 エディター・セッションで単一の LOB 列のデータを表示したり変更したりできます。

処理対象の Db2® オブジェクトに XML 列が含まれる場合は、エディター基本コマンド XMLBRWS、XMLEDIT、または XMLVIEW を使用して開始した個別のエディター・セッションで単一の XML 列のデータを表示したり変更したりできます。XML 文書のサイズが 10 MB バイト以下の場合、ISPF エディターが使用される。そうでない場合、File Manager エディターが使用されます。



注: データは Db2 表で更新されないため、XMLEDIT セッションまたは LOBEDIT セッションでは SAVE コマンドを使用しないでください。

[表 4: LOB 編集の相違点 ページ 130](#) の説明にあるように、LOB 列にあるデータを処理する File Manager/Db2 エディター・セッションは、Db2® オブジェクトを処理する File Manager/Db2 エディター・セッションと比べて多少異なります。この表では、「*originating session* (元のセッション)」という用語は、LOB 列を含む Db2® オブジェクトの FM/Db2 エディター・セッションを指します。「*LOB session* (LOB セッション)」は、LOB 列の FM/Db2 エディター・セッションを指します。このセッションは、元のセッションから開始されます。

表 4. LOB 編集の相違点

アクション	オブジェクト編集	LOB 編集
開始	機能入力パネルから。EDIT、BROWSE、VIEW エディター基本コマンド。	LOB 列を含む Db2® オブジェクトの File Manager/Db2 エディター・セッション (元のセッション) 内から LOBBRWS、LOBEDIT、LOBVIEW エディター基本コマンドを使用。
保存	行に対する変更。1 回に 1 つずつ Db2® に渡される。多くの理由により、Db2® が、行に対する変更を拒否することがある。	LOB セッションで変更された内容はいずれも、LOB セッションの終了時に Db2® オブジェクトに対する変更として Db2® に渡されない。代わりに、FM/Db2 が LOB ロケーターを使用して、すべての変更内容を保管する。元のセッションで SAVE コマンドが発行されたときに、LOB 列に対する保留中の変更を持つすべての行が Db2® に渡される。

表 4. LOB 編集の相違点 (続く)

アクション	オブジェクト編集	LOB 編集
コミット	Db2® コミットは、元のセッションから SAVE が発行されたときに発行される可能性がある (これは、エディター・オプションの設定に依存する)。Db2® コミットは、元の編集セッションの終わりに発行される。	Db2® コミットは、LOB セッション内からは発行されない。
データ表示	最初、データは、「Initial display format」エディター・オプションの設定に応じて TABL 形式または SNGL 形式で表示される。(「Editor Options (1)」パネルに表示される。)	最初、データは、「LOB display format」エディター・オプションに応じて TABL 形式または SNGL 形式で表示される。(「Editor Options (8 of 8) (編集オプション (8 of 8))」パネルに表示される。) データが SNGL モードで表示されているときは、「Previous (戻る)」PF キーと「Next (次へ)」PF キー (デフォルトでは PF10 および PF11 に割り当てられている) を使用して LOB データをスクロールできる。
VARCHAR	「Varying Length Columns」エディター・オプションが「Editor Options (5 of 8)」パネルに表示される。そのオプションの設定はユーザー設定に依存する。	次の「Varying Length Columns」エディター・オプションが確定される。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> Remove trailing spaces: Off Show end of string: On Convert spaces to Db2 null: Off </div>
保管	「通常」モードや「大規模」モードの説明どおり。表 3 を参照。	LOB 列のデータがすべて FM/Db2 エディターにロードされる。これは、TSO 領域サイズが小さく LOB 列が大きい場合は不可能 (ストレージ不足) などがある。

以下の使用上の注意は、LOB 列内のデータを変更するときに役立つ可能性があります。

- LOB セッションは、単一の VARCHAR(*nn*) 列を含む Db2® オブジェクトの File Manager/Db2 エディター・セッションによく似ています (*nn* は 1000 から 4000 までの範囲にある値)。 *nn* の値は概算値であり、画面サイズや他の要因によって異なります。
- 単一 LOB 列のデータは、LOB セッションでロードされるときに細分化されます。これは単に、3270 端末の制限を前提として LOB データが表示しやすくなるとか変更しやすくなるとかの理由で便宜上行われます。
- FIND エディター・コマンドを使用して、特定のテキストを LOB セッション内で見つけることができます。ただし、LOB セッションで 2 つの「行」に分割されているストリングは検出されません。

- 最初、LOB セッションでは、LOB データは SNGL モードか TABL モードで表示されます。どちらのモードで表示されるのかは、「LOB display format」オプションの現行設定によって決定されます。表示されるデータの量は、「LOB piece size」オプション、端末の特性、および LOB 列の名前の文字数によって決まります。
- データのスクロールが意図された大規模 LOB に関しては、「LOB display format」オプションを「Single」に設定し、「LOB piece size」オプションを「Single display size」に設定することを検討してください。これにより、使用可能な画面サイズを最大限に利用して LOB データを表示できます。また、データの絶対文字位置も表示されます。NEXT コマンドと PREVIOUS コマンド (PF11 および PF10) を使用してデータをスクロールできます。
- 編集操作に関しては、「LOB display format」オプションを「Table」に設定し、「LOB piece size」オプションを「Table display size」に設定することを検討してください。TABL 表示モードでは、各「行」のデータはすべて完全に表示されます。右にスクロールする必要はありません。
- また、Single 表示は、編集操作の開始点として使用できます。編集操作の挿入点が見つかったら、TABL 表示モードに切り替えて、対象の行に対して SP(分割) 接頭部コマンドを発行してください。これにより、その行は、TABL 表示形式で完全に表示されるように、細分化された複数の行に変換されます。
- 「行」の末尾にあるスペースには意味があります。エディターを使用して末尾のスペースを除去するときは慎重に行ってください。FM/Db2 は LOB 列のデータを再び組み合わせるときに、各「行」の VARCHAR の長さを使用して、LOB 列に追加するデータの量を決定します。「行」に含まれるデータが変更されるときに、その「行」から末尾のスペースが間違っ除去されないように、可変長列のエディター・オプション ([Editor Options \(5 of 8\) \(編集オプション \(8 の 5\)\)](#)) [パネル ページ 671](#) を参照) が設定されます。

可変長列の表示ストリング区切り文字 ([Editor Options \(5 of 8\) \(編集オプション \(8 の 5\)\)](#)) [パネル ページ 671](#) を参照) を使用して行の末尾が表示されることに注意してください。入力ストリング区切り文字 ([Editor Options \(5 of 8\) \(編集オプション \(8 の 5\)\)](#)) [パネル ページ 671](#) を参照) を使用すれば、行の末尾を明示的に設定できます。

XML の相違点

FM/Db2 は ISPF エディターまたは File Manager エディターのいずれかを使用して、XML 列に含まれるデータに対する変更を表示したり処理したりします。ISPF エディターは、XML 文書のサイズが 10 MB 以下の場合に使用されます。File Manager と ISPF エディターは、多種多様なデータを処理するように設計されています。

- 本来、ISPF エディターはテキスト・エディターであり、XML データの処理に非常に適しています。
- 本来、File Manager エディターはデータ・エディターであり、テンプレートを使用して記述できる形式を持つデータの処理に非常に適しています。

XML 文書はテンプレートを使用して記述することはできません。

[表 5: XML 編集の相違点 ページ 132](#) は、XML 文書の File Manager/Db2エディター・セッションと ISPF エディター・セッションの重要な相違点をいくつか強調したものです。

表 5. XML 編集の相違点

アクション	オブジェクト編集	XML 編集
開始	機能入力パネルから。Edit、browse、および view エディター基本コマンド。	XML 列を含む Db2® オブジェクトの File Manager/Db2 エディター・セッション (元のセッション) 内から

表 5. XML 編集の相違点 (続く)

アクション	オブジェクト編集	XML 編集
		XMLBRWS、XMLEDIT、XMLVIEW エディター基本コマンドを使用。
保存	行に対する変更。1 回に 1 つずつ Db2® に渡される。多くの理由により、Db2® が、行に対する変更を拒否することがある。SAVE コマンドが発行されたときに、XML 列に対して行われた変更はすべて Db2® に渡される。	XML 文書は XMLEDIT セッションまたは FM/Db2 エディター・セッションのいずれかが終了すると保存される。
使用されるエディター	FM/Db2 エディター	XML 文書のサイズが 10 MB バイト以下の場合、ISPF エディターが使用される。そうでない場合、File Manager エディターが使用されます。
コミット	各種エディター・オプションの設定によっては、SAVE コマンドの終了時に Db2® コミットが発行されることがある。	Db2® コミットは、XML 文書の編集セッション内からは発行されない。
データ表示	最初、データは、「Initial display format」エディター・オプションの設定に応じて TABL 形式または SNGL 形式で表示される。(「Editor Options (1)」パネルに表示される。)	ISPF エディターにおける表示形式は 1 つのみである。データは、表示の前にタグと終了タグのペアで形式設定される。
保管	「通常」モードや「大規模」モードの説明どおり。 表 3: エディター・モードの特性 ページ 126 を参照。	XML 文書のデータはすべて一時データ・セットに書き込まれ、その後 ISPF エディターまたは File Manager エディターのいずれかを使用して処理される。以下の制約により、処理可能な XML 文書のサイズが制限される場合がある。 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーの TSO 領域サイズ。 • 一時データ・セットのサイズに関する割り振り制限。 • ディスク・スペース制約。 • Db2® LOBVALA パラメーター (Db2® ジョブ DSNTIJUZ で指定)。このパラメーターの値は、各ユー

表 5. XML 編集の相違点 (続く)

アクション	オブジェクト編集	XML 編集
		ザーが LOB 値を保管するために使用できるストレージの 最大量をキロバイト単位で制限する。

File Manager/Db2 編集セッションでデータを変更するときの Db2 関連の考慮事項

File Manager/Db2 編集セッションは Db2® の作業単位で、編集セッションの開始時から始まり、次のいずれかの状況が発生するまで継続します。

- END が押されて編集セッションが終了がする。
- CANCEL が押されて編集セッションが終了する。
- File Manager/Db2 SAVE 基本コマンドの一部として、Db2® コミット点が発行される。
- 正常に行われた変更の数が、「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」パネルで指定された「**Auto-commit count (自動コミット・カウント)**」値に達したため、Db2® コミット点が自動的に発行される。

File Manager/Db2 編集セッション内で、データに対して複数の変更を加えることができます。これらの変更は、検証のために、SAVE 基本コマンドで Db2® に送信することができます。Db2® コミット点が発行されない限りいつでも、編集セッションの開始時点でのデータの状態まで、変更をバックアウトする (ロールバックする) ことができます。これとは異なり、データ・セットの編集では通常、変更が保管されると前のバージョンのデータに戻ることができなくなります。

File Manager/Db2 編集セッションで行われた変更は、一度に 1 行ずつ処理されます。これとは異なり、データ・セットの編集では通常、データが保管されるときにすべての変更が同時にデータ・セットに書き込まれ、既存のデータ・セットが新しいデータ・セットと完全に置き換えられます。

Db2® オブジェクトのデータに対する変更は、Db2® が変更を受け入れる前に、Db2® によって検証されます。これとは異なり、データ・セットの変更では通常、データの検証は行われず、SAVE または END 基本コマンドを発行すると、すべての保留中の変更が保管されます。

Db2® は、さまざまな理由で、変更を拒否することがあります。変更が拒否される理由をいくつか示しますが、これがすべてではありません。

- 列のデータ・タイプに対して、不適切な値。例えば、数値列に非数値データが入力されたり、数値列に範囲外の数値データが入力された場合です。
- Db2® オブジェクトに適用される検査制約に対する違反。例えば、人の性別の保管に使用するために CHAR(1) として定義されている列が、「M」または「F」の値だけを受け入れるように制約されていることがあります。
- Db2® オブジェクトに適用される参照整合性規則に対する違反。例えば、別の表に従属行がある基本キーを削除しようとしたときに、制約の DELETE 規則が RESTRICT である場合などです。
- Db2® オブジェクトに定義されている固有索引に対する重複を挿入しようとする試み。

File Manager/Db2 編集セッション内で、次の方法を使用して、Db2® に対する保留中の変更を検証し、オプションでコミットできます。

- 明示的な SAVE 基本コマンドを発行する。
- 他に保留中の変更がないときに、Enter キーを押す (自動保管機能)。 (「 [Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))] パネル ページ 674」 の「Save data (データの保管)」 オプションを参照してください。)
- END キー (通常は PF3) を押して、編集セッションを終了する。 (File Manager/Db2 エディター・セッションの終了 ページ 135 を参照してください。)

SAVE 基本コマンドを発行すると、行われた保留中の変更が一度に 1 行ずつ処理されます。変更ごとに、単一の INSERT、UPDATE、または DELETE SQL ステートメントが生成されます。変更が失敗した場合、FM/Db2 は編集セッションで行にエラーのマークを付けます。Db2® に対するデータの変更を完了 (コミット) する前に、エラーを訂正する必要があります。

「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」 パネルで指定される「Auto-commit count (自動コミット・カウン ト)」に、ゼロ以外の値が指定された場合、FM/Db2 は、SAVE 処理中に Db2® コミット点を自動的に発行する場合があります。指定数の正常に行われた変更が存在している場合は常に、このようなコミット点が発行されます。SAVE 処理時に複数のコミット点が発行される可能性があります。他の行の処理時にエラーが検出されるかどうかに関係なく、コミット点は発行されます。

「Commit when save issued (SAVE を出すときにコミット)」および「Commit when no save errors (保管エラーがないときにコミット)」オプションの設定によって、SAVE 処理の最後に、FM/Db2 が明示的な Db2® コミットを発行することもあります。 (「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」 パネル ページ 674 を参照。)

使用上の注意: 制約の対象になっている Db2® オブジェクトを処理するとき、行われた変更の検証を頻繁に行うと、エディター・セッションの最後 (PF3 を押したとき) で失敗するのを防ぐことができます。編集セッションで SAVE コマンドを繰り返し発行して、行ったばかりの変更を検証でき、また、編集セッション全体をいつでも取り消すことができます。Db2® コミット点を発行するまでは、作業単位全体をロールバックできることに注意してください。「通常モード」では、SAVE 基本コマンドを発行したときに変更を自動コミットするオプションもあります。このオプションは、「大規模モード」では使用できません。

関連する参照先

[SAVE 基本コマンド ページ 970](#)

[「Editor Options \(6 of 8\) \(編集オプション \(8 の 6\)\)」 パネル ページ 674](#)

File Manager/Db2 エディター・セッションの終了

「表示」または「ブラウズ」では、以下のようになります。

FM/Db2 エディター・セッションを終了する方法

「Exit」機能キー (F3) または「Cancel」機能キー (F12) を押します。

「編集」では、以下のようになります。

FM/Db2 エディター・セッションを終了し、行った変更を保管する方法

コマンド行に `END` と入力するか、「Exit」機能キー (F3) を押します。

FM/Db2 エディター・セッションを終了しないで、現行表に行った変更を検証のために Db2® に送る方法

SAVE 基本コマンドを使用します。

SAVE コマンドを使用した場合、FM/Db2 は、行われた変更を一度に 1 行ずつ処理します。変更ごとに、SQL INSERT、UPDATE、または DELETE 操作が行われ、Db2® は 1 つ以上の変更を拒否することがあります。これとは異なり、通常のデータ・セットのエディター・セッションでは一般に、すべての変更が行われるか、まったく変更が行われません。

SAVE 処理について、以下のことに注意してください。

- FM/Db2 は、次のコミット・オプションにしたがって Db2® COMMIT 点を発行します。
 - **Commit when save issued (SAVE を出すときにコミット)**
 - **Commit when no save errors (保管エラーがないときにコミット)**
 - **Auto-commit count (自動コミット・カウント)**

これらのオプションの設定は、グローバル設定、またはこの FM/Db2 エディター・セッションのみに指定された設定のどちらかです。最初の 2 つのオプションは、SAVE 処理の最後に Db2® COMMIT が発行されるかどうかに影響を与えます。3 番目のオプションは、SAVE 処理中に Db2® COMMIT 点が発行されるかどうかに影響を与えます。

- Db2® COMMIT を発行すると、データに対するすべての保留中の変更がファイナライズされます。これは取り消しができないプロセスです。COMMIT を発行した後で、エディター・セッションを取り消すことはできますが、エディター・セッションの開始後に行われた変更はバックアウトされません。逆に、COMMIT を発行していない場合は、何回 SAVE コマンドを発行していても、現行エディター・セッションで行ったすべての変更をバックアウトすることができます。
- エディターが「large mode (大規模モード)」で動作している場合、自動 Db2® COMMIT は使用できません。その場合でも変更は Db2® に送られ、検証されますが、エディター・セッションを終了するまで、最終の COMMIT は据え置かれます。

行った変更 (すなわち、直前の正常なコミット点よりあとの変更) を保管せずに FM/Db2 エディター・セッションを終了する方法

コマンド行に `CANCEL` (または `CAN`) と入力するか、「Cancel」機能キー (F12) を押します。データに何らかの変更を加えていると、FM/Db2 は、その変更を破棄してよいかどうかの確認を求めるメッセージ・ボックスを表示します。



注:



1. まだアクティブになっている関連した従属 FM/Db2 エディター・セッションがある場合
 - 現行 (親) FM/Db2 エディター・セッションを終了するには、これらのセッションを終了する必要があります (現行セッションを取り消さない場合)。
 - 現行 FM/Db2 エディター・セッションを取り消すと、関連したすべての従属 FM/Db2 エディター・セッションも取り消されます。

関連するタスク

[関連表の編集 ページ 198](#)

[エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」または「大規模モード」 ページ 125](#)

関連する参照先

[CANCEL 基本コマンド ページ 905](#)

[SAVE 基本コマンド ページ 970](#)

[「Editor Options \(6 of 8\) \(編集オプション \(8 の 6\)\)」 パネル ページ 674](#)

別の FM/Db2 エディター・セッションの開始

File Manager/Db2 エディター・セッションで、BROWSE、EDIT、VIEW、または REDIT 基本コマンドを発行することによって、別の FM/Db2 エディター・セッションを開始できます。

BROWSE、EDIT、VIEW コマンド

BROWSE、EDIT、および VIEW 基本コマンドは、別の FM/Db2 エディター・セッションを開始して、それぞれ「Browse (ブラウズ)」、「Edit (編集)」、または「View (表示)」入力パネルを表示します。

新規 FM/Db2 エディター・セッションは、現行 FM/Db2 エディター・セッションの上に積み重ねられます。Db2® オブジェクト所有者および Db2® オブジェクト名を指定すると、新規 FM/Db2 エディター・セッションの入力パネルの所有者フィールドと名前フィールドは事前に入力されます。



注: 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルからブラウズ・モードで File Manager/Db2 エディター・セッションを開始するには、BROWSE コマンドの短縮形である **B** をコマンド行に入力します。

例:

VIEW

新規 FM/Db2 エディター・セッションが表示モードで開始されます。

BRO DSN8910.EMP

新規 FM/Db2 エディター・セッションがブラウズ・モードで開始されます。新規エディター・セッションの「Browse (ブラウズ)」入力パネルでは、所有者フィールドは「DSN8910」に設定され、名前フィールドは「EMP」に設定されます。

EDIT EMP

新規 FM/Db2 エディター・セッションが編集モードで開始されます。新規エディター・セッションの「Edit (編集)」入力パネルでは、名前フィールドは「EMP」に設定されます。

新規 FM/Db2 エディター・セッションを終了して、現行 FM/Db2 エディター・セッションに戻るには、End キーまたは CANCEL キーを押します。

REDIT コマンド

REDIT 基本コマンドは、Db2® 参照整合性 (RI) の制約によって、現在編集中の Db2® オブジェクトに関連付けられた表に関する情報を表示します。コマンドはコンテキストで、カーソル移動に影響されます。

関連する参照先

- [関連表のリスト ページ 199](#)
- [BROWSE 基本コマンド ページ 904](#)
- [EDIT 基本コマンド ページ 919](#)
- [VIEW 基本コマンド ページ 980](#)
- [REDIT 基本コマンド ページ 964](#)
- [「Related tables \(関連表\)」パネル ページ 783](#)

表示する Db2® オブジェクトの指定

このセクションでは、FM/Db2 表示ユーティリティ (オプション 1)、FM/Db2 編集ユーティリティ (オプション 2)、または FM/Db2 ブラウズ・ユーティリティ (オプション B) を使用して、Db2® データを表示するか、またはオプションで Db2® データを変更する (編集の場合) ときに、表示する Db2® オブジェクトを指定する方法について説明します。ここでの説明はそれぞれ、「Db2® View (表示)」パネル、「Db2® Edit (編集)」パネル、「Db2® Browse (ブラウズ)」パネルに適用されます。

表示する表を指定するには、「Name (名前)」、「Location (ロケーション)」、「Owner (所有者)」、「Database (データベース)」、「Table space (表スペース)」入力フィールド (最初の 1 つ以外はオプション) を使用します。

データの表示時に FM/Db2 に使用させるテンプレートを指定するには、「Template (テンプレート)」および「Template usage (テンプレート使用法)」入力フィールドの組み合わせを使用します。以下を行うことができます。

- Db2® オブジェクトの形式が記述されたテンプレートを指定します。
 - テンプレートを指定するには、「Data set name (データ・セット名)」、およびオプションで「Member (メンバー)」を使用してください。
 - 1 (「Above (上の指定)») を選択します。
- 最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。
 - 2 (「Previous (直前の指定)») を選択します。

「Data set name (データ・セット名)」および「Member (メンバー)」フィールドの値は無視されます。

- Db2® カタログの情報を使用してテンプレートを生成するには、FM/Db2 を使用します。
 - 3 (「Generate from table (表からの生成)») を選択します。これはデフォルト設定です。

「Data set name (データ・セット名)」および「Member (メンバー)」フィールドの値は無視されます。

- FM/Db2 に、Db2® カタログの情報を使用してテンプレートを生成させ、指定した名前を使用して生成されたテンプレートを保管します (同じデータ・セットが既に存在している場合には、FM/Db2 によってそれが置き換えられる)。
 - 生成されたテンプレートの保管時に FM/Db2 が使用する名前を指定するには、「**Data set name**」、およびオプションで「**Member (メンバー)**」を使用してください。
 - 4 (「Generate/Replace (生成/置き換え)」) を選択します。

以下のオプションを選択すれば、現行エディター・セッション用のオプションを変更することができます。

Edit options (編集オプション)

以下のいずれかを入力してください。

[/] または [A]

処理する Db2® オブジェクトのデータを表示する前に、最初の「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

1 から 8 までの数値

「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルの n 番目を直接表示します。 n は、入力された値です。

設定したどのオプションも、現行編集セッションの間のみ持続し、競合するグローバル・オプションがあると、オーバーライドします。編集オプションを永続的に変更するには、オプション 0.2 を選択してください。

以下のオプションは、[/] または [A] を入力することで選択できます。

Edit template (テンプレートの編集)

データを編集する前にテンプレートを編集するには、このオプションを選択します。

Re-edit template (テンプレートの再編集)

編集ダイアログ内のパネル間のナビゲーションを制御するには、このオプションを選択します。このオプションは、編集セッション内から押されたときの F3 キーおよび F12 キーの動作を制御します。

Create audit trail (監査証跡の作成)

このオプションを選択して、現在の編集セッション中に実行された Db2® データに対するすべての正常な変更の監査追跡報告書を生成します。



注: このオプションは、SAF 規則で制御された監査が有効でない場合、表示されません。SAF 規則で制御された監査 ページ 72 を参照してください。



注: オプション・フィールドに [A] と入力すると、ダイアログの動作が変わり、該当するオプション・パネルが常に表示されます。オプション・パネルを 1 回参照するだけでよい場合は、[/] 文字を使用します。[/] は、オプ



セッションが処理された後で消去され、ダイアログがデフォルトの動作 (各種オプション・パネルを表示しない) に戻ります。

関連するタスク

[FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

[現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)

[テンプレートの編集 ページ 84](#)

関連する参照先

[Db2 「Browse \(ブラウズ\)」 パネル ページ 618](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)

FM/Db2 が Db2® からロードするデータの制限

Db2® 表またはビューを File Manager/Db2 エディター・セッションで表示する場合、FM/Db2 は Db2® にアクセスして、表またはビュー内のデータのコピーを取得します。このデータのコピーは、FM/Db2 エディターにロードされます。通常的环境下では、Db2® オブジェクトの各列のデータが検索されます。ただし、例外として LOB 列または XML 列があります (詳細については、[LOB データおよび XML 文書の表示および変更 ページ 130](#) を参照してください)。テンプレート・エディターを使用して 1 つ以上の列を選択解除したかどうかに関係なく、この検索は行われます。

しかし、特定の選択基準を満足するデータにしか興味がないため、あるいは単に FM/Db2 が検索するデータの行数を制限するための理由で、FM/Db2 がロードするデータを制限したい場合があります。

以下の節では、FM/Db2 がロードするデータを制限できる方法について説明します。

関連するタスク

[ストレージの考慮事項 ページ 140](#)

[大きな表またはビューの表示 ページ 141](#)

[行選択基準を指定することによる表示する行の制限 ページ 141](#)

[「Row count \(行カウント\)」 入力フィールドを使用した表示する行の制限 ページ 142](#)

[行選択基準の対話式での開発 ページ 142](#)

[FM/Db2 が検索するデータを制限するための SELECT ステートメント編集の使用 ページ 143](#)

[エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」 または 「大規模モード」 ページ 125](#)

[FM/Db2 エディター・セッションの開始位置の指定 ページ 127](#)

ストレージの考慮事項

大きい Db2® 表またはビューを操作している場合は、Db2® オブジェクトのコピーを保管するために、エディター内で必要なスペースを考慮する必要がある場合があります。

FM/Db2 エディターは、TSO ユーザーのアドレス・スペース内のストレージを使用します。アドレス・スペースのサイズは、TSO 領域サイズによって決められ、システム管理者によって制限されている場合があります。1 つの指針として、FM/

Db2 エディターで必要とされるスペースの量は、ロードされた行数に、それぞれの行内のデータのバイト数を乗算し、さらにエディターのオーバーヘッドを乗算したものになります。

例えば、FM/Db2 エディターに 20 バイトの行を 100,000 行ロードするには、少なくとも 2 MB のストレージが必要です。エディターのオーバーヘッド係数は、最小が 1 で、3 までにすることができると、最大 6 MB のストレージが必要な場合があります。

別の例では、それぞれの行が 1000 バイトを占めている場合、1024 行をロードすると、約 1 MB のストレージが必要になります。したがって、そのような行を 100,000 個ロードすると、少なくとも 100 MB のストレージが必要になります。

エディターが「通常モード」で動作している場合、ロードされる行の数は固定のままです。この行数を使用して、ストレージ所要量の合計を見積もることができます。

エディターが「大規模モード」で動作している場合、ロードされる行の数は TABL 表示形式で表示される行数の約 3 倍です。この数は、スクロール操作に関係なく変更されません。行を変更すると、これらの行はエディターに残ります。そのため、表の多数の行を変更する編集操作を実行した場合も、ストレージの問題が発生することがあります。

多数の行を変更する必要があるときは、SQL ステートメントを直接実行して表を変更することを検討してください。

大きな表またはビューの表示

TSO 領域で使用可能なよりも多くのストレージを Db2® 表またはビューが必要としている場合は、FM/Db2 が Db2® からロードするデータを制限する必要があります。これを行う最も簡単な方法は、入力パネルの「**Row count (行カウント)**」フィールドで、ALL、0、または * を指定して、「large mode (大規模モード)」を選択することです。「大規模モード」は、製品インストーラーによって使用不可にするよう選択された場合は、使用できないことがあります。

ラージ・オブジェクト列を含むオブジェクトを処理するときには、FM/Db2 では、そのラージ・オブジェクト列ごとに、その列になる可能性のある最大サイズで、そのオブジェクトから 1 行分のデータを格納するのに必要なメモリー (仮想ストレージ) と同じか、またはそれ以上のサイズのメモリーが必要になります。これは、TSO 領域のサイズが小さく、また、オブジェクト・データがメガバイト単位 (またはそれ以上) の大きさを持つ場合には、不可能であることがあります。ラージ・オブジェクト列を持つオブジェクトを処理するには、ラージ・オブジェクト列なしでそのオブジェクトの Db2® ビューを作成してから、そのビューを処理します。

以下の節では、FM/Db2 がロードするデータを制限できるその他の方法について説明します。

関連する参照先

[エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」または「大規模モード」 ページ 125](#)

行選択基準を指定することによる表示する行の制限

行選択基準を指定すると、FM/Db2 は指定した基準に一致する行のみを Db2® から検索します。それらの行のみが Db2® エディターにロードされます。通常、行選択基準を指定することが、FM/Db2 が Db2® からロードするデータを制限するための最も便利で効率的な方法です。

この方法は、「通常モード」と「大規模モード」の両方に適用されます。

関連するタスク

[行の選択 ページ 86](#)

[エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」または「大規模モード」 ページ 125](#)

行選択基準の対話式での開発

慣れていない Db2® 表またはビューを表示または編集することが必要な場合があります。この場合、表またはビューの一部の行だけを表示 (場合によっては変更) する必要があります。FM/Db2 表示および FM/Db2 編集では、興味のある行を識別し、FM/Db2 がロードするデータを行選択基準を使用して制限するのを、対話式に支援するオプションを提供しています。

この方法を使用するには、「**Edit template (テンプレートの編集)**」および「**Re-edit template (テンプレートの再編集)**」オプション (“A” を使用) を設定して、エディター・ダイアログの動作を変更する必要があります。次に、データ表示と「**Column Selection/Edit (列の選択/編集)**」パネルとを交互に切り替えて、必要な行が正確に識別されるまで、行選択基準を調整することができます。

関連するタスク

[FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

[行の選択 ページ 86](#)

「Row count (行カウント)」入力フィールドを使用した表示する行の制限

FM/Db2 が Db2® から検索するデータの量を制限するのみであれば、「Db2® View (表示)」パネルまたは「Db2® Edit (編集)」パネルで「**Row count (行カウント)**」入力フィールドを使用して、希望する Db2® データの行数を指定します。

この入力フィールドを使用して「large mode (大規模モード)」を選択できます。そのためには、フィールドに ALL、0、または * と入力します。

最大数の行が検索されると、最後の行のすぐ下に (TABL 表示形式で)、“*Limit of Rows Retrieved (行の制限まで検索されました)*” というメッセージが表示されます。

大きい表の表示または編集時に「**Start position (開始位置)**」入力フィールドと組み合わせてこの入力フィールドを使用して、その表の小さい部分を表示することができます。次に、行選択基準を指定して、行の検索を、興味のある行だけに制限することができます。

関連する参照先

[Db2 「View \(表示\)」パネル ページ 639](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」パネル ページ 622](#)

「Start position (開始位置)」入力フィールドを使用した表示する行の制限

場合によっては、表示したい複数の行が同じ表にあるが、その行が必ずしも先頭にはないことがあります。このとき、おおよその開始行番号がわかっている場合は、開始位置の値を「**Start position (開始位置)**」入力フィールドで指定できます。FM/Db2 は、指定された開始位置まで行をスキップし、そのポイントから行をロードします。

「normal mode (通常モード)」では、「**Row count (行カウント)**」値は表の先頭ではなく、開始行から適用されます。行がロードされた後、スキップされた行を、スクロールアップして表示することはできません。

「large mode (大規模モード)」では、FM/Db2 は開始位置から「[エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」または「大規模モード」 ページ 125](#)」に記載されている制限に達するまで、行をロードします。「大規模モード」では、必要に応じて、開始位置から表の最初の行までスクロールアップできます。

関連する参照先

[Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)

FM/Db2 が検索するデータを制限するための SELECT ステートメント編集の使用

“SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレン”機能(オプション 4.3)を使用して、SELECT ステートメントを入力して、その結果を File Manager/Db2 エディター・セッションで表示できます。一般的に、Db2® 表またはビューを表示または編集する場合は、「View (表示)」(オプション 1) および「Edit (編集)」(オプション 2) が推奨されます。ただし、オプション 4.3 を使用して、検索する列を指定することができます。

例えば、以下のステートメントは、すべての列を DSN8810.EMP 表から検索します。

```
SELECT * FROM DSN8810.EMP
```

ただし、以下のステートメントは、リストされた列のみを検索します。

```
SELECT EMPNO, FIRSTNME, MIDINIT, LASTNAME, WORKDEPT, PHONENO,  
HIREDATE, JOB, EDLEVEL, SEX, BIRTHDATE FROM DSN8810.EMP
```

多数の列がある表を編集していて、そのほとんどが興味のない列である場合に、この方法を使用することができます。あるいは、Db2® オブジェクトに幅の広い行がある場合は、長い VARCHAR または VARGRAPHIC 列を省略すると、FM/Db2 が検索してエディターにロードするデータの量が目覚しく削減されることがあります。



注: Db2® オブジェクトから列を省略すると、一部の編集操作ができなくなる場合があります。例えば、省略された列のいずれかが NOT NULL として定義されていると、新規行の挿入は失敗します。

関連するタスク

[View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)

[ストレージの考慮事項 ページ 140](#)

[SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレン ページ 437](#)

関連する参照先

[Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)

[「Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)」 パネル ページ 651](#)

File Manager/Db2 エディター・セッションでのデータの表示

Db2® 表またはビューを File Manager/Db2 エディター・セッションで表示する場合、以下のことが可能です。

- 特定の行または列を探し出す
- 特定のストリングまたは数値のデータを検索する
- データの表示形式を選択する
- データをスクロールまたはソートする

File Manager/Db2 エディター・セッションで取り出された行のカウント

エディター・セッションで FM/Db2 が初めてデータを表示するときは、取り出された行数を (nn rows fetched として) 表示します。"*nn rows fetched*" は、第 2 行 (コマンド行が画面下部にある場合)、または第 3 行 (コマンド行が画面上部にある場合) の左上に表示され、ユーザーが Enter または任意の機能キーを押すまで表示され続けます。

行の位置決め

特定の行番号に移動するには、LOCATE 基本コマンドを使用します。File Manager/Db2 エディター・セッションでは、行番号は 1 から付けられます。そして、その行番号は、TABL 表示モードでは接頭部域に、SNGL 表示モードではパネルの右上に表示されます。例えば、42 行へ移動するには、次のコマンドを入力します。

```
LOCATE 42
```

TABL 表示形式では、このコマンドによって表示が前後にスクロールされるので、行番号 42 は画面上部に表示されます。SNGL 表示形式では、画面が変更されて、行番号 42 が表示されます。

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、LOCATE 基本コマンドを使用して、特定ラベルが割り当てられた行に移動することもできます。例えば、"*HERE*" というラベルの付いた行へ移動するには、次のコマンドを入力します。

```
LOCATE .HERE
```

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、TABL 表示形式の場合は、このコマンドによって表示が前後にスクロールされるため、ラベル "*HERE*" が付いた行は画面上部に表示されます。SNGL 表示形式では、画面が変更されて、それまで表示されていた TABL 表示形式の "*HERE*" というラベルの行が表示されます。

関連するタスク

[TABL 表示形式 ページ 156](#)

[SNGL 表示形式 ページ 158](#)

[行へのラベルの割り当て ページ 152](#)

関連する参照先

[LOCATE 基本コマンド ページ 951](#)

列の位置決め

LOCATE 基本コマンドを使用して特定の列に移動できます。Db2® 列番号か、列名の一部またはすべてを指定できます。

Db2® の列番号は、列番号の前に '#' 記号を付けて (例えば、#4 のように) 指定します。Db2® 列番号は、データを表示するときに、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルに表示されます。表示形式には、TABL と SNGL を任意で選択できます。(列番号を表示するには、3 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルで、「**Show column number (列番号の表示)**」を選択する必要があります。) 長い文字列 (50 バイトを超える列) の場合のみ、オプションで列内の文字位置を指定することができます。

Db2® 列名は、列名のすべてまたは一部に引用符付きまたはなしで入力して指定します。

指定された列が FM/Db2 によって検出されると、データがスクロールされて、条件に一致する列が TABL 表示形式の場合は画面の左側に、SNGL 表示形式の場合は画面最上部に表示されます。また、指定した列が FM/Db2 によって検出された後に、F11 (次のレコードを表示) または F10 (前のレコードを表示) を押すと、データがスクロールされて、表示されている各レコードの条件に一致する列が、SNGL 表示形式では画面最上部に表示されます。TABL 表示形式に変更すると、データがスクロールされて条件に一致する列が画面左側に表示されます。

関連するタスク

[TABL 表示形式 ページ 156](#)

[SNGL 表示形式 ページ 158](#)

[View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)

[現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)

関連する参照先

[LOCATE 基本コマンド ページ 951](#)

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

[「Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)」パネル ページ 661](#)

列番号または列名の指定

列を探し出す場合、次のいずれかを指定します。

- Db2® 列番号
- 列名
- 列名の一部

データの列 4 を探し出すコマンドは、次のようになります。

```
LOCATE #4
```

データの列 4 を探し出して、その列の文字位置 100 が表示されるように表示をスクロールするコマンドは、次のようになります。

```
LOCATE #4 100
```

データの列 EMPNO を探し出すコマンドは、次のいずれかになります。

```
L EMPNO
```

```
L 'EMPNO'
```

列名の一部を指定すると、列名内に指定されている文字列を含むすべての列が LOCATE コマンドによって探し出されません。例えば、以下のようにします。

```
L NO
```

と入力すると、EMPNO と DEPTNO の両方が検出されます。

FLD パラメータの使用

FLD パラメータは、FLD キーワードの後に続く文字列が、検索対象の列名またはその一部であることを FM/Db2 に示します。FLD パラメータは、列名と他のパラメータとの間に存在するあいまいさを解決するのに使用します。

検索文字列が *"NEXT"*、*"PREV"*、*"FIRST"*、*"LAST"*、*"FLD"*、および *"#"* で始まる文字列 (つまり数値) の場合は、FLD パラメータは文字列の前に指定する必要があります。

例えば、#ITEMS など、# 記号を含む列名を探し出す場合には、次のコマンドを使用します。

```
L FLD #ITEMS
```

記号の後は Db2® の数値の列番号であると FM/Db2 が想定しているため、コマンド `L #ITEMS` はエラーになります。

検索の方向と開始点の指定

デフォルトでは、LOCATE 基本コマンドは、画面の左側 (TABL 表示形式) または一番上 (SNGL 表示形式) に現在表示されている列から開始して、指定された列名の次の発生を検索します。

列名検索の方向や有効範囲は、次のオプション・パラメータの入力により、コントロールすることができます。

- NEXT
- PREV
- FIRST
- LAST

以下のセクションでは、上記の各パラメータについて説明します。

NEXT パラメータの使用

NEXT はデフォルト値です。以下のコマンドでは、文字列 *"NO"* を含む次の列名を検索します。

```
L NEXT 'NO'
L NO NEXT
```

TABL 表示形式の場合、上記のコマンドを実行すると、画面左側に現在表示されている列 (これは除外されます) の右にある列から右方向にスキャンが開始され、*"NO"* または文字列 *"NO"* を含む最初の列名 (NO、EMPNO、DEPTNO、および NOMINAL など *"NO"* を含むすべて) が検索されます。一致する列名または Db2® オブジェクトの最後の列のいずれかが検出されたときに検索は終了します。一致する列名が検出された場合、FM/Db2 はデータをスクロールして、画面左側にその列を表示します。

SNGL 表示形式の場合、上記のコマンドを実行すると、画面最上部に現在表示されている列 (これは除外されます) の下にある列から下方向にスキャンが開始されて、条件に一致する最初の列名が検索されます。一致する列名または Db2® オブジェクトの最後の列のいずれかが検出されたときに検索は終了します。一致する列名が検出された場合、FM/Db2 はデータをスクロールして、画面最上部にその列を表示します。

PREV パラメーターの使用

以下のコマンドでは、ストリング “NO” を含む次の列名を後方向に検索します。

```
L PREV NO
L NO PREV
```

TABL 表示形式の場合、上記のコマンドを実行すると、画面左側に現在表示されている列 (これは除外されます) の左にある列から左方向にスキャンが開始され、“NO” またはストリング “NO” を含む最初の列名が検索されます。一致する列名または Db2® オブジェクトの最初の列のいずれかが検出されたときに検索は終了します。一致する列名が検出された場合、FM/Db2 はデータをスクロールして、画面左側にその列を表示します。

SNGL 表示形式の場合、上記のコマンドを実行すると、画面最上部に現在表示されている列 (これは除外されます) の上にある列から上方向にスキャンが開始されて、条件に一致する最初の列名が検索されます。一致する列名または Db2® オブジェクトの最初の列のいずれかが検出されたときに検索は終了します。一致する列名が検出された場合、FM/Db2 はデータをスクロールして、画面最上部にその列を表示します。

FIRST パラメーターの使用

以下のコマンドでは、ストリング “NO” を含む最初の列名を検索します。

```
L FIRST NO
L 'NO' FIRST
```

TABL 表示形式の場合、上記のコマンドを実行すると、Db2® オブジェクトの最初の列から右方向にスキャンが開始され、“NO” またはストリング “NO” を含む最初の列名が検索されます。一致する列名または Db2® オブジェクトの最後の列のいずれかが検出されたときに検索は終了します。一致する列名が検出された場合、FM/Db2 はデータをスクロールして、画面左側にその列を表示します。

SNGL 表示形式の場合、上記のコマンドを実行すると、Db2® オブジェクトの最初の列から下方向にスキャンが開始されて、条件に一致する最初の列名が検索されます。一致する列名または Db2® オブジェクトの最後の列のいずれかが検出されたときに検索は終了します。一致する列名が検出された場合、FM/Db2 はデータをスクロールして、画面最上部にその列を表示します。

LAST パラメーターの使用

以下のコマンドでは、ストリング “NO” を含む最後の列名を検索します。

```
L LAST NO
L NO LAST
```

TABL 表示形式の場合、上記のコマンドを実行すると、Db2® オブジェクトの最後の列から左方向にスキャンが開始され、“NO” またはストリング “NO” を含む最後の列名が検索されます。一致する列名または Db2® オブジェクトの最初の列の

いずれかが検出されたときに検索は終了します。一致する列名が検出された場合、FM/Db2 はデータをスクロールして、画面左側にその列を表示します。

SNGL 表示形式の場合、上記のコマンドを実行すると、Db2® オブジェクトの最後の列から上方向にスキャンが開始されて、条件に一致する最初の列名が検索されます。一致する列名または Db2® オブジェクトの最初の列のいずれかが検出されたときに検索は終了します。一致する列名が検出された場合、FM/Db2 はデータをスクロールして、画面最上部にその列を表示します。

ストリングの検索

データから特定のストリングを検索するには、FIND 基本コマンド (F または / に短縮できる) を使用します。

例えば、次に現れる “Golden” というストリングを、大文字と小文字がどのように混合していても関係なく検索するには、コマンド行に次のように入力します。

```
F GOLDEN
```

検索の繰り返し

カーソルを次に現れる検索ストリングに移動するには、RFIND 基本コマンドを発行するか、「RFind」機能キー (F5) を押します。




注: RFIND は、カーソル位置から機能します。「RFind」機能キー (F5) を使用すると、カーソルはデータの本文内にそのまま置かれ、キーを押すとストリングの次の出現に移動します。ただし、コマンド行で RFIND 基本コマンドを入力する場合は、カーソルを *string* の最後の出現上に再配置して、次の出現を検索するために Enter キーを押します。

直前の FIND 基本コマンドでの指定と同じストリングを検索するには、検索ストリングとしてアスタリスク (*) を指定します。

長いストリングの処理

文字カラム (CHAR、VARCHAR) の場合には、検索ストリングを 100 文字の長さまで指定することができます。ただし、長い検索ストリングを扱うとき、FIND コマンド全体 (他のパラメーターも含む) をコマンド行に収めることができない場合があります。この問題を解決するには、以下のいずれかを実行して「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを表示します。

- `FX` (Find Extended の略) を入力します。
- FIND コマンド (または [F] や [/] などの省略形) をパラメーターなしで入力します。

 **注:** 現行 FM/Db2 エディター・セッションで以前に FIND コマンドまたは CHANGE コマンドを使用したことがある場合、このように「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを表示するには、最初に RESET コマンドを使用してから、FIND コマンド (またはその省略形) をパラメーターなしで入力する必要があります。あるいは、FX と入力してください。

「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルには、すべての FIND コマンド・パラメーター (ただし、実際のキーワード FIND またはその省略形ではない) の入力に使用する 5 つの行 (各行の長さは 50 文字) が含まれています。FM/Db2 は、このポップアップ・パネル上の 5 行を連続したものとして扱います。これにより、長い検索ストリング、Db2® 列番号、他の任意のパラメーター (オプション) を、合計で 250 字まで指定できます。


 **注:** 検索ストリング (または他の任意のパラメーター) は、ポップアップ・パネルの行の末尾から次の行の先頭に続けることができます。ただし、1 行を完全に埋めてから次の行を使用しなければならないというわけではありません。例えば、1 行目で検索ストリングを指定し、次の行で Db2® 列番号 (#n として指定) を指定することができます。行の未使用部分に関して、FM/Db2 はそれをシングル・スペースとして扱います。

図 48: 連続する入力行を示す FIND コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル
ページ 149 は、FIND コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを示しています。この例では、FM/Db2 は長いストリング (78 文字) の前のオカレンスを Db2® 列 3 で検索します。

図 48. 連続する入力行を示す FIND コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Table Edit
TABLE FMUSER.EMP                Format TABL
                                DATE
                                -----
                                Extended Command Entry
Complete typing the FIND command and press Enter.
0  FIND    ==> 'Good judgment comes from experience, and experien
0          ==> ce comes from bad judgment.'
0          ==> prev #3
0          ==>
0          ==>
0          ==>
0
0
0
0
0  F1=Help  F2=Split  F3=Exit  F9=Swap  F12=Cancel
0
000009 000110 You gain strength, courage and confidence by every experience in
000010 000120 Men are wise in proportion, not to their experience, but to their
000011 000130 Experience is a hard teacher because she gives the test first, th
000012 000140 Experience teaches only the teachable.
Command ==> f
F1=Help  F2=Zoom  F3=Exit  F4=CRetriev  F5=RFind  F6=RChange
F7=Up    F8=Down  F9=Swap  F10=Left  F11=Right  F12=Cancel

```

関連する参照先

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

特定の列内のデータの検索

オプションで、基本コマンドの効果を、指定した列、列のリスト、または 1 つ以上の列の範囲に制限できます。

検索する列は、`#n` という列参照を使用して指定します。これは、TABL 表示形式の場合は各列の上に表示され、SNGL 表示形式の場合は各列の隣に表示されます。検索ストリングが検出されるのは、その検索ストリングが指定された列のいずれかの中に含まれている場合だけです。

列のリストの指定

列のリストを指定する場合は、以下のいずれかを指定する必要があります。

- 列参照を (オプションでコンマで区切って) 括弧で囲む。
- 間にスペースを入れずに列参照をコンマで区切る。

以下は、有効な列のリストです。

```
#17
(#17)
(#17 #22)
(#17, #22)
#17,#22
```

以下は、無効な列のリストです。

```
#17 #22
#17, #22
```

検索ストリングは、指定された列のいずれかに完全に含まれている場合に検出されます。例えば、以下のコマンドは、列 #5 に「the」(大文字と小文字の任意の組み合わせ) という文字が入っているすべてのレコードを除外します。

```
EXCLUDE ALL the #5
```

以下のコマンドは、列 #8 または #9 に大文字の「A」が入った次のレコードを検出します。

```
FIND C'A' #8,#9
```

桁範囲の指定

桁範囲を指定する場合は、範囲の最初の桁参照と最後の桁参照をハイフンで区切って、間にスペースを入れるかまたは入れずに指定します。桁を小括弧で囲むこともできます。

以下は、有効な桁範囲です。

```
#17-#19
#17 - #19
(#17-#19)
(#17 - #19)
```

複数の桁範囲を指定するには、以下のようになります。

- それぞれの桁範囲を (オプションで、コンマで区切って) 括弧で囲む
- 間にスペースを入れずに、それぞれの桁範囲をコンマで区切る。

以下は、有効な桁範囲です。

```
(#8-#11) (#17-#19) (#24-#25)
(#8-#11), (#17-#19), (#24-#25)
#8-#11, #17-#19, #24-#25
```

以下は、無効な桁範囲です。

```
#8-#11 #17-#19 #24-#25
#8-#11, #17-#19, #24-#25
```



注:

1. 桁範囲はオーバーラップできます。例えば、#2-#7, #5-#9 です。この場合、結果は #2-#9 と等しい単一の桁範囲に統合されます。

[TABL 表示形式 ページ 156](#)

[SNGL 表示形式 ページ 158](#)

[数値列の検索 ページ 154](#)

[行の除外 ページ 164](#)

関連する参照先

[CHANGE 基本コマンド ページ 907](#)

[EXCLUDE 基本コマンド ページ 921](#)

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

データの特定部分内のストリングの検索

FIND コマンドを使用してストリングを検索する時に、検索対象を制限して、検索するデータの特定の部分を検索することができます。

- データ内の接頭部として現れる個所だけにストリングの検索を限定するには、PREFIX パラメーターを指定します。
- データ内の接尾部として現れる箇所だけにストリングの検索を限定するには、SUFFIX パラメーターを指定します。
- データ内の「ワード」として現れる個所だけにストリングの検索を限定するには、WORD パラメーターを指定します。

関連する参照先

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

除外行または非除外行内のデータの検索

データに除外行および非除外行が含まれている場合は、ストリングまたは数値の検索を、以下のものに制限することができます。

- 非除外行のみ (パラメーター NX)、または
- 除外行のみ (パラメーター EX または X)

例えば、以下のコマンドは、列番号 1 または列番号 7 に “SCARECROW” というストリングが入っている、次の非除外行を検索します。

```
FIND SCARECROW (#1 #7) NX
```

また、以下のコマンドは、列番号 3 に 1024 という値が入っている、次の除外行を検索します。

```
FIND 1024 #3 EX
```

関連する参照先

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

ラベル範囲内のデータの検索

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、ストリングまたは数値の検索を、行の範囲 (検索する最初と最後の行を示すラベルのペアで識別されます) に制限できます。

例えば、以下のコマンドは、ラベル .STRT からラベル .FNESH までの範囲の行の列番号 10 に “TIME” というストリングが入っている、次の行を検索します。

```
FIND TIME #10 .STRT .FNESH
```

また、以下のコマンドは、現行カーソル位置からラベル .END までの範囲の行の列番号 4 または列番号 6 に 2840 という値が入っている、次の行を検索します。

```
FIND 2840 #4,#6 .ZCSR .END
```

関連するタスク

[行へのラベルの割り当て ページ 152](#)

関連する参照先

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

行へのラベルの割り当て

File Manager/Db2 エディター・セッションで、CHANGE、DELETE、EXCLUDE、EXPORT、または FIND コマンドを TABL 表示形式で使用している場合は、“範囲”パラメーターを入力して、検索される行を制限できます。範囲パラメーターは、検索する最初と最後の行を示すラベルのペアから構成されます。ストリングが検出されるのは、指定した範囲内にそのストリングが含まれている場合です。

ラベルは、ピリオド (.) で始まる 1 ~ 4 文字の英字にすることができます。文字 [Z] で始まるラベルは、エディターで割り当てられます。

ラベルは、有効な文字ストリングを行の接頭部域に入力して割り当てます。次の例では、.HERE というラベルが行番号 16 に割り当てられ、.THRE というラベルが行番号 129 に割り当てられます。

```

:
00015 This is a row.
.HERE This is a row with a label.
00017 This is a row.
:
00128 This is a row.
.THRE This is a row with a label.
00130 This is a row.
:

```

ラベルが割り当てられると、行が移動してもその行に付いています。

データ行からラベルを除去するには、ラベルの各文字をブランクにして (あるいは新しいラベルで上書きして)、Enter キーを押します。ラベルを含む行を削除してラベルの割り当てを解除したり、RESET LABEL コマンドを使用してすべての行ラベルを除去することができます。

ラベルの割り当てを解除しないで、接頭部コマンドを使用してラベルを上書きすることができます。そのラベルはコマンドの完了時に再表示されて、行接頭部域に表示されたままとなります。

同じラベルを新しい行に入力して、ラベルを別の行に移動することができます。

一部のラベルは、エディターで自動的に割り当てられて保持されます。この特殊なラベルは文字「Z」で始まります (したがって、ユーザー独自のラベルを「Z」で始めてはいけません)。他のラベルと異なり、このエディター割り当てラベルは、必ずしも同じ行と一緒に付いているわけではなく、画面上の論理的な位置を表します。

このエディター割り当てラベルの一部はユーザーが使用できます。エディターは次のように割り当てを行います。

.ZCSR

カーソルが現在合っている行へ。

.ZFST

最初の行 (相対行番号 1) へ。これは .ZF と省略することができます。

.ZLST

最後の行へ。これは .ZL と省略することができます。

次の FIND コマンドは、現行カーソル位置からデータの末尾までの行範囲内で、列番号が 5 の列にストリング xxx が入っている次の行 (除外または非除外) を検出します。

```
FIND xxx #5 .ZCSR .ZLST
```

次の EXCLUDE コマンドは、ラベル .HERE からラベル .THRE までの行範囲内で、列番号が 3 と 7 の列のいずれかにストリング「ABC」が入っているすべての行 (除外または非除外) を除外します。

```
EXCLUDE ALL ABC (#3 #7) .HERE .THRE
```

範囲パラメーターを使用する場合には、2つのラベルはブランクまたはコンマで区切る必要があります。単一のラベルは許可されません。このラベルは、エディター割り当てのラベル (.ZCSR、.ZFST、.ZLST) と自分で割り当てたラベルの任意の組み合わせでかまいません。

ラベルの指定順序に関係なく、相対行番号が小さい方のラベルが範囲の始まりとして使用され、相対行番号が大きい方のラベルが範囲の終わりとして使用されます。

指定した範囲に、表示されないか、またはシャドー行で表される除外行が含まれている場合には、その行はコマンドの影響を受けません。

関連する参照先

[CHANGE 基本コマンド ページ 907](#)

[DELETE 基本コマンド ページ 915](#)

[EXCLUDE 基本コマンド ページ 921](#)

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

[RESET 基本コマンド ページ 966](#)

数値列の検索

検索ストリングの数値は、列の定様式数値と等しくなければなりません。検索ストリングと数値列の長さ (桁数) は重要ではありません。同様に、数値列のデータ・タイプも重要ではありません。例えば、「123」という検索ストリングは、00123 を含む DECIMAL 列や、123 を含む SMALLINT 列と一致します。「123」という検索ストリングは、12300 を含む DECIMAL や SMALLINT 列とは一致しません (数値が異なるためです)。ストリング内の符号なしの値は正とみなされません。

関連する参照先

[特定の列内のデータの検索 ページ 149](#)

関連する参照先

[CHANGE 基本コマンド ページ 907](#)

[EXCLUDE 基本コマンド ページ 921](#)

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

表示データのビューの変更

File Manager/Db2 エディター・セッションで表示されるデータのビューは、テンプレートを編集して、以下のように変更できます。

- 選択した列のみを表示する
- 表示列の順序を変更する
- 列見出しを変更する

- 列の幅を変更する
- 先行ゼロを表示する (数値列)

テンプレートの編集が終わったら、そのテンプレートは、将来の利用に備えて保存するか、あるいは現行 FM/Db2 エディター・セッションのみで使用できます。

現行 FM/Db2 エディター・セッションでテンプレートを編集するには、TEDIT 基本コマンドを使用します。

「Table View (表表示)」または「Table Edit (表編集)」パネルからテンプレートを編集するには、「**Edit template (テンプレートの編集)**」オプションを選択します。

関連するタスク

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

関連する参照先

[TEDIT 基本コマンド ページ 977](#)

表示形式の選択

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、以下の表示形式でデータを表示できます。

- TABL (表) 形式
- SNGL (単一) 形式

希望する表示形式を選択するには、以下の方法があります。

- 「**Format (形式)**」フィールド (「Table View (表表示)」パネルまたは「Table Edit (表編集)」パネルの右上隅にある) に、以下の値のいずれか (またはその先頭文字のみ) を入力してください。
 - TABL
 - SNGL
- FORMAT 基本コマンドを使用して、TABL と SNGL の表示形式を切り替えます。
- TABL 表示形式の場合は、FS 基本コマンドを使用して SNGL 表示形式に変更します。
- SNGL 表示形式の場合は、FT 基本コマンドを使用して TABL 表示形式に変更します。
- TABL 表示形式の場合は、FS 接頭部コマンドを使用して SNGL 表示形式に変更します。

次のページで TABL および SNGL 表示形式について説明します。

関連する参照先

[FORMAT 基本コマンド ページ 937](#)

[FS 基本コマンド ページ 940](#)

[FT 基本コマンド ページ 940](#)

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

TABL 表示形式

TABL 表示形式 (デフォルト形式) では、表の行はパネル上で列を横方向に並べた形式で表示されます。

図 49: オプション行をすべて表示した表示パネル (TABL 表示形式) ページ 156 に、表示画面 (TABL 表示形式) の例を示します。

図 49. オプション行をすべて表示した表示パネル (TABL 表示形式)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Table View                42 rows fetched
TABLE FMNUSER.EMP                Format TABL
EMPNO  FIRSTNME  MIDINIT  LASTNAME  WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE  JOB
#1     #2          #3       #4        #5         #6       #7       #8  +
CH(6)  VARCHAR(12) CH(1)    VARCHAR(15) CH(3)     CH(4)    DATE      CH(8)
PU--> <-----1-> - <-----1-----> <-NF <--> <-----> <----->
**** Top of data ****
000010 CHRISTINE<  I      HAAS<      A00      3978      01.01.1965 PRES
000020 MICHAEL<  L      THOMPSON< B01      3476      10.10.1973 MANAGE
000030 SALLY<    A      KWAN<      C01      4738      05.04.1975 MANAGE
000050 JOHN<    B      GEYER<    E01      6789      17.08.1949 MANAGE
000060 IRVING<   F      STERN<    D11      6423      14.09.1973 MANAGE
000070 EVA<    D      PULASKI<  D21      7831      30.09.1980 MANAGE
000090 EILEEN<  W      HENDERSON< E11      5498      15.08.1970 MANAGE
000100 THEODORE< Q      SPENSER<  E21      0972      19.06.1980 MANAGE
000110 VINCENZO< G      LUCCHESI< A00      3490      16.05.1958 SALESR
000120 sean<    O'CONNELL< A00      2167      05.12.1963 CLERK
000130 DOLORES< M      QUINTANA< C01      4578      28.07.1971 ANALYS
000140 HEATHER< A      NICHOLLS< C01      1793      15.12.1976 ANALYS
Command ==>
F1=Help      F2=Zoom      F3=Exit      F4=CRetriev  F5=RFind     F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
    
```

図 50: オプション行をすべて表示した編集パネル (TABL 表示形式) ページ 156 に、編集画面 (TABL 表示形式) の例を示します。

図 50. オプション行をすべて表示した編集パネル (TABL 表示形式)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Table Edit                42 rows fetched
TABLE FMNUSER.EMP                Format TABL
EMPNO  FIRSTNME  MIDINIT  LASTNAME  WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE
#1     #2          #3       #4        #5         #6       #7
CH(6)  VARCHAR(12) CH(1)    VARCHAR(15) CH(3)     CH(4)    DATE
000000 **** Top of data ****
000000 **** Top of data ****
000001 000010 CHRISTINE<  I      HAAS<      A00      3978      01.01.1965
000002 000020 MICHAEL<  L      THOMPSON< B01      3476      10.10.1973
000003 000030 SALLY<    A      KWAN<      C01      4738      05.04.1975
000004 000050 JOHN<    B      GEYER<    E01      6789      17.08.1949
000005 000060 IRVING<   F      STERN<    D11      6423      14.09.1973
000006 000070 EVA<    D      PULASKI<  D21      7831      30.09.1980
000007 000090 EILEEN<  W      HENDERSON< E11      5498      15.08.1970
000008 000100 THEODORE< Q      SPENSER<  E21      0972      19.06.1980
000009 000110 VINCENZO< G      LUCCHESI< A00      3490      16.05.1958
000010 000120 sean<    O'CONNELL< A00      2167      05.12.1963
000011 000130 DOLORES< M      QUINTANA< C01      4578      28.07.1971
000012 000140 HEATHER< A      NICHOLLS< C01      1793      15.12.1976
Command ==>
F1=Help      F2=Zoom      F3=Exit      F4=CRetriev  F5=RFind     F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
    
```

1つのパネルには複数行が表示されます (行数は画面サイズによって制限されます)。表の各列は、その列のデータ・タイプに従って形式設定されます。例えば、数値データ・タイプは整数または 10 進数として表示され、日付および時刻フィールドは日付または時刻として表示されます。

デフォルトでは、見出しは Db2® カタログで定義された列名になります。見出しは、テンプレートを編集して変更することができます。

SELECT ステートメントの「View (表示)」または「Edit (編集)」の場合に限り、見出しは COL nnn として表示されることがあります (この場合の nnn は 001、002 などです)。これは生成された列名を示しています。次のどちらの例も、FM/Db2 に列名を生成させます。

```
SELECT 1, dbname FROM SYSIBM.SYSTABLES
```

```
SELECT CONCAT(dbname, tsname) FROM SYSIBM.SYSTABLES
```

FM/Db2 エディター・セッションで 1 つ以上の列がプロテクトされることがあります。これは、以下のような場合に発生する可能性があります。

- 編集対象オブジェクトが基本キーで、**Allow updates to primary key (基本キーの更新許可)** オプションが選択されていない。
- The object being edited is a read-only view.
- 編集対象オブジェクトが任意の SELECT ステートメントの結果表である (つまり SELECT ステートメントの編集)。
- 編集対象のオブジェクトは表であるが、Db2® カタログで更新不可とマークされた列が含まれている。この場合 ROWID 列は除外されます。Db2® カタログ表は、このカテゴリーに分類されます。

データを TABL 表示形式で表示すると、上下、左右へのスクロールが可能になります。

データを 16 進形式で表示するには、次の HEX 基本コマンドを使用します。

```
HEX ON
```

TABL 表示形式では、「表示」または「編集」画面には常にそれぞれの表示列の列名 (代替フィールド見出しを定義している場合は、その見出し) が表示されます。

オプションとして、列見出し行とデータの先頭の間、最大 3 行までの追加の情報行を表示することができます。これらは以下の順序の通りです。

- 列番号 (Db2® カタログで定義された) が入っている行。
- 列のデータ・タイプ (と非数値フィールドの長さ) が入っている行。
- それぞれの列の上にルーラーを表示する行。このルーラーにはオフセット情報を含めることができ、オプションで基本キーと外部キーについての情報および固有索引を含めることができます。

こうした追加情報があれば、以下のいずれかの方法を使用すると、エディターに表示する追加情報行を選択できます。

- すべての FM/Db2 エディター・セッションでは、「Editor Options (エディター・オプション)」パネルを使用して適切なグローバル・オプションを設定する。
- 現行の FM/Db2 エディター・セッションの場合のみ、
 - 「表示」の場合は、「View (表示) (オプション 1)」パネルを使用して適切なオプションを設定する。
 - 「編集」の場合には、「Edit (編集) (オプション 2)」パネルを使用して適切なオプションを設定する。

関連するタスク

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

[スクロール ページ 162](#)

[View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)

[ROWID 列 ページ 107](#)

[現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)

[行の除外 ページ 164](#)

関連する参照先

[Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)

[「Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)」 パネル ページ 651](#)

[HEX 基本コマンド ページ 941](#)

SNGL 表示形式

SNGL 表示形式で一度にパネルに表示されるのは、表の 1 行だけです。

図 51: オプション列をすべて表示した編集パネル (SNGL 表示形式) ページ 158 に、編集画面 (SNGL 表示形式) の例を示します。

図 51. オプション列をすべて表示した編集パネル (SNGL 表示形式)

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Table Edit
TABLE FMUSER.EMP			1 of 42
Top Column is 1 of 13 in Row 1			Format SNGL
Ref	Rdf	Key	Column Type(len) Data
#1		PU	EMPNO CH(6) 000010
#2			FIRSTNME VC(12) CHRISTINE<
#3			MIDINIT CH(1) I
#4			LASTNAME VC(15) HAAS<
#6			PHONENO CH(4) 3978
#7			HIREDATE DATE 01/01/1965
#8			JOB CH(8) PRES
#9			EDLEVEL SMINT 18
#10			SEX CH(1) F
#11			BIRTHDATE DATE 08/14/1933
#12			SALARY DEC(9,2) 52750.00
#13			BONUS DEC(9,2) 1000.00
#14			COMM DEC(9,2) 4220.00
**** End of record ****			
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev F5=RFind F6=RChange
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Previous F11=Next F12=Cancel

表の列はパネルの縦方向に表示され、パネルの左に列見出し、右にその列のデータが表示されます。表の各列は、その列のデータ・タイプに従って形式設定されます。例えば、数値データ・タイプは整数または 10 進数として表示され、日付および時刻フィールドは日付または時刻として表示されます。

デフォルトでは、見出しは Db2® カタログで定義された列名になります。見出しは、テンプレートを編集して変更することができます。

File Manager/Db2 エディター・セッションの SELECT ステートメントでは、見出しは COL nnn として表示されることがあります (この場合の nnn は 001、002 などです)。これは生成された列名を示しています。次のどちらの例も、FM/Db2 に列名を生成させます。

```
SELECT 1, dbname FROM SYSIBM.SYSTABLES
```

```
SELECT CONCAT(dbname, tname) FROM SYSIBM.SYSTABLES
```

FM/Db2 エディター・セッションで 1 つ以上の列がプロテクトされることがあります。これは、以下のような場合に発生する可能性があります。

- 編集対象オブジェクトが基本キーで、“*Allow updates to primary key* (基本キーの更新許可)” オプションが選択されていない。
- The object being edited is a read-only view.
- 編集対象オブジェクトが任意の SELECT ステートメントの結果表である (つまり SELECT ステートメントの編集)。
- 編集対象のオブジェクトは表であるが、Db2® カタログで更新不可とマークされた列が含まれている。この場合 ROWID 列は除外されます。Db2® カタログ表は、このカテゴリーに分類されます。

SNGL 表示形式でデータを表示すると、以下を行うことができます。

- 行の中でスクロールする (上下)
- 表の中で前後にスクロールする (次の行および前の非除外行を表示するため)

データを 16 進形式で表示するには、HEX 基本コマンド `HEX ON` を使用します。

SNGL 表示形式では、「View (表示)」または「Edit (編集)」画面には 2 つの列、すなわち列名とその列のデータが常に表示されます。

オプションとして、最大 3 列までの追加の情報列を表示することができます。このうちの「**Ref (参照)**」および「**Key (キー)**」の 2 列は列名が入っている列の左に表示され、3 列目の「**Type(Len) (タイプ(長さ))**」は名前列とデータ列の間に表示されます。すべての情報列を表示するよう選択すると、以下の列が左から右へ表示されます。

Ref

列番号 (Db2® カタログで定義された) を表示するオプション列。

このオプション列は、REFS 基本コマンドを使ってオン/オフにすることができます。任意の SELECT ステートメントの結果表 (つまり、SELECT ステートメントの編集) が表示されている場合は、ゼロの値が表示されません。これは、列が生成されているか、または列が結果表の作成した SELECT ステートメントの FROM 文節で指定された最初の表の列でないことを示します。

Rdf

未使用。

Key

基本キー、外部キー、固有索引、および検査制約に関する情報を表示するオプション列。

このオプション列は、INDEXINF 基本コマンドを使ってオン/オフにすることができます。

Column

列名を表示する列。

この列には、行に対して表示された文字データの開始位置および終了位置も表示することができます。これは、次の場合に表示されます。

1. 列のデータ長が、2 行以上の行を表示するために必要な十分な長さでなければなりません。
2. “*Show char position range* (文字位置範囲を表示する)” 編集オプションが選択されている必要があります。または、CHARPOS コマンドを発行して、文字位置範囲の表示をオンにすることができます。詳しくは、[「Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)」](#) パネル ページ 661 および CHARPOS コマンドの説明 ([CHARPOS 基本コマンド ページ 913](#)) を参照してください。

Type(Len)

列のデータ・タイプ (および非数値フィールドの長さ) を表示するオプション列。

このオプション列は、TYPE 基本コマンドを使ってオン/オフにすることができます。

Data

列の (定様式) データを表示する列。

表示画面または編集画面は、以下のいずれかによってカスタマイズできます。

- すべての FM/Db2 エディター・セッションでは、「エディター・オプション」パネルを使用して適切なグローバル・オプションを設定する。
- 現行の FM/Db2 エディター・セッションの場合のみ、
 - 「表示」の場合には、「Db2® View (表示)」パネルを使用して適切なオプションを設定する。
 - 「編集」の場合には、「Db2® Edit (編集)」パネルを使用して適切なオプションを設定する。

関連するタスク

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

[スクロール ページ 162](#)

関連する参照先

[Db2 「View \(表示\)」パネル ページ 639](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」パネル ページ 622](#)

[「Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)」パネル ページ 651](#)

[HEX 基本コマンド ページ 941](#)

[INDEXINF 基本コマンド ページ 944](#)

[REFS 基本コマンド ページ 965](#)

[TYPE 基本コマンド ページ 978](#)

1 行全部を表示するためのズームイン

「Zoom」機能キー (F2)を押すかまたは ZOOM 基本コマンドを使用すれば、単一行を“ズームイン”することができます。

TABL 表示形式では、左右にスクロールしないで特定の行のすべてのデータを表示するには、カーソルをその行に移動して、「Zoom」機能キー (F2) を押します。FM/Db2 がその行のみに表示を制限します。SNGL 表示形式では、「Zoom」機能キー (F2) を押すだけです。

行をズームインすると、その行だけが“ズームされた”SNGL 表示形式で表示されます。ズームされた表示では、パネルの左方にあったフィールドまたはズーム前にカーソルが位置付けられていた列 (適用可能な場合) まで自動的にスクロールが行われます。

“ズームされた”SNGL 表示形式では、[図 52: 1 行でのズームイン \(「ズームされた」SNGL 表示形式\) ページ 161](#) に示されているように、パネルの右上隅にある **「Format (形式)」** の横に **「Zoom (ズーム)」** という語が表示されます。

図 52. 1 行でのズームイン (「ズームされた」SNGL 表示形式)

Process	Options	Help	
FM/Db2 (DFG2)		Table Edit	1 of 42
TABLE FMUSER.EMP		Zoom Format <u>SNGL</u>	
		Top Column is 1 of 14	in Row 1
Ref Key	Column	Type(len)	Data
#1 PU	EMPNO	CH(6)	000050
#2	FIRSTNME	VC(12)	JOHN<
#3	MIDINIT	CH(1)	B
#4	LASTNAME	VC(15)	GEYER<
#5 NF	WORKDEPT	CH(3)	E01
#6	PHONENO	CH(4)	6789
#7	HIREDATE	DATE	08/17/1949
#8	JOB	CH(8)	MANAGER
#9	EDLEVEL	SMINT	16
#10	SEX	CH(1)	M
#11	BIRTHDATE	DATE	09/15/1925
#12	SALARY	DEC(9,2)	40175.00
#13	BONUS	DEC(9,2)	800.00
#14	COMM	DEC(9,2)	3214.00
**** End of record ****			
Command ==>			
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F12=Cancel
			F5=RFind
			F6=RChange

レコードを“ズームされた”SNGL 表示形式で表示した場合に、FM/Db2 は、テンプレートの中での表示のための選択とは無関係に、すべての列を表示します。FM/Db2 は、列をテンプレートで定義された順序で表示します。テンプレートのシーケンスの変更は無視されます。この表示形式では、行の間をナビゲートしたり、あるいは TEDIT 基本コマンドを使用することはできません。

TABL または通常の“ズームされていない”SNGL 表示形式では、File Manager はテンプレートの中で表示のために選択された列のみを表示します。

例えば、[図 52: 1 行でのズームイン \(「ズームされた」SNGL 表示形式\) ページ 161](#) に示した例では、列「WORKDEPT」および「BIRTHDATE」が“ズームされた”SNGL 表示形式で表示されていますが、これらの列はテンプレートで“選択解除”されている場合もあります。“ズームされていない”SNGL 表示形式では、同じ行が表示されます。

Process	Options	Help			
FM/Db2 (DFG2)		Table Edit			
TABLE FMNUSER.EMP		1 of 42 Format <u>SNGL</u>			
		Top Line is 1 of 12 in Row 1			
Ref	Rdf	Key	Column	Type(len)	Data
#2			FIRSTNME	VC(12)	JOHN<
#3			MIDINIT	CH(1)	B
#4			LASTNAME	VC(15)	GEYER<
#6			PHONENO	CH(4)	6789
#7			HIREDATE	DATE	08/17/1949
#8			JOB	CH(8)	MANAGE
#9			EDLEVEL	SMINT	16
#10			SEX	CH(1)	M
#12			SALARY	DEC(9,2)	40175.00
#13			BONUS	DEC(9,2)	800.00
#14			COMM	DEC(9,2)	3214.00
****			End of record	****	
Command ==> ----- Scroll PAGE					
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Previous	F11=Next	F12=Cancel

“ズームされていない”SNGL 表示形式では、PREVIOUS および NEXT 基本コマンドかまたは「Previous」機能キー (F10) および「Next」機能キー (F11) を使用して、行の間をナビゲートすることができます。

ズームイン前の現行表示形式に戻るには、ZOOM 基本コマンドをもう一度入力するか、あるいは CANCEL、END、または EXIT コマンドを入力します。

関連タスク

[TABL 表示形式 ページ 156](#)

[SNGL 表示形式 ページ 158](#)

関連する参照先

[ZOOM 基本コマンド ページ 986](#)

[TEDIT 基本コマンド ページ 977](#)

スクロール

データをスクロールするには、以下の機能キーを押します。

使用するファンクション・キー

用途

「Up」機能キー (F7)

後方 (上方) にスクロールする

「Down」機能キー (F8)

前方 (下方) にスクロールする

TABL 表示形式の場合

「Right」機能キー (F11)

右方にスクロールする

「Left」機能キー (F10)

左方にスクロールする

SNGL 表示形式の場合

「Next」機能キー (F11)

次の行へ進む

「Previous」機能キー (F10)

直前の行へ戻る

基本コマンド UP、DOWN、LEFT、RIGHT、TOP、BOTTOM、NEXT、および PREVIOUS を使用してスクロールすることもできます。

関連するタスク

[TABL 表示形式 ページ 156](#)

[SNGL 表示形式 ページ 158](#)

[スクロール時の画面上の列の保持 ページ 100](#)

関連する参照先

[ZOOM 基本コマンド ページ 986](#)

[TEDIT 基本コマンド ページ 977](#)

[UP 基本コマンド ページ 978](#)

[DOWN 基本コマンド ページ 917](#)

[LEFT 基本コマンド ページ 945](#)

[RIGHT 基本コマンド ページ 967](#)

[TOP 基本コマンド ページ 977](#)

[BOTTOM 基本コマンド ページ 904](#)

[NEXT 基本コマンド ページ 956](#)

[PREVIOUS 基本コマンド ページ 960](#)

スクロール移動量の制御

いずれかのスクロール機能キーを押すときのスクロールの移動量を制御するには、**「Scroll (スクロール)」** フィールドに下のスクロール移動量を入力してください。

スクロール移動量

スクロール方法

PAGE

一度に 1 パネル

HALF

一度に半パネル

DATA

一度に 1 パネルより 1 行または 1 桁少ない量

CSR

カーソル位置まで (スクロール実行時にカーソルが行に置かれていなければ、スクロール移動量のデフォルトとして PAGE が使用されます)

nnnn

パネルに一度に表示される列 (左右にスクロールする場合) あるいは行 (上下にスクロールする場合) の数



注:

1. TABL 表示形式では、コマンド行にスクロール移動量を入力してから、スクロール機能キーを押すことによって、「Scroll (スクロール)」フィールド内の移動量を一時的に指定変更することができます。例えば、コマンド行に「8」と入力して「Right」機能キー (F11) を押すと、FM/Db2 は 8 パネル分の列だけ右へスクロールします。
2. SNGL 表示形式では、コマンド行に数値を入力してから、FM/Db2 または「Next」機能キー (F11) を押すことによって、「Previous」機能キー (F10) が上下にスクロールする行数を指定することができます。例えば、コマンド行に「5」と入力して「Next」機能キー (F11) を押すと、FM/Db2 は 5 行だけ下へスクロールします。
3. TABL 表示形式では、左右へスクロールした後でカーソルが占める位置は、次のように最終的なパネル列を占める Db2® 列のデータ・タイプによって決まります。
 - Db2® 列のデータ・タイプが非数値の場合には、左右へスクロールすると Db2® 列内の相対パネル列に移動します (小さい列の場合は、その列の先頭位置へ移動します)。
 - Db2® 列のデータ・タイプが数値の場合には、左右へスクロールすると Db2® 列の先頭位置へ移動します。

最初または最後の行あるいは列へのスクロール

表の最初または最後の行あるいは列までスクロールするには、コマンド行に「MAX」(または「M」) と入力して、スクロール機能キーの 1 つを押します。例えば、「M」と入力してから「Right」機能キー (F11) を押すと、最後の列まで右へスクロールします。

また、コマンド行に「TOP」または「BOTTOM」を入力することによって、先頭または最後の行にスクロールすることもできます。

行の除外

データを表示または編集しているときは、表示するデータの中の特定の行を「除外」できます。この行は除外行と呼ばれて、画面には表示されません。残りの行 (画面に表示される行) は非除外行と呼ばれます。

特定の行を除外して、CHANGE、DELETE、および FIND 基本コマンドの範囲を制限することを選択できます。これらのコマンドの1つを、除外行および非除外行を含むデータを指定して使用することで、そのコマンドが以下の行に影響を与えるかどうかを指定することができます。

- 非除外行のみ
- 除外行のみ、または
- すべての行

表示している表の中の特定の行を除外するには、以下を使用することができます。

- EXCLUDE 基本コマンド。例えば、次のコマンドは、列番号3に“SMITH”というストリングが入っているすべての行を除外します。

```
EXCLUDE ALL SMITH #3
```

以下のコマンドは、列番号20または列番号30のいずれかに“XXX”というストリングが入っている次の行を除外します。

```
EXCLUDE XXX #20 #30
```

“from”ラベルと“to”ラベルで示される行の範囲を除外できます。例えば、以下のコマンドは“.LABA”というラベルの付いた行から“.LABB”というラベルの付いた行までの行の範囲を除外します。

```
EXCLUDE ALL .LABA .LABB
```

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、検索ストリングとしてアスタリスク(*)を指定して、以前の EXCLUDE 基本コマンドで指定したものと同一ストリングを検索できます。

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、EXCLUDE コマンドの効果を、検索するデータの特定の部分に制限できます。

- データ内の接頭部として現れる個所のみにはストリングの検索を限定するには、PREFIX パラメーターを指定します。
 - データ内の接尾部として現れる箇所のみにはストリングの検索を限定するには、SUFFIX パラメーターを指定します。
 - データ内の「ワード」として現れる個所のみにはストリングの検索を限定するには、WORD パラメーターを指定します。
- 以下の接頭部コマンドは、それぞれ次のことを行います。

X

1行を除外します。

Xn

n行を除外します。

XX

1ブロックの行を除外します。

以下の行コマンドを使用して、除外行のブロックから、さまざまな行を表示することができます。

F

除外行のブロックから最初の行を表示します。

Fn

除外行のブロックから最初の *n* 行を表示します。

L

除外行のブロックから最後の行を表示します。

Ln

除外行のブロックから最後の *n* 行を表示します。

関連するタスク

[除外行の表示または非表示 ページ 166](#)

関連する参照先

[EXCLUDE 基本コマンド ページ 921](#)

[CHANGE 基本コマンド ページ 907](#)

[DELETE 基本コマンド ページ 915](#)

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

除外行の表示または非表示

TABL 表示形式では、表示対象から除外した行を非表示にするか、あるいは次のようにその行をシャドール行で表示するかを選択することができます。

```
----- n line(s) excluded
```

シャドール行を表示するか非表示にするかを制御するのは SHADOW 基本コマンドです。除外した行のシャドール行をオンにするには、「SHADOW ON」と入力します。除外した行のシャドール行をオフにするには、「SHADOW OFF」と入力します。

SNGL 表示形式では、シャドール行は表示されません。「Next」機能キー (F11) または「Previous」機能キー (F10) を使って SNGL 表示形式で行をスクロールした場合に、除外した行がスキップされていることは、それに応じて行番号 (パネルの右上隅に表示されます) がスキップされることで示されるだけです。

除外行を再表示するには、次のコマンドを入力します。

```
RESET EXCLUDED
```

関連するタスク

[TABL 表示形式 ページ 156](#)

[SNGL 表示形式 ページ 158](#)

関連する参照先

[SHADOW 基本コマンド ページ 971](#)[RESET 基本コマンド ページ 966](#)

データのソート

TABL 表示形式で表示または編集中のデータをソートするには、SORT 基本コマンドを使用します。

5 個までの列番号 (大きい番号から順) を指定することができ、この列番号ごとに、データを昇順 (デフォルトの順序) または降順のどちらでソートするかを指定します。

例

```
SORT #7 D #6 #3
```

列番号 #7 (基本ソート・キー) の列のすべての行を降順にソートしてから、列番号 #6 (2次ソート・キー) の列のすべての行を昇順にソートし、次に、列番号 #3 (マイナー・ソート・キー) の列のすべての行を昇順にソートします。

```
SORT #6 X
```

列番号 #6 の列のすべての除外行を (非除外行は存在していないものとして) 昇順にソートします。



注: SORT コマンドで変更されるのはデータを表示する順序だけです。Db2® の中でデータが保管される順序には影響しません。

関連する参照先

[SORT 基本コマンド ページ 974](#)

16 進形式でのデータの表示

16 進形式でブラウズまたは編集中のデータを表示するには、HEX 基本コマンドを使用します。

例えば、画面が次のように表示されているとします。

NAME	CREATOR	TYPE	DBNAME	TSNAME	DBID	OBID
#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7
VARCHAR(18)	CH(8)	CH(1)	CH(8)	CH(8)	SMINT	SMINT
<-----1----->	<----->	-	<----->	<----->	<----->	<----->
000000 **** Top of data ****						
000001 SYSCOPY	SYSIBM	T	DSNDB06	SYSCOPY	00006	00046
000002 SYSFIELDS	SYSIBM	T	DSNDB06	SYSDBASE	00006	00021

次にコマンド HEX ON を出すと、次のような 16 進数表記が表示されます。

NAME	CREATOR	TYPE	DBNAME	TSNAME	DBID	OBID
#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7
VARCHAR(18)	CH(8)	CH(1)	CH(8)	CH(8)	SMINT	SMINT
<-----1----->	<----->	-	<----->	<----->	<----->	<----->
000000 **** Top of data ****						
000001 SYSCOPY	SYSIBM	T	DSNDB06	SYSCOPY	00006	00046
EEEECDDE000000000000	EEECDD44	E	CEDCCFF4	EEECDD44	00	02
28236780000000000000	28292400	3	42542060	28236780	06	0E

```
000002 SYSFIELDS      SYSIBM  T      DSNDB06  SYSDBASE  00006  00021
      EEECCDCE0000000000 EEECCD44 E      CEDCCFF4  EEECCCEC    00    01
      282695342000000000 28292400 3      42542060 28242125    06    05
```

関連する参照先

[HEX 基本コマンド ページ 941](#)

接頭部域の管理

接頭部域には、編集中の Db2® 表またはビュー内の行番号を表す行番号が表示されます。

接頭部域は、接頭部コマンドの入力域としても機能します。接頭部コマンドを入力するには、該当する行の行番号を上書きします。

接頭部コマンドを使用して、以下のことができます。

- 行の挿入または削除
- 行の繰り返し (複写)
- 行の移動
- データのシフト
- 編集しているデータの制限

File Manager/Db2 エディター・セッションで、現行の環境に有効な接頭部コマンドを確認するには、接頭部域で (リストされている任意の行に対して) 「?」を入力します。FM/Db2 によって、[図 53: ? 接頭部コマンドを使用した有効な接頭部コマンドの表示 ページ 168](#) に示されているような入力可能な行コマンドのリストが表示されます。

図 53. ? 接頭部コマンドを使用した有効な接頭部コマンドの表示

```
Process  Options  Utilities  Help
          FM/Db2 Available Edit Prefix Commands
          More:      +

Prefix commands

You can enter the following commands in the prefix area of the data display:

A      identifies the record after which data is to be moved or copied.
B      identifies the record before which data is to be moved or copied.

C      copy one record.
Cn     copy n records.
CC     copy block of records. Mark start and end of block.

D      delete one record.
Dn     delete n records.
DD     delete block of records. Mark start and end of block.

E      displays information about why Db2 rejected the change to a row

F      display the first record of a block of excluded records.
Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetrie v  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions  F12=Cancel
```

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、接頭部域をデータの隣に表示するかどうかを選択できます。

デフォルトの位置を指定して、すべての FM/Db2 エディター・セッションについて接頭部域の状態を表示するには、関連する「Editor Options (編集オプション)」パネル (0.2) で以下の編集オプションを設定します。

- **Display prefix area (接頭部域を表示する)**
- **Display prefix area on the right (接頭部域を右に表示する)**
- **Prefix area width (A,6,7,8,9) (接頭部域の幅 (A,6,7,8,9))**

現行 FM/Db2 エディター・セッションでの接頭部域のデフォルト位置および表示状態を指定するには、PREFIX 基本コマンドを設定します。例:

- 接頭部域を右側に表示するには、`PREFIX RIGHT` と入力します。
- 接頭部域を 8 桁のフィールドとして表示するには、`PREFIX 8` と入力します。
- レコード番号を表示するために幅が自動的に調整される (6 桁から 9 桁の幅) 接頭部域を表示するには、`PREFIX A` と入力します。
- 接頭部域の表示を除去するには、`PREFIX OFF` と入力します。

関連する参照先

[PREFIX 基本コマンド ページ 959](#)

列番号の表示

SNGL 表示形式では、REFS 基本コマンドを使用して、各表示列の列番号を表示または非表示にします。

- 列番号が現在表示されていない場合は、FM/Db2 は、各列の列番号を示す追加の列を (列名が入っている列の左側に、また索引情報が表示される場合は それを示す列の左側に) 表示します

REFS 基本コマンドを TABL 表示形式で入力しても、画面は変わりません。しかし、SNGL 表示形式に変更すると、追加の列の表示状況が反転します。

- 列番号がすでに表示されている場合には、REFS 基本コマンドはその列番号を画面から除去します。



注: 列番号は、以下のパネルで「**Show column number (列番号の表示)**」オプションを選択して表示することもできます (TABL、SNGL、またはその両方の表示形式の場合)。

関連する参照先

[REFS 基本コマンド ページ 965](#)

[「Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)」パネル ページ 661](#)

データ・タイプの表示

SNGL 表示形式では、TYPE 基本コマンドを使用して、各表示列のデータ・タイプ (および非数値列の場合は、列の長さ) を表示または非表示にします。

- データ・タイプの詳細が現在表示されていない場合は、FM/Db2 は、各列の データ・タイプの詳細を示す追加の列を (名前列とデータ列との間に) 表示します。

TYPE 基本コマンドを TABL 表示形式で入力しても、画面は変わりません。しかし、SNGL 表示形式に変更すると、追加の列の表示状況が反転します。

- データ・タイプの詳細がすでに表示されている場合には、TYPE 基本コマンドはそれを画面から除去します。



注: データ・タイプの詳細については、以下のパネルで「**Show data type (データ・タイプの表示)**」オプションを選択して表示できます (TABL、SNGL、またはその両方の表示形式)。

関連する参照先

[REFS 基本コマンド ページ 965](#)

[「Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)」 パネル ページ 661](#)

特殊データの処理

以下の節では、特殊なデータのタイプの操作方法について説明します。

DATE および TIME 列

Db2® は、いくつかの形式の日付と時刻を受け入れます。

DATE 列

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、DATE 列の表示形式は Db2® DSNHDECP インストール・モジュールの DATE パラメーターの設定値によって異なります。詳細については、Db2® システム管理者に問い合わせるか、「*Db2 UDB for z/OS SQL 解説書*」またはその他の Db2® の資料を参照してください。

DATE 列を編集する場合、Db2® で認識される任意の形式で時刻を入力できます。FM/Db2 は、入力した時刻を適切な表示形式に変換します。例えば、DATE 列の内容が 2004 年 9 月 27 日を表すように設定するには、「27.09.2004」と入力することができます。

ただし、区切り文字を選択するときは注意が必要です。「27/09/2004」と入力しようとする、FM/Db2 は “27” を月として解釈し、この日付を誤りとして拒否します。より誤りやすい例は 08/05/1900 と 08.05.1900 です。FM/Db2 は、最初のものを 1900 年 8 月 5 日として解釈しますが、2 番目のものは 1900 年 5 月 8 日として解釈します。

TIME 列

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、TIME 列の表示形式は「**External Format for TIME Data Type Columns (TIME データ・タイプ列用の外部形式)**」システム・オプションの設定値によって異なります。

TIME 列を編集する場合、Db2® で認識される任意の形式で時刻を入力できます。FM/Db2 は、入力した時刻を適切な表示形式に変換します。

時刻を USA 形式 (hh.mm AM または PM) で入力した場合には、秒の情報がないことは、時刻が内部的には hh.mm.00 (すなわち、秒部分は常にゼロに設定されること) を意味します。これは、同じ表示形式であるが秒については内部表記が異なる別の TIME 列と比較したときに、予期しない結果をもたらす可能性があります。

関連するタスク

[FM/Db2 システム・オプション \(オプション 0.2\) ページ 65](#)

関連する参照先

[\[Systems Options \(1 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 1\)\)\] パネル ページ 847](#)

大きい数値フィールド

FM/Db2 がテンプレートを生成する場合には、どのような値でも正しく表示できるように数値列の列幅を設定します。

ただし、テンプレート編集の結果として、数値列には有効な数値が入っているが、値が大きすぎてその列に割り当てられた幅 (テンプレートで定義された幅) に収まらない場合には、その値は切り捨てられます。この列は、切り捨てが行われたことを示すために強調表示されます。

切り捨てないで列全体を表示するには、テンプレートを編集して、以下のようにその列の出力幅を指定する必要があります。

1. コマンド行から `TEDIT` と入力して、`[Column Selection/Edit (列の選択/編集)]` パネルを表示します。
2. `[Prefix Command (接頭部コマンド)]` 域でテンプレート・エディター接頭部コマンド `E` を入力して、`[Column Attributes (列属性)]` パネルを表示します。
3. `[Output width (出力幅)]` フィールドに、列全体を十分表示できるだけの値を入力します。
4. エディター・パネルに戻るまで `[Exit]` 機能キー (F3) を押します。

関連する参照先

[\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

[EXCLUDE 基本コマンド ページ 921](#)

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

[TEDIT 基本コマンド ページ 977](#)

大きな表の処理

表示モードで動作しているとき、大きな TSO 領域サイズを指定せずに、FM/Db2 で大きな Db2® 表を処理できます。この機能は、製品インストレーターによって使用不可にするよう選択された場合は、使用できません。

大きな表の処理に関連付けられている多数のオプションとプロセスを使用できます。これらについて、以下のセクションで説明します。

- [SQL 最適化オプション ページ 172](#)
- [大きな表オプション ページ 172](#)
- [データ・サンプリング ページ 173](#)

SQL 最適化オプション

「Editor Options (2 of 8) (エディター・オプション (8 の 2))」パネルの「**Optimization options (最適化オプション)**」を設定して、Db2® からデータを取り出すのに使用する SQL ステートメントに `OPTIMIZE FOR nnn ROWS` 文節を指定します。

オプションのさまざまな組み合わせに対応した動作について、[表 6: SQL 最適化オプションの効果 ページ 172](#) で説明します。

表 6. SQL 最適化オプションの効果

行カウント値の使用	行カウント	... 行に最適化	動作
未選択	0	0	文節なし
未選択	0	<i>nnn</i>	OPTIMIZE FOR <i>nnn</i> ROWS を追加
未選択	<i>nnn</i>	0	文節なし
未選択	<i>nnn</i>	<i>mmm</i>	OPTIMIZE FOR <i>mmm</i> ROWS を追加
選択済み	0	0	文節なし
選択済み	0	<i>nnn</i>	OPTIMIZE FOR <i>nnn</i> ROWS を追加
選択済み	<i>nnn</i>	0	OPTIMIZE FOR <i>nnn</i> ROWS を追加
選択済み	<i>nnn</i>	<i>mmm</i>	OPTIMIZE FOR <i>nnn</i> ROWS を追加

関連する参照先

[「Editor Options \(2 of 8\) \(編集オプション \(8 の 2\)\)」パネル ページ 656](#)

大きな表オプション

「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Scrollable cursor type (スクロール可能カーソル・タイプ)**」オプションを 1 (インセンシティブ) または 2 (センシティブ静的) に設定できます。プレースホルダー・モードのみで大容量の Db2® オブジェクトを処理する場合、FM/Db2 は適切なタイプのスクロール可能なカーソルを使用します。どのタイプのスクロール可能なカーソルが使用中であるかを判別する簡単な方法はありません。DBG トレースには、カーソルを宣言し、データを取り出すために使用される SQL ステートメントが示されています。

関連する参照先

[「Editor Options \(2 of 8\) \(編集オプション \(8 の 2\)\)」パネル ページ 656](#)

データ・サンプリング

データ・サンプリングを使用すると、Db2® オブジェクトの行のサブセットをエディターにロードするように指定できます。これは特に、非常に大きな Db2® 表を処理していて、データの代表的なサンプルが必要なときに便利です。

「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Sampling type (サンプリング・タイプ)**」オプションを使用して、FM/Db2 がサンプル・データを提供するために Db2® オブジェクトから行を選択する方法を指定できます。

Clustered sampling (クラスター化サンプリング)

指定された数の行がエディターにロードされます。

Random sampling (ランダム・サンプリング)

オブジェクトの各行が、エディターへの組み込みの対象として検討されます。乱数発生ルーチンと頻度により、行が実際にロードされるかどうかが決まります。

サンプル・データを選択するこれら 2 つの方法について、ここで詳しく説明します。

クラスター化データ・サンプリング

クラスター化データ・サンプリングを指定するには、「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Sampling type (サンプリング・タイプ)**」オプションを「**2. Clustered sampling (クラスター化サンプリング)**」に設定します。

クラスター化データ・サンプリングを使用する場合の FM/Db2 エディターの動作を以下に説明します。

- データ・サンプリングは、ブラウズ、表示、および編集に適用されます。
- データ・サンプリングを使用している場合、エディターは常にすべてのサンプリングされた行をメモリーにロードします。そのため、データをサンプリングする場合、大きな表のサポートは使用できません。
- クラスター化サンプリングに関連するオプションは、次のとおりです。
 - 機能入力パネルの「**Row count (行カウント)**」
 - 機能入力パネルの「**Start position (開始位置)**」
 - 「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Sampling limit (サンプリング制限)**」
 - 「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Initial skip count (初期スキップ・カウント)**」
 - 「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Include count (組み込みカウント)**」
 - 「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Skip count (スキップ・カウント)**」(最終)

表 7: クラスター化データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作 ページ 174 で、クラスター化データ・サンプリングに関連する各種オプションに対応した FM/Db2 エディターの動作を説明します。

表 7. クラスター化データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

行カウン ト	開始位置	サンプリ ング制限	初期スキ ップ・カウ ント	組み込み カウント	スキッ プ・カウ ント	動作
0	1	0	0	<i>nnn</i>	0	すべての行がサンプリングされます。
0	1	<i>bbb</i>	0	<i>nnn</i>	0	<i>bbb</i> 行がサンプリングされます ¹² 。
<i>rrr</i>	1	0	0	<i>nnn</i>	0	<i>rrr</i> 行がサンプリングされます ¹² 。
<i>rrr</i>	1	<i>bbb</i>	0	<i>nnn</i>	0	(<i>rrr,bbb</i>) の最小値の数の行がサンプリングされます ¹² 。
0	<i>sss</i>	0	0	<i>nnn</i>	0	<i>sss</i> から表の末尾までの行がサンプリングされます。
0	<i>sss</i>	<i>bbb</i>	0	<i>nnn</i>	0	<i>sss</i> ¹² から始まり、 <i>bbb</i> 行がサンプリングされます。
<i>rrr</i>	<i>sss</i>	0	0	<i>nnn</i>	0	<i>sss</i> から始まり、 <i>rrr</i> 行がサンプリングされます。
<i>rrr</i>	<i>sss</i>	<i>bbb</i>	0	<i>nnn</i>	0	<i>sss</i> ¹² から始まり、(<i>rrr,bbb</i>) の最小値の数の行がサンプリングされます。
0	1	0	<i>xxx</i>	<i>nnn</i>	<i>yyy</i>	<i>xxx+nnn+yyy</i> 行のグループ単位で、行がサンプリングされます。各グループで、 <i>xxx</i> 行がスキップされ、 <i>nnn</i> 行がサンプリングされ、 <i>yyy</i> 行がスキップされます。最初のグループは行 1 から開始し、2 番目のグループは (<i>xxx+nnn+yyy+1</i>) から開始します。グループは、結果表の末尾までサンプリングされます ¹² 。
0	1	<i>bbb</i>	<i>xxx</i>	<i>nnn</i>	<i>yyy</i>	<i>xxx+nnn+yyy</i> 行のグループ単位で、行がサンプリングされます。各グループで、 <i>xxx</i> 行がスキップされ、 <i>nnn</i> 行がサンプリングされ、 <i>yyy</i> 行がスキップされます。最初のグループは行 1 から開始し、2 番目のグループは (<i>xxx+nnn+yyy+1</i>) から開始します。グループは、 <i>bbb</i> 行がロードされるまでサンプリングされます ¹² 。

12. サンプリングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。

- ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
- ゼロ以外の行カウント制限に達した。
- 結果表の末尾に達した。

表 7. クラスター化データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

(続く)

行カウン ト	開始位置	サンプリ ング制限	初期スキ ップ・カウ ント	組み込み カウン ト	スキ ップ・カウ ント	動作
rrr	1	0	xxx	nnn	yyy	xxx+nnn+yyy 行のグループ単位で、行がサンプリングされます。各グループで、xxx行がスキップされ、nnn行がサンプリングされ、yyy行がスキップされます。最初のグループは行1から開始し、2番目のグループは(xxx+nnn+yyy+1)から開始します。グループは、rrr行がロードされるまでサンプリングされます ¹² 。
rrr	1	bbb	xxx	nnn	yyy	xxx+nnn+yyy 行のグループ単位で、行がサンプリングされます。各グループで、xxx行がスキップされ、nnn行がサンプリングされ、yyy行がスキップされます。最初のグループは行1から開始し、2番目のグループは(xxx+nnn+yyy+1)から開始します。グループは、(bbb,rrr)の最小値の数の行がロードされるまでサンプリングされま ず ¹² 。
rrr	sss	bbb	xxx	nnn	yyy	xxx+nnn+yyy 行のグループ単位で、行がサンプリングされます。各グループで、xxx行がスキップされ、nnn行がサンプリングされ、yyy行がスキップされます。最初のグループは行sssから開始し、2番目のグループはsss+(xxx+nnn+yyy)から開始します。グループは、(bbb,rrr)の最小値の数の行がロードされるまでサンプリングされま ず ¹² 。

ランダム・データ・サンプリング

ランダム・データ・サンプリングを指定するには、「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「Sampling type (サンプリング・タイプ)」オプションを「3. Random sampling (ランダム・サンプリング)」に設定します。

ランダム・データ・サンプリングを使用する場合の FM/Db2 エディターの動作を以下に説明します。

- データ・サンプリングは、ブラウズ、表示、および編集に適用されます。
- データ・サンプリングを使用している場合、エディターは常にすべてのサンプリングされた行をメモリーにロードします。そのため、データをサンプリングする場合、大きな表のサポートは使用できません。
- ランダム・サンプリングに関連するオプションは、次のとおりです。
 - 機能入力パネルの「**Row count (行カウント)**」
 - 機能入力パネルの「**Start position (開始位置)**」
 - 「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Sampling limit (サンプリング制限)**」
 - 「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Sampling frequency (サンプリング頻度)**」
 - 「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルの「**Sampling seed (サンプリング・シード)**」

表 8: ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作 ページ 176 で、ランダム・データ・サンプリングに関連する各種オプションに対応した FM/Db2 エディターの動作を説明します。

表 8. ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

行カ ウント	開始位置	サンプリ ング制限	サンプリ ング頻度	サン プ ル・シ ード	動作 ¹³
0	1	0	0.fff	0	行 1 から始まり、結果表の末尾まで行が取り出されます。

13. 1. サンプリングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。
- ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
 - ゼロ以外の行カウント (取り出し) 制限に達した。
 - 結果表の末尾に達した。

「Sampling limit

(サンプリング制限) には、エディターにロードする行の数の上限を設定します。これは、エディター・セッションの行数です。この行数に達するには、約「1/(サンプリング頻度 x サンプリング制限)」の行を取り出す必要があります。一方、「Row count (行カウント)」制限には、オブジェクトから取り出される行の数の上限を設定します。サンプリングされる行の数は、約「行カウント x サンプリング頻度」です。

「小さな」サンプリング頻度で、低い行カウ

ント制限を指定すると、行がサンプリングされないことがあります。例えば、「Row count (行カウント)」制限が 60、「Sampling count (サンプリング・カウント)」が 2000、「Sampling frequency (サンプリング頻度)」が 0.01 の場合、行がサンプリングされない可能性が高くなります。

2. 「Sampling frequency (サンプリング頻度)」を 0.fff にすると、平均して、また多数の行のサンプリング時に、0.fff x 100% の行がサンプリングされます。そのため、頻度を 0.1 にすると、10% の行がサンプリングされます。頻度を小さくした場合、一致する各行を検索するために多くの行を処理する必要があります。データの特定のランダム・サンプルで、サンプル内の行数がサンプリング頻度を正確に反映しているという保証はありません。

表 8. ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

(続く)

行カウ ント	開始位置	サンプリ ング制限	サンプリ ング頻度	サン プル・シ ード	動作 ¹³
0	1	bbb	0.fff	0	行 1 から始まり、結果表の末尾まで、または bbb 行がエディターに追加されるまで、行が取り出されます。

13. 1. サンプリングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。
- ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
 - ゼロ以外の行カウント (取り出し) 制限に達した。
 - 結果表の末尾に達した。

[Sampling limit

(サンプリング制限) には、エディターにロードする行数の上限を設定します。これは、エディター・セッションの行数です。この行数に達するには、約「1/(サンプリング頻度 × サンプリング制限)」の行を取り出す必要があります。一方、「Row count (行カウント)」制限には、オブジェクトから取り出される行数の上限を設定します。サンプリングされる行数は、約「行カウント × サンプリング頻度」です。

「小さな」サンプリング頻度で、低い行カウント制限を指定すると、行がサンプリングされないことがあります。例えば、「Row count (行カウント)」制限が 60、「Sampling count (サンプリング・カウント)」が 2000、「Sampling frequency (サンプリング頻度)」が 0.01 の場合、行がサンプリングされない可能性が高くなります。

2. 「Sampling frequency (サンプリング頻度)」を 0.fff にすると、平均して、また多数の行のサンプリング時に、0.fff × 100% の行がサンプリングされます。そのため、頻度を 0.1 にすると、10% の行がサンプリングされます。頻度を小さくした場合、一致する各行を検索するために多くの行を処理する必要があります。データの特定のランダム・サンプルで、サンプル内の行数がサンプリング頻度を正確に反映しているという保証はありません。

「Sampling seed (サンプリング・シード)」の値に 0 が指定されている場合、FM/Db2 は、現行システム・クロック値から派生した秒の値の小数部を使用して、乱数発生ルーチンを開始します。この値はマイクロ秒までの精度なので、各シードは 0 から 999999 の値 (両端を含む) を持ちます。サンプリング・シードを 0 にして生成した 2 つのランダム・サンプルが同一になることは、まずありません。

同じ表およびその他の条件で、同じユーザー指定の「Sampling seed (サンプリング・シード)」を使用した場合、作成されるデータ・サンプルは同一です。

「Sampling seed (サンプリング・シード)」の値に 0 が指定されている場合、FM/Db2 は、現行システム・クロック値から派生した秒の値の小数部を使用して、乱数発生ルーチンを開始します。この値はマイクロ秒までの精度なので、各シードは 0 から 999999 の値 (両端を含む) を持ちます。サンプリング・シードを 0 にして生成した 2 つのランダム・サンプルが同一になることは、まずありません。

表 8. ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

(続く)

行カ ウント	開始位置	サンプリ ング制限	サンプリ ング頻度	サン プル・シ ード	動作 ¹³
<i>rrr</i>	1	0	0. <i>fff</i>	0	最初の行から始まり、 <i>rrr</i> 行が取り出されます。これらの行のサブセット (約 0. <i>fff</i> x <i>rrr</i>) がサンプル・データ・セットに追加されます。
<i>rrr</i>	1	<i>bbb</i>	0. <i>fff</i>	0	最初の行から始まり、最大で <i>rrr</i> 行が取り出されます。これらの行のサブセット (約 0. <i>fff</i> x <i>rrr</i>) が最大で <i>bbb</i> 行、サンプル・データ・セットに追加されます。

13. 1. サンプルングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。
- ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
 - ゼロ以外の行カウント (取り出し) 制限に達した。
 - 結果表の末尾に達した。

[Sampling limit

(サンプリング制限)] には、エディターにロードする行の数の上限を設定します。これは、エディター・セッションの行数です。この行数に達するには、約「1/(サンプリング頻度 x サンプリング制限)」の行を取り出す必要があります。一方、「Row count (行カウント)」制限には、オブジェクトから取り出される行の数の上限を設定します。サンプリングされる行の数は、約「行カウント x サンプリング頻度」です。

「小さな」サンプリング頻度で、低い行カウント制限を指定すると、行がサンプリングされないことがあります。例えば、「Row count (行カウント)」制限が 60、「Sampling count (サンプリング・カウント)」が 2000、「Sampling frequency (サンプリング頻度)」が 0.01 の場合、行がサンプリングされない可能性が高くなります。

2. [Sampling frequency (サンプリング頻度)] を 0. *fff* にすると、平均して、また多数の行のサンプリング時に、0. *fff* x 100% の行がサンプリングされます。そのため、頻度を 0.1 にすると、10% の行がサンプリングされます。頻度を小さくした場合、一致する各行を検索するために多くの行を処理する必要があります。データの特定のランダム・サンプルで、サンプル内の行数がサンプリング頻度を正確に反映しているという保証はありません。

[Sampling seed (サンプリング・シード)] の値に 0 が指定されている場合、FM/Db2 は、現行システム・クロック値から派生した秒の値の小数部を使用して、乱数発生ルーチンを開始します。この値はマイクロ秒までの精度なので、各シードは 0 から 999999 の値 (両端を含む) を持ちます。サンプリング・シードを 0 にして生成した 2 つのランダム・サンプルが同一になることは、まずありません。

同じ表およびその他の条件で、同じユーザー指定の「Sampling seed (サンプリング・シード)」を使用した場合、作成されるデータ・サンプルは同一です。

同じ表およびその他の条件で、同じユーザー指定の「Sampling seed (サンプリング・シード)」を使用した場合、作成されるデータ・サンプルは同一です。

表 8. ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

(続く)

行カ ウント	開始位置	サンプリ ング制限	サンプリ ング頻度	サン プル・シ ード	動作 ¹³
0	sss	0	0.fff	0	行 sss から始まり、結果表の末尾まで行がサンプリングされます。
0	sss	bbb	0.fff	0	行 sss から始まり、結果表の末尾まで、または bbb 行がエディターに追加されるまで、行が取り出されます。
rrr	sss	0	0.fff	0	行 sss から始まり、rrr 行が取り出されます。これらの行のサブセット (約 0.fff x rrr) がサンプル・データ・セットに追加されます。
rrr	sss	bbb	0.fff	0	行 sss から始まり、最大で rrr 行が取り出されます。これらの行のサブセット (約 0.fff x rrr) が最大で bbb 行、サンプル・データ・セットに追加されます。

サンプリングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。

13. 1.
 - ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
 - ゼロ以外の行カウント (取り出し) 制限に達した。
 - 結果表の末尾に達した。

[Sampling limit

(サンプリング制限) には、エディターにロードする行の数の上限を設定します。これは、エディター・セッションの行数です。この行数に達するには、約 $1/(\text{サンプリング頻度} \times \text{サンプリング制限})$ の行を取り出す必要があります。一方、「Row count (行カウント)」制限には、オブジェクトから取り出される行の数の上限を設定します。サンプリングされる行の数は、約 $[\text{行カウント} \times \text{サンプリング頻度}]$ です。

「小さな」サンプリング頻度で、低い行カウント制限を指定すると、行がサンプリングされないことがあります。例えば、「Row count (行カウント)」制限が 60、「Sampling count (サンプリング・カウント)」が 2000、「Sampling frequency (サンプリング頻度)」が 0.01 の場合、行がサンプリングされない可能性が高くなります。

2. [Sampling frequency (サンプリング頻度)] を 0.fff にすると、平均して、また多数の行のサンプリング時に、 $0.fff \times 100\%$ の行がサンプリングされます。そのため、頻度を 0.1 にすると、10% の行がサンプリングされます。頻度を小さくした場合、一致する各行を検索するために多くの行を処理する必要があります。データの特定のランダム・サンプルで、サンプル内の行数がサンプリング頻度を正確に反映しているという保証はありません。

[Sampling seed (サンプリング・シード)] の値に 0 が指定されている場合、FM/Db2 は、現行システム・クロック値から派生した秒の値の小数部を使用して、乱数発生ルーチンを開始します。この値はマイクロ秒までの精度なので、各シードは 0 から 999999 の値 (両端を含む) を持ちます。サンプリング・シードを 0 にして生成した 2 つのランダム・サンプルが同一になることは、まずありません。

同じ表およびその他の条件で、同じユーザー指定の「Sampling seed (サンプリング・シード)」を使用した場合、作成されるデータ・サンプルは同一です。

表 8. ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

(続く)

行カウ ント	開始位置	サンプリ ング制限	サンプリ ング頻度	サン プ ル・シ ード	動作 ¹³
0	1	0	0. fff	0	行 1 から始まり、結果表の末尾まで行が取り出されます。乱数発生ルーチンは、シード yyy で開始します。
0	1	bbb	0. fff	0	行 1 から始まり、結果表の末尾まで、または bbb 行がエディターに追加されるまで、行が取り出されます。乱数発生ルーチンは、シード yyy で開始します。

13. 1.

サンプリングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。

- ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
- ゼロ以外の行カウント (取り出し) 制限に達した。
- 結果表の末尾に達した。

[Sampling limit

(サンプリング制限)] には、エディターにロードする行の数の上限を設定します。これは、エディター・セッションの行数です。この行数に達するには、約「1/(サンプリング頻度 x サンプリング制限)」の行を取り出す必要があります。一方、「Row count (行カウント)」制限には、オブジェクトから取り出される行の数の上限を設定します。サンプリングされる行の数は、約「行カウント x サンプリング頻度」です。

「小さな」サンプリング頻度で、低い行カウ

ント制限を指定すると、行がサンプリングされないことがあります。例えば、「Row count (行カウント)」制限が 60、「Sampling count (サンプリング・カウント)」が 2000、「Sampling frequency (サンプリング頻度)」が 0.01 の場合、行がサンプリングされない可能性が高くなります。

2.

[Sampling frequency (サンプリング頻度)] を 0.fff にすると、平均して、また多数の行のサンプリング時に、0.fff x 100% の行がサンプリングされます。そのため、頻度を 0.1 にすると、10% の行がサンプリングされます。頻度を小さくした場合、一致する各行を検索するために多くの行を処理する必要があります。データの特定のランダム・サンプルで、サンプル内の行数がサンプリング頻度を正確に反映しているという保証はありません。

[Sampling seed (サンプリング・シード)] の値に 0 が指定されている場合、FM/Db2

は、現行システム・クロック値から派生した秒の値の小数部を使用して、乱数発生ルーチンを開始します。この値はマイクロ秒までの精度なので、各シードは 0 から 999999 の値 (両端を含む) を持ちます。サンプリング・シードを 0 にして生成した 2 つのランダム・サンプルが同一になることは、まずありません。

同じ表およびその他の条件で、同じユーザー指定の「Sampling seed (サンプリング・シード)」を使用した場合、作成されるデータ・サンプルは同一です。

表 8. ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

(続く)

行カ ウント	開始位置	サンプリ ング制限	サンプリ ング頻度	サン プル・シ ード	動作 ¹³
<i>rrr</i>	1	0	0. <i>fff</i>	0	最初の行から始まり、 <i>rrr</i> 行が取り出されます。これらの行のサブセット (約 0. <i>fff</i> x <i>rrr</i>) がサンプル・データ・セットに追加されます。乱数発生ルーチンは、シード <i>yyy</i> で開始します。
<i>rrr</i>	1	<i>bbb</i>	0. <i>fff</i>	0	最初の行から始まり、最大で <i>rrr</i> 行が取り出されます。これらの行のサブセット (約 0. <i>fff</i> x <i>rrr</i>) が最大で <i>bbb</i> 行、サンプル・データ・セットに追加されます。乱数発生ルーチンは、シード <i>yyy</i> で開始します。

13. 1.

サンプリングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。

- ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
- ゼロ以外の行カウント (取り出し) 制限に達した。
- 結果表の末尾に達した。

[Sampling limit

(サンプリング制限) には、エディターにロードする行の数の上限を設定します。これは、エディター・セッションの行数です。この行数に達するには、約「1/(サンプリング頻度 x サンプリング制限)」の行を取り出す必要があります。一方、「Row count (行カウント)」制限には、オブジェクトから取り出される行の数の上限を設定します。サンプリングされる行の数は、約「行カウント x サンプリング頻度」です。

「小さな」サンプリング頻度で、低い行カウ

ント制限を指定すると、行がサンプリングされないことがあります。例えば、「Row count (行カウント)」制限が 60、「Sampling count (サンプリング・カウント)」が 2000、「Sampling frequency (サンプリング頻度)」が 0.01 の場合、行がサンプリングされない可能性が高くなります。

2.

「Sampling frequency (サンプリング頻度)」を 0. *fff* にすると、平均して、また多数の行のサンプリング時に、0. *fff* x 100% の行がサンプリングされます。そのため、頻度を 0.1 にすると、10%

の行がサンプリングされます。頻度を小さくした場合、一致する各行を検索するために多くの行を処理する必要があります。データの特定のランダム・サンプルで、サンプル内の行数がサンプリング頻度を正確に反映しているという保証はありません。

「Sampling seed (サンプリング・シード)」の値に 0 が指定されている場合、FM/Db2

は、現行システム・クロック値から派生した秒の値の小数部を使用して、乱数発生ルーチンを開始します。この値はマイクロ秒までの精度なので、各シードは 0 から 999999 の値 (両端を含む) を持ちます。サンプリング・シードを 0 にして生成した 2 つのランダム・サンプルが同一になることは、まずありません。

同じ表およびその他の条件で、同じユーザー指定の「Sampling seed (サンプリング・シード)」を使用した場合、作成されるデータ・サンプルは同一です。

表 8. ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

(続く)

行カウ ント	開始位置	サンプリ ング制限	サンプリ ング頻度	サンブ ル・シー ド	動作 ¹³
0	sss	0	0. fff	0	行 sss から始まり、結果表の末尾まで行がサンプリングされます。乱数発生ルーチンは、シード yyy で開始します。
0	sss	bbb	0. fff	0	行 sss から始まり、結果表の末尾まで、または bbb 行がエディターに追加されるまで、行が取り出されます。乱数発生ルーチンは、シード yyy で開始します。

13. 1.

サンプリングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。

- ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
- ゼロ以外の行カウント (取り出し) 制限に達した。
- 結果表の末尾に達した。

[Sampling limit

(サンプリング制限)] には、エディターにロードする行の数の上限を設定します。これは、エディター・セッションの行数です。この行数に達するには、約 $1/(\text{サンプリング頻度} \times \text{サンプリング制限})$ の行を取り出す必要があります。一方、[Row count (行カウント)] 制限には、オブジェクトから取り出される行の数の上限を設定します。サンプリングされる行の数は、約 $[\text{行カウント} \times \text{サンプリング頻度}]$ です。

「小さな」サンプリング頻度で、低い行カウ

ント制限を指定すると、行がサンプリングされないことがあります。例えば、「Row count (行カウント)」制限が 60、「Sampling count (サンプリング・カウント)」が 2000、「Sampling frequency (サンプリング頻度)」が 0.01 の場合、行がサンプリングされない可能性が高くなります。

2.

[Sampling frequency (サンプリング頻度)] を 0.fff にすると、平均して、また多数の行のサンプリング時に、0.fff x 100% の行がサンプリングされます。そのため、頻度を 0.1 にすると、10%

の行がサンプリングされます。頻度を小さくした場合、一致する各行を検索するために多くの行を処理する必要があります。データの特定のランダム・サンプルで、サンプル内の行数がサンプリング頻度を正確に反映しているという保証はありません。

[Sampling seed (サンプリング・シード)] の値に 0 が指定されている場合、FM/Db2

は、現行システム・クロック値から派生した秒の値の小数部を使用して、乱数発生ルーチンを開始します。この値はマイクロ秒までの精度なので、各シードは 0 から 999999 の値 (両端を含む) を持ちます。サンプリング・シードを 0 にして生成した 2 つのランダム・サンプルが同一になることは、まずありません。

同じ表およびその他の条件で、同じユーザー指定の [Sampling seed (サンプリング・シード)] を使用した場合、作成されるデータ・サンプルは同一です。

表 8. ランダム・データ・サンプリングに関連するオプションに対応した FM/Db2 エディターの動作

(続く)

行カ ウント	開始位置	サンプリ ング制限	サンプリ ング頻度	サン プル・シ ード	動作 ¹³
<i>rrr</i>	<i>sss</i>	0	0. <i>fff</i>	0	行 <i>sss</i> から始まり、 <i>rrr</i> 行が取り出されます。これらの行のサブセット (約 0. <i>fff</i> x <i>rrr</i>) がサンプル・データ・セットに追加されます。乱数発生ルーチンは、シード <i>yyy</i> で開始します。
<i>rrr</i>	<i>sss</i>	<i>bbb</i>	0. <i>fff</i>	0	行 <i>sss</i> から始まり、最大で <i>rrr</i> 行が取り出されます。これらの行のサブセット (約 0. <i>fff</i> x <i>rrr</i>) が最大で <i>bbb</i> 行、サンプル・データ・セットに追加されます。乱数発生ルーチンは、シード <i>yyy</i> で開始します。

関連する参照先

サンプリングは、次のいずれかの条件に当てはまるまで継続されます。

13. 1.
 - ゼロ以外のサンプリング制限に達した。
 - ゼロ以外の行カウント (取り出し) 制限に達した。
 - 結果表の末尾に達した。

[Sampling limit

(サンプリング制限) には、エディターにロードする行の数の上限を設定します。これは、エディター・セッションの行数です。この行数に達するには、約 $1/(\text{サンプリング頻度} \times \text{サンプリング制限})$ の行を取り出す必要があります。一方、「Row count (行カウント)」制限には、オブジェクトから取り出される行の数の上限を設定します。サンプリングされる行の数は、約 $[\text{行カウント} \times \text{サンプリング頻度}]$ です。

「小さな」サンプリング頻度で、低い行カウ

ント制限を指定すると、行がサンプリングされないことがあります。例えば、「Row count (行カウント)」制限が 60、「Sampling count (サンプリング・カウント)」が 2000、「Sampling frequency (サンプリング頻度)」が 0.01 の場合、行がサンプリングされない可能性が高くなります。

2. [Sampling frequency (サンプリング頻度)] を 0. *fff* にすると、平均して、また多数の行のサンプリング時に、0. *fff* x 100% の行がサンプリングされます。そのため、頻度を 0.1 にすると、10% の行がサンプリングされます。頻度を小さくした場合、一致する各行を検索するために多くの行を処理する必要があります。データの特定のランダム・サンプルで、サンプル内の行数がサンプリング頻度を正確に反映しているという保証はありません。

[Sampling seed (サンプリング・シード)] の値に 0 が指定されている場合、FM/Db2

は、現行システム・クロック値から派生した秒の値の小数部を使用して、乱数発生ルーチンを開始します。この値はマイクロ秒までの精度なので、各シードは 0 から 999999 の値 (両端を含む) を持ちます。サンプリング・シードを 0 にして生成した 2 つのランダム・サンプルが同一になることは、まずありません。

同じ表およびその他の条件で、同じユーザー指定の「Sampling seed (サンプリング・シード)」を使用した場合、作成されるデータ・サンプルは同一です。

[Db2 「Browse \(ブラウズ\)」 パネル ページ 618](#)

[「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)

[Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)

[「Editor Options \(2 of 8\) \(編集オプション \(8 の 2\)\)」 パネル ページ 656](#)

ヌル値と VARCHAR の処理

FM/Db2 は、ヌル値および可変長列を処理するさまざまなオプションを提供します。

ヌル列標識文字

FM/Db2 には、ヌル列文字を指定できる次の 2 つのオプションがあります。

ヌル列標識: Input (入力)

ヌル列の編集時に使用します。

ヌル列標識: Display (表示)

表示時にヌル列を示します。

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、ヌル値を指定可能な列の先頭 (左端) の列にヌル列入力標識文字を入力すると、その列にヌル値が含まれることが示されます。FM/Db2 にヌル列入力標識文字を認識させるためには、選択した文字を入力フィールドの 1 桁目に入力して、残りのすべての文字を除去する必要があります。

また、FM/Db2 は、スペースが含まれる列をヌル値が含まれていると解釈するオプションも提供します。

関連する参照先

[「Editor Options \(4 of 8\) \(編集オプション \(8 の 4\)\)」 パネル ページ 667](#)

可変長列

FM/Db2 には、ストリング区切り文字を指定できる次の 2 つのオプションがあります。

ストリング区切り文字: 入力

可変長列の編集時に使用します。

ストリング区切り文字: 表示

表示時に可変長列の終わりを指示します。

また、FM/Db2 が可変長列内の末尾スペースを解釈する方法を制御するオプション (「**Remove trailing spaces (末尾スペースの除去)**」) を選択することもできます。

以下の例では、File Manager/Db2 エディター・セッションでストリング (可変長列の場合) を指定したときの「**Remove trailing spaces (末尾スペースの除去)**」オプションの効果、およびストリング区切り文字 (この場合は「#」) の用法を示します。この例では、「>」および「<」は、それぞれ入力したデータの開始と終了を示しています。

- **「Remove trailing spaces (末尾スペースの除去)」** オプションが選択されていると、末尾スペースが除去されません。

Example string #<

「Example string」 として保管されます。

- **「Remove trailing spaces (末尾スペースの除去)」** オプションが選択されていないと、末尾スペースは除去されません。

Example string #<

「Example string」 として保管されます。

関連するタスク

[View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)

[現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)

関連する参照先

[「Editor Options \(5 of 8\) \(編集オプション \(8 の 5\)\)」 パネル ページ 671](#)

Unicode データ

FM/Db2 エディターは、Unicode で保管された文字データを、EBCDIC または ASCII で保管されたデータとは異なる方法で処理します。ここで、違いを簡単に説明します。

通常 FM/Db2 は、Db2® から文字データを、FM/Db2 プランの CCSID (通常、CCSID 37) への自動変換を使用して取得します。これは US EBCDIC ですが、その他の EBCDIC CCSID も使用される場合があります。

FM/Db2 が Unicode で (Db2® 内に) 保管されている文字データを取得する場合、この自動データ変換は実行されません。FM/Db2 エディターは、ネイティブの Unicode フォーマットで文字データを内部で処理します。つまり、端末に表示される前に、データは Unicode から端末の CCSID に変換されます。このため、Unicode 文字が端末の CCSID に対応するコード・ポイントを持たない場合、変換エラーが生じる場合があります。変換できない文字はすべて、変換されなかった文字を示すピリオドとして画面に表示されます。端末に表示された (そしておそらく変更された) データが処理されるときに、Db2® に実行依頼する前に、データは端末の CCSID から Unicode に変換されます。Unicode には、CCSID で一般に使用されるすべての文字のコード・ポイントが含まれているため、この変換は常に正常に行われます。

表示されたデータに、変換されなかった Unicode 文字を示すピリオドが含まれ、その列のデータが上書きで変更されると、データが破損する可能性があります。変更されたデータ内のすべてのピリオドは、Unicode での同等のものに変換されます。このため、ピリオドが、変換されなかった Unicode 文字を表している場合、変更によってその文字は破損されます。16 進モードで文字データが表示されている場合、その 16 進文字は通常、端末の CCSID で表示されている文字のエンコードを表しています。例えば、'A' は EBCDIC では 'C1'x によって表されます。文字データが Unicode でエンコードされた列を対象にしたものである場合、16 進文字は、端末の CCSID で表示されている文字のエンコードではなく、ネイティブの Unicode データを表します。例えば、Unicode データが表示されている場合、'A' は '41'x によって表されます。

16 進表示をオンにして (HEX ON コマンド) 16 進文字を直接上書きすることで、Unicode で保管された列にあるデータを変更することもできます。これを行う場合は、すべての文字に対して端末の CCSID 表記ではなく、Unicode 表記を使用する必要があります。

ターゲット列が、Db2® 内に Unicode で保管された文字データであると想定すると、FIND、CHANGE、および EXCLUDE コマンドは以下のように作動します。

- 'ABC' のようなストリングは、何らかの検索または変更が行われる前に、Unicode に変換されます。
- '414243'x のような 16 進数ストリングは、何らかの検索または変更が行われる前に、Unicode に変換されません。したがって、ターゲット列に Unicode データが含まれる場合、F 'ABC' と F '414243'x は同等になりますが、ターゲット列に EBCDIC データが含まれる場合、同等にはなりません。

データの変更

File Manager/Db2 エディター・セッションで、以下のことを行うことによってデータを変更できます。

- 上書きする
- CHANGE 基本コマンドを使用する
- 各行の横にある接頭部域から接頭部コマンドを入力する

関連するタスク

[CAPS に影響を与えるインストール設定 ページ 186](#)

[上書きによるデータの変更 ページ 187](#)

[CHANGE コマンドによるデータの変更 ページ 188](#)

[接頭部コマンドを使用したデータの変更 ページ 192](#)

CAPS に影響を与えるインストール設定

CAPS の設定によって、File Manager/Db2 エディター・セッションで入力する文字を大文字に変換するかどうかが決まります。CAPS を ON に設定すると、FM/Db2 は、変更された行内のすべてのデータを小文字から大文字に上書きすることによって変換し、CHANGE コマンドに指定した置換データを小文字から大文字に変換します。CAPS が OFF の場合は、入力する新規データは、大文字に変換されません。

FM/Db2 をインストールするときに、数多くのカスタマイズ設定が CAPS に影響を与えます。これらの設定によって、以下のことが決定されます。

- CAPS の初期設定 (ON または OFF)
- 編集オプションを使用してこの設定を変更できるかどうか、つまり、設定が“更新可能”(変更できるという意味)であるか、または“固定”(変更できないという意味)であるか
- FM/Db2 CAPS 基本コマンドを発行できるかどうか

これらのカスタマイズ設定について詳しくは、カスタマイズ・ガイドを参照してください。

上記の 1 番目と 2 番目の設定については、3 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルを調べることで、値を確認できます。

上記の 3 番目の設定については、CAPS コマンドを発行するときに、CAPS コマンドを使用できないように FM/Db2 がカスタマイズされているときは、FM/Db2 は、「The CAPS command has been disabled at installation time. (CAPS コマンドはインストール時に使用不可になっています。)」というメッセージを表示します。

CAPS のインストール・オプションが「fixed (固定)」であると、各 FM/Db2 エディター・セッションは CAPS のインストール設定 (ON または OFF のいずれか) で開始し、編集オプションを使用して設定を変更できません。

CAPS のインストール・オプションが「updateable (更新可能)」の場合は、編集オプションを使用して設定を (ON または OFF のいずれかに) 変更でき、各 FM/Db2 エディター・セッションは現行の CAPS 設定で開始します。

CAPS コマンドが使用不可になっている場合は、CAPS のインストール・オプションは、「fixed (固定)」です。

- CAPS のインストール・オプションが ON の場合は、小文字データを入力するには、まず CASE MIXED コマンドを入力する必要があります。
- CAPS のインストール・オプションが OFF の場合は、大文字データを入力するには、Shift キーまたは Caps Lock キーを使用する必要があります。

関連するタスク

[上書きによるデータの変更 ページ 187](#)

[CHANGE コマンドによるデータの変更 ページ 188](#)

[データの大文字変換 ページ 195](#)

関連する参照先

[「Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)」パネル ページ 651](#)

[CAPS 基本コマンド ページ 906](#)

[CASE 基本コマンド ページ 907](#)

上書きによるデータの変更

File Manager/Db2 エディター・セッションで表示されたデータは、新規データで上書きすることによって変更できます。

上書きによって、正常にデータを変更するには、以下のようにします。

- 入力した新規データは、変更される列のデータ・タイプと互換性がなければなりません。例えば、数値データ・タイプの列には、数値しか入力できません。
- 列は更新可能でなければなりません (Db2® カタログで定義された通り)。
- 表が参照保全の対象である場合、新規データが参照保全に違反してはなりません。

関連するタスク

[「読み取り専用」のビュー、更新不可の列 ページ 196](#)

[関連表の編集 ページ 198](#)

[データの大文字変換 ページ 195](#)

関連する参照先

[Db2 データ型 ページ 452](#)

CHANGE コマンドによるデータの変更

CHANGE コマンドを使用してデータを変更するときに、検索に含める列番号を 1 つ以上指定しなければなりません (データを検索するための FIND コマンドで使用するのと同じ方法で指定します)。

例えば、以下のコマンドは、列番号 5 および 6 の列のいずれかで、行に “CHAIR” というストリングが出現したら、すべて “TABLE” というストリングに変更します。

```
CHANGE ALL CHAIR TABLE #5,#6
```

また、以下のコマンドは、列番号 3 の中で、次に出現する 400 という値を 500 に変更します。

```
CHANGE 400 500 #3
```

次に現れるストリングを変更するには、「RChange」機能キー (F6) を押します。次に現れるストリングを検索して、任意指定でそれを変更するには、「RFind」機能キー (F5) と「RChange」機能キー (F6) の組み合わせを使用します。

前の CHANGE 基本コマンドで指定したものと同一ストリングを検索するには、検索ストリングにアスタリスク (*) を指定します。

前の CHANGE 基本コマンドで指定したものと同一置き換えストリングを使用するには、置き換えストリングにアスタリスク (*) を指定します。

その他の例

```
CHANGE BLACK WHITE #4 #7
```

TABL 表示形式では、次に現れる “BLACK” を “WHITE” に変更します。この場合に “BLACK” は、列番号 4 および 7 で表される列のいずれかに完全に含まれているものです。

SINGL 表示形式では、次に現れる “BLACK” を “WHITE” に変更します。この場合の “BLACK” は、現在行のみの列番号 4 および 7 のいずれかの列に完全に含まれているものです。

```
CHANGE BLACK WHITE ALL #2 #8
```

TABL 表示形式では、現れるすべての “BLACK” を “WHITE” に変更します。この場合に “BLACK” は、すべての行の列番号 2 および 8 で表される列のいずれかに完全に含まれているものです。

SINGL 表示形式では、現れるすべての “BLACK” を “WHITE” に変更します。この場合の “BLACK” は、現在行のみの列番号 2 および 8 で表される列のいずれかに完全に含まれているものです。

関連する概念

[CAPS に影響を与えるインストール設定 ページ 186](#)

関連するタスク

[除外行または非除外行内のデータの変更 ページ 191](#)

[ラベル範囲内のデータの変更 ページ 192](#)

[特定の列内のデータの検索 ページ 149](#)

関連する参照先

[CHANGE 基本コマンド ページ 907](#)

[\[Table Edit \(表編集\)\] パネル ページ 857](#)

長さの異なる「From (元)」ストリングと「To (宛先)」ストリング

文字の列 (CHAR、VARCHAR) に関しては、以下を条件として、長さの異なる“元”ストリングと“宛先”ストリング (*from_string* および *to_string*) を指定できます。

- 固定長文字列で、“宛先”ストリング (*to_string*) が“元”ストリング (*from_string*) より短いと、FM/Db2 は変更を実行して、列にスペースを埋め込みます。“宛先”ストリング (*to_string*) が“元”ストリング (*from_string*) より長いと、FM/Db2 は、列中に変更を収容できる十分な未使用文字がある場合にのみ変更を適用します。

例えば、特定の行で、列 #2 は固定長の、“GEORGE ” (末尾の 2 スペースとも) を含む長さが 8 の文字列であるとします。

```
CHANGE GEORGE FRED #2
```

その行で“GEORGE ” (末尾の 2 スペースとも) を“FRED ” (末尾の 4 スペースとも) に変更します。

```
CHANGE GEORGE WILLIAM #2
```

その行で“GEORGE ” (末尾の 2 スペースとも) を“WILLIAM ” (末尾の 1 スペースとも) に変更します。

```
CHANGE GEORGE ALEXANDER #2
```

列中に変更を収容できる十分な未使用文字がないので、FM/Db2 はその行に対して変更を実行しません。


- 可変長文字列で、“宛先”ストリング (*to_string*) が“元”ストリング (*from_string*) より短いと、FM/Db2 は変更を実行し、*to_string* と *from_string* の間の長さの差分だけ列の長さを下方調整します。“宛先”ストリング (*to_string*) が“元”ストリング (*from_string*) より長いと、FM/Db2 は、列中に変更を収容できる十分な未使用文字がある場合にのみ変更を適用します。この場合には、FM/Db2 は *from_string* と *to_string* の間の長さの差分だけ列の長さを上方調整します。

長いストリングの処理

文字カラム (CHAR、VARCHAR) の場合には、100 文字までの長さの“検索”ストリングと“置換”ストリング (*from_string* および *to_string*) を指定できます。ただし、長いストリングを扱うときには、コマンド行に CHANGE コマンド全体 (他のパラメーターを含む) が収まらないことがあります。この問題を解決するには、以下のいずれかを実行して「Extended

Command Entry (拡張コマンド入力) ポップアップ・パネルを表示します (図 54: CHANGE コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル ページ 190 を参照)。

- cx (Change Extended の略) を入力する。
- CHANGE 基本コマンド (または「C」などの省略形) をパラメーターなしで入力する。

 **注:** 現行 FM/Db2 エディター・セッションで以前に CHANGE コマンドまたは FIND コマンドを使用したことがある場合、このように「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを表示するには、最初に RESET コマンドを使用してから、CHANGE コマンド (またはその省略形の 1 つ) をパラメーターなしで入力する必要があります。あるいは、cx と入力してください。

「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルには、すべての CHANGE コマンド・パラメーター (ただし、実際のキーワード CHANGE またはその省略形ではない) の入力に使用する 5 つの行 (各行の長さは 50 文字) が含まれています。FM/Db2 は、このポップアップ・パネル上の 5 行を連続したものとして扱います。これにより、長い「From (検索)」および「To (置換)」ストリング、Db2® 桁番号、他の任意のパラメーター (オプション) を、合計で 250 字まで指定できます。


 **注:** ストリング (または他の任意のパラメーター) は、ポップアップ・パネルの行の末尾から次の行の先頭に続けることができます。ただし、1 行を完全に埋めてから次の行を使用しなければならないというわけではありません。例えば、1 行目で「From (検索)」ストリングを指定し、次の行で「To (置換)」ストリングを指定し、さらに次の行で Db2® 列番号 (#n として指定) を指定することができます。行の未使用部分に関して、FM/Db2 はそれをシングル・スペースとして扱います。

図 54: CHANGE コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル ページ 190

は、CHANGE コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを示しています。この例では、Db2® 列 4 または 7 のラベル .abc から .def までにある前のストリング「dichlorodiphenyltrichloroethane」が、非除外行についてのみストリング「trinitrophenylmethylnitramine」に変更されます。

図 54. CHANGE コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Table Edit          1 of 42
TABLE FMUSER.EMP      Format TABL        DATE
                        Extended Command Entry
Complete typing the CHANGE command and press Enter.
0  CHANGE  ==> dichlorodiphenyltrichloroethane
0          ==> trinitrophenylmethylnitramine
0          ==> prev (#4 #7)
0          ==> .abc .def
0          ==> nx
0
0          F1=Help   F2=Split   F3=Exit   F9=Swap   F12=Cancel
0
000009 000110 magnesium silicate
000010 000120 sodium bicarbonate
000011 000130 aqueous solution of ammonium hydroxide
000012 000140 ammonium hydroxide solution
Command ==> c
F1=Help   F2=Zoom   F3=Exit   F4=CRetriev F5=RFind   F6=RChange
F7=Up     F8=Down   F9=Swap   F10=Left   F11=Right  F12=Cancel
m silica
ure dilu
roxide
te aceti
dium car
tassium
te aceti
9/1980
    
```

図 55: 連続する入力行を示す CHANGE コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル ページ 191 は、CHANGE コマンドのポップアップ・パネルを示しています。ここでは、長いストリング (84 文字) が Db2® 列 5 で次に表示される場所で、別の長いストリング (70 文字) に変更されます。

図 55. 連続する入力行を示す CHANGE コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Table Edit                1 of 42
TABLE FMUSER.EMP                Format TABL                DATE
-----
Extended Command Entry
-----
Complete typing the CHANGE command and press Enter.
0  CHANGE  ==> 'It is wise to apply the oil of refined politeness
0  ==> 'to the mechanisms of friendship.'
0  ==> 'In prosperity our friends know us; in adversity w
0  ==> e know our friends.' #5
0  ==>
0
0
0  F1=Help   F2=Split  F3=Exit   F9=Swap   F12=Cancel
0
000009 000110 You can make more friends in two months by becoming interested in
000010 000120 Never explain--your friends do not need it and your enemies will
000011 000130 Do not protect yourself by a fence, but rather by your friends.
000012 000140 Nothing changes your opinion of a friend so surely as success - y
Command ==> c                Scroll PAGE
F1=Help   F2=Zoom   F3=Exit   F4=CRetrie F5=RFind   F6=RChange
F7=Up     F8=Down   F9=Swap   F10=Left  F11=Right  F12=Cancel

```

数値列の変更

CHANGE コマンドを使って数値列を変更する場合には、*from_string* と *to_string* の長さは重要ではありません。例えば、列 #2 が数値列の場合には、*from_string* と *to_string* は数値と解釈されるので、次の CHANGE コマンドは有効です。

```
CHANGE 3.1415 3.2 #2
```

除外行または非除外行内のデータの変更

データに除外行および非除外行が含まれている場合、CHANGE コマンドの効果を、以下のものに制限することができます。

- 非除外行のみ (パラメーター NX)、または
- 除外行のみ (パラメーター EX または X)

例えば、以下のコマンドは、非除外行のみの列番号 2 または列番号 5 で “GREEN” というストリング が出現したら、すべて “BLACK” というストリングに変更します。

```
CHANGE ALL GREEN BLACK (#2 #5) NX
```

また、以下のコマンドは、除外行の列番号 2 の中で、次に出現する 250 という値を 520 に変更します。

```
CHANGE 250 520 #2 EX
```

関連するタスク

[行の除外 ページ 164](#)

関連する参照先

[CHANGE 基本コマンド ページ 907](#)

ラベル範囲内のデータの変更

CHANGE コマンドの効果を、行の範囲 (変更したいデータを検索する最初と最後の行を示すラベルのペアで識別されます) に制限することができます。

例えば、ラベル .LABA からデータの終わりまでの範囲の行で、以下のコマンドは、列番号 4 で次に出現する “EVIL” という文字列を “GOOD” という文字列に変更します。

```
CHANGE EVIL GOOD #4 .LABA .ZLST
```

また、現行カーソル位置からラベル .LABB までの範囲の行で、以下のコマンドは、列番号 3 または列番号 11 に 48 という値が出現したら、すべて 148 という値に変更します。

```
CHANGE ALL 48 148 #3,#11 .ZCSR .LABB
```

関連するタスク

[行へのラベルの割り当て ページ 152](#)

関連する参照先

[CHANGE 基本コマンド ページ 907](#)

データの特定部分への変更の制限

CHANGE コマンドの効果を制限して、検索するデータの特定の部分を指定できます。

- データ内の接頭部として現れる個所だけに文字列の検索を限定するには、PREFIX パラメーターを指定します。
- データ内の接尾部として現れる箇所だけに文字列の検索を限定するには、SUFFIX パラメーターを指定します。
- データ内の「ワード」として現れる個所だけに文字列の検索を限定するには、WORD パラメーターを指定します。

関連する参照先

[CHANGE 基本コマンド ページ 907](#)

接頭部コマンドを使用したデータの変更

File Manager/Db2 表示または編集エディター・セッションでは、接頭部コマンドは、画面上にある 1 つ以上の行の接頭部域に入力できます。接頭部域は、通常、表示の左端または右端に、6 桁の数値からなる列によって表されます。

接頭部コマンドを使用して、以下のことができます。

- 行の挿入または削除
- 行の繰り返し (複写)
- 行の移動
- 1 つ以上の行のデータに対する、1 つ以上の別の行のデータによるオーバーレイ
- データのシフト
- クリップボードとの間の行のコピーまたは移動
- 編集しているデータの制限

接頭部領域の位置を設定したり (左右)、または接頭部領域をオン/オフにするには、PREFIX 基本コマンドを使用します。基本コマンド

接頭部領域コマンドのほとんどは、単一行または連続行ブロックのいずれかで使用できます。

- 単一行で操作を行う場合には、適切なコマンド・コードを入力します。
- 連続行ブロックで操作を行う場合には、前後に何行か空けてコマンド・コードを入力するか、あるいはブロックの開始行と終了行に、適切なブロック・コマンド・コードを入力します。

一般的に、接頭部コマンドを入力するには、行番号の最初の 1 文字または 2 文字を上書きするだけで済みます。ただし、場合によっては、単一文字の入力だけではあいまいになる可能性があります。以下の例では、意図された接頭部コマンドが行 31700 を繰り返すための「R」であるのか、行を 3 回繰り返すための「R3」であるのかがあいまいです。

```
031600
R31700
031800
```

このような場合には、エディターは、接頭部コマンドの後には数値が入力されていないものと見なします (ある文字を同じ文字で上書きしたかどうかは検出できません)。行を 3 回繰り返したい場合には、次のいずれかの方法で行います。

- 「R3」の後に 1 つ以上のブランクを入力する。

```
R3 700
```

- 「R3」を入力してから、Erase EOF キーを押して行コマンド・フィールドの残りを消去するか、Erase EOF キーを押してから「R3」を入力します。
- 「R」の後、数値の前に 1 つ以上のブランクを入力して、入力した数値が上書きする文字と異なるようにします。

```
R 3700
```

- 「R」の前に数値を入力して、入力されたときの数値が上書きされている文字とは必ず異なるようにします。

```
3R1700
```

接頭部領域に表示される未解決のコマンドを消去するには、RESET 基本コマンドを使用します。



注: File Manager/Db2 エディター・セッションで行を移動しても、基になる Db2® 表に行が保管される順序には影響しません。

既存の行のデータのオーバーレイ

O または OO 接頭部コマンドを指定して、ある行のデータを別の行のデータでオーバーレイできます。

データが C (コピー) または M (移動) 接頭部コマンドでコピーまたは移動され、1 つ以上の既存の行にオーバーレイされる
ときに、O または OO (オーバーレイ) 接頭部コマンドでデータの宛先を指定します。データは、文字カラム (CHAR および
VARCHAR) にだけオーバーレイできます。

コピーまたは移動されたデータは、宛先行にブランクをオーバーレイします。

宛先カラムが VARCHAR の場合、次のようになります。

- 長さがゼロでない必要があります。
- 移動またはコピーされるデータの長さが宛先カラムより長い場合、宛先カラムに収まるデータだけが移動またはコピーされます。

データが移動またはコピーされてから、宛先にオーバーレイされる場合、次のようになります。

- 宛先が単一行の場合:
 - O (オーバーレイ) 接頭部コマンドは、データの宛先を指定します。

O 接頭部コマンドの後ろに数値を入力して、M または C 接頭部コマンドを実行する回数を指定できます。例
えば、行に対してコマンド O3 を入力すると、データが移動またはコピーされてから、その行と次の 2 行に
オーバーレイされます。

- 宛先が行ブロックの場合:
 - OO (オーバーレイ、複数行の宛先) 接頭部コマンドは、データの宛先になる最初と最後の行を指定します。

1 つ以上の単一行をオーバーレイする方法:

1. 移動またはコピーする行の接頭部域に M または c と入力します。
2. 移動またはコピーしたレコードをオーバーレイする行の接頭部域に o と入力します。
3. Enter キーを押します。移動またはコピーされるデータで、指定された行がオーバーレイされます。

1 つ以上の行ブロックをオーバーレイする方法:

1. 移動またはコピーする行ブロックの最初と最後の行の接頭部域に MM または cc と入力します。必要な場合、最初の
コマンドと 2 番目のコマンドを入力する間に、スクロール (または FIND または LOCATE を使用) できます。
2. 移動またはコピーした行ブロックをオーバーレイする最初と最後の行の接頭部域に oo と入力します。ここでも、必
要な場合、最初の oo と 2 番目の oo を入力する間に、スクロール (または FIND または LOCATE を使用) できます。
3. Enter キーを押します。2 つの CC または MM コマンドを含む行とその間にあるすべての行で、2 つの OO コマンド
を含む行とその間にあるすべての行がオーバーレイされます。

ソース行と受け取り側の行の行数が同じである必要はありません。受け取り側の行の方が多い場合、受け取り側の行がなくなるまで、ソース行が繰り返されます。ソース行の方が受け取り側の行より多い場合、余分な行は無視されます。

関連トピック

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

関連する参照先

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

[PREFIX 基本コマンド ページ 959](#)

[RESET 基本コマンド ページ 966](#)

データの大文字変換

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、CAPS および CASE 基本コマンドで、データ域内のデータを入力時に大文字に変換するか (CAPS、CAPS ON または CASE UPPER)、あるいはそのままにしておくか (CASE、CASE MIXED または CAPS OFF。これがデフォルトのアクション) を制御します。

CAPS コマンドおよび CASE コマンドは、それぞれ CAP および CAS に短縮することができます。

CAPS ON と CASE UPPER コマンドは、若干、働きが異なります。

CAPS または CAPS ON は、ISPF エディターの CAPS コマンドと似ています。

- 行のデータに上書きした場合には、現行の列が大文字に変換されるだけです。
- CHANGE コマンドは、以下の場合を除き、新規 (置き換え) スtring を、あたかもすべて大文字で指定されたかのように処理します。
 - 新規 String が一重引用符で囲まれ、その前に文字「C」が置かれている (例: C'New String')
 - 新規 String が 16 進数 String として指定されている (例: x'c1c2c3')

上記のいずれかの条件が適用される場合は、新規 String は英大文字には変換されません。

CAPS または CAPS ON は、CAPS または CAPS ON コマンドの入力後に変更された行のみに影響を与えます。

CASE UPPER は、行がどのように変更されたかに関係なく、新規または変更された行のすべてのデータを大文字に変換します。CASE UPPER は、現行 FM/Db2 エディター・セッションで挿入または変更されたすべての行に影響を与えます。これには CASE UPPER コマンドの入力前に挿入または変更された行も含まれます。

CAPS OFF、CASE、および CASE MIXED コマンドは同じ効力を持っています。これらは、大文字への変換をオフにします。

CAPS コマンドは前に入力された CASE コマンドを指定変更し、CASE コマンドは前に入力された CAPS コマンドを指定変更します。



注:



1. CAPS ON を設定した ISPF エディターでは、行に任意の文字が入力されると、その行は変更されたものとみなされます (スペースをスペースで上書きしても変更とみなされます)。ただし、FM/Db2 エディターでは、ある文字を同じ文字で上書きしても、それは変更と見なされません。
2. CASE および CAPS の値は、FM/Db2 エディター・セッションをまたがっては維持されません。それぞれの新規 FM/Db2 エディター・セッションは、CAPS OFF で始まります (つまり、小文字で入力されたデータは、大文字に変換されません)。

関連する概念

[CAPS に影響を与えるインストール設定 ページ 186](#)

関連するタスク

[上書きによるデータの変更 ページ 187](#)

関連する参照先

[CAPS 基本コマンド ページ 906](#)

[CASE 基本コマンド ページ 907](#)

[「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)

[「Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)」 パネル ページ 651](#)

「読み取り専用」のビュー、更新不可の列

編集しているオブジェクトがビューの場合、ビュー内の 1 つ以上の列が Db2® カタログで更新不可とマークされていることがあります。Db2® では、ビューという用語は、読み取り専用ビューのことです。

更新不可の列のみが含まれている読み取り専用ビューを編集しようとする、FM/Db2 は、編集セッションではなく、ブラウザ・セッションを表示して、セッションの開始時に通知メッセージを表示します。読み取り専用ビューに少なくとも 1 つの更新可能な列が含まれている場合、FM/Db2 は、更新不可の列をプロテクトして File Manager/Db2 エディター・セッションを表示し、FM/Db2 エディター・セッションの開始時に通知メッセージを出します。1 つ以上の編集不可の列が含まれるビューを編集する場合は、実行できない編集操作があります。

Db2® カタログ表などの Db2® カタログで更新不可とマークされている列 (ROWID 列を除く) が、1 つ以上含まれている表を編集する場合、FM/Db2 は、更新不可の列をプロテクトして File Manager/Db2 エディター・セッションを表示し、FM/Db2 エディター・セッションの開始時に通知メッセージを出します。1 つ以上の編集不可の列 (ROWID 列を除く) が含まれる表を編集する場合は、実行できない編集操作があります。

関連するタスク

[ROWID 列 ページ 107](#)

行の削除

File Manager/Db2 エディター・セッションで、以下を使用して行を削除できます。

- DELETE 基本コマンド
- それぞれの行の隣にある接頭部域での D、Dn、または DD 接頭部コマンド (TABL 表示のみ)

TABL 表示形式では、以下のようにして、削除する行を制限できます。

- 削除される行を、除外行のみまたは非除外行のみに制限する
- 削除される行を、ラベルのペアで識別される範囲内の行に制限する
- D、Dn、または DD 接頭部コマンドを使用する

SNGL 表示形式では、DELETE は、現在表示されている行のみを削除します。現在表示されている行を削除するには、以下のように入力します。

```
DELETE
```



注:

1. TABL 表示形式では、意図する行のみを確実に削除するようにするために、DELETE 基本コマンドを使用するときには注意が必要です。(他のパラメーターを指定しない) コマンド `DELETE ALL` は、編集している表またはビュー内のすべての行を削除してしまいます。
2. 表のターゲットに参照制約がある場合、行を削除できないことがあります。詳しくは、[編集セッション中のエラー処理 ページ 207](#)を参照してください。

関連するタスク

[除外行または非除外行内のデータの削除 ページ 197](#)
[ラベル範囲内の行の削除 ページ 198](#)

関連する参照先

[DELETE 基本コマンド ページ 915](#)
[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

除外行または非除外行内のデータの削除

データに除外行および非除外行が含まれている場合、DELETE コマンドの効果を、以下のものに制限することができます。

- 非除外行のみ (パラメーター NX)、または
- 除外行のみ (パラメーター EX または X)

例えば、次のコマンドはすべての除外行を削除します。

```
DELETE ALL EX
```

また、以下のコマンドは、最初の非除外行を削除します。

```
DELETE NX
```

関連するタスク

[行の除外 ページ 164](#)

関連する参照先

[DELETE 基本コマンド ページ 915](#)

ラベル範囲内の行の削除

DELETE コマンドの効果を、行の範囲 (削除する最初と最後の行を示すラベルのペアで識別されます) に制限することができます。

例えば、次のコマンドは、ラベル .LABA からラベル .LABB までのすべての行を削除します。

```
DELETE ALL .LABA .LABB
```

関連するタスク

[行へのラベルの割り当て ページ 152](#)

関連する参照先

[DELETE 基本コマンド ページ 915](#)

関連表の編集

FM/Db2 は、参照保全 (RI) の制約を受ける表を編集するためのサポートを提供します。親表、従属表、基本キー、外部キー、および参照保全などの用語に慣れていない場合には、適切な Db2® の資料を参照してください。



注: FM/Db2 で提供されている関連表を編集するためのサポートは、Db2® 表のみに適用され、RI の制約に従う表で作成された Db2® ビューには適用されません。

この節では、Db2® エラーが検出され、その Db2® エラーが RI の違反である場合の REDIT コマンドの動作について説明します。RI 以外のエラーが発生した場合の REDIT コマンドの発行については、[関連表のリスト ページ 199](#)を参照してください。

FM/Db2 が、編集セッションで変更されたデータを保管しようとしてエラーになり、そのエラーが RI の違反によるものであった場合には、RI 関係内の他方の表 (関連表) の名前を自動的に判別します。この場合には、関連表について別の FM/Db2 編集セッションを開始することができます。この新規編集セッション (従属セッション) は、コマンド行に「START」が入力され、次に、FM/Db2「Edit (編集)」が選択されたかのように、新しい ISPF 論理セッションとして表示されます。異なる論理セッションの間を移動するには、ISPF コマンド SWAP および SWAP LIST を使用することができます。

FM/Db2 は、新規編集セッションのためのテンプレートをカスタマイズし、キー列の識別を簡単にします。関連表が従属表であると、FM/Db2 は親表の中の基本キーと一致する値を持つ行のみを表示します。関連表が親表である場合には、IP (基本キーの挿入) 接頭部コマンドを使用して、エラーの原因となった外部キーと対応する基本キーを持つ行を挿入することができます。

編集セッションにアクティブな従属編集セッションがあると、すべての従属編集セッションを終了するまでは、そのセッションで行った変更を保管することはできません。アクティブな従属編集セッションのある編集セッションを取り消すと、すべての従属編集セッションも取り消されます。すべての従属編集セッションのコミットされていない変更は、すべて失われます。

関連表のリスト

File Manager/Db2 表示または編集エディター・セッションでは、REDIT 基本コマンドを発行して、Db2® 参照整合性 (RI) の制約によって、現在編集中の Db2® オブジェクトに関連付けられた表のリストを表示できます。

REDIT 基本コマンドを入力する場合は、現在編集中の Db2® オブジェクトの表で列を識別するフィールド番号をオプションで指定できます。

REDIT 基本コマンドの入力後に FM/Db2 が応答する方法は、編集中のオブジェクト、カーソルの位置、および列番号を指定するかどうかによって異なります。

- 編集中のオブジェクトに RI の制約がない場合は、新規 FM/Db2 編集セッションは既存の編集セッションの上に積み重ねられます。「Db2® Edit (編集)」入力パネルが表示されます。
- 編集中のオブジェクトに RI の制約がある場合は、次のようになります。
 - カーソルが画面のデータの部分にないか、表の列のデータ上にない場合は、FM/Db2 は、RI の制約によって編集中のオブジェクトに直接関連付けられたすべての Db2® オブジェクトを示す選択リストを表示します。これには、編集中の表と関係がある親表、および編集中の表と関係がある従属表が含まれます。
 - カーソルが表の列のデータ上にあり、その列が基本キー、親キー、または外部キーの一部ではない場合は、FM/Db2 は、RI の制約によって編集中のオブジェクトに直接関連付けられたすべての Db2® オブジェクトを示す選択リストを表示します。これには、編集中の表と関係がある親表、および編集中の表と関係がある従属表が含まれます。
 - カーソルが表の列のデータ上にあり、その列が基本キー、親キー、または外部キーの一部である場合は、FM/Db2 は、編集中のオブジェクトに直接関連付けられた Db2® オブジェクトのみを示す選択リストを表示します。これは、編集中の表の基本キー、親キー、または外部キーに、カーソルが置かれている列が含まれている表に限定されます。
 - REDIT 基本コマンドでフィールド番号を指定し、フィールド番号によって識別される列が基本キー、親キー、または外部キーの一部である場合は、FM/Db2 は、編集中のオブジェクトに直接関連付けられた Db2® オブジェクトのみを示す選択リストを表示します。これは、編集中の表の基本キー、親キー、または外部キーに、フィールド番号によって識別される列が含まれている表に限定されます。
 - REDIT コマンドでフィールド番号を指定され、フィールド番号によって識別される列が基本キー、親キー、または外部キーの一部ではない場合は、FM/Db2 は、RI の制約によって編集中のオブジェクトに直接関連付けられたすべての Db2® オブジェクトを示す選択リストを表示します。これには、編集中の表と関係がある親表、および編集中の表と関係がある従属表が含まれます。

オブジェクトの関連表のリストが、FM/Db2 のオブジェクト・リスト・ユーティリティーによって「Related tables (関連表)」パネルに表示されます。リストに表示される任意のオブジェクトに対して多数の接頭部コマンドを発行できます。例えば次のようになります。

接頭部コマンド

FM/Db2 が表示する内容

EE または VE

選択したオブジェクトの新規 FM/Db2 エディター・セッション。新規 FM/Db2 エディター・セッションは、(画面を分割して、新規 FM/Db2 セッションを開始した場合と同じように) 新規の ISPF 論理画面に表示されます。

表示される最初のパネル、および編集(または表示)セッションに表示される行は、REDIT コマンドの入力時にカーソルが置かれている場所によって異なります。

- カーソルが、親キー、基本キー、または外部キーの一部である列のデータ上にある場合は、新規 FM/Db2 エディター・セッションは、データの表示から始まり、カーソルが置かれていた行に関連する行のみが入っています。
- カーソルが、親キー、基本キー、または外部キーの一部である列のデータ上にない場合は、新規 FM/Db2 エディター・セッションは、「Db2® Edit (編集)」(または「Db2® View (表示)」) 入力パネル(必要な場合は、このパネルでオブジェクト名を変更できます)の表示から始まり、オブジェクトのすべての行が入っています。

E または V

既存の編集セッションの上に積み重ねられている新規 FM/Db2 編集セッション。

使用可能なすべてのコマンドを表示するには、任意の入力の左側にある選択フィールド(「SEL」)に「?」を入力し、Enter キーを押します。

REDIT コマンドを発行できるのは、表の編集時のみです。REDIT コマンドは、ビューの編集時は操作不能です。

関連する参照先

- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)
- [「Related tables \(関連表\)」パネル ページ 783](#)
- [REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

自己参照制約

Db2® オブジェクトが、親表と従属表が同じ表である基本キーまたは外部キーの関係に属する場合には、自己参照制約が存在します。関係に対する DELETE 規則が CASCADE である場合には、1 つの行の削除または変更が表内の他の行の再帰的削除の原因となることがあります。FM/Db2 が表で定義された自己参照制約を検出すると、基本キー値の削除または変更によってどの行が影響されるかは判別されません。これは、また、その表で定義された他の関係に影響される他の表にも適用されます。

参照保全エラー

「referential integrity (参照保全)」エラーには、以下の2つのタイプがあります。

- 最初のタイプの参照保全エラーは、親表の編集集中に、基本キー値を削除するかまたは更新したときに発生します。従属表の外部キー値に制限規則が適用されていると、Db2® は更新または削除操作を拒否します。親表の基本キーに対して変更を行うには、従属表を編集して、対応する外部キーを持つすべての行を削除または変更しなければなりません。
- 2番目のタイプの参照保全エラーは、従属表の編集集中に、親表に対応する項目がない外部キー値を作成したときに発生します。Db2® は挿入または更新操作を拒否します (外部キー値は対応する基本キー値なしには存在できないからです)。従属表の外部キーの値を変更するには、親表を編集して、従属表の新しい外部キー値と対応する基本キー値を持つ行を作成しなければなりません。

関連するタスク

[編集セッション中のエラー処理 ページ 207](#)

関連表の編集セッションの開始

関連表の File Manager/Db2 編集セッションを開始するには、以下のいずれかの操作を実行します。

- RI エラーに関する情報パネル (RI エラーに対する接頭部域に「E」と入力してアクセスします) で、コマンド行に「`REDIT`」と入力します。
- エラーが RI エラーである場合に、エラーのマークが付けられた行に対して RE 接頭部コマンドを使用します。



注: 編集されているオブジェクトが Db2® ビューの場合、REDIT 行コマンドおよび RE 接頭部コマンドはどちらも使用不可になります。

関連する参照先

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

関連表を編集する際の相違

関連表に対する File Manager/Db2 編集セッションは、以下の例外を除いて、通常の編集セッションと類似しています。

- 新規セッションは、関連表のデータの表示から始まります。
- 編集オプションを変更することはできません。現行のグローバル編集オプションが適用されます。
- データを表示する前にテンプレートを編集する機会はありません。
- パネル・タイトルは “Table Edit (related) (表編集 (関連))” と表示されます (“Table Edit (表編集)”ではありません)。
- ロケーション情報は、“PARNT”か“DPDNT”および関係内の他のオブジェクトの名前のいずれかで置き換えられます。“PARNT”は他の表が関係内の親表であることを示します。“DPDNT”は他の表が関係内の従属表であることを示します。

- 従属表の場合には、テンプレートに、表示されるデータを親表の中の基本キー値と対応する行にのみ制限する WHERE 文節が含まれます。親表が自己参照制約を受ける場合には、すべての行が表示されることがあります。
- テンプレートには、列が表示される順序に関する情報が含まれます。基本キーまたは外部キーから構成される列が、関係に含まれる他のオブジェクトの左側 (TABL 表示形式) または最上部 (SNGL 表示形式) に (順々に) 表示されます。
- TABL 表示形式では、関係のキーの一部を形成する列が、スケール・ヘッダー行の 6 番目の文字の “K” によって識別されます。
- 編集セッションにアクティブな従属編集セッションがあると (すなわち、REDIT 基本コマンドか RE 接頭部コマンドのいずれかを使用して、関連表の別の FM/Db2 編集セッションを開始し、同時にその編集セッションがまだアクティブであると)、すべての従属編集セッションを終了するまではデータに対するいかなる変更も保管することはできません。
- アクティブな従属編集セッションのある編集セッションを取り消すと、FM/Db2 はすべての従属編集セッションも取り消します。取り消された従属編集セッションのコミットされていない変更は、いずれも失われます。

関連するタスク

[自己参照制約 ページ 200](#)

関連する参照先

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

関連表の編集中に保管または取り消す際の相違

関連表について 1 つ以上の編集セッションを開始した場合には、以下の制限が適用されます。

- アクティブな従属編集セッションがある場合 (すなわち、REDIT 基本コマンドか RE 接頭部コマンドのいずれかを使用して、関連表の別の FM/Db2 編集セッションを開始して、さらに、それらの編集セッションのいずれかがまだアクティブである場合)、すべての従属編集セッションを終了するまではデータに対するいかなる変更も保管することはできません。
- アクティブな従属編集セッションのある編集セッションを取り消すと、いずれの従属編集セッションも取り消されます。取り消された従属編集セッションのコミットされていない変更は、いずれも失われます。

関連する参照先

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

編集セッションの間のナビゲート

複数の FM/Db2 編集セッションの間を切り替えるには、ISPF コマンド SWAP および SWAP LIST を使用します。詳しくは、対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザズ・ガイド 第 1 巻 z/OS を参照してください。

編集中の表が大きい RI 構造の一部である場合には、元の表に対する必要な変更を行うために、関連表の複数の編集セッションを開始することが必要な場合があります。

基本キーの削除

従属表に行があり、関係に対して削除制限規則が指定されている場合には、親表の行を削除すると、エラーが生成されることがあります。削除制限規則は、最初に、外部キー値と基本キー値が対応する従属表のすべての行を削除 (または変更) しなければ、基本キー値の削除をできないようにするためのものです。

この状態では以下のようにしてください。

1. RE 接頭部コマンドを使用するか、あるいはエラー情報パネルから REDIT 基本コマンドを使用して、従属表の File Manager/Db2 編集セッションを開始します。通常は、親表内の基本キーの削除によって影響を受ける行のみが表示されます (以下の注を参照してください)。
2. 表示されている行を削除するか (以下の注を参照)、あるいは外部キーの値を別の有効な値に変更します。
3. 「Exit」機能キー (F3) を押し、変更の妥当性を検査してコミットします。
4. 基本表の編集セッションに戻り、基本キー値の削除を進めます。



注:

1. 多くの場合、FM/Db2 は親表内の基本キーの削除によって影響を受ける行のみを表示します。例外は、基本または親キー値が削除または変更された場合に親表内の他の行の削除の原因となる可能性がある自己参照制約が含まれているような状態です。この状態では、FM/Db2 はすべての行を表示するので、従属行を選択する必要があります。
2. 親表または従属表が他の関係では同時に親表または従属表である場合には、基本または外部キー値に対する変更が他のエラーの原因となることがあります。

関連する参照先

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

新しい外部キーの挿入

対応する基本キー値を持つ行が親表にない場合には、行を従属表に挿入すると、エラーが生成されることがあります。Db2® では、親表に基本キーが作成されるまで、外部キー値の挿入は防止されます。

親表が現在編集中の表と同じ場合があります (自己参照制約)。これは、エラーのある行の接頭部域の右端位置に “R” がないことによって示されます。E 接頭部コマンドを使用して、関係名、親表名と従属表名、および親表と従属表の両方のキーの列の名前の詳細を示す情報パネルを表示することができます。

親表と従属表が異なるような状態では、以下のようにしてください。

1. RE 接頭部コマンドを使用するか、あるいはエラー情報パネルから REDIT 基本コマンドを使用して、親表の File Manager/Db2 編集セッションを開始します。
2. IP 接頭部コマンドを使用して、従属表に対する編集セッションで入力された外部キー値と対応する基本キーの新しい行を表に挿入します。その基本キーが従属表の編集セッションで入力された外部キーと対応するように、既存の行を変更することもできます。
3. 「Exit」機能キー (F3) を押し、変更の妥当性を検査してコミットします。
4. 元の編集セッションに戻って、新しい外部キー値を保管します。



注: 親表または従属表が他の関係では同時に親表または従属表である場合には、基本または外部キー値に対する変更が他のエラーの原因となることがあります。

関連するタスク

[自己参照制約 ページ 200](#)

関連する参照先

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

基本キーの更新

Db2® は、削除とそれに続く、削除された行と同じであるが新しい基本キー値を持つ新しい行の挿入を、基本キーの更新と解釈します。

対応する外部キー値を持つ行が従属表にあり、関係に対して削除制限規則が指定されている場合には、親表の行を更新すると、エラーが生成されることがあります。削除制限規則は、最初に、外部キー値と基本キー値が対応する従属表のすべての行を削除 (または変更) しなければ、基本キー値の削除をできないようにするためのものです。

この状態では以下のようにしてください。

1. 変更する元の基本キー値を含む行を複製します。



注: 繰り返し操作を実行すると、繰り返し行の直下に新規行が強調されて表示されます。

2. 新しい行の基本キーを必要な値に変更します。
3. SAVE 基本コマンドを使用して、他の Db2® エラーがないことを確認します。
4. 元の行を削除します。
5. RE 接頭部コマンドを使用するか、あるいはエラー情報パネルから REDIT 基本コマンドを使用して、従属表の File Manager/Db2 編集セッションを開始します。通常は、親表内の基本キーの削除によって影響を受ける行のみが表示されます (以下の注を参照してください)。
6. 表示されている行を削除するか (以下の注を参照)、あるいは外部キーの値を別の有効な値に変更します。
7. 「Exit」機能キー (F3) を押し、変更の妥当性を検査してコミットします。
8. 基本表の編集セッションに戻り、基本キー値の削除を進めます。

**注:**

1. 多くの場合、FM/Db2 は親表内の基本キーの削除によって影響を受ける行のみを表示します。例外は、基本または親キー値が削除または変更された場合に親表内の他の行の削除の原因となる可能性がある自己参照制約が含まれているような状態です。この状態では、FM/Db2 はすべての行を表示するので、従属行を選択する必要があります。
2. 親表または従属表が他の関係では同時に親表または従属表である場合には、基本または外部キー値に対する変更が他のエラーの原因となることがあります。

関連する参照先

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)[SAVE 基本コマンド ページ 970](#)[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

基本キーの追加

新規基本キーを持つ行を表に追加するには、以下のいずれかの方法を使用します。

- 新規行を表に挿入 (I 接頭部コマンド) してから、新規行の値を変更して希望する基本キー値を作成します。
- 既存の行を繰り返して作成した新規行の値を変更して希望する基本キー値を作成します。



注: この方法を使用する場合は、オリジナルの行ではなく、オリジナルの行の直下に追加され強調表示されている新規行を変更する必要があります。新規行ではなく、オリジナルの行を変更すると、FM/Db2 は新規基本キーを持つオリジナルの行を変更しようとします。オリジナルの行に従属行がある場合、変更されずに、SQLCODE -531 の結果が返されます。オリジナルの行と同じ新規行を挿入しようとする、FM/Db2 は新規行に対して重複行エラー (SQLCODE -803) も報告します。

関連するタスク

[基本キーの更新 ページ 204](#)[編集セッション中のエラー処理 ページ 207](#)

関連する参照先

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

File Manager/Db2 セッション内からの Db2® コマンドの発行

File Manager/Db2 セッションでの作業時に、Db2® コマンドを発行して、Db2® によって戻される出力を表示できます。

File Manager/Db2 セッション内から Db2® コマンドを入力するには、以下の 2 つの方法があります。

- 「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネルを表示して、このパネルに必要な Db2® コマンドを (前に「Db2®」を付けて) 入力する。
- 一部の FM/Db2 パネルでは、コマンド行に必要な Db2® コマンドを入力する。

「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネルから Db2® コマンドを発行

「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネルから Db2® コマンドを発行するには、以下のようになります。

1. 以下のいずれかの操作を実行して、「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネルを表示します。
 - 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルからオプション 6 (「Command (コマンド)」) を選択して、Enter キーを押します。
 - アクション・バーの「Process (処理)」プルダウン・メニューから、オプション 1 (「Db2® Command (コマンド)」) を選択して、Enter キーを押します。
2. 「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネルの「**Db2® Command: (コマンド:)**」の下に、ハイフン (-) のすぐ後に発行する Db2® コマンドを入力します。

例えば次のようになります。

```
-DISPLAY ARCHIVE
```



注: コマンドの前にハイフンを付けないと、FM/Db2 によってハイフンが追加されます。

3. DISPLAY THREAD または DISPLAY DATABASE のいずれかのコマンドを発行する場合は、オプションで、戻される行の最大数を「**Line count (行カウント)**」フィールドに指定できます。
4. Enter キーを押します。

FM/Db2 によって、[図 56: Db2 コマンドの発行後に Db2 によって表示される出力例 ページ 207](#) に示すように、ISPF 表示セッションでの Db2® コマンドからの出力が表示されます。

コマンド行からの Db2® コマンドの発行

以下の FM/Db2 パネルでは、コマンド行から Db2® コマンドを発行できます。

- 「Table Browse (表ブラウズ)」パネル
- 「Table Edit (表編集)」パネル
- 「Table View (表表示)」パネル
- オブジェクト・リスト・ユーティリティで表示されるオブジェクト・リスト・パネル
- 特権の詳細パネル
- 「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、および説明)」パネル

File Manager/Db2 パネルのコマンド行から Db2® コマンドを発行するには、以下のようになります。

1. Db2、その後にスペース、次に発行する Db2® コマンドを入力します。

例えば、Db2® コマンド DISPLAY ARCHIVE を発行するには、次のように入力します。

```
DB2 DISPLAY ARCHIVE
```

2. Enter キーを押します。

FM/Db2 によって、[図 56: Db2 コマンドの発行後に Db2 によって表示される出力例 ページ 207](#) に示すように、ISPF 表示セッションでの Db2® コマンドからの出力が表示されます。

図 56. Db2® コマンドの発行後に Db2® によって表示される出力例

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
VIEW      SYS07228.T121015.RA000.FMUSER.R0227849          Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
==MSG> -Warning- The UNDO command is not available until you change
==MSG> your edit profile using the command RECOVERY ON.
000001 DSNV401I -DFE2 DISPLAY THREAD REPORT FOLLOWS -
000002 DSNV402I -DFE2 ACTIVE THREADS -
000003 NAME      ST A      REQ ID          AUTHID   PLAN      ASID  TOKEN
000004 DB2CALL  T        144 FMUSER      FMUSER   FMN2PLN1 00C0  302
000005 DB2CALL  T        *      2 FMUSER      FMUSER   00C0    303
000006 DISPLAY ACTIVE REPORT COMPLETE
000007 DSN9022I -DFE2 DSNVDT '-DISPLAY THREAD' NORMAL COMPLETION
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F5=Rfind      F6=Rchange    F7=Up
F8=Down      F9=Swap       F10=Left     F11=Right     F12=Cancel

```

関連する参照先

[「Enter and Execute Db2 Commands \(コマンドの入力および実行\)」パネル ページ 685](#)

編集セッション中のエラー処理

FM/Db2 は、編集セッションで行ったデータ変更を実装しようとするとき、エラーを報告することがあります。このようなエラーは、FM/Db2 が INSERT、UPDATE、または DELETE SQL ステートメントを出したときに Db2® によって検出されます。SQL エラーは、編集中の Db2® オブジェクトに対して定義されている固有性、参照保全、およびデータ検査制約の違反などを含むさまざまな理由によって起こることがあります。これらの概念に詳しくない場合は、*Db2 UDB for z/OS 管理ガイド*「」を参照してください。

FM/Db2 は、エラーを検出すると、エラーの原因となった行の接頭部に “=ERR”、“=ERR R”、または SQLCODE といういずれかのマークを付けます。エラー標識の選択は、「[Show SQLCODE \(SQLCODE の表示\)](#)」編集オプションによって決定されます。削除された行が現行の表示の最上部に再挿入されます (TABL 表示形式)。保留されているすべてのエラーが訂正されるまで、保管操作は進められません。編集中の Db2® オブジェクトが多くの制約の対象である場合や、検査なしでデータに多数の変更が行われた場合には、すべてのエラーを解決できないことがあります。そのような場合には、編集セッションを取り消してください。

関連するタスク

[View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)
[現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)
[File Manager/Db2 エディター・セッションの終了 ページ 135](#)
[編集セッション中に起こったエラーの訂正例 ページ 211](#)

関連する参照先

[\[Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)\] パネル ページ 661](#)

エラーが起こった理由の判別

エラーが検出された行の接頭部フィールドに「E」と入力して、そのエラーに関する詳細情報を取得することができます。エラー情報パネルが、Db2® が変更操作を拒否した理由の説明とともに表示されます。

接頭部に SQLCODE が表示される場合は、そのエラーの詳細な説明について、*Db2 UDB for z/OS* メッセージおよびコードを参照してください。

一部のエラーは、参照保全 (RI) の制約違反の結果です。RI 関係が 2 つの表に適用されている場合には、これらのエラーは接頭部の右端位置の「R」の表示によって示されます。

2 つの表に適用される RI エラーがある行に対しては、RE 接頭部コマンドを使用して、別の FM/Db2 編集セッションを開始することができます。この新規セッションは、RI エラーの影響を受けた他方の表に対する編集セッションです。

関連するタスク

[関連表の編集 ページ 198](#)
[編集セッション中に起こったエラーの訂正例 ページ 211](#)

関連する参照先

[\[Table Edit \(表編集\)\] パネル ページ 857](#)

「重複行」エラー

挿入または更新操作の結果、表に対して定義されている固有索引に関して同じ値を持つ行が 2 行生成されると、FM/Db2 は *“Duplicate Row Error (重複行エラー)”* を報告します。基本キーおよび固有索引標識を使用して、固有索引の一部である表の列を識別することができます。編集セッションでデータ量を制限する行選択基準を使用している場合には、編集セッションで重複行が表示されないことがあるので注意してください。

関連するタスク

[行の選択 ページ 86](#)

「基本キーなし」エラー

変更によって関係の親表に対応する基本キーがない外部キー値が作成されると、FM/Db2 は「No Primary Key (基本キーなし)」エラーを報告します。これは参照保全 (RI) の制約エラーです。親表が現在編集集中の表と異なっている場合には、接頭部エラー標識の右端位置に “R” だけが表示されます。

外部キー標識を使用して、外部キーとして定義されている表の列を識別することができます。



注: 外部キー情報は、オブジェクトのテンプレートを作成するときに、“Retrieve foreign key information when building templates (テンプレートの作成時に FOREIGN KEY 情報の検索)” オプションを選択している場合にのみ使用可能です。

このエラーのエラー情報パネルには、エラーの原因となった関係の中の親表と従属表の名前、および関係の名前が表示されます。パネルの最下部は、親表と従属表の両方のキーを構成する列の名前、およびエラーの原因となった値です。

親表が従属表と異なる場合には、行に対して RE 接頭部コマンドを入力するか、あるいはエラー情報パネルから REDIT 基本コマンドを入力して、関係の親表を編集し、エラーを訂正することができます。

関連するタスク

[関連表の編集 ページ 198](#)

関連する参照先

[\[Systems Options \(1 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 1\)\)\] パネル ページ 847](#)

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

「削除制限規則」エラー

削除または変更によって従属表の 1 行以上が削除されたが、削除規則が RESTRICT である場合には、FM/Db2 は “Delete Restrict Rule (削除制限規則)” エラーを報告します。これらは参照保全 (RI) の制約エラーです。

このエラーのエラー情報パネルには、エラーの原因となった関係の中の親表と従属表の名前、および関係の名前が表示されます。パネルの最下部は、親表と従属表の両方のキーを構成する列の名前、およびエラーの原因となった値です。

行に対して RE 接頭部コマンドを入力するか、あるいはエラー情報パネルから REDIT 基本コマンドを入力して、関係の従属表を編集し、エラーを訂正することができます。

関連するタスク

[関連表の編集 ページ 198](#)

関連する参照先

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

「検査制約」エラー

変更が列または表のいずれかに対して定義されている検査制約に違反する場合には、FM/Db2 は “*Check Constraint Error* (検査制約エラー)” を報告します。パネルには、変更が失敗した原因となった制約の名前が表示されます。「ShowCon」機能キー (F5) を押すか、あるいは SHOWCON コマンドを出して、その制約の SQL テキストを示す ISPF 編集セッションを表示することができます。

「行不在」エラー

DELETE または UPDATE 操作のいずれかを実行しようとして、元の行が見つからない場合には、FM/Db2 は “*Row Not Found Error* (行不在エラー)” を報告します。これは、Db2® から最初にデータを検索した後で、他のユーザーがその行を変更したために起こることがあります。この場合に推奨されるアクションは、データの最新コピーで編集セッションを再開することです。これは、編集中の Db2® オブジェクトに TIME データ・タイプ列が含まれていて、システム・オプションがこの列のデータを USA 形式で表示するように設定されている場合にも、起こることがあります。

関連するタスク

[FM/Db2 システム・オプション \(オプション 0.2\) ページ 65](#)

[DATE および TIME 列 ページ 170](#)

関連する参照先

[\[Systems Options \(1 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 1\)\)\] パネル ページ 847](#)

デッドロックまたはタイムアウト

Db2® は、File Manager/Db2 編集セッションで変更された内容を実装しようとする、デッドロックまたはタイムアウト状態 (SQLCODE -911) になることがあります。このような状態が発生すると、遅延が生じ、SQL エラーのポップアップ・パネルに -911 SQLCODE の説明が表示されます。

このエラーが検出された場合は、以下の点に注意してください。

- -911 とマークされた行に行った変更は**未完了**です。
- Db2® は現在の作業単位にロールバックしました。つまり、現行の編集セッションで行った非コミットの変更は失われてしまいました。
- 現行の作業単位のロールバック後に FM/Db2 編集セッションに表示されるデータには、Db2® 表のデータの現在の状態が反映されていない可能性があります。

このような場合は、現在の編集セッションを取り消して、新たにコピーしたデータでセッションを再開することをお勧めします。問題が解決しない場合は、Db2® システム管理者に連絡して、Db2® オブジェクトへのアクセスを妨げている他の Db2® タスクを判別する作業を手伝ってもらってください。

関連するタスク

[File Manager/Db2 エディター・セッションの終了 ページ 135](#)

編集セッション中に起こったエラーの訂正例

編集セッション中にエラーが起こると、FM/Db2 はエラーのある 1 つ以上の行の接頭部に “=ERR”、“=ERR R”、または SQLCODE を表示します。図 57: 例: 編集セッション中に指摘されたエラー ページ 211 は、エラーが起こった行が 1 行あることを示しています。

図 57. 例: 編集セッション中に指摘されたエラー

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Table Edit	1 of 42
TABLE FMUSER.EMP			Format TABL
EMPNO	FIRSTNME	MIDINIT	LASTNAME
#1	#2	#3	#4
CH(6)	VARCHAR(12)	CH(1)	VARCHAR(15)
PU-->	<---+-----1->	-	<---+-----1----->
000000	****	Top of data	****
000001	000010	CHRISTINE<	I HAAS<
000002	000020	MICHAEL<	L THOMPSON<
000003	000030	SALLY<	A KWAN<
000004	000050	JAN<	B GEYER<
-803	000050	IRVING<	F STERN<
000006	000070	EVA<	D PULASKI<
000007	000090	EILEEN<	W HENDERSON<
000008	000100	THEODORE<	Q SPENCER<
000009	000110	VINCENZO<	G LUCCHESI<
000010	000120	SEAN<	O'CONNELL<
000011	000130	DOLORES<	M QUINTANA<
000012	000140	HEATHER<	A NICHOLLS<
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetrieve
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left
			F11=Right
			F12=Cancel

エラーのタイプを調べるには、エラーのある行の接頭部に [E] と入力して Enter キーを押します。FM/Db2 は、エラーおよびエラーを訂正するために実行できることの指示事項を記述したエラー情報パネルを表示します。

図 58. 例: 編集セッション中に起こったエラーのタイプを説明するエラー情報

Db2 Save Error Action		
S	Db2 reported an error while attempting to save this row.	1 of 42
F	Duplicate Row Error	Format TABL
L	The insert or update operation on this line would have resulted in two rows with the same index key, and the index is defined as unique.	ENO HIREDATE
0	Instructions:	#7
0	Press ENTER or enter EXIT to return to the edit session and correct the error in this line.) DATE
0	Enter CANCEL to terminate the Edit session.	<---+----->
0	Any changes made since the last commit point will be lost.	01/01/1965
0		10/10/1973
0		04/05/1975
0		08/17/1949
0		09/14/1973
0		09/30/1980
0		08/15/1970
0		06/19/1980
0		05/16/1958
0		12/05/1963
0		07/28/1971
0		12/15/1976
C	Command ==>	Scroll PAGE
	F1=Help	F6=RChange
	F2=Split	F12=Cancel
	F3=Exit	
	F7=Backward	
	F8=Forward	
	F9=Swap	
	F12=Cancel	

このような場合は、次のような処置を取ることができます。

- 「Cancel」機能キー (F12) を押して編集セッションを取り消す。コミットされていない変更はすべて失われます。
- Enter または 「Exit」機能キー (F3) を押して編集セッションに戻る。

- REDIT 基本コマンドを使用し (エラー情報パネルでこれがオプションとして提供された場合)、関連表を編集してエラーを訂正する。



注: エラー情報パネルで REDIT 基本コマンドがオプションとして提供されていない場合には、REDIT で編集セッションが表示されます。

図 57: 例: 編集セッション中に指摘されたエラー ページ 211 は、2つの行で同じ索引キーが使用されていることが原因でエラーが発生した例です (行 4 と 5 の両方の EMPNO が 000050 です)。このエラーを訂正するには、以下を行います。

1. Enter キーを押して編集セッションに戻る。
2. 行 5 の問題の索引キーを 000060 などの固有値に変更する。
3. 「Exit」機能キー (F3) を押して編集セッションに戻る。

関連する参照先

[「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

[REDIT 基本コマンド ページ 964](#)

第 6 章. Db2® オブジェクトの作成および除去

オブジェクト・ユーティリティーを使用すれば、Db2® オブジェクトの作成および除去操作を行うための SQL コマンドを知らなくとも、それらの操作を実行できます。

「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルは、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー・パネル)」のオプション 3.2 です。「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」から、作成または除去したい Db2® オブジェクトを選択できます。

1. 関連する番号を「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに指定します。このフィールドは、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルを初めて開くときに 3 (表) に初期化されます。
2. オブジェクトを除去するつもりであるが、指定したオブジェクトを実際に除去する前に、FM/Db2 に「Drop Confirmation (除去確認)」パネルを表示させたい場合は、「**Confirm object drop (オブジェクトの除去確認)**」オプションに必ずチェックを付けてください。
3. 指定したオブジェクト・タイプを作成するには、コマンド行に **C** を入力します。

指定したオブジェクト・タイプを除去するには、コマンド行に **D** を入力します。
4. Enter キーを押します。

表 9: 各 Db2 オブジェクトでサポートされるアクション ページ 213 に、作成または除去できる Db2® オブジェクト・タイプを示します。

表 9. 各 Db2® オブジェクトでサポートされるアクション

オブジェクト・タイプ	作成	除去
データベース	可	可
表スペース	可	可
表	可	可
表示	可	可
別名	可	可
索引	可	可
同義語	可	可
特殊タイプ	可	可
機能	可	可
ストアド・プロシージャ	可	可
トリガー	可	可

表 9. 各 Db2® オブジェクトでサポートされるアクション

(続く)

オブジェクト・タイプ	作成	除去
補助表	可	いいえ ¹⁴

関連する参照先

[\[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)\]](#) パネル ページ 756

[\[Utility Functions \(ユーティリティ機能\)\]](#) パネル ページ 896

[\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\]](#) パネル ページ 629

[\[Drop Confirmation \(除去確認\)\]](#) パネル ページ 647

「作成」パネルおよび「除去」パネルでの処理

以下に、「作成」および「除去」パネルの使用法に関連した一般的な事項を示します。

「作成」または「除去」パネルを使用している場合は、ワイルドカード文字は使用できません。

「Drop Confirmation (除去確認)」パネルおよび「Create (作成)」および「Drop (除去)」のメイン・パネルのコマンド行に「SQL」を入力して、現行のパネル入力で構成される SQL を調べることができます。

パネルへのデータ入力時に妥当性検査エラーを受け取った場合には、パネルの右上に簡単なエラー・メッセージが表示されます。エラー・メッセージの詳細を表示するには、「Help」機能キー (F1) を押してください。また、作成または除去操作中に SQL エラーを受け取った場合には、「Help」機能キー (F1) を押して詳細説明を表示できます。SQL ステートメントおよびエラーの原因を調べるには、「Help」機能キー (F1) をもう一度押します。

「Create Table Space (表スペースの作成)」や「Create Function (関数の作成)」などの「作成」パネルの中には、Create ステートメント入力を収集するいくつかの補助パネルが組み込まれているものがあります。一般に、これらの画面が必要になるケースは少ないので、Create ステートメントを実行する前に、すべての下位画面を呼び出す必要はありません。必要な入力およびパネルは、メインパネルで指示されます。一般に、補助パネルは任意の順序で表示したり再表示でき、例外はメインパネルで指示されます。作成操作中に SQL エラーを受け取った場合には、エラーが検出されたパネルに戻って、エラーを訂正してから、作成操作をやり直すだけです。補助パネルでのデータの入力時に、その変更を妥当性検査するには Enter キーを押し、変更を保管してメインパネルに戻るには「Exit」機能キー (F3) を押し、変更を保管しないでメインパネルに戻るには「Cancel」機能キー (F12) を押すことができます。

14. 表の除去を使用してください。移植された補助表は、関連する基本表を除去しなければ除去できません。その基本表を除去しないで、移植されていない補助表を除去するには、以下のようになります。

- 表の除去機能 (「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルでオブジェクト・タイプ 3 を選択し、コマンド行に「D」を入力) を使用します。
- 除去する表として補助表を指定します。

多くの補助パネルでは ISPF 表を使用して、表の列や関数のパラメーターなどのような、複数回現れるオブジェクト情報を管理しています。表の各行には、情報の断片に対する値のセットが含まれています。

ISPF 表の編集時には、CMD フィールドが表示されたときに、次のコマンドを使用して行の繰り返し、削除、および挿入を行うことができます。

I

現在場所に新規 (ブランク) 行を挿入する。

I(n)

現在場所に n 行の新規 (ブランク) 行を挿入する。

D

行を削除する。

D(n)

現在場所から開始して、 n 行を削除する。

R

行を繰り返す。

R(n)

行を n 回繰り返す。

Cmd フィールドが表示されない場合には、既存の行の一部のフィールドしか編集できません。

SQL キーワード

表 10 : Create Database (データベースの作成) ページ 216 から 表 21 : Create Auxiliary Table (補助表の作成) ページ 229 には、それぞれの「Create (作成)」パネルについて (および、該当する場合はそれぞれの補助パネルについて)、そのパネル上の各入力フィールドに関連する SQL キーワード (または変数) を示します。

例えば、表 10 : Create Database (データベースの作成) ページ 216 は、「Create Database (データベースの作成)」メインパネルで、オプションの入力フィールド「**Storage group name (ストレージ・グループ名)**」は、SQL キーワード STOGROUP に関連していることを示しています。FM/Db2 が CREATE DATABASE ステートメントを作成するとき、**Storage group name (ストレージ・グループ名)** 入力フィールドに名前 (*stogroup-name*) を入力すると、FM/Db2 は、以下のような CREATE DATABASE ステートメント構文のストレージ・グループ部分を生成します。

```
STOGROUP stogroup-name
```



注:

1. 場合によっては、接続された Db2® バージョンに有効なキーワードがどのパネルにも表示されないことがあります。そのキーワードはサポートされていますが、SQL ステートメントの作成には必要ないためです。「create index (索引の作成)」の **TYPE** パラメーターは、この例です。
2. 一部のキーワード値は FM/Db2 によって完全に管理されていて、パネルの出力フィールドとして表示されるだけなので、ここでは参照のために組み込んであります。例えば **PART** キーワードの場合、FM/Db2 は



NUMPARTS 用の値セットを生成します。入力フィールドとして表示されるフィールドは、出力フィールドとして再表示されても記録のやり直しはされません。

3. 可能な限りフィールドは (キーワードに関連した値ではなく) SQL キーワードに関連付けてあります。そうでない場合には、関連する SQL 構文図で示される value-name と関連付けてあります。あいまいさを減少させるために、さらに詳細なコンテキストが表示される場合もあります。

表 10. Create Database (データベースの作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Database (データベースの作成)」 パネル ページ 535 を参照。)	
	(Database) Name ((データベース) 名前)	<i>database-name</i>
	Storage group name (ストレージ・グループ名)	STOGROUP
	Buffer pool for table spaces (表スペースのバッファ・プール)	BUFFERPOOL
	Buffer pool for indexes (索引のバッファ・プール)	INDEXBP
	Database usage (データベースの使用法)	AS WORKFILE
	Database usage (データベースの使用法)	AS TEMP
	Data encoding (データ・エンコード)	CCSID
	Member name (メンバー名)	FOR MEMBER

表 11. Create Table Space (表スペースの作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Table Space (表スペースの作成)」 パネル ページ 570 を参照。)	
	(Table space) Name ((表スペース) 名前)	<i>table-space-name</i>
	Database (データベース)	IN
	Buffer pool (バッファ・プール)	BUFFERPOOL
1. Type (タイプ)	(「Create Table Space (表スペースの作成): Type (タイプ)」 パネル ページ 580 を参照。)	
	Table Space Type (表スペース・タイプ)	LARGE

表 11. Create Table Space (表スペースの作成)

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	Table Space Type (表スペース・タイプ)	LOB
	Segment size (セグメント・サイズ)	SEGSIZE
	No. of partitions (区画の数)	NUMPARTS
	Max. partition size (最大区画サイズ)	DSSIZE
2. Allocation (割り振り)	(「Create Table Space (表スペースの作成): Allocation (割り振り)」 パネル ページ 572 を参照。)	
	VCAT name (VCAT 名)	VCAT
	Storage group name (ストレージ・グループ名)	STOGROUP
	Primary space (1 次スペース)	PRIQTY
	Secondary space (2 次スペース)	SECQTY
	Free pages (フリー・ページ)	FREEPAGE
	Free space (フリー・スペース)	PCTFREE
	Maximum rows per page (ページ当たり最大行数)	MAXROWS
3. Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)	(「Create Table Space (表スペースの作成): Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)」 パネル ページ 575 を参照。)	
	Use data compression (データ圧縮の使用)	COMPRESS
	Close if not in use (使用中でない時はクローズする)	CLOSE
	Erase data on delete (削除時にデータを消去)	ERASE
	Define data set now (今すぐデータ・セットを定義する)	DEFINE
	INSERT uses clustering index (INSERT はクラスター索引を使用)	MEMBER CLUSTER
	Track modified changes (変更したページをトラックする)	TRACKMOD
	Log changes to LOB columns (LOB 列の変更を記録)	LOG
	Data encoding (データ・エンコード)	CCSID

表 11. Create Table Space (表スペースの作成)

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
4. Locking Options (ロック・オプション)	(「 Create Table Space (表スペースの作成): Locking Options (ロック・オプション) 」パネル ページ 579 を参照。)	
	Locksize parameter (LOCKSIZE パラメーター)	LOCKSIZE
	Application Locking (アプリケーション・ロック)	LOCKMAX
5. Data Sharing Options (データ共有オプション)	(「 Create Table Space (表スペースの作成): Data Sharing Options (データ共有オプション) 」パネル ページ 574 を参照。)	
	Selective Partition Locking (選択的区画ロック)	LOCKPART
	Group Buffer Pool Usage (グループ・バッファ・プールの使用法)	GBPCACHE
6. Define Partitions (区画の定義)	(「 Create Table Space (表スペースの作成): Define Partitions (区画の定義) 」パネル ページ 577 を 参照。)	
	Pt. No. (区画番号)	PART
	VCAT name (VCAT 名)	VCAT
	Storage group name (ストレージ・グループ名)	STOGROUP
	Primary space (1 次スペース)	PRIQTY
	Secndry space (2 次スペース)	SECQTY
	Erase Data (データ消去)	ERASE
	Free pages (フリー・ページ)	FREEPAGE
	Free space (フリー・スペース)	PCTFREE
	Use Data Cmpr (データ圧縮の使用)	COMPRESS
	Group BP Caching (グループ BP キャッシング)	GBPCACHE

表 12. Create Table (表の作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Table (表の作成)」 パネル ページ 567 を参照。)	
	(New Table) Owner ((新規表) 所有者)	<i>table-name</i>
	(New Table) Name ((新規の表) 名前)	<i>table-name</i>
	(New Table) Database ((新規の表) データベース)	IN
	(New Table) Table Space ((新規の表) 表スペース)	IN
	(Model Table) Owner ((モデル表) 所有者)	LIKE
	(Model Table) Name ((モデル表) 名前)	LIKE
1. Columns (列)	(「Create Table (表の作成): Columns (列)」 パネル ページ 584 を参照。)	
	Column name (列名)	<i>column-name</i>
	Data Type (データ型)	<i>built-in-data-type</i>
	長さ	<i>built-in-data-type</i>
	Pr	<i>built-in-data-type</i> (数値のみ)
	Sc	<i>built-in-data-type</i> (10 進数のみ)
	For Data (データ向け)	FOR ... DATA
	User Defined Data Type (ユーザー定義データ・タイプ)	<i>distinct-type-name</i>
2. Default Values (デフォルト値)	(「Create Table (表の作成): Nulls and Default Values (ヌルとデフォルト値)」 パネル ページ 590 を参照。)	
	Not Null (非ヌル)	NOT NULL
	Default Value (デフォルト値)	WITH DEFAULT
3. Options (オプション)	(「Create Table (表の作成): Options (オプション)」 パネル ページ 594 を参照。)	
	Editproc	EDITPROC
	Validproc	VALIDPROC
	OBID value (OBID 値)	OBID
	Audit Options (監査オプション)	AUDIT

表 12. Create Table (表の作成)

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)	CCSID
	Log data capture changes (データ取り込み変更のログ)	DATA CAPTURE
	Restrict drop of table (表の除去の制約)	WITH RESTRICT ON DROP
4. Primary Key (1 次キー)	(「Create Table (表の作成): Unique Constraints (固有制約)」 パネル ページ 602 を参照。)	
	Constraint Name (制約名)	CONSTRAINT <i>constraint-name</i> PRIMARY KEY
	Order (順序)	PRIMARY KEY(<i>column-name ...</i>)
5. Foreign Key (外部キー)	(「Create Table (表の作成): Column Referential Constraints (列参照制約)」 パネル ページ 583 を参照。)	
	Constrnt Name (制約名)	FOREIGN KEY
	Owner (所有者)	REFERENCES
	Table Name (表名)	REFERENCES
	Column name (列名)	REFERENCES
	ON DLT	ON DELETE
6. Check Constraints (検査制約)	(「Create Table (表の作成): Column Check Constraints (列検査制約)」 パネル ページ 582 を参照。)	
	Table Constraint (表制約)	CONSTRAINT <i>constraint-name</i> CHECK
	Check Condition (検査条件)	CHECK(<i>check-condition ...</i>)
	(Constraint) Name ((制約) 名前)	CONSTRAINT <i>constraint-name</i> CHECK
	(Constraint) Condition ((制約) 条件)	CHECK(<i>check-condition ...</i>)
7. Procedure Exits (プロシージャ出口)	(「Create Table (表の作成): Procedure Exits (プロシージャ出口)」 パネル ページ 596 を参照。)	
	Name (名前)	FIELDPROC
	Parameters (パラメーター)	FIELDPROC
8. Generate Values (値の生成)	(「Create Table (表の作成): Generate Values (値の生成)」 パネル ページ 587 を参照。)	
	Gen (A/D)	GENERATE
	As Idty (Y/N)	AS IDENTITY

表 12. Create Table (表の作成)

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	Start value (開始値)	START WITH
	Incr value (INCR 値)	INCREMENT BY
	Caching Option (キャッシング・オプション)	(NO) CACHE

表 13. Create View (ビューの作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create View (ビューの作成)」 パネル ページ 608 を参照。)	
	Owner (所有者)	<i>view-name</i>
	Name (名前)	<i>view-name</i>
	Select statement (SELECT ステートメント)	AS
	Column names (列名)	<i>column-name ...</i>
	With Check Option (検査オプション付き)	WITH ... CHECK OPTION

表 14. Create Alias (別名の作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Alias (別名の作成)」 パネル ページ 533 を参照。)	
	(Alias) Owner ((別名) 所有者)	<i>alias-name</i>
	(Alias) Name ((別名) 名前)	<i>alias-name</i>
	(Table or View) Location ((表またはビュー) 位置)	FOR
	(Table or View) Owner ((表またはビュー) 所有者)	FOR
	(Table or View) Name ((表またはビュー) 名前)	FOR

表 15. 索引の作成

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Index (索引作成)」 パネル ページ 549 を参照。)	
	Owner (所有者)	<i>index-name</i>
	Name (名前)	<i>index-name</i>
	Table Owner (表所有者)	ON
	Table Name (表名)	ON
	Buffer Pool (バッファーク・プール)	BUFFERPOOL
1. Index Type (索引タイプ)	(「Create Index (索引の作成): Type (タイプ)」 パネル ページ 558 を参照。)	
	Uniqueness (固有性)	UNIQUE WHERE NOT NULL
	Internal format (内部形式)	TYPE
	Clustering Index Option (クラスター化索引オプション)	CLUSTER
	Piecesize (断片サイズ)	PIECESIZE
	Multiplier (乗数)	PIECESIZE
2. Column Selection (列の選択)	(「Create Index (索引の作成): Column Selection (列選択)」 パネル ページ 552 を参照。)	
	Order (順序)	<i>column-name</i>
	(A/D)	<i>column-name</i>
3. Allocation (割り振り)	(「Create Index (索引の作成): Allocation (割り振り)」 パネル ページ 551 を参照。)	
	VCAT name (VCAT 名)	VCAT
	Storage group name (ストレージ・グループ名)	STOGROUP
	Primary space (1 次スペース)	PRIQTY
	Secondary space (2 次スペース)	SECQTY
	Free pages (フリー・ページ)	FREEPAGE
	Free space (フリー・スペース)	PCTFREE
4. Options (オプション)	(「Create Index (索引の作成): Options (オプション)」 パネル ページ 553 を参照。)	
	Close if not in use (使用中でない時はクローズする)	CLOSE

表 15. 索引の作成

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	Erase data on delete (削除時にデータを消去)	ERASE
	Defer building index (索引ビルドの据え置き)	DEFER
	Define data set now (今すぐデータ・セットを定義する)	DEFINE
	Allow COPY of index (索引コピー可能)	COPY
	Group Buffer Pool Usage (グループ・バッファ・プールの使用法)	GBPCACHE
5. Partitions (区画)	(「Create Index (索引の作成): Partitions (パーティション)」 パネル ページ 555 を参照。)	
	Parttn. Number (区画番号)	PART
	VCAT name (VCAT 名)	VCAT
	Storage group name (ストレージ・グループ名)	STOGROUP
	Primary space (1 次スペース)	PRIQTY
	Secndry space (2 次スペース)	SECQTY
	Erase Data (データ消去)	ERASE
	Free pages (フリー・ページ)	FREEPAGE
	Free space (フリー・スペース)	PCTFREE
	Group BP Caching (グループ BP キャッシング)	GBPCACHE
6. Partition Values (区画値)	(「Create Index (索引の作成): Partition Values (区画値)」 パネル ページ 556 を参照。)	
	Value (値)	VALUES

表 16. 同義語の作成

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Synonym (同義語作成)」 パネル ページ 566 を参照。)	
	(Synonym) Name ((同義語) 名前)	<i>synonym</i>

表 16. 同義語の作成

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	(Table) Owner ((表) 所有者)	FOR
	(Table) Name ((表) 名前)	FOR

表 17. Create Distinct Type (特殊タイプの作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Distinct Type (特殊タイプの作成)」 パネル ページ 537 を参照。)	
	Schema (スキーマ)	<i>distinct-type-name</i>
	Name (名前)	<i>distinct-type-name</i>
	Source Type (ソース・タイプ)	AS
	Length (長さ)	AS
	Scale (目盛り)	AS
	For Data (データ向け)	FOR ... DATA
	Encoding Method (エンコード方式)	CCSID

表 18. Create Function (関数の作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Function (関数の作成)」 パネル ページ 542 を参照。)	
	Schema (スキーマ)	<i>function-name</i>
	Name (名前)	<i>function-name</i>
	Unique Name (固有の名前)	SPECIFIC
1. Parameters (パラメーター)	(「Create Function (関数の作成): Parameters (パラメーター)」 パネル ページ 545 を参照。)	
	Parameter Name (パラメーター名)	<i>parameter-name</i>
	Data Type (データ型)	<i>built-in-data-type</i>
	Len (長さ)	<i>built-in-data-type</i>

表 18. Create Function (関数の作成)

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	Pr	<i>built-in-data-type</i>
	Sc	<i>built-in-data-type</i>
	For Data (データ向け)	FOR ... DATA
	User Defined Data Type (ユーザー定義データ・タイプ)	<i>distinct-type-name</i>
2. Parameter Types (パラメーター・タイプ)	(「Create Function (関数の作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」 パネル ページ 543 を参照。)	
	As LOC (ロケーターとして)	AS LOCATOR
	Owner (所有者)	TABLE LIKE
	Name (名前)	TABLE LIKE
3. Returned Data Type (戻りデータ・タイプ)	(「Create Function (関数の作成): Returned Data Type (戻りデータ・タイプ)」 パネル ページ 546 を参照。)	
	(Returns) Data Type ((戻り) データ・タイプ)	RETURNS
	(Returns) Schema ((戻り) スキーマ)	RETURNS
	(Returns) Length ((戻り) 長さ)	RETURNS
	(Returns) Scale ((戻り) スケール)	RETURNS
	(Returns) For Data ((戻り) データ向け)	RETURNS ... FOR ... DATA
	(Returns) Encoding Method ((戻り) エンコード方式)	RETURNS ... CCSID
	(Cast From) Data Type ((キャスト元) データ・タイプ)	CAST FROM
	(Cast From) Length ((キャスト元) 長さ)	CAST FROM
	(Cast From) Scale ((キャスト元) スケール)	CAST FROM
	(Cast From) For Data ((キャスト元) データ向け)	CAST FROM ... FOR ... DATA
	(Cast From) Encoding Method ((キャスト元) エンコード方式)	CAST FROM ... CCSID
	As Locator (ロケーターとして)	RETURNS ... AS LOCATOR

表 18. Create Function (関数の作成)

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
4. Option List (オプション・リスト) (「Create Function (関数の作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2)」 パネル (1/2) ページ 539 を参照。)		
	External Name (外部名)	EXTERNAL NAME
	Scratchpad (スクラッチパッド)	(NO) SCRATCHPAD
	Package Collection (パッケージ・コレクション)	(NO) COLLID
	Workload Manager Environment (ワークロード・マネージャー環境)	WLM ENVIRONMENT
	Time Limit (時間制限)	ASUTIME (NO) LIMIT
	Language (言語)	LANGUAGE
	SQL	(READS)(NO)(MODIFIES) (CONTAINS) SQL (DATA)
	Security (セキュリティ)	SECURITY
	Parallel (並列)	(DIS)ALLOW PARALLEL
	Run-time Options (実行時オプション)	RUN OPTIONS
5. Option List (オプション・リスト) (「Create Function (関数の作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2)」 パネル (2/2) ページ 540 を参照。)		
	Main Program (メインプログラム)	PROGRAM TYPE
	Stay Resident (常駐のまま)	STAY RESIDENT
	Deterministic (決定論的)	(NOT) DETERMINISTIC
	Called on null input (ヌル入力で呼び出し)	(RETURNS NULL)(CALLED) ON NULL INPUT
	No external action (外部アクションなし)	(NO) EXTERNAL ACTION
	Final Call (最終呼び出し)	(NO) FINAL CALL
	DBINFO argument passed (渡される DBINFO 引数)	(NO) DBINFO

表 19. Create Procedure (プロシージャの作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Procedure (プロシージャの作成)」 パネル ページ 559 を参照。)	
	Schema (スキーマ)	<i>procedure-name</i>
	Name (名前)	<i>procedure-name</i>
	Result Sets (結果セット)	DYNAMIC RESULT SET(S)
1. Parameters (パラメーター)	(「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameters (パラメーター)」 パネル ページ 565 を参照。)	
	Parameter Name (パラメーター名)	<i>parameter-name</i>
	Data Type (データ型)	<i>built-in-data-type</i>
	Len (長さ)	<i>built-in-data-type</i>
	Pr	<i>built-in-data-type</i>
	Sc	<i>built-in-data-type</i>
	For Data (データ向け)	FOR ... DATA
	User Defined Data Type (ユーザー定義データ・タイプ)	<i>distinct-type-name</i>
2. Parameter Types (パラメーター・タイプ)	(「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」 パネル ページ 563 を参照。)	
	As LOC (ロケーターとして)	AS LOCATOR
	Owner (所有者)	TABLE LIKE
	Name (名前)	TABLE LIKE
	IN OUT INOUT	(IN)(OUT)(INOUT)
4. Option List (オプション・リスト) (1/2)	(「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」 パネル ページ 561 を参照。)	
	External Name (外部名)	EXTERNAL NAME
	Package Collection (パッケージ・コレクション)	(NO) COLLID
	Workload Manager Environment (ワークロード・マネージャー環境)	(NO) WLM ENVIRONMENT
	Time Limit (時間制限)	ASUTIME (NO) LIMIT

表 19. Create Procedure (プロシージャの作成)

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	Language (言語)	LANGUAGE
	SQL	(READS)(NO)(MODIFIES) (CONTAINS) SQL (DATA)
	Security (セキュリティー)	SECURITY
	Parameter Style (パラメーター・スタイル)	PARAMETER STYLE
	Run-time Options (実行時オプション)	RUN OPTIONS
5. Option List (オプション・リスト) (「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」 パネル ページ 562 を参照。)		
	Main Program (メインプログラム)	PROGRAM TYPE
	Stay Resident (常駐のまま)	STAY RESIDENT
	Deterministic (決定論的)	(NOT) DETERMINISTIC
	DBINFO argument passed (渡される DBINFO 引数)	(NO) DBINFO
	Commit on return (戻り時のコミット)	COMMIT ON RETURN

表 20. トリガーの作成

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Trigger (トリガーの作成)」 パネル ページ 603 を参照。)	
	Schema (スキーマ)	<i>trigger-name</i>
	Name (名前)	<i>trigger-name</i>
1. Type (タイプ) (「Create Trigger (トリガーの作成): Details (詳細)」 パネル ページ 604 を参照。)		
	(Order) No cascade before ((順序) 前にカスケードなし)	NO CASCADE BEFORE
	(Order) After ((順序) 後)	AFTER
	(Type) Insert ((タイプ) 挿入)	INSERT
	(Type) Delete ((タイプ) 削除)	DELETE
	(Type) Update ((タイプ) 更新)	UPDATE

表 20. トリガーの作成

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	Columns (列)	UPDATE OF
	(Trigger Table) Name ((トリガー表) 名前)	ON
	(Trigger Table) Owner ((トリガー表) 所有者)	ON
	Old correlation name (旧相関名)	OLD
	New correlation name (新規相関名)	NEW
	Old table identifier (旧表 ID)	OLD TABLE
	New table identifier (新規表 ID)	NEW TABLE
	(Executed) For each modified row ((実行) 各変更行ごと)	FOR EACH ROW
	(Executed) Once ((実行) 一度)	FOR EACH STATEMENT
2. Search Condition (検索条件)	(「Create Trigger (トリガーの作成): Search Condition (検索条件)」 パネル ページ 606 を参照。)	
	Search Condition (検索条件)	WHEN
3. SQL Statement (SQL ステートメント)	(「Create Trigger (トリガーの作成): SQL statement (SQL ステートメント)」 パネル ページ 607 を参照。)	
	Triggered SQL Statement(s) (トリガーされる SQL ステートメント)	BEGIN ATOMIC

表 21. Create Auxiliary Table (補助表の作成)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
Main	(「Create Auxiliary Table (補助表の作成)」 パネル ページ 534 を参照。)	
	(Auxiliary Table) Owner ((補助表) 所有者)	<i>aux-table-name</i>
	(Auxiliary Table) Name ((補助表) 名前)	<i>aux-table-name</i>
	(Table Space) Name ((表スペース) 名前)	IN
	Database (データベース)	IN
	(Base Table) Owner ((基本表) 所有者)	STORES
	(Base Table) Name ((基本表) 名前)	STORES

表 21. Create Auxiliary Table (補助表の作成)

(続く)

メイン / 補助パネル	フィールド	SQL キーワード
	(Base Table Column) Name ((基本表列) 名前)	COLUMN
	Partition (区画)	PART

データベースの作成

新規データベースを作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「Object Type (オブジェクト・タイプ)」入力フィールドに 1 を入力します。
2. コマンド行で c と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Database (データベースの作成)」パネルが表示されます。

「Create Database (データベースの作成)」パネルは現行サーバーの Db2® データベースを定義します。

パネルの唯一の必須フィールドは最初のフィールドで、新規データベースの名前を入力します。このパネルの他のフィールドはすべてオプションですが、入力フィールドの 2 番目のグループには、多くの場合値を指定します。

パネルのデータベース・オプションおよびメンバー選択セクションには、ユーザーが作業ファイルまたは一時データベースを定義できる入力フィールドがあります。

z/OS® システムのデフォルトのデータ・エンコード方式は EBCDIC です。必要な場合には、ASCII エンコードを指定することができます。

また、作業ファイル・データベースでは、メンバー名 (データ共用環境でのみ使用) も指定できます。

関連する参照先

[「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」パネル ページ 629](#)

[「Create Database \(データベースの作成\)」パネル ページ 535](#)

表スペースの作成

新規表スペースを作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「Object Type (オブジェクト・タイプ)」入力フィールドに 2 を入力します。
2. コマンド行で c と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Table Space (表スペースの作成)」パネルが表示されます。

「Create Table Space (表スペースの作成)」パネルを使用して、現行サーバーで、単純表スペース、セグメント化表スペース、または区画表スペースを定義することができます。

関連するタスク

- [表スペース・タイプ \(表スペースの作成\) ページ 231](#)
- [表スペース割り振り \(表スペースの作成\) ページ 231](#)
- [データ・ストレージ \(表スペースの作成\) ページ 232](#)
- [ロック \(表スペースの作成\) ページ 232](#)
- [データ共用 \(表スペースの作成\) ページ 232](#)
- [区画 \(表スペースの作成\) ページ 232](#)

関連する参照先

- [\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\] パネル ページ 629](#)
- [\[Create Table Space \(表スペースの作成\)\] パネル ページ 570](#)
- [\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Type \(タイプ\)\] パネル ページ 580](#)
- [\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Allocation \(割り振り\)\] パネル ページ 572](#)
- [\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Data Storage Options \(データ・ストレージ・オプション\)\] パネル ページ 575](#)
- [\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Locking Options \(ロック・オプション\)\] パネル ページ 579](#)
- [\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Data Sharing Options \(データ共用オプション\)\] パネル ページ 574](#)
- [\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Define Partitions \(区画の定義\)\] パネル ページ 577](#)

表スペース・タイプ (表スペースの作成)

Db2® では、表スペースは区画に分割されないか、または区画に分割されるか、のいずれかです。区画に分割されない表スペースはセグメント化することができます (区画に分割される表スペースは不可)。区画に分割されないとは、表スペースと、データの保管のために定義されるデータ・セットとに 1:1 の関係があることを意味します。区画は、多くのデータ・セットがデータの保管に使用されることを意味します。

セグメント化表スペースでは、1つの表スペース内での複数の表定義をサポートするように改善して、非区画表スペースをより効率的に使用することができます。

区画表スペースの最大区画サイズは、その表スペースに保管できるデータの容量を決定します。大きな値は、GB のデータを保管できるマルチボリューム表スペースの作成を意味します。

関連する参照先

- [\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Type \(タイプ\)\] パネル ページ 580](#)

表スペース割り振り (表スペースの作成)

[Create Table Space (表スペースの作成) Allocation (割り振り)] パネルの使用はオプションですが、ほとんどのユーザーは Db2® ストレージ・グループと表スペースのサイズを指定する必要があります。

Db2® データ・セットを外部的に定義したり、Db2® がユーザーに代わってデータ・セットを作成できるオプションがあります。前者のオプションは、パネルのデータ・セット・パラメーター・セクションに VCAT 名を指定して選択します。最

も一般的なオプションは、(Db2®) ストレージ・グループ名を指定するものです。これらのパラメーターは相互に排他的です。

関連する参照先

[\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Allocation \(割り振り\)\] パネル ページ 572](#)

データ・ストレージ (表スペースの作成)

[Create Table Space: (表スペースの作成) Data Sharing Options (データ共有オプション)] パネルを使用して、機能のデータ管理のさまざまな側面を制御するオプションを指定します。

関連する参照先

[\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Data Sharing Options \(データ共有オプション\)\] パネル ページ 574](#)

ロック (表スペースの作成)

LOCKSIZE パラメーターは表スペースのロック・サイズを指定します。

異なる 6 つのロック・パラメーターから選択することができます。LOB 表スペースでは、ページおよび行を指定することはできません。表を指定できるのは、セグメント化表スペースの場合だけです。

また、ロック調整が行われる前に、アプリケーション・プログラムが表スペースに保持できるロック・エスカレーションの数の最大値を指定することもできます。

関連する参照先

[\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Locking Options \(ロック・オプション\)\] パネル ページ 579](#)

データ共有 (表スペースの作成)

[Create Table Space (表スペースの作成) Data Sharing Options (データ共有オプション)] パネルの使用はオプションですが、データ共有環境で表スペースがどのように動作するかを制御するオプションが入っています。ほとんどの場合には、デフォルト値で十分です。

関連する参照先

[\[Create Table Space \(表スペースの作成\): Data Sharing Options \(データ共有オプション\)\] パネル ページ 574](#)

区画 (表スペースの作成)

[Create Table Space (表スペースの作成) Define Partitions (区画の定義)] パネルの使用は、区画表スペースの定義もそうですが、オプションです。ただし、表スペース・レベルで設定された値を基にするのではなく、区画表スペースの各区画に合ったパラメーターを指定する場合があります。

区画表スペースでは、表スペースの各区画にオプションの「USING CLAUSE」があります。このパネルを選択する前に、「Table Space Type (表スペース・タイプ)」パネルでの区画の数の定義を選択することもできます。パネル下部の表は、必要な行数 (各区画に 1) で事前形式設定されます。

また、「Define Partitions (区画の定義)」パネルを直接選択することもできます。事前形式設定行数は、区画の数に指定された値 (デフォルト値は 1) に影響を与えます。その後で、この単一区画の値を、必要な値に調整することができます。これが行われたら、R 接頭部コマンドを (オプションで後に整数を続けて) 使用して、その区画の数を必要な値まで増やすことができます。「Table space Type (表スペース・タイプ)」パネルで区画の数に指定した値もそれに応じて更新されます。



注: 通常、区画表スペースの個々の区画は類似したパラメーターで定義されます。値を一度定義してからそれを繰り返す方が、各行に同じ情報を繰り返し入力するよりは簡単です。

フリー・ページ、フリー・パーセント、データ圧縮、GBPCACHE の Db2® デフォルト値が使用されます。

関連する参照先

[「Create Table Space \(表スペースの作成\): Define Partitions \(区画の定義\)」パネル ページ 577](#)

[「Create Table Space \(表スペースの作成\): Type \(タイプ\)」パネル ページ 580](#)

表の作成

新規表を作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **3** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Table (表の作成)」パネルが表示されます。

「Create Table (表の作成)」ユーティリティーは、新規 Db2® 表を作成するために使用します。作成する表に似た表がすでに存在する場合には、その表を新しい表のモデルとして使用できます。

関連するタスク

1. [列 \(表の作成\) ページ 238](#)
2. [ヌル値およびデフォルト値 \(表の作成\) ページ 238](#)
3. [オプション \(表の作成\) ページ 238](#)
4. [固有制約 \(表の作成\) ページ 239](#)
5. [参照制約 \(表の作成\) ページ 239](#)
6. [検査制約 \(表の作成\) ページ 240](#)
7. [プロシージャー出口 \(表の作成\) ページ 241](#)
8. [値の生成 \(表の作成\) ページ 242](#)

関連する参照先

[「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」パネル ページ 629](#)

[「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

- [\[Create Table \(表の作成\): Columns \(列\)\]](#) パネル ページ 584
- [\[Create Table \(表の作成\): Nulls and Default Values \(ヌルとデフォルト値\)\]](#) パネル ページ 590
- [\[Create Table \(表の作成\): Options \(オプション\)\]](#) パネル ページ 594
- [\[Create Table \(表の作成\): Unique Constraints \(固有制約\)\]](#) パネル ページ 602
- [\[Create Table \(表の作成\): Column Referential Constraints \(列参照制約\)\]](#) パネル ページ 583
- [\[Create Table \(表の作成\): Column Check Constraints \(列検査制約\)\]](#) パネル ページ 582
- [\[Create Table \(表の作成\): Procedure Exits \(プロシージャー出口\)\]](#) パネル ページ 596
- [\[Create Table \(表の作成\): Generate Values \(値の生成\)\]](#) パネル ページ 587

モデルを使用した表の作成

「Create Table (表の作成)」ユーティリティでは、作成する新しい表のモデルとして既存の表またはビューを使用できます。このモデリング機能を使用し、次のいずれかの方法で表を作成することができます。

- モデル表またはビューとまったく同じ名前と記述を持つ列の場合は、「Usage (使用法)」オプション 1。



注: 「Usage (使用法)」オプション 1 を使用している場合、列に関連した「Table Creation (表の作成)」オプションは使用できません (Db2® は、CREATE TABLE ステートメントの発行時にモデル表またはビューについての列情報をコピーします)。しかし、「Table Creation (表の作成)」オプション 3 (「**Table (表)**」オプション) を選択して、メインパネルで列以外の詳細を指定することはできます。

- モデル表またはビューに基づくが、列の詳細の一部を変更する場合は、「Usage (使用法)」オプション 2 「Table Creation (表の作成)」オプション 1-8。

モデル表またはビューと名前および記述がまったく同じ列を持つ表を作成するには、以下のようにします。

- 作成する表の名前を「**New Table (新規表)**」に指定します。
- モデル表またはビューの名前を「**Model Table/View (モデル表/ビュー)**」に指定します。モデル表またはビューの名前は、所有者を指定して修飾することができます。モデル表 (またはビュー) の所有者を指定しないと、FM/Db2 はユーザーの現在の SQL ID を使用します。
- 「Usage (使用法)」オプション 1 (「**Generate LIKE clause (LIKE 文節の生成)**」) を選択します。
- 「Table Creation (表の作成)」オプション「**Create the table (表の作成)**」を選択します。
- Enter キーを押します。

FM/Db2 は次の SQL ステートメントを生成します。

```
CREATE TABLE new_table_name LIKE model_table_name
```

これは、Db2® に送信して実行する前に行われます。FM/Db2 は、生成された SQL ステートメントが実行されたことを確認するメッセージを出します。CREATE TABLE ステートメントの LIKE 文節の詳細については、*Db2 UDB for z/OS SQL 解説書* を参照してください。



注: 生成された SQL ステートメントを発行前後に表示するには、コマンド行に「SQL」と入力します。

モデル表またはビューに基づいて表を作成するが、列の詳細の一部を変更する場合は、以下のようになります。

1. 作成する Db2® 表の名前を「**New Table (新規表)**」に指定します。
2. Db2® モデル表またはビューの名前を「**Model Table/View (モデル表/ビュー)**」に指定します。モデル表またはビューの名前は、所有者を指定して修飾することができます。モデル表 (またはビュー) の所有者を指定しないと、FM/Db2 はユーザーの現在の SQL ID を使用します。
3. 「Usage (使用法)」オプション 2 (「**Load table information (表情報のロード)**」) を選択します。
4. Enter キーを押します。

FM/Db2 には、「Create Table: Model Load (表の作成: モデル・ロード)」パネルが表示されます。



注: 「Create Table: Model Load (表の作成: モデル・ロード)」パネルは、次の場合に表示されます。

- 「**Model Table/View (モデル表/ビュー)**」の詳細を最初に指定するか、以後に変更し、
- 「Usage (使用法)」オプション 2 (「**Load table (表情報のロード)**」) を選択して、
- Enter キーを押します。

「Create Table: Model Load (表の作成: モデル・ロード)」パネルでは、モデル表またはビューを記述する情報を選択して Db2® カタログから CREATE TABLE ステートメントの生成に使用する ISPF 変数および表にロードできます。また、ロードする情報を現在の情報と置き換えるか、それとも現在の情報に追加するかも指定できます。

5. 必須指定のオプションの横にスラッシュ (/) を入力して、必要な **Model Load Options (モデル・ロード・オプション)** を選択してください (FM/Db2 は、最初の 3 つのオプションを選択します)。モデル・ロード・オプションを選択解除するには、スラッシュの代わりにブランクを入力してください。



注: モデル表またはビューにユーザーが選択したモデル・ロード・オプションのデータが存在しない場合には、FM/Db2 はメインパネルを再表示するときに、メッセージ “Some data not loaded (一部のデータがロードされませんでした)” を出します。

「Create Table (表の作成)」メインパネルに戻ったら、該当する表の作成オプション 1-8 を選択して、この情報を変更または追加できます。詳しくは、[表の作成オプション ページ 237](#) を参照してください。



注: モデルとしてビューを使用すると、FM/Db2 はデータベース名、表スペース名、エンコード・スキーム、および列情報だけをロードします。

6. FM/Db2 が最新表示としてモデル表またはビューについての情報を使用するか、または FM/Db2 が作成中の表に最新情報を追加するかを指定するには、該当する **Refresh/Add (最新表示/追加)** オプションを選択してください。

7. モデル表に参照制約がある場合には、次のオプションの1つを選択して、単一系列の参照制約を列の参照制約としてロードするか、表の参照制約としてロードするかを指定してください。
- 1. Column referential constraints (列参照制約)
 - 2. Table referential constraints (表参照制約)



注:

- a. 複数のモデル表 (またはビュー) をロードする、あるいはモデル表 (またはビュー) の列を手動定義列に追加する場合に、列名が重複しているかどうかは FM/Db2 によってチェックされません。
- b. いずれかのキーまたは制約オプション (「**Primary key information (基本キー情報)**」、「**Unique key information (固有キー情報)**」、「**Referential constraints (参照制約)**」、または「**Check constraints (検査制約)**」) を選択すると、「**Column information (列情報)**」オプションが自動的に選択されます。
- c. FM/Db2 は、検査制約情報をすべて表の検査制約の形式でロードします。

8. Enter キーを押します。

FM/Db2 は、情報を選択した **Model Load Options (モデル・ロード・オプション)** および **Refresh/Add (最新表示/追加)** オプションに従って、CREATE TABLE ステートメントの生成に使用した ISPF 変数および表にロードして、「Create Table (表の作成)」メインパネルに戻ります。



注: 生成された SQL ステートメントを表示するには、「Create Table (表の作成)」メインパネルのコマンド行に「SQL」と入力します。

9. 作成した表の詳細情報を指定するには、表の作成オプション 1-8 を選択して Enter キーを押します。

FM/Db2 は、入力の妥当性を検査して、選択した表の作成オプション用に情報を入力できるパネルを表示します。それぞれの表の作成オプションの詳細については、[表の作成オプション ページ 237](#)を参照してください。

10. メインパネルで、「Table Creation (表の作成)」オプション「**Create the table (表の作成)**」を選択します。
11. Enter キーを押します。

FM/Db2 は次の SQL ステートメントを生成します。

```
CREATE TABLE new_table_name other_details
```

ここで、*other_details* は、モデル表またはビューおよび表の作成オプションを使用して選択した詳細に基づいて SQL 文節を表します。FM/Db2 は、生成された SQL ステートメントを Db2® に送信し、正常に実行されたことを確認するメッセージを出します。



注: 生成された SQL ステートメントを発行前後に表示するには、コマンド行に「SQL」と入力します。

関連する参照先


[「Create Table \(表の作成\): Model Load \(モデル・ロード\)」パネル ページ 588](#)

[「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

モデルを使用しない表の作成

モデルを使用しないで新規表を作成するには (例えば、作成する表に似た表がまだ存在していない場合)、以下のようにします。

1. 作成する Db2® 表の名前を「**New Table (新規表)**」に指定します。
2. 「**Model Table (モデル表)**」の所有者と Db2® 表の名前はブランクのままにしておきます。
3. 「Table Creation (表の作成)」オプション 1-8 のいずれかを選択して、Enter キーを押します。デフォルトの設定値は、オプション 1 (「**Columns (列)**」) です。

 **注:** 表の作成オプション 2、4、5、6、7、または 8 のいずれかを指定する前に、(オプション 1 を使用して) 新規表の少なくともいくつかの列を作成する必要があります。

FM/Db2 は、入力の妥当性を検査して、選択した表の作成オプション用に情報を入力できるパネルを表示します。


それぞれの表の作成オプションについては、[表の作成オプション ページ 237](#)を参照してください。

4. 「Table Creation (表の作成)」オプション「**Create the table (表の作成)**」を選択します。
5. Enter キーを押します。

FM/Db2 は次の SQL ステートメントを生成します。

```
CREATE TABLE new_table_name other_details
```

ここで、*other_details* は、「Table Creation (表の作成)」オプションを使用して選択した詳細に基づいた SQL 文節を表します。FM/Db2 は、生成された SQL ステートメントを Db2® に送って、正常に実行されたことを確認するメッセージを出します。

 **注:** 生成された SQL ステートメントを発行前後に表示するには、コマンド行に「SQL」と入力します。

表の作成オプション

「Create Table (表の作成)」メイン・パネルの表の作成オプションでは、作成する表を定義するための追加の情報を指定できます。

「Usage (使用法)」オプション 2 のモデル表を使用している場合には、「Table Creation (表の作成)」オプション「**Create the table (表の作成)**」を使用する前に、オプション 1-8 のいずれかを選択して表を作成することができます。すでに「Model Load (モデル・ロード)」パネルを使用して作成する表の情報を指定している場合には、表の作成オプションを使用して、すでに選択している詳細を補足したり変更することができます。

モデル表を使用していない場合には、オプション 1 (「**Columns (列)**」) を選択してからオプションでオプション 2-8 を選択し、その後で「Table Creation (表の作成)」オプション「**Create the table (表の作成)**」を使用して表を作成する必要があります。

それぞれの表の作成オプションは、データを追加または変更する回数だけ何回でも呼び出すことができます。

表の作成オプション 1 から 8 のいずれか 1 つを選択すると、FM/Db2 は選択した作成オプションの情報を入力するパネルを表示します。「Table Creation (表の作成)」オプション「**Create the table (表の作成)**」を選択すると、FM/Db2 は CREATE TABLE SQL ステートメントを生成して発行します。

以下のページでは、各作成オプションのパネルについて説明します。

関連する参照先

[「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

[「Create Table \(表の作成\): Model Load \(モデル・ロード\)」パネル ページ 588](#)

1. 列 (表の作成)

「Create Table Columns (表の作成: 列)」パネルは、「Create Table (表の作成)」メイン・パネルで「Table Creation (表の作成)」オプション 1 (「**Columns (列)**」) を選択すると表示されます。このパネルは、作成する表の列を定義したり、すでに定義している列の情報を変更するために使用します。

パネル下部には、表に定義された列が表示されます(列をまだ定義していない場合には、パネルのこの部分には 1 行の空の入力フィールドが表示されます)。モデリング機能を使用している場合には、このパネルにはモデル表の各列の列の詳細が表示されます。

関連する参照先

[「Create Table \(表の作成\): Columns \(列\)」パネル ページ 584](#)

[「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

2. ヌル値およびデフォルト値 (表の作成)

「Nulls and Default Values (ヌル値とデフォルト値)」パネルは、「Create Table (表の作成)」パネルで「Table Creation (表の作成)」オプション 2 (「**Nulls/default values (ヌル値/デフォルト値)**」) を選択すると表示されます。

「Nulls and Default Values (ヌル値およびデフォルト値)」パネルには、表に定義された列が表示されます。モデリング機能を使用している場合には、このパネルにはモデル表の各列の列の詳細が表示されます。このパネルは、作成する表の列にヌル属性およびデフォルト値を定義する情報を指定するために使用します。

関連する参照先

[「Create Table \(表の作成\): Nulls and Default Values \(ヌルとデフォルト値\)」パネル ページ 590](#)

[「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

3. オプション (表の作成)

「Options (オプション)」パネルは、「Create Table (表の作成)」メイン・パネルで「Table Creation (表の作成)」オプション 3 (「**Table options (表オプション)**」) を選択すると表示されます。

「Options (オプション)」パネルは、作成する表のオプションを定義する情報を指定するために使用します。

関連する参照先

[\[Create Table \(表の作成\): Options \(オプション\)\] パネル ページ 594](#)

[\[Create Table \(表の作成\)\] パネル ページ 567](#)

4. 固有制約 (表の作成)

「Unique Constraints (固有制約)」パネルは、「Create Table (表の作成)」メイン・パネルで「Table Creation (表の作成)」オプション 4 (「**Unique Constraints (固有制約)**」) を選択すると表示されます。

「Unique Constraints (固有制約)」パネルは、作成する表の基本キーおよび最大 3 つまでの追加の固有キーを定義する情報を指定するために使用します。このパネルには、NOT NULL として定義された (したがって、基本キーまたは固有キーの一部として選択する対象となる) 列だけが表示されます。

基本キーまたは 3 つの固有キーのいずれかを定義するには、そのキーに列を追加する「**Column Order in Key (キーの列順序)**」フィールドの 1 つに *s* または番号を入力します。*s* を入力すると、FM/Db2 はそのキーの次に大きい番号を生成します。すでに選択している列を選択解除するには、表示されている番号をスペースで上書きして消去します。



注: 実際の番号は重要ではありません。FM/Db2 は相対順序を使用して、キーの列順序を定義します。

基本キーと 3 つの固有キーにオプションで制約名を指定できます。

関連する参照先

[\[Create Table \(表の作成\): Unique Constraints \(固有制約\)\] パネル ページ 602](#)

[\[Create Table \(表の作成\)\] パネル ページ 567](#)

5. 参照制約 (表の作成)

「Create Table (表の作成)」メイン・パネルで「Table Creation (表の作成)」オプション 5 (「**Referential Constraints (参照制約)**」) を選択すると、FM/Db2 は「Column Referential Constraints (列の参照制約) パネル」または「Table Referential Constraints (表の参照制約) パネル」のいずれかを表示します。あるパネルから別のパネルへ変更するには、F11 機能キーを押してください。



注: 初めて「**Referential Constraints (参照制約)**」作成オプションを選択すると、FM/Db2 は「Column Referential Constraints (列の参照制約)」パネルを表示します。それ以後は「Create Table (表の作成)」ユーティリティーの同じ呼び出しの中で「**Referential Constraints (参照制約)**」作成オプションを選択するたびに、FM/Db2 は最後に表示されたパネル (列または表) を表示します。

列の参照制約と表の参照制約

個々の列 (列の参照制約) または表全体 (表の参照制約) に関連した参照制約を指定できます。

- 列の参照制約は、作成する表 (従属表) の列 (外部キー) を別の表 (親表) の同等の列 (親キー) と関連づけて、外部キー列の非ヌル値を親キー列の値に制限します。
- 表の参照制約は、作成する表 (従属表) の列 (外部キー) のセットを別の表 (親表) の同等の列 (親キー) のセットと関連づけて、外部キーの非ヌル値を親キーの値に制限します。



1. 親キーは、親表の基本キーまたは固有キーでなければなりません。
2. 親キーの 1 つ以上の列名を指定しないと、外部キーは親表の基本キーと関連づけられます。

列の参照制約を指定するには、「Column Referential Constraints (列の参照制約)」パネルを使用します。

「Column Referential Constraints (列の参照制約)」パネルには、作成する表に対して定義された列が表示されます。モデリング機能を使用している場合には、このパネルにはモデル表の各列の列の詳細が表示されます。このパネルは、作成する表の列の参照制約を定義する情報を指定するために使用します。参照制約を定義するには、少なくとも親表名を指定する必要があります。参照制約がない列を指示するには、その列のフィールドをすべてブランクのままにしておきます。

表の参照制約を指定するには、「Table Referential Constraints (表の参照制約)」パネルを使用します。このパネルの各行では、単一の表の参照制約が定義されます。

「Table Referential Constraints (表の参照制約)」パネルは、作成する表に関する表の参照制約を定義する情報を指定するために使用します。参照制約を定義するには、少なくとも親表名を指定する必要があります。

「Create Table Referential Constraint (表の参照制約の作成)」パネルは、「Cmd」入力フィールドに「S」を入力すると表示されます。

「Create Table Referential Constraint (表の参照制約の作成)」パネルには、作成する表 (従属表) に対して定義された列が表示されます。モデリング機能を使用している場合には、このパネルにはモデル表の各列の列の詳細が表示されます。このパネルは、従属表の列 (外部キー) を選択して、関連づける親表の列 (親キー) を指定するために使用します。

関連する参照先

[「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

[「Create Table \(表の作成\): Column Referential Constraints \(列参照制約\)」パネル ページ 583](#)

[「Create Table \(表の作成\): Table Referential Constraint \(表参照制約\)」パネル ページ 598](#)

6. 検査制約 (表の作成)

「Create Table (表の作成)」メインパネルで「Table Creation (表の作成)」オプション 6 (「**Check Constraints (検査制約)**」) を選択すると、FM/Db2 は「Column Check Constraints (列検査制約)」パネルまたは「Table Check Constraints (表検査制約)」パネルのいずれかを表示します。あるパネルから別のパネルへ変更するには、F11 機能キーを押してください。これらのパネルは、作成する表の検査制約を定義する情報を指定するために使用します。



注: 初めて「**Check Constraints (検査制約)**」作成オプションを選択すると、FM/Db2 は「Column Check Constraints (列の検査制約)」パネルを表示します。それ以後は Create Table (表の作成) ユーティリティーの同じ呼び出しの中で「**Check Constraints (検査制約)**」作成オプションを選択するたびに、FM/Db2 は最後に表示されたパネル (列または表) を表示します。

列の検査制約と表の検査制約

個々の列 (列の検査制約) または表全体 (表の検査制約) に関連した検査制約を指定できます。ステートメントの発行時には、検査制約のどちらのタイプでも同じ結果が作成されて、いずれかのタイプとして有効な検査条件を指定できるようになります。しかし、定義されている列だけが列の検査制約によって参照される SQL 標準 (Db2® では強制されない) に違反する検査条件に対し、表の検査制約を使用する場合があります。



注:

1. モデル表情報が「Create Table (表の作成)」ユーティリティーにロードされると、その表に対して定義されたすべての検査制約が表の検査制約としてロードされます。

列の検査制約を指定するには、「Column Check Constraints (列の検査制約)」パネルを使用します。

「Column Check Constraints (列の検査制約)」パネルには、作成する表に対して定義された列が表示されます。モデリング機能を使用している場合には、このパネルにはモデル表の各列の列の詳細が表示されます。

表の検査制約を指定するには、「Table Check Constraints (表の検査制約)」パネルを使用します。このパネルの各行では、単一の表の検査制約が定義されます。

「Table Check Constraints (表の検査制約)」パネルは、作成する表に対して定義するそれぞれの検査制約の SQL 検査条件を指定するために使用します。

関連する参照先

[「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

[「Create Table \(表の作成\): Column Check Constraints \(列検査制約\)」パネル ページ 582](#)

[「Create Table \(表の作成\): Table Check Constraints \(表検査制約\)」パネル ページ 597](#)

7. プロシージャー出口 (表の作成)

「Procedure Exits (プロシージャー出口)」パネルは、「Create Table (表の作成)」メイン・パネルで「Table Creation (表の作成)」オプション 7 (「**Procedure exits (プロシージャー出口)**」) を選択すると表示されます。

「Procedure Exits (プロシージャー出口)」パネルは、作成する表のプロシージャー出口を定義する情報を指定するために使用します。

関連する参照先

[\[Create Table \(表の作成\): Procedure Exits \(プロシージャー出口\)\]](#) パネル ページ 596

[\[Create Table \(表の作成\)\]](#) パネル ページ 567

8. 値の生成 (表の作成)

「Generate Values (値の生成)」パネルは、「Create Table (表の作成)」メイン・パネルで「Table Creation (表の作成)」オプション 8 (「**Generate value (値の生成)**」) を選択すると表示されます。

「Generate Values (値の生成)」パネルは、作成する表の識別列または ROWID 列の生成値を定義する情報を指定するために使用します。

関連する参照先

[\[Create Table \(表の作成\): Generate Values \(値の生成\)\]](#) パネル ページ 587

[\[Create Table \(表の作成\)\]](#) パネル ページ 567

ビューの作成

新規ビューを作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **4** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create View (ビューの作成)」パネルが表示されます。

「Create View (ビューの作成)」パネルを使用して現在場所に新規ビューを作成します。

関連する参照先

[\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\]](#) パネル ページ 629

[\[Create View \(ビューの作成\)\]](#) パネル ページ 608

別名の作成

新規別名を作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **5** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Alias (別名の作成)」パネルが表示されます。

「Create Alias (別名の作成)」パネルでは、現在の位置の表またはビューの別名を作成することができます。

別名とは、表またはビューの代替名のことです。別名の作成時には、表またはビューが存在していなくてもかまいません。表またはビューが、ローカル Db2® システムとは別の位置に存在していてもかまいません。

関連する参照先

[\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\] パネル ページ 629](#)

[\[Create Alias \(別名の作成\)\] パネル ページ 533](#)

索引の作成

新規索引を作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **I** を入力します。
2. コマンド行で **C** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Index (索引の作成)」パネルが表示されます。

「Create Index (索引の作成)」パネルでは、既存の基本表の索引を作成することができます。

このパネルの上部セクションには、作成する索引を定義する 5 つの入力フィールドが含まれています。Db2® オブジェクト機能パネルでオブジェクト名情報を入力している場合には、それらの値が転送されて、該当する「Name (名前)」フィールドは事前に入力されています。

このパネルの下部には、索引の定義を完了するために必須指定のオプションのリストが含まれています。必須指定のオプションの番号を入力できる単一の選択項目フィールドがあります。

最初のオプションは必須です (索引の列数を定義します)。通常、3 番目のオプションは必須です (索引のスペース要件を定義します)。

索引が完全に指定されたら、オプション 7 を選択して索引を作成します。

関連するタスク

[索引タイプ \(索引の作成\) ページ 244](#)

[索引列の選択 \(索引の作成\) ページ 244](#)

[割り振り \(索引の作成\) ページ 244](#)

[索引 \(索引の作成\) ページ 244](#)

[索引区画 \(索引の作成\) ページ 244](#)

[区画値オプション \(索引の作成\) ページ 245](#)

関連する参照先

[\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\] パネル ページ 629](#)

[\[Create Index \(索引作成\)\] パネル ページ 549](#)

[\[Create Index \(索引の作成\): Type \(タイプ\)\] パネル ページ 558](#)

[\[Create Index \(索引の作成\): Column Selection \(列選択\)\] パネル ページ 552](#)

[\[Create Index \(索引の作成\): Allocation \(割り振り\)\] パネル ページ 551](#)

[\[Create Index \(索引の作成\): Options \(オプション\)\] パネル ページ 553](#)

[\[Create Index \(索引の作成\): Partitions \(パーティション\)\] パネル ページ 555](#)

[\[Create Index \(索引の作成\): Partition Values \(区画値\)\] パネル ページ 556](#)

索引タイプ (索引の作成)

入力フィールドの最初のグループによって、固有情報および索引のタイプを入力することができます。

関連する参照先

[\[Create Index \(索引の作成\): Type \(タイプ\)\] パネル ページ 558](#)

索引列の選択 (索引の作成)

このパネルでは、索引を構成する列を選択します。



注:

「S」を使用して列を選択するたびに、それまでに使用された最大順序より 1 だけ大きい順序が割り当てられます。

現在最大順序番号が入っている列が選択解除されると、最大順序番号が減らされます (その他の場合には、変更されません)。

上記の点により、ユーザーが任意の数を入力できるので、順序にギャップができてしまうことがありますが、SQL の作成時にはそのギャップは無視されます。

関連する参照先

[\[Create Index \(索引の作成\): Column Selection \(列選択\)\] パネル ページ 552](#)

割り振り (索引の作成)

このパネルでは、作成する索引のスペース要件を指定します。

関連する参照先

[\[Create Index \(索引の作成\): Allocation \(割り振り\)\] パネル ページ 551](#)

索引 (索引の作成)

このパネルでは、各種の YES/NO およびデータ共用オプションを指定します。ほとんどの場合には、デフォルト値で十分です。

関連する参照先

[\[Create Index \(索引の作成\): Options \(オプション\)\] パネル ページ 553](#)

索引区画 (索引の作成)

このパネルでは、索引区画のスペース情報を指定します。

関連する参照先

[\[Create Index \(索引の作成\): Partitions \(パーティション\)\]](#) パネル ページ 555

区画値オプション (索引の作成)

このパネルでは、各区画の索引入力のにきい値を指定します。

関連する参照先

[\[Create Index \(索引の作成\): Partition Values \(区画値\)\]](#) パネル ページ 556

同義語の作成

新規シノニムを作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **7** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Synonym (同義語の作成)」パネルが表示されます。

同義語とは、表またはビューの代替名です。これは、非修飾 ID として使用され、その同義語を所有する SQLID に固有なものです。

詳しくは、『Db2 UDB for z/OS SQL 解説書』を参照してください。

関連する参照先

[\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\]](#) パネル ページ 629

[\[Create Synonym \(同義語作成\)\]](#) パネル ページ 566

特殊タイプの作成

新規特殊タイプを作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **8** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Distinct Type (特殊タイプの作成)」パネルが表示されます。

関連する参照先

[\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\]](#) パネル ページ 629

[\[Create Distinct Type \(特殊タイプの作成\)\]](#) パネル ページ 537

関数の作成

新規関数を作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **9** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「**Create Function (関数の作成)**」パネルが表示されます。

このパネルでは、外部のスカラー関数を作成します。

関連するタスク

- [パラメーター \(関数の作成\) ページ 246](#)
- [パラメーター・タイプ \(関数の作成\) ページ 246](#)
- [戻りデータ・タイプ \(関数の作成\) ページ 246](#)
- [オプション・リスト 1/2 \(関数の作成\) ページ 247](#)
- [オプション・リスト 2/2 \(関数の作成\) ページ 247](#)

関連する参照先

- [\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\] パネル ページ 629](#)
- [\[Create Function \(関数の作成\)\] パネル ページ 542](#)
- [\[Create Function \(関数の作成\): Parameters \(パラメーター\)\] パネル ページ 545](#)
- [\[Create Function \(関数の作成\): Parameter Types \(パラメーター・タイプ\)\] パネル ページ 543](#)
- [\[Create Function \(関数の作成\): Returned Data Type \(戻りデータ・タイプ\)\] パネル ページ 546](#)
- [\[Create Function \(関数の作成\): Option List \(1/2\) \(オプション・リスト \(1/2\)\)\] パネル ページ 539](#)
- [\[Create Function \(関数の作成\): Option List \(2/2\) \(オプション・リスト \(2/2\)\)\] パネル ページ 540](#)

パラメーター (関数の作成)

このパネルでは、関数のパラメーターを定義して、任意に名前を指定することができます。

関連する参照先

- [\[Create Function \(関数の作成\): Parameters \(パラメーター\)\] パネル ページ 545](#)

パラメーター・タイプ (関数の作成)

このパネルでは、関数パラメーターの追加のタイプ情報を指定します。

関連する参照先

- [\[Create Function \(関数の作成\): Parameter Types \(パラメーター・タイプ\)\] パネル ページ 543](#)

戻りデータ・タイプ (関数の作成)

このパネルでは、関数によって戻されるデータ・タイプを指定します。

関連する参照先

[\[Create Function \(関数の作成\): Returned Data Type \(戻りデータ・タイプ\)\] パネル ページ 546](#)

オプション・リスト 1/2 (関数の作成)

このパネルでは、各種のオプションを指定して関数を詳細に定義します。

関連する参照先

[\[Create Function \(関数の作成\): Option List \(1/2\) \(オプション・リスト \(1/2\)\)\] パネル ページ 539](#)

オプション・リスト 2/2 (関数の作成)

このパネルでは、追加のオプションを指定できます。

関連する参照先

[\[Create Function \(関数の作成\): Option List \(2/2\) \(オプション・リスト \(2/2\)\)\] パネル ページ 540](#)

プロシージャの作成

新規プロシージャを作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **10** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Procedure (プロシージャの作成)」パネルが表示されます。

関連するタスク

[プロシージャ・パラメーター \(プロシージャの作成\) ページ 247](#)

[パラメーター・タイプ \(プロシージャの作成\) ページ 248](#)

[オプション・リスト 1/2 \(プロシージャの作成\) ページ 248](#)

[オプション・リスト 2/2 \(プロシージャの作成\) ページ 248](#)

関連する参照先

[\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\] パネル ページ 629](#)

[\[Create Procedure \(プロシージャの作成\)\] パネル ページ 559](#)

[\[Create Procedure \(プロシージャの作成\): Parameters \(パラメーター\)\] パネル ページ 565](#)

[\[Create Procedure \(プロシージャの作成\): Parameter Types \(パラメーター・タイプ\)\] パネル ページ 563](#)

[\[Create Procedure \(プロシージャの作成\): Option List \(1/2\) \(オプション・リスト \(1/2\)\)\] パネル ページ 561](#)

[\[Create Procedure \(プロシージャの作成\): Option List \(2/2\) \(オプション・リスト \(2/2\)\)\] パネル ページ 562](#)

プロシージャ・パラメーター (プロシージャの作成)

このパネルは「Create Function (関数の作成): Parameters (パラメーター)」パネルが表示されます。

関連する参照先

[「Create Procedure \(プロシージャの作成\): Parameters \(パラメーター\)」](#) パネル ページ 565

[「Create Function \(関数の作成\): Parameters \(パラメーター\)」](#) パネル ページ 545

パラメーター・タイプ (プロシージャの作成)

このパネルは「Create Function (関数の作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネル

関連する参照先

[「Create Procedure \(プロシージャの作成\): Parameter Types \(パラメーター・タイプ\)」](#) パネル ページ 563

[「Create Function \(関数の作成\): Parameter Types \(パラメーター・タイプ\)」](#) パネル ページ 543

オプション・リスト 1/2 (プロシージャの作成)

このパネルでは、各種のオプションを指定してプロシージャを詳細に定義することができます。

関連する参照先

[「Create Procedure \(プロシージャの作成\): Option List \(1/2\) \(オプション・リスト \(1/2\)\)」](#) パネル ページ 561

オプション・リスト 2/2 (プロシージャの作成)

このパネルでは、追加のオプションを指定できます。

関連する参照先

[「Create Procedure \(プロシージャの作成\): Option List \(2/2\) \(オプション・リスト \(2/2\)\)」](#) パネル ページ 562

トリガーの作成

新規トリガーを作成するには、「Db2®Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **11** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「Create Trigger (トリガーの作成)」パネルが表示されます。

関連するタスク

[詳細 \(トリガーの作成\) ページ 249](#)

[検索条件 \(トリガーの作成\) ページ 249](#)

[SQL ステートメント \(トリガーの作成\) ページ 249](#)

関連する参照先

[「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」](#) パネル ページ 629

[「Create Trigger \(トリガーの作成\)」](#) パネル ページ 603

[「Create Trigger \(トリガーの作成\): Details \(詳細\)」](#) パネル ページ 604

[\[Create Trigger \(トリガーの作成\): Search Condition \(検索条件\)\]](#) パネル ページ 606

[\[Create Trigger \(トリガーの作成\): SQL statement \(SQL ステートメント\)\]](#) パネル ページ 607

詳細 (トリガーの作成)

このパネルでは、トリガーの定義に必要な追加の詳細を指定することができます。

関連する参照先

[\[Create Trigger \(トリガーの作成\): Details \(詳細\)\]](#) パネル ページ 604

検索条件 (トリガーの作成)

このパネルでは、検索条件を指定します。トリガー SQL ステートメントが実行されるのは、検索条件が真と評価されるか、あるいは省略された場合だけです。

関連する参照先

[\[Create Trigger \(トリガーの作成\): Search Condition \(検索条件\)\]](#) パネル ページ 606

SQL ステートメント (トリガーの作成)

このパネルでは、トリガーが活動化されたときに実行される SQL を指定します。

関連する参照先

[\[Create Trigger \(トリガーの作成\): SQL statement \(SQL ステートメント\)\]](#) パネル ページ 607

補助表の作成

新規補助表を作成するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルで以下を実行します。

1. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに **12** を入力します。
2. コマンド行で **c** と入力します。
3. Enter キーを押します。FM/Db2 には、「**Create Auxiliary Table (補助表の作成)**」パネルが表示されます。

補助表は LOB サポートのために必要です。表に LOB 列が含まれている場合には、補助表が必要です。LOB 列が定義された場合には、その列のデータを保管するために補助表を定義する必要があります。また、その表が区画化された場合には、それぞれの区画の補助表も必要です。

関連する参照先

[\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\]](#) パネル ページ 629

[\[Create Auxiliary Table \(補助表の作成\)\]](#) パネル ページ 534

Db2® オブジェクトの除去

除去機能が使用可能なオブジェクト・タイプは [表 9: 各 Db2 オブジェクトでサポートされるアクション ページ 213](#) に示されています。

Db2® オブジェクトを除去するには、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルを使用して以下を実行します。

1. 除去したい Db2® オブジェクト・タイプに関連する番号 (1 から 11) を「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドに指定します。
2. 指定したオブジェクトを実際に除去する前に、FM/Db2 に「Drop Confirmation (除去確認)」パネルを表示させたい場合は、「**Confirm object drop (オブジェクトの除去確認)**」オプションにチェックを付けます。
3. コマンド行で **D** と入力します。
4. Enter を押します。FM/Db2 には、関係する「Drop (除去)」パネルが表示されます。
5. 除去したい Db2® オブジェクトの名前を指定して、Enter キーを押します。

「Confirm object drop (オブジェクトの除去確認)」オプションを選択している場合は、FM/Db2 に「**Drop Confirmation (除去確認)**」パネルが表示されます。除去を進めるには、Enter キーを押します。除去を取り消すには、「Cancel」機能キー (F12) または「Exit」機能キー (F3) を押します。

「**Confirm object drop (オブジェクトの除去確認)**」オプションを選択していなかった場合、FM/Db2 は指定されたオブジェクトを除去します。

除去操作が失敗すると、FM/Db2 にはエラー・メッセージが表示されます。「Help」機能キー (F1) を押すと、詳細な情報を見ることができます。

関連する参照先

[「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」パネル ページ 629](#)

[除去パネル ページ 646](#)

[「Drop Confirmation \(除去確認\)」パネル ページ 647](#)

第7章. Db2® 表へのデータの追加

FM/Db2 作成ユーティリティ (3.8) を使用して表にデータを追加できます。作成する行数とそれぞれの行の初期設定の方法を指定できます。テンプレートを編集することにより、充てん文字とパターンを使用してデータを初期化し、個々の列のデータ作成属性を変更できます。

列の初期化のために充てん文字またはパターン (あるいは、その両方が) が使用される場合、結果データは、その列に対して、Db2® によって課されるいずれのデータ・タイプの制約事項に対しても準拠している必要があります。

データ作成の処理中に、FM/Db2 は、データ作成ユーティリティでフォーマット済みの各行を、ターゲットの Db2® オブジェクトに挿入しようとします。固有性、参照整合性、またはその他の制約に違反している場合、挿入操作が Db2® に拒否される場合があります。

データ作成操作は、バックグラウンド (バッチ実行) またはフォアグラウンドで実行できます。

FM/Db2 作成ユーティリティのメインパネルは、「Data Create Utility (データ作成ユーティリティ)」パネルです。

「Data Create Utility (データ作成ユーティリティ)」パネルを表示するには、以下のようになります。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、3 (「Utilities (ユーティリティ)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルから、8 (「Create (作成)」) を入力します。

これで「Data Create Utility (データ作成ユーティリティ)」パネルが表示され、データを追加する表の名前、作成する行数、各行の初期設定方法を指定できます。

1. 「Specify the Db2® Object (オブジェクトの指定)」入力フィールドを使用して、データを追加する Db2® 表を識別します。
2. 「Create Count (作成カウント)」入力フィールドを使用して、作成する行数を指定します。
3. データ初期化の詳細を指定するために特定のテンプレートを使用している場合には (「Template usage (テンプレートの使用法)」のオプション 1 を参照)、テンプレート・データ・セットの名前を指定してください。
4. 「Processing Options (処理オプション)」を使用して、作成処理に使用するテンプレートを指定したり、作成処理の前にテンプレートを編集するかどうかを指定します。
5. Enter キーを押します。「Edit template (テンプレートの編集)」を選択すると、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルが表示されます。そうでない場合には、FM/Db2 が指定された Db2® 表にデータを作成します。

関連するタスク

[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)

[データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)

[テンプレートの編集 ページ 252](#)

関連する参照先

[\[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)\] パネル ページ 756](#)

[\[Utility Functions \(ユーティリティー機能\)\] パネル ページ 896](#)

[\[Data Create Utility \(データ作成ユーティリティー\)\] パネル ページ 610](#)

テンプレートの編集

作成パネルで、**「Edit template (テンプレートの編集)」** オプションを選択した場合、FM/Db2 は **「Column Selection/Edit (列選択/編集)」** パネルを表示します。

テンプレートを編集することによって指定した Db2® 表に列を追加するには、以下のようになります。

1. **「Column Selection/Edit (列選択/編集)」** パネルの最初の列に **Ⓜ** を入力します。FM/Db2 は、列のデータ・タイプによって、以下の 5 つの **「Column Attributes (列属性)」** パネルの内 1 つを表示します。
 - Alphanumeric (英数字) (CHAR、VARCHAR、GRAPHIC、および VARGRAPHIC データ・タイプの場合)
 - Numeric (数値) (DECIMAL または NUMERIC、SMALLINT、INTEGER、REAL および DOUBLE データ・タイプの場合)
 - DATE
 - TIME
 - TIMESTAMP
2. **「Column Attributes (列属性)」** パネルを使用して、列に対して作成属性を指定します。作成属性により、FM/Db2 でデータが作成された時に列に書き込む値が決定されます。

作成属性の入力方法については、関連する **「Column Attributes (列属性)」** パネルの説明を参照してください。

3. **「Exit」** 機能キー (F3) を押して、**「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」** パネルに戻ります。
4. データを追加する残りの列のそれぞれに対して、ステップ 1 から繰り返します。

関連する参照先

[Db2 データ型 ページ 452](#)

[\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(英数字\) ページ 492](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(数値\) ページ 498](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(DATE\) ページ 497](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(TIME\) ページ 502](#)

[\[Column Attributes \(列属性\)\] パネル \(TIMESTAMP\) ページ 503](#)

第 8 章. データのコピー

FM/Db2 では、ある場所から別の場所にデータをコピーするために、以下のようなユーティリティを提供しています。

コピー・ユーティリティ (3.3)

ある Db2® オブジェクトから (同じ Db2® サブシステム内からアクセス可能な) 別の Db2® オブジェクトにデータをコピーします。

インポート・ユーティリティ (3.6)

VSAM または QSAM ファイルから Db2® 表またはビューにデータをコピーします。

エクスポート・ユーティリティ (3.7)

Db2® 表またはビューから VSAM または QSAM ファイルにデータをコピーします。

関連するタスク

[ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

[操作方法 ページ 302](#)

ある Db2® オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー

Db2® 表相互間でデータをコピーするには、コピー・ユーティリティ機能 (3.3) を使用します。



注:

1. データを QSAM または VSAM データ・セットから Db2® 表またはビューへコピーするには、インポート・ユーティリティ機能 (3.6) を使用します。
2. データを Db2® 表またはビューから QSAM または VSAM データ・セットにコピーするには、エクスポート・ユーティリティ機能 (3.7) を使用します。

ある Db2® オブジェクトから別のオブジェクトへデータをコピーする場合、以下のことが可能です。

- コピーする行を選択する
- 入力表内の列を出力表内のさまざまな列にマップして、コピー中にデータを再形式設定する
- ユーザー指定の値またはパターンを使って新しい列を初期化する
- コピーする行数を制限する

コピー・ユーティリティのメインパネルは、「Copy Utility "From" (コピー・ユーティリティの「元」)」パネルです。

「Copy Utility "From" (コピー・ユーティリティの「元」)」パネルを表示するには、以下のようになります。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、3 (「Utilities (ユーティリティー)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルから、3 (「Copy (コピー)」) を入力します。

これで、以下についての詳細を指定できます。

- ソース表 (データのコピー元)。このステップの間にソース・テンプレートを編集して、コピーするデータを制限することもできます (適用できる場合)。
- ターゲット表 (データのコピー先)。このステップの間に、コピー・オプションの変更、ターゲット表のテンプレート・マッピングの編集、およびコピーをバッチ・ジョブで実行するかどうかの指定を行うこともできます。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

[「From \(元\)」表の詳細の指定 ページ 254](#)

[「To \(宛先\)」表の詳細の指定 ページ 257](#)

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)

[「Copy Utility \("From"\) \(コピー・ユーティリティーの「元」\)」パネル ページ 518](#)

「From (元)」表の詳細の指定

「Copy Utility "From" (コピー・ユーティリティーの「元」)」パネルでソース ("From (元)") 表の名前を指定します。指定した表が存在していないと、FM/Db2 はエラー・メッセージを出して、ユーティリティーを停止します。

"From (元)" 表のすべての行をコピーする必要がない場合には、コピーする行数 (1 から 99999999) を「Copy Count (コピー数)」に指定してください。

"From (元)" 表に対して特定のテンプレートを使用している場合には (「Template usage (テンプレートの使用法)」のオプション 1 および 4 を参照)、テンプレート・データ・セットの名前とメンバー名 (任意指定) を「From Template (元テンプレート)」のそれぞれの入力フィールドに指定してください。

「Processing Options (処理オプション)」は、"From (元)" 表に対してどのテンプレートを使用するか、またコピー処理に先だってテンプレートを編集するかどうかを指定します。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Copy Utility (コピー・ユーティリティー)」パネルの「Template usage (テンプレート使用法)」には、次の 4 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「**From Template (元テンプレート)**」セクションにテンプレート・データ・セットの名前(およびオプションのメンバー名)を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーが指定されていると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が継続されます(詳細については、「Template usage (テンプレートの使用法)」のオプション 3 を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の(直前に使用した)テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「**From Template (元テンプレート)**」セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「**From Template (元テンプレート)**」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit template (テンプレートの編集)

「Copy Utility “To” (コピー・ユーティリティの「宛先」)」パネルに進む前に「From (元)」表のテンプレートを編集するのに使用します。

Copy “From” values to “To” panel (「元」の値の「宛先」パネルへのコピー)

「From (元)」のパネルに入力された値(Db2® オブジェクトの「Location (ロケーション)」、「Owner (所有者)」、「Name (名前)」、およびテンプレートの「Data set name (データ・セット名)」、「Member (メンバー)」を、「To (宛先)」パネルの対応フィールドにコピーするのに使用します。

次に進むには、Enter キーを押してください。

Edit template (テンプレートの編集) を (「/」を使用するか、あるいは以前にこのオプションに「A」選択文字を使用するかのいずれかによって) 選択した場合は、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルが表示されます。そうでない場合には、「Copy Utility “To” (コピー・ユーティリティの「宛先」)」パネルが表示されます。

関連するタスク

[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)

[FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

[「From \(元\)」表のテンプレートの編集 ページ 256](#)

[「To \(宛先\)」表の詳細の指定 ページ 257](#)

関連する参照先

[「Copy Utility \("From"\) \(コピー・ユーティリティーの「元」\)」パネル ページ 518](#)

[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

[「Copy Utility \("To"\) \(コピー・ユーティリティーの「宛先」\)」パネル ページ 526](#)

「From (元)」表のテンプレートの編集

「Copy Utility “From”(コピー・ユーティリティーの「元」)」パネルで、「Edit template (テンプレートの編集)」オプションを選択していると、FM/Db2 は「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルを表示します (図 59: 基本「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 256)。このパネルを使用し、次のようにして、“From (元)”表のコピーするデータを制限することができます。

- コピーする特定の列を選択 (または選択解除) する。
- *row selection criteria* (行選択基準) を指定する。内容がこの基準を満たしている行だけが選択されコピーされます。

例えば、図 59: 基本「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 256 に示されているテンプレートは、一定の列と、一定の基準を満たす内容を持つ行のみとを選択するように編集されたものです。このテンプレートをコピー “元” テンプレートとして使用すると、WORKDEPT が “MNT” で、JOB が “PAINTER” の列だけがコピーされます。

図 59. 基本「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Column Selection/Edit                Line 1 of 16
TABLE FMNUSER.EMP
----- Row Selection Criteria ----- (Use SQL/PF4 for full screen edit) -----
1 Sel: WHERE WORKDEPT = 'MNT' AND JOB = 'PAINTER'
-----+
Cmd Seq SHEX CL# Column name      Data type(length)  Null Default  Order A/D
-----
      S      1 EMPNO                CHARACTER(6)       None         ___ -
      S      2 FIRSTNME            VARCHAR(12)        None         ___ -
      S      3 MIDINIT             CHARACTER(1)       None         ___ -
      S      4 LASTNAME            VARCHAR(15)        None         ___ -
      S      5 WORKDEPT             CHARACTER(3)       Y  Null       ___ -
      S      6 PHONENO             CHARACTER(4)       Y  Null       ___ -
      S      7 HIREDATE            DATE               Y  Null       ___ -
      S      8 JOB                 CHARACTER(8)       Y  Null       ___ -
      S      9 EDLEVEL             SMALLINT           Y  Null       ___ -
      S     10 SEX              CHARACTER(1)       Y  Null       ___ -
      S     11 BIRTHDATE        DATE               Y  Null       ___ -
      S     12 SALARY          DECIMAL(9,2)      Y  Null       ___ -
Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=SQL      F5=RFind    F6=RunTemp
F7=Up        F8=Down    F9=Swap     F10=Left   F11=Right   F12=Cancel
-----

```

関連するタスク

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

関連する参照先

[\[Copy Utility \("From"\) \(コピー・ユーティリティの「元」\)\] パネル ページ 518](#)

[\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

[\[Copy Utility \("To"\) \(コピー・ユーティリティの「宛先」\)\] パネル ページ 526](#)

「To (宛先)」表の詳細の指定

[Copy Utility "To" (コピー・ユーティリティの「宛先」)] パネルでターゲット (宛先) 表の名前を指定します。

宛先表に対して特定のテンプレートを使用する場合には、テンプレート・データ・セットの名前とメンバー名 (任意指定) を「**To Template (宛先テンプレート)**」のそれぞれの入力フィールドに指定します。

「**Processing Options (処理オプション)**」は、宛先表に対してどのテンプレートを使用するか、またコピー処理の前にテンプレートを編集するかどうかを指定します。

Template usage (テンプレートの使用法)

[Copy Utility (コピー・ユーティリティ)] パネルの「Template usage (テンプレート使用法)」には、次の 4 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「**To Template (宛先テンプレート)**」セクションにテンプレート・データ・セットの名前 (およびオプションのメンバー名) を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーが指定されていると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が継続されます (詳細については、「Template usage (テンプレートの使用法)」のオプション 3 を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「**Template (テンプレート)**」セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「**To Template (宛先テンプレート)**」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit copy options (コピー・オプションの編集)

データをコピーする前にコピー・オプションを編集するのに使用します。

Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)

データをコピーする前に“宛先”表のテンプレート・マッピングを編集するのに使用します。

Batch execution (バッチ実行)

コピー・ユーティリティーをバッチ・ジョブで実行するために必要な JCL を作成します。

次に進むには、Enter キーを押してください。

「Edit Copy options (コピー・オプションの編集)」を ([/] を選択するか、前にこのオプションに“A”選択文字を使用しているかのいずれかによって) 選択した場合は、編集用の「Copy Options (コピー・オプション)」パネルが表示されます。

「Edit template mapping (TEMPLATE MAPPING 編集)」を ([/] を使用するか、または前にこのオプションに“A”選択文字を使用しているかのいずれかによって) 選択した場合には、編集用の「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルが表示されます。

「Batch execution (バッチ実行)」を ([/] を使用するか、このオプションに対して前に“A”選択文字を使用しているかのいずれかによって) 選択した場合には、生成された JCL が ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。

上記のオプションをいずれも選択しなかった場合には、FM/Db2 は“元”表から“宛先”表にデータをコピーします。

現行のコピー・セッションのオプションの設定

「Copy “To”(コピー「宛先」)」パネルで、「Edit copy options (コピー・オプションの編集)」を選択すると、FM/Db2 は、「Copy Options (コピー・オプション)」パネルを表示します。

「Copy Option (コピー・オプション)」パネルを使用すると、現行のコピー・セッションを変更できます。



注: 「Copy Option (コピー・オプション)」パネルで設定したオプションは、現行のコピー・セッションにのみ適用されます。現行のコピー・セッションを終了すると、このコピー・オプションはグローバル・コピー・オプションに戻ります。

関連する参照先

[「Copy Options \(コピー・オプション\)」パネル ページ 515](#)

バッチでの「コピー」の実行

大容量の Db2® 表をコピーする場合は、バッチ・ジョブでコピーできます。

「Copy Utility “From”(コピー・ユーティリティーの「元」)」パネルで「Batch execution (バッチ実行)」オプションを選択すると、バッチ・ジョブでコピー機能を実行するのに必要な JCL がコピー・ユーティリティーによって作成されます。生成された JCL は ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。

関連するタスク

- [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)
- [FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)
- [現行のコピー・セッションのオプションの設定 ページ 258](#)
- [データの マッピング ページ 112](#)
- [バッチでの「コピー」の実行 ページ 258](#)

関連する参照先

- [「Copy Utility \("To"\) \(コピー・ユーティリティーの「宛先」\)」 パネル ページ 526](#)
- [「Copy Utility \("From"\) \(コピー・ユーティリティーの「元」\)」 パネル ページ 518](#)
- [「Copy Options \(コピー・オプション\)」 パネル ページ 515](#)
- [Copy utility options \(option 3.3\) \(コピー・ユーティリティー・オプション \(オプション 3.3\)\) ページ 69](#)

VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー

データを QSAM または VSAM データ・セットから Db2® 表またはビューへコピーするには、インポート・ユーティリティー機能 (3.6) を使用します。



1. Db2® 表相互間でデータをコピーするには、コピー・ユーティリティー機能 (3.3) を使用します。
2. データを Db2® 表またはビューから QSAM または VSAM データ・セットにコピーするには、エクスポート・ユーティリティー機能 (3.7) を使用します。

「インポート」ユーティリティー機能の入力は、以下のものによって作成された QSAM または VSAM データ・セットです。

- 「FM/Db2 エクスポート」ユーティリティー
- 任意の外部ソース

入力 QSAM または VSAM データ・セット内のデータのレコード・フォーマットを記述するコピーブックまたはテンプレートを指定する必要があります。コピーブックを指定した場合には、FM/Db2 がそれをコンパイルしてテンプレートを作成します。

データを QSAM または VSAM データ・セットから Db2® 表またはビューへコピーするときは、以下のことができます。

- インポート中に、Db2® 表の列を入力 QSAM または VSAM データ・セットのフィールドに (コピーブックまたはテンプレートで定義されたとおりに) マップすることによって、データを再形式設定する。
- REXX プロシージャを使用して、データを選択およびインポートの方法を拡張する。
- インポートする行数、およびインポート・ファイル内の開始レコードを指定する。
- インポートをフォアグラウンドで実行するか、またはバッチで実行するかを指定する。
- すべての重複行をインポートされた行の値で更新することを指定する。
- FM/Db2 がインポート・プロセス時に Db2® の変更をコミットする頻度を指定する。

インポート・ユーティリティーのメインパネルは、「Import Utility (インポート・ユーティリティー)」パネルの「From (元)」のパネルです。

「Copy Utility "From" (コピー・ユーティリティーの「元」)」パネルを表示するには、以下のようにします。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、3 (「Utilities (ユーティリティー)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルから、6 (「Import (インポート)」) を入力します。

これで、以下についての詳細を指定できます。

- ソース QSAM または VSAM データ・セット (データのコピー元)。このステップの間にソース・テンプレートを編集して、コピーするデータを制限することもできます (適用できる場合)。
- ターゲット表 (データのコピー先)。このステップの間に、以下のことを行うこともできます。
 - ターゲット表のテンプレート・マッピングを編集する
 - コピーをバッチ・ジョブで実行するかどうかを指定する
 - オプションで、REXX プロシージャの名前を指定して、データの選択方法をさらに拡張する

インポート・ユーティリティーを使用すべき場合と使用すべきでない場合

インポート・ユーティリティーには、Db2® データを別の Db2® サブシステム間で移動する (つまり、一方のサブシステムからデータをエクスポートして、もう一方のサブシステムにインポートする) 方法があります。同じ Db2® サブシステムの表間でデータを移動する場合には、コピー・ユーティリティーを使用するか、直接 SQL ステートメントを実行した方が通常は便利です。

通常、インポート・ユーティリティーは、ボリュームが中程度以下のデータを Db2® 表に挿入するのに適しています。インポート操作は、インポートするデータ・セットで選択した各レコードをターゲット表に挿入して行い、更新操作は、更新ステートメントを作成することによって行います。

挿入操作および更新操作は、すべて Db2® によってログに記録されますが、ログに記録することによって操作およびパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。インポート・ユーティリティーは、大容量のデータをアンロードしたり移行したりする場合に、Db2® ユーティリティーの代わりとして使用するようにはなっていませんが、こうした場合には Db2® ユーティリティーでは優れたパフォーマンスを提供します。可能な場合には、インポート操作をバッチで実行してください。

インポート・ユーティリティーには、Db2® ヌル標識の自動マッピングがあり、オプションで以下の形式のいずれかを、使用テンプレートに対応させて指定できます。

FM/Db2 (SQLDA) 形式

Db2® アンロード形式

DSNTIAUL format (DSNTIAUL 形式)

ユーザー定義形式 (「Placement (配置)」)、「User defined (ユーザー定義)」は除外)

ただし、テンプレート・エディターでは、「Field Mapping (フィールドのマッピング)」パネルの「From (元)」テンプレートの別個の項目としてヌル標識を表示しません。よって、ターゲット表の列にヌル可能列に関連付けられているヌル標識を再マップすることはできません。

関連するタスク

- コンパイラ言語の選択 (オプション 0.4) ページ 66
- 「From (元)」データ・セットの詳細の指定 ページ 261
- 「To (宛先)」表の詳細の指定 ページ 263
- インポート・ユーティリティーでの REXX プロシージャの使用 ページ 265

関連する参照先

- 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル ページ 756
- 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネル ページ 896
- 「Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティーの「元」)」パネル ページ 718
- 「Import Utility ("To") (インポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル ページ 720

「From (元)」データ・セットの詳細の指定

「Import Utility "From" (インポート・ユーティリティーの「元」)」パネルでソース ("From (元)") データ・セットの名前を指定します。「Data set name (データ・セット名)」、「Member (メンバー)」、および「Volume (ボリューム)」入力フィールドの組み合わせを使用して、インポートするデータが入っている順次データ・セット、VSAM データ・セット、または PDS メンバーを指定します。

入力データ・セットからインポートするレコードの数を制限する場合には、インポートするレコード数 (1 ~ 99999999) を「Import Count (インポート・カウント)」に指定します。

“元”データ・セットに対して特定のテンプレートを使用する場合には (「Template usage (テンプレートの使用法)」のオプション 1 を参照)、テンプレート・データ・セットの名前とメンバー名 (オプション) を、「From Copybook or Template (元コピーブックまたはテンプレート)」の入力フィールドに指定します。

「Import Utility (インポート・ユーティリティー)」の「From (元)」のパネルにある「Processing Options (処理オプション)」では、テンプレートの使用法と、インポート処理の前にテンプレートを編集するかどうかを指定します。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Import Utility (インポート・ユーティリティー)」の “From (元)” のパネルでは、テンプレート処理について次の 2 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「From Copybook or Template (元コピーブックまたはテンプレート)」セクションにコピーブックまたはテンプレートの名前を入力する必要があります。コピーブックまたはテンプレートを指定すると、前に使用したテンプレートの代わりに、このテンプレートを使用して処理が続行されます (「Template usage (テンプレート使用法)」のオプション 2 を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

このデータ・セットの最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力して選択することができます。

Edit template (テンプレートの編集)

「Import Utility “To”(インポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネルに進む前に、「From (元)」データ・セットのテンプレートを編集するのに使用します。

次に進むには、Enter キーを押してください。

Edit template (テンプレートの編集) を (「/」を使用するか、あるいは以前にこのオプションに “A” 選択文字を使用したか、のいずれかによって) 選択した場合には、「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネルが表示されます。

そうでない場合は、「Import Utility “To”(インポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネルが表示されます。

関連するタスク

[データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)

[FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

[「From \(元\)」データ・セットのテンプレートの編集 ページ 262](#)

[「To \(宛先\)」表の詳細の指定 ページ 263](#)

関連する参照先

[「Import Utility \(“From”\)\(インポート・ユーティリティーの「元」\)」パネル ページ 718](#)

[「Import Utility \(“To”\)\(インポート・ユーティリティーの「宛先」\)」パネル ページ 720](#)

「From (元)」データ・セットのテンプレートの編集

「Import Utility (インポート・ユーティリティー)」の “元” のパネルで、「**Edit template (テンプレートの編集)**」オプションを選択すると、FM/Db2 は「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネルを表示します (図 60: 「From (元)」データ・セットの「Import Utility (インポート・ユーティリティー)」: 「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネル ページ 263 を参照)。

Record Selection Criteria (レコード選択基準) を指定することによって、どのレコードを処理するかを絞り込むことができます。その基準を満たす内容のレコードだけが選択されます。レコード選択基準は REXX 比較式を使用して指定します。



注: レコード選択基準はフィールド・マッピングまたはデータ変換の実行前に入力データに適用されますが、REXX インポート・プロシージャはフィールド・マッピングまたはデータ変換の実行後に適用されます。

例えば、図 60: 「From (元)」データ・セットの「Import Utility (インポート・ユーティリティー)」: 「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネル ページ 263 に示されているテンプレートは、一定の基準を満たすレコードのみを選択す

るように編集されたものです。このテンプレートをインポート・ユーティリティの「元」テンプレートとして使用すると、インポートされるデータは、SALARYに50 000より大きい値が含まれるレコードだけに制限されます。

図 60. 「From (元)」データ・セットの「Import Utility (インポート・ユーティリティ)」: 「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
File Manager          Field Selection/Edit          Line 1 of 10
-----
Criteria - Enter 1 or 2 to specify expression by field -----
1 Id : _____ +
2 Sel: #6 > 50000 _____ +
Offset 5
Cmd Seq SHE Ref Field Name          Picture  Type Start Length
-----
      S   1 1 REC-TYPE01          **** Top of data ****
      S   2 2 REC-TYPE          XX      AN      6      2
      S   3 2 NAME          X(20)   AN      8      20
      S   4 2 EMPLOYEE-NO      9(4)    BI      28     2
      S   5 2 AGE          9(4)    BI      30     2
      S   6 2 SALARY          9(7)    PD      32     4
      S   7 2 MONTH OCCURS 12 TIMES 9(8)    BI      36     4
      S   8 2 FILLER          XX      AN      84     2
      **** End of data ****
-----
Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Expand   F5=RFind    F6=RunTemp
F7=Up        F8=Down     F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel
Scroll HALF

```

Enter キーを押すと、FM/Db2 は更新されたテンプレートを保存し、「Import Utility (インポート・ユーティリティ)」の「From (元)」のパネルに戻します。



注: レコード選択基準の詳細については、File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス を参照してください。

関連するタスク

[REXX についての一般情報 ページ 266](#)

関連する参照先

[「Import Utility \("From"\) \(インポート・ユーティリティの「元」\)」パネル ページ 718](#)

[「Field Selection/Edit \(フィールド選択/編集\)」パネル ページ 706](#)

「To (宛先)」表の詳細の指定

「Import Utility "To" (インポート・ユーティリティの「宛先」)」パネルで、入力データのインポート先の表名を指定します。指定した表が存在していないと、FM/Db2 はエラー・メッセージを出します。

“To (宛先)”表に対して特定のテンプレートを使用する場合には (「[Template usage \(テンプレートの使用法\)](#)」のオプション 1 と 4 を参照)、そのテンプレートの名前を「**To Template (宛先テンプレート)**」の入力フィールドに指定します。

QSAM または VSAM データ・セットからデータをインポートする前にターゲット表内のすべての行を削除するには、「**Delete existing rows (既存の行の削除)**」オプションを選択します。

インポート対象データが既存の行と「重複」している場合に、FM/Db2 に指定したインスタンスの処理方法に応じて、**「Duplicate row options (重複行オプション)」**を設定します。つまり、データに対する変更点のみが、どの固有な索引キーの一部にもなっていない列にあります。

- 重複行を無視するには、**「1. Ignore (1. 無視)」**を選択します。

FM/Db2 が削除する重複はどれも更新されず、FM/Db2 は、**「For ... duplicates (重複が ... の場合)」**フィールド内に値があっても無視します。

- 重複行を更新するには、**「2. Update (2. 更新)」**を選択します。

FM/Db2 が重複行を更新します。重複の数が**「For ... duplicates (重複が ... の場合)」**フィールドで指定した値を超えた場合、FM/Db2 はインポート操作を終了して、すべての変更をロールバックします。

次に進むには、Enter キーを押してください。

([/] を使用するか、あるいは以前にこのオプションに “A” 選択文字を使用したかのいずれかによって) **「Edit template mapping (TEMPLATE MAPPING 編集)」**を選択した場合は、FM/Db2 がデータをインポートする前に、**「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」**パネルが編集のために表示されます。

「Batch execution (バッチ実行)」を ([/] を使用するか、このオプションに対して前に “A” 選択文字を使用しているかのいずれかによって) 選択した場合には、生成された JCL が ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。

そうでない場合は、FM/Db2 は “From (元)” データ・セットから “To (宛先)” Db2® 表にデータをインポートします。

関連するタスク

[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)

[データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)

[データのマッピング ページ 112](#)

[インポートのバッチ実行 ページ 264](#)

関連する参照先

[「Import Utility \(“To”\) \(インポート・ユーティリティの「宛先」\)」パネル ページ 720](#)

[「Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)」パネル ページ 881](#)

インポートのバッチ実行

大容量の Db2® 表をインポートする場合は、バッチ・ジョブでインポートすることができます。

「Import Utility “To” (インポート・ユーティリティの「宛先」)」パネルで **「Batch execution (バッチ実行)」** オプションを選択すると、バッチ・ジョブでインポート機能を実行するのに必要な JCL がインポート・ユーティリティによって作成されます。生成された JCL は ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。

入力データのレコード構造を説明したテンプレートを含むデータ・セットを1つ以上持っている場合、データ・セットの詳細(または TSO ALLOC ステートメント)を生成した JCL にキーワード TINPUT または TCIN を使用して指定できます。

同様に、出力データのレコード構造を説明したテンプレートを含むデータ・セットを1つ以上持っている場合、データ・セットの詳細(または TSO ALLOC ステートメント)を生成した JCL にキーワード TOUTPUT または TCOUT を使用して指定できます。

関連する参照先

[DBI \(インポート\) バッチ・コマンド ページ 1003](#)

[\[Import Utility \("To"\) \(インポート・ユーティリティの「宛先」\)\] パネル ページ 720](#)

インポート・ユーティリティでの REXX プロシージャの使用

既存の REXX プロシージャを指定するか、または新規のプロシージャを作成して、データを選択またはインポートする方法をさらに拡張することができます。

任意の数の REXX ステートメントおよび関数をコーディングして、出力レコードの操作、特定レコードの選択、報告書の印刷、および数値の計算を行うことができます。REXX プロシージャをコーディングする場合は、以下の点に注意する必要があります。

- インポート・プロシージャは、入力テンプレート・レコードの選択が行われた後で実行されます。インポート・プロシージャにより、RETURN DROP を使用してコピーを行うために、(レコードがあった場合に、テンプレート選択プロセスで選択された)レコードが選択解除されることがあります。
- インポート・プロシージャは、テンプレートによって指定されたフィールド・マッピングまたは変換がすべて完了した後に実行されます。
- テンプレート処理の結果としてレコードが再形式設定された場合には、変数 INREC には入力レコード値が含まれ、変数 OUTREC には再形式設定された出力レコードが含まれます。
- インポート・プロシージャによって INREC に対して行われた変更は無視されます。OUTREC に対する変更は、Db2® 表をロードするためにインポート・プロセスで使用されます。
- PRINT() 関数を使用する場合は、テンプレートは以下のように決定されます。
 - 出力テンプレートのない入力テンプレートが指定されていると、入力テンプレートが使用されます。
 - 出力テンプレートが指定され、印刷のために指定されたレコード値が入力レコードであると、入力テンプレートが使用されます。そうでない場合は、出力テンプレートが使用されます。
 - 選択した印刷テンプレートと一致させることができないレコードがあると、そのレコードは印刷されません。

例 1

レコードをインポートし、40 桁目の後に、長さ 4 の新規フィールドを挿入します。

```
outrec = fld(1,40)||'   '||fld(41)
```

例 2

タイプ A のレコードをインポートし、最初の 10 個を印刷します。タイプ値は、6 桁目にあります。

```

if fld(6,1) = 'A' then do                /* Type A? */
  If prtcount() <= 10 then print(inrec,'CHAR') /* Print 10 */
  RETURN                                  /* Copy */
end
return 'DROP'                            /* Drop the rest */

```

例 3

インポートの際に、出力レコードを英大文字に変更します。

```
upper outrec
```

関連するタスク

[「To \(宛先\)」表の詳細の指定 ページ 263](#)

[REXX プロシージャーを使用したインポート・ユーティリティの拡張 ページ 276](#)

REXX についての一般情報

REXX とは、REstructured eXtended eXecutor (再構造化拡張実行プログラム) 言語のことです。REXX は、PL/I に類似した汎用プログラミング言語です。文字操作のための広範な構文解析機能、広範な算術機能、および、さまざまな処理、検索、および比較機能を実行する多数の組み込み関数を備えています。

REXX プログラムは、通常、言語処理プログラム (インタープリター) によって実行されます。つまり、プログラムは、初めに別の形式に変換 (コンパイル) されることなく、ステートメント単位に実行されます。このような REXX の解釈的な性質のため、FM/Db2 はレコード選択基準の処理のときに REXX の能力を活用できます。

REXX は強力かつ多目的な言語ですが、REXX を使用した選択基準のコーディングは簡明です。REXX プログラムの記述方法を知っている必要はありません。知っている必要があるのは、REXX 比較式の書き方だけです。FM/Db2 が、選択基準を REXX プログラムに変換してくれます。

本節の内容の多くは、「OS/390® TSO/E REXX 解説書」および「OS/390® TSO/E REXX ユーザーズ・ガイド」からの抜粋です。REXX の詳細については、このような資料を参照してください。

REXX 式の概要

REXX 式は、1 個以上の項と、項の間に挟まれたゼロ個以上の演算子で構成されます。演算子は、項に作用する演算を表します。式は、左から右に評価され、通常の代数と同じ方法で、括弧および演算子優先順位によってその順番が変わります。括弧があると (関数呼び出しを識別する括弧は除く)、括弧で囲まれた副次式全体が、項が要求されたときに即時評価されます。評価の過程でエラーが発生しない限り、式全体が評価されます。REXX 言語は、自由形式を使用します。つまり、ワード間に余分なスペースを挿入してもエラーになりません。

次のリストは、選択基準式で使用できる項を示します。使用可能な演算子はその後のページで説明します。

リテラル・ストリング

リテラル・ストリングは、任意の文字を含む、一重引用符 (') または二重引用符 (") で区切られたシーケンスです。2 つの連続した二重引用符 ("") は、二重引用符で区切られたストリング内の " 文字を表します。2 つの

連続した一重引用符 (') は、一重引用符で区切られた文字列内の文字を表します。リテラル・文字列は定数であり、処理される時にその内容が変更されることはありません。

以下は、有効な文字列です。

```
'Fred'
"Don't Panic!"
'You shouldn't' /* Same as "You shouldn't" */
```

直後に (が続く文字列は、関数の名前と見なされます。(直後に記号 x または x が続く文字列は、16進数文字列とみなされます。直後に記号 B または b が続く文字列は、バイナリー・文字列とみなされます。

16進数文字列は、エンコード方式の16進表記を使用して表現したリテラル・文字列です。ペアでグループになっている0個以上の16進数字(0-9、a-f、A-F)による任意のシーケンスです。16進数字を偶数個にするために、必要に応じて文字列の前に1個の先行0が想定されます。数字のグループは、オプションで1つ以上の空白によって分離され、シーケンス全体は、一重引用符または二重引用符によって区切られ、直後に記号 X または x が続きます。x や X は、これより長い記号に含めることはできません。16進数文字列は、与えられた16進数字をパックして形成されるリテラル・文字列です。16進数字をパックすると、空白が除去され、16進数字の各ペアが、対応する文字に変換されます。例えば、'C1'X A.

16進数文字列を使用すると、文字自体を直接入力できない場合でも、プログラムに文字を組み込むことができます。以下は、有効な16進数文字列です。

```
'ABCD'x
"1d ec f8"X
"1 d8"x
```

バイナリー・文字列は、そのエンコード方式の2進表記を使用して表現したリテラル・文字列です。8個(バイト)または4個(ニブル)がグループになった、ゼロ個以上の2進数字(0または1)による任意のシーケンスです。最初のグループが、4桁未満の場合があります。その場合には、最初の数字の左側に最大3個までの0を補い、合計4桁にします。数字のグループは、オプションで1つ以上の空白によって分離され、シーケンス全体は、突き合わせする一重引用符または二重引用符によって区切られ、直後に記号 b または B が続きます。

バイナリー・文字列は、与えられた2進数字をパックすることによって作られるリテラル・文字列です。2進数字の数が8の倍数でない場合は、パックの前に先行ゼロが左側に追加され、8の倍数にされます。バイナリー・文字列を使用すると、ビット単位で文字を明示的に指定できます。

以下は、有効なバイナリー・文字列です。

```
'11110000'b /* == 'f0'x */
"101 1101"b /* == '5d'x */
'1'b /* == '00000001'b and '01'x */
'10000 10101010'b /* == '0001 0000 1010 1010'b */
'b /* == '' */
```

記号

引用符のない文字ストリングで、英大文字に変換されます。# で始まる記号はすべて、処理対象のレコード内のフィールドに対する参照として扱われ、そのフィールドの値が使用されます。これ以外の記号は、すべて定数として扱われます。

FM/Db2 は、テンプレートで定義された各フィールドに固有のフィールド参照番号を割り当てます。選択基準式のフィールドを参照するときは、接頭部 #. を付けて、そのフィールドのフィールド参照番号を指定します。参照できるのは、現在処理中のレコード内に定義されているフィールドだけです。

REXX 式の評価は、「型なし」の文字ストリングの形式でのみデータを処理します (型なしは、COBOL の場合のように、バイナリーやパック 10 進数のような特定のデータ・タイプではないためです)。したがって、数字フィールドを参照すると、FM/Db2 はそのフィールドの値を、選択基準式の評価時に REXX が処理できる数値文字ストリングに変換します。文字ストリング内の整数および小数点以下の桁数は、テンプレートのフィールド定義によって決まります。例えば、COBOL PICTURE 文節が 999V99 であるパック 10 進フィールドを参照すると、FM/Db2 はそのフィールドの値を、数字、仮想小数点のピリオド、および (フィールドの値が負の場合は) 先行する符号文字で構成される文字ストリング (例えば、「-123.45」) に変換します。数値フィールドは、COBOL PICTURE 文節に符号が含まれているいにかかわらず、すべて符号付きとして扱われますので注意が必要です。

場合によっては、数値フィールドの値を、数字ストリングに変換することなく評価することがあります。そのためには、フィールド参照番号の接頭部を #. ではなく、#u にします。これは、この数字を数字ストリングに変換しないように FM/Db2 に指示します。例えば、2 バイトの 2 進数値フィールド (フィールド参照番号 45) が 'X'FFFF' という特殊値かどうかを検査するときは、次のようにコーディングします。

```
#u45 = 'FFFF'x
```

配列内のフィールドを参照するときは、必要な数の添え字を括弧で囲み、コンマで区切って、フィールド参照を修飾する必要があります。指定する添字の数は、参照するフィールドを含む配列の次元数と同じにする必要があります。COBOL の条件では、フィールド自身の OCCURS 文節も含めて、フィールドを含む階層の OCCURS 文節ごとに添字が必要です。指定する添字は、1 から、OCCURS 文節に指定されているフィールドの出現の最大回数までの範囲にある正の整数にする必要があります。参照するフィールドが (OCCURS DEPENDING ON 文節を使って指定されます) 可変長配列内にある場合は、どのレコードについても、存在しない可能性があるオカレンスのフィールドを参照しないようにしてください。存在しないフィールドを参照すると、選択基準は満たされず、そのレコードは選択されません。



注: OCCURS DEPENDING ON 文節のオブジェクトは、配列と同じレコードの静的部分 (つまり、OCCURS DEPENDING ON 文節で定義された可変長配列に先行する部分) にフィールドとして定義する必要があります。OCCURS DEPENDING ON 文節のオブジェクトがこの方法で定義されていない場合は、その配列内のすべてのフィールド、またはその配列以降のレコード内のすべてのフィールドを参照できません。

関数呼び出し

REXX 組み込み関数の呼び出しです。

副次式

左括弧と右括弧で囲まれた式内の項です。

比較演算子

REXX 比較演算子は、2つの項を比較して、結果が真なら値 1 を、それ以外なら 0 を戻します。比較演算子は、数字または文字ストリングを比較できます。最もよく使用される比較演算子は、次のとおりです。

演算子**意味**

=

等しい

≠, \=

等しくない

<

より小

-<, \<

未満でない

>

より大

->, \>

以下

<=

以下

>=

以上

><

より大きいかより小さい (等しくないと同等)

<>

より小さいかより大きい (等しくないと同じ)

not 文字 (~) は、円記号 (¥) と同じです。どちらの文字も同様に使用可能です。

これらの比較演算子を使用して項を比較するときには、式の項が両方とも数値であれば、REXX は数値比較を実行します。それ以外のときは、両方の項が文字ストリングとして扱われ、REXX は文字比較を実行します。(REXX 内の数字は、1 個以上の 10 進数字、オプションの小数点、およびオプションの先頭符号文字を含むストリングです。ストリングは、1 個以上の先行または末尾ブランクを含むことができ、符号文字は 1 個以上のブランクによって数字と分離することができます。)

文字比較では、先行および末尾ブランクは無視され、短いほうの文字列の右側にブランクが埋め込まれます。文字比較では、大/小文字が区別されます。したがって、小文字が大文字に変換されないようにするためには、文字列を引用符で囲む必要があります。例えば、フィールド #4 に `MixedCase` という値が入っていると、次の比較演算はどちらも真になります。

```
#4 = 'MixedCase'
#4 = '   MixedCase   '
```

しかし、次の比較演算は真になりません。

```
#4 = MixedCase
```

数値比較では、2つの数値を減算 (差を計算) してから、その結果と 0 を比較します。次のような比較演算があるとします。

```
#6 = 10
```

次の演算と同じです。

```
(#6 - 10) = 0
```

これらの比較演算子のほかにも、REXX は、主に文字列の比較に使用される、多数の“厳密な”比較演算子を提供しています。厳密な比較演算子は、すべて `==` (厳密に等しい) のように、演算を定義する文字の 1 つが二重になっています。

厳密な比較演算子は、次のとおりです。

演算子

意味

`==`

厳密に等しい

`-==, \==`

厳密に等しくない

`<<`

厳密により小さい

`-<<, \<<`

厳密により小さくない

`>>`

厳密により大きい

`->>, \>>`

厳密により大きくない

`<<=`

厳密により小さいか等しい

`>>=`

厳密により大きい等しい

`==` 比較演算子 (厳密に等しい) を使用する場合は、比較される 2 つの文字ストリングの一文字一文字が同一で、長さが同じでなければ厳密に等しいとみなされません。先行および末尾空白は、意味を持ちます。例えば、引き続き、`MixedCase` という値が入ったフィールド #4 を例に取れば、次の比較演算のうち真になるのは、初めのほうだけです。

```
#4 == 'MixedCase'
#4 == '  MixedCase  '
```

同じように、`>>` や `<<` といった厳密な比較演算子も、比較対象のどちらのストリングにも埋め込みをせずに、単純な文字単位の比較を行います。2 つのストリングの比較は、左から右に行われます。一方のストリングが他方のストリングよりも短く、また他方のストリングの先行サブストリングになっていれば、そのストリングは、他方のストリングより小さいこととなります。厳密な比較演算子は、2 つの項の数値比較は実行しません。数値フィールドの比較には、こうした厳密な比較演算子は使用しないでください。

算術演算子

比較式における数値項は、算術演算子を使用して処理できます。

演算子

意味

+

加算

-

減算

*

乗算

/

除算

%

整数の除算 (除算し、結果の整数部分を戻します)

//

剰余 (除算し、剰余 -- 結果が負になる可能性があるためモジュロではない -- を戻します)

**

Power[®] 累乗 (数値を自然数に累乗します)

Prefix -

減算と同じ: `0 - number`

Prefix +

加算と同じ: `0 + number`

これらの演算子を使用して、他の項と比較可能な中間結果を得ることができます。例えば、次のフィールドがあるとし

#6

従業員の年間給与を示す数値が入っています。

#15

その従業員の年間出張旅費を示す数値が入っています。

#23

その従業員の年間ボーナスを示す数値が入っています。

その場合、次の比較を使用して、年間支払合計が \$100,000 を超える従業員のレコードを選択できます。

```
(#6 + #15 + #23) > 100000
```

もう 1 つの例では、次のフィールドがあるとし

#45

従業員が取得できる年間の有給休暇の日数が入っています。

#46

従業員が今年すでに使った有給休暇の日数が入っています。

その場合、次の比較を使用して、有給休暇を 50% 以上使っている従業員のレコードを選択することができます。

```
(#46 / #45) >= .5
```

これらの例で、算術副次式が括弧に入っていることに注目してください。こうすると、副次式全体が、比較演算の前に確実に評価されます。

算術演算子の優先順位は、次のとおりです (高いほうから順番に示します)。

演算子

意味

+ - * \

接頭演算子

**

Power@

*/

乗算と除算

+ -

加算と減算

例えば、* (乗算) は + (加算) よりも優先順位が高いため、`3+2*5` は、`13` として評価されます (左から右へ厳密に評価した場合の `25` にはなりません)。強制的に乗算より前に加算が行われるようにするには、式を `(3+2)*5.` のように書き換えます。括弧を追加することで、最初の 3 つのトークンは副次式になります。

論理 (ブール) 演算子

REXX 比較式は、処理されると、真 (1) または偽 (0) の値を戻します。論理演算子は、2 つの比較を結合し、その結果に基づき、真 (1) または偽 (0) の値を戻します。

論理演算子は次のとおりです。

演算子

意味

&

AND (論理積)

両方の比較が真であれば、1 を戻します。例えば次のようになります。

```
(4 > 2) & (a = a)      /* true, therefore result is 1 */
(2 > 4) & (a = a)      /* false, therefore result is 0 */
```

|

包含 OR (包含論理和)

少なくとも 1 つの比較が真であれば、1 を戻します。例えば次のようになります。

```
(4 > 2) | (5 = 3) /* at least one is true, therefore result is 1 */
(2 > 4) | (5 = 3) /* neither one is true, therefore result is 0 */
```

&&

排他 OR (排他論理和)

比較の 1 つだけ (両方ではない) が真であれば、1 を戻します。例えば次のようになります。

```
(4 > 2) && (5 = 3) /* only one is true, therefore result is 1 */
(4 > 2) && (5 = 5) /* both are true, therefore result is 0 */
(2 > 4) && (5 = 3) /* neither one is true, therefore result is 0 */
```

Prefix - \

論理 NOT (論理否定)

反対の応答を戻します。例えば次のようになります。

```
\ 0          /* opposite of 0, therefore result is 1 */
\ (4 > 2)     /* opposite of true, therefore result is 0 */
```

論理式は、複雑の比較に使用し、必要ない条件 (除数として使用する前に、値がゼロのフィールドをテストするなど) を停止するチェックポイントとして活用することができます。一連の論理式がある場合は、明確化のために、1 つ以上の括弧を使用して各式を囲んでください。例えば次のようになります。

```
(#46 = 999) | ((#45 > 0) & (#46 / #45) >= .5)
```

便利な関数

REXX は、文字操作および変換関数など、豊富な組み込み関数を提供しています。こうした関数には、比較式を記述するとき利用できるものがあります。関数を呼び出すには、関数名に続いて括弧の中に 1 つ以上の引数を指定します。関数名と左括弧の間には、スペースを置きません。例えば次のようになります。

```
function(arguments)
```

関数呼び出しには、コンマで区切って、最大 20 個までの引数を指定できます。引数の例を以下に示します。

引数

例

空白

```
function()
```

定数

```
function(55)
```

シンボル

```
function(#5)
```

リテラル・ストリング

```
function('With a literal string')
```

関数が認識するオプション

```
function(option)
```

関数の追加

```
function(function(arguments))
```

引数タイプの組み合わせ

```
function('Literal string', #5, option)
```

REXX が提供する組み込み関数のうち、有用と思われるものをいくつか紹介します。

ABS()

図 61.

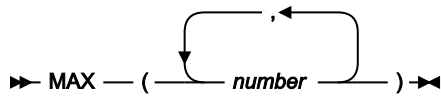
▶▶ ABS — (*number*) —◀◀

number. の絶対値を戻します。例えば、フィールド #12 に -10 から +10 の範囲の値が入っているレコードを選択する場合には、次のように指定できます。

```
ABS(#12) <= 10
```

MAX()

図 62.

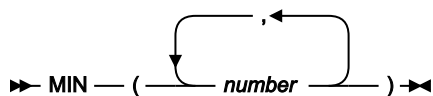


指定されたリストの中から最も大きい数値を戻します。例えば、フィールド #10, #11, または #12 のいずれかに 55 より大きい値が入っているレコードを選択するには、次のように指定してください。

```
MAX(#10, #11, #12) > 55
```

MIN()

図 63.

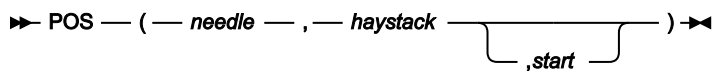


指定されたリストの中から最も小さい数値を戻します。例えば、フィールド #10, #11, または #12 のいずれかに 0 より小さい値が入っているレコードを選択するには、次のように指定してください。

```
MIN(#10, #11, #12) < 0
```

POS()

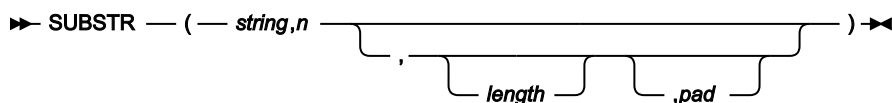
図 64.



2 番目の文字列 *haystack* 内での最初の文字列 *needle* の位置を戻します。*needle* がヌル・文字列であるか、*haystack* 中に検出されないか、または *start* が *haystack* の長さより大きい場合には、0 を戻します。デフォルトでは、*haystack* の先頭バイトから検索を始めます (つまり、*start* の値は 1 です)。検索の開始位置 *start* (正の整数) を指定して、このデフォルトを変更できます。例えば、フィールド #22 に空白が入っているレコードを選択するには、次のように指定してください。 `POS(' ', #22) > 0`

SUBSTR()

図 65.



string の *n* 番目の文字から始まる、長さ *length* バイトのサブ文字列を、必要な場合には *pad* を埋め込んで、戻します。*n* は正の整数です。*n* が *string* の長さ (バイト数) より大きい場合は、埋め込み文字だけを戻します。

length を指定しないと、文字列の残り部分が戻されます。デフォルトの *pad* 文字は空白です。

例えば、フィールド #22 のバイト 4~6 が、ストリング 'NOT' であるレコードを選択するには、次のように指定してください。

```
SUBSTR(#22,4,3) = 'NOT'
```

パフォーマンス上のヒント

REXX で EXIT を使用しない

すべての REXX 処理を終了するには RETURN を使用します。EXIT ステートメントは使用しないでください。FM/Db2 で使用される REXX で EXIT ステートメントを使用すると、CPU を過度に使用することになります。

例

REXX 比較式の例を以下に示します。

例 1

取引日付 (フィールド #14) が 2000 年 7 月か、取引額 (フィールド #27) が \$100,000.00 より大きいレコードを選択します。

```
(#14 >= 20000701 & #14 < 20000801) | #27 > 100000.00
```

例 2

貸方伝票の数 (フィールド #62) が、請求書の数 (フィールド #61) の 10% より大きいレコードを選択します。

```
#62 > #61/10
```

例 3

取引額 (フィールド #27) が \$50,000.00 より大きく、注文書番号 (フィールド #25) が「TX」以外の文字で始まるレコード、または取引額が \$70,000 より大きく、供給業者番号 (フィールド #23) が 984545 であるレコードを選択しますが、両方の条件が真であるレコードは除外します。

```
(#27 > 50000.00 & SUBSTR(#25,1,2) != 'TX') &&  
(#27 > 70000.00 & #23 = 984545)
```

REXX プロシージャを使用したインポート・ユーティリティーの拡張

インポート・ユーティリティーを使用するときには、REXX プロシージャを提供して、ユーザー自身のカスタム要件に応じて通常の FM/Db2 インポート処理を拡張することができます。

インポート・ユーティリティー使用時の REXX プロシージャの提供

REXX プロシージャを提供するには、「Import (インポート)」の「From (元)」のパネルにある「Use REXX proc (REXX プロシージャを使用)」フィールドを使用します。

```
/ Use REXX proc member
```

member 名として * (アスタリスク) を入力すると、FM/Db2 が編集パネルを表示し、そこに 1 回限りの使用のための一時プロシージャを入力することができます。この方法は、将来の利用に備えて保存する必要のない、短い、随時のプロシージャの場合にのみ使用します。

あるいは、ユーザーが保管した REXX プロシージャが存在している PDS を識別する、FMNEXEC DD を割り振ることができます。メンバー名を指定する場合、File Manager は、新しい名前を編集するか、既存のメンバーと一緒に実行するかのいずれかを行います。ブランクまたは「*」以外のパターンを指定すると、FMNEXEC に割り振られた PDS のメンバー選択リストが表示されます。ISPF の下では、連結された FMNEXEC データ・セットはサポートされません。

例えば、REXX プロシージャを「USERID.FMNEXEC」と呼ばれる PDS に保管する場合には、「**Use REXX proc (REXX プロシージャを使用)**」フィールドを使用する前に、以下のような TSO ALLOC コマンドを実行する必要があります。

```
TSO ALLOC DD(FMNEXEC) DSN('USERID.FMNEXEC') SHR
```

いずれの場合にも、FM/Db2 は、ユーザーが提供した REXX プロシージャの妥当性検査を行います。エラーが検出されると、FM/Db2 は検出されたすべてのエラーをメッセージ・ボックスに表示し、ユーザーがそれを訂正できるように、編集パネルにそのプロシージャをオープンします。編集セッションを取り消すと、「**Use REXX proc (REXX プロシージャを使用)**」フィールドが消去され、入力パネルが再表示されます。

拡張処理の働き

ユーザー提供の REXX プロシージャは、各入力レコードに対して順次に実行されます。これは、入力データ・セットの終わりに達するか、または REXX プロシージャが RETURN STOP (または RETURN STOP IMMEDIATE) コマンドを出すまで続きます。

FM/Db2 は、拡張処理を実行するために指定する REXX ステートメントで使用できる、2つの特別な REXX 変数、INREC と OUTREC を定義します。FM/Db2 機能またはパネルが REXX プロシージャを呼び出すと、処理するために選択された各入力レコードの内容が、INREC と OUTREC の両方でそのプロシージャに渡されます。プロシージャが呼び出される時には、INREC と OUTREC の内容は同一です。

変数 INREC は参照変数として使用されるものです (FM/Db2 は INREC に対する変更をすべて無視します)。変数 OUTREC は、プロシージャによって更新することができ、そして (以下の説明にあるように、以後の処理からレコードを「除去」することがない限り) REXX プロシージャが完了したときにインポート・ユーティリティーによって処理するために戻されます。例えば、次のコードは、出力レコードの中の 2 桁の年を 4 桁の年に変更するものです。

```
/* Changes a date of format MMDDYY (starting at column 1) to MMDDYYYY */
If fld(5,2,z) > 50
  outrec = fld(1,4)||'19'||fld(5)
else
  outrec = fld(1,4)||'20'||fld(5)
```

拡張処理でのテンプレートの使用

テンプレートが選択するレコードのみが、以後の処理のために REXX プロシージャに渡されます。

使用しているテンプレートが一定のフィールドのみを選択するかどうかにかかわらず、INREC および OUTREC 変数は、すべてのフィールドをもつ完全なレコードを含みます。

関連するタスク

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

以後の処理からのレコードの除去

あるレコードを処理した後に REXX プロシージャが正常に終了すると、そのレコードは“選択された”ものとみなされて、OUTREC の内容がインポートのための出力レコードとして使用されます。ただし、REXX プロシージャが RETURN DROP (または RETURN STOP IMMEDIATE) 命令で終了すると、現行レコードは、FM/Db2 によって以後の処理から“除去”されて、インポートされなくなります。

外部 REXX 関数

FM/Db2 は、「OS/390® TSO/E REXX 解説書」に説明されている組み込み REXX 関数のほかに、ユーザーが使用できる次のような外部 REXX 関数を提供します。

CHANGE

文字ストリングを変更する

CONTAINS

文字値を検査する

FLD

現行入力レコードからのフィールドを参照する

NCONTAIN

数値を検査する

PRINT

レコードを印刷する

PRTCOUNT

印刷したレコード数を数える

RECSIN

読み取ったレコード数を数える

RECSOUT

所定のデータ・セットに書き込まれたレコード数を数える

TALLY

フィールド値を合計し、合計を報告する

TM

ストリングのビット値をテストする

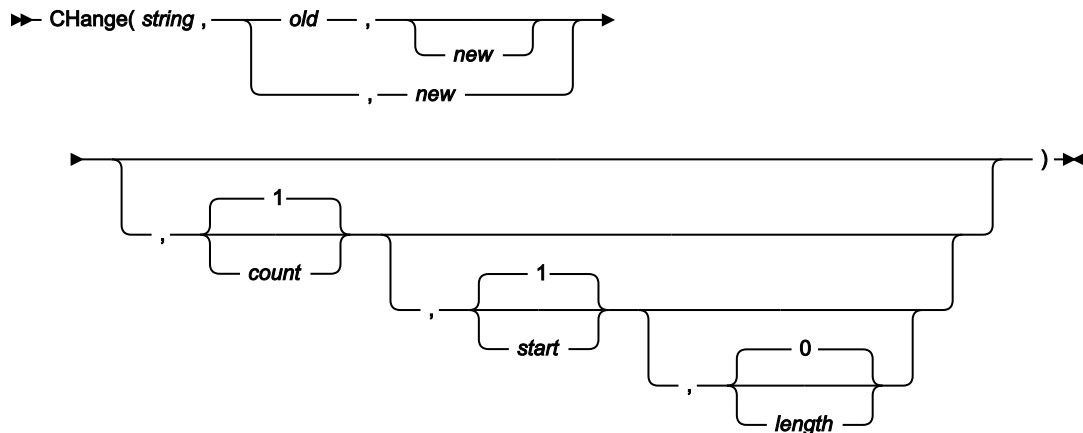
WRITE

レコードを書き込む



注: これらの FM/Db2 特有の REXX 外部関数と、INREC および OUTREC 変数は、「Use REXX proc (REXX proc の使用)」フィールドで指定する REXX プロシージャの中でしか使用できません。これらの関数および変数は、この FM/Db2 環境の外の REXX プロシージャの中では使用できません。

CHANGE



サブストリング `old` をサブストリング `new` に、`count` 個のオカレンスだけ変更した `string` を戻します。`count` のデフォルト値は 1 です。`count` は、指定される場合はゼロまたは正の整数でなければなりません。ゼロを指定すると、`string` に出現する `old` は、すべて `new` に変更されます。

サブストリング `old` について検査される `string` 内のバイト位置を、開始バイト位置 (`start`) および長さ (`length`) をバイトで指定することによって限定することができます。`start` のデフォルト値は 1 です。`start` を指定する場合、それは正の整数でなければなりません。`start` が `LENGTH(string)` よりも大きければ、CHANGE 関数は無効になります。`length` は、指定される場合はゼロまたは正の整数でなければなりません。`length` を省略するか、またはゼロを指定すると、バイト位置 `start` からの残りの `string` が検査されます。`length` が `LENGTH(old)` よりも小さければ、CHANGE 関数は無効になります。

サブストリング `old` および `new` の長さは違って構いません。`old` を省略すると、サブストリング `new` が、`start` によって指示されたバイト位置で、`string` に挿入されます。`new` を省略すると、サブストリング `old` が `string` から削除されます。

以下にいくつか例を示します。

例 1

```
CHANGE('abcabcabc','abc','DeF')    →  'DeFabcab'
/* 1 (default) occurrence of old changed */
```

例 2

```
CH('abcabcabc','abc','DeF',2)     →  'DeFDeFab'
/* 2 occurrences of old changed */
```

例 3

```
CHANGE('abcabcabc','abc','DeF',0)  →  'DeFDeFDeF'
/* count = 0, all occurrences of old changed */
```

例 4

```
CH('abcabcabc','abc','DeF',,4)    →  'abcDeFabc'
/* 1 (default) occurrences of old changed,      */
/* starting at position 4                       */
```

例 5

```
CHANGE('aaaaaaaa','a','A',0,3,2)  →  'aaAaaaa'
/* all occurrences of old changed, starting at  */
/* position 3 for a length of 2                 */
```

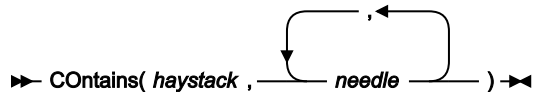
例 6

```
CH('abcabcabc','a',,0)            →  'bcabc'
/* new omitted, count = 0,                  */
/* all occurrences of old deleted           */
```

例 7

```
CHANGE('abc',,'def',,2)           →  'adefbc'
/* old omitted, new inserted, starting at      */
/* position 2                                  */
```

CONTAINS



haystack スtringが、1 つ以上の *needle* スtringを含んでいる場合、CONTAINS は 1 を戻します。そうでない場合、CONTAINS は 0 を戻します。

CONTAINS は大/小文字を区別します。すなわち、*haystack* が *needle* と同じ大文字小文字の組み合わせを持つStringを含んでいる場合にのみ 1 を戻します。

例 1

現行の入力レコードが、最初の 10 桁目に “Michael”、“Mick”、または “Mike” を含んでいれば、レコードを印刷します。

```
If co(fld(1,10),'Michael','Mick','Mike') Then print(inrec, 'CHAR')
```

例 2

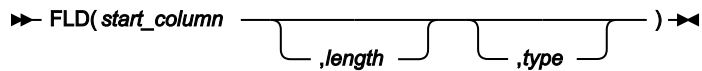
現行の入力レコードが、“USA”、“Australia”、または “England” を含んでいれば、そのレコードを処理から除去します。

```
If contains(inrec,'USA','Australia','England') Then exit 'DROP'
```

関連するタスク

[NCONTAIN ページ 282](#)

FLD



現行の入力レコード (INREC) からフィールドの値を、*start_column* (バイト) から開始して、指定された下記の *type* に応じて解釈される *length* バイトだけ、戻します。

B

フィールドが 2 進数の場合。 *type* に B を指定するには、 *length* は 2、4、または 8 でなければなりません。

C

フィールドが文字を含んでいる場合。

P

フィールドがパック 10 進数の場合。 *type* に P を指定するには、 *length* は 1 から 16 の間でなければなりません。

Z

フィールドがゾーン 10 進数の場合。 *type* に Z を指定すると、 *length* は 1 から 32 の間でなければなりません。 またはフィールドが分離符号文字を含んでいる場合は、1 から 33 の間でなければなりません。

type のデフォルト値は C です。

length を省略して、 *type* P (パック 10 進数) を指定すると、FLD は、レコード・データからパック 10 進数フィールドの長さ的决定しようとして、そしてそのフィールドだけを戻します。他のフィールド・タイプの場合に *length* を省略すると、FLD はレコードの残りの部分を戻します。

FLD 関数は組み込み REXX SUBSTR 関数に似ていますが、FLD は指定されたデータ・タイプに従って“サブストリング”を解釈して、それに応じて形式設定された値を戻すところが違います。(数値フィールドの場合、FLD は、符号付き、先行ゼロなしの値を戻します。)

例 1

8 バイト目から始まるパック 10 進数フィールドの値が 100 より大きいと、現行レコードを処理しません。

```
if fld(8,P) > 100 then exit 'DROP'
```

例 2

42 バイト目から始まる 2 桁の年フィールドの値が 60 より大きいと、年フィールドの前にリテラル “19” を挿入します。そうでないと、“20” を挿入します。

```
if fld(42,2,Z) > 60 then
  outrec = fld(1,41)||'19'||fld(42)
else
  outrec = fld(1,41)||'20'||fld(42)
```

NCONTAIN

▶▶ NContain(*number* , *match*) ▶▶

match 引数の数値のどれかが *number* の数値に等しい場合、NCONTAIN は 1 を戻します。それ以外では、0 を戻します。

例 1

現行レコードが 8 バイト目から始まる値 10、20、または 30 のパック 10 進数値を含んでいると、そのレコードを印刷します。

```
if nco(fld(8,P),10,20,30) then print(inrec,'CHAR')
```

例 2

現行レコードが 10 バイト目から始まる値 11、12、または 13 のゾーン 10 進数値を含んでいると、そのレコードを処理から除外します。

```
if nco(fld(10,5,Z),11,12,13) then exit 'DROP'
```

関連するタスク

[CONTAINS ページ 280](#)

PRINT

▶▶ PRINT(*record* , *format*) ▶▶

record スtring を、指定された *format*、SNGL または TABL で印刷します。



注:

1. テンプレートで選択されたフィールドのみが印刷されます。
2. レコードがテンプレート処理によって再形式設定されている場合には、変数 INREC は入力レコード値を、OUTREC は再形式設定済み出力レコードを含みます。

例 1

最初の 100 個のレコードを印刷します。

```
if PRTCOUNT() < 100 then PRINT(inrec,'CHAR')
```

例 2

現行入力レコードを TABL 形式で印刷します。

```
rc = PRINT(inrec,'TABL')
```

関連するタスク

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

[表示形式の選択 ページ 155](#)

PRTCOUNT

▶▶ PRTCOUNT() ◀◀

印刷済みレコードの現在のカウントを返します。

例

最初の 10 個の入力レコードを印刷します。

```
if prtcount() < 10 then print(inrec,'CHAR')
```

RECSIN

▶▶ RECSIN() ◀◀

これまでに、入力データ・セットから読み取られ、REXX プロシージャに渡された、レコード読み取りカウントを戻します。テンプレートによって選択された入力レコードのみが REXX プロシージャに渡されて、RECSIN によって戻される総数に含まれます。

例

100 番目ごとのレコードを印刷します。

```
if RECSIN()//100 = 0 then PRINT(inrec,'CHAR')
```

RECSOUT

▶▶ RECSOUT(*ddname*) ◀◀

これまでに、指定された出力データ・セットに書き込まれたレコードのカウントを戻します。

指定できる引数は、次のとおりです。

ddname

指定された *ddname* によって識別されたデータ・セットに、これまでに書き込まれたレコードのカウントが戻されるように指定します。

出力データ・セットへ書き込まれるレコードのカウントは、指定されたデータ・セットに対して WRITE 関数が発行されるたびに増分されます。また、基本出力データ・セットの場合は、FM/Db2 機能によってレコードがデータ・セットに書き込まれるときにも、その総数は増分されます。レコードが RETURN DROP (または STOP IMMEDIATE) 命令を使用して廃棄されない限り、処理のために選択された各レコードは、基本出力データ・セットに書き込まれます。

例 1

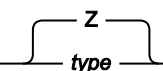
EXT100 ファイルに書き込まれたレコードの数が 100 を超えると、FM/Db2 による処理を停止します。

```
rc = WRITE(EXT100)
if RECSOUT(EXT100) > 100 then exit "STOP"
```

関連するタスク

[RETURN 値 ページ 286](#)

TALLY

▶ TALLY(*start* , *length* ,  *type* , *string*) ◀

指定された入力レコード・フィールドの値が TALLY レジスターに累算され、その TALLY レジスターの先頭に文字ストリング *string* が付けられて、その TALLY レジスターがインポート・ユーティリティーの終了時に SYSPRINT で印刷されます。TALLY 関数が正常に行われれば、0 の値を戻します。正常に行われていなければ、REXX 構文エラー条件が起こります。

値が累算されるフィールドは、入力レコードの *start* の位置から始まり、その長さは *length* バイトとなります。*start* と *length* の合計が LENGTH(INREC) よりも大きい場合、TALLY 関数は、TALLY レジスターを変更することなしに、0 の値を戻します。

値が累算されるフィールドのデータ・タイプは、*type* によって指定されます。*type* に指定できる値は、以下の通りです。

B

フィールドが 2 進数の場合。*type* に B を指定すると、*length* は 2、4、または 8 でなければなりません。フィールドは符号付きであると想定されます。

P

フィールドがパック 10 進数の場合。*type* に P を指定するには、*length* は 1 から 16 バイトの間でなければなりません。

Z

フィールドがゾーン 10 進数の場合。*type* に Z を指定すると、*length* は 1 から 32 バイトの間でなければなりません。またはフィールドが分離符号文字を含んでいる場合は、1 から 33 バイトの間でなければなりません。

type のデフォルト値は Z です。

FM/Db2 は、それぞれの TALLY 関数ごとに、固有の引数の組み合わせを持った、別々の TALLY レジスターを作成します。これは、それぞれの TALLY 関数ごとの *string* に別々の値を指定することによって、与えられたフィールドを複数の TALLY レジスターに累算できることを意味します。

例

レコード・タイプに基づき、人事記録に記録された時間数を累算します。

```
select;
  when(fld(1,1) = 'E') then
    rc = TALLY(15,4,B,'Sum of employee hours')
  when(fld(1,1) = 'S') then
    rc = TALLY(15,4,B,'Sum of supervisor hours')
  otherwise
    rc = TALLY(28,4,B,'Sum of manager hours')
end
```

TM

▶ **TM(*string* ,*mask*)** ◀

選択されたストリング・ビットがテストされ、それに応じて条件コードが設定されます。

テストの長さは、*string* と *mask* の 2 つの引数のうちの、短いほうの長さに基づきます。*mask* ビットの 1 は、*string* 中の等価のビットがテストされることを示します。*mask* ビットがゼロの場合、等価の *string* ビットは無視されます。テスト済みのビットがすべて 1 であれば、TM は 1 を戻します。そうでなければ、TM は 0 を戻します。

例 1

入力レコードの 3 番目のバイトをテストし、下位ビットが設定されていれば、そのレコードの 2 番目のバイトに 16 進数の FF をオーバーレイします。

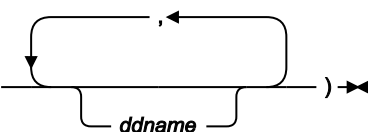
```
if TM(fld(3,1),'01'x) then do
  outrec = OVERLAY('FF'x,outrec,2)
  exit
end
exit drop
```

例 2

入力レコードの 3 番目のバイトをテストし、上位ビットが設定されていれば、そのレコードの 2 番目のバイトの内容に 16 進数の 04 で論理和演算します。

```
if TM(fld(3,1),'10000000'b) then do
  outrec = OVERLAY(BITOR(fld(2,1),'04'x),outrec,2)
  exit
end
exit drop
```

WRITE

▶ **WRITE(**  **)** ◀

指定された 1 つ以上のデータ・セットにレコードを書き込みます。WRITE 関数が正常に行われれば、値 0 を戻します。WRITE 関数が正常に行われなければ、REXX 構文エラー状態となります。

指定できる引数は、次のとおりです。

ddname

指定された *ddname* によって識別されるデータ・セットにレコードが書き込まれることを指定します。

レコードは、次の REXX 変数のうちの 1 つの内容から書き込まれます。

- プロシージャによって値が割り当てられている場合には、変数 `OUTREC.ddname`。ここで *ddname* は、WRITE 関数の中に指定されている DD 名です。
- 変数 `OUTREC.ddname` に値が割り当てられていないか、または DROP 命令の使用によって未割り当ての状態にある場合には、FM/Db2 定義の変数 `OUTREC`。

書き込まれるレコードの長さは、出力データ・セットのデータ・セット属性によって決まります。出力データ・セットが可変長レコードを含んでいる場合、レコードの長さは、REXX 変数の中のデータの長さから決定されます。データの長さが、データ・セット属性に指定されている最大レコード長よりも大きければ、レコードは切り捨てられます。出力データ・セットが固定長レコードを含んでいる場合、書き込まれるレコードの長さは、データ・セット属性に指定されている長さで、必要に応じて切り捨てまたは埋め込みが行われます。

出力データ・セットのレコード・フォーマットが、レコードには紙送り制御文字が含まれると指定していると、出力装置によっては、REXX 変数のレコード・データの前頭文字が紙送り制御文字と解釈されることがあります。紙送り制御文字を含むレコードについて詳しくは、*OS/390 DFSMS: データ・セットの使用法* を参照してください。

例 1

現行レコードがタイプ 01 ならば、それを DD01 ファイルに書き込みます。

```
if fld(1,2) = 01 then WRITE('DD01')
```

例 2

現行レコードがタイプ 02 ならば、それを DD02 および DD02COPY ファイルに書き込みます。

```
if fld(1,2) = 02 then WRITE('DD02','DD02COPY')
```

RETURN 値

REXX では、プロシージャを終了するのに RETURN 命令を使用できます。オプションとして、RETURN 命令のパラメーターに文字ストリングを指定することができます。この文字ストリングは、プロシージャの呼び出し元に戻されます。File Manager は、以下の文字ストリングが RETURN 命令に指定されていれば、それらを認識し、処理します。文字ストリングは、大文字、小文字、または大/小文字混合のいずれによっても指定することができます。

DROP

文字ストリング DROP は、現行レコードを基本出力データ・セットに書き込まないように、FM/Db2 に指示します。RETURN 命令に DROP を指定すると、現行レコードがターゲット表にインポートされなくなります。

以下にいくつか例を示します。

```
RETURN 'DROP'
Return 'Drop'
Return drop /* assumes no variable named 'drop' has been assigned */
```

STOP

文字ストリング STOP は、現行レコードが基本出力データ・セットに書き込まれた後に、現行の FM/Db2 機能を終了するように FM/Db2 に指示します。RETURN 命令に STOP を指定すると、現行レコードがターゲット表にインポートされて、インポート・ユーティリティーが停止されます。

以下にいくつか例を示します。

```
RETURN 'STOP'
Return 'Stop'
Return stop /* assumes no variable named 'stop' has been assigned */
```

STOP IMMEDIATE

文字ストリング STOP IMMEDIATE は、現行レコードを基本出力データ・セットに書き込まずに、現行の FM/Db2 機能を終了するように FM/Db2 に指示します。RETURN 命令に STOP IMMEDIATE を指定すると、現行レコードがターゲット表にインポートされずに、インポート・ユーティリティーが停止されます。

以下にいくつか例を示します。

```
RETURN 'STOP IMMEDIATE'
Return 'Stop Immediate'
Return stop immediate /* assumes variables 'stop' and 'immediate' not assigned */
```

VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー

Db2® 表またはビューから、区分データ・セット、順次データ・セット、または VSAM データ・セットにデータをコピーするには、「Export (エクスポート)」ユーティリティー機能 (3.7) を使用します。



1. Db2® 表相互間でデータをコピーするには、コピー・ユーティリティー機能 (3.3) を使用します。
2. データを QSAM または VSAM データ・セットから Db2® 表またはビューへコピーするには、インポート・ユーティリティー機能 (3.6) を使用します。
3. Db2® UNLOAD ユーティリティーを使用して順次ファイルにデータをコピーするには、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」オプション (3.9) を使用します。大きい表をコピーする場合は、Db2® UNLOAD ユーティリティーを使用することをお勧めします (パフォーマンスと効率の理由から)。

エクスポート・ユーティリティーでは、Db2® SQL を使用してエクスポート・データを生成します。データは、以下のどの形式でもエクスポートすることができます。

- Db2® (File Manager 内部) 形式。この形式は、DSNTIAUL サンプル・ジョブおよび Db2® ユーティリティにより使用されるデータ形式と同じではありません。これは、エクスポートしたデータを FM/Db2 のインポート・ユーティリティを使用して別の Db2® 表にインポートする場合にお勧めするオプションです。
- Db2® 外部 (またはアンロード) 形式。これは、Db2® UNLOAD ユーティリティで使用されるものと同じ形式です。
- Db2® DSNTIAUL アンロード形式。これは、Db2® DSNTIAUL サンプル・プログラムで使用される形式です。
- ユーザー定義形式。ユーザー定義の「Placement (配置)」(3. User defined (ユーザー定義)) は、インポート・ユーティリティではサポートされていません。
- 区切り文字で区切られている (CSV) 形式。これでエクスポートしたデータ形式ではインポート・ユーティリティを使用できません。
- コピーブック・レイアウト形式。

エクスポート・ユーティリティによって生成された出力データ・セットは、以下の入力データとして使用できます。

1. FM/Db2 インポート・ユーティリティ。このユーティリティは、Db2® 形式およびコピーブック形式のデータをサポートします。
2. 列間をコンマで区切る CSV ファイル形式の PC ベース・スプレッドシート・アプリケーション・プログラム。
3. その他のユーザー・アプリケーション・プログラム。

データをエクスポートする際には、以下のことを行うことができます。

- エクスポートする際のデータの形式を選択する。
- 「From (元)」テンプレートの必要な列を選択することによって、エクスポートすべき列を選択する。
- エクスポート中に、表の列を出力区分データ・セット、順次データ・セット、または VSAM データ・セットのフィールドに (テンプレートで定義されたとおりに) マップすることによって、データを再形式設定する。
- エクスポートされるデータを記述するテンプレートを作成して保管する。
- エクスポートする行を選択する。
- エクスポートする行数を指定する。
- エクスポートをフォアグラウンドで実行するか、またはバッチで実行するかを指定する。

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネルを表示するには、以下のようになります。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、3 (「Utilities (ユーティリティ)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルから、7 (「Export (エクスポート)」) を入力します。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[エクスポートの使用法に関する注 ページ 296](#)

[「From \(元\)」表の詳細の指定 ページ 289](#)

[「To \(宛先\)」データ・セットの詳細の指定 ページ 292](#)

関連する参照先

[Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)] パネル ページ 756

[Utility Functions (ユーティリティ機能)] パネル ページ 896

[Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティの「元」)] パネル ページ 698

「From (元)」表の詳細の指定

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネルでソース (“From (元)”) 表の名前を指定します。指定した表が存在していないと、FM/Db2 はエラー・メッセージを出して、ユーティリティを停止します。

“From (元)” 表のすべての行をエクスポートする必要がない場合には、エクスポートする行数 (1 から 99999999) を「**Export Count (エクスポート・カウント)**」に指定します。

“From (元)” 表に対して特定のテンプレートを使用している場合には (「**Template usage (テンプレートの使用法)**」のオプション 1 を参照)、そのテンプレートの名前を「**From Template (元テンプレート)**」の入力フィールドに指定します。

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネルにある「**Processing Options (処理オプション)**」では、“From (元)” 表にどのテンプレートを使用するか、またはエクスポート処理を実行する前にテンプレートを編集するかどうかを指定します。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネルには、テンプレートを処理するための次の 4 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「**From Template (元テンプレート)**」セクションにテンプレート・データ・セットの名前 (およびオプションのメンバー名) を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が続行されます (「Template usage」のオプション 3 を参照)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「**From Template (元テンプレート)**」セクションでメンバー名を指定すると、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「**From Template (元テンプレート)**」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit options (編集オプション)

「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの最初の画面を表示するのに使用します。

Edit template (テンプレートの編集)

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティー)」の「From (元)」のパネルに進む前に「元」表のテンプレートを編集するのに使用します。

次に進むには、Enter キーを押してください。

Edit options (オプションの編集) を (「/」を使用するか、あるいは以前にこのオプションに「A」選択文字を使用するかのいずれかによって) 選択した場合は、「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの最初の画面が表示されます。

Edit template (テンプレートの編集) を (「/」を使用するか、あるいは以前にこのオプションに「A」選択文字を使用するかのいずれかによって) 選択した場合は、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルが表示されます。

そうでない場合は、「Export Utility “To” (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネルが表示されます。

関連するタスク

[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)

[データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)

[FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

[テンプレートの処理 ページ 75](#)

[「From \(元\)」表のテンプレートの編集 ページ 291](#)

[「To \(宛先\)」データ・セットの詳細の指定 ページ 292](#)

関連する参照先

[「Export Utility \(“From”\) \(エクスポート・ユーティリティーの「元」\)」パネル ページ 698](#)

現行エクスポート・セッション用オプションの設定

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティー)」パネル (または「Export Utility “To” (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル) で「**Edit options (オプションの編集)**」を選択すると、FM/Db2 は「Edit options (オプションの編集)」の最初から 3 つのパネルを表示します。残りのパネルは、「NxtPage」機能キー (F11) を押すことによって表示されます。



注:



1. 「Export Options (2 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 2))」パネルにナビゲートするには、「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルで「**4. User defined (ユーザー定義)**」または「**5. Delimited variables (CSV) (区切り文字で区切られている変数 (CSV))**」、および「**Null indicators / CSV options (ヌル標識 / CSV オプション)**」のいずれかのデータ形式オプションを選択する必要があります。
2. 「Export Options (3 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 3))」パネルにナビゲートするには、「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルで「**4. User defined (ユーザー定義)**」と「**Data type format (データ・タイプ形式)**」のデータ形式オプションを選択する必要があります。

「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルを使用すると、現行エクスポート・セッション用のオプションを変更できます。



注: オプションは、FM/Db2 の現行セッションに適用され、セッションが終了した場合、またはグローバル設定が呼び出された (プルダウンからまたはメニューから) 場合にのみ戻ります。

関連する参照先

[「Export Utility \("From"\) \(エクスポート・ユーティリティの「元」\)](#) パネル ページ 698

[「Export Options \(1 of 3\) \(エクスポート・オプション \(3 の 1\)\)」](#) パネル ページ 691

「From (元)」表のテンプレートの編集

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネルで、「**Edit template (テンプレートの編集)**」オプションを選択すると、FM/Db2 は「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルを表示します。このパネルを使って、次のようにして、「元」表内のエクスポートするデータを制限することができます。

- エクスポートのために特定の列を選択 (または選択解除) する。
- *row selection criteria* (行選択基準) を指定する。この基準を満たす内容を持つ行のみがエクスポートのために選択されます。



注: データを FM/Db2 内部 (SQLDA) 形式でエクスポートする場合、エクスポートするその列の順序を変更することはできません。データは、常に Db2@ カタログ内で定義されている列の順序 (「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルで列が表示されるのと同じ順序) でエクスポートされます。

エクスポート・ユーティリティは、テンプレートの「**Seq**」フィールドに指定されている情報を無視します (この情報は、FM/Db2 が列を表示または印刷する順序を変更します)。

例えば、[図 66: 「From \(元\)」表の「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 292](#) に示されているテンプレートは、一定の列と、一定の基準を満たす内容を持つ行のみを選択するように編集されたものです。このテンプレートをエクスポート「元」テンプレートとして使用すると、以下のデータだけがエクスポートされます。

- 列「FIRSTNAME」、「LASTNAME」、「WORKDEPT」、「JOB」。ただし、WORKDEPT が「MNT」と等しく、JOB が「PAINTER」と等しい場合のみ。

図 66. 「From (元)」表の「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Column Selection/Edit                Line 1 of 16
TABLE FMNUSER.EMP
----- Row Selection Criteria ---- (Use SQL/PF4 for full screen edit) -----
1 Sel: WHERE "WORKDEPT" = 'MNT' AND "JOB" = 'PAINTER'          +

Cmd Seq SHEX CL# Column name          Data type(length)  Null Default  Order A/D
-----
      S      1 EMPNO                CHARACTER(6)       None      ___  -
      S      2 FIRSTNME             VARCHAR(12)        None      ___  -
      S      3 MIDINIT              CHARACTER(1)       None      ___  -
      S      4 LASTNAME              VARCHAR(15)        None      ___  -
      S      5 WORKDEPT              CHARACTER(3)       Y        Null      ___  -
      S      6 PHONENO              CHARACTER(4)       Y        Null      ___  -
      S      7 HIREDATE             DATE               Y        Null      ___  -
      S      8 JOB                  CHARACTER(8)       Y        Null      ___  -
      S      9 EDLEVEL             SMALLINT           Y        Null      ___  -
      S     10 SEX              CHARACTER(1)       Y        Null      ___  -
      S     11 BIRTHDATE          DATE               Y        Null      ___  -
      S     12 SALARY          DECIMAL(9,2)      Y        Null      ___  -
-----
Command ==>>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=SQL       F5=RFind     F6=RunTemp
F7=Up        F8=Down       F9=Swap      F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
-----

```

関連するタスク

- [テンプレートの処理 ページ 75](#)
- [表示または印刷データの順序の変更 ページ 101](#)

関連する参照先

- [「Export Utility \("From"\) \(エクスポート・ユーティリティーの「元」\)」パネル ページ 698](#)
- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

「To (宛先)」データ・セットの詳細の指定

「To (宛先)」データ・セットの詳細を入力します。「Data set name (データ・セット名)」、「Member (メンバー)」、および「Volume (ボリューム)」入力フィールドの組み合わせを使用して、データのエクスポート先の区分データ・セット、順次データ・セット、または VSAM データ・セットを指定します。既存のデータ・セットの名前、またはエクスポート・ユーティリティー機能で作成するデータ・セットの名前を指定できます。

「宛先」データ・セットに対して特定のテンプレートまたはコピーブックを使用する場合には、テンプレートまたはコピーブック・データ・セットの名前とメンバー名 (任意指定) を「To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)」入力フィールドに指定します。

「Processing Options (処理オプション)」は、エクスポート処理のオプションを選択するのに使用します。

次に進むには、Enter キーを押してください。

Edit options (オプションの編集) を (「/」を使用するか、あるいは以前にこのオプションに「A」選択文字を使用するかのいずれかによって) 選択した場合は、「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの 2 番目の画面が表示されます。

「**Edit template mapping (TEMPLATE MAPPING 編集)**」を (「/」を使用するか、または前にこのオプションに“A”選択文字を使用しているかのいずれかによって) 選択した場合には、編集用の「**Template Mapping (テンプレート・マッピング)**」パネルが表示されます。

「**Batch execution (バッチ実行)**」を (「/」を使用するか、このオプションに対して前に“A”選択文字を使用しているかのいずれかによって) 選択した場合には、生成された JCL が ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。

生成した JCL を ISPF エディターを使用して表示する前に、「**Export Options - (1 of 3) (オプションの編集 - (3 の 1))**」パネルで「**3. Batch (バッチ)、Db2® ユーティリティーを使用**」オプション、および、「**Edit UNLOAD (アンロードの編集)**」オプションを選択した場合、「**UNLOAD Options (アンロード・オプション)**」パネルが表示されます。

そうでない場合には、FM/Db2 は“元”表から“宛先”の区分データ・セット、順次データ・セット、または VSAM データ・セットヘデータをエクスポートします。

関連するタスク

[データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)

[データのマッピング ページ 112](#)

[エクスポートされるデータの形式 ページ 293](#)

[エクスポートのバッチ実行 ページ 296](#)

[エクスポートの使用法に関する注 ページ 296](#)

関連する参照先

[「Export Utility \("To"\) \(エクスポート・ユーティリティーの「宛先」\)」パネル ページ 702](#)

[「Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)」パネル ページ 881](#)

エクスポートされるデータの形式

データは次の 4 つの形式でエクスポートできます。

- Db2® (File Manager 内部) 形式
- Db2® 外部 (またはアンロード) 形式
- Db2® DSNTIAUL アンロード形式
- コンマ区切り形式 (CSV 出力)

以下の 2 つは、ユーザー定義が必要な形式です。

- ユーザー定義形式
- コピーブック・レイアウト形式

出力形式は、「**Export Options - (2 of 3) (エクスポート・オプション - (3 の 2))**」パネルで選択した「**Data format (データ形式)**」オプションによって変わります。

データを Db2® (File Manager 内部) 形式でエクスポートするには、オプション 1 (「**FM/Db2 (SQLDA) format ((SQLDA) 形式)**」) を指定します。

データを Db2® 外部 (またはアンロード) 形式でエクスポートするには、オプション 2 (「**Db2® unload format (アンロード形式)**」) を指定します。

データを Db2® DSNTIAUL アンロード形式でエクスポートするには、オプション 3 (「**DSNTIAUL format (DSNTIAUL 形式)**」) を指定します。

データをユーザー定義形式でエクスポートするには、オプション 4 (「**User defined (ユーザー定義)**」) を指定します。

データをコンマ区切り形式 (CSV 出力) でエクスポートするには、オプション 5 (「**Delimited Variables (CSV) (区切り文字で区切られている変数 (CSV))**」) を指定します。

出力形式は、どの「**Template usage (テンプレートの使用法)**」処理オプションを選択するかによって異なります。

データを Db2® (File Manager 内部) 形式でエクスポートするには、「**Template usage (テンプレートの使用法)**」のオプション 3 (「**Generate from input (入力からの生成)**」) またはオプション 4 (「**Generate and save (生成して保管)**」) およびエクスポート・オプション 1 **FM/Db2 (SQLDA) format ((SQLDA) 形式)** を指定します。このオプションを指定すると、FM/Db2 は入力テンプレートから出力テンプレートをコピーして、結果表にアクセスするために SQLDA が使用されたときに、Db2® から戻された形式でデータをエクスポートします。この形式では、ヌル可能列の前に、ヌル標識が入った 2 バイトの 2 進数フィールドが置かれます。「元」列がヌル値を持っていると、対応する「宛先」フィールドのヌル標識フィールドに -1 が入り、そうでない場合には 0 が入ります。出力データ・セットのそれぞれの 10 進数フィールドは 16 バイトを占め、データは左寄せされて後に末尾の 2 進数のゼロが続きます。グラフィックまたは可変長グラフィック・フィールドの後には、2 進数のゼロが入った 2 バイトが続きます。このオプションは、「Import (インポート)」(オプション 3.6) を使用して別の Db2® 表にエクスポートしたデータをインポートしようとしている場合に使用します。

データを Db2® アンロード形式でエクスポートするには、「**Template usage (テンプレートの使用法)**」のオプション 3 (「**Generate from input (入力からの生成)**」) またはオプション 4 (「**Generate and save (生成して保管)**」) を指定して、エクスポート・オプション 2 **Db2® unload format (アンロード形式)** を選択します。エクスポートされるデータは、NOPAD オプションが指定されていなければ Db2® UNLOAD ユーティリティーで戻されるものと同じ形式になります。この形式では、ヌル可能列の前に、ヌル標識が入った 1 バイトの 2 進数フィールドが置かれます。「From (元)」列がヌル値を持っていると、対応する「To (宛先)」フィールドのヌル標識フィールドに X'FF' が入り、そうでない場合には 0 が入ります。10 進数フィールドは、パック 10 進数フィールドのようにデータを表示するのに必要な最小バイト数を占有します。アンロードされたレコードの可変長列は、最大長に埋め込まれ、埋め込みなしの場合の実データのサイズを示す長さフィールドが、埋め込まれたデータ・フィールドの前に置かれます。CCSID 変換はサポートされません。エクスポートされたデータは、FM/Db2 プランをバインドするために CCSID 形式になります。

データを DSNTIAUL 形式でエクスポートするには、「**Template usage (テンプレートの使用法)**」のオプション 3 (「**Generate from input (入力からの生成)**」) またはオプション 4 (「**Generate and save (生成して保管)**」) を指定して、エクスポート・オプション 3. **DSNTIAUL format (3. DSNTIAUL 形式)** を選択します。この形式では、ヌル可能列の後に、ヌル標識が入った 1 バイトの 2 進数フィールドが置かれます。「From (元)」列がヌル値を持っていると、対応する「To (宛先)」フィールドのヌル標識フィールドに「?」が入り、そうでない場合には 0 が入ります。10 進数フィールドは、パック 10 進数フィールドのようにデータを表示するのに必要な最小バイト数を占有します。

データをコンマ区切り形式 (CSV 出力) でエクスポートするには、「**Template usage (テンプレートの使用法)**」のオプション 5 (「**None. CSV output (なし. CSV 出力)**」) を使用します。このオプションを指定すると、FM/Db2 は出力テンプレートを生成せずに、エクスポートされたデータを区切り文字で区切った可変長レコードとして書き込みます。区切り文字で区切られている形式の場合には、FM/Db2 は「**Null column display indicator (ヌル列入力標識)**」を使用して、ヌル可能列のデータがヌル値であることを示します。

データをユーザー定義形式でエクスポートするには、「**Template usage (テンプレートの使用法)**」のオプション 3 (「**Generate from input (入力からの生成)**」) またはオプション 4 (「**Generate and save (生成して保管)**」) を指定して、エクスポート・データ **4. User defined format (ユーザー定義形式)** を選択します。ユーザー定義形式の場合、FM/Db2 には、ヌル可能列のために以下のオプションがあります。

- ヌルを使用するかしないか。後者の場合、エクスポートされたデータ内に、ヌル標識に対応するフィールドはありません。「Export Options (エクスポート・オプション)」画面で「Null Indicators (ヌル標識)」の「Usage (使用法)」を **2. None (なし)** に設定します。
- ヌル標識を適用する列のデータの前または後のいずれかにヌル標識を置く。「Export Options (エクスポート・オプション)」画面で「Null Indicators (ヌル標識)」の「Placement (配置)」を **1. Before (前)** または **2. After (後)** に設定します。
- ヌル標識に 1 バイト (文字形式) または 2 バイト (符号付き整数書式) のいずれかを使用するには、「Export Options (エクスポート・オプション)」画面で、「Null Indicators (ヌル標識)」の「Type (タイプ)」を **1. One byte (1 バイト)** または **2. Two byte (2 バイト)** に設定します。標識 **Char** または **Integer** で使用される値を設定します。

データをユーザー定義形式でエクスポートして、1 バイト (文字形式) または 2 バイト (符号付き整数書式) のいずれかのヌル標識を出力レコード (適用する列のデータの前または後ろ以外) に置くには、「Export Options - (2 of 3) (エクスポート・オプション - (3 の 2))」パネルで、「Null Indicators (ヌル標識)」の「Placement (配置)」を **3. User defined (ユーザー定義)** に設定します。コピーブックを用意して「Template usage (テンプレートの使用法)」オプションの **1 (Above (上))** または **2 (Previous (前))** を指定し、「**Edit template mapping (TEMPLATE MAPPING 編集)**」を選択してヌル標識をマップする必要があります。コピーブックのフィールド名が Db2® 列名と同じでない場合、それぞれの Db2® 列をコピーブック内の該当するフィールドにマップする必要があります。

他の形式でデータをエクスポートするには、ユーザー定義のテンプレートを使用する必要があります。「**Template usage (テンプレートの使用法)**」オプション 1 (「**Above (上の指定)**」) を指定してパネルの「**To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)**」セクションで指定したテンプレートを使用するか、または「**Template usage (テンプレートの使用法)**」オプション 2 (「**Previous (直前の指定)**」) を指定してデータのエクスポート元の表で最後に使用したテンプレートを使用します。ヌル値可能な列をエクスポートする場合には、FM/Db2 はそれらの列を次のように処理します。ヌル可能列に対応するフィールドの後にマップされていない 2 バイトの 2 進数フィールドが続いている場合には、FM/Db2 はその列のヌル標識をこの 2 バイトの 2 進数フィールドにマップします。その他のすべての状況では、FM/Db2 はヌル標識を出力テンプレートのどのフィールドにもマップしません。

関連する参照先

[\[Editor Options \(4 of 8\) \(編集オプション \(8 の 4\)\)\] パネル ページ 667](#)

エクスポートのバッチ実行

Db2® の大きい表をエクスポートする場合には、エクスポートをバッチ・ジョブで実行することができます。

「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルの「**Batch execution (バッチ実行)**」オプションを選択すると、エクスポート機能をバッチ・ジョブで実行するのに必要な JCL がエクスポート・ユーティリティによって作成されます。生成された JCL は ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。「**Batch, using Db2® utility (バッチ、ユーティリティの使用)**」オプションを選択すると、JCL が Db2® UNLOAD ユーティリティに設定され、検討のために実行依頼の前に表示されます。

入力データのレコード構造を説明したテンプレートを含むデータ・セットを 1 つ以上持っている場合、データ・セットの詳細 (または TSO ALLOC ステートメント) を生成した JCL にキーワード TINPUT または TCIN を使用して指定できます。

同様に、出力データのレコード構造を説明したテンプレートを含むデータ・セットを 1 つ以上持っている場合、データ・セットの詳細 (または TSO ALLOC ステートメント) を生成した JCL にキーワード TOUTPUT または TCOUT を使用して指定できます。

エクスポート・データ・セットが存在しない場合には、それを作成するようにプロンプトが出されます。ただし、「**Batch data set creation (バッチ・データ・セット作成)**」オプションを選択することによって、エクスポート・データ・セットの作成をバッチ・ジョブの実行時まで据え置くことができます。このオプションを選択した場合、FM/Db2 は、バッチ・ジョブ用の JCL の中に、新しい順次エクスポート・データ・セットを作成します。

関連する参照先

[DBX \(エクスポート\) バッチ・コマンド ページ 1012](#)

エクスポートの使用法に関する注

エクスポート・ユーティリティ機能には、Db2® データを別の Db2® サブシステム間で移動する (つまり、一方の Db2® サブシステムからデータをエクスポートして、もう一方の Db2® サブシステムにインポートする) 方法があります。同一 Db2® サブシステムの表間でデータを移動する場合には、「Copy (コピー)」(3.3) を使用するか、直接 SQL ステートメントを実行してデータを移動する方が便利であることがわかります。

通常、エクスポート・ユーティリティ機能はボリュームが中程度以下のデータを Db2® 表から抜き出すのに適しています。大容量のデータをアンロードしたり移行するときに、Db2® ユーティリティの代わりとして使用するようにはなっていません。このような状況で Db2® ユーティリティは優れたパフォーマンスを提供します。

エクスポート・ユーティリティは、可能な限りバッチで実行することをお勧めします。

エクスポート・ユーティリティでは、Db2® ヌル標識の自動マッピングが提供されます。ただし、「Export Option (エクスポート・オプション)」で「Data format (データ形式)」に 4. 「User defined (ユーザー定義)」が、「Null Indicators (ヌル標識)」の「Placement (配置)」に 3. 「User defined (ユーザー定義)」が選択された場合は、テンプレート・エディターは、「Field Mapping (フィールドのマッピング)」パネルの「From (元)」テンプレートに別個の項目としてヌル標識を表示します。そのため、ヌル可能列に関連付けられているヌル標識をエクスポート・データ・セットのフィールドに再マップすることができます。エクスポート・データ・セットのデータ・フィールドを並べ替える場合には、最初にデフォルトのマッピン

グを使用してデータをエクスポートしてから、File Manager (Base) を使用してそのデータを必要な形式にマップすることをお勧めします。

FM/Db2 によって生成された FM/Db2 テンプレートを COBOL または PL/I コピーブックに変換する、サンプルの REXX exec が SFMNSAM1 に用意されています。

FM/Db2 によって生成された FM/Db2 テンプレートを COBOL または PL/I コピーブックに変換するには、以下のように TSO コマンドを指定します。

```
FMN2CPYB input output language
```

各部の意味は以下のとおりです。

input

File Manager Db2® テンプレートが入った、順次ファイルまたは区分データ・セットとメンバーの名前。

output

コピーブックが入った、順次ファイルまたは区分データ・セットとメンバーの名前。

language

生成されるコピーブックのタイプを決定する、任意指定のキーワード。有効な値は以下のとおりです。

COBOL
PL/I

指定されていない場合は、COBOL コピーブックが生成されます。

サンプルの REXX は、SYSPROC または SYSEXEC 連結内のライブラリーにコピーする必要があります。または、サンプルの exec が入ったライブラリー名をコマンドで指定することもできます。

関連するタスク

[ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)
[Db2 ユーティリティー・ジョブ用のバッチ JCL の生成 ページ 356](#)
[テンプレートの処理 ページ 75](#)

File Manager/Db2 エディター・セッションまたは SQL ステートメントからのデータの コピー

現行 FM/Db2 エディター・セッションから外部ファイルにデータを書き込むには、EXPORT 基本コマンドを使用します。または、現行 FM/Db2 エディター・セッションのデータを生成した SQL ステートメントを再実行して、この SELECT ステートメントの行を外部ファイルに書き込むこともできます。2 つ目の選択肢として、バッチ処理を使用してエクスポート操作を実行するために JCL デックを生成することができます。

データは、「Export utility (エクスポート・ユーティリティー)」(3.7) の場合と同じデータ形式でエクスポートできます。

エクスポート・プロセス中に、「Export Utility (エクスポート・ユーティリティー)」パネルがオプションで表示されます。このパネルで、エクスポートしたデータのデータ形式を入力します。

オプションで、「Export "To" (エクスポートの宛先)」パネルも表示されます。「Export "To" (エクスポートの宛先)」パネルでは、以下のことを行えます。

- エクスポートしたデータを入れるデータ・セットの名前を指定します。
- エクスポートするデータを記述するテンプレートまたはコピーブックが入っているデータ・セットの名前を指定します。
- テンプレート・データ・セットの処理オプションを指定します。
- エクスポート・データ・セットの後処理オプションを指定します。
- エクスポート・オプションを表示して、場合によっては変更します。
- テンプレート・エディターを使用して、ソースとエクスポートするデータの間のマッピングを表示して、場合によっては変更します。

関連する参照先

[「Export Utility \("From"\) \(エクスポート・ユーティリティの「元」\)」パネル ページ 698](#)

[「Export Utility \("To"\) \(エクスポート・ユーティリティの「宛先」\)」パネル ページ 702](#)

[「From \(元\)」データ・セットの詳細の指定 ページ 261](#)

[「To \(宛先\)」表の詳細の指定 ページ 257](#)

[EXPORT 基本コマンド ページ 927](#)

エクスポートされるデータのソースの指定

EXPORT 基本コマンドに ALL、NX、X、または EX パラメーターを使用して、エクスポートされるデータのソースを指定できます。

このパラメーターを指定すると、FM/Db2 は、現行 FM/Db2 エディター・セッション内のすべてまたは選択された行をターゲット・データ・セットにコピーします。

このパラメーターを省略すると、FM/Db2 は、現行 FM/Db2 エディター・セッションのデータを生成した SQL ステートメントを再び実行します。FM/Db2 は、SQL ステートメントによって取り出された行を、エクスポート・オプション・パネルで指定された行制限まで、ターゲット・データ・セットにエクスポートします。

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネルの「**Export Count (エクスポート・カウント)**」フィールドを使用して、大きい Db2® オブジェクト、または大きい結果表を生成する任意の SELECT ステートメントについて、FM/Db2 エディターにロードされるデータを制限できます。ALL パラメーターを指定せずに EXPORT 基本コマンドを発行すると、Db2® オブジェクトまたは任意の SELECT ステートメントからの結果表の行をすべてエクスポート・データ・セットに書き込むことができます。

関連する参照先

[EXPORT 基本コマンド ページ 927](#)

[「Export Utility \("From"\) \(エクスポート・ユーティリティの「元」\)」パネル ページ 698](#)

エクスポートされるデータの形式の指定

データは、多数のデータ形式でエクスポートできます ([エクスポートされるデータの形式 ページ 293](#)を参照)。

エクスポートされるデータのデータ形式は、EXPORT 基本コマンドに対するオプション・パラメーターとして指定できます。指定すると、パラメーターは、「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルに表示されている現行のデータ形式を指定変更します。

可能なパラメーター値は、SQLDA、Db2®、DSNTIAUL、USER、および CSV です。

関連する参照先

[EXPORT 基本コマンド ページ 927](#)

[「Export Options \(1 of 3\) \(エクスポート・オプション \(3 の 1\)\)」パネル ページ 691](#)

エクスポートされる行をラベル範囲で制限

処理される行を、FM/Db2 エディター・セッション内のすべての行ではなく、指定されたラベル範囲内の行のみに制限できます。



注: ラベル範囲を指定できるのは、ソース・パラメーター (ALL、NX、X、または EX) も指定した場合のみです。

「from」ラベルと「to」ラベルを指定する必要があります。

関連する参照先

[行へのラベルの割り当て ページ 152](#)

[EXPORT 基本コマンド ページ 927](#)

エクスポート・ユーティリティーと比較した場合の相違点

EXPORT 基本コマンドを使用してデータをエクスポートするためのプロセスは、以下の例外を除き、エクスポート・ユーティリティー機能 (3.7) を使用した場合と似ています。

- EXPORT 基本コマンドを使用してデータをエクスポートする場合は、「**Batch, using Db2® UNLOAD** (バッチ、UNLOAD の使用)」実行オプションは使用できません。
- ダイアログには、最初に「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルのオプションを表示します。「Export Utility (エクスポート・ユーティリティー)」パネルは表示されません。
- エクスポートするデータは、現行 FM/Db2 エディター・セッションを生成した SQL ステートメントの結果表、または現行 FM/Db2 エディター・セッションの行にできます。前者の場合、SQL ステートメントは、Db2® オブジェクト (例えば、編集機能を使用して入力した場合)、または任意の SQL ステートメント (例えば、4.1、4.2、4.3、または 4.4 のいずれかの SQL オプションを使用して入力した場合) を参照できます。任意の SQL ステートメントは複数の表の結合や副選択などを含む、任意の有効な SELECT ステートメントにできます。一方、エクスポート・ユーティリティーでエクスポートできるのは、Db2® オブジェクトのデータ (例えば、表、ビュー、別名) のみです。

- EXPORT 基本コマンドを使用して任意の SELECT ステートメント (例えば、FM/Db2 機能の 4.1、4.2、4.3、または 4.4 のいずれかを使用して入力されたもの) からバッチでデータをエクスポートする場合は、サポートされているテンプレート・マッピング操作に対していくつかの制限があります。

生成された JCL デックにおいてエディター・セッションで SELECT ステートメントの記述に使用されるテンプレートは利用できません。

CSV 形式でのエクスポートの場合: これは、テンプレートを使用して記述できません。つまり、エディター・セッションでテンプレートに対して行われた変更はすべて、データ・エクスポート時に破棄されます。出力には各列のデータが含まれます。

他のサポート対象形式でのエクスポートの場合:

- 必要に応じて、エディター・セッションで TE コマンドを使用して列を選択/選択解除します。
 - EXPORT BAT コマンドを発行して JCL デックを生成します。
 - エクスポート対象のデータを記述する出力テンプレートを保管する必要があります。これは、JCL デックにおいてパラメーターとして組み込まれます。
 - JCL デックが処理のために実行依頼されると、FM/Db2 は、JCL デックに指定された任意の SQL ステートメントに対して一時テンプレートを再作成し、テンプレート・マッピングを使用してエクスポート対象の列を識別します。エクスポート対象の列は、出力テンプレートに定義されている列です。
- 「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルには、エクスポートする多数の行を入力できる入力フィールドが含まれています。これは、FM/Db2 エディター・セッションにロードされる行数を制限する入力フィールドとは無関係に作動します。そのため、FM/Db2 編集を使用して結果表のいくつかの行を編集してから、その結果表のすべての行をデータ・セットにエクスポートできます。

関連する参照先

[「Export Options \(1 of 3\) \(エクスポート・オプション \(3 の 1\)\)」](#) パネル ページ 691

[「Export Utility \("From"\) \(エクスポート・ユーティリティーの「元」\)」](#) パネル ページ 698

[EXPORT 基本コマンド](#) ページ 927

EXPORT 基本コマンドを使用する方法

以下の 2 つの方法で、EXPORT 基本コマンドを使用できます。

- 任意の SQL ステートメントから外部ファイルにデータをエクスポートするには、以下のようになります。
 1. オプション 4.1、4.2、4.3、または 4.4 を使用して SQL SELECT ステートメントを作成します。SQL ステートメントは複数の表の結合や副選択などを含む、任意の有効な SQL ステートメントにできます。
 2. 結果表が大きい場合に、FM/Db2 エディターにロードされる行を制限するには、「Row count (行カウント)」フィールドを使用します。
 3. 結果表が正しいことを確認するには、編集セッションのデータを調べます。
 4. オプションで、テンプレートを編集して、不要な結果表の列を選択解除します。

5. 任意の SQL ステートメントの結果表からすべての行を外部ファイルにエクスポートするには、ALL パラメーターを指定せずに EXPORT コマンドを発行します。また、EXPORT BAT を発行すれば、JCL デックを生成して、任意の SQL ステートメントから行を外部ファイルにエクスポートできます。必要に応じて、生成した JCL を後で再利用するためにコピーできます。
- 選択したエディター・セッション行を外部ファイルにエクスポートするには、以下のようになります。
 1. 「Use edit (instead of browse) to display results ((ブラウザの代わりに) 編集を使用して結果を表示)」オプションが選択されていることを確認します。このオプションは、「FM/Db2 System Options (2 of 3) (システム・オプション (3 の 2))」パネルを使用して設定されます。
 2. オプション 4.1、4.2、4.3、または 4.4 を使用して SQL SELECT ステートメントを作成するか、FM/Db2 編集ユーティリティを使用して必要な Db2® オブジェクトを編集します。
 3. 除外行、非除外行、ラベル範囲、またはこれらの方法の組み合わせで必要なデータを分離するには、エディター・コマンドを使用します。
 4. OPT パラメーターおよび ALL、X、または NX のいずれかを指定して EXPORT 基本コマンドを発行します。必要なデータ形式が選択されていることを確認します。「Export "To" (エクスポートの「宛先」)」パネルで、必要なエクスポート・データ・セット名を入力して、後処理オプションを「MOD」に設定します。
 5. 最初に行をエクスポート・データ・セットにエクスポートした後で、エクスポートする追加の行を分離してから、EXPORT QUIET と、ALL、X、または NX と、オプションでラベル範囲の組み合わせを発行して、追加の行をエクスポートします。エクスポート・ファイルの MOD 設定によって、それぞれの追加の EXPORT 基本コマンドは新たにエクスポートされた行をエクスポート・データ・セットの最後に追加します。

データのスクランブル

データをスクランブルすると、実動(または「ライブ」)データを基にしてテスト・データを作成しながら、特定の列の値を変更できます。この方法では、機密情報がテスト・データに表示されないようにできます。

データをスクランブルするタイミング

コピー・ユーティリティ(オプション 3.3)、インポート・ユーティリティ(オプション 3.6)、またはエクスポート・ユーティリティ(オプション 3.7)のいずれかを使用してある場所から別の場所にデータをコピーする場合は、コピーする列の一部をスクランブルするか、またはすべての列をスクランブルするかを選択できます。

コピー、インポート、またはエクスポート・プロセス中にスクランブルを行うには、スクランブルするようにマークしたフィールドをマップした出力テンプレートを提供する必要があります。

スクランブルの規則

FM/Db2 は、以下の規則に従ってデータをスクランブルします。

- 値または範囲オプションが指定されていない場合:
 - 大文字の英字は、他の大文字の英字にスクランブルされます。
 - 小文字の英字は、他の小文字の英字にスクランブルされます。
 - DBCS 文字は、他の DBCS 文字にスクランブルされます。
 - 数値は、他の数値にスクランブルされます。

- その他すべての文字は変更されないままになります。
- 反復可能スクランブルでは、「**Leading zeros (先行ゼロ)**」を「YES」に設定して定義された数値フィールドおよびすべての非数値フィールドについて固有の結果が生成されます。
- 値リストを指定すると、列にはリストからの値が取り込まれます。
- 範囲を指定すると、結果の数は指定された範囲内の数になります。
- 「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」を「Random (ランダム)」または「Repeatable (反復可能)」に指定して、さらに値オプションと値データ・セットを指定すると、列にはデータ・セットからの値が取り込まれます。
- 「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」に「Translate (変換)」を指定すると、入力列値の突き合わせが行われ、値データ・セットからの対応する出力値が使用されます。

関連トピック

[スクランブル・オプションの指定 ページ 107](#)

[「Column Attributes \(列属性\)」パネル \(英数字\) ページ 492](#)

[「Column Attributes \(列属性\)」パネル \(数値\) ページ 498](#)

[「Value List Edit \(値リスト編集\)」パネル ページ 898](#)

[「Scramble Exit Specification \(スクランブル出口指定\)」パネル ページ 809](#)

操作方法

データのある場所から別の場所にコピーしたいが、どの方法が一番良いのかわからない場合、以下の節をお読みください。

以下の節では、データをコピーする際に遭遇する一般的な状況について説明します。各シナリオには、必要な結果を得るための方法を説明したステップバイステップの手順が示されています。



注: 次の例で、“ソース表”はデータのエクスポート元となる表を指し、“ターゲット表”はデータのインポート先となる表を指します。

同じ Db2® システム上の Db2® 表から別の表にデータをコピーする方法

シナリオ: Db2® 表にあるデータを別の Db2® 表にコピーしたいとします。ソースとターゲットの Db2® 表は、同じ Db2® システム上にあります。

FM/Db2 エクスポート・ユーティリティーおよびインポート・ユーティリティーの代わりに FM/Db2 コピー・ユーティリティー (3.3) の使用を検討してください。ソース表とターゲット表で列名が異なる、列の数が異なる、またはデータ・タイプの変換が必要な場合は、テンプレートの再マップを使用して、ソース表にある列をターゲット表の列にマップすることができます。ほとんどの場合、FM/Db2 はデータ・タイプの変換を自動的に行います。

関連するタスク

[ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)

[列のマッピング規則 ページ 119](#)

Db2® 表から別の (接続可能な) システム上にある別の Db2® 表にデータをコピーする方法

シナリオ: ある Db2® 表にあるデータを別の Db2® 表にコピーしたいとします。ソースとターゲットの Db2® 表が異なる Db2® システム上にあります。位置値を指定して、ソース Db2® システムから ターゲット Db2® システムに接続することができます。

FM/Db2 エクスポート・ユーティリティおよび FM/Db2 インポート・ユーティリティの代わりに FM/Db2 コピー・ユーティリティ (3.3) の使用を検討してください。同じ Db2 システム上の Db2 表から別の表にデータをコピーする方法 ページ 302 を参照してください。多数の行を転送する場合は、ネットワークの状態を考慮に入れた注意が必要となります。

関連するタスク

[ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)
[列のマッピング規則 ページ 119](#)

Db2® 表から別の (接続不可能な) システム上にある別の Db2® 表にデータをコピーする方法

シナリオ: ある Db2® 表にあるデータを別の Db2® 表にコピーしたいとします。ソースとターゲットの Db2® 表が異なる Db2® システム上にあります。位置値を指定して、ソース Db2® システムから ターゲット Db2® システムに接続することはできません。つまり、コピー・プロセスの一部として Db2® からデータを転送する必要があります。

データをコピーするには、次の 2 つのステップを実行する必要があります。

1. FM/Db2 エクスポート・ユーティリティ (3.7) を使用して、データを 順次ファイル (できれば) または VSAM ファイルにエクスポートします。通常は、デフォルトのマッピングで十分です。デフォルトのマッピングを使用するには、エクスポートの “To (宛先)” パネルにテンプレート・データ・セットとメンバー名を指定し、「**Template usage (テンプレート使用法)**」オプション 4 (「Generate and save (生成および保管)」) を選択します。転送するデータ量が大きい (10,000 行を超える) 場合は、「**Batch execution (バッチ実行)**」を選択してエクスポートをバッチで実行します。転送するデータ量が非常に大きい (100,000 行から 1,000,000 行を超える) 場合は、代わりに Db2® UNLOAD ユーティリティ (ユーティリティ 3.9 からアクセスする) の使用を検討してください。
2. FM/Db2 インポート・ユーティリティ (3.6) を使用して、エクスポートしたデータをターゲットの Db2® 表にロードします。ソース表とターゲット表で列名が異なる場合や、データ・タイプの変換が必要な場合は、テンプレートの再マップを使用して、ソース表にある列をターゲット表の列にマップすることができます。ほとんどの場合、FM/Db2 はデータ・タイプの変換を自動的に行います。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)
[エクスポートのバッチ実行 ページ 296](#)
[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)
[UNLOAD ユーティリティ ページ 391](#)
[列のマッピング規則 ページ 119](#)

関連する参照先

[「Export Utility \("To"\) \(エクスポート・ユーティリティの「宛先」\) パネル ページ 702](#)

選択したデータを Db2® 表から順次ファイルにコピーして再配列する方法

シナリオ: ある Db2® 表にあるデータを順次ファイルにコピーしたいとします。Db2® 表内の一部の列のデータのみが必要で、それらの列のデータを順次データ・セットで再配列したいものとします。

FM/Db2 エクスポート・ユーティリティ (3.7) は、Db2® オブジェクトからの選択した列のエクスポートをサポートしています。選択した列のみをエクスポートするには、「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネルでテンプレート編集し、不要な列を選択解除します。

FM/Db2 エクスポート・ユーティリティでは、エクスポート・データ・セットの列を並び替えることはできません。選択した列は常に、Db2® カタログで定義されている順序でエクスポートされます。これに対する簡単な対応策があります。それは、列を目的の順序で指定して、エクスポートする Db2® オブジェクトのビューを作成することです。次に、そのビューからデータをエクスポートして、必要な結果を得ます。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)
[データのマッピング ページ 112](#)

関連する参照先

[「Export Utility \("From"\) \(エクスポート・ユーティリティの「元」\) パネル ページ 698](#)

順次ファイルにエクスポートしたデータを記述するコピーブックを定義する方法

シナリオ: Db2® 表にデータがあり、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティを使用して、データを順次ファイルにコピーしてあります。エクスポートしたデータを記述するコピーブックを定義する必要があります。

コピーブックを、COBOL、HLASM、または PL/I のいずれかでコーディングする必要があります。Db2® データ・タイプごとのエクスポート・データ・セットに必要なスペースの量は、次の例で要約しています。

- 以下の定義を使用して作成した表からデータをエクスポートする必要があるものとします。

```
CREATE TABLE SAMPLE.EXPORT_EX
(COL1    INTEGER           NOT NULL
, COL2   SMALLINT         NOT NULL
, COL3   FLOAT(21)        NOT NULL
, COL4   FLOAT(53)        NOT NULL
, COL5   DECIMAL(1,0)     NOT NULL
, COL6   DECIMAL(15,7)    NOT NULL
, COL7   CHAR(10)         NOT NULL
, COL8   VARCHAR(10)     NOT NULL
, COL9   DATE             NOT NULL
, COL10  TIME             NOT NULL
, COL11  TIMESTAMP       NOT NULL
```



```
,COL12 ROWID GENERATED ALWAYS NOT NULL
)
```

エクスポートしたデータを記述する COBOL コピーブックは次のとおりです。

```
01 EXPORT-EXAMPLE.
* INTEGER DATA TYPE
  10 COL1          PIC S9(6) USAGE COMP.
* SMALLINT DATA TYPE
  10 COL2          PIC S9(4) USAGE COMP.
* FLOATING POINT (4 BYTES) DATA TYPE
  10 COL3          USAGE COMP-1.
* FLOATING POINT (8 BYTES) DATA TYPE
  10 COL4          USAGE COMP-2.
* PACKED DECIMAL DATA TYPE
  10 COL5          PIC S9(1)V USAGE COMP-3.
  10 FILLER        PIC X(15).
* PACKED DECIMAL DATA TYPE
  10 COL6          PIC S9(8)V9(7) USAGE COMP-3.
  10 FILLER        PIC X(8).
* CHARACTER DATA TYPE
  10 COL7          PIC X(10).
* VARCHAR DATA TYPE
  10 COL8.
  49 COL8-LEN      PIC S9(4) USAGE COMP.
  49 COL8-TEXT     PIC X(10).
* DATE DATA TYPE
  10 COL9          PIC X(10).
* TIME DATA TYPE
  10 COL10         PIC X(8).
* TIMESTAMP DATA TYPE
  10 COL11         PIC X(26).
* ROWID DATA TYPE
  10 COL12.
  49 COL12-LEN     PIC S9(4) USAGE COMP.
  49 COL12-TEXT    PIC X(40).
```

HLASM では、コピーブックは次のようになります。

```
EXAMPLE DSECT
* Integer data type
COL1 DS F
* Smallint data type
COL2 DS H
* Floating point (4 bytes) data type
COL3 DS E
* Floating point (8 bytes) data type
COL4 DS D
* Packed decimal data type (1 byte)
COL5 DS PL1
* Packed decimal data type (8 bytes)
COL6 DS PL8
* Character data type
COL7 DS CL10
* VARCHAR data type
COL8_LEN DS H
COL8_TXT DS CL10
* DATE data type
COL9 DS CL10
```

```

* TIME data type
COL10 DS CL8
* TIMESTAMP data type
COL11 DS CL26
* ROWID data type
COL12_LEN DS H
COL12_TXT DS CL40
END

```

PL/I では、コピーブックは次のようになります。

```

DCL 1 EXPORT_EXAMPLE UNALIGNED,
/* INTEGER DATA TYPE */
2 COL1 BIN(31,0),
/* SMALLINT DATA TYPE */
2 COL2 BIN(15,0),
/* FLOATING POINT (4 BYTES) DATA TYPE */
2 COL3 FLOAT,
/* FLOATING POINT (8 BYTES) DATA TYPE */
2 COL4 FLOAT(8),
/* PACKED DECIMAL DATA TYPE */
2 COL5 FIXED DEC(1,0),
2 COL5_PAD CHAR(15),
/* PACKED DECIMAL DATA TYPE */
2 COL6 FIXED DEC(15,7),
2 COL6_PAD CHAR(8),
/* CHARACTER DATA TYPE */
2 COL7 CHAR(10),
/* VARCHAR DATA TYPE */
2 COL8,
3 COL8_LEN BIN(15,0),
3 COL8_TEXT CHAR(10),
/* DATE DATA TYPE */
2 COL9 CHAR(10),
/* TIME DATA TYPE */
2 COL10 CHAR(8),
/* TIMESTAMP DATA TYPE */
2 COL11 CHAR(26),
/* ROWID DATA TYPE */
2 COL12,
3 COL12_LEN BIN(15,0),
3 COL12_TEXT CHAR(40);

```

以下の点に注意してください。

Db2® データ・タイプ

エクスポートされたデータ・セットではスペース。

INTEGER

4 バイト。

SMALLINT

2 バイト。

REAL (4 バイト)

4 バイト。

FLOAT (8 バイト)

8 バイト。

パック 10 進数

合計で 16 バイト。データは左寄せされます。未使用バイトには、2 進ゼロが入ります。DECIMAL(n,m) フィールドは、16 バイトのフィールド内の TRUNC($n/2$) + 1 バイト分を占めます。

CHAR(n)

n バイト。

VARCHAR(n)

$n+2$ バイト。データの前に、VARCHAR フィールド内の文字数が入った 2 バイトの 2 進数フィールドが置かれます。

DATE

10 バイト。注 1 を参照してください。

TIME

8 バイト。注 1 を参照してください。

TIMESTAMP

26 バイト。

ROWID

42 バイト。VARCHAR(40) 列に関して ROWID 列を定義します。

**注:**

1. 日付または時刻の出口が使用中の場合、DATE フィールドおよび TIME フィールドに必要な長さは異なる場合があります。

- Db2® 表にヌルを許可する列があり、以下の定義を使用して作成されている場合は、

```
CREATE TABLE SAMPLE.EXPORT_EX_NULL
(COL1    INTEGER
, COL2   SMALLINT
, COL3   FLOAT(21)
, COL4   FLOAT(53)
, COL5   DECIMAL(1,0)
, COL6   DECIMAL(15,7)
, COL7   CHAR(10)
, COL8   VARCHAR(10)
, COL9   DATE
, COL10  TIME
, COL11  TIMESTAMP
, COL12  ROWID  GENERATED ALWAYS NOT NULL
)
```

エクスポートしたデータを記述する COBOL コピーブックは次のとおりです。

```

01 EXPORT-EXAMPL2.
* INTEGER DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL1=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL1                PIC S9(6) USAGE COMP.
* SMALLINT DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL2=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL2                PIC S9(4) USAGE COMP.
* FLOATING POINT (4 BYTES) DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL3=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL3                USAGE COMP-1.
* FLOATING POINT (8 BYTES) DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL4=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL4                USAGE COMP-2.
* PACKED DECIMAL DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL5=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL5                PIC S9(1)V USAGE COMP-3.
  10 FILLER              PIC X(15).
* PACKED DECIMAL DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL6=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL6                PIC S9(8)V9(7) USAGE COMP-3.
  10 FILLER              PIC X(8).
* CHARACTER DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL7=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL7                PIC X(10).
* VARCHAR DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL8=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL8.
    49 COL8-LEN          PIC S9(4) USAGE COMP.
    49 COL8-TEXT        PIC X(10).
* DATE DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL9=NULL          PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL9                PIC X(10).
* TIME DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL10=NULL         PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL10              PIC X(8).
* TIMESTAMP DATA TYPE WITH NULL INDICATOR
  10 COL11=NULL         PIC S9(4) USAGE COMP.
  10 COL11              PIC X(26).
* ROWID DATA TYPE
  10 COL12.
    49 COL12-LEN         PIC S9(4) USAGE COMP.
    49 COL12-TEXT       PIC X(40).

```

HLASM では、コピーブックは次のようになります。

```

EXAMPLE2 DSECT
* Integer data type with null indicator
COL1_NI DS H
COL1 DS F
* Smallint data type with null indicator
COL2_NI DS H
COL2 DS H
* Floating point (4 bytes) data type with null indicator
COL3_NI DS H
COL3 DS E
* Floating point (8 bytes) data type with null indicator
COL4_NI DS H
COL4 DS D

```

```

* Packed decimal data type (1 byte) with null indicator
COL5_NI DS      H
COL5     DS      PL1
* Packed decimal data type (8 bytes) with null indicator
COL6_NI DS      H
COL6     DS      PL8
* Character data type with null indicator
COL7_NI DS      H
COL7     DS      CL10
* VARCHAR data type with null indicator
COL8_NI DS      H
COL8_LEN DS      H
COL8_TXT DS      CL10
* DATE data type with null indicator
COL9_NI DS      H
COL9     DS      CL10
* TIME data type with null indicator
COL10_NI DS     H
COL10    DS     CL8
* TIMESTAMP data type with null indicator
COL11_NI DS     H
COL11    DS     CL26
* ROWID data type
COL12_LEN DS     H
COL12_TXT DS     CL40
END

```

PL/I では、コピーブックは次のようになります。

```

DCL 1 EXPORT_EXAMPLE UNALIGNED,
/* INTEGER DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */
  2 COL1_NULL      BIN(15,0),
  2 COL1           BIN(31,0),
/* SMALLINT DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */
  2 COL2_NULL      BIN(15,0),
  2 COL2           BIN(15,0),
/* FLOATING POINT (4 BYTES) DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */
  2 COL3_NULL      BIN(15,0),
  2 COL3           FLOAT,
/* FLOATING POINT (8 BYTES) DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */
  2 COL4_NULL      BIN(15,0),
  2 COL4           FLOAT(8),
/* PACKED DECIMAL DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */
  2 COL5_NULL      BIN(15,0),
  2 COL5           FIXED DEC(1,0),
  2 COL5_PAD       CHAR(15),
/* PACKED DECIMAL DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */
  2 COL6_NULL      BIN(15,0),
  2 COL6           FIXED DEC(15,7),
  2 COL6_PAD       CHAR(8),
/* CHARACTER DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */
  2 COL7_NULL      BIN(15,0),
  2 COL7           CHAR(10),
/* VARCHAR DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */
  2 COL8_NULL      BIN(15,0),
  2 COL8,
    3 COL8_LEN     BIN(15,0),
    3 COL8_TEXT    CHAR(10),
/* DATE DATA TYPE WITH NULL INDICATOR */

```

```

2 COL9_NULL          BIN(15,0),
2 COL9              CHAR(10),
/* TIME DATA TYPE WITH NULL INDICATOR          */
2 COL10_NULL        BIN(15,0),
2 COL10             CHAR(8),
/* TIMESTAMP DATA TYPE WITH NULL INDICATOR      */
2 COL11_NULL        BIN(15,0),
2 COL11             CHAR(26),
/* ROWID DATA TYPE                               */
2 COL12,
3 COL12_LEN         BIN(15,0),
3 COL12_TEXT        CHAR(40);

```

最初と 2 番目の定義セットの違いは、Db2®ヌル値を許可している列の列定義の直前に 2 バイトの 2 進数フィールドが追加されている点だけです。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

[非 Db2 データを含むテンプレートの使用 ページ 78](#)

関連する参照先

[\[Export Utility \("From"\) \(エクスポート・ユーティリティの「元」\)\] パネル ページ 698](#)

FM/Db2 エクスポート・ユーティリティで使用されているデータ形式とは異なるデータ形式を記述するコピーブックを使用してデータをエクスポートする方法

シナリオ: Db2® 表にデータがあるとします。定義したコピーブックを使用してデータをエクスポートしたいのですが、そのコピーブックは、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティで使用されるデータ形式とは異なるデータ形式を記述しています。

コピーブックを、COBOL、HLASM、または PL/I のいずれかでコーディングする必要があります。FM/Db2 エクスポート・ユーティリティ (3.7) を使用してエクスポートを実行する場合は、コピーブックが入っているデータ・セットの名前を「Export "To" (エクスポートの宛先)」パネルの「**To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)**」セクションに入力します。「**Template usage (テンプレート使用法)**」処理オプションを 1 (「Above (上の指定)」) に設定します。4 (「Generate and save (生成および保管)」) を指定すると、コピーブックが上書きされます。コピーブックでフィールドの名前を変更している場合、またはデータ・タイプの変換が必要な場合は、テンプレートの再マップを使用して、ソース表にある列をターゲット・データ・セットにあるフィールドにマップすることができます。

Db2® データに 1 つ以上のヌル可能列が含まれている場合、Db2®ヌル標識の処理が制限されます。エクスポートするデータに Db2®ヌル標識が必要な場合は、その列に対応するテンプレート内のフィールドの定義の直後に 2 バイトの 2 進数フィールドを含める必要があります。

例えば、Db2®ヌル値の入力を許可する CHAR(10) フィールドの場合は、次のようにコーディングします。

```

* CHARACTER DATA TYPE
10 COL7              PIC X(10).
10 COL7-NULL        PIC S9(4) USAGE COMP.

```

また、エクスポートの開始時には、2 バイト・フィールドはマップ解除されている必要があります。つまり、テンプレートの再マップを使用してその表の列をこのフィールドにマップしてはなりません。マップすると、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティーはその列のヌル標識を、エクスポートされたデータ・セットに組み込みません。

Db2® ヌル標識をエクスポート・データ・セット内の別の位置にマップする必要がある場合、または Db2® ヌル標識を別のデータ・タイプに変換する必要がある場合は、以下を実行できます。

1. デフォルトのマッピングを使用するか、または上記の Db2® ヌル標識用に定義されたフィールドを含むユーザー定義のコピーブックを使用して、データをエクスポートします。
2. 最終的なデータ形式を記述するテンプレートを作成します。
3. File Manager “Base” を使用して、データをエクスポート・データ・セットから最終的な形式にコピーします。REXX を使用して、Db2® ヌル標識 (場合によっては他のデータ値) をコピー・プロセスの一部として変換することが必要となる場合があります。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)

[非 Db2 データを含むテンプレートの使用 ページ 78](#)

関連する参照先

[\[Export Utility \(“To”\) \(エクスポート・ユーティリティーの「宛先」\)\] パネル ページ 702](#)

第9章. Db2® オブジェクトのリストの処理

Db2® オブジェクトのグループを調べたい場合、「Object List (オブジェクト・リスト)」ユーティリティ (3.4) を使用して、必要なオブジェクトをリストまたは印刷することができます。

「Object List (オブジェクト・リスト)」ユーティリティ機能を使用して、以下を指定することができます。

- オブジェクトのリストを表示または印刷するかどうか。
- リストまたは印刷するオブジェクトのタイプ。
- リストまたは印刷するオブジェクトを制限する基準。
- リストされたオブジェクトの処理時に適用するオプション。

「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネルを表示するには、以下のようになります。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、③ (「Utilities (ユーティリティ)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルから、④ (「Object List (オブジェクト・リスト)」) を入力します。

これで、「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネルが表示され、表示または印刷したい Db2® オブジェクトの種類を指定を開始することができます。



注:

1. FM/Db2 のインストール時に使用可能なオプションの1つを使用すると、Db2® カタログ表のビューを、FM/Db2 がアクセスする表用に作成することができます。ビューのセットには、FM/Db2 が必要とする表内の列のみが含まれています。

インストール時にこのオプションを使用すると、「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用する場合に得られる結果が影響を受ける可能性があります。FM/Db2 がビューにアクセスする場合は、表の列ではなく、ビューの列のみが表示されます。ビューの列が、基礎表より少ない場合は、表示される情報は不完全になります。

2. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。

このオプションを選択すると、カタログ表情報のすべての表示に、すべての使用可能な列 (「DB2 for z/OS SQL 解説書」で「unused (未使用)」または「internal use only (社内使用)」とマークされている列もすべて含む) が含まれます。



デフォルトでは、このオプションは選択されていません。このオプションを選択すると、「Show "unused" catalog table columns (「未使用」カタログ表列の表示)」オプションおよび「Show "internal use only" catalog table columns (「社内使用」カタログ表列の表示)」オプションのすべての設定値がオーバーライドされます。

関連するタスク

[処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
[オブジェクト・リストの表示または印刷 ページ 313](#)

関連する参照先

[\[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)\] パネル ページ 756](#)
[\[Object List Utility \(オブジェクト・リスト・ユーティリティ\)\] パネル ページ 747](#)
[\[Utility Functions \(ユーティリティ機能\)\] パネル ページ 896](#)
[\[Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)\] パネル ページ 661](#)

オブジェクト・リストの表示または印刷

オブジェクトのリストを表示または印刷するには、次のようにします。

1. リストするオブジェクトを識別するオブジェクト識別基準を指定します。

Location (場所)

リストするオブジェクトの位置。

リストするオブジェクトが現在場所にある場合には、このフィールドは空白のままにしてください。そうでない場合には、リモート位置の絶対パス名、使用可能なすべてのリモート位置を表示するためのアスタリスク (*)、あるいはワイルドカード文字を使用したパターンを入力してください。アスタリスクを単独またはパターンで指定すると、FM/Db2 はその入力仕様と一致した位置を示す選択リストを表示します。

希望する位置を選択するには、必要な項目に対して「s」を入力して Enter キーを押します。

Owner (所有者)

Db2® オブジェクトを作成した担当者名前。

所有者に関係なくオブジェクトを選択するには、このフィールドを空白のままにしてください。そうでない場合には、オブジェクトのリストを所有者によって制限するために、所有者のフルネーム、またはワイルドカード文字を使用したパターンを入力してください。この入力フィールドが空白以外の場合には、FM/Db2 はリストされるオブジェクトをユーザーが指定した所有者選択基準と一致するオブジェクトだけに制限します。

Name (名前)

Db2® オブジェクトの名前。

名前に関係なくオブジェクトを選択するには、このフィールドを空白のままにしてください。そうでない場合には、オブジェクトのリストを名前によって制限するために、オブジェクトの絶対パス名、またはワイルドカード文字を使用したパターンを入力してください。この入力フィールドが空白以外の場合には、FM/Db2 はリストされるオブジェクトをユーザーが指定した名前選択基準と一致するオブジェクトだけに制限します。

Database/collection/schema (データベース/コレクション/スキーマ)

データベース、コレクション、またはスキーマの名前。名前は、絶対パス名またはパターンとすることができます。この名前は、オブジェクトのリストを、指定されたデータベース、コレクション、またはスキーマに入っているオブジェクトのみに制限するために使用します。パターンを指定すると、名前がパターンの指定と一致するデータベース、コレクション、またはスキーマに入っているオブジェクトが、オブジェクトのリストに含まれます。

FM/Db2 がこのフィールドを使用する方法は、以下にリストされているオブジェクトのタイプによって異なり、そのタイプは「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」を使用して指定します (ステップ 3 ページ 315 を参照)。

オブジェクト・タイプ

フィールドの使用

Database (データベース)

許可されていません

Table space (表スペース)

データベース名として使用されます

Table, view, or alias (表、ビュー、または別名)

データベース名として使用されます

Index (索引)

データベース名として使用されます

Column (列)

データベース名として使用されます

Synonym (同義語)

データベース名として使用されます

Plan (計画)

許可されていません

Package (パッケージ)

コレクション名として使用されます

コレクション (collection)

許可されていません

DBRM

許可されていません

Schema (スキーマ)

スキーマ名として使用されます

Distinct type (特殊タイプ)

スキーマ名として使用されます

Function (関数)

スキーマ名として使用されます

Stored procedure (ストアド・プロシージャ)

スキーマ名として使用されます

Trigger (トリガー)

スキーマ名として使用されます

2. 該当する Db2® システム・カタログ表の列を指定する単純 SQL SELECT “*where clause (where 節)*” をコーディングすることによって、リストされるオブジェクトをさらに制限するための追加の選択基準を指定します。

Column (列)

関係する Db2® システム・カタログ表の列の名前。該当する Db2® システム・カタログ表の列をリストするには、アスタリスク (*) を入力します。

Operator (演算子)

有効な SQL 演算子。

Value (値)

列の内容と比較する値。

SQL ステートメントについて詳しくは、*DB2 for z/OS SQL 解説書* を参照してください。

例えば、列のリストをデータ・タイプが DATE の列だけに制限するには、以下の値を指定します。

```
Additional Selection Criteria:
Column . . . . . COLTYPE_____ Enter * to list catalog columns
Operator . . . . . =_____
Value . . . . . 'DATE'_____
```

3. リストするオブジェクトのタイプと、リストされたオブジェクトの処理に適用されるその他のオプションを指定します。

オブジェクト・タイプ

リストする Db2® オブジェクトのタイプを指定します。それぞれのオブジェクト・タイプの数字標識が「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネルに表示されます。この入力フィールドは必須ですが、デフォルトは「3」(Table/view/alias (表/ビュー/別名)) になります。

Confirm Db2® object drop (オブジェクト除去の確認)

オブジェクトに対して DR(op) コマンドを入力するたびに、FM/Db2 に確認パネルを表示させるかどうかを指示します。

/

オブジェクトに対して DROP コマンドを入力すると、確認パネルが表示されます。これはデフォルト設定です。

(空白)

オブジェクトに対して DROP コマンドを入力すると、確認パネルが表示されないでコマンドが実行されます。

4. オブジェクトのリストを表示または印刷するかどうかを指定します。
 - オブジェクトのリストを表示するには、コマンド行を空白のままにします。
 - オブジェクトのリストを印刷するには、コマンド行に「P」を入力します。
5. Enter キーを押します。

FM/Db2 は、指定したオブジェクト・タイプのオブジェクト・リスト・パネルを表示または印刷します。

関連するタスク

[入力フィールドでのアスタリスク \(*\) またはパターンの使用 ページ 51](#)

関連する参照先

[「Remote Db2 Location Selection \(リモート・ロケーション選択\)」パネル ページ 787](#)

処理、オブジェクト・リスト・パネル

オブジェクト・リストを表示するために必要なステップを完了すると、FM/Db2 は対応するオブジェクト・タイプのオブジェクト・リスト・パネルを表示します。

以下のページでは、すべてのオブジェクト・リスト・パネルに共通する機能について説明します。

[図 67: 通常のオブジェクト・リスト・パネルのレイアウト ページ 317](#) は、通常のオブジェクト・リスト・パネルを示しています。

図 67. 通常のオブジェクト・リスト・パネルのレイアウト

Process Options Utilities Help ①									
FM/Db2 (DFG2) Databases									
Location: Format TABL									
SEL	DATABASE NAME	DATABASE CREATOR	STORAGE GROUP NAME	BUFFER POOL NAME	INTERNAL DATABASE IDENTIFIER	AUTHID THAT CREATED	TYPE OF DATABASE		
*	* ③	*	*	*	*	* *	*	④	
----	#1-----	#2-----	#3-----	1- #4-----	-----	#5 #7-----	#20-----		
****	Top of data ****								
⑤	ABC	SHRIKE2	DDDDDDDDDD	BP0		270 SHRIKE2			
---	DSN8D81A	CJUNELL	DSN8G810	BP0		259 CJUNELL			
---	DSN8D81P	CJUNELL	DSN8G810	BP0		260 CJUNELL			
---	DSNATPDB	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0		257 CJUNELL			
---	DSNDB04	SYSIBM	SYSDEFLT	BP0		4 SYSIBM			
---	DSNDB06	SYSIBM				6 SYSIBM			
---	DSNDB07	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0		7 CJUNELL	WORKFILE		
---	DSNRGFDB	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0		258 CJUNELL			
---	DSNRLST	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0		256 CJUNELL			
---	JLV3D81A	SHRIKES	JLV3G810	BP0		266 SHRIKES			
---	JLV3D81P	SHRIKES	JLV3G810	BP0		267 SHRIKES			
---	JOHND81P	SHRIKES	JOHNG810	BP0		265 SHRIKES			
---	KPS8D81A	SHRIKES	KPS8G810	BP0		268 SHRIKES			
---	KPS8D81P	SHRIKES	KPS8G810	BP0		269 SHRIKES			
---	KPSAD81A	SHRIKES	KPSAG810	BP0		262 SHRIKES			
---	KPSAD81P	SHRIKES	KPSAG810	BP0		263 SHRIKES			
---	RFM0133	SHRIKES	SYSDEFLT	BP0		261 SHRIKES			
****	End of data **** ⑥								
Command ==> ⑦									
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	Scroll PAGE				
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F6=RChange F12=Cancel				

①

アクション・バー。アクション・バーでは、オブジェクト・リスト・パネルの機能を選択します。

②

列見出し行。下に表示されるデータの列の名前が表示されます。正符号(“+”)、負符号(“-”)、またはその両方の符号(“+-”)は、その列がスクロール可能であり、現在表示されていないデータがさらに含まれていることを示します。

③

フィルター行。これは、1つ以上の列にフィルター・ストリングを指定して FM/Db2 が表示する情報を制限できる場所です。

④

演算子行。これは、対応するフィルター・パターンと協同する演算子を1つ以上の列に指定できる場所です。

⑤

行コマンド域。

⑥

データの終わりマーカ。このマーカ行は、FM/Db2 から戻されたデータの終わりを示します。

⑦

コマンド行。この行には、任意の Db2® コマンド、ISPF コマンド、または FM/Db2 基本コマンドを指定できます。

関連するタスク

- [オブジェクト・リストの表示または印刷 ページ 313](#)
- [スクロール可能表示フィールドでの作業 ページ 44](#)
- [表示されるデータの制限 ページ 318](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)
- [表示されたデータのソート ページ 332](#)

関連する参照先

- [\[Collections \(コレクション\)\] パネル ページ 491](#)
- [\[Columns \(列\)\] パネル ページ 510](#)
- [\[Databases \(データベース\)\] パネル ページ 616](#)
- [\[Database Request Modules \(データベース要求モジュール\)\] パネル ページ 614](#)
- [\[Distinct Types \(特殊タイプ\)\] パネル ページ 645](#)
- [\[Functions \(関数\)\] パネル ページ 710](#)
- [\[Indexes \(索引\)\] パネル ページ 724](#)
- [\[Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)\] パネル ページ 480](#)
- [\[Application Plans \(アプリケーション・プラン\)\] パネル ページ 483](#)
- [\[Schemas \(スキーマ\)\] パネル ページ 807](#)
- [\[Stored Procedures \(ストアド・プロシージャ\)\] パネル ページ 843](#)
- [\[Synonyms \(同義語\)\] パネル ページ 845](#)
- [\[Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)\] パネル ページ 875](#)
- [\[Table Spaces \(表スペース\)\] パネル ページ 866](#)
- [\[Triggers \(トリガー\)\] パネル ページ 884](#)

表示されるデータの制限

表示しないデータを“フィルター処理する”ことによって FM/Db2 が表示するデータを制限することができます。

データをフィルターに掛けるには、以下を使用します。

- 1 つ以上の列のフィルター・パターンを指定するためのフィルター行。
- さらに、オプションで、対応するフィルター・パターンと組み合わせで動作する演算子を指定するための演算子行。

フィルター行の使用

フィルター行で、列見出しの下にあるアスタリスク (*) は、表示されるデータを制限するためにフィルター・パターンを入力する区域を示します。必要な場合は、複数の列にフィルター・パターンを指定できます。

英数字列の場合は、アスタリスクは左端位置に表示されます。数値列の場合は、アスタリスクは右端位置に表示されます。

フィルター・パターン区域では、以下を使用します。

- すべての値を突き合わせる場合は、アスタリスク (*) を単独で使用する。または
- パターンに一致するオブジェクトのみを選択する場合は、ワイルドカード文字を使用したフィルター・パターンを使用する。

フィルター・パターンは、以下の特殊文字のいずれかを使用して指定します。

アスタリスク (*)

nul文字または1文字以上のストリングを表します。パーセント記号 (%) と同じ働きをします。

パーセント記号 (%)

nul文字または1文字以上のストリングを表します。アスタリスク (*) と同じ働きをします。

'_' (下線)

任意の単一文字を表します (ただし末尾ブランクを除く)。

ある列にフィルター・パターンを指定すると、FM/Db2 は、その列の内容が指定したフィルター・パターンに一致するオブジェクトだけを選択します。



注: その列に対して (演算子行で) 演算子も指定した場合は、FM/Db2 は、フィルター・パターンと一緒に演算子を使用してオブジェクトの突き合わせを行います (以下のセクションを参照)。

英数字列では、FM/Db2 は、入力したフィルター・パターンを、各行の列の内容の先頭からの文字と突き合わせます。すなわち、フィルター・パターン DEF は「DEF」および「DEFG」とは一致しますが、「CDEF」とは一致しません。

数値列では、FM/Db2 は、入力したフィルター・パターンを、各行の列の内容の値と突き合わせます。すなわち、検索指数 7 は 7 が入っている列とは一致しますが、例えば 70 や 17 とは一致しません。

以下の例で、FM/Db2 が表示するデータを制限するためのフィルター・パターンの使用方法について説明します。(以下の例では、演算子行上の対応区域に演算子が指定されていないと想定しています。)

パターン・フィルター

オブジェクトが選択されときの列の内容

*

任意の英数字ストリング

ABC*

“ABC” で始まる任意の英数字ストリング

ABC

ストリング “ABC” が含まれている任意の英数字ストリング

A_C

先頭文字が “A” で最後の文字が “C” である任意の 4 文字の英数字ストリング

%BC_

“BC” の後にもう 1 文字あるストリングが含まれている任意の英数字ストリング

123

数値列の場合: 値 123

23

数値列の場合: 値 23

演算子行の使用

演算子行を使用して、フィルター行の対応区域に指定されたフィルター・パターンと一緒に FM/Db2 が使用する演算子を指定します。必要な場合は、複数の列に演算子を指定できます。フィルター・パターンも指定してある列には、通常、演算子を 1 つだけ指定します。

演算子行に演算子を入力するには、必要な演算子を、必要な列の演算子区域内の任意の位置に入力します。処理は左から右に行われます。FM/Db2 は、出会った最初の演算子だけを認識し、演算子フィールドに入力されたその他の文字はすべて無視されます。例えば、演算子フィールドに “=>” と入力した場合、FM/Db2 はこれを “=” として取り扱い、“>” を無視します。

演算子を削除するには、その演算子をスペースで上書きします。

以下の演算子のいずれかを使用できます。

空白

“LIKE” を意味します。対応するフィルター・パターン内の *、%、または _ の各文字は、特殊文字として扱われます。一致が起こるのは、フィルター・パターンが、特殊文字を考慮した後のデータに一致した場合です。

!(または) ~

“NOT LIKE” を意味します。対応するフィルター・パターン内の *、%、または _ の各文字は、特殊文字として扱われます。一致が起こるのは、フィルター・パターンが、特殊文字を考慮した後のデータに一致しなかった場合です。

=

“等しい” を意味します。数値データ・タイプの場合、特殊文字は対応するフィルター・パターン内で使用できません。非数値データ・タイプの場合、*、%、および _ の各文字は使用できますが、特殊文字として扱われません。*、%、および _ の各文字は、その文字自体にのみ突き合わせできます。

!=、<=>、(または) <>

“等しくない” を意味します。数値データ・タイプの場合、特殊文字は対応するフィルター・パターン内で使用できません。非数値データ・タイプの場合、*、%、および _ の各文字は使用できますが、特殊文字として扱われません。*、%、および _ の各文字は、その文字自体にのみ突き合わせできます。

<

“より小さい” を意味します。数値データ・タイプの場合、特殊文字は対応するフィルター・パターン内で使用できません。非数値データ・タイプの場合、*、%、および _ の各文字は使用できますが、特殊文字として扱われません。*、%、および _ の各文字は、その文字自体にのみ突き合わせできます。

<=, !>, (または) ->

“より小か等しい”を意味します。数値データ・タイプの場合、特殊文字は対応するフィルター・パターン内で使用できません。非数値データ・タイプの場合、*、%、および_の各文字は使用できますが、特殊文字として扱われません。*、%、および_の各文字は、その文字自体にのみ突き合わせできます。

>=, !<, (または) -<

“より大か等しい”を意味します。数値データ・タイプの場合、特殊文字は対応するフィルター・パターン内で使用できません。非数値データ・タイプの場合、*、%、および_の各文字は使用できますが、特殊文字として扱われません。*、%、および_の各文字は、その文字自体にのみ突き合わせできます。

>

“より大きい”を意味します。数値データ・タイプの場合、特殊文字は対応するフィルター・パターン内で使用できません。非数値データ・タイプの場合、*、%、および_の各文字は使用できますが、特殊文字として扱われません。*、%、および_の各文字は、その文字自体にのみ突き合わせできます。

列の演算子フィールドに以下のコマンドを入力することもできます。

X

列をデータ表示から除外します。結果は、テンプレートの編集および列の選択解除と同じで、データの再表示が続きます。

W*

列の表示幅を列の最大値にリセットします。非数値データ・タイプがある列に対してコマンドが入力された場合にのみ有効です。

Wnnn

列の表示幅を *nnn* (*nnn* は、6 から列の表示幅の表示可能な最大値までの整数にする必要があります) に設定します。非数値データ・タイプがある列に対してコマンドが入力された場合にのみ有効です。

ある列に演算子を指定すると、FM/Db2 は、まずその演算子に対応するフィルター・パターンに適用し、次に、その列の内容が、結果として生じたフィルター・パターンに一致するオブジェクトのみを選択します。

以下の例で、FM/Db2 が表示するデータを制限するために、フィルター・パターンと一緒に演算子を使用する方法について説明します。

パターン・フィルター (演算子)**オブジェクトが選択されるときの内容****ABC* (ブランク)**

“ABC”で始まる任意の英数字ストリング

ABC* (=)

ストリング“ABC*”が入っている

ABC* (ー)

ストリング“ABC*”が入っていない

A (>)

先頭文字が“A”より大きい英数字ストリング

A_C (->)

最初の 3 文字がストリング“A_C”より小か等しい英数字ストリング

123 (=)

数値列の場合: 値 123 を含む

23 (<)

数値列の場合: 23 未満の値を含む

例をご覧ください。図 67: 通常のオブジェクト・リスト・パネルのレイアウト ページ 317 は、データベース・オブジェクト・タイプのリストを示しています。表示される列を、以下の条件を満たすものに制限するには、

- データベースの作成者が SHRIKES である
- ストレージ・グループの名前が K という文字で始まる
- 社内データベースの ID が 264 より大である

以下のようにフィルター・パターンと演算子を入力します。

1. 列見出し「DATABASE CREATOR」の下のフィルター行に `SHRIKES` と入力します。
2. 列見出し「STORAGE GROUP NAME」の下のフィルター行に `K*` と入力します。
3. 列見出し「INTERNAL DATABASE IDENTIFIER」の下のフィルター行に `264` と入力し、さらに、演算子行に `>` と入力します。

図 68. オブジェクト・リスト: データベース

Process Options Utilities Help							
FM/Db2 (DFG2)				Databases			
Location:							
SEL	DATABASE NAME	DATABASE CREATOR	STORAGE GROUP NAME	BUFFER POOL NAME	INTERNAL DATABASE IDENTIFIER	AUTHID THAT CREATED	Format TYPE OF DATABASE
	*	SHRIKES	K*	*	264	*	*
----	#1----	#2-----	#3-----1-	#4-----	----	> #7-----	#20-----
****	Top of data ****						
----	ABC	SHRIKE2	DDDDDDDDDD	BP0		270 SHRIKE2	
----	DSN8D81A	CJUNELL	DSN8G810	BP0		259 CJUNELL	
----	DSN8D81P	CJUNELL	DSN8G810	BP0		260 CJUNELL	
----	DSNATPDB	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0		257 CJUNELL	
----	DSNDB04	SYSIBM	SYSDEFLT	BP0		4 SYSIBM	
----	DSNDB06	SYSIBM				6 SYSIBM	
----	DSNDB07	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0		7 CJUNELL	WORKFILE
----	DSNRGFDB	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0		258 CJUNELL	
----	DSNRLST	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0		256 CJUNELL	
----	JLV3D81A	SHRIKES	JLV3G810	BP0		266 SHRIKES	
----	JLV3D81P	SHRIKES	JLV3G810	BP0		267 SHRIKES	
----	JOHND81P	SHRIKES	JOHNG810	BP0		265 SHRIKES	
----	KPS8D81A	SHRIKES	KPS8G810	BP0		268 SHRIKES	
----	KPS8D81P	SHRIKES	KPS8G810	BP0		269 SHRIKES	
----	KPSAD81A	SHRIKES	KPSAG810	BP0		262 SHRIKES	
----	KPSAD81P	SHRIKES	KPSAG810	BP0		263 SHRIKES	
----	RFM0133	SHRIKES	SYSDEFLT	BP0		261 SHRIKES	
****	End of data ****						
Command ==>							
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetrie	F5=RFind	Scroll PAGE		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F6=RChange		
					F12=Cancel		

4. Enter キーを押します。以下のように、指定した検索基準で制限されたデータベース・オブジェクト・タイプのリストが表示されます。

図 69. オブジェクト・リスト: データベース (リストはフィルター・パターンと演算子を使用して制限されています)

Process Options Utilities Help							
FM/Db2 (DFG2)				Databases			
Location:							
SEL	DATABASE NAME	DATABASE CREATOR	STORAGE GROUP NAME	BUFFER POOL NAME	INTERNAL DATABASE IDENTIFIER	AUTHID THAT CREATED	Format TABL TYPE OF DATABASE
*	*	SHRIKES	K*	*	264	*	*
----	#1-----	#2-----	#3--+-1-	#4-----	>---#5	#7-----	#20-+----
****	Top of data		****				
	KPS8D81A	SHRIKES	KPS8G810	BP0	268	SHRIKES	
	KPS8D81P	SHRIKES	KPS8G810	BP0	269	SHRIKES	
****	End of data		****				

Command ==> _____ Scroll PAGE

F1=Help F2=Zoom F3=Exit F4=CRetriev F5=RFind F6=RChange
 F7=Up F8=Down F9=Swap F10=Left F11=Right F12=Cancel

Db2® オブジェクトのリストの中で行または列を探し出す

「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」を使用してデータを表示する際、FM/Db2 の「View (表示)」または「Edit (編集)」を使用してデータを表示するときと類似した方法で、LOCATE 基本コマンドを使用して行または列を探し出すことができます。

関連する参照先

[行の位置決め ページ 144](#)

[列の位置決め ページ 144](#)

[LOCATE 基本コマンド ページ 951](#)

Db2® オブジェクトのリストでストリングを検出する

「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」を使用してデータを表示する際、FM/Db2 の「View (表示)」または「Edit (編集)」を使用してデータを表示するときと類似した方法で、FIND 基本コマンドを使用して特定のストリングを検出できます。

関連する参照先

[ストリングの検索 ページ 148](#)

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

行コマンド域 (Cmd) の使用法

リストされたオブジェクトの行コマンド域 (見出し **[Cmd]** の下) には、行コマンド、またはいずれかの汎用行コマンド (?、=、または ROW) を入力できます。

行コマンド

表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324 に、それぞれのオブジェクト・タイプで使用できる行コマンドを示します。

表 22. オブジェクト・リスト行コマンド

コマンド	説明	Database	Table space	Table/View	Index	Column	Synonym	Plan	Package	Collection	DBRM	Schema	Distinct Type	Function	Procedure	Trigger	Storage Group	Sequence
A	オブジェクトを変更する	Y	Y	Y	Y									Y	Y			
ADD	表検査制約を追加する			Y ¹⁵														
ALS	オブジェクトの別名を表示する			Y														
AT	LOB 列の補助表を表示する			Y		Y												
B	オブジェクトをブラウズする			Y			Y ¹⁶				Y							
BI	オブジェクトをバインドする							Y	Y									
BT	補助表の基本表を表示する			Y														
C	表をコピーする			Y			Y ¹⁶											
CBI	オブジェクトをコピーしてバインドする								Y									
CDI	列の分布統計 (RUNSTATS で生成) を表示する			Y														
CH	子 (従属) 表を表示する			Y														
CHR	子関係 (参照制約) を表示する			Y														
CK	表検査制約に関する情報を表示する			Y														
COL	オブジェクトの列を表示する			Y	Y	Y ¹⁷												

15. 使用できるのは表制約のリストからだけです。

16. 位置が指定されず、所有者が SQLID の場合、同義語の名前が機能パネルにコピーされます。それ以外の場合、同義語が解決され、解決された名前がコピーされます。

17. 使用できるのはオブジェクト特権のリストからだけです。

表 22. オブジェクト・リスト行コマンド

(続く)

コマンド	説明	Database	Table space	Table/View	Index	Column	Synonym	Plan	Package	Collection	DBRM	Schema	Distinct Type	Function	Procedure	Trigger	Storage Group	Sequence
COM	オブジェクトにコメントする			Y		Y							Y	Y	Y	Y		
CR	このオブジェクトと同様にオブジェクトを作成する	Y	Y	Y	Y		Y						Y	Y	Y	Y	Y	Y
CRA	オブジェクトの別名を作成する			Y			Y											
CRS	データベースの表スペースを作成する	Y																
CRT	表スペースに表を作成する		Y															
CRX	索引を作成する			Y														
CS	オブジェクトの列を記述する (COL コマンドで指定された情報の省略形)。			Y														
D	オブジェクトのデータベースを表示する	Y ¹⁷	Y	Y	Y												Y	
DEP	オブジェクトの依存性を表示する			Y ¹⁵				Y	Y									Y
DI	列の分布統計を表示する					Y												
DR	オブジェクト/制約を除去する	Y	Y	Y	Y		Y						Y	Y	Y	Y	Y	Y
DS	データベース構造を表示する	Y	Y															
DT	ソース・データ・タイプ (列) または特殊タイプ (スキーマ) を表示する					Y						Y						
E	オブジェクトを編集する			Y			Y ¹⁶											
EDC	使用可能/使用不可の接続を表示する							Y	Y									
F	関数を表示する											Y						

表 22. オブジェクト・リスト行コマンド

(続く)

コマンド	説明	Database	Table space	Table/View	Index	Column	Synonym	Plan	Package	Collection	DBRM	Schema	Distinct Type	Function	Procedure	Trigger	Storage Group	Sequence
FC	外部キーの元の列を表示する			Y ¹⁸														
FK	外部キーに定義された参照完全性に関する情報を表示する			Y														
FRE	オブジェクトを解放する							Y	Y									
G	オブジェクトに特権を授与する	Y	Y	Y		Y		Y	Y	Y			Y	Y	Y		Y	Y
GEN	Db2® カタログからオブジェクトの SQL を生成する	Y	Y	Y	Y							Y	Y	Y	Y			
H	オブジェクトの同音異義語 (名前の類似するオブジェクト) を表示する					Y												
I	オブジェクトの詳細を表示する	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y		Y		Y	Y	Y	Y		
ICS	オブジェクトのイメージ・コピーの状況を表示する	Y	Y		Y													
L	オブジェクトのコレクションを表示するか、表の場合はこの表の行を表示する									Y ¹⁷								
LAB	オブジェクトにラベルを付ける			Y		Y												
LC	データ・セットの LISTCAT 情報を表示します。	Y ¹⁹	Y ¹⁹															
LPT	オブジェクトの PLAN_TABLE 表をリストする							Y	Y									
M	オブジェクトの DBRM を表示する							Y										

18. 使用できるのは外部キーのリストからだけです。

19. 使用できるのはイメージ・コピーのリストからだけです。

表 22. オブジェクト・リスト行コマンド

(続く)

コマンド	説明	Database	Table space	Table/View	Index	Column	Synonym	Plan	Package	Collection	DBRM	Schema	Distinct Type	Function	Procedure	Trigger	Storage Group	Sequence
O	関連ストアド・プロシージャを表示する											Y						
P	このオブジェクトの特権に関する情報を表示する	Y	Y	Y		Y		Y	Y	Y		Y	Y	Y	Y		Y	
PA	親表を表示する			Y														
PAR	親関係 (参照制約) を表示する			Y														
PARM	ルーチン・パラメータを表示する													Y	Y			
PC	このオブジェクトの列の特権を表示する			Y ¹⁷														
PK	この表の基本キーを表示する			Y														
PKG	オブジェクトのパッケージを表示する			Y	Y			Y	Y ¹⁷	Y				Y	Y	Y		
PKL	オブジェクトのパッケージ・リストを表示する							Y	Y	Y								
PL	オブジェクトのプランを表示する			Y	Y			Y ¹⁷	Y	Y	Y							
PR	表を印刷する			Y			Y ¹⁶											
PS	このオブジェクトのスキーマの特権に関する情報を表示する												Y	Y	Y	Y		
PST	区画統計を表示する			Y		Y												
PT	オブジェクトのパーツを表示する		Y		Y												Y	
R	当該オブジェクトの特権を取り消す ¹⁷	Y	Y	Y				Y	Y	Y		Y	Y	Y	Y			
RBI	オブジェクトを再バインドする							Y	Y									

表 22. オブジェクト・リスト行コマンド

(続く)

ポイント コマンド	説明	Database	Table space	Table/View	Index	Column	Synonym	Plan	Package	Collection	DBRM	Schema	Distinct Type	Function	Procedure	Trigger	Storage Group	Sequence
RDT	データ・タイプを戻す													Y				
ROW (また は 7)	結果表のこの行のす べての列を表示する	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
RT	TOCOPY を回復する	Y ¹⁹	Y ¹⁹															
S	オブジェクトの表ス ペースを表示する	Y	Y ¹⁷	Y				Y	Y								Y	
SCH	オブジェクトのス キーマを表示する											Y ¹⁷	Y	Y	Y ¹⁷	Y		
SEL	このオブジェクトの SQL SELECT ステート メントを作成する			Y			Y ¹⁶											
SEQ	ID 列情報を表示する					Y												
SQL	オブジェクトの SQL ス テートメントを表示する							Y	Y	Y	Y					Y		
SYN	オブジェクトの同 義語を表示する			Y				Y	Y									
T	オブジェクトの 表を表示する	Y	Y	Y ²⁰	Y	Y	Y	Y	Y				Y			Y		
TC	外部キーの宛先 列を表示する			Y ¹⁸														
TR	トリガーを表示する			Y								Y						
UTL	オブジェクトに対する Db2® ユーティリ ティー・ジョブを実行する		Y	Y	Y		Y ¹⁶											
V	オブジェクトを表示する			Y			Y ¹⁶											
VER	オブジェクトのパー ジョンを表示する								Y									
VOL	ボリュームを表示する															Y	Y	

20. 使用できるのはオブジェクトがビューまたは別名るとき、あるいはオブジェクト特権のリストからだけです。

表 22. オブジェクト・リスト行コマンド

(続く)

コマンド	説明	Database	Table space	Table/View	Index	Column	Synonym	Plan	Package	Collection	DBRM	Schema	Distinct Type	Function	Procedure	Trigger	Storage Group	Sequence
VS	ビューの作成方法を表示する			Y ²¹														
VW	ビューを表示する			Y			Y											
X	オブジェクトの索引を表示する	Y		Y		Y		Y	Y								Y	
XC	オブジェクトの索引および索引列を表示する			Y														
XPT	索引のパーツを表示する															Y	Y	

関連するタスク

[行コマンド照会 \(?\) ページ 329](#)[等号 \(=\) ページ 330](#)[ROW ページ 331](#)

行コマンド照会 (?)

行コマンド域に「?」を入力すると、このオブジェクト・タイプに入力できる行コマンドのリストが FM/Db2 によって表示されます。図 70: 有効な行コマンドのリストを表示するための ? 行コマンドの使用法 ページ 330 に、有効な行コマンドのリストの例 (この場合には同義語オブジェクト・タイプ) を示します。

21. 使用できるのはオブジェクトがビューであるときだけです。

図 70. 有効な行コマンドのリストを表示するための ? 行コマンドの使用法

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Object List Line Commands          Row 1 to 6 of 6

Type S against the required line command and press Enter.

Sel Command  Description
-   B        Browse table
-   C        Copy table
-   CR       Create a synonym
-   CRA      Create an alias
-   DR       Drop synonym
-   E        Edit table
-   I        Details about synonym
-   PR       Print table
-   ROW      Show all columns for this row
-   SEL      Build a SELECT statement
-   T        Show tables
-   UTL      Utility functions

Command ==>> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions F12=Cancel
    
```

有効なコマンドのリストからコマンドを選択するには、「Sel」列に「s」を入力します。

関連する参照先

[「Object List Line Commands \(オブジェクト・リスト行コマンド\)」パネル ページ 741](#)

[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#)

等号 (=)

行コマンド域に '=' を入力すると、FM/Db2 は前の行コマンドを実行します。

図 71: 等号 (=) 行コマンドの使用 ページ 331 に、= 行コマンドの使用を示します。FM/Db2 が実行した前の行コマンドは DS (データベース DSNRLST の構造の表示) です。FM/Db2 がこのコマンドを実行した後で元のパネルに戻ると、行コマンド域の先頭にアスタリスクが表示されています。リストされた別のオブジェクト (この場合にはデータベース FMN2) の行コマンド域に '=' を入力すると、FM/Db2 はそのオブジェクトに DS コマンドを実行します。

図 71. 等号 (=) 行コマンドの使用

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Databases          Row 1 to 10 of 63

Location:

Cmd  Name      Owner  +  Storage  Buffer  Created  Index
     *  *      *  Group   Pool    DBID By    +  T E  Buffer
     *  *      *  *      *      *  *      *  * *  Pool
-----
DSNDB04  SYSIBM  SYSDEFLT  BP0      4  SYSIBM  E  BP0
DSNDB06  SYSIBM  SYSDEFLT  BP0      6  SYSIBM  E  BP0
DSNDB07  FMNUSER SYSDEFLT  BP0      7  FMNUSER W  BP0
*S_____ DSNRLST  FMNUSER  SYSDEFLT  BP0    256  FMNUSER  E  BP0
_____ DSNRGFDB  FMNUSER  SYSDEFLT  BP0    257  FMNUSER  E  BP0
=_____ FMN2     FMNUSER  SG01      BP0    258  FMNUSER  E  BP0
_____ FMDB2     FMNUSER  SYSDEFLT  BP0    259  FMNUSER  E  BP0
_____ DSN8D61P BRADB   DSN8G610  BP0    261  BRADB   E  BP0
_____ DSN8D61A BRADB   DSN8G610  BP0    260  BRADB   E  BP0
_____ DSN8D61L BRADB   DSN8G610  BP0    262  BRADB   E  BP0

Command ==>> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit    F4=Expand  F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F10=Left   F11=Right  F12=Cancel

```

図 72: 複数回の等号 (=) 行コマンドの使用 ページ 331 に示すように “=” 行コマンドを複数回入力すると、FM/Db2 は実行するたびに元のパネルに戻らないで、リストで指定されたそれぞれのオブジェクトに連続して行コマンド (この場合には DS) を実行します。

図 72. 複数回の等号 (=) 行コマンドの使用

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Databases          Row 1 to 10 of 63

Location:

Cmd  Name      Owner  +  Storage  Buffer  Created  Index
     *  *      *  Group   Pool    DBID By    +  T E  Buffer
     *  *      *  *      *      *  *      *  * *  Pool
-----
DSNDB04  SYSIBM  SYSDEFLT  BP0      4  SYSIBM  E  BP0
DSNDB06  SYSIBM  SYSDEFLT  BP0      6  SYSIBM  E  BP0
DSNDB07  FMNUSER SYSDEFLT  BP0      7  FMNUSER W  BP0
*S_____ DSNRLST  FMNUSER  SYSDEFLT  BP0    256  FMNUSER  E  BP0
_____ DSNRGFDB  FMNUSER  SYSDEFLT  BP0    257  FMNUSER  E  BP0
=_____ FMN2     FMNUSER  SG01      BP0    258  FMNUSER  E  BP0
_____ FMDB2     FMNUSER  SYSDEFLT  BP0    259  FMNUSER  E  BP0
=_____ DSN8D61P BRADB   DSN8G610  BP0    261  BRADB   E  BP0
=_____ DSN8D61A BRADB   DSN8G610  BP0    260  BRADB   E  BP0
_____ DSN8D61L BRADB   DSN8G610  BP0    262  BRADB   E  BP0

Command ==>> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit    F4=Expand  F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F10=Left   F11=Right  F12=Cancel

```

ROW

行コマンド域に `ROW` を入力すると、FM/Db2 は指定されたオブジェクトの各列に対して Db2® カタログ表に保持されている列名およびその値を表示します。

一度に複数の ROW 行コマンドを入力できます。

図 73: ROW 行コマンドの使用 ページ 332 に、同義語オブジェクト TCONA の行コマンド域に入れた ROW 行コマンドの使用法を示します。

図 73. ROW 行コマンドの使用

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                               Synonyms                               Row 1 to 11 of 36

Location:

Cmd  Synonym      + Owner  + Table/View Name  + Owner  +      Created
*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----
----- DEPT      HARFOUJ  DEPT              DSN8810  HARFOUJ
----- DEPT      KIEFERA  DEPT              DSN8810  KIEFERA
----- SDEPT      KIEFERA  DEPT              DSN8810  KIEFERA
----- VPSTRDE1     BRADB    VPSTRDE1         FMDB2    BRADB
----- VPSTRDE2     BRADB    VPSTRDE2         FMDB2    BRADB
----- VASTRDE1     BRADB    VASTRDE1         FMDB2    BRADB
----- EMP       BRADB    EMP               FMDB2    BRADB
----- VPHONE     BRADB    VPHONE           FMDB2    BRADB
ROW__ TCONA        BRADB    TCONA            FMDB2    BRADB
----- DEPT      BRADB    DEPT              FMDB2    BRADB
----- VDEPT      BRADB    VDEPT            FMDB2    BRADB

Command ==>> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit      F4=Expand   F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F10=Left   F11=Right   F12=Cancel
    
```

図 74: ROW 行コマンドの使用結果 ページ 332 にその結果を示します。この場合には、列名は Db2@ カタログ表 SYSSYNONYMS からの名前です。

図 74. ROW 行コマンドの使用結果

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                               Display Row                               Row 1 to 7 of 7

Column Name      Column Value
*-----*-----
NAME             TCONA
CREATOR          BRADB
TBNAME          TCONA
TBCREATOR        FMDB2
IBMREQD         N
CREATEDBY        BRADB
CREATEDTS       2001-05-02-10.01.58.268038
***** END OF Db2 DATA *****

Command ==>> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit      F4=Expand   F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F10=Left   F11=Right   F12=Cancel
    
```

パネルに表示される項目数は、見出しのすぐ下のアスタリスク (*) でマークされた区域に検索基準を入力して制限することができます。

関連するタスク

[表示されるデータの制限 ページ 318](#)

表示されたデータのソート

SORT 基本コマンドは、現行オブジェクト・リストの列をソートするために使用します。

1 列を (昇順で) ソートするには、以下のようにします。

1. コマンド行で `sort` と入力します。
2. ソートする列内にカーソルを合わせます。
3. Enter キーを押します。

FM/Db2 が列を昇順にソートします。

複数列を昇順または降順でソートするには、以下のようにします。

1. コマンド行で `sort` と入力します。
2. カーソルがどの列内にも位置づけられていないことを確認します。
3. Enter キーを押します。

FM/Db2には、「Sort Fields (ソート・フィールド)」パネルが表示されます。

パネルに表示される項目数は、見出しのすぐ下のアスタリスク (*) でマークされた区域に検索基準を入力して制限することができます。

関連するタスク

[表示されるデータの制限 ページ 318](#)

関連する参照先

[「Sort Fields \(ソート・フィールド\)」パネル ページ 834](#)

[SORT 基本コマンド ページ 974](#)

リバース・エンジニアリング

リバース・エンジニアリングによって、データベース・カタログで Db2® オブジェクトをリバース・エンジニアリングできます。

リバース・エンジニアリングでは、Db2® オブジェクトを再作成するために必要な SQL ステートメントが生成されます。

以下のオブジェクトをリバース・エンジニアリングするには、対応するオブジェクト・リスト・パネルで GEN 行コマンドを使用します。

- Database (データベース)
- Table space (表スペース)
- Table or View (表またはビュー)
- Index (索引)
- Schema (スキーマ)
- Distinct type (特殊タイプ)

- Function (関数)
- Stored procedure (ストアド・プロシージャ)



注: GEN 行コマンドは、現行サーバーのオブジェクトにのみ適用されます。リモート位置にあるオブジェクトに対して GEN 行コマンドを入力すると、「Generate SQL From Db2® Catalog (カタログからの SQL の生成)」パネルが表示されるときに、そのロケーション情報が廃棄されます。

リモート位置にあるオブジェクトの DDL を生成するには、最初にそのロケーションに接続してから、GEN 行コマンドを使用します。

図 75: データベース・オブジェクト・リスト・パネルに入力された GEN 行コマンド ページ 334 に、データベース・オブジェクト・リスト・パネルに入力された GEN 行コマンドを示します。

図 75. データベース・オブジェクト・リスト・パネルに入力された GEN 行コマンド

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2) ----- Databases ----- Row 51 to 54 of 54
Location:

Cmd  Name      Owner      Storage  Buffer      Created      Index
     *-----+ *-----+ *-----+ *-----+ *-----+ *-----+
     CONVDB4  OSPEED     SYSDEFLT  BP0        302 OSPEED     E BP0
GEN__ JOHNLEDP  SIROED    JOHNLEG0  BP0        304 SIROED     E BP0
     GPCOPYL  GRAHAMP   GRAHAMP0  BP0        276 GRAHAMP    E BP0
     UTILBIG1 OSPEED     DB2BIG    BP0        306 OSPEED     E BP0
***** END OF Db2 DATA *****

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Expand   F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F10=Left   F11=Right   F12=Cancel
    
```

リバース・エンジニアリングの通常の使用には、以下が含まれます。

- 現在の定義に変更を適用してフォールバック目的に使用できるように、変更を行う前にオブジェクトの DDL を抽出する。
- Db2® オブジェクトを別の Db2® サブシステムに移動する。リバース・エンジニアリングを (Db2® 表のアンロードおよびロード機能と一緒に) 使用して、生成された SQL およびバッチ・ジョブに手作業でいくつかの変更を行った後で、オブジェクトを移動することができます。

データベース、表スペース、および表オブジェクトの抽出時には、すべての従属オブジェクトも生成できます。これには、表スペース、表、索引、ビュー、同義語、別名、参照制約、表検査、および表トリガーが含まれます。スキーマでのオブジェクトの抽出時には、リバース・エンジニアリングによって従属特殊タイプ、関数、およびストアド・プロシージャを抽出することができます。これらのオブジェクトに対する許可もすべて生成できます。

バッチ・ジョブまたはオンライン・ジョブを使用して SQL ステートメントを生成することができます。FM/Db2 を使用して大きいカタログから複数のオブジェクトを抽出する場合は、バッチ・ジョブをお勧めします。

GEN 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Generate SQL From Db2® Catalog (カタログからの SQL の生成)」パネルを表示します。

「Generate SQL From Db2® Catalog (カタログからの SQL の生成)」パネルでは、以下を行うことができます。

- オプションとして、以下の新規値を指定する。
 - ストレージ・グループ (表スペースおよび索引スペースに対して別のストレージ・グループを使用できません)。
 - データベース。
 - 新規オブジェクト所有者の指定。指定すると、オブジェクトの作成時に新規所有者が使用されます。
 - 新規スキーマ名 (該当する場合) の指定。指定すると、オブジェクトの作成時に新規スキーマが使用されます。
 - FM/Db2 が、生成された SQL を入れるデータ・セットの指定。
 - SQL の生成をバッチ・ジョブまたはオンライン・ジョブとして実行するかどうかの指定。
 - 生成された SQL にリバース・エンジニアリングで SQL COMMIT ステートメントが追加される回数の指定。
 - Db2® のデフォルトのパラメーターを除去するか、それとも生成された SQL に保持するかを指定。

BATCH 実行モードを指定した場合、FM/Db2 は、バッチ・ジョブを生成し、ISPF 編集セッションでジョブを表示して、ジョブの実行依頼を出す前に必要な変更ができるようにします。TSO を指定すると、FM/Db2 は SQL ステートメントをオンラインで生成して、その結果を表示します。

関連するタスク

[パフォーマンス上のヒント ページ 335](#)

関連する参照先

[「Generate SQL From Db2 Catalog \(カタログからの SQL の生成\)」パネル ページ 712](#)

パフォーマンス上のヒント

抽出プログラムのパフォーマンスを改善するには、Db2® カタログへの以下の索引の追加を検討してください。

SYSDBAUTH の場合

(database,(grantor,grantee))

SYSCHECKS の場合

(towner,tbname)

SYSRELS の場合

(creator,tbname,relname)

SYSRESAUTH の場合

(qualifier,name,(grantor,grantee,obtype))

SYSTABAUTH の場合

(tcreator,tname,(grantor,grantee,granteetype))

SYSCOLAUTH の場合

(creator,tname,(dategranted,timegranted))

オブジェクトの要求が非常に少ない場合でも、バッチでの操作モードを推奨します。これは、設計処理が標準の Db2® カタログ索引に基づいているためであり、処理の一部ではカタログ表が直接参照されないでスキャンされることを意味していません。

考慮事項

リバース・エンジニアリングには、以下の考慮事項が適用されます。

- FM/Db2 は VCAT 定義の表スペースおよび索引の IDCAMS DEFINE CLUSTER ステートメントを抽出しません。
- DSETPASS (password) で定義された表スペースおよび索引に対して生成された SQL には、次のような SPUFI コメント行が入ります。

```
--      DSETPASS XXXXXXXX
```

FM/Db2 は、カタログのデータ・セット・パスワードを表示しません。FM/Db2 はコメント行を生成して警告を出します。

- 実際に割り振られるか、または実際に使用されるスペース割り振りを生成する機能は、Db2® カタログの情報によって異なります。表スペースまたは索引スペースの実際のデータ・セット・サイズは検索されません。これらのオプションは、選択したオブジェクトに対して STOSPACE および RUNSTATS を最近実行している場合のみ使用できません。

第 10 章. 印刷

FM/Db2 には、印刷出力を表示または印刷できる、以下のようなさまざまなユーティリティがあります。

- Db2® 表またはビューの内容を印刷するには、印刷ユーティリティ機能 (3.1) を使用します。
- 印刷データ・セットに保持している現行 FM/Db2 エディター・セッションからの印刷出力をブラウズして、オプションでページするには、印刷ブラウズ・ユーティリティ機能 (3.11) を使用します。
- 監査証跡データ・セットの内容を使用して監査証跡報告書を印刷するには、監査証跡ユーティリティ機能 (3.10) を使用します。

これらの各ユーティリティについて、この章の残りの部分で説明します。

関連するタスク

[Db2 表の内容の印刷 ページ 337](#)

[FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342](#)

[監査証跡報告書の印刷 ページ 344](#)

Db2® 表の内容の印刷

Db2® 表またはビューの内容を印刷するには、印刷ユーティリティ機能 (3.1) を使用します。

データを印刷する場合には、以下のことが可能です。

- 印刷する行の選択。
- 印刷する列と、列がリストに配置される順序の選択。
- 列データ・タイプに従って形式設定された Db2® 表またはビューの印刷。
- カスタマイズした列見出しの指定。
- 印刷する行数の制限。

印刷の制限

印刷する行数を指定して、印刷する行数を制限できます。

Db2® オブジェクトのすべての行を印刷するには、0 (ゼロ) または ALL を指定します。

行の選択

印刷行基準を選択して、印刷する行を選択できます。

「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルを表示するには、以下のようになります。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、3 (「Utilities (ユーティリティ)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルから、1 (「Print (印刷)」) を入力します。

これで「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルが表示され、印刷する Db2® 表またはビューの名前、印刷する行数、データを印刷する方法を制御するその他のオプションを指定できます。

これらの詳細の指定を完了したら、Enter キーを押します。

データを印刷する前に、「**Edit options (オプションの編集)**」を (「/」を使用するか、あるいは事前にこのオプションに“A”選択文字を使用するかのいずれかによって) 選択した場合は、「Print Utility Options (印刷ユーティリティ・オプション)」パネルが表示されます。

データを印刷する前に、「**Edit template (テンプレートの編集)**」を (「/」を使用するか、あるいは以前にこのオプションに“A”選択文字を使用するかのいずれかによって) 選択した場合は、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルが表示されます。

「**Batch execution (バッチ実行)**」を (「/」を使用するか、このオプションに対して前に“A”選択文字を使用しているかのいずれかによって) 選択した場合には、生成された JCL が ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。

上記のオプションをいずれも選択しなかった場合には、FM/Db2 はデータを印刷します。

印刷出力の形式設定

印刷出力の形式設定は、以下によって制御されます。

設定: Print settings (option 0.0.1) (印刷設定 (オプション 0.0.1))

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルを使用して指定できる一部の処理オプションは、印刷出力に次のような影響を与えます。

Output destination (出力宛先)

印刷対象の出力の送信先は、次のようになります。

SYSPRINT

現行の SYSPRINT 割り振りに、印刷出力を送信します。

通常、SYSPRINT は端末に割り振られるため、このオプションは TERMINAL と同じになります。ただし、SYSPRINT は、他の方法で割り振ることができます。

Terminal (端末)

印刷出力を端末に送信します。

Data Set (データ・セット)

出力は、「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに指定される印刷データ・セットに累積されます。このデータ・セットは、PB コマンドを使用して参照したり、データ・セットの参照中に PRINT コマンドを発行することで、JES スプール・キューに印刷用に送信したりすることができます。(出力は、「Output class (出力クラス)」フィールドに指定された JES スプール・キュー・クラスに送信されます。)

REXX

印刷出力を REXX ステム変数 FILEM に送ります。

REXX プログラム内から印刷を制御したい場合、このオプションを選択してください。

Record length (レコード長)

出力の幅の桁数

Page skip (ページ・スキップ)

それぞれの機能からの出力が改ページで開始されるかどうか

Wide print (ワイド印刷)

印刷出力の最大の印刷行長が使用されるかどうか

Translate non-printable chars (印刷不能文字の変換)

印刷不能文字を空白に変換するかどうか

Uppercase message text (大文字のメッセージ・テキスト)

すべてのメッセージ・テキストが大文字に変換されるかどうか

Data set DISP (データ・セット DISP)

印刷出力が、既存データ・セットに追加されるか (MOD)、それを置き換えるか (OLD)。



注: このオプションは、PRINTDSN オプションで指定された印刷データ・セットに送信される出力のみに影響します。

Dump format (ダンプ形式)

16 進印刷出力にどの形式 (上下または左右) を使用するか

Data set name (データ・セット名)

PRINTOUT 印刷オプションを SYSOUT=c に設定する場合に、印刷出力が入れられる印刷データ・セット

Output class (出力クラス)

一時印刷データ・セットをブラウズしているときに PRINT コマンドを発行する場合に使用される JES スプール・キューのクラス。

Lines per page (ページ当たり行数)

出力のページ当たり行数

Record limits (レコード制限)

各レコードのどの部分を印刷するか

「Print Browse (印刷ブラウズ)」(オプション 3.11) を使用して、印刷データ・セットを表示することができます。印刷ブラウズを使用しているときは、PURGE 基本コマンドを使用して、印刷データ・セットを消去できます。印刷データ・セットの内容を SYSOUT クラスに転送するには、「Print」機能キー (F4) を押してください。

Print Mode (印刷モード)

「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルのこの入力フィールドは、印刷出力の形式を決定します。

関連する参照先

[「Set Print Processing Options \(印刷処理オプションの設定\)」パネル ページ 821](#)
[PURGE 基本コマンド ページ 963](#)

テンプレートの編集

データを印刷する前に、テンプレートを編集して、どのデータを印刷し、それがどのように表示されるかを指定できます。例えば、特定の列だけを印刷し、それに対して別の見出しを指定して、列の印刷順序を変更することができます。

テンプレートを編集するには、「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルの「**Edit template (テンプレートの編集)**」オプションを選択します。「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルが表示されます。

印刷のバッチ実行

大きな Db2® 表を印刷する場合には、印刷をバッチ・ジョブで実行することができます。

「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルで「**Batch execution (バッチ実行)**」オプションを選択すると、印刷ユーティリティは、印刷機能をバッチ・ジョブで実行するために必要な JCL を作成します。生成された JCL は ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。

関連するタスク

[「From \(元\)」表のテンプレートの編集 ページ 256](#)
[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)
[データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)
[Print settings \(option 0.1\) \(印刷設定 \(オプション 0.1\)\) ページ 65](#)
[テンプレートの処理 ページ 75](#)
[FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342](#)

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)
[「Utility Functions \(ユーティリティ機能\)」パネル ページ 896](#)
[「Print Utility \(印刷ユーティリティ\)」パネル ページ 760](#)
[「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

Db2® 表からの行の印刷

Db2® 表から行を印刷するには、以下を使用します。

- データをダンプ形式で印刷する RD (“Record Dump”) 基本コマンド
- データを文字形式で印刷する RP (“Record Print”) 基本コマンド

例

表示形式が SNGL のときの RD 出力の例を次に示します。

図 76. RD 基本コマンドからのサンプルの印刷出力 (SNGL 表示形式)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
Print Browse          SHRIKE2.FMN.LIST          Top of 64
Command ==>          Record AT TOP    Col 2          Scroll CSR
-----
---+---10---+---2---+---3---+---4---+---5---+---6---+---7---+---8
**** Top of data ****
IBM® File Manager for z/OS® Db2 Component
Key      Column      Data
-----
Printed record number - 1

PUN      EMPNO          000010
          FFFFFFFF
          000010

N        FIRSTNME     CHRISTINE<
          CCDCEECDC
          389923955

MIDINIT   I
F1=Help   F2=Split   F3=Exit    F4=Print   F5=RFind   F6=Purge   F7=Up
F8=Down   F9=Swap    F10=Left   F11=Right  F12=Cancel

```

表示形式が TABL のときの RD 出力の例を次に示します。

図 77. RD 基本コマンドからのサンプルの印刷出力 (TABL 表示形式)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
Print Browse          SHRIKE2.FMN.LIST          Top of 8
Command ==>          Record AT TOP    Col 2          Scroll CSR
-----
---+---10---+---2---+---3---+---4---+---5---+---6---+---7---+---8
**** Top of data ****
IBM® File Manager for z/OS® Db2 Component
EMPNO  FIRSTNME  MIDINIT  LASTNAME  WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE  JOB
CH(6)  VARCHAR(12) CH(1)    VARCHAR(15) CH(3)     CH(4)    DATE      CH(8)
PUN->+> <-N-+-----1-> -          <-N-+-----1-----> <-N          <-->          <----->          <----->
000010 CHRISTINE<  I          HAAS<          A00          3978          1965-01-01  PRES
FFFFFF  CCDCEECDC  C          CCCE          CFF          FFFF          FFFF6FF6FF  DDCE4444
000010 389923955  9          8112          100          3978          1965001001  79520000

**** End of data ****

F1=Help   F2=Split   F3=Exit    F4=Print   F5=RFind   F6=Purge   F7=Up
F8=Down   F9=Swap    F10=Left   F11=Right  F12=Cancel

```

表示形式が SNGL のときの RP 出力の例を次に示します。

図 78. RP 基本コマンドからのサンプルの印刷出力 (SNGL 表示形式)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
Print Browse          SHRIKE2.FMN.LIST          Top of 24
Command ==>          Record AT TOP          Col 2          Scroll SCR
Format CHAR          -----8
---+---10---+---2---+---3---+---4---+---5---+---6---+---7---+---8
**** Top of data ****
IBM® File Manager for z/OS® Db2 Component
Key      Column      Data
-----
Printed record number - 1

PUN      EMPNO      000010
N        FIRSTNME  CHRISTINE<
        MIDINIT   I
N        LASTNAME  HAAS<
N        WORKDEPT  A00
        PHONENO   3978
        HIREDATE  1965-01-01
        JOB       PRES
        EDLEVEL   18
F1=Help  F2=Split  F3=Exit  F4=Print  F5=RFind  F6=Purge  F7=Up
F8=Down  F9=Swap  F10=Left F11=Right F12=Cancel
    
```

表示形式が TABL のときの RP 出力の例を次に示します。

図 79. RP 基本コマンドからのサンプルの印刷出力 (TABL 表示形式)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
Print Browse          SHRIKE2.FMN.LIST          Top of 5
Command ==>          Record AT TOP          Col 2          Scroll CSR
Format CHAR          -----8
**** Top of data ****
IBM® File Manager for z/OS® Db2 Component
EMPNO  FIRSTNME  MIDINIT  LASTNAME  WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE  JOB
CH(6)  VARCHAR(12) CH(1)    VARCHAR(15) CH(3)    CH(4)    DATE      CH(8)
PUN-+> <-N-+----1-> - <-N-+----1-----> <-N <--> <-----> <----->
000010 CHRISTINE< I HAAS< A00 3978 1965-01-01 PRES
**** End of data ****

F1=Help  F2=Split  F3=Exit  F4=Print  F5=RFind  F6=Purge  F7=Up
F8=Down  F9=Swap  F10=Left F11=Right F12=Cancel
    
```

関連する参照先

[RD 基本コマンド ページ 963](#)

[RP 基本コマンド ページ 969](#)

FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示

印刷データ・セットに保持している現行 FM/Db2 エディター・セッションからの印刷出力をブラウズして、オプションでページするには、以下のいずれかを行います。

- PB 基本コマンドを発行する。
- 印刷ブラウズ・ユーティリティ機能 (3.11) を使用する。

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルの「PRINTDSN」入力フィールドを使用して印刷データ・セットを指定してください。

印刷出力をまだ作成していないときに PB 基本コマンドまたは「Print Browse (印刷ブラウズ)」ユーティリティを使用すると、FM/Db2 は、「Empty print data set (空の印刷データ・セット)」というメッセージを表示します。

以下の基本コマンドは、「Print Browse (印刷ブラウズ)」で使用できます。

- FIND
- LOCATE
- PRINT
- PURGE

「Print Browse (印刷ブラウズ)」ユーティリティを選択するには、以下のようになります。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、3 (「Utilities (ユーティリティ)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティ機能)」パネルから、11 (「Print browse (印刷ブラウズ)」) を入力します。

図 80 : Print Browse (印刷ブラウズ): 出力例 ページ 343 に、印刷ブラウズによって表示される印刷出力の例を示します。

図 80. Print Browse (印刷ブラウズ): 出力例

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
Print Browse          SHRIKE2.FMN.LIST          Top of 48
Command ==>          -----          Scroll CSR
          Record AT TOP          Col 2          Format CHAR
-----+-----10-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8
**** Top of data ****
IBM® File Manager for z/OS® Db2 Component
Db2 SSID: DFG2      SQL ID: SHRIKE2      Location:      Table/View: "DSN81010"."
EMPNO  FIRSTNM  MIDINIT  LASTNAME  WORKDEPT  PHONENO  HIREDATE  JOB
CH(6)  VARCHAR(12) CH(1)    VARCHAR(15) CH(3)     CH(4)    DATE      CH(8)
PUN->+ <-N+-----1-> -      <-N+-----1-----> <-N      <-->      <-----+-----> <-----+----->
000010 CHRISTINE  I        HAAS      A00       3978     1965-01-01 PRES
000020 Michael  L        THOMPSON  B01       3476     1973-10-10 MANAGER
000030 SALLY    A        KWAN      C01       4738     1975-04-05 MANAGER
000050 JOHN    B        GEYER     E01       6789     1949-08-17 MANAGER
000060 IRVING   F        STERN     D11       6423     1973-09-14 MANAGER
000070 EVA      D        PULASKI  D21       7831     1980-09-30 MANAGER
000090 NEIL    W        HENDERSON E11       5F98     1970-08-15 MANAGER
000100 THEODORE Q        SPENSER  E21       0972     1980-06-19 MANAGER
000110 VINCENZO G        LUCCHESI A00       3490     1958-05-16 SALESREP
F1=Help  F2=Split  F3=Exit  F4=Print  F5=RFind  F6=Purge  F7=Up
F8=Down  F9=Swap   F10=Left F11=Right F12=Cancel

```

関連するタスク

[Db2 表の内容の印刷 ページ 337](#)

[監査証跡報告書の印刷 ページ 344](#)

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[「Utility Functions \(ユーティリティ機能\)」パネル ページ 896](#)

[\[Set Print Processing Options \(印刷処理オプションの設定\)\] パネル ページ 821](#)

[FIND 基本コマンド ページ 930](#)

[LOCATE 基本コマンド ページ 951](#)

[PRINT 基本コマンド ページ 961](#)

[PURGE 基本コマンド ページ 963](#)

監査証跡報告書の印刷

監査証跡データ・セットの内容を使用して監査証跡報告書を印刷するには、監査証跡ユーティリティー機能 (3.10) を使用します。

監査証跡データ・セットが作成されるのは、以下のものを使用したときに「**Create an audit trail (監査証跡の作成)**」オプションが選択された場合です。

- View (表示) (オプション 1)
- Edit (編集) (オプション 2)
- Copy (コピー) (オプション 3.3)



注: バッチ・ジョブ FMNSMFX (FM/Db2 とともに提供される) を使用して、自分で監査証跡データ・セットを作成することができます。このジョブは、SMF ログ・ファイルからのデータを使用して監査証跡データ・セットを作成します。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネルを表示するには、以下のようになります。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、**3** (「Utilities (ユーティリティー)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルから、**10** (「Audit trail (監査証)」) を入力します。

監査証跡報告書を印刷するには、以下のようになります。

1. 印刷する監査証跡データが入っている監査証跡データ・セットの名前(「**データ・セット名**」)を指定します。

FM/Db2 の表示、編集、またはコピーのアクティビティーの結果として、FM/Db2 によって監査証跡データ・セットが作成された場合、名前の形式は次のようになります。

```
prefix.FMN2AUD.ssid.Dyymmdd.Thhmmss
```

または

```
userid.FMN2AUD.ssid.Dyymmdd.Thhmmss
```

各部の意味は以下のとおりです。

prefix

ユーザーの TSO 接頭部 (存在する場合)

userid

ISPF 共用プールの変数 ZUSER。通常、ユーザーの TSO ログイン ID と同じです。

FMN2AUD

監査ログ (証跡) としてデータ・セットを識別する定数

ssid

Db2® サブシステム ID

Dyymmdd

FM/Db2 がこの監査証跡データ・セットを作成した日付

Thhmmss

FM/Db2 がこの監査証跡データ・セットを作成した時刻



注: AUDITHLQ オプションが FMN0POPT に設定されている場合 (「*File Manager* カスタマイズ・ガイド」を参照)、監査証跡データ・セットの名前は *auditlq* です。FMNLOG.Dyymmdd.Thhmmss になります。

自分で監査証跡データ・セットを作成した場合には、提供されたバッチ・ジョブ FMNSMFX で指定したデータ・セット名を使用してください。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

2. 監査証跡報告書を識別しやすくするために、「**説明**」入力フィールドを使用してください。記述に組み込みスペースが入る場合には、全体を引用符で囲む必要があります。入力した記述は、報告書の「Formatted Audit Event Records (定様式監査イベント・レコード)」セクションに表示されます。
3. 以下の必要な処理オプションを選択します。

Print only changed columns (変更された列のみ印刷)

印刷行の量を制限します。

Keep data set after printing (印刷後にデータ・セットを保持)

データ・セットの印刷後にデータ・セットを保持するかまたは削除するか。

Browse report (報告書のブラウズ)

「Print Browse (印刷ブラウズ)」(オプション 3.11) を使って監査証跡報告書が表示されます。



注: 監査証跡報告書の内容は、「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルの「**PRINTOUT**」印刷オプションで指定したように SYSOUT クラスに転送されます。監査証跡報告書をブラウズするには、「**PRINTOUT**」印刷オプションを「SYSOUT=c」に設定してください。

Batch execution (バッチ実行)

バッチ・ジョブを使用して、監査証跡報告書を印刷するための JCL を生成します。コマンド構文については、「*File Manager* ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」の「AUD (Print Audit Trail Report) AUD (監査証跡報告書の印刷)」を参照してください。

4. Enter キーを押します。

監査証跡報告書

監査証跡報告書は、2つのセクションに分かれています。「Formatted Audit Events Records (定様式監査イベント・レコード)」(図 81: 監査証跡報告書: 「Formatted Audit Event Records (定様式監査イベント・レコード)」セクション ページ 346) および「Summary Statistics (要約統計)」(図 82: 監査証跡報告書: 要約統計セクション ページ 347) です。

図 81. 監査証跡報告書: 「Formatted Audit Event Records (定様式監査イベント・レコード)」セクション

```

-----
IBM® File Manager for z/OS Db2 Component   Audit Trail Report                               Page 1
                                           Formatted Audit Event Records                       Date: 2004-09-2
                                                                                                         Time: 11.14.39

Audit trail for EDIT function.
  Data set name: FMNUSER.FMN2AUD.DB26.D020918.T155156
Audit description:
System Information:
  MVS System Id: FMD2
  Db2 Subsystem: DB26
  Current SQLID: FMNUSER
Db2 Object Information:
  Location:
    Owner: FMNUSER
    Name: EMP
Template Information:
  Data set name:
Audit event number: 1                               Data fetched on 02/09/18 at 15.52.00
  SQL statement:  SELECT "EMPNO", "FIRSTNME", "MIDINIT", "LASTNAME", "WORKDEPT", "PHONENO", "HIREDATE",
                  "JOB", "EDLEVEL", "SEX", "BIRTHDATE", "SALARY", "BONUS", "COMM" FROM "FMNUSER"."EMP"
-----

```

「Formatted Audit Event Records (定様式監査イベント・レコード)」セクションの初めの部分には以下の情報が示されません。

- 監査対象の FM/Db2 機能 (表示、編集、またはコピー)。
- 監査ログ・レコードが入っているデータ・セットの名前。
- 報告書記述 (指定した場合)。
- 操作しようとしている Db2® オブジェクトのロケーション情報。

「Formatted Audit Event Records (定様式監査イベント・レコード)」セクションの次の部分には、各監査イベントについて以下の情報が示されます (各 SQL 呼び出しはそれぞれ別個の監査イベントとして定義されます)。

- 監査イベント番号。
- 日付とタイム・スタンプ。
- SQL ステートメント。
- Db2® 列名。
- キーのタイプ (適用できる場合)。
- 列の元の値 (列が変更または削除された場合)。
- 列の新しい値 (列が変更または挿入された場合)。

「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネルで「Print only changed fields (変更されたフィールドのみ印刷)」が選択された場合には、データが変更された列のみが示されます。

Db2® オブジェクトの各 FM/Db2 の表示、編集、またはコピーは、それぞれ別個のセッションとして記録されます。SMF 記録が使用されると、多くのセッションがログに記録されることがあります。要約統計は、監査しようとしている期間全体ではなく各セッションごとに与えられます。

図 82. 監査証跡報告書: 要約統計セクション

```

Summary Statistics
-----
IBM® File Manager for z/OS Db2 Component  Audit Trail Report                               Page 2
                                         Summary Statistics                               Date: 2004-09-2
                                                                                               Time: 11.14.39

      Data base opened on 2004-09-18 at 15.52.00 by userid: FMNUSER
      Data base closed on 2004-09-18 at 15.55.47

Total SQL statements: 1
      Rows inserted: 0
      Rows deleted: 0
      Rows replaced: 0
TOTAL Data base changes: 0
      Records bypassed: 0
Audit Trail Report Options
      Maximum Print Lines per Page: 60
      Print Only Changed Fields on an Update: NO
-----

```

「Summary Statistics (要約統計)」セクションには以下の情報が示されます。

- データベースがオープンされた日時とクローズされた日時。
- ユーザー ID。
- FM/Db2 セッション中に行われた SQL 呼び出し、挿入、削除、および行置き換え回数の総数。
- 更新イベントの総数。

関連するタスク

[View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)
[現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)
[Copy utility options \(option 3.3\) \(コピー・ユーティリティ・オプション \(オプション 3.3\)\) ページ 69](#)
[Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
[ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)
[FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342](#)
[Print settings \(option 0.1\) \(印刷設定 \(オプション 0.1\)\) ページ 65](#)

関連する参照先

[「Editor Options \(1 of 8\) \(編集オプション \(8 の 1\)\)」 パネル ページ 651](#)
[「Print Audit Trail \(監査証跡の印刷\)」 パネル ページ 757](#)

第 11 章. Db2® 特権の管理

「Privileges (特権)」ユーティリティー機能は、Db2® 特権の表示、認可、および取り消しを行うために使用します。

以下の機能を実行するには、「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルを使用します。

Db2® 特権の管理に使用できる機能が [表 23: 特権機能 ページ 348](#)に示されています。

表 23. 特権機能

特権タイプ	認可	取り消し
Database (データベース)	可	可
表スペース	可	可
表/ビュー	可	可
列	可	いいえ ²²
計画	可	可
パッケージ	可	可
コレクション	可	可
スキーマ	可	可
特殊タイプ	可	可
機能	可	可
ストアド・プロシージャ	可	可

「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルを表示するには、以下を行います。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、[3](#) (「Utilities (ユーティリティー)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルから、[5](#) (「Privileges (特権)」) を入力します。

関連するタスク

22. 注:

1. 特定の列の特権を取り消すことはできません。該当する表の特権を取り消す必要があります。

特権の表示 ページ 351

特権の認可 ページ 351

特権の取り消し ページ 353

関連する参照先

「Manage Db2 Privileges (特権の管理)」 パネル ページ 740

「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」 パネル ページ 756

「Utility Functions (ユーティリティー機能)」 パネル ページ 896

「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」 パネルの使用

「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」 パネルは、次の 2 つのセクションから構成されています。

Object Identification Criteria (オブジェクト識別基準)

パネルのこのセクションを使用して、オブジェクト識別基準を指定し、リストするオブジェクトを識別します。FM/Db2 は、この基準によって制限された、特権が存在するすべてのオブジェクトをリストします。このセクションでの入力は、指定する「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」によって決まります。

Location (場所)

リストするオブジェクトが現在場所にある場合には、このフィールドは空白のままにしてください。そうでない場合には、リモート位置の絶対パス名、使用可能なすべてのリモート位置を表示するためのアスタリスク (*)、あるいはワイルドカード文字を使用したパターンを入力してください。アスタリスクを単独またはパターンで指定すると、FM/Db2 はその入力仕様と一致した位置を示す選択リストを表示します。

希望する位置を選択するには、必要な項目に対して「**↵**」を入力して Enter キーを押します。



注: 特権を示している (コマンド行が空白) 場合のみ、位置を指定できます。

Owner (所有者)

所有者に関係なくオブジェクトを選択するには、このフィールドを空白のままにしてください。そうでない場合には、オブジェクトのリストを所有者によって制限するために、所有者のフルネーム、またはワイルドカード文字を使用したパターンを入力してください。この入力フィールドが空白以外の場合には、FM/Db2 はリストされるオブジェクトをユーザーが指定した所有者選択基準と一致するオブジェクトだけに制限します。



注: 表または列オブジェクト・タイプの所有者のみ指定できます。

Name (名前)

名前に関係なくオブジェクトを選択するには、このフィールドを空白のままにしてください。そうでない場合には、オブジェクトのリストを名前によって制限するために、オブジェクトの絶対パス名、またはワイルドカード文字を使用したパターンを入力してください。この入力

フィールドがブランク以外の場合には、FM/Db2 はリストされるオブジェクトをユーザーが指定した名前選択基準と一致するオブジェクトだけに制限します。

In

これは、オプション・フィールドで、以下のオブジェクト・タイプを修飾するために使用できません。

オブジェクト・タイプ	以下を指定することによって修飾
Table space (表スペース)	データベースの名前
Column (列)	テーブルの名前
Package (パッケージ)	コレクションの名前
Distinct type (特殊タイプ)	スキーマの名前
Function (関数)	スキーマの名前
Stored procedure (ストアド・プロシージャ)	スキーマの名前

Object Type (オブジェクト・タイプ)

このセクションを使用して、特権操作の実行対象となる Db2® オブジェクトのタイプを識別します。Db2® 特権の管理に使用できる機能が [表 23: 特権機能 ページ 348](#) に示されています。

必要なオブジェクト・タイプを選択するには、**「Object Type (オブジェクト・タイプ)」** 選択フィールドに該当する番号を入力します。デフォルト値は 3 (「table」(表)) です。

以下のように、コマンド行に入力するものによって (入力するものがある場合)、特権を表示するか、認可するか、あるいは取り消すかを選択します。

Display privileges (特権の表示)

この処理オプションを選択するには、コマンド行をブランクのままにしておきます。

Grant privileges (特権の認可)

この処理オプションを選択するには、コマンド行に「G」を入力します。

Revoke privileges (特権の取り消し)

この処理オプションを選択するには、コマンド行に「R」を入力します。



注: 既存の特権を変更するには、以下を行う必要があります。

1. 既存の特権を取り消す。
2. 新しい特権を認可する。

関連するタスク

[入力フィールドでのアスタリスク \(*\) またはパターンの使用 ページ 51](#)

関連する参照先

[\[Manage Db2 Privileges \(特権の管理\)\] パネル ページ 740](#)

[\[Remote Db2 Location Selection \(リモート・ロケーション選択\)\] パネル ページ 787](#)

特権の表示

[Manage Db2® Privileges (特権の管理)] パネルにリストされているすべてのオブジェクト・タイプについて、特権の詳細を表示できます。

特権の詳細を表示するには、以下のようになります。

1. 必要な詳細情報があれば、それを「**Object Identification Criteria (オブジェクト識別基準)**」セクションに入力します。
2. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」選択フィールドに該当する番号を入力して必要なオブジェクト・タイプを選択するか、あるいはデフォルト値の 3 (「table (表)」) を使用します。
3. コマンド行を空白のままにしておきます。
4. Enter キーを押します。指定した特権タイプの特権表示パネルが表示されます。

関連するタスク

[特権の認可 ページ 351](#)

[特権の取り消し ページ 353](#)

関連する参照先

[\[Manage Db2 Privileges \(特権の管理\)\] パネル ページ 740](#)

[\[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)\] パネル ページ 756](#)

[\[Utility Functions \(ユーティリティー機能\)\] パネル ページ 896](#)

[特権パネル ページ 764](#)

特権の認可

[Manage Db2® Privileges (特権の管理)] パネルにリストされているすべてのオブジェクト・タイプについて、特権を認可 (新規の特権を作成) することができます。

あるオブジェクトに 1 つ以上の特権を認可するために、以下のいずれかの方法を使用することができます。

• 方法 1 (特権認可パネルを使用してオブジェクトを指定する):

1. 「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルで、以下のようにします。
 - a. 必要な詳細情報があれば、それを「Object Identification Criteria (オブジェクト識別基準)」セクションに入力します。
 - b. 「Object Type (オブジェクト・タイプ)」選択フィールドに該当する番号を入力して必要なオブジェクト・タイプを選択するか、あるいはデフォルト値の 3 (「table (表)」) を使用します。
2. コマンド行で **G** と入力します。
3. Enter キーを押します。

指定したオブジェクト・タイプの特権認可パネルが表示されます。パネルには、そのオブジェクト・タイプに適用できる各特権タイプが、対応する選択入力フィールドとともにリストされます。

特権認可パネルで、以下のようにします。

- a. 対応する選択フィールドに “Y” または “G” を入力することによって、認可する特権を選択します。
- b. 用意された入力フィールド (複数の場合もある) に、オブジェクトの名前を指定します。
- c. 「To」入力フィールドに、特権を認可する相手ユーザー (被認可者) の SQLID を指定します。
- d. Enter キーを押します。

• 方法 2 (特権表示パネルからオブジェクトを指定する)



注: この方法は、既に Db2® オブジェクトに対する特権がある場合にのみ有効です。特権がない場合は、FM/Db2 はメッセージ「No rows selected (行は選択されませんでした)」を出します。

1. 「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルで、
 - a. 必要な詳細情報があれば、それを「Object Identification Criteria (オブジェクト識別基準)」セクションに入力します。
 - b. 「Object Type (オブジェクト・タイプ)」選択フィールドに該当する番号を入力して必要なオブジェクト・タイプを選択するか、あるいはデフォルト値の 3 (「table (表)」) を使用します。
2. コマンド行を空白のままにしておきます。
3. Enter キーを押します。指定したオブジェクト・タイプの特権表示パネルが表示され、選択したオブジェクトがリストされます。
4. 特権表示パネルで、特権を認可するオブジェクトに対して「Cmd」フィールドに **G** を入力します。
5. Enter キーを押します。指定したオブジェクトの特権認可パネルが表示されます。



注: この方法を使用して、指定したオブジェクト・タイプの特権認可パネルにナビゲートした場合、以下の詳細情報が事前に入力されています。

- 各特権タイプの既存の設定値 (Y、G、または空白)
- オブジェクトの名前の詳細
- 既存の特権が認可されているユーザー (被認可者) の SQLID

特権認可パネルで、以下のようにします。

- a. 対応する選択フィールドに “Y” または “G” を入力することによって、認可する特権を選択します。
- b. Enter キーを押します。

- 方法 3 (「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」を使用する)
 1. ユーティリティー機能「Object List (オブジェクト・リスト)」(オプション 3.4) を使用して、必要なオブジェクトのタイプのリストを表示します。
 2. 選択したオブジェクト・タイプのオブジェクト・リスト・パネルで、特権を認可するオブジェクトに対して「Cmd」フィールドに「G」を入力します。
 3. Enter キーを押します。

指定したオブジェクト・タイプの特権認可パネルが表示されます(方法 1 の場合と同じ)。パネルには、そのオブジェクト・タイプに適用できる各特権タイプが、対応する選択入力フィールドとともにリストされます。

4. 方法 1 の残りのステップ (3.a ページ 352 から 3.d ページ 352) に従います。

特権認可処理が正常終了すると、FM/Db2 は、認可が正常に行われたことを示すメッセージを表示します。そうでない場合は、パネルが現れ、定様式の SQL 戻りコードが表示されます。

関連するタスク

[特権の表示 ページ 351](#)

[特権の取り消し ページ 353](#)

[オブジェクト・リストの表示または印刷 ページ 313](#)

関連する参照先

[「Manage Db2 Privileges \(特権の管理\)」パネル ページ 740](#)

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)

[特権の認可パネル ページ 715](#)

特権の取り消し

「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルにリストされている列以外のすべてのオブジェクト・タイプについて、特権を取り消す(既存の特権を除去する)ことができます。(特定の列の特権を取り消すことはできません。該当する表の特権を取り消す必要があります。)

あるオブジェクトの特権を 1 つ以上取り消すには、以下のいずれかの方法を使用することができます。

- 方法 1 (特権取り消しパネルを使用してオブジェクトを指定する):
 1. 「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルで、
 - a. 必要な詳細情報があれば、それを「**Object Identification Criteria (オブジェクト識別基準)**」セクションに入力します。
 - b. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」選択フィールドに該当する番号を入力して必要なオブジェクト・タイプを選択するか、あるいはデフォルト値の 3 (「table (表)」) を使用します。
 2. コマンド行で R と入力します。
 3. Enter キーを押します。

指定したオブジェクト・タイプの特権取り消しパネルが表示されます。そのオブジェクト・タイプに適用できる特権のタイプが複数ある場合には、それぞれの特権タイプが、対応する入力フィールドとともにパネルにリストされます。

特権取り消しパネルで、以下のようにします。

- a. 対応する選択フィールドに任意の文字を入力することによって、取り消す特権を選択します。



注: 特権タイプが1つしかないオブジェクト・タイプの場合は、このステップは適用されません。

- b. 用意された入力フィールド (特権タイプによっては入力フィールドが2つあることもあります) に、オブジェクトの名前を入力します。
- c. 「**From (元)**」入力フィールドに、特権を取り消すユーザー (被取り消し者) の SQLID を指定します。
- d. 「**By (認可者)**」入力フィールドに、特権を認可したユーザーの SQLID、またはすべての認可者の場合は “ALL (すべて)” を指定します。
- e. Enter キーを押します。

• 方法 2 (特権表示パネルからオブジェクトを指定する)

1. 「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルで、
 - a. 必要な詳細情報があれば、それを 「**Object Identification Criteria (オブジェクト識別基準)**」 セクションに入力します。
 - b. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」 選択フィールドに該当する番号を入力して必要なオブジェクト・タイプを選択するか、あるいはデフォルト値の 3 (「table (表)」) を使用します。
2. コマンド行をブランクのままにしておきます。
3. Enter キーを押します。指定したオブジェクト・タイプの特権表示パネルが表示され、選択したオブジェクトがリストされます。
4. 特権表示パネルで、特権を取り消すオブジェクトに対して 「**Cmd**」 フィールドに 「R」 を入力します。
5. Enter キーを押します。指定したオブジェクトの特権取り消しパネルが表示されます。



注: この方法を使用して、(指定したオブジェクト・タイプの特権取り消しパネルにナビゲートした場合、以下の詳細情報が事前に入力されています。

- 各特権タイプの既存の設定値 (Y、G、またはブランク)
- オブジェクトの名前の詳細
- 「**From (元)**」入力フィールドに、特権を取り消すユーザー (被取り消し者) の SQLID

特権取り消しパネルで、以下のようにします。

- a. 対応する選択フィールドに任意の文字を入力することによって、取り消す特権を選択します。



注: 特権タイプが1つしかないオブジェクト・タイプの場合は、このステップは適用されません。

- b. 「**By (認可者)**」入力フィールドに、特権を認可したユーザーの SQLID、またはすべての認可者の場合は「ALL (すべて)」を指定します。
- c. Enter キーを押します。

特権取り消し処理が正常終了すると、FM/Db2 は、取り消しが正常に行われたことを示すメッセージを表示します。そうでない場合は、パネルが現れ、定様式の SQL 戻りコードが表示されます。

関連するタスク

[特権の表示 ページ 351](#)

[特権の認可 ページ 351](#)

関連する参照先

[「Manage Db2 Privileges \(特権の管理\)」パネル ページ 740](#)

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)

[特権の取り消しパネル ページ 795](#)

第 12 章. Db2® ユーティリティー・ジョブ用のバッチ JCL の生成

下記にリストした Db2® ユーティリティー・ジョブを実行するためのバッチ JCL を生成するには、「Table Spaces (ユーティリティー)」ユーティリティー機能 (3.9) を使用します。これらの操作のユーティリティー制御ステートメントを知っている必要はありません。

- COPY
- LOAD
- REBUILD
- RECOVER
- REORG
- RUNSTATS
- UNLOAD

これらの Db2® ユーティリティー・ジョブの使用法の説明は、「Db2® ユーティリティー・ガイドおよび解説書」を参照してください。



注: 生成されたユーティリティー・ジョブを正常に実行するには、参照されているどの Db2® オブジェクトに対しても、適切な Db2® 特権を持っていないければなりません。

「Utilities (ユーティリティー)」ユーティリティーのメインパネルは、「Db2®Table Spaces (ユーティリティー)」パネルです。

「Db2®Table Spaces (ユーティリティー)」パネルを表示するには、次のようにします。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルから、3 (「Utilities (ユーティリティー)」) を入力して「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルを表示します。
2. 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルから、9 (「Table Spaces (表スペース)」) を入力します。

「Db2®Utilities (ユーティリティー)」パネル上のフィールドは、以下を選択するのに使用します。

- 実行する Db2® ユーティリティーのタイプ
- ユーティリティーが処理する Db2® オブジェクトのタイプ
- ユーティリティーを実行する特定の Db2® オブジェクトの詳細

Enter キーを押すと、「Db2®Utilities (ユーティリティー)」パネルの「Db2®オブジェクト詳細」フィールドに情報を入力していなければ、ローカル Db2® サーバーにあるすべてのオブジェクトが表示されます。このフィールドに情報を入力している場合は、表示される行は、そのフィールドに指定された情報と一致するオブジェクトだけに制限されます

Db2® ユーティリティー・ジョブ用の JCL が生成され、ISPF 編集セッションに提供されます。ジョブを実行依頼する前に必要な変更を行うか、または後で使用するために ISPF エディター・コマンドを使用して JCL のコピーを保管しておくことができます。

表 24 : Db2 オブジェクトで使用できる Db2 ユーティリティー ページ 357 は、どの DDb2®オブジェクトに対してどの Db2® ユーティリティーを使用できるかを示します。

表 24. Db2® オブジェクトで使用できる Db2® ユーティリティー

Db2® ユーティリティー	以下の Db2® オブジェクトで使用				
	1. 表	2. 表スペース	3. 索引スペース	4. 索引	5. 表スペースの索引
1. COPY		可 (COPY (表スペース) ページ 365 を参照)	可 (COPY (索引スペース) ページ 366 を参照)		
2. LOAD	可 (LOAD ユーティリティー ページ 367 を参照)				
3. REBUILD				可 (REBUILD ユーティリティー (索引) ページ 376 を参照)	可 (REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引) ページ 377 を参照)
4. RECOVER		可 (RECOVER (表スペース) ページ 379 を参照)	可 (RECOVER (索引スペース) ページ 380 を参照)		
5. REORG		可 (REORG (表スペース) ページ 382 を参照)		可 (REORG (索引) ページ 385 を参照)	
6. RUNSTATS		可 (RUNSTATS (表スペース) ページ 387 を参照)		可 (RUNSTATS (索引) ページ 389 を参照)	
7. UNLOAD	可 (UNLOAD (表) ページ 392 を参照)	可 (UNLOAD (表スペース) ページ 398 を参照)			

関連するタスク

コピー・ユーティリティー ページ 364
 LOAD ユーティリティー ページ 367
 REBUILD ユーティリティー ページ 375
 RECOVER ユーティリティー ページ 378

[REORG ユーティリティー ページ 382](#)
[RUNSTATS ユーティリティー ページ 386](#)
[UNLOAD ユーティリティー ページ 391](#)
[Db2 ユーティリティー・ジョブの生成 ページ 360](#)

関連する参照先

[\[Db2 Utilities \(ユーティリティー\)\] パネル ページ 635](#)
[\[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)\] パネル ページ 756](#)
[\[Utility Functions \(ユーティリティー機能\)\] パネル ページ 896](#)

Db2® ユーティリティーのオプションの設定

Db2® ユーティリティー・オプションを設定して、以下のことができます。

- 指定した LISTDEF または TEMPLATE ライブラリーに対して JCL DD ステートメントを挿入する
- Db2® ユーティリティー機能を変更して、指定したテンプレート名を持つ DD 名文節を組み込む
- Db2® ユーティリティー・ステートメントの LISTDEF、TEMPLATE、および OPTIONS を挿入する

Db2® ユーティリティーのオプション設定を変更するには、まず「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から「0 (Settings (設定))」を選択して、「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネルを表示します。新しい設定は、現在のサブシステムのみ適用されます。同じサブシステムに再接続すると、ここで設定したオプション設定が取り込まれます。

オプション設定をリセットしてインストール・デフォルト (現在の Db2® サブシステムの) に戻すには、RESET 基本コマンドまたは「Reset」機能キー (F6) を使用します。

「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネルに、以下のメニュー項目が表示されます。

Unload utility options (アンロード・ユーティリティー・オプション)

FM/Db2 「Unload Utility options (アンロード・ユーティリティー・オプション)」は、UNLOAD ユーティリティーがデータ転送に使用されているときに適用されます。

Options utility options (オプション・ユーティリティー・オプション)

FM/Db2 「Options utility options (オプション・ユーティリティー・オプション)」は、Db2® OPTIONS ユーティリティー制御ステートメントの生成を支援します。

Listdef utility options (Listdef ユーティリティー・オプション)

FM/Db2 「Listdef utility options (ユーティリティー・オプション)」は、Db2® LISTDEF ユーティリティー制御ステートメントの生成、および LISTDEF ライブラリーにアクセスするユーティリティー・バッチ・ジョブ用の JCL の生成を支援します。

Template utility options (テンプレート・ユーティリティー・オプション)

FM/Db2 「Template utility options (テンプレート・ユーティリティー・オプション)」は、Db2® TEMPLATE ユーティリティー制御ステートメントの生成、およびテンプレート・ライブラリーにアクセスするユーティ

リティー・バッチ・ジョブ用の JCL の生成を支援します。また、さまざまな Db2® ユーティリティー制御ステートメントの DD 名文節のテンプレート名を指定できるようにするオプションも用意されています。

Db2® ユーティリティーの完全な説明については、「*Db2® Utility Guide and Reference*」を参照してください。

Db2® ユーティリティーを実行するバッチ JCL を生成する前に、必要とする値にこれらのオプションが設定されていることを確認してください。

FM/Db2 は、上記のオプションを使用して、適切な LISTDEF および TEMPLATE ライブラリーを参照する JCL を生成し、該当する場合は、ユーティリティー・バッチ・ジョブで OPTIONS、LISTDEF、または、TEMPLATE ユーティリティー・ステートメントを生成します。指定されている場合、FM/Db2 は、SYSIN デック内の OPTIONS、LISTDEF、および、TEMPLATE ステートメントを、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルから選択したユーティリティーと対応するユーティリティー・ステートメントの前に置きます。

Db2® ユーティリティーのオプション設定を変更するには、以下のようにします。

1. 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル、または「**Options (オプション)**」プルダウン・メニューのいずれかから、変更する必要があるオプションのメニュー項目を選択します。

11

アンロード

12

オプション

13

Listdef

14

テンプレート

FM/Db2 は、選択されたオプション・パネルを表示します。

2. 必要に応じて、オプション設定を変更します。

関連するタスク

[デフォルト処理オプションの設定 ページ 63](#)

関連する参照先

[「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」パネル ページ 824](#)

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「UNLOAD Options \(UNLOAD オプション\)」パネル ページ 885](#)

[「OPTIONS Options \(OPTIONS オプション\)」パネル ページ 749](#)

[「LISTDEF Options \(LISTDEF オプション\)」パネル ページ 728](#)

[「Additional LISTDEF Statements \(追加 LISTDEF ステートメント\)」パネル ページ 460](#)

[\[TEMPLATE Options \(1 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 1\)\)\]](#) パネル ページ 877

[\[TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)\]](#) パネル ページ 880

[\[Additional TEMPLATE Statements \(追加 TEMPLATE ステートメント\)\]](#) パネル ページ 461

[RESET 基本コマンド ページ 966](#)

Db2® ユーティリティー・ジョブでの LISTDEF ステートメントの生成

「**Specification (仕様)**」セクションと「**LISTDEF name (LISTDEF 名)**」入力フィールドが、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルに表示されます。上記の入力フィールドを使用すると、LISTDEF の名前を指定できます。

「**Specification (仕様)**」セクションで LISTDEF を選択した場合は、LISTDEF 名もユーティリティーのオブジェクトとして指定する必要があります。

LISTDEF 名をユーティリティーのオブジェクトとして使用するには、以下のようになります。

1. 「**Specification (仕様)**」セクションで、「**2. LISTDEF**」を選択します。
2. 「**LISTDEF name (LISTDEF 名)**」に LISTDEF の名前を入力します。



注: LOAD の構文には LISTDEF 文節がありません。「**Db2® Utility (ユーティリティー)**」セクションで LOAD を選択し、さらに「**Specification (仕様)**」セクションで LISTDEF を選択した場合、FM/Db2 はエラー・メッセージを出します。

関連する参照先

[\[Db2 Utilities \(ユーティリティー\)\]](#) パネル ページ 635

Db2® ユーティリティー・ジョブの生成

Db2® ユーティリティー・ジョブを生成するには、以下の通り行います。

1. 生成する Db2® ユーティリティーを指定します。

1

COPY

2

LOAD

3

REBUILD

4

RECOVER

5

REORG

6

RUNSTATS

7

UNLOAD

2. オブジェクト・タイプを指定します。

1

テーブル

2

表スペース

3

索引スペース

4

索引

5

表スペースの索引

3. COPY、REBUILD、RECOVER、REORG、RUNSTATS、および UNLOAD の場合 (すなわち、LOAD を除く、FM/Db2 Db2® ユーティリティーのすべて)、指定した Db2® ユーティリティー用に FM/Db2 が生成した JCL に LIST 文節が組み込まれるように指定することができます。

Db2® ユーティリティーの JCL で LIST 文節を生成するには、「2. LISTDEF」を選択し、生成しない場合は、「1. オブジェクト名」を選択します。

4. ここで、Db2® ユーティリティー・ジョブに対して、オブジェクトまたは LISTDEF のいずれかの詳細を入力する必要があります。

- 「1. Object name (オブジェクト名)」を「Specification (仕様) セクション (ステップ 3) で指定した場合は、オプションで、以下の 4 つのフィルター・フィールドの 1 つ以上を使用してオブジェクトの詳細を指定します。

- **Database (データベース)**
- **Table/Index space (表/索引スペース)**
- **Owner (所有者)** (Table or Index (表または索引))
- **Name (名前)** (Table or Index (表または索引))

FM/Db2 は、入力した詳細を妥当性検査して、次のパネルに進みます。

上記のフィルター・フィールドごとに、以下を入力することができます。

- 項目の絶対パス名。
- 適切な項目を選択できる、項目のリストを表示するアスタリスク (*)。

4 つのフィルター・フィールドのいずれにもアスタリスク (*) を入力した場合には、FM/Db2 には、値を選択してフィルター・フィールドに入れることができる個々の選択リスト・パネルが表示されま

す。これらのパネルに表示されたレコードは、関連のある以前入力したフィルターによって制限されています。ユーティリティーおよび Db2® オブジェクトの各組み合わせは、有効なフィルターの組み合わせとなります。誤ったフィルターの組み合わせは拒否されます。

- パターン仕様と一致する名前をもつすべての項目のリストを表示するパターン。
- ブランク。フィルターの影響はありません。

- [2. LISTDEF] を「Specification (仕様)」セクション (ステップ 3) で指定した場合は、「LISTDEF name (LISTDEF 名)」の「LIST clause (LIST 文節)」で使用する名前を入力します。

5. Enter キーを押します。

FM/Db2 には、指定された Db2® ユーティリティーおよびオブジェクト・タイプのパネルが表示されます。

[1. Object name (オブジェクト名)] を「Specification (仕様)」セクション (ステップ 3) で指定した場合は、さまざまな入出力フィールドとともに、限定された行のリストがパネルに表示されます。適切な行を選択して、必要に応じて、編集可能なフィールドの値を変更します。

[2. LISTDEF] を「Specification (仕様)」セクション (ステップ 3) で指定した場合、FM/Db2 は Db2® ユーティリティーの代替パネルを表示します。LISTDEF ユーティリティー・パネルの操作 ページ 363 を参照してください。

6. Enter キーを押します。

FM/Db2 には、ジョブとして実行依頼する前に、必要な場合に編集できる生成済み JCL が表示されます。(上記の規則に対して LOAD および UNLOAD ユーティリティーは例外です。これらのユーティリティーでは両方とも、生成済み JCL が表示される前に、別の一連のパネルが表示されます。) 図 83: COPY Utility (table spaces) 「コピー・ユーティリティー (表スペース)」用に生成されたサンプル JCL ページ 362 は、生成済み JCL の例を示します。

図 83. COPY Utility (table spaces) 「コピー・ユーティリティー (表スペース)」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP COPY1: COPY TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D
000010 //*****
000011 //COPY1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSCOPY DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
000015 //          DSN=FMNUSER.DSN8D81A.DSN8S81D.F00000.D2601115,
000016 //          UNIT=SYALLDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE)
000017 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000018 COPY TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D
000019 COPYDDN(SYSCOPY)
000020 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap     F10=Left   F11=Right   F12=Cancel

```

7. バッチ処理用のジョブ・ストリームとして JCL を実行依頼するには、SUBMIT コマンドを使用します。

以下の節では、FM/Db2 がサポートするそれぞれの Db2® ユーティリティーについて説明します。

関連するタスク

[入力フィールドでのアスタリスク \(*\) またはパターンの使用 ページ 51](#)
[コピー・ユーティリティー ページ 364](#)
[LOAD ユーティリティー ページ 367](#)
[REBUILD ユーティリティー ページ 375](#)
[RECOVER ユーティリティー ページ 378](#)
[REORG ユーティリティー ページ 382](#)
[RUNSTATS ユーティリティー ページ 386](#)
[UNLOAD ユーティリティー ページ 391](#)

LISTDEF ユーティリティー・パネルの操作

「Specification (仕様)」セクションで「2. LISTDEF」を指定し、Db2® ユーティリティー・パネル (LOAD を除く) のいずれかの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」で LISTDEF の名前を指定すると、FM/Db2 は LISTDEF の名前を示す代替パネルを表示します。Db2® ユーティリティー用に生成された JCL の LIST 文節で使用する 1 つ以上の名前を指定するには、ユーティリティー・パネルの LISTDEF 形式を使用します。

最初に、パネルには、Db2® ユーティリティー・パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドで指定した名前が含まれた単一行が表示されます。

パネル行の操作は、「CMD」フィールドに行コマンドを入力して行を挿入、反復、削除、または選択することで、必要に応じて行うことができます。

PRC 列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。選択解除行を選択済み行に、選択済み行を選択解除行に切り替えるには、S コマンドを使用します。

「LISTSDEF Name (LISTSDEF 名)」フィールドがブランクの場合、行は選択できません。

「LISTDEF Selection (LISTDEF 選択)」ポップアップ・パネルを表示するには、「LISTSDEF Name (LISTSDEF 名)」フィールドにアスタリスク (*) を入力します。

```

LISTDEF Selection Row 1 to 4 of 4
Select one from the list of the last twelve entries.
Sel LISTDEF
  - NORMAL
  - EXAMPLE1
  - JOHNS
  - MYLIST
***** Bottom of data *****

Command ==> _____
F1=Help      F2=Split    F3=Exit
F9=Swap      F12=Cancel

```

Sel フィールドに「s」を入力することによって、表示されたリストから LISTDEF 名を選択します。

選択済み LISTDEF を使用してユーティリティー・バッチ・ジョブを作成するには、Enter キーを押します。

LISTDEF 名について詳しくは、「Db2 ユーティリティー・ガイドおよび解説書」の LIST キーワードを参照してください。

コピー・ユーティリティー

コピー・ユーティリティーを選択するには、「Db2@utility (ユーティリティー)」パネルの「Db2@utility (ユーティリティー)」入力フィールドに **1** を入力します。

「Db2@utility (ユーティリティー)」パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで “Table spaces (表スペース)” を選択した場合は、「COPY Utility (Table spaces) (コピー・ユーティリティー (表スペース))」パネルが表示されます。

「Db2@Utilities ユーティリティー」パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで “Index spaces (索引スペース)” を選択した (および、LISTDEF の名前を指定しなかった) 場合には、「COPY Utility (Index spaces) panel (コピー・ユーティリティー (索引スペース))」パネルの 2 つの形式のうちのいずれかが表示されます。パネルの形式は、「Db2@ユーティリティー」パネルで指定されたフィルター・フィールド (ある場合) によって決まります。



注: 「Db2@Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合、FM/Db2 は、「COPY Utility (Table spaces) (コピー・ユーティリティー (表スペース))」パネルまたは「COPY Utility (Index spaces) (コピー・ユーティリティー (索引スペース))」パネルの代替形式を表示します。

関連するタスク

[デフォルト値 ページ 364](#)

[COPY \(表スペース\) ページ 365](#)

[COPY \(索引スペース\) ページ 366](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「COPY Utility \(Table Spaces\) \(コピー・ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 529](#)

[LISTDEF を指定した「COPY Utility \(Table Spaces\) \(コピー・ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 531](#)

[「COPY Utility \(Index Spaces\) \(コピー・ユーティリティー \(索引スペース\)\)」パネル ページ 522](#)

[LISTDEF を指定した「COPY Utility \(Index Spaces\) \(コピー・ユーティリティー \(索引スペース\)\)」パネル ページ 524](#)

[「TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)」パネル ページ 880](#)

デフォルト値

生成済み JCL のイメージ・コピー・データ・セットに使用されるデフォルトの命名規則は、以下の通りです。

- &ZUSER..&DBNAME..&OBJNAME..&PRE&PARTNO..D&FMN2DTIM.
- &ZUSER、&DBNAME、&PARTNO は、自明です。
- &OBJNAME は、表スペース名か索引スペース名です。
- &PRE は、次のいずれかが可能です。

F

フル

I

増分

C

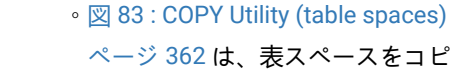
変更限界。これによって、完全または増分イメージ・コピーを Db2® で実行できます。

- &FMN2DTIM には *jjjhhmm* が含まれています。ここで *jjj* はユリウス日で、*hhmm* は時刻です。

例えば、OSPEED.UTILDB1.T1RIX1.F00000.D1011044

COPY (表スペース)

このオプションは、コピー・ユーティリティー制御ステートメントの COPY TABLE SPACE 形式に対応しています。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「**Database name (データベース名)**」または「**Table/index name (表/索引スペース名)**」フィルター・フィールドに情報が入力された場合は、表示行は指定された情報と一致している Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引スペースから 1 つを選択するには、「§」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク (*) は選択された表スペースを示します。
 - 以下の入力フィールドの値を変更することによって、コピー・ユーティリティー・ステートメントを変更することができます。
 - FCP
 - Change Limits (変更限界)
 - RPO
 -  83 : COPY Utility (table spaces) 「コピー・ユーティリティー (表スペース)」用に生成されたサンプル JCL ページ 362 は、表スペースをコピーするための生成済み JCL の例を示します。
- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。

- FM/Db2 は、「COPY Utility (Table spaces) (コピー・ユーティリティ (表スペース))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および COPY ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。
 - [図 84: LISTDEF が指定されている「COPY Utility \(Table spaces\) \(コピー・ユーティリティ \(表スペース\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 366](#) は、LISTDEF が指定されている表スペースをコピーするための生成済み JCL の例を示します。
- [図 84. LISTDEF が指定されている「COPY Utility \(Table spaces\) \(コピー・ユーティリティ \(表スペース\)\)」用に生成されたサンプル JCL](#)

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP COPY1: COPY TABLESPACE LIST LDEFNAME
000010 //*****
000011 //COPY1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSCOPY DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
000015 //          DSN=FMNUSER.LDEFNAME.F.D2601124,
000016 //          UNIT=SYSALLDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE)
000017 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000018 COPY LIST LDEFNAME
000019 COPYDDN(SYSCOPY)
000020 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

関連する参照先

- [「COPY Utility \(Table Spaces\) \(コピー・ユーティリティ \(表スペース\)\)」パネル ページ 529](#)
- [LISTDEF を指定した「COPY Utility \(Table Spaces\) \(コピー・ユーティリティ \(表スペース\)\)」パネル ページ 531](#)
- [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)

COPY (索引スペース)

このオプションは、コピー・ユーティリティ制御ステートメントの COPY INDEXSPACE 形式に対応しています。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - COPY (index spaces (索引スペース)) を使用すると、「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルでフィルター・フィールドの以下の組み合わせを使用することができます。
 - 「Database name (データベース名)」または「Table/index space name (表/索引スペース名)」。
 - 「Database name (データベース名)」、「Table/index owner (表/索引所有者)」、または「Table/index name (表/索引名)」。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルの上記のフィルター・フィールドのいずれかに情報を入力した場合には、表示された行は、指定した情報と一致する Db2® オブジェクトに制限されます。

- 表示された索引スペースから1つを選択するには、「s」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク(*)は選択された表スペースを示します。
- FM/Db2 によって生成された COPY INDEXSPACE ステートメントは、コピーされるよう索引を指定した方法にかかわらず、データベースおよび索引スペース名(索引所有者および索引名ではない)を指定します。図 85: 「COPY Utility (index spaces) (コピー・ユーティリティー (索引スペース))」用に生成されたサンプル JCL ページ 367 は、索引スペースをコピーするための生成済み JCL の例を示します。

図 85. 「COPY Utility (index spaces) (コピー・ユーティリティー (索引スペース))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP COPY1: COPY INDEXSPACE JLV3D81A.XEMP2
000010 //*****
000011 //COPY1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSCOPY DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
000015 //          DSN=FMNUSER.JLV3D81A.XEMP2.F00000.D2601130,
000016 //          UNIT=SYSALLDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE)
000017 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000018 COPY INDEXSPACE JLV3D81A.XEMP2
000019 COPYDDN(SYSCOPY)
000020 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F5=Rfind     F6=Rchange   F7=Up
F8=Down     F9=Swap       F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。
 - FM/Db2 は、「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティー (索引スペース))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および COPY ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。

関連する参照先

[「COPY Utility \(Index Spaces\) \(コピー・ユーティリティー \(索引スペース\)\)」パネル ページ 522](#)

[LISTDEF を指定した「COPY Utility \(Index Spaces\) \(コピー・ユーティリティー \(索引スペース\)\)」パネル ページ 524](#)

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

LOAD ユーティリティー

このオプションは、Db2® LOAD ユーティリティー制御ステートメントと対応しています。

LOAD ユーティリティーを選択するには、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで次の手順を行います。

1. 「**Db2® Utility (ユーティリティー)**」入力フィールドで、2 (LOAD) を入力します。
2. 「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」入力フィールドで、1 (表) を入力します。

「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネルが表示されます。



注: また、「Import (インポート)」(オプション 3.6) ユーティリティーを使用して、QSAM または VSAM データ・セットからのデータを、前景またはバッチのどちらかで Db2® 表にロードすることができます。

関連するタスク

[VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

[入力データ ページ 368](#)

[LOAD ユーティリティー制御ステートメントを使用したデータのロード ページ 369](#)

[コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータのロード ページ 371](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「LOAD Utility \(LOAD ユーティリティー\)」パネル ページ 732](#)

[「TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)」パネル ページ 880](#)

入力データ

LOAD ユーティリティー JCL を構築する FM/Db2 処理には、固定長形式の入力データが必要であり、これは固定位置フィールド仕様ステートメントを構築します。

ロードされるデータが以下で記述されている場合に LOAD ユーティリティーを使用できます。

- 既存の LOAD ユーティリティー制御ステートメントに記述。

例えば、REORG ユーティリティーを使用して、UNLOAD EXTERNAL オプションを指定することで Db2® データを Db2® “アンロード”形式にアンロードすることができます。また、REORG ユーティリティーは、Db2® LOAD ユーティリティー制御ステートメントを含むファイルを作成して、データを元の表に (再) ロードします。

- コピーブックまたはテンプレートに記述。

入力データを記述しているコピーブックまたは FM/Db2 テンプレートの名前を指定しなければなりません。データの形式は、LOAD ユーティリティーの要件と整合している必要があります。

関連するタスク

[REORG ユーティリティー ページ 382](#)

[Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)

[LOAD ユーティリティー制御ステートメントを使用したデータのロード ページ 369](#)

[コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータのロード ページ 371](#)

LOAD ユーティリティー制御ステートメントを使用したデータのロード



注: この方法でデータをロードするには、デフォルト INDDN 名 (2 番目の「TEMPLATE Options (TEMPLATE オプション)」パネルの「**INDDN template name (INDDN テンプレート名)**」フィールド内) はブランクでなければなりません。

以前の Db2® “アンロード”操作からのデータをロードするには、以下の通り行います。

1. 入力データ用の入力フィールドに、データ・セットの名前(「**Data set name (データ・セット名)**」)と、オプションでロードするデータが入っているメンバーの名前(「**Member (メンバー)**」)を指定してください。
2. ユーティリティー制御ステートメントの入力フィールドに、データ・セットの名前(「**Data set name (データ・セット名)**」)と、オプションでユーティリティー制御ステートメントが入っているメンバーの名前(「**Member (メンバー)**」)を指定してください。
3. オプション 1 (“*The data is described by utility control statements* (データはユーティリティー制御ステートメントによって記述されます)”)を選択します。
4. Enter キーを押します。

FM/Db2 は、指定されている入力詳細を使用して Db2® LOAD ユーティリティーを実行するためにバッチ・ジョブを構成します。 [図 86 : LOAD ユーティリティー制御ステートメントを使用する LOAD ユーティリティーのために生成](#)

されたサンプル JCL ページ 370 は、Db2® [unload (アンロード)] 形式のデータを使用して表をロードするための、生成済み JCL の例を示します。

図 86. LOAD ユーティリティー制御ステートメントを使用する LOAD ユーティリティーのために生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //*
000010 //* FM/Db2 GENERATED JOB TO LOAD A TABLE
000011 //*
000012 //*****
000013 //*
000014 //*****
000015 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000016 //*****
000017 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000018 //*
000019 //*****
000020 //* STEP LOAD: LOAD THE TABLE
000021 //*****
000022 //LOAD EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000023 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000024 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000025 //DSNUPROC.SYSREC00 DD DISP=SHR,          INPUT DATA
000026 //          DSN=FMNUSER.DATA(FMNCDATA)
000027 //DSNUPROC.SYSDISC DD SYSOUT=*          DISCARDED RECORDS
000028 //DSNUPROC.SYSERR DD UNIT=SYSALLDA,
000029 //          SPACE=(TRK,(1,1))          ERROR INFORMATION
000030 //DSNUPROC.SYSMAP DD UNIT=SYSALLDA,
000031 //          SPACE=(TRK,(1,1))          INTERNAL MAPPING DATA SET
000032 //DSNUPROC.SYSUT1 DD UNIT=SYSALLDA,
000033 //          SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE)
000034 //DSNUPROC.SORTOUT DD UNIT=SYSALLDA,
000035 //          SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE)
000036 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000037 LOAD DATA
000038 PREFORMAT
000039 LOG YES
000040 INDDN SYSREC00
000041 RESUME YES
000042 FLOAT(IEEE)
000043 ASCII
000044 SORTKEYS 100
000045 SORTDEVT SYSDA
000046 INTO TABLE
000047 "FMNUSER"."EMP"
000048 (
000049 "EMPNO          " POSITION(1      :2      ) CHAR(6)
000050 ,"SALARY        " POSITION(27     :30     ) DECIMAL
000051 )
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down      F9=Swap     F10=Left   F11=Right   F12=Cancel

```

関連するタスク

[コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータのロード ページ 371](#)

関連する参照先

「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネル ページ 732

コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータのロード

入力データの形式を記述したコピーブックまたはテンプレートが存在している場合に、LOAD ユーティリティーを使用して、順次データ・セットのデータをロードすることができます。

この場合、一連のパネルを使用して、以下の通り行います。

- 「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネルで、入力データを含むデータ・セットの名前、およびターゲット表の名前を指定します。
- 2 番目のパネルで、入力データを記述している「元の」コピーブックまたはテンプレートを指定します。
- 3 番目のパネルで、ターゲット表を記述している「宛先」テンプレートを指定することができます。代わりに、FM/Db2 を使用すると、Db2® カタログの情報を使用して、ターゲット表のテンプレートを生成することができます。

この段階で、入力テンプレートのフィールドと出力テンプレートのフィールド間のマッピングを定義することができます。

コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータをロードするには、以下の通り行います。


1. 入力データ用の入力フィールドに、データ・セットの名前(「**Data set name (データ・セット名)**」)と、オプションでロードするデータが入っているメンバーの名前(「**Member (メンバー)**」)を指定してください。
2. ターゲット Db2® 表の入力フィールド(「**Table owner (表所有者)**」、「**Table name (表名)**」、およびオプションで「**Database (データベース)**」と「**Table space (表スペース)**」)で、データがロードされる表の名前を指定します。これらのどのフィールドでも、アスタリスク (*) またはワイルドカードを入力して、選択リストを表示することができます。
3. オプション 2 (「*The data is described by a template or copybook (データはテンプレートまたはコピーブックによって記述されます)*」)を選択します。
4. Enter キーを押します。

INDDN 文節 (2 番目の「TEMPLATE Options (TEMPLATE オプション)」パネルの「**INDDN template name (INDDN テンプレート名)**」フィールド内) に対してデフォルト名を指定した場合、FM/Db2 は、入力データ用の「**Template name (テンプレート名)**」フィールドに デフォルト名 (例えば、LODINDDN) を示す一時パネルを表示します。

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)			LOAD Utility		
Input Data:					
Template name . . . LODINDDN					
Target Db2 Table:					
Owner	FMUSER	+	Database (optional)		
Name	EMP		Table space (optional)		
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

FM/Db2 には、入力テンプレートまたはコピーブックを指定できるパネルが表示されます。

5. “元”テンプレートの詳細を指定します。次のアクションのいずれかを実行します。
 - コピーブックまたはテンプレートを指定します。
 - 入力テンプレートまたはコピーブック用の入力フィールドに、データ・セットの名前(「**Data set name (データ・セット名)**」)と、オプションで入力データの形式を記述しているテンプレートまたはコピーブック用の、メンバーの名前(「**Member (メンバー)**」)を指定してください。
 - 「**Template usage (テンプレートの使用法)**」オプションで 1 (「Above (上の指定)」) を選択します。
 - 最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。
 - 「**Template usage (テンプレートの使用法)**」オプションで 2 (「Previous (直前の指定)」) を選択します。
6. LOAD ユーティリティー “To (宛先)”テンプレート・パネルに進む前に入力データ用のテンプレートを編集するには、「**View template (ビュー・テンプレート)**」オプションを選択します。このオプションは、「/」または「A」のどちらかを入力することによって選択できます。

 **注:** テンプレートの編集操作は、テンプレートを使用して Db2® LOAD ユーティリティー制御ステートメントを生成するときには、何も影響を与えません。このオプションを選択した場合には、テンプレートの更新および保管は行えません。

7. Enter キーを押します。

FM/Db2 には、ターゲット Db2® 表のテンプレートを指定できるパネルが表示されます。

8. 「**To Template (宛先テンプレート)**」および「**Template usage (テンプレートの使用法)**」入力フィールドの組み合わせを使用して、“To (宛先)”テンプレートの詳細を指定します。以下を行うことができます。
 - 入力データの形式が記述されているテンプレートを指定してください。
 - テンプレートを指定するには、「**Data set name (データ・セット名)**」、およびオプションで「**Member (メンバー)**」を使用してください。
 - 1 (「Above (上の指定)」) を選択します。

- 最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。
 - 2 (「Previous (直前の指定)」) を選択します。
 - Db2® カタログの情報を使用してテンプレートを生成するには、FM/Db2 を使用します。
 - 3 (「Generate from table (表からの生成)」) を選択します。
 - FM/Db2 に、Db2® カタログの情報を使用してテンプレートを生成させ、指定した名前を使用して生成されたテンプレートを保管します (同じメンバーが既に存在している場合には、FM/Db2 によってそれが置き換えられる)。
 - 生成されたテンプレートの保管時に FM/Db2 が使用する名前を指定するには、「**Data set name (データ・セット名)**」、およびオプションで「**Member (メンバー)**」を使用してください。
 - 4 (「Generate/Replace (生成/置き換え)」) を選択します。
9. 現行 LOAD セッション用のオプションを変更するため、[/] または [A] のいずれかを入力して「**Edit load utility options (ロード・ユーティリティー・オプションの編集)**」を選択します。

FM/Db2 では、編集のための「Load Utility Options (LOAD ユーティリティー・オプション)」パネルが表示されません。



注: このパネルで設定したオプションは、現行 LOAD セッションにのみ適用されます。LOAD セッションから終了すると、ロード・オプションは、グローバル LOAD オプションに復帰します。

10. [To (宛先)] テンプレートの列に、「From (元)」テンプレートの列 (またはフィールド) をマップするため、[/] または [A] のいずれかを入力することによって、「**Edit load utility options**」を選択します。FM/Db2 には、「**Template Mapping (テンプレート・マッピング)**」パネルが表示されます。
11. Enter キーを押します。

FM/Db2 は、指定されている入力詳細を使用して Db2® LOAD ユーティリティーを実行するためにバッチ・ジョブを構成します。図 87: コピーブックまたはテンプレートによって記述されたデータを使用する LOAD ユーティリ

ティーのために生成されたサンプル JCL (次の図に続く) ページ 374 は、コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータを使用して表をロードするための、生成済み JCL の例を示します。

図 87. コピーブックまたはテンプレートによって記述されたデータを使用する LOAD ユーティリティのために生成されたサンプル JCL (次の図に続く)

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //*
000010 //* FM/Db2 GENERATED JOB TO LOAD A TABLE
000011 //*
000012 //*****
000013 //*
000014 //*****
000015 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000016 //*****
000017 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000018 //*
000019 //*****
000020 //* STEP LOAD: LOAD THE TABLE
000021 //*****
000022 //LOAD EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000023 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000024 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000025 //DSNUPROC.SYSREC00 DD DISP=SHR,          INPUT DATA
000026 //          DSN=FMNUSER.DATA(FMNCDATA)
000027 //DSNUPROC.SYSDISC DD SYSOUT=*          DISCARDED RECORDS
000028 //DSNUPROC.SYSERR DD UNIT=SYSALLDA,
000029 //          SPACE=(TRK,(1,1))          ERROR INFORMATION
000030 //DSNUPROC.SYSMAP DD UNIT=SYSALLDA,
000031 //          SPACE=(TRK,(1,1))          INTERNAL MAPPING DATA SET
000032 //DSNUPROC.SYSUT1 DD UNIT=SYSALLDA,
000033 //          SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE)
000034 //DSNUPROC.SORTOUT DD UNIT=SYSALLDA,
000035 //          SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE)
000036 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000037 LOAD DATA
000038 PREFORMAT
000039 LOG YES
000040 INDDN SYSREC00
000041 RESUME YES
000042 FLOAT(IEEE)
000043 ASCII
000044 SORTKEYS 100
000045 SORTDEVT SYSDA
000046 INTO TABLE
000047 "FMNUSER"."EMP"
000048 (
000049 "EMPNO          " POSITION(1      :2      ) CHAR(6)
000050 ,"SALARY        " POSITION(27     :30     ) DECIMAL
000051 )
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down      F9=Swap     F10=Left   F11=Right   F12=Cancel

```

関連するタスク

[LOAD ユーティリティ制御ステートメントを使用したデータのロード ページ 369](#)
[データの マッピング ページ 112](#)

[FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

[テンプレートの編集 ページ 84](#)

[Db2 LOAD utility options \(option 3.L\) \(LOAD ユーティリティー・オプション \(オプション 3.L\)\) ページ 70](#)

[入力フィールドでのアスタリスク \(*\) またはパターンの使用 ページ 51](#)

関連する参照先

[\[LOAD Utility \(LOAD ユーティリティー\)\] パネル ページ 732](#)

[\[LOAD Utility - Using Templates \(LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用\)\] パネル ページ 735](#)

[\[Load from \(ロード元\)\] パネル ページ 730](#)

[\[LOAD Utility Options \(LOAD ユーティリティー・オプション\)\] パネル ページ 737](#)

[\[Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)\] パネル ページ 881](#)

[\[TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)\] パネル ページ 880](#)

REBUILD ユーティリティー

このオプションは、Db2® REBUILD INDEX ユーティリティー制御ステートメントと対応しています。

REBUILD ユーティリティーを選択するには、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「**Db2® Utility (ユーティリティー)**」入力フィールドに **3** を入力します。

パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで表スペースを選択した場合には、「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」パネルが表示されます。

パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで索引または索引スペースを選択した場合には、「REBUILD Utility (Indexes for Table Spaces) (REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引))」パネルが表示されます。



注: 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合、FM/Db2 は、「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」パネル、または「REBUILD Utility (Indexes for Table Spaces) (REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引))」パネルの代替形式を表示します。

関連するタスク

[REBUILD ユーティリティー \(索引\) ページ 376](#)

[REBUILD ユーティリティー \(表スペースの索引\) ページ 377](#)

関連する参照先

[\[Db2 Utilities \(ユーティリティー\)\] パネル ページ 635](#)

[\[REBUILD Utility \(Indexes\) \(REBUILD ユーティリティー \(索引\)\)\] パネル ページ 773](#)


[LISTDEF が指定された \[REBUILD \(Indexes\) \(REBUILD \(索引\)\)\] パネル ページ 775](#)

[\[REBUILD \(Indexes for Table Spaces\) \(REBUILD \(表スペースの索引\)\)\] パネル ページ 769](#)

[LISTDEF が指定された \[REBUILD \(Indexes for Table Spaces\) \(REBUILD \(表スペースの索引\)\)\] パネル ページ 771](#)

REBUILD ユーティリティー (索引)

生成された REBUILD ステートメントに WORKDDN 文節を組み込むには、2 番目の「TEMPLATE Options (TEMPLATE オプション)」パネルの「WORKDDN template name (WORKDDN テンプレート名)」に必須テンプレート名を指定します。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「Database name (データベース名)」、「Table/index owner (表/索引所有者)」、または「Table/index space name (表/索引スペース名)」フィルター・フィールドに情報を入力した場合、表示される行は、指定した情報と一致する Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引から 1 つを選択するには、「」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク (*) は選択された索引を示します。
 - [図 88: 「REBUILD Utility \(indexes\) \(REBUILD ユーティリティー \(索引\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 376](#) は、索引を再構築するための生成済み JCL の例を示します。

この例では、前のパネルの表示行から選択されたそれぞれの索引ごとに 1 つずつ、2 つの JCL ステップが FM/Db2 によって生成されています。

図 88. 「REBUILD Utility (indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL          Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000010 //*****
000011 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000012 //*
000013 //*****
000014 //* STEP RBIX1: REBUILD INDEX
000015 //* "FMNUSER"."XACT2"
000016 //*****
000017 //RBIX1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000018 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000019 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000020 //DSNUPROC.SYSUT1 DD UNIT=SYSALLDA,
000021 //          SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE)
000022 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000023 REBUILD INDEX (
000024 "FMNUSER"."XACT2"
000025 )
000026 WORKDDN(SYSUT1) SORTDEVT SYSALLDA SORTNUM 4 SORTKEYS
000027 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F5=Rfind     F6=Rchange   F7=Up
F8=Down      F9=Swap       F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
    
```

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。
 - FM/Db2 は、「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および REBUILD ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。

関連するタスク

REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引) ページ 377

関連する参照先

[Db2 Utilities (ユーティリティー)] パネル ページ 635

[REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))] パネル ページ 773

LISTDEF が指定された [REBUILD (Indexes) (REBUILD (索引))] パネル ページ 775

[TEMPLATE Options (2 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 2))] パネル ページ 880

REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引)

- [Db2® Utilities (ユーティリティー)] パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - [Db2® Utilities (ユーティリティー)] パネルの「**Database name (データベース名)**」または「**Table/index name (表/索引スペース名)**」フィルター・フィールドに情報が入力された場合は、表示行は指定された情報と一致している Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引スペースから 1 つを選択するには、「s」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク (*) は選択された表スペースを示します。
 - 図 89: [REBUILD Utility (indexes for table spaces) (REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引))] 用に生成されたサンプル JCL ページ 377 は、表スペースの索引を再構築するための生成済み JCL の例を示します。

図 89. [REBUILD Utility (indexes for table spaces) (REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引))] 用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000010 //*****
000011 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000012 //*
000013 //*****
000014 //* STEP RBIX1: REBUILD INDEX ALL FOR DSN8D81A.DSN8S81D
000015 //*****
000016 //RBIX1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000017 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000018 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000019 //DSNUPROC.SYSUT1 DD UNIT=SYSALLDA,
000020 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000021 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000022 REBUILD INDEX (ALL) TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D
000023 WORKDDN(SYSUT1) SORTDEVT SYSALLDA SORTNUM 4 SORTKEYS
000024 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。
 - FM/Db2 は、「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」パネルの 代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および REBUILD ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。

関連するタスク

[REBUILD ユーティリティー \(索引\) ページ 376](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「REBUILD \(Indexes for Table Spaces\) \(REBUILD \(表スペースの索引\)\)」パネル ページ 769](#)

[LISTDEF が指定された「REBUILD \(Indexes for Table Spaces\) \(REBUILD \(表スペースの索引\)\)」パネル ページ 771](#)

RECOVER ユーティリティー

RECOVER ユーティリティー・オプションでは、Db2® RECOVER ユーティリティー・ジョブを実行する JCL が生成されません。

RECOVER ユーティリティーを選択するには、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「**Db2® Utility (ユーティリティー)**」入力フィールドに **4** を入力します。

パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで表スペースを選択した場合には、「RECOVER Utility (Table spaces) (RECOVER ユーティリティー (表スペース))」パネルが表示されます。

パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで索引スペースを選択した場合には、「RECOVER Utility (Index spaces) (RECOVER ユーティリティー (索引スペース))」パネルが表示されます。



注: 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合、FM/Db2 は、「RECOVER Utility (Table spaces) (RECOVER ユーティリティー (表スペース))」パネル、または「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER ユーティリティー (索引スペース))」パネルの代替形式を表示します。

関連するタスク

[RECOVER \(表スペース\) ページ 379](#)

[RECOVER \(索引スペース\) ページ 380](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「RECOVER Utility \(Table Spaces\) \(RECOVER UTILITY \(表スペース\)\)」パネル ページ 780](#)

[LISTDEF が指定された「RECOVER Utility \(Table Spaces\) \(RECOVER ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 782](#)

[「RECOVER Utility \(Index Spaces\) \(RECOVER UTILITY \(索引スペース\)\)」パネル ページ 777](#)

[LISTDEF が指定された「RECOVER Utility \(Index Spaces\) \(RECOVER ユーティリティー \(索引スペース\)\)」パネル ページ 778](#)

FM/Db2 は、以下の形式の RECOVER ユーティリティー・ステートメントのみをサポートしています。

```
RECOVER object TOCOPY datasetname TOVOLUME CATALOG
```

RECOVER (表スペース)

このオプションは、RECOVER ユーティリティー制御ステートメントの RECOVER TABLE SPACE 形式に対応しています。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - 「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER ユーティリティー (表スペース))」パネルに表示された情報には、SYSCOPY カタログ表で見つかった一致する入力につき 1 行が含まれています。突き合わせはデータベース名および表スペース名で実行され、入力のタイプ (「Typ」) は、「F」(完全イメージ・コピー) または「I」(部分イメージ・コピー) のどちらかでなければなりません。カタログ式イメージ・コピー・データ・セットしか、サポートされていません。これは、表スペース名に対して 0、1、または多くの項目とすることができていることを意味しています。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「Database name (データベース名)」または「Table/index name (表/索引スペース名)」フィルター・フィールドに情報が入力された場合は、表示行は指定された情報と一致している Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引スペースから 1 つを選択するには、「[F3](#)」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列の asterisk (*) は選択された表スペースを示します。
 - [図 90: 「RECOVER Utility \(table spaces\) \(RECOVER ユーティリティー \(表スペース\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 379](#) は、表スペースを回復するための生成済み JCL の例を示します。

図 90. 「RECOVER Utility (table spaces) (RECOVER ユーティリティー (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP RECV1: RECOVER TABLESPACE DSNDB01.SCT02
000010 //*****
000011 //RECV1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000015 RECOVER TABLESPACE DSNDB01.SCT02 TOCOPY
000016 DFA2.IMAGCOPY.SCT02 TOVOLUME CATALOG
000017 REBUILD INDEX (ALL) TABLESPACE DSNDB01.SCT02
000018 SORTNUM 4 SORTDEVT SYSALLDA
000019 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap    F10=Left   F11=Right   F12=Cancel

```

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。
 - FM/Db2 は、「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および RECOVER ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。
 - [図 91 : LISTDEF が指定されている「RECOVER Utility \(table spaces\) \(RECOVER ユーティリティー \(表スペース\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 380](#) に、LISTDEF が指定されている表スペースを回復するための生成された JCL の例を示します。
- [図 91. LISTDEF が指定されている「RECOVER Utility \(table spaces\) \(RECOVER ユーティリティー \(表スペース\)\)」用に生成されたサンプル JCL](#)

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 // *
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 // *
000008 //*****
000009 // * STEP RECV1: RECOVER TABLESPACE LIST LDEFNAME1
000010 //*****
000011 //RECV1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000015 RECOVER LIST LDEFNAME1
000016 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel
    
```

関連するタスク

[RECOVER \(索引スペース\) ページ 380](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「RECOVER Utility \(Table Spaces\) \(RECOVER UTILITY \(表スペース\)\)」パネル ページ 780](#)

[LISTDEF が指定された「RECOVER Utility \(Table Spaces\) \(RECOVER ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 782](#)

RECOVER (索引スペース)

このオプションは、RECOVER ユーティリティー制御ステートメントの RECOVER INDEXSPACE 形式に対応しています。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「Database name (データベース名)」または「Table/index name (表/索引スペース名)」フィルター・フィールドに情報が入力された場合は、表示行は指定された情報と一致している Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引スペースから 1 つを選択するには、「s」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク (*) は選択された索引スペースを示します。
 - 図 92: 「RECOVER Utility (index spaces) (RECOVER ユーティリティー (索引スペース))」用に生成されたサンプル JCL ページ 381 は、索引スペースを回復するための生成済み JCL の例を示します。

図 92. 「RECOVER Utility (index spaces) (RECOVER ユーティリティー (索引スペース))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL          Columns 00001 00072
*****
***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP RECV1: RECOVER INDEXSPACE JLV3D81A.XDEPT2
000010 //*****
000011 //RECV1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000015 RECOVER INDEXSPACE JLV3D81A.XDEPT2 TOCOPY
000016 SHRIKES.JLV3D81A.XDEPT2.F00000.D2541023 TOVOLUME CATALOG
000017 /*
*****
***** Bottom of Data *****
Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap     F10=Left   F11=Right   F12=Cancel

```

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。
 - FM/Db2 は、「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER ユーティリティー (索引スペース))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および RECOVER ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。

関連するタスク

[RECOVER \(表スペース\) ページ 379](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「RECOVER Utility \(Index Spaces\) \(RECOVER UTILITY \(索引スペース\)\)」パネル ページ 777](#)

[LISTDEF が指定された「RECOVER Utility \(Index Spaces\) \(RECOVER ユーティリティー \(索引スペース\)\)」パネル ページ 778](#)

REORG ユーティリティー

REORG ユーティリティーを選択するには、「**Db2®Utilities (ユーティリティー)**」パネルの「Db2® Utility (ユーティリティー)」入力フィールドに **5** と入力します。

パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで表スペースを選択した場合には、「REORG Utility (Table spaces) (REORG ユーティリティー (表スペース))」パネルが表示されます。

パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで索引を選択した場合には、「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」パネルが表示されます。



注: FM/Db2 は、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、「REORG Utility (Table spaces) (REORG ユーティリティー (表スペース))」パネル、または「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」パネルの代替形式を表示します。

関連するタスク

[REORG \(表スペース\) ページ 382](#)

[REORG \(索引\) ページ 385](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「REORG Utility \(Table Spaces\) \(REORG UTILITY \(表スペース\)\)」パネル ページ 792](#)

[LISTDEF を指定した「REORG Utility \(Table Spaces\) \(REORG ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 794](#)

[「REORG Utility \(Indexes\) \(REORG ユーティリティー \(索引\)\)」パネル ページ 788](#)

[LISTDEF が指定された「REORG Utility \(Indexes\) \(REORG ユーティリティー \(索引\)\)」パネル ページ 790](#)

REORG (表スペース)

生成された REORG ステートメントに UNLDDN 文節を組み込むには、2 番目の「TEMPLATE Options (TEMPLATE オプション)」パネルの「**UNLDDN template name (UNLDDN テンプレート名)**」に必須テンプレート名を指定します。



注: 選択した表スペースの「REORG Utility (Table Spaces) (REORG ユーティリティー (表スペース))」パネルの「**Unload External**」オプションは “Y” に設定する必要があります。

このオプションは、REORG TABLE SPACE ユーティリティー制御ステートメントに対応しています。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「**Database name (データベース名)**」または「**Table/index name (表/索引スペース名)**」フィルター・フィールドに情報が入力された場合は、表示行は指定された情報と一致している Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引スペースから 1 つを選択するには、「**5**」を「**SEL**」列に入力してください。「**PRC**」列の asterisk (*) は選択された表スペースを示します。

- 図 93: 「REORG Utility (Table Spaces) (REORG ユーティリティー (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL ページ 383 は、表スペースを再編成するための生成済み JCL の例を示します。

図 93. 「REORG Utility (Table Spaces) (REORG ユーティリティー (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000010 //*****
000011 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000012 //*
000013 //*****
000014 //* STEP RORG1: REORG TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D
000015 //*****
000016 //RORG1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000017 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000018 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000019 //DSNUPROC.SYSREC DD UNIT=SYSALLDA,
000020 //          SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE)
000021 //DSNUPROC.SYSUT1 DD UNIT=SYSALLDA,
000022 //          SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE)
000023 //DSNUPROC.SORTOUT DD UNIT=SYSALLDA,
000024 //          SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE)
000025 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000026 REORG TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D LOG NO
000027 SORTDATA
000028 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F5=Rfind     F6=Rchange   F7=Up
F8=Down     F9=Swap       F10=Left     F11=Right    F12=Cancel

```

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。

- FM/Db2 は、「REORG (Table Spaces) (REORG (表スペース))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および REORG ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。
 - [図 94: LISTDEF が指定されている「REORG Utility \(Table Spaces\) \(REORG ユーティリティ \(表スペース\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 384](#) に、LISTDEF が指定されている表スペースを回復するための生成された JCL の例を示します。
- [図 94. LISTDEF が指定されている「REORG Utility \(Table Spaces\) \(REORG ユーティリティ \(表スペース\)\)」用に生成されたサンプル JCL](#)

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000010 //*****
000011 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000012 //*
000013 //*****
000014 //* STEP RORG1: REORG TABLESPACE LIST LDEFNAME1
000015 //*****
000016 //RORG1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMUSER'
000017 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000018 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000019 //DSNUPROC.SYSREC DD UNIT=SYSALLDA,
000020 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000021 //DSNUPROC.SYSUT1 DD UNIT=SYSALLDA,
000022 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000023 //DSNUPROC.SORTOUT DD UNIT=SYSALLDA,
000024 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000025 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000026 REORG TABLESPACE LIST LDEFNAME1 LOG NO
000027 SORTDATA
000028 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap    F10=Left   F11=Right   F12=Cancel

```

関連するタスク

- [REORG \(索引\) ページ 385](#)
- [Db2 ユーティリティのオプションの設定 ページ 358](#)

関連する参照先

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)
- [「TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)」パネル ページ 880](#)
- [「REORG Utility \(Table Spaces\) \(REORG UTILITY \(表スペース\)\)」パネル ページ 792](#)
- [LISTDEF を指定した「REORG Utility \(Table Spaces\) \(REORG ユーティリティ \(表スペース\)\)」パネル ページ 794](#)

REORG (索引)

このオプションは、REORG INDEX ユーティリティー制御ステートメントに対応しています。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「Database name (データベース名)」、**「Table/index owner (表/索引所有者)」、または「Table/index space name (表/索引スペース名)」** フィルター・フィールドに情報を入力した場合、表示される行は、指定した情報と一致する Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引から 1 つを選択するには、「s」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク (*) は選択された索引を示します。
 - [図 95: 「REORG Utility \(indexes\) \(REORG ユーティリティー \(索引\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 385](#) は、索引を再編成するための生成済み JCL の例を示します。

図 95. 「REORG Utility (indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL          Columns 00001 00072
***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000010 //*****
000011 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000012 //*
000013 //*****
000014 //* STEP RORG1: REORG INDEX
000015 //* "BUDGER2"."PLAN_TABLE_HINT_IX"
000016 //*****
000017 //RORG1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000018 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000019 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000020 //DSNUPROC.SYSREC DD UNIT=SYSALLDA,
000021 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000022 //DSNUPROC.SYSUT1 DD UNIT=SYSALLDA,
000023 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000024 //DSNUPROC.SORTOUT DD UNIT=SYSALLDA,
000025 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000026 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000027 REORG INDEX
000028 "BUDGER2"."PLAN_TABLE_HINT_IX"
000029 /*
***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down      F9=Swap     F10=Left   F11=Right   F12=Cancel

```

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。

- FM/Db2 は、「REORG (indexes) (REORG (索引))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および REORG ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。
- [図 96 : LISTDEF が指定されている「REORG Utility \(indexes\) \(REORG ユーティリティー \(索引\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 386](#) に、LISTDEF が指定されている表スペースを回復するための生成された JCL の例を示します。

図 96. LISTDEF が指定されている「REORG Utility (indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000010 //*****
000011 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000012 //*
000013 //*****
000014 //* STEP RORG1: REORG INDEX LIST LDEF1
000015 //*****
000016 //RORG1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000017 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000018 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000019 //DSNUPROC.SYSREC DD UNIT=SYSALLDA,
000020 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000021 //DSNUPROC.SYSUT1 DD UNIT=SYSALLDA,
000022 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000023 //DSNUPROC.SORTOUT DD UNIT=SYSALLDA,
000024 //          SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE)
000025 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000026 REORG INDEX LIST LDEF1
000027 /*
***** Bottom of Data *****

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel
    
```

関連するタスク

[REORG \(表スペース\) ページ 382](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「REORG Utility \(Indexes\) \(REORG ユーティリティー \(索引\)\)」パネル ページ 788](#)

[LISTDEF が指定された「REORG Utility \(Indexes\) \(REORG ユーティリティー \(索引\)\)」パネル ページ 790](#)

RUNSTATS ユーティリティー

RUNSTATS ユーティリティーを選択するには、「Db2@Utilities (ユーティリティー)」パネルの「Db2@ Utility (ユーティリティー)」入力フィールドに **6** を入力します。

パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで表スペースを選択した場合には、「RUNSTATS Utility (Table spaces) (RUNSTATS ユーティリティー (表スペース))」パネルが表示されます。

パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで索引を選択した場合には、「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS ユーティリティー (索引))」パネルが表示されます。



注: 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合、FM/Db2 は、「RUNSTATS Utility (Table spaces) (RUNSTATS ユーティリティー (表スペース))」パネル、または「RUNSTATS Utility (Index) (RUNSTATS ユーティリティー (索引))」パネルの代替形式を表示します。

関連するタスク

[RUNSTATS \(表スペース\) ページ 387](#)

[RUNSTATS \(索引\) ページ 389](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「RUNSTATS Utility \(Table Spaces\) \(RUNSTATS UTILITY \(表スペース\)\)」パネル ページ 804](#)

[LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility \(Table Spaces\) \(RUNSTATS ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 806](#)

[「RUNSTATS Utility \(Indexes\) \(RUNSTATS UTILITY \(索引\)\)」パネル ページ 801](#)

[LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility \(Indexes\) \(RUNSTATS ユーティリティー \(索引\)\)」パネル ページ 803](#)

RUNSTATS (表スペース)

このオプションは、RUNSTATS ユーティリティー制御ステートメントの RUNSTATS TABLE SPACE 形式に対応しています。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「**Database name (データベース名)**」または「**Table/index name (表/索引スペース名)**」フィルター・フィールドに情報が入力された場合は、表示行は指定された情報と一致している Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引スペースから 1 つを選択するには、「s」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク (*) は選択された表スペースを示します。

- 図 97: 「RUNSTATS Utility (table spaces) (RUNSTATS ユーティリティー (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL ページ 388 は、表スペースで統計を収集するための生成済み JCL の例を示します。

図 97. 「RUNSTATS Utility (table spaces) (RUNSTATS ユーティリティー (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 // *
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 // *
000008 //*****
000009 // * STEP STAT1: RUNSTAT TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D
000010 //*****
000011 //STAT1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000015 RUNSTATS TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D
000016 UPDATE ALL
000017 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap     F10=Left   F11=Right   F12=Cancel

```

- 「Db2@ Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。

- FM/Db2 は、「RUNSTATS Utility (Table spaces) (RUNSTATS ユーティリティー (表スペース))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および RUNSTATS ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。
- [図 98 : LISTDEF が指定されている「RUNSTATS \(table spaces\) \(RUNSTATS \(表スペース\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 389](#) に、LISTDEF が指定されている表スペースを回復するための生成された JCL の例を示します。

図 98. LISTDEF が指定されている「RUNSTATS (table spaces) (RUNSTATS (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP STAT1: RUNSTAT TABLESPACE LIST LDEFNAME1
000010 //*****
000011 //STAT1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000015 RUNSTATS TABLESPACE LIST LDEFNAME1
000016 UPDATE ALL
000017 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down      F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

関連するタスク

[RUNSTATS \(索引\) ページ 389](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「RUNSTATS Utility \(Table Spaces\) \(RUNSTATS UTILITY \(表スペース\)\)」パネル ページ 804](#)

[LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility \(Table Spaces\) \(RUNSTATS ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 806](#)

RUNSTATS (索引)

このオプションは、RUNSTATS ユーティリティー制御ステートメントの RUNSTATS INDEX 形式に対応しています。

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合は、以下のようになります。
 - 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで「Database name (データベース名)」、「Table/index owner (表/索引所有者)」、または「Table/index space name (表/索引スペース名)」フィルター・フィールドに情報を入力した場合には、表示される行は、指定した情報を一致する Db2® オブジェクトに制限されます。
 - 表示された索引から 1 つを選択するには、「s」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク (*) は選択された索引を示します。
 - 図 99: 「RUNSTATS Utility (indexes) (RUNSTATS ユーティリティー (索引))」用に生成されたサンプル JCL ページ 390 は、索引で統計を収集するための生成済み JCL の例を示します。

図 99. 「RUNSTATS Utility (indexes) (RUNSTATS ユーティリティー (索引))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP STAT1: RUNSTAT INDEX
000010 //* "BUDGER2"."PLAN_TABLE_HINT_IX"
000011 //*****
000012 //STAT1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000013 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000014 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000015 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000016 RUNSTATS INDEX (
000017 "BUDGER2"."PLAN_TABLE_HINT_IX"
000018 )
000019 UPDATE ALL
000020 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F5=Rfind     F6=Rchange   F7=Up
F8=Down      F9=Swap       F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
    
```

- 「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、以下のようになります。

- FM/Db2 は、「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS ユーティリティー (索引スペース))」パネルの代替形式を表示し、指定した LISTDEF、および RUNSTATS ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。
- [図 100 : LISTDEF が指定されている「RUNSTATS \(indexes\) \(RUNSTATS \(索引\)\)」用に生成されたサンプル JCL ページ 391](#) に、LISTDEF が指定されている表スペースを回復するための生成された JCL の例を示します。

[図 100. LISTDEF が指定されている「RUNSTATS \(indexes\) \(RUNSTATS \(索引\)\)」用に生成されたサンプル JCL](#)

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //* STEP STAT1: RUNSTAT INDEX LIST LDEFNAME1
000010 //*****
000011 //STAT1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000012 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000013 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000014 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000015 RUNSTATS INDEX LIST LDEFNAME1
000016 UPDATE ALL
000017 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down     F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

関連するタスク

[RUNSTATS \(表スペース\) ページ 387](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「RUNSTATS Utility \(Indexes\) \(RUNSTATS UTILITY \(索引\)\)」パネル ページ 801](#)

[LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility \(Indexes\) \(RUNSTATS ユーティリティー \(索引\)\)」パネル ページ 803](#)

UNLOAD ユーティリティー

UNLOAD ユーティリティーは、1 つ以上のソース・オブジェクトから、外部形式の 1 つ以上の順次データ・セットにデータをアンロードします。これは、大容量のデータをアンロードまたは転送するための推奨される方法です。

LOAD ユーティリティー制御ステートメント (PUNCHDDN 文節) を受け取るデータ・セット、およびデータをアンロードする (UNLDDN 文節) 先のデータ・セットを識別する Db2® テンプレートを指定することができます

UNLOAD ユーティリティーを選択するには、「Db2®Utilities (ユーティリティー)」パネルの **Db2®Utility (ユーティリティー)** 入力フィールドに **7** を入力します。

「Db2@Utilities」パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで“Tables (表)”を選択した場合には、「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティー (表))」パネルが表示されます。

「Db2@Utilities (ユーティリティー)」パネルの「**Object Type (オブジェクト・タイプ)**」セクションで“Table Spaces (表スペース)”を選択した場合には、「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティー (表スペース))」パネルが表示されます。



注: 「Db2@Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合、FM/Db2 は、「UNLOAD Utility (Table) (UNLOAD ユーティリティー (表))」パネルまたは「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティー (表スペース))」パネルの代替形式を表示します。

関連するタスク

[UNLOAD \(表\) ページ 392](#)

[UNLOAD \(表スペース\) ページ 398](#)

[Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)

関連する参照先

[「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

[「TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)」パネル ページ 880](#)

[「UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表\)\)」の「From \(元\)」パネル ページ 891](#)

[「UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表\)\)」の「To \(宛先\)」パネル ページ 892](#)

[LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表\)\)」パネル ページ 894](#)

[「UNLOAD Utility \(Table Spaces\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 889](#)

[LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility \(Table Spaces\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 889](#)

UNLOAD (表)

UNLOAD (表) ユーティリティーを使用して、データを順次データ・セットにアンロードします。既存のデータを新規のデータと置き換えるか、またはデータ・セット内にすでにあるデータに新規のデータを追加するかを選択できます。UNLOAD (表) ユーティリティーは、データ・セットに大容量データを追加する最も効率的な方法を提供します。

UNLOAD ユーティリティーを使用したときには、以下のことが可能です。

- “元”テンプレートの必要な列を指定することによって、アンロードすべき列を選択する。
- アンロード中に、表の列を出力データ・セットのフィールドに (テンプレートで指定されたとおりに) マップすることによって、データを再形式設定する。
- アンロードされたデータを記述する File Manager の「Base」テンプレートを作成して、保存する。
- アンロードする行を選択する。
- アンロードする行数を指定する。

生成された UNLOAD ステートメントに PUNCHDDN 文節を組み込むには、2 番目の「TEMPLATE Options (TEMPLATE オプション)」パネルの「**PUNCHDDN template name (PUNCHDDN テンプレート名)**」に必須テンプレート名を指定します

生成された UNLOAD ステートメントに UNLDDN 文節を組み込むには、2 番目の「TEMPLATE Options (TEMPLATE オプション)」パネルの「**UNLDDN template name (UNLDDN テンプレート名)**」に必須テンプレート名を指定します。

以下の説明は、「Db2®Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定しなかった場合に適用されます。

「Db2®Utilities (ユーティリティー)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合は、[LISTDEF が指定された UNLOAD \(表\) ページ 398](#) を参照してください。

「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティー (表))」パネルで、以下のようにします。

1. 「Db2®Utilities (ユーティリティー)」パネルで入力した、表名の詳細は「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティー (表))」パネルにコピーされます。ソース表の行のすべてはアンロードしないという場合には、アンロードする行数を「**Unload Count (アンロード・カウント)**」フィールドに指定します。
2. ソース表に対して特定のテンプレートを使用する場合には、そのテンプレートの名前を「**From Template (元テンプレート)**」の入力フィールドに指定します。
3. 「**Processing Options (処理オプション)**」で、FM/Db2 がソース表に使用するテンプレートを指定し、FM/Db2 がユーティリティー・バッチ・ジョブを作成する前にテンプレートを編集するかどうかを指定します。
4. 次に進むには、Enter キーを押してください。

「**Edit template (テンプレートの編集)**」オプションを選択した場合、FM/Db2 は「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示します。このパネルは、次のようにして、ソース表のデータを制限するために使用します。

- アンロードに対して特定の列を選択または選択解除する。
- 行の選択貴人を指定する。FM/Db2 は、アンロードの基準を満たす内容の行のみを選択します。

例えば、[図 101: 行選択基準および選択済み列を示す基本「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 394](#) に示されているテンプレートは、一定の列と、一定の基準を満たす内容を持つ行のみとを選択するように編集されたものです。このテンプレートをアンロード“元”テンプレートとして使用すると、アンロードされるデータは、以下のものに制限されます。

- 列「FIRSTNAME」、「LASTNAME」、「WORKDEPT」、「JOB」。ただし、WORKDEPT が“MNT”と等しく、JOB が“PAINTER”と等しい場合のみ。

図 101. 行選択基準および選択済み列を示す基本「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル

Process		Options		Utilities		Help			
FM/Db2 (DFG2)		Column Selection/Edit				Line 1 of 16			
TABLE FMUSER.EMP		----- Row Selection Criteria ---- (Use SQL/PF4 for full screen edit) -----							
1 Sel: WHERE WORKDEPT = 'MNT' AND JOB = 'PAINTER'		+-----							
Cmd	Seq	SHEX	CL#	Column name	Data type(length)	Null	Default	Order	A/D
				**** Top of data ****					
---	---		1	EMPNO	CHARACTER(6)		None	---	---
---	---	S	2	FIRSTNME	VARCHAR(12)		None	---	---
---	---		3	MIDINIT	CHARACTER(1)		None	---	---
---	---	S	4	LASTNAME	VARCHAR(15)		None	---	---
---	---	S	5	WORKDEPT	CHARACTER(3)	Y	Null	---	---
---	---		6	PHONENO	CHARACTER(4)		Null	---	---
---	---		7	HIREDATE	DATE	Y	Null	---	---
---	---	S	8	JOB	CHARACTER(8)	Y	Null	---	---
---	---		9	EDLEVEL	SMALLINT	Y	Null	---	---
---	---		10	SEX	CHARACTER(1)	Y	Null	---	---
---	---		11	BIRTHDATE	DATE	Y	Null	---	---
---	---		12	SALARY	DECIMAL(9,2)	Y	Null	---	---
Command ==>		-----						Scroll	PAGE
F1=Help		F2=Split		F3=Exit		F4=SQL		F5=RFind	
F7=Up		F8=Down		F9=Swap		F10=Left		F11=Right	
								F6=RunTemp	
								F12=Cancel	

「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」オプションを選択しなかった場合、(またはテンプレート・オプションの編集を完了している場合)、および「TEMPLATE Options (2 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 2))」の「UNLDDN template name (UNLDDN テンプレート名)」フィールドの値がブランクである場合、FM/Db2 は「(UNLOAD Utility (UNLOAD ユーティリティ))」の「To (宛先)」パネルを表示します。



注: 「UNLDDN template name (UNLDDN テンプレート名)」フィールドがブランクである場合、出力が既に定義されているため、FM/Db2 は「UNLOAD Utility (UNLOAD ユーティリティ)」の「To (宛先)」パネルを表示しません。

- 現在のバッチ・ジョブの作成で FM/Db2 が使用する UNLOAD オプションの設定を一時的に変更するには、「Edit UNLOAD utility options (UNLOAD ユーティリティ・オプションの編集)」を選択して、「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」パネルを表示します。

元の設定のいずれかを変更した場合、変更が有効であるのは、設定を変更した Db2® ユーティリティ UNLOAD 機能を使用している間だけです。「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」パネルを終了して、あとでこのパネルに戻ると、前の UNLOAD セッションで変更した設定は使用不可になります。

- 「UNLOAD Utility (UNLOAD ユーティリティ)」の「To (宛先)」パネルで、「Data set name (データ・セット名)」入力フィールド、およびオプションで「Volume (ボリューム)」入力フィールドを使用して「To (宛先)」データ・セットの詳細を入力することで、アンロードのターゲットである順次データ・セットを指定します。
- 「To (宛先)」データ・セットに対して特定のテンプレートまたはコピーブックを使用する場合は、テンプレートまたはコピーブック・データ・セットの名前と、オプションでメンバー名を、「To Data Template or Copybook (宛先データ・テンプレートまたはコピーブック)」入力フィールドに指定します。

Db2® UNLOAD ユーティリティで使用されるデータ形式は固定です。そのため、コピーブックまたはテンプレート・データ・セットを指定する場合は、データの不一致の問題を回避するために、そのコピーブックまたはテンプレートは Db2® UNLOAD データ形式を反映する必要があります。

Db2® アンロード・データ・セットに指定するテンプレートは、File Manager 「Base」 テンプレートである必要があります。FM/Db2 テンプレートは使用できません。

「Db2®UNLOAD utility options (アンロード・ユーティリティー・オプション)」 パネルで **「Allow padding (充てんを許可)」** オプションを選択しない場合は、FM/Db2 はアンロードされたデータを記述するテンプレートを生成できません。この場合、「UNLOAD utility (UNLOAD ユーティリティー)」の *“To (宛先)”* パネルの表示時にテンプレートの処理に関連したすべてのフィールドがプロテクトされ、「template usage (テンプレートの使用法)」オプションは 5 (NONE) に設定されます。

8. 希望する **「template usage (テンプレート使用法)」** および **「Disposition (後処理)」** オプションを選択します。
9. Db2® UNLOAD オプションを確認するには、**「View UNLOAD options (UNLOAD オプションを表示)」** フィールドを選択します。「Db2®UNLOAD utility options (アンロード・ユーティリティー・オプション)」パネルが表示されているときは、変更を行えません。変更を行うには、「Db2®UNLOAD utility *“From”* (UNLOAD ユーティリティーの「元」)」パネルに戻り、**「Edit UNLOAD options (UNLOAD オプションの編集)」** を選択します。
10. ソース表のテンプレート・マッピングを編集するには、**「Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)」** を選択して、「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルを表示します。
11. 次に進むには、Enter キーを押してください。

FM/Db2 は、指定された入力詳細を使用して DDb2®UNLOAD ユーティリティー・ジョブを実行するためのバッチ・ジョブを作成します。

図 102: 「UNLOAD (Tables) (UNLOAD (表))」用に生成されたサンプル JCL ページ 396 に、表オブジェクトをアンロードするための生成済み JCL の例を示します。

図 102. 「UNLOAD (Tables) (UNLOAD (表))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT FMUSER.SPFTEMP1.CNTL Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMUSERB JOB (IBMGSA),
000002 // FMUSER,MSGCLASS=A,
000003 // NOTIFY=FMUSER,CLASS=A,
000004 // MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 // JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //*
000010 //* FM/Db2 GENERATED JOB TO UNLOAD A TABLE
000011 //*
000012 //*****
000013 //*
000014 //*****
000015 //* STEP UNLOAD: UNLOAD FROM TABLE
000016 //* "FMUSER"."EMP"
000017 //*****
000018 //UNLOAD1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMUSER'
000019 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000020 // DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000021 //DSNUPROC.SYSREC00 DD DISP=(MOD,CATLG,DELETE),UNIT=SYSALLDA,
000022 // BLKSIZE=0,
000023 // AVGREC=U,
000024 // LRECL=82,RECFM=FB,DSORG=PS,
000025 // SPACE=(82,(42,4),RLSE),
000026 // DSN=FMUSER.FRED
000027 //DSNUPROC.SYSPUNCH DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),UTIL CONTRL DATA
000028 // UNIT=SYSALLDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),
000029 // DSN=FMUSER.FMUSER.EMP.D2581536.SYSPUNCH
000030 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000031 UNLOAD DATA FROM TABLE
000032 "FMUSER"."EMP"
000033 HEADER NONE
000034 LIMIT ALL
000035 (
000036 "FIRSTNME " POSITION(1 ) VARCHAR
000037 ,"LASTNAME " POSITION(15 ) VARCHAR
000038 ,"WORKDEPT " POSITION(33 ) CHAR(3)
000039 ,"JOB " POSITION(38 ) CHAR(8)
000040 ,"BONUS " POSITION(48 ) DECIMAL
000041 ,"COMM " POSITION(66 ) DECIMAL
000042 )
000043 WHEN
000044 (
000045 "WORKDEPT" = 'MAINT' AND "JOB" = 'PAINTER'
000046 )
000047 UNLDDN(SYSREC00)
000048 NOSUBS
000049 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> Scroll ==> PAGE
F1=Help F2=Split F3=Exit F5=Rfind F6=Rchange F7=Up
F8=Down F9=Swap F10=Left F11=Right F12=Cancel
    
```

関連するタスク

- [テンプレートの処理 ページ 75](#)
- [テンプレートの編集 ページ 84](#)
- [FM/Db2 によるマッピング ページ 113](#)
- [Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)

関連する参照先

- [\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)
- [\[UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表\)\)\] の「From \(元\)」 パネル ページ 891](#)
- [\[UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表\)\)\] の「To \(宛先\)」 パネル ページ 892](#)
- [\[TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)\] パネル ページ 880](#)
- [\[UNLOAD Options \(UNLOAD オプション\)\] パネル ページ 885](#)
- [\[Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)\] パネル ページ 881](#)
- [\[TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)\] パネル ページ 880](#)

ヌル標識バイトの処理

Db2® UNLOAD ユーティリティーのデータ形式は、出力データ・セットで各ヌル可能列のデータの直前にある Db2® ヌル値には 1 バイトを使用します。列に Db2® ヌル値が含まれるとき、列に値と X'FF' が含まれていると、このバイトの値は X'00' に設定されます。Db2® UNLOAD ユーティリティーは、出力データ・セット内のヌル標識バイトに適切な値を自動的に入れます。

“To (宛先)” パネルでテンプレート処理オプションが「3」または「4」に設定されている場合は、FM/Db2 は File Manager の「Base」テンプレートを生成します。このテンプレートには、必要に応じて、ヌル標識バイトのフィールドが組み込まれています。

コピーブックを使用して出力データを記述する場合は、FM/Db2 は、Db2® オブジェクトのテンプレートと出力データ・セットのテンプレート間の適切なマッピングを生成しようとします。Db2® UNLOAD ユーティリティーで使用されるデータ形式は固定です。そのため、データの不一致の問題を回避するために、コピーブックによって記述されるデータ形式はこの形式を反映する必要があります。

ユーザー指定のコピーブックの Db2® ヌル標識バイトは、以下の場合に正常にマップされます。

- 固定ターゲット・フィールドの直前、または可変ターゲット・フィールドの長さフィールドの前に置かれます。
- ヌル標識バイトは、すでにマップされているフィールドをオーバーラップすることはありません。
- ヌル標識バイトのフィールド名に「NULL」が含まれています。この場合は、FM/Db2 はマッピングを、Db2® UNLOAD ユーティリティーの生成済み JCL にコメントとして文書化します。

その他のタイプのマッピング、またはヌル標識バイトの以下のような使用法はサポートされていません。

- ヌル標識バイトのないデータ・フィールドにヌル可能 Db2® 列をマップするコピーブック。
- ヌル標識バイトのあるデータ・フィールドにヌル可能でない Db2® 列をマップするコピーブック。
- 長さが 1 バイトではないか、関連のある列のデータの直前にないヌル標識フィールドを使用するコピーブック。

関連する参照先

- [\[UNLOAD Options \(UNLOAD オプション\)\] パネル ページ 885](#)

LISTDEF が指定された UNLOAD (表)

「Db2@ Utilities (ユーティリティ)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合、FM/Db2 では「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」パネルの代替形式が表示され、指定した LISTDEF、および UNLOAD ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが示されます。

図 103: LISTDEF が指定されている「UNLOAD (Tables) (UNLOAD (表))」用に生成されたサンプル JCL ページ 398 に、LISTDEF が指定されている表オブジェクトをアンロードするための生成済み JCL の例を示します。

図 103. LISTDEF が指定されている「UNLOAD (Tables) (UNLOAD (表))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //*
000010 //* FM/Db2 GENERATED JOB TO UNLOAD TABLE LIST
000011 //*
000012 //*****
000013 //*
000014 //*****
000015 //* STEP SETPARAM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000016 //*****
000017 //SETPARAM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000018 //*
000019 //*****
000020 //* STEP UNLOAD1: UNLOAD TABLE LIST LDEFNAME1
000021 //*****
000022 //UNLOAD1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000023 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000024 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000025 //DSNUPROC.SYSREC00 DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
000026 //          UNIT=,SPACE=(&ALLOC,&PRI,&SEC),RLSE),
000027 //          DSN=FMNUSER.LDEFNAME.D2601243.SYSREC
000028 //DSNUPROC.SYSPUNCH DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE), UTIL CONTRL DATA
000029 //          UNIT=,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),
000030 //          DSN=FMNUSER.LDEFNAME.D2601243.SYSPUNCH
000031 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000032 UNLOAD LIST LDEFNAME1
000033 UNLDDN(SYSREC00)
000034 NOSUBS
000035 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down      F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

関連する参照先

[LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティ \(表\)\)」パネル ページ 894](#)

UNLOAD (表スペース)

このオプションは、UNLOAD ユーティリティ制御ステートメントの UNLOAD TABLESPACE 形式に対応しています。

UNLOAD (表スペース) を使用すると、「Db2@Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルで フィルター・フィールドの以下の組み合わせを使用することができます。

- 「Database name (データベース名)」または「Table/index space name (表/索引スペース名)」。

「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの上記のフィルター・フィールドのいずれかに情報を入力した場合には、表示された行は、指定した情報と一致する Db2® オブジェクトに制限されます。

図 104: 表スペースのリストを表示する「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティー (表スペース))」パネル ページ 399 に、表スペースのリストが表示された「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティー (表スペース))」パネルの例を示します。

表示された索引スペースから 1 つを選択するには、「S」を「SEL」列に入力してください。「PRC」列のアスタリスク (*) は選択された表スペースを示します。

図 104. 表スペースのリストを表示する「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティー (表スペース))」パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		UNLOAD Utility (Table Spaces)	Row 1 to 4 of 4
S P e R l C	Table Database Space Name	Part'n Range One Two	Number Number Part'n Tables Allocation Primary Secdry Space
S - - -	BILLDB1 BILLDB1 BILLDB1 BILLDB1	ACT ACT ACT ACT	2 3 - - - - - - 3 3 4 1 3 3 5 5 48 144 144 48 ***** Bottom of data *****
Command ==> F1=Help F12=Cancel	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap Scroll PAGE

入力したフィルター値から単一行だけが生じた場合、その行は選択済みとしてマークされ、「PRC」フィールドにアスタリスク (*) 付きで表示されます。

ワイルドカードが含まれている表スペース名を入力した場合、「UNLOAD Utility (UNLOAD ユーティリティー)」パネルの ISPF 部分は、入力仕様に一致する表スペース名のそれぞれについて 1 行で初期化されます。「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルでデータベース名を指定しなかったり、総称名を指定したりした場合、リストには複数のデータベースからの表スペースが含まれる可能性があることに注意してください。

コピーする対象の表スペースを選択するには、「SEL」フィールドに「S」と入力します。選択された表スペースには、「PRC」フィールドにアスタリスク (*) があります。

「Part'n Range (区画範囲)」入力フィールドの値を変更することによって、UNLOAD ユーティリティー・ステートメントを変更することができます。

図 104: 表スペースのリストを表示する「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティー (表スペース))」パネル ページ 399 では、入力は、ある範囲の区分 (2 から 3) がアンロードされることを示しています。

図 105: 「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL ページ 400 に、LISTDEF が指定されている表オブジェクトをアンロードするための生成済み JCL の例を示します。

図 105. 「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
*****
***** Top of Data *****
000001 //FMUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //*
000010 //* FM/Db2 GENERATED JOB TO UNLOAD TABLESPACE
000011 //*
000012 //*****
000013 //*
000014 //*****
000015 //* STEP SETPARAM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000016 //*****
000017 //SETPARAM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000018 //*
000019 //*****
000020 //* STEP UNLOAD1: UNLOAD TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D
000021 //*****
000022 //UNLOAD1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000023 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000024 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000025 //DSNUPROC.SYSREC00 DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
000026 //          UNIT=SYSALLDA,SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE),
000027 //          DSN=FMNUSER.DSN8D81A.DSN8S81D.D2581554.SYSREC
000028 //DSNUPROC.SYSPUNCH DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),UTIL CONTRL DATA
000029 //          UNIT=SYSALLDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),
000030 //          DSN=FMNUSER.DSN8D81A.DSN8S81D.D2581554.SYSPUNCH
000031 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000032 UNLOAD TABLESPACE DSN8D81A.DSN8S81D
000033 UNLDDN(SYSREC00)
000034 NOSUBS
000035 /*
*****
***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F5=Rfind    F6=Rchange  F7=Up
F8=Down      F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

関連する参照先

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)
- [「UNLOAD Utility \(Table Spaces\) \(UNLOAD ユーティリティ \(表スペース\)\)」パネル ページ 889](#)
- [「TEMPLATE Options \(2 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 2\)\)」パネル ページ 880](#)
- [「UNLOAD Options \(UNLOAD オプション\)」パネル ページ 885](#)
- [「Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)」パネル ページ 881](#)

LISTDEF が指定された UNLOAD (表スペース)

「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルで LISTDEF の名前を指定した場合、FM/Db2 では「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」パネルの代替形式が表示され、指定した LISTDEF、および UNLOAD ステートメントのキーワードと対応するいくつかの編集可能なフィールドが表示されます。

図 106 : LISTDEF が指定されている「UNLOAD (Table Space) (UNLOAD (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL ページ 401 に、LISTDEF が指定されている表スペース・オブジェクトをアンロードするための生成済み JCL の例を示します。

図 106. LISTDEF が指定されている「UNLOAD (Table Space) (UNLOAD (表スペース))」用に生成されたサンプル JCL

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSERB JOB (IBMGSA),
000002 //          FMNUSER,MSGCLASS=A,
000003 //          NOTIFY=FMNUSER,CLASS=A,
000004 //          MSGLEVEL=(1,1)
000005 //*
000006 //          JCLLIB ORDER=(DB2V810.DFA2.PROCLIB)
000007 //*
000008 //*****
000009 //*
000010 //* FM/Db2 GENERATED JOB TO UNLOAD TABLESPACE LIST
000011 //*
000012 //*****
000013 //*
000014 //*****
000015 //* STEP SETPARM: OVERRIDE ANY GLOBAL DATASET SIZING VALUES HERE
000016 //*****
000017 //SETPARM SET ALLOC='TRK',PRI='1',SEC='1'
000018 //*
000019 //*****
000020 //* STEP UNLOAD1: UNLOAD TABLESPACE LIST LDEF1
000021 //*****
000022 //UNLOAD1 EXEC DSNUPROC,SYSTEM=DFA2,UID='FMNUSER'
000023 //DSNUPROC.STEPLIB DD DSN=DB2V810.DFA2.SDSNEXIT,DISP=SHR
000024 //          DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
000025 //DSNUPROC.SYSREC00 DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
000026 //          UNIT=SYSALLDA,SPACE=(&ALLOC,(&PRI,&SEC),RLSE),
000027 //          DSN=FMNUSER.LDEF1.D2581557.SYSREC
000028 //DSNUPROC.SYSPUNCH DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),UTIL CONTRL DATA
000029 //          UNIT=SYSALLDA,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),
000030 //          DSN=FMNUSER.LDEF1.D2581557.SYSPUNCH
000031 //DSNUPROC.SYSIN DD *
000032 UNLOAD TABLESPACE LIST LDEF1
000033 UNLDDN(SYSREC00)
000034 NOSUBS
000035 /*
***** ***** Bottom of Data *****

Command ==> _____ Scroll ==> PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F5=Rfind     F6=Rchange   F7=Up
F8=Down     F9=Swap      F10=Left    F11=Right    F12=Cancel

```

関連する参照先

[LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility \(Table Spaces\) \(UNLOAD ユーティリティー \(表スペース\)\)」パネル ページ 889](#)

第 13 章. SQL ステートメントの処理

以下を実行する場合に使用します。

- ユーザーのパネルまたはデータ・セットから動的 SQL ステートメントを発行する
- SQL SELECT ステートメントを対話式に作成して実行する

「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」オプション (4) を使用できます。



注:

1. この章では、SQL ステートメントの構文については説明しません。詳しくは、「DB2 for z/OS SQL 解説書」を参照してください。

「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」パネルを表示するには、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルからオプション 4 (SQL) を選択します。

関連するタスク

[SQL プロトタイピングの選択 \(基本と拡張\) ページ 402](#)

[基本 SQL プロトタイピングの使用 ページ 402](#)

[拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411](#)

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

SQL プロトタイピングの選択 (基本と拡張)

単純な SQL SELECT ステートメントだけを作成する必要がある場合には、おそらく、「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」(4.1) で十分です。より複雑なステートメントを作成する必要がある場合には、「Advanced SELECT prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」(4.2) を使用してください。

関連する参照先

[基本 SQL プロトタイピングの使用 ページ 402](#)

[拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411](#)

基本 SQL プロトタイピングの使用

基本選択プロトタイピングでは、2つのパネルを使用します。検索するデータが入っている1つ以上の表 (FROM 文節) を指定する場合に1次パネルを使用し、表示する列の修飾情報 (WHERE 文節) およびデータを表示する順序 (ORDER BY 文節) を指定する場合に2次パネルを使用します。

1次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルを表示するには、「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」パネルでオプション1(「Basic (基本)」)を選択します。

図 107. 1次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Basic SELECT Prototyping

Enter the name(s) of the table(s) from which to retrieve data:
  Owner      Name
1 DSN81010  + EMP      + Location _____
2 DSN81010  + DEPT     + Database _____
3           +          + Tbl spc.  _____
4           +          +
5           +          +
6           +          +
7           +          +
8           +          +
9           +          +
10          +          +
11          +          +
12          +          +
13          +          +
14          +          +
15          +          +
Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F9=Swap     F12=Cancel

```

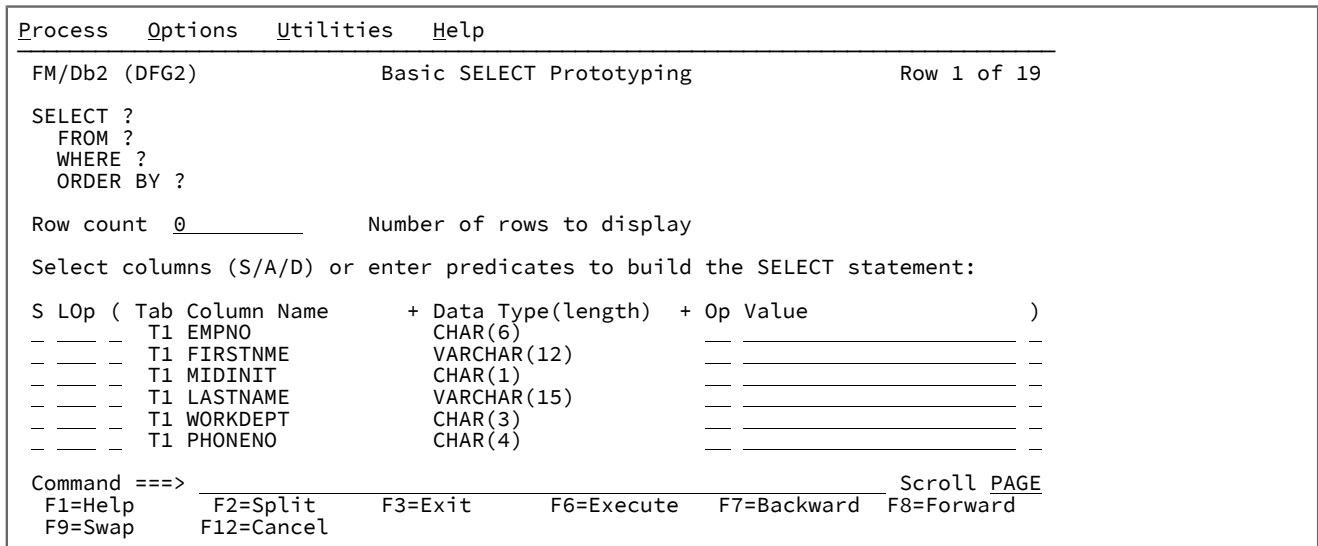
このパネルでは、最大15個の表、ビュー、同義語、または別名を指定して、プロトタイプ化するSELECTステートメントに含めることができます。複数のオブジェクトを指定する場合、指定したすべてのオブジェクト用の列が、Enterキーを押したときに2次「Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)」パネルに表示されます。図 108: 2次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネル ページ 404 を参照してください。

パネルの左方にある入力行番号(1、2、など)は変更できません。入力行番号の目的は、Db2® オブジェクトを識別するために使用される関連名に接尾部を提供することです。Db2® 関連名について詳しくは、「SQL Reference (SQL リファレンス)」を参照してください。完全なDb2® 関連名は、Enterキーを押したときに2次「Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)」パネルの「Tab (タブ)」列に表示されます。完全な関連名は、1文字の大文字の後に入力行番号が続きます。この大文字は、通常は「T」ですが、いずれかのDb2® オブジェクト名の先頭が「T」である場合は別の文字になります。基本プロトタイピング機能により、関連名参照として選択された文字は必ず、1次「Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)」パネルに含まれる、どのDb2® オブジェクト名の先頭文字とも異なるようになります。

結果表に含まれる列と行は、2次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルで指定されるSELECTおよびWHERE文節によって決定されます。このパネルは、オブジェクトを指定してEnterキーを押したときに表示されます。このセクションの例では、表DSN81010.EMPおよびDSN81010.DEPTを使用します。

表とビューを指定するには、「Location (ロケーション)」、「Database (データベース)」、「Tbl spc. (表スペース)」、「Owner (所有者)」フィールドにオプションで値を入力し、「Name (名前)」フィールドに値を入力します。同義語を指定するには、「Name (名前)」フィールドに値を入力します。同義語の場合に「Owner (所有者)」フィールドに値を入力する場合、その値は現行のSQLIDにする必要があります。フィールドはすべて、フィールドにパターンを指定することによるカタログ検索をサポートします。1次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルに表名を指定した後に、Enterキーを押して、2次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルを表示します。

図 108. 2次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネル



2次「Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)」パネルが最初に表示されるとき、このパネルには1次パネルで入力した Db2® オブジェクト用のすべての列が表示されます。ディスプレイに収まりきらない数の列がある場合は、スクロールアップまたはスクロールダウンすることができます。プロトタイプ化する SQL ステートメントは、4つの文節 (SELECT、FROM、WHERE、および ORDER BY) としてパネルの上部に表示されます。空の文節は“?”で示されます。

FM/Db2 は、ユーザーが基本コマンドまたは行コマンドを入力すると、これらの1つ以上の文節を自動的に更新します。各文節フィールドは、ISPF 拡張可能フィールドです。その文節全体を表示するにはフィールドが短すぎる場合、フィールドの末尾に“+”が表示されます。そのフィールド内のいずれかの場所にカーソルを置いて ISPF EXPAND キーを押すと、完全な文節をポップアップ・ウィンドウで表示できます。

SQL ステートメントが実行された際に、結果セットに戻される行数を制限するには、**「Row count (行数)」** フィールドに最大行数を指定します。

「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」を使用すると、以下の基本コマンドが使用できます。

ALL

このコマンドは、Db2® オブジェクトのすべての列を選択する場合に使用します。オプション・パラメーター #n を指定すると、表示された n 番目の Db2® オブジェクトの列のみを含めることができます。

CANCEL

このコマンドは、1次「Basic SELECT Prototyping」パネルに戻る場合に使用します。

EXECUTE

このコマンドは、プロトタイプ化した SQL ステートメントを実行するために使用します。

RESET

このコマンドは、SQL ステートメントに対する変更をすべて中止するために使用します。すべての文節の状況は、空に戻ります。

SQL

このコマンドは、完全な SQL ステートメントを ISPF エディター・セッションで表示するために使用します。

UNDO

このコマンドは、直前に行った変更をバックアウトするために使用します。

以下の行コマンドは、どの列に対しても入力できます。

- S または /

列の項目に対して S または / を入力すると、その列が SQL ステートメント用の列のリストに追加されます。この列のデータは、ステートメントの実行時に結果表に組み込まれます。

一度に複数の列を選択できますが、それらの項目は上から下へ処理されるため、結果表内の列順序が重要な場合は、列を個別に選択しなければならない可能性があります。

- A および D

列の項目に対して A か D のいずれかを入力すると、その列の ORDER BY 文節が追加されます。指定した列が列リストに存在しない場合、その列は列リストにも追加されます。この列のデータは、ステートメントの実行時に結果表に組み込まれます。行はそのデータを基に昇順または降順でソートされます。

A を入力すると、ORDER BY 文節には列名が変更されずにそのまま組み込まれます。この場合は、デフォルトで昇順 (ASC キーワード) に設定されます。

D を入力すると、ORDER BY 文節にその列名が組み込まれ、次に DESC キーワードが続きます。これは、結果表がその列のデータを基に降順でソートされることを示します。

- U

列の項目に対して U を入力すると、結果表内の列リストから最後の列参照が除去されます。列が除去され、その列が列リストに指定されなくなると、次のことが生じます。

- 列に対する ORDER BY 文節の参照もすべて除去されます。
- 列に対する述部の参照もすべて除去されます。

同じ列を列リストに複数回追加した場合、U コマンドを繰り返し使用してすべての参照を除去してください。

- UO

列の項目に対して UO を入力すると、最後の ORDER BY 参照が除去されます。

列に対する ORDER BY 参照を除去しても、列リストから列は除去されません。また、WHERE 文節から列を参照している述部も除去されません。

同じ列を ORDER BY 文節に複数回追加した場合、UO コマンドを繰り返し使用してすべての参照を除去してください。

- UW

列の項目に対して UW を入力すると、その列を参照する最後の述部が除去されます。

列に対する WHERE 文節の参照を除去しても、列リストから列は除去されず、ORDER BY 文節からの列の参照はいずれも除去されません。

その列を含む述部が複数存在する場合は、UW コマンドを繰り返し使用してすべての参照を除去してください。

述部の指定

述部 (例: EMPNO = '000010') を指定するには、「Op」フィールドに比較演算子(“=”)を入力し、「Value」フィールドに比較値(“000010”)を入力します。結合述部を指定するには、「Value」フィールドに、結合列を含む表に対する相関参照を組み込みます。

例えば、DSN81010.EMP.WORKDEPT と DSN81010.DEPT.DEPTNO の結合を指定するには、次のようにします。

- 列 WORKDEPT の Op フィールドに “=” を入力します。
- WORKDEPT の「Value (値)」列に “T2.DEPTNO” を入力します。

結合を指定する例を図 109: 結合述部の指定 ページ 406 に示します。図 110: 前の図で示された結合述部の結果 ページ 407 は、結合述部の結果を示しています。

図 109. 結合述部の指定

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
FM/Db2  (DFG2)          Basic SELECT Prototyping          Row 1 of 19

SELECT T1.*
FROM "DSN81010"."EMP" T1
WHERE ?
ORDER BY ?

Row count  100          Number of rows to display

Select columns (S/A/D) or enter predicates to build the SELECT statement:

S LOp ( Tab Column Name      + Data Type(length)  + Op Value          )
- - - - T1 EMPNO              CHAR(6)              - - - - -
- - - - T1 FIRSTNAME         VARCHAR(12)          - - - - -
- - - - T1 MIDINIT           CHAR(1)              - - - - -
- - - - T1 LASTNAME          VARCHAR(15)          - - - - -
- - - - T1 WORKDEPT          CHAR(3)              = T2.DEPTNO         - - - - -
- - - - T1 PHONENO           CHAR(4)              - - - - -

Command ==>          Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split  F3=Exit    F6=Execute  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F12=Cancel
    
```

図 110. 前の図で示された結合述部の結果

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
FM/Db2 (DFG2)          Basic SELECT Prototyping          Row 1 of 19

SELECT T1.*
  FROM "DSN81010"."EMP" T1 "DSN81010"."DEPT" T2
 WHERE "WORKEDPT" = T2.DEPTNO
 ORDER BY ?

Row count  100          Number of rows to display

Select columns (S/A/D) or enter predicates to build the SELECT statement:

S LOp ( Tab Column Name      + Data Type(length)  + Op Value          )
- - - - T1 EMPNO              CHAR(6)             - - - - -
- - - - T1 FIRSTNME          VARCHAR(12)         - - - - -
- - - - T1 MIDINIT           CHAR(1)             - - - - -
- - - - T1 LASTNAME          VARCHAR(15)         - - - - -
- - - - T1 WORKDEPT          CHAR(3)             - - - - -
- - - - T1 PHONENO           CHAR(4)             - - - - -

Command ==>>          Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F6=Execute   F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F12=Cancel

```

基本 SELECT プロトタイピングの使用例

以下では、例を使用して、基本 SELECT プロトタイピングを使用して SELECT ステートメントを作成し、それを実行して結果を参照する方法を示します。

表 DSN8810.EMP の中の、以下のようなすべての社員の詳細をリストするとします。

- 部門が “E01” でない、および
- JOB が “Manager” であるか [SALARY] が少なくとも \$40,000 である

それぞれの社員ごとに、表 DSN8810.EMP (相関名 #1) から以下の列を表示するとします。

```

LASTNAME
FIRSTNME
WORKDEPT
JOB
SALARY (昇順)

```

また、表 DSN8810.EEMP (相関名 #2) から以下の列を表示するとします。

```

BONUS

```

2次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルには、複数の列についての詳細を一度に指定することができます。しかし、明確にする目的から、以下のステップでは、個々の列ごとに一度に1つずつ詳細を入力し、ENTER キーが押された後に FM/Db2 が漸進的に作成する結果の SELECT ステートメント (パネルの上部に表示されます) を示しています。

ステップ 1

[S] 入力フィールドに [s] を入力することによって、列 LASTNAME を選択します。

S	LOp	(Tab Column Name	Data Type(length)	Op Value)
⋮					
s	---	#1 LASTNAME	VARCHAR(15)	-----	-
⋮					

FM/Db2 は生成済み SELECT ステートメントを次の方法で更新します。

- 選択された列の名前 (LASTNAME) を SELECT 文節に追加します。

```
SELECT #1.LASTNAME
FROM DSN8810.EMP #1, DSN8810.EEMP #2
WHERE ?
ORDER BY ?
```

ステップ 2

[S] 入力フィールドに [s] を入力することによって、列 FIRSTNME を選択します。

S	LOp	(Tab Column Name	Data Type(length)	Op Value)
⋮					
s	---	#1 FIRSTNME	VARCHAR(12)	-----	-
⋮					

FM/Db2 は生成済み SELECT ステートメントを次の方法で更新します。

- 選択された列の名前 (FIRSTNME) を SELECT 文節に追加します。

```
SELECT #1.LASTNAME, #1.FIRSTNME
FROM DSN8810.EMP #1, DSN8810.EEMP #2
WHERE ? STNAME <> 'SMITH'
ORDER BY ?
```

ステップ 3

WORKDEPT [E01] の社員を除外するには、以下のようになります。

- [S] 入力フィールドに [s] を入力することによって、列 WORKDEPT を選択します。
- 式演算子 <> を [Op] 入力フィールドに入力して、
- E01 を [値] 入力フィールドに入力します。

S	LOp	(Tab Column Name	Data Type(length)	Op Value)
⋮					
s	---	#1 WORKDEPT	CHAR(3)	<> e01-----	-
⋮					

FM/Db2 は生成済み SELECT ステートメントを次の方法で更新します。

- 選択された列の名前 (WORKDEPT) を SELECT 文節に追加します。
- 述部 #1.WORKDEPT <> 'E01' を WHERE 文節に追加します。

```
SELECT #1.LASTNAME, #1.FIRSTNME, #1.WORKDEPT
FROM DSN8810.EMP #1, DSN8810.EEMP #2
WHERE #1.WORKDEPT <> 'E01'
ORDER BY ?
```


ステップ 4

JOB が「MANAGER」の社員を選択するには、以下のようにします。

- 「S」入力フィールドに「S」を入力することによって、列 JOB を選択します。
- 左括弧 (を「(」入力フィールドに入力して、
- MANAGER を「Value (値)」入力フィールドに入力します。

```
S LOp ( Tab Column Name      Data Type(length)   Op Value           )
:
:
s ___ ( #1 JOB                CHAR(8)              manager_____ )
```

FM/Db2 は生成済み SELECT ステートメントを次の方法で更新します。

- 選択された列の名前 (JOB) を SELECT 文節に追加します。
- 述部 (#1.JOB = 'MANAGER') を WHERE 文節に追加する前に、デフォルトの論理演算 AND を挿入します。

```
SELECT #1.LASTNAME, #1.FIRSTNME, #1.WORKDEPT, #1.JOB
FROM DSN8810.EMP #1, DSN8810.EEMP #2
WHERE #1.WORKDEPT <> 'E01' AND (#1.JOB = 'MANAGER')
ORDER BY ?
```

ステップ 5

また、SALARY が少なくとも \$40,000 の社員を (その JOB とは無関係に) 選択し、結果が SALARY の昇順で表示されるように指定するには、以下のようにします。

- 「S」入力フィールドに「A」を入力することによって、列 SALARY を昇順用を選択します。
- 論理演算子「OR」を「LOp」入力フィールドに入力します。
- 式演算子 >= を「Op」入力フィールドに入力して、
- 「40000」を「Value (値)」入力フィールドに入力します。
- 右括弧を「)」入力フィールドに入力します。

```
S LOp ( Tab Column Name      Data Type(length)   Op Value           )
:
:
a or_ _ #1 SALARY            DECIMAL(9,2)       >= 40000_____ )
```

FM/Db2 は生成済み SELECT ステートメントを次の方法で更新します。

- 選択された列の名前 (SALARY) を SELECT 文節に追加します。
- 述部 OR #1.SALARY >= 40000) を WHERE 文節に追加します。
- 選択された列の名前 (SALARY) およびキーワード「ASC」を ORDER BY 文節に追加します。

```
SELECT #1.LASTNAME, #1.FIRSTNME, #1.WORKDEPT, #1.JOB, #1.SALARY
FROM DSN8810.EMP #1, DSN8810.EEMP #2
WHERE #1.WORKDEPT <> 'E01' AND (#1.JOB = 'MANAGER' OR #1.SALARY >= 40000)
ORDER BY #1.SALARY ASC
```

ステップ 6

[S] 入力フィールドに [s] を入力することによって、列 BONUS (表 DSN8810.EEMP から) を選択します。


S	Lop (Tab Column Name	Data Type(length)	Op Value)
⋮				
s	___ #2 BONUS	DECIMAL(9,2)		-----
⋮				

FM/Db2 は生成済み SELECT ステートメントを次の方法で更新します。

- 選択された列の名前 (BONUS) を SELECT 文節に追加します。

```
SELECT #1.LASTNAME, #1.FIRSTNME, #1.WORKDEPT, #1.JOB, #1.SALARY, #2.BONUS
FROM DSN8810.EMP #1, DSN8810.EEMP #2
WHERE #1.WORKDEPT <> 'E01' AND (#1.JOB = 'MANAGER' OR #1.SALARY >= 40000)
ORDER BY #1.SALARY ASC
```

図 111:2 次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルでまとめて入力された詳細 ページ 410 は、すべての列の詳細を同時に入力した場合に「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルがどのように表示されるかを示しています。

 **注:** (上記のステップのように) 一度に 1 つの列に詳細を入力する場合と、一度に複数の列の詳細を入力した場合は、影響が異なることがあります。

例えば、図 111:2 次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルでまとめて入力された詳細 ページ 410 に示されているように詳細を入力した場合には、生成された SELECT ステートメントで LASTNAME の前に FIRSTNME が表示されます。

図 111.2 次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルでまとめて入力された詳細

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Basic SELECT Prototyping	Row 1 to 8 of 14
SELECT ?			
FROM DSN8810.EMP #1, DSN8810.EEMP #2			
WHERE ?			
ORDER BY ?			
Row count	ALL	Number of rows to display	
Select columns (S/A/D) or enter predicates to build the SELECT statement:			
S	Lop (Tab Column Name	+ Data Type(length)	+ Op Value)
⋮			
s	___ #1 FIRSTNME	VARCHAR(12)	-----
⋮			
s	___ (#1 JOB	CHAR(8)	manager-----
s	___ #1 LASTNAME	VARCHAR(15)	-----
⋮			
a	or_ #1 SALARY	DECIMAL(9,2)	>= 40000-----)
⋮			
s	___ #1 WORKDEPT	CHAR(3)	<> e01-----
⋮			
s	___ #2 BONUS	DECIMAL(9,2)	-----
⋮			
Command ==>	-----		Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F6=Execute	F7=Backward	F8=Forward	F9=Swap
F10=Left	F11=Right	F12=Cancel	

関連するタスク

[SELECT ステップをプロトタイピングを使用して作成した後の実行 ページ 436](#)

関連する参照先

[「Basic SELECT Prototyping \(基本選択プロトタイピング\)」 パネル ページ 485](#)

[SQL 基本コマンド ページ 975](#)

拡張 SQL プロトタイピングの使用

このセクションでは、以下の用語が使用されます。

文節 (clause)

WHERE 文節など、SELECT ステートメントの特殊部分。

エレメント (element)

構文内の単一項目 (キーワード、変数、フラグメントに対する参照、または特殊文字など)。

フラグメント (fragment)

SELECT ステートメント構文の 1 部分。フラグメントには他のフラグメントに対する参照を含めることができます。

インスタンス (instance)

値が割り当てられた繰り返し項目。例えば、以下の GROUP BY 文節には 3 つのインスタンスが含まれています。

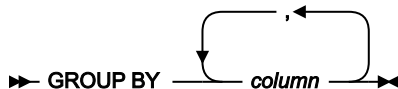
```
GROUP BY COL1 , COL2 , COL3
```

キーワード (keyword)

示された通りのスペルであることが必要な項目。キーワード (例えば、FROM) は、「Advanced SELECT Prototyping (拡張選択プロトタイピング)」パネル上に表示される構文図には大文字で現れます。

繰り返し項目 (repeatable item)

構文の中で繰り返すことができる項目。繰り返し項目は、繰り返し矢印によって示されますが、そこに繰り返し区切り文字が含まれていることもあります。例えば次のようになります。



variable (変数)

値を入力する必要がある要素。

「Advanced SELECT prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」により、仕様パネルの再帰的セットを使用して、複雑な SELECT ステートメントを開発することができます。

それぞれのパネルには、SELECT ステートメント構文のフラグメントが構文図の形式で表示されます (これは解説書マニュアルの場合と同じ方法です)。SELECT ステートメントは、構文の使用するオプションのフラグメントを選択し、必要でないフラグメントは廃棄し、また、必要な場合は項目を入力することによって作成します。パネルは、構文全体を進め、その構

文の必須のフラグメントをすべて確実に組み込むためのガイドとなります。それぞれのパネルには、SELECT ステートメントの作成を進めるにつれ、部分的に構成済みの SELECT ステートメントが示されます。

SELECT ステートメントの作成を進める場合は、ステートメントの任意の部分に戻って、以下のことができます。

- 値の変更
- 構文フラグメントの追加
- 構文フラグメントの除去



注:

1. 画面に 24 行ある場合に、作成中の SQL ステートメントを表示するには、`PFSHOW OFF` と入力して、表示から機能キー行を除去する必要があります。
2. 生成される SQL ステートメントによっていくつかの行が拡張される場合は、それぞれ「Forward」機能キー (F8) と「Backward」機能キー (F7) を使用して前方または後方にスクロールします。

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」パネルを表示するには、「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」パネルでオプション 2 (「Advanced (拡張)」) を選択します。

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」の使用時には、以下の基本コマンドが使用できます。

- CANCEL
- DESELECT
- EXECUTE
- INSRPT
- NEXTRPT
- PREVRPT
- SQL

関連するタスク

[例 2 \(SQL ステートメントの変更\) ページ 420](#)

[例 3 \(SQL ステートメントへの追加\) ページ 421](#)

[例 4 \(SQL ステートメントのパーツの除去\) ページ 426](#)

[SELECT ステップをプロトタイピングを使用して作成した後の実行 ページ 436](#)

関連する参照先

[「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

[「Advanced SELECT Prototyping \(拡張 SELECT プロトタイピング\)」パネル ページ 462](#)

[CANCEL 基本コマンド ページ 905](#)

[DESELECT 基本コマンド ページ 916](#)

[EXECUTE 基本コマンド ページ 925](#)

[INSRPT 基本コマンド ページ 945](#)

[NEXTRPT 基本コマンド ページ 957](#)

[PREVRPT 基本コマンド ページ 961](#)

[SQL 基本コマンド ページ 975](#)

タブ付けおよびカラー・コーディング

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」では、以下のことに役立てるためにカラーが使用されます。

- SELECT ステートメント構文のナビゲート
- 生成された SELECT ステートメント、特に繰り返し項目を含むフラグメントの現行部分および非現行部分の識別

構文図のカラー・コーディング

構文のナビゲートに役立つように、「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」ではタブ付けおよびカラー・コーディングの方式が使用されます。

タブ付けできるのは、選択できるかまたは変数を入力できる構文の部分だけです。必須キーワードにタブ付けすることはできません。

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」では、構文図に以下のカラーのシステムが使用されません。

RED (赤)

まだ完了していない必須フラグメントを参照するか、あるいは選択はされているが完了していないオプションのフラグメントを示します。

WHITE (白色)

必須キーワード。これらを選択したり、それにタブ付けすることはできません。

GREEN (緑色)

一般的な条件では、以下の構文のような完了したフラグメントを示します。

- 選択済みのオプションのキーワード (そうでなければ黄色)
- 必須フラグメントの副選択によって、このフラグメントを解決できるようにしている場合 (そうでなければ赤色)
- オプションのフラグメントの副選択によって、このフラグメントを解決できるようにしている場合 (そうでなければ黄色)

YELLOW (黄色)

現在選択されていないオプションのキーワードおよびフラグメント (選択されて完了していれば緑色、選択されていても未完了であれば赤色)。

生成された SELECT ステートメントのカラー・コーディング

生成された SELECT ステートメントのどの部分が現行のもの (ユーザーがアクセス可能な部分) で、繰り返し項目の場合がどれが現行の繰り返し項目であるかを認識するのに役立つために、「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」では、生成された SELECT ステートメントに以下のカラーのシステムが使用されます。

GREEN (緑色)

SELECT ステートメントの現行部分で、したがって、ユーザーにアクセス可能。これには、現行の反復の一部であるすべてのデータが含まれます。

YELLOW (黄色)

現行でない反復の部分。非現行 YELLOW (黄色) を現行 GREEN (緑色) にするには、「PrvRpt」機能キー (F10) または「NxtRpt」機能キー (F11) を使用します。

WHITE (白色)

現行フラグメントのレベルより上にある SELECT ステートメントの部分。

関連する参照先

[\[Advanced SELECT Prototyping \(拡張 SELECT プロトタイピング\)\] パネル ページ 462](#)

拡張 SELECT プロトタイピング・パネルを使用した SELECT ステートメントの作成

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」を使用する場合には、必要な構文の部分にカーソルを合わせて、Enter キーを押します。変数の値を指定する場合は、その名前をパネルに入力します。SELECT ステートメントの作成を進めると、FM/Db2 は、表示中のパネルに部分的に作成済みのステートメントを表示します。完全な SELECT ステートメントを作成するまで、この処理を繰り返します。

例 1 (単純な SQL ステートメントの作成)

以下の一連のパネルには、表 PARTS のすべての行を表示するための SQL ステートメントを、「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」を使用して作成する各ステージが示されます。

1. 「SQL Prototyping and Execution (SQL プロトタイピングおよび実行)」パネルからオプション 2 「Advanced (拡張)」を選択して、初期「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」パネルを表示します。
2. カーソルを「fullselect」フラグメントに移動します。
3. Enter キーを押します。full select clause (FULL SELECT 文節) の構文が表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: full select clause          Status: clause incomplete

┌ subselect ───────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────┐
└┬─ (- fullselect -) ───────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘
  └─ UNION ───────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘
    └─ UNION ALL ─────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘
      └─ subselect ─────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘
        └┬─ (- fullselect -) ───────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘
          └─ (- fullselect -) ───────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Deselect  F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward    F9=Swap     F10=PrvRpt  F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

- カーソルを「**subselect**」フラグメントに移動します。
- Enter キーを押します。subselect clause (SUBSELECT 文節) の構文が表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: subselect clause          Status: clause incomplete

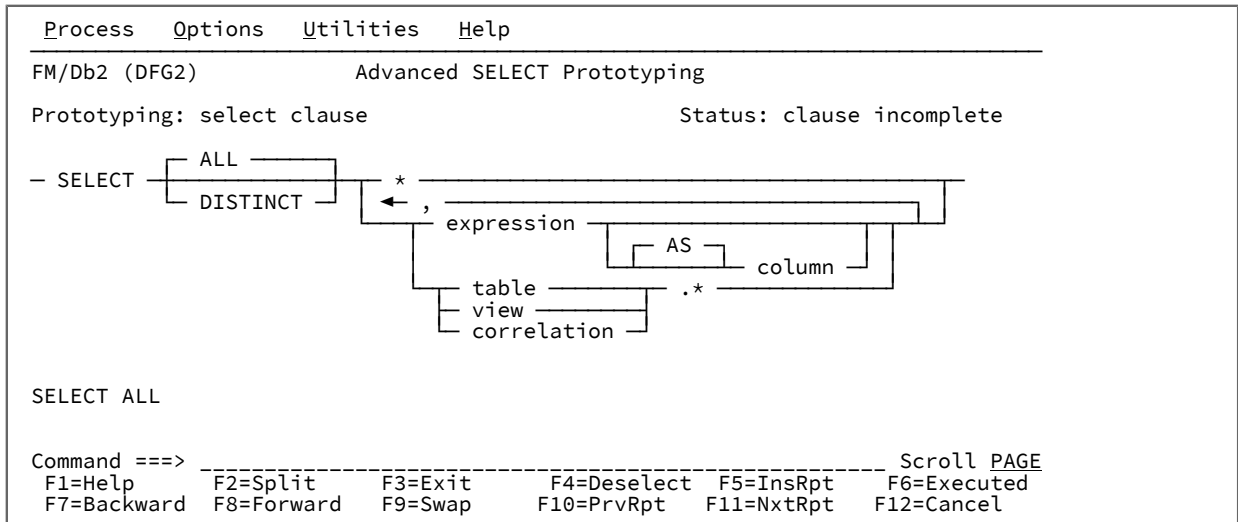
- select - from ┌────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────┐
                  └─ where ─┬─ groupby ─┬─ having ─┘

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Deselect  F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward    F9=Swap     F10=PrvRpt  F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

「**select**」および「**from**」フラグメントは画面上に赤色で表示され、これらのフラグメントに関するサブセクションを完了しなければそのフラグメントは解決できないことが示される点に注意してください。

- カーソルを「**select**」フラグメントに移動します。
- Enter キーを押します。select clause (SELECT 文節) の構文が表示されます。



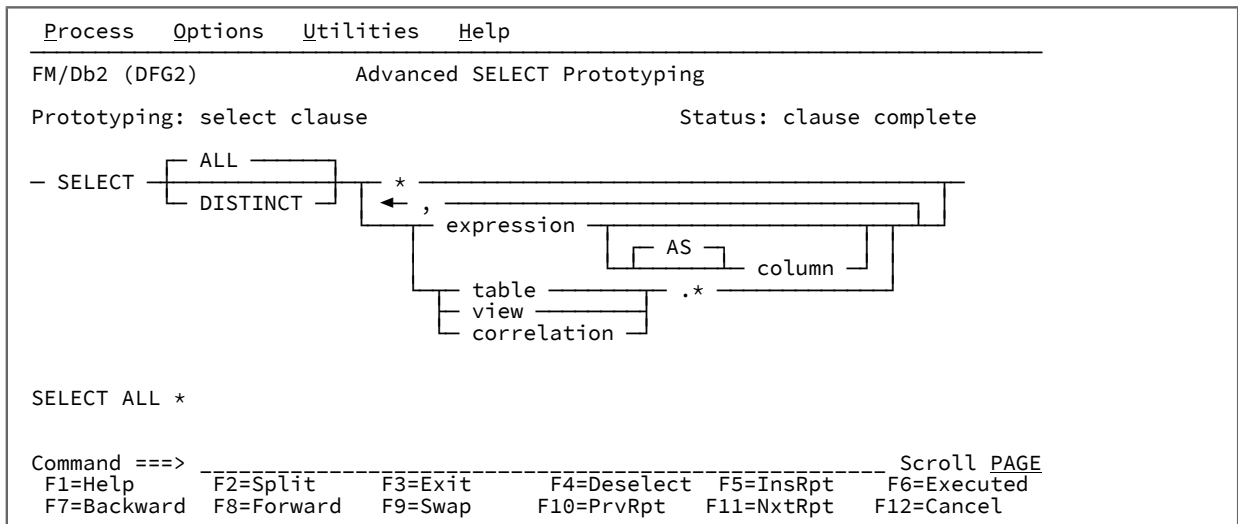
現在、パネルには部分的に作成済みの SELECT ステートメントが表示されています。

```
SELECT ALL
```

これは、以下の理由によります。

- キーワード SELECT はこのフラグメントの必須キーワードです。このフラグメントを選択したため、FM/Db2 が SELECT ステートメントに入れていきます。
- ALL はデフォルトのキーワードです (この場合には、このキーワードが必要キーワードです)。

8. カーソルをアスタリスク (*) に移動します。
9. Enter キーを押します。



現在、パネルには部分的に作成済みの SELECT ステートメントが表示されています。

```
SELECT ALL *
```

10. 「Exit」機能キー (F3) を押します。subselect clause (SUBSELECT 文節) の構文が表示されます。


```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: subselect clause          Status: clause incomplete
- select - from ┌──────────────────┐
                │ where │ │ groupby │ │ having │
                └──────────────────┘

SELECT ALL *

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

ここで、画面上の「**select**」フラグメントは赤色から緑色に変化し、このフラグメントに関するサブセクションは完了し、このフラグメントは解決できることを示している点に注意してください。

次に、「**from**」フラグメントに関するサブセクションを完了する必要があります。

11. カーソルを「**from**」フラグメントに移動します。
12. Enter キーを押します。from clause (FROM 文節) の構文が表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: from clause          Status: clause incomplete
- FROM ──┬─ tabref ─┬─
         │             │
         └──────────┘

SELECT ALL * FROM

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

現在、パネルには部分的に作成済みの SELECT ステートメントが表示されています。

```
SELECT ALL * FROM
```

これは、キーワード FROM が必須キーワードだからです。

ここで再び、「**tabref**」フラグメントは画面上に赤色で表示され、このフラグメントに関するサブセクションはまだ完了しておらず、このフラグメントは解決できていないことを示している点に注意してください。

13. カーソルを「**tabref**」フラグメントに移動します。

図 112. 「Advanced SELECT prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」:完了したステートメント (例 1)

```

  Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: table reference clause          Status: statement complete

  table _____ | _____ |
  | view _____ | | correl _____ |
  | tablocref _____ | | _____ |
  | _____ | (- fullselect -) | correl _____ |
  | TABLE _____ | | _____ |
  | tabfunref _____ | | _____ |
  | itableref _____ | | _____ |
  | joinedtable _____ | | _____ |

SELECT ALL * FROM PARTS

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit      F4=Deselect  F5=InsRpt   F6=Execute
F7=Backward  F8=Forward   F9=Swap     F10=PrvRpt  F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

パネルには、完了した SELECT ステートメントが表示されています。

```
SELECT ALL * FROM PARTS
```

ここで画面上の「table」フラグメントは赤色から緑色に変化し、このフラグメントに関するサブセクションは完了し、このフラグメントは解決できることを示している点に注意してください。また状況標識 (**Status: (状況:)**) が「statement complete (ステートメント完了)」を示していることにも注意してください。

関連するタスク

[SELECT ステップをプロトタイピングを使用して作成した後の実行 ページ 436](#)

関連する参照先

[「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

[「Advanced SELECT Prototyping \(拡張 SELECT プロトタイピング\)」パネル ページ 462](#)

SQL ステートメントの変更

SQL ステートメントを作成する任意のステージで、以下のことができます。

- カーソルを SELECT ステートメントの該当する部分に位置付け、Enter キーを押すことによって、ステートメントのパーツを変更します。FM/Db2 から構文のその部分が表示されます。次に、必要な変更を行うことができます。
- カーソルを SELECT ステートメントの該当するパーツに位置付け、Enter キーを押すことによって、ステートメントに余分のフラグメントを追加します。FM/Db2 から構文のその部分が表示されます。次に、必要なフラグメントを追加することができます。
- 「Deselect」機能キー (F4) を押すことによって、ステートメントのパーツを除去します。

例 2 (SQL ステートメントの変更)

これまでの演習では、表 PARTS (図 112: 「Advanced SELECT prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」:完了したステートメント (例 1) ページ 419 を参照) のすべての行を表示するための SQL ステートメントが作成されました。これを、重複した行のセットを 1 つだけを残してすべて除去するように変更するものとします。

1. 生成されたステートメントのワード ALL の下にカーソルを移動します。
2. Enter キーを押します。select clause (SELECT 文節) の構文が表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: select clause                               Status: statement complete

- SELECT - [ ALL ] [ * ] [ , ] [ expression ] [ AS ] [ column ]
           [ DISTINCT ] [ table ] [ view ] [ correlation ] [ .* ]

SELECT ALL * FROM PARTS

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split   F3=Exit     F4=Deselect  F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt  F11=NxtRpt  F12=Cancel
    
```

3. カーソルをキーワード「**DISTINCT**」に移動します。
4. Enter キーを押します。作成済み SELECT ステートメントの ALL が DISTINCT に置き換えられます。

図 113. 詳細: 完了したステートメント (例 2)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: select clause                               Status: statement complete

- SELECT - [ ALL ] [ * ] [ , ] [ expression ] [ AS ] [ column ]
           [ DISTINCT ] [ table ] [ view ] [ correlation ] [ .* ]

SELECT DISTINCT * FROM PARTS

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split   F3=Exit     F4=Deselect  F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt  F11=NxtRpt  F12=Cancel
    
```

パネルには、完了した SELECT ステートメントが表示されています。

```
SELECT DISTINCT * FROM PARTS
```

関連するタスク

例 1 (単純な SQL ステートメントの作成) ページ 414

SELECT ステップをプロトタイピングを使用して作成した後の実行 ページ 436

例 3 (SQL ステートメントへの追加)

ここで、これまでの演習での SQL ステートメント (図 113: 詳細: 完了したステートメント (例 2) ページ 420 を参照) に条件を追加して、表 PARTS の中でパーツ・ナンバーが 12456 より大きい行だけを表示するものとします。

1. 「Exit」機能キー (F3) を押して、SUBSELECT 文節の構文に戻ります。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: subselect clause          Status: statement complete
- select - from  ┌ where ─┐ ┌ groupby ─┐ ┌ having ─┐

SELECT DISTINCT * FROM PARTS

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt  F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel

```

2. カーソルを「where」フラグメントに移動します。
3. Enter キーを押します。where clause (WHERE 文節) の構文が表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: where clause          Status: clause incomplete
- WHERE - srchcon -

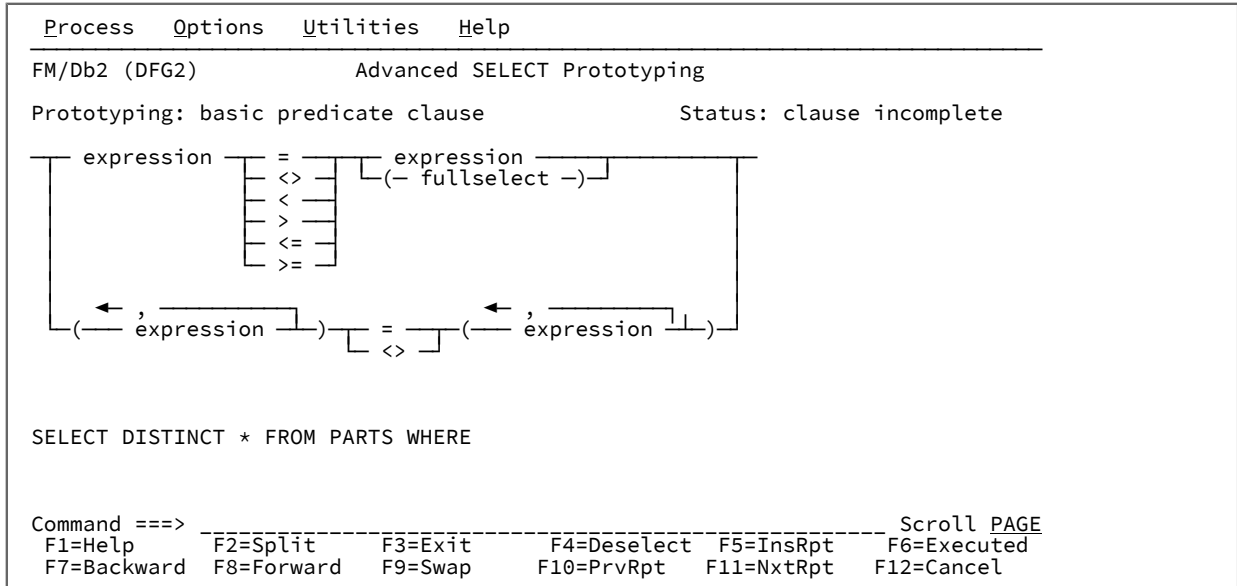
SELECT DISTINCT * FROM PARTS WHERE

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt  F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel

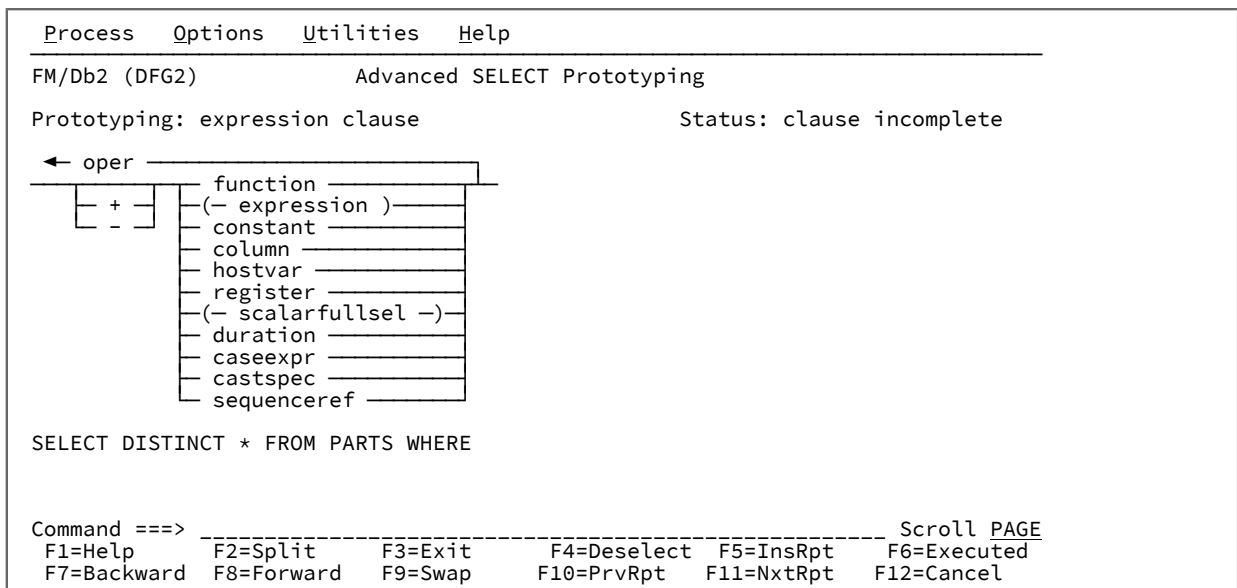
```

FM/Db2 は必須キーワードの WHERE を SQL ステートメントに追加したことに注意してください。

4. カーソルを「srchcon」フラグメントに移動します。
5. Enter キーを押します。search condition clause (SEARCH CONDITION 文節) の構文が表示されます。



10. カーソルを「**expression**」フラグメント (演算子リストの左方) に移動します。
11. Enter キーを押します。expression clause (EXPRESSION 文節) の構文が表示されます。



12. カーソルを「**column**」フラグメントに移動します。
13. Enter キーを押します。列名を入力できるポップアップ・パネルが表示されます。
14. ポップアップ・パネルで「PARTNO」を入力します。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
Freeform Entry
F
P
Enter a column name to be inserted in the SQL:
PARTNO-----
-----
-----
-----
-----
-----
Command ==>----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F12=Cancel
-----

(- scalarfullsel -)
duration
caseexpr
castspec
sequenceref

SELECT DISTINCT * FROM PARTS WHERE PARTNO

Command ==>----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt  F6=Executed
F7=Backward F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel

```

15. 「Exit」機能キー (F3) を押します。列名 PARTNO が SELECT ステートメントに追加されます。
16. 「Exit」機能キー (F3) を押します。basic predicate clause (BASIC PREDICATE 文節) の構文が表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
FM/Db2 (DFG2)      Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: basic predicate clause      Status: clause incomplete

expression = expression
<> (- fullselect -)
<
>
<=
>=

(- , expression ) = (- , expression )
<>

SELECT DISTINCT * FROM PARTS WHERE PARTNO

Command ==>----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt  F6=Executed
F7=Backward F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel

```

17. カーソルを “より大” (>) 記号に移動します。
18. Enter キーを押します。 “より大” (>) 記号が、部分的に作成済みの SELECT ステートメントに表示されます。
19. カーソルを 「**expression**」 フラグメント (演算子リストの右方) に移動します。
20. Enter キーを押します。 expression clause (EXPRESSION 文節) の構文が表示されます。


```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: expression clause          Status: clause incomplete

← oper
+
-
function
(- expression )
constant
column
hostvar
register
(- scalarfullsel -)
duration
caseexpr
castspec
sequenceref

SELECT DISTINCT * FROM PARTS WHERE PARTNO >

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt  F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel

```

21. カーソルを「constant」フラグメントに移動します。
22. Enter キーを押します。定数を入力できるポップアップ・パネルが表示されます。
23. ポップアップ・パネルで「12456」を入力します。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
Freeform Entry
F
P
12456
-----
-----
-----
-----
-----
Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward
F8=Forward    F9=Swap     F12=Cancel

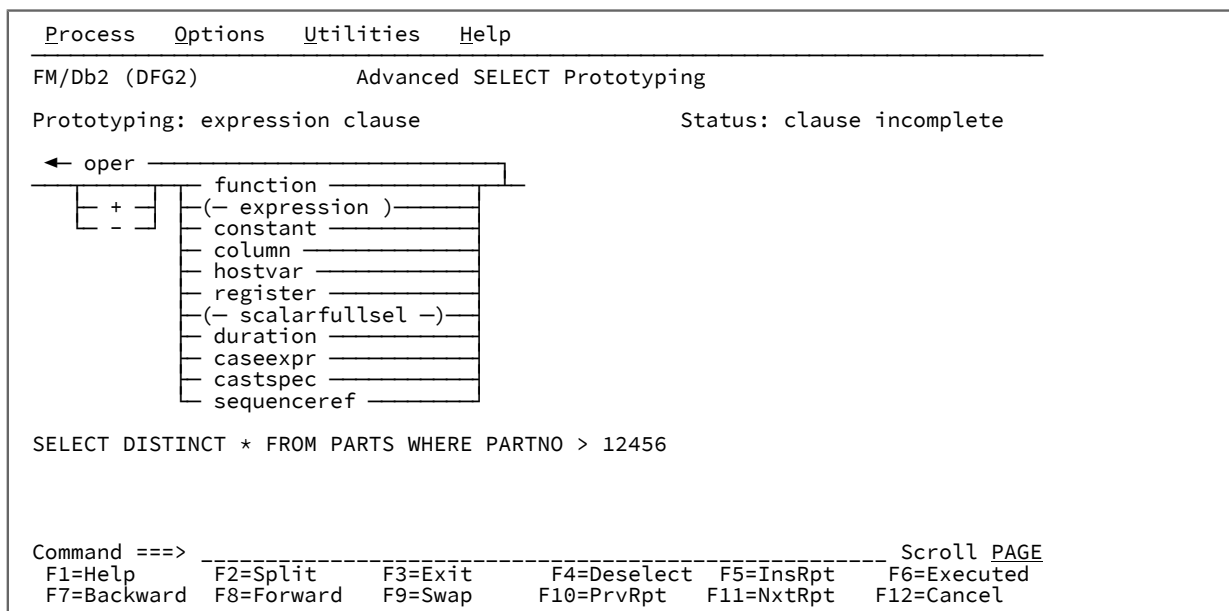
SELECT DISTINCT * FROM PARTS WHERE PARTNO >

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt  F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel

```

24. 「Exit」機能キー (F3) を押します。

図 114. 詳細: 完了したステートメント (例 3)



パネルには、完了した SELECT ステートメントが表示されています。

```
SELECT DISTINCT * FROM PARTS WHERE PARTNO > 12456
```

関連するタスク

[例 2 \(SQL ステートメントの変更\) ページ 420](#)

[SELECT ステップをプロトタイピングを使用して作成した後の実行 ページ 436](#)

例 4 (SQL ステートメントのパーツの除去)

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」を使用して作成した SELECT ステートメントのパーツを除去するには、「Deselect」機能キー (F4) を使用します。「選択解除」機能キーの効果は、現在アクティブになっている構文のフラグメントによって異なります。詳しくは、DESELECT コマンドの説明を参照してください。

これまでの演習で SQL ステートメントに追加した (図 114: 詳細: 完了したステートメント (例 3) ページ 426 を参照)、表示される行をパーツ・ナンバーが 12456 より大きいものに制限する条件を除去するものとします。これは、WHERE 文節を SELECT ステートメントから除去する必要があることを意味します。

WHERE 文節は、次のいずれかの方法で除去できます。

- 「Deselect」機能キー (F4) を使用します。
 1. カーソルを生成済みの SELECT ステートメントの WHERE 文節に位置付けます。
 2. Enter キーを押して、WHERE 文節を選択します。これで緑色に変更され、WHERE 文節の構文が再表示されます。
 3. カーソルをコマンド行に置きます。
 4. 「Deselect」機能キー (F4) を押します。
- 「where」フラグメントを含むプロトタイピング・パネルに戻り、それを「選択解除」します。



注: 以下のステップは、画面上の現行パネルが [図 114: 詳細: 完了したステートメント \(例 3\)](#) ページ 426 に示されているような「例 3」の最後のパネルであることを前提とします。

1. 「Exit」機能キー (F3) を押します。FM/Db2 は BASIC PREDICATE 文節の構文に戻します。
2. 「Exit」機能キー (F3) を押します。FM/Db2 は PREDICATE 文節の構文に戻します。
3. 「Exit」機能キー (F3) を押します。FM/Db2 は SEARCH CONDITION 文節の構文に戻します。
4. 「Exit」機能キー (F3) を押します。FM/Db2 は WHERE 文節の構文に戻します。
5. 「Exit」機能キー (F3) を押します。FM/Db2 は SUBSELECT 文節の構文に戻します。このパネルには、「where」フラグメントが含まれています。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: subselect clause          Status: statement complete
- select - from  ┌ where ─┐ ┌ groupby ─┐ ┌ having ─┐

SELECT DISTINCT * FROM PARTS WHERE PARTNO > 23456

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt  F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel

```

6. カーソルを「where」フラグメントに移動します。
7. 「Deselect」機能キー (F4) を押します。

図 115. 詳細: WHERE 文節が除去されたステートメント (例 4)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: subselect clause          Status: statement complete
- select - from  ┌ where ─┐ ┌ groupby ─┐ ┌ having ─┐

SELECT DISTINCT * FROM PARTS

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt  F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel

```

パネルには、WHERE 文節のない SELECT ステートメントが表示されます。

```
SELECT DISTINCT * FROM PARTS
```

関連するタスク

[例 3 \(SQL ステートメントへの追加\) ページ 421](#)

[SELECT ステップをプロトタイピングを使用して作成した後の実行 ページ 436](#)

構文における繰り返し項目の取り扱い

SELECT ステートメント構文の一部には繰り返し項目が含まれ、1 つ以上の繰り返し項目が繰り返し区切り文字によって区切られています。一部の繰り返しフラグメントの繰り返し区切り文字は、コンマ (,) であったり、定数であったり、オペランドであったり、あるいはスペースである場合もあります。複数の繰り返し項目を指定し、区切り文字が定数であった場合には、「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」により正しい区切り文字が挿入されます。それ以外の場合には、他の要素の場合と同様に区切り文字を選択する必要があります。

繰り返し項目を含む SELECT 文節のフラグメントを作成する方法を示す単純な例を選択してみましょう。例えば、スキル・タイプ、等級、および入社年別にグループ化された会社の社員に関する特定の情報 (SELECT ステートメントの残りの部分で指定されます) を表示するとします。

1. 最初の例 ([例 1 \(単純な SQL ステートメントの作成\) ページ 414](#) を参照) のステップ 1 ~ 5 を繰り返し、subselect clause (SUBSELECT 文節) の構文が表示されるようにします。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: subselect clause          Status: clause incomplete
- select - from  | where | | groupby | | having |
                  |-----|
Command ==>  ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel
    
```

2. カーソルを「**groupby**」フラグメントに移動します。
3. Enter キーを押します。GROUP BY clause (GROUP BY 文節) の構文が表示されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: group by clause          Status: clause incomplete

- GROUP BY ← , groupingexpr

GROUP BY

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

FM/Db2 は、パネル上の部分的に作成済みの SQL 文節の中に必須キーワード GROUP BY を表示することに注意してください。

GROUP BY 文節の構文は、次のものから構成されていることが分かります。

- 必須キーワードの GROUP BY (画面には白色で表示される)
- 繰り返し項目 **groupingexpr** (画面には赤色で表示される)
- 繰り返し区切り文字としてのコンマ (,)

4. カーソルを「**groupingexpr**」フラグメントに移動します。
5. 「InsRpt」機能キー (F5) を押します。列名を入力できるポップアップ・パネルが表示されます。
6. ポップアップ・パネルで「SKILLTYPE」を入力します。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
Freeform Entry -----
F
P
Enter a grouping expression to be inserted in the SQL:
SKILLTYPE_____ lete
-----
Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F12=Cancel

```

GROUP BY

```

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

7. 「Exit」機能キー (F3) を押します。列名 SKILLTYPE が GROUP BY 文節に追加されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: group by clause          Status: clause complete

- GROUP BY ← , groupingexpr ┘

GROUP BY SKILLTYPE

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel
    
```

この段階では、FM/Db2 は繰り返し区切り文字をステートメントに追加していないことに注意してください。1つの繰り返し項目だけを指定している場合には、これが正しい構文です。ただし、FM/Db2 が (以下のステップのように) 複数の繰り返し項目を検出すると、繰り返し区切り文字を挿入します。

8. ここで再び、カーソルを **「groupingexpr」** フラグメントに移動します。
9. 「InsRpt」機能キー (F5) を押して、ポップアップ・パネルを表示します。
10. ポップアップ・パネルで **「EMPGRADE」** を入力します。
11. 「Exit」機能キー (F3) を押します。繰り返し区切り文字および列名 EMPGRADE が GROUP BY 文節に追加されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: group by clause          Status: clause complete

- GROUP BY ← , groupingexpr ┘

GROUP BY SKILLTYPE , EMPGRADE

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel
    
```

12. STARTYEAR についてステップ [8 ページ 430](#) から [11 ページ 430](#) までを繰り返します。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: group by clause          Status: clause complete

- GROUP BY ← , groupingexpr ─┘

GROUP BY SKILLTYPE, EMPGRADE, STARTYEAR

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect  F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt  F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

パネルには、完了した GROUP BY 文節が表示されています。

```
GROUP BY SKILLTYPE , EMPGRADE , STARTYEAR
```



注: フラグメント中に 1 つの繰り返し項目だけが必要であった場合には、カーソルを「**groupingexpr**」フラグメントに移動してから (ステップ 4 ページ 429)、**「InsRpt」** 機能キー (F5) または Enter キーを押すことができます。

関連するタスク

- [例 1 \(単純な SQL ステートメントの作成\) ページ 414](#)
- [繰り返し項目全体のナビゲート ページ 431](#)
- [追加の繰り返し項目の挿入 ページ 432](#)
- [繰り返し項目の変更 ページ 432](#)
- [繰り返し項目の削除 ページ 433](#)
- [選択可能繰り返し区切り文字の取り扱い ページ 434](#)
- [繰り返し項目の処理時に考慮すべき点 ページ 435](#)

繰り返し項目全体のナビゲート

いくつかの繰り返し項目を文節に追加した後に、追加の繰り返し項目を挿入したり、あるいは既存の繰り返し項目を変更または削除することによって、文節のパーツを変更することが必要になる場合があります。このような場合には、該当する繰り返し項目が現行のものとなるように、繰り返し項目全体をナビゲートすることが必要です。

繰り返し項目を現行のものにする (したがって、そのカラーを黄色から緑色に変更する) には、以下のいずれかを行います。

- カーソルを構文内の繰り返しグループの中の 1 つの要素に移動し、生成済みステートメントの中の繰り返し項目全体を「PrvRpt」機能キー (F10) を使用して後方にスクロールしたり、または「NxtRpt」機能キー (F11) を使用して前方にスクロールしたりします。または
- カーソルを生成済みステートメント内の繰り返し項目に移動して、Enter キーを押します。

追加の繰り返し項目の挿入

情報がそのスキル・タイプ、部門、レベル、および入社年別にグループ化されるように、追加の繰り返し項目 (部門) をこれまでの GROUP BY 文節に挿入する必要があるとします。

1. カーソルを GROUP BY 文節内の「SKILLTYPE」繰り返し項目 (これは新規繰り返し項目より前にきます) に移動します。
2. Enter キーを押して、「SKILLTYPE」を現在繰り返し項目にします。そのカラーは黄色から緑色に変化します。
3. カーソルを「groupingexpr」フラグメントに移動します。
4. 「InsRpt」機能キー (F5) を押します。列名を入力できるポップアップ・パネルが表示されます。
5. ポップアップ・パネルで「DEPT」を入力します。
6. 「Exit」機能キー (F3) を押します。繰り返し区切り文字および新規繰り返し項目の DEPT が、GROUP BY ステートメントの SKILLTYPE 繰り返し項目の後に追加されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: group by clause          Status: clause complete

- GROUP BY ← , groupingexpr

GROUP BY SKILLTYPE , DEPT , EMPGRADE , STARTYEAR

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt F12=Cancel
    
```

繰り返し項目の変更

これまでの GROUP BY 文節の繰り返し項目の名前を EMPGRADE から EMPLEVEL に変更するものとします。

1. カーソルを「groupingexpr」フラグメントに移動します。
2. 「NxtRpt」機能キー (F11) を押して、EMPGRADE を現行繰り返し項目にします。そのカラーは黄色から緑色に変化します。
3. Enter キーを押します。繰り返し項目 EMPGRADE はすでに入力されていることを示すポップアップ・パネルが表示されます。


```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
Freeform Entry
F
P
Enter a column name to be inserted in the SQL:
EMPGRADE_-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----
Command ==>----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward
F8=Forward   F9=Swap     F12=Cancel

```

GROUP BY SKILLTYPE , DEPT , EMPGRADE , STARTYEAR

```

Command ==>----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

- ここで、ポップアップ・パネルの列の名前を編集できます。それを `EMPLEVEL` に変更します。
- 「Exit」機能キー (F3) を押します。GROUP BY ステートメントの中で `EMPGRADE` が `EMPLEVEL` によって置き換えられます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: group by clause          Status: clause complete
- GROUP BY ← , groupingexpr

```

GROUP BY SKILLTYPE , DEPT , EMPLEVEL , STARTYEAR

```

Command ==>----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel

```

繰り返し項目の削除

繰り返し項目 `STARTYEAR` をこれまでの GROUP BY 文節から除去するとします。

- カーソルを繰り返し項目 `STARTYEAR` に移動します。
- Enter キーを押して、`STARTYEAR` を現行繰り返し項目にします。そのカラーは黄色から緑色に変化します。
- カーソルを「`groupingexpr`」フラグメントに移動します。

4. 「Deselect」機能キー (F4) を押します。繰り返し項目 STARTYEAR (およびその前の繰り返し区切り文字) が GROUP BY 文節から削除されます。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: group by clause          Status: clause complete

- GROUP BY ← , groupingexpr

GROUP BY SKILLTYPE , DEPT , EMPLEVEL

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel
    
```

選択可能繰り返し区切り文字の取り扱い

SELECT ステートメント構文の一部の繰り返し項目には、(コンマのような定数ではなく) 繰り返し区切り文字を選択することができます。例えば、[図 116: 選択可能繰り返し区切り文字の例 ページ 434](#) に示されているように、expression clause (EXPRESSION 文節) には演算子 (「oper」) が繰り返し区切り文字として使用されています。

図 116. 選択可能繰り返し区切り文字の例

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Advanced SELECT Prototyping
Prototyping: expression clause          Status: clause incomplete

← oper -----
|  +  |----- function
|  -  |----- (- expression -)
|----- constant
|----- column
|----- hostvar
|----- register
|----- (- scalarfullsel -)
|----- duration
|----- caseexpr
|----- castspec
|----- sequenceref

SELECT ALL

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Deselect F5=InsRpt   F6=Executed
F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap     F10=PrvRpt F11=NxtRpt  F12=Cancel
    
```

選択可能繰り返し区切り文字の取扱方法を示すために、以下の 1 つの例を使用します。次の EXPRESSION 文節を生成する場合を考えます。

```
AMT1 + AMT2 - AMT3
```

ここでは、列 `AMT1`、`AMT2`、および `AMT3` は 3 つの繰り返し項目であり、“+”および“-”は、2 つの繰り返し区切り文字であるため、以下のステップを実行します。

- カーソルを「**column (列)**」要素に移動して、Enter キーを押します。ポップアップ・パネルが表示されます。
- `AMT1` を入力して、「**InsRpt**」機能キー (F5) を押します。`AMT1` が文節に追加されます。

```
AMT1
```

- カーソルを「**oper**」繰り返し区切り文字に移動して、「**InsRpt**」機能キー (F5) を押します。有効な繰り返し区切り文字のリストが表示されます。
- カーソルを“+”繰り返し区切り文字に移動して、Enter キーを押します。“+”が文節に追加されます。

```
AMT1 +
```

- 「**Exit**」機能キー (F3) を押します。EXPRESSION 文節の構文が再表示されます。
- カーソルを「**column (列)**」要素に移動して、Enter キーを押します。ポップアップ・パネルが表示されます。
- `AMT2` を入力して、「**InsRpt**」機能キー (F5) を押します。`AMT2` が文節に追加されます。

```
AMT1 + AMT2
```

- カーソルを「**oper**」繰り返し区切り文字に移動して、「**InsRpt**」機能キー (F5) を押します。有効な繰り返し区切り文字のリストが表示されます。
- カーソルを“-”繰り返し区切り文字に移動して、Enter キーを押します。“-”が文節に追加されます。

```
AMT1 + AMT2 -
```

- 「**Exit**」機能キー (F3) を押します。EXPRESSION 文節の構文が再表示されます。
- カーソルを「**column (列)**」要素に移動して、Enter キーを押します。ポップアップ・パネルが表示されます。
- `AMT3` を入力して、「**InsRpt**」機能キー (F5) を押します。`AMT3` が文節に追加されます。

```
AMT1 + AMT2 - AMT3
```



注: 繰り返し区切り文字は、その後に続く繰り返し項目と関連付けられます。最後の繰り返し項目が現行のものである場合には、繰り返し区切り文字は編集できません。

繰り返し項目の処理時に考慮すべき点

繰り返し項目を処理する場合には、以下の点に留意してください。

- 繰り返し項目コマンドは、カーソルを繰り返し項目の要素の 1 つに移動した場合にのみ有効です。
- フラグメント内の各繰り返し項目 (一般にはないかまたは 1 つ) の場合には、一度に現行のものとなる項目の「instance」は 1 つだけです。現行インスタンスについて生成されたデータは緑色で表示され、他のインスタンスについて生成されたデータは黄色で表示されます。
- インスタンスの間をナビゲートするには、「**PrvRpt**」機能キー (F10) および「**NxtRpt**」機能キー (F11) を押します。
- 「**InsRpt**」機能キー (F5) は、繰り返しインスタンスをアクティブな繰り返しインスタンスの後に挿入して、その新規繰り返しインスタンスをアクティブにします。
- 繰り返し項目のインスタンスがない場合には、初期インスタンスを作成し、以下のいずれかによってそれをアクティブにすることができます。

- 「InsRpt」機能キー (F5) を使用する。または
- カーソルを繰り返し項目の要素に移動して Enter キーを押す。
- 繰り返し項目のインスタンスが既に存在している場合に、カーソルを繰り返し項目の要素に位置付けて、Enter キーを押すと、その要素は「edited (編集済み)」となります。

SELECT ステップをプロトタイピングを使用して作成した後の実行

「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」か「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」のいずれかを使用して SQL SELECT ステートメントの作成を完了した後に、それを以下のようにして実行することができます。

- EXECUTE 基本コマンドを入力する。または
- 「Execute」機能キー (F6) を押す。

FM/Db2 は、「Use edit (instead of browse) to display results ((ブラウズの代わりに) 編集を使用して結果を表示)」オプションに従って結果を表示します。このオプションを選択すると、FM/Db2 は、「FM/Db2 Edit (編集)」を使用して結果を表示します。それ以外の場合には、FM/Db2 は「FM/Db2 Browse (ブラウズ)」を使用して結果を表示します。

図 117: 「Browse (ブラウズ)」を使用して表示された結果表の例 ページ 436 は、「FM/Db2 Browse (ブラウズ)」を使用した結果表を表示しています。

図 117. 「Browse (ブラウズ)」を使用して表示された結果表の例

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
FM/Db2 (DFG2)          Select Statement Browse
RESULTS FOR SELECT #1.FIRSTNME, #1.LASTNAME, #1.JOB FROM D...   Format TABL
FIRSTNME  LASTNAME  JOB
#2        #4        #8
VARCHAR(12) VARCHAR(15) CH(8)
<-----1-> <-----1-----> <----->
**** Top of data ****
MICHAEL<  THOMPSON<  MANAGER
IRVING<   STERN<    MANAGER
EVA<      PULASKI<  MANAGER
THEODORE< SPENSER<  MANAGER
VINCENZO< LUCCHESI< SALESREP
SEAN<     O'CONNELL< CLERK
DOLORES<  QUINTANA< ANALYST
HEATHER<  NICHOLLS< ANALYST
ELIZABETH< PIANKA<   DESIGNER
MASATOSHI< YOSHIMURA< DESIGNER
MARILYN<  SCOUTTEN< DESIGNER
JAMES<    WALKER<   DESIGNER
Command ==>----- Scroll PAGE
F1=Help    F2=Zoom    F3=Exit    F4=CRetriev  F5=RFind    F6=RChange
F7=Up      F8=Down    F9=Swap    F10=Left    F11=Right   F12=Cancel
    
```

パネル上にすべての列を表示するにはスペースが不足している場合には、LEFT 基本コマンドおよび RIGHT 基本コマンドを使用して右方にスクロールし、追加の列を表示します。

関連するタスク

[FM/Db2 システム・オプション \(オプション 0.2\) ページ 65](#)

関連する参照先

[EXECUTE 基本コマンド ページ 925](#)

SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン

以下を実行する場合に使用します。

- フリー・フォームの SQL ステートメントを入力する
- フリー・フォームの SQL ステートメントを実行する
- SQL ステートメントに関する情報を取得する

「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」パネルでオプション 3 (「Enter (入力)」) を選択します。

このオプションを選択すると、FM/Db2 は「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン)」パネルを表示します。

関連するタスク

[SQL ステートメントの入力 ページ 437](#)

[SQL ステートメントの実行 ページ 439](#)

[SQL のエクスプレーン ページ 440](#)

関連する参照先

[「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

[「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン\)」パネル ページ 686](#)

SQL ステートメントの入力

SQL ステートメントのフリー・フォームを、SQL ステートメント入力域に入力することができます複数の SQL ステートメントを入力する場合には、ステートメントをセミコロン (;) で区切る必要があります。SQL ステートメントが処理されると、それぞれの行の最後の桁が次の行の最初の桁に自動的に結合されます。トークンが行の最後の桁で終わっている場合には、次の行の最初の桁にはブランクまたはトークン区切り文字が入れられます。

SQL ステートメントの構成について詳しくは、*DB2 for z/OS SQL 解説書* を参照してください。

SQL の編集

SQL 基本コマンドを入力することによって入力した SQL は、編集することができます。入力した SQL は、一時データ・セットにコピーされ、ISPF 編集セッションが開始されます。編集セッションが完了すると、一時データ・セットは「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン)」パネルの入力域にコピーして戻されます。

SQL を編集するときには、以下のことが可能です。

- それを後で使用するためにデータ・セットに保管する (ISPF 編集 CREATE コマンドを使用)。
- 前に保管した SQL を検索する (ISPF 編集 COPY コマンドを使用)。
- SQL を構成するために ISPF エディターの能力を活用する。

関連する参照先

[「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン\)」パネル](#)
[ページ 686](#)

[SQL 基本コマンド](#) [ページ 975](#)

FM/Db2 エディターにロードされる行の制限

処理されている SQL ステートメントが SELECT ステートメントの場合に、FM/Db2 エディターにロードされる行を制限するには、「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン)」パネルの「**Row count (行カウント)**」フィールドに最大行数を指定します。

SELECT ステートメントですべての行をロードするには、このフィールドに「*」または「ALL」を指定します。

入力域のスクロール

入力中のステートメントが可視の表示域を超えた場合には、以下の機能キーを使用して、データ全体をスクロールすることができます。

「Up」機能キー (F7)

後方 (上方) にスクロールする

「Down」機能キー (F8)

前方 (下方) にスクロールする

また、基本コマンドの UP および DOWN を使用してスクロールすることもできます。

いずれかのスクロール機能キーを押すときのスクロールの移動量を制御するには、「**Scroll (スクロール)**」フィールドに下のスクロール移動量を入力してください。

スクロール移動量

スクロール方法

PAGE

一度に 1 ページ分のデータ

HALF

一度に 1 ページの半分のデータ

MAX

先頭または終わりまで

DATA

一度に 1 ページ分のデータより 1 行少ない量を移動

CSR

カーソル位置まで (カーソルがデータの中にある場合で、それ以外の場合は、デフォルトのスクロール移動量 PAGE が適用されます)

nnnn

一度に *nnnn* 行

関連する参照先

[\[Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン\)\]](#) パネル
ページ 686

SQL ステートメントの実行

ステートメント入力域に入力した SQL を実行するには、Enter キーを押します。

SQL ステートメントが結果表を戻した場合に、FM/Db2 は、**「Use edit (instead of browse) to display results ((ブラウザの代わりに) 編集を使用して結果を表示)」** オプションの設定に従って、結果を編集パネルまたはブラウザ・パネルに表示します。

複数の SQL ステートメントを入力した場合には、ステートメントは順次に実行されますが、結果表の表示による中断があります。以下の状態になるまで、実行を継続します。

- エラーが発生する
- 結果表の表示で CANCEL コマンドが入力される
- ステートメントがすべて実行される

[\[Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン\)\]](#) パネルを使用すれば、(プロトタイピングを使用しないで) 以下の 1 つ以上の SQL SELECT ステートメントを指定し、それらを順次に実行することができます。

ALTER	COMMENT ON	COMMIT
CREATE	DELETE	DROP
EXPLAIN	GRANT	INSERT
LABEL ON	LOCK TABLE	RENAME
REVOKE	ROLLBACK	SELECT
SET CURRENT DEGREE	SET CURRENT SQLID	UPDATE

関連するタスク

[SQL ステートメントの入力](#) ページ 437

[FM/Db2 システム・オプション \(オプション 0.2\)](#) ページ 65

関連する参照先

[「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレイン\)」](#) パネル
ページ 686

SQL コスト

すべての SELECT ステートメントが実行され、エラーが起こらなかった場合には、FM/Db2 は、それぞれの実行の後にすべての SELECT ステートメントの合計 SQL “コスト”を示すメッセージを表示します。

SQL エラー

ステートメントの実行またはエクスプレイン中に SQL エラーが起こった場合には、その SQL エラー情報を含むパネルが表示されます。

エラーの原因となった SQL ステートメントのフルテキストを表示するには、「SQL」機能キー (F5) を押すか、コマンド行で `SQL` と入力します。

エラー・パネルから戻ったときに、FM/Db2 は、失敗したステートメントにカーソルを入れるか、あるいは構文エラーが起こった場合には、失敗して Db2® がエラーとして識別したステートメントのトークンにカーソルを入れます。失敗したステートメントより前に正常に実行されたステートメントは、ロールバックされません。そして、それより後のステートメントは実行またはエクスプレインされません。

SQL のエクスプレイン

ステートメント入力域に入力した SQL をエクスプレインするには、EXPLAIN 基本コマンドを入力します。FM/Db2 は、入力された SQL のための EXPLAIN ステートメントを作成し、オプションで、そのエクスプレインの結果として Db2® によって追加された行を示す「Plan Table Rows (プラン表行)」パネルを表示します。



注: SQL ステートメントのエクスプレインについて詳しくは、*DB2 for z/OS SQL 解説書* を参照してください。

このエクスプレインの結果の識別に役立てるために、「**Query number (照会番号)**」入力フィールドに番号を入力します。「**Query number (照会番号)**」をブランクのままにしておいた場合には、FM/Db2 が YYYYMMDDss の形式の照会番号を生成します。ここで ss はシーケンス番号です。

「**Show results (検索結果の表示)**」オプションを選択してあった場合に、FM/Db2 は、Db2® がステートメントのエクスプレインの結果としてプラン表に挿入した関連行を表示しようとします。複数の SQL ステートメントを入力した場合には、ステートメントは順次にエクスプレインされますが、プラン表の行の表示による中断があります。実行は、エラーが起こるか、プラン表の表示で CANCEL コマンドが入力されるか、あるいはすべてのステートメントがエクスプレインされるまで続行されます。

「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレイン)」パネルを使用して、以下の SQL ステートメントのエクスプレインを行うことができます。

```
SELECT  
INSERT
```


UPDATE (検索されたフォームのみ)

DELETE (検索されたフォームのみ)

以下の基本コマンドが、「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン)」パネルで使用できます。

- DOWN
- EXECUTE
- EXPLAIN
- SQL
- UP

関連するタスク

[SQL ステートメントの入力 ページ 437](#)

[SQL ステートメントの実行 ページ 439](#)

[EXPLAIN の追加の考慮事項 ページ 441](#)

関連する参照先

[「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン\)」パネル ページ 686](#)

[「Plan Table Rows \(プラン表行\)」パネル ページ 752](#)

[DOWN 基本コマンド ページ 917](#)

[EXECUTE 基本コマンド ページ 925](#)

[EXPLAIN 基本コマンド ページ 926](#)

[SQL 基本コマンド ページ 975](#)

[UP 基本コマンド ページ 978](#)

EXPLAIN の追加の考慮事項

EXPLAIN 基本コマンドは、SQL EXPLAIN ステートメントを構成して、実行します。EXPLAIN ステートメントを正常に実行するには、その所有者名が現行の SQL 許可 ID と一致するプラン表 (PLAN_TABLE と呼ばれます) が存在していることが必要です。Db2® は EXPLAIN ステートメントの結果をそのプラン表に入れます。

FM/Db2 は、また、関連したデータをステートメント表 (DSN_STATEMNT_TABLE と呼ばれます) および関数表 (DSN_FUNCTION_TABLE と呼ばれます) が存在していればそれらも入れます。

プラン表の列に関連したステートメントおよび関数表の行には、行コマンドを使用してアクセスできます。

関連するタスク

[SQL のエクスペレイン ページ 440](#)

[SQL エクスペレインで使用される表の管理 ページ 443](#)

関連する参照先

[COL 基本コマンド ページ 913](#)

[PLAN 基本コマンド ページ 959](#)

[HINT 基本コマンド ページ 942](#)

データ・セットからの SQL ステートメントの編集と実行

以下を実行する場合に使用します。

- オプションで、SQL ステートメントを含むデータ・セットまたは PDS メンバーで ISPF 編集セッションを開始する
- データ・セットまたは PDS メンバーの中の SQL ステートメントを実行する

「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」パネルでオプション 4 (「Edit (編集)」) を選択します。



注: このオプションは、新規メンバーの作成には使用できません。

このオプションを選択すると、FM/Db2 は「Edit and Execute SQL Statements from a Data Set (データ・セットからの SQL ステートメントの編集と実行)」パネルを表示します。

このパネルを使用するには、以下のようにします。

1. 編集する SQL ステートメントが入っているデータ・セットまたは PDS メンバーの名前を指定します。【**Data set name (データ・セット名)**】、【**Member (メンバー)**】、および【**Volume serial (ボリューム通し番号)**】入力フィールドを組み合わせて使用できます。
2. 処理されている SQL ステートメントが SELECT ステートメントの場合に、FM/Db2 エディターにロードされる行を制限するには、「Edit and Execute SQL Statements from a Data Set (データ・セットからの SQL ステートメントの編集および実行)」パネルの【**Row count (行カウント)**】フィールドに最大行数を指定します。

SELECT ステートメントですべての行をロードするには、このフィールドに「*」または「ALL」を指定します。

3. 処理オプションを設定します。
4. Enter キーを押します。

【**Edit data set (データ・セットの編集)**】処理オプションを選択した場合には、指定したデータ・セットまたは PDS メンバーの内容が ISPF 編集セッションで表示されます。SQL ステートメントの編集が完了した場合には、「Exit」機能キー (F3) を押して、コマンドを実行します (【**Execute SQL from data set (データ・セットから SQL を実行)**】処理オプションの選択が必要です)。

【**Execute SQL from data set (データ・セットから SQL を実行)**】処理オプションを選択したが、「Edit data set (データ・セットの編集)」処理オプションは選択しなかった場合には、FM/Db2 は指定されたデータ・セットまたは PDS メンバーの中の SQL コマンドを即時に実行します。



注: SQL エラーが起こった場合には、FM/Db2 がそれ以上 SQL ステートメントを実行するのを回避するために、「Cancel」機能キー (F12) を使用して、「Edit and Execute SQL Statements from a Data Set (データ・セットからの SQL ステートメントの編集および実行)」パネルに戻ってください。

関連するタスク

[データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)

関連する参照先

[「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

[「Edit/Execute SQL \(Data Set\) \(SQL の編集/実行\(データ・セット\)\)」パネル ページ 648](#)

SQL エクスプレーンで使用される表の管理

SQL EXPLAIN ステートメントの使用をサポートする機能を選択したい場合は、「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」パネルでオプション 5 (「Utility (ユーティリティ)」) を選択します。

このオプションを選択すると、FM/Db2 は、「Explain Utilities (エクスプレーン・ユーティリティ)」パネルを表示します。このパネルを使用して、SQL EXPLAIN ステートメントで使用される表を作成したり削除できます。SQL EXPLAIN ステートメントで使用される表の追加情報については、*DB2 for z/OS SQL 解説書* を参照してください。

「Explain Utilities (エクスプレーン・ユーティリティ)」パネルを使用して、実行する機能のタイプを指定します。このパネルの使用について詳しくは、『参照』セクションを参照してください。

関連するタスク

[SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン ページ 437](#)

関連する参照先

[「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

[「Explain Utilities \(エクスプレーン・ユーティリティ\)」パネル ページ 688](#)

SQL プロトタイピングの終了

SQL プロトタイピングを終了するには、CANCEL 基本コマンドを発行するか、「Cancel」機能キー (F12) を押します。

関連する参照先

[CANCEL 基本コマンド ページ 905](#)

第 14 章. バッチ・ジョブでの FM/Db2 機能の使用

バッチ・ジョブで実行できる FM/Db2 機能を実行できます。

バッチ・ジョブで実行できる FM/Db2 機能。

選択した File Manager/Db2 関数または REXX 外部関数に対して事前定義のステートメントと命令を挿入する、提供されているモデルを編集します。

File Manager/Db2 バッチ・ジョブの JCL 構文

バッチ・ジョブで File Manager/Db2 機能を使用するには、次のステートメントを使用します。 `//stepname EXEC`

```
PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=sysid,SQLID=sqlid')
```

各部の意味は以下のとおりです。

sysid

FM/Db2 機能が実行される Db2 サブシステムを参照します。

sqlid

FM/Db2 機能が実行される Db2 SQLID を参照します。

デフォルトでは、レポート出力は SYSPRINT に書き込まれます。出力のセクションを次の ddname の代わりに転送できません。

FMNRPRM

\$\$FILEM コマンド・パラメーターおよび戻りコード

FMNREPT

コマンド・レポートおよび戻りコード

JCL に FMNPRINT が存在する場合には、SYSPRINT の代わりに使用されます。JCL に FMNIN が存在する場合には、SYSIN の代わりに使用されます。

さらに、そのバッチ・ジョブに含まれる File Manager 機能によっては、STEPLIB ステートメントまたは他の DD ステートメントが必要になる場合もあります。

File Manager 制御ステートメントをコーディングするときには、以下のことを行う必要があります。

- それぞれの制御ステートメントを 1-7 桁目の \$\$FILEM で開始し、その後の 8 桁目に空白を続け、さらにコマンド名とその後に最初のパラメーター (もしあれば) を続けます。
- パラメーターとその値を、等号で分離して、指定します。次のようになります。

```
PARAMETER=value
```

- 各パラメーター (最後のパラメーターを除いて) の直後にコンマを置きます。

アスタリスク (*) で始まるコメント・ステートメントも使用することができます。

制御ステートメントを次の行に続ける場合、最初の行はコンマで終わり、次の行は \$\$FILEM および空白で始まります。

1 行に収まらないパラメーターを続ける場合、継続文字は使用しないでください。代わりに、パラメーターを複数の行に分割し、各部分をアポストロフィで囲みます。例えば次のようになります。

```
$$FILEM OBJIOWNR='LONGOWNER1234567890123456789012345678901',
$$FILEM '2345678901234567890123456789012345678901NAME',
```



Notes:

1. 制御ステートメントに関数名のみが含まれる場合、関数名とコンマの間にスペースを入れる必要があります。
2. バッチで処理オプションを変更する場合、またはオプションをインストール・デフォルトにリセットする場合、SET 機能を使用します。

例

例

以下の例は、FM/Db2 DSP 機能を使用して Db2 表を印刷するバッチ・ジョブを示しています。

```
//jobcard
$$FILEM DBP FORMAT=TABLE,
$$FILEM OBJIOWNR='LONGOWNER1234567890123456789012345678901',
$$FILEM '2345678901234567890123456789012345678901NAME',
$$FILEM OBJJNAME='DUMMY_TABLE_WITH_A_L02345678901234567890',
$$FILEM '1234567890123456789012345678901234LONG_NAME',
$$FILEM UCREAD=YES,
$$FILEM NULLIND=_,
$$FILEM ROWS=ALL
```

File Manager/Db2 編集モデルの使用

このトピックでは、編集モデルを使用して、File Manager/Db2 関数にアクセスするためのバッチ JCL を作成する方法について説明します。

File Manager 編集モデルにアクセスできるようにするために、サイトの ISPF 環境を構成する必要があります。*File Manager for z/OS カスタマイズ・ガイド* の “ISPF エディットでの File Manager 編集モデルの実装” を参照してください。

編集モデル

ISPF 編集モデルは、ステートメントの既定のセットです。これらのステートメントを、編集するメンバーに組み込んだ後、必要に応じて変更できます。File Manager には、ISPF に付属する編集モデルとともに、File Manager 基本関数、FM/Db2 関数、FM/IMS 関数、および REXX 外部関数の編集モデルも含まれます。

編集モデルには次の 2 つの部分があります。

データ行

これらは、編集するデータに配置する実際の行です。File Manager ISPF モデルでは、データ行によって、関数のパラメーターの形式が示されます。

注

注記では、関数のパラメータに関するチュートリアル情報が提供されます。これらは、要件に合うようにデータ行を更新する方法について説明しています。

MODEL コマンドを入力するとき、編集するメンバーのデータ・タイプ (JCL または EXEC) に応じた File Manager 関数を選択できます。

編集モデルの使用

JCL または EXEC タイプのデータ・セットのメンバーを編集し、MODEL コマンドを発行すると、該当する File Manager 関数または REXX 外部関数のリストが表示されます。

JCL

「File Manager Models (File Manager モデル)」 パネルに、使用可能な編集モデルがカテゴリー別にリストされます。

RF を入力することで、REXX 外部関数の使用可能な編集モデルをリストする別パネルを表示できます。

EXEC

「REXX Models (REXX モデル)」 パネルが表示されます。

FF を入力すると、REXX 外部関数の使用可能な編集モデルをリストする **「File Manager Rext Function Models (File Manager Rext 関数モデル)」** パネルが表示されます。

関数名を入力すると、その編集モデルから編集セッションにステートメントを挿入できます。例えば、DSEB と入力すると、バッチ編集モデルが挿入されます。A (after (後)) または B (before (前)) 行コマンドを使用すると、特定の位置にステートメントを挿入できます。

RESET コマンドを発行すると、注記行を完全に削除し、データ行のみ残すことができます。

編集モデルの例: DBP 関数を呼び出す JCL

この例では、編集モデルを使用して、DBP 関数を使用して Db2 表を印刷するバッチ・ジョブを生成する方法を示します。

1. 「ISPF Primary Option Menu (ISPF 基本オプション・メニュー)」からオプション 2 を選択します。
2. **「Edit Entry (エントリーの編集)」** パネルで、「JCL」タイプのデータ・セットの新しいメンバーの名前を入力します。例:

```
Data Set Name . . . 'EXAMPLE.JCL(newdbpx)'
```

3. 編集セッションで、MODEL 基本コマンドを入力します。

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          EXAMPLE.JCL(NEWDBPX) - 01.00          Columns 00001 00072
Command ==> model                               Scroll ==> CSR
***** ***** Top of Data *****
|
|
|
|

```

「File Manager Models (File Manager モデル)」 パネルに、JCL クラスの使用可能な編集モデルがリストされます。

```

                                File Manager Models
Option ==> jd
-----
Enter number or service name (RF for External Rexx Functions)
Enter END command to cancel MODEL command.

FM/BASE
AUD Audit Base/Db2/IMS
CLM Load Module compare
DSB Resource Browse
DSC Resource Copy
DSE Resource Edit
DSEB Batch Edit
DSM Compare
DSG Generate
DSP Print
DSU Resource Update
DSV Resource view
FCH Find/Change
NSRT NOSORT (no DFSORT)
PBK Print Copybooks
SET Set options
SETRC Set Return code
VER Version information
VLM View load Module

Base Templates
BTB Batch Template Build
BTU Batch Template Update
TPIM Template Import
TPXP Template Export

Db2 Templates
D2TP DB2 Template Crt/Upd

IMS Templates
ICU IMS Criteria Update
ITU IMS Template Update
IVU IMS View Update

Data set functions
DSFA Data Set Alter
DSFC Data Set Allocate
DSFD Data Set Delete
DSFR Data Set Rename

Db2 functions
BSQL Batch SQL
DBC Batch Db2 Copy
DBI Batch Db2 Import
DBP Batch Db2 Print
DBX Batch Db2 Export
D2G Db2 Data Generation

IMS functions
DBI IMS Initialization
IBB IMS Batch Browse
IEB IMS Batch Edit
ILB IMS Load
IPR IMS Print
IXB IMS Extract

File Manager JCL
JB FM/Base JCL
JD FM/Db2 JCL
JI FM/IMS JCL

F1=Help F3=Exit F12=Cancel

```

4. JD を入力します。

FM/Db2 JCL の編集モデルが編集セッションにコピーされます。

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT EXAMPLE.JCL(NEWDBPX) - 01.00 Columns 00001 00072
Command ==> Scroll ==> CSR
***** Top of Data *****
=NOTE= -----
=NOTE= -- --
=NOTE= -- DB2 JCL --
=NOTE= -----
000001 //FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=sysid,SQID=sqliid')
000002 //SYSPRINT DD SYSOUT=*
000003 //FMNTSPRT DD SYSOUT=*
000004 //SYSOUT DD SYSOUT=*
000005 //SYSTEM DD SYSOUT=*
000006 //SYSTSPRT DD SYSOUT=*
=NOTE=
000007 //FMNODPP DD DISP=SHR,DSN=OPTIM.ODPP.SAMPLIB(ENVVARS)
=NOTE=
=NOTE= FMNODPP DD
=NOTE= To enable File Manager to specify and run ODPP commands,
=NOTE= you must first allocate or define a DD name FMNODPP.
=NOTE=
=NOTE= This name points to a data set that contains the
=NOTE= environment variables that are required by the ODPP
=NOTE= to run as a TSO or batch application.
=NOTE=
=NOTE= Where the data set member ENVVARS contains the following lines:
=NOTE=
=NOTE= LIBPATH=/usr/local/odpp/odppbin
=NOTE= ODPPLL=/usr/local/odpp/licensefiles
=NOTE= ODPPERL=/usr/local/odpp/odppbin
=NOTE= ODPPTRCL=/usr/local/odpp/tracefiles
=NOTE= ODPPTRC=N
=NOTE=
000008 //SYSIN DD *
=NOTE=
=NOTE= DBP (Db2 Print)
=NOTE=
=NOTE= Purpose
=NOTE= To print the contents of a Db2. object in a variety of formats.
=NOTE=
=NOTE= Usage
=NOTE= The Print utility function can:
=NOTE= - Print data in table or single formats, in either character or
=NOTE= HEX.
=NOTE= - Select the rows and columns to be printed.
=NOTE= - Limit the number of rows to be printed.
=NOTE=
:

```

注記は、行コマンド・フィールドで文字 `=NOTE=` によって示されます。注記には、JCL のステートメントとパラメーターを変更する場合に役立つ情報が含まれます。

5. RESET コマンドを発行すると、注記行を完全に削除し、データ行のみ残すことができます。
6. A 行コマンドを使用して行 000008 を上書き入力し、MODEL 基本コマンドを入力します。


```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          EXAMPLE.JCL(NEWDBPX) - 01.00          Columns 00001 00072
Command ==> model          Scroll ==> CSR
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=sysid,SQID=sqid')
000002 //SYSPRINT DD SYSOUT=*
000003 //FMNTSPRT DD SYSOUT=*
000004 //SYSOUT DD SYSOUT=*
000005 //SYSTEM DD SYSOUT=*
000006 //SYSTSPRT DD SYSOUT=*
000007 //FMNODPP DD DISP=SHR,DSN=OPTIM.ODPP.SAMPLIB(ENVVARS)
A
//SYSIN DD *
000009 /*
***** ***** Bottom of Data *****

```

7. DBP と入力します。

FM/Db2 印刷機能の編集モデルが編集セッションにコピーされます。

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          EXAMPLE.JCL(NEWDBPX) - 01.00          Columns 00001 00072
Command ==>          Scroll ==> CSR
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=sysid,SQID=sqid')
000002 //SYSPRINT DD SYSOUT=*
000003 //FMNTSPRT DD SYSOUT=*
000004 //SYSOUT DD SYSOUT=*
000005 //SYSTEM DD SYSOUT=*
000006 //SYSTSPRT DD SYSOUT=*
000007 //FMNODPP DD DISP=SHR,DSN=OPTIM.ODPP.SAMPLIB(ENVVARS)
000008 //SYSIN DD *
=NOTE=
=NOTE= DBP (Db2 Print)
=NOTE=
=NOTE= Purpose
=NOTE= To print the contents of a Db2. object in a variety of formats.
=NOTE=
=NOTE= Usage
=NOTE= The Print utility function can:
=NOTE= - Print data in table or single formats, in either character or
:

```

8. RESET コマンドを再び発行して注記行を削除します。

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
EDIT          EXAMPLE.JCL(NEWDBPX) - 01.00          Columns 00001 00072
Command ==>          Scroll ==> CSR
***** ***** Top of Data *****
000001 //FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=sysid,SQID=sqid')
000002 //SYSPRINT DD SYSOUT=*
000003 //FMNTSPRT DD SYSOUT=*
000004 //SYSOUT DD SYSOUT=*
000005 //SYSTEM DD SYSOUT=*
000006 //SYSTSPRT DD SYSOUT=*
000007 //FMNODPP DD DISP=SHR,DSN=OPTIM.ODPP.SAMPLIB(ENVVARS)
000008 //SYSIN DD *
000009 $$FILEM DBP,
000010 $$FILEM FORMAT=TABLE|SINGLE,
000011 $$FILEM OBJIN=location.owner.name,
000012 $$FILEM OBJILOCN=location,
000013 $$FILEM OBJIOWNR=owner,
000014 $$FILEM OBJINAME=name,
000015 $$FILEM TINPUT=ddname,
000016 $$FILEM TINMEM=member,
000017 $$FILEM TMIN=template_data_set_name(member),
000018 $$FILEM UCREAD=YES|NO,
:

```

これで、FM/Db2 DBP 関数を使用して Db2 表を印刷する JCL メンバーを使用できます。

第 15 章. Db2® 対話機能とのインターフェース

Db2® 対話機能 (Db2I) とのインターフェースをとるためには、Db2I ユーティリティ機能 (オプション 5) を使用します。

Db2I の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルを表示するには、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルからオプション 5 (Db2I) を選択します。

Db2I の詳細については、「*Db2®* アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド」を参照してください。

関連する参照先

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 756](#)

[「Db2I Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」パネル ページ 643](#)

第 II 部. FM/Db2 参照

第 16 章. Db2® データ型

FM/Db2 は次の IBM 提供のデータ・タイプをサポートします。

文字ストリング (英数字)

一連のバイトで、ストリングの長さはその一連のバイトのバイト数です。

CHAR

固定長文字ストリング。

VARCHAR

可変長文字ストリング。

GRAPHIC

固定長グラフィック・ストリング。

VARGRAPHIC

可変長グラフィック・ストリング。

BINARY

固定長バイナリー・ストリング。

VARBINARY

可変長バイナリー・ストリング。

数字

符号および精度を含む 10 進数、2 進整数、および浮動小数点データ・タイプ。

DECIMAL または NUMERIC

暗黙の小数点を持つパック 10 進数。

DECFLOAT

10 進浮動小数点数。

SMALLINT

精度が 15 ビットの 2 進整数。

INTEGER

精度が 31 ビットの 2 進整数。

BIGINT

精度が 63 ビットの 2 進整数。

REAL

単精度の浮動小数点数 (32 ビット)。

DOUBLE、DOUBLE PRECISION、または FLOAT

倍精度の浮動小数点数 (64 ビット)。

行 ID

表内の行に直接ナビゲートする照会をサポートします。

ROWID

Db2® によって不変に保守される固有値。

Datetime

このデータ・タイプはある時点を表します。

DATE

Db2® に対して内部的なもので、この日付は 4 バイト・フィールドとして表され、各バイトには `yyyymmdd` 形式で保管された 2 桁のパック 10 進数が入っています。

外部的には、SQL SELECT ステートメントによって戻されると、日付は文字フィールドで表されます。ストリングの形式は、Db2® DSNHDECP インストール・モジュールの DATE パラメーター (インストール・パネル DSNTIP4 に指定された Db2® インストール・オプション) によって決まります。表 25: 日付および時刻のフィールド形式 ページ 454 に、有効な Db2® 日付形式を示します。日付フィールドの長さは 10 バイトです。ただし、Db2® インストールの日付形式が LOCAL の場合には、長さはそれぞれのインストールによって決まる 10 ~ 254 バイトの範囲内です。日付の値は 0001-01-01 ~ 9999-12-31 (ISO 形式) の範囲内でなければなりません。

TIME

Db2® に対して内部的なもので、このタイム・スタンプは 7 から 15 バイトのフィールドとして表され、それぞれのバイトには 2 桁のパック 10 進数が入っています。最初の 4 バイトは日付を、次の 3 バイトは時刻を、次の 0 から 6 バイトはマイクロ秒を表し、TIME ZONE が存在する場合は 2 バイトにタイム・ゾーンが含まれます。

外部的には、SQL SELECT ステートメントによって返されるときに、タイム・スタンプは 19 から 38 バイトの文字フィールドで表されます。タイム・スタンプは常に `yyyy-mm-dd.hh.mm.ss(.nnnnnnnnnnn)(sHH:MM)` 形式で返されます。各部の意味は、次のとおりです。

yyyy

年を表す 1 ~ 9999 の範囲の整数。

mm

月を表す 1 ~ 12 の範囲の整数。

dd

日を表す 1 ~ 31 の範囲の整数。この値は、月 (うるう年を含む) に対して適切でなければなりません。

hh

時を表す 0 ~ 24 の範囲の整数。

mm

分を表す 0 ~ 59 の範囲の整数。

SS

秒を表す 0 ~ 59 の範囲の整数。

TIMESTAMP の残りの部分 (秒の値の小数部分と TIME ZONE) は任意指定です。

nnnnnnnnnnnn

秒の小数部分を表す 0 から 99999999999 の範囲の整数。桁数は、TIMESTAMP の精度に応じて 0 から 12 の範囲で変化します。

sHH

-12 から +14 の範囲の符号付き整数。-12 はグリニッジ標準時から 12 時間遅れていて、+14 は 14 時間進んでいることを表します。

MM

00 から 59 の範囲の整数。タイム・ゾーンの分を表す構成要素です。Db2® に対して内部的なもので、この時刻は 3 バイト・フィールドとして表され、それぞれのバイトには *hhmmss* 形式で保管された 2 桁のパック 10 進数が入っています。

表 25. 日付および時刻のフィールド形式

形式名	省略形	日付形式	時刻形式
国際標準化機構	ISO	yyyy-mm-dd	hh.mm.ss
IBM® 米国標準	USA	mm/dd/yyyy	hh.mm AM または PM
IBM® 欧州標準規格	EUR	dd.mm.yyyy	hh.mm.ss
日本工業規格	JIS	yyyy-mm-dd	hh:mm:ss
インストール定義	LOCAL	インストール定義された形式	インストール定義された形式

Db2® データ・タイプの詳細については、*Db2 UDB for z/OS SQL 解説書* を参照してください。

ラージ・オブジェクト (LOB)

ラージ・オブジェクト (LOB) という用語は、次のデータ・タイプのいずれかを指します。

CLOB

文字ラージ・オブジェクト

DBCLOB

2 バイト文字ラージ・オブジェクト

BLOB

2 進ラージ・オブジェクト

FM/Db2 は LOB データ・タイプの列を認識しますが、これらの列は FM/Db2 機能では処理されません。表示される場合は、LOB 列の名前が示されますが、その列は空で表示されます。

第 17 章. FM/Db2 パネルおよびフィールド

本書のこの節には、ほとんどの FM/Db2 パネルがリストされています。いくつかのパネルでは、パネル内に各フィールドの定義があり、該当する場合は、各入力フィールドの有効な値の範囲が示されています。

FM/Db2 パネルのスクロール可能フィールド

FM/Db2 パネルの一部のフィールドには、長い値の入力や表示ができるようにスクロール可能になっているものがあります。

このセクションで示されるパネルは、Db2® バージョン 8 を使用して生成されたものです。そのパネルのフィールドには、“+”記号や“-”記号が横に付いているものがあります。これらの記号は、フィールドがスクロール可能であることを示しています。

詳しくは、[ロング・ネーム用のスクロール可能入力および表示フィールド ページ 41](#)を参照してください。

アクション・バー・プルダウン・メニュー

アクション・バー・プルダウン・メニューを使用すると、製品内を迅速に移動できます。ここに示されたパネルは、アクション・バー項目「**Options (オプション)**」のプルダウン・メニューの例を示しています。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (Command	1. Print settings 2. FM/Db2 system options 3. Job card specifications 4. Compiler language selection 5. COBOL compiler specifications 6. HLASM compiler specifications 7. PL/I compiler specifications 8. Temporary Data Set Allocations 9. Output Data Set Allocations 10. Trace options 11. ISPF settings 12. Editor options 13. Print utility options 14. Copy utility options 15. Object list utility options 16. Import utility options 17. Export utility options 18. Db2 LOAD utility options 19. Db2 Utility LISTDEF options 20. Db2 Utility OPTIONS options 21. Db2 Utility TEMPLATE options 22. Db2 Unload utility options		: JHELVON : FMD2 : FMN2 : 14.1.19 : 3278 : 1 : 2018/11/04 : 14:27 . DFE2 . JHELVON + F8=Forward
0 Setti 1 View 2 Edit 3 Utili 4 SQL 5 Db2I 6 Comma 7 Templ X Exit			
Command F1=Help F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Process (処理)

「Process (処理)」メニューは次の選択項目を提供します。

1

終了

Options (オプション)



注: 「Options (オプション)」メニューは「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネルでは使用できません (「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824)。

「Options (オプション)」メニューは次の選択項目を提供します。

- 1
Print settings (印刷設定)
- 2
FM/Db2 システム・オプション
- 3
Job card specifications (ジョブ・カード仕様)
- 4
Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)
- 5
COBOL compiler specifications (COBOL コンパイラ仕様)
- 6
HLASM compiler specifications (HLASM コンパイラ仕様)
- 7
PL/I compiler specifications (PL/I コンパイラ仕様)
- 8
Temporary Data Set Allocations (一時データ・セット割り振り)
- 9
Output Data Set Allocations (出力データ・セット割り振り)
- 10
Trace options (トレース・オプション)
- 11
ISPF settings (ISPF 設定)
- 12
Editor options (エディター・オプション)
- 13
Print utility options (印刷ユーティリティー・オプション)

14

Copy utility options (コピー・ユーティリティー・オプション)

15

Object list utility options (オブジェクト・リスト・ユーティリティー・オプション)

16

Import utility options (インポート・ユーティリティー・オプション)

17

Export utility options (エクスポート・ユーティリティー・オプション)

18

Db2® LOAD utility options (LOAD ユーティリティー・オプション)

19

Db2® Utility LISTDEF options (ユーティリティー LISTDEF オプション)

20

Db2® Utility OPTIONS options (ユーティリティー OPTIONS オプション)

21

Db2® Utility TEMPLATE options (ユーティリティー TEMPLATE オプション)

22

Db2®Unload utility options (アンロード・ユーティリティー・オプション)

ユーティリティー



注: 「Utilities (ユーティリティー)」メニューは、「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネルでは使用できません (「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824)。

「Utilities (ユーティリティー)」メニューは次の選択項目を提供します。

1

印刷

2

オブジェクト

3

コピー

4

オブジェクト・リスト

5

Db2® 特権

6

インポート

7

エクスポート

8

作成

9

Db2® ユーティリティー

10

監査証跡

11

印刷ブラウザ

Help (ヘルプ)

「Help (ヘルプ)」メニューは次の選択項目を提供します。

1

ヘルプのヘルプ...

2

全般ヘルプ...

3

キーのヘルプ...

4

ヘルプ索引 A から M

5

ヘルプ索引 N から Z

6

チュートリアル...

7

概要...

8

Db2® の概要...

9

FM/Db2 の関連ニュース...

親パネル

プルダウン・メニューは、すべての FM/Db2 パネルで使用できます。

子パネル

なし。

関連するタスク

- [ご使用の FM/Db2 バージョンの検査 ページ 30](#)
- [FM/Db2 の終了 ページ 31](#)
- [アクション・バーからの項目の選択 ページ 40](#)

「Additional LISTDEF Statements (追加 LISTDEF ステートメント)」パネル

「Additional LISTDEF Statements (追加 LISTDEF ステートメント)」パネルは、追加の LISTDEF ステートメントを入力するために使用し、「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」パネルで入力する LISTDEF ステートメントを補足するために使用されます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Additional LISTDEF Statements		Global Settings
No corresponding statement is generated if its field is blank.			
LISTDEF	_____		

LISTDEF	_____		

LISTDEF	_____		

Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F6=Reset	F7=Backward		

LISTDEF

「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」パネル (「[LISTDEF Options \(LISTDEF オプション\)](#)」パネル ページ 728) の「Use additional statements (追加のステートメントを使用する)」オプションが選択されている場合、ここで入力するテキストが LISTDEF ステートメントに組み込まれます。

親パネル

- [「LISTDEF Options \(LISTDEF オプション\)」 パネル ページ 728](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RESET 基本コマンド ページ 966](#)
- [Db2 ユーティリティのオプションの設定 ページ 358](#)

「Additional TEMPLATE Statements (追加 TEMPLATE ステートメント)」 パネル

「Additional TEMPLATE Statements (追加 TEMPLATE ステートメント)」 パネルは、追加の TEMPLATE ステートメントを入力するために使用し、「TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))」 パネルで入力する TEMPLATE ステートメントを補足するために使用されます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Additional TEMPLATE Statements	Global Settings
No corresponding statement is generated if its field is blank.			
TEMPLATE	_____		
_____	_____		
_____	_____		
TEMPLATE	_____		
_____	_____		
_____	_____		
TEMPLATE	_____		
_____	_____		
_____	_____		
Command ==>	_____		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F6=Reset		F7=Backward

TEMPLATE

「TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))」 パネル ([「TEMPLATE Options \(1 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 1\)\)」 パネル ページ 877](#)) の「Use additional statements (追加のステートメントを使用する)」 オプションが選択されている場合、ここで入力するテキストが TEMPLATE ステートメントに組み込まれます。

親パネル

- [「TEMPLATE Options \(1 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 1\)\)」 パネル ページ 877](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RESET 基本コマンド ページ 966](#)
- [Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」パネル

拡張 SELECT プロトタイピング機能は、SQL SELECT ステートメントの構文を確認するための援助プログラムであり、複雑な SQL ステートメントのプロトタイピングのためのツールになります。Db2® 資料内で構文を記述するために使用される「railroad tracks (構文図)」を基にした形式で、ステートメント構文のフラグメントが画面に表示されます。検討または使用したい構文の部分にカーソルを置くことによって、その構文の要件に準拠したステートメントを作成することができます。作成したステートメントは、画面の下部に表示され、作成を完了したときに実行することができます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Advanced SELECT Prototyping	
Prototyping: select statement		Status: statement incomplete	
View syntax notes			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">WITH - comtabexp</div>		fullselect	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">orderby</div>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> fetchfirst _____ update _____ FOR READ ONLY _____ optimize _____ isolation _____ queryno _____ </div>
Command ==>		Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Deselect
F5=InsRpt	F6=Executed	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=PrvRpt	F11=NxtRpt	F12=Cancel

Prototyping (プロトタイピング)

現在表示されている構文フラグメントの名前を示します。

Status (状況)

作成している SQL ステートメントの現在の状況。テキスト・ストリングの形式のこの状況標識は、SQL ステートメント全体 (その場合は “statement (ステートメント)” というワードを使用します) か現在プロトタイプ中の SQL ステートメント内の文節 (その場合は “clause (文節)” というワードを使用します) のどちらかに適用されます。

statement incomplete (ステートメント未完了)

最初の「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」パネルにのみ表示され、それまでに生成されたステートメントはまだ実行できる状態でないことを示します。

clause incomplete (文節未完了)

最初のパネルを除くどのパネルにも表示されることがあり、文節は現在プロトタイプ中であり、まだ実行できる状態ではないこと (およびステートメントは全体としてまだ実行できる状態ではないことを含む) を示します。

clause complete (文節完了)

最初のパネルを除くどのパネルにも表示されることがあり、現在プロトタイプ中の文節が完了することを示します。これは、ステートメントは全体としてまだ実行できる状態ではないことを暗黙に示します (そうでなければ、状況は “statement complete (ステートメント完了)” として表示されるからです)。

statement complete (ステートメント完了)

どのパネルにも表示されることがあり、ステートメントは全体として完了し、実行できる状態になることを示します (また、現在の文節も完了していることを暗黙に示します)。



注: 「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」は、SELECT ステートメントが完全なものとして示されるまでその作成に役立つように設計されています。しかし、SELECT 文節またはステートメントの “completed (完了)” 状況は、必ずしもそれが構文的に正しく、あるいは有効な Db2® データを参照していることを意味しません。その構文の正しいことが確認できるのは、SELECT ステートメントが正常に実行された場合だけです。

View syntax notes (構文上の注の表示)

一部の「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」パネルでは、その時点の構文のフラグメントに関する説明的な注を使用することができます。このようなパネルでは、“プロトタイピング: (Prototyping:)” フィールドの見出しのすぐ下に “View syntax notes (ビューの構文に関する注)” というテキストが表示されます。

注を表示するには、カーソルを “View syntax notes (構文上の注の表示)” テキストに移動し、Enter キーを押します。FM/Db2 は、現在の構文フラグメントに関連する注を含むパネルを表示します。

親パネル

- [「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」](#) パネル ページ 836

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Select Statement Browse (選択ステートメントのブラウズ)」 パネル ページ 811	Enter キーを押す

関連するタスク

- [拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411](#)
- [生成された SELECT ステートメントのカラー・コーディング ページ 414](#)

関連する参照先

- [CANCEL 基本コマンド ページ 905](#)
- [DESELECT 基本コマンド ページ 916](#)
- [EXECUTE 基本コマンド ページ 925](#)
- [INSRPT 基本コマンド ページ 945](#)
- [NEXTRPT 基本コマンド ページ 957](#)
- [PREVRPT 基本コマンド ページ 961](#)
- [SQL 基本コマンド ページ 975](#)

「Alter Database (データベースの変更)」 パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)			Alter Database		
Database name . . .	FMN2				
Buffer pool			(Optional: BPn, BP8Kn, BP16Kn, BP32Kn)		
Index buffer pool .	BP0		(Optional: BPn)		
Storage group . . .	SG01		+ (Optional, storage group name)		
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- [「Databases \(データベース\)」 パネル ページ 616](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter External Scalar Function (外部スカラー関数の変更)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Alter External Scalar Function		
ALTER SPECIFIC FUNCTION "SYATES"."FUNCTIO1"			
All parameters are optional			
External name . . .	<u>F</u> UNCTIO1	+	(default is the function name)
Language	<u>C</u> OBOL		Deterministic . <u>N</u> (Y/N)
NOT NULL Call . . .		(Y/N)	External action <u>Y</u> (Y/N)
Final call	<u>N</u>	(Y/N)	DBINFO <u>N</u> (Y/N)
SQL	<u>R</u>	(C - Contain	R - Read M - Mod N - No)
Scratch pad	<u>0</u>	(scratch pad	length or 0)
ALLOW PARALLEL	<u>D</u>		(Y/N)
Collid		+	(collection or '-' for none)
WLM Environment . . .	<u>WLM_FOR_DFA2</u>	+	(WLM env. name or '-' for none)
ASUTIME limit	<u>0</u>		(CPU service units or 0 for no limit)
Stay resident	<u>N</u>		(Y/N)
Program type	<u>S</u>		(M - Main S - Subroutine)
External security . .	<u>D</u>		(D - Db2 AS U - User C - Definer)
Run time options . .			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

親パネル

- [\[Functions \(関数\)\] パネル ページ 710](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Index (索引の変更)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Alter Index
Index owner	FMUSER		+
Index name	XDEPT1		+
Partition	_____		
Primary quantity .	_____	Buffer pool	BP0
Secondary quantity	_____	Erase rule	NO
Free page	_____	Close rule	NO
Percent free	_____		
Storage group . . .	_____		+
VSAM catalog . . .	_____	Piece size(KB) . . .	2097152
GB pool cache . . .	_____	Copy allowed	NO
Limit value	_____		+
Use the SHOW primary command to display index partition values, and the SAVE line command to copy the values to this panel.			
Command ==> _____			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

親パネル

- [「Indexes \(索引\)」パネル ページ 724](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Stored Procedure (ストアド・プロシージャの変更)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Alter Stored Procedure		
ALTER SPECIFIC FUNCTION "SYATES"."FUNCTIO1"			
All parameters are optional			
RESULT SETS	0_____	(maximum number of result sets)	
EXTERNAL NAME	DSNX9DUJ	+ (default is the function name)	
LANGUAGE	C_____	+ DETERMINISTIC . N (Y/N)	
PARAM STYLE	D_____	(D - DB2SQL G - General N - w. NULLS)	
SQL	M_____	(C - Contain R - Read M - Mod N - No)	
DBINFO	N_____	(Y/N)	
COLLID	DSNJAR	+ (collection or '-' for none)	
WLM ENV	WLM_FOR_DFA2	+ (WLM env. name or '-' for none)	
ASUTIME LIMIT	0_____	(CPU service units or 0 for no limit)	
STAY RESIDENT	Y_____	(Y/N)	
PROGRAM TYPE	S_____	(M - Main S - Subroutine)	
EXT SECURITY	U_____	(D - Db2 AS U - User C - Definer)	
COMMIT RETURN	N_____	(Y/N)	
RUN TIME OPTS	POSIX(ON)		+
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward
			F8=Forward

親パネル

- [「Stored Procedures \(ストアド・プロシージャ\)」パネル ページ 843](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table (表の変更)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Alter Table		
Table Identification:			
Table owner	KPS8810_LONG	+
Table name	VACT	+
Processing Options:			
Select type of ALTER			
—	1. AUDIT	7. DROP FOREIGN KEY constraint	
	2. ADD column	8. DATA CAPTURE	
	3. VALIDPROC	9. ADD CHECK constraint	
	4. ADD PRIMARY KEY	10. DROP CHECK constraint	
	5. ADD FOREIGN KEY constraint	11. ADD RESTRICT ON DROP	
	6. DROP PRIMARY KEY	12. DROP RESTRICT ON DROP	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward
			F8=Forward

親パネル

- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」パネル ページ 875](#)
- [「Table Check Constraints \(表検査制約\)」パネル ページ 857](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Alter Table - AUDIT (変更表 - AUDIT)」パネル ページ 473	処理オプション 1
「Alter Table - ADD Column (変更表 - ADD 列)」パネル ページ 470	処理オプション 2
「Alter Table - VALIDPROC (変更表 - VALIDPROC)」パネル ページ 479	処理オプション 3
「Alter Table - ADD PRIMARY KEY (変更表 - ADD PRIMARY KEY)」パネル ページ 472	処理オプション 4
「Alter Table - ADD FOREIGN KEY Constraint (変更表 - ADD FOREIGN KEY 制約)」パネル ページ 471	処理オプション 5
「Alter Table - DROP PRIMARY KEY (変更表 - DROP PRIMARY KEY)」パネル ページ 477	処理オプション 6
「Alter Table - DROP FOREIGN KEY Constraint (変更表 - DROP FOREIGN KEY 制約)」パネル ページ 476	処理オプション 7
「Alter Table - DATA CAPTURE (変更表 - DATA CAPTURE)」パネル ページ 474	処理オプション 8

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Alter Table - ADD CHECK Constraint (変更表 - ADD CHECK 制約)」パネル ページ 469	処理オプション 9
「Alter Table - DROP CHECK Constraint (変更表 - DROP CHECK 制約)」パネル ページ 475	処理オプション 10
「Alter Table - RESTRICT ON DROP (変更表 - RESTRICT ON DROP)」パネル ページ 478	処理オプション 11 または 12

関連するタスク

[「Alter Table - ADD CHECK Constraint \(変更表 - ADD CHECK 制約\)」パネル](#)

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Alter Table - ADD CHECK Constraint
Table Identification:
  Owner . . . . . KPS8810_LONG      +
  Name  . . . . . VACT                +
Constraint:
  Name  . . . . . _____          +
  Check condition . . _____        +

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Expand    F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Left       F11=Right    F12=Cancel

```

親パネル

- [「Alter Table \(表の変更\)」パネル](#) ページ 468

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - ADD Column (変更表 - ADD 列)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Alter Table - ADD Column
Table Identification:			
Owner	KPS8810_LONG		+
Name	VACT		+
Column Details:			
Name	_____		
Type	_____		+(for example CHAR, DECIMAL, INTEGER)
Length	_____		
Precision	_____		(optional, valid for FLOAT and DECIMAL only)
Scale	_____		(optional, valid for DECIMAL only)
NOT NULL	__		(Yes or No)
FOR ? DATA	__		(type: B - BIT, S - SBCS, D - DBCS, blank - none)
WITH DEFAULT	__		(Yes, No or enter value below)
Default value	_____		+
FIELDPROC Details:			
Name	_____		(optional)
Parm	_____		+
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F7=Backward F8=Forward F12=Cancel

親パネル

- ・ [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - ADD FOREIGN KEY Constraint (変更表 - ADD FOREIGN KEY 制約)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	Alter Table - ADD FOREIGN KEY Constraint				
Table Identification:					
Owner	KPS8810_LONG		+		
Name	VACT		+		
Constraint:					
Name	VACT		+		
Foreign Key:					
Column name 1	_____				
2	_____				
3	_____				
4	_____				
5	_____				
6	_____				
7	_____				
8	_____				
REFERENCES Table Identification:					
Owner	SYSIBM				
Name	_____				
ON DELETE:					
Select type of delete rule					
_ 1. RESTRICT					
_ 2. CASCADE					
_ 3. SET NULL					
_ 4. NO ACTION					
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - ADD PRIMARY KEY (変更表 - ADD PRIMARY KEY)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	Alter Table - ADD PRIMARY KEY				
Table Identification:					
Owner	KPS8810_LONG	_____ +		
Name	VACT	_____ +		
Primary Key:					
Column name	1	_____		
	2	_____		
	3	_____		
	4	_____		
	5	_____		
	6	_____		
	7	_____		
	8	_____		
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- ・ [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - AUDIT (変更表 - AUDIT)」パネル

パネルとフィールドの定義

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>U</u> tilities	<u>H</u> elp
FM/Db2 (DFG2)	Alter Table - AUDIT		
Table Identification:			
Owner	KPS8810_LONG		+
Name	VACT		+
Auditing Attribute:			
Select type of AUDIT			
- 1. NONE			
2. CHANGES			
3. ALL			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

親パネル

- ・ [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - DATA CAPTURE (変更表 - DATA CAPTURE)」パネル

パネルとフィールドの定義

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>U</u> tilities	<u>H</u> elp		
FM/Db2 (DFG2)	Alter Table - DATA CAPTURE				
Table Identification:					
Owner	KPS8810_LONG	+		
Name	VACT	+		
Additional Logging Attribute:					
Select type of DATA CAPTURE					
- 1. NONE					
- 2. CHANGES					
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - DROP CHECK Constraint (変更表 - DROP CHECK 制約)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	Alter Table - DROP CHECK Constraint				
Table Identification:					
Owner	KPS8810_LONG		+		
Name	VACT		+		
CHECK Constraint:					
Name			+		
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)
- [「Table Check Constraints \(表検査制約\)」パネル ページ 857](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - DROP FOREIGN KEY Constraint (変更表 - DROP FOREIGN KEY 制約)」パネル

パネルとフィールドの定義

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>U</u> tilities	<u>H</u> elp		
FM/Db2 (DFG2) Alter Table - DROP FOREIGN KEY Constraint					
Table Identification:					
Owner	KPS8810_LONG		+		
Name	VACT		+		
FOREIGN KEY Constraint:					
Name			+		
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - DROP PRIMARY KEY (変更表 - DROP PRIMARY KEY)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)			Alter Table - DROP PRIMARY KEY		
Table Identification:					
Owner	KPS8810_LONG	+		
Name	VACT	+		
DROP PRIMARY KEY					
Press ENTER to confirm.					
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- ・ [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - RESTRICT ON DROP (変更表 - RESTRICT ON DROP)」パネル

パネルとフィールドの定義

```
Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Alter Table - RESTRICT ON DROP

Table Identification:
  Owner . . . . . KPS8810_LONG  +
  Name  . . . . . VACT          +

ADD RESTRICT ON DROP

Press ENTER to confirm.

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Expand   F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F10=Left   F11=Right   F12=Cancel
```

親パネル

- ・ [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table - VALIDPROC (変更表 - VALIDPROC)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	Alter Table - VALIDPROC				
Table Identification:					
Owner	KPS8810_LONG		+		
Name	VACT		+		
Validation Procedure:					
Select type of VALIDPROC					
- 1. NULL					
- 2. Program name . . . _____					
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- ・ [「Alter Table \(表の変更\)」パネル ページ 468](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Alter Table Space (表スペースの変更)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	Alter Table Space				
Database name . . .	FMN2				
Table space name . .	SYSCOPY				
Partition	_____				
Primary quantity . .	_____	Buffer pool	BP0		
Secondary quantity .	_____	Close rule	NO		
Free page	_____	Erase rule	NO		
Percent free	_____	Lock size	ANY		
Storage group	_____ +	Lock max	_____		
VSAM catalog	_____	Lock part	_____		
Compress	_____	Max rows	255		
GBP Cache	_____	Log	_____		
Track mods	_____				
Use the SHOW primary command to display table space partition values, and the SAVE line command to copy the values to this panel.					
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- [「Table Spaces \(表スペース\)」パネル ページ 866](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」パネル

「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」パネルを使用して、Db2® カタログ内のパッケージをリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSPACKAGE の列が含まれています。

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)		Application Packages			Format <u>TABL</u>
Location:					
SEL	COLLID	NAME	CONTOKEX	OWNER	
----	*-----1-----2-----3-----4-----5-----	*-----1-----	*-----1-----	*-----	
****	Top of data	****			
----	DSNACCOR	DSNACCOR	177E87BE0FB21F55	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLIC1	177B36231891080D	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLIC2	177310CF0292F222	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLICS	177310CF02BC61C8	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLIF4	177310CF0240AD09	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLINC	177310D1041D2C84	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLIQR	177310D20B53A754	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLIRR	177310D40AF15976	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLIRS	177310D5100739C0	CJUNELL	
----	DSNAOCLI	DSNCLIUR	177310D817B309F9	CJUNELL	
----	DSNASPCC	DSNACOL8	177E85D60B2B32CD	CJUNELL	
Command ==>					Scroll <u>PAGE</u>
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2@catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747
- 「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル ページ 875
- 「Indexes (索引)」パネル ページ 724
- 「Application Plans (アプリケーション・プラン)」パネル ページ 483
- 「Collections (コレクション)」パネル ページ 491
- 「Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)」パネル ページ 843
- 「Triggers (トリガー)」パネル ページ 884

- [「Plan Table Rows \(プラン表行\)」](#) パネル ページ 752
- [「Statement Table Rows \(ステートメント表行\)」](#) パネル ページ 838

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Bind Package (パッケージのバインド)」 パネル ページ 490	行コマンド BI または CBI
「Package Dependencies (パッケージの従属関係)」 パネル ページ 751	行コマンド DEP
「Free Package (パッケージの解放)」 パネル ページ 710	行コマンド FRE
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
「Plan Table Rows (プラン表行)」 パネル ページ 752	行コマンド LPT
特権パネル ページ 764	行コマンド P
「Package List (パッケージ・リスト)」 パネル ページ 751	行コマンド PKL
「Application Plans (アプリケーション・プラン)」 パネル ページ 483	行コマンド PL
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
「Rebind Package (パッケージの再バインド)」 パネル ページ 768	行コマンド RBI
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Table Spaces (表スペース)」 パネル ページ 866	行コマンド S
(ISPF パネル)	行コマンド SQL
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド TB
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド V
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」 パネル ページ 480	行コマンド VER
「Indexes (索引)」 パネル ページ 724	行コマンド X
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Application Plans (アプリケーション・プラン)」パネル

「Application Plans (アプリケーション・プラン)」パネルを使用して、Db2® カタログの中のアプリケーション・プランをリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSPLAN の列が含まれています。

Process		Options		Utilities		Help	
FM/Db2 (DFG2)				Application Plans			
Location:				Format <u>TABL</u>			
SEL	NAME	CREATOR	VALIDAEX	ISOLATEX	VALIDEX	OPERATEX	
*	*	*	*	*	*	*	
----	#1-----	#2-----	#44-----	#45-----	1-----+	#46-----	#47-----
****	Top of data		****				
----	DSNACLI	CJUNELL	Run time	Repeatable read	Yes	Yes	
----	DSNEDCL	CJUNELL	Run time	Cursor stability	Yes	Yes	
----	DSNESPCL	CJUNELL	Run time	Cursor stability	Yes	Yes	
----	DSNESPRL	CJUNELL	Run time	Repeatable read	Yes	Yes	
----	DSNHYCRD	CJUNELL	Run time	Cursor stability	Yes	Yes	
----	DSNREXX	CJUNELL	Run time	Cursor stability	Yes	Yes	
----	DSNTEP81	CJUNELL	Run time	Cursor stability	Yes	Yes	
----	DSNTIA81	CJUNELL	Run time	Cursor stability	Yes	Yes	
----	DSNTP481	CJUNELL	Run time	Cursor stability	Yes	Yes	
----	DSNWZP	CJUNELL	Run time	Cursor stability	Yes	Yes	
----	FMN2GEN	SHRIKES	Bind time	Cursor stability	Yes	Yes	
Command ==>				Scroll <u>PAGE</u>			
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetrieval	F5=RFind	F6=RChange		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2® catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- [Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)] パネル ページ 747
- [Application Packages (アプリケーション・パッケージ)] パネル ページ 480
- [Collections (コレクション)] パネル ページ 491
- [Database Request Modules (データベース要求モジュール)] パネル ページ 614

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Bind Application Plan (アプリケーション・プランのバインド)] パネル ページ 490	行コマンド BI
[Free Application Plan (フリー・アプリケーション・プラン)] パネル ページ 709	行コマンド FRE
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
[Plan Table Rows (プラン表行)] パネル ページ 752	行コマンド LPT
[Database Request Modules (データベース要求モジュール)] パネル ページ 614	行コマンド M
特権パネル ページ 764	行コマンド P
[Application Packages (アプリケーション・パッケージ)] パネル ページ 480	行コマンド PKG
[Package List (パッケージ・リスト)] パネル ページ 751	行コマンド PKL
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
[Rebind Application Plan (アプリケーション・プランの再バインド)] パネル ページ 766	行コマンド RBI
[Display Row (表示行)] パネル ページ 644	行コマンド ROW
[Table Spaces (表スペース)] パネル ページ 866	行コマンド S
(ISPF パネル)	行コマンド SQL
[Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)] パネル ページ 875	行コマンド T
[Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)] パネル ページ 875	行コマンド V
[Indexes (索引)] パネル ページ 724	行コマンド X
[Sort Fields (ソート・フィールド)] パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- 処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316
- 行コマンド域 (Cmd) の使用法 ページ 323

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)」パネル

「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルでは、SELECT ステートメントをプロトタイプするための開始点として FROM 文節を構成するために使用される 表を最大で 15 まで指定できます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Basic SELECT Prototyping		
Enter the name(s) of the table(s) from which to retrieve data:			
	Owner	Name	
#1	DSN8810	+ EMP	+ Location _____
#2	DSN8810	+ EEMP	+ Database _____
#3		+ _____	+ Tbl spc. _____
#4		+ _____	+ _____
#5		+ _____	+ _____
#6		+ _____	+ _____
#7		+ _____	+ _____
#8		+ _____	+ _____
#9		+ _____	+ _____
#10		+ _____	+ _____
#11		+ _____	+ _____
#12		+ _____	+ _____
#13		+ _____	+ _____
#14		+ _____	+ _____
#15		+ _____	+ _____
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F5=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

Owner (所有者)

このフィールドはオプションです。指定した場合、このフィールドは、同じ行の「Name (名前)」フィールドを修飾するために使用されます。省略した場合、現行 SQL ID が使用されます。

Name (名前)

このフィールドは必須です。処理する表の名前を指定します。

Location (場所)

このフィールドはオプションです。指定した場合、このフィールドは、「Owner (所有者)」フィールドと「Name (名前)」フィールドに入力されたすべての表を修飾するために使用されます。省略した場合、現在場所が使用されます。

Database (データベース)

このフィールドはオプションです。指定した場合、「Owner (所有者)」フィールドと「Name (名前)」フィールドに入力されたすべての表が、指定されたデータベースに存在していなければなりません。省略した場合、表は、指定された位置かデフォルト位置にある、任意のデータベースに存在することができます。

Table space (表スペース)

このフィールドはオプションです。指定した場合、「Owner (所有者)」フィールドと「Name (名前)」フィールドに入力されたすべての表が、指定された表スペースに存在していなければなりません。省略した場合、表は、指定された位置かデフォルト位置にある、任意の表スペースに存在することができますが、データベース仕様によっては、何らかの制限が課せられる場合があります。

1次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルに表名を指定した後に、Enter キーを押して、2次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルを表示します。

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
FM/Db2  (DFG2)          Basic SELECT Prototyping          Row 1 of 19

SELECT ?
FROM ?
WHERE ?
ORDER BY ?

Row count  ALL          Number of rows to display

Select columns (S/A/D) or enter predicates to build the SELECT statement:

S  LOp ( Tab Column Name  Data Type(length)  Op Value  )
-  - - - - #1 EMPNO             CHAR(6)             - - - - -
-  - - - - #1 FIRSTNME          VARCHAR(12)         - - - - -
-  - - - - #1 MIDINIT           CHAR(1)             - - - - -
-  - - - - #1 LASTNAME           VARCHAR(15)         - - - - -
-  - - - - #1 WORKDEPT           CHAR(3)             - - - - -
-  - - - - #1 PHONENO            CHAR(4)             - - - - -
-  - - - - #1 HIREDATE           DATE(4)             - - - - -
-  - - - - #1 JOB                 CHAR(8)             - - - - -
-  - - - - #1 EDLEVEL            SMALLINT(2)         - - - - -
-  - - - - #1 SEX                 CHAR(1)             - - - - -
-  - - - - #1 BIRTHDATE          DATE(4)             - - - - -
-  - - - - #1 SALARY              DECIMAL(9,2)        - - - - -
-  - - - - #1 BONUS              DECIMAL(9,2)        - - - - -
-  - - - - #1 COMM               DECIMAL(9,2)        - - - - -
-  - - - - #2 DEPTNO            CHAR(3)             - - - - -
-  - - - - #2 DEPTNAME          VARCHAR(36)         - - - - -
-  - - - - #2 MGRNO              CHAR(6)             - - - - -
-  - - - - #2 ADMRDEPT           CHAR(3)             - - - - -
-  - - - - #2 LOCATION           CHAR(16)            - - - - -
-  - - - - **** End of data ****

Command ==> ----- Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Expand    F6=Execute   F7=Backward
F8=Forward   F9=Swap       F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
    
```

Row count (行カウント)

このフィールドに以下を制御する番号を入力します。

- SQL ステートメントが実行される際に結果セットに戻される行数。0 を指定するとすべての対象となる行が戻されます。「n」(n>0 の場合) を指定すると、返される行数は以下の行数に制限されます。n 行または結果表の行数。
- 実行の前に、「OPTIMIZE FOR n ROWS」文節を追加するかどうか、SQL ステートメントに追加されます。「n」(n>0 の場合) を指定すると、実行の前に「OPTIMIZE FOR n ROWS」を SQL ステートメントに追加します。「0」を指定しても「OPTIMIZE FOR n ROWS」を SQL ステートメントに追加しません。ゼロ以外の値を指定することで、SQL ステートメントの実行時の DB2 のリソースの使用を改善できます。

S

その行の列について以下の値の 1 つを指定できる選択列。

S

選択。列名を SELECT 文節の列リストに追加します。

A

昇順に選択。列名を SELECT 文節の列リストに追加し、キーワード「ASC」をもつ列名を ORDER BY 文節の列リストに追加します。

D

降順に選択。列名を SELECT 文節の列リストに追加し、キーワード「DESC」をもつ列名を ORDER BY 文節の列リストに追加します。

LOp

新規述部を直前の述部に結合する論理演算子。その行の列には以下の値のいずれか 1 つを指定できます。

AND (デフォルトの演算子)

OR

NOT (“AND NOT” と同等)

NOR (“OR NOT” と同等)

(

WHERE 文節に追加された述部の先頭に左括弧を挿入します。この列の述部が他の (括弧で囲まれていない) 述部の前に必ず評価されるように、左括弧は右括弧と一緒に使用してください。

Tab (タブ)

この行の列が入っている表の関連名。これは情報専用フィールドです。

Column name (列名)

Db2® カタログで保持されている通りの列の名前。これは情報専用フィールドです。

Data Type (length) (データ・タイプ (長さ))

列の Db2® データ・タイプとその長さ、あるいは数値の精度およびスケール。これは情報専用フィールドです。

Op (演算子)

式演算子。その行の列には以下の値のいずれか 1 つを指定できます。

=

等しい。これはデフォルトの演算子です。

<>

等しくない。

>

より大きい。

<

より小さい。

>=

以上。

<=

以下。

IN

set で、列の値が指定された値のセット (「**Value (値)**」フィールドで指定されます) の中にあれば、この式の結果は真です。IN 式演算子は、WHERE 文節の中に述部 IN *set* を生成します。

NI

Not in *set* 列の値が指定された値のセット (「**Value (値)**」フィールドで指定されます) の中になければ、この式の結果は真です。NI 式演算子は、WHERE 文節の中に述部 NOT IN *set* を生成します。

LI

Like *pattern* 列の値がパターン (「**Value (値)**」フィールドで指定されます) と一致すれば、この式の結果は真です。LI 式演算子は、WHERE 文節の中に述部 LIKE *pattern* を生成します。

NL

Not like *pattern* 列の値がパターン (「**Value (値)**」フィールドで指定されます) と一致しなければ、この式の結果は真です。NL 式演算子は、WHERE 文節の中に述部 NOT LIKE *pattern* を生成します。

Value (値)

式演算子 (「**Op (演算子)**」フィールドで指定されます) で使用する値。

入力するデータの形式は、式演算子によって異なります。

• 式演算子 =、<>、>、<、>=、<= の場合:

- 英数字データ・タイプの列の場合には、文字ストリングを指定し、オプションにより引用符で囲みます。ストリングを引用符で囲まない場合には、FM/Db2 は生成された述部を WHEN 文節に追加するときに、ストリングの前後に自動的に引用符を追加します。

例:

```
SMITH
'SMITH'
SALES REP
'SALES REP'
```

- 数値データ・タイプの列の場合には、数値を指定します。

例:

```
500
33.75
0
```

- また、列名を値として指定することもできます。列名は相関名で修飾されていなければなりません。

例:

```
#1.WORKDEPT
#2.BONUS
```



注: 「#」で始まるストリングを入力する場合には、そのストリングを引用符で囲む必要があります。

• 式演算子 IN および NI の場合:

- 英数字データ・タイプの列の場合には、文字ストリングのリストを指定します。各文字ストリングを引用符で囲み、コンマで区切る必要があります。

例:

```
'SMITH', 'JONES', 'BROWN'
'ANALYST', 'DESIGNER', 'OPERATOR', 'MANAGER'
```

- 数値データ・タイプの列の場合には、数値のリストを指定します。それぞれの値はコンマで区切ることが必要であり、オプションで1つ以上のスペースが入れられます。

例:

```
101,102,103
45.5, 50.0, 65.5
```

- また、列名のリストを指定することもできます。それぞれの列名は、相関名で修飾され、コンマで区切られていなければなりません。例:

```
#1.ACCT,#1PROD,#2MAINT
#1.BONUS, #2.BONUS
```

• 式演算子 LI の場合:

- パターンを (文字ストリングとして) 指定し、オプションにより引用符で囲みます。



注: パターンは、英数字データ・タイプの列の場合にのみ指定できます。

ストリングを引用符で囲まない場合には、FM/Db2 は生成された述部を WHEN 文節に追加するときに、パターンの前後に自動的に引用符を追加します。

パターンには、単一文字を表す下線 (_) あるいは1つ以上のストリングを表すパーセント記号 (%) を含めることができます。

以下のすべての例で、ストリング「SMITH」が見つかります。

```
'SMITH'  
SMI  
'SM%'  
SMI
```

- 列名を値として指定します。列名は相関名で修飾されていなければなりません。

例:

```
#1.SEX  
#1.WORKDEPT
```

)

WHERE 文節に追加された述部の終わりに右括弧を挿入します。この列の述部が他の (括弧で囲まれていない) 述部の前に必ず評価されるように、左括弧と一緒に使用してください。

親パネル

- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」パネル ページ 875](#)
- [「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Select Statement Browse (選択ステートメントのブラウズ)」パネル ページ 811	Enter キーを押す

関連するタスク

- [基本 SQL プロトタイピングの使用 ページ 402](#)

関連する参照先

- [ALL 基本コマンド ページ 902](#)
- [CANCEL 基本コマンド ページ 905](#)
- [EXECUTE 基本コマンド ページ 925](#)
- [RESET 基本コマンド ページ 966](#)
- [SQL 基本コマンド ページ 975](#)
- [UNDO 基本コマンド ページ 978](#)

「Bind Application Plan (アプリケーション・プランのバインド)」パネル

[「Application Plans \(アプリケーション・プラン\)」パネル ページ 483](#) にリストされた項目に対して BI 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Bind Application Plan (アプリケーション・プランのバインド)」パネルを表示します。

「Bind Package (パッケージのバインド)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して BI または CBI 行コマンドを使用すると、[「Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)」](#) パネル ページ 480 は「Bind Package (パッケージのバインド)」パネルを表示します。

「Children of Table (表の子)」 パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して CHR 行コマンドを使用すると、[「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) パネル ページ 875 は「Children of Table (表の子)」パネルを表示します。

「Collections (コレクション)」 パネル

コレクション・パネル・リストは、Db2® カタログのコレクションをリストするために使用します。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSPACKAGES の列が含まれています。

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Collections	
Location:		Format <u>TABL</u>	
SEL	COLLID	PKG COUNT	
----	*-----*	-----*	
----	#2---+-----1-----#4	-----#4	
****	Top of data	****	
----	DSNACCOR	1	
----	DSNAOCLI	9	
----	DSNASPCC	12	
----	DSNEDCL	1	
----	DSNESPCS	1	
----	DSNESPRR	1	
----	DSNESPRR\$\$\$\$\$\$\$\$	1	
----	DSNHYCRD	1	
----	DSNJAR	8	
----	DSNREXCS	1	
----	DSNREXRR	1	
Command ==>		Scroll <u>PAGE</u>	
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F5=RFind
		F10=Left	F6=RChange
		F11=Right	F12=Cancel



注:

1. システム・オプション **「Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)」** は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “*Db2@catalog tables* (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- [「Object List Utility \(オブジェクト・リスト・ユーティリティ\)」パネル ページ 747](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
特権パネル ページ 764	行コマンド P
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」パネル ページ 480	行コマンド PKG
「Package List (パッケージ・リスト)」パネル ページ 751	行コマンド PKL
「Application Plans (アプリケーション・プラン)」パネル ページ 483	行コマンド PL
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
「Display Row (表示行)」パネル ページ 644	行コマンド ROW
(ISPF パネル)	行コマンド SQL
「Sort Fields (ソート・フィールド)」パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Column Attributes (列属性)」パネル (英数字)

「Column Attributes (列属性)」パネル (英数字) は、英数字列の形式 およびデータ作成属性を記述します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Column Attributes	
Fixed Attributes:			
Column name	LASTNAME		
Type	VARCHAR(15)		
Use Attributes:			
Heading	_____		
Output width	_____		
Create Attributes:			
Filler	_____		
Action	_____		
Start character	_____		
Pattern	_____		
Repeat user pattern	_____ YES or NO		
Scrambling Options:			
Scramble Type	Enter "/" to select option		
1. Random	Value	Column In	Out
2. Repeatable Dsn	_____		
3. Translate	_____		
4. Exit	Col	Command	
5. ODPP	1	_____ +	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Column name (列名)

列の名前。

タイプ

列の Db2® データ・タイプ。

Heading (見出し)

代替の列見出し。

Output width (出力幅)

表示、編集、ブラウズ、および印刷の各機能で、TABL 表示または印刷形式で列を表示するために使用する文字桁数です。

Filler (充てん文字)

列の作成時に、操作が加えられる前に、列の各バイトに置かれる値です。デフォルト値はブランク文字です。

char

指定した文字 (例えば [0]) が各バイトに書き込まれます。

X'cc'

指定した 16 進値 (例えば X'FF') が各バイトに書き込まれます。

Action (アクション)

この列は、それぞれの行ごとに、列の内容をどのように変更するのかを設定します。デフォルトのアクションは FX です。

FX

列の内容は固定されます。

RA

列の内容は、指定されたパターンからランダムに選択された文字から生成されます。レコードごとに異なる文字セットが選択されます。

RO

列の内容はロールされます。指定されたパターンの最初の非ブランク文字が列の最初のバイトになるまで、そのパターンが行ごとに1バイトずつ左にシフトされます。次に、出力行について、列の元の位置に戻るまでパターンを右に1バイトずつシフトします。RO は、ユーザー提供のパターンにのみ使用可能であり、IBM® 提供のパターンには使用できません (後出の『**Pattern (パターン)**』の説明を参照)。

RP

列の内容はリップルされます。各行で、指定されたパターンが1バイト左にシフトされ、切り捨てられた文字はパターンの右端に付加されます。

SL

各行に対して、列の内容は左方シフトされます。指定のパターンが左に1文字だけシフトされて、右側にスペースが埋められます。パターンのすべての文字がシフトアウトされると、元のパターンが復元され、処理が繰り返されます。

SR

各行に対して、列の内容は右方シフトされます。指定のパターンが右に1文字だけシフトされて、左側にスペースが埋められます。パターンのすべての文字がシフトアウトされると、元のパターンが復元され、処理が繰り返されます。

TL

各行に対して、列の内容は左側が切り捨てられます。指定のパターンのすべての文字が切り捨てられるまで、一度に1文字だけ左側で切り捨てられます (左端の文字がスペースに置き換えられます)。次に、元のパターンが復元されて、処理が繰り返されます。

TR

各行に対して、列の内容は右側が切り捨てられます。指定のパターンのすべての文字が切り捨てられるまで、一度に1文字だけ右側で切り捨てられます (右端の文字がスペースに置き換えられます)。次に、元のパターンが復元されて、処理が繰り返されます。

WV

列の内容はウェーブされます。指定されたパターンの最初の非ブランク文字が列の最初のバイトになるまで、そのパターンが行ごとに1バイトずつ左にシフトされます。次に、元のパターンが復元されて、処理が繰り返されます。WV は、ユーザー提供のパターンにのみ使用可能であり、IBM® 提供のパターンには使用できません (後出の『**Pattern (パターン)**』の説明を参照)。

Start character (開始文字)

IBM® 提供のパターン (AL、AN、または CO) を指定するときに使用する開始文字です。指定する文字は、IBM® 提供のパターンにある文字の1つでなければなりません。デフォルトの開始文字は、IBM® 提供のパターンの先頭文字です。

Pattern (パターン)

この列のデータを作成するときに使用されるパターンです。IBM® 提供のパターン標識か、またはユーザー提供のパターンを含む引用符で囲まれたストリングのいずれかを指定することができます。指定できる IBM® 提供のパターンは、以下のとおりです。

AL

英字。A から Z の文字。

AN

英数字 A から Z、0 から 9 の文字。

CO

照合シーケンス。X'40' から X'F9' の範囲内にあるすべての印刷可能文字。

RA と RP 以外のアクションで、列より長いユーザー提供パターンを指定すると、まず、パターンの右側が受け入れ列に合わせて切り捨てられた後、指定したアクションが実行されます。RA アクションの場合は、ユーザー提供パターン全体から文字がランダムに選択されます。RP アクションの場合は、各行に対して、パターン全体がリップルされた後、受け入れ列に合わせて切り捨てられます。

列より短いユーザー提供パターンを指定する場合は、パターンを繰り返して列を埋めるように指定できます。

Repeat user pattern (ユーザー・パターンの繰り返し)

受け入れ列より短いユーザー提供パターンを指定している場合は、「YES」を指定します。このオプションは、RA アクションを指定しているときには無効です。デフォルト値は NO です。

NO

充てん文字を使用して、受け入れ列を埋めます。

YES

提供されるパターンを必要な回数だけ繰り返して、受け入れ列を埋めます。



注: IBM® 提供のパターンは、常に必要なだけ列内で繰り返されます。

Scrambling Options (スクランブル・オプション)

これらのオプションは、テスト・データを作成するためにコピー、インポート、またはエクスポート機能中に使用される列のスクランブルを制御します。

Scramble Type (スクランブル・タイプ)

以下のいずれかの値を指定してください。

空白

スクランブルは実行されません。値または範囲の指定は保管されますが、関連機能では無視されます。

1 (Random (ランダム))

ランダム・スクランブルを実行します。入力値が同じでも、後続の呼び出しでは異なる出力値が生成されます。

2 (Repeatable (反復可能))

反復可能スクランブルを実行します。入力値が同じ場合、後続の呼び出しでは同じ出力値が生成されます。

3 (Translate (変換))

変換を実行します。値データ・セットが検索され、一致する入力値が検出されません。一致する値が検出されると、出力値はその一致したレコードの出力列から取得されます。

4 (Exit (終了))

スクランブル・ユーザー出口を開始します。FM/Db2 は、ユーザー出口名、およびユーザー出口パラメーター、オプションを指定できるパネルを表示します。

5 (ODPP)

隣接コマンド・フィールドに指定された ODPP コマンドを使用して、データのスクランブルを実行します。これは、Optim™ Data Privacy Provider コマンド入力域です。「Col (列)」フィールドは、左列の位置を示します。これは構文エラーが発生したときに、エラー列の位置を特定するために使用できます。コマンド構文については、「ODPP 構文ガイド」を参照してください。

ODPP コマンドは、スクロール可能フィールドです。左右にスクロールするには、F10 キーと F11 キーを使用します。コマンドを別のウィンドウに展開するには、F4 キーを使用します。このオプションは、ODPP にアクセスできるよう File Manager がカスタマイズされていて、環境が正常に初期化されている場合のみ有効です。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

親パネル

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [テンプレートの編集 ページ 252](#)
- [列属性の変更 ページ 104](#)
- [英数字列の属性の変更 ページ 105](#)

「Column Attributes (列属性)」パネル (DATE)

「Column Attributes (列属性)」パネル (DATE) は、DATE 列の形式 およびデータ作成属性を記述します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Column Attributes		
Fixed Attributes:			
Column name	BIRTHDATE		
Type	DATE		
Format	dd.mm.yyyy		
Use Attributes:			
Heading	_____		
Output width	_____		
Create Attributes:			
Date value	_____ (Use = for date now, * for runtime date)		
Increment	0_____		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	F7=Backward F8=Forward

Column name (列名)

列の名前。

Type (タイプ)

列の Db2® データ・タイプ。

Format (フォーマット)

日付が表示または印刷される形式。

Heading (見出し)

代替の列見出し。

Output width (出力幅)

表示、編集、および印刷の各機能で、TABL 表示または印刷形式で列を表示するために使用する文字桁数です。

Date value (日付値)

列に入れる初期値。有効な値は以下のとおりです。

start date

有効な Db2® またはローカル形式の日付。

*** (アスタリスク)**

データが作成される日付。Db2® インストール日付形式が LOCAL である場合は無効です。

=

現在日付。Db2® インストール日付形式が LOCAL である場合は無効です。

Increment (増分)

サイクルごとに日付に加算する日数を表す整数。

デフォルトの増分値は 0 です。

親パネル

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [テンプレートの編集 ページ 252](#)
- [列属性の変更 ページ 104](#)
- [表 25: 日付および時刻のフィールド形式 ページ 454](#)

「Column Attributes (列属性)」パネル (数値)

「Column Attributes (列属性)」パネル (数値) は、数値列の形式 およびデータ作成属性を記述します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Column Attributes

Fixed Attributes:
  Column name  SALARY
  Type        DECIMAL(9,2)

Use Attributes:
  Heading     _____
  Output width _____
  Leading zeros NO          YES or NO

Create Attributes:
  Start value  _____
  End value    _____
  Increment    _____
  Cycle        _____

Scrambling Options:
Scramble Type  Enter "/" to select option
_ 1. Random    _ Value   Column In _____ Out _____
_ 2. Repeatable Dsn _____
_ 3. Translate
_ 4. Exit      Col   Command
_ 5. ODPP      _     _____

Command ==>
F1=Help      F2=Split   F3=Exit    F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions F12=Cancel
    
```

Column name (列名)

列の名前。

タイプ

列の Db2® データ・タイプ。

Heading (見出し)

代替の列見出し。

Output width (出力幅)

表示、編集、および印刷の各機能で、TABL 表示または印刷形式で列を表示するために使用する文字桁数です。

Leading zeros (先行ゼロ)

このフィールドを SNGL または TABL 表示または印刷形式で表示または印刷するときに、先行ゼロを表示するかどうかを指定します。先行ゼロを表示したい場合は、YES を指定します。先行ゼロを空白で置き換えた場合は、NO を指定します。

Start value (開始値)

指定された増分で調整される前に、列に設定される初期値です。この値は、列が、データの切り捨てまたは逸失なしに保持できる数値でなければなりません。この値は、必要に応じて、適切な数値データ・タイプに変換されます。小数位を含む列の場合、指定する値は、列定義が指定する桁を超える小数位を含むことはできません。負の数を指定する場合、列が符号なしであっても、その符号は有効です。列が浮動小数点列の場合、開始値は、仮数と指数部で構成される浮動小数点数 (-1.14579E01 など) として指定できます。仮数は、オプションの符号 (+ または -) と、それに続く 1 から 16 桁の数字で構成されます。仮数は小数点を含むこともできます。指数部は、文字 E、オプションの符号 (+ または 0)、および 1 から 2 桁の数字で構成されます。

デフォルト値は 0 です。

End value (終了値)

列に入る最大値 (増分が正数の場合) または最小値 (増分が負数の場合) です。この値は、列が、データの切り捨てまたは逸失なしに保持できる数値でなければなりません。この値は、必要に応じて、適切な数値データ・タイプに変換されます。小数位を含む列の場合、指定する値は、列定義が指定する桁を超える小数位を含むことはできません。負の数を指定する場合、列が符号なしであっても、その符号は有効です。列が浮動小数点列の場合、終了値は、仮数と指数部で構成される浮動小数点数 (-1.14579E01 など) として指定できます。仮数は、オプションの符号 (+ または -) と、それに続く 1 から 16 桁の数字で構成されます。仮数は小数点を含むこともできます。指数部は、文字 E、オプションの符号 (+ または 0)、および 1 から 2 桁の数字で構成されます。

デフォルトの終了値は、列に入れることができる正数または負数の最大値です。

Increment (増分)

正数または負数。これによって、各行 (または行のサイクル) に対して、列の値が調整されます。増分値は、列が、データの切り捨てまたは逸失なしに保持できる数値でなければなりません。増分値は、必要に応じて、適切な数値データ・タイプに変換されます。小数位を含む列の場合、指定する値は、列定義が指定する桁を超え

る小数位を含むことはできません。列が浮動小数点列の場合、増分値は、仮数と指数部で構成される浮動小数点数 (-1.14579E01 など) として指定できます。仮数は、オプションの符号 (+ または -) と、それに続く 1 から 16 桁の数字で構成されます。仮数は小数点を含むこともできます。指数部は、文字 E、オプションの符号 (+ または 0)、および 1 から 2 桁の数字で構成されます。

最初の行 (または行のサイクル) については、列は、指定した開始値に設定されます。それ以降の各行 (または行のサイクル) については、列の値に増分値が加算されます。このプロセスは、列の計算値が、指定した終了値を超えない限り続行されます。つまり、計算値が、増分が正数の場合には終了値以下、増分が負数の場合には終了値以上である限り、続行されます。終了値を超えると、それ以降のすべての行については、列の値は変更されません。

増分値がゼロの場合、列の値は、常に開始値に設定されたままです。

デフォルトの増分は 0 です。

Cycle (サイクル)

増分値を列値に適用する前に生成される、出力行の数です。例えば、列の開始値に 100、増分値に 10、およびサイクル値に 3 を指定した場合、列の値は、最初の 3 行は 100、次の 3 行は 110、その次の 3 行は 120 となります。

サイクルがゼロの場合、列の値は、常に開始値に設定されたままです。

デフォルトのサイクルは 1 です。

Scrambling Options (スクランブル・オプション)

これらのオプションは、テスト・データを作成するためにコピー、インポート、またはエクスポート機能中に使用される列のスクランブルを制御します。

Scramble Type (スクランブル・タイプ)

以下のいずれかの値を指定してください。

空白

スクランブルは実行されません。値または範囲の指定は保管されますが、関連機能では無視されます。

1 (Random (ランダム))

ランダム・スクランブルを実行します。入力値が同じでも、後続の呼び出しでは異なる出力値が生成されます。

2 (Repeatable (反復可能))

反復可能スクランブルを実行します。入力値が同じ場合、後続の呼び出しでは同じ出力値が生成されます。

3 (Translate (変換))

変換を実行します。値データ・セットが検索され、一致する入力値が検出されます。一致する値が検出されると、出力値はその一致したレコードの出力列から取得されます。

4 (Exit (終了))

スクランブル・ユーザー出口を開始します。FM/Db2 は、ユーザー出口名、およびユーザー出口パラメーター、オプションを指定できるパネルを表示します。

5 (ODPP)

隣接コマンド・フィールドに指定された ODPP コマンドを使用して、データのスクランブルを実行します。これは、Optim™ Data Privacy Provider **コマンド**入力域です。「**Col (列)**」フィールドは、左列の位置を示します。これは構文エラーが発生したときに、エラー列の位置を特定するために使用できます。コマンド構文については、「ODPP 構文ガイド」を参照してください。

ODPP コマンドは、スクロール可能フィールドです。左右にスクロールするには、F10 キーと F11 キーを使用します。コマンドを別のウィンドウに展開するには、F4 キーを使用します。このオプションは、ODPP にアクセスできるよう File Manager がカスタマイズされていて、環境が正常に初期化されている場合のみ有効です。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。



注: 数値列では、「**Leading zeros (先行ゼロ)**」を「YES」に設定すると、ランダム・スクランブルまたは反復可能スクランブル(「**Value (値)**」オプションはブランク)が要求された場合に、先行ゼロがスクランブルされます。

例:

- 「**Leading zeros (先行ゼロ)**」を「YES (はい)」に設定した場合、00123 により 56872 が生成されることがあります (ゼロが変更されます)。
- 「**Leading zeros (先行ゼロ)**」を「NO (いいえ)」に設定した場合、00123 により 00343 が生成されることがあります (ゼロは変更されません)。

反復可能スクランブルの場合、「**Leading zeros (先行ゼロ)**」を「YES (はい)」に設定すると、固有の結果が生成されます。

親パネル

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [テンプレートの編集 ページ 252](#)
- [列属性の変更 ページ 104](#)
- [数値列の属性の変更 ページ 106](#)

「Column Attributes (列属性)」パネル (TIME)

「Column Attributes (列属性)」パネル (TIME) は、TIME 列の形式 およびデータ作成属性を記述します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Column Attributes
Fixed Attributes:			
Column name	COL9_TIME		
Type	TIME		
Format	hh.mm AM or PM		
Use Attributes:			
Heading	_____		
Output width	_____		
Create Attributes:			
Time value	_____		(Use = for time now, * for runtime time)
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Column name (列名)

列の名前。

Type (タイプ)

列の Db2® データ・タイプ。

Format (フォーマット)

時刻が表示または印刷される形式。

Heading (見出し)

代替の列見出し。

Output width (出力幅)

表示、編集、および印刷の各機能で、TABL 表示または印刷形式で列を表示するために使用する文字桁数です。

Time value (時刻値)

列に入れる初期値。有効な値は以下のとおりです。

start time

有効な Db2® またはローカル形式の時刻。

*** (アスタリスク)**

データが作成される時刻。Db2® インストール時刻形式が LOCAL である場合は無効です。

=

現在時刻。Db2® インストール時刻形式が LOCAL である場合は無効です。

親パネル

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [テンプレートの編集 ページ 252](#)
- [列属性の変更 ページ 104](#)
- [表 25: 日付および時刻のフィールド形式 ページ 454](#)

「Column Attributes (列属性)」パネル (TIMESTAMP)

「Column Attributes (列属性)」パネル (TIMESTAMP) は、TIMESTAMP 列の形式 およびデータ作成属性を記述します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Column Attributes	
Fixed Attributes:			
Column name	TSTAMP		
Type	TIMESTAMP (3) WITH TIME ZONE		
Format	CCYY-MM-DD-HH.MM.SS.NNNsHH:MM		
Use Attributes:			
Heading	_____		
Output width	_____		
Create Attributes:			
Timestamp value	_____		
	(Use = for timestamp now, * for runtime timestamp)		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

この例は、`TIMESTAMP(3) WITH TIME ZONE` として定義された列を示しています。異なる `TIMESTAMP` データ・タイプを持つ列の場合、「Type」値および「Format」は異なります。

Column name (列名)

列の名前。

Type (タイプ)

列の Db2® データ・タイプ。

Format (フォーマット)

タイム・スタンプが表示または印刷される形式。

Heading (見出し)

代替の列見出し。

Output width (出力幅)

表示、編集、および印刷の各機能で、TABL 表示または印刷形式で列を表示するために使用する文字桁数です。

Timestamp value (タイム・スタンプ値)

列に入れる初期値。有効な値は以下のとおりです。

start timestamp

Db2® タイム・スタンプ形式のタイム・スタンプ。

*** (アスタリスク)**

データが作成される日付と時刻。

=

現在の日付と時刻。

親パネル

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [テンプレートの編集 ページ 252](#)
- [列属性の変更 ページ 104](#)

関連する参照先

- Db2 データ型 ページ 452

「Column Distribution (列の配分)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して CDI 行コマンドを使用すると、「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル ページ 875 は「Column Distribution (列の配分)」パネルを表示します。

「Column Part Statistics (列部分の統計)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して PST 行コマンドを使用すると、「Columns (列)」パネル ページ 510 は「Column Part Statistics (列部分の統計)」パネルを表示します。

「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル

「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルを使用して、テンプレートを編集します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Column Selection/Edit	Line 1 of 16
TABLE FMUSER.EMP			
----- Row Selection Criteria ---- (Use SQL/PF4 for full screen edit) -----			
1 Sel: _____ +			
Cmd Seq	SHEX CL#	Column name	Data type(length) Null Default Order A/D
		**** Top of data ****	
___ S	1	EMPNO	CHARACTER(6) None ___ -
___ S	2	FIRSTNME	VARCHAR(12) None ___ -
___ S	3	MIDINIT	CHARACTER(1) None ___ -
___ S	4	LASTNAME	VARCHAR(15) None ___ -
___ S	5	WORKDEPT	CHARACTER(3) Y Null ___ -
___ S	6	PHONENO	CHARACTER(4) Y Null ___ -
___ S	7	HIREDATE	DATE Y Null ___ -
___ S	8	JOB	CHARACTER(8) Y Null ___ -
___ S	9	EDLEVEL	SMALLINT Y Null ___ -
___ S	10	SEX	CHARACTER(1) Y Null ___ -
___ S	11	BIRTHDATE	DATE Y Null ___ -
___ S	12	SALARY	DECIMAL(9,2) Y Null ___ -
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=SQL F5=RFind F6=RunTemp
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left F11=Right F12=Cancel

オブジェクト・タイプと名前

オブジェクト・タイプ (TABLE または VIEW) および処理対象の Db2® オブジェクトの名前。

Row Selection Criteria (行選択基準)

Db2® から選択される行を制限する、フリー・フォームの SQL WHERE 文節または式を入力できるフィールド。

テンプレートに既に行選択基準が含まれている場合は、FM/Db2 は、対応する WHERE 文節をこのフィールドに表示します。

Cmd (コマンド)

テンプレート・エディター接頭部コマンドを入力するための接頭部コマンド域。

S, SS, Sn, S*

列の選択 (または選択解除)。

H, HH, Hn

列の保持 (または解放)。

E

列の属性の変更。

X

LHEX の文字列のデータを表示しています。Binary 列と Varbinary 列のデータは、デフォルトでは LHEX で表示されます。

Seq

File Manager/Db2 エディター・セッションでの列の表示順序番号で、次のいずれかを示します。

- 表示される列の順序を変更するために入力された順序番号。
- **[Cmd]** 接頭部入力域に入力されている「保持」テンプレート・エディター接頭部コマンド (H、HH、または Hn) の結果として FM/Db2 により生成された順序番号。

S

列選択標識。アスタリスク (*) は列が選択されたことを示します。選択された列のみが File Manager/Db2 エディター・セッションに表示されます。

H

列保持標識。“H” は列が保持されていることを示します。

TABL モードでは、保持列は File Manager/Db2 エディター・セッションで左端列として表示され、左方または右方へのスクロールには影響されません。SNGL モードでは、保持列はエディター・セッションで最上位列として表示され、上方または下方へのスクロールには影響されません。

E

データ編集標識。“E” は、データ作成、列見出し、スクランブル・オプションなどの情報を追加するために、列が以前に編集されたことがあることを示しています。

X

LHEX 標識。“X” は、列のデータが LHEX (長い 16 進) 形式で表示されていることを示します。

Cl#

Db2® カタログに定義されたとおりの列番号。以下のいずれかが真でない場合は、列番号は Db2® の列番号を表します。

- 列は生成された列である
- 列は、結果表を作成するときに使用する SELECT ステートメントで指定される最初の表の列でない

これらの条件のいずれかが真である場合、SELECT ステートメントに指定される最初の Db2® オブジェクトの指定された列のすべてについて、列番号は最大 Db2® 列番号より大きい番号になります。

Column name (列名)

列の名前。

Data type(length) (データ・タイプ (長さ))

列の Db2® データ・タイプ (およびオプションで長さ)。

Null (ヌル)

列がヌル可能として定義されるかどうかを示します。

Y

ヌル可能列。

(空白)

Db2® ヌル値は許可されません。

Default (デフォルト)

列のデフォルト値情報。

Always (常に)

generated always 属性を使用して定義される ROWID か ID のいずれかの列。

Default (デフォルト)

generated by default 属性を使用して定義される ROWID か ID のいずれかの列。

なし

列のデフォルト値はありません。

Null (ヌル)

デフォルト値は Db2® ヌル値です。

On type (タイプ別)

列には列のデータ・タイプに応じてデフォルト値が入ります。

データ型**デフォルト値**

数字

0

固定長文字データ・タイプ

ブランク

可変長データ・タイプ

長さ 0 のストリング

DATE

Current® 日付

TIME

Current® 時刻

TIMESTAMP

Current® 日時

On value (値別)

この列には、SYSIBM.SYSCOLUMNS カタログ表の DEFAULTVALUE 列に定義されたデフォルト値が入ります。

SQLID

デフォルト値は、デフォルト値が使用されるとき、処理の SQL 許可 ID の値です。

USER

デフォルト値が使用されるとき、USER 特殊レジスタ値であるデフォルト値が入ります。

Order (順序)

データを Db2® から取得するときに、データ値に基づいてデータの配列方法を指示するオプションの順序番号。

A/D

ソート順序標識。これは、配列の順序番号 (「Order (順序)」) も指定した場合にのみ指定することができます。

A

昇順

D

降順

親パネル

- [Db2 \[View \(表示\)\] パネル ページ 639](#)
- [\[Db2 Edit \(編集\)\] パネル ページ 622](#)
- [\[Print Utility \(印刷ユーティリティ\)\] パネル ページ 760](#)

- 「Copy Utility ("From") (コピー・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 518
- 「Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 698
- 「Data Create Utility (データ作成ユーティリティー)」 パネル ページ 610

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Table View (表表示)」 パネル ページ 868	親パネル「Db2@ View (表示)」で F3 を押す
Db2 「View (表示)」 パネル ページ 639	親パネル「Db2@ View (表示)」で F12 を押す
「Table Edit (表編集)」 パネル ページ 857	親パネル「Db2@ Edit (編集)」で F3 を押す
「Db2 Edit (編集)」 パネル ページ 622	親パネル「Db2@ Edit (編集)」で F12 を押す
「Table Browse (表ブラウズ)」 パネル ページ 855	親パネル「Db2@ Browse (ブラウズ)」で F3 を押す
Db2 「Browse (ブラウズ)」 パネル ページ 618	親パネル「Db2@ Browse (ブラウズ)」で F12 を押す
「Template Save (テンプレートの保管)」 パネル ページ 883	F3 を押す
「Db2 Template Description (テンプレート記述)」 パネル ページ 633	基本コマンド DESCRIBE
「Export Utility ("To") (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」 パネル ページ 702	親パネル「Export Utility (エクスポート・ユーティリティー)」で F3 を押す
「Column Attributes (列属性)」 パネル (英数字) ページ 492	英数字列の行コマンド E
「Column Attributes (列属性)」 パネル (数値) ページ 498	数値列の行コマンド E
「Column Attributes (列属性)」 パネル (DATE) ページ 497	DATE 列の行コマンド E
「Column Attributes (列属性)」 パネル (TIME) ページ 502	TIME 列の行コマンド E
「Column Attributes (列属性)」 パネル (TIMESTAMP) ページ 503	TIMESTAMP 列の行コマンド E
「Row Selection Criteria (行選択基準)」 パネル ページ 796	コマンド行で 1 を入力する

関連するタスク

- 列の位置決め ページ 144
- FM/Db2 が Db2 からロードするデータの制限 ページ 140
- 大きい数値フィールド ページ 171

- ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253
- VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259
- VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287
- テンプレートの編集 ページ 252
- 印刷のバッチ実行 ページ 340
- テンプレートの編集 ページ 84
- SQL 編集セッションの使用 ページ 95
- 列の操作 ページ 98
- 列の選択 ページ 99
- スクロール時の画面上の列の保持 ページ 100
- 表示または印刷される列の順序の変更 ページ 101
- 表示または印刷される行の順序の変更 ページ 103
- 列見出しの変更 ページ 105
- 列属性の変更 ページ 104

関連する参照先

- Db2 データ型 ページ 452
- TEDIT 基本コマンド ページ 977

「Columns (列)」パネル

「Columns (列)」パネルを使用して、Db2® カタログの列オブジェクト・タイプをリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSCOLUMNS の列が含まれています。

Process Options Utilities Help						
FM/Db2 (DFG2)			Columns		Format TABL	
SEL	NAME	TBCREATOR	TBNAME	COLNO	COLTYPE	LENGTH
*	*	*	*	*	*	*
----	#1-----1-----	#3-----	#2-----1-----	-----#4	#5-----	-----#6
****	Top of data	****				
----	MAJSYS	CARLAND	PMR91932	1	CHAR	1
----	ACTION	CARLAND	PMR91932	2	CHAR	1
----	OBJFLD	CARLAND	PMR91932	3	CHAR	2
----	SRCHCRIT	CARLAND	PMR91932	4	CHAR	2
----	SCRTYPE	CARLAND	PMR91932	5	CHAR	1
----	HEADTXT	CARLAND	PMR91932	6	CHAR	50
----	SELTXT	CARLAND	PMR91932	7	CHAR	50
----	INFOTXT	CARLAND	PMR91932	8	CHAR	79
----	HELPTXT	CARLAND	PMR91932	9	CHAR	79
----	PFKTX1	CARLAND	PMR91932	10	CHAR	79
----	PFKTX2	CARLAND	PMR91932	11	CHAR	79
Command ==>				Scroll PAGE		
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange	
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel	



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “*Db2@catalog tables (カタログ表)*” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747
- 「Constraint Columns for (制約列)」パネル ページ 515
- 「Columns in Table (表の列)」パネル ページ 512
- 特権パネル ページ 764

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル ページ 875	行コマンド AT
コメント・パネル ページ 512	行コマンド COM
「Column Distribution (列の配分)」パネル ページ 505	行コマンド DI
「Distinct Types (特殊タイプ)」パネル ページ 645	行コマンド DT
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
「Columns (列)」パネル ページ 510	行コマンド H
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
「Label Column (列のラベル)」パネル ページ 727	行コマンド LAB
特権パネル ページ 764	行コマンド P

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド T
「Indexes (索引)」 パネル ページ 724	行コマンド X
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	行コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Columns in Index (索引の列)」 パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して COL 行コマンドを使用すると、[「Indexes \(索引\)」](#) パネル ページ 724 は「Columns in Index (索引の列)」 パネルを表示します。

「Columns in Table (表の列)」 パネル

以下にリストされた項目に対して COL 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Columns in Table (表の列)」 パネルを表示します。

- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) パネル ページ 875、または
- [「Table Check Constraint Dependencies \(表検査制約の従属関係\)」](#) パネル ページ 857

コメント・パネル

これらのパネルは、以下の通りです。

- [「Comment Column \(列のコメント\)」](#) パネル
- [「Comment Distinct Type \(特殊タイプのコメント\)」](#) パネル
- [「Comment Procedure \(プロシージャのコメント\)」](#) パネル
- [「Comment Specific Function \(特殊関数のコメント\)」](#) パネル
- [「Comment Table \(表のコメント\)」](#) パネル
- [「Comment Trigger \(トリガーのコメント\)」](#) パネル

Db2® オブジェクトのリストに表示されたオブジェクトに対して COM 行コマンドを指定すると、FM/Db2 は以下のパネルの 1 つを表示します。

「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」パネル

「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」パネルを使用して、テンプレートの作成のために現行ソース・メンバーをコンパイルするとき使用する言語を設定します。デフォルトの言語は COBOL です。このオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Compiler Language Selection

Language Selection:
Specify Default Compiler
 1 1. COBOL           Use the COBOL compiler
 2 2. PL/I           Use the PL/I compiler
 3 3. Auto detect    Determine which compiler to use
 4 4. HLASM          Use the HLASM compiler

Processing Options:
Enter "/" to select option
  _Override compiler options for template update
  /Preserve copybook library
  _ Show copybook name with record type field name

Command ==> _____
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward F8=Forward  F9=Swap
F12=Cancel

```

Language Selection (言語の選択)

以下の言語は、テンプレートを作成するソース・メンバーのコンパイル用に指定することができます。

1. COBOL

COBOL コンパイラを使用します。これはデフォルト設定です。

2. PL/I

PL/I コンパイラを使用します。

3. Auto detect (自動選択)

ソースのヒューリスティック分析を実行して、該当するコンパイラを使用します。

4. HLASM

HLASM コンパイラを使用します。

Processing Options (処理オプション)

Override compiler options for template update (テンプレート更新のコンパイラ・オプションを指定変更)

これを選択すると、更新されるテンプレート内で検出されたコンパイラ・オプションが現行のコンパイラ・オプションによってオーバーライドされます。

フォアグラウンド・プロセスでは、常に、コンパイラ・オプションを含まない旧テンプレートに対してコンパイラ・オプションがオーバーライドされます。

このオプションは、旧テンプレートのテンプレート更新をバッチで行う際に選択して、JCL 内にコンパイラ・オプションを生成する必要があります。

Preserve copybook library (コピーブック・ライブラリーの保持)

コピーブックが、前に検出されたライブラリーにまだ存在し、更新が使用しているリストにそのライブラリーがある場合に、そのコピーブックを使用します。

このオプションを選択しないか、コピーブックが、前に検出されたライブラリーに存在しなくなったか、更新が使用しているリストにそのライブラリーがない場合、ユーティリティーは、リストされた順序でライブラリーを検索し、検出した最初のバージョンのコピーブックを使用します。

Show copybook name with record type field name (コピーブック名をレコード・タイプ・フィールド名で表示)

このオプションは、コピーブック名を、テンプレート編集集中に表示されるレコード・レイアウトに関連するものにするか、コピーブックまたはテンプレートを使用している編集、表示、またはブラウザの各セッションに関連するものにする場合に選択します。



注: レイアウト名が指定されたエディター・セッションの場合は、関連するコピーブックの名前が接頭部として付けられます。接頭部の長さによっては、これによってレイアウト名が切り捨てられることがあります。

親パネル

- [「Set System Processing Options \(システム処理オプションの設定\)」パネル ページ 827](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [コンパイラ言語の選択 \(オプション 0.4\) ページ 66](#)
- [FM/Db2 がコピーブックをテンプレートにコンパイルする方法 ページ 80](#)

「Constraint Columns for (制約列)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して COL 行コマンドを使用すると、[「Table Check Constraints \(表検査制約\)」パネル ページ 857](#) は「Constraint Columns for (制約列)」パネルを表示します。

「Copy Options (コピー・オプション)」パネル

「Copy Options (コピー・オプション)」パネルを使用して、コピー・ユーティリティー (3.3) が使用するグローバル (または初期) オプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで継続します。

グローバル・コピー・オプションは、それぞれのコピー・セッションの最初にリストアされ、コピー “To (宛先)” 入力パネルで「**Edit Copy Options (コピー・オプションの編集)**」を選択することによって、1つのコピー・セッション用に一時的に変更できます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Copy Options	Global Settings
From Table Concurrency Option: Enter "/" to select option / Use uncommitted read		To Table Locking Option: Locking 1 1. None 2. Share mode 3. Exclusive mode	
Processing Options: Duplicate key processing 1 1. Ignore 2. Update Max duplicates ALL		Enter "/" to select option - Delete existing rows - Ignore RI/Constraint errors - Native unicode processing - Create audit trail	
Command ==> F1=Help F12=Cancel	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap

Use uncommitted read (非コミット読み取りの使用)

コピー・セッション用にコミットされていないデータの検索を可能にするかどうかを指示します。

/

データ (別のユーザーまたはアプリケーション・プログラムによってまだコミットされていないデータを含む) を検索します。表データの検索に FM/Db2 が使用する最終的な SELECT ステートメントには、接尾部 “WITH UR” が付加されます。これによって、その表で保持されたすべてのロックを読み取ることができます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

(空白)

書き込みロックのない表からコミット済みデータを検索するだけです。



注: FM/Db2 が書き込みロックされているデータを検索しようとする、SQL エラーが起ることがあります。

Locking (ロック)

FM/Db2 は、表をロックして、他のユーザーがデータを更新または読み取りできないようにするオプションを提供します。これらのオプションは、注意して使用してください。

1 None (なし)

FM/Db2 は、コピーされるオブジェクトに明示的な表ロックを出しません。オブジェクト内の行およびページのロックは、FM/Db2 並行性オプションならびに Db2® インストールおよびオブジェクト定義オプションに従って Db2® で管理されます。これはデフォルト設定です。

2. Share mode (共用モード)

FM/Db2 は、Db2® からデータを読み取る前に、LOCK TABLE IN SHARE MODE ステートメントを出します。これは、他のすべてのユーザーのオブジェクトに対する操作を読み取り専用で制限します。

3. Exclusive mode (排他モード)

FM/Db2 は、Db2® からデータを読み取る前に、LOCK TABLE IN EXCLUSIVE MODE ステートメントを出します。これで、他のすべてのユーザーがそのオブジェクトにアクセスするのを防ぎます。ただし、他の処理が非コミット読み取りを分離レベルで実行している場合を除きます。

Duplicate key processing (重複キーの処理)

重複キーが検出された場合に、FM/Db2 が行うアクションを指定できます。このオプションは次のいずれかに設定してください。

1. Ignore (無視)

重複キーの存在は無視されます。これはデフォルトです。

2. Update (更新)

INSERT SQL ステートメントに回答して重複キー・エラー (SQL エラー・コード -803) が Db2® によって戻されたときに 重複行を更新します。このオプションが選択されると、FM/Db2 は既存の行の更新を試みます。表内の列のうち、少なくとも 1 つの固有索引の一部である列のすべてが 行の識別に使用されます。更新操作の前には、コピーされた行と既存の行の間で比較は行われません (すなわち、更新は、コピーされた行と既存の行が同じかどうかに関係なく行われます)。

このオプションを使用するときは、ビュー名ではなく、Db2® 表名を指定することをお勧めします。FM/Db2 は、ビューに定義されたビュー内の既存の行の更新は試みません。

For _____ duplicates (For _____ 重複)

許可される重複の最大数を指定します。有効な値は以下のとおりです。

- 0 から 2147483647 までの数値。コピー処理中に FM/Db2 がこの数より多くの重複を検出した場合、コピーは取り消され、すべての変更はロールバックされます。
- ALL。ALL がデフォルトです。

Delete existing rows (既存の行の削除)

データをコピーする前に、表内の既存の行が FM/Db2 によってすべて削除されるかどうかを決定します。

/

既存の行をすべて削除します。

(空白)

既存の行を削除しません。これはデフォルト設定です。

Ignore RI/Constraint errors (RI/制約エラーの無視)

コピー・ユーティリティーが SQLCODE-530 (RI エラー - 基本キーなし) または SQLCODE-545 (制約エラー) を検出したときに、どのような処理を行うかを決定します。

/

コピー・プロセスは、エラーを無視して、次の行に進みます。行はコピーも更新もされず、コピー・カウントに含まれません。

(空白)

コピー・ユーティリティーは取り消されます。これはデフォルト設定です。

Native unicode processing (ネイティブ Unicode 処理)

2 つの Unicode でエンコードされた表間でデータをコピーする場合、FM/Db2 が Unicode エンコード・データをどのように処理するかを決定します。このオプションが使用可能である場合、文字置換が行われる可能性なく、Unicode でエンコードされた表間で Unicode エンコード・データがコピーされます。このオプションが使用可能でない場合、このオプションは無効です。すなわち、デフォルトの処理が使用されます。「FROM (元)」表または「TO (宛先)」表、もしくはその両方が Unicode でエンコードされていない場合、このオプションは使用可能であっても、無効です。このオプションとバッチ実行オプションが使用可能である場合、生成された JCL に「NATIVE= YES」が表示されます。

/

Unicode データをネイティブに処理します。

(空白)

Unicode データをネイティブに処理しません。これはデフォルト設定です。

Create audit trail (監査証跡の作成)

現在のコピー操作で監査レコードが書き込まれるかどうかを決定します。製品インストーラーによって行われたインストール選択項目によっては、このオプションが表示されない場合があります。このオプションが有効である場合、デフォルトでは、監査レコードは書き込まれません。

親パネル

- [現行のコピー・セッションのオプションの設定 ページ 258](#)
- [「Copy Utility \("To"\) \(コピー・ユーティリティーの「宛先」\)」パネル ページ 526](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [現行のコピー・セッションのオプションの設定 ページ 258](#)
- [Copy utility options \(option 3.3\) \(コピー・ユーティリティー・オプション \(オプション 3.3\)\) ページ 69](#)

「Copy Utility ("From") (コピー・ユーティリティーの「元」)」パネル

「Copy Utility "From" (コピー・ユーティリティーの「元」)」パネルを使用して、コピーするオブジェクトの名前を入力します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Copy Utility		
From Db2 Object:			
Location	_____	Database	_____ (optional)
Owner	DSN8810	Table space _____	(optional)
Name	EMP		+
Copy count	ALL	Number of rows to copy	
From Template:			
Data set name	_____		
Member	_____		
Processing Options:			
Template usage	Enter "/", "A"lways to select option		
3 1. Above	_ Edit template		
2. Previous	_ Copy panel values		
3. Generate from table	_ Create audit trail (*)		
4. Generate/Replace			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Location (場所)

Db2® オブジェクトのロケーション名。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

Database (データベース)

Db2® オブジェクトのデータベース名。このフィールドを使用してオプションでデータベースを指定して、処理するオブジェクトをさらに定義することができます。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「**Owner (所有者)**」および「**Name (名前)**」の選択リストに表示される値は、ここで指定されたデータベース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

Owner (所有者)

オブジェクトの所有者の名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。オブジェクトの「**Name (名前)**」フィールドに同義語を指定するには、このフィールドを空白のままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「**Table space (表スペース)**」、「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非空白の場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Table space (表スペース)

Db2® オブジェクトの表スペース名。処理するオブジェクトをさらに定義するには、このフィールドを使用して、オプションで表スペースを指定します。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「**Owner (所有者)**」および「**Name (名前)**」の選択リストに表示される値は、ここで指定された表スペース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストにも含まれません。

Name (名前)

処理するオブジェクトの名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、「**Owner (所有者)**」フィールドを空白にするか、現行の SQLID を含む総称名にするか、または現行の SQLID にします。「**Table space (表スペース)**」、「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非空白の場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Copy count (コピー・カウント)

Db2® オブジェクトからコピーする最大行数。次のいずれかにしてください。

- 1 から 99999999 までの数値
- アスタリスク (*)
- ALL。これがデフォルトであり、Db2® オブジェクトから選択されたすべての行がコピーされます。

“From (元)”テンプレートに “Row Selection Criteria (行選択基準)” (または WHERE 文節) が含まれている場合は、その選択基準に一致する行のみが、コピーに適格であると考えられます。

Data set name (データ・セット名)

テンプレートが入っているか、入る予定のデータ・セットの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した **【Member (メンバー)】** フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

【Data set name (データ・セット名)】 フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Copy Utility (コピー・ユーティリティ)」パネルには、テンプレートを処理するための次の 4 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの **【Template (テンプレート)】** セクションにテンプレート・データ・セットの名前 (およびオプションのメンバー名) を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が継続されます (詳細については、「Template Usage (テンプレート使用法)」のオプション 3 を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの **【Template (テンプレート)】** セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの **【From Template (元テンプレート)】** セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力して選択できます。

Edit template (テンプレートの編集)

データをコピーする前にテンプレートを編集するのに使用します。デフォルトでは、テンプレートは編集されません。

Copy panel values (パネル値のコピー)

Db2® オブジェクト名およびテンプレートの詳細を “To (宛先)” パネルにコピーするのに使用します。デフォルトでは、値は 「To (宛先)」 パネルにコピーされません。

Create audit trail (監査証跡の作成)

注: SAF 規則によって必要となる場合は、SAF で制御された監査のオプション名に 「(*)」 が付加されます。

FM/Db2 による Db2® へのアクセスを FM/Db2 監査ログに書き込むかどうかを制御します。このオプションは、SAF 規則で制御された監査が有効である場合にのみ表示されます。

FM/Db2 は、SMF、またはデータ・セットのいずれかに監査レコードを書き込むことができます。

FM/Db2 監査の制御に SAF 規則が使用される場合、監査レコードを書き込むかどうかは、処理対象の Db2® オブジェクト名と、現在のユーザー ID (TSO ログオン ID) に基づいて決定されます。そのため、ある Db2® オブジェクトの処理には監査が必要でも、別のオブジェクトの処理には必要でない場合があります。また、特定の Db2® オブジェクトの監査要件を変更できなくても、別の Db2® オブジェクトの監査要件は変更できたり、他の TSO ユーザー ID に対しては要件が異なったりする場合があります。

特定の Db2® オブジェクトの処理中に、監査設定を変更する権限を持っていない場合、FM/Db2 によって、間違っただ設定を入力しているのではないかとこのプロンプトが出されます。特定の Db2® オブジェクトに対する監査設定を設定する権限を持っている場合、FM/Db2 は、このフィールドにどのような値が指定されてもそれを受け入れます。

親パネル

- [「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」](#) パネル ページ 896
- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) パネル ページ 875

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Column Selection/Edit (列選択/編集)」 パネル ページ 505	「Edit template (テンプレートの編集)」 を選択
「Copy Utility ("To") (コピー・ユーティリティーの「宛先」)」 パネル ページ 526	Enter キーを押す

関連する概念

- テンプレートに保管された情報 ページ 76
- SAF 規則で制御された監査 ページ 72

関連するタスク

- FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46
- テンプレートの処理 ページ 75
- テンプレートを使用できる場所 ページ 25
- ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253
- VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259
- VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287
- データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53
- FM/Db2 システム・オプション (オプション 0.2) ページ 65

「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」パネル

「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」パネルを使用して、コピー・ユーティリティの COPY INDEXSPACE 形式を使用するユーティリティ制御ステートメントを生成します。

「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」パネルの形式は、「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルで指定されたフィルター・フィールド (ある場合) によって決まります。

- デフォルトで、あるいは「**Database name (データベース名)**」フィルター・フィールド、「**Table/index space name (表/索引スペース名)**」フィルター・フィールド (あるいはその両方) で情報を指定した場合には、[図 118: 「COPY Utility \(Index Spaces\) \(コピー・ユーティリティ \(索引スペース\)\)」パネル - デフォルト形式 ページ 523](#) にパネルが表示されます。
- 「**Table/index owner (表/索引所有者)**」フィルター・フィールド、「**Table/index name (表/索引名)**」フィルター・フィールド (あるいはその両方) で情報を指定した場合には、[図 119: 「COPY Utility \(Index Spaces\) \(コピー・ユーティリティ \(索引スペース\)\)」パネル - 代替形式 ページ 523](#) で示すパネルが表示されます。



注: 索引は、COPY YES 文節で定義されている必要があります。COPY YES 文節で定義されていない索引は、パネルでのイメージ・コピーに選択することができません。

パネルとフィールドの定義

図 118. 「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」パネル - デフォルト形式

Process		Options		Utilities		Help	
FM/Db2 (DFG2)		COPY Utility (Index Spaces)				Row 1 to 8 of 8	
S	P	Index	Part'n	Allocation		Space	
e	R	Database Space	Number	Primary	Secdry		
l	C	Name					
—		BILLSDB1 XDEPT1	0	3	3	0	
—		BILLSDB1 XDEPT2	0	3	3	0	
—		BILLSDB1 XDEPT3	0	3	3	0	
—		BILLSDB1 XEMP1	1	3	3	0	
—		BILLSDB1 XEMP1	2	3	3	0	
—		BILLSDB1 XEMP1	3	3	3	0	
—		BILLSDB1 XEMP1	4	3	3	0	
—		BILLSDB1 XEMP2	0	3	3	0	
***** Bottom of data *****							
Command ==>						Scroll PAGE	
F1=Help		F2=Split		F3=Exit		F7=Backward F8=Forward F9=Swap	
F12=Cancel							

図 119. 「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」パネル - 代替形式

Process		Options		Utilities		Help	
FM/Db2 (DFG2)		COPY Utility (Index Spaces)				Row 1 to 8 of 8	
S	P	Index	Part'n	Allocation		Space	
e	R	Creator Name	Number	Primary	Secdry		
l	C						
—		ARROWSB XDEPT1	0	3	3	0	
—		ARROWSB XDEPT2	0	3	3	0	
—		ARROWSB XDEPT3	0	3	3	0	
—		ARROWSB XEMP1	1	3	3	0	
—		ARROWSB XEMP1	2	3	3	0	
—		ARROWSB XEMP1	3	3	3	0	
—		ARROWSB XEMP1	4	3	3	0	
—		ARROWSB XEMP2	0	3	3	0	
***** Bottom of data *****							
Command ==>						Scroll PAGE	
F1=Help		F2=Split		F3=Exit		F7=Backward F8=Forward F9=Swap	
F12=Cancel							

Sel

選択列。索引スペースを選択するには、この列に「S」を入力してください。選択された索引スペースには、「PRC」列にアスタリスク (*) が付きます。

PRC

処理標識。アスタリスク (*) は索引スペースが選択されたことを示します。

Database Name (データベース名)

索引スペースを定義するデータベースの名前。

Index Space Name (索引スペース名)

索引スペースの名前。

Part'n Number (区画番号)

表スペースの区画番号。これは、非区画表スペースの場合は 0 です。ゼロ以外の値は区画表スペースの区画を表します。デフォルトでは、非区画表スペースを処理のために選択するときは、ユーティリティー制御ステートメントには DSNUM ALL パラメーターを含めません。区画を選択するときに、ユーティリティー制御ステートメントには DSNUM *nnn* 文節 (*nnn* は選択された区画番号です) を含めます。

Primary (基本)

表スペースの 1 次割り振り値。全解説については、*Db2* ユーティリティー・ガイドおよび解説書を参照してください。この値は、表スペースのサイズを示します (しかし、決定的な値ではありません)。

Secondary (2 次)

表スペースの 2 次割り振り値。全解説については、*Db2* ユーティリティー・ガイドおよび解説書を参照してください。

Space (スペース)

STOSPACE ユーティリティーによって報告された通りの表スペースのスペース割り振り。全解説については、*Db2* ユーティリティー・ガイドおよび解説書を参照してください。この値は、STOSPACE ユーティリティーが実行されたときの表スペースのサイズの正確な値を示します。

Index Creator (索引作成者)

索引作成者の名前。

Index Name (索引名)

索引の名前。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [コピー・ユーティリティー ページ 364](#)
- [COPY \(索引スペース\) ページ 366](#)

LISTDEF を指定した「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティー (索引スペース))」パネル

LISTDEF を指定した「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」パネルを使用して、コピー・ユーティリティの COPY TABLESPACE 形式を使用するユーティリティ制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		COPY Utility (Index Spaces)	Row 1 to 3 of 3
P			Change
R	LISTDEF	COPYDDN	Full Limits Report
Cmd C	Name	COPYDDN Template	Copy One Two Only
___ *	FRED	SYSCOPY N	Y ___ N
___ *	JAMES	SYSCOPY N	Y ___ N
___	GEORGE	SYSCOPY N	Y ___ N
***** Bottom of data *****			
Command ==> _____ Scroll PAGE			
F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap			
F12=Cancel			

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2@ Utilities (ユーティリティ)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- 「Db2 Utilities (ユーティリティ)」パネル ページ 635

子パネル

なし。

関連するタスク

- [コピー・ユーティリティー ページ 364](#)
- [COPY \(索引スペース\) ページ 366](#)

「Copy Utility ("To") (コピー・ユーティリティーの「宛先」)」パネル

「Copy Utility ("To") (コピー・ユーティリティーの「宛先」)」パネルを使用して、コピー操作の宛先である Db2® オブジェクトの名前を入力します。また、このパネルを使用して、列マッピングおよび初期設定の情報を提供するためのテンプレートの名前も指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
Copy from DSN8810.EMP			
To Db2 Object:			
Location	_____	Database	_____ (optional)
Owner	FMNUSER _____	+	Table space _____ (optional)
Name	EEMP _____		+
To Template:			
Data set name	_____		
Member	_____		
Processing Options:			
Template usage	Enter "/", "A" always to select option		
3 1. Above	- Edit copy options		
2. Previous	- Edit template mapping		
3. Generate from table	- Batch execution		
4. Generate/Replace			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Location (場所)

Db2® オブジェクトのロケーション名。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

Database (データベース)

Db2® オブジェクトのデータベース名。このフィールドを使用してオプションでデータベースを指定して、処理するオブジェクトをさらに定義することができます。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「Owner (所有者)」および「Name (名前)」の選択リストに表示される値は、ここで指定されたデータベース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

Owner (所有者)

オブジェクトの所有者の名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。オブジェクトの「Name (名前)」フィールドに同義語を指定するには、このフィールドを空白のままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「Table space (表スペース)」、「Database (データベース)」、「Location (ロケーション)」フィールドのいずれかが非空白の場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Table space (表スペース)

Db2® オブジェクトの表スペース名。処理するオブジェクトをさらに定義するには、このフィールドを使用して、オプションで表スペースを指定します。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「Owner (所有者)」および「Name (名前)」の選択リストに表示される値は、ここで指定された表スペース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストにも含まれません。

Name (名前)

処理するオブジェクトの名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、「Owner (所有者)」フィールドを空白にするか、現行の SQLID を含む総称名にするか、または現行の SQLID にします。「Table space (表スペース)」、「Database (データベース)」、「Location (ロケーション)」フィールドのいずれかが非空白の場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Data set name (データ・セット名)

テンプレートが入っているか、入る予定のデータ・セットの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「Member (メンバー)」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Copy Utility (コピー・ユーティリティー)」パネルには、テンプレートを処理するための次の4つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「**Template (テンプレート)**」セクションにテンプレート・データ・セットの名前(およびオプションのメンバー名)を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が続行されます(詳細については、「Template Usage (テンプレート使用法)」のオプション3を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の(直前に使用した)テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「**Template (テンプレート)**」セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「**To Template (宛先テンプレート)**」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションは、「I」または「A」を入力することで選択できます。

Edit copy options (コピー・オプションの編集)

「Copy Options (コピー・オプション)」パネルを表示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)

データをコピーする前に、コピー先の表のテンプレートを編集するのに使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Batch execution (バッチ実行)

FM/Db2 コピー機能をバッチ・ジョブとして実行するための JCL を生成します。JCL が生成された後、その JCL を編集して、ジョブを手動で実行依頼することができます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。コピー・ジョブはフォアグラウンドで動作します。

親パネル

- 「Copy Utility ("From") (コピー・ユーティリティーの「元」)」パネル ページ 518

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Copy Options (コピー・オプション)」パネル ページ 515	「Edit copy options (コピー・オプションの編集)」 を選択
「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネル ページ 881	「Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)」 を選択

関連するタスク

- データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53
- FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46
- ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253
- データのマッピング ページ 112
- ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253

「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティー (表スペース))」パネル

「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティー (表スペース))」パネルを使用して、コピー・ユーティリティーの COPY TABLE SPACE 形式を使用する ユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		COPY Utility (Table Spaces)	Row 1 to 12 of 233
S P	Table	F Change	R
e R Database	Space	C Limits	P Part'n
l C Name	Name	P One Two	O Number Tables
—	BILLSDB1 TS1D	Y ——— N	0 1
—	BILLSDB1 TS1E	Y ——— N	1 1
—	BILLSDB1 TS1E	Y ——— N	2 1
—	BILLSDB1 TS1E	Y ——— N	3 1
—	BILLSDB1 TS1E	Y ——— N	4 1
S	BILLSDB2 UTILTS1	Y ——— N	0 2
—	CJMAODA CJMAOSD	Y ——— N	0 1
—	CJMAODA CJMAOSE	Y ——— N	1 1
—	CJMAODA CJMAOSE	Y ——— N	2 1
—	CJMAODA CJMAOSE	Y ——— N	3 1
—	CJMAODA CJMAOSE	Y ——— N	4 1
—	CJMAODA CJMAOSP	Y ——— N	0 4
			Allocation
			Primary Secdry
			Space
			3 3
			3 3
			5 5
			3 3
			5 5
			180 180
			5 5
			3 3
			5 5
			3 3
			5 5
			40 20
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Sel

選択列。表スペースを選択するには、この列に「S」を入力してください。選択された表スペースには、「PRC」列にアスタリスク (*) が付きます。

PRC

処理標識。アスタリスク (*) は表スペースが選択されたことを示します。

Database Name (データベース名)

表スペースを定義するデータベースの名前。

Table Space Name (表スペース名)

表スペースの名前。

FCP

完全コピー・フラグ。

Y

完全イメージ・コピーを行います。これはデフォルト設定です。

N

部分イメージ・コピーを行います。

Change Limits (One Two) (変更限度) (One Two)

部分イメージ・コピーと完全イメージ・コピーを呼び出すのに必要な変更済みページのパーセントを示す、1 または 2 の値を指定することができます。詳しくは、*Db2* ユーティリティー・ガイドおよび解説書を参照してください。「**Change Limits (変更限度)**」フィールドのいずれかに入力された値によって、「**FCP**」設定がオーバーライドされます。

RPO

報告書のみ。これは、変更限界値を指定した場合にのみ有効となります (「**Change Limits (変更限度)**」を参照)。

Y

イメージ・コピー情報だけが表示されます。イメージ・コピーは行われず、推奨されるだけです。FM/Db2 は、SYSCOPY DD について JCL に DD DUMMY を生成します。

N

イメージ・コピー情報が表示され、イメージ・コピーが行われます。これはデフォルト設定です。

ISPF 表の残りの列は、Db2® カタログからの情報を表示する表示専用フィールドです。

Part'n Number (区画番号)

表スペースの区画番号。これは、非区画表スペースの場合は 0 です。ゼロ以外の値は区画表スペースの区画を表します。デフォルトでは、非区画表スペースを処理のために選択するときは、ユーティリティー制御ステートメントには DSNUM ALL パラメーターを含めません。区画を選択するときに、ユーティリティー制御ステートメントには DSNUM *nnn* 文節 (*nnn* は選択された区画番号です) を含めます。

Number Tables (表の数)

表スペースに定義された表の番号。

Primary (基本)

表スペースの 1 次割り振り値。全解説については、*Db2 ユーティリティ・ガイド*および解説書を参照してください。この値は、表スペースのサイズを示します (しかし、決定的な値ではありません)。

Secondary (2 次)

表スペースの 2 次割り振り値。全解説については、*Db2 ユーティリティ・ガイド*および解説書を参照してください。

Space (スペース)

STOSPACE ユーティリティによって報告された通りの表スペースのスペース割り振り。全解説については、*Db2 ユーティリティ・ガイド*および解説書を参照してください。この値は、STOSPACE ユーティリティが実行されたときの表スペースのサイズの正確な値を示します。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [コピー・ユーティリティ ページ 364](#)

LISTDEF を指定した「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティ (表スペース))」パネル

LISTDEF を指定した「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティ (表スペース))」パネルを使用して、コピー・ユーティリティの COPY TABLE SPACE 形式を使用し、LISTDEF を指定した、ユーティリティ制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
FM/Db2 (DFG2)          COPY Utility (Table Spaces)          Row 1 to 1 of 1

P
R LISTDEF
Cmd C Name          COPYDDN  Template  Full Copy  Change Limits  Report
      FRED          SYSCOPY   N          Y         One Two  Only
      JAMES          SYSCOPY   N          Y         ___ ___  N
***** Bottom of data *****

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward F8=Forward  F9=Swap
F12=Cancel
    
```

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入力口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- コピー・ユーティリティー ページ 364
- COPY (表スペース) ページ 365

「Create Alias (別名の作成)」 パネル

「Create Alias (別名の作成)」 パネルでは、現在の場所の表またはビューの別名を作成することができます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Create Alias
Alias Details:			
Owner	_____	+	(optional)
Name	_____		+
Table or View Details:			
Location	_____		
Owner	_____	+	
Name	_____		+
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

Owner (所有者) (Alias Details (別名の詳細))

作成する別名の所有者 (任意指定)。このフィールドを空白のままにしておくと、FM/Db2 は現行の SQL ID をデフォルト ID として使用します。そうでない場合には、所有者のフルネームを入力してください。

Name (名前) (Alias Details (別名の詳細))

作成する別名の名前 (必須)。

Location (場所)

別名を作成する表またはビューの位置 (任意指定)。このフィールドを空白のままにしておくと、FM/Db2 はローカル Db2® システムの位置を使用します。

Owner (所有者) (Table or View Details (表またはビューの詳細))

別名を作成する表またはビューの所有者 (任意指定)。このフィールドを空白のままにしておくと、FM/Db2 は現行の SQL ID をデフォルト ID として使用します。そうでない場合には、所有者のフルネームを入力してください。

Name (所有者) (Table or View Details (表またはビューの詳細))

別名を作成する表またはビューの名前 (必須)。

親パネル

- 「Db2 Object Functions (オブジェクト機能)」 パネル ページ 629
- 「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875
- 「Synonyms (同義語)」 パネル ページ 845

子パネル

なし。

関連するタスク

- Db2 オブジェクトの作成および除去 ページ 213
- 別名の作成 ページ 242

「Create Auxiliary Table (補助表の作成)」 パネル

「Create Auxiliary Table (補助表の作成)」 パネルを使用して、新規の補助表を作成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Auxiliary Table		
Auxiliary table:			
Owner	_____	+ (optional)	
Name	_____		+
Table Space:			
Name	_____		
Database	_____	(optional)	
Base Table:			
Owner	_____	+ (optional)	
Name	_____		+
Base Table Column:			
Name	_____		
Partition	_____	(optional)	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

Owner (所有者) (Auxiliary Table (補助表))

補助表の所有者を指定します。

Name (所有者) (Auxiliary Table (補助表))

補助表の名前を指定します。

Name (名前) (Table Space (表スペース))

補助表を作成する LOB 表スペースを指定します。

Database (データベース) (Table Space (表スペース))

指定された表スペースが属するデータベースを指定します。

Owner (所有者) (Base Table (基本表))

補助表に保管する LOB 列が入っている基本表の所有者を指定します。

Name (所有者) (Base Table (基本表))

補助表に保管する LOB 列が入っている基本表の名前を指定します。

Name (名前) (Base Table Column (基本表列))

補助表に保管する基本表の LOB 列の名前を指定します。

Partition (名前) (Base Table Column (基本表列))

区画の表スペースに定義された基本表では、その補助表がデータを保管する基本表の区画を指定します。

親パネル

- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」 パネル ページ 629](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 オブジェクトの作成および除去 ページ 213](#)
- [補助表の作成 ページ 249](#)

「Create Database (データベースの作成)」 パネル

「Create Database (データベースの作成)」 パネルを使用して、新規データベースを作成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Database	
Database:			
Name	_____	(required)	
Buffer Pools, Storage Groups:			
Storage group name	_____	+	(optional)
Buffer pool for table spaces	_____		(optional)
Buffer pool for indexes	_____		(optional)
Database Options:			
Database Usage		Data Encoding (only for user databases)	
- 1. User database (default)		- 1. EBCDIC (default)	
2. Work file database		2. ASCII	
3. Temporary database		3. UNICODE	
Member Selection:			
Member name	_____	(only valid for work file databases)	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Name (名前)

作成する Db2® データベースの名前を指定します。

Storage group name (ストレージ・グループ名)

データベースの表スペースおよび索引の DASD 割り振りで、デフォルト・グループとして使用される Db2® ストレージ・グループの名前。

Buffer pool for table spaces (表スペースのバッファ・プール)

データベース内で作成される表スペースに使用されるデフォルトのバッファ・プール名を指定します。

1. 8K バッファ: (BP8K0-BP8K9)
2. 16K バッファ: (BP16K0-BP16K9)



注:

8K および 16K バッファ・プールは作業ファイル・データベースではサポートされません。

Buffer pool for indexes (索引のバッファ・プール)

データベース内で作成される索引に使用されるデフォルトのバッファ・プール名を指定します。

Database Usage (データベースの使用法)

1. User database (default) (ユーザー・データベース (デフォルト))

データベースが一般ユーザーの表および索引用の通常のデータベースであることを指定します。

2. Work file database (作業ファイル・データベース)

データベースがデータ共用環境で使用される作業ファイル・データベースであることを示します。

Temporary database (一時データベース)

データベースが宣言された一時表専用であることを示します。

Data Encoding (only for user databases) (データ・エンコード (ユーザー・データベースのみ))**1. EBCDIC (default) (EBCDIC (デフォルト))**

エンコード・スキームを指定します。

2. ASCII

エンコード・スキームを指定します。

3. UNICODE

エンコード・スキームを指定します。

親パネル

- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」パネル ページ 629](#)
- [「Databases \(データベース\)」パネル ページ 616](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 オブジェクトの作成および除去 ページ 213](#)
- [データベースの作成 ページ 230](#)

「Create Distinct Type (特殊タイプの作成)」パネル

「Create Distinct Type (特殊タイプの作成)」パネルを使用して、新規の特殊タイプを作成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Distinct Type	
Distinct Type:			
Schema	_____	+ (optional)	
Name	_____	+	
Source Data Type:			
Source Type	_____	+	
Length/Precision	_____	(optional)	
Scale	_____	(optional)	
For Data		Encoding Method	
- 1. SBCS		- 1. EBCDIC	
2. Mixed		2. ASCII	
3. Bit		3. UNICODE	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

Schema (スキーマ)

関数を作成するためのスキーマ名。

Name (名前)

ユーザー定義関数の名前。

Source Type (ソース・タイプ)

特殊タイプの基になっている Db2® データ・タイプ。

Length/Precision (長さ/精度)

特殊タイプのデータ長。DECIMAL データ・タイプを基にした特殊タイプでは、これは精度です。

Scale (目盛り)

DECIMAL データ・タイプに基づいた特殊タイプの場合。

For Data (データ向け)

非 DBCS データ・タイプ (CHAR、VARCHAR および CLOB) では、サブタイプを指定します。BIT は CLOB では無効です。

Encoding Method (エンコード方式)

1. EBCDIC (default) (EBCDIC (デフォルト))

特殊データ・タイプのエンコード・スキームを指定します。

2. ASCII

特殊データ・タイプのエンコード・スキームを指定します。

3. UNICODE

特殊データ・タイプのエンコード・スキームを指定します。

EBCDIC および ASCII は特殊データ・タイプのエンコード・スキームを指定します。

親パネル

- 「Db2 Object Functions (オブジェクト機能)」 パネル ページ 629
- 「Distinct Types (特殊タイプ)」 パネル ページ 645

子パネル

なし。

関連するタスク

- Db2 オブジェクトの作成および除去 ページ 213
- 特殊タイプの作成 ページ 245

「Create Function (関数の作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」 パネル

「Create Function (関数の作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」 パネルを使用して、作成される関数のオプションを定義するための情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Function: Option List (1/2)		
External Name . . .	_____		+ (usually optional)
Scratchpad	_____		(optional)
Package Collection _____			+ (optional)
WLM Environment . . .	_____		+ (optional)
Time Limit	_____		(CPU units - optional)
Language (Required)	SQL		Security
- 1. ASSEMBLE	- 1. Reads SQL Data		- 1. Db2
2. C	2. No SQL		2. User
3. COBOL	3. Modifies SQL Data		3. Definer
4. PLI	4. Contains SQL		
Parallelism			
- 1. Allowed			
2. Disallowed			
Run-time Options (optional)			
_____ +			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

External Name (外部名)

機能を実行するユーザー作成のコードが入っている MVS™ ロード・モジュールの名前。

Scratch Pad (スクラッチパッド)

Db2® によって割り振られ、呼び出し時に関数に渡されるスクラッチ・パッドのサイズ。

Package Collection (パッケージ・コレクション)

関数の実行時に使用されるパッケージ・コレクションを指定します。指定されていないと、起動プログラムのパッケージ・コレクションが使用されます。

Workload Manager Environment (ワークロード・マネージャー環境)

関数を実行する MVS™ ワークロード・マネージャー環境を指定します。

Time Limit (CPU units) (時間制限 (CPU 単位))

関数の単一呼び出しによって使用される処理プログラム・サービス単位を制限します。

LANGUAGE (Required) (言語 (必須))

関数のアプリケーション・プログラミング言語。

SQL

関数に含まれる SQL ステートメントのタイプを指定します。

Security (セキュリティー)

外部セキュリティー・プロダクトとの関数の対話を指定します。

Parallel (並列)

Db2® が関数の並列性を考慮できるかどうかを指定します。

Run-time options (実行時オプション)

関数で使用される Language Environment® 実行時オプションを指定します。

親パネル

- ・ [「Create Function \(関数の作成\)」パネル ページ 542](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [関数の作成 ページ 245](#)

「Create Function (関数の作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネル

「Create Function (関数の作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネルを使用して、作成される関数のオプションを定義するための情報をさらに指定します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Create Function Option List (2/2)

Enter '/' to select option
- Main Program
- Stay Resident
- / Deterministic
- Called on null input
- No external action
- Final Call
- DBINFO argument passed

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetrieval  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel

```

以下のオプションは、“/”を入力して選択できます。

Main Program (メインプログラム)

プログラムはメインルーチンとして実行され、なければサブルーチンとして実行されます。

Stay Resident (常駐のまま)

関数ロード・モジュールは関数の終了時にメモリー内に残されます。

Deterministic (決定論的)

関数は同じ入力値のセットに対して同一の結果を戻します。

Called on Null Input (ヌル入力呼び出し)

1つ以上の入力パラメーターがヌルの場合でも、関数を呼び出すよう指示します。

No external action (外部アクションなし)

関数は Db2® が管理していないオブジェクトの状態を変更するアクションを行いません。

Final Call (最終呼び出し)

関数の最終呼び出しを行って、必要な終結処理操作を実行できるようにします。

DBINFO Argument Passed (渡される DBINFO 引数)

関数が呼び出されるときに、追加の Db2® 情報が渡されます。

親パネル

- ・ [「Create Function \(関数の作成\)」パネル ページ 542](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [関数の作成 ページ 245](#)

「Create Function (関数の作成)」パネル

「Create Function (関数の作成)」パネルを使用して、新規の関数を作成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Function		
Function:			
Schema	_____ + (optional)		
Name	FUN1 _____ +		
Unique Name	_____ + (optional)		
Function Creation:			
Creation Options			
5	1. Parameters	(optional, usually required)	
	2. Parameter Types	(optional, define parameters first)	
	3. Returned data type	(required)	
	4. Option List	(required)	
	5. Option List (More)	(optional)	
	6. Create the Function		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
	F7=Backward	F8=Forward	

Schema (スキーマ)

関数を作成するためのスキーマ名。

Name (名前)

ユーザー定義関数の名前。

Unique Name (固有の名前)

特定の SQL ステートメントおよび Db2® コマンドで使用される関数の固有の名前を指定します。

Creation Options (作成オプション)

使用したい作成オプションの番号を指定します。

1. Parameters (パラメーター)

関数のパラメーターを定義するための「Create Function: Parameters (関数の作成: パラメーター)」パネルを表示します。

2. Parameter Types (パラメーター・タイプ)

関数パラメーターに追加のタイプ情報を指定するための「Create Function: Parameter Types (関数の作成: パラメーター・タイプ)」パネルを表示します。

3. Returned data type (戻りデータ・タイプ)

関数より戻されたデータ・タイプを指定するための「Create Function (関数の作成): Returned Data Type (戻りデータ・タイプ)」パネルを表示します。

4. Option List (オプション・リスト)

さらに関数を定義するさまざまなオプションを指定するための「Create Function: Option List (1/2) (関数の作成: オプション・リスト (1/2))」パネルを表示します。

5. Option List (More) (オプション・リスト (続き))

関数の追加のオプションを指定するための「Create Function: Option List (2/2) (関数の作成: オプション・リスト (2/2))」パネルを表示します。

6. Create the Function (関数の作成)

パラメーター、データ・タイプ、および必要に応じてオプション情報の指定を完了したら、この作成オプションを選択して、関数を作成します。

親パネル

- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」パネル ページ 629](#)
- [「Functions \(関数\)」パネル ページ 710](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Function (関数の作成): Parameters (パラメーター)」パネル ページ 545	作成オプション 1
「Create Function (関数の作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネル ページ 543	作成オプション 2
「Create Function (関数の作成): Returned Data Type (戻りデータ・タイプ)」パネル ページ 546	作成オプション 3
「Create Function (関数の作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」パネル ページ 539	作成オプション 4
「Create Function (関数の作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネル ページ 540	作成オプション 5

関連するタスク

- [Db2 オブジェクトの作成および除去 ページ 213](#)
- [関数の作成 ページ 245](#)

「Create Function (関数の作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネル

「Create Function (関数の作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネルでは、関数パラメーターの追加のタイプ情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Function: Parameter Types	Row 1 to 1 of 1
Parameter Name	+ Data Type(Length)	+ As LOC (Y/N)	<-----Like Table/View-----> Owner + Name +
PAR1	CHAR(3)		
***** Bottom of data *****			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			Scroll PAGE F7=Backward F8=Forward

Parameter Name (パラメーター名)

オプション 1 を使用して定義した通りです。

Data Type (Length) (データ・タイプ (長さ))

オプション 1 を使用して定義した通りです。

As LOC (Y/N) (ロケーターとして (Y/N))

LOB データ・タイプの場合には、値そのものの代わりにパラメーターのロケーターが渡されるかどうかを示します。

Y

ロケーターを渡す

N

値を渡す

Owner (所有者)

遷移表へのロケーターとしてパラメーターを定義します。

Like Table/View Name (類似表/ビュー名)

所有者および名前は、列が遷移表と一致している表またはビューを指定します。

親パネル

- ・ [「Create Function \(関数の作成\)」パネル ページ 542](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [関数の作成 ページ 245](#)

「Create Function (関数の作成): Parameters (パラメーター)」パネル

「Create Function (関数の作成): Parameters (パラメーター)」パネルでは、関数のパラメーターを定義します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Function Parameters	Row 1 to 1 of 1
		<---(For Built in Data Types)----->	
C		<DEC>	
M		<FL>	For User Defined
D	Parameter Name	+ Data Type	+ Len Pr Sc Data Data Type
	NAME	CHAR	20
***** Bottom of data *****			
Command ===>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			Scroll PAGE
			F7=Backward F8=Forward

Cmd (コマンド)

このフィールドはコマンドの入力のために使用されます。

Parameter Name (パラメーター名)

オプション 1 を使用して定義した通りです。

Data Type (データ型)

このフィールドは定義する列のデータ・タイプの入力のために使用されます。

長さ

このフィールドは (任意指定で) 長さの入力に使用され、任意指定で列のスケールの入力のために使用されます。INTEGER、REAL などの数値フィールドの場合には、長さの指定は不要です。文字フィールドの場合には、単一の長さの指定のみ必要です。10 進数フィールドでは、長さやスケールを指定できます。

DEC (10 進)

10 進数の場合。最初の整数は精度の数です。すなわち、合計桁数で、1 ~ 31 の範囲にすることができます。2 番目の整数は数値のスケールです。すなわち、小数点の右側の桁数で、0 ~ 数値の精度範囲にすることができます。

FL

浮動小数点数の場合。整数が 1 から 21 (を含む) までの場合には、形式は単精度浮動小数点です。整数が 22 から 53 (を含む) までの場合には、形式は倍精度浮動小数点です。

Pr Sc

スケールは数値の小数部分の合計桁数で、精度は数値の合計桁数です。

For Data (データ向け)

文字および文字ラージ・オブジェクト (CLOB) の定義によって、オプション [FOR DATA] 文節の指定ができます。このフィールドは適切な値を指定するために使用されます。

User Defined Data Type (ユーザー定義データ・タイプ)

列のデータ・タイプが特殊タイプ (ユーザー定義タイプ) であることを示します。列の長さ、精度、およびスケールは、それぞれ特殊タイプのソース・タイプの長さ、精度、およびスケールになります。特権セットには、特殊タイプに対する USAGE 特権が暗黙的または明示的に含まれていなければなりません。

親パネル

- [「Create Function \(関数の作成\)」パネル ページ 542](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [関数の作成 ページ 245](#)

「Create Function (関数の作成): Returned Data Type (戻りデータ・タイプ)」パネル

「Create Function (関数の作成): Returned Data Type (戻りデータ・タイプ)」パネルでは、関数によって戻されるデータ・タイプを指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Function: Returned Data Type		
Returns:			
Schema	_____	+ (optional, for user-defined types)	
Data Type	_____	+	
Length/Precision	_____	(optional)	
Scale	_____	(optional)	
For Data	Encoding Method		
- 1. SBCS	- 1. EBCDIC		
- 2. Mixed	- 2. ASCII		
- 3. Bit	- 3. UNICODE		
Cast From:			
Data Type	_____	+ (optional)	
Length/Precision	_____	(optional)	
Scale	_____	(optional)	
For Data	Encoding Method		
- 1. SBCS	- 1. EBCDIC		
- 2. Mixed	- 2. ASCII		
- 3. Bit	- 3. UNICODE		
As Locator:			
Enter "/" to select option			
Return a locator to the value (LOB data type only)			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F5=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

Schema (スキーマ)

ユーザー定義データ・タイプを修飾するスキーマ名を指定します。

Data Type (データ・タイプ) (Returns (戻り))

関数によって戻されるデータ・タイプを指定します。

Length/Precision (長さ/精度) (Returns (戻り))

組み込みデータ・タイプの長さを指定します。10進数データ・タイプでは、これは精度です。

Scale (目盛り) (Returns (戻り))

DECIMAL データ・タイプの場合だけです。

For Data (データ) (Returns (戻り))

1.SBCS

組み込みデータ・タイプの場合のみ。

2.Mixed

組み込みデータ・タイプの場合のみ。

3.Bit

組み込みデータ・タイプの場合のみ。

Encoding Method (エンコード方式) (Returns (戻り))

組み込みデータ・タイプの場合のみ。関数によって戻される実際のデータ・タイプを指定します。以下の注を参照してください。

Data Type (データ・タイプ) (Cast From (キャスト元))

関数によって戻されるデータ・タイプを指定します。

Length/Precision (長さ/精度) (Cast From (キャスト元))

組み込みデータ・タイプの長さを指定します。10 進数データ・タイプでは、これは精度です。

Scale (目盛り) (Cast From (キャスト元))

DECIMAL データ・タイプの場合だけです。

For Data (データ) (Cast From (キャスト元))

1.SBCS

組み込みデータ・タイプの場合のみ。

2.Mixed

組み込みデータ・タイプの場合のみ。

3.Bit

組み込みデータ・タイプの場合のみ。

Encoding Method (エンコード方式) (Cast From (キャスト元))

以下の注を参照してください。

As Locator (ロケータとして)

LOB データ・タイプの場合には、値そのものの代わりにパラメーターのロケータが戻されることを示します。



注: “Cast From (キャスト元)” が指定されていない場合、“Returns (戻り)” の **Encoding Method (エンコード方式)**

が、関数によって呼び出し側ステートメントに戻されたデータ・タイプを定義します。“Cast From (キャスト元)”

が指定されている場合、“Cast From (キャスト元)” の「**Encoding Method (エンコード方式)**」が関数によって戻され

たデータ・タイプになり、“Returns (戻り)” の「**Encoding Method (エンコード方式)**」が Db2® によって呼び出し側

ステートメントに渡されたデータ・タイプになります (“Cast From (キャスト元)” データ・タイプから “cast (キャスト)

)”するようにします)。

親パネル

- [「Create Function \(関数の作成\)」 パネル ページ 542](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [関数の作成 ページ 245](#)

「Create Index (索引作成)」 パネル

「Create Index (索引作成)」 パネルでは、既存の基本表の索引を作成することができます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)			Create Index		
New Index:					
Owner	_____		+ (optional)		
Name	_____		+		
Table Owner	_____		+ (optional)		
Table Name	_____		+		
Buffer Pool	_____		(optional, BP0-BP49)		
Index Creation:					
Creation Options					
2	1. Index type		(optional)		
	2. Index columns		(required, except on auxiliary tables)		
	3. Allocation		(optional, usually needed)		
	4. Index options		(optional)		
	5. Partitions		(partitioned indexes only)		
	6. Partition values		(required for partitioned indexes)		
	7. Create the index				
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

Owner (所有者)

索引の所有者。

Name (名前)

索引の名前。これは必須フィールドです。

Table Owner (表所有者)

索引を定義している、表の作成に使用された SQLID。

Table Name (表名)

索引を作成している、表の名前。これは必須フィールドです。索引を作成している、表の名前を入力することができます。表の存在を確認するために、妥当性検査を実行する必要があります。

Buffer Pool (バッファ・プール)

索引データ・セットを作成する、バッファ・プールの名前。

Creation Options (作成オプション)

使用したい作成オプションの番号を指定します。

1. Index type (索引タイプ)

作成される索引のタイプを定義するための情報を指定します。「Create Index (索引の作成): Type (タイプ)」パネル

2. Index columns (索引列)

索引を構成する列を選択します。「Create Index (索引の作成): Column Selection (列選択)」パネル。

3. Allocation (割り振り)

作成される索引のスペース所要量を指定します。「Create Index (索引の作成): Allocation (割り振り)」パネルを表示します。

4. Index options (索引オプション)

作成する索引のオプションを定義する情報を指定するために使用します。「Create Index (索引の作成): Options (オプション)」パネル。

5. Partitions (区画)

索引区画のスペース情報を指定します。「Create Index (索引作成): Partitions (区画)」パネルを表示します。

6. Partition values (区画値)

それぞれの区画の索引入力のにしきい値を指定します。「Create Index: (索引作成:) Partition Values (区画値)」パネルを表示します。

7. Create the index (索引の作成)

作成する索引の詳細の指定を完了したら、この作成オプションを選択して、索引を作成します。

親パネル

- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」パネル ページ 629](#)
- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」パネル ページ 875](#)
- [「Indexes \(索引\)」パネル ページ 724](#)
- [「Explain Utilities \(エクस्पレーン・ユーティリティ\)」パネル ページ 688](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Index (索引の作成): Type (タイプ)」パネル ページ 558	作成オプション 1
「Create Index (索引の作成): Column Selection (列選択)」パネル ページ 552	作成オプション 2
「Create Index (索引の作成): Allocation (割り振り)」パネル ページ 551	作成オプション 3
「Create Index (索引の作成): Options (オプション)」パネル ページ 553	作成オプション 4
「Create Index (索引の作成): Partitions (パーティション)」パネル ページ 555	作成オプション 5
「Create Index (索引の作成): Partition Values (区画値)」パネル ページ 556	作成オプション 6

関連するタスク

- [索引の作成 ページ 243](#)

「Create Index (索引の作成): Allocation (割り振り)」 パネル

「Create Index (索引の作成): Allocation (割り振り)」 パネルでは、作成する索引のスペース要件を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	Create Index: Allocation				
Data Set Parameters:					
VCAT name	_____ (for user-defined data sets only)				
Storage group name _____	+				
Space Requirements for Storage Group:					
Primary space	20	_____ (in kilobytes)			
Secondary space	10	_____ (in kilobytes)			
Free Space Options:					
Free pages	___	(0-255, default 0)			
Free space	___	(0-99 percent, default 10)			
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

VCAT name (VCAT 名)

ユーザー定義データ・セット。

Storage group name (ストレージ・グループ名)

Db2 定義データ・セット (STOGROUP 名)

Primary space (1 次スペース)

管理される Db2® データ・セットの最小の 1 次スペース割り振りを指定します。

Secondary space (2 次スペース)

管理される Db2® データ・セットの最小の 2 次スペース割り振りを指定します。

Free pages (フリー・ページ)

有効値は 0-255 です。詳細については、「DB2 for z/OS SQL 解説書」を参照してください。

Free space (フリー・スペース)

有効値は 0-99 です。詳細については、「File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス (IMS データ用)」を参照してください。

親パネル

- [「Create Index \(索引作成\)」 パネル ページ 549](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [索引の作成 ページ 243](#)

「Create Index (索引の作成): Column Selection (列選択)」 パネル

「Create Index (索引の作成): Column Selection (列選択)」 パネルを使用して索引を構成する列を選択します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Index: Column Selection	Row 1 to 1 of 1
New Index:			
Owner			+
Name	IND1		+
Table owner			+
Table name	TABLE1		+
Se1 Ord (A/D)	Column Name	Datatype(length)	+ Null Attr.
_____	COL1	CHAR(3)	
***** Bottom of data *****			
Command ==>> _____ Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

Owner (所有者)

新しい索引の所有者の名前。

Name (名前)

新しい索引の名前。

Table owner (表所有者)

索引を定義している、表の作成に使用された SQLID。

Table name (テーブル名)

索引が作成される表。

パネル下部には、通常の ISPF 方式でスクロールできる表が示されます。

Sel

入力選択フィールドです。ここでは、索引を構成する列を識別できます。Sを入力して、どの列でも選択または選択解除できます。また、索引の列の順序付けを指示するために、列に対して番号を入力することもできます。

Order (順序)

表示専用フィールドです。使用可能な値は、スペース (この列が索引の一部でないことを示す)、または番号 (この列が索引の一部として選択されて、選択された列間の順序であることを示す) です。

(A/D)

列の値の索引付け方法を指示します。「Sel」がblankで「A/D」がblankでない場合は、「Sel」に“S”が入っているものとして扱われます。使用できるオプションは、次のとおりです。

A

昇順。これはデフォルトです。値を指定しないと、パネルが再表示されたときに、このフィールドに“A”が入っています。

D

降順

Column name (列名)

列の名前。

Data Type (length) (データ・タイプ (長さ))

列の Db2® データ・タイプ。

Null Attribute (ヌル属性)

列でヌル値が許可されるかどうかを示します。

親パネル

- [「Create Index \(索引作成\)」 パネル ページ 549](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [索引の作成 ページ 243](#)

「Create Index (索引の作成): Options (オプション)」 パネル

「Create Index (索引の作成): Options (オプション)」 パネルは、作成する索引のオプションを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Index Options		
Data Storage Options: Enter '/' to select option			
/ Close when not in use			
- Erase data on delete			
- Defer building index			
/ Define data set now			
- Allow COPY of index			
Group Buffer Pool Usage: Write to the group buffer pool			
- 1. Changed			
- 2. All			
- 3. None			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetrieval F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

入力フィールドの最初のグループでは、該当するオプションを「/」選択文字で選択することができます。次のセクションでは、オプションについて説明します。

Close when not in use (使用していないときはクローズ)

これは CLOSE YES/NO 文節と対応しています。これは、オープン・データ・セットの最大数に達したときに、Db2® がオープン・データ・セットをどのように処理するかに関連しています。

Erase data on delete (削除時にデータを消去)

これは「USING」ブロック内の ERASE YES/NO 文節と対応しています。ERASE YES は、区画を削除 (除去) するときに、その区画と関連付けられたデータ・セットが 2 進ゼロで上書きされることを意味しています。

Defer building index (索引ビルドの据え置き)

これは DEFER YES/NO 文節と対応しています。デフォルト値は DEFER NO で、CREATE INDEX ステートメントの実行時に索引が作成されることを意味しています。

Define data set now (今すぐデータ・セットを定義する)

これは DEFINE YES/NO 文節と対応しています。デフォルトは DEFINE YES で、CREATE INDEX ステートメントの実行時に、索引に使用されるデータ・セットが作成されることを意味しています。

Allow COPY of index (索引コピー可能)

これは COPY YES/NO 文節と対応しています。デフォルト値は COPY NO で、索引に対してコピー・ユーティリティーを使用できないことを意味しています。

パネルの 2 番目の入力フィールドには、グループ・バッファ・プールの使用に関する 3 つのオプションがあります。該当する番号を入力して、必須指定のオプションを選択することができます。これは作成ステートメントの構文の GBPCACHE 文節と対応しています。

親パネル

- [「Create Index \(索引作成\)」](#) パネル ページ 549

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [索引の作成 ページ 243](#)

「Create Index (索引の作成): Partitions (パーティション)」パネル

「Create Index (索引の作成): Partitions (パーティション)」パネルでは、索引区画のスペース情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Index: Partitions	Row 1 to 1 of 1
New Index:			
Owner			+
Name	IND1		+
Table owner			+
Table name	TABLE1		+
Cmd Number	Parttn. VCAT STOGROUP Primary Secndry Erase Free % Grp BP		
1	Name + Space Space Data? Pages Free Caching		
***** Bottom of data *****			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		Scroll PAGE	
		F7=Backward F8=Forward	

Owner (所有者)

新しい索引の所有者の名前。

Table owner (表所有者)

索引を定義している、表の作成に使用された SQLID。

Name (名前)

新しい索引の名前。

Table name (テーブル名)

索引が作成される表。

Cmd (コマンド)

入力選択フィールドです。パネルが最初に表示されたときには、この表には 1 行が含まれて、デフォルト値が入力されています。追加の区画タイプを定義するには、選択フィールドに「1」を入力して Enter キーを押しま

す。また、「R」を入力して現行の定義を繰り返すこともできます。その他の有効な選択コマンドは、後に整数を続けた *i* と *r* です。

Parttn. Number (区画番号)

定義された区画の番号を示す順序番号です。これは表示専用フィールドです。

VCAT Name (VCAT 名)

ユーザー指定のデータ・セットを定義するために使用される VCAT 名です。これは入力フィールドです。これは、STOGROUP パラメーターとは相互に排他的です。

STOGROUP name (STOGROUP 名)

索引データ・セットを定義する Db2® ストレージ・グループ名です。これは入力フィールドです。これは、VCAT パラメーターとは相互に排他的です。

Primary Space (1 次スペース)

区画の 1 次スペース割り振り (キロバイト) です。

Secndry Space (2 次スペース)

区画の 2 次スペース割り振り (キロバイト) です。

Erase Data? (データ消去?)

ERASE YES/NO 文節と対応する YES/NO 値です。

Free Pages (フリー・ページ)

フリー・ページにより、Db2® は *n* ページごとに空ページを残します (*n* は指定したページです)。

% Free (% 空き容量)

ここで指定した値により、Db2® はフリー・ページごとに *n*% を残します (*n* は指定したパーセントです)。

Grp BP Caching (グループ BP キャッシング)

これは (区画ごとの) 作成ステートメントの GBPCACHE 文節と対応しています。これらのオプションが適用されるのは、データ共用環境内だけです。

親パネル

- ・ [「Create Index \(索引作成\)」 パネル ページ 549](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [索引の作成 ページ 243](#)

「Create Index (索引の作成): Partition Values (区画値)」 パネル

「Create Index (索引の作成): Partition Values (区画値)」パネルを使用して、それぞれの区画の索引入力のにきい値を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Index: Partition Values	Row 1 to 6 of 6
New Index:			
Owner		+
Name FRED		+
Table owner FMUSER		+
Table name EMP		+
Parttn.			
Number	Column Name	Value	+
1	EMPNO	_____	
	FIRSTNME	_____	
	MIDINIT	_____	
2	EMPNO	_____	
	FIRSTNME	_____	
	MIDINIT	_____	
***** Bottom of data *****			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			Scroll PAGE
			F8=Forward

Owner (所有者)

新しい索引の所有者の名前。

Name (名前)

新しい索引の名前。

Table owner (表所有者)

索引を定義している、表の作成に使用された SQLID。

Table name (テーブル名)

索引が作成される表。

Parttn. Number (区画番号)

定義された区画の番号を示す順序番号です。これは表示専用フィールドです。

Column name (列名)

列の名前。

Value (値)

SQL で取り扱われるデータの最小単位。

親パネル

- ・ [「Create Index \(索引作成\)」パネル ページ 549](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [索引の作成 ページ 243](#)

「Create Index (索引の作成): Type (タイプ)」 パネル

「Create Index (索引の作成): Type (タイプ)」 パネルでは、作成される索引のタイプを定義するための情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Index Type		
Index Type Options:			
Uniqueness			
1	1. Non-Unique		
	2. Unique		
	3. Unique Not Null		
Clustering Index Option:			
Enter '/' to select option			
/	Clustering Index (required for partitioned indexes)		
Non-Partitioned Index:			
Piecesize _____	Multiplier	
		— 1. K (1024)	
		2. M (1048576)	
		3. G (1073741824)	
(Specify the partitions for a partitioned index using Create Index option 5)			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

1. Non-Unique (非固有)

重複する索引値が許可されます。

2. Unique (固有)

索引のすべての項目の特殊値。

3. Unique Not Null (固有の非ヌル)

索引のすべての非ヌル項目の特殊値。

Clustering Index Option (クラスター化索引オプション)

“/”を入力して、クラスター化索引 (CLUSTER キーワード) を指定します。

Piecesize (断片サイズ)

それぞれの断片 (非区画索引データ・セット) の最大アドレス可能性を指定することができます。入力する値は 2 の累乗でなければならない、有効な値はその乗数によって異なります。

- 乗数が K の場合には、有効な値は 2^{**n} で、256 から 67 108 864 (を含む) の間です。
- 乗数が M の場合には、有効な値は 2^{**n} で、1 から 66 536 (を含む) の間です。
- 乗数が G の場合には、有効な値は 2^{**n} で、1 から 64 (を含む) の間です。

親パネル

- [「Create Index \(索引作成\)」パネル ページ 549](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [索引の作成 ページ 243](#)

「Create Procedure (プロシージャの作成)」パネル

「Create Procedure (プロシージャの作成)」パネルを使用して、新規のプロシージャを作成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Create Procedure
Stored Procedure:			
Schema	. . . _____		+ (optional)
Name _____		+
Result Sets	. _____		(optional)
Stored Procedure Creation:			
Creation Options			
-	1. Parameters		(optional, usually required)
	2. Parameter Types		(optional, define parameters first)
	3. Option List		(required)
	4. Option List (More)		(optional)
	5. Create the Procedure		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
	F7=Backward	F8=Forward	

Schema (スキーマ)

プロシージャが定義されるスキーマの名前。

Name (名前)

ストアード・プロシージャの名前。

Result Sets (結果セット)

ストアード・プロシージャによって戻される動的結果セットの最大数を指定します。

Creation Options (作成オプション)

使用したい作成オプションの番号を指定します。

1. Parameters (パラメーター)

作成するプロシージャのパラメーターを定義する情報を指定するために使用します。「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameters (パラメーター)」パネルが表示されます。

2. Parameter Types (パラメーター・タイプ)

表またはビューに関連したパラメーター・タイプを定義するための情報を指定し、パラメーター・タイプを指定します。「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネルを表示します。

3. Option List (オプション・リスト)

作成するプロシージャのオプションを定義する情報を指定するために使用します。「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」パネル

4. Option List (More) (オプション・リスト (続き))

作成するプロシージャのオプションを定義する情報をさらに指定します。「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネル

5. Create the Procedure (プロシージャの作成)

作成するストアド・プロシージャの詳細の指定を完了したら、この作成オプションを選択して、ストアド・プロシージャを作成します。

親パネル

- ・ [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」パネル ページ 629](#)
- ・ [「Stored Procedures \(ストアド・プロシージャ\)」パネル ページ 843](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameters (パラメーター)」パネル ページ 565	作成オプション 1
「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネル ページ 563	作成オプション 2
「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」パネル ページ 561	作成オプション 3
「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネル ページ 562	作成オプション 4

関連するタスク

「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」パネル

「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」パネルは、作成するプロシージャのオプションを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Procedure Option List (1/2)		
External Name	_____		+ (optional)
Package Collection	_____		+ (optional)
Workload Manager Environment _____			+ (optional)
Time Limit (CPU units)	_____		(CPU units - optional)
LANGUAGE (Required) SQL Security			
- 1. ASSEMBLE	- 1. Reads SQL Data	- 1. Db2	
2. C	2. No SQL	2. User	
3. COBOL	3. Modifies SQL Data	3. Definer	
4. PL/I	4. Contains SQL		
Parameter Style			
- 1. DB2SQL			
2. General			
3. General with nulls			
Run-time Options (optional) _____ +			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward
			F8=Forward

External Name (外部名)

プロシージャを実行するユーザー作成のコードが入っている MVS™ ロード・モジュールの名前。

Package Collection (パッケージ・コレクション)

プロシージャの実行時に使用されるパッケージ・コレクションを指定します。指定されていないと、起動プログラムのパッケージ・コレクションが使用されます。

Workload Manager Environment (ワークロード・マネージャー環境)

プロシージャを実行する MVS™ ワークロード・マネージャー環境を指定します。

Time Limit (CPU units) (時間制限 (CPU 単位))

プロシージャの単一呼び出しによって使用される処理プログラム・サービス単位を制限します。

Language (言語)

プロシージャのアプリケーション・プログラミング言語。

SQL

プロシージャが含まれる SQL ステートメントのタイプを指定します。

Security (セキュリティ)

外部セキュリティ・プロダクトとのプロシージャの対話を指定します。

Parameter Style (パラメーター・スタイル)

1. Db2SQL

Db2® 情報を含む追加のパラメーターがプロシージャに渡されます。

2. General (一般)

CALL ステートメントのパラメーターだけがプロシージャに渡され、これをヌルにすることはできません。

3. General with nulls (ヌル付き一般)

CALL ステートメントのパラメーターに加えて、ヌル標識のベクトルが渡されます。

親パネル

- ・ [「Create Procedure \(プロシージャの作成\)」パネル ページ 559](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [プロシージャの作成 ページ 247](#)

「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネル

「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネルを使用して、作成されるプロシージャのオプションを定義するための情報をさらに指定します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Create Procedure Option List (2/2)

Enter '/' to select option
- Main Program
- Stay Resident
- Deterministic
- DBINFO argument passed
- Commit on return

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions F12=Cancel
  
```

Main Program (メインプログラム)

チェックすると、プログラムはメインルーチンとして実行され、なければサブルーチンとして実行されます。

Stay Resident (常駐のまま)

チェックすると、関数ロード・モジュールは関数の終了時にメモリー内に残されます。

Deterministic (決定論的)

チェックすると、関数は同じ入力値のセットに対して同一の結果を戻します。

DBINFO argument passed (渡される DBINFO 引数)

チェックすると、関数の呼び出し時に、追加の Db2® 情報を渡すように指示します。

Commit on return (戻り時のコミット)

チェックすると、ストアード・プロシージャを戻すときに Db2® がコミットを出すように指示します。

親パネル

- [「Create Procedure \(プロシージャの作成\)」パネル ページ 559](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [プロシージャの作成 ページ 247](#)

「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネル

「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネルでは、表またはビューに関連したパラメーター・タイプを定義するための情報を指定し、パラメーター・タイプを指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Procedure: Parameter Types	Row 1 to 1 of 1
Parameter Name	+ Data Type(Length)	As LOC <-----Like Table/View----->	IN OUT
PARAM1	+ CHAR(3)	+ (Y/N) Owner + Name	+ INOUT
***** Bottom of data *****			
Command ==>		Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

Parameter Name (パラメーター名)

パラメーターの名前。

Data Type (Length) (データ・タイプ (長さ))

パラメーターのデータ・タイプ。

As LOC (Y/N) (ロケーターとして (Y/N))

LOB データ・タイプの場合には、値そのものの代わりにパラメーターのロケーターが渡されることを示します。

Owner (所有者)

遷移表へのロケーターとしてパラメーターを定義します。

Like Table/View Name (類似表/ビュー名)

所有者および名前は、列が遷移表と一致している表またはビューを指定します。

IN OUT INOUT

パラメーターを入力用にのみ使用できるか、出力用にのみ使用できるか、あるいは入力と出力の両方に使用できるかを指定します。有効な値は以下のとおりです。

IN

パラメーターを入力パラメーターとして示します。

OUT

パラメーターを出力パラメーターとして示します。

INOUT

パラメーターを入力と出力の両方のパラメーターとして示します。

親パネル

- [「Create Procedure \(プロシージャの作成\)」 パネル ページ 559](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [プロシージャの作成 ページ 247](#)

「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameters (パラメーター)」 パネル

「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameters (パラメーター)」 パネルでは、作成するプロシージャのパラメーターを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>U</u> tilities	<u>H</u> elp
FM/Db2 (DFG2)		Create Procedure: Parameters	Row 1 to 1 of 1
		<---(For Built in Data Types)----->	
		<DEC>	
		<FL>	For User Defined
Cmd	Parameter Name	+ Data Type	Len Pr Sc Data Data Type +
	PARAM1	CHAR	3
***** Bottom of data *****			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			Scroll PAGE
			F8=Forward

Cmd (コマンド)

このフィールドはコマンドの入力のために使用されます。

Parameter Name (パラメーター名)

オプション 1 を使用して定義した通りです。

Data Type (データ型)

このフィールドは定義する列のデータ・タイプの入力のために使用されます。

長さ

このフィールドは (任意指定で) 長さの入力に使用され、任意指定で列のスケールの入力のために使用されます。INTEGER、REAL などの数値フィールドの場合には、長さの指定は不要です。文字フィールドの場合には、単一の長さの指定のみ必要です。10 進数フィールドでは、長さやスケールを指定できます。

10 進

10 進数の場合。最初の整数は精度の数です。すなわち、合計桁数で、1 ~ 31 の範囲にすることができます。2 番目の整数は数値のスケールです。すなわち、小数点の右側の桁数で、0 ~ 数値の精度範囲にすることができます。

FL

浮動小数点数の場合。整数が 1 から 21 (を含む) までの場合には、形式は単精度浮動小数点です。整数が 22 から 53 (を含む) までの場合には、形式は倍精度浮動小数点です。

Pr Sc

スケールは数値の小数部分の合計桁数で、精度は数値の合計桁数です。

For Data (データ向け)

文字および文字ラージ・オブジェクト (CLOB) の定義によって、オプション [FOR DATA] 文節の指定ができます。このフィールドは適切な値を指定するために使用されます。

User Defined Data Type (ユーザー定義データ・タイプ)

列のデータ・タイプが特殊タイプ (ユーザー定義タイプ) であることを示します。列の長さ、精度、およびスケールは、それぞれ特殊タイプのソース・タイプの長さ、精度、およびスケールになります。特権セットには、特殊タイプに対する USAGE 特権が暗黙的または明示的に含まれていなければなりません。

親パネル

- [\[Create Procedure \(プロシージャの作成\)\] パネル ページ 559](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [プロシージャの作成 ページ 247](#)

[Create Synonym (同義語作成)] パネル

[Create Synonym (同義語作成)] パネルを使用して、新規の同義語を作成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Create Synonym
Synonym Details:			
Name	DBNAME		+
Table or View Details:			
Owner			+
Name	TABLE1		+
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetrieV F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Name (名前) (Synonym Details (同義語の詳細))

作成する同義語の名前。

Owner (所有者)

表の所有者。

Name (所有者) (Table or View Details (表またはビューの詳細))

表の名前。

親パネル

- [\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\] パネル ページ 629](#)
- [\[Synonyms \(同義語\)\] パネル ページ 845](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [同義語の作成 ページ 245](#)

[Create Table (表の作成)] パネル

[Create Table (表の作成)] パネルは、新しい表を作成するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Create Table
New Table:			
Owner	_____		+ (optional)
Name	TABLE1		+
Database	_____		(optional)
Table Space	_____		(optional)
Model Table/View: (optional)			
Owner	_____		+
Name	_____		+
Usage:			
<u>1</u>	1. Generate LIKE clause		
	2. Load table information		
Table Creation:			
Creation Options	(Use option 1 before options 2, 4-9)		
<u>1</u>	1. Columns (normally required, invalid with model LIKE)		
	2. Nulls/default values (optional)		
	3. Table options (editproc,validproc,more; optional)		
	4. Unique Constraints (primary/unique keys; optional)		
	5. Referential Constraints (foreign keys; optional)		
	6. Check constraints (optional)		
	7. Procedure exits (optional)		
	8. Generate values (optional)		
	9. Create the table		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

Owner (所有者) (New Table (新規表))

新しい表の所有者の名前。

Name (所有者) (New Table (新規表))

新しい表の名前。

Database (データベース)

新しい表を作成しようとしているデータベースの名前。

Table Space (表スペース)

新しい表を作成しようとしている表スペースの名前。

Owner (所有者) (Model Table/View (モデル表/ビュー))

モデル表の所有者の名前。

Name (名前) (Model Table/View (モデル表/ビュー))

モデル表の名前。

Creation Options (作成オプション)

使用したい作成オプションの番号を指定します。

1. Columns (列)

作成する表の列を定義する情報を指定するために使用します。 [Create Table (表の作成): Columns (列)] パネルを表示します。

2. Nulls/default values (ヌル/デフォルト値)

表の列にヌル属性およびデフォルト値を定義する情報を指定するために使用します。「Create Table (表の作成): Nulls and Default Values (ヌルとデフォルト値)」パネル。

3. Table options (表オプション)

作成する表のオプションを定義する情報を指定するために使用します。「Create Table (表の作成): Options (オプション)」パネル。

4. Unique Constraints (固有制約)

作成する表の基本キーおよび最大3つまでの追加の固有キーを定義する情報を指定するために使用します。「Create Table (表の作成): Unique Constraints (固有制約)」パネル。

5. Referential Constraints (参照制約)

表に1つ以上の列の参照制約を定義する情報を指定するために使用します。「Create Table (表の作成): Column Referential Constraints (列参照制約)」パネル。

6. Check Constraints (検査制約)

表に列の検査制約を定義する情報を指定するために使用します。「Create Table (表の作成): Column Check Constraints (列検査制約)」パネルまたは「Create Table: Table Check Constraints (表検査制約)」パネルを表示します。

7. Procedure exits (プロシージャー出口)

作成する表のプロシージャー出口を定義する情報を指定するために使用します。「Create Table (表の作成): Procedure Exits (プロシージャー出口)」パネル。

8. Generate values (値の生成)

表の識別列または ROWID 列の生成値を定義する情報を指定するために使用します。「Create Table (表の作成): Generate Values (値の生成)」パネル。

9. Create the table (表の作成)

作成する表の詳細の指定を完了したら、この作成オプションを選択して、表を作成します。

親パネル

- 「Db2 Object Functions (オブジェクト機能)」パネル ページ 629
- 「Table Spaces (表スペース)」パネル ページ 866
- 「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル ページ 875

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Table (表の作成): Columns (列)」パネル ページ 584	作成オプション 1

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Table (表の作成): Nulls and Default Values (ヌルとデフォルト値)」 パネル ページ 590	作成オプション 2
「Create Table (表の作成): Options (オプション)」 パネル ページ 594	作成オプション 3
「Create Table (表の作成): Unique Constraints (固有制約)」 パネル ページ 602	作成オプション 4
「Create Table (表の作成): Column Referential Constraints (列参照制約)」 パネル ページ 583	作成オプション 5 ²³
「Create Table (表の作成): Column Check Constraints (列検査制約)」 パネル ページ 582	作成オプション 6
「Create Table (表の作成): Procedure Exits (プロシージャ出口)」 パネル ページ 596	作成オプション 7
「Create Table (表の作成): Generate Values (値の生成)」 パネル ページ 587	作成オプション 8
「Create Table (表の作成): Model Load (モデル・ロード)」 パネル ページ 588	24
「Create Table (表の作成): Columns (列)」 パネル ページ 584	以下の注を参照 ²³

関連するタスク

- [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table Space (表スペースの作成)」 パネル

「Create Table Space (表スペースの作成)」 パネルは、新しい表スペースを作成するために使用します。

23. 「Create Table (表の作成)」 メイン・パネルで 「Table Creation (表の作成)」 オプション 5 (「**Referential Constraints (参照制約)**」) を選択すると、FM/Db2 は 「Column Referential Constraints (列の参照制約) パネル」 (「[Create Table \(表の作成\): Column Referential Constraints \(列参照制約\)」](#) パネル ページ 583) または 「Table Referential Constraints (表の参照制約) パネル」 (「[Create Table \(表の作成\): Table Referential Constraint \(表参照制約\)」](#) パネル ページ 598) のいずれかを表示します。あるパネルから別のパネルへ変更するには、F5 機能キーを押してください。
24. 「Create Table: Model Load (表の作成: モデル・ロード)」 パネルは、次の場合に表示されます。
 - 「**Model Table/View (モデル表/ビュー)**」の詳細を最初に指定するか、以後に変更し、
 - 「Usage (使用法)」 オプション 2 (「**Load table (表情報のロード)**」) を選択して、
 - Enter キーを押します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Table Space		
Table Space Definition:			
Name	_____	(required)	
Database	_____	(optional)	
Buffer pool	_____	(optional: BPn, BP8Kn, BP16Kn, BP32Kn)	
Table Space Creation:			
Creation Options			
1	1. Table space type	(optional, usually needed)	
	2. Table space allocation	(optional, usually needed)	
	3. Data storage options	(optional)	
	4. Locking options	(optional)	
	5. Data sharing options	(optional)	
	6. Partitions	(partitioned table spaces only)	
	7. Create the table space		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Name (名前)

作成する表スペースの名前。

Database (データベース)

表スペースを作成しようとしているデータベースの名前。

Buffer pool (バッファ・プール)

表スペースに使用されるバッファ・プールの名前。

Creation Options (作成オプション)

使用したい作成オプションの番号を指定します。

1. Table space type (表スペース・タイプ)

作成する表スペースのタイプを定義する情報を指定するために使用します。「Create Table Space: (表スペースの作成) Type (タイプ)」パネル

2. Table space allocation (表スペース割り振り)

作成する表スペースのデータ・セットとスペース割り振りを定義する情報を指定するために使用します。「Create Table Space: (表スペースの作成) Allocation (割り振り)」パネルを表示します。

3. Data storage options (データ・ストレージ・オプション)

作成する表スペースのデータ・ストレージ・オプションを定義する情報を指定するために使用します。「Create Table Space: (表スペースの作成) Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)」パネルが表示されます。

4. Locking options (ロック・オプション)

作成する表スペースのロック・オプションを定義する情報を指定するために使用します。

「Create Table Space: (表スペースの作成) 「Locking Options (ロック・オプション)」パネル。

5. Data sharing options (データ共有オプション)

作成する表スペースのデータ共有オプションを定義する情報を指定するために使用します。
 「Create Table Space: (表スペースの作成) Data Sharing Options (データ共有オプション)」パネル。

6. Partitions (区画)

作成する区分表スペースの区画を定義する情報を指定するために使用します。「Create Table Space: (表スペースの作成) Define Partitions (区画の定義)」パネル。

7. Create the table space (表スペースの作成)

作成する表スペースの詳細の指定を完了したら、この作成オプションを選択して、表スペースを作成します。

親パネル

- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」](#) パネル ページ 629
- [「Databases \(データベース\)」](#) パネル ページ 616
- [「Table Spaces \(表スペース\)」](#) パネル ページ 866

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Table Space (表スペースの作成): Type (タイプ)」 パネル ページ 580	作成オプション 1
「Create Table Space (表スペースの作成): Allocation (割り振り)」 パネル ページ 572	作成オプション 2
「Create Table Space (表スペースの作成): Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)」 パネル ページ 575	作成オプション 3
「Create Table Space (表スペースの作成): Locking Options (ロック・オプション)」 パネル ページ 579	作成オプション 4
「Create Table Space (表スペースの作成): Data Sharing Options (データ共有オプション)」 パネル ページ 574	作成オプション 5
「Create Table Space (表スペースの作成): Define Partitions (区画の定義)」 パネル ページ 577	作成オプション 6

関連するタスク

- [Db2 オブジェクトの作成および除去](#) ページ 213
- [表スペースの作成](#) ページ 230

[「Create Table Space \(表スペースの作成\): Allocation \(割り振り\)」](#) パネル

「Create Table Space (表スペースの作成): Allocation (割り振り)」パネルは、作成する表スペースのデータ・セットとスペース割り振りを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Table Space: Allocation		
Dataset Parameters:			
VCAT name	_____	(for user defined data sets only)	
Storage group name	_____	+ (only if VCAT name omitted)	
Space Requirements (Only if Storage Group Name specified):			
Primary space	_____	KB	
Secondary space	_____	KB	
Free Space and Rows per Data Page:			
Free pages	_____	(0,255 inclusive, default value is 0)	
Free space	_____	(0-99 inclusive, default value is 5)	
Maximum rows per page _____		(1-255 inclusive, default value is 255)	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

VCAT name (VCAT 名)

表スペースの 1 次データ・セットがそのユーザーによって管理されることを指定します。

Storage group name (ストレージ・グループ名)

表スペースのデータ・セットを定義して管理する Db2® を指定します。

Primary space (1 次スペース)

管理される Db2® データ・セットの最小の 1 次スペース割り振りを指定します。

Secondary space (2 次スペース)

管理される Db2® データ・セットの最小の 2 次スペース割り振りを指定します。

Free pages (フリー・ページ)

表スペースまたは区画をロードまたは再編成するとき、フリー・スペースのページをどのくらいの頻度で残すかを指定します。

Free space (フリー・スペース)

1 ページ中の未使用スペースの合計容量。

Maximum rows per page (ページ当たり最大行数)

Db2® が各データ・ページへの挿入を検討する最大行数を示します。

親パネル

- ・ [「Create Table Space \(表スペースの作成\)」パネル ページ 570](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表スペースの作成 ページ 230](#)

「Create Table Space (表スペースの作成): Data Sharing Options (データ共有オプション)」パネル

「Create Table Space (表スペースの作成): Data Sharing Options (データ共有オプション)」パネルを使用して、作成する表スペースのデータ共有オプションを定義する情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Table Space: Data Sharing Options		
Selective Partition Locking: Enter '/' to select option _ Use selective partition locking			
Group Buffer Pool Usage: Write to the Group Buffer Pool _ 1. Changed 2. All 3. System 4. None			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

パネル上部の選択フィールドに “/” を入力すると、以下のオプションを選択できます。

Selective Partition Locking (選択的区画ロック)

選択的区画ロックおよびソフトウェアの前提条件の詳細については、*DB2 for z/OS SQL 解説書* を参照してください。

Group Buffer Pool Usage (グループ・バッファ・プールの使用法)

1. Changed (変更)

表スペースまたは区画に対して Db2 間 R/W インタレストがあるときは、更新されたページはグループ・バッファ・プールに書き込まれます。Db2 間 R/W インタレストがないときは、グループ・バッファ・プールは使用されません。

2. All (すべて)

ページが DASD から読み取られると、そのページはグループ・バッファ・プールにキャッシュされることを示します。

3. System (システム)

LOB 表スペース内で変更されたシステム・ページだけがグループ・バッファ・プールにキャッシュされることを示します。

4. None (なし)

ページがグループ・バッファ・プールにキャッシュされないことを示します。

親パネル

- ・ [「Create Table Space \(表スペースの作成\)」 パネル ページ 570](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [表スペースの作成 ページ 230](#)

「Create Table Space (表スペースの作成): Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)」 パネル

「Create Table Space (表スペースの作成): Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)」 パネルを使用して、作成する表スペースのデータ・ストレージ・オプションを定義する情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Table Space: Data Storage Options		
Data Storage Options:			
Enter '/' to select option			
-	Use data compression		
/	Close when not in use		
-	Erase data on delete		
/	Define dataset now		
-	INSERT uses clustering index		
/	Track modified pages		
/	Log changes to LOB columns		
Encoding Method:			
Data Encoding			
-	1. EBCDIC		
-	2. ASCII		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Use data compression (データ圧縮の使用)

これは COMPRESS YES/NO 文節と対応しています。COMPRESS YES は、Db2® が圧縮形式でデータを保管することを意味します。

Close when not in use (使用していないときはクローズ)

これは CLOSE YES/NO 文節と対応しています。これは、オープン・データ・セットの最大数に達したときに、Db2® がオープン・データ・セットをどのように処理するかに関連しています。

Erase data on delete (削除時にデータを消去)

これは「USING」ブロックの ERASE YES/NO 文節と対応しています (「DB2 for z/OS SQL 解説書」を参照)。ERASE YES は、Db2® データ・セットを除去 (削除) するときに、それを 2 進ゼロで上書きすることを意味します。

Define dataset now (今すぐデータ・セットを定義する)

これは DEFINE YES/NO 文節と対応しています。DEFINE YES は、create ステートメントの実行時に Db2® が表スペースのデータ・セットを定義することを意味します。DEFINE NO は、表スペースにデータを入れるまで作成が遅れることを意味します。

INSERT uses clustering index (INSERT はクラスター索引を使用)

これは、MEMBER CLUSTER 文節と対応しています。

Track modified pages (変更したページをトラックする)

これは、TRACKMOD YES/NO 文節と対応しています。これは、データ・ページへの変更が表スペース・マップ・ページに記録される機能と関連しています。デフォルトの設定値は「TRACKMOD YES」です。「LOB」が指定されているときは、この文節にいくつかの制約事項があります。

Log changes to LOB columns (LOB 列の変更を記録)

これは、LOG YES/NO 文節と対応しています。LOG YES を指定できるのは、LOB 表スペースの場合だけです。

Data encoding (データ・エンコード)

エンコード方式のオプションを指定します。OS/390® システムの場合、デフォルト形式は EBCDIC です。

EBCDIC

エンコード・スキームを指定します。

ASCII

エンコード・スキームを指定します。

UNICODE

エンコード・スキームを指定します。

親パネル

- [「Create Table Space \(表スペースの作成\)」パネル ページ 570](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- 表スペースの作成 ページ 230

「Create Table Space (表スペースの作成): Define Partitions (区画の定義)」パネル

「Create Table Space (表スペースの作成): Define Partitions (区画の定義)」パネルを使用して、作成する区分表スペースの区画を定義する情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help							
FM/Db2 (DFG2)	Create Table Space: Define Partitions		Row 1 to 1 of 1							
New Table Space:										
Name									
Database									
Cmd	Pt. No.	VCAT Name	STOGRUP Name + Primary Space	Secndry Space	Erase Data	Free Pages	% Free	Use Data Cmpr?	Group BP Caching	Track Mod
1										
***** Bottom of data *****										
Command ==>										
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	Scroll PAGE					
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel	F8=Forward						

Cmd (コマンド)

区画情報が入っているパネルの行を操作するには、次の行コマンドを使用します。

I

1 行の新規行を挿入します。

In

新規の *n* 行を挿入します。

R

現在の行を繰り返します。

Rn

現在の行を *n* 回繰り返します。

D

1 行を削除します。

Dn

n 行削除します。

Pt. No. (区画番号)

区画番号

VCAT Name (VCAT 名)

これは、ユーザー定義のデータ・セットを指定するために使用されます。これは、STOGROUP 名とは相互に排他的です。

STOGROUP Name (STOGROUP 名)

これは、(Db2®) ストレージ・グループ名を指定するために使用されます。ストレージ・グループ名を指定することは、Db2® が区分データ・セットを作成することを意味します。これは、VCAT 名とは相互に排他的です。

Primary Space (1 次スペース)

これは、区画の 1 次スペース割り振り (キロバイト数) の指定に使用されます。

Secondary Space (2 次スペース)

これは、区画の 2 次スペース割り振り (キロバイト数) の指定に使用されます。

Erase Data (データ消去)

これは「USING」ブロック内の ERASE YES/NO 文節と対応しています。ERASE YES は、区画を削除 (除去) するときに、その区画と関連付けられたデータ・セットが 2 進ゼロで上書きされることを意味しています。

Free Pages (フリー・ページ)

フリー・ページにより、Db2® は n ページごとに空ページを残します (n は指定したページです)。

% Free (% 空き容量)

ここで指定した値により、Db2® はフリー・ページごとに $n\%$ を残します (n は指定したパーセントです)。

Use Data Cmpr? (使用データ CMPR?)

これは、COMPRESS NO/YES 文節と対応しています。YES は、データが圧縮形式で保管されることを表します。

Group BP Caching (グループ BP キャッシング)

これは (区画ごとの) 作成ステートメントの GBPCACHE 文節と対応しています。このオプションが適用されるのは、データ共用環境だけです。

TRACK MOD

Db2® が表スペースまたは区画のスペース・マップ・ページで変更されたページを追跡するかどうかを指定します。LOB 表スペースには TRACKMOD を指定しないでください。TEMP データベースの表スペースでは、Db2® はその値が指定されたかどうかに関係なく TRACKMOD NO を使用します。

親パネル

- [「Create Table Space \(表スペースの作成\)」パネル ページ 570](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [表スペースの作成 ページ 230](#)

「Create Table Space (表スペースの作成): Locking Options (ロック・オプション)」パネル

「Create Table Space (表スペースの作成): Locking Options (ロック・オプション)」パネルは、作成する表スペースのロック・オプションを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Table Space: Locking Options		
Locking Options:			
Locksize parameter			
-	1. ANY	Db2 determines the appropriate lock size	
	2. Table space		
	3. Table	segmented table spaces only	
	4. Page	not for LOB table spaces	
	5. Row	not for LOB table spaces	
	6. LOB	only for LOB table spaces	
Application Locking:			
	Maximum Locks	_____ (SYSTEM (default) or 0-2147483647)	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetrieiv F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Locksize parameter (LOCKSIZE パラメーター)

LOCKSIZE パラメーターを指定します。

1. ANY

Db2® が任意のロック・サイズを使用できることを示します。

2. Table space (表スペース)

Db2® が表スペース・ロックを使用できることを示します。

3. Table (表)

Db2® が表ロックを使用できることを示します。

4. Page (ページ)

Db2® がページ・ロックを使用できることを示します。

5. Row (行)

Db2® が行ロックを使用できることを示します。

6. LOB

Db2® が LOB ロックを使用できることを示します。

Maximum Locks (最大ロック数)

1つのアプリケーション・プロセスが表スペース内で同時に保持できる、ページ・ロック、行ロック、または LOB ロックの最大数。有効な値は、以下のとおりです。0 から 2147483647 または "SYSTEM"。

親パネル

- [「Create Table Space \(表スペースの作成\)」パネル ページ 570](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表スペースの作成 ページ 230](#)

「Create Table Space (表スペースの作成): Type (タイプ)」パネル

「Create Table Space (表スペースの作成): Type (タイプ)」パネルは、作成する表スペースのタイプを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Table Space: Type		
Table Space Type Option			
1	1. Normal	(default)	
	2. Large	(not valid if a partition size is specified)	
	3. LOB	(large object table space)	
Select either non-partitioned or partitioned below			
Non-Partitioned Table Space:			
	Segment size	___	KB (4,8,..,64 for segmented table space)
Partitioned Table Space:			
	No. of partitions	___	(1-254 for partitioned table space)
	Max. partition size	___	GB (blank,1,2,4,8,16,32,64)
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Table Space Type Option (表スペース・タイプ・オプション)

タイプ・オプションを指定します。

1. Normal (通常)

表スペースが標準 (非 LOB) 表スペースであることを示します。

2. Large (ラージ)

区画表スペースの各区画が 4 GB の最大区画サイズを持つことを示します。これは使用すべきでない SQL オプションと関連しているので、最大区画サイズを使用するのは好ましいことです。

「Large (ラージ)」を指定した場合は、「No. of partitions (区画の数)」を指定する必要があります。

3. LOB (large object) (LOB (ラージ・オブジェクト))

表スペースを LOB 表スペースとして示します。「LOB」が指定された場合には、**セグメント・サイズも区画の数も**指定することはできません。

LOB はラージ・オブジェクトを意味します。LOB 表スペースは、表スペースの単一ページに収まらないデータの保管に使用されます。LOB の例としては、写真、ビデオ・ファイル、サウンド・ファイルなどがあります。

Segment size (セグメント・サイズ)

表スペースが分離されることを示し、各セグメントに入れるページ数を指定します。これは、「Large (ラージ)」、「LOB」、または区画表スペース・オプションのいずれでも指定できません。

No. of partitions (区画の数)

表スペースが区分されることを示し、区画の数を指定します。これは、「Large (ラージ)」を指定した場合、あるいは最大区画サイズを「LOB」またはセグメント・サイズで指定した場合は必須です。

Max. partition size (最大区画サイズ)

各区画の最大サイズ、あるいは LOB 表スペースでは各データ・セットの最大サイズを示します。これには、「LOB」または区画の数の指定が必要です。これは、ラージ・サイズまたはセグメント・サイズで指定することはできません。

親パネル

- [「Create Table Space \(表スペースの作成\)」パネル ページ 570](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表スペースの作成 ページ 230](#)

「Create Table (表の作成): Column Check Constraints (列検査制約)」パネル

「Create Table (表の作成): Column Check Constraints (列検査制約)」パネルを使用して、表に関する列の検査制約を定義する情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Table: Column Check Constraints	Row 1 to 1 of 1
Owner			+
Name	TAB1		+
Database			
Table Space			
Sel Column Name	+ Data Type(Length)	+ Constraint Name	+ Check Condition
COL1	CHAR(3)		
***** Bottom of data *****			
Command ==>		Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right
			F5=Tabcons
			F7=Backward
			F12=Cancel

Sel

このフィールドに「S」と入力すると、Db2®によって許可される最大長までの検査条件を指定するためのスクロール可能パネルが表示されます。「**Check Condition (検査条件)**」入力フィールドの説明を参照してください。

Column name (列名)

作成する表の列の名前。

Data Type (Length) (データ・タイプ (長さ))

作成する表の列のデータ・タイプおよび長さ。

Constraint Name (制約名)

制約の名前。これは任意指定フィールドです。

Check Condition (検査条件)

列の検査制約を定義する SQL 式。

長すぎてこのパネルの入力フィールドに収まらない検査条件を指定する必要がある場合には、「Sel」フィールドに「S」を入力して、パネルを表示してください。長い検査条件がすでに存在していて、「Column Check Constraints (列の検査制約)」パネルに表示されている検査条件の一部を変更すると、FM/Db2 は同じパネルに変更内容を表示して確認できるようにします。



注: FM/Db2 は、ユーザーが指定した検査条件の妥当性を検査しません。

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\)」 パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table (表の作成): Column Referential Constraints (列参照制約)」 パネル

「Create Table (表の作成): Column Referential Constraints (列参照制約)」 パネルを使用して、表に関する 1 つ以上の列の参照制約を定義する情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)  Create Table: Column Referential Constraints  Row 1 to 1 of 1

Owner . . . . .
Name . . . . . TAB1
Database . . . . .
Table Space . . . . .

Column Name      Constrnt <----- Parent Table -----> ON
+ Name + Owner + Name + Column + DLT
COL1
***** Bottom of data *****

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Expand   F5=Tabcons  F7=Backward
F8=Forward   F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel

```

Column name (列名)

外部キー。これは、親表の同等の列 (親キー) と関連づけられる、作成する表の列です。

Constrnt Name (制約名)

このフィールドは、制約の名前を指定するためにオプションで使用します。

Owner (所有者)

このフィールドは、親表の名前を修飾するためにオプションで使用します。

Name (名前)

親キーが入っている表の名前。このフィールドは必須です。

Column (列)

親キー。外部キー (「Column Name (列名)」の) を関連づけたい親表の列の名前を指定します。親キーは、親表の基本キーまたは固有キーでなければなりません。「Parent Table Column (親表の列)」フィールドをブラックのままにすると、外部キーはその親表の基本キーに関連づけられます。

ON DLT

FM/Db2 が CREATE TABLE ステートメントで生成する ON DELETE 文節のタイプ (もしあれば) を決定します。有効な値は以下のとおりです。

(空白)

ON DELETE 文節は生成されません。

R

ON DELETE RESTRICT

N

ON DELETE NO ACTION

C

ON DELETE CASCADE

S

ON DELETE SET NULL

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table (表の作成): Columns (列)」パネル

「Create Table (表の作成): Columns (列)」パネルは作成する表の列を定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)		Create Table: Columns	Row 1 to 1 of 1		
Owner			+		
Name	TAB1		+		
Database					
Table Space					
<---(For Built in Data Types)----->					
<DEC>					
Cmd	Column Name	+ Data Type	Len Pr Sc Data	User-defined Data Type	+
	COL1	CHAR	3		
***** Bottom of data *****					
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	Scroll PAGE
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel	F8=Forward	

Cmd (コマンド)

行コマンド域。列情報が入っているパネルの行を操作するには、次の行コマンドを使用します。

In

n 行の新規行を挿入します。

Rn

現在の行を n 回繰り返します。(以下の注を参照してください)。

Dn

n 行を削除



注: 行の繰り返しでは、FM/Db2 はこのパネルと「Nulls and Default Values (ヌル値およびデフォルト値)」パネルに表示されている列情報だけを繰り返します。その他の情報はすべて消去されます。

Column name (列名)

列の名前。

Data Type (データ型)

列のデータ・タイプ。

長さ

定義する列の長さ。このフィールドは、ストリング・データ・タイプの列だけに使用します。

Pr, Sc

数値データ・タイプの精度とスケール。

10 進数の場合

- 精度 (1-31) を「Pr」フィールドに、スケール (0 から精度まで) を「Sc」フィールドに指定します。

単精度浮動小数点数の場合

- データ・タイプ FLOAT を指定した場合には、精度 (1-21) を **「Pr」** フィールドに指定して、**「Sc」** フィールドはブランクのままにします。
- データ・タイプ REAL を指定した場合には、**「Pr」** 入力フィールドと **「Sc」** フィールドはブランクのままにします。

倍精度浮動小数点数の場合

- データ・タイプ FLOAT を指定した場合には、精度 (22-53) を **「Pr」** フィールドに指定するか **「Pr」** フィールドをブランクのままにして、**「Sc」** フィールドをブランクにします。
- データ・タイプ DOUBLE を指定した場合には、**「Pr」** 入力フィールドと **「Sc」** フィールドはブランクのままにします。

2 進整数の場合には、**「Pr」** 入力フィールドと **「Sc」** フィールドをブランクのままにします。

For Data (データ向け)

FOR *subtype* DATA 文節で使用するサブタイプ。データ・タイプが CHAR、VARCHAR、LONG VARCHAR、または CLOB の文字ストリング列の場合には、非ブランクの値のみを指定します。有効な値は以下のとおりです。

(Blank) ((空白))

FOR DATA 文節は生成されません。

SBCS (または S)

FOR SBCS DATA 文節が生成されます。

MIXED (または M)

FOR MIXED DATA 文節が生成されます。

BIT (または B)

FOR BIT DATA 文節が生成されます。CLOB 列に BIT を指定してはいけません。

User-defined Data Type (ユーザー定義データ・タイプ)

列のデータ・タイプが特殊タイプ (ユーザー定義タイプ) であることを示します。列の長さ、精度、およびスケール (適用される場合) は、それぞれ特殊タイプのソース・タイプの長さ、精度、およびスケールになります。

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\)」](#) パネル ページ 567

子パネル

なし。

関連するタスク

- 表の作成 ページ 233

関連する参照先

- Db2 データ型 ページ 452
- 「Create Table (表の作成): Nulls and Default Values (ヌルとデフォルト値)」 パネル ページ 590

「Create Table (表の作成): Generate Values (値の生成)」 パネル

「Create Table (表の作成): Generate Values (値の生成)」 パネルは、表の識別列または ROWID 列の生成値を定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Table: Generate Values	Row 1 to 1 of 1
Owner			+
Name	TAB1		+
Database			
Table Space			
Column Name	+ Data Type (Length)	Gen (A/D)	As Idty (Y/N)
			Start value
			Incr value
			Caching Option (0=NO CACHE)
COL1	CHAR(3)	-	-
***** Bottom of data *****			
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward
			F8=Forward

Column name (列名)

作成する表の、Db2® に値を作成させたい列の名前。

Gen (A/D)

Db2® が列の値を生成する時点を決定します。有効な値は以下のとおりです。

(空白)

この列の値は生成されません。

A

この列の値は、表に新規行が挿入されると常に生成されます。

D

この列の値は新規行が挿入されると生成されます。ただし、値が指定されている場合を除きます。

As Idty (Y/N)

列が表の識別列であるかどうかを識別します (1 つだけ持つことができます)。

N (または空白)

列は識別列ではありません。

Y

列は表の識別列です。

Start value (開始値)

識別列の値を作成するための開始値 (整数)。

Incr value (INCR 値)

連続して生成される識別列の値と値の間隔 (ゼロ以外の整数)。

Caching Option (キャッシング・オプション)

パフォーマンスを改善するために、メモリー内に保持する識別列の事前割り振り値の数を指定する整数。有効な値は、以下のとおりです。

0

NO CACHE 文節を生成します。

n

NO CACHE *n* 文節を生成します。*n* は 2 以上にする必要があります。

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\)」 パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table (表の作成): Model Load (モデル・ロード)」 パネル

「Create Table (表の作成): Model Load (モデル・ロード)」 パネルを使用して、CREATE TABLE ステートメントの生成に使用される ISPF 変数および表に、モデル表に関するどの情報をロードするかを制御します。このパネルにより、ロードの際に、現在の情報を最新表示するか、または現在の情報に追加するかについても指定することができます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Table: Model Load		
Press enter to load the selected information for the model table/view, or press PF3 (End) or PF12 (Cancel) to cancel the load.			
Model Table/View:			
Owner	FMUSER		+
Name	MODEL2		+
Model Load Options:			
Enter '/' to load			
/ Basic table information	/ Unique key information	Refresh/Add	
/ Column information	/ Referential constraints	1. Refresh	
/ Primary key information	/ Check constraints	2. Add	
Load single-column referential constraints as			
1. Column referential constraints			
2. Table referential constraints			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

Owner (所有者)

モデル表の所有者の名前。

Name (名前)

モデル表の名前。

Basic table information (基本表情報)

データベース名、表スペース名 (モデル表に対して明示的に定義されている場合)、およびモデル表またはビューのすべての表オプション値(以下の注を参照してください)。

Column information (列情報)

列名とデータ・タイプ、およびモデル表またはビューに対するヌル値とデフォルト値の指定(以下の注を参照してください)。

Primary key information (基本キー情報)

モデル表の基本キーの列順序。

Unique key information (固有キー情報)

モデル表の最初の3つの固有キーの列順序。

Referential constraints (参照制約)

モデル表の参照制約。

Check constraints (検査制約)

モデル表の検査制約。

1. (Refresh (最新表示))

手動入力か前のロードからの入力かに関係なく、現在の CREATE TABLE 情報をすべて破棄して、モデル表またはビューで新しく選択した情報をロードします。

2. (Add (追加))

モデル表またはビューで選択したタイプの情報を新規表の現在の情報に追加します。



注: 「Add (追加)」 オプションを選択した場合に選択できる情報は、「**Basic table information (基本表情報)**」と「**Column information (列情報)**」だけです。FM/Db2 は、ターゲット・フィールドがブランクの場合には、基本表情報しかロードしません。

Load single-column referential constraints as (単一列参照制約を以下のものとしてロード)

モデル表に参照制約がある場合には、単一列の参照制約を列の参照制約としてロードするか、表の参照制約としてロードするかを指定します。

1. Column referential constraints (列参照制約)

外部キー列に関連した単一列の参照制約。

2. Table referential constraints (表参照制約)

外部キー列に関連しない単一列の参照制約(関連した制約名は、現在接続されている Db2® システムのレベルに関係なく保存されます)。

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\)」 パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table (表の作成): Nulls and Default Values (ヌルとデフォルト値)」 パネル

「Create Table (表の作成): Nulls and Default Values (ヌルとデフォルト値)」 パネルを使用して、表の列のヌル属性およびデフォルト値 を定義するための情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Table: Nulls and Default Values	Row 1 to 1 of 1
Owner			+
Name	TAB1		+
Database			
Table Space			
Sel Column Name	+ Data Type(Length)	+ Nulls	Default Value
COL1	CHAR(3)		
***** Bottom of data *****			
Command ==> _____ Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Owner (所有者)

表の所有者の名前。

Name (名前)

表の名前。

Database (データベース)

表を作成しようとしているデータベースの名前。

Table Space (表スペース)

表を作成しようとしている表スペースの名前。

Sel

列に長いデフォルト値(最大 512 文字)を入力できるパネルを表示するには、このフィールドに「s」を入力します。「Default Value (デフォルト値)」フィールドの説明を参照してください。

Column name (列名)

列の名前。

Data Type (Length) (データ・タイプ (長さ))

データ・タイプと、該当する場合は列の長さ。

Nulls (ヌル)

列の値を明示的に指定しないで表に行を挿入するときは、フィールドにヌル値、および列に使用するデフォルト値(もしあれば)を入れられるかどうかを決定します。有効な値は以下のとおりです。

(空白)

ヌル値可能で、デフォルト値としてヌルを使用できます。CREATE TABLE ステートメントに NOT NULL または WITH DEFAULT 文節は生成されません。

ID 列以外では、「**Nulls (ヌル値)**」フィールドはブランクのままにします。DN の指定と同じです。ID 列の場合のみ、「**Nulls (ヌル値)**」フィールドへのブランクの指定は NN の指定と同じになります。

NN

ヌル値不許可で、デフォルト値はありません。CREATE TABLE ステートメントに **NOT NULL** 文節が生成されます。

ND

ヌル値不許可で、「**Default Value (デフォルト値)**」フィールドにデフォルト値またはシステム定義の非ヌル・デフォルト値を使用します。CREATE TABLE ステートメントに **NOT NULL WITH DEFAULT** 文節が生成されます。

NU

ヌル値不許可で、デフォルト値として挿入またはロードするときにはユーザーの特殊レジスタの値を使用します。CREATE TABLE ステートメントに **NOT NULL WITH DEFAULT USER** 文節が生成されます。

NS

ヌル値不許可で、デフォルト値として挿入またはロードするときにはそのプロセスの SQL 許可 ID を使用します。CREATE TABLE ステートメントに **NOT NULL WITH DEFAULT CURRENT SQLID** 文節が生成されます。

DN

ヌル値可能で、デフォルト値としてヌルを使用できます。CREATE TABLE ステートメントに **DEFAULT NULL** 文節が生成されます。

DD

ヌル値可能で、「**Default Value (デフォルト値)**」フィールドにデフォルト値またはシステム定義の非ヌル・デフォルト値を使用します。CREATE TABLE ステートメントに **WITH DEFAULT** 文節が生成されます。

DU

ヌル値可能で、デフォルト値として挿入またはロードするときにはユーザーの特殊レジスタの値を使用します。CREATE TABLE ステートメントに **WITH DEFAULT USER** 文節が生成されます。

DS

ヌル値可能で、デフォルト値として挿入またはロードするときにはそのプロセスの SQL 許可 ID を使用します。CREATE TABLE ステートメントに **WITH DEFAULT CURRENT SQLID** 文節が生成されます。

Default Value (デフォルト値)

行が挿入されたときに列に自動的に表示される値です。定数を指定する場合には「**Nulls (ヌル値)**」フィールドに ND または DD を指定する必要があり、その他の場合にはこのフィールドはブランクのままにします。

長すぎてこのパネルのフィールドに収まらないデフォルト値を指定する必要がある場合には、「Sel」フィールドに「s」を入力して、パネルを表示してください。長いデフォルト値が既に存在していて、「Default Value (デフォルト値)」フィールドに表示されている値の一部を変更すると、FM/Db2 は同じパネルを表示して、行った変更を確認できるようにします。

「Default Value (デフォルト値)」フィールドには以下が適用されます。

- ほとんどの場合、デフォルト値として文字ストリングを指定するときにそのストリングを引用符で囲む必要はありません。FM/Db2 は、SQL の生成時に、引用符のない文字ストリングを引用符で囲みます。
- ストリングに末尾ブランクが含まれているときは、その文字ストリングを引用符で囲む必要があります。

「Twenty characters」は次のように指定してください。

```
'Twenty characters '
```

- ストリングに引用符が入っている場合には、それぞれの引用符を 2 個の引用符で表します。

“It's Diana's house”は次のように指定してください。

```
It''s Diana''s house
```

“Captain Cook sailed on the 'Endeavour'”は次のように指定してください。

```
Captain Cook sailed on the ''Endeavour''
```



注: ストリングが引用符で始まって引用符で終わっている場合には、ストリング全体を引用符で囲んで、ストリングの中に入っているそれぞれの引用符は 2 個の引用符で表します。

“Harry's Practice”は次のように指定してください。

```
''Harry''s Practice''
```

- 列のデータ・タイプが特殊タイプの場合には、デフォルト値だけを指定します (FM/Db2 は、特殊タイプに必要なキャスト機能を生成します)。特殊タイプがストリング・データ・タイプに基づいている場合には、定数を引用符で囲みます。

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table (表の作成): Options (オプション)」パネル

「Create Table (表の作成): Options (オプション)」パネルは、作成する表のオプションを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Table: Options		
Processing Options, Internal Identifiers.:			
EDITPROC . . .	<u>DSN8EAE1</u>		(optional)
VALIDPROC . . .	_____		(optional)
OBID value . . .	_____		(optional)
Audit and Data Storage Options:			
Audit Options		Data Storage Options	
- 1. None (default)		- 1. EBCDIC (default)	
- 2. Changes		- 2. ASCII	
- 3. All		- 3. UNICODE	
Logging and Table Deletion Options:			
Enter '/' to select option			
-	Log data capture changes (default is not to log)		
-	Restrict drop of table (default is to allow)		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

EDITPROC

作成する表で EDITPROC 文節が必要な場合には、ここに編集プロシージャーの名前を指定してください。デフォルトでは EDITPROC 文節は使用されません。編集プロシージャーは、表示する前に Db2® 内で行レベルでデータを変換します。

VALIDPROC

作成する表で VALIDPROC 文節が必要な場合には、ここに妥当性検査プロシージャーの名前を指定してください。デフォルトでは VALIDPROC 文節は使用されません。妥当性検査プロシージャーは、データを追加する前に行レベルでそのデータの妥当性を検査します。

OBID value (OBID 値)

このフィールドでは、必要に応じて作成する表の OBID 文節の整数を指定できます。Db2® は、それぞれの Db2® オブジェクトに (内部) オブジェクト ID 値を割り当てます。Db2 割り当て値を使用する代わりに、Db2® オブジェクトの値を指定した方が望ましい場合もあります。その例は、2つの並列 Db2® サブシステムがあって、それぞれに同じオブジェクトが定義されていて、一致するすべてのオブジェクトが同じ OBID 値を持っている場合です。

Audit Options (監査オプション)

Db2® は、監査を実行することとなる表へのアクセス・タイプを決定する3つの監査オプションを提供します。

1 None (なし)

監査は実行されません。これはデフォルト設定です。

2. Changes (変更)

表が変更されると監査が実行されます。

3. All (すべて)

表にアクセスすると監査が実行されます。

Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)

表に格納されたストリング・データのエンコード・スキーム。FM/Db2 は、CREATE TABLE ステートメントに CCSID 文節を生成するときに、選択したオプションを使用します。

1. EBCDIC

EBCDIC CCSID を使用してエンコードされたストリング・データ。これはデフォルト設定です。

2. ASCII

ASCII CCSID を使用してエンコードされたストリング・データ。

3. UNICODE

UNICODE CCSID を使用してエンコードされた UNICODE ストリング・データ。

Log data capture changes (データ取り込み変更のログ)

INSERT、UPDATE、および DELETE 操作で追加の情報がログ記録されたかどうか。

Slash (スラッシュ) (/)

FM/Db2 は、CREATE TABLE ステートメントに DATA CAPTURE CHANGES 文節を生成します。

(空白)

FM/Db2 は、CREATE TABLE ステートメントに DATA CAPTURE NONE 文節を生成します。これはデフォルト設定です。

Restrict drop of table (表の除去の制約)

表を除去できるかどうか。このオプションは、不注意による表の削除を防止するために使用できます。

Slash (スラッシュ) (/)

FM/Db2 は、CREATE TABLE ステートメントに WITH RESTRICT ON DROP を生成します。

(空白)

FM/Db2 は、表の除去を許可します。これはデフォルト設定です。

親パネル

- [\[Create Table \(表の作成\)\] パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table (表の作成): Procedure Exits (プロシージャー出口)」パネル

「Create Table (表の作成): Procedure Exits (プロシージャー出口)」パネルは、作成する表のプロシージャー出口を定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Table: Procedure Exits	Row 1 to 1 of 1
Owner			+
Name EMP			+
Database			
Table Space			
Column Name	+ Name	+ Parameters	+
COL1			
***** Bottom of data *****			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			Scroll PAGE
			F8=Forward

Column name (列名)

作成する表の列の名前。

Name (名前)

フィールド・プロシージャー出口のプログラム名。

パラメーター

呼び出されたときにフィールド・プロシージャー出口に渡されるパラメーターのリスト。このリストは、SQL 構文で必要となるときにコンマで区切り、括弧で囲む必要があります。

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table (表の作成): Table Check Constraints (表検査制約)」パネル

「Create Table (表の作成): Table Check Constraints (表検査制約)」パネルを使用して、表に関する表の検査制約を定義する情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create Table: Column Check Constraints	Row 1 to 1 of 1
Owner			+
Name	TAB1		+
Database			
Table Space			
Sel Column Name	+ Data Type(Length)	+ Constraint Name	+ Check Condition
COL1	CHAR(3)		
***** Bottom of data *****			
Command ==>		Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right
			F5=Tabcons
			F7=Backward
			F12=Cancel

Cmd (コマンド)

行コマンド域。表の検査制約情報が入っているパネルの行を操作するには、次の行コマンドを使用します。

In

n 行の新規行を挿入します。

Rn

現在の行を n 回繰り返します。

Dn

n 行を削除

S

行を選択します。FM/Db2 は、Db2® によって許可される最大長までの検査条件を指定できるスクロール可能なパネルを表示します。「**Check Condition (検査条件)**」フィールドの説明を参照してください。

Constraint Name (制約名)

制約の名前。これは任意指定フィールドです。

Check Condition (検査条件)

表の検査制約を定義する SQL 式。

長すぎてこのパネルのフィールドに収まらない検査条件を指定する必要がある場合には、「**Cmd**」フィールドに「s」を入力して、パネルを表示してください。長い検査条件がすでに存在していて、「Table Check Constraints (表の検査制約)」パネルに表示されている検査条件の一部を変更すると、FM/Db2 は同じパネルに変更内容を表示して確認できるようにします。



注: FM/Db2 は、ユーザーが指定した検査条件の妥当性を検査しません。

親パネル

- ・ [「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [表の作成 ページ 233](#)

「Create Table (表の作成): Table Referential Constraint (表参照制約)」パネル

「Create Table (表の作成): Table Referential Constraint (表参照制約)」パネルを使用して、表参照制約のための外部キーおよび親キーの列を指定します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)      Create Table: Table Referential Constraint  Row 1 to 1 of 1

Constraint:
Name      . . . . . CON1
Parent Table Owner  . .
Parent Table Name  . . . EMP

Order Column Name      Data Type(Length) Parent Key Column
----- COL1          CHAR(3)
***** Bottom of data *****

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap
F12=Cancel
Scroll PAGE

```

Name (名前)

制約の名前。

Parent Table Owner (親表所有者)

親表所有者の名前。

Parent Table Name (親表名)

親表の名前。

Order (順序)

外部キーに列を追加するには、s または番号を入力します。s を入力すると、FM/Db2 はそのキーの次に大きい番号を生成します。すでに選択している列を選択解除するには、表示されている番号をスペースで上書きして消去します。



注: 実際の番号は重要ではありません。FM/Db2 は相対順序を使用して、キーの列順序を定義します。

Column name (列名)

作成する表の列の名前。

Data Type (Length) (データ・タイプ (長さ))

作成する表の列のデータ・タイプ。

Parent Key Column (親キーの列)

順序づけている外部キー列 (「Column Name (列名)」) に関連づけたい親表の列の名前を指定します。このフィールドを空白のままにしておくと、FM/Db2 は外部キーを親表の基本キーと関連づけます。



注: 外部キーに1つを超える列を (「**Order (順序)**」フィールドに「S」または番号を入力して) 選択した場合には、対応する Parent Key Columns (親キーの列) は、すべて空白かすべて埋められていなければなりません。

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\): Table Referential Constraints \(表参照制約\)」パネル](#) ページ 600

子パネル

なし。

関連するタスク

- [表の作成](#) ページ 233

「Create Table (表の作成): Table Referential Constraints (表参照制約)」パネル

「Create Table (表の作成): Table Referential Constraints (表参照制約)」パネルを使用して、表に関する1つ以上の表の参照制約を定義する情報を指定します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)  Create Table: Table Referential Constraints  Row 1 to 1 of 1

  Constrnt                                <----- Parent table -----> ON
Cmd Name  + Foreign key columns...              + Owner  + Name              + DLT
  CON1    +                               + EMP
***** Bottom of data *****

Command ==>>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit    F4=Expand  F6=Colcons  F7=Backward
F8=Forward   F9=Swap     F10=Left   F11=Right  F12=Cancel
    
```

Cmd (コマンド)

行コマンド域。表の参照制約情報が入っているパネルの行を操作するには、次の行コマンドを使用します。

In

n 行の新規行を挿入します。

Rn

現在の行を n 回繰り返します。

Dn

n 行を削除

S

行を選択し、「Referential Constraint (参照制約)」パネルを表示します。

Constrnt Name (制約名)

制約の名前。これは任意指定フィールドです。

Foreign key columns (外部キー列) ...

現在この制約の外部キーとして選択されている列のリスト。FM/Db2 は、使用可能なスペースに収まるだけの列しか表示しません。

Parent Table Owner (親表所有者)

このフィールドは、親表の名前を修飾するためにオプションで使用します。

Parent Table Name (親表名)

親キーが入っている表の名前。このフィールドは必須です。

ON DLT

詳しくは、「[Create Table \(表の作成\): Column Referential Constraints \(列参照制約\)](#)」パネル ページ 583 で説明されている「ON DLT」フィールドを参照してください。

親パネル

- [「Create Table \(表の作成\)」](#) パネル ページ 567

子パネル**このパネルの表示方法****使用または実行する機能**

[「Create Table \(表の作成\): Table Referential Constraint \(表参照制約\)」](#) パネル
ページ 598

Cmd フィールドに S を入力する

関連するタスク

- [表の作成](#) ページ 233

関連する参照先

- [「Create Table \(表の作成\): Table Referential Constraint \(表参照制約\)」](#) パネル ページ 598

「Create Table (表の作成): Unique Constraints (固有制約)」パネル

「Create Table (表の作成): Unique Constraints (固有制約)」パネルは、作成する表の基本キーおよび最大3つまでの追加の固有キーを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Create Table: Unique Constraints          Row 1 to 1 of 1

Constraint Names (optional):
  Primary Key .                +
  Unique Key 1 .               +
  Unique Key 2 .               +
  Unique Key 3 .               +

<---- Column Order in Key ---->
Primary Unique1 Unique2 Unique3 Column Name      + Datatype(length)      +
  _____  _____  _____  COL1          CHAR(3)
***** Bottom of data *****

Command ==>> _____ Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=Expand    F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Left   F11=Right   F12=Cancel
    
```

Primary (基本)

空白でない場合、主キーに対する列の相対順序を示します。

Unique1 (固有 1)

空白でない場合、最初の固有キーに対する列の相対順序を示します。

Unique2 (固有 2)

空白でない場合、2番目の固有キーに対する列の相対順序を示します。

Unique3 (固有 3)

空白でない場合、3番目の固有キーに対する列の相対順序を示します。

Column name (列名)

列の名前。

Datatype(length) (Datatype(長さ))

データ・タイプと、該当する場合は列の長さ。

親パネル

- ・ [「Create Table \(表の作成\)」パネル ページ 567](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [表の作成 ページ 233](#)

「Create Trigger (トリガーの作成)」パネル

「Create Trigger (トリガーの作成)」パネルを使用して、新規のトリガーを作成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Trigger		
Trigger:			
Schema	_____ + (optional)		
Name	_____ +		
Trigger Creation:			
Creation Options			
1	1. Details	(required)	
	2. Search Conditions	(optional)	
	3. SQL Statement	(required)	
	4. Create the Trigger		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
	F7=Backward	F8=Forward	

Schema (スキーマ)

スキーマの名前。

Name (名前)

新規トリガーの名前。

Creation Options (作成オプション)

使用したい作成オプションの番号を指定します。

1. Details (詳細)

作成するトリガーのタイプを定義する情報を指定するために使用します。「Create Trigger (トリガーの作成): Details (詳細)」パネルを表示します。

2. Search Conditions (検索条件)

トリガーの実行を制限するために、オプションで、検索条件を定義するための情報を指定します。「Create Trigger (トリガーの作成): Search Condition (検索条件)」パネル。

3. SQL statement (SQL ステートメント)

トリガーがアクティブにされたときに実行される SQL ステートメントを指定します。「Create Trigger: (トリガーの作成) SQL statement (SQL ステートメント)」パネルを表示します。

4. Create the Trigger (トリガーの作成)

作成するトリガーの詳細の指定を完了したら、この作成オプションを選択して、トリガーを作成します。

親パネル

- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」パネル ページ 629](#)
- [「Triggers \(トリガー\)」パネル ページ 884](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Trigger (トリガーの作成): Details (詳細)」パネル ページ 604	作成オプション 1
「Create Trigger (トリガーの作成): Search Condition (検索条件)」パネル ページ 606	作成オプション 2
「Create Trigger (トリガーの作成): SQL statement (SQL ステートメント)」パネル ページ 607	作成オプション 3

関連するタスク

- [トリガーの作成 ページ 248](#)

「Create Trigger (トリガーの作成): Details (詳細)」パネル

「Create Trigger (トリガーの作成): Details (詳細)」パネルは、作成するトリガーのタイプを定義する情報を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Create Trigger: Details		
Trigger:			
Order (required)	Type (required)		
- 1. No cascade before	- 1. Insert		
2. After	2. Delete		
	3. Update		
Columns (optional, separate by comma)			
+			
Trigger Table:			
Owner	_____	+ (optional)	
Name	_____		+
Referencing Old:			
Correlation name .	_____	+ (optional)	
Table identifier .	_____	+ (optional, after trigger)	
Referencing New:			
Correlation name .	_____	+ (optional)	
Table identifier .	_____	+ (optional, after trigger)	
Executed (Required)			
- 1. For each modified row			
- 2. Once (After Trigger)			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

No cascade before (前カスケードなし)

トリガーを前トリガーとして定義します。

After (後)

トリガーを後トリガーとして定義します。

タイプ

Insert (挿入)

トリガーは、トリガー表に行を挿入すると実行されます。

Delete (削除)

トリガーは、トリガー表から行を削除すると実行されます。

Update (更新)

トリガーは、トリガー表から行を更新すると実行されます。

Columns (列)

更新トリガーの実行を制限して、指定された列を更新する列のリストを指定します。

Name (名前)

アクションによってトリガーが実行される表の名前。

Owner (所有者)

トリガー表の所有者。

Old correlation name (旧相関名)

SQL 操作を起動する前行参照に使用される相関名。

New correlation name (新規相関名)

SQL 操作を起動した後で行参照に使用される相関名。

Old table identifier (旧表 ID)

SQL 操作の前に行の完全セットの参照に使用される一時表 ID。

New table identifier (新規表 ID)

SQL 操作の後で行の完全セットの参照に使用される一時表 ID。

1. For each modified row (各変更行ごと)

トリガー表の変更された各行にトリガー・オプションが実行されます。

2. Once (After Trigger) (一度 (トリガー後))

SQL 操作のトリガーの後でトリガー・アクションが一度だけ実行されます。

親パネル

- [「Create Trigger \(トリガーの作成\)」パネル ページ 603](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [トリガーの作成 ページ 248](#)

「Create Trigger (トリガーの作成): Search Condition (検索条件)」パネル

「Create Trigger (トリガーの作成): Search Condition (検索条件)」パネルを使用して、トリガーの実行を制限するために、オプションで、検索条件を定義するための情報を指定します。WHEN キーワードを入力して、条件を括弧で囲む必要はありません (省略すると、自動的に追加されます)。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Create View	Top of data
View:			
Owner	_____ + (optional)	
Name	_____ +	
Fullselect clause (required)			
_____ +			
_____ +			
Column names (optional, separated by commas)			
_____ +			
_____ +			
With Check Option (Optional):			
Option			
- 1. With Cascaded Check Option			
- 2. With Local Check Option			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

Owner (所有者)

ビューの所有者の名前。

Name (名前)

作成するビューの名前。

Subselect Clause (Subselect 文節)

SQL subselect 文節はビューの内容を定義します。

Column names (列名)

ビューの列名を定義する列名のリスト。subselect 文節の結果表に重複または無名の列が含まれる場合に指定する必要があります。指定した場合には、subselect 文節の結果表と同じ列数が含まれていなければなりません。

With Check Option (検査オプション付き)

挿入された行をビュー定義と合わせる必要があるかどうかを制御します。

1. With Cascaded Check Option (カスケード検査オプション)

WITH CASCADED CHECK OPTION 文節を生成します。

2. With Local Check Option (ローカル検査オプション)

WITH LOCAL CHECK OPTION 文節を生成します。

親パネル

- [\[Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)\]](#) パネル ページ 629

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [ビューの作成 ページ 242](#)

「Create View Source Statements (ビュー・ソース・ステートメントの作成)」パネル

パネルとフィールドの定義

```
Process Options Utilities Help
FM/Db2 (DFG2) Create View Source Statements
Valid primary commands are: BRW - Browse E - Edit EX - Edit/Execute
create view keistw.v1 (col1, col2 ) as select tbname, tbcreator from sysibm.sys
ffields

Command ==>
F1=Help F2=Split F3=Exit F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap F10=Actions F12=Cancel
```

親パネル

- ・ [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」パネル ページ 875](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Data Create Utility (データ作成ユーティリティー)」パネル

「Data Create Utility (データ作成ユーティリティー)」パネルを使用して、指定された行数のデータを Db2® 表に追加します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Data Create Utility		
Db2 Object:			
Location	Database	(optional)	
Owner	FMUSER +	Table space	(optional)
Name	LONGTABLENAMEMORETHAN18CHARS +		
Create Count	1	Number of rows to create	
Template:			
Data set name	_____		
Member	_____		
Processing Options:			
Template usage	Enter "/", "A"lways to select option		
3 1. Above	- Edit template		
2. Previous	- Batch execution		
3. Generate from table	- Create audit trail (*)		
4. Generate/Replace			
Command '==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Location (場所)

Db2® オブジェクトのロケーション名。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

Database (データベース)

Db2® オブジェクトのデータベース名。このフィールドを使用してオプションでデータベースを指定して、処理するオブジェクトをさらに定義することができます。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「Owner (所有者)」および「Name (名前)」の選択リストに表示される値は、ここで指定されたデータベース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

Owner (所有者)

オブジェクトの所有者の名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。オブジェクトの「Name (名前)」フィールドに同義語を指定するには、このフィールドを空白のままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「Table space (表スペース)」、「Database (データベース)」、「Location (ロケーション)」フィールドのいずれかが非空白の場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、「sysibm」などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の「SYSIBM」と一致しないこととなります。

Table space (表スペース)

Db2® オブジェクトの表スペース名。処理するオブジェクトをさらに定義するには、このフィールドを使用して、オプションで表スペースを指定します。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「**Owner (所有者)**」および「**Name (名前)**」の選択リストに表示される値は、ここで指定された表スペース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストにも含まれません。

Name (名前)

処理するオブジェクトの名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、「**Owner (所有者)**」フィールドをブランクにするか、現行の SQLID を含む総称名にするか、または現行の SQLID にします。「**Table space (表スペース)**」、「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Create Count (作成カウント)

Db2® 表内に作成する行数を指定します。これは必須フィールドで、1 から 2147483647 の範囲内でなければなりません。デフォルトは、1 です。

Data set name (データ・セット名)

データ初期化の詳細を指定するために特定のテンプレートを使用している場合には（「**Template usage (テンプレートの使用法)**」のオプション 1 を参照）、テンプレート・データ・セットの名前を指定してください。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「**Member (メンバー)**」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Processing Options (処理オプション)

処理オプションは、作成処理に使用するテンプレートを指定したり、作成処理の前にテンプレートを編集するかどうかを指定したりするために使用します。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Data Create Utility (データ作成ユーティリティ)」パネルには、テンプレートを処理するための次の 4 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「**Template (テンプレート)**」セクションにテンプレート・データ・セットの名前（およびオプションのメンバー名）を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テ

ンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が続行されます (詳細については、「Template Usage (テンプレート使用法)」のオプション 3 を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「**Template (テンプレート)**」セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「**Db2®Template (テンプレート)**」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit template (テンプレートの編集)

データを作成する前にテンプレートを編集するのに使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Batch execution (バッチ実行)

「Create (作成)」機能をバッチ・ジョブで実行するために必要な JCL を作成します。生成された JCL は ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Create audit trail (監査証跡の作成)

FM/Db2 による Db2® へのアクセスを FM/Db2 監査ログに書き込むかどうかを制御します。このオプションは、SAF 規則で制御された監査が有効である場合にのみ表示されます。

FM/Db2 は、SMF、またはデータ・セットのいずれかに監査レコードを書き込むことができます。

FM/Db2 監査の制御に SAF 規則が使用される場合、監査レコードを書き込むかどうかは、処理対象の Db2® オブジェクト名と、現在のユーザー ID (TSO ログオン ID) に基づいて決定されます。そのため、ある Db2® オブジェクトの処理には監査が必要でも、別のオブジェクトの処理には必要でない場合があります。また、特定の Db2® オブジェクトの監査要件を変更できなくても、別の Db2® オブジェクトの監査要件は変更できたり、他の TSO ユーザー ID に対しては要件が異なったりする場合があります。

特定の Db2® オブジェクトの処理中に、監査設定を変更する権限を持っていない場合、FM/Db2 によって、間違っただ設定を入力しているのではないかとこのプロンプトが出されます。特定の Db2® オブジェクトに対する監査設定を設定する権限を持っている場合、FM/Db2 は、このフィールドにどのような値が指定されてもそれを受け入れます。

親パネル

- 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネル ページ 896

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 505	「Edit template (テンプレートの編集)」を選択

関連するタスク

- Db2 表へのデータの追加 ページ 251
- データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53
- FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46
- テンプレートの処理 ページ 75
- SAF 規則で制御された監査 ページ 72

「Database Request Modules (データベース要求モジュール)」パネル

「Database Request Modules (データベース要求モジュール)」パネルは、Db2® カタログの DBRM をリストするために使用します。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSDBRM の列が含まれています。

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	Database Request Modules (DBRMs)			Format <u>TABL</u>	
Location:					
SEL	NAME	PDSNAME	TIMESTEX	PLNAME	PLCREATOR
----	*#1--+-	*#3--+-	*#18--+-	*#4--+-	*#5--+-
****	Top of data	****	DSNTIAD DB2V810.DFA2.DBRMLIB.DATA	17A07E9719351199	DSNTIA81 CJUNELL
****	End of data	****			
Command ==>					
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	Scroll PAGE
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F6=RChange
					F12=Cancel

**注:**

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2@catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747
- 「Application Plans (アプリケーション・プラン)」パネル ページ 483

子パネル**このパネルの表示方法**

(ISPF パネル)

使用または実行する機能

行コマンド B

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
「Application Plans (アプリケーション・プラン)」 パネル ページ 483	行コマンド PL
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Database Structure (データベース構造)」 パネル

以下のパネルにリストされた項目に対して DS 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Database Structure (データベース構造)」パネルを表示します。

- [「Databases \(データベース\)」 パネル ページ 616](#)、または
- [「Table Spaces \(表スペース\)」 パネル ページ 866](#)

「Databases (データベース)」 パネル

「Databases (データベース)」パネルを使用して、Db2® カタログのデータベース・オブジェクト・タイプをリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSDATABASE の列が含まれています。

Process		Options		Utilities		Help		
FM/Db2 (DFG2)				Databases				
Location:				Format <u>TABL</u>				
SEL	NAME	CREATOR	STGROUP	BPOOL	DBID	CREATEDBY	TYPEEX	GROUP+
	*	*	*	*	*	*	*	MEMBER
----	#1--+	#2--+	#3--+	#4--+	----#5	#7--+	#20--+	#11--+
****	Top of data		****					
----	ABC	SHRIKE2	DDDDDDDDDD	BP0	270	SHRIKE2		
----	DSN8D81A	CJUNELL	DSN8G810	BP0	259	CJUNELL		
----	DSN8D81P	CJUNELL	DSN8G810	BP0	260	CJUNELL		
----	DSNATPDB	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0	257	CJUNELL		
----	DSNDB04	SYSIBM	SYSDEFLT	BP0	4	SYSIBM		
----	DSNDB06	SYSIBM			6	SYSIBM		
----	DSNDB07	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0	7	CJUNELL	WORKFILE	
----	DSNRGFDB	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0	258	CJUNELL		
----	DSNRLST	CJUNELL	SYSDEFLT	BP0	256	CJUNELL		
----	FUNTBDB	SHRIKES	SYSDEFLT	BP8K0	271	SHRIKES		
----	JLV3D81A	SHRIKES	JLV3G810	BP0	266	SHRIKES		
Command ==>				Scroll <u>PAGE</u>				
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange			
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel			



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2@catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747
- 「Table Spaces (表スペース)」パネル ページ 866
- 「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル ページ 875
- 「Indexes (索引)」パネル ページ 724

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Alter Database (データベースの変更)」 パネル ページ 464	行コマンド A
「Create Database (データベースの作成)」 パネル ページ 535	行コマンド CR
「Create Table Space (表スペースの作成)」 パネル ページ 570	行コマンド CRS
除去パネル ページ 646	行コマンド DR
「Database Structure (データベース構造)」 パネル ページ 616	行コマンド DS
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
「Generate SQL From Db2 Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネル ページ 712	行コマンド GEN
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
「Recovery Information (リカバリー情報)」 パネル ページ 783	行コマンド ICS
特権パネル ページ 764	行コマンド P
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Table Spaces (表スペース)」 パネル ページ 866	行コマンド S
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド T
「Indexes (索引)」 パネル ページ 724	行コマンド X
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

Db2® 「Browse (ブラウズ)」 パネル

「Db2® Browse (ブラウズ)」 パネルを使用して、ブラウズするオブジェクトの名前を入力します。また、このパネルを使用して、オブジェクトの論理ビューを記述するテンプレートの名前も指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Db2 Browse
Specify the Db2 Object:			
Location	_____	Database	_____ (optional)
Owner	FMUSER	Table space _____	(optional)
Name	EMP		+
Start position . . .	1		
Row count	100	Number of rows to browse	
Template:			
Data set name . . .	'FMUSER.TEMPLATE'		
Member	SALARY		
Processing Options:			
Template usage	Enter "/", "A" always to select option		
3 1. Above	- Edit options		
2. Previous	- Edit template		
3. Generate from table	- Re-edit template		
4. Generate/Replace			
Command '==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Location (場所)

Db2® オブジェクトのロケーション名。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

Database (データベース)

Db2® オブジェクトのデータベース名。このフィールドを使用してオプションでデータベースを指定して、処理するオブジェクトをさらに定義することができます。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「Owner (所有者)」および「Name (名前)」の選択リストに表示される値は、ここで指定されたデータベース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

Owner (所有者)

オブジェクトの所有者の名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。オブジェクトの「Name (名前)」フィールドに同義語を指定するには、このフィールドを空白のままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「Table space (表スペース)」、「Database (データベース)」、「Location (ロケーション)」フィールドのいずれかが非空白の場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、「sysibm」などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の「SYSIBM」と一致しないこととなります。

Table space (表スペース)

Db2® オブジェクトの表スペース名。処理するオブジェクトをさらに定義するには、このフィールドを使用して、オプションで表スペースを指定します。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「**Owner (所有者)**」および「**Name (名前)**」の選択リストに表示される値は、ここで指定された表スペース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストにも含まれません。

Name (名前)

処理するオブジェクトの名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、「**Owner (所有者)**」フィールドをブランクにするか、現行の SQLID を含む総称名にするか、または現行の SQLID にします。「**Table space (表スペース)**」、「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、「sysibm」などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の「SYSIBM」と一致しないことになります。

Start position (開始位置)

結果表から FM/Db2 エディターへの行のロードを FM/Db2 が開始する位置を指定します。

1 (デフォルト) より大きな値を指定した場合、FM/Db2 は FM/Db2 エディターに行をロードする前に、結果表の n-1 行をスキップします。「**Row count (行カウント)**」の値が ALL (または 0 または *) の場合は、データが表示されたときに、スクロールアップしてスキップされた行を表示できます。「**Row count (行カウント)**」の値が固定の場合、後方にスクロールしてスキップされた行を表示することはできません。

Row count (行カウント)

このオプションは、Db2® から検索し、ブラウズ・セッションのためにメモリーにロードする行の最大数を指定するために使用します。値を 1 から 99999999 の範囲で指定するか、すべての行の検索を指示する場合は ALL、0、または * を指定できます。デフォルト値は 100 です。

ブラウズ・セッションは、Db2® から取り出されて、FM/Db2 エディターにロードされた行にのみ適用されます。取り出されていない行には適用されません。これは、FIND 基本コマンドは Db2® から取り出された行にのみ適用されることを意味します。



注: 大きな表をブラウズするときは、ストレージの問題が発生することがあるので、ALL、0、または * の値の使用には注意してください。エディターが必要とするストレージの量は、検索される行数と行の長さの両方によって決まります。検索される行数を制限するには、テンプレートの「**行選択基準**」セクションを使用します。

Data set name (データ・セット名)

テンプレートが入っているか、入る予定のデータ・セットの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「**Member (メンバー)**」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Db2® Browse (ブラウズ)」パネルは、以下の4つのオプションをテンプレート処理のために提供していません。

1. Above (上の指定)

パネルの「Template (テンプレート)」セクションにテンプレート・データ・セットの名前 (およびオプションのメンバー名) を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が実行されます (詳細については、「Template Usage (テンプレート使用法)」のオプション 3 を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「Template (テンプレート)」セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「Template (テンプレート)」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションを選択すれば、現行エディター・セッション用のオプションを変更することができます。

Edit options (編集オプション)

以下のいずれかを入力してください。

/または「A」

処理する Db2® オブジェクトのデータを表示する前に、最初の「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

1 から 8 までの数値

「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルの n 番目を直接表示します。 n は、入力された値です。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit template (テンプレートの編集)

データをブラウズする前にテンプレートを編集するには、このオプションを選択します。

Re-edit template (テンプレートの再編集)

ブラウズ・ダイアログ内のパネル間のナビゲーションを制御するには、このオプションを選択します。このオプションは、ブラウズ・セッション内から押されたときの F3 キーおよび F12 キーの動作を制御します。

親パネル

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855 (BROWSE 基本コマンドが入力された場合)
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857 (BROWSE 基本コマンドが入力された場合)
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868 (BROWSE 基本コマンドが入力された場合)
- [Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)] パネル ページ 756 ([B] がコマンド行に入力された場合)
- [Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)] パネル ページ 875 (B 行コマンドが入力された場合)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855	オプションを選択せずに Enter キーを押す
[Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))] パネル ページ 651	[Edit options (編集オプション)] を選択する
[Column Selection/Edit (列選択/編集)] パネル ページ 505	[Edit template (テンプレート編集)] または [Re-edit template (テンプレートの再編集)] を選択する

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123
- FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46
- データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53
- テンプレートを使用できる場所 ページ 25
- テンプレートの処理 ページ 75
- View options (表示オプション) と Edit options (編集オプション) (オプション 1 と 2) ページ 68

[Db2® Edit (編集)] パネル

[Db2® Edit (編集)] パネルを使用して、編集するオブジェクトの名前を入力します。また、このパネルを使用して、オブジェクトの論理ビューを記述するテンプレートの名前も指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Help
FM/Db2 (DFG2)		Db2 Edit
Specify the Db2 Object:		
Location	_____	Database . . _____ (optional)
Owner	FMNUSER + _____	Table space _____ (optional)
Name	EMP _____	+
Start position . . .	1 _____	
Row count	100 _____	Number of rows to edit
Template:		
Data set name . . .	'FMNUSER.TEMPLATE'	
Member	SALARY _____	
Processing Options:		
Template usage	Enter "/", "A" always to select option	
3 1. Above	- Edit options	
2. Previous	- Edit template	
3. Generate from table	- Re-edit template	
4. Generate/Replace	- Create audit trail	
Command '==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right
F12=Cancel		

Location (場所)

Db2® オブジェクトのロケーション名。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

Database (データベース)

Db2® オブジェクトのデータベース名。このフィールドを使用してオプションでデータベースを指定して、処理するオブジェクトをさらに定義することができます。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「Owner (所有者)」および「Name (名前)」の選択リストに表示される値は、ここで指定されたデータベース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

Owner (所有者)

オブジェクトの所有者の名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。オブジェクトの「Name (名前)」フィールドに同義語を指定するには、このフィールドを空白のままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「Table space (表スペース)」、「Database (データベース)」、「Location (ロケーション)」フィールドのいずれかが非空白の場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Table space (表スペース)

Db2® オブジェクトの表スペース名。処理するオブジェクトをさらに定義するには、このフィールドを使用して、オプションで表スペースを指定します。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「**Owner (所有者)**」および「**Name (名前)**」の選択リストに表示される値は、ここで指定された表スペース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストにも含まれません。

Name (名前)

処理するオブジェクトの名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、「**Owner (所有者)**」フィールドをブランクにするか、現行の SQLID を含む総称名にするか、または現行の SQLID にします。「**Table space (表スペース)**」、「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Start position (開始位置)

結果表から FM/Db2 エディターへの行のロードを FM/Db2 が開始する位置を指定します。

1 (デフォルト) より大きな値を指定した場合、FM/Db2 は FM/Db2 エディターに行をロードする前に、結果表の n-1 行をスキップします。「**Row count (行カウント)**」の値が ALL (または 0 または *) の場合は、データが表示されたときに、スクロールアップしてスキップされた行を表示できます。「**Row count (行カウント)**」の値が固定の場合、後方にスクロールしてスキップされた行を表示することはできません。

Row count (行カウント)

このオプションは、Db2® から検索し、エディター・セッションのためにメモリーにロードする行の最大数を指定するために使用します。値を 1 から 999999999 の範囲で指定するか、すべての行の検索を指示する場合は ALL、0、または * を指定できます。デフォルト値は 100 です。

File Manager/Db2 エディター・セッションは、Db2® から取り出されて、エディターにロードされた行にのみ適用されます。取り出されていない行には適用されません。これは、FIND および CHANGE 基本コマンドは Db2® から取り出された行にのみ適用されることを意味します。



注: 大きい表を編集するときは、ストレージの問題が発生することがあるので、0 の値の使用には注意してください。エディターが必要とするストレージの量は、検索される行数と行の長さの両方によって決まります。検索される行数を制限するには、テンプレートの「**行選択基準**」セクションを使用します。

Data set name (データ・セット名)

テンプレートが入っているか、入る予定のデータ・セットの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「**Member (メンバー)**」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Db2® Edit (編集)」パネルは、以下の 4 つのオプションをテンプレート処理のために提供しています。

1. Above (上の指定)

パネルの「Template (テンプレート)」セクションにテンプレート・データ・セットの名前(およびオプションのメンバー名)を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が続行されます(詳細については、「Template Usage (テンプレート使用法)」のオプション 3 を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の(直前に使用した)テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「Template (テンプレート)」セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「Template (テンプレート)」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

Edit options (オプションの編集)

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。このオプションを選択すれば、以下のいずれかの値を入力して、現行エディター・セッション用のオプションを変更することができます。

／または「A」

処理する Db2® オブジェクトのデータを表示する前に、最初の「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

1 から 8 までの数値

「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルの n 番目を直接表示します。 n は、入力された値です。

設定したどのオプションも、現行編集セッションの間のみ持続し、競合するグローバル・オプションがあると、オーバーライドします。編集オプションを永続的に変更するには、オプション 0.2 を選択してください。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit template (テンプレートの編集)

データを編集する前にテンプレートを編集するには、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Re-edit template (テンプレートの再編集)

編集ダイアログ内のパネル間のナビゲーションを制御するには、このオプションを選択します。このオプションは、編集セッション内から押されたときの F3 キーおよび F12 キーの動作を制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Create audit trail (監査証跡の作成)



注: SAF 規則によって必要となる場合は、SAF で制御された監査のオプション名に「(*)」が付加されます。

FM/Db2 が、編集セッション中に実行された Db2® データに対するすべての正常変更の監査追跡報告書を生成するかどうかを決定します。

/

監査証跡報告書が生成されます。

(空白)

監査証跡報告書は生成されません。



注: このオプションを変更できるかどうかは、FM/Db2 の接続先 Db2® サブシステム内のインストール・オプションによって決まります。「**Create an audit trail (監査証跡の作成)**」オプションは次のいずれかとすることができます。

- 永続的に選択されます (“/” がオプションに示されます)。編集処理について監査証跡報告が行われます。オプションの設定は、変更できません。
- 永続的に選択解除されます (空白がオプションに示されます)。編集処理について監査証跡報告は行われません。オプションの設定は、変更できません。
- オプションすべての編集処理の監査証跡報告を生成するには、オプションに “/” を入力します。そうでない場合には、オプションにスペースを入力して編集処理の監査証跡報告を抑制します。

FM/Db2 セッションの終わりで、FM/Db2 の接続先の Db2® サブシステム内のインストール・オプションに応じて、指定した「**Create an audit trail (監査証跡の作成)**」オプションを ISPF プロファイルに保管したり、あるいは空白 (監査証跡報告書は選択されない) に設定することができます。接続中の Db2® システムに対する監査インストール・オプションは、「HELP (ヘルプ)」プルダウン・メニューからオプション 7 を選択して判別することができます。監査オプションが “OPTIONAL, OFF” であるときは、「Create an audit trail (監査証跡の作成)」オプションは、File Manager/Db2 セッション



の開始時点で常にブランク (非選択) にリセットされます。これは、監査ログを書き込む場合、新規の FM/Db2 セッションを開始するたびに監査を明示的に選択しなければならないことを意味します。さらに、このオプションを選択したときは、監査オプションのグローバル設定と、Db2® 編集パネルで「Edit options (編集オプション)」を使用して入力する値の間に区別はありません。詳細については、「File Manager カスタマイズ・ガイド」を参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

親パネル

- 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル ページ 756
- 「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル ページ 875

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Table Edit (表編集)」パネル ページ 857	オプションを選択せずに Enter キーを押す
「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル ページ 651	「/」、「A」、または「1」と入力して「 Edit options (編集オプション) 」を選択する
「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネル ページ 656	「2」と入力して「 Edit options (編集オプション) 」を選択する
「Editor Options (3 of 8) (編集オプション (8 の 3))」パネル ページ 661	「3」と入力して「 Edit options (編集オプション) 」を選択する
「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」パネル ページ 667	「4」と入力して「 Edit options (編集オプション) 」を選択する
「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (8 の 5))」パネル ページ 671	「5」と入力して「 Edit options (編集オプション) 」を選択する
「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」パネル ページ 674	「6」と入力して「 Edit options (編集オプション) 」を選択する
「Editor Options (7 of 8) (編集オプション (8 の 7))」パネル ページ 677	「7」と入力して「 Edit options (編集オプション) 」を選択する
「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 505	「 Edit template (テンプレート編集) 」または「 Re-edit template (テンプレートの再編集) 」を選択する

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)
- [データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)
- [テンプレートを使用できる場所 ページ 25](#)
- [テンプレートの処理 ページ 75](#)
- [View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)

「Db2® Location Selection (位置選択)」パネル

「Db2® Location Selection (位置選択)」パネルを使用して、使用可能なすべてのリモート位置を表示します。リモート位置にアクセスできるのは、ローカル Db2® サブシステムを定義している場合だけです。

パネルとフィールドの定義

<pre> Process Opti FM/Db2 (DFG2) Specify the Db2 Location . Owner . . . Name . . . Template: Data set nam Member . . Processing Opti Template usa 1 1. Above 2. Previo 3. Genera 4. Genera Command ==> F1=Help F F9=Swap F1 </pre>	<pre> ----- Db2 Location Selection ----- Row 1 to 4 of 4 Select one of the Db2 locations from the list. Sel Location Linkname LU Name IP Address - QXPMVS6DB2D MVS6DB2D ? ? - QXPMVS8DB2D MVS8DB2D MVS8DB2D ? - QXPMVS8DB26 MVS8DB26 ? ? - QXPMVS8DB62 MVS8DB62 MVS8DB62 ? ***** Bottom of data ***** Command ==> F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap F12=Cancel </pre>
---	--

親パネル

任意の FM/Db2 パネル (「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」を除く) で、「**Location (ロケーションまたは位置)**」フィールドに入力されたアスタリスク (*) またはパターン。

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)
- [「Remote Db2 Location Selection \(リモート・ロケーション選択\)」パネル ページ 787](#)

「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネル

「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」パネルを使用して、Db2® オブジェクトの作成および除去を行います。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Db2 Object Functions		
	C Create object		D Drop object
Processing Options:			
Object Type			
—	1. Database	5. Alias	9. Function
	2. Table space	6. Index	10. Stored procedure
	3. Table	7. Synonym	11. Trigger
	4. View	8. Distinct type	12. Auxiliary Table (Create)
Enter "/" to select option			
	_ Confirm object drop		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetrieval
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	F7=Backward F8=Forward

以下のオプションは、[/] を入力して選択できます。

オブジェクト・タイプ

処理する Db2® オブジェクトのタイプを指定するために使用されます。デフォルトは 3 (「Table (表)」) です。

Confirm object drop (オブジェクト除去の確認)

オブジェクトに対して DR(op) コマンドを入力するたびに、FM/Db2 に確認パネルを表示させるかどうかを指示します

親パネル

- ・ [「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Database (データベースの作成)」パネル ページ 535	オブジェクト・タイプ 「Database (データベース)」を選択して C と入力する

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Table Space (表スペースの作成)」 パネル ページ 570	オブジェクト・タイプ 「Table space (表スペース)」 を選択して c と入力する
「Create Table (表の作成)」 パネル ページ 567	オブジェクト・タイプ 「Table (表)」 を選択して c と入力する
「Create View (ビューの作成)」 パネル ページ 608	オブジェクト・タイプ 「View (ビュー)」 を選択して c と入力する
「Create Alias (別名の作成)」 パネル ページ 533	オブジェクト・タイプ 「Alias (別名)」 を選択して c と入力する
「Create Index (索引作成)」 パネル ページ 549	オブジェクト・タイプ 「Index (索引)」 を選択して c と入力する
「Create Synonym (同義語作成)」 パネル ページ 566	オブジェクト・タイプ 「Syntax (構文)」 を選択して c と入力する
「Create Distinct Type (特殊タイプの作成)」 パネル ページ 537	オブジェクト・タイプ 「Distinct type (特殊タイプ)」 を選択して c と入力する
「Create Function (関数の作成)」 パネル ページ 542	オブジェクト・タイプ 「Function (関数)」 を選択して c と入力する
「Create Procedure (プロシージャの作成)」 パネル ページ 559	オブジェクト・タイプ 「Stored procedure (ストアード・プロシージャ)」 を選択して c と入力する
「Create Trigger (トリガーの作成)」 パネル ページ 603	オブジェクト・タイプ 「Trigger (トリガー)」 を選択して c と入力する
「Create Auxiliary Table (補助表の作成)」 パネル ページ 534	オブジェクト・タイプ 「Auxiliary table (補助表)」 を選択して c と入力する
オブジェクト・タイプ 「Database (データベース)」 を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ 「Table space (表スペース)」 を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ 「Table (表)」 を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ 「View (ビュー)」 を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ 「Alias (別名)」 を選択して D と入力する	

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
オブジェクト・タイプ「 Index (索引) 」を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ「 Syntax (構文) 」を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ「 Distinct type (特殊タイプ) 」を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ「 Function (関数) 」を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ「 Stored procedure (ストアド・プロシージャ) 」を選択して D と入力する	
オブジェクト・タイプ「 Trigger (トリガー) 」を選択して D と入力する	

関連するタスク

- [Db2 オブジェクトの作成および除去 ページ 213](#)

「Db2® Save Error Action (保管エラー・アクション)」パネル

「Db2® Save Error Action (保管エラー・アクション)」パネルを使用して、File Manager/Db2 編集セッション中にエラーが発生したときに、エラーのタイプおよび実行できるアクションを決定します。

パネルとフィールドの定義

```

FM/Db2 (DFG2)          Db2 Save Error Action          Row 1 to 1 of 1
                        Db2 Save Error Action
Db2 reported a No Primary Key error while attempting to save this row.
Relationship      : RPAA                               (See below for key column details)
Parent table     : FMNUSER.ACT
Dependent table  : FMNUSER.PROJACT

Explanation: The insert or update operation on this line would have resulted
in a foreign key value for which there is no corresponding primary key value.

Instructions: Type REDIT on the command line to edit the parent table shown
above. Press Enter or enter EXIT to return to the Edit session and correct
the error. Press the CANCEL key to end the Edit session. Any changes
made since the last commit point are lost.

Parent Column Name  Depndnt Column Name  Value
ACTNO               ACTNO               000999

Command ==>
C  F1=Help           F2=Split           F3=Exit           F7=Backward       Scroll PAGE
   F8=Forward       F9=Swap           F12=Cancel        F6=RChange
                                   12=Cancel

```

関連するタスク

- [編集セッション中に起こったエラーの訂正例 ページ 211](#)

「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル

「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」メニューは、FM/Db2 に接続する Db2® サブシステムを選択するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process		Help		
FM/Db2 (DFG2)		Db2 Subsystem Selection		
		Row 1 of 27		
Sel	SSID	Status	Description	
			Prefix	
—	DFG2	ACTIVE	Db2 Version 10.1 - Development System	-DFG2
—	DFH2	ACTIVE	Db2 Version 10.1 - Test system	-DFH2
—	DFI2	ACTIVE	Db2 Version 10.1 - DBCS system	-DFI2
—	DFJ2	ACTIVE	Db2 Version 10.1 - Compatibility Mode (CM9)	-DFJ2
—	DFK2	ACTIVE	Db2 Version 9.1 - New function Mode	-DFK2
—	DFS2	ACTIVE	** not defined in installation module	-DFS2
—	DF42	ACTIVE	Db2 Version 10.1 - French	-DF42
—	DF52	ACTIVE	Db2 Version 10.1 - German	-DF52
—	DF62	ACTIVE	Db2 Version 10.1 - Cyrillic	-DF62
—	DF72	ACTIVE	** not defined in installation module	-DF72
—	DF82	ACTIVE	** not defined in installation module	-DF82
—	DF92	ACTIVE	** not defined in installation module	-DF92
—	DG03	GROUP	Db2 Version 9.1 - Group	
—	DF11	INACTIVE	Db2 Version 10.1 - FMD1 DF11	-DF11
—	DF12	INACTIVE	Db2 Version 10.1 - Enablement Mode (EN9)	-DF12
—	DF13	INACTIVE	** not defined in installation module	-DF13
—	DF21	INACTIVE	Db2 Version 11.1 - FMD1 DF21	-DF21
—	DFG1	ACTIVE	Db2 Version 12 - group with DFG1	-DFG1
—	DFH1	ACTIVE	Db2 Version 12 - group with DFH1	-DFH1
Command ==>>				Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F5=Refresh	F6=Show
F8=Down	F9=Swap	F12=Cancel		F7=Up



注: ここに示す「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルには、いくつかの非アクティブの Db2® サブシステムが表示されています。システム管理者は、例えば、アクティブな Db2® サブシステムのみが表示されるように、リストをカスタマイズしていることがあります。詳細については、システム管理者に問い合わせるか、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」メニューのフィールドは以下の通りです。

Sel

選択フィールド。その行に表示されている Db2® サブシステムを選択するには、「s」または「/」を入力します。

SSID

サブシステム ID。この ID は、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」の「Db2®SSID」フィールドに表示され、FM/Db2 が現在接続している Db2® サブシステムを示します。

Status (状況)

Db2® サブシステムの状況が表示されます。

ACTIVE

Db2® システムはアクティブであり、接続に使用できます。

GROUP

Db2® システムは Db2® データ共有環境内にあり、接続に使用できます。

INACTIVE

Db2® システムはアクティブでなく、接続に使用できません。

UNAVAIL.

FM/Db2 がサブシステムまたは Db2® データ共有グループにインストールされていないか、FM/Db2 が接続に使用できません。

説明

Db2® サブシステムの記述名。

Prefix (接頭部)

Db2® サブシステムのコマンド接頭部。

親パネル

- [「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」](#) パネル ページ 756

子パネル

なし。

関連するタスク

- [複数の Db2 サブシステムが使用可能な場合のサブシステムの選択](#) ページ 32

「Db2® Template Description (テンプレート記述)」 パネル

「Db2® Template Description (テンプレート記述)」パネルを使用して、作成または変更しているテンプレートに記述を追加します。

パネルとフィールドの定義

Db2 Template Description	
S	Template
F	Data set . . : SHRIKE2.FM.TEMPLATE(EMP)
C	Source
T	Db2 Object : EMP
-	Subsystem : DFG2 Release : 1015
1	Created . . . : 2013/08/09 12:40:22
C	Modified . . : 2013/09/12 11:59:45
	Description . . _____
	. _____
	. _____
	. _____
	. _____
C	Command ==>
	F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward
	F9=Swap F12=Cancel

Template data set (テンプレート・データ・セット)

テンプレートが保管される区分データ・セットの名前。

Db2® Object (オブジェクト)

そのテンプレートを構築した元の Db2® オブジェクトの名前。

Subsystem (サブシステム)

Db2® オブジェクトが常駐する Db2® サブシステムのサブシステム ID。

Release (リリース)

オブジェクトが常駐する Db2® サブシステムの Db2® バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベル。

Created (作成日)

テンプレートをコピーブックから作成した日付。

Modified (変更)

テンプレートが最後に変更された日付。

Description (説明)

テンプレートの記述。このフィールドを使用して、テンプレートの記述を入力または変更します。

親パネル

- ・ [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」](#) パネル ページ 505

子パネル

なし。

関連するタスク

- [テンプレートの編集 ページ 84](#)

「Db2® Utilities (ユーティリティ)」 パネル

「Db2® Utilities (ユーティリティ)」 パネルを使用して、Db2® オブジェクトのコピー、ロード、再ビルド、再編成、統計収集を行うための Db2® ユーティリティ・ジョブを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Db2 Utilities	
Processing Options:			
Db2 Utility: (valid obj) Object Type: Specification:			
1. COPY (2,3)	2. LOAD (1)	1. Tables	1. Object name
3. REBUILD (4,5)	4. RECOVER (2,3)	2. Table spaces	2. LISTDEF
5. REORG (2,4)	6. RUNSTATS (2,4)	3. Index spaces	
7. UNLOAD (1,2)		4. Indexes	
		5. Indexes for table spaces	
Db2 Object Details: (* for list in any field)			
Database _____			
Table/Index space . _____			
Table or Index:			
Owner _____ +			
Name _____ +			
LISTDEF Details: (* unavailable)			
LISTDEF name . . . _____			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

「Db2® Utilities (ユーティリティ)」 パネルには、「*Processing Options (処理オプション)*」セクションの左側に使用可能なユーティリティのリストが表示され、右側には Db2® オブジェクト・タイプのリストが表示されます。それぞれの Db2® ユーティリティは、特定のオブジェクト・タイプにのみ適用されます。例えば、LOAD ユーティリティは Db2® 表のみ適用されます。それぞれのユーティリティの有効なオブジェクト・タイプは、「*Valid Db2® Obj (有効な OBJ)*」という見出しの下に表示されます。

「**Specification (仕様)**」セクションと「**LISTDEF name (LISTDEF 名)**」入力フィールドが、パネルに表示されます。LISTDEF の選択は、LISTDEF 名がユーティリティのオブジェクトとして指定されることを意味します。選択を行わない場合は、オブジェクト・タイプに指定されたタイプのオブジェクト名が指定されることになります。

「**Specification (仕様)**」セクションでは、以下を選択できます。

1. Object name (オブジェクト名)

「**Db2® Object Details (オブジェクトの詳細)**」で指定したオブジェクトが、ユーティリティのオブジェクトとして使用されます。デフォルトは 2 (**Table spaces**) です。

2. LISTDEF

「**LISTDEF name (LISTDEF 名)**」で指定した名前が、ユーティリティーのオブジェクトとして使用されます。デフォルトは 1 (**Object name**) です。

Db2® Utility (ユーティリティー)

実行する Db2® ユーティリティーを指定します。デフォルトは 1 (**Copy**) です。



注: LOAD の構文には LISTDEF 文節がありません。「**Db2® Utility (ユーティリティー)**」セクションで LOAD を選択し、さらに「**Specification (仕様)**」セクションで LISTDEF を選択した場合、FM/Db2 は警告メッセージを出します。

「**LISTDEF name (LISTDEF 名)**」セクションでは、「**Specification (仕様)**」セクションで 2(LISTDEF) を指定した場合は、使用したい LISTDEF の名前を指定してください。

Db2® ユーティリティーが処理するオブジェクトは、パネルの下部に指定します。

Database (データベース)

オブジェクトのデータベースの名前。

Table/Index space (表/索引スペース)

オブジェクトの表スペースまたは索引スペースの名前。

Owner (所有者)

オブジェクトの表または索引の所有者の名前。

Name (名前)

オブジェクトの表または索引の名前。

親パネル

- [「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」](#) パネル ページ 756
- [「Table Spaces \(表スペース\)」](#) パネル ページ 866
- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) パネル ページ 875
- [「Indexes \(索引\)」](#) パネル ページ 724

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティー (表スペース))」 パネル ページ 529	Db2® ユーティリティー: COPY、オブジェクト・タイプ: 表スペース、仕様: オブジェクト名

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
LISTDEF を指定した「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティー (表スペース))」パネル ページ 531	Db2® ユーティリティー: COPY、オブジェクト・タイプ: 表スペース、仕様: LISTDEF
「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティー (索引スペース))」パネル ページ 522	Db2® ユーティリティー: COPY、オブジェクト・タイプ: 索引スペース、仕様: オブジェクト名
LISTDEF を指定した「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティー (索引スペース))」パネル ページ 524	Db2® ユーティリティー: COPY、オブジェクト・タイプ: 索引スペース、仕様: LISTDEF
「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネル ページ 732	Db2® ユーティリティー: LOAD; オブジェクト・タイプ: 表、仕様: オブジェクト名
Db2 テンプレートを使用している「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネル ページ 734	Db2® ユーティリティー: LOAD、オブジェクト・タイプ: 表、仕様: LISTDEF
「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」パネル ページ 773	Db2® ユーティリティー: REBUILD、オブジェクト・タイ プ: 索引、仕様: オブジェクト名
LISTDEF が指定された「REBUILD (Indexes) (REBUILD (索引))」パネル ページ 775	Db2® ユーティリティー: REBUILD、オブジェクト・タイ プ: 索引、仕様: LISTDEF
「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」パネル ページ 769	Db2® ユーティリティー: REBUILD、オブジェクト・タイ プ: 表スペースの索引、仕様: オブジェクト名
「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER UTILITY (表スペース))」パネル ページ 780	Db2® ユーティリティー: RECOVER、オブジェクト・タイ プ: 表スペース、仕様: オブジェクト名
LISTDEF が指定された「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER ユーティリティー (表スペース))」パネル ページ 782	Db2® ユーティリティー: RECOVER、オブジェクト・タイ プ: 表スペース、仕様: LISTDEF
「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER UTILITY (索引スペース))」パネル ページ 777	Db2® ユーティリティー: RECOVER: オブジェクト・タイプ:

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[REORG Utility (Table Spaces) (REORG UTILITY (表スペース))] パネル ページ 792	索引スペース、仕様: オブジェクト名 Db2® ユーティリティ: REORG、オブジェクト・タイプ: 表スペース、仕様: オブジェクト名
[REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティ (索引))] パネル ページ 788	Db2® ユーティリティ: REORG、オブジェクト・タイプ: 索引、仕様: オブジェクト名
LISTDEF が指定された [REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティ (索引))] パネル ページ 790	Db2® ユーティリティ: REORG、オブジェクト・タイプ: 索引、仕様: LISTDEF
[RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS UTILITY (表スペース))] パネル ページ 804	Db2® ユーティリティ: RUNSTATS、オブジェクト・タイプ: 表スペース、仕様: オブジェクト名
LISTDEF を指定した [RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS ユーティリティ (表スペース))] パネル ページ 806	Db2® ユーティリティ: RUNSTATS、オブジェクト・タイプ: 表スペース、仕様: LISTDEF
[RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS UTILITY (索引))] パネル ページ 801	Db2® ユーティリティ: RUNSTATS、オブジェクト・タイプ: 索引、仕様: オブジェクト名
LISTDEF を指定した [RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS ユーティリティ (索引))] パネル ページ 803	Db2® ユーティリティ: RUNSTATS、オブジェクト・タイプ: 索引、仕様: LISTDEF
[UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))] の [From (元)] パネル ページ 891	Db2® ユーティリティ: UNLOAD、オブジェクト・タイプ: 表、仕様: オブジェクト名
[UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))] パネル ページ 889	Db2® ユーティリティ: UNLOAD、オブジェクト・タイプ: 表スペース、仕様: オブジェクト名
LISTDEF を指定した [UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))] パネル ページ 889	Db2® ユーティリティ: UNLOAD、オブジェクト・タイプ: 表スペース、仕様: LISTDEF

関連するタスク

- Db2 ユーティリティー・ジョブ用のバッチ JCL の生成 ページ 356

Db2® 「View (表示)」 パネル

「Db2® View (表示)」 パネルを使用して、編集するオブジェクトの名前を入力します (ただし、行った変更は保存できません)。また、このパネルを使用して、オブジェクトの論理ビューを記述するテンプレートの名前も指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Help
FM/Db2 (DFG2)		Db2 View
Specify the Db2 Object:		
Location	_____	Database . . _____ (optional)
Owner	FMUSER	+ Table space _____ (optional)
Name	EMP	+
Start position . . .	1	
Row count	100	Number of rows to edit
Template:		
Data set name . . .	'FMUSER.TEMPLATE'	
Member	SALARY	
Processing Options:		
Template usage	Enter "/", "A" always to select option	
3 1. Above	- Edit options	
2. Previous	- Edit template	
3. Generate from table	- Re-edit template	
4. Generate/Replace	- Create audit trail (*)	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right
F12=Cancel		

Location (場所)

Db2® オブジェクトのロケーション名。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

Database (データベース)

Db2® オブジェクトのデータベース名。このフィールドを使用してオプションでデータベースを指定して、処理するオブジェクトをさらに定義することができます。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「Owner (所有者)」 および 「Name (名前)」 の選択リストに表示される値は、ここで指定されたデータベース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

Owner (所有者)

オブジェクトの所有者の名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。オブジェクトの「Name (名前)」 フィールドに同義語を指定するには、このフィールドを空白のままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「Table space (表スペース)」

「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Table space (表スペース)

Db2® オブジェクトの表スペース名。処理するオブジェクトをさらに定義するには、このフィールドを使用して、オプションで表スペースを指定します。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「**Owner (所有者)**」および「**Name (名前)**」の選択リストに表示される値は、ここで指定された表スペース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストにも含まれません。

Name (名前)

処理するオブジェクトの名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、「**Owner (所有者)**」フィールドをブランクにするか、現行の SQLID を含む総称名にするか、または現行の SQLID にします。「**Table space (表スペース)**」、「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Start position (開始位置)

結果表から FM/Db2 エディターへの行のロードを FM/Db2 が開始する位置を指定します。

1 (デフォルト) より大きな値を指定した場合、FM/Db2 は FM/Db2 エディターに行をロードする前に、結果表の n-1 行をスキップします。「**Row count (行カウント)**」の値が ALL (または 0 または *) の場合は、データが表示されたときに、スクロールアップしてスキップされた行を表示できます。「**Row count (行カウント)**」の値が固定の場合、後方にスクロールしてスキップされた行を表示することはできません。

Row count (行カウント)

このオプションは、Db2® から検索し、エディター・セッションのためにメモリーにロードする行の最大数を指定するために使用します。値を 1 から 999999999 の範囲で指定するか、すべての行の検索を指示する場合は ALL、0、または * を指定できます。デフォルト値は 100 です。

File Manager/Db2 エディター・セッションは、Db2® から取り出されて、エディターにロードされた行にのみ適用されます。取り出されていない行には適用されません。これは、FIND および CHANGE 基本コマンドは Db2® から取り出された行にのみ適用されることを意味します。



注: 大きい表を編集するときは、ストレージの問題が発生することがあるので、0の値の使用には注意してください。エディターが必要とするストレージの量は、検索される行数と行の長さの両方によって決まります。検索される行数を制限するには、テンプレートの「行選択基準」セクションを使用します。

Data set name (データ・セット名)

テンプレートが入っているか、入る予定のデータ・セットの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「Member (メンバー)」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Db2® View (表示)」パネルは、以下の4つのオプションをテンプレート処理のために提供しています。

1. Above (上の指定)

パネルの「Template (テンプレート)」セクションにテンプレート・データ・セットの名前(およびオプションのメンバー名)を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が継続されます(詳細については、「Template Usage (テンプレート使用法)」のオプション3を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の(直前に使用した)テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「Template (テンプレート)」セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「Template (テンプレート)」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションを選択すれば、現行エディター・セッション用のオプションを変更することができます。

Edit options (編集オプション)

以下のいずれかを入力してください。

/または「A」

処理する Db2® オブジェクトのデータを表示する前に、最初の「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

1 から 8 までの数値

「FM/Db2 Editor Options (編集オプション)」パネルの n 番目を直接表示します。 n は、入力された値です。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit template (テンプレートの編集)

データを編集する前にテンプレートを編集するには、このオプションを選択します。

Re-edit template (テンプレートの再編集)

編集ダイアログ内のパネル間のナビゲーションを制御するには、このオプションを選択します。このオプションは、編集セッション内から押されたときの F3 キーおよび F12 キーの動作を制御します。

Create audit trail (監査証跡の作成)



注: SAF 規則によって必要となる場合は、SAF で制御された監査のオプション名に「(*)」が付加されます。

FM/Db2 による Db2® へのアクセスを FM/Db2 監査ログに書き込むかどうかを制御します。このオプションは、SAF 規則で制御された監査が有効である場合にのみ表示されます。

FM/Db2 は、SMF、またはデータ・セットのいずれかに監査レコードを書き込むことができます。

FM/Db2 監査の制御に SAF 規則が使用される場合、監査レコードを書き込むかどうかは、処理対象の Db2® オブジェクト名と、現在のユーザー ID (TSO ログオン ID) に基づいて決定されます。そのため、ある Db2® オブジェクトの処理には監査が必要でも、別のオブジェクトの処理には必要でない場合があります。また、特定の Db2® オブジェクトの監査要件を変更できなくても、別の Db2® オブジェクトの監査要件は変更できたり、他の TSO ユーザー ID に対しては要件が異なったりする場合があります。

特定の Db2® オブジェクトの処理中に、監査設定を変更する権限を持っていない場合、FM/Db2 によって、間違っただ設定を入力しているのではないかとこのプロンプトが出されます。特定の Db2® オブジェクトに対する監査設定を設定する権限を持っている場合、FM/Db2 は、このフィールドにどのような値が指定されてもそれを受け入れます。

親パネル

- [「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」](#) パネル ページ 756
- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) パネル ページ 875

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Table View (表表示)」 パネル ページ 868	オプションを選択せずに Enter キーを押す
「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」 パネル ページ 651	「Edit options (編集オプション)」 を選択する
「Column Selection/Edit (列選択/編集)」 パネル ページ 505	「Edit template (テンプレート編集)」 または 「Re-edit template (テンプレートの再編集)」 を選択する

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更](#) ページ 123
- [FM/Db2 パネルでのオプションの選択](#) ページ 46
- [データ・セットおよびメンバー名の指定](#) ページ 53
- [テンプレートを使用できる場所](#) ページ 25
- [テンプレートの処理](#) ページ 75
- [View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\)](#) ページ 68

「Db2I Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」 パネル

「Db2I Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」 パネルを使用して、Db2® 対話機能とのインターフェースを取ります。

パネルとフィールドの定義

COMMAND ==>>		Db2I PRIMARY OPTION MENU	SSID: DFA2
Select one of the following Db2 functions and press ENTER.			
1	SPUFI	(Process SQL statements)	
2	DCLGEN	(Generate SQL and source language declarations)	
3	PROGRAM PREPARATION	(Prepare a Db2 application program to run)	
4	PRECOMPILE	(Invoke Db2 precompiler)	
5	BIND/REBIND/FREE	(BIND, REBIND, or FREE plans or packages)	
6	RUN	(RUN an SQL program)	
7	Db2 COMMANDS	(Issue Db2 commands)	
8	UTILITIES	(Invoke Db2 utilities)	
D	Db2I DEFAULTS	(Set global parameters)	
X	EXIT	(Leave Db2I)	
F1=HELP F7=UP	F2=SPLIT F8=DOWN	F3=END F9=SWAP	F4=RETURN F10=LEFT
			F5=RFIND F11=RIGHT
			F6=RCHANGE F12=RETRIEVE

親パネル

- [「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」](#) パネル ページ 756

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 対話機能とのインターフェース](#) ページ 450

詳細パネル

これらのパネルは、以下の通りです。

- 「Database Details (データベースの詳細)」 パネル
- 「Table Space Details (表スペースの詳細)」 パネル
- 「Table Details (表の詳細)」 パネル
- 「View Details (ビューの詳細)」 パネル
- 「Index Details (索引の詳細)」 パネル
- 「Column Details (列詳細)」 パネル
- 「Synonym Details (同義語の詳細)」 パネル
- 「Application Plan Details (アプリケーション・プランの詳細)」 パネル
- 「Package Details (パッケージの詳細)」 パネル
- 「DBRM Details (DBRM 詳細)」 パネル
- 「Distinct Type Details (特殊タイプの詳細)」 パネル
- 「Function Details (関数の詳細)」 パネル
- 「Procedure Details (プロシージャの詳細)」 パネル
- 「Trigger Details (トリガーの詳細)」 パネル

Db2® オブジェクトのリストに表示されたオブジェクトに対して 1 行コマンドを指定すると、FM/Db2 は以下のパネルの 1 つを表示します。

子パネル

なし。

「Display Row (表示行)」 パネル

ROW 行コマンドが使用できる任意のパネルで ROW 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Display Row (表示行)」パネルを表示します。

関連するタスク

「Distinct Types (特殊タイプ)」パネル

「Distinct Types (特殊タイプ)」パネルは、Db2® カタログの特殊タイプをリストするために使用します。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSDATATYPES の列が含まれています。

Process	Options	Utilities	Help				
FM/Db2 (DFG2)			Distinct Types				
Location:			Format TABL				
SEL	SCHEMA	NAME	OWNER	CREATEDBY	SOURCESCHEMA	SOURCETYPE	METATYEX
----	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*
----	#1---#3	-----#2	-----#4	-----#5	-----#6	-----#18	-----1-
****	Top of data		****				
-----	SHRIKE2	DT1	SHRIKE2	SHRIKE2	SYSIBM	CHAR	Distinct Ty
-----	SHRIKES	CHAR80	SHRIKE2	SHRIKE2	SYSIBM	CHAR	Distinct Ty
****	End of data		****				
Command ==>			Scroll PAGE				
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の「Db2® catalog tables (カタログ表)」を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- [「Object List Utility \(オブジェクト・リスト・ユーティリティ\)」](#) パネル ページ 747
- [「Schemas \(スキーマ\)」](#) パネル ページ 807
- [「Functions \(関数\)」](#) パネル ページ 710

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
コメント・パネル ページ 512	行コマンド COM
「Create Distinct Type (特殊タイプの作成)」 パネル ページ 537	行コマンド CR
除去パネル ページ 646	行コマンド DR
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
「Generate SQL From Db2 Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネル ページ 712	行コマンド GEN
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
特権パネル ページ 764	行コマンド P
行コマンド PS	
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Schemas (スキーマ)」 パネル ページ 807	行コマンド SCH
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド T
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

除去パネル

これらのパネルは、以下の通りです。

- 「Drop Alias (別名の除去)」 パネル
- 「Drop Database (データベースの除去)」 パネル
- 「Drop Distinct Type (特殊タイプの除去)」 パネル
- 「Drop Function (関数の除去)」 パネル
- 「Drop Index (索引の除去)」 パネル
- 「Drop Stored Procedure (ストアド・プロシージャ除去)」 パネル
- 「Drop Synonym (同義語プロシージャの除去)」 パネル
-
- 「Drop Table Space (表スペースの除去)」 パネル、除去パネルとしての説明
- 「Drop Trigger (トリガーの除去)」 パネル
- 「Drop View (ビューの除去)」 パネル

Db2® オブジェクトのリストに表示されたオブジェクトに対して DR 行コマンドを指定すると、FM/Db2 は以下のパネルの 1 つを表示します。

Db2® オブジェクトを除去したい場合に、該当する除去パネルを使用します。

「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」 パネル、「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」 パネル、または「Explain Utilities (エクスプレイン・ユーティリティ)」 パネルで「**Confirm object drop (オブジェクトの除去確認)**」オプションにチェックを付けている場合、FM/Db2 は Db2® オブジェクトを除去する前に「Drop Confirmation (除去確認)」 パネルを表示します。

子パネル

- [「Drop Confirmation \(除去確認\)」 パネル ページ 647](#)

関連するタスク

- [Db2 オブジェクトの除去 ページ 250](#)

「Drop Confirmation (除去確認)」 パネル

Db2® オブジェクトを除去することを指定し、さらに、「Db2® Object Functions (オブジェクト機能)」 パネルまたは「Explain Utilities (エクスプレイン・ユーティリティ)」 パネルで「**Confirm object drop (オブジェクトの除去確認)**」オプションにチェックを付けている場合、FM/Db2 は「Drop Confirmation (除去確認)」 パネルを表示します。

除去を進めるには Enter キーを押し、除去を取り消すには「Cancel」機能キー (F12) を押します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	Drop Confirmation				
Table : "ADDRESS BOOK"					
Instruction: Press Enter to confirm drop. (The table will be dropped) (Warning: All dependent objects will also be dropped.) Press CANCEL or EXIT to cancel drop. Type SQL to generate the SQL for the drop statement only.					
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel			

親パネル

- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」 パネル ページ 629](#)
- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」 パネル ページ 629](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 オブジェクトの除去 ページ 250](#)

関連する参照先

- [「Db2 Object Functions \(オブジェクト機能\)」 パネル ページ 629](#)

「Edit/Execute SQL (Data Set) (SQL の編集/実行 (データ・セット))」 パネル

「Edit/Execute SQL (Data Set) (SQL の編集/実行 (データ・セット))」 パネルを使用して、データ・セットに含まれている SQL ステートメントを編集および実行します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFE2)	Edit/Execute SQL (Data Set)		
Input Data Set:			
Data set name	_____		
Member	_____		
Volume	_____		
SELECT statement options:			
Row count	100	Number of rows to browse	
Processing Options:			
Execution options	Enter "/" to select option		
___ First column	/ Edit data set		
___ Last column	/ Execute SQL from data set		
___ Comment chars	- Re-edit data set after execution		
	- Create audit trail (*)		
Command ==> _____			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Data set name (データ・セット名)

編集する SQL ステートメントが入っているデータ・セットまたは PDS メンバーの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した **「Member (メンバー)」** フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「Data set name (データ・セット名)」 フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Volume serial (ボリューム通し番号)

データ・セットが入っているボリュームの通し番号 (該当する場合)。

Row count (行カウント)

処理されている SQL ステートメントが SELECT ステートメントの場合に、FM/Db2 エディターにロードされる行を制限します。SELECT ステートメントですべての行をロードするには、このフィールドに「*」または「ALL」を指定します。

First column (最初の列)

最初のデータ列。SQL ステートメントの生成時に、FM/Db2 はこの列番号より左方のデータはすべて無視します。値を指定しない場合には、ステートメントは 1 列目で始まると見なされます。

Last column (最後の列)

最後のデータ列。SQL ステートメントの生成時に、FM/Db2 はこの列番号より右方のデータはすべて無視します。値を指定しない場合には、ステートメントはデータ・セット・レコードの終わりまで継続すると見なされます。

Comment chars (コメント文字)

このオプションは、データ・セット内のコメント行であるレコードを示す 1 または 2 文字 (例えば、"--") を指定するために使用します。指定された文字がデータ・セット・レコード内の最初の非空白文字である (しかも、ステートメントのその部分が引用符で囲まれたストリングの中にある) 場合には、FM/Db2 はそのレコードを無視します。

Edit data set (データ・セットの編集)

FM/Db2 は、指定されたメンバーまたはデータ・セットについて ISPF 編集セッションを開始します。

このオプションを使用して、実行可能な状態で保持できる SQL ステートメントのライブラリーを使用することができます。

編集セッションを終了するには、「Exit」機能キー (F3) を使用します。行ったすべての変更が保管されます。

Execute SQL from data set (データ・セットから SQL を実行)

FM/Db2 は、データ・セットまたはメンバーを読み取り、それが抽出できる SQL ステートメントを実行して、適用できれば結果を戻します。

FM/Db2 が結果表またはエラー・パネルを表示した後に、データ・セットまたはメンバー内の次の SQL ステートメントを実行するには、「Exit」機能キー (F3) を使用します。

ステートメントを実行しないか、あるいはエラーまたは結果パネルが表示された後の任意の時点で「Edit and Execute SQL Statements from a Data Set (データ・セットからの SQL ステートメントの編集および実行)」パネルに戻るには、「Cancel」機能キー (F12) を使用してください。

Re-edit data set after execution (実行後にデータ・セットを再編集)

FM/Db2 は、データ・セット内のステートメントの実行を完了した後に、編集セッションを再起動します (「Edit and Execute SQL Statements from a Data Set panel (データ・セットからの SQL ステートメントの編集および実行)」パネルには戻りません)。

Create audit trail (監査証跡の作成)



注: SAF 規則によって必要となる場合は、SAF で制御された監査のオプション名に「(*)」が付加されます。

FM/Db2 による Db2® へのアクセスを FM/Db2 監査ログに書き込むかどうかを制御します。このオプションは、SAF 規則で制御された監査が有効である場合にのみ表示されます。

FM/Db2 は、SMF、またはデータ・セットのいずれかに監査レコードを書き込むことができます。

FM/Db2 監査の制御に SAF 規則が使用される場合、監査レコードを書き込むかどうかは、処理対象の Db2® オブジェクト名と、現在のユーザー ID (TSO ログオン ID) に基づいて決定されます。そのため、ある Db2® オブジェクトの処理には監査が必要でも、別のオブジェクトの処理には必要でない場合があります。また、特定の Db2® オブジェクトの監査要件を変更できなくても、別の Db2® オブジェクトの監査要件は変更できたり、他の TSO ユーザー ID に対しては要件が異なったりする場合があります。

特定の Db2® オブジェクトの処理中に、監査設定を変更する権限を持っていない場合、FM/Db2 によって、間違っただ設定を入力しているのではないかとこのプロンプトが出されます。特定の Db2® オブジェクトに対する監査設定を設定する権限を持っている場合、FM/Db2 は、このフィールドにどのような値が指定されてもそれを受け入れます。

親パネル

- [「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [データ・セットからの SQL ステートメントの編集と実行 ページ 442](#)
- [データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)
- [SAF 規則で制御された監査 ページ 72](#)

「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル

8 つの「Editor Options (編集オプション)」パネル (1 から 8) を使用して、デフォルトの編集オプションを設定します。

「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネルまたはアクション・バーからこのパネルを表示した場合には、これらのオプションは、ISPF プロファイルの中に保管されて、1 つの FM/Db2 セッションから次のセッションへと持続します。

それ以外の場合 (「Db2® View (表示)」パネルまたは「Db2® Edit (編集)」パネルで「**Edit options (編集オプション)**」を選択することによってこのパネルを表示した場合は、これらのオプションに対するどの変更も、現行 FM/Db2 エディター・セッションが存続している間のみ有効です。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Editor Options (1 of 8)		Global Settings
Display Format: Initial display format 1. Previous 2. Table 3. Single		Editor CAPS Setting: Enter "/" to select option / Initially ON Audit Option: Enter "/" to select option / Create audit trail	
More Options: Enter "/" to select option / Optimization, large table and data sampling options / Table/Single format, prefix area and shadow options / Key, index and export options / Varying length and nullable column options / Enter key and commit processing options / Concurrency and locking options / XML and LOB column processing options			
Command ==> F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap F11=NxtPage F12=Cancel			

Initial display format (初期表示形式)

「Editor Options (編集オプション)」パネルのこのセクションは、File Manager/Db2 エディター・セッションの開始時にエディター・パネルを表示する方法を指定するために使用します。このオプションは次のいずれかに設定してください。

1. Previous (前の表示形式)

「View (表示)」パネルまたは「Edit (編集)」パネルの「display format (表示形式)」フィールド (「Format (形式)」) には、直前の FM/Db2 エディター・セッションで指定された値が事前に入力されています。これはデフォルト設定です。

2. Table (表)

「View (表示)」または「Edit (編集)」パネルは TABLE 表示形式で表示されます。

3. Single (単一)

「View (表示)」または「Edit (編集)」パネルは SNGL 表示形式で表示されます。

Editor CAPS Setting (エディターの CAPS 設定)

File Manager/Db2 エディター・セッションでの CAPS の初期設定、および設定を変更できるかどうかを示します。このオプションが更新可能であれば、デフォルトでは選択されていません。

Initially ON (fixed at installation) (最初は ON (インストール時に固定))

CAPS を ON に設定します。編集オプションを使用して設定を変更することはできません。

Initially OFF (fixed at installation) (最初は OFF (インストール時に固定))

CAPS を OFF に設定します。編集オプションを使用して設定を変更することはできません。

Enter "/" to select option ... Initially ON ("/" を入力してオプションを選択します ... 最初は ON)

CAPS 設定は変更できます。

/

CAPS を ON に設定します。

(空白)

CAPS を OFF に設定します。

Create audit trail (監査証跡の作成)

FM/Db2 が、編集セッション中に実行された Db2® データに対するすべての正常変更の監査追跡報告書を生成するかどうかを決定します。

/

監査証跡報告書が生成されます。

(空白)

監査証跡報告書は生成されません。



注:

- このオプションの表示については、SAF 規則で制御された監査が有効であるかどうか、および Db2® システムに対して監査が実行されるかどうかによって異なります。[SAF 規則で制御された監査 ページ 72](#) を参照してください。
- このオプションを変更できるかどうかは、FM/Db2 の接続先 Db2® サブシステム内のインストール・オプションによって決まります。「**Create an audit trail (監査証跡の作成)**」オプションは次のいずれかとすることができます。
 - 永続的に選択されます (“Y” がオプションに示されます)。編集処理について監査証跡報告が行われます。オプションの設定は、変更できません。
 - 永続的に選択解除されます (ブランクがオプションに示されます)。編集処理について監査証跡報告は行われません。オプションの設定は、変更できません。
 - オプションすべての編集処理の監査証跡報告を生成するには、オプションに “Y” を入力します。そうでない場合には、オプションにスペースを入力して編集処理の監査証跡報告を抑制します。

FM/Db2 セッションの終わりで、FM/Db2 の接続先の Db2® サブシステム内のインストール・オプションに応じて、指定した「**Create an audit trail (監査証跡の作成)**」オプションを ISPF プロファイルに保管したり、あるいはブランク (監査証跡報告書は選択されない) に設定することができます。接続中の Db2® システムに対する監査インストール・オプションは、「HELP (ヘルプ)」プルダウン・メニューからオプション 7 を選択して判別することができます。監査オプションが “OPTIONAL, OFF” であるときは、「Create an audit trail (監査証跡の作成)」オプションは、File Manager/Db2 セッションの開始時点で常にブランク (非選択) にリセットされます。これは、監査ログを書き込む場合、新規の FM/Db2 セッションを開始するたびに監査を明示的に選択しなければならないことを意味します。さらに、このオプションを選択したと



きは、監査オプションのグローバル設定と、Db2® 編集パネルで「Edit options (編集オプション)」を使用して入力する値の間に区別はありません。詳細については、「File Manager カスタマイズ・ガイド」を参照するか、システム管理者にお問い合わせください。

オプション (詳細)

これらのオプションは、FM/Db2 がその他の編集オプション・パネルを表示するかどうかを制御します。それぞれのオプションのデフォルトが選択されています。

FM/Db2 編集オプションは多いため、1 パネル内に入りません。追加のオプションにアクセスするには、パネルのこのセクションのフィールドを選択します。

他のオプション・パネルにナビゲートするには、NxtPage に割り当てられている PF キー (デフォルトでは PF11) を押します。前のパネルに戻るには、PrvPage に割り当てられている PF キー (デフォルトでは PF10) を押します。

パネルの「More options (追加オプション)」セクションで該当するフィールドを選択解除することによって、1 つ以上の追加オプション・パネルの表示を省略できます。

Optimization, large table and data sampling options (最適化、大きな表およびデータ・サンプリング・オプション)

「NxtPage」機能キー (F11) または「PrvPage」機能キー (F10) を使用して「Editor Options (編集オプション)」パネルの間をナビゲートしているときに、2 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示するかどうかを指示します。

/

2 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

(空白)

2 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルは表示しません。

Table/Single format, prefix area and shadow options (表/単一形式、接頭部域およびシャドー・オプション)

「NxtPage」機能キー (F11) または「PrvPage」機能キー (F10) を使用して「Editor Options (編集オプション)」パネルの間をナビゲートしているときに、3 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示するかどうかを指示します。

/

3 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

(空白)

3 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルは表示しません。

Key, index and export options (キー、索引およびエクスポート・オプション)

「NxtPage」機能キー (F11) または 「PrvPage」機能キー (F10) を使用して 「Editor Options (編集オプション)」 パネルの間をナビゲートしているときに、4 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルを表示するかどうかを指示します。

/

4 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルを表示します。

(空白)

4 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルは表示しません。

Varying length and nullable column options (可変長およびヌル可能列オプション)

「NxtPage」機能キー (F11) または 「PrvPage」機能キー (F10) を使用して 「Editor Options (編集オプション)」 パネルの間をナビゲートしているときに、5 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルを表示するかどうかを指示します。

/

5 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルを表示します。

(空白)

5 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルは表示しません。

Enter key and commit processing options (Enter キーおよびコミット処理オプション)

「NxtPage」機能キー (F11) または 「PrvPage」機能キー (F10) を使用して 「Editor Options (編集オプション)」 パネルの間をナビゲートしているときに、6 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルを表示するかどうかを指示します。

/

6 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルを表示します。

(空白)

6 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルは表示しません。

Concurrency and locking options (並行性およびロック・オプション)

「NxtPage」機能キー (F11) または 「PrvPage」機能キー (F10) を使用して 「Editor Options (編集オプション)」 パネルの間をナビゲートしているときに、7 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルを表示するかどうかを指示します。

/

7 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルを表示します。

(空白)

7 番目の 「Editor Options (編集オプション)」 パネルは表示しません。

XML and LOB column processing options

「NxtPage」機能キー (F11) または「PrvPage」機能キー (F10) を使用して「Editor Options (編集オプション)」パネルの間をナビゲートしているときに、8 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示するかどうかを指示します。

/

8 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

(空白)

8 番目の「Editor Options (編集オプション)」パネルは表示しません。

親パネル

- 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824
- Db2 「View (表示)」パネル ページ 639
- 「Db2 Edit (編集)」パネル ページ 622
- Db2 「Browse (ブラウズ)」パネル ページ 618
- アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネル ページ 656	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- View options (表示オプション) と Edit options (編集オプション) (オプション 1 と 2) ページ 68
- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- 現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128
- 表示形式の選択 ページ 155
- CAPS に影響を与えるインストール設定 ページ 186

「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネル

「Editor Options (2 of 7) (編集オプション (7 の 2))」パネルを使用して、デフォルトの編集オプションを設定します。



注: これらのオプションへの変更の持続期間については、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルの説明 (「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル ページ 651) を参照してください。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Editor Options (2 of 8)		Global Settings
Optimization Options:		Large Table Options:	
Enter "/" to select option		Scrollable cursor type	
_ Use row count value		1 1. Insensitive	
Optimize for . . . 0 _____ Rows		2. Sensitive static	
Data Sampling:		Clustered Sampling:	
Sampling type		Initial skip count 0 _____	
1 1. None		Include count . . . 1 _____	
2. Clustered sampling		Skip count 0 _____	
3. Random sampling		Random Sampling:	
Sampling limit . . 0 _____		Sampling frequency 0.01 _____	
		Sampling seed . . . 0 _____	
Command ==> _____			
F1=Help		F2=Split	F3=Exit
F10=PrvPage		F11=NxtPage	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward
		F9=Swap	

Use row count value (行カウント値の使用)

このオプションは、Db2® の最適化に影響を与えます。

FM/Db2 が Db2® データにアクセスする SQL ステートメントを作成するときに、結果表の行数が、Db2® による結果表の作成方式に影響を与えることがあります。場合によっては、Db2® はより効率的な別のアクセス方式を使用します。そうしないと結果表が非常に大きくなるが、結果表に必要な行がごくわずかであることがわかっている場合です。このオプションによって、FM/Db2 が Db2® にアクセスするときに使用する SQL ステートメントに追加の文節を追加できます。OPTIMIZE FOR *nnn* ROWS 文節については、該当するバージョンの Db2® の「SQL リファレンス」マニュアルを参照してください。デフォルトが選択されています。

0 から 999999 の数値 (両端の値を含む) を入力します。このオプションと「Use row count value (行カウント値の使用)」オプションの組み合わせは、次のようになります。

「Use row count value (行カウント値の使用)」オプションが選択されている

エディター機能入力パネルの「Row count (行カウント)」に指定されている値が使用されます。ただし、ALL (および 0、*) が指定されている場合は除きます。後の事例では、「Optimize for (最適化)」の値が考慮されます。値がゼロの場合、OPTIMIZE FOR 文節は作成されません。その他の値の場合、OPTIMIZE FOR *nnn* ROWS 文節が追加されます。*nnn* は、「Optimize for (... に最適化)」オプションに入力された値です。「Optimize for (最適化)」オプションのデフォルトは 0 です。

「Use row count value (行カウント値の使用)」オプションが選択されていない

「Optimize for (最適化)」の値が考慮されます。値がゼロの場合、OPTIMIZE FOR 文節は作成されません。その他の値の場合、OPTIMIZE FOR *nnn* ROWS 文節が追加されます。*nnn* は「Optimize for (... に最適化)」オプションに入力された値です

Scrollable cursor type (スクロール可能カーソル・タイプ)

FM/Db2 が大きな Db2® オブジェクトを処理するとき使用するアクセス方式を制御します。

FM/Db2 エディターは、2つのモードで動作できます。十分なメモリーが使用可能な場合、FM/Db2 は結果表のすべての行をエディターにロードします。大きな結果表を持つ Db2® オブジェクトの場合、FM/Db2 は、最初に少数の行だけをメモリーにロードし、エディター・セッションの間、少数の行だけをメモリーに保持します。これは、Db2® スクロール可能カーソルによって実現されています。指定されたカーソルのタイプは、特に編集モードで、エディターの動作に影響を与えることがあります。デフォルトは 1 (**Insensitive**) です。

1. Insensitive (インセンシティブ)

インセンシティブ・カーソルは、結果表のポイント・イン・タイム・スナップショットのように動作します。結果表の行数は固定で、他のプロセスがその表に挿入、更新、または削除の操作を行っても、変更されません。ブラウズまたは表示モードでは、FM/Db2 は常にインセンシティブ・カーソルを使用します。

2. Sensitive static (センシティブ静的)

センシティブ静的カーソルの場合も結果表の行数は固定ですが、カーソルで行われた削除および更新操作は、カーソルが次に行を処理するとき反映されます。さらに、元になる表への更新および削除操作によって、カーソルが処理するときに行が表示されなくなることがあります。

センシティブ静的カーソルは、編集モードでのみ使用されます。

Sampling type (サンプリング・タイプ)

データ・サンプリングを使用するかどうかを制御します。

データ・サンプリングを使用すると、Db2® オブジェクトの行のサブセットをエディターにロードできます。デフォルトは 1 (**None**) です。このオプションの可能な値は、次のとおりです。

1 None (なし)

オブジェクトのすべての行が組み込みに適格です。これはデフォルトです。

2. Clustered sampling (クラスター化サンプリング)

指定した行数がエディターにロードされます。

3. Random sampling (ランダム・サンプリング)

オブジェクトの各行が、エディターへの組み込みの対象として検討されます。乱数発生ルーチンと頻度により、行が実際にロードされるかどうかが決まります。

データ・サンプリングが選択されている場合、次のオプションについて検討する必要もあります。

Sampling limit (サンプリング制限)

クラスター化サンプリングとランダム・サンプリングの両方。

Initial skip count (初期スキップ・カウント)

クラスター化サンプリング。

Include count (組み込みカウント)

クラスター化サンプリング。

Skip count (スキップ・カウント)

クラスター化サンプリング。

Sampling frequency (サンプリング頻度)

ランダム・サンプリング。

Sampling seed (サンプリング・シード)

ランダム・サンプリング。

Clustered Sampling (クラスター化サンプリング)

クラスター化データ・サンプリングでは、データは連続した行のグループに分割されます。各グループの行数は、次の値の合計です。

- Initial skip count (初期スキップ・カウント)
- Include count (組み込みカウント)
- (最終) skip count (スキップ・カウント)

各グループ内で、「**Initial skip count (初期スキップ・カウント)**」で指定された数の行が無視されます。

「**Include count (組み込みカウント)**」の数の行がサンプリングされます (エディター・セッションに追加されます)。最後に、「**Skip count (スキップ・カウント)**」で指定された数の行が無視されます。その後、次の行グループでサンプリングが再開されます。

これらのオプションは、クラスター化データ・サンプリングにのみ適用されます。クラスター化データ・サンプリングを使用していない場合、指定された値はすべて無視されます。

Initial skip count (初期スキップ・カウント)

各クラスター化サンプル・グループで最初にスキップされる行の数を制御します。ゼロまたは正整数を使用できます。デフォルトは 0 です。

Include count (組み込みカウント)

各クラスター化サンプル・グループでサンプリングされる行の数を制御します。正整数にする必要があります。デフォルトは、1 です。

Skip count (スキップ・カウント)

各クラスター化サンプル・グループで最初にスキップされる行の数を制御します。ゼロまたは正整数を使用できます。デフォルトは 0 です。

Random Sampling (ランダム・サンプリング)

ランダム・データ・サンプリングは、乱数発生ルーチンとサンプリング頻度を使用して、行をサンプルに組み込むかどうかを決定します。これらのオプションは、ランダム・データ・サンプリングにのみ適用されます。ランダム・データ・サンプリングを使用していない場合、指定された値はすべて無視されます。

Sampling limit (サンプリング制限)

データ・サンプルにおける最大行数を設定する値。値 0 は、データ・サンプルにおける行数に制限がないことを示します。デフォルトは 0 です。

Sampling frequency (サンプリング頻度)

ランダム・データ・サンプリングのサンプリング頻度を制御します。デフォルトは 0.01 です。

0.000000001 から 0.999999999 の値 (両端を含む) を入力します。行の約 10% をサンプリングするには、0.1 の頻度を入力します。行の約 1% をサンプリングするには、0.01 の頻度を入力します。

Sampling seed (サンプリング・シード)

ランダム・データ・サンプリングに使用する乱数発生ルーチンを開始するために使用する値です。デフォルトは 0 です。

0 から 2147483647 の整数 (両端を含む) を入力します。ゼロの値は、FM/Db2 がシステム・クロックを使用して乱数発生ルーチンを開始することを示します。データ・サンプルの再現性が重要な場合は、ゼロの値を指定してください。ゼロ以外の値を使用して乱数発生ルーチンを開始すると、表とその他の入力条件が同じ限り、データ・サンプルは反復可能になります。

親パネル

「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルは、以下の「親」パネルから表示できます。「Editor Options (2 of 8)」パネルに進むには、「NxtPage」機能キー (F11) を押します。

- 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824
- Db2 「View (表示)」パネル ページ 639
- Db2 「Browse (ブラウズ)」パネル ページ 618
- 「Db2 Edit (編集)」パネル ページ 622
- アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456

「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネルを表示できるのは、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルで「Optimization, large table and data sampling options (最適化、大きな表およびデータ・サンプリング・オプション)」オプションが選択されている場合のみです。

子パネル


このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル ページ 651	「PrvPage」機能キー (F10) を押す
「Editor Options (3 of 8) (編集オプション (8 の 3))」パネル ページ 661	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- View options (表示オプション) と Edit options (編集オプション) (オプション 1 と 2) ページ 68
- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- 現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128
- データ・サンプリング ページ 173
- 大きな表オプション ページ 172

「Editor Options (3 of 8) (編集オプション (8 の 3))」 パネル

「Editor Options (3 of 8)」 パネルを使用して、デフォルトの編集オプションを設定します。

 **注:** これらのオプションへの変更の持続期間については、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」 パネルの説明 (「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」 パネル ページ 651) を参照してください。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Editor Options (3 of 8)		Global Settings
Table Display Format:		Prefix Area:	
Enter "/" to select option		Prefix length . . . A (A,6,7,8,9)	
/ Show data type		Enter "/" to select option	
/ Show scale line		/ Display prefix area	
/ Show column number		- Show prefix area on the right	
Single Display Format:		- Show SQLCODE	
Enter "/" to select option		Shadow Lines:	
- Show data type		Enter "/" to select option	
/ Show keys, indexes		/ Show excluded shadow lines	
- Show column number			
- Left justify numerics			
- Show char position range			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F11=NxtPage	F12=Cancel	

Table Display Format Options (「表」表示形式のオプション)

「Editor Options (編集オプション)」 パネルのこのセクションは、「table (表)」表示形式 (TABL) で表示する情報を指定するために使用します。

Show data type (データ・タイプの表示)

FM/Db2 にデータ・タイプ情報を表示させるかどうかを指示します。デフォルトが選択されています。

/

「表」表示形式で表示される各列のデータ・タイプを表示します。

FM/Db2 は各列のデータ・タイプを示す追加の行を (表示される場合は、列参照番号が入っている行のすぐ下に) 表示します。

(空白)

データ・タイプ情報を表示しません。

Show scale line (スケール行の表示)

FM/Db2 にスケール行情報を表示させるかどうかを指示します。デフォルトが選択されています。

/

「表」表示形式で表示される各列のスケール行を示します。

スケールは、列データの左右境界および (非数値データ・タイプの場合に) 位置決め情報を表示します。

FM/Db2 は、データの先頭行のすぐ上にスケール行を表示します。また、スケール行には基本キー、外部キー、および固有索引に関する情報も表示されます。

(空白)

スケール行情報を表示しません。

Show column number (列番号の表示)

FM/Db2 に列番号情報を表示させるかどうかを指示します。デフォルトが選択されています。

/

「table (表)」表示形式で表示された各列の列番号 (Db2® カタログで定義) を示します。

FM/Db2 は、列名が入っている行のすぐ下に列番号を表示します。

(空白)

列番号情報を表示しません。

Prefix Area (接頭部域)

これらのオプションは、File Manager/Db2 エディター・セッションの接頭部域を制御します。

Prefix length (接頭部の長さ)

File Manager/Db2 エディター・セッションの接頭部域の幅を制御します。

FM/Db2 エディターは、画面の左と右のどちらにでも接頭部域を表示できます。接頭部域の幅は、6、7、8 または 9 文字にできます。デフォルトは 6 で、このフィールドに A と入力して指定します。別の値を入力して、希望の接頭部域の幅を設定できます。接頭部域は、File Manager/Db2 ブラウズ・セッションでは表示されず、「**Display prefix area (接頭部域を表示する)**」オプションが選択されているときにだけ、File Manager/Db2 表示または編集セッションで表示されることに注意してください。PREFIX エディター基本コマンドを使用して、エディター・セッションから接頭部域の長さを変更することもできます。

Display prefix area (接頭部域を表示する)

接頭部域を File Manager/Db2 編集または表示セッションで表示するかどうかを制御します。デフォルトが選択されています。

FM/Db2 エディターは、オプションで、接頭部コマンドを入力できる接頭部域を表示できます。

/

接頭部域を表示します。

(空白)

接頭部域を表示しません。

PREFIX エディター基本コマンドを発行して、File Manager/Db2 エディター・セッション (編集および表示のみ) から接頭部域をオンまたはオフにできます。

Show prefix area on the right (右側に接頭部域を表示する)

FM/Db2 エディターの接頭部域の位置を制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

FM/Db2 エディターは、画面の左と右のどちらにでも接頭部域を表示できます。

/

接頭部域を画面の右に表示します。

(空白)

接頭部域を画面の左に表示します。



1. 接頭部域は、File Manager/Db2 ブラウズ・セッションでは表示されません。
2. このオプションは、「**Display prefix area (接頭部域を表示する)**」オプションが選択されていない場合、無効です。
3. PREFIX LEFT または PREFIX RIGHT エディター基本コマンドを発行して、FM/Db2 エディターから接頭部域を移動できます。

Show SQLCODE (SQLCODE の表示)

行の挿入、更新、または削除操作が失敗したときに、FM/Db2 エディターが接頭部域に SQLCODE を表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

FM/Db2 は、編集セッションでのデータの変更を、一度に 1 行ずつ処理します。Db2® に変更が渡されたときに Db2® がエラーを返した場合、FM/Db2 は行の接頭部域に =ERR または SQLCODE を表示します。

/

FM/Db2 エディターは、接頭領域に SQLCODE を表示します。

(空白)

FM/Db2 エディターは、接頭領域に `=ERR` を表示します。

Single display Format Options (単一表示形式のオプション)

「Editor Options (編集オプション)」パネルのこのセクションは、単一表示形式 (SNGL) で表示する情報を指定するために使用します。

Show data type (データ・タイプの表示)

FM/Db2 にデータ・タイプ情報を表示させるかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

/

単一表示形式で表示される各列のデータ・タイプを表示します。

FM/Db2 は各列のデータ・タイプを示す追加の行を (列名が入っている列のすぐ右に) 表示します。



注: データを単一表示モードで表示しているときは、TYPE 基本コマンドを使用することによってデータ・タイプ情報の表示を切り替えることができます。

(空白)

データ・タイプ情報を表示しません。

Show keys, indexes (キー、索引の表示)

FM/Db2 に、列がキーまたは索引の一部であるかどうかを示す情報を表示させるかどうかを指示します。デフォルトが選択されています。

/

列がキーまたは索引の一部であるかどうかを示す 4 文字幅の追加の列を表示します。



注: データを単一表示モードで表示しているときは、INDEXINF 基本コマンドを使用することによって索引情報の表示を切り替えることができます。

(空白)

キーまたは索引情報を表示しません。

Show column number (列番号の表示)

FM/Db2 に、列番号情報を表示させるかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

/

単一表示形式で表示された各列の列番号 (Db2® カタログで定義) を示します。

FM/Db2 は、列番号が入っている追加の列を (パネルの左端に) 表示します。



注:

1. データを単一表示モードで表示しているときは、REFS 基本コマンドを使用することによって列番号の表示を切り替えることができません。
2. 単一表示モードでは、FM/Db2 が列番号を表示するときに、列見出し “Rdf” も (左から 2 番目の列見出しとして) 表示されます。“Rdf” 列見出しは FM/Db2 では未使用なので、無視できます。

(空白)

列番号情報を表示しません。

Left justify numerics (数値の左揃え)

FM/Db2 に、単一表示形式で数値データを左揃えして表示するかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

/

数値列のデータは、左揃えされて表示されます。つまり、数値の先頭文字は、列の左端に表示されます。

(空白)

数値列のデータは、右揃えされて表示されます。つまり、各数値の最後の文字が列の右端に表示されるようにデータが表示されます。

Show char position range (文字位置範囲を表示する)

SNGL 表示モードの場合に、FM/Db2 で、長い文字列の開始文字位置および終了文字位置を表示する必要があることを示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

/

SNGL 表示で、文字列のデータに 2 つ以上の行が必要なとき、2 行目以降の行に文字位置範囲が組み込まれます。例えば、ssss-nnnn のようになります。ssss は、その行に表示される先頭文字の文字位置です。nnnn は、その行に表示される最終文字の文字位置です。

(空白)

文字位置範囲は表示されません。

CHARPOS エディター基本コマンドを使用して、エディター内から文字位置のオン/オフを切り替えることができます。

Show excluded shadow lines (除外されたシャドー行を表示する)

1 つ以上の除外された行を示すシャドー行を表示するかどうかを制御します。デフォルトが選択されています。

FM/Db2 エディターでは、EXCLUDE エディター基本コマンドまたは X エディター接頭部コマンド (およびそのバリエーション) を使用して、行の表示を除外できます。ISPF エディターと同様に、除外された行はシャドー行を使用して表示されます。各シャドー行は、1 つ以上の除外された連続した行の位置を示します。ただし、ISPF エディターとは異なり、このオプションを選択解除することで、除外されたシャドー行を画面で非表示にできます。

/

除外されたシャドー行を表示します。

(空白)

除外されたシャドー行を表示しません。

SHADOW X OFF または SHADOW X ON コマンドを発行して、FM/Db2 エディターから、除外された行の表示状況を変更できます。

親パネル

「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルは、以下の「親」パネルから表示できます。「Editor Options (3 of 8)」パネルに進むには、「NxtPage」機能キー (F11) を 2 回押します。

- 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824
- Db2 「View (表示)」パネル ページ 639
- Db2 「Browse (ブラウズ)」パネル ページ 618
- 「Db2 Edit (編集)」パネル ページ 622
- アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456

「Editor Options (3 of 8) (編集オプション (8 の 3))」パネルを表示できるのは、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルで「Table/Single format, prefix area and shadow options (表/単一形式、接頭部域およびシャドー・オプション)」オプションが選択されている場合のみです。

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Editor Options (2 of 8) (編集オプション (8 の 2))」パネル ページ 656	「PrvPage」機能キー (F10) を押す
「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」パネル ページ 667	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連する概念

- [TABL 表示形式 ページ 156](#)
- [SNGL 表示形式 ページ 158](#)

関連するタスク

- [View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)
- [デフォルト処理オプションの設定 ページ 63](#)
- [現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)
- [表示形式の選択 ページ 155](#)
- [接頭領域の管理 ページ 168](#)
- [除外行の表示または非表示 ページ 166](#)

「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」 パネル

「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」 パネルを使用して、デフォルトの編集オプションを設定します。



注: これらのオプションへの変更の持続期間については、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルの説明 (「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル ページ 651) を参照してください。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Editor Options (4 of 8)	Global Settings
Primary and Foreign Keys, Indexes: Enter "/" to select option / Allow updates to primary key / Show primary key / Show foreign key / Show index indicators			
Export Command: Enter "/" to select option - Show export options			
Command ==>> F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap F10=PrvPage F12=Cancel			

Allow updates to primary key (基本キーの更新許可)

1 次キー情報を編集できるかどうかを示します。デフォルトが選択されています。

/

基本キー情報を変更できます。

(空白)

基本キー情報は変更できません。

Show primary key (基本キーの表示)

FM/Db2 に 1 次キー情報を表示できるかどうかを示します。デフォルトが選択されています。

/

表の基本キーを構成する列を示す情報が含まれます。

「表」表示形式では、FM/Db2 が 1 次キー情報を表示するのは、スケール行を表示するように指定している場合だけです (「[Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)](#)」パネル ページ 661 の「**Show scale line**」を参照)。スケール行は、表の 1 次キー部分を構成する各列の最初の桁に “P” を表示します。

単一表示形式では、「**Show keys, indexes**」オプションが選択されている場合 (「[Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)](#)」パネル ページ 661 の「**Show keys, indexes**」を参照) に、FM/Db2 は「**Column name**」列のすぐ左に (また「**Column number**」列が表示されている場合はそのすぐ右に) 追加の列を表示します。この列は 4 文字幅です。列の先頭桁に “P” がある場合は、その列が表の 1 次キーの一部であることを示します。

(空白)

表の基本キーを構成する列を示す情報は含まれません。

Show foreign key (外部キーの表示)

FM/Db2 に外部キー情報を表示するかどうかを示します。デフォルトが選択されています。

/

外部キーの一部である列を示す情報が含まれます。

「表」表示形式では、FM/Db2 が外部キー情報を表示するのは、スケール行を表示するように指定している場合だけです (「[Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)](#)」パネル ページ 661 ページを参照)。スケール行は、外部キーの一部を構成する各列の 4 桁目に “F” を表示します。

単一表示形式では、「**Show keys, indexes (キー、索引の表示)**」オプションが選択されている場合 (「[Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)](#)」パネル ページ 661 を参照) には、FM/Db2 は「**Column name (列名)**」列のすぐ左に (また「**Column number (列番号)**」列のすぐ右に) 追加の列を表示します。この列は 4 文字幅です。列の 4 桁目に “F” がある場合は、その列が表の外部キーの一部であることを示します。

(空白)

外部キーの一部である列を示す情報は含まれません。



注:



1. 複数の外部キーが定義されている表の場合には、標識文字を使用して、同じキーの一部である列と列の間や異なる外部キーの一部である列と列の間を識別することはできません。
2. 外部キー情報は、テンプレートに保管されている場合のみ表示されます。オブジェクトのテンプレートの構築時に「**テンプレートの構築時の外部キー情報の検索**」システム・オプションを選択しなかった場合、外部キー標識は表示されません。

Show index indicators (索引標識の表示)

FM/Db2 に索引情報を表示するかどうかを示します。デフォルトが選択されています。

/

索引の一部である列を示す情報が含まれます。

CREATE INDEX コマンドの INCLUDE オプションを使用して、固有の索引の索引キー列セットに列を追加することができます。このような列は、固有の索引の一部を形成しますが、固有の索引キーの一部ではありません。

「表」表示形式では、FM/Db2 が索引情報を表示するのは、スケール行を表示するように指定している場合だけです (「[Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)](#)」パネル ページ 661 を参照)。

- 固有索引の一部および固有索引キーの一部を構成する列ごとに、スケール行の 2 桁目に “U” が表示されます。
- 固有索引の一部を構成し、固有キーの一部でない列ごとに、スケール行の 2 桁目に “I” が表示されます。
- 非固有索引の一部を構成する列ごとに、スケール行の 3 桁目に “N” が表示されます。

「[Table Edit \(表編集\)](#)」パネル ページ 857 を参照してください。

単一表示形式では、「**Show keys, indexes (キー、索引の表示)**」オプションが選択されている場合 (「[Editor Options \(3 of 8\) \(編集オプション \(8 の 3\)\)](#)」パネル ページ 661 を参照) には、FM/Db2 は「**Column name (列名)**」列のすぐ左に (また「**Column number (列番号)**」列のすぐ右に) 追加の列を表示します。この列は 4 文字幅です。

- 固有索引の一部および固有索引キーの一部を構成する列ごとに、この列の 2 桁目に “U” が表示されます。
- 固有索引の一部を構成し、固有キーの一部でない列ごとに、この列の 2 桁目に “I” が表示されます。
- 非固有索引の一部を構成する列ごとに、この列の 3 桁目に “N” が表示されます。

(空白)

索引の一部である列を示す情報は含まれません。



注: 複数の外部キーが定義された表の場合には、標識文字を使用して、同じ索引の一部または異なる索引の一部である列と列の間を区別するためには使用できません。

Show export options (エクスポート・オプションを表示する)

File Manager/Db2 エディター・セッションで EXPORT 基本コマンドを発行して、外部ファイルにデータをエクスポートできます。EXPORT コマンドを発行すると、オプションで「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの最初のパネルが表示されます。このパネルでは、エクスポート操作のデータ形式を指定できます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

/

EXPORT 基本コマンドのダイアログには、「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの最初のパネルが表示されます。

(空白)

EXPORT 基本コマンドのダイアログには、「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの最初のパネルは表示されません。

親パネル

「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルは、以下の「親」パネルから表示できます。「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」パネルに進むには、「NxtPage」機能キー (F11) を 3 回押します。

- 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824
- Db2 「View (表示)」パネル ページ 639
- Db2 「Browse (ブラウズ)」パネル ページ 618
- 「Db2 Edit (編集)」パネル ページ 622
- アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456

「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」パネルを表示できるのは、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルで「Key, index and export options (キー、索引およびエクスポート・オプション)」オプションが選択されている場合のみです。

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Editor Options (3 of 8) (編集オプション (8 の 3))」パネル ページ 661	「PrvPage」機能キー (F10) を押す
「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (8 の 5))」パネル ページ 671	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- View options (表示オプション) と Edit options (編集オプション) (オプション 1 と 2) ページ 68
- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- 現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128
- 関連表の編集 ページ 198
- VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287

「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (8 の 5))」 パネル

「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (8 の 5))」 パネルを使用して、デフォルトの編集オプションを設定します。



注: これらのオプションへの変更の持続期間については、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」 パネルの説明 (「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」 パネル ページ 651) を参照してください。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Editor Options (5 of 8)		Global Settings
Varying Length Columns:			
Enter "/" to select option			
/	Disable input delimiter	String Delimiters:	
/	Show end of string	Input #	
/	Remove trailing spaces	Display <	
Columns that allow Null Values:			
Enter "/" to select option			
_	Convert spaces to Db2 null	Null Column Indicators:	
		Input @	
		Display _	
Zoned Timestamp Columns:			
Enter "/" to select option			
/	Auto-size display width		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F12=Cancel		

Disable input delimiter (入力区切り文字の無効化)

このオプションは、入力ストリング区切り文字の処理を使用不可にするために使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。可変フィールドに対して変更が行われるときに、FM/Db2 はその可変フィールド全体を左から右にスキャンし、入力ストリング区切り文字の最初のオカレンスを探します。オカレンスが見つかったら、入力ストリング区切り文字位置の前にある文字で、フィールドが切り捨てられます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

以下の場合、入力ストリング区切り文字を使用不可にすることを検討してください。

- 処理している Db2® オブジェクトに、スクロールしない限りは全体を表示できない VARCHAR フィールドが含まれる場合。この場合、現在はディスプレイ上で見ることができないフィールドの一部に入力ストリング区切り文字が存在するときに、フィールドが変更されると、サイレントで切り捨てが実行される可能性があります。
- VARCHAR フィールドが、例えば、バイナリー・データや、内部形式を持つデータなど、読み取り可能テキスト以外のデータを保管するために使用されている場合。この場合、データには入力ストリング区切り文字と一致する文字が含まれる可能性があるため、フィールドのデータが変更されると、不要な切り捨てが発生することがあります。

Show end of string (ストリング終了の表示)

このオプションは、可変長 (VARCHAR) 入力フィールドの処理にのみ適用されます。デフォルトが選択されています。可変長ストリングの終わりを「**String delimiters (ストリング区切り文字): Display (表示)**」オプションで指定された区切り文字を使用して示すかどうかを指定します。

/

可変長ストリングの終わりを「**String delimiters (ストリング区切り文字): Display (表示)**」オプションで指定された区切り文字を使用して示します。ストリングが最大長である場合には、区切り文字は表示されません。

(空白)

可変長ストリングの終わりを表示しません。

Remove trailing spaces (末尾スペースの除去)

このオプションは、可変長 (VARCHAR) 入力フィールドの処理にのみ適用されます。デフォルトが選択されています。列の最大長より小さい値を入力するときは、FM/Db2 が末尾スペースを除去するかどうかを決定します。

/

末尾スペースを除去し、最小長のストリングを使用して指定値を保管します。

(空白)

末尾スペースを除去しません。

String Delimiters (ストリング区切り文字)

これらのオプションは、可変長のデータを入力および表示するときのストリング区切り文字の終わりを制御します。

Input (入力)

このオプションは、可変長 (VARCHAR) 入力フィールドの処理にのみ適用されます。

入力の場合、FM/Db2 はこの値にストリング終了区切り文字を設定します。1 つ以上の末尾スペースを必要とするデータを可変長フィールドに入力する場合には、このオプションを使用してストリングの終わりを示す任意の文字を指定することができます。デフォルト値は番号記号 (#) です。

有効な値: 任意の文字

Display (表示)

このオプションは、可変長 (VARCHAR) 入力フィールドの処理にのみ適用されます。FM/Db2 は表示用のストリング終了区切り文字をこの値に設定します。また、「**Show end of string (ストリング終了の表示)**」を選択している場合には、FM/Db2 はフィールドの値の終わりにユーザーが選択した区切り文字を付けて表示します。列が最大長である場合には、区切り文字は表示されません。デフォルト値は“より小”符号 (<) です。

有効な値: 任意の文字

Convert spaces to Db2® null (スペースをヌルに変換)

ヌル値を使用できる列が変更されてスペースしか入っていないときは、列の値がヌルに設定されます。

列が NOT NULL と定義されている場合には、その列は変更されません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Null Column Indicators (ヌル列標識)

これらのオプションを使用して、データを入力および表示するときに Db2® ヌル値を表す文字を指定できます。

Input (入力)

入力フィールドの先頭バイトに入力するときに、FM/Db2 がその列の値を NULL に更新する単一文字。デフォルト値は“アットマーク”記号 (@) です。

有効な値: 任意の文字

列にヌル値を使用できるときは、入力フィールドの先頭バイトにこの文字を入力すると、FM/Db2 はその列の値を NULL に更新します。標識の後に非ブランク文字が続く場合には、アクションが無効になります。

列が NOT NULL と定義されている場合には、FM/Db2 はその文字を他の入力文字と同様に処理します。

Display (表示)

列に (例えば、ブランクに対して) ヌル値が入っていることを示す単一文字。デフォルト値は下線文字 “_” です。

有効な値: 任意の文字

Auto-size display width (表示幅の自動サイズ設定)

TABL 表示モードで適用可能な列のデフォルト表示幅を変更するオプション。このオプションは、ゾーン・タイム・スタンプ列にのみ適用されます。デフォルトが選択されています。

このオプションは、ゾーン・タイム・スタンプ・データ・タイプをサポートする Db2® システムが接続されている場合のみ適用可能です。ゾーン・タイム・スタンプは、Db2® バージョン 10 で初めて導入されました。

/

FM/Db2 が、ゾーン・タイム・スタンプ列の表示幅を、データの表示に必要な幅に自動的に調整できるようにします。

(空白)

FM/Db2 は、ゾーン・タイム・スタンプ列を範囲 147 から 160 文字のフィールド幅で表示します。ゾーン・タイム・スタンプに必要な最大表示幅 (出口およびフィールド・プロシーチャーの使用は除く) は 39 文字であるため、表示されるデータの大部分はブランクです。

親パネル

「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルは、以下の「親」パネルから表示できます。「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (8 の 5))」パネルに進むには、「NxtPage」機能キー (F11) を4回押します。

- [「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」](#) パネル ページ 824
- [Db2 「View \(表示\)」](#) パネル ページ 639
- [Db2 「Browse \(ブラウズ\)」](#) パネル ページ 618
- [「Db2 Edit \(編集\)」](#) パネル ページ 622
- [アクション・バー・プルダウン・メニュー](#) ページ 456

「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (8 の 5))」パネルを表示できるのは、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルで「**Varying length and nullable column options (可変長およびヌル可能列オプション)**」オプションが選択されている場合のみです。

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」 パネル ページ 667	「PrvPage」機能キー (F10) を押す
「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」 パネル ページ 674	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- [View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\)](#) ページ 68
- [デフォルト処理オプションの設定](#) ページ 63
- [現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定](#) ページ 128
- [可変長列](#) ページ 184
- [ヌル値と VARCHAR の処理](#) ページ 184

「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」パネル

「Editor Options (6 of 8)」パネルを使用して、デフォルトの編集オプションを設定します。



注: これらのオプションへの変更の持続期間については、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルの説明 (「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル ページ 651) を参照してください。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Editor Options (6 of 8)		Global Settings
Enter Key Processing:			
Enter key usage			
1. No action			
2. Save data			
3. Save data and commit changes			
Commit Options:			
Enter "/" to select option			
/ Commit when save issued			
- Commit when no save errors			
Auto Commit (Changes):			
Auto-commit count 0			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F12=Cancel		

Enter キーの使用法

このオプションは次のいずれかに設定してください。

1. No action (アクションなし)

これはデフォルト設定です。Enter キーを押しても特別なアクションは行われず、かつ、他のいずれの操作も保留されません。編集セッション中に行われた変更が Db2® に渡されるのは、明示的な SAVE コマンドが出されたときか、編集セッションの終了時だけです。

2. Save data (データの保管)

Enter が押されると (保留中の他の操作がなければ)、保留中のすべての変更が Db2® に実行依頼されて処理されます。正常に行われた変更は、「Commit changes when SAVE issued (SAVE を出すときに変更をコミット)」オプションを選択しない限り、編集セッションの終わりまでコミットされません。正常に行われていない変更がある行には、接頭部に “=ERR”、“ERR R”、または SQLCODE のマークが付けられます (「Show SQLCODE (SQLCODE の表示) ページ 663」を参照)。

3. Save data and commit changes (データの保管および変更のコミット)

Enter が押されると (保留中の他の操作がなければ)、保留中のすべての変更が Db2® に実行依頼されて処理されます。正常に行われていない変更がある行には、接頭部に “=ERR”、“ERR R”、または SQLCODE のマークが付けられます (「Show SQLCODE (SQLCODE の表示) ページ 663」を参照)。FM/Db2は保管処理の終わりに明示的な Db2® コミットを出しますが、これが行われるのは次の場合だけです。

- 保管エラーが検出されなかったときまたは
- 「Commit when no save errors (保管エラーがないときにコミット)」がオフになっているとき

Db2® に変更をコミットすると、その処理は取り消しできません。

Commit when save issued (SAVE を出すときにコミット)

デフォルトでは、このオプションは選択されています。このオプションの設定は、製品インストーラーによって変更されている可能性があります。FM/Db2 は保管処理の終わりに明示的な Db2® コミットを出しますが、これが行われるのは次の場合だけです。

- 保管エラーが検出されなかったときまたは
- 「Commit when no save errors (保管エラーがないときにコミット)」がオフになっているとき

Enter が押されると、「Enter キー処理」オプションの「Save data (データの保管)」および「Save data and commit changes (データの保管および変更のコミット)」は、明示的な保管コマンドが出されたときと同様な動作を行うことに注意してください。

Commit when no save errors (保管エラーがないときにコミット)

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。このオプションの設定は、製品インストーラーによって変更されている可能性があります。

このオプションが選択されないと、FM/Db2 は、保管処理中にエラーが検出されたかどうかに関係なく、保管処理の終わりに明示的な Db2® コミットを出します。

このオプションが選択されると、FM/Db2 は、保管処理中にエラーが検出されなかった場合に、保管処理の終わりに明示的な Db2® コミットを出します。

Auto-commit count (自動コミット・カウント)

ゼロ値で示されるデフォルトのアクションでは、エディターの SAVE 処理時に自動 Db2® コミット点がありません。正の値が指定される場合、SAVE 処理時に *value* 回の変更が正常に行われるたびに、FM/Db2 は自動 Db2® コミット点を発行します (ここで、*value* は、「Auto-commit count (自動コミット・カウント)」に指定された値です)。ゼロ以外の値を指定すると、SAVE 処理時に複数の Db2® コミット点が発行される場合があります。

例:

自動コミット・カウントが 2 で、SAVE 処理中に 11 回の変更が正常に処理された場合、5 つの Db2® コミット点が発行されます。最後に処理された行の変更は、コミットされないままです。

親パネル

「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルは、以下の「親」パネルから表示できます。「Editor Options (6 of 7) (編集オプション (7 の 6))」パネルに進むには、「NxtPage」機能キー (F11) を 5 回押します。

- [「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」 パネル ページ 824](#)
- [Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)
- [Db2 「Browse \(ブラウズ\)」 パネル ページ 618](#)
- [「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)
- [アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456](#)

「Editor Options (6 of 8)」 パネルを表示できるのは、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」 パネルで **「Enter key and commit processing options (Enter キーおよびコミット処理オプション)」** オプションが選択されている場合のみです。

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (8 の 5))」 パネル ページ 671	「PrvPage」機能キー (F10) を押す
「Editor Options (7 of 8) (編集オプション (8 の 7))」 パネル ページ 677	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- [View options \(表示オプション\) と Edit options \(編集オプション\) \(オプション 1 と 2\) ページ 68](#)
- [デフォルト処理オプションの設定 ページ 63](#)
- [現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128](#)
- [File Manager/Db2 エディター・セッションの終了 ページ 135](#)

「Editor Options (7 of 8) (編集オプション (8 の 7))」 パネル

「Editor Options (7 of 8)」 パネルを使用して、デフォルトの編集オプションを設定します。



注: これらのオプションへの変更の持続期間については、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルの説明 (「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル ページ 651) を参照してください。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Editor Options (7 of 8)		Global Settings
Concurrency Options: Enter "/" to select option _ Read-only access / Commit after data fetch _ Skip locked rows		SQL Cursor Concurrency Options: Concurrency 1 0. Uncommitted read 1. No with clause 2. Cursor stability 3. Read stability 4. Read stability keep locks 5. Repeatable read 6. Repeatable read keep locks	
Edit Locking Option: Locking 1 1. None 2. Share mode 3. Exclusive mode		Keep locks option 1 1. Use/Keep share locks 2. Use/Keep update locks 3. Use/Keep exclusive locks	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F12=Cancel		

Concurrency options (並行性オプション)

この主題についての詳細な説明については、Db2 UDB for z/OS 管理ガイドを参照してください。

並行性オプションは、Db2® 表のデータに対して Db2® が行う行ロックおよびページ・ロックに影響を与えます。ロック・オプションは Db2® が行う表ロックに影響を与えます。表ロック・オプションが指定されていると、並行性オプションはオーバーライドされます。

一般的には、並行性オプションに高い値を指定すると、オブジェクトの編集時に、他のユーザーがデータにアクセスして変更することはできなくなりますが、デッドロックが起こる可能性は減ります。

FM/Db2 には、Db2® ロックを最小化できるオプションが用意されています。Db2® ロックが行われている間、FM/Db2 は Db2® にアクセスして、File Manager/Db2 エディター・セッション用のデータを取り出します。

また、FM/Db2 は、表をロックして、他のユーザーがデータを更新または読み取りできないようにするオプションも提供します。ロック・オプションは注意して使用してください。

並行性オプションと表ロック・オプションの両方が適用されるのは、Db2® からのデータの初期取り出し時だけであることに注意してください。コミット・オプション (「Commit changes when save issued (「保管」発行時に変更をコミット)」または「Commit changes when no save errors (保管エラーがない時に変更をコミット)」) のいずれかを指定した場合、それぞれのコミット点で、表に対して Db2® が保持しているロックが解除されます。詳しくは、「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」パネル ページ 674 の「Enter Key Processing (ENTER キー処理)」と「Commit Options (コミット・オプション)」に関する説明を参照してください。

表ロック・オプションが指定されている場合には、FM/Db2 はそれぞれのコミット点の後に、表を再ロックします。ただし、コミット点から FM/Db2 が表を再ロックするまでの間は、Db2® の他のユーザーがその表にアクセスできます。



1. 表ロック・オプションは注意して使用してください。
2. 表ロック・オプションを有効にする場合、Db2® オブジェクトは表でなければなりません。ビューをロックすることはできません。
3. 並行性オプションが適用されるのは、Db2® からのデータの初期取り出し時だけです。
4. 並行性オプションまたはロック・オプションが続くのは、次のコミット点までだけです。詳しくは、下記を参照してください。
5. 「**Concurrency (並行性)**」オプションを 0 に設定します。

FM/Db2 では、「読み取り専用」モードでデータにアクセスするためのオプション、および Db2® からのデータの取り出し時に行われる Db2® ロックの継続時間を減らすためのオプションが提供されます。また、Db2® からのデータの取り出し時に使用されるロック・メカニズムの制御も提供します。

Read-only access (読み取り専用権限)

このオプションを選択した場合、FM/Db2 は、Db2® からデータを取り出すために使用する SQL ステートメントに FOR FETCH ONLY 文節を追加して、「読み取り専用」モードで Db2® からデータにアクセスします。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

このオプションを選択しても、編集操作の実行が妨げられることはありません。

File Manager/Db2 ブラウズ・セッションでは、Db2® からデータを取り出すために使用する SQL ステートメントに FOR FETCH ONLY 文節が必ず追加されることに注意してください。

Commit after data fetch (データ取り出し後にコミット)

デフォルトでは、このオプションは選択されています。このオプションの値は、製品インストーラーによって変更されている可能性があります。このオプションを選択した場合、FM/Db2 編集セッションからのデータが Db2® から取り出されると、FM/Db2 は明示的な COMMIT (コミット) を出します。これで、FM/Db2 編集セッションのデータが取り出されるときに行われた、すべての Db2® ロックが解除されます。また、共用または排他のロック・オプションを指定した場合に行われる、明示的な表ロックも解除されます。

このオプションは、Db2® ロックが保持される継続時間を最短化することが重要である、並行性の高い環境でお勧めします。

このオプションを選択しても、編集操作の実行が妨げられることはありません。ただし、このオプションを選択すると、変更済みデータを妥当性検査のために Db2® に提示するときにエラーが発生する可能性が大きくなります。これは、FM/Db2 編集セッションでコピーが保管されている Db2® データが、他の処理で自由に変更されるためです。そのため、FM/Db2 編集セッ

ションで行われた変更が Db2® に提示されるときに、元のデータが変更されている場合があり、その結果さまざまな SQL エラーにつながります。

File Manager/Db2 ブラウズ・セッションまたは表示セッションでは、ブラウズ・セッションにおけるデータが Db2® から取り出されると、FM/Db2 は常に EXPLICIT (明示的な) コミットを出します。

Skip locked rows (ロック行をスキップ)

このオプションを使用して、検索された DELETE ステートメントが、他のプロセスによって非互換にロックされている行を無視 (スキップ) するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Edit Locking Option (ロック・オプションの編集)

FM/Db2 が編集モードでのみ動作する場合、このオプションを使用して、処理される Db2® オブジェクトを FM/Db2 が明示的にロックするかどうかを制御します。このオプションは表にのみ適用され、表に定義されているオブジェクト (ビューなど) には適用されません。このオプションは、製品インストーラーによって変更されている可能性があります。このオプションが更新可能であれば、デフォルトは 1 (None) です。

1 None (なし)

FM/Db2 は、表のデータにアクセスする前に明示的なロックを実行しません。これがデフォルト選択です。

2

FM/Db2 は、表のデータにアクセスする前に、共用モードで表をロックするステートメントを実行します。表にあるデータは、他のタスクによって読み取ることができます。ただし、FM/Db2 編集セッションが終了するまで、他のプロセスによって表を更新することはできません。このオプションを使用して表へのアクセスを確実にする際には、注意が必要です。

3

FM/Db2 は、表のデータにアクセスする前に、排他モードで表をロックするステートメントを実行します。FM/Db2 編集セッションが終了するまで、他のプロセスによる表の読み取り/書き込みは不可です。このオプションを使用して表へのアクセスを確実にする際には、細心の注意が必要です。

SQL Cursor Concurrency Options (Concurrency) (SQL カーソル並行性オプション (並行性))

FM/Db2 は Db2® からデータを取り出すために使用する SQL ステートメントに WITH 文節を追加します。WITH 文節が指定されると、Db2® は、データへのアクセスに合わせて、表の行またはページのいずれかに対してロック (さまざまなレベルの) を行います。次のオプションを使用できます。デフォルトは 1 (No with clause) です。

0. Uncommitted read (非コミット読み取り)

Db2® ロッキングは使用不可です。データ・アクセス後に別の処理がロールバックされた場合、Db2® から取り出されたデータが不整合となる可能性があります。高い並行性環境では、このオプションを使用してください。

1. No with clause (with 文節なし)

これがデフォルト値で、ほとんどのアプリケーション・プログラムで推奨されています。FM/Db2 は WITH 文節を表の SELECT ステートメントに追加しません。FM/Db2 によって最初に検索された行には S(hare) (共用) ロックがあります。このオプションでは、編集している表が他の処理によって更新される可能性があります。

2. Cursor stability (カーソル固定)

行ロックまたはページ・ロックが保持されるのは、カーソルが別の行またはページに移動する間だけです。

3. Read stability (読み取り固定)

行ロックまたはページ・ロックは、少なくとも次のコミット点まで、エディターが読み取る行またはページに対して保持されます。

4. Read stability keep locks (読み取り固定保持ロック)

行ロックまたはページ・ロックは、少なくとも次のコミット点まで、エディターが読み取る行またはページに対して保持されます。「**Read stability (読み取り固定)**」オプションは “S” ロックまたは “U” ロックを行いますが、このオプションは該当する行またはページに “X” ロックを行います。

5. Repeatable read (反復可能読み取り)

行ロックまたはページ・ロックは、少なくとも次のコミット点まで、アクセスされたすべての行に対して (修飾の有無に関係なく) 保持されます。FM/Db2 は前に読み取ったページに戻って同じ行をもう一度読み取ることができ、データは変更されず、新しい行も挿入されません。

6. Repeatable read keep locks (反復可能読み取り保持ロック)

このオプションは「**Repeatable read (反復可能読み取り)**」オプションと似ていますが、FM/Db2 は “S” または “U” ロックでなく、“X” ロックを使用します。

SQL Cursor Concurrency Options (Keep locks option) (SQL カーソル並行性オプション (ロック保持オプション))

FM/Db2 は Db2® からデータを取り出すために使用する SQL ステートメントに WITH 文節を追加します。WITH 文節が指定されると、Db2® は、データへのアクセスに合わせて、表の行またはページのいずれかに対してロック (さまざまなレベルの) を行います。次のオプションを使用できます。デフォルトは 1 (**Use/Keep share locks**) です。

1. Use/Keep share locks (共用ロックの使用/保持)

FM/Db2 は、編集されるオブジェクトに明示的な表ロックを出しません。オブジェクト内の行およびページのロックは、FM/Db2 並行性オプションならびに Db2® インストールおよびオブジェクト定義オプションに従って Db2® で管理されます。

2. Use/Keep update locks (更新ロックの使用/保持)

FM/Db2 は、Db2® からデータを読み取る前に、LOCK TABLE IN SHARE MODE ステートメントを出します。これは、他のすべてのユーザーのオブジェクトに対する操作を読み取り専用制限します。Enter キー・オプションの「**Save data and commit changes (データを保管して変更をコミット)**」または「**Commit changes when SAVE issued (SAVE を出すときに変更をコミット)**」

ト) オプションのいずれかが選択されていると、編集セッションでロックが解除されるときに、すべてのコミット点が取られます。FM/Db2 は、コミット点の直後にロックを再発行します。しかし、表のコミット点から FM/Db2 が再ロックするまでの間は、他のプロセスで表にアクセスすることができます。

3. Use/Keep exclusive locks (排他ロックの使用/保持)

FM/Db2 は、Db2® からデータを読み取る前に、LOCK TABLE IN EXCLUSIVE MODE ステートメントを出します。これで、他のすべてのユーザーがそのオブジェクトにアクセスするのを防ぎます。ただし、他の処理が非コミット読み取りを分離レベルで実行している場合を除きます。Enter キー・オプションの「Save data and commit changes (データを保管して変更をコミット)」または「Commit changes when SAVE issued (SAVE を出すときに変更をコミット)」オプションのいずれかが選択されていると、編集セッションでロックが解除されるときに、すべてのコミット点が取られます。FM/Db2 は、コミット点の直後にロックを再発行します。しかし、表のコミット点から FM/Db2 が再ロックするまでの間は、他のプロセスで表にアクセスすることができます。

親パネル

「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルは、以下の「親」パネルから表示できます。「Editor Options (7 of 8) (編集オプション (8 の 7))」パネルに進むには、「NxtPage」機能キー (F11) を6回押します。

- 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824
- Db2 「View (表示)」パネル ページ 639
- Db2 「Browse (ブラウズ)」パネル ページ 618
- 「Db2 Edit (編集)」パネル ページ 622
- アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456

「Editor Options (7 of 8) (編集オプション (8 の 7))」パネルを表示できるのは、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルで「Concurrency and locking options (並行性およびロック・オプション)」オプションが選択されている場合のみです。

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Editor Options (6 of 8) (編集オプション (8 の 6))」パネル ページ 674	「PrvPage」機能キー (F10) を押す

関連するタスク

- View options (表示オプション) と Edit options (編集オプション) (オプション 1 と 2) ページ 68
- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- 現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128

「Editor Options (8 of 8) (編集オプション (8 の 8))」 パネル

「Editor Options (8 of 8) (編集オプション (8 の 8))」 パネルを使用して、デフォルトの編集オプションを設定します。



注: これらのオプションへの変更の持続期間については、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」 パネルの説明 (「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」 パネル ページ 651) を参照してください。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Editor Options (8 of 8)	Global Settings
LOB and XML Columns: Enter "/" to select option			
_ Show part/all data		Max characters	. . 0
LOB Display Format:			
Initial display format		LOB Piece Size:	
3	1. Previous	2	1. Table display size
	2. Table		2. Single display size
	3. Single		3. Manual ... 100
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F12=Cancel		

Show part/all data (一部/全部の表示)

Db2® オブジェクトに LOB (BLOB、CLOB または DBCLOB) 列、あるいは XML 列が含まれるときに、それらの列内のデータの一部または可能な場合はすべてを表示することができます。デフォルトのアクションは選択されません。この場合、データは表示されません。LOB 列と XML 列は、エディターに列見出しとしてのみ表示され、データは表示されません。

LOB 列または XML 列内のデータの一部または可能な場合はすべてを表示するには、このオプションを選択してください。また、「Max characters (最大文字数)」オプションを使用して、表示する最大文字数を指定する必要もあります。

LOBBRWS、LOBVIEW、LOBEDIT、XMLBRWS、XMLVIEW および XMLEDIT のエディター基本コマンドを使用すると、LOB 列または XML 列内のすべてのデータを表示することができます。

Max characters (最大文字数)

このオプションは、「Show part/all data (一部/全部の表示)」オプションとの組み合わせで機能します。0 から 1000 の範囲で値を指定できます。デフォルトは 0 です。「Show part/all data (一部/全部の表示)」オプションが選択され、かつ「Max characters (最大文字数)」オプションにゼロ以外の値が指定された場合、FM/Db2 はエディター・セッションで、その指定文字数の LOB データまたは XML データを取得して表示します。

Initial display format (初期表示形式)

「Editor Options (編集オプション)」パネルのこのセクションは、File Manager/Db2 LOB エディター・セッションの開始時にエディター・パネルを表示する方法を指定するために使用します。このオプションは、

「Split LOBs into pieces using (次を使用して LOB を断片に分割)」オプションとの組み合わせで機能します。デフォルトは 3 (「**Single (単一)**」) です。このオプションは次のいずれかに設定してください。

1. Previous (前の表示形式)

LOB エディター・パネルの表示形式フィールド (「Format (形式)」) には、直前の FM/Db2 LOB エディター・セッションで指定された値が事前に入力されます。

2. Table (表)

LOB エディター・パネルは TABLE 表示形式で表示されます。このオプションを選択するときは、「Split LOBs into pieces using (次を使用して LOB を断片に分割)」オプションを「*Table display size* (表表示サイズ)」に設定することをお勧めします。

3. Single (単一)

LOB エディター・パネルは SNGL 表示形式で表示されます。これはデフォルト設定です。このオプションを選択するときは、「Split LOBs into pieces using (次を使用して LOB を断片に分割)」オプションを「*Single display size* (単一表示サイズ)」に設定することをお勧めします。

Split LOBs into pieces using (次を使用して LOB を断片に分割)

このオプションは、FM/Db2 が LOB エディターに LOB 列を表示するときの断片のサイズを決定します。LOB データは非常に大きいことがあります。大きな列を直接表示するには 3270 ディスプレイは適していません。そのため、LOB エディターは LOB 列をいくつかの断片に分割し、その LOB 列が実際に 1 つの可変列を持つ表であるかのように、それらの断片を表示します。

可変列の長さは、断片の最大長になります。デフォルトは 2 (**Single display size (単一表示サイズ)**) です。このオプションは、(LOB の)「Initial Display Format (初期表示形式)」オプションとの組み合わせで以下のように機能します。

1. Table Display size (表表示サイズ)

各断片のサイズは、TABL 表示形式の単一行に表示される文字数とほぼ同じです。表示される実際の文字数は、端末特性に応じて異なります。多数の断片が必要になるため、これはラージ・オブジェクトを処理する場合は、かならずしも最善の選択肢ではありません。

2. Single Display size (単一表示サイズ)

各断片のサイズは、SNGL 表示形式で端末に表示される文字数とほぼ同じです。表示される実際の文字数は、端末特性に応じて異なります。24x80 端末では、この値は約 850 です。48x132 端末では、この値は約 4250 です。

これにより、「Table Display size (表表示サイズ)」オプションと比較して大量のデータを、一度に表示できるようになります。

使用法のヒント 1: CHARPOS コマンドを発行して、文字位置範囲標識をオンにします。これは、ディスプレイ上で各データ行の開始文字位置および終了文字位置を表示します。

使用法のヒント 2: NEXT (デフォルトでは PF11) と PREVIOUS (デフォルトでは PF10) の PF キーを使用すると、LOB データをスクロールできます。文字位置範囲標識の値は、LOB の各断片内の相対位置ではなく、LOB の先頭からの絶対位置を示します。

3. Manual (手動)

「3」を指定することにより、断片サイズの設定を指定できます。

「Manual (手動)」入力フィールドに断片サイズの設定を入力します。60 から 32760 の範囲の値が必要です。デフォルトは 100 です。

親パネル

「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルは、以下の「親」パネルから表示できます。「Editor Options (8 of 8) (編集オプション (8 の 8))」パネルに進むには、「NxtPage」機能キー (F11) を 7 回押します。

- 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824
- Db2 「View (表示)」パネル ページ 639
- Db2 「Browse (ブラウズ)」パネル ページ 618
- 「Db2 Edit (編集)」パネル ページ 622
- アクション・バー・プルダウン・メニュー ページ 456

「Editor Options (8 of 8) (編集オプション (8 の 8))」パネルを表示できるのは、「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルで「XML and LOB column processing (XML および LOB 列の処理)」オプションが選択されている場合だけです。

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Editor Options (7 of 8) (編集オプション (8 の 7))」パネル ページ 677	「PrvPage」機能キー (F10) を押す

関連するタスク

- View options (表示オプション) と Edit options (編集オプション) (オプション 1 と 2) ページ 68
- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- 現行 FM/Db2 エディター・セッションのオプションの設定 ページ 128

「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネル

「Enter and Execute Db2® Commands (コマンドの入力および実行)」パネルは、Db2® コマンドを入力して、Db2® によって戻された出力を表示するために使用します。

特定の Db2® オブジェクトの処理中に、監査設定を変更する権限を持っていない場合、FM/Db2 によって、間違っ
た設定を入力しているのではないかとこのプロンプトが出されます。特定の Db2® オブジェクトに対する
監査設定を設定する権限を持っている場合、FM/Db2 は、このフィールドにどのような値が指定されてもそれ
を受け入れます。

SQL statement (SQL ステートメント)

フリー・フォームの SQL ステートメントの入力域。複数の SQL ステートメントを入力する場合には、ステー
トメントをセミコロン (;) で区切る必要があります。

親パネル

- [「SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)」パネル ページ 836](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [SQL ステートメントの入力 ページ 437](#)
- [SQL ステートメントの実行 ページ 439](#)
- [SQL のエクスプレイン ページ 440](#)
- [SAF 規則で制御された監査 ページ 72](#)

関連する参照先

- [DOWN 基本コマンド ページ 917](#)
- [EXECUTE 基本コマンド ページ 925](#)
- [EXPLAIN 基本コマンド ページ 926](#)
- [SQL 基本コマンド ページ 975](#)
- [UP 基本コマンド ページ 978](#)

「EXPLAIN Interpretation (EXPLAIN 解釈)」パネル

以下のパネルにリストされた項目に対して 1 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「EXPLAIN Interpretation (EXPLAIN 解
釈)」パネルを表示します。

- [「Plan Table Rows \(プラン表行\)」パネル ページ 752](#)、または
- [「Statement Table Rows \(ステートメント表行\)」パネル ページ 838](#)

「Explain Utilities (エクスプレイン・ユーティリティー)」パネル

「Explain Utilities (エクスプレイン・ユーティリティー)」パネルを使用して、Db2® EXPLAIN SQL ステートメントの使用をサポートする機能を選択します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Explain Utilities	
L	List plan table rows	D	Drop plan table
C	Create plan table	DF	Drop function table
CF	Create function table	DS	Drop statement table
CS	Create statement table		
CX	Create plan table index		
Table Identification Criteria:			
Owner _____ +		
Database _____		
Table space _____		
Row Identification Criteria:			
Plan name _____		
DBRM/package name _____ +		
Collection ID _____ +		
Enter "/" to select option			
Confirm object drop			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
	F7=Backward	F8=Forward	

L

プラン表をリストします。FM/Db2 は、指定されたプラン表の行を表示します。「**Plan table owner (プラン表所有者)**」フィールドをブランクのままにしておくと、FM/Db2 は現行 SQL ID を使用します。行は、「**Plan name (プラン名)**」、「**DBRM/package name (DBRM/ パッケージ名)**」および「**Collection ID (コレクション ID)**」によって修飾することができます。関連したステートメント表および関数表の列が存在していれば、プラン表から行コマンドを使用してそれらをリストすることができます。プラン表の表名は常に PLAN_TABLE です。

C

プラン表を作成します。プラン表は、SQL EXPLAIN ステートメントに必要です。「**Plan table owner (プラン表所有者)**」フィールドをブランクのままにしておくと、FM/Db2 は現行 SQL ID を使用します。オプションで、「**Database (データベース)**」および「**Table space (表スペース)**」フィールドを使用して、プラン表の作成時に使用するデータベースおよび表スペースを定義することができます。プラン表の表名は常に PLAN_TABLE です。

CF

関数表を作成します。ここで、SQL EXPLAIN ステートメントは、関数参照の解決方法に関する情報を保管できます。FM/Db2 は、「**Plan table owner (プラン表所有者)**」フィールド (あるいはブランクのままである場合は、現行 SQL ID) を機能表の所有者として使用します。関数表の表名は常に DSN_FUNCTION_TABLE です。

CS

ステートメント・テーブルを作成します。ここで、SQL EXPLAIN ステートメントは、そのステートメントの推定コストを SQL します。FM/Db2 は、「**Plan table owner (プラン表所有者)**」フィールド (あるいはブランクのままである場合は、現行 SQL ID) をステートメント表の所有者として使用します。ステートメント表の表名は常に DSN_STATEMNT_TABLE です。

CX

Db2® 最適化プログラムに合わせてプラン表に索引を作成します。Db2® 最適化プログラムのヒントを使用する場合には、プラン表の索引をお勧めします。

U

プラン表を現行 Db2® バージョンにアップグレードします。このオプションは、プラン表が Db2® のサポートするレベルとなるように、列を追加するために使用します。

D

プラン表を除去します。

DF

関数表を除去します。

DS

ステートメント表を除去します。

Plan table owner (プラン表の所有者)

以下の関数の説明を参照してください。

Database (データベース)

以下の関数の説明を参照してください。

Table space (表スペース)

以下の関数の説明を参照してください。

Plan name (プラン名)

以下の関数の説明を参照してください。

DBRM/package name (DBRM/パッケージ名)

以下の関数の説明を参照してください。

Collection ID (コレクション ID)

以下の関数の説明を参照してください。

Confirm object drop (オブジェクト除去の確認)

オブジェクトに対して DR(op) コマンドを入力するたびに、FM/Db2 に確認パネルを表示させるかどうかを指示します

親パネル

- [\[SQL Prototyping, Execution and Analysis \(SQL プロトタイピング、実行と分析\)\]](#) パネル ページ 836

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Plan Table Rows (プラン表行)」パネル ページ 752	関数 L
「Create Index (索引作成)」パネル ページ 549	関数 CX

関連するタスク

- [SQL エクスプレーンで使用される表の管理 ページ 443](#)

「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネル

「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルを使用して、FM/Db2 の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

図 120. 「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Export Options - (1 of 3)		Global Settings
Data Format:			
1	1. FM/Db2 (SQLDA) format		Enter "/" to select option
2	2. Db2 UNLOAD format		/ Native unicode processing
3	3. DSNTIAUL format		
4	4. User defined		
5	5. Delimited variables (CSV)		
Execution options:			
Select option			
2	1. Online		Enter "/" to select option
	2. Batch	-->	- Batch data set creation
	3. Batch, using Db2 UNLOAD	-->	Edit Db2 UNLOAD options
More Options:			
Enter "/" to select option			
/	Null indicators / CSV options		(For user-defined, CSV data formats)
	Data type format		(For user-defined data format)
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F11=NxtPage	F12=Cancel		

Data format (データ形式)

エクスポート・ユーティリティーがデータをアンロードする形式は、以下の通りです。

- FM/Db2 (SQLDA) 形式。Db2® 内部形式。これはデフォルトです。
- Db2® 外部 (またはアンロード) 形式。
- Db2® DSNTIAUL アンロード形式。これは、Db2® DSNTIAUL サンプル・プログラムで使用される形式です。
- ユーザー定義形式。

- 区切り文字で区切られている (CSV) 形式。

FM/Db2 は、列間をコンマで区切る CSV ファイルとして、出力ファイルにデータを書き込みます。

各列のデータが、列番号順に出力レコードに表示され、各データ値は区切り文字によって次の値と区別されます。

この方法でエクスポートされた Db2® データは、「Import (インポート)」(オプション 3.6) を使用してインポートすることはできません。このようなデータは、スプレッドシート・アプリケーション・プログラムで使用されるものです。

Native unicode processing (ネイティブ Unicode 処理)

表からデータ・セットにデータをエクスポートする場合、FM/Db2 が Unicode エンコード・データをどのように処理するかを決定します。通常、Unicode で Db2® に保管されるデータは、自動的に Db2® プランの CCSID (通常、CCSID 37) に変換されます。Unicode 文字に CCSID 37 に相当するコード・ポイントがない場合、この自動変換を行うと変換エラーが発生します。データが「ネイティブ Unicode」形式でエクスポートされる場合、Unicode から Db2® プランの CCSID へのデータの自動変換が抑止されます。これにより、データ変換エラーがないことが確実になりますが、z/OS® ユーティリティー (エディターなど) を使用してデータを直接表示できません。Unicode データをサポートする他のシステムにデータが転送される場合に、このオプションを使用してください。このオプションが使用可能でない場合、このオプションは無効です。すなわち、デフォルトの処理が使用されます。エクスポートされるデータが Unicode でエンコードされていない場合、このオプションは使用可能であっても、無効です。

/

Unicode データをネイティブに処理します。

(空白)

Unicode データをネイティブに処理しません。これはデフォルト設定です。

Execution "/" options ("/" による実行オプション)

Online (オンライン)

エクスポートは前面で実行されます。

Batch (バッチ)

エクスポート・ユーティリティーをバッチ・ジョブで実行するために必要な JCL を作成し、ジョブを実行依頼する前に JCL を検討できるように編集セッションに表示します。

Batch, using Db2® utility (バッチ、ユーティリティーの使用)

このオプションを選択すると、Db2® UNLOAD ユーティリティーを使用してエクスポートを実行します。

UNLOAD ジョブの JCL を生成し、ジョブを実行依頼する前に JCL を確認できるように編集セッションに表示します。

デフォルトは **Batch** です。

Batch data set creation (バッチ・データ・セット作成)

このオプションは、バッチ実行を選択した場合にのみ適用され、オンライン実行の場合には無視されます。このオプションは、エクスポート・データ・セットの作成をバッチ・ジョブの実行時まで据え置くために使用します。このオプションを選択しないと、バッチ・ジョブ JCL を作成する前にエクスポート・データ・セットが存在するかどうか FM/Db2 によって判別されます。データ・セットが存在しない場合には、それを作成するように求められます。

デフォルトでは選択されていません。つまり、エクスポート・データ・セット作成はバッチ・ジョブ実行時まで据え置かれません。実行オプションを **「Batch, using Db2® utility (バッチ、ユーティリティーの使用)」** に設定すると、このオプションは自動的に選択され、変更できません。

Edit Db2® UNLOAD options (UNLOAD オプションの編集)

オプション **「3 Batch, using Db2® UNLOAD (3 バッチ、UNLOAD の使用)」** とともに使用されます。

「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」パネルは、「Exit」機能キー (F3) を押した後で表示されます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

オプション (詳細)

Null indicators / CSV options (ヌル標識 / CSV オプション)

選択した場合、「NxtPage」機能キー (F11) を押すと「Export Options (2 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 2))」パネルに進みます。

このオプションは、データ形式オプション **「4. User defined (ユーザー定義)」** または **「5. Delimited variables (CSV) (区切り文字で区切られている変数 (CSV))」** のいずれかのデータ形式オプションも選択した場合のみ選択可能です。

このオプションが表示されていれば、デフォルトでは選択されていません。

Data type format (データ・タイプ形式)

選択した場合、「NxtPage」機能キー (F11) を押すと「Export Options (3 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 3))」パネルに進みます。

このオプションは、データ形式オプション **「4. User defined (ユーザー定義)」** も選択した場合のみ選択可能です。

このオプションが表示されていれば、デフォルトでは選択されていません。

親パネル

- [「Set Utility Options \(ユーティリティー・オプションの設定\)」](#) パネル ページ 833

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Export Options (2 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 2))」パネル ページ 694	「Null indicators / CSV options (ヌル標識 / CSV オプション)」オプションを選択して (データ形式オプション 4 または 5 も選択すること)、 「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- FM/Db2 システム・オプション (オプション 0.2) ページ 65
- VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287

「Export Options (2 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 2))」パネル

「Export Options (2 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 2))」パネルを使用して、FM/Db2 の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

図 121. 「Export Options (2 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 2))」パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Export Options - (2 of 3)		Global Settings
Null Indicators:			
Usage	Placement	Type	Indicator
<u>1</u> 1. Separate	- 1. Before	<u>2</u> 1. One byte	<u>_</u> Char
2. None	2. After	2. Two byte	<u>-1</u> Integer
	3. User defined		
Delimited Variables (CSV):		Separator character	
Enter "/" to select option		Type	
- Include column headers		<u>1</u> 1. Character -->	<u>+</u>
- "ASIS" encapsulation		2. Integer -->	<u>-1</u>
CSV Null Indicator:			
Type			
<u>1</u> 1. Character -->			<u>+</u>
2. Integer -->			<u>-1</u>
3. None			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F11=NxtPage	F12=Cancel	

使用法

ヌル可能列の場合に、エクスポートされたデータ内のフィールドをヌル標識に対応させるかどうかを決定します。

Separate (分離)

ヌル標識は、「Placement (配置)」、「Type (タイプ)」および「Indicator (標識)」を斟酌した出力になります。

なし

エクスポートされたデータ内に、ヌル標識に対応するフィールドはありません。

CSV, use NI char (CSV、NI char の使用)

CSV レコード (データ形式 5) を選択した場合、このオプションは区切り文字としてヌル標識を出力します。

デフォルトは 1 (**Separate**) です。

Placement (配置)

ヌル標識を置く場所を決定します。

Before (前)

ヌル標識を適用する列のデータの前に置きます。

After (後)

ヌル標識を適用する列のデータの後に置きます。

User defined (ユーザー定義)

1 バイト (文字形式) または 2 バイト (符号付き整数形式) のヌル標識は出力レコードのいずれかに置かれます。「Placement (配置)」は、ヌル標識を出力レコード内の対応するフィールドにマッピングすることによって変わります。

デフォルトは 1 (**Before**) です。

タイプ

使用するヌル標識のタイプを決定します。

One byte (1 バイト)

1 バイト (文字形式) ヌル標識。

Two byte (2 バイト)

2 バイト (符号付き整数形式) ヌル標識。

デフォルトは 2 (**Two byte**) です。

Indicator (標識)

ヌル標識の値を決定します。

Char (文字)

1 バイト (文字形式) ヌル標識として使用される文字。デフォルトは、ブランクです。

Integer (整数)

2 バイト (符号付き整数形式) ヌル標識として使用される整数。デフォルトは整数値 -1 です。

Separator character (区切り文字)

「**Delimited Variables (CSV) (区切り文字で区切られている変数 (CSV))**」オプションが指定された場合にデータを区切るのに使用される文字です。デフォルトの区切り文字はコンマです。

Include column delimiters (列区切りを含む)

最初のエクスポート・レコードとしてコンマ区切り列見出しを作成するには、このオプションを選択してください。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

"ASIS" encapsulation (「ASIS」カプセル化)

列データの自動カプセル化が使用不可にされているかどうかを判別してください。データが既にユーザー定義文字にカプセル化されている場合は、Db2® に保管する前にこのオプションを選択してください。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

親パネル

- 「Set Utility Options (ユーティリティー・オプションの設定)」パネル ページ 833

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネル ページ 691	「PrvPage」機能キー (F10) を押す
「Export Options (3 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 3))」パネル ページ 696	「NxtPage」機能キー (F11) を押す ((「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルで、データ形式オプション「 4. User defined (ユーザー定義) 」および「 Data type format (データ・タイプ形式) 」を選択すること)。

関連するタスク

- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- FM/Db2 システム・オプション (オプション 0.2) ページ 65
- VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287

「Export Options (3 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 3))」パネル

「Export Options (3 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 3))」パネルを使用して、FM/Db2 の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

図 122. 「Export Options (3 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 3))」パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Export Options - (3 of 3)		Global Settings
Decimal Data:			
Select option			
1	1. Internal (packed) format		
	2. Zoned format		
	3. External format		
Integer Data:			
Enter "/" to select option			
-	External format		
Floating Point Data:			
Enter "/" to select option			
-	External format		
Graphic Data (fixed length):			
Enter "/" to select option			
-	Use shift-out/shift-in (SOSI) characters		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F11=NxtPage	F12=Cancel	

Decimal Data (10 進数データ)

Internal (packed) format (内部 (パック) 形式)

10 進数フィールドは、パック 10 進数フィールドのようにデータを表示するのに必要な最小バイト数を占有します。

Zoned format (ゾーン形式)

ゾーン形式ではフィールドが精度に等しいバイト数を占有します。

External format (外部形式)

外部形式ではフィールドが精度に 2 をプラスしたものに等しいバイト数を占有します。

デフォルトは 1 (Internal (packed) format) です。

Integer Data (整数データ)

External format (外部形式)

外部形式ではフィールドが、smallint(2) に対しては 6 バイト、integer(4) に対しては 11 バイト、bigint に対しては 20 バイトを占有します。

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Floating Point Data (浮動小数点データ)

External format (外部形式)

外部形式ではフィールドが、float(4) に対しては 14 バイト、float(8) に対しては 23 外部バイトを占有します。

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Graphic Data (fixed length) (グラフィック・データ (固定長))

Use shift-out/shift-in (SOSI) characters (シフトイン・シフトアウト (SOSI) 文字の使用)

シフトイン・シフトアウト (SOSI) 文字を使用してエクスポートされたグラフィック固定長データを囲みます。

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。



注: 「External format (外部形式)」は FM/Db2 エディターでデータを表示するのに使用されるのと同じ形式です。

親パネル

- [「Set Utility Options \(ユーティリティー・オプションの設定\)」](#) パネル ページ 833

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Export Options (2 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 2))」 パネル ページ 694	「PrvPage」機能キー (F10) を押す

関連するタスク

- [デフォルト処理オプションの設定](#) ページ 63
- [FM/Db2 システム・オプション \(オプション 0.2\)](#) ページ 65
- [VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー](#) ページ 287

「Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティーの「元」)」パネル

「Export Utility (エクスポート・ユーティリティー)」パネルを使用して、エクスポートするデータが入っている Db2® オブジェクトの名前、(オプションで) テンプレート・データ・セットの名前、および処理オプションを指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Export Utility	
From Db2 Object:			
Location	_____	Database	_____ (optional)
Owner	FMUSER _____ +	Table space _____	(optional)
Name	EMP _____ +		
Export Count . . .	ALL _____	Number of rows to export	
From Template:			
Data set name . . .	_____		
Member	_____		
Processing Options:			
Template usage	Enter "/", "A" always to select option		
3 1. Above	- Edit options		
2. Previous	- Edit template		
3. Generate from table	- Create audit trail (*)		
4. Generate/Replace			
Command '==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Location (場所)

Db2® オブジェクトのロケーション名。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

Database (データベース)

Db2® オブジェクトのデータベース名。このフィールドを使用してオプションでデータベースを指定して、処理するオブジェクトをさらに定義することができます。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「Owner (所有者)」および「Name (名前)」の選択リストに表示される値は、ここで指定されたデータベース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

Owner (所有者)

オブジェクトの所有者の名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。オブジェクトの「Name (名前)」フィールドに同義語を指定するには、このフィールドを空白のままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「Table space (表スペース)」、「Database (データベース)」、「Location (ロケーション)」フィールドのいずれかが非空白の場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Table space (表スペース)

Db2® オブジェクトの表スペース名。処理するオブジェクトをさらに定義するには、このフィールドを使用して、オプションで表スペースを指定します。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「**Owner (所有者)**」および「**Name (名前)**」の選択リストに表示される値は、ここで指定された表スペース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストにも含まれません。

Name (名前)

処理するオブジェクトの名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、「**Owner (所有者)**」フィールドをブランクにするか、現行の SQLID を含む総称名にするか、または現行の SQLID にします。「**Table space (表スペース)**」、「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、“sysibm”などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の“SYSIBM”と一致しないこととなります。

Export Count (エクスポート CNT)

エクスポートする行数。これは、Db2® 表から読み取る行数を示します。1 から 99999999 までの数値、または *、または ALL のいずれかにすることができます。デフォルトは ALL であり、Db2® オブジェクトから選択されたすべての行がエクスポートされます。

Data set name (データ・セット名)

“元”表のテンプレートが入っているデータ・セットまたは PDS メンバーの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「**Member (メンバー)**」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Export Utility “From” (エクスポート・ユーティリティの「元」)」パネルには、テンプレート処理について次の 4 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「**From Template (元テンプレート)**」セクションにテンプレート・データ・セットの名前(およびオプションのメンバー名)を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が続行されます(「Template usage」のオプション 3 を参照)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「From Template (元テンプレート)」セクションでメンバー名を指定すると、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「From Template (元テンプレート)」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit options (編集オプション)

「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの最初の画面を表示するにはこのオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Edit template (テンプレートの編集)

データをエクスポートする前にテンプレートを編集するには、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Create audit trail (監査証跡の作成)



注: SAF 規則によって必要となる場合は、SAF で制御された監査のオプション名に「(*)」が付加されます。

FM/Db2 による Db2® へのアクセスを FM/Db2 監査ログに書き込むかどうかを制御します。このオプションは、SAF 規則で制御された監査が有効である場合にのみ表示されます。

FM/Db2 は、SMF、またはデータ・セットのいずれかに監査レコードを書き込むことができます。

FM/Db2 監査の制御に SAF 規則が使用される場合、監査レコードを書き込むかどうかは、処理対象の Db2® オブジェクト名と、現在のユーザー ID (TSO ログオン ID) に基づいて決定されます。そのため、ある Db2® オブジェクトの処理には監査が必要でも、別のオブジェクトの処理には必要でない場合があります。また、特定の Db2® オブジェクトの監査要件を変更できなくても、別の Db2® オブジェクトの監査要件は変更できたり、他の TSO ユーザー ID に対しては要件が異なったりする場合があります。

特定の Db2® オブジェクトの処理中に、監査設定を変更する権限を持っていない場合、FM/Db2 によって、間違っただ設定を入力しているのではないかとこのプロンプトが出されます。特定の Db2® オブジェクトに対する監査設定を設定する権限を持っている場合、FM/Db2 は、このフィールドにどのような値が指定されてもそれを受け入れます。

親パネル

- [「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Export Utility ("To") (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル ページ 702	「Edit template (テンプレートの編集)」 を選択
「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 505	「Edit template (テンプレートの編集)」 を選択し ません
「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネル ページ 691	「Edit options (編集オプション)」 を選択する

関連するタスク

- [VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)
- [データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)
- [FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)
- [テンプレートの処理 ページ 75](#)
- [SAF 規則で制御された監査 ページ 72](#)
-

「Export Utility ("To") (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル

「Export "To" (エクスポートの宛先)」パネルを使用して、エクスポートするデータが入っているデータ・セットの名前、(オプションで) テンプレート・データ・セットの名前、および処理オプションを指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
From DSN81010.EMP			
Command ==>			
To Partitioned, Sequential or VSAM Data Set:			
Data set name . . .	_____		
Member	_____		
Volume	_____		
To Copybook or Template:			
Data set name . . .	_____		
Member	_____		
Processing Options:			
Template/Copybook usage	Disposition	Enter "/", "A"lways	
<u>3</u> 1. Above	<u>2</u> 1. Old or Reuse	_ View options	
2. Previous	2. Mod	<u>A</u> Edit template mapping	
3. Generate from table	Generated copybook		
4. Generate/Replace	<u>1</u> 1. No display		
5. None. (CSV output)	2. View		
6x. Gen/Rep copybook (x=AOP)	3. Edit		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Data set name (データ・セット名) (To Partitioned, Sequential or VSAM Data Set (宛先区分、順次、または VSAM データ・セット))

出力データ・セットの名前。

Member (メンバー) (To Partitioned, Sequential or VSAM Data Set (宛先区分、順次、または VSAM データ・セット))

出力メンバー名 (該当する場合)。

Volume (ボリューム)

データ・セットがカタログされていない場合、ボリューム通し番号。

Data set name (データ・セット名) (To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート))

データ・セットを記述するコピーブックまたはテンプレートが入っている順次データ・セットまたは区分データ・セットの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「**Member (メンバー)**」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー) (To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート))

「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Export Utility "To" (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネルには、テンプレート処理について次の 5 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「**To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)**」セクションにコピーブックまたはテンプレートの名前を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを

指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。コピーブックまたはテンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が続行されます (「Template usage (テンプレート使用法)」のオプション 3 を参照)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from input (入力からの生成)

入力テンプレートに基づいてテンプレートを生成しますが、そこには、入力テンプレートで選択された列のみが組み込まれます。パネルの「**To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)**」にデータ・セット名を指定した場合には、それは無視されます。生成されたテンプレートは保管されません。

4. Generate and save (生成して保管)

入力テンプレートに基づいてテンプレートを生成しますが、そこには、入力テンプレートで選択された列のみが組み込まれます。このオプションは、テンプレート・データ・セットの名前 (およびオプションのメンバー名) をパネルの「**To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)**」セクションに入力するために必要です。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。生成されたテンプレートは保管されます。

5. None (なし) (CSV output)

FM/Db2 は出力テンプレートを使用しません。FM/Db2 は、データをコンマ区切り (CSV) ファイルとして出力ファイルに書き込みます。このようにエクスポートされた Db2® データは、Import (オプション 3.6) を使用してインポートできません。このようなデータは、スプレッドシート・アプリケーション・プログラムで使用されるものです。

Gen/Rep copybook (x=AOP)

エクスポートされたデータを記述したコピーブックを生成して保存します。このオプションは、コピーブック・データ・セットの名前 (およびオプションのメンバー名) をパネルの「**To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)**」セクションに入力するために必要です。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。生成されたコピーブックは保存されて、同じ名前のすべてのメンバーが置き換えられます。

- 高水準アセンブラー・コピーブックを生成して保存するには、**6A** を指定します。
- COBOL コピーブックを生成して保存するには、**6O** を指定します。
- PL/I コピーブックを生成して保存するには、**6P** を指定します。

Disposition (後処理)

エクスポートされたデータが入っているデータ・セットの後処理。

1. Old or Reuse (旧または再使用)

エクスポート・データが存在し、エクスポートされたデータが既存のデータを置き換える場合、「1」を指定します。

2. Mod

以下のいずれかの条件では、「2」を指定してください。

- エクスポート・データは存在しないため、作成する必要がある。
- エクスポート・データ・セットが存在し、エクスポートされたデータは既存のデータに追加される。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit options (編集オプション)

「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの2番目の画面を表示するにはこのオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)

データをエクスポートする前に、データのエクスポート先の区分データ・セット、順次データ・セット、または VSAM データ・セットのテンプレートを編集するのに使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。



注: テンプレート・マッピングは CSV 出力には適用されません。「Template usage (テンプレートの使用法)」のオプション「5. なし。(CSV output) (5. なし。(CSV 出力))」を参照してください。

親パネル

- 「Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティーの「元」)」パネル ページ 698
- 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 505

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネル ページ 881	「Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)」を選択

関連するタスク

- VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287
- データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53
- エクスポートされるデータの形式 ページ 293
- FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46
- テンプレートの処理 ページ 75
-

「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネル

「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネルを使用して、「Import (インポート)」ユーティリティ機能 (オプション 3.6) を使用するときを選択したいレコードを指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Help
File Manager	Field Selection/Edit	Line 1 of 27
----- Criteria - Enter 1 or 2 to specify expression by field -----		
1 Id :		+
2 Sel: #9 = 'B00'		+
Offset	0	
Cmd Seq	SHE Ref	Field Name
		Picture Type Start Length
		**** Top of data ****
	1 1	\$\$\$01 AN 1 144
	S 2 2	EMPNO AN 1 6
	3 2	len BI 7 2
	S 4 2	FIRSTNME VC 9 12
	S 5 2	MIDINIT AN 21 1
	6 2	len BI 22 2
	S 7 2	LASTNAME VC 24 15
	8 2	null BI 39 2
	S 9 2	WORKDEPT AN 41 3
	10 2	null BI 44 2
	S 11 2	PHONENO AN 46 4
Command ==>		Scroll
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F7=Up	F8=Down	F9=Swap
	F4=Expand	F5=RFind
	F10=Left	F11=Right
		F6=RunTemp
		F12=Cancel

1 Id、2 Sel

レコードの識別および選択基準をフィールド別に指定するには、オプション 1 および 2 を使用します。

ある式が前にフィールド別に更新されていない場合には、「Left」機能キー (F10) および「Right」機能キー (F11) を使用して左および右にスクロール可能な、および「Expand」機能キー (F4) を使用して拡張可能な、隣接行にその式を入力することができます。フィールドの終わりにある「+」および“-” 標識は、スクロールできる方向 (それぞれ、右および左) を示します。

式が前にフィールド別に入力されている場合、この行は保護されています。フリー・フォーム REXX 式に変更して戻すには、「by field (フィールド別)」オプションを選択し (コマンド行で 1 または 2 を入力して)、式を削除します。このパネルに戻ると、行は入力可能になります (ただし、式を指定しなければならない、動的テンプレートの場合を除きます)。



注: レコード選択基準の詳細については、File Manager ユーザズ・ガイドおよびリファレンス を参照してください。

Cmd (コマンド)

接頭部コマンド域。テンプレート・エディターの接頭部コマンドを入力するために使用されます。

Seq

シーケンス・フィールド。File Manager/Db2 エディター・セッションで表示されるフィールドの順序を決めるため、および印刷ユーティリティを使用してデータを印刷する順序を決めるために使用されます。

SHE

「Select/Hold/Edit (選択/保持/編集)」フィールド。フィールドの状況を示します。

S

フィールドは処理のために選択されています。

H

フィールドは編集画面で保持するように選択されています。

E

フィールドは、データ作成、フィールド見出し、またはスクランブル・オプションなどの情報を追加するために、以前編集されたことがあります。

Ref

Field reference (フィールド参照) によってフィールド名に割り当てられたフィールド参照番号を示します。フィールド参照番号はレコード中のすべてのフィールドに割り当てられ、選択基準式のフィールドを識別するために使用されます。

Field Name (フィールド名)

フィールドのレベル番号およびフィールド名を示します。フィールドが配列の場合は、次元がフィールド名の後に大括弧で囲んで示されます。フィールドが処理のために選択されている場合は、そのフィールド名が強調表示されます。

Picture (ピクチャー)

COBOL の場合は、ピクチャー文節を示します。HLASM の場合は、DC または DS オペランドを示します。PL/I の場合は、バイナリーおよびパック 10 進数フィールドの長さおよびスケール (ゼロ以外の場合) を示します。また、ビット・フィールドのビット長も示します。

タイプ

フィールドのデータ・タイプを示します。

AN

英数字 (英字、およびグループ項目を含む)

BI

バイナリー

BT

ビット

DB

DBCS

FE

浮動小数点数 (外部)

FP

浮動小数点数 (内部)

G

グラフィック

PD

パック 10 進数 (内部 10 進数)

VC

可変文字

VD

可変 DBCS

VG

可変グラフィック

ZC

ヌル終了文字

ZD

ゾーン 10 進数 (外部 10 進数)

ZE

編集済みゾーン 10 進数

ZG

ヌル終了グラフィック

Z2

ヌル終了 DBCS

Start (開始)

フィールドの開始桁を示します。変数配置フィールドでは、開始位置はレコードの最大長に基づいています。

Length (長さ)

フィールドの長さを示します。レベル 01 フィールドでは、レコードが可変長の場合は、示される長さは最大レコード長です。

Record identification criteria (レコード ID 基準)

FM/Db2 がこのレコード・タイプを識別するために使用する基準を指定するために使用します。FM/Db2 は最初にレコード長を使用してレコード・タイプを識別します。

固定長レコード (データ・セット属性ではなく、テンプレートのレコード定義によって定義されます) では、レコード読み取りの長さは、テンプレートの対応するレコード定義の長さとは厳密に一致していません。

可変長レコードでは、レコード読み取りの長さは、テンプレートの対応するレコード定義の最小長より長く、最大長より短くなければなりません。

FM/Db2 がレコード長をテンプレートのレコード定義と突き合わせできない場合は、処理するレコードは選択されません。レコードの長さがテンプレートの複数のレコード定義と一致していて、それ以上のレコード識別基準が指定されていない場合には、FM/Db2 はテンプレート内の最初に一致したレコード・タイプを使用します。したがって、ファイルのそれぞれ異なるレコード・タイプのレコード長が固有でない場合は、このフィールドを使用して、なんらかの固有の ID 基準を指定してください。

Record selection criteria (レコード選択基準)

FM/Db2 が処理するレコードの選択に使用する基準を指定するのに使用します。このフィールドを使用して、処理したい特定のレコード・タイプのレコードを制限できます。レコード選択基準を指定しない場合は、このレコード・タイプのすべてのレコードが処理のために選択されます (そのレコード・タイプ自身が処理のために選択されている場合)。

親パネル

- [「Import Utility \("From"\) \(インポート・ユーティリティの「元」\)」パネル ページ 718](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)

「FM/Db2 Release News (リリース・ニュース)」パネル

以下を行うと、FM/Db2 は「FM/Db2 Release News (リリース・ニュース)」パネルを表示します。

1. アクション・バー・メニューから「**Help (ヘルプ)**」を選択する。
2. 「**8**」を選択する。ドロップダウン・メニューから「**News about FM/Db2... (関連ニュース...)**」を選択する。

「Foreign Keys for Table (表の外部キー)」パネル

FM/Db2 にリストされた項目に対して FK 行コマンドを使用すると、[「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」パネル ページ 875](#) は「Foreign Keys for Table (表の外部キー)」パネルを表示します。

「Free Application Plan (フリー・アプリケーション・プラン)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して FRE 行コマンドを使用すると、[「Application Plans \(アプリケーション・プラン\)」](#) パネル [ページ 483](#) は「Free Application Plan (フリー・アプリケーション・プラン)」パネルを表示します。

「Free Package (パッケージの解放)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して FRE 行コマンドを使用すると、[「Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)」](#) パネル [ページ 480](#) は「Free Package (パッケージの解放)」パネルを表示します。

「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			From Column Mapping
To Db2 object . . .	:	DSN8810.EEMP	
From Db2 object . . .	:	DSN8810.EMP	
To column	:	#15 RID	
From column	:		
Sel	Cl#	From Column	Data Type(length)
----		**** Top of data ****	
----	D	Delete "From column"	
----	1	EMPNO	CHARACTER(6)
----	2	FIRSTNME	VARCHAR(12)
----	3	MIDINIT	CHARACTER(1)
----	4	LASTNAME	VARCHAR(15)
----	5	WORKDEPT	CHARACTER(3)
S----	6	PHONENO	CHARACTER(4)
----	7	HIREDATE	DATE
----	8	JOB	CHARACTER(8)
----	9	EDLEVEL	SMALLINT
----	10	SEX	CHARACTER(1)
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Up
F9=Swap	F12=Cancel		F8=Down

親パネル

- [「Template Mapping \(テンプレート・マッピング\)」](#) パネル [ページ 881](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」 パネル ページ 881	F3 または F12 を押す

「Functions (関数)」パネル

「Functions (関数)」パネルを使用して、選択した関数に関する情報を表示します。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSROUTINES の列が含まれています。

Process	Options	Utilities	Help			
FM/Db2 (DFG2)		Functions				Format <u>TABL</u>
Location:						
SEL	SCHEMA	NAME	ORIGINEX	OWNER	ROUTINEX	
----	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	
----	#1-----	#3-----	#90-----1-----	#2-----	#89-----1-----2-----	
****	Top of data ****					
----	SHRIKE2	DT1	System generated	SHRIKE2	Function/Cast	Function
----	SHRIKE2	CHAR	System generated	SHRIKE2	Function/Cast	Function
----	SHRIKE2	DT1	System generated	SHRIKE2	Function/Cast	Function
----	SHRIKES	CHAR80	System generated	SHRIKE2	Function/Cast	Function
----	SHRIKES	CHAR	System generated	SHRIKE2	Function/Cast	Function
----	SHRIKES	CHAR80	System generated	SHRIKE2	Function/Cast	Function
----	SHRIKES	DOCMATCH	External	SHRIKES	Function/Cast	Function
****	End of data ****					
Command ==>		Scroll <u>PAGE</u>				
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange	
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel	



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2@catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747
- 「Schemas (スキーマ)」パネル ページ 807

子パネル

このパネルの表示方法

[「Alter External Scalar Function \(外部スカラー関数の変更\)」](#) パネル ページ 465

使用または実行する機能

行コマンド A

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
コメント・パネル ページ 512	行コマンド COM
「Create Function (関数の作成)」 パネル ページ 542	行コマンド CR
除去パネル ページ 646	行コマンド DR
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
「Generate SQL From Db2 Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネル ページ 712	行コマンド GEN
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
特権パネル ページ 764	行コマンド P
「Routine Parameters (ルーチン・パラメーター)」 パネル ページ 796	行コマンド PARM
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」 パネル ページ 480	行コマンド PKG
行コマンド PS	
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
「Distinct Types (特殊タイプ)」 パネル ページ 645	行コマンド RDT
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Schemas (スキーマ)」 パネル ページ 807	行コマンド SCH
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Generate SQL From Db2® Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネル

「Generate SQL From Db2® Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネルを使用して、Db2® カタログからの SQL の生成方法を指定します。FM/Db2 が生成する必要がある SQL ステートメント・タイプと、オプションで、変更する必要のある名前および値を指定することができます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Generate SQL From Db2 Catalog		
Generate SQL statements for database : DSN8D10A +			
SQL statement types to be generated from the Db2 catalog:			
CREATE DATABASE Y	GRANT access ON DATABASE . . . Y		
CREATE TABLESPACE Y	GRANT access ON TABLESPACE . . Y		
CREATE TABLE Y	GRANT access ON TABLE Y		
CREATE VIEW Y	GRANT access ON VIEW Y		
CREATE INDEX Y	ALTER TABLE ADD FOREIGN KEY . Y		
CREATE SYNONYM Y	LABEL ON Y		
CREATE ALIAS Y	COMMENT ON Y		
CREATE TRIGGER Y			
New names/values for generated SQL (leave blank to use current values):			
Object owner	+		
Alloc TS size as	DEFINED	(DEFINED, USED, or ALLOC)	
Database name			
Storage group for TS	+		
Storage group for IX	+		
Target Db2 version		(Current Db2 version: 1015)	
Output file and execution mode:			
Data set name			
Data set disposition	OLD	(OLD, SHR, or MOD)	
Execution mode	BATCH	(BATCH or TSO)	
Commit statements per	-	(Db, tS, Tb, All, None)	
Db2 defaults handling	-	(Keep, or Remove)	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Generate SQL statements for database (データベースの SQL ステートメントの生成)

FM/Db2 に生成させたい各 SQL ステートメント・タイプには **Y** を指定し、生成させたくない各 SQL ステートメント・タイプには **N** を指定します。

Object owner (オブジェクト所有者)

オブジェクトの新規所有者 (許可 ID)。

Alloc TS size as (Alloc TS サイズ)

基本の量を生成する方法を指定します。

DEFINED

カタログに定義されているサイズを使用する

USED

実際に使用されているサイズを使用する

ALLOCATED

割り振られたサイズを使用する

USED および **ALLOCATED** では、生成されるオブジェクトのストレージ・グループに対して STOSPACE ユーティリティが実行されている必要があります。

Database name (データベース名)

オブジェクトの新規データベース名。

Storage group for TS (表スペース向けストレージ・グループ)

表スペースの新規ストレージ・グループ名。

Storage group for IX (索引向けストレージ・グループ)

索引の新規ストレージ・グループ名。

Target Db2® version (該当バージョン)

生成された SQL ステートメントの Db2® レベル。

Data set name (データ・セット名)

既存の有効な SPUFI 入力データ・セット名。または、SYSOUT=x として。このフィールドがブランクの場合のデフォルトは SYSOUT=* です。

Data set disposition (データ・セット後処理)

出力データ・セットの後処理。

Execution mode (実行モード)

以下を指定します。

BATCH

バッチ・ジョブを生成する

TSO

生成をオンラインで実行する

Commit statements per (要素別 COMMIT ステートメント)

以下の COMMIT ステートメントを生成する時点。

D

それぞれのデータベースごと

S

それぞれの表スペースごと

T

それぞれの表ごと

A

すべてのオブジェクトごと

N

なし

Db2® defaults handling (デフォルト処理)

Db2® デフォルト・パラメーターを処理する、以下の方法を指定します。

K

Db2® デフォルト・パラメーターを保持する

R

Db2® デフォルト・パラメーターを除去する

親パネル

- [「Databases \(データベース\)」 パネル ページ 616](#)
- [「Table Spaces \(表スペース\)」 パネル ページ 866](#)
- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」 パネル ページ 875](#)
- [「Indexes \(索引\)」 パネル ページ 724](#)
- [「Schemas \(スキーマ\)」 パネル ページ 807](#)
- [「Distinct Types \(特殊タイプ\)」 パネル ページ 645](#)
- [「Functions \(関数\)」 パネル ページ 710](#)
- [「Stored Procedures \(ストアド・プロシージャ\)」 パネル ページ 843](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [リバース・エンジニアリング ページ 333](#)

特権の認可パネル

これらのパネルは、以下の通りです。

- [「Grant Application Plan Privileges \(アプリケーション・プラン特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Buffer Pool Privileges \(バッファ・プール特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Collection Privileges \(コレクション特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Column Privileges \(列特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Database Privileges \(データベース特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Distinct Type Privileges \(特殊タイプ特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Function Privileges \(関数特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Package Privileges \(パッケージ特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Schema Privileges \(スキーマ特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Sequence Privileges \(シーケンス特権の付与\)」 パネル](#)
- [「Grant Storage Group Privileges \(ストレージ・グループ特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant Stored Procedure Privileges \(ストアド・プロシージャ特権の認可\)」 パネル](#)
- [「Grant System Privileges \(システム特権の認可\)」 パネル](#)

- 「Grant Table Privileges (表特権の認可)」パネル
- 「Table Space Use Privileges (表スペース使用特権の認可)」パネル

オブジェクト・タイプに対する特権の認可のために特権ユーティリティー機能 (3.5) を使用するか、または Db2® オブジェクトのリストに表示されたオブジェクトに対して G 行コマンドを使用すると、FM/Db2 はこれらのパネルの 1 つを表示します。

特権付与パネルの形式

それぞれの特権認可パネルごとに以下のものが示されます。

- そのオブジェクト・タイプに使用可能な特権と、次の値の 1 つを指定できる、対応する単一文字入力フィールド。

Y

指定された特権を被認可者に認可しますが、その被認可者がこの特権を他のユーザーに認可することは許可しません。

G

指定された特権を被認可者に認可し、その被認可者がこの特権を他のユーザーに認可することを許可します。

このフィールドが空白であると、被認可者は指定された特権を保持していません。



注: 既存の特権を変更するには、最初にその既存の特権を取り消してから、この節で説明されている通りに新規特権 (適用できる場合) を認可する必要があります。

- その特権を認可するオブジェクトの名前を指定するために使用するフィールド (特権タイプによってはフィールドが 2 つになる場合があります)。
- 「To (宛先)」フィールド。これは、特権を認可する相手ユーザーの SQLID を指定するために使用します。

関連するタスク

- [特権の表示 ページ 351](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)
- [特権の認可 ページ 351](#)
- [特権の取り消し ページ 353](#)

「Import Options (インポート・オプション)」パネル

「Import Options (インポート・オプション)」パネルを使用して、このパネルの表示内容に応じて、グローバル・インポート・オプションまたはローカル・インポート・オプションのどちらかを設定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DG03)	Import Options	Global Settings	
Import dataset:			
Data format			
<u>1</u>	1. FM/Db2 (SQLDA) format		
	2. Db2 UNLOAD format		
	3. DSNTIAUL format		
	4. User defined		
Import Options:			
Duplicate key processing		Enter "/" to select option	
<u>1</u>	1. Ignore	_ Delete existing rows	
	2. Update		
	Max duplicates	ALL	
Auto Commit (Changes):			
	Auto-commit count	. 0	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Data format (データ形式)

使用されるテンプレートまたはコピーブックに対応するデータ形式を指定できます。

- 1. FM/Db2 (SQLDA) format ((SQLDA) 形式)
- 2. Db2® UNLOAD format (アンロード形式)
- 3. DSNTIAUL format (DSNTIAUL 形式)
- 4. User defined (ユーザー定義)

デフォルトは 1 (FM/Db2 (SQLDA) format) です。

Duplicate key processing (重複キーの処理)

1. Ignore (無視)

重複行を無視します。これはデフォルトです。

2. Update (更新)

INSERT SQL ステートメントに回答して重複行エラー (SQLCODE -803) が Db2® によって戻されたときに重複行を更新します。このオプションを選択すると、FM/Db2 は既存の行の更新を試みます。表内の列のうち、少なくとも 1 つの固有索引の一部である列のすべてが行の識別に使用されます。更新操作の前には、インポートされた行と既存の行の間で比較は行われません (すなわち、更新は、インポートされた行と既存の行が同じかどうかに関係に行われます)。このオプションを使用するときは、ビュー名ではなく、Db2® 表名を指定することをお勧めします。FM/Db2 は、ビューに定義されたビュー内の既存の行の更新は試みません。

Max duplicates (最大重複数)

許可される重複の最大数。

有効な値: 0 から 999999999 の範囲内の数値、または ALL です。デフォルトは ALL です。

Auto-commit count (自動コミット・カウント)

レコードがインポートされるときに漸進的な Db2® コミット点を取る場合に、このオプションを使用します。任意の正値が入力されると、FM/Db2 は、指定された回数の Db2® 変更が正常に行われた後、自動的に Db2® コミットを発行します。正常な Db2® 変更は、レコードの正常な挿入、または重複キー・エラーが挿入で検出されるときに行の正常な更新のいずれかです。各 Db2® コミットが発行された後、変更カウンターがリセットされるので、複数の Db2® コミット点が発行される場合があります。漸進的な Db2® コミット点が必要ない場合は、ゼロ値を指定してください。この場合、インポート・ユーティリティの終了まで Db2® コミットは延期され、インポート中にエラーが検出されると、すべての変更がバックアウトされます。このオプションのデフォルト値は 0 です。

Delete existing rows (既存の行の削除)

インポート前にターゲット表内の行すべてを削除します。デフォルトでは選択されていません。つまり、ターゲット表から行は削除されません。

親パネル

- [Set Utility Options (ユーティリティ・オプションの設定)] パネル ページ 833
- [Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティの「元」)] パネル ページ 718
- [Import Utility ("To") (インポート・ユーティリティの「宛先」)] パネル ページ 720

子パネル

なし。

関連するタスク

[Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティの「元」)] パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Import Utility	
From Partitioned, Sequential or VSAM Data Set:			
Data set name . . .	'FMUSER.EXPORT'		
Member	_____		
Volume	_____		
Start position . .	<u>1</u> _____		
Import Count . . .	ALL_____	Number of rows to import	
From Copybook or Template:			
Data set name . . .	'FMUSER.TEMPLATE'		
Member	EXPORT1_____		
Processing Options:			
Template usage		Enter "/", "A"lways to select option	
<u>1</u> 1. Above		- Edit options	
2. Previous		- Edit template	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することによって選択できます (FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46を参照)。

Edit template (テンプレートの編集)

データをインポートする前にインポート元の表のテンプレートを編集するのに使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。詳しくは、『テンプレートの処理 ページ 75』を参照してください。

Edit options (編集オプション)

「Import Options (インポート・オプション)」パネルを表示するには、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

親パネル

- 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネル ページ 896

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Import Options (インポート・オプション)」パネル ページ 716	「Edit options (編集オプション)」を選択する
「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネル ページ 706	「Edit template (テンプレートの編集)」を選択

関連するタスク

- FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46
- テンプレートの処理 ページ 75

「Import Utility ("To") (インポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
From SHRIKE2.EXPORT.EMP			
Command ==>			
To Db2 Object:			
Location		Database	(optional)
Owner	SHRIKE2	+ Table space	(optional)
Name			+
To Template: From SHRIKE2.FM.TEMPLATE(EMP)			
Data set name			
Member			
Processing Options:			
Template usage		Enter "/" , "A" always to select option	
3 1. Above		- Edit options	
2. Previous		- Edit template mapping	
3. Generate from table		- Batch execution	
4. Generate/Replace		- Create audit trail (*)	
		- Use REXX proc	
		REXX proc name	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F7=Backward F8=Forward
		F12=Cancel	

Location (場所)

Db2® オブジェクトのロケーション名。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに値を入力すると、同義語のオブジェクト名は認識されず、選択リストに含まれません。

Database (データベース)

Db2® オブジェクトのデータベース名。このフィールドを使用してオプションでデータベースを指定して、処理するオブジェクトをさらに定義することができます。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「Owner (所有者)」および「Name (名前)」の選択リストに表示される値は、ここで指定されたデータベース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストに含まれません。

Owner (所有者)

オブジェクトの所有者の名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。オブジェクトの「Name (名前)」フィールドに同義語を指定するには、このフィールドをブランクのままにしておくか、現行の SQLID を含む総称名を指定するか、または現行の SQLID を指定します。「Table space (表スペース)」、「Database (データベース)」、「Location (ロケーション)」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、「sysibm」などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の「SYSIBM」と一致しないことになります。

Table space (表スペース)

Db2® オブジェクトの表スペース名。処理するオブジェクトをさらに定義するには、このフィールドを使用して、オプションで表スペースを指定します。このフィールドに値を入力すると、以下のようになります。

- 「**Owner (所有者)**」および「**Name (名前)**」の選択リストに表示される値は、ここで指定された表スペース内に定義された値に限定されます。
- 同義語の名前は認識されず、選択リストにも含まれません。

Name (名前)

処理するオブジェクトの名前。総称名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドに同義語を指定するには、同義語の名前を入力するか、「**Owner (所有者)**」フィールドをブランクにするか、現行の SQLID を含む総称名にするか、または現行の SQLID にします。「**Table space (表スペース)**」、「**Database (データベース)**」、「**Location (ロケーション)**」フィールドのいずれかが非ブランクの場合、同義語は認識されず、表選択リストに含まれません。

「**Translate Db2® object names (オブジェクト名を変換)**」オプションが選択されている場合、小文字は大文字に変換されます。このオプションが選択されていない場合、小文字は大文字に変換されません。このような状態では、「sysibm」などの小文字の所有者名が、Db2® カタログ内の「SYSIBM」と一致しないことになります。

Data set name (データ・セット名)

宛先表のテンプレートが入っているデータ・セットまたは PDS メンバーの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「**Member (メンバー)**」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

「Import Utility "To" (インポート・ユーティリティの「宛先）」パネルには、テンプレート処理について次の 4 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「**To Template (宛先テンプレート)**」セクションにテンプレートの名前を入力する必要があります。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「**To Template (宛先テンプレート)**」セクションにデータ・セット名を指定した場合には、それは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表についての Db2® カタログ中の情報を基にしてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「**To Template (宛先テンプレート)**」セクションに指定されているデータ・セットに保管します。テンプレートがすでに存在する場合は、それが置き換えられて、前のカスタマイズは失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit options (編集オプション)

「Import Options (インポート・オプション)」パネルを表示するには、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)

データをインポートする前にインポート先の表のテンプレートを編集するのに使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Batch execution (バッチ実行)

インポート・ユーティリティをバッチ・ジョブで実行するために必要な JCL を作成します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Create audit trail (監査証跡の作成)



注: SAF 規則によって必要となる場合は、SAF で制御された監査のオプション名に「(*)」が付加されます。

FM/Db2 による Db2® へのアクセスを FM/Db2 監査ログに書き込むかどうかを制御します。このオプションは、SAF 規則で制御された監査が有効である場合にのみ表示されます。

FM/Db2 は、SMF、またはデータ・セットのいずれかに監査レコードを書き込むことができます。

FM/Db2 監査の制御に SAF 規則が使用される場合、監査レコードを書き込むかどうかは、処理対象の Db2® オブジェクト名と、現在のユーザー ID (TSO ログオン ID) に基づいて決定されます。そのため、ある Db2® オブジェクトの処理には監査が必要でも、別のオブジェクトの処理には必要でない場合があります。また、特定の Db2® オブジェクトの監査要件を変更できなくても、別の Db2® オブジェクトの監査要件は変更できたり、他の TSO ユーザー ID に対しては要件が異なったりする場合があります。

特定の Db2® オブジェクトの処理中に、監査設定を変更する権限を持っていない場合、FM/Db2 によって、間違っただ設定を入力しているのではないかとこのプロンプトが出されます。特定の Db2® オブジェクトに対する監査設定を設定する権限を持っている場合、FM/Db2 は、このフィールドにどのような値が指定されてもそれを受け入れます。

Use REXX proc (REXX proc の使用)

このオプションを使用して、以下のいずれかを実行できます。

- アスタリスク (*) を入力することによって、一度だけ使用する一時 REXX プロシージャを入力する。FM/Db2 は、新規 REXX プロシージャの作成に使用できる、REXX 編集パネルを表示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- 使用する REXX プロシージャが含まれているメンバーの名前を指定する。メンバーは DD 名 FMNEXEC に割り振られた PDS に属している必要があります。次のいずれかを入力できます。
 - メンバーの名前。
 - 一致するすべてのメンバーをリストするメンバー名パターン (*以外)。そうすると、**【Sel】** フィールドに `s` と入力して、必要なメンバーを選択できます。メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と、次の 2 つの特殊パターン文字とで構成することができます。

アスタリスク (*)

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクがメンバー名のどこに表示されても構いません。例えば、`*d*` と入力すると、名前に「d」が含まれるデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。

パーセント記号 (%)

単一文字を表す置き換え文字。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、`****` と入力すると、名前の長さが 4 文字のデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。



注: メンバー名のデフォルトはブランクです。このオプションを選択して、**【Use REXX proc (REXX proc の使用)】** フィールドをブランクにしておくと、FM/Db2 がメンバー名リストを表示します。そうすると、**【Sel】** フィールドに `s` と入力して、必要なメンバーを選択できます。

親パネル

- **【Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティーの「元」)】** パネル ページ 718
- **【Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)】** パネル ページ 706

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
【Import Options (インポート・オプション)】 パネル ページ 716	【Edit options (編集オプション)】 を選択する

関連するタスク

- テンプレートの処理 ページ 75
- FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46
- インポート・ユーティリティーでの REXX プロシージャの使用 ページ 265
- REXX プロシージャを使用したインポート・ユーティリティーの拡張 ページ 276
- SAF 規則で制御された監査 ページ 72

「Index Parts (索引パーツ)」 パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して PT 行コマンドを使用すると、[「Indexes \(索引\)」 パネル ページ 724](#) は「Index Parts (索引パーツ)」 パネルを表示します。

「Indexes (索引)」 パネル

「Indexes (索引)」 パネルを使用して、Db2® カタログの索引オブジェクト・タイプをリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSINDEXES の列が含まれています。

Process Options Utilities Help					
FM/Db2 (DFG2)			Indexes		Format TABL
Location:					
SEL	CREATOR	NAME	TBNAME	TBCREATOR	UNIQUEE
*	*	*	*	*	*
#2--+-1--	#1--+-1--	#3--+-1--	#4--+-1--	#48--+-	+
****	Top of data	****			
----	CARLAND	XPMR91932	PMR91932	CARLAND	Unique
----	DSN8810	XACT1	ACT	DSN8810	Unique
----	DSN8810	XACT2	ACT	DSN8810	Yes
----	DSN8810	XCONA1	TCONA	DSN8810	Yes
----	DSN8810	XDEPT1	DEPT	DSN8810	Unique
----	DSN8810	XDEPT2	DEPT	DSN8810	Duplica
----	DSN8810	XDEPT3	DEPT	DSN8810	Duplica
----	DSN8810	XDSPTXT1	TDSPTXT	DSN8810	Yes
----	DSN8810	XEMP1	EMP	DSN8810	Unique
----	DSN8810	XEMP2	EMP	DSN8810	Duplica
----	DSN8810	XEMPPROJACT1	EMPPROJACT	DSN8810	Yes
Command ==>					Scroll PAGE
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

注:

1. システム・オプション **「Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)」** は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するとき FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するとき FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2® catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」 パネル ページ 747
- 「Databases (データベース)」 パネル ページ 616
- 「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875
- 「Columns (列)」 パネル ページ 510
- 「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」 パネル ページ 480

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Alter Index (索引の変更)」 パネル ページ 466	行コマンド A
「Columns in Index (索引の列)」 パネル ページ 512	行コマンド COL
「Create Index (索引作成)」 パネル ページ 549	行コマンド CR
「Databases (データベース)」 パネル ページ 616	行コマンド D
除去 パネル ページ 646	行コマンド DR
「Generate SQL From Db2 Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネル ページ 712	行コマンド GEN
詳細 パネル ページ 644	行コマンド I
「Recovery Information (リカバリー情報)」 パネル ページ 783	行コマンド ICS
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」 パネル ページ 480	行コマンド PKG
「Application Plans (アプリケーション・プラン)」 パネル ページ 483	行コマンド PL
「Index Parts (索引パーツ)」 パネル ページ 724	行コマンド PT
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド T
「Db2 Utilities (ユーティリティ)」 パネル ページ 635	行コマンド UTL
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Indexes and Columns for (索引と列の該当表)」 パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して XC 行コマンドを使用すると、[「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#)
[パネル ページ 875](#) は「Indexes and Columns for (索引と列の該当表)」パネルを表示します。

「ISPF Primary Option (ISPF 基本オプション)」 パネル

パネルとフィールドの定義

Menu	Utilities	Compilers	Options	Status	Help
ISPF Primary Option Menu					
0	Settings	Terminal and user parameters		User ID . . :	FMUSER
1	View	Display source data or listings		Time. . . :	15:11
2	Edit	Create or change source data		Terminal. :	3278
3	Utilities	Perform utility functions		Screen. . :	1
4	Foreground	Interactive language processing		Language. :	ENGLISH
5	Batch	Submit job for language processing		Appl ID . :	ISR
6	Command	Enter TSO or Workstation commands		TSO logon :	ISPFPROC
7	Dialog Test	Perform dialog testing		TSO prefix:	FMUSER
9	IBM Products	IBM program development products		System ID :	FMD2
10	SCLM	SW Configuration Library Manager		MVS acct. :	USER
11	Workplace	ISPF Object/Action Workplace		Release . :	ISPF 5.0
F	File Manager	File Manager for z/OS®			
FD	FM/Db2	File Manager/Db2	◀ New		
Option ==>					
	F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward	F8=Forward
	F10=Actions	F12=Cancel			F9=Swap

親パネル

- なし。

子パネル

このパネルの表示方法

使用または実行する機能

[「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」](#) パネル ページ 756

FM/Db2 のオプションを選択する

関連するタスク

「ISPF Settings (ISPF 設定)」 パネル

「ISPF Settings (ISPF 設定)」 パネルを使用して、選択された ISPF パラメーターの表示および変更を行います。

親パネル

•

関連するタスク

- [ISPF settings \(option 0.11\) \(ISPF 設定 \(オプション 0.11\)\) ページ 68](#)

「Label Column (列のラベル)」 パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Label Column
LABEL ON COLUMN			
Table owner	BUDGER2		+
Table name	DEPT		+
Column name	DEPTNAME		
IS			
Label			+
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

親パネル

- [「Columns \(列\)」 パネル ページ 510](#)
- [「Constraint Columns for \(制約列\)」 パネル ページ 515](#)
- [「Columns in Table \(表の列\)」 パネル ページ 512](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Label Table (表のラベル)」 パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			Label Table
LABEL ON TABLE			
Owner	BUDGER2		+
Name	EMP		+
IS			
Label			+
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F7=Backward F8=Forward

親パネル

- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」 パネル ページ 875](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「LISTCAT Output Display (LISTCAT 出力表示)」 パネル

「Recovery Information (リカバリー情報)」 パネルまたは「Table Space Parts (表スペースのパーツ)」 パネルで LC 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「LISTCAT Output Display (LISTCAT 出力表示)」 パネルを表示します。

「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」 パネル

「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」 パネルは、LISTDEF ステートメント、およびユーティリティ・バッチ・ジョブ内の LISTDEF ライブラリーにアクセスするための適切な JCL ステートメントの生成に使用される情報を収集するために使用されます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		LISTDEF Options	Global Settings
Enter RESET to restore installation defaults.			
LISTDEF Library Option:			
JCL DD statement:		No DD stmt is generated if field is blank	
//SYSLISTD DD	_____		
//	DD _____		
//	DD _____		
//	DD _____		
Initial Utility Statement Option:			
Utility statement:		No statement is generated if field is blank	
LISTDEF	_____		

Additional statements:			
Enter "/" to select options			
- Use additional statements			
- Edit additional statements			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F6=Reset	F7=Backward		

JCL DD statement (JCL DD ステートメント)

JCL DD ステートメントの生成に使用される情報。この情報は、以下の通りです。

DD name (DD 名)

読み取り専用フィールドです。このフィールドには、「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネル(「[OPTIONS Options \(OPTIONS オプション\) パネル ページ 749](#)」)の「LISTDEFDD DD name (LISTDEFDD DD 名)」フィールドに指定された値が保持されます。ライブラリー・フィールドがブランクである場合、ユーティリティー・バッチ・ジョブで DD ステートメントは生成されません。デフォルトは、ブランクです。

Text values (テキスト値)

これらの 4 行に入力された値は、DD 名フィールドがブランクでない場合は、DD ステートメントの生成に直接使用されます。

Utility statement (ユーティリティー・ステートメント)

この値は、初期ユーティリティー・ステートメントの生成に使用されます。フィールドがブランクで、「Use additional statements (追加のステートメントを使用する)」オプションが選択されていない場合は、LISTDEF ステートメントはユーティリティー・バッチ・ジョブに生成されません。フィールドが非ブランクである場合は、「Use additional statements (追加のステートメントを使用する)」オプションの選択時に提供される追加の LISTDEF ステートメントを使用して、指定された LISTDEF が生成されます。デフォルトは、ブランクです。

Use additional statements (追加のステートメントを使用する)

このオプションを設定した場合は、ユーティリティー・バッチ・ジョブに複数の LISTDEF ステートメントが生成されます。追加のステートメントを編集するには、「Edit additional statements (追加のステートメントを編集する)」オプションを選択します。生成には、非ブランク入力フィールドを持つ LISTDEF 仕様のみが使用されます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

このオプションを選択しない場合は、「Utility statement (ユーティリティー・ステートメント)」フィールドの非空白値のみが LISTDEF ステートメントの生成で使用されます。

Edit additional statements (追加のステートメントを編集する)

このオプションを選択して Enter キーを押すと、「Additional LISTDEF Statements (追加 LISTDEF ステートメント)」パネル ([\[Additional LISTDEF Statements \(追加 LISTDEF ステートメント\)\] パネル ページ 460](#)) が表示されます。このパネルで値を入力してパネルを終了すると、このオプションは選択解除されます。この追加のステートメントは、「Use additional statements (追加のステートメントを使用する)」オプションを選択した場合に使用されます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

「LISTDEF Library Option (LISTDEF ライブラリー・オプション)」には、インストール定義のデフォルトが表示されています。ライブラリー・オプションのデフォルトは、RESET コマンドを入力するか、または RESET PF キーを押して復元することができます。各サブシステムには、独自のインストール定義のデフォルト値があります。RESET は、「Use additional statements (追加のステートメントを使用する)」オプション および 「Utility statement (ユーティリティー・ステートメント)」フィールドの中の値もクリアします。

詳しくは、「Db2 ユーティリティー・ガイドおよび解説書」の LISTDEF と OPTIONS ステートメントを参照してください。

親パネル

.

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Additional LISTDEF Statements (追加 LISTDEF ステートメント)] パネル ページ 460	「Edit additional statements (追加のステートメントを編集する)」オプションを選択する

関連するタスク

- [RESET 基本コマンド ページ 966](#)
- [Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)
- [Db2 Utility LISTDEF options \(option 3.UL\) \(ユーティリティー LISTDEF オプション \(オプション 3.UL\)\) ページ 70](#)

「Load from (ロード元)」パネル

「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」の「To (宛先)」テンプレートのパネルを使用して、LOAD ユーティリティーを使用する場合のターゲット Db2® 表のためのテンプレートを指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
Load from template LODINDDN			
Target Db2 Table:			
Owner	FMUSER	+	
Name	EMP		+
To Template:			
Data set name . . .	_____		
Member	_____		
Processing Options:			
Template usage	Enter "/", "A"lways to select option		
3 1. Above	- Edit LOAD utility options		
2. Previous	- Edit template mapping		
3. Generate from table			
4. Generate/Replace			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

Table owner (表所有者)

ターゲット表の所有者の名前。総称オブジェクト名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドは必須です。

Table name (テーブル名)

ターゲット表の名前。総称オブジェクト名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドは必須です。

Data set name (データ・セット名)

宛先オブジェクトのテンプレートが入っているデータ・セットまたは PDS メンバーの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「Member (メンバー)」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「LOAD Utility (LOAD ユーティリティ)」の「To (宛先)」テンプレートのパネルでは、以下の 4 つのオプションをテンプレート処理用に提供しています。

1. Above (上の指定)

パネルの「To Template (宛先テンプレート)」セクションにテンプレートの名前を入力する必要があります。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「**To Template (宛先テンプレート)**」セクションにデータ・セット名を指定した場合には、それは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表についての Db2® カタログ中の情報を基にしてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「**To Template (宛先テンプレート)**」セクションに指定されているデータ・セットに保管します。テンプレートがすでに存在する場合は、それが置き換えられて、前のカスタマイズは失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit load utility options (LOAD UTILITY OPTION の編集)

[Load Utility Options (LOAD ユーティリティー・オプション)] パネルを表示します。

Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)

データをインポートする前にインポート先の表のテンプレートを編集するのに使用します。

親パネル

- [\[LOAD Utility - Using Templates \(LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用\)\]](#) パネル ページ 735

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[LOAD Utility Options (LOAD ユーティリティー・オプション)] パネル ページ 737	[Edit LOAD utility options (LOAD UTILITY OPTION の編集)] を選択
[Template Mapping (テンプレート・マッピング)] パネル ページ 881	[Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)] を選択

関連するタスク

- [LOAD ユーティリティー ページ 367](#)
- [テンプレートの処理 ページ 75](#)
- [FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

[LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)] パネル

「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネルを使用して、ロードしたいデータに関する詳細を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DB26)		LOAD Utility	
Input Data:			
Data set name . . .	_____		
Member	_____		
Volume	_____		
Utility Control Statements:			
Data set name . . .	_____		
Member	_____		
Target Db2 Table:			
Table owner	Database	_____ (optional)	
Table name	Table space _____	(optional)	
Select Option:			
<u>1</u>	1. The data is described by utility control statements		
2.	2. The data is described by a template or copybook		
Command ==> _____			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Data Set Name (データ・セット名) (Input Data (入力データ))

Db2® 表にロードするデータが入っている順次データ・セットまたは区分データ・セット。総称データ・セット名は、リストから選択して指定できます。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「Member (メンバー)」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー) (Input Data (入力データ))

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Volume (ボリューム)

データ・セットがカタログされていない場合、ボリューム通し番号。

Data set name (データ・セット名) (Utility Control Statements (ユーティリティー制御ステートメント))

Db2® LOAD ユーティリティー制御ステートメントが入っている順次データ・セットまたは区分データ・セット。総称データ・セット名は、リストから選択して指定できます。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「Member (メンバー)」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー) (Utility Control Statements (ユーティリティー制御ステートメント))

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Table owner (表所有者)

ターゲット表の所有者の名前。総称オブジェクト名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドは必須です。

Database (データベース)

指定されたデータベースに対するオブジェクト名のリストを制限するための完全修飾または部分修飾のデータベース名。

Table name (テーブル名)

ターゲット表の名前。総称オブジェクト名を指定して、リストから選択することができます。このフィールドは必須です。

Table space (表スペース)

指定された表スペースに対するオブジェクト名のリストを制限するための完全修飾または部分修飾の表スペース名。

1. The data is described by utility control statements (データはユーティリティー制御ステートメントによって記述されている)

Db2® LOAD ユーティリティーのバッチ・ジョブを生成するときに、提供された Db2® LOAD ユーティリティー制御ステートメントを使用します。

2. The data is described by a template or copybook (データはテンプレートまたはコピーブックによって記述されている)

Db2® LOAD ユーティリティーのバッチ・ジョブを生成するときに、テンプレートまたはコピーブックを使用します。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「LOAD Utility - Using Templates (LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用)」パネル ページ 735	オプション 2 を選択

関連するタスク

- [LOAD ユーティリティー ページ 367](#)

Db2® テンプレートを使用している「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネル

Db2® テンプレートを使用している「LOAD Utility (LOAD ユーティリティー)」パネルは、新規データを表にロードしたり、これらの表で定義した索引を構築または拡張したりするために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)			LOAD Utility
Input Data:			
Template name . . .	LODINDDN		
Target Db2 Table:			
Owner	_____ +	Database . . _____	(optional)
Name	_____ +	Table space _____	(optional)
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
		F7=Backward	F8=Forward

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「LOAD Utility - Using Templates (LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用)」パネル ページ 735	Enter キーを押す

関連するタスク

- [LOAD ユーティリティー ページ 367](#)

「LOAD Utility - Using Templates (LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用)」パネル

「LOAD Utility - Using Templates (LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用)」パネルを使用して、入力データを記述する“元の”コピーブックまたはテンプレートを指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	LOAD Utility - Using Templates		
Input Data Template or Copybook:			
Data set name . . . _____			
Member _____			
Processing Options:			
Template usage			
Enter "/", "A" always to select option			
_ View template			
1. Above			
2. Previous			
Command ==> _____			
F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap			
F12=Cancel			

Data set name (データ・セット名)

Db2® 表にロードするデータが入っている順次データ・セットまたは区分データ・セット。総称データ・セット名は、リストから選択して指定できます。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した **「Member (メンバー)」** フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「Data set name (データ・セット名)」 フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「LOAD Utility - Using Templates (LOAD ユーティリティ - テンプレートの使用)」パネルは、以下の2つのオプションをテンプレート処理用に提供しています。

1. Above (上の指定)

パネルの **「Input Data Template or Copybook (入力データ・テンプレートまたはコピーブック)」** セクションに、テンプレートの名前を入力する必要があります。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力して選択できます。

View template (ビュー・テンプレート)

このオプションを選択して、「宛先」テンプレートを編集します。

親パネル

- [「LOAD Utility \(LOAD ユーティリティ\)」パネル ページ 732](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Record Type Selection (レコード・タイプ選択)] パネル ページ 776	[Edit template (テンプレートの編集)] を選択
[Load from (ロード元)] パネル ページ 730	Enter キーを押す

関連するタスク

- [LOAD ユーティリティ ページ 367](#)
- [FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

[LOAD Utility Options (LOAD ユーティリティ・オプション)] パネル

[LOAD Utility Options (LOAD ユーティリティ・オプション)] パネルを使用して、データの転送に LOAD ユーティリティを使用する場合に適用されるオプションを指定します。

これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Load Utility Options	Global Settings
Utility Options:			
Enter "/" to select option			
<u> </u>	Preformat unused pages		
<u> </u>	Log changes	--NO-->	<u> </u> Do not set COPY pending flag
<u> </u>	Use IEEE floating point		
<u> </u>	Allow substitution chars		
<u> </u>	Enforce constraints		
<u> </u>	Resume (append new data)	--NO-->	<u> </u> Replace existing data
<u> </u>	Build indexes in parallel		<u> </u> Reuse existing dataset
<u> </u>	Number of index keys	<u> </u> 10	
CCSID Values:			
<u> </u>	SBCS data	<u> </u> 0	(0 for installation default)
<u> </u>	Mixed DBCS data	<u> </u> 0	(0 for installation default)
<u> </u>	DBCS data	<u> </u> 0	(0 for installation default)
Discarded Records:			
<u> </u>	Maximum discards	<u> </u> 0	(0 means no limit)
Encoding Scheme			
<u> </u>	1. EBCDIC		
<u> </u>	2. ASCII		
<u> </u>	3. UNICODE		
Command ==>			
<u> </u>	F1=Help	F2=Split	F3=Exit
<u> </u>	F12=Cancel	F7=Backward	F8=Forward
		F9=Swap	

Preformat unused pages (未使用ページの事前形式設定)

表に割り振られたファイル・スペースを事前形式設定して、迅速に INSERT 処理できるようにするかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Log changes (ログ変更)

ロードされた行の Db2® ログの詳細を Db2® が記録するかどうかを指示します。デフォルトが選択されていません。

Do not set COPY pending flag (COPY 保留フラグを設定しない)

「Log changes (ログ変更)」が選択されていない場合に、Db2® が COPY 保留状態で表スペースを設定しないかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Use IEEE floating point (IEEE 浮動小数点を使用)

浮動小数点を IEEE 2 進数浮動小数点 (BFP) 形式にするかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Allow substitution chars (置換文字を許可)

LOAD ユーティリティーがストリングの置換文字を受け入れるかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Enforce constraints (制約の強制)

LOAD ユーティリティーが検査制約および参照制約を強制するかどうかを指示します。デフォルトが選択されています。

Resume (append new data) (再開 (新規データの付加))

既存のデータを削除しないで、レコードを空の表スペースまたは空でない表スペースにロードするかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Replace existing data (既存データの置換)

「Resume (append new data) (再開 (新規データの付加))」を選択していない場合に、レコードのロード前に、表スペースとそのすべての索引を空にリセットするかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Reuse existing dataset (既存のデータ・セットの再使用)

「Resume (append new data) (再開 (新規データの付加))」を選択した場合に、削除および再定義しないで、LOAD ユーティリティーが Db2 管理のデータ・セットをリセットして再使用するかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Build indexes in parallel (索引を並列に構築)

索引キーを LOAD 時に並列にソートするかどうかを指示します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Number of index keys (索引キーの数)

ソートする索引キーの見積数。デフォルトは 10 です。

SBCS data (SBCS データ)

入力ファイルの SBCS データのコード化文字セット。デフォルトは 0 です。

Mixed DBCS data (混合 DBCS データ)

入力ファイルの混合 DBCS データのコード化文字セット。デフォルトは 0 です。

DBCS data (DBCS データ)

入力ファイルの DBCS データのコード化文字セット。デフォルトは 0 です。

Maximum discards (最大廃棄数)

LOAD が異常終了するまでに許容される廃棄レコードの最大数。デフォルトは 0 です。



注: FM/Db2 は、LOAD ユーティリティー・オプションのすべての可能な組み合わせの妥当性をチェックしません。特に、オプションの組み合わせによっては、ロード中の Db2® オブジェクトの現行の状態によって失敗する場合があります。このことは、オプションの無効な組み合わせを指定した場合に Db2® LOAD ユーティリティー・ジョブは失敗する可能性があることを意味します。この失敗が発生した場合には、Db2® LOAD ユーティリティーの失敗メッセージを調べ、それに応じて対応してください。

Encoding Scheme (エンコード方式)

ロードするデータのエンコード方式を示します。このエンコード方式は、文字データおよびグラフィック・データにのみ適用されます。

1. EBCDIC

データは、EBCDIC CCSID を使用してエンコードされます。これはデフォルトです。

2. ASCII

データは、ASCII CCSID を使用してエンコードされます。

3. UNICODE

データは、ユニコード (CCSID 1208 または CCSID 1200) でエンコードされます。

親パネル

・なし。

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 LOAD utility options \(option 3.L\) \(LOAD ユーティリティー・オプション \(オプション 3.L\)\) ページ 70](#)
- [LOAD ユーティリティー ページ 367](#)

「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネル

「Manage Db2® Privileges (特権の管理)」パネルを使用して、Db2® 特権の表示、付与、および取り消しを行います。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Manage Db2 Privileges

blank Display privileges      G Grant privileges
R Revoke privileges

Object Identification Criteria:
Location . . . . . _____ + Enter * for list
Owner . . . . . _____ +
Name . . . . . _____ +
In . . . . . _____ + Database/table/collection/schema

Processing Options:
Object Type
 3 1. Database           7. Collection           13. Buffer pool
   2. Table space       8. Schema              14. System
   3. Table             9. Type                15. Sequence
   4. Column            10. Function
   5. Plan              11. Stored procedure
   6. Package           12. Storage group

Command ==>
F1=Help      F2=Split  F3=Exit    F4=Expand  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Left  F11=Right  F12=Cancel
    
```

Location (場所)

リストするオブジェクトの位置。

Owner (所有者)

Db2® オブジェクトを作成した担当者の名前。

Name (名前)

Db2® オブジェクトの名前。

In

オプションのフィールドで、特定のオブジェクト・タイプに限定するために使用できます。

オブジェクト・タイプ

特権操作の実行対象となる Db2® オブジェクトのタイプ。デフォルトは 3 (「**Tables (表)**」) です。

親パネル

- ・ [「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
特権パネル ページ 764	ブランクのコマンド行

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
特権の認可パネル ページ 715	コマンド行に “G”
特権の取り消しパネル ページ 795	コマンド行に “R”

関連するタスク

- [Db2 特権の管理 ページ 348](#)

「Object List Line Commands (オブジェクト・リスト行コマンド)」パネル

以下のパネルにリストされた項目に対して ? 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Object List Line Commands (オブジェクト・リスト行コマンド)」パネルを表示します。

- [「Application Plans \(アプリケーション・プラン\)」パネル ページ 483](#)
- [「Collections \(コレクション\)」パネル ページ 491](#)
- [「Columns \(列\)」パネル ページ 510](#)
- [「Database Request Modules \(データベース要求モジュール\)」パネル ページ 614](#)
- [「Databases \(データベース\)」パネル ページ 616](#)
- [「Distinct Types \(特殊タイプ\)」パネル ページ 645](#)
- [「Functions \(関数\)」パネル ページ 710](#)
- [「Indexes \(索引\)」パネル ページ 724](#)
- [「Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)」パネル ページ 480](#)
- [「Schemas \(スキーマ\)」パネル ページ 807](#)
- [「Stored Procedures \(ストアド・プロシージャ\)」パネル ページ 843](#)
- [「Synonyms \(同義語\)」パネル ページ 845](#)
- [「Table Spaces \(表スペース\)」パネル ページ 866](#)
- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」パネル ページ 875](#)
- [「Triggers \(トリガー\)」パネル ページ 884](#)

関連するタスク

- [行コマンド照会 \(?\) ページ 329](#)

「Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」パネル

「FM/Db2 Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」パネルを使用して、FM/Db2 の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

図 123. FM/Db2 「Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」 パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	FM/Db2 Object List Options (1 of 2)		Global Settings
Object List Utility Options:			
Enter "/" to select option			
- Show all catalog table columns			
- Show "unused" catalog table columns			
- Show "internal use only" catalog table columns			
/ Use automatic column sizing			
Use extended column name headings			
/ Interpret columns containing codes			
/ Modify order of columns displayed			
Row count	1000	Maximum number of rows to fetch	
More Options:			
Enter "/" to select option			
/ Display widths, filtering			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F11=NxtPage	F12=Cancel	

Show all catalog table columns (すべてのカタログ表列の表示)

カタログ表情報の表示に、すべての使用可能な列 (「DB2 for z/OS SQL 解説書」で「unused (未使用)」または「internal use only (社内使用)」とマークされている列もすべて含む) が含まれます。このオプションを選択すると、「Show "unused" catalog table columns (「未使用」カタログ表列の表示)」オプションおよび「Show "internal use only" catalog table columns (「社内使用」カタログ表列の表示)」オプションのすべての設定値がオーバーライドされます。

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Show "unused" catalog table columns (「未使用」カタログ表列の表示)

カタログ表情報の表示に、「DB2 for z/OS SQL 解説書」で「unused (未使用)」とマークされている列が含まれます。このオプションは、「Show all catalog table columns (すべてのカタログ表列の表示)」オプションを選択するとオーバーライドされます。

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Show "internal use only" catalog table columns (「社内使用」カタログ表列の表示)

カタログ表情報の表示に、「DB2 for z/OS SQL 解説書」で「internal use only (社内使用)」とマークされている列が含まれます。このオプションは、「Show all catalog table columns (すべてのカタログ表列の表示)」オプションを選択するとオーバーライドされます。

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Use automatic column sizing (列の自動サイズ変更の使用)

表示されるカタログ表の可変長 (VARCHAR) 列は、列内に保管されるデータに基づいて自動的にサイズ変更できます。列の自動サイズ変更は、Db2® からデータが読み取られるにしたがって、それぞれの可変列のデータの最長値を判別します。次に、データが表示される前に、この値を使用して列の表示幅が設定されます。

デフォルトが選択されています。

Use extended column name headings (拡張列名見出しの使用)

処理対象のカタログ表の列名が、より長い、分かりやすい列見出しで置き換えられます。

デフォルトが選択されています。

Interpret columns containing codes (コードが入っている列の解釈)

処理される Db2® カタログ表の選択済みの列が、列内に保管されている値に基づいて展開されます。この機能は、通常、コードが入っている 1 文字の列で作動します。例えば、SYSIBM.SYSTABLES の中の TYPE という列は A、G、M、T、V、または X が入っている 1 文字コードの列です。これらのコードを展開したテキストは、「Alias (エイリアス)」、「Created global temporary table (作成済みグローバル一時表)」、「Materialized query table (マテリアライズ照会表)」、「Table (表)」、「View (ビュー)」、および「Auxiliary Table (補助表)」になります。

このオプションは、さまざまな Db2® カタログ表のコードの意味についてユーザーが熟知していない場合に便利です。このオプションを選択すると、「Use extended column name headings (拡張列名見出しの使用)」オプション用のすべての設定をオーバーライドし、そのオプションをオンにします。

デフォルトが選択されています。

Modify order of columns displayed (表示される列の順序の変更)

Db2® カタログ表の中の列は、Db2® カタログに定義されている順序から再配列できます。さらに、列の一部を「保留済み」としてマークを付けることもできます。この機能は、カタログ表にある最も重要な列を、最も論理的な順序で画面の左方に並べることを意図しています。これらの列は保留され、左方および右方にスクロールしても移動しません。

デフォルトが選択されています。

Row count (行カウント)

Db2® カタログから取り出される行数を制限します。入力される値は、以下のものに適用されます。

- FM/Db2 機能 (編集、印刷、コピー、インポート、エクスポート、データ作成など) によって表示される「Object List (オブジェクト・リスト)」選択パネル。オブジェクト・リストの選択について詳しくは、[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#)を参照してください。FM/Db2 機能 (編集、コピー、印刷など) では、「Row count (行カウント)」フィールドがその機能の入力パネルにあることに注意してください。オブジェクトが選択された後、機能入力の「Row count (行カウント)」フィールドは、指定された Db2® オブジェクトで処理される行数を制御する役目をします。
- 次の FM/Db2 機能によって表示されるオブジェクト・リスト。
 - Object List Utility (3.4) (オブジェクト・リスト・ユーティリティ (3.4))
 - Object Privileges Utility (3.5) (オブジェクト特権ユーティリティ (3.5))
 - Explain Utilities (4.5) (エクスプレイン・ユーティリティ (4.5))

0 (ゼロ) または ALL という値は、制限を指定していません。つまり、関係のあるカタログ表のすべての行が取り出されて表示されます。0 を指定すると、FM/Db2 は、大規模モードを使用して Db2® カタログにアクセスします。それによって、Db2® オブジェクトのリスト用のストレージ使用量が最小化されます。

「ストレージが不足」という条件が起きた場合は、Db2® から取り出される行数を制限する値を指定することができます。Object List utility (option 3.4) (オブジェクト・リスト・ユーティリティー (3.4)) で取り出される行数を制限する別の方法として、機能の入力パネルで選択基準を指定することができます。

デフォルトは 1000 です。

Display widths, filtering

このオプションを選択して、2 番目の「Object List Options (オブジェクト・リスト・オプション)」パネルにナビゲートします。デフォルトが選択されています。「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」で Db2® カタログ表に情報を表示します。それらの表内の一部の列は、潜在的に非常に長い最大長を持つ可変列として定義されます。

「Use automatic column sizing (列の自動サイズ変更の使用)」オプションを使用して、各列のデータを表示するのに必要な最大幅に可変列の最大表示幅を減らします。

パネルに表示されるさまざまな列タイプの最小表示幅と最大表示幅を指定することで、追加制御を実現できます。すべての値はオプションです。(「Object List Options (2 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 2))」パネル ページ 745 を参照してください。) 最小値により、処理されたすべての行の中に、その列に表示できるデータがない場合でも、少なくとも指定された値の表示幅が確保されます。最小値を指定した場合でも、必要な場合には、より長いデータを表示するために表示幅を拡張することは妨げられません。

親パネル

- 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Object List Options (2 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 2))」パネル ページ 745	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- FM/Db2 システム・オプション (オプション 0.2) ページ 65
- TIME 列 ページ 170
- INDEXINF 基本コマンド ページ 944
- 「基本キーなし」エラー ページ 209
- 「行不在」エラー ページ 210

関連する参照先

- [SQL 基本コマンド ページ 975](#)

「Object List Options (2 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 2))」 パネル

「FM/Db2 Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」 パネルを使用して、FM/Db2 の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

図 124. FM/Db2 「Object List Options (2 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 2))」 パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	FM/Db2 Object List Options (2 of 2)		Global Settings
Display width for varying columns: Enter minimum and maximum values for each column type			
		Min	Max
Databases		8	8
Column names		8	30
Authorization identifiers		8	16
Object names		8	30
Remarks		8	60
Other		8	60
Filtering: Enter "/" to select option Reposition to first matching row			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F12=Cancel		

オブジェクト・リスト・パネルに表示されるさまざまな列タイプの最小表示幅と最大表示幅を指定することができます。すべての値はオプションです。

Min (最小)

処理されたすべての行の中に、その列に表示できるデータがない場合でも、少なくとも指定された値の表示幅が確保されます。最小値を指定した場合でも、必要な場合には、より長いデータを表示するために表示幅を拡張することは妨げられません。

Max

幅を多くとるデータが一部の行にあった場合でも、最大表示幅を指定した値に制限します。最大値を指定した場合でも、指定した値を超えるデータが行にない場合は、より小さな値に表示幅を設定できます。

以下の列タイプが使用可能です。

データベース

Db2® データベースまたは表スペースの名前。デフォルトの最小値および最大値は、どちらも 8 です。

Column names (列名)

Db2® 列の名前。デフォルトの最小値および最大値は、8 および 30 です。

Authorization identifier (許可 ID)

Db2® 許可 ID (例えば、現在の SQLID)。デフォルトの最小値および最大値は、8 および 16 です。

Object Names (オブジェクト名)

Db2® オブジェクト (表、ビュー、別名など) の名前。デフォルトの最小値および最大値は、8 および 30 です。

Remarks (注釈)

COMMENT ON ステートメントまたは LABEL ON ステートメントを使用して入力されたデータを保管するために使用される列に適用されます。デフォルトの最小値および最大値は、8 および 60 です。

Other (その他)

ここまでのタイプに一致しない列に適用されます。デフォルトの最小値および最大値は、8 および 60 です。

Reposition to first matching row (最初に一致した行に位置変更)

この設定は、1 つ以上の列のフィルター値を変更した後で、どのようにデータが表示されるかに影響します。フィルターを使用して、表示される行を制限します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

この設定を選択すると、フィルター値を変更した後で表示されるデータは、最初に一致した行に位置変更されます。

親パネル

- [「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」パネル ページ 824](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」パネル ページ 741	「PrvPage」機能キー (F10) を押す

関連するタスク

- [デフォルト処理オプションの設定 ページ 63](#)
- [FM/Db2 システム・オプション \(オプション 0.2\) ページ 65](#)
- [TIME 列 ページ 170](#)
- [INDEXINF 基本コマンド ページ 944](#)
- [「基本キーなし」エラー ページ 209](#)
- [「行不在」エラー ページ 210](#)

関連する参照先

- [SQL 基本コマンド ページ 975](#)

「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」パネル

「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」パネルを使用して、リストまたは印刷したいオブジェクトに関する詳細を指定します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Object List Utility

blank Display object list          P Print object list

Object Identification Criteria:
Location . . . . . _____ Enter * for list
Owner . . . . . _____ +
Name . . . . . _____ +
Database/collect/schema _____ +

Additional Selection Criteria:
. . . . . _____ Enter * to list catalog columns
Column . . . . . _____
Operator . . . . . _____
Value . . . . . _____ +

Processing Options:
Object Type          Enter ? to list all object types
3  1. Database        8.  Package          15. Trigger
   2. Table space     9.  Collection       16. Storage group
   3. Table/view/alias 10. DBRM             17. Sequence
   4. Index           11. Schema           18. Role
   5. Column          12. Distinct type   19. Trusted context
   6. Synonym         13. Function
   7. Plan            14. Stored procedure

Enter "/" to select option
/ Confirm object drop

When the object list is displayed, enter either:
"?" on the object list command field for the command prompt panel, or
"=" execute the previous command.
Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Expand    F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Left     F11=Right   F12=Cancel

```

Location (場所)

リストするオブジェクトの位置

Owner (所有者)

Db2® オブジェクトを作成した担当者の名前

Name (名前)

Db2® オブジェクトの名前

Database/collection/schema (データベース/コレクション/スキーマ)

データベース、コレクション、またはスキーマの名前

Column (列)

関係する Db2® システム・カタログ表の列の名前

演算子

有効な SQL 演算子

Value (値)

列の内容と比較する値

オブジェクト・タイプ

リストする Db2® オブジェクトのタイプ。デフォルトは 3 (「**Tables (表)**」) です。

Confirm object drop (オブジェクト除去の確認)

オブジェクトに対して DR(op) コマンドを入力するたびに、FM/Db2 に確認パネルを表示させるかどうかを指示します

親パネル

- ・ [「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Databases (データベース)」パネル ページ 616	オブジェクト・タイプ 1
「Table Spaces (表スペース)」パネル ページ 866	オブジェクト・タイプ 2
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル ページ 875	オブジェクト・タイプ 3
「Indexes (索引)」パネル ページ 724	オブジェクト・タイプ 4
「Columns (列)」パネル ページ 510	オブジェクト・タイプ 5
「Synonyms (同義語)」パネル ページ 845	オブジェクト・タイプ 6
「Application Plans (アプリケーション・プラン)」パネル ページ 483	オブジェクト・タイプ 7
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」パネル ページ 480	オブジェクト・タイプ 8
「Collections (コレクション)」パネル ページ 491	オブジェクト・タイプ 9
「Database Request Modules (データベース要求モジュール)」パネル ページ 614	オブジェクト・タイプ 10
「Schemas (スキーマ)」パネル ページ 807	オブジェクト・タイプ 11
「Distinct Types (特殊タイプ)」パネル ページ 645	オブジェクト・タイプ 12
「Functions (関数)」パネル ページ 710	オブジェクト・タイプ 13
「Stored Procedures (ストアド・プロシージャー)」パネル ページ 843	オブジェクト・タイプ 14
「Triggers (トリガー)」パネル ページ 884	オブジェクト・タイプ 15

関連するタスク

- Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312

「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネル

「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネルを使用して、ユーティリティー・バッチ・ジョブでの OPTIONS ステートメントの生成に使用する情報を収集します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	OPTIONS Options		Global Settings
Processing Options:		RESET restores installation options	
4	1. Do not create		
	2. OFF		
	3. KEY		
	4. Use the below options		
	Enter "/" to select options		
	PREVIEW		
/	LISTDEFDD DD name SYSLISTD		
/	TEMPLATEDD DD name SYSTEMPL		
-	EVENT(Event spec)		
	Event spec:		

Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F6=Reset F7=Backward
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel

Processing Options (処理オプション)

大文字表記のオプションは、OPTIONS ステートメントで使用されるキーワードです (オプションが選択されている場合)。デフォルトは 1 (**Do not create**) です。詳しくは、「Db2 ユーティリティー・ガイドおよび解説書」の OPTIONS ステートメントを参照してください。

処理オプションは、以下の通りです。

1. Do not create (作成しない)

このオプションを選択すると、FM/Db2 はユーティリティー・バッチ・ジョブで OPTIONS ステートメントを作成しません。

2. OFF (オフ)

このオプションを選択すると、FM/Db2 はユーティリティー・バッチ・ジョブですべてのデフォルト・オプションを復元します。

3. KEY (キー)

このオプションを選択すると、FM/Db2 は OPTIONS ステートメントの KEY 文節を使用します。

IBM® サポートによりこのオプションの使用を指示されたときは、このオプションのみを使用してください。IBM® サポートにより提供された値を **KEY** フィールドに入力してください。「**KEY (キー)**」フィールドのデフォルトはブランクです。

4. Use the below options (以下のオプションを使用)

このオプションを選択すると、OPTIONS ステートメントに追加するために、ほかのキーワードを選択することができます。関連キーワードは、オプションが選択されている場合にのみ、OPTIONS ステートメントに追加されます。オプションは次のとおりです。

PREVIEW

このオプションを選択すると、生成されたユーティリティー・バッチ・ジョブは、実行時に、PREVIEW モードで実行されます。このオプションは、OPTIONS ステートメントの PREVIEW キーワードと対応します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

LISTDEFDD

このオプションを選択すると、LISTDEF 定義ライブラリーの DD 名が指定されます。入力フィールドのデフォルト DD 名は "SYSLISTD" です。これとは異なる DD 名を入力することができます。指定された DD 名は、[\[LISTDEF Options \(LISTDEF オプション\)\] パネル ページ 728](#) に読み取り専用フィールドとして表示されます。

このオプションは、OPTIONS ステートメントの LISTDEFDD 文節と対応します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

TEMPLATEDD

このオプションを選択すると、TEMPLATE 定義ライブラリーの DD 名が指定されます。入力フィールドのデフォルト DD 名は "SYSTEMPL" です。これとは異なる DD 名を入力することができます。指定された DD 名は、[\[TEMPLATE Options \(1 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 1\)\)\] パネル ページ 877](#) に読み取り専用フィールドとして表示されます。

このオプションは、OPTIONS ステートメントの TEMPLATEDD 文節と対応します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

EVENT

このオプションを選択すると、ユーティリティー・バッチ・ジョブは、指定されたイベントを組み込みます。その後、続く行にイベントを入力します。少なくとも 1 つのイベントを入力しなければなりません。入力した値は、FM/Db2 によってさらに妥当性検査されることなしに、OPTIONS ステートメントの EVENT キーワードの直後に置かれます。

このオプションは、OPTIONS ステートメントの EVENT 文節と対応します。

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。「Event spec (イベント仕様)」フィールドのデフォルトは空白です。

すべてのフィールドには、インストール定義のデフォルト値があります。すべての値は、RESET コマンドまたは RESET PF キーを使用して、随意にインストール・デフォルト値 (サイト・ポリシー) にリセットできます。各サブシステムには、独自のインストール定義のデフォルト値があります。

例えば、上記の図の中のオプションが選択されると、以下の文節が生成された OPTION ステートメントに追加されます。

- LISTDEFDD SYSLISTD
- TEMPLATEDD SYSTEMPL

LISTDEFDD に対する SYSLISTD および TEMPLATEDD に対する SYSTEMPL の Db2® デフォルト設定の場合、“最適化”する (つまり、上記の文節は Db2® デフォルトであるため、これらの文節を生成しないことを意味します) することも許容されます。

親パネル

•

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RESET 基本コマンド ページ 966](#)
- [Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)
- [Db2 Utility OPTIONS options \(option 3.UO\) \(ユーティリティー OPTIONS オプション \(オプション 3.UO\)\) ページ 71](#)

「Package Dependencies (パッケージの従属関係)」パネル

FM/Db2 にリストされた項目に対して DEP 行コマンドを使用すると、「[Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)」](#) [パネル ページ 480](#) は「Package Dependencies (パッケージの従属関係)」パネルを表示します。

子パネル

なし。

関連するタスク

「Package List (パッケージ・リスト)」パネル

以下にリストされた項目に対して PKL 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Package List (パッケージ・リスト)」パネルを表示します。

- [「Application Plans \(アプリケーション・プラン\)」](#) パネル ページ 483、または
- [「Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)」](#) パネル ページ 480、または
- [「Collections \(コレクション\)」](#) パネル ページ 491

関連するタスク

「Parents of Table (表の親)」パネル

FM/Db2 にリストされた項目に対して PAR 行コマンドを使用すると、[「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) パネル ページ 875 は「Parents of Table (表の親)」パネルを表示します。

「Partitioned Table Statistics (区分された表統計)」パネル

FM/Db2 にリストされた項目に対して PST 行コマンドを使用すると、[「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) パネル ページ 875 は「Partitioned Table Statistics (区分された表統計)」パネルを表示します。

「Plan Dependencies (プランの従属関係)」パネル

FM/Db2 にリストされた項目に対して DEP 行コマンドを使用すると、[「Application Plans \(アプリケーション・プラン\)」](#) パネル ページ 483 は「Plan Dependencies (プランの従属関係)」パネルを表示します。

「Plan Enabled/Disabled Connections (接続使用可能/使用不可プラン)」パネル

FM/Db2 にリストされた項目に対して EDC 行コマンドを使用すると、[「Application Plans \(アプリケーション・プラン\)」](#) パネル ページ 483 は「Plan Enabled/Disabled Connections (接続使用可能/使用不可プラン)」パネルを表示します。

「Plan Table Rows (プラン表行)」パネル

FM/Db2 は、以下の場合に「Plan Table Rows (プラン表行)」パネルを表示します。

- [「Explain Utilities \(エクスプレイン・ユーティリティー\)」](#) パネルで オプション **「L」** (プラン表行のリスト) を選択する、または
- [「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行およびエクスプレイン\)」](#) で **「Show results (結果の表示)」** オプションを指定した EXPLAIN 基本コマンドを入力する。

このパネルを使用して、プラン表からの行を表示します。

図 125. 「Plan Table Rows (プラン表行)」 パネル (コレクション ID 形式)

Process Options Utilities Help											Row 1 to 1 of 1							
FM/Db2 (DFG2)	Plan Table Rows																	
C	Query Q	Collect.	Prognam	Pl M	Ac M	I T	Table	Number	Bl	(COLLID)	(Packg)	No T	Ty Co	O No	Owner	+ Table Name	+	
	_____	* * *	_____	* _____	* * *	* _ * *	* _____	* _____	* _____	* _____	* _____	* _____	* _____	* _____	* _____	* _____	* _____	* _____
_____	42 1	FMN2APR4	FMN2D2IO	1	0 R	0 N	1	SYSIBM	SYSTABLES									
	***** END OF Db2 DATA *****																	
Command ==>											Scroll PAGE							
F1=Help	F2=Split			F3=Exit			F4=Expand			F7=Backward			F8=Forward					
F9=Swap	F10=Left			F11=Right			F12=Cancel											

「Plan Table Rows (プラン表行)」 パネルには、プラン表からの行が表示されます。

C

以下の行コマンドの 1 つを入力できる入力フィールド。

D

行の削除

DK

パッケージの行の削除

DP

プランの行の削除

DQ

照会番号の行の削除

FR

関数表の行の表示。FM/Db2 は「Function Table Rows (関数表行)」パネル (本書には示されていません) を表示します。

I

EXPLAIN データの解釈

IH

最適化プログラムのヒントの挿入

K

パッケージの表示

M

DBRM の表示

P

プランの表示

SR

ステートメント表の行の表示。FM/Db2 は「Statement Table Rows (ステートメント表行)」パネル (「[Statement Table Rows \(ステートメント表行\)](#)」パネル ページ 838 を参照) を表示します。

T

表の表示

UH

最適化プログラムのヒントの更新

X

索引の表示

Query Number (照会番号)

SQL ステートメントを識別する番号。

Q BI

照会ブロック番号。この番号は、EXPLAIN ステートメントに出現する照会の順序を反映します。

Collect (コレクション)

動的 EXPLAIN のコレクション ID またはブランク。この情報が表示されるのは、パネルの COL 形式の場合だけです。

Applname (アプリケーション・プラン名)

動的 EXPLAIN のプラン名またはブランク。この情報が表示されるのは、パネルの PLAN 形式の場合だけです。

Hint ID (ヒント ID)

動的 EXPLAIN の最適化ヒント ID またはブランク。この情報が表示されるのは、パネルの HINT 形式の場合だけです。

Progrname

DBRM/パッケージ名。この情報が表示されるのは、パネルの COL および PLAN 形式の場合だけです。

Hint Used (使用されるヒント)

動的 EXPLAIN に使用される最適化ヒントまたはブランク。この情報が表示されるのは、パネルの HINT 形式の場合だけです。

PI No

プラン番号。ステートメントが実行される順序を示します。

M T

メソッド: 使用される結合メソッド。

Ac Ty

アクセス・タイプ。表にアクセスする方式。

M Co

突き合わせ列。索引のスキャンに使用される索引キーの数。

I O

索引のみ。このステップでは索引だけがアクセスされるかどうか。

T No

表番号。ステートメント内の表の位置。

Table Owner (表所有者)

アクセスしている表の所有者。

Table Name (表名)

アクセスしている表の名前。

親パネル

- [「Explain Utilities \(エクスプレイン・ユーティリティー\)」](#) パネル ページ 688

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「EXPLAIN Interpretation (EXPLAIN 解釈)」 パネル ページ 688	行コマンド I
「Set Optimizer Hint (最適化プログラム設定のヒント)」 パネル ページ 817	行コマンド IH、UH
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」 パネル ページ 480	行コマンド K
「Statement Table Rows (ステートメント表行)」 パネル ページ 838	行コマンド SR
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド T

関連するタスク

- [SQL のエクスプレイン ページ 440](#)
- [SQL エクスプレインで使用される表の管理 ページ 443](#)

関連する参照先

- [COL 基本コマンド ページ 913](#)
- [PLAN 基本コマンド ページ 959](#)
- [HINT 基本コマンド ページ 942](#)

「Primary Key for Table (表の基本キー)」 パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して PK 行コマンドを使用すると、[「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) [パネル ページ 875](#) は「Primary Key for Table (表の基本キー)」 パネルを表示します。

「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」 パネル

「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」 パネルを使用して、実行したい FM/Db2 機能を選択します。

パネルとフィールドの定義

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>U</u> tilities	<u>H</u> elp
FM/Db2 (DF72)		Primary Option Menu	
0	Settings	Set processing options	User ID . . : SHRIKE2
1	View	View Db2 object	System ID : FMD2
2	Edit	Edit Db2 table	Appl ID . . : FMN2
3	Utilities	Perform utility functions	Version . . : 14.1.19
4	SQL	Prototype, execute and analyze SQL	Terminal . . : 3278
5	Db2I	Start Db2 Interactive	Screen . . . : 1
6	Command	Enter and execute a Db2 Command	Date : 2018/11/04
7	Template	Template utilities	Time : 11:22
X	Exit	Terminate FM/Db2	Db2 SSID . . : DF72
			SQL ID . . . : SHRIKE2
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

親パネル

- (z/OS® Primary Option Menu (基本オプション・メニュー))

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Set Processing Options (処理オプションの設定)」 パネル ページ 824	オプション 0
Db2 「View (表示)」 パネル ページ 639	オプション 1

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Db2 Edit (編集)] パネル ページ 622	オプション 2
[Utility Functions (ユーティリティー機能)] パネル ページ 896	オプション 3
[SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)] パネル ページ 836	オプション 4
[Db2I Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)] パネル ページ 643	オプション 5
[Enter and Execute Db2 Commands (コマンドの入力および実行)] パネル ページ 685	オプション 6
Db2 [Browse (ブラウズ)] パネル ページ 618	コマンド行に「B」を入力

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123

[Print Audit Trail (監査証跡の印刷)] パネル

Print Audit Trail (監査証跡の印刷) パネルを使用して、監査証跡報告書を生成するために使用する、監査証跡データ・セットの名前を指定します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                Print Audit Trail

Audit Trail:
Data set name . . . . _____
Description . . . . _____

Processing Options:
Enter "/" to select option          Formatted display options
/  Print only changed columns       2  1. Hex Format
_  Keep data set after printing     2  2. Non-display Hex
/  Browse report                    /  Highlight changes
_  Batch execution

Command ==>> _____
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap
F12=Cancel

```

Data set name (データ・セット名)

使用する監査証跡データ・セットの名前。

Description (説明)

報告書の説明。説明に空白が入る場合には、全体を引用符で囲む必要があります。このフィールドはオプションです。

以下のオプションは、選択フィールドに “/” を入力して選択することができます。

Print only changed columns (変更された列のみ印刷)

印刷行の量を制限します。

Keep data set after printing (印刷後にデータ・セットを保持)

データ・セットの印刷後にデータ・セットを保持するかまたは削除するか。

Browse report (報告書のブラウズ)

「Print Browse (印刷ブラウズ)」(オプション 3.11) を使って監査証跡報告書が表示されます。

Batch execution (バッチ実行)

バッチ・ジョブを使用して監査証跡報告書を印刷するための JCL を作成します。コマンド構文については、「File Manager ユーザズ・ガイドおよびリファレンス」の AUD 関数を参照してください。

Hex Format(16 進形式)

標準フィールド表示の下に UPDOWN 16 進数表示を生成します。

Non-display Hex (非表示 16 進数)

非表示文字 \ を含むフィールドの場合にのみ、標準フィールド表示の下に UPDOWN 16 進数表示を生成します。

Highlight changes (変更の強調表示)

変更したフィールドを強調表示します。フィールドが変更されたことを示すために、変更前データの左側にアスタリスクが表示されます。

親パネル

- [「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [監査証跡報告書の印刷 ページ 344](#)

「Print Utility Options (印刷ユーティリティー・オプション)」パネル

「Print Utility Options (印刷ユーティリティー・オプション)」パネルを使用して、印刷ユーティリティーのさまざまなオプションを設定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFE2)	Print Utility Options		
Processing Options:		Null Column Indicator:	
Print mode		Display _	
1. Table			
2. Single			
Enter "/" to select option			
/ Batch execution			
/ Use uncommitted read			
_ Print HEX representation			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Print Mode (印刷モード)

印刷出力の形式: デフォルトは 1 (「Table (表)」) です:

1. Table (表)

Table (表) 印刷モード (デフォルト・モード) では、表の各行が列に形式設定されて、ページの横方向に印刷されます。それぞれの列には、列名またはユーザー指定の見出しのいずれかの見出しが付けられます。各ページには複数行が印刷されます。表の各列は、その列のデータ・タイプに従って形式設定されます。例えば、数値データ・タイプは整数または 10 進数として印刷され、日付および時刻の列は日付または時刻として印刷されます。印刷データは、印刷データ・セットの LRECL によっては切り捨てられることがあります。

2. Single (単一)

Single (単一) モードでは、表の 1 列だけがページの各行に印刷されます。表の列は、ページ上で縦方向に配置され、ページの左側には列見出し、右側にはその列のデータが配置されます。表の各列は、その列のデータ・タイプに従って形式設定されます。例えば、数値データ・タイプは整数または 10 進数として印刷され、日付および時刻の列は日付または時刻として印刷されます。

Display (表示)

Null 列表示標識です。このオプションは、Db2®ヌルのみを許可する列に適用されます。これを使用して、FM/Db2 印刷ユーティリティーの Db2®ヌル値を表す文字を指定することができます。デフォルトは下線文字です。

Batch execution (バッチ実行)

「Print (印刷)」機能をバッチ・ジョブで実行するために必要な JCL を作成します。生成された JCL は ISPF エディターで表示されるので、その JCL を検討して、ジョブのバッチ処理を実行依頼できます。デフォルトで選択されています。つまり、印刷はバッチで実行されます。

Use uncommitted read (非コミット読み取りの使用)

まだコミットされていないデータを読み取ることができます。デフォルト設定で選択されています。つまり、データを Db2® から取得しようと試みるときに、FM/Db2 は非コミット読み取りを使用します。



注: FM/Db2 が書き込みロックされているデータを検索しようとすると、SQL エラーが起こることがあります。

Print HEX representation (16 進表記の印刷)

データの 16 進表記を印刷します。デフォルトでは選択されていません。つまり、データは 16 進形式で印刷されません。

親パネル

- [「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」パネル ページ 824](#)
- [「Print Utility \(印刷ユーティリティ\)」パネル ページ 760](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 表の内容の印刷 ページ 337](#)
- [FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネル

「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルを使用して、表またはビューの内容を印刷します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Print Utility	
Db2 Object:			
Location	_____	Database	_____ (optional)
Owner	SYSIBM	Table space _____	(optional)
Name	SYSCOPY		+
Row count	20	Number of rows to print	
Db2 Template:			
Data set name	_____		
Member	_____		
Processing Options:			
Print Mode	Template usage	Enter "/", "A" always to select	
3 1. Above		-	Edit options
2. Previous		-	Edit template
3. Generate from table		-	Create audit trail (*)
4. Generate/Replace			
Command '==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Location (場所)

Db2® オブジェクトの位置。処理する表またはビューが現在場所にある場合は、このフィールドは空白のままにしてください。このフィールドはオプションです。

Database (データベース)

選択を制限するデータベースの名前。このフィールドはオプションです。

Owner (所有者)

Db2® オブジェクトの所有者の許可 ID。このフィールドはオプションです。

Table space (表スペース)

選択を制限する表スペースの名前。このフィールドはオプションです。

Name (名前)

Db2® オブジェクトの名前。

Row count (行カウント)

印刷する Db2® オブジェクトの行数。

有効な値:

0

すべての行が印刷されます

1-99999999

印刷される行数

ALL

すべての行が印刷されます。これはデフォルトです。

Data set name (データ・セット名)

テンプレート・データ・セットの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、メンバー名または名前パターンを括弧で囲んで組み込むことができます。メンバーをここで指定する場合は、関連した「Member (メンバー)」フィールドは空でなければなりません。

Member (メンバー)

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Processing Options (処理オプション)

これらのオプションを使用すると、特にデータの印刷形式、印刷処理に使用するテンプレート、および印刷処理の前にテンプレートを編集するかどうかを指定することができます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルには、テンプレートを処理する次の 4 つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「Template (テンプレート)」セクションにテンプレート・データ・セットの名前 (およびオプションのメンバー名) を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。テンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が続行されます (詳細については、「Template Usage (テンプレート使用法)」のオプション 3 を参照してください)。

2. Previous (直前の指定)

この表の最後の (直前に使用した) テンプレートを使用します。

3. Generate from table (表からの生成)

指定された表に対し Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成します。これはデフォルト設定です。パネルの「Template (テンプレート)」セクションでメンバー名を指定している場合には、これは無視されます。FM/Db2 は、必要なテンプレートをメモリー内に生成します。

4. Generate/Replace (生成/置き換え)

指定された表に対して Db2® カタログの情報に基づいてテンプレートを生成し、この情報をパネルの「Template (テンプレート)」セクションで指定されたメンバーに保管します。メンバーがすでに存在している場合には、そのメンバーが置き換えられます。前のカスタマイズがすべて失われます。

以下のオプションは、「/」または「A」を入力することで選択できます。

Edit options (編集オプション)

Db2® オブジェクトのデータを印刷する前に、FM/Db2 印刷ユーティリティー・オプションを表示するために使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Edit template (テンプレートの編集)

データを印刷する前にテンプレートを編集するために使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Create audit trail (監査証跡の作成)

FM/Db2 による Db2® へのアクセスを FM/Db2 監査ログに書き込むかどうかを制御します。このオプションは、SAF 規則で制御された監査が有効である場合にのみ表示されます。

FM/Db2 は、SMF、またはデータ・セットのいずれかに監査レコードを書き込むことができます。

FM/Db2 監査の制御に SAF 規則が使用される場合、監査レコードを書き込むかどうかは、処理対象の Db2® オブジェクト名と、現在のユーザー ID (TSO ログオン ID) に基づいて決定されます。そのため、ある Db2® オブジェクトの処理には監査が必要でも、別のオブジェクトの処理には必要でない場合があります。また、特定の Db2® オブジェクトの監査要件を変更できなくても、別の Db2® オブジェクトの監査要件は変更できたり、他の TSO ユーザー ID に対しては要件が異なったりする場合があります。

特定の Db2® オブジェクトの処理中に、監査設定を変更する権限を持っていない場合、FM/Db2 によって、間違った設定を入力しているのではないかとこのプロンプトが出されます。特定の Db2® オブジェクトに対する監査設定を設定する権限を持っている場合、FM/Db2 は、このフィールドにどのような値が指定されてもそれを受け入れます。

親パネル

- [「Utility Functions \(ユーティリティー機能\)」パネル ページ 896](#)
- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」パネル ページ 875](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Print Utility Options (印刷ユーティリティー・オプション)」パネル ページ 758	「Edit options (編集オプション)」 を選択する
「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 505	「Edit template (テンプレートの編集)」 を選択

関連するタスク

- [Db2 表の内容の印刷 ページ 337](#)
- [FM/Db2 パネルでのオプションの選択 ページ 46](#)

- [テンプレートの処理 ページ 75](#)
- [SAF 規則で制御された監査 ページ 72](#)

特権の詳細パネル

これらのパネルは、以下の通りです。

- 「Application Plan Privilege Details (アプリケーション・プラン特権の詳細)」パネル
- 「Column Privilege Details (列特権の詳細)」パネル
- 「Database Privilege Details (データベース特権の詳細)」パネル
- 「Distinct Type Usage Privilege Details (特殊タイプ使用法特権の詳細)」パネル
- 「Function Privilege Details (関数特権の詳細)」パネル
- 「Package Privilege Details (パッケージ特権の詳細)」パネル
- 「Schema Privilege Details (スキーマ特権の詳細)」パネル
- 「Stored Procedure Privilege Details (ストアド・プロシージャ特権の詳細)」パネル
- 「Table Space Use Privilege Details (表スペース使用特権の詳細)」パネル
- 「Table/View Privilege Details (表/ビュー特権の詳細)」パネル

Db2® オブジェクトの特権リストに表示されたオブジェクトに対して I 行コマンドを指定すると、FM/Db2 は以下のパネルの 1 つを表示します。

特権パネル

これらのパネルは、以下の通りです。

- 「Application Plan Privileges (アプリケーション・プランの特権)」パネル
- 「Collection Privileges (コレクションの特権)」パネル
- 「Column Privileges (列の特権)」パネル
- 「Database Privileges (データベースの特権)」パネル
- 「Distinct Type Privileges (特殊タイプ特権)」パネル
- 「Function Privileges (関数の特権)」パネル
- 「Package Privileges (パッケージの特権)」パネル
- 「Schema Privileges (スキーマ特権)」パネル
- 「Stored Procedure Privileges (ストアド・プロシージャの特権)」パネル
- 「Table Privileges (表の特権)」パネル
- 「Table Space Use Privileges (表スペース使用の特権)」パネル

オブジェクト・タイプに対する特権の詳細の表示のために特権ユーティリティー機能 (3.5) を使用するか、または Db2® オブジェクトのリストに表示されたオブジェクトに対して P 行コマンドを使用すると、FM/Db2 はこれらのパネルの 1 つを表示します。

特権表示パネルの形式

どの特権表示パネルでも、Db2® カタログから検索された ISPF「表」表示形式の情報が使用されます。この情報は、標準的な ISPF の方法でスクロールすることができます。この情報は読み取り専用形式で提供されます。

それぞれの特権表示パネルごとに、

- 「**Cmd**」フィールドを使用して、行コマンドを入力することができます。入力できる行コマンドは、オブジェクト・タイプによって異なります。検討しようとしているオブジェクトのタイプに有効な行コマンドのリストを表示するには、「**Cmd**」フィールドに“?”を入力します。
- リストされているオブジェクト・タイプに適用できる各特権の現在の状況が、単一文字フィールドに示されます。

空白

被認可者は指定された特権を持っていません。

Y

被認可者は指定された特権を持っていますが、この特権を他のユーザーに認可することはできません。

G

被認可者は指定された特権を持っていて、しかもこの特権を他のユーザーに認可することができます。

- データの各列の最上部、列名のすぐ下に、入力フィールドがあります。パネルが初めて表示されたときには、これらの入力フィールドのすべてに、「すべての値」を示すアスタリスク(*)が入っています。これらの入力フィールドのうち1つ以上を使用して、表示されるオブジェクトのリストを制限することができます。例えば、[特権パネル ページ 764](#) に示されている「Database Privileges (データベース特権)」パネルでは、「**Grantor (認可者)**」列名の下にある入力フィールドに「**BRA**」と指定されているので、データベースのリストは、認可者の名前が「BRA」で始まるデータベースに制限されています。

関連するタスク

- [特権の表示 ページ 351](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)

「Rebind Application Plan (アプリケーション・プランの再バインド)」 パネル

パネルとフィールドの定義

図 126. 「Rebind Application Plan (アプリケーション・プランの再バインド)」 パネル (2 の 1)

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Rebind Application Plan		
Verify rebind parameters:			
REBIND PLAN(Plan name <u>FMN2PLN1</u>) OWNER(Plan owner <u>SHRIKES</u> +) QUALIFIER(Qualifier <u>SHRIKES</u> + (qualifier for unqualified SQL)) ENABLE(Enable connects _____ (use ? to get current values from the catalog)) DISABLE(Disable connects _____ (use ? to get current values from the catalog)) En/disable names _____ (use ? to get current values from the catalog)) PKLIST(Package lists _____ +) NOPKLIST(No package list _____ (use ? to get current values from the catalog)) DEFER(PREPARE)/NODEFER(PREPARE) Defer prepare - (Yes or No)) CACHE(Cache size <u>3072</u> (Cache size in bytes for authorization IDs)) CURRENTDATA(Inhibit blocking - (Yes or No)) CURRENT SERVER(Server name _____ (blank=local, else first location)) DEGREE(Parallelism <u>1</u> (1 or ANY)) DISCONNECT(Disconnect <u>E</u> (Explicit, Automatic or Conditional)) DYNAMICRULES(Dynamic rules - (Run or Bind)) ENCODING(Encoding scheme _____ (ASCII, EBCDIC, UNICODE, ccsid)) EXPLAIN(Explain plan <u>N</u> (Yes or No to explain access path)			

図 127. 「Rebind Application Plan (アプリケーション・プランの再バインド)」 パネル (2 の 2)

```

) FLAG(
  Bind messages . . . _      (Info, Warning, Error, Completion)
) IMMEDIATE(
  Group BP updates . N      (No or Yes)
) ISOLATION(
  Isolation level . . _     (CS, RR, RS, or UR)
) KEEP DYNAMIC(
  Keep dynamic SQL . N     (Yes or No)
) REOPT(VARS)/NOREOPT(VARS)
  Re-opt at exec . . N     (None, Always, Once, aUto)
) OPT HINT(
  Access path hint . _____ +
) PATH(
  UDT/UDF/STP path . _____ +
) PATH DEFAULT
  Default path . . . _     (Yes or No)
) RELEASE(
  Release at . . . . C     (Commit or Deallocate, Commit preferred)
) ROUNDING(
  DFP Rounding . . . _    (Ceiling, Down, Floor,
                          HalfDown, HalfEven, HalfUp, Up)
) SQL RULES(
  Connect2 rules . . D    (Db2 or STD)
) VALIDATE(
  Validation time . . B    (Run or Bind, Bind preferred)
) CONCURRENT ACCESS RESOLUTION(
  Access Resolution . _   (Waitforoutcome or Usecurrentlycommitted)
) PROG AUTH(
  Progauth checking . _   (Disable or Enable)
)
Command ==> _____
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Expand    F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Left       F11=Right   F12=Cancel

```

親パネル

- 「Application Plans (アプリケーション・プラン)」 パネル ページ 483

子パネル

なし。

関連するタスク

「Rebind Package (パッケージの再バインド)」パネル

パネルとフィールドの定義

図 128. 「Rebind Package (パッケージの再バインド)」パネル (1 of 2 (2 の 1))

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFM3)	Rebind Package		More: +
Verify rebind parameters:			
REBIND PACKAGE(
Location	_____		
Collection	DSNUTIL		+
Package	DSNUGSQL	+ (
Version	_____		+
)) OWNER(
Package Owner . . .	ARROWSB		+
) QUALIFIER(
Qualifier	ARROWSB		+
) ENABLE((use ? to get current values from the catalog)			
Enable connects . .	_____		+
) DISABLE((use ? to get current values from the catalog)			
Disable connects . .	_____		+
) (use ? to get current values from the catalog)			
En/disable names . .	_____		+
PLANMGMT(
Plan management . .	_	(Off, Basic, Extended or blank)	
) APREUSE(
Reuse access paths	N	(None, Error or Warn)	
) APREUSESOURCE(
Package copy	_	(Current, Previous or Original)	
) APCOMPARE(
Comp access paths .	_	(None, Error or Warn)	
) APRETAINDUP(
Retain old copies .	Y	(Yes or No)	
) GETACCELARCHIVE(
Archived Accel data	_	(No or Yes)	
) QUERYACCELERATION((None, All, Enable, enableWithfailback, eligible)			
Acceleration option	_		
) CONCENTRATESTMT(
Concentrate stmt. .	N	(No or Yes)	
) CURRENTDATA(
Inhibit blocking .	N	(Yes or No)	
) DBPROTOCOL(
3 part protocol . .	D	(DRDA)	
) DEFER(PREPARE) / DEFER(INHERITFROMPLAN) / NODEFER(PREPARE)			
Defer prepare	_	(Yes, Inherit or No)	
DEGREE(
Parallelism	1	(1 or ANY)	
) DESCSTAT(
Describe SQL area .	Y	(No or Yes)	
) DYNAMICRULES(
Dynamic rules	_	(Run, Bind, Define, Invoke)	
) ENCODING(
Encoding scheme . .	EBCDIC	(ASCII, EBCDIC, UNICODE, ccsid)	

図 129. 「Rebind Package (パッケージの再バインド)」 パネル (2 of 2 (2 の 2))

```

) EXPLAIN(
  Explain plan . . . N          (Yes, No or Only)
) FLAG(
  Bind messages . . . -          (Info, Warning, Error, Completion)
) IMMEDIATEWRITE(
  Group BP updates . N          (Inheritfromplan, No or Yes)
) ISOLATION(
  Isolation level . . ---        (CS, RR, RS, or UR)
) KEEP DYNAMIC(
  Keep dynamic SQL . N          (No or Yes)
) REOPT(VARS)/NOREOPT(VARS)
  Re-opt at exec . . N          (None, Always, Once, aUto)
) OPTHINT(
  Access path hint . _____      +
) PATH(
  UDT/UDF/STP path . _____      +
) PATHDEFAULT
  Default path . . . -          (Yes or No)
) RELEASE(
  Release at . . . . C          (Commit, Deallocate, Inheritfromplan)
) SWITCH(
  Package version . N          (Previous, Original)
) VALIDATE(
  Validation time . . B          (Run or Bind, Bind preferred)
) EXTENDEDINDICATOR(
  Extended Indicators ---        (No or Yes)
) CONCURRENTACCESSRESOLUTION(
  Access Resolution . -          (Waitforoutcome or Usecurrentlycommitted)
) BUSINESSSENSITIVE(
  Business Time Sens. Y          (Yes or No)
) SYSTEMSENSITIVE(
  System Time Sens. . Y          (Yes or No)
) ARCHIVESENSITIVE(
  Archive Sensitivity Y          (Yes or No)
) APPLCOMPAT(
  Appl. Compatibility V12R1      (V10R1 or V11R1)
)
Command ==> _____
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=Expand      F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Left      F11=Right    F12=Cancel

```

親パネル

- [「Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)」 パネル ページ 480](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」 パネル

「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」 パネルを使用して、REBUILD ユーティリティの REBUILD INDEX (ALL) TABLESPACE 形式を使用するユーティリティ制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process		Options		Utilities		Help					
FM/Db2 (DFG2)		REBUILD (Indexes for Table Spaces)		Row 1 to 12 of 133							
S	P										
e	R	Table	Part'n		WORKDDN	Sort					
l	C	Database Space	Number	Reuse	Template	Device	Sort				
						Type	Num				
							Keys				
-		DSN8D81A DSN8S81D	0	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81A DSN8S81E	1	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81A DSN8S81E	2	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81A DSN8S81E	3	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81A DSN8S81E	4	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81A DSN8S81E	5	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81A DSN8S81P	0	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81A DSN8S81R	0	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81A DSN8S81S	0	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81E DSN8S81U	0	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81P DSN8S81C	0	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
-		DSN8D81P DSN8S81Q	0	N	SYSUT1	N	SYSALLDA	4	Y		
Command ==>>							Scroll PAGE				
F1=Help		F2=Split		F3=Exit		F7=Backward		F8=Forward		F9=Swap	
F12=Cancel											

Sel

選択列。表スペースを選択するには、この列に「S」を入力してください。選択された表スペースには、「PRC」列にアスタリスク (*) が付きます。

PRC

処理標識。アスタリスク (*) は、項目が選択されていることを示します。

Database (データベース)

表スペースを定義するデータベースの名前。

Table Space (表スペース)

表スペースの名前。

Part'n Number (区画番号)

表スペースの区画番号。これは、非区画表スペースの場合は 0 です。区画された表スペースの場合、この番号は表スペースの区画を表しています。区画された表スペースの区画ごとに、表には行が 1 行あります。これは表示専用フィールドです。

Reuse (再使用)

Db2® が再構築操作の一部として索引スペース・データ・セットを削除して再定義するかどうかを制御します。

YES

既存のデータ・セットを保持します。

NO

索引スペース・データ・セットを削除して再定義します。

WORKDDN

ユーティリティー・ジョブで使用される、オプションの一時作業ファイルの DD 名。表示される値は、SYSUT1、またはデフォルト DD 名を変更した場合は別の値のいずれかです。新しい値を入力できます。

WORKDDN Template (WORKDDN テンプレート)

関連した **WORKDDN** フィールドの値がテンプレート名であるかどうかを示します。

Sort Device Type (装置タイプのソート)

ソート・データ・セットを割り振るためにユーティリティーによって使用される装置タイプ。表示される値は、SYSALLDA、またはデフォルト装置タイプを変更した場合は別の値のいずれかです。新しい値を入力できます。

Sort Num (ソート番号)

ユーティリティーによって使用されるソート・データ・セットの数。表示される値は、4、またはデフォルト設定を変更した場合は別の値のいずれかです。新しい値を入力できます。

Sort Keys (ソート・キー)

REBUILD ユーティリティーが索引を並列に再構築するかどうかを制御します。

YES

索引を並列に作成します。

NO

索引を並列に作成しません。

新しい値を入力できます。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」 パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [REBUILD ユーティリティー ページ 375](#)
- [REBUILD ユーティリティー \(表スペースの索引\) ページ 377](#)
- [コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータのロード ページ 371](#)

LISTDEF が指定された **「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」** パネル

LISTDEF が指定された「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」パネルを使用して、REBUILD ユーティリティーの REBUILD INDEX TABLESPACE 形式を使用してユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		REBUILD (Indexes for Table Spaces)	Row 1 to 1 of 1
P	R LISTDEF	WORKDDN	Sort Device Sort Sort
Cmd C Name	Reuse WORKDDN Template Type Num Keys		
	LDEF1 N SYSUT1 N SYSALLDA 4 Y		
***** Bottom of data *****			
Command ==> _____ Scroll PAGE			
F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap			
F12=Cancel			

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- REBUILD ユーティリティー ページ 375
- REBUILD ユーティリティー (表スペースの索引) ページ 377

「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」 パネル

「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティー (索引))」 パネルを使用して、REBUILD ユーティリティーの REBUILD INDEX (index_name) 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		REBUILD Utility (Indexes)	Row 1 to 1 of 1
P	R LISTDEF	WORKDDN	Sort Device Sort Sort
Cmd C	Name	Reuse WORKDDN Template	Type Num Keys
	LDEFNAME1	N SYSUT1 N	SYSALLDA 4 Y
***** Bottom of data *****			
Command ==> _____ Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Cmd (コマンド)

選択列。索引を選択するには、この列に「S」を入力してください。選択された索引には、「PRC」列にアスタリスク (*) が付きます。

PRC

処理標識。アスタリスク (*) は、項目が選択されていることを示します。

Index Owner (索引所有者)

索引の所有者の名前。

Index Name (索引名)

索引の名前。

Part'n Number (区画番号)

索引の区画番号。これは、非区画の場合は 0 です。区画された索引の場合、この番号は索引の区画を表しています。区画された索引の区画ごとに、表には行が 1 行あります。これは表示専用フィールドです。

Reuse (再使用)

Db2® が再構築操作の一部として索引データ・セットを削除して再定義するかどうかを制御します。

YES

既存のデータ・セットを保持します。

NO

索引データ・セットを削除して再定義します。

WORKDDN

ユーティリティー・ジョブで使用される、オプションの一時作業ファイルの DD 名。表示される値は、SYSUT1、またはデフォルト DD 名を変更した場合は別の値のいずれかです。新しい値を入力できます。

WORK DDN Template (WORK DDN テンプレート)

関連した WORKDDN フィールドの値がテンプレート名であるかどうかを示します。

Sort Device Type (装置タイプのソート)

ソート・データ・セットを割り振るためにユーティリティーによって使用される装置タイプ。表示される値は、SYSALLDA、またはデフォルト装置タイプを変更した場合は別の値のいずれかです。新しい値を入力できます。

Sort Num (ソート番号)

ユーティリティーによって使用されるソート・データ・セットの数。表示される値は、4、またはデフォルト設定を変更した場合は別の値のいずれかです。新しい値を入力できます。

Sort Keys (ソート・キー)

ユーティリティーが索引を並列に再構築するかどうかを制御します。

YES

索引を並列に作成します。

NO

索引を並列に作成しません。

親パネル

- ・ [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- REBUILD ユーティリティ ページ 375
- REBUILD ユーティリティ (索引) ページ 376
- コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータのロード ページ 371

LISTDEF が指定された「REBUILD (Indexes) (REBUILD (索引))」パネル

LISTDEF が指定された「REBUILD (Indexes) (REBUILD (索引))」パネルを使用して、REBUILD ユーティリティの REBUILD INDEX TABLESPACE 形式を使用する ユーティリティ制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		REBUILD Utility (Indexes)	Row 1 to 2 of 2
P			Sort
R LISTDEF		WORKDDN	Device
Cmd C Name	Reuse	WORKDDN	Template
_____ FRED	N	SYSUT1	N
_____ * GEORGE	N	SYSUT1	N
			Type
			Num
			Keys
			4
			Y
			4
			Y
***** Bottom of data *****			
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward
F12=Cancel			F8=Forward
			F9=Swap

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2@ Utilities (ユーティリティー)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [REBUILD ユーティリティー ページ 375](#)
- [REBUILD ユーティリティー \(索引\) ページ 376](#)

「Record Type Selection (レコード・タイプ選択)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
File Manager		Record Type Selection	Line 1 of 2
Cmd SIE	Field Name		Prompt
	**** Top of data ****		Offset Length
— IE	REC-TYPE01		0 80
— SI	REC-TYPE02		0 80
	**** End of data ****		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F12=Cancel
			Scroll PAGE
			F6=RunTemp

親パネル

- [「LOAD Utility - Using Templates \(LOAD ユーティリティー - テンプレートの使用\)」パネル ページ 735](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER UTILITY (索引|スペース))」 パネル

「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER UTILITY (索引|スペース))」 パネルを使用して、RECOVER ユーティリティーの RECOVER INDEXSPACE 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。COPY YES 文節を指定して作成された索引のみ、コピーおよびリカバリーできます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		RECOVER Utility (Index Spaces)	Row 1 to 7 of 7
S P e R l C	Index Space	DS Num ICDATE ICTIME	Re- use Image Copy Data Set Name
—	GKDB1 XDEPT1	0 010914 072244	N GKELLY.GKDB1.XDEPT1.F00000.D257072
—	GKDB1 XDEPT1	0 010913 145941	N GKELLY.GKDB1.XDEPT1.F00000.D256145
—	GKDB1 XDEPT1	0 010913 145747	N GKELLY.GKDB1.XDEPT1.F00000.D256145
—	GKDB1 XDEPT1	0 010913 144945	N GKELLY.GKDB1.XDEPT1.F00000.D256144
—	UTILBIG1 T14RIX1	0 010701 160346	N OSPEED.ICOPY.UTILBIG1.T14RIX1.D182
—	UTILBIG1 UVBR1X1	0 010701 160524	N OSPEED.ICOPY.UTILBIG1.UVBR1X1.D182
—	UTILDB1 T1RIX1	0 010411 104512	N OSPEED.UTILDB1.T1RIX1.F00000.D1011
***** Bottom of data *****			
Command ==>		Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

パネルの ISPF 表部分のフィールドは、次の通りです。

Sel

選択列。s を入力して索引を選択します。

PRC

列を処理します。アスタリスク (*) は、選択された索引スペースを示します。

Database (データベース)

索引スペースを定義するデータベースの名前。

Index Space (索引スペース)

索引スペースの名前。

DS Num

この表スペースの区画番号。区画されていない表スペースは、区画番号 0 を持ちます。区画された表スペースの場合、この番号は表スペースの区画を示しています。

ICDATE

イメージ・コピーが取られた日付。形式は *yyymmdd* です。

ICTIME

イメージ・コピーが取られた時刻。形式は *hhmmss* です。

Reuse (再使用)

再使用オプション。

Y

索引スペースのデータ・セットは削除されず、RECOVER ユーティリティー処理の一部として再定義されます。

N

索引スペースのデータ・セットは削除され、RECOVER ユーティリティー処理の一部として再定義されます。

Image copy data set name (イメージ・コピー・データ・セット名)

イメージ・コピー・データ・セットの (カタログされていなければならない) 名前。カタログ表の入力が存在することが、データ・セットがまだ存在していることを意味しているわけではないことに注意してください。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」 パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RECOVER \(索引スペース\) ページ 380](#)

LISTDEF が指定された 「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER ユーティリティー (索引スペース))」 パネル

LISTDEF が指定された 「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER ユーティリティー (索引スペース))」 パネルを使用して、RECOVER ユーティリティーの RECOVER INDEXSPACE 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		RECOVER Utility (Index Spaces)	Row 1 to 1 of 1
	P		
	R LISTDEF		
Cmd C Name		Reuse	
	<u>LDEF1</u>	<u>N</u>	
***** Bottom of data *****			
Command ==> _____ Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- ・ [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- RECOVER ユーティリティー ページ 378
- RECOVER (索引スペース) ページ 380

「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER UTILITY (表スペース))」パネル

「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER UTILITY (表スペース))」パネルを使用して、RECOVER ユーティリティーの RECOVER TABLESPACE 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		RECOVER Utility (Table Spaces)	Row 1 to 12 of 131
S P e R l C	Database Space	DS Num	ICDATE ICTIME p use Idx Image Copy Data Set Name
—	BILLSDB1 TS1D	0	010524 165000 F N Y OSPEED.BILLSDB1.TS1D.C00000.
—	CJMAODA CJMAOSD	0	010526 060718 F N Y CJMAON.DB26.SYSCOPY.CJMAODA.
—	CJMAODA CJMAOSE	0	010526 060719 F N Y CJMAON.DB26.SYSCOPY.CJMAODA.
—	CJMAODA CJMAOSE	3	010526 074016 F N Y CJMAON.DB26.CJMAODA.CJMAOSE.
—	CJMAODA CJMAOSP	0	010526 060719 F N Y CJMAON.DB26.SYSCOPY.CJMAODA.
—	CJMAODP CJMAOSC	0	010526 060729 F N Y CJMAON.DB26.COPYDDN.CJMAODP.
—	CJMAODP CJMAOSC	0	010526 060719 F N Y CJMAON.DB26.SYSCOPY.CJMAODP.
—	DSNDB01 SCT02	0	001228 150606 F N Y DB2.V7R1M0.IMAGCOPY.SCT02
—	DSNDB01 SPT01	0	001228 150608 F N Y DB2.V7R1M0.IMAGCOPY.SPT01
—	DSNDB01 SYSLGRNX	0	001228 150628 F N Y DB2.V7R1M0.IMAGCOPY.SYSLGRNX
—	DSNDB04 PLANRTAB	0	010419 133458 F N Y GRAHAMP.DSNDB04.PLANRTAB.F00
—	DSNDB04 USERS	0	010419 133500 F N Y GRAHAMP.DSNDB04.USERS.F00000
Command ==>	F1=Help F2=Split F3=Exit		F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel	Scroll PAGE		

パネルの ISPF 表部分のフィールドは、次の通りです。

Sel

選択列。s を入力して表スペースを選択します。

PRC

列を処理します。アスタリスク (*) は、選択された表スペースを示します。

Database (データベース)

表スペースを定義するデータベースの名前。

Table Space (表スペース)

表スペースの名前。

DS Num

この表スペースの区画番号。区画されていない表スペースは、区画番号 0 を持ちます。区画された表スペースの場合、この番号は表スペースの区画を示しています。

ICDATE

イメージ・コピーが取られた日付。形式は *yymmdd* です。

ICTIME

イメージ・コピーが取られた時刻。形式は *hhmmss* です。

Typ (タイプ)

SYSIBM.SYSCOPY 表で検出される入力のタイプ。

F

完全イメージ・コピー。

I

増分イメージ・コピー。

Reuse (再使用)

再使用オプション。

Y

表スペースのデータ・セットは削除されず、RECOVER ユーティリティー処理の一部として再定義されます。

N

表スペースのデータ・セットは削除され、RECOVER ユーティリティー処理の一部として再定義されます。

Re-bld Idx (索引の再構築)

リカバリー後に索引を再構築します。

Y

REBUILD INDEX (ALL) TABLE SPACE コマンドは、JCL に組み込まれ、表スペースのすべての表にあるすべての索引の完全再構築を実行します。これは、表スペースを回復するための標準メソッドであり、索引が使用不能で再構築保留 (RBDP) の状態のままにされることを回避します。

N

索引は再構築されません。

Image copy data set name (イメージ・コピー・データ・セット名)

イメージ・コピー・データ・セットの(カタログされていない)名前。カタログ表の入力が存在することが、データ・セットが(まだ)存在していることを意味しているわけではないことに注意してください。

親パネル

- [\[Db2 Utilities \(ユーティリティー\)\] パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- RECOVER (表スペース) ページ 379

LISTDEF が指定された 「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER ユーティリティー (表スペース))」 パネル

LISTDEF が指定された 「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER ユーティリティー (表スペース))」 パネルを使用し、RECOVER ユーティリティーの RECOVER INDEXSPACE 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		RECOVER Utility (Table Spaces)	Row 1 to 2 of 2
P			
R	LISTDEF		
Cmd C	Name	Reuse	
*	FRED	N	
	GEORGE	N	
***** Bottom of data *****			
Command ==> _____ Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク(*)は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RECOVER ユーティリティー ページ 378](#)
- [RECOVER \(表スペース\) ページ 379](#)

「Recovery Information (リカバリー情報)」パネル

以下のパネルにリストされた項目に対して ICS 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Recovery Information (リカバリー情報)」パネルを表示します。

- [「Databases \(データベース\)」パネル ページ 616](#)、または
- [「Table Spaces \(表スペース\)」パネル ページ 866](#)、または
- [「Indexes \(索引\)」パネル ページ 724](#)

「Related tables (関連表)」パネル

「Related tables (関連表)」パネルは、REDIT コマンドの発行時に編集されていた表に関連する表についての情報を表示するために使用します。

このパネルには、RI の制約によって編集中のオブジェクトに直接関連付けられたすべての Db2® オブジェクトを示す選択リストが表示されます。これには、編集中の表と関係がある親表、および編集中の表と関係がある従属表が含まれます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help				
FM/Db2 (DFE2)	Related tables for: DSN8910.EMP				Top of 4		
4 rows	fetch				Format	TABL	
SEL	RELATED	RELATED	RELATIONSHIP	RELATIONSHIP	COUNT	DELETE	
	TABLE	TABLE	NAME	TYPE	OF FOREIGN	RULE	
	OWNER	NAME	NAME		KEY COLUMNS		
	*	*	*	*	*	*	
----	#1-----	#2-----	#3-----1--	#9-----	-----#6	#10-----	
****	Top of data	****					
-----	DSN8910	DEPT	RDE	DEPENDENT		1 SET NULL	
-----	DSN8910	EMPPROJECT	REPAAE	DEPENDENT		1 RESTRICT	
-----	DSN8910	PROJ	RESPEMP	DEPENDENT		1 RESTRICT	
-----	DSN8910	DEPT	RED	PARENT		1 SET NULL	
****	End of data	****					
Command ==>						Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

「Related tables (関連表)」パネルに表示される項目は、REDIT コマンドを発行したときのカーソル位置によって異なります。

- カーソルが、外部キー、親キー、または基本キーの一部である列のデータ上になかった場合は、すべての関連表が表示されます。
- カーソルが、外部キー、親キー、または基本キーの一部である列のデータ上にあった場合は、外部キー、親キー、または基本キーにその列が含まれている関連表のみが表示されます。

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSRELS の列が含まれています。

SEL

選択列。リスト内の Db2® オブジェクトに対して、以下の行コマンドを発行できます。

A

表を変更します。

ALS

別名を表示します。

B

表をブラウズします。(注 1 を参照)

C

表をコピーします。

CDI

列の分布統計を表示します。

CH

子 (従属) 表を表示します。

CHR

子 (従属) 関係を表示します。

CK

表検査制約を表示します。

COL

列を表示します。

CON

表 (固有および基本) の制約を表示します。

D

データベースを表示します。

E

表を編集します。(注 1 を参照)

EE

表を編集します。新規セッション。(注 3 を参照)

FK

外部キーを表示します。

I

表またはビューに関する詳細を示します。

KEY

関係キーを表示します。(注 2 を参照)

P

特権を表示します。

PA

親表を表示します。

PAR

親関係を表示します。

PK

基本キーを表示します。

PKG

パッケージを表示します。

PL

プランを表示します。

PR

表を印刷します。

PST

区画統計を表示します。

ROW

この行のすべての列を表示します。

S

表スペースを表示します。

SYN

同義語を表示します。

V

表を表示します。(注 1 を参照)

VE

表を表示します。新規セッション。(注 3 を参照)

VW

ビューを表示します。

X

索引を表示します。

XC

索引および索引列を表示します。



注:

1. E、B、および V コマンドは、既存の FM/Db2 エディター・セッションの上に新規 FM/Db2 エディター・セッションを積み重ねることによって、オブジェクトを編集、ブラウズ、または表示します。最初に新規 FM/Db2 エディター・セッションを終了せずに元の FM/Db2 エディター・セッションに戻ることはできません。
2. 親関係タイプでは、KEY コマンドは、関係内の 2 つの表の基本キーを表示します。

従属関係タイプでは、KEY コマンドは、関係内の 2 つの表の外部キー列を表示します。
3. EE および VE コマンドは、新規 ISPF 論理セッションを開始して (分割画面)、次に新規論理セッションで File Manager/Db2 エディター・セッションを開始することによって、オブジェクトを編集 (または表示) します。



- REDIT コマンドの発行時に、カーソルが、親キー、基本キー、または外部キーの一部である列のデータ上になかった場合は、新規 FM/Db2 エディター・セッションでは、表のすべての行が表示されません。
- REDIT コマンドの発行時に、カーソルが、親キー、基本キー、または外部キーの一部である列のデータ上にあった場合は、新規 FM/Db2 エディター・セッションでは、カーソルがあった行に関連する行のみが表示されます。

以下の場合、関連表の FM/Db2 エディター・セッションには行がないことがあります。

- 従属表では、一致する外部キー値を持つ表には行はありません。
- 親表では、外部キー値には、Db2®ヌル値を持つ 1 つ以上の列が含まれています。

親パネル

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

子パネル

各種。入力した行コマンドによって異なります。

関連するタスク

- Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47
- 関連表のリスト ページ 199
- オブジェクト・リストの表示または印刷 ページ 313
- [Db2 Location Selection (位置選択)] パネル ページ 628

[Remote Db2® Location Selection (リモート・ロケーション選択)] パネル

[Remote Db2® Location Selection (リモート・ロケーション選択)] パネルを使用して、使用可能なすべてのリモート位置を表示します。リモート位置にアクセスできるのは、ローカル Db2® サブシステムを定義している場合だけです。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Remote Db2 Location Selection          Row 1 to 4 of 4

Sel Location
*
-----
- QXPMVS8DB2D
- QXPMVS8DB26
- QXPMVS6DB2D
- QXPMVS8DB62
***** END OF Db2 DATA *****

Command ==> _____ Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=CRetriev F7=Up       F8=Down
F9=Swap      F12=Cancel
    
```

Sel

選択列。s を入力して位置を選択します。

Location (場所)

位置の名前。

親パネル

任意の「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」パネルで、「Location (ロケーション)」フィールドに入力されたアスタリスク (*) またはパターン。

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)
- [オブジェクト・リストの表示または印刷 ページ 313](#)
- [「Db2 Location Selection \(位置選択\)」パネル ページ 628](#)

「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」パネル

「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」パネルを使用して、REORG ユーティリティーの REORG INDEX 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		REORG Utility (Indexes)	Row 1 to 12 of 344
S P		U C C	Reuse
e R Index	Index	Prt n l l Cls Leaf Off Data	
l C Owner + Name	+ Num i g d Rat Dist Pos Set		
— fmb2	TABLE19_UNIQUE	0 U Y Y ? ? ? N	
— fmb2!	TABLE20_UNIQUE	0 U Y Y ? ? ? N	
— thing	ix1	0 U Y N ? 0 ? N	
— ARROWSB	T1_IX1	0 P Y Y ? ? ? N	
— ARROWSB	T3_IX1	0 P Y Y ? ? ? N	
— ARROWSB	XDEPT1	0 P N N ? ? ? N	
— ARROWSB	XDEPT2	0 D N N ? ? ? N	
— ARROWSB	XDEPT3	0 D N N ? ? ? N	
— ARROWSB	XEMP1	1 P Y Y ? ? ? N	
— ARROWSB	XEMP1	2 P Y Y ? ? ? N	
— ARROWSB	XEMP1	3 P Y Y ? ? ? N	
— ARROWSB	XEMP1	4 P Y Y ? ? ? N	
Command ==>>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel

Sel

選択列。sを入力して索引を選択します。

PRC

列を処理します。アスタリスク (*) は、選択された索引を示します。

Index Creator (索引作成者)

索引の作成者の名前。

Index Name (索引名)

索引の名前。

Part Num (区画番号)

索引の区画番号。区画されていない索引の場合、これは0です。区画された索引は、複数行(索引の区画ごとに1行)で表示されます。これは表示専用フィールドです。

Uni

SYSINDEXES カタログ表からの、索引の UNIQUERULE フラグ。

Clg

SYSINDEXES カタログ表からの、索引の CLUSTERING フラグ。

Cld

SYSINDEXES カタログ表からの、索引の CLUSTERED フラグ。

Cls Rat

SYSINDEXES カタログ表からの、索引の CLUSTERRATIO フラグ。

Leaf Dist

SYSINDEXPART カタログ表からの、索引の LEAFDIST フラグ。

Off Pos

これは表示専用フィールドです。この値は、索引に最適な位置以外に再配置された行数を示しています。索引の CARD 値が 0 より大きい場合には、この値は、以下の式を使用して計算されます。

$$(AVG(NEAROFFPOS + FAROFFPOS) * 100) / CARD$$

この値によって、編成を必要とする可能性のある索引を識別することができます。詳しくは、*Db2 ユーティリティー・ガイド* および *解説書* を参照してください。

Reuse Data set (データ・セットの再使用)

Db2® が物理的に索引用のデータ・セットを削除して再定義するかどうか。

Y

索引用のデータ・セットが再使用されます。

N

索引用のデータ・セットは再使用されません。これはデフォルト設定です。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」 パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [REORG \(索引\) ページ 385](#)

LISTDEF が指定された 「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」 パネル

LISTDEF が指定された 「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティー (索引))」 パネルを使用して、REORG ユーティリティーの REORG INDEX 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		REORG Utility (Indexes)	Row 1 to 2 of 2
P		Reuse	
R	LISTDEF	Data	
Cmd C	Name	Set	
	FRED	N	
*	JAMES	N	
***** Bottom of data *****			
Command ==> _____ Scroll PAGE			
F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap			
F12=Cancel			

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- REORG ユーティリティー ページ 382
- REORG (索引) ページ 385

「REORG Utility (Table Spaces) (REORG UTILITY (表スペース))」 パネル

「REORG Utility (Table Spaces) (REORG UTILITY (表スペース))」 パネルを使用して、REORG ユーティリティーの REORG TABLESPACE 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help				
FM/Db2 (DFG2)		REORG Utility (Table Spaces)	Row 1 to 12 of 229				
S P	e R Database	Table Space	Avg	Avg	Unload	Log	Reuse
l C Name	Name	Prt Num	Ind Ref	Off Pos	External (Y/N)	(Y/N)	Data Set
—	BILLSDB1	TS1D	0	?	?	N	N
—	BILLSDB1	TS1E	1	?	?	N	N
—	BILLSDB1	TS1E	2	?	?	N	N
—	BILLSDB1	TS1E	3	?	?	N	N
—	BILLSDB1	TS1E	4	?	?	N	N
—	BILLSDB2	UTILTS1	0	?	?	N	N
—	CJMAODA	CJMAOSD	0	0	0	N	N
—	CJMAODA	CJMAOSE	1	0	0	N	N
—	CJMAODA	CJMAOSE	2	?	?	N	N
—	CJMAODA	CJMAOSE	3	0	0	N	N
—	CJMAODA	CJMAOSE	4	?	?	N	N
—	CJMAODA	CJMAOSP	0	0	0	N	N
Command ==>							Scroll PAGE
F1=Help		F2=Split	F3=Exit		F7=Backward	F8=Forward	F9=Swap
F12=Cancel							

Sel

選択列。s を入力して表スペースを選択します。

PRC

列を処理します。アスタリスク (*) は、選択された表スペースを示します。

Database Name (データベース名)

表スペースを定義するデータベースの名前。

Table Space Name (表スペース名)

表スペースの名前。

Prt Num (区画番号)

表スペースの区画番号。これは、非区画表スペースの場合は 0 です。区画されたテーブル・スペースは、複数行 (表スペースの各区画ごとに 1 行) で表示されます。これは表示専用フィールドです。

Avg Ind Ref

これは表示専用フィールドです。これは、元の位置以外に再配置された行数の平均値です。表スペース/区画の基数は、0 より大きく、計算値は以下の通りです。

$$(\text{AVG}(\text{NEARINDREF} + \text{FARINDREF}) * 100) / \text{CARD}$$

この値は、編成が必要な表スペースを識別するのに役立ちます。これらの値に関して詳しくは、Db2 ユーティリティー・ガイドおよび解説書を参照してください。

Avg Off Pos

これは表示専用フィールドです。これは、表スペースまたは区画内の、すべての索引にとって最適な位置以外に再配置された行数の平均値です。平均は、式を使用した、0 より大きい CARD 値をもつすべての索引用です。

$$(\text{AVG}(\text{NEAROFFPOS} + \text{FAROFFPOS}) * 100) / \text{CARD}$$

この値は、編成が必要な表スペースを識別するのに役立ちます。詳しくは、Db2 ユーティリティー・ガイドおよび解説書を参照してください。

Unload External (Y/N) (外部のアンロード (Y/N))

REORG 処理が外部形式のデータをそのままにして、アンロード・ユーティリティーとして実行するかどうかを決定します。

Y

REORG 処理は、アンロード段階で停止され、データは SYSREC00 データ・セットの外部形式のままにされます。ロード制御カードは、SYSPUNCH データ・セットで作成されます。作成されたデータは、Db2® サブシステムで、相似した構造にロードするのに適した形式です。ジョブおよび結果 SYSPUNCH の DD 名は、DSNTIAUL sysrec 命名 (例えば、SYSREC00) と互換性があり、そのため FM/Db2 LOAD ユーティリティーは、実行依頼の前に JCL 編集を要求せずに、両方の形式を受け入れることができます。

N

完全 REORG が実行されます。

Log (Y/N) (ログ (Y/N))

LOG オプション。

Y

変更が Db2® ログに書き込まれます。

N

変更が Db2® ログに書き込まれません。これはデフォルト設定です。

詳しくは、Db2 ユーティリティー・ガイドおよび解説書を参照してください。

Reuse Data Set (データ・セットの再使用)

再使用オプション。

Y

表スペースのデータ・セットは削除されず、RECOVER ユーティリティー処理の一部として再定義されます。

N

表スペースのデータ・セットは削除され、RECOVER ユーティリティー処理の一部として再定義されます。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」 パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [REORG \(表スペース\) ページ 382](#)

LISTDEF を指定した 「REORG Utility (Table Spaces) (REORG ユーティリティー (表スペース))」 パネル

LISTDEF を指定した 「REORG Utility (Table Spaces) (REORG ユーティリティー (表スペース))」 パネルを使用して、REORG ユーティリティーの REORG TABLESPACE 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>U</u> tilities	<u>H</u> elp
FM/Db2 (DFG2)		REORG Utility (Table Spaces)	Row 1 to 2 of 2
P		Unload	Reuse
R LISTDEF		External Log	Data
Cmd C Name		(Y/N) (Y/N)	Set
* FRED		N N	N
JAMES		N N	N
***** Bottom of data *****			
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入力口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [REORG ユーティリティー ページ 382](#)
- [REORG \(表スペース\) ページ 382](#)

特権の取り消しパネル

これらのパネルは、以下の通りです。

- 「Revoke Application Plan Privileges (アプリケーション・プラン特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Buffer Pool Privileges (バッファ・プール特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Collection Privileges (コレクション特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Column Privileges (列特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Database Privileges (データベース特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Distinct Type Privileges (特殊タイプ特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Function Privileges (関数特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Package Privileges (パッケージ特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Schema Privileges (スキーマ特権の取り消し)」パネル

- 「Revoke Sequence Privileges (シーケンス特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Storage Group Privileges (ストレージ・グループ特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Stored Procedure Privileges (ストアド・プロシージャ特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke System Privileges (システム特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Table Privileges (表特権の取り消し)」パネル
- 「Revoke Table Space Use Privileges (表スペース使用特権の取り消し)」パネル

あるオブジェクト・タイプの特権を取り消すために特権ユーティリティ機能 (3.5) を使用するか、または Db2® オブジェクトのリストに表示されたオブジェクトに対して R 行コマンドを指定すると、FM/Db2 はこれらのパネルの 1 つを表示します。

特権取り消しパネルの形式

特権取り消しパネルは、それぞれ対応する特権認可パネルに似ています。ただし、特権取り消しパネルでは、「To (宛先)」フィールドの代わりに次のフィールドが表示されます。

- 「From (元)」フィールド。このフィールドは、特権を取り消そうとしているユーザー (被取り消し者) の SQLID を指定するために使用します。
- 「By (認可者)」フィールド。このフィールドは、特権を認可したユーザー (認可者) の SQLID か、あるいはすべての認可者を示す “ALL” を指定するために使用します。

関連するタスク

「Routine Parameters (ルーチン・パラメーター)」パネル

以下にリストされた項目に対して PARM 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Routine Parameters (ルーチン・パラメーター)」パネルを表示します。

- 「Functions (関数)」パネル ページ 710、または
- 「Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)」パネル ページ 843

「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネル

「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルを使用して、列別に 行選択基準を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Row Selection Criteria	Line 1 of 14
Cmd	Con (Column name	Op Value)
<->	-	<-----1-----2-----3----->	<-> <-----1-----2----->
***	****	Top of data	****
---	---	EMPNO	---
---	AND	FIRSTNME	---
---	AND	MIDINIT	---
---	AND	LASTNAME	---
---	AND	WORKDEPT	---
---	AND	PHONENO	---
---	AND	HIREDATE	---
---	AND	JOB	---
---	AND	EDLEVEL	---
---	AND	SEX	---
---	AND	BIRTHDATE	---
---	AND	SALARY	---
---	AND	BONUS	---
---	AND	COMM	---
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left
			F5=RFind
			F11=Right
			F6=RunTemp
			F12=Cancel
			Scroll PAGE

Cmd (コマンド)

接頭部コマンド列。

列ごとの行選択基準の編集の際に、以下の接頭部コマンドを使用することができます。

A

データをその後に移動またはコピーする行を識別します。

B

データをその前に移動またはコピーする行を識別します。

C

1行をコピーします。

Cn

n行をコピーします。

CC

行ブロックをコピーします。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

D

1行を削除します。

Dn

n行を削除します。

DD

行ブロックを削除します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

M

1 行を移動します。

Mn

n 行を移動します。

MM

行ブロックを移動します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

R

1 行を繰り返します。

Rn

n 行を繰り返します。

RR

行ブロックを繰り返します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

RRn

行ブロックを *n* 回繰り返します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

Con

結合子列。

この列で AND および OR 結合子を指定します。デフォルト値は AND です。省略形を指定できます。例えば、既存の結合子 AND を \circ で上書きすると、FM/Db2 は OR 結合子を生成します。

結合子は、式が含まれている行 (つまり、**Op** 列で演算子を指定した行) に対してのみ有効です。

既存の結合子は、次の値のいずれで上書きすることができます。

AND または &

FM/Db2 は、結果の WHERE 文節で AND 結合子を生成します。

OR または |

FM/Db2 は、結果の WHERE 文節で OR 結合子を生成します。

(

左括弧列。

文節のパーツを括弧で囲むことによって、結果の WHERE 文節の評価の順序を定義する必要がある場合は、この列を使用して、適切な場所に左括弧 (「(」) を入力します。

括弧は、式が含まれている行 (つまり、**Op** 列で演算子を指定した行) でのみ使用できます。左括弧の数は右括弧の数と一致していなければなりません。

Column name (列名)

列の名前。

80 バイト画面では、FM/Db2 は、列名の詳細 (デフォルト) または列の データ・タイプの詳細のいずれかを表示します。FM/Db2での表示を「**Column name (列名)**」の詳細と「**Data type(length) (データ・タイプ (長さ))**」の詳細とで切り替えるには、PF11 機能キーを押します。

Data type(length) (データ・タイプ (長さ))

Db2® データ・タイプと、該当する場合は列の長さ。

80 バイト画面では、FM/Db2 は、列名の詳細 (デフォルト) または列の データ・タイプの詳細のいずれかを表示します。FM/Db2での表示を「**Column name (列名)**」の詳細と「**Data type(length) (データ・タイプ (長さ))**」の詳細とで切り替えるには、PF11 機能キーを押します。

Op

演算子列。演算子は、式を作成するために使用されます。「**Op**」列に演算子を入力した場合、パネルのその行の列名と、演算子 NL、¬NL、NNL を除く指定した演算子、および「**Value (値)**」列の内容を使用して、FM/Db2 に式を形成させたいことを示します。

FM/Db2 は、以下の演算子をサポートします。

= または EQ

項が等しい (数値的、または埋め込み時) 場合に真

-= または NE

項が等しくない (= の反対) 場合に真

> または GT

より大

< または LT

より小

>= または GE

より大か等しい

\= または -<

未満でない

<= または LE

より小か等しい

\> または ->

以下

LK

LIKE 述部。列は数値であってはなりません。

-LK または NLK

NOT LIKE。列は数値であってはなりません。

BTW

BETWEEN。【Value (値)】の形式は *value1,value2* にしなければなりません。

-BT または NBT

NOT BETWEEN。【Value (値)】の形式は *value1,value2* にしなければなりません。

IN

IN。【Value (値)】の形式は *value1,value2,...* にしなければなりません。

-IN または NIN

NOT IN。【Value (値)】の形式は *value1,value2,...* にしなければなりません。

NL

IS NULL。【Value (値)】はブランクにしなければなりません。

-NL または NNL

IS NOT NULL。【Value (値)】はブランクにしなければなりません。

RG

範囲。【Value (値)】の形式は *value1,value2* にしなければなりません。

NR

範囲内がない。【Value (値)】の形式は *value1,value2* にしなければなりません。

Value (値)

結果の WHERE 文節で式を作成するために、指定された演算子 および列名とともに使用される文字または数値定数。

演算子が NL、-NL、または NNL の場合は、【Value】列はブランクでなければなりません。その他のすべての演算子では、【Value (値)】列はブランクにしてはなりません。

複数の値をサポートする演算子 (BTW、-BT、NBT、IN、-IN、NIN、RG、または NR) では、値はコンマで区切る必要があります。演算子 IN、-IN、または NIN では、列は英数字であり、各値を引用符で囲む必要があります。

列のデータ・タイプが英数字の場合には、その値は以下ようになります。

- 一重引用符で開始または終了せず、引用符またはコンマを含まない文字ストリング。ストリングの大/小文字は無視されます。
- 引用符で囲まれた文字ストリング。このストリングには、ブランクとコンマを入れることができますが、組み込み引用符を入れることはできません。ストリングの大/小文字は無視されます。

列のデータ・タイプが数値の場合には、その値も必ず数値になります。

DATE、TIME、および TIMESTAMP 列では、【Value (値)】フィールドに “=” を指定すると、FM/Db2 は、必要な形式で現在の日付、時刻、またはタイム・スタンプの値をそれぞれ表示します。

)

右括弧列。

文節のパーツを括弧で囲むことによって、結果の WHERE 文節の評価の順序を定義する必要がある場合は、この列を使用して、適切な場所に右括弧 (「)」を入力します。

括弧は、式が含まれる行 (つまり、Op 列で演算子を指定した行) でのみ使用できます。左括弧の数は右括弧の数と一致していなければなりません。

親パネル

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [行の選択 ページ 86](#)

「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS UTILITY (索引))」パネル

「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS UTILITY (索引))」パネルを使用して、RUNSTATS ユーティリティーの RUNSTATS INDEX 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		RUNSTATS Utility (Indexes)	Row 1 to 12 of 341
S P		Report	Update
e R	Index	Index	Part'n
l C	Owner +	Name	Number
			Stats
			(Y/N)
			Option
			(A/P/S/N)
—	fmbd2	TABLE19_UNIQUE	0 N A
—	fmbd2!	TABLE20_UNIQUE	0 N A
—	thing	ix1	0 N A
—	ARROWSB	T1_IX1	0 N A
—	ARROWSB	T3_IX1	0 N A
—	ARROWSB	XDEPT1	0 N A
—	ARROWSB	XDEPT2	0 N A
—	ARROWSB	XDEPT3	0 N A
—	ARROWSB	XEMP1	1 N A
—	ARROWSB	XEMP1	2 N A
—	ARROWSB	XEMP1	3 N A
—	ARROWSB	XEMP1	4 N A
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward
			F8=Forward

Sel

選択列。s を入力して索引を選択します。

PRC

列を処理します。アスタリスク (*) は、選択された索引を示します。

Index Creator (索引作成者)

索引の作成者の名前。

Index Name (索引名)

索引の名前。

Part'n Number (区画番号)

索引の区画番号。ゼロは、区画化されていない索引であることを示します。非ゼロ値は、区画された索引の区画番号を示しています。

Report Stats (Y/N) (報告書状況 (Y/N))

ユーティリティーの結果の概略が示されている報告書を SYSPRINT DDNAME に書き込むかどうか。

Y

報告書は SYSPRINT DDNAME に書き込まれます。

N

報告書は SYSPRINT DDNAME に書き込まれません。これはデフォルト設定です。

詳しくは、*Db2* ユーティリティー・ガイドおよび解説書を参照してください。

Update Option (A/P/S/N) (更新オプション (A/P/S/N))

RUNSTATS ユーティリティーによって更新されるカタログ表(ある場合)を示します。使用できるオプションは、次のとおりです。

A

すべて。カタログ表のすべてが更新されます。これはデフォルト設定です。

P

アクセス・パスのみ。アクセス・パス選択と関連した統計が更新されます。

S

スペースのみ。スペース情報と関連した統計のみが更新されます。

N

なし。カタログ表は更新されません。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RUNSTATS \(索引\) ページ 389](#)

LISTDEF を指定した 「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS ユーティリティー (索引))」 パネル

LISTDEF を指定した 「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS ユーティリティー (索引))」 パネルを使用して、RUNSTAT ユーティリティーの RUNSTAT INDEX 形式を使用するユーティリティー制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		RUNSTATS Utility (Indexes)	Row 1 to 2 of 2
P		Report	Update
R	LISTDEF	Stats	Option
Cmd C	Name	(Y/N)	(A/P/S/N)
*	FRED	N	A
	JAMES	N	A
***** Bottom of data *****			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			Scroll PAGE

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入力口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RUNSTATS ユーティリティー ページ 386](#)
- [RUNSTATS \(索引\) ページ 389](#)

「RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS UTILITY (表スペース))」パネル

「RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS UTILITY (表スペース))」パネルを使用して、「Indexes Only (索引のみ)」列で選択された値に応じて、RUNSTATS TABLESPACE または RUNSTATS INDEX 制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		RUNSTATS Utility (Table Spaces)	Row 1 to 12 of 237
S P e R l C	Database Name	Table Space Name	Part'n Number Tables
			Number Tables
			Indexes Only (Y/N)
			Report Stats (Y/N)
			Update Option (A/P/S/N)
—	BILLSDB1	TS1D	0 1 N N A
—	BILLSDB1	TS1E	1 1 N N A
—	BILLSDB1	TS1E	2 1 N N A
—	BILLSDB1	TS1E	3 1 N N A
—	BILLSDB1	TS1E	4 1 N N A
—	BILLSDB2	UTILTS1	0 2 N N A
—	CJMAODA	CJMAOSD	0 1 N N A
—	CJMAODA	CJMAOSE	1 1 N N A
—	CJMAODA	CJMAOSE	2 1 N N A
—	CJMAODA	CJMAOSE	3 1 N N A
—	CJMAODA	CJMAOSE	4 1 N N A
—	CJMAODA	CJMAOSP	0 4 N N A
Command ==>>> _____ Scroll PAGE			
F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap			
F12=Cancel			

Sel

選択列。s を入力して表スペースを選択します。

PRC

列を処理します。アスタリスク (*) は、選択された表スペースを示します。

Database Name (データベース名)

表スペースを定義するデータベースの名前。

Table Space Name (表スペース名)

表スペースの名前。

Part'n Number (区画番号)

表スペースの区画番号。ゼロ値は、区画されていない表スペースを示しています。非ゼロ値は、区画番号を示しています。

Number Tables (表の数)

表スペース内の表の数。

Indexes Only (Y/N) (索引のみ (Y/N))

RUNSTATS が表スペースの索引にのみ実行されるかどうか (表スペースの表で統計を収集しない)。

Y

RUNSTATS は索引でのみ実行されます。

N

RUNSTATS は表および索引で実行されます。これはデフォルト設定です。

Report Stats (Y/N) (報告書状況 (Y/N))

ユーティリティの結果の概略が示されている報告書を SYSPRINT DDNAME に書き込むかどうか。

Y

報告書は SYSPRINT DDNAME に書き込まれます。

N

報告書は SYSPRINT DDNAME に書き込まれません。これはデフォルト設定です。

詳しくは、*Db2 ユーティリティ・ガイド*および*解説書*を参照してください。

Update Option (A/P/S/N) (更新オプション (A/P/S/N))

RUNSTATS ユーティリティによって更新されるカタログ表(ある場合)を示します。

A

すべて。カタログ表のすべてが更新されます。これはデフォルト設定です。

P

アクセス・パスのみ。アクセス・パス選択と関連した統計が更新されます。

S

スペースのみ。スペース情報と関連した統計のみが更新されます。

N

なし。カタログ表は更新されません。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RUNSTATS \(表スペース\) ページ 387](#)

LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS ユーティリティ (表スペース))」パネル

LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS ユーティリティ (表スペース))」パネルを使用して、RUNSTAT ユーティリティの RUNSTAT TABLESPACE 形式を使用するユーティリティ制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		RUNSTATS Utility (Table Spaces)	Row 1 to 2 of 2
P		Report	Update
R	LISTDEF	Stats	Option
Cmd C	Name	(Y/N)	(A/P/S/N)
_____	FRED	N	A
_____	* GEORGE	N	A
***** Bottom of data *****			
Command ==> _____ Scroll PAGE			
F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap			
F12=Cancel			

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティー)」パネルの「**LISTDEF name (LISTDEF 名)**」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティー\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RUNSTATS ユーティリティー ページ 386](#)
- [RUNSTATS \(表スペース\) ページ 387](#)

「Schemas (スキーマ)」パネル

「Schemas (スキーマ)」パネルを使用して、選択したスキーマに関する情報をリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールド、およびさまざまなカタログ表の列が含まれています。

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)		Schemas			
Location:		Format <u>TABL</u>			
SEL	SCHEMA	UDTS	UDFS	STPS	TRGS
	*	*	*	*	*
----	#2--+	-----#3	-----#4	-----#5	-----#6
****	Top of data	****			
----	SHRIKE2	1	3	0	2
----	SHRIKES	1	4	0	1
----	SQLJ	0	0	7	0
----	SYSPROC	0	0	10	0
----	SYSIBM	0	0	13	0
****	End of data	****			
Command ==>		Scroll <u>PAGE</u>			
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2@catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747
- 「Distinct Types (特殊タイプ)」パネル ページ 645
- 「Functions (関数)」パネル ページ 710
- 「Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)」パネル ページ 843
- 「Triggers (トリガー)」パネル ページ 884

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Distinct Types (特殊タイプ)」 パネル ページ 645	行コマンド DT
「Functions (関数)」 パネル ページ 710	行コマンド F
「Generate SQL From Db2 Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネル ページ 712	行コマンド GEN
「Stored Procedures (ストアド・プロシージャー)」 パネル ページ 843	行コマンド O
特権パネル ページ 764	行コマンド P
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Triggers (トリガー)」 パネル ページ 884	行コマンド TR
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Scramble Exit Specification (スクランブル出口指定)」 パネル

「Scramble Exit Specification (スクランブル出口の指定)」パネルでは、スクランブル出口の名前と出口に渡す定数を指定でき、数値フィールドを出口に渡す前にフォーマット設定する必要があるかどうかを指定できます。

パネルとフィールドの定義

図 130. 「Scramble Exit Specification (スクランブル出口指定)」パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Scramble Exit Specification		
Fixed Attributes:			
Column name	COLCARD		
Type	INTEGER		
Scramble Exit:			
Program name	_____		
Optional constant	_____	+	
Scramble Exit Processing Options:			
Format Option			
1. None			
2. Format			
3. Leading Zeros			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
	F7=Backward	F8=Forward	

Program name (プログラム名)

この出力列のコピー操作中に呼び出されるスクランブル出口を識別する、1文字から8文字の有効なロード・モジュール・メンバー名。出口の形式は、STEPLIB DD ステートメントを使用するか、あるいは LINKLIST または LPALIST 内のいずれかで、ロード・モジュール、またはコピー・プロセス時に FM/Db2 で使用できる任意のロード・ライブラリーにする必要があります。

Optional constant (オプション定数)

呼び出しタイプごとに出口に渡される定数値。16進値を入力するには、F4 を押すか、このフィールドにカーソルを置いて EXPAND コマンドを入力して、拡張ウィンドウから HEX ON コマンドを使用します。

Format Option (形式オプション)

このオプションは、数値列でのみ表示されます。このオプションを使用すると、以下のいずれかの形式で、「Optional constant (オプション定数)」で指定された値を出口に渡すように FM/Db2 に要求できます。

1 None (なし)

フィールド値は、内部フォーマットで出口に渡されます。

2. Format (形式)

フィールド値は、先行ゼロが抑制されて表示される数値として出口に渡されます。

3. Leading zeros (先行ゼロ)

フィールド値は、先行ゼロ付きで表示される数値として出口に渡されます。

親パネル

- [「Column Attributes \(列属性\)」パネル \(英数字\) ページ 492](#)
- [「Column Attributes \(列属性\)」パネル \(数値\) ページ 498](#)

関連するタスク

- [データのスクランブル ページ 301](#)

「Select Statement Browse (選択ステートメントのブラウズ)」パネル

以下のパネルのいずれかが表示されているときに、**「Use edit (instead of browse) to display results ((ブラウズの代わりに) 編集を使用して結果を表示)」** オプションを選択せずに Enter キーを押すと、FM/Db2 は「Select Statement Browse (選択ステートメントのブラウズ)」パネルを表示します。

- [「Basic SELECT Prototyping \(基本選択プロトタイピング\)」パネル ページ 485](#)
- [「Advanced SELECT Prototyping \(拡張 SELECT プロトタイピング\)」パネル ページ 462](#)

関連するタスク

- [「Systems Options \(1 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 1\)\)」パネル ページ 847](#)

「Select Statement Edit (選択ステートメントの編集)」パネル

以下のパネルのいずれかが表示されているときに、**「Use edit (instead of browse) to display results ((ブラウズの代わりに) 編集を使用して結果を表示)」** オプションを選択して Enter キーを押すと、FM/Db2 は「Select Statement Edit (選択ステートメントの編集)」パネルを表示します。

- [「Basic SELECT Prototyping \(基本選択プロトタイピング\)」パネル ページ 485](#)
- [「Advanced SELECT Prototyping \(拡張 SELECT プロトタイピング\)」パネル ページ 462](#)

関連するタスク

- [「Systems Options \(1 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 1\)\)」パネル ページ 847](#)

「Sequences (シーケンス)」パネル

「Sequences (シーケンス)」パネルを使用して、選択したシーケンスに関する情報を表示します。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSSEQUENCES の列が含まれています。

図 131. 「Sequences (シーケンス)」 パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                               Sequences                               0 of 1
1 rows fetched                               Format TABL

SEL      SCHEMA  OWNER   NAME      SEQTYPEX      SEQUENCEID  CREATEDBY
-----  *-----*-----*-----*-----*-----*-----*
----  #1-----#2-----#3-----#24-----1-----#5 #6-----
****  Top of data ****
****  SHRIKES SHRIKES SEQUENCE1 Sequence object      256 SHRIKES
****  End of data ****

Command ==>
F1=Help      F2=Zoom      F3=Exit      F4=CRetrieve  F5=RFind      F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
Scroll PAGE
    
```

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2® catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- [「Object List Utility \(オブジェクト・リスト・ユーティリティ\)」 パネル ページ 747](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Sequence (シーケンスの作成)」 パネル	行コマンド CR
「Sequence Dependencies (シーケンス依存関係)」 パネル	行コマンド DEP
「Drop Sequence (シーケンスの削除)」 パネル	行コマンド DR
「Grant Sequence Privileges (シーケンス特権の付与)」 パネル	行コマンド G
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Job card specifications \(option 0.3\)](#)(ジョブ・カード仕様 (オプション 0.3)) ページ 65

「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネル

「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネルを使用して、FM/Db2 テンプレートを生成するために FM/Db2 が COBOL コピーブックをコンパイルする方法をカスタマイズします。

これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで持続します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          Set COBOL Processing Options

Additional SYSLIB data sets:
1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____
6. _____
7. _____
8. _____
9. _____
10. _____

COBOL REPLACE Options:
From string                To string
1. _____ by _____
2. _____ by _____
3. _____ by _____
4. _____ by _____
5. _____ by _____

COBOL Compiler Options:
Enter "/" to select option
  _ DBCS                      _ Decimal-point is comma
  _ Arith(extend)              _ Mixed case field names
Additional options _____

Maximum Return Code to be accepted from compiler  04  (0-99)
Command ==> _____
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap
F12=Cancel
    
```

Additional SYSLIB data sets (追加 SYSLIB データ・セット)

上記の FM/Db2 機能のいずれかを使用しているときに、指定した COBOL コピーブックが COPY コンパイラ指示ステートメントを使用して、そのコピーブックと同じ PDS に属していない他のメンバーを組み込む場合には、そのような他の PDS をここで指定する必要があります。

理由は以下の通りです。COPY コンパイラ指示ステートメントで組み込まれたメンバーは、SYSLIB 連結内で検出されなければなりません。File Manager/Db2 パネルでコピーブックを指定する場合には、SYSLIB 連結

はコピーブックの PDS とこのパネルで指定できる最大 10 個の追加の PDS から構成されます。これらの PDS は順に (コピーブックの PDS、その後追加 PDS 1 から 10 まで) 検索されます。

COBOL REPLACE options (COBOL 置換オプション)

REPLACE コンパイラ指示ステートメントの “From string (検索ストリング)” および “To string (置き換えストリング)” の疑似テキスト文字ストリング。

コピーブックをテンプレートにコンパイルする前に、COBOL コピーブックに他の文字と置き換えたい文字が入っている場合には、これらの置換オプションを使用します。

例えば、コピーブックにコンパイルする前に除去するコロン文字 (:) が入っている場合には、「====」を “from (元)” ストリングとして指定し、「====」に対応する “To (宛先)” ストリングとして指定します。

REPLACE の “from (元)” および “To (宛先)” のストリングの指定については、IBM COBOL 言語解説書を参照してください。

COBOL Compiler Options (COBOL コンパイラ・オプション)

COBOL コピーブックをテンプレートにコンパイルする際に使用されるコンパイラ・オプション。

DBCS

File Manager に DBCS コンパイラ・オプションを使用するように指示します。

Decimal-point is comma (小数点はコンマ)

COBOL コピーブックのコンパイル時に「Decimal-point is comma (小数点はコンマ)」の SPECIAL-NAMES パラグラフを使用します。

Arith(extend) (Arith(拡張))

COBOL コピーブックをコンパイルする際に Arith(拡張) COBOL コンパイル・オプションを使用します。

Mixed case field names (大/小文字混合のフィールド名)

COBOL コピーブックでコーディングされているとおりに、フィールド名の元の大/小文字を保持します。

Maximum Return Code (最大戻りコード)

コピーブックのコンパイル時に、コンパイラで受け入れられる最大の警告コードおよびエラー・コードを設定します。指定より高いコードがあると、ポップアップ・パネルが FM/Db2 によって表示され、コンパイルを検討し、以降の処理について決定することができます。

Additional options (追加オプション)

テンプレートの作成または更新のために COBOL コンパイルを実行する際に、CBL ステートメントによって追加された、追加の COBOL コンパイラ・オプション。これらのオプションは、コンパイル処理中に妥当性検査されます。コンパイル・エラーを回避するには、構文が正しいこと、および File Manager を呼び出す前にこれらのオプションに必要な追加データ・セットがすべて割り振られていることを確認します。

親パネル

•

子パネル

なし。

関連するタスク

- [COBOL compiler specifications \(option 0.5\) \(COBOL コンパイラ仕様 \(オプション 0.5\)\)](#) ページ 66

「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」パネル

「HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」パネルは、HLASM コピーブック からテンプレートを生成するために、HLASM コンパイラによって使用されるさまざまなオプション を制御します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Help
-----
File Manager          Set HLASM Processing Options

Additional SYSLIB data sets:
1.  -----
2.  -----
3.  -----
4.  -----
5.  -----
6.  -----
7.  -----
8.  -----
9.  -----
10. -----

HLASM Compiler Options:

Enter "/" to select option
-  DBCS
-  NOALIGN

Additional options -----

Maximum Return Code to be accepted from compiler 04 (0-99)
Command ==>-----
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward F8=Forward  F9=Swap
F10=Actions  F12=Cancel
    
```

Additional SYSLIB data sets (追加 SYSLIB データ・セット)

10 個までの SYSLIB データ・セットの連結を入力できます。これらのデータ・セットは、コンパイル用に COPY または INCLUDE メンバーに指定された順序で検索されます。

HLASM Compiler Options for Copybooks (コピーブックの HLASM コンパイラ・オプション)

HLASM コピーブックをテンプレートにコンパイルする際に使用されるコンパイラ・オプション。

DBCS

選択されると、DBCS コンパイラ・オプションを使用します。

NOALIGN

選択されると、NOALIGN コンパイラ・オプションを使用します。

Additional options (追加オプション)

テンプレートの作成または更新のためにアセンブラーを実行する際に、*PROCESS ステートメントによって追加された、追加の HLASM コンパイラー・オプション。これらのオプションは、アセンブリー処理中に妥当性検査されます。アセンブリー・エラーを回避するために、構文が正しいことを確認してください。

親パネル

- [Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)] パネル ページ 827
- [Set Processing Options (処理オプションの設定)] パネル ページ 824

子パネル

- なし。

コメント

- HLASM compiler specifications (option 0.6) (HLASM コンパイラー仕様 (オプション 0.6)) ページ 66

[Set Optimizer Hint (最適化プログラム設定のヒント)] パネル**パネルとフィールドの定義**

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Set Optimizer Hint		
Insert a hint for the optimizer into FMUSER.PLAN_TABLE.			
Columns Considered by the Optimizer:			
Query number . . .	<u>1</u>		
Query block number	<u>1</u>		
Application plan . . .			(blank for packages)
DBRM/package . . .	<u>MGRMAIN</u>		
Collection	<u>FMN2PLN1</u>		(blank for plans)
Version			
Access method . . .	<u>0</u>		(0, 1, 2, 3, or 4)
Access type			(I, I1, N, R, M, MX, MI, MU)
Table owner	<u>SYSIBM</u>		
Table name	<u>SYSTABLES</u>		
Correlation name .			
Table number . . .	<u>1</u>		
Index owner			
Index name			(required for access type I, I1, or N)
Sort new table . . .	<u>N</u>		
Sort composite . . .	<u>N</u>		
Prefetch	<u>S</u>		(' ', S, or L)
Parallelism	<u>?</u>		(?, I, C, or X)
Access degree . . .	<u>?</u>		(? lets Db2 decide)
Join degree	<u>?</u>		(? lets Db2 decide)
Hint ID			(required hint ID)
Comment			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

親パネル

- [Plan Table Rows (プラン表行)] パネル ページ 752

子パネル

なし。

関連するタスク

「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネル

パネルとフィールドの定義

図 132. 「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネル

Process	Options	Help					
File Manager		Set Output Data Set Allocation Options					
Set processing options as desired and enter EXIT (F3) to save your changes. Enter RESET to restore installation defaults.							
Data set	Space Units	Primary Quantity	Secondary Quantity	Management Class	Storage Class	Data Class	Device Type
Audit Log	CYL	16	8				SYSALLDA
Print	CYL	64	32				SYSALLDA
Trace	CYL	64	32				SYSALLDA
SHOWSQL	TRK	20	20				SYSALLDA
Edit XML	TRK	20	20				SYSALLDA
Command ==>							
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F6=Reset	F7=Backward		
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel				

機能によっては、FM/Db2 がデータ・セットを割り振る場合があります。「Audit Log (監査ログ)」、「Print (印刷)」、「Trace (トレース)」、「SHOWSQL」(SQL の表示に使用される)、および「XML Edit (XML 編集)」の割り振り属性をここで指定できます。「Audit Log (監査ログ)」、「Print (印刷)」、および「Trace (トレース)」のデータ・セットは、常に永続 (カタログ) データ・セットです。SHOWSQL データ・セットは、一時データ・セットか永続データ・セットのどちらかです。「XML Edit (XML 編集)」データ・セットは、常に一時データ・セットです。一時データ・セットは高位修飾子 (SYSxxxx など) を持っていて、FM/Db2 機能の終了時に、自動的に削除されます。

SMS 設定および他のシステム設定に応じて、このパネルで指定された割り振り値は割り振りプロセスの一部として SMS によって変更される可能性があり、また一時データ・セットは VIO に割り振られる可能性があります。

Space Units (スペース単位)

割り振る 1 次および 2 次スペースの単位を定義します。

BLK

平均サイズのブロック。

KB

キロバイト。1 キロバイトは 1024 バイトです。

MB

メガバイト。1 メガバイトは 1048576 バイトです。

TRK

直接アクセス・ストレージ・デバイス (DASD) のトラック。

CYL

DASD のシリンダー。

Primary Quantity (1 次数量)

1 次スペース割り振りに使用する DASD スペースの量。範囲は、指定するスペース単位および DASD 装置タイプによって異なります。

Secondary Quantity (2 次数量)

2 次スペース割り振りに使用する DASD スペースの量。範囲は、指定するスペース単位および DASD 装置タイプによって異なります。

Management Class (管理クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義される管理クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Storage Class (ストレージ・クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義されるストレージ・クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Data Class (データ・クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義されるデータ・クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Device Type (装置タイプ)

データ・セットを入れるボリュームの装置タイプを指定します。システムでサポートされている IBM® 装置タイプまたは汎用装置名を入力します。

親パネル

- [「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」](#) パネル ページ 824

子パネル

- なし。

コメント

- なし。

「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル

「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネルを使用して、FM/Db2 テンプレートを生成するために FM/Db2 が PL/I コピーブックをコンパイルする方法をカスタマイズします。

これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	Set PL/I Processing Options		
Additional SYSLIB data sets:			
1.	_____		
2.	_____		
3.	_____		
4.	_____		
5.	_____		
6.	_____		
7.	_____		
8.	_____		
9.	_____		
10.	_____		
PL/I Compiler Options for Copybooks:			
Enter "/" to select option			
- GRAPHIC		- UNALIGNED	
- 63 bit binary		- 31 digit decimal	
Additional options _____			
Maximum Return Code to be accepted from compiler 04 (0-99)			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

Additional SYSLIB data sets (追加 SYSLIB データ・セット)

PL/I コピーブックのコンパイルに使用される追加 SYSLIB データ・セット。

PL/I Compiler Options (PL/I コンパイラー・オプション)

これらのオプションは、FM/Db2 テンプレートを生成するために FM/Db2 が PL/I コピーブックをコンパイルする方法を決定します。

Additional SYSLIB data sets (追加 SYSLIB データ・セット)

コピーブックに他の PL/I コピーブックの参照が含まれている場合に、検索するデータ・セットの名前。

GRAPHIC

コピーブックに DBCS または混合データが含まれている場合に、このオプションを選択します。

UNALIGNED

フィールドがフルワード境界に位置合わせされていない場合に、このオプションを選択します。

63 bit binary (63 ビット 2 進数)

63 ビット 2 進数のサポートが必要な場合に、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、PL/I コンパイラー・オプション LIMITS(FIXEDBIN(63)) が使用されます。

31 digit decimal (31 ビット 10 進数)

31 桁 10 進数のサポートが必要な場合に、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、PL/I コンパイラー・オプション LIMITS(FIXEDDEC(31)) が使用されます。

Additional options (追加オプション)

テンプレートの作成または更新のために PL/I コンパイルを実行する際に、*PROCESS ステートメントによって追加された、追加の PL/I コンパイラー・オプション。これらのオプションは、コンパイル処理中に妥当性検査されます。コンパイル・エラーを回避するには、構文が正しいこと、および File Manager を呼び出す前にこれらのオプションで必要な追加データ・セットがすべて割り振られていることを確認します。

これらのオプションを使用するときの影響の詳細については、「*IBM VisualAge PL/I for OS/390 プログラミングの手引き*」を参照してください。

Maximum Return Code (最大戻りコード)

コピーブックのコンパイル時に、コンパイラーで受け入れられる最大の警告コードおよびエラー・コードを設定します。指定より高いコードがあると、ポップアップ・パネルが FM/Db2 によって表示され、コンパイルを検討し、以降の処理について決定することができます。

親パネル

・

子パネル

なし。

関連するタスク

- ・ [デフォルト処理オプションの設定 ページ 63](#)

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネル

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルを使用して、現行 FM/Db2 セッションの処理を制御します。

これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Help
FM/Db2 (DFE2)	Set Print Processing Options	
Print Options:		
Output destination	Record length	Enter "/" to select option
<u>1</u> 1. SYSPRINT	<u>2</u> 1. 80	- Page skip
2. Terminal	2. 132	/ Wide print
3. Data set		/ Translate non-printable chars
4. REXX		- Uppercase message text
Data set DISP		
<u>2</u> 1. OLD		
2. MOD		
Data set name . . .	FMUSER.FMN.LIST	
Output class . . .	A	
Lines per page . . .	<u>50</u>	
Record limits . . .	(1,*)	(n,m) n=begin column, m=end column
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F4=CRetriev	F6=Reset	F7=Backward
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions
F12=Cancel		

Output destination (出力宛先)

バッチ実行以外の印刷出力の送信先を指定します。

SYSPRINT

印刷出力を現在の SYSPRINT 割り振りに送ります。

Terminal (端末)

印刷出力を TSO 端末に送信します。

Data Set (データ・セット)

出力は、「Data set name (データ・セット名)」フィールドに指定される印刷データ・セットに累積されます。このデータ・セットは、PB コマンドを使用してブラウズできます。あるいは、PRINT コマンドを使用して、「Output class (出力クラス)」フィールドにクラスを指定して、ブラウズ中に印刷のために JES スプール・キューに送信することもできます。

REXX

出力を REXX システム変数に送信します。各行は FILEM.nnn という名前の変数に対応します。FILEM.0 には行数が含まれます。

「Print Browse (印刷ブラウズ)」(オプション 3.9) で PRINT 基本コマンドを使用している場合、または File Manager/Db2 パネルでバッチ実行を指定している場合は、印刷出力は常に SYSOUT クラスに送信されます。

Record length (レコード長)

印刷出力の行長を指定します。

80

印刷出力の行長は 80 文字で、端末に適しています。

132

印刷出力の行長は 132 文字で、プリンターに適しています。



注: 「Record length (レコード長)」は、以下の場合には適用されません。

- データが TABL 形式で印刷される。または
- 比較出力リスト用に幅の広い形式を指定する。

上記のいずれかの場合にデータを印刷すると、行の長さは、印刷されるフィールドの数とサイズから決定されます。この長さがデータ・セットに指定されたレコード長より大きい場合は、印刷行は切り捨てられます。印刷行の最大長は 32760 文字です。

Data set DISP (データ・セット DISP)

印刷データ・セットの後処理を指定します。

OLD

各印刷操作の前に印刷データ・セットがクリアされ、印刷出力はデータ・セットの先頭から書き込まれます。

MOD

デフォルト設定。印刷出力は、既存の印刷データ・セットに付加されます。

Page skip (ページ・スキップ)

これを選択すると、各機能の印刷出力は改ページにより開始されます。

Wide print (ワイド印刷)

選択されると、割り振る (新規の) 印刷出力データ・セット (オンライン) または SYSPRINT 割り振り (バッチ内) では、FM/Db2 は、最大のレコード長/ブロック・サイズである 32756/32760、およびレコード・フォーマットとして VBA を使用します。

選択されない場合、割り振る (新規の) 印刷出力データ・セット (オンライン) または SYSPRINT 割り振り (バッチ内) では、FM/Db2 は、レコード長/ブロック・サイズである 133/137 およびレコード・フォーマットとして VBA を使用します。



注: この設定は、実行時に出力データ・セットが新しく割り振られる場合にのみ適用されます。事前割り振り印刷出力データ・セットではこの設定は無視されます。

Translate non-printable chars (印刷不能文字の変換)

FM/Db2の印刷不能文字の変換方法を指定します。

これを選択すると、変換テーブルが使用されて印刷不能文字がブランクに変換されます。

これを選択しない場合、変換は実行されません。特殊印刷チェーンをサポートするには、PRTRTRANS=OFF を使用します。これによって、印刷が高速になります。

印刷変換テーブルの変更については、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

Uppercase message text (大文字のメッセージ・テキスト)

すべてのメッセージ・テキストは大文字に変換されます。

Data set name (データ・セット名)

「**Output destination (出力宛先)**」で「**3**」(データ・セット)を指定した場合、印刷ブラウザ (PB) 機能を実行しているときに PRINT コマンドを入力すると、FM/Db2 は印刷出力をこの一時データ・セットに送信します。

FM/Db2 のインストール済み環境で変更を行っていない限り、デフォルトは `userid.FMN.LIST` です。

Output class (出力クラス)

一時印刷データ・セットをブラウザしているときに PRINT コマンドを発行する場合に使用される JES スプール・キューのクラス。

Lines per page (ページ当たり行数)

印刷出力の各ページに印刷される行数を指定します。1 から 999 までの値が指定できます。デフォルトは 60 です。

Record limits (レコード制限)

データを CHAR または LHEX 印刷形式で印刷するときに、各レコード (または OAM オブジェクト) の印刷出力を制限します。

(1,*)

レコード (またはブロック) 全体が印刷されます。

(n,m)

印刷出力は、 n 列目 (バイト) から m 列目までのデータに制限されます。 m にアスタリスク (*) を指定すると、それはレコードの終端を示します。

親パネル

- [「Set System Processing Options \(システム処理オプションの設定\)」パネル ページ 827](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Print settings \(option 0.1\) \(印刷設定 \(オプション 0.1\)\) ページ 65](#)
- [PRINT 基本コマンド ページ 961](#)
- [FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342](#)

「**Set Processing Options (処理オプションの設定)」** パネル

「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネルを使用して、FM/Db2 パネルの動作に影響を及ぼすさまざまなタイプのオプションを設定できる他のパネルに進みます。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

Process	Help
FM/Db2 (DFG2)	Set Processing Options
0	System System Options
1	View View options
2	Edit Edit options
3	Utilities
3.1	Print Print utility options
3.3	Copy Copy utility options
3.4	Object List Object list utility options
3.6	Import Import utility options
3.7	Export Export utility options
3.L	Load Db2 LOAD utility options
3.U1	LISTDEF Db2 Utility LISTDEF options
3.U2	OPTIONS Db2 Utility OPTIONS options
3.U3	TEMPLATE Db2 Utility TEMPLATE options
3.U4	Unload Db2 Unload utility options
Command ==>	
F1=Help	F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel	

0 System Options (システム・オプション)

「Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)」パネルを表示します

1 View (表示)

最初の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

2 Edit (編集)

最初の「Editor Options (編集オプション)」パネルを表示します。

3 Utilities (ユーティリティー)

「Set Utilities Processing Options (ユーティリティー処理オプションの設定)」パネルを表示します

3.1 Print (印刷)

「Print Utility Options (印刷ユーティリティー・オプション)」パネルを表示します。

3.3 Copy (コピー)

「Copy Options (コピー・オプション)」パネルを表示します。

3.4 Object List (オブジェクト・リスト)

「FM/Db2 Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」パネルを表示します。

3.6 Import (インポート)

「Import Options (インポート・オプション)」パネルを表示します。

3.7 Export (エクスポート)

最初の「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルを表示します。

3.L LOAD (ロード)

「Load Utility Options (LOAD ユーティリティー・オプション)」パネルを表示します。

3.U LISTDEF

「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」パネルを表示します。

3.UO OPTIONS

「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネルを表示します。

3.UT TEMPLATE

「TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))」パネルを表示します。

3.UU Unload (アンロード)

「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」パネルを表示します。

親パネル

- ・ 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネル ページ 756

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)」パネル ページ 827	オプション 0
「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネル ページ 821	オプション 0.1
「Systems Options (1 of 4) (システム・オプション (4 の 1))」パネル ページ 847	オプション 0.2
「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネル ページ 813	オプション 0.3
「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」パネル ページ 513	オプション 0.4
「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネル ページ 814	オプション 0.5
「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」パネル ページ 816	オプション 0.6
「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル ページ 820	オプション 0.7
「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」パネル ページ 830	オプション 0.8
「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネル ページ 818	オプション 0.9
「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネル ページ 727	オプション 0.10

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))] パネル ページ 651	オプション 1 または 2
[Set Utility Options (ユーティリティー・オプションの設定)] パネル ページ 833	オプション 3
[Print Utility Options (印刷ユーティリティー・オプション)] パネル ページ 758	オプション 3.1
[Copy Options (コピー・オプション)] パネル ページ 515	オプション 3.3
[Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))] パネル ページ 741	オプション 3.4
[Import Options (インポート・オプション)] パネル ページ 716	オプション 3.6
[Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))] パネル ページ 691	オプション 3.7
[LOAD Utility Options (LOAD ユーティリティー・オプション)] パネル ページ 737	オプション 3.L
[LISTDEF Options (LISTDEF オプション)] パネル ページ 728	オプション 3.U1
[OPTIONS Options (OPTIONS オプション)] パネル ページ 749	オプション 3.U0
[TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))] パネル ページ 877	オプション 3.UT
[UNLOAD Options (UNLOAD オプション)] パネル ページ 885	オプション 3.UU

関連するタスク

- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63

[Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)] パネル

[Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)] パネルを使用して他のパネルに進みます。

パネルとフィールドの定義

Process	Help
FM/Db2 (DFG2)	Set System Processing Options
1 Print	Print settings
2 System	FM/Db2 system options
3 Batch	Job card specifications
4 LANG	Compiler language selection
5 COBOL	COBOL compiler specifications
6 HLASM	HLASM compiler specifications
7 PL/I	PL/I compiler specifications
8 Temporary	Temporary Data Set Allocations
9 Output	Output Data Set Allocations
10 Trace	Trace options
11 ISPF	ISPF settings
Command ==>	
F1=Help	F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel	

1 Print (印刷)

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルを表示します

2 System (システム)

最初の「FM/Db2 System Options (システム・オプション)」パネルを表示します

3 Batch (バッチ)

「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネルを表示します

4 LANG

「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」パネルを表示します

5 COBOL

「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネルを表示します

6 HLASM

「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」パネルを表示します

7 PL/I

「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネルを表示します

8 Temporary (一時)

「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」パネルを表示します

9 Output (出力)

「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネルを表示します。

10 Trace (トレース)

「Set Trace Options (トレース・オプションの設定)」パネルを表示します

11 ISPF

「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネルを表示します

「ISPF 設定」パネルのフィールドの説明については、関連する対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第 2 巻 z/OS を参照してください。

親パネル

- 「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル ページ 824

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネル ページ 821	オプション 1
「Systems Options (1 of 4) (システム・オプション (4 の 1))」パネル ページ 847	オプション 2
「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネル ページ 813	オプション 3
「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」パネル ページ 513	オプション 4
「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネル ページ 814	オプション 5
「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」パネル ページ 816	オプション 6
「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル ページ 820	オプション 7
「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」パネル ページ 830	オプション 8
「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネル ページ 818	オプション 9
「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」パネル ページ 831	オプション 10
「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネル ページ 727	オプション 11

関連するタスク

- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63

「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」パネル

パネルとフィールドの定義

図 133. 「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)      Set Temporary Data Set Allocation Options

Set processing options as desired and enter EXIT (F3) to save your changes.
Enter RESET to restore installation defaults.

Temporary data set allocation defaults:
Unit . . . . . SYSALLDA          leave blank for default
Data class . . . . .           leave blank for default
Storage class . . . . .         leave blank for default
Management class . . . . .     leave blank for default

Default High Level Qualifiers:
Temporary Data Sets _____ HLQ (opt. &USER/&PREFIX)

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F6=Reset      F7=Backward
F8=Forward   F9=Swap       F10=Actions  F12=Cancel
    
```

Temporary data set allocation defaults (一時データ・セット割り振りデフォルト)

Unit (装置)

以下のいずれかにすることができます。

- 3桁の16進数の装置番号。
- スラッシュ (/) の接頭部が付いた4桁の16進数の装置番号。
- 装置タイプ (総称名)。
- グループ名 (インストール・システム定義のシンボル名)。

Data class (データ・クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義されるデータ・クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Storage class (ストレージ・クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義されるストレージ・クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Management class (管理クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義される管理クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Default High Level Qualifiers (デフォルト高位修飾子)

Temporary Data Sets (一時データ・セット)

任意の複数レベルの修飾子 (作成されたデータ・セットの名前での高位修飾子 (HLQ) として File Manager によって使用される) にすることができます。HLQ の一部として、以下のシンボルを使用することができます。

&USER

ユーザー ID を表します。

&PREFIX

TSO 接頭部を表します。

File Manager のインストール済み環境で変更を行っていない限り、デフォルトは「なし」です。

親パネル

- [「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」](#) パネル ページ 824

子パネル

- なし。

コメント

- なし。

「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」パネル

「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」パネルを使用して、デバッグ・モードで実行されているときに FM/Db2 によって生成されるトレース出力を制御するパラメーターを表示および変更することができます。

パネルとフィールドの定義

図 134. 「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」パネル

Process	Options	Help
FM/Db2 (DFE2)	Set Trace options	
Trace Options:		
Trace destination		
3	1. FMNTRC	
	2. Terminal	
	3. Data set	
Data set name	JHELVON.FMN.TRACE	
Output class	A	
Trace limit	500	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F4=CRetrieve	F6=Reset	F7=Backward
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions
F12=Cancel		

Trace destination (トレース宛先)

FM/Db2 のデバッグ・トレース出力の送信先を指定します。以下のいずれかを指定します。

FMNTRC

トレース出力を現在の FMNTRC 割り振りに送信します。

Terminal (端末)

トレース出力を端末に送信します。

Data Set (データ・セット)

トレース出力を、「Data set name (データ・セット名)」フィールドに指定された一時データ・セットに送信します。

Data set name (データ・セット名)

データ・セットのトレース宛先が指定されているときに FM/Db2 トレース出力が送られる、一時トレース・データ・セット。

Output class (出力クラス)

一時トレース・データ・セットの参照中に PRINT コマンドが発行された場合に使用される JES スプール・キューのクラス。

Trace limit (トレース制限)

デバッグ・モードでの実行時には、FM/Db2 はトレース出力をバッファーに書き込みますが (通常のデバッグ・モードの場合と同様)、FM/Db2 が異常終了した場合は、バッファーはトレース宛先にのみ書き込まれます。

このフィールドは、バッファーに保持されるトレース・ステートメントの数を指定します。この値にゼロを指定すると、バックグラウンド・デバッグ・モードはオフになります。

親パネル

[Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)] パネル ページ 827

子パネル

なし。

関連するタスク

[Set Utility Options (ユーティリティー・オプションの設定)] パネル

[Set Utility Processing Options (ユーティリティー処理オプションの設定)] パネルを使用して他のパネルに進みます。

パネルとフィールドの定義

Process	Help
FM/Db2 (DFG2)	Set Utility Processing Options
1 Print	Print utility options
3 Copy	Copy utility options
4 Object list	Object list utility options
6 Import	Import utility options
7 Export	Export utility options
L LOAD	Db2 LOAD utility options
UL LISTDEF	Db2 Utility LISTDEF options
UO OPTIONS	Db2 Utility OPTIONS options
UT TEMPLATE	Db2 Utility TEMPLATE options
UU Unload	Db2 Unload utility options
Command ==>	
F1=Help	F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel	

1 Print (印刷)

[Copy Options (コピー・オプション)] パネルを表示します。

3 Copy (コピー)

[Copy Options (コピー・オプション)] パネルを表示します。

4 Object list (オブジェクト・リスト)

[FM/Db2 Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))] パネルを表示します。

6 Import (インポート)

[Import Options (インポート・オプション)] パネルを表示します。

7 Export (エクスポート)

最初の [Export Options (エクスポート・オプション)] パネルを表示します。

L LOAD (ロード)

「Load Utility Options (LOAD ユーティリティー・オプション)」パネルを表示します。

UL LISTDEF

「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」パネルを表示します。

UO OPTIONS

「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネルを表示します。

UT TEMPLATE

「TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))」パネルを表示します。

UU Unload (アンロード)

「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」パネルを表示します。

親パネル

- ・ [「Set Processing Options \(処理オプションの設定\)」](#) パネル ページ 824

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Copy Options (コピー・オプション)」 パネル ページ 515	オプション 3
「Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」 パネル ページ 741	オプション 4
「Import Options (インポート・オプション)」 パネル ページ 716	オプション 6
「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」 パネル ページ 691	オプション 7
「LOAD Utility Options (LOAD ユーティリティー・オプション)」 パネル ページ 737	オプション L
「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」 パネル ページ 728	オプション UL
「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」 パネル ページ 749	オプション UO
「TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))」 パネル ページ 877	オプション UT
「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」 パネル ページ 885	オプション UU

関連するタスク

- ・ [デフォルト処理オプションの設定](#) ページ 63

「Sort Fields (ソート・フィールド)」パネル

「Sort Fields (ソート・フィールド)」パネルを使用して、現行オブジェクト・リスト内の複数の列をソートします。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Sort Fields	Row 1 to 11 of 43
Sort Column Number	Asc/ Desc	Column Name *	Column Type *
			Db2 Column Number *
0	ASC	NAME	VARCHAR 1
0	ASC	CREATOR	CHAR 2
0	ASC	TYPE	CHAR 3
0	ASC	DBNAME	CHAR 4
0	ASC	TSNAME	CHAR 5
0	ASC	DBID	SMALLINT 6
0	ASC	OBID	SMALLINT 7
0	ASC	COLCOUNT	SMALLINT 8
0	ASC	EDPROC	CHAR 9
0	ASC	VALPROC	CHAR 10
0	ASC	CLUSTERTYPE	CHAR 11
Command ==>		Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	F7=Backward F8=Forward

Sort Column Number (ソート列番号)

ソート順のこの列の相対位置。最も重要な列に 1、次に重要な列に 2 というように指定します。

Asc/Desc

FM/Db2 に列を昇順でソートさせたいか、それとも降順でソートさせたいかを指示します。

ASC

昇順。DESC から変更するには、ASC または A を上書きします。

DESC

降順。ASC から変更するには、DESC または D を上書きします。

Column name (列名)

Db2® カタログ表に保持された列の名前。

Column Type (列タイプ)

列の データ・タイプ。

Db2® 列番号

Db2® カタログ表に保持された列の数。

親パネル

「Sort Fields (ソート・フィールド)」パネルは、任意のオブジェクト・リストからコマンド行に `sort` を入力し、カーソルがどの列内にも置かれていない場合に表示されます。

子パネル

このパネルの表示方法

使用または実行する機能

[Databases (データベース)] パネル ページ 616

オブジェクト・タイプ 1

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Table Spaces (表スペース)] パネル ページ 866	オブジェクト・タイプ 2
[Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)] パネル ページ 875	オブジェクト・タイプ 3
[Indexes (索引)] パネル ページ 724	オブジェクト・タイプ 4
[Columns (列)] パネル ページ 510	オブジェクト・タイプ 5
[Synonyms (同義語)] パネル ページ 845	オブジェクト・タイプ 6
[Application Plans (アプリケーション・プラン)] パネル ページ 483	オブジェクト・タイプ 7
[Application Packages (アプリケーション・パッケージ)] パネル ページ 480	オブジェクト・タイプ 8
[Collections (コレクション)] パネル ページ 491	オブジェクト・タイプ 9
[Database Request Modules (データベース要求モジュール)] パネル ページ 614	オブジェクト・タイプ 10
[Schemas (スキーマ)] パネル ページ 807	オブジェクト・タイプ 11
[Distinct Types (特殊タイプ)] パネル ページ 645	オブジェクト・タイプ 12
[Functions (関数)] パネル ページ 710	オブジェクト・タイプ 13
[Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)] パネル ページ 843	オブジェクト・タイプ 14
[Triggers (トリガー)] パネル ページ 884	オブジェクト・タイプ 15

関連するタスク

- [表示されたデータのソート](#) ページ 332

[SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)] パネル

[SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)] パネルを使用して、使用したい FM/Db2 SQL 機能を選択します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	SQL Prototyping, Execution and Analysis		
1 Basic	Prototype SELECT statements (basic)		
2 Advanced	Prototype SELECT statements (advanced)		
3 Enter	Enter, execute and explain SQL statements		
4 Edit	Edit and execute SQL statements from a data set		
5 Utility	Manage tables used by SQL explain		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

1 (Basic (基本))

このオプションは、基本 SELECT ステートメントを作成して実行するために使用します。

2 (Advanced (拡張))

このオプションは、複雑な SELECT ステートメントを作成して実行するために使用します。

3 (Enter (入力))

このオプションは、SQL ステートメントを入力、実行、およびエクスプレインするために使用します。

4 (Edit (編集))

このオプションは、SQL ステートメントをデータ・セットから編集して実行するために使用します。

5 (Utility (ユーティリティ))

このオプションは、Db2® ステートメントの使用をサポートするユーティリティを選択するために使用します。

親パネル

- ・ [「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」](#) パネル ページ 756

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)」 パネル ページ 485	オプション 1
「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」 パネル ページ 462	オプション 2
「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレイン)」 パネル ページ 686	オプション 3

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Edit/Execute SQL (Data Set) (SQL の編集/実行 (データ・セット))] パネル ページ 648	オプション 4
[Explain Utilities (エクスプレイン・ユーティリティー)] パネル ページ 688	オプション 5

関連するタスク

- 基本 SQL プロトタイピングの使用 ページ 402
- 拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411
- SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレイン ページ 437
- データ・セットからの SQL ステートメントの編集と実行 ページ 442
- SQL エクスプレインで使用される表の管理 ページ 443

[Statement Table Rows (ステートメント表行)] パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して SR 行コマンドを使用すると、[Plan Table Rows (プラン表行)] パネル ページ 752 は [Statement Table Rows (ステートメント表行)] パネルを表示します。

このパネルを使用して、表からの行を表示します。

図 135. [Statement Table Rows (ステートメント表行)] パネル (コレクション ID 形式)

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2) ----- Statement Table Rows ----- Row 1 to 1 of 1
C          Query COLLECT. Prognam Stmt  C  Estimated  Estimated
  Number (COLLID) (PACKG)  Type  C Serv. Units  Proc. ms Reason
-----* *-----* *-----* * *-----* *-----*
__ 2001071003 FMN2TEST MGRMAIN  SELECT A          13          3
***** END OF Db2 DATA *****

Command ==> _____ Scroll PAGE
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel
    
```

[Statement Table Rows (ステートメント表行)] パネルには、ステートメント表からの行が表示されます。

C

以下の行コマンドの 1 つを入力できる入力フィールド。

DK

パッケージの行の削除

DP

計画の行の削除

DQ

照会番号の行の削除

I

EXPLAIN データの解釈

K

パッケージの表示

M

DBRM の表示

P

計画の表示

Query Numb (照会番号)

SQL ステートメントを識別する番号。

Applname (アプリケーション・プラン名)

動的 EXPLAIN のプラン名またはブランク。この情報が表示されるのは、パネルの PLAN 形式の場合だけです。

Collect (コレクション)

コレクション名。この情報が表示されるのは、パネルの COL 形式の場合だけです。

Progname

DBRM/パッケージ名。

Stmt Type (ステートメント・タイプ)

ステートメント・タイプ。

CC

コスト区分。

A

デフォルト値を使用しません。

B

コストの計算時にデフォルト値を使用します。

Estimated (見積) SU

サービス単位での見積処理プログラム・コスト。

Estimated (見積) P ms

ミリ秒での見積処理プログラム・コスト。

理由

見積をコスト区分 B に書き込む理由を示すストリング (C Cを参照)。

親パネル

- [「Plan Table Rows \(プラン表行\)」パネル ページ 752](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「EXPLAIN Interpretation (EXPLAIN 解釈)」パネル ページ 688	行コマンド I
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」パネル ページ 480	行コマンド K

関連するタスク

- [SQL エクスプレインで使用される表の管理 ページ 443](#)

「Storage Group(s) (ストレージ・グループ)」パネル

「Storage Group(s) (ストレージ・グループ)」パネルを使用して、選択したストレージ・グループに関する情報を表示します。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSSTOGROUP の列が含まれています。

図 136. 「Storage Group(s) (ストレージ・グループ)」パネル

Process		Options		Utilities		Help	
FM/Db2 (DFG2)				Storage Group(s)			
Location:						Format TABL	
SEL	NAME	CREATOR	VCATNAME	SPACE	SPCDATE	CREATEDBY	STATSTIME
----	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*
----	#1-----	#2-----	#3-----	-----#5	#6----	#8-----	#9-----1----
****	Top of data	****					
----	DSN8G810	CJUNELL	DFA2	0		CJUNELL	0001-01-01-00.
----	JLV3G810	SHRIKES	DFA2	0		SHRIKES	0001-01-01-00.
----	JOHNG810	SHRIKES	DFA2	0		SHRIKES	0001-01-01-00.
----	KPS8G810	SHRIKES	DFA2	0		SHRIKES	0001-01-01-00.
----	KPSAG810	SHRIKES	DFA2	0		SHRIKES	0001-01-01-00.
----	SYSDEFLT	CJUNELL	DFA2	0		CJUNELL	0001-01-01-00.
****	End of data	****					
Command ==>						Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

**注:**

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するとき FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するとき FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2® catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747

子パネル**このパネルの表示方法**

[\[Databases \(データベース\)\]](#) パネル ページ 616

使用または実行する機能

行コマンド D

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Storage Group Usage Privileges (ストレージ・グループ使用特権)] パネル ページ 842	行コマンド P
[Table Space Parts (表スペースのパーツ)] パネル ページ 866	行コマンド PT
[Display Row (表示行)] パネル ページ 644	行コマンド ROW
[Table Spaces (表スペース)] パネル ページ 866	行コマンド S
[Volumes (ボリューム)] パネル ページ 900	行コマンド VOL
[Indexes (索引)] パネル ページ 724	行コマンド X
[Index Parts (索引 パーツ)] パネル ページ 724	基本コマンド XPT

関連するタスク

- 処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316
- 行コマンド域 (Cmd) の使用法 ページ 323

関連する参照先

- SORT 基本コマンド ページ 974

関連するタスク

- SQL エクスプレインで使用される表の管理 ページ 443

「Storage Group Usage Privileges (ストレージ・グループ使用特権)」 パネル

図 137. 「Storage Group Usage Privileges (ストレージ・グループ使用特権)」 パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)      Storage Group Usage Privileges for DSN8G810
                                     Format TABL

SEL  GRANTOR  GRANTEE  QUALIFIER  NAME      AUTHHOEX  OBTYPEEX  USEAUTEX
----  *-----  *-----  *-----  *-----  *-----  *-----  *-----
      #1----- #2----- #3----- #4----- #15----- #16----- #17-----
**** Top of data ****
      CJUNELL  CJUNELL      DSN8G810  SYSADM    Storage Group Grant
      CJUNELL  PUBLIC       DSN8G810  SYSADM    Storage Group Yes
      SHRIKE2  ID1          DSN8G810  SYSADM    Storage Group Yes
**** End of data ****

Command ==>
F1=Help      F2=Zoom      F3=Exit      F4=CRetrie  F5=RFind    F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Left    F11=Right   F12=Cancel
    
```



注: このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “*Db2@catalog tables* (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- [「Storage Group\(s\) \(ストレージ・グループ\)」 パネル ページ 840](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Grant Storage Group Privileges (ストレージ・グループ特権の認可)」 パネル	行コマンド G
「Storage Group Use Privilege Details (ストレージ・グループ使用特権の詳細)」 パネル	行コマンド I
「Revoke Storage Group Privileges (ストレージ・グループ特権の取り消し)」 パネル	行コマンド R
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連するタスク

- [SQL エクスプレインで使用される表の管理 ページ 443](#)

「Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)」 パネル

「Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)」 パネルを使用して、選択したストアド・プロシージャに関する情報を表示します。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSROUTINES の列が含まれています。

Process		Options		Utilities		Help	
FM/Db2 (DFG2)				Stored Procedures			
Location:				Format <u>TABL</u>			
SEL	SCHEMA	NAME	ORIGINEX	OWNER	ROUTINEX	CREATEDB	
----	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	
----	#1-----#3-----1-----#90-----#2-----#89-----1-----#5-----						
****	Top of data ****						
----	SYSPROC	DSNWZP	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SYSPROC	DSNWSPM	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SYSPROC	DSNUTILS	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SYSPROC	DSNUTILU	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SYSPROC	DSNTPSMP	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SYSPROC	WLM_REFRESH	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SQLJ	INSTALL_JAR	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SQLJ	REPLACE_JAR	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SQLJ	REMOVE_JAR	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SYSPROC	DSNACICS	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
----	SYSPROC	DSNACCOR	External	CJUNELL	Stored procedure	CJUNELL	
Command ==>						Scroll <u>PAGE</u>	
F1=Help		F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	F8=Forward	
F9=Swap		F10=Left	F11=Right	F12=Cancel			



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2@catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747
- 「Schemas (スキーマ)」パネル ページ 807

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Alter Stored Procedure (ストアード・プロシージャの変更)」 パネル ページ 467	行コマンド A

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
コメント・パネル ページ 512	行コマンド COM
「Create Procedure (プロシージャの作成)」パネル ページ 559	行コマンド CR
除去パネル ページ 646	行コマンド DR
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
「Generate SQL From Db2 Catalog (カタログからの SQL の生成)」パネル ページ 712	行コマンド GEN
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
特権パネル ページ 764	行コマンド P
「Routine Parameters (ルーチン・パラメーター)」パネル ページ 796	行コマンド PARM
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」パネル ページ 480	行コマンド PKG
行コマンド PS	
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
「Display Row (表示行)」パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Schemas (スキーマ)」パネル ページ 807	行コマンド SCH
「Sort Fields (ソート・フィールド)」パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

「Synonym Dependencies (同義語の従属関係)」パネル

以下のパネルにリストされた項目に対して SYN 行コマンドを使用すると、FM/Db2 は「Synonym Dependencies (同義語の従属関係)」パネルを表示します。

- [「Application Plans \(アプリケーション・プラン\)」パネル ページ 483](#)、または
- [「Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)」パネル ページ 480](#)

「Synonyms (同義語)」パネル

「Synonyms (同義語)」パネルを使用して、Db2® カタログ内の同義語をリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSSYNONYMS の列が含まれています。

Process Options Utilities Help					
FM/Db2 (DFG2)		Synonyms		Format TABL	
Location:					
SEL	CREATOR	NAME	TBCREATOR	TBNAME	CREATEDBY
----	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*	*-----*
----	#2---+---	#1-----1-----+---	#4---+---	#3---+---	#6---+---
**** Top of data ****					
----	CJUNELL	ACT	DSN8810	ACT	CJUNELL
----	CJUNELL	DEPT	DSN8810	DEPT	CJUNELL
----	CJUNELL	EMP	DSN8810	EMP	CJUNELL
----	CJUNELL	EMPPROJACT	DSN8810	EMPPROJACT	CJUNELL
----	CJUNELL	PROJ	DSN8810	PROJ	CJUNELL
----	CJUNELL	PROJACT	DSN8810	PROJACT	CJUNELL
----	CJUNELL	TCONA	DSN8810	TCONA	CJUNELL
----	CJUNELL	TDSPTXT	DSN8810	TDSPTXT	CJUNELL
----	CJUNELL	TOPTVAL	DSN8810	TOPTVAL	CJUNELL
----	CJUNELL	VACT	DSN8810	VACT	CJUNELL
----	CJUNELL	VASTRDE1	DSN8810	VASTRDE1	CJUNELL
Command ==>>					Scroll PAGE
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetrie v	F5=RFind	F6=RChange
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するとき FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するとき FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2@ バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2@catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネル ページ 747
- 「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル ページ 875

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Create Synonym (同義語作成)」 パネル ページ 566	行コマンド CR
「Create Alias (別名の作成)」 パネル ページ 533	行コマンド CRA
除去パネル ページ 646	行コマンド DR
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド T
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Systems Options (1 of 4) (システム・オプション (4 の 1))」 パネル

「FM/Db2 Systems Options (1 of 4) (FM/Db2 システム・オプション (4 の 1))」 パネルを使用して、 の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

図 138. FM/Db2 「System Option (1 of 4) (システム・オプション (4 の 1))」 パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)          FM/Db2 System Options (1 of 4)          Global Settings

Uppercase Translation:
Enter "/" to select option
 / Translate Db2 object names
 / Translate input SQL statements

Encapsulation of SQL Identifiers in Double Quotes:
Use double quotes
 3 1. For Db2 SQL reserved words
   2. For IBM and Db2 SQL reserved words
   3. Always

More Options:
Enter "/" to select option
 / Arbitrary select statements, time display format, template creation
 / CCSID warning option
 / Editor choice for viewing output data, members; cancel confirmation

Command ==>>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward F8=Forward  F9=Swap
F11=NxtPage  F12=Cancel

```

Translate Db2® object names (オブジェクト名の変換)

Db2® オブジェクト所有者および Db2® オブジェクト名を大文字に変換します。(Db2® オブジェクトの位置は、常に大文字に変換されます)。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

このオプションを選択しないと、Db2® オブジェクト所有者および Db2® オブジェクト名はユーザーが入力したままとなります。

Translate input SQL statements (入力 SQL ステートメントの変換)

入力したフリー・フォームの SQL ステートメントを大文字に変換します。デフォルトが選択されています。

このオプションを選択しないと、フリー・フォームの SQL ステートメントはユーザーが入力したままとなります。

Encapsulation of SQL Identifiers in Double Quotes (二重引用符による SQL ID のカプセル化)

FM/Db2 によって生成された SQL ステートメント内で二重引用符によりカプセル化される SQL ID。次のいずれかを選択することができます。

- **1. For Db2® SQL reserved words (SQL 予約語の場合)**

Db2® オブジェクトに Db2® SQL 予約語である列名が含まれている場合には、それらの列名を二重引用符で囲まなければなりません。このオプションは、Db2® SQL 予約語である ID を二重引用符で囲むためのみ使用します。他の ID は、二重引用符でカプセル化することなしに SQL ステートメント内に表示されます。このオプションは、SQL 基本コマンド (SQL 基本コマンド ページ 975を参照) を使用して SQL ステートメントを生成し、それらを後で使用するために保管している場合にお奨めします。

- **2. For IBM® and Db2® SQL reserved words (SQL 予約語の場合)**

このオプションは、Db2® SQL 予約語か IBM® SQL 予約語のいずれかであるすべての ID を認識し、それらのワードを二重引用符で囲むために使用します。他の ID は、二重引用符でカプセル化することなしに SQL ステートメント内に表示されます。

- **3. Always (3. 常に使用する)** これはデフォルト設定です。このオプションは、表示、編集、ブラウズ、印刷、コピー、インポート、およびエクスポート機能にのみ適用され、結果として、すべての ID が FM/Db2 によって生成された SQL ステートメント内で二重引用符で囲まれます。



注:

1. SQL ID の構造に適用される規則については、*DB2 for z/OS SQL 解説書* を参照してください。
2. 一般に、任意の英大文字と 3 つの特殊文字 (\$、_、および @) は SQL ID の中で特別な考慮なしに使用することができます。ID に小文字、スペース、または他の文字が含まれる場合には、その ID を二重引用符で囲む必要があります。FM/Db2 は小文字およびその他の異常な文字を含む ID を検出して、それらを二重引用符で囲みます。これは、カプセル化オプションの選択とは無関係に行われます。
3. FM/Db2 によって使用される Db2® および IBM® SQL 予約語のリストは、使用可能な最新のものです。オプション 1 か 2 を選択していて、旧リリースの Db2® に接続すると、ID が初期リリースの Db2® では予約語として定義されていない場合でも、FM/Db2 はその ID を予約語として認識することがあります。

親パネル

- [「Set System Processing Options \(システム処理オプションの設定\)」](#) パネル ページ 827

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Systems Options (2 of 4) (システム・オプション (4 の 2))」 パネル ページ 850	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- [デフォルト処理オプションの設定](#) ページ 63
- [FM/Db2 システム・オプション \(オプション 0.2\)](#) ページ 65
- [TIME 列](#) ページ 170
- [INDEXINF 基本コマンド](#) ページ 944
- [「基本キーなし」エラー](#) ページ 209
- [「行不在」エラー](#) ページ 210

関連する参照先

- [SQL 基本コマンド ページ 975](#)

「Systems Options (2 of 4) (システム・オプション (4 の 2))」 パネル

「FM/Db2 Systems Options (2 of 4) (FM/Db2 システム・オプション (4 の 2))」 パネルを使用して、 の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで継続します。

パネルとフィールドの定義

図 139. 「FM/Db2 Systems Options (2 of 4) (システム・オプション (4 の 2))」 パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	FM/Db2 System Options (2 of 4)		Global Settings
Arbitrary SQL Select Statements:			
Editor option			
1	1. Browse		
	2. View		
	3. Edit		
Display Format for DATE/TIME Columns:			
Time display format		Date display format	
1	1. ISO (HH.MM.SS)	-	1. ISO (yyyy-mm-dd)
	2. JIS (HH:MM:SS)		2. EVR (dd.mm.yyyy)
	3. Db2 DSNHDECP setting		3. USA (mm/dd/yyyy)
			4. Db2 DSNHDECP setting
Catalog Queries and Template Creation:			
Enter "/" to select option			
/	Use uncommitted read when accessing the Db2 catalog		
_	Retrieve foreign key information when building templates		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F11=NxtPage	F12=Cancel	

Arbitrary SQL Select Statements (任意の SQL SELECT ステートメント)

結果表を表示するときに使用されるエディターのタイプ。結果表は、フリー・フォームの SQL ステートメントによって生成されます。デフォルトは 1 (**Browse**) です。

以下のいずれかのオプションを選択できます。

Browse (参照)

FM/Db2 は、「**Browse**」を使用して結果表を表示します。接頭部域は表示されないため、データは変更できません。

View (表示)

FM/Db2 は、「**View**」を使用して結果表を表示します。エディター・コマンドによって、またはデータを上書きすることによって、データを変更できます。ただし、変更内容を Db2® に保存することはできません。

Edit (編集)

FM/Db2 は、「Edit」を使用して結果表を表示します。エディター・コマンドによって、またはデータを上書きすることによって、データを変更できます。多くの場合、それらの変更を Db2® に保管できます。製品をインストールするときに、このオプションを無効にするよう選択した場合、このオプションは使用できません。

Display Format for DATE/TIME Columns (日付/時刻列の表示形式)**Time display format (時刻表示形式)**

Db2® TIME データ・タイプ列から取得されるデータの外部形式。このオプションのデフォルトは 1 (ISO) です。次のいずれかを選択することができます。

- 1. ISO (HH.MM.SS)。これはデフォルト形式です。
- 2. JIS (HH:MM:SS)
- 3. **Db2 DSNHDECP setting (Db2 DSNHDECP の設定)** (Db2® DSNHDECP モジュールに設定された外部形式を使用します)。

使用されている時刻形式によって異なりますが、Db2® からのデータの取得時には情報が失われることがあります (例えば、USA 形式の場合には、すべての時刻の 2 番目の部分が破棄されます)。LOCAL が指定されている (時刻形式出口が使用中である) 場合には、時刻値を外部形式に変換するときに情報が失われなことを確認してください。このオプションを使用したときは、以下が発生することがあります。

- TIME 列を含む表を削除または更新しようとしたときの SQLCODE 100 (行不在) 条件。
- 印刷、コピー、またはエクスポート操作でのすべての TIME 列の 2 番目の部分の除去 (2 番目の値は 00 に設定されます)。

Date display format (日付表示形式)

Db2® DATE データ・タイプ列から取得されるデータの外部形式。このオプションのデフォルトは 1 (ISO) です。次のいずれかを選択することができます。

- 1. ISO (yyyy-mm-dd)。これはデフォルト形式です。
- 2. EUR (dd.mm.yyyy)
- 3. USA (mm/dd/yyyy)
- 4. **Db2 DSNHDECP setting (Db2 DSNHDECP の設定)** (Db2® DSNHDECP モジュールに設定された外部形式を使用します)。

この設定は、エディターに表示されるデータに適用されます。

Use uncommitted read when accessing the Db2® catalog (カタログへのアクセス時の非コミット読み取りの使用)

このオプションにより、表示、編集、印刷、コピー、エクスポート、およびインポート機能のためのすべての Db2® カタログ・アクセスに、必ず非コミット読み取りオプションが使用されます (すなわち、Db2® カタログに対してロックは設定されません)。デフォルトが選択されています。

Retrieve foreign key information when building templates (テンプレートの構築時の外部キー情報の検索)

FM/Db2 は、オブジェクトのためのテンプレートの中に 1 次キー、索引、および外部キーに関する情報を保管します。この情報は、テンプレートの作成時に Db2® カタログから取得されて保管されるため、File Manager/Db2 エディター・セッションで表示できます。SYSIBM.SYSFOREIGNKEYS カタログ表に追加の索引が構築されていない場合には、外部キー情報の検索に対する応答が結果として遅くなることがあります (詳しくは、「File Manager カスタマイズ・ガイド」を表示)。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。このオプションを選択しないと、生成されたどのテンプレートにも外部キー情報は含まれません。

親パネル

- [「Systems Options \(1 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 1\)\)」](#) パネル ページ 847

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Systems Options (1 of 4) (システム・オプション (4 の 1))」 パネル ページ 847	「PrvPage」機能キー (F10) を押す
「Systems Options (3 of 4) (システム・オプション (4 の 3))」 パネル ページ 852	「NxtPage」機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- [デフォルト処理オプションの設定](#) ページ 63
- [FM/Db2 システム・オプション \(オプション 0.2\)](#) ページ 65
- [TIME 列](#) ページ 170
- [INDEXINF 基本コマンド](#) ページ 944
- [「基本キーなし」エラー](#) ページ 209
- [「行不在」エラー](#) ページ 210

関連する参照先

- [SQL 基本コマンド](#) ページ 975

[「Systems Options \(3 of 4\) \(システム・オプション \(4 の 3\)\)」](#) パネル

「FM/Db2 Systems Options (3 of 4) (FM/Db2 システム・オプション (4 の 3))」パネルを使用して、の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

図 140. FM/Db2 「System Options (3 of 4) (システム・オプション (4 の 3))」パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	FM/Db2 System Options (3 of 4)		Global Settings
CCSID Warning Message: Enter "/" to select option _ Initially ON			
CURRENT DECFLOAT ROUNDING MODE: Select value E C. ROUND_CEILING D. ROUND_DOWN F. ROUND_FLOOR G. ROUND_HALF_DOWN E. ROUND_HALF_EVEN H. ROUND_HALF_UP U. ROUND_UP			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F11=NxtPage	F12=Cancel	

CCSID Warning Message (CCSID 警告メッセージ)

このオプションの設定は、製品インストーラーによって変更されている可能性があります。このオプションが更新可能であれば、デフォルトでは選択されていません。

このオプションを変更することで、優先初期システム CCSID 警告メッセージ・オプションを設定できます。端末の CCSID が、プランの CCSID と異なる時に警告メッセージが表示されるように要求するには、このオプションを選択します。端末の CCSID が、プランの CCSID と異なる時に警告メッセージの表示を抑制するには、このオプションを選択しないでください。

CURRENT DECFLOAT ROUNDING MODE (現行 DECFLOAT 丸めモード)

現在接続されている Db2® システムの、現在の 10 進浮動小数点丸めモードを設定します。このオプションのデフォルトは E です。

指定できるさまざまな 10 進浮動小数点丸めモードの詳細については、「Db2® SQL リファレンス」を参照してください。

このオプションを設定すると、FM/Db2 が、CURRENT DECFLOAT ROUNDING MODE 特殊レジスターを変更する SQL ステートメントを発行します。

親パネル

- 「Systems Options (2 of 4) (システム・オプション (4 の 2))」パネル ページ 850

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Systems Options (2 of 4) (システム・オプション (4 の 2))] パネル ページ 850	[PrvPage] 機能キー (F10) を押す
[Systems Options (4 of 4) (システム・オプション (4 の 4))] パネル ページ 854	[NxtPage] 機能キー (F11) を押す

関連するタスク

- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- FM/Db2 システム・オプション (オプション 0.2) ページ 65

[Systems Options (4 of 4) (システム・オプション (4 の 4))] パネル

[FM/Db2 Systems Options (4 of 4) (FM/Db2 システム・オプション (4 の 4))] パネルを使用して、の作動方法に影響を与えるさまざまなオプションを設定します。これらのオプションは ISPF プロファイルの中に保管され、ある FM/Db2 セッションから次のセッションまで存続します。

パネルとフィールドの定義

図 141. FM/Db2 [System Options (4 of 4) (システム・オプション (4 の 4))] パネル

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFE2)	FM/Db2 System Options (4 of 4)		Global Settings
Editor choice for viewing output data, members: Enter "/" to select option / Use File Manager editor			
Cancel Confirmation: Enter "/" to select option / Immediately discard template changes			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F10=PrvPage	F11=NxtPage	F12=Cancel	

Use File Manager editor (エディターを使用する)

このオプションは、「Member Selection (メンバー選択)」パネルからメンバーを表示またはブラウズするとき、または生成された出力を表示するときどのエディターを起動するかを制御します。このオプションを選択して、File Manager エディターを起動します。このオプションが選択されていない場合は、ISPF ブラウズ、表示、または編集機能が起動します (使用可能な場合)。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

Cancel confirmation (取り消しの確認)

このオプションは、テンプレートを変更して CANCEL コマンドを実行したときに、警告パネルが表示されるかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

このオプションを選択すると、テンプレートに保管されていない変更は、警告パネルが表示されることなく破棄されます。

親パネル

•

子パネル**このパネルの表示方法****使用または実行する機能**

[Systems Options (3 of 4) (システム・オプション (4 の 3))] パネル ページ 852

[PrvPage] 機能キー (F10) を押す

関連するタスク

- デフォルト処理オプションの設定 ページ 63
- FM/Db2 システム・オプション (オプション 0.2) ページ 65

「Table Browse (表ブラウズ)」 パネル**パネルとフィールドの定義**

Process	Options	Utilities	Help				
FM/Db2 (DFG2)				Table Browse			3 rows fetched
TABLE FMUSER.EMP							Format TABL
EMPNO	FIRSTNME	MIDINIT	LASTNAME	WORKDEPT	PHONENO	HIREDATE	JOB
#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8 +
CH(6)	VARCHAR(12)	CH(1)	VARCHAR(15)	CH(3)	CH(4)	DATE	CH(8)
PU-->	<-----1->	-	<-----1----->	<-NF	<-->	<----->	<----+>
****	Top of data	****					
000010	CHRISTINE<	I	HAAS<	A00	3978	01/01/1965	PRES
000110	VINCENZO<	G	LUCCHESI<	A00	3490	05/16/1958	SALESR
200010	DIAN<	J	HEMMINGER<	A00	3978	01/01/1965	SALESR
****	End of data	****					
Command ==>				Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

図 142. サンプル・データ

Process	Options	Utilities	Help					
FM/Db2 (DFG2)		Table Browse					44 rows fetched	
TABLE FMNUSER.EMP							Format TABL	
EMPNO	FIRSTNME	MIDINIT	LASTNAME	WORKDEPT	PHONENO	HIREDATE	JOB	
#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8 +	
CH(6)	VARCHAR(12)	CH(1)	VARCHAR(15)	CH(3)	CH(4)	DATE	CH(8)	
PU-->	<-----1->	-	<-----1----->	<-NF	<-->	<----->	<----->	
**** Top of data ****								
000010	CHRISTINE<	I	HAAS<	A00	3978	01/01/1965	PRES	
000020	MICHAEL<	L	THOMPSON<	B01	3476	10/10/1973	MANAGE	
000030	SALLY<	A	KWAN<	C01	4738	04/05/1975	MANAGE	
000050	JOHN<	B	GEYER<	E01	6789	08/17/1949	MANAGE	
000060	IRVING<	F	STERN<	D11	6423	09/14/1973	MANAGE	
000070	EVA<	D	PULASKI<	D21	7831	09/30/1980	MANAGE	
000090	EILEEN<	W	HENDERSON<	E11	5498	08/15/1970	MANAGE	
000100	THEODORE<	Q	SPENSER<	E21	0972	06/19/1980	MANAGE	
000110	VINCENZO<	G	LUCCHESI<	A00	3490	05/16/1958	SALESR	
000120	SEAN<		O'CONNELL<	A00	2167	12/05/1963	CLERK	
000130	DOLORES<	M	QUINTANA<	C01	4578	07/28/1971	ANALYS	
000140	HEATHER<	A	NICHOLLS<	C01	1793	12/15/1976	ANALYS	
000150	BRUCE<		ADAMSON<	D11	4510	02/12/1972	DESIGN	
000160	ELIZABETH<	R	PIANKA<	D11	3782	10/11/1977	DESIGN	
000170	MASATOSHI<	J	YOSHIMURA<	D11	2890	09/15/1978	DESIGN	
000180	MARILYN<	S	SCOUTTEN<	D11	1682	07/07/1973	DESIGN	
000190	JAMES<	H	WALKER<	D11	2986	07/26/1974	DESIGN	
000200	DAVID<		BROWN<	D11	4501	03/03/1966	DESIGN	
000210	WILLIAM<	T	JONES<	D11	0942	04/11/1979	DESIGN	
000220	JENNIFER<	K	LUTZ<	D11	0672	08/29/1968	DESIGN	
000230	JAMES<	J	JEFFERSON<	D21	2094	11/21/1966	CLERK	
000240	SALVATORE<	M	MARINO<	D21	3780	12/05/1979	CLERK	
000250	DANIEL<	S	SMITH<	D21	0961	10/30/1969	CLERK	
000260	SYBIL<	V	JOHNSON<	D21	8953	09/11/1975	CLERK	
000270	MARIA<	L	PEREZ<	D21	9001	09/30/1980	CLERK	
000280	ETHEL<	R	SCHNEIDER<	E11	8997	03/24/1967	OPERAT	
000290	JOHN<	R	PARKER<	E11	4502	05/30/1980	OPERAT	
000300	PHILIP<	X	SMITH<	E11	2095	06/19/1972	OPERAT	
000310	MAUDE<	F	SETRIGHT<	E11	3332	09/12/1964	OPERAT	
000320	RAMLAL<	V	MEHTA<	E21	9990	07/07/1965	FIELDR	
000330	WING<		LEE<	E21	2103	02/23/1976	FIELDR	
000340	JASON<	R	GOUNOT<	E21	5698	05/05/1947	FIELDR	
200010	DIAN<	J	HEMMINGER<	A00	3978	01/01/1965	SALESR	
200120	GREG<		ORLANDO<	A00	2167	05/05/1972	CLERK	
200140	KIM<	N	NATZ<	C01	1793	12/15/1976	ANALYS	
200170	KIYOSHI<		YAMAMOTO<	D11	2890	09/15/1978	DESIGN	
200220	REBA<	K	JOHN<	D11	0672	08/29/1968	DESIGN	
200240	ROBERT<	M	MONTEVERDE<	D21	3780	12/05/1979	CLERK	
200280	EILEEN<	R	SCHWARTZ<	E11	8997	03/24/1967	OPERAT	
200310	MICHELLE<	F	SPRINGER<	E11	3332	09/12/1964	OPERAT	
200330	HELENA<		WONG<	E21	2103	02/23/1976	FIELDR	
200340	ROY<	R	ALONZO<	E21	5698	05/05/1947	FIELDR	
**** End of data ****								
Command ==>						Scroll PAGE		
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange			
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel			

親パネル

- Db2 「Browse (ブラウズ)」 パネル ページ 618
- 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」 パネル ページ 505

子パネル

なし。

関連するタスク

「Table Check Constraint Dependencies (表検査制約の従属関係)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して DEP 行コマンドを使用すると、[「Table Check Constraints \(表検査制約\)」](#) パネル ページ 857 は「Table Check Constraint Dependencies (表検査制約の従属関係)」パネルを表示します。

「Table Check Constraint Details (表検査制約の詳細)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して I 行コマンドを使用すると、[「Table Check Constraints \(表検査制約\)」](#) パネル ページ 857 は「Table Check Constraint Details (表検査制約の詳細)」パネルを表示します。

「Table Check Constraints (表検査制約)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して CK 行コマンドを使用すると、[「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」](#) パネル ページ 875 は「Table Check Constraints (表検査制約)」パネルを表示します。

「Table Edit (表編集)」パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Table Edit	42 rows fetched
TABLE FMNUSER.EMP			Format TABL
EMPNO	FIRSTNME	MIDINIT	LASTNAME
#1	#2	#3	#4
CH(6)	VARCHAR(12)	CH(1)	VARCHAR(15)
PU-->	<-----1-->	-	<-----1----->
000000	****	Top of data	****
000001	000010	CHRISTINE<	I HAAS<
000002	000020	MICHAEL<	L THOMPSON<
000003	000030	SALLY<	A KWAN<
000004	000050	JOHN<	B GEYER<
000005	000060	IRVING<	F STERN<
000006	000070	EVA<	D PULASKI<
000007	000090	EILEEN<	W HENDERSON<
000008	000100	THEODORE<	Q SPENSER<
000009	000110	VINCENZO<	G LUCCHESI<
000010	000120	sean<	O'CONNELL<
000011	000130	DOLORES<	M QUINTANA<
000012	000140	HEATHER<	A NICHOLLS<
000013	000150	BRUCE<	A ADAMSON<
Command ==>			Scroll PAGE
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left
			F11=Right
			F12=Cancel

接頭部域

TABL 形式モードでは、データ表示の接頭部域に以下のコマンドを入力できます。

A

データをその後に移動またはコピーする行を識別します。

B

データをその前に移動またはコピーする行を識別します。

C

1行をコピーします。

Cn

*n*行をコピーします。

CC

行のブロックをコピーします。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

D

1行を削除します。

Dn

*n*行を削除

DD

行のブロックを削除します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

E

この行の変更が失敗した理由についての情報が入っているパネルを表示します。E コマンドは、行にエラー・マークが付いているときのみ有効です。エラーがあるとマークされた行には、接頭部に“=ERR”、“ERR R”、または SQLCODE が含まれています。

F

除外行ブロックの最初の行を表示します。

Fn

除外行ブロックの最初の *n* 行を表示します。

FS

表示形式を SNGL に変更し、行を表示します。

G

クリップボードに保管されたデータを取得します。S、Sn、または SS 接頭部コマンドを使用してクリップボードに保管された行は、同じ編集セッション中に G 接頭部コマンドを使用するのみ、そのクリップボードから検索することができます。クリップボードは、「Db2®Edit (編集)」機能パネルの終了時(および FM/Db2 により「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」に戻ったとき)に消去される一時メモリー・バッファです。

I

1行を挿入します。この行は、現在表示されている行の行記述を使って初期化されます。それぞれの列ごとに、デフォルト値 (DEFAULT=「値」) であって、単なる DEFAULT キーワードではありません。

ません)があれば、その値に初期化されます。それ以外の場合には、列はそのデータ・タイプに従って初期化されます。

文字ストリング

ブランクに設定されます。

数字

ゼロに設定されます。

行 ID

ブランクに設定されます。

DATE

現在日付に設定されます。

TIME

現在時刻に設定されます。

TIMESTAMP

現在の日付と時刻に設定されます。



注: 挿入された行にヌル値を入れられる列があると、その列はヌル値に設定されて、表示された列にはヌル列表示標識が表示されます。

ヌル列表示標識値の設定の詳細については、[View options \(表示オプション\)](#) と [Edit options \(編集オプション\)](#) (オプション 1 と 2) ページ 68 を参照してください。

関連するタスク

- [View options \(表示オプション\)](#) と [Edit options \(編集オプション\)](#) (オプション 1 と 2) ページ 68

関連する参照先

- [Db2 データ型](#) ページ 452

In

空の n 行を挿入します。

IP

基本キーを挿入します。関連した親表の編集セッションの場合にのみ、キー列が、最初に関係の従属表でのエラーの原因となったキー値に設定された行を挿入します。

IP n

n 個の基本キーを挿入します。関連した親表の編集セッションの場合にのみ、キー列が、最初に関係の従属表でのエラーの原因となったキー値に設定された n 行を挿入します。基本キー値は固有でなければならないため、データを保管しようとした場合には、2番目以降の挿入行では複写キー・エラーの結果となります。

J

2つ以上のレコードを結合して、TABL 表示モードに示されるように1つの長いレコードにします。接頭部コマンドが発行される対象のレコードが、長くなるレコードです。反復回数 (例えば "J4") は無視されます。J コマンドは、可視レコードに対してのみ発行できます。結合処理は、以下の状態になるまで、現在の位置から下方へ継続されます。

- 新しいレコード長が、許可される最大値を超えた場合。
- エディター・セッション内で最後のレコードに到達した場合。

この接頭部コマンドは、File Manager/Db2 LOB エディター・セッションにおいてのみ使用できます。

L

除外行ブロックの最後の行を表示します。

L n

除外行ブロックの最後の n 行を表示します。

LC

行に含まれるすべての大文字を小文字に変換します。



注: LC (LC n , LCC) コマンドは、CHAR または VARCHAR データ・タイプの列の文字だけでなく、行のすべての文字に影響します。したがって、2進数データまたはバック 10 進数データなどの数値データは、これらのコマンドを使用したときに壊れることがあります。

LC n

n 行のすべての大文字を小文字に変換します。(LC の注を参照してください。)

LCC

行のブロックに含まれるすべての大文字を小文字に変換します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。(LC の注を参照してください。)

M

1 行を移動します。

M n

n 行を移動します。

MM

行のブロックを移動します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

O

1行をオーバーレイします。

On

*n*行をオーバーレイします。

OO

行のブロックをオーバーレイします。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

P

データをその前に移動またはコピーする行を識別します。

R または "

1行を繰り返します。

Rn または "n

*n*行を繰り返します。

RE

関連表を編集します。RE 接頭部コマンドは、行に参照制約によるエラーのマークが付けられているときに、関連表を編集するために使用することができます。

RE 接頭部コマンドは、エラーのマークがある (接頭部領域の右端位置に "R" が含まれている) 行に対してのみ入力することができます。RE は、新しい ISPF 論理セッションの中で別の FM/Db2 従属編集セッションを開始します。新しい (従属) FM/Db2 編集セッションは、参照制約エラーの原因となった関係の中の関連表のためのものです。詳しくは、『[関連表の編集 ページ 198](#)』を参照してください。



注: 接頭部領域に "=ERR R" が含まれている行に RE 接頭部コマンドを使用するときには、"RE" に続けて必ず 1 つ以上の空白を入力することにより、エディターがその RE コマンドを R 接頭部コマンドと解釈してしまわないように注意してください。

RE コマンドによって、参照制約エラーを迅速に識別し、解決することができます。関連表の編集に RE コマンドを使用すると、関連表の従属編集セッションを終了するまではデータを保管することができません。

この制限は、大きい参照構造の一部である表にも適用されます。例えば、A、B、および C が関連表であり、A および B は A が親表である関係の一部であり、B および C は B が親表である関係の一部であるとします。表 A を編集し、次に、RE コマンドを使用して関連表 B を編集し、さらに、表 B の編集セッションの中で RE コマンドを使用して表 C を編集した場合には、3 つの FM/Db2 編集セッションが存在します。表 B および C の編集セッションは、どちらも表 A の編

集セッションの従属編集セッションです。表 B および C の編集セッションを終了するまでは、表 A の編集セッションのデータを保管することはできません。

RR または ""

行のブロックを繰り返します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

RRn または ""n

行のブロックを *n* 回繰り返します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

S

クリップボードに行を保存します。クリップボードは、「Db2@Edit (編集)」機能パネルの終了時 (および FM/Db2 により「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」に戻ったとき) に消去される一時メモリー・バッファです。

Sn

n 行をクリップボードに保存します。

SP

1 つのレコードを複数の断片に分割します。各断片の長さは端末特性によって異なります。各断片は TABL 表示モードで表示され、レコードの終わりマーカが表示されます。つまり、各断片のデータはすべて TABL 表示モードで見ることができ、スクロールする必要はありません。

この接頭部コマンドは、File Manager/Db2 LOB エディター・セッションにおいてのみ使用できます。

SS

行のブロックをクリップボード上に保存します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

UC

行のすべての小文字を大文字に変換します。



注: UC (UC*n*、UCC) コマンドは、CHAR または VARCHAR データ・タイプの列の文字だけでなく、行のすべての文字に影響します。したがって、2 進数データまたはパック 10 進数データなどの数値データは、これらのコマンドを使用したときに壊れることがあります。

UCn

n 行のすべての小文字を大文字に変換します。(UC の注を参照してください。)

UCC

行のブロックのすべての小文字を大文字に変換します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。(UC の注を参照してください。)

X

行を表示から除外します。除外行のシャドー行の表示が使用可能になっている ([SHADOW 基本コマンド ページ 971](#)を参照) 場合には、この位置で何行が除外されているかを示すシャドー行が表示されます。除外行を表示するには、F または LA 接頭部コマンドを使用します。

Xn

n 行を表示対象から除外します。除外行のシャドー行の表示が使用可能になっている ([SHADOW 基本コマンド ページ 971](#)を参照) 場合には、この位置で何行が除外されているかを示すシャドー行が表示されます。

XX

行ブロックを表示対象から除外します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。除外行のシャドー行の表示が使用可能になっている ([SHADOW 基本コマンド ページ 971](#)を参照) 場合には、この位置で何行が除外されているかを示すシャドー行が表示されます。

.xxxx

行にラベルを付けます。ラベル xxxx は、1 ~ 4 個の英字によるストリングであり、文字“Z”で始まらないものです (“Z”で始まるラベルはシステム・ラベルです)。ラベルは任意の行に割り当てることができます。ラベルは、境界行またはシャドー行に割り当てることはできません。

親パネル

- [\[Db2 Edit \(編集\)\] パネル ページ 622](#)
- [\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

「Table Edit (related) (表編集 (関連))」 パネル

パネルとフィールドの定義

```

    Process  Options  Utilities  Help
-----
;
FM/Db2 (DFG2)          Table Edit (related)          Parent table
DPDNT FMNUSER.PROJACT  NAME FMNUSER.ACT          Format TABL
      ACTNO ACTKWD ACTDESC
      #1 #2 #3
      SMINT CH(6)  VARCHAR(20)
      PU--+K <--+> <-----1----->
000000 **** Top of data ****
000001      10 MANAGE MANAGE/ADVISE<
000002      20 ECOST ESTIMATE COST<
000003      30 DEFINE DEFINE SPECS<
000004      40 LEADPR LEAD PROGRAM/DESIGN<
000005      50 SPECS WRITE SPECS<
000006      60 LOGIC DESCRIBE LOGIC<
000007      70 CODE CODE PROGRAMS<
000008      80 TEST TEST PROGRAMS<
000009      90 ADMQS ADM QUERY SYSTEM<
000010     100 TEACH TEACH CLASSES<
000011     110 COURSE DEVELOP COURSES<
000012     120 STAFF PERS AND STAFFING<
000013     130 OPERAT OPER COMPUTER SYS<
000014     140 MAINT MAINT SOFTWARE SYS<
000015     150 ADMSYS ADM OPERATING SYS<
000016     160 ADMDB ADM DATA BASES<
000017     170 ADMDC ADM DATA COMM<
000018     180 DOC DOCUMENT<
000019 **** End of data ****

```

親パネル

このパネルは、参照保全エラーが発生したときに、エラー情報パネル内で REDIT 基本コマンドを使用した場合に表示されま
す (エラー情報パネルで、オプションとして REDIT を提供している場合)。

子パネル

なし。

関連するタスク

「Table Selection (表選択)」 パネル

「Table Selection (表選択)」 パネルを使用して、Db2® オブジェクト名を指定するときに アスタリスク (*) またはパターン
を使用した場合に作成される表のリストから、表を選択します。

パネルとフィールドの定義

Process Opti	Table Selection				
FM/Db2 (DB26)	Select one of the tables from the list.				
Specify the Db2	Row 1 to 9 of 9				
Location . .	S Owner	Name	Database	Space	Type
Owner . . .	— FMDB2	AUX_EMP_RESUME	FMDB2DL	FMDB2SN	AUX TABLE
Name . . .	— FMDB2	EEMP	FMDB2DA	FMDB2SR	TABLE
Template:	— FMDB2	EMP	FMDB2DA	FMDB2SE	TABLE
Data set nam	— FMDB2	EMP_PHOTO_RESUME	FMDB2DL	FMDB2SB	TABLE
Member . .	— FMDB2	EMPPROJACT	FMDB2DA	FMDB2SP	TABLE
Processing Opti	— FMDB2	VEMP	FMDB2DA	FMDB2SE	VIEW
Template usa	— FMDB2	VEMPDPT1	FMDB2DA	FMDB2SE	VIEW
3 1. Above	— FMDB2	VEMPLP	FMDB2DA	FMDB2SE	VIEW
2. Previo	— FMDB2	VEMPPROJACT	FMDB2DA	FMDB2SP	VIEW
3. Genera	***** Bottom of data *****				
4. Genera	Command ==>				
Command ==>	F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward	
F1=Help F	F8=Forward	F9=Swap	F12=Cancel		
F9=Swap F1					

S

選択列。テーブル・タイプを選択するには **s** を入力します。

Owner (所有者)

表の所有者の名前。

Name (名前)

表の名前。

Database (データベース)

表が含まれているデータベースの名前。

Table Space (表スペース)

表が含まれている表スペースの名前。

タイプ

Db2® オブジェクト・タイプ。

親パネル

このパネルは、Db2® オブジェクト名を指定するときに、次のフィールドのうち少なくとも1つに対して、アスタリスク (*) またはパターンを入力した場合に表示されます: **Owner (所有者)**、**Name (名前)**、**Database (データベース)**、**Table space (表スペース)**。

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)

「Table Space Parts (表スペースのパーツ)」パネル

FM/Db2にリストされた項目に対して PT 行コマンドを使用すると、[「Table Spaces \(表スペース\)」パネル ページ 866](#) は「Table Space Parts (表スペースのパーツ)」パネルを表示します。

「Table Spaces (表スペース)」パネル

「Table Spaces (表スペース)」パネルを使用して、Db2® カタログ内の表スペース のオブジェクト・タイプをリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSTABLESPACE の列が含まれています。

Process		Options		Utilities		Help	
FM/Db2 (DFG2)				Table Spaces			
Location:				Format <u>TABL</u>			
SEL	NAME	CREATOR	DBNAME	DBID	OBID	PSID	BP00L
----	* #1--+-	* #2--+-	* #3--+-	* #4	* #5	* #6	* #7--+-
****	Top of data						****
----	DEPTRV8R	YEH	DSNDB04	4	41	42	BP0
----	DSN32K01	CJUNELL	DSNDB07	7	3	4	BP32K
----	DSN4K01	CJUNELL	DSNDB07	7	1	2	BP0
----	DSN8S81C	CJUNELL	DSN8D81P	260	1	2	BP0
----	DSN8S81D	CJUNELL	DSN8D81A	259	1	2	BP0
----	DSN8S81E	CJUNELL	DSN8D81A	259	3	4	BP0
----	DSN8S81P	CJUNELL	DSN8D81A	259	7	8	BP0
----	DSN8S81Q	CJUNELL	DSN8D81P	260	3	4	BP0
----	DSN8S81R	CJUNELL	DSN8D81A	259	5	6	BP0
----	DSN8S81S	CJUNELL	DSN8D81A	259	9	10	BP0
----	DSNASDMA	CJUNELL	DSNATPDB	257	5	6	BP0
Command ==>				Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		



注:

1. システム・オプション **「Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)」** は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の *Db2@catalog tables (カタログ表)* を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」 パネル ページ 747
- 「Databases (データベース)」 パネル ページ 616
- 「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875
- 「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」 パネル ページ 480

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Alter Table Space (表スペースの変更)」 パネル ページ 480	行コマンド A
「Create Table Space (表スペースの作成)」 パネル ページ 570	行コマンド CR
「Create Table (表の作成)」 パネル ページ 567	行コマンド CRT
「Databases (データベース)」 パネル ページ 616	行コマンド D
除去パネル ページ 646	行コマンド DR
「Database Structure (データベース構造)」 パネル ページ 616	行コマンド DS
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
「Generate SQL From Db2 Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネル ページ 712	行コマンド GEN
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
「Recovery Information (リカバリー情報)」 パネル ページ 783	行コマンド ICS
特権パネル ページ 764	行コマンド P
「Table Space Parts (表スペースのパーツ)」 パネル ページ 866	行コマンド PT
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド T
「Db2 Utilities (ユーティリティ)」 パネル ページ 635	行コマンド UTL
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「Table View (表表示)」 パネル

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help				
FM/Db2 (DFG2)				Table View			42 rows fetched
TABLE FMUSER.EMP							Format TABL
EMPNO	FIRSTNME	MIDINIT	LASTNAME	WORKDEPT	PHONENO	HIREDATE	
#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	
CH(6)	VARCHAR(12)	CH(1)	VARCHAR(15)	CH(3)	CH(4)	DATE	
PU-->	<-----1->	-	<-----1----->	<-NF	<-->	<----->	
000000	****	Top of data	****				
000001	000010	CHRISTINE<	I	HAAS<	A00	3978	01.01.1965
000002	000020	MICHAEL<	L	THOMPSON<	B01	3476	10.10.1973
000003	000030	SALLY<	A	KWAN<	C01	4738	05.04.1975
000004	000050	JOHN<	B	GEYER<	E01	6789	17.08.1949
000005	000060	IRVING<	F	STERN<	D11	6423	14.09.1973
000006	000070	EVA<	D	PULASKI<	D21	7831	30.09.1980
000007	000090	EILEEN<	W	HENDERSON<	E11	5498	15.08.1970
000008	000100	THEODORE<	Q	SPENSER<	E21	0972	19.06.1980
000009	000110	VINCENZO<	G	LUCCHESI<	A00	3490	16.05.1958
000010	000120	sean<		O'CONNELL<	A00	2167	05.12.1963
000011	000130	DOLORES<	M	QUINTANA<	C01	4578	28.07.1971
000012	000140	HEATHER<	A	NICHOLLS<	C01	1793	15.12.1976
000013	000150	BRUCE<	A	ADAMSON<	D11	4510	12.12.1972
Command ==>							Scroll PAGE
F1=Help	F2=Zoom	F3=Exit	F4=CRetrie	F5=RFind	F6=RChange		
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

接頭部域

TABL 形式モードでは、データ表示の接頭部域に以下のコマンドを入力できます。

A

データをその後に移動またはコピーする行を識別します。

B

データをその前に移動またはコピーする行を識別します。

C

1行をコピーします。

Cn

n行をコピーします。

CC

行のブロックをコピーします。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

D

1 行を削除します。

Dn

n 行を削除

DD

行のブロックを削除します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

E

この行の変更が失敗した理由についての情報が入っているパネルを表示します。E コマンドは、行にエラー・マークが付いているときにのみ有効です。エラーがあるとしてマークされた行には、接頭部に “=ERR”、“ERR R”、または SQLCODE が含まれています。

F

除外行ブロックの最初の行を表示します。

Fn

除外行ブロックの最初の *n* 行を表示します。

FS

表示形式を SNGL に変更し、行を表示します。

G

クリップボードに保管されたデータを取得します。S、Sn、または SS 接頭部コマンドを使用してクリップボードに保管された行は、同じ編集セッション中に G 接頭部コマンドを使用するのみ、そのクリップボードから検索することができます。クリップボードは、「Db2@Edit (編集)」機能パネルの終了時 (および FM/Db2 により「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」に戻ったとき) に消去される一時メモリー・バッファです。

I

1 行を挿入します。この行は、現在表示されている行の行記述を使って初期化されます。それぞれの列ごとに、デフォルト値 (DEFAULT=「値」であって、単なる DEFAULT キーワードではありません) があれば、その値に初期化されます。それ以外の場合には、列はそのデータ・タイプに従って初期化されます。

文字ストリング

ブランクに設定されます。

数字

ゼロに設定されます。

行 ID

ブランクに設定されます。

DATE

現在日付に設定されます。

TIME

現在時刻に設定されます。

TIMESTAMP

現在の日付と時刻に設定されます。



注: 挿入された行にヌル値を入れられる列があると、その列はヌル値に設定されて、表示された列にはヌル列表示標識が表示されます。

ヌル列表示標識値の設定の詳細については、[View options \(表示オプション\)](#) と [Edit options \(編集オプション\)](#) (オプション 1 と 2) ページ 68 を参照してください。

関連するタスク

- [View options \(表示オプション\)](#) と [Edit options \(編集オプション\)](#) (オプション 1 と 2) ページ 68

関連する参照先

- [Db2 データ型 ページ 452](#)

In

空の n 行を挿入します。

IP

基本キーを挿入します。関連した親表の編集セッションの場合にのみ、キー列が、最初に関係の従属表でのエラーの原因となったキー値に設定された行を挿入します。

IP n

n 個の基本キーを挿入します。関連した親表の編集セッションの場合にのみ、キー列が、最初に関係の従属表でのエラーの原因となったキー値に設定された n 行を挿入します。基本キー値は固有でなければならぬため、データを保管しようとした場合には、2 番目以降の挿入行では複写キー・エラーの結果となります。

L

除外行ブロックの最後の行を表示します。

L n

除外行ブロックの最後の n 行を表示します。

LC

行に含まれるすべての大文字を小文字に変換します。



注: LC (LC n 、LCC) コマンドは、CHAR または VARCHAR データ・タイプの列の文字だけでなく、行のすべての文字に影響します。したがって、2 進数データまたはパック 10 進数データなどの数値データは、これらのコマンドを使用したときに壊れることがあります。

LC n

n 行のすべての大文字を小文字に変換します。(LC の注を参照してください。)

LCC

行のブロックに含まれるすべての大文字を小文字に変換します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。(LC の注を参照してください。)

M

1 行を移動します。

M n

n 行を移動します。

MM

行のブロックを移動します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

P

データをその前に移動またはコピーする行を識別します。

R または "

1 行を繰り返します。

R n または " n

n 行を繰り返します。

RE

関連表を編集します。RE 接頭部コマンドは、行に参照制約によるエラーのマークが付けられているときに、関連表を編集するために使用することができます。

RE 接頭部コマンドは、エラーのマークがある (接頭部領域の右端位置に "R" が含まれている) 行に対してのみ入力することができます。RE は、新しい ISPF 論理セッションの中で別の FM/Db2 従属編集セッションを開始します。新しい (従属) FM/Db2 編集セッションは、参照制約エラーの原因となった関係の中の関連表のためのものです。詳しくは、『[関連表の編集 ページ 198](#)』を参照してください。



注: 接頭領域に “=ERR R” が含まれている行に RE 接頭部コマンドを使用するときには、“RE” に続けて必ず 1 つ以上の空白を入力することにより、エディターがその RE コマンドを R 接頭部コマンドと解釈してしまわないように注意してください。

RE コマンドによって、参照制約エラーを迅速に識別し、解決することができます。関連表の編集に RE コマンドを使用すると、関連表の従属編集セッションを終了するまではデータを保管することができません。

この制限は、大きい参照構造の一部である表にも適用されます。例えば、A、B、および C が関連表であり、A および B は A が親表である関係の一部であり、B および C は B が親表である関係の一部であるとして表 A を編集し、次に、RE コマンドを使用して関連表 B を編集し、さらに、表 B の編集セッションの中で RE コマンドを使用して表 C を編集した場合には、3 つの FM/Db2 編集セッションが存在します。表 B および C の編集セッションは、どちらも表 A の編集セッションの従属編集セッションです。表 B および C の編集セッションを終了するまでは、表 A の編集セッションのデータを保管することはできません。

RR または ""

行のブロックを繰り返します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

RRn または ""n

行のブロックを n 回繰り返します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

S

クリップボードに行を保存します。クリップボードは、「Db2@Edit (編集)」機能パネルの終了時 (および FM/Db2 により「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」に戻ったとき) に消去される一時メモリー・バッファです。

Sn

n 行をクリップボードに保存します。

SS

行のブロックをクリップボード上に保存します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。

UC

行のすべての小文字を大文字に変換します。



注: UC (UCn、UCC) コマンドは、CHAR または VARCHAR データ・タイプの列の文字だけでなく、行のすべての文字に影響します。したがって、2 進数データまたはパック 10 進数データなどの数値データは、これらのコマンドを使用したときに壊れることがあります。

UCn

n 行のすべての小文字を大文字に変換します。(UC の注を参照してください。)

UCC

行のブロックのすべての小文字を大文字に変換します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。(UC の注を参照してください。)

X

行を表示から除外します。除外行のシャドー行の表示が使用可能になっている (SHADOW 基本コマンド ページ 971 を参照) 場合には、この位置で何行が除外されているかを示すシャドー行が表示されます。除外行を表示するには、F または LA 接頭部コマンドを使用します。

Xn

n 行を表示対象から除外します。除外行のシャドー行の表示が使用可能になっている (SHADOW 基本コマンド ページ 971 を参照) 場合には、この位置で何行が除外されているかを示すシャドー行が表示されます。

XX

行ブロックを表示対象から除外します。ブロックの始めと終わりにマークを付けます。除外行のシャドー行の表示が使用可能になっている (SHADOW 基本コマンド ページ 971 を参照) 場合には、この位置で何行が除外されているかを示すシャドー行が表示されます。

.xxxx

行にラベルを付けます。ラベル xxxx は、1 ~ 4 個の英字によるストリングであり、文字“Z”で始まらないものです (“Z”で始まるラベルはシステム・ラベルです)。ラベルは任意の行に割り当てることができます。ラベルは、境界行またはシャドー行に割り当てることはできません。

親パネル

- Db2 「View (表示)」 パネル ページ 639
- 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」 パネル ページ 505

子パネル

なし。

関連するタスク**「Table/View/Alias Selection (表/ビュー/別名選択)」 パネル**

「Table/View/Alias Selection (表/ビュー/別名選択)」 パネルを使用して、Db2® オブジェクト名を指定するときに アスタリスク (*) またはパターンを使用した場合に作成されるリストから、表、ビュー、または別名を選択します。

パネルとフィールドの定義

Table/View/Alias Selection					Row 1 to 13 of 39
Select one of the tables/views/aliases from the list.					
S	Owner	+ Table/View/Alias Name	+ Database	Table Space	Type
-	FMNUSER	ACT	JOHND81A	JOHNS81P	TABLE
-	FMNUSER	DEPT	JOHND81A	JOHNS81D	TABLE
-	FMNUSER	EACT	JOHND81A	JOHNS81R	TABLE
-	FMNUSER	EDEPT	JOHND81A	JOHNS81R	TABLE
-	FMNUSER	EEMP	JOHND81A	JOHNS81R	TABLE
-	FMNUSER	EEPA	JOHND81A	JOHNS81R	TABLE
-	FMNUSER	EMP	JOHND81A	JOHNS81E	TABLE
-	FMNUSER	EMPPROJACT	JOHND81A	JOHNS81P	TABLE
-	FMNUSER	EPROJ	JOHND81A	JOHNS81R	TABLE
-	FMNUSER	EPROJACT	JOHND81A	JOHNS81R	TABLE
-	FMNUSER	MAP_TBL	JOHND81P	JOHNS81Q	TABLE
-	FMNUSER	PARTS	JOHND81A	JOHNS81S	TABLE
-	FMNUSER	PROJ	JOHND81A	JOHNS81P	TABLE
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F7=Backward	
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel	

S

選択列。テーブル・タイプを選択するには **s** を入力します。

Owner (所有者)

表の所有者の名前。

Table/View/Alias Name (表/ビュー/別名)

表、ビュー、または別名の名前。

Database (データベース)

表が含まれているデータベースの名前。

Table Space (表スペース)

表が含まれている表スペースの名前。

タイプ

Db2® オブジェクト・タイプ。

親パネル

このパネルは、Db2® オブジェクト名を指定するときに、次のフィールドのうち少なくとも1つに対して、アスタリスク (*) またはパターンを入力した場合に表示されます: **Owner (所有者)**、**Name (名前)**、**Database (データベース)**、**Table space (表スペース)**。

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 47](#)

「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネル

「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネルを使用して、Db2® カタログ内の表、ビュー、および別名をリストします。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSTABLES の列が含まれています。

Process Options Utilities Help					
FM/Db2 (DFG2)		Tables, Views and Aliases		44 of 1000	
Location:				Format <u>TABL</u>	
SEL	TABLE OWNER	TABLE NAME	DATABASE NAME	OBJECT TYPE	+
*	*	*	*	*	*
----	#2-+-----1-----+	#1-+-----1-----+-----2-----+	#4-+-----	#61-+-----1-----	
----	DMYAPP	TABLES	DSNDB06	View	
----	DMYAPP	TABLESPACE	DSNDB06	View	
----	DMYAPP	VIEWS	DSNDB06	View	
----	DSB81010	EMP_COPY	DSN00245	Table	
----	DSN81010	ACT	DSN8D10A	Table	
----	DSN81010	CATALOG	DSN8D10X	Table	
----	DSN81010	CUSTOMER	DSN8D10X	Table	
----	DSN81010	DEPT	DSN8D10A	Table	
----	DSN81010	EACT	DSN8D10A	Table	
----	DSN81010	EDEPT	DSN8D10A	Table	
----	DSN81010	EEMP	DSN8D10A	Table	

Command ==>> Scroll PAGE

F1=Help F2=Zoom F3=Exit F4=CRetrie v F5=RFind F6=RChange

F7=Up F8=Down F9=Swap F10=Left F11=Right F12=Cancel



注:

1. システム・オプション「**Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)**」は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2® catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

このパネルは、Db2® オブジェクトのリストに表示されたオブジェクトに対して T 行コマンドを指定すると表示されます。

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Alter Table (表の変更)」 パネル ページ 468	行コマンド A
「Alter Table - ADD CHECK Constraint (変更表 - ADD CHECK 制約)」 パネル ページ 469	行コマンド ADD
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド ALS
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド AT
Db2 「Browse (ブラウズ)」 パネル ページ 618	行コマンド B
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド BT
「Copy Utility ("From") (コピー・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 518	行コマンド C
「Column Distribution (列の配分)」 パネル ページ 505	行コマンド CDI
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド CH
「Children of Table (表の子)」 パネル ページ 491	行コマンド CHR
「Table Check Constraints (表検査制約)」 パネル ページ 857	行コマンド CK
「Columns in Table (表の列)」 パネル ページ 512	行コマンド COL
コメント・パネル ページ 512	行コマンド COM
「Create Table (表の作成)」 パネル ページ 567	行コマンド CR
「Create Alias (別名の作成)」 パネル ページ 533	行コマンド CRA
「Create Index (索引作成)」 パネル ページ 549	行コマンド CRX
「Columns in Table (表の列)」 パネル ページ 512	行コマンド CS
「Databases (データベース)」 パネル ページ 616	行コマンド D
除去パネル ページ 646	行コマンド DR
「Db2 Edit (編集)」 パネル ページ 622	行コマンド E
「Foreign Keys for Table (表の外部キー)」 パネル ページ 709	行コマンド FK
特権の認可パネル ページ 715	行コマンド G
「Generate SQL From Db2 Catalog (カタログからの SQL の生成)」 パネル ページ 712	行コマンド GEN
詳細パネル ページ 644	行コマンド I

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Label Table (表のラベル)] パネル ページ 728	行コマンド LAB
特権パネル ページ 764	行コマンド P
[Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)] パネル ページ 875	行コマンド PA
[Parents of Table (表の親)] パネル ページ 752	行コマンド PAR
[Primary Key for Table (表の基本キー)] パネル ページ 756	行コマンド PK
[Application Packages (アプリケーション・パッケージ)] パネル ページ 480	行コマンド PKG
[Application Plans (アプリケーション・プラン)] パネル ページ 483	行コマンド PL
[Print Utility (印刷ユーティリティ)] パネル ページ 760	行コマンド PR
特権の取り消しパネル ページ 795	行コマンド R
[Display Row (表示行)] パネル ページ 644	行コマンド ROW
[Table Spaces (表スペース)] パネル ページ 866	行コマンド S
[Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)] パネル ページ 485	行コマンド SEL
[Synonyms (同義語)] パネル ページ 845	行コマンド SYN
[Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)] パネル ページ 875	行コマンド T
[Db2 Utilities (ユーティリティ)] パネル ページ 635	行コマンド UTL
Db2 [View (表示)] パネル ページ 639	行コマンド V
[Create View Source Statements (ビュー・ソース・ステートメントの作成)] パネル ページ 610	行コマンド VS
[Indexes (索引)] パネル ページ 724	行コマンド X
[Indexes and Columns for (索引と列の該当表)] パネル ページ 726	行コマンド XC
[Sort Fields (ソート・フィールド)] パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- 処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316
- 行コマンド域 (Cmd) の使用法 ページ 323

関連する参照先

- SORT 基本コマンド ページ 974

[TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))] パネル

「TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))」パネルは、TEMPLATE ステートメント、およびユーティリティー・バッチ・ジョブ内の TEMPLATE ライブラリーにアクセスするための適切な JCL ステートメントの生成に FM/Db2 が使用する 情報を入力するために使用されます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)	TEMPLATE Options (1 of 2)		Global Settings More: +
Enter RESET to restore installation defaults.			
TEMPLATE Library Option:			
JCL DD statement: No DD stmt is generated if field is blank			
//	SYSTEMPL DD	_____	
//	DD	_____	
//	DD	_____	
//	DD	_____	
Initial Utility Statement Option:			
Utility statement: No statement is generated if field is blank			
	TEMPLATE	_____	

Additional statements:			
Enter "/" to select options			
-	Use additional statements		
-	Edit additional statements		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F6=Reset F7=Backward
F8=Forward	F9=Swap	F11=NxtPage	F12=Cancel

JCL DD statement (JCL DD ステートメント)

JCL DD ステートメントの生成に使用される情報。この情報は、以下の通りです。

DD name (DD 名)

読み取り専用フィールドです。このフィールドには、「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネル ([OPTIONS Options \(OPTIONS オプション\) パネル ページ 749](#)) の「**TEMPLATEDD DD name (TEMPLATEDD DD 名)**」フィールドに指定された値が保持されます。ライブラリー・フィールドがブランクである場合、ユーティリティー・バッチ・ジョブで DD ステートメントは生成されません。

Text values (テキスト値)

これらの 4 行に入力された値は、**DD 名**フィールドがブランクでない場合は、DD ステートメントの生成に直接使用されます。デフォルトは、ブランクです。

Utility statement (ユーティリティー・ステートメント)

ユーティリティー・ステートメントのフィールドは、初期ユーティリティー・ステートメントの生成に使用されます。フィールドがブランクで、「**Use additional statements (追加のステートメントを使用する)**」オプションが選択されていない場合は、TEMPLATE ステートメントはユーティリティー・バッチ・ジョブに生成されません。入力フィールドが非ブランクである場合は、「**Use additional statements (追加のステートメントを使用する)**」オプションの選択時に提供される追加の TEMPLATE ステートメントを使用して、指定された TEMPLATE が生成されます。デフォルトは、ブランクです。

Use additional statements (追加のステートメントを使用する)

このオプションを設定した場合は、ユーティリティー・バッチ・ジョブに複数の TEMPLATE ステートメントが生成されます。追加のステートメントを編集するには、「Edit additional statements (追加のステートメントを編集する)」オプションを選択します。非ブランク入力フィールドを持つ TEMPLATE 仕様のみが、生成で使用されます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

このオプションを選択しない場合は、「Utility statement (ユーティリティー・ステートメント)」フィールドの非ブランク値のみが TEMPLATE ステートメントの生成に使用されます。

Edit additional statements (追加のステートメントを編集する)

このオプションを選択して Enter キーを押すと、「Additional TEMPLATE Statements (追加 TEMPLATE ステートメント)」パネル ([\[Additional TEMPLATE Statements \(追加 TEMPLATE ステートメント\)\] パネル ページ 461](#)) が表示されます。このパネルで値を入力してパネルを終了すると、このオプションは選択解除されます。この追加のステートメントは、「Use additional statements (追加のステートメントを使用する)」オプションを選択した場合に使用されます。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

「TEMPLATE Library Option (TEMPLATE ライブラリー・オプション)」には、インストール定義のデフォルトが表示されています。ライブラリー・オプションのデフォルトは、RESET コマンドを入力するか、または RESET PF キーを押して復元することができます。各サブシステムには、独自のインストール定義のデフォルト値があります。RESET は、「Use additional statements (追加のステートメントを使用する)」オプション および 「Utility statement (ユーティリティー・ステートメント)」フィールドの中の値もクリアします。

詳しくは、「Db2 ユーティリティー・ガイドおよび解説書」の TEMPLATE と OPTIONS ステートメントを参照してください。

親パネル

•

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
[Additional LISTDEF Statements (追加 LISTDEF ステートメント)] パネル ページ 460	「Edit additional statements (追加のステートメントを編集する)」オプションを選択する
[TEMPLATE Options (2 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 2))] パネル ページ 880	F11 を押す

関連するタスク

- [RESET 基本コマンド ページ 966](#)
- [Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)
- [Db2 ユーティリティー TEMPLATE オプション \(オプション 3.UT\) ページ 71](#)

「TEMPLATE Options (2 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 2))」 パネル

「TEMPLATE Options (2 of 2) (TEMPLATE オプション (2 / 2))」 パネルは、TEMPLATE ステートメント、およびユーティリティ・バッチ・ジョブ内の TEMPLATE ライブラリーにアクセスするための適切な JCL ステートメントの生成に FM/Db2 が使用する 詳細情報を入力するために使用されます。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help		
FM/Db2 (DFG2)	TEMPLATE Options (2 of 2)		Global Settings		
Enter RESET to restore installation defaults.					
Utility DD-Keyword Option:					
COPY Statement:					
	COPYDDN template name .	_____			
LOAD Statement:					
	INDDN template name . .	_____			
REBUILD INDEX Statement:					
	WORKDDN template name .	_____			
REORG TABLESPACE Statement:					
	UNLDDN template name .	_____			
UNLOAD Statement:					
	PUNCHDDN template name	_____			
	UNLDDN template name .	_____			
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F6=Reset	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=PrvPage	F12=Cancel			

COPYDDN template name (COPYDDN テンプレート名)

COPYDDN 文節に対する FM/Db2 の新しいデフォルト設定。元のデフォルトは DD 名の SYSCOPY です。このフィールドのデフォルト値はブランクです。

INDDN template name (INDDN テンプレート名)

INDDN 文節に対する FM/Db2 の新しいデフォルト設定。元のデフォルトは DD 名の SYSREC00 です。このフィールドのデフォルト値はブランクです。

WORKDDN template name (WORKDDN テンプレート名)

WORKDDN 文節に対する FM/Db2 の新しいデフォルト設定。元のデフォルトは SYSUT1 です。このフィールドのデフォルト値はブランクです。

UNLDDN template name (UNLDDN テンプレート名)

UNLDDN 文節に対する FM/Db2 の新しいデフォルト設定。このフィールドのデフォルト値はブランクです。

UNLDDN 文節は、「REORG ユーティリティ (表スペース)」パネル ([「REORG Utility \(Table Spaces\) \(REORG UTILITY \(表スペース\)\)」](#) パネル ページ 792) の「外部のアンロード」オプションが “Y” に設定されている場合にのみ生成されます。

元のデフォルトは、DD 名の SYSREC00 または SYSREC のいずれかです。どのオプションが選択されているかなど、いくつかの要因によって決まります。

PUNCHDDN template name (PUNCHDDN テンプレート名)

PUNCHDDN 文節に対する FM/Db2 の新しいデフォルト設定。元のデフォルトは DD 名の SYSPUNCH です。このフィールドのデフォルト値はブランクです。

UNLDDN template name (UNLDDN テンプレート名)

UNLDDN 文節に対する FM/Db2 の新しいデフォルト設定。元のデフォルトは DD 名の SYREC00 です。このフィールドのデフォルト値はブランクです。

親パネル

- [\[TEMPLATE Options \(1 of 2\) \(TEMPLATE オプション \(2 の 1\)\)\] パネル ページ 877](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [RESET 基本コマンド ページ 966](#)
- [Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)
- [コピー・ユーティリティー ページ 364](#)
- [LOAD ユーティリティー ページ 367](#)
- [コピーブックまたはテンプレートに記述されたデータのロード ページ 371](#)
- [REBUILD ユーティリティー \(索引\) ページ 376](#)
- [REORG \(表スペース\) ページ 382](#)
- [UNLOAD ユーティリティー ページ 391](#)
- [UNLOAD \(表\) ページ 392](#)
- [UNLOAD \(表スペース\) ページ 398](#)
- [Db2 ユーティリティー TEMPLATE オプション \(オプション 3.UT\) ページ 71](#)

[Template Mapping (テンプレート・マッピング)] パネル

[テンプレート・マッピング] パネルを使用して、データを移動(コピー)しているときに、ターゲットの列 (“TO (宛先)” 列) に転送したいソースの列 (“FROM (元)” 列) を指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Template Mapping	Line 1 of 16
To	FMUSER.EEMP		
From	FMUSER.EMP		
Cmd	CL#	To Column name	Datatype NI
		**** Top of data ****	
---	1	EMPNO	CH(6) NN
---	2	FIRSTNME	VC(12) NN
---	3	MIDINIT	CH(1) NN
---	4	LASTNAME	VC(15) NN
---	5	WORKDEPT	CH(3)
---	6	PHONENO	CH(4)
---	7	HIREDATE	DATE
---	8	JOB	CH(8)
---	9	EDLEVEL	SMINT
---	10	SEX	CH(1)
---	11	BIRTHDATE	DATE
---	12	SALARY	DEC(9,2)
---	13	BONUS	DEC(9,2)
---	14	COMM	DEC(9,2)
S	15	RID	CH(4)
---	16	TSTAMP	TIMESTAMP
		**** End of data ****	
Command	===>		Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetrie v F5=RFind F6=RunTemp
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F12=Cancel

TO

“To (宛先)” Db2® オブジェクト。データがインポートされる宛先の Db2® オブジェクト。

FROM

“From (元)”のデータ・セット。インポート・データ・セットの名前。

Cmd (コマンド)

接頭部コマンド域 (テンプレート・エディターの接頭部コマンドの入力に使用されます)。列マッピングを編集する場合、S または E になります。

CL# (TO)

“To (宛先)” の列番号。“To (宛先)” テンプレートの中の列の番号。

列名 (TO)

“To (宛先)” の列名。“To (宛先)” テンプレートの中の列の名前。

Datatype (TO)

“To (宛先)” データ・タイプ。“To (宛先)” テンプレートの中の列のデータ・タイプと、オプションで長さ。

NI (TO)

“To (宛先)” のヌル標識 “To (宛先)” テンプレートの中の列のヌル標識。

(空白)

列はヌル値を許可する

NN

列はヌル値を許可しない

CI# (FROM)

“From (元)”の列番号。“From (元)”テンプレートの中の列の番号。

Column name (FROM)

“From (元)”の列名。“From (元)”テンプレートの中の列の名前。

Datatype (FROM)

“From (元)”データ・タイプ。“From (元)”テンプレートの中の列のデータ・タイプと、オプションで長さ。

NI (FROM)

“From (元)”のヌル標識。“From (元)”テンプレートの中の列のヌル標識。

(空白)

列はヌル値を許可する

NN

列はヌル値を許可しない

親パネル

- 「Copy Utility ("To") (コピー・ユーティリティーの「宛先」)」パネル ページ 526
- 「Import Utility ("To") (インポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル ページ 720
- 「Export Utility ("To") (エクスポート・ユーティリティーの「宛先」)」パネル ページ 702
- 「Load from (ロード元)」パネル ページ 730

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「From Column Mapping (元列のマッピング)」パネル ページ 710	Cmd フィールドに “S” と入力

関連するタスク

- 独自マッピングの指定 ページ 114
- ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253
- VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259
- VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287
- LOAD ユーティリティー ページ 367

「Template Save (テンプレートの保管)」パネル

FM/Db2が表示されているときに F3 を押すと、「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 505 は「Template Save (テンプレートの保管)」パネルを表示します。

「Triggers (トリガー)」 パネル

「Triggers (トリガー)」 パネルを使用して、選択したトリガーに関する情報を表示します。

パネルとフィールドの定義

表示される列には、SEL フィールドおよび SYSIBM.SYSTRIGGERS の列が含まれています。

Process	Options	Utilities	Help					
FM/Db2 (DFG2)			Triggers					
Location:			Format TABL					
SEL	NAME	SCHEMA	SEQNO	DBID	OBID	OWNER	CREATEDBY	TBNAME
----	#1--+-+-----1--	#2--+-+-----	----#3	----#4	----#5	#6--+-+-----	#7--+-+-----	#8--+-+-----
****	Top of data	****						
	NEW_EMPLOYEE	SHRIKES	1	261	7	SHRIKES	SHRIKES	EMPLOYEE_
	SDAFSDFSAD	SHRIKE2	1	259	64	SHRIKE2	SHRIKE2	DEPT
	TRIGGER1	SHRIKE2	1	259	63	SHRIKE2	SHRIKE2	EMP
****	End of data	****						
Command ==>			F2=Zoom			F3=Exit		
F1=Help			F4=CRetriev			F5=RFind		
F7=Up			F8=Down			F9=Swap		
			F10=Left			F11=Right		
						F6=RChange		
						F12=Cancel		
						Scroll PAGE		



注:

1. システム・オプション **「Show all catalog table columns (カタログ表列をすべて表示)」** は、ユーザーが「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 がどの列を表示するかに影響を与えます。
2. 「Object List utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」を使用するときに FM/Db2 が表示する列をカスタマイズすることもできます。詳しくは、*File Manager* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “Db2® catalog tables (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- [「Object List Utility \(オブジェクト・リスト・ユーティリティ\)」](#) パネル ページ 747
- [「Schemas \(スキーマ\)」](#) パネル ページ 807

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
コメント・パネル ページ 512	行コマンド COM
「Create Trigger (トリガーの作成)」 パネル ページ 603	行コマンド CR
除去パネル ページ 646	行コマンド DR
詳細パネル ページ 644	行コマンド I
「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」 パネル ページ 480	行コマンド PKG
特権パネル ページ 764	行コマンド PS
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW
「Schemas (スキーマ)」 パネル ページ 807	行コマンド SCH
(ISPF パネル)	行コマンド SQL
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」 パネル ページ 875	行コマンド T
「Sort Fields (ソート・フィールド)」 パネル ページ 834	基本コマンド SORT

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連する参照先

- [SORT 基本コマンド ページ 974](#)

「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」 パネル

「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」 パネルは、ユーティリティ・バッチ・ジョブでの UNLOAD ステートメントの生成に使用する情報を入力するために使用します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		UNLOAD Options	Global Settings
Utility Options:			
Enter "/" to select option			
/	Allow data changes	--YES-->	Isolation Level
/	Use IEEE floating point		2 1. Cursor stability
/	Allow substitution chars		2. Uncommitted rows
/	Allow padding		
Number of Records Value:			
	Maximum in Error 2		(0 or negative means no limit)
Character Representation Options:			
	Encoding Scheme		CCSID Values
2	1. Preserve encoding scheme		SBCS data . . . 0
	2. EBCDIC		Mixed DBCS data 0
	3. ASCII		DBCS data . . . 0
	4. UNICODE		
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

Allow data changes (データ変更を許可)

このオプションを選択する場合、「Isolation Level (分離レベル)」に値を入力しなければなりません。デフォルトが選択されています。

選択しない場合は、UNLOAD ユーティリティ制御ステートメントに SHRLEVEL REFERENCE 文節が FM/Db2 によって追加されます。これは、アンロード操作中に、他の Db2® スレッドは、表の行は読み取ることができ、挿入、更新、または削除は行うことができないことを意味します。

Isolation Level (分離レベル)

このパラメーターは、「Allow data changes (データ変更を許可)」パラメーターが選択された場合に有効になります。デフォルトは 1 (カーソル固定) です。有効な値は以下のとおりです。

1 (Cursor stability) (カーソル固定)

FM/Db2 は、UNLOAD ユーティリティ・ステートメントの SHRLEVEL 文節を省略します。これは、UNLOAD ユーティリティ制御ステートメントに SHRLEVEL CHANGE ISOLATION CS 文節を追加するのと同じです。すなわち、データのアンロード中に、表スペースまたは区画から行の読み取り、挿入、更新、および削除を行うことができること、および UNLOAD ユーティリティはカーソル固定モードで行を読み取ることの意味します。

2 (Uncommitted rows (未コミット行))

FM/Db2 は、SHRLEVEL CHANGE ISOLATION UR 文節を UNLOAD ユーティリティ制御ステートメントに追加します。これは、データのアンロード中に、表スペースまたは区画から行の読み取り、挿入、更新、および削除を行うことができること、および未コミット行 (存在する場合) がアンロードされることを意味します。

Use IEEE floating point (IEEE 浮動小数点を使用)

このオプションを選択すると、FM/Db2 は UNLOAD ユーティリティ制御ステートメントに FLOAT IEEE 文節を追加します。

選択しない場合は、文節は追加されません。これは、数値浮動小数点数の Db2® UNLOAD ユーティリティー出力形式が S/390® の 16 進浮動小数点 (HFP) 形式で生成されることを意味します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Allow substitution chars (置換文字を許可)

このオプションを選択しないと、FM/Db2 は UNLOAD ユーティリティー制御ステートメントに NOSUBS 文節を追加します。これは、ストリングで置換文字が許可されないことを意味します。データのアンロード中に試みられた文字置換は、変換エラーとして扱われます。

デフォルトが選択されています。ストリングを ASCII から EBCDIC に、または、ある CCSID から別の CCSID に変換するときに、ストリングに置換文字が置かれることがあります。例えば、ソース CCSID (コード・ページ) に存在する文字 (コード・ポイントとも呼ばれる) がターゲット CCSID (コード・ページ) に存在しないときに置換が行われます。

Allow padding (充てんを許可)

このオプションを選択すると、UNLOAD ユーティリティー制御ステートメントに NOPAD 文節は追加されません。デフォルトが選択されています。

選択しない場合、FM/Db2 は UNLOAD ユーティリティー制御ステートメントに NOPAD 文節を追加します。

UNLOAD 処理の Db2® デフォルトでは、アンロードされたレコードに可変長列がその最大長まで埋め込まれ、アンロードされたレコードはそれぞれの表ごとに同じ長さを持ちます。Db2® 定義のデフォルトの動作を使用する場合は、この項目を選択してください。

埋め込みを実行すると、以下のようになります。

- 埋め込まれたデータ・フィールドには、埋め込みなしの場合の実データのサイズを示す長さフィールドが先頭に付きます。
- LOAD ユーティリティーを使用して出力レコードを再ロードすると、埋め込まれたデータ・フィールドは可変長データとして扱われます。

Maximum in Error (最大エラー数)

このオプションは、許可されるエラーのあるレコードの最大数の値を指定します。アンロード処理は、この値に達すると終了します。FM/Db2 は、指定された値を持つ MAXERR 文節を UNLOAD ユーティリティー・ステートメントに追加します。デフォルト値は 1 です。

Encoding Scheme (エンコード方式)

このオプションは、文字タイプのすべての出力データに対して、生成された UNLOAD ユーティリティー制御ステートメントによって使用されるエンコード方式を指定します。有効な値は以下のとおりです。

1 (Preserve encoding scheme (エンコード方式を保持))

ソース・データのエンコード方式が保持されます (デフォルト)。

2

文字タイプのすべての出力データでは、EBCDIC がエンコード方式です。

3

文字タイプのすべての出力データでは、ASCII がエンコード方式です。

4

文字タイプのすべての出力データでは、UNICODE がエンコード方式です。

CCSID Values (CCSID 値)

このオプションは、出力データ・セット内のデータのコード化文字セット ID (CCSID) の値を指定します。【**SBCS data (SBCS データ)**】、【**Mixed DBCS data (混合 DBCS データ)**】、および【**DBCS data (DBCS データ)**】のフィールドに対してゼロ以外の値を 1 つ以上指定した場合、FM/Db2 は CCSID 文節を UNLOAD ユーティリティー制御ステートメントに追加します。すべてがゼロの場合、CCSID 文節は追加されません。

SBCS data (SBCS データ)

外部文字形式でアンロードされたデータを含め、出力レコード内の 1 バイト文字セット (SBCS) データの CCSID 値を指定します。

Mixed DBCS data (混合 DBCS データ)

外部文字形式でアンロードされたデータを含め、出力レコード内の混合 2 バイト文字セット (DBCS) データの CCSID 値を指定します。

DBCS data (DBCS データ)

外部文字形式でアンロードされたデータを含め、出力レコード内の DBCS データの CCSID 値を指定します。

上記の 3 つの CCSID 値フィールドのそれぞれについて、ゼロがデフォルト値です。

図に示した設定例では、生成された UNLOAD には以下の文節が追加されます。

- SHRLEVEL CHANGE ISOLATION UR
- FLOAT IEEE
- NOSUB
- MAXERR 2
- EBCDIC

親パネル

.

子パネル

なし。

関連するタスク

- [Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358](#)
- [UNLOAD \(表\) ページ 392](#)
- [ヌル標識バイトの処理 ページ 397](#)

- [UNLOAD \(表スペース\) ページ 398](#)
- [Db2 アンロード・ユーティリティ・オプション \(オプション 3.UU\) ページ 71](#)

「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」パネル

「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」パネルを使用して、UNLOAD ユーティリティの UNLOAD TABLESPACE 形式を使用するユーティリティ制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		UNLOAD Utility (Table Spaces)	Row 1 to 13 of 157
S P e R l C	Database Name	Table Space Name	Part'n Range . Part'n Number Tables
			Allocation Primary Secdry Space
—	DSN8D81A	DSN8S81D	0 1 5 5 48
—	DSN8D81A	DSN8S81E	1 1 3 3 144
—	DSN8D81A	DSN8S81E	2 1 5 5 144
—	DSN8D81A	DSN8S81E	3 1 3 3 48
—	DSN8D81A	DSN8S81E	4 1 5 5 144
—	DSN8D81A	DSN8S81E	5 1 5 5 144
—	DSN8D81A	DSN8S81P	0 4 40 20 192
—	DSN8D81A	DSN8S81R	0 6 5 5 0
—	DSN8D81A	DSN8S81S	0 1 5 5 0
—	DSN8D81E	DSN8S81U	0 1 3 2 0
—	DSN8D81P	DSN8S81C	0 3 40 20 192
—	DSN8D81P	DSN8S81Q	0 1 40 20 0
—	DSNATPDB	DSNATPTS	0 2 4 4 0
Command ==>		Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [UNLOAD ユーティリティ ページ 391](#)
- [UNLOAD \(表スペース\) ページ 398](#)
- [テンプレートを使用できる場所 ページ 25](#)

LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」パネル

LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」パネルを使用して、UNLOAD ユーティリティの UNLOAD TABLESPACE 形式を使用するユーティリティ制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----  -
FM/Db2  (DFG2)                UNLOAD Utility (Tables)                Row 1 to 2 of 2

      P
      R LISTDEF
Cmd C Name
----- * FRED
      JAMES
***** Bottom of data *****

Command ==>
F1=Help    F2=Split    F3=Exit    F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap
F12=Cancel
    
```

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- UNLOAD ユーティリティ ページ 391
- LISTDEF が指定された UNLOAD (表スペース) ページ 400
- テンプレートを使用できる場所 ページ 25

「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「From (元)」パネル

「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「From (元)」パネルを使用して、アンロードするデータが入っている Db2® オブジェクトの名前、(オプションで) テンプレート・データ・セットの名前、および処理オプションを指定します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FMN2PEYI FG2)		UNLOAD Utility (Tables)	
Command ==>			
From Db2 Object:			
Location	_____	Database . . _____	(optional)
Owner	DSN81010	Table space _____	(optional)
Name	EMP		+
Unload Count . . .	ALL	Number of rows to unload	
From Template:			
Data set name . . .	_____		
Member	_____		
Processing Options:			
Template usage		Enter "/" , "A" always to select option	
3 1. Above		_ Edit UNLOAD options	
2. Previous		_ Edit template	
3. Generate from table			
4. Generate/Replace			
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel
			F7=Backward F8=Forward

Edit UNLOAD options (UNLOAD オプションの編集)

このオプションを選択して、UNLOAD オプションを編集します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Edit template (テンプレートの編集)

このオプションを選択して、テンプレートを編集します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

親パネル

- 「Db2 Utilities (ユーティリティ)」パネル ページ 635

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「To (宛先)」パネル ページ 892	Enter キーを押す

関連するタスク

- [UNLOAD ユーティリティ ページ 391](#)
- [UNLOAD \(表\) ページ 392](#)
- [テンプレートを使用できる場所 ページ 25](#)

「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「To (宛先)」パネル

「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「To (宛先)」パネルを使用して、アンロードするデータが入っているデータ・セットの名前、(オプションで)テンプレート・データ・セットの名前、および処理オプションを指定します。

パネルとフィールドの定義

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FMN2PEYO om DSN81010.EMP                      NOPAD specified
Command ==>

Output Sequential Data Set:
Data set name . . . _____
Volume . . . . . _____

To Copybook or Template:
Data set name . . . _____
Member . . . . . _____

Processing Options:
Template usage          Disposition          Enter "/", "A"lways
4 1. Above              2 1. Old or Reuse    _ View UNLOAD options
  2. Previous           2. Mod              _ Edit template mapping
  3. Generate from input
  4. Generate and save
  5. None

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap
F12=Cancel
    
```

Data set name (データ・セット名)

アンロードするデータが入っているデータ・セットまたは PDS メンバーの名前。この名前は、完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前にメンバー名を組み込むことはできません。これは、Db2@UNLOAD ユーティリティによって強制されている制限です。

Volume (ボリューム)

データ・セットがカタログされていない場合、ボリューム通し番号。

Data set name (データ・セット名) (To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート))

データ・セットを記述するコピーブックまたはテンプレートが入っている順次データ・セットまたは区分データ・セットの名前。完全修飾データ・セット名またはパターンのどちらでもかまいません。名前には、括弧の中にメンバー名または名前パターンを組み込むことができます。メンバーを指定する場合、関連する「Member (メンバー)」フィールドを空にする必要があります。

Member (メンバー) (To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート))

「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、括弧で囲んだメンバー名または名前パターンを組み込まずに区分データ・セット (PDS) の名前を指定した場合は、このフィールドを使用してメンバー名またはメンバー名パターンを指定できます。

Template usage (テンプレートの使用法)

「Unload Utility (アンロード・ユーティリティ)」の「To (宛先)」パネルには、テンプレート処理について次の5つのオプションがあります。

1. Above (上の指定)

パネルの「To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)」セクションにコピーブックまたはテンプレートの名前を入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。コピーブックまたはテンプレートが入っているメンバーを指定すると、表に対応して自動生成されたテンプレートの代わりにこのテンプレートを使用して処理が続行されます (「Template usage (テンプレート使用法)」のオプション 3 を参照)。

2. Previous (直前の指定)

最終テンプレート、または以前にその表に使用されたテンプレートが使用されます。

3. Generate from input (入力からの生成)

入力テンプレートに基づいてテンプレートが生成されます。ただし、このテンプレートには、入力テンプレートで選択された列だけが入ります。パネルの「To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)」セクションにデータ・セット名を指定した場合には、このオプションは無視されます。生成されたテンプレートは保管されません。

4. Generate and save (生成して保管)

入力テンプレートに基づいてテンプレートが生成されます。ただし、このテンプレートには、入力テンプレートで選択された列だけが入ります。このオプションを有効にするには、テンプレート・データ・セットの名前 (およびオプションのメンバー名) をパネルの「To Copybook or Template (宛先コピーブックまたはテンプレート)」セクションに入力する必要があります。メンバー名またはパターンを指定しないと、FM/Db2 はメンバー選択リストを表示します。生成されたテンプレートは保管されます。

5. None (なし)

FM/Db2 は出力テンプレートを使用しません。

Disposition (後処理)

アンロードされたデータが入っているデータ・セットの後処理。

1. Old or Reuse (旧または再使用)

アンロード・データ・セットが存在し、アンロードされたデータが既存のデータを置き換える場合、「1」を指定します。

2. Mod

以下のいずれかの条件では、「2」を指定してください。これはデフォルトです。

- アンロード・データは存在しないため、作成する必要がある。
- アンロード・データ・セットが存在し、アンロードされたデータは既存のデータに追加される。

View UNLOAD options (UNLOAD オプションの表示)

現在の UNLOAD オプションのビューを表示するには、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

Edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)

データをアンロードする前に、データのアンロード先の区分データ・セット、順次データ・セット、または VSAM データ・セットのテンプレートを編集するのに使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

親パネル

- [「UNLOAD Utility \(Tables\) \(UNLOAD ユーティリティ \(表\)\)」の「From \(元\)」パネル ページ 891](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [UNLOAD ユーティリティ ページ 391](#)
- [UNLOAD \(表\) ページ 392](#)
- [データ・セットおよびメンバー名の指定 ページ 53](#)
- [FM/Db2 によるマッピング ページ 113](#)
- [独自マッピングの指定 ページ 114](#)

LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」パネル

LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」パネルを使用して、UNLOAD ユーティリティの UNLOAD TABLESPACE 形式を使用する ユーティリティ制御ステートメントを生成します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		UNLOAD Utility (Tables)	Row 1 to 1 of 1
P R LISTDEF Cmd C Name FRED ***** Bottom of data *****			
Command ==>> _____ Scroll PAGE F1=Help F2=Split F3=Exit F7=Backward F8=Forward F9=Swap F12=Cancel			

Cmd (コマンド)

このフィールドにコマンドを入力して、パネル行を操作することができます。

I(n)

新規の行を (n 行) 挿入します。

R(n)

現在の行を (n 回) 繰り返します。

D(n)

行を (n 行) 削除します。

S(n)

行を (n 行) 選択します。

「PRC」列のアスタリスク (*) は、行の LISTDEF が選択されていることを示します。S コマンドは行の選択を切り替えます。選択解除行は選択済み行に、選択済み行は選択解除行になります。

LISTDEF Name (LISTDEF 名)

パネルの入り口では、このフィールドは、「Db2® Utilities (ユーティリティ)」パネルの「LISTDEF name (LISTDEF 名)」フィールドの値に設定されています。

親パネル

- [「Db2 Utilities \(ユーティリティ\)」パネル ページ 635](#)

子パネル

なし。

関連するタスク

- [UNLOAD ユーティリティー ページ 391](#)
- [LISTDEF が指定された UNLOAD \(表\) ページ 398](#)
- [テンプレートを使用できる場所 ページ 25](#)

「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネル

「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルを使用して、使用したい FM/Db2 ユーティリティー を選択します。

パネルとフィールドの定義

Process	Options	Utilities	Help
FM/Db2 (DFG2)		Utility Functions	
1	Print	Print Db2 table or view	
2	Objects	Create and drop Db2 objects	
3	Copy	Copy data within Db2	
4	Object List	Display and process Db2 object lists	
5	Privileges	Manage Db2 privileges	
6	Import	Import sequential or VSAM data into Db2	
7	Export	Export Db2 data to sequential or VSAM data set	
8	Create	Create Db2 test data	
9	Utilities	Db2 utility job generation	
10	Audit trail	Print audit trail report	
11	Print browse	Browse FM/Db2 print data set	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F7=Backward F8=Forward F9=Swap
F12=Cancel			

1 Print (印刷)

Db2® 表またはビューを印刷します。

2 Objects (オブジェクト)

Db2® オブジェクトを作成または除去します。

3 Copy (コピー)

Db2® 内のデータのコピー

4 Object List (オブジェクト・リスト)

Db2® オブジェクト・リストを表示および処理します。

5 Privileges (特権)

Db2® 特権を管理します

6 Import (インポート)

順次または VSAM データを Db2® にインポートします。

7 Export (エクスポート)

Db2® データを順次または VSAM データ・セットにエクスポートします。

8 Create (作成)

Db2® テスト・データを作成します

9 Utilities (ユーティリティー)

Db2® ユーティリティー・ジョブを生成します。

10 Audit trail (監査証跡)

監査証跡報告書を印刷します。

11 Print browse (印刷ブラウズ)

印刷出力をブラウズします。

親パネル

- [「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」](#) パネル ページ 756

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Print Utility (印刷ユーティリティー)」 パネル ページ 760	オプション 1
「Db2 Object Functions (オブジェクト機能)」 パネル ページ 629	オプション 2
「Copy Utility ("From") (コピー・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 518	オプション 3
「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティー)」 パネル ページ 747	オプション 4
「Manage Db2 Privileges (特権の管理)」 パネル ページ 740	オプション 5
「Import Utility ("From") (インポート・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 718	オプション 6
「Export Utility ("From") (エクスポート・ユーティリティーの「元」)」 パネル ページ 698	オプション 7
「Data Create Utility (データ作成ユーティリティー)」 パネル ページ 610	オプション 8
「Db2 Utilities (ユーティリティー)」 パネル ページ 635	オプション 9
「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」 パネル ページ 757	オプション 10

関連するタスク

- Db2 表の内容の印刷 ページ 337
- Db2 オブジェクトの作成および除去 ページ 213
- ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253

- Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312
- Db2 特権の管理 ページ 348
- VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259
- VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287
- Db2 表へのデータの追加 ページ 251
- Db2 ユーティリティー・ジョブ用のバッチ JCL の生成 ページ 356
- 監査証跡報告書の印刷 ページ 344
- FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342
- 処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316
- 行コマンド域 (Cmd) の使用法 ページ 323

「Value List Edit (値リスト編集)」パネル

このパネルでは、フィールド・スクランブルで使用する値リストを作成および編集できます。

パネルとフィールドの定義

図 143. 「Value List Edit (値リスト編集)」パネル

```

Process  Options  Help
File Manager          CONTRACTOR Value List Edit          Line 1 of 12

Cmd Value
<-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----+
*** **** Top of data ****
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____
_____

Command ===> _____ Scroll CSR
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=CRetriev F5=RFind    F6=RunTemp
F7=Up        F8=Down     F9=Swap     F10=Left    F11=Right   F12=Cancel
    
```

Cmd (コマンド)

接頭部コマンド・フィールド。行をコピー、挿入、移動、反復、または削除できます。使用できるコマンドは以下のとおりです。

- A**
データをその後に移動またはコピーする行を識別します。
- B**
データをその前に移動またはコピーする行を識別します。
- C**
1 行をコピーします。

Cn

n 行をコピーします。

CC

行ブロックをコピーします。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

D

1 行を削除します。

Dn

n 行を削除します。

DD

行ブロックを削除します。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

I

1 行の空行を挿入します。

In

n 行の空行を挿入します。

M

1 行を移動します。

Mn

n 行を移動します。

MM

行ブロックを移動します。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

R

行を 1 回繰り返します。

Rn

行を *n* 回繰り返します。

RR

行ブロックを繰り返します。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

RRn

行ブロックを *n* 回繰り返します。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

Value (値)

フィールド・スクランブルが有効になっているときに使用可能な値。

親パネル

- [「Column Attributes \(列属性\)」 パネル \(英数字\) ページ 492](#)
- [「Column Attributes \(列属性\)」 パネル \(数値\) ページ 498](#)

関連するタスク

- [値リストの指定と編集 ページ 111](#)
- [データのスクランブル ページ 301](#)

「Volumes (ボリューム)」 パネル

図 144. 「Volumes (ボリューム)」 パネル

```

Process  Options  Utilities  Help
-----
FM/Db2 (DFG2)                               Volume(s) for DSN8G810
                                           Format TABL

SEL      SGNAME    SGCREATOR  VOLID
      *          *          *
---- #1----- #2----- #3-----1-----
**** Top of data ****
      DSN8G810 CJUNELL  *
**** End of data ****

Command ==>
F1=Help      F2=Zoom      F3=Exit      F4=CRetriev  F5=RFind     F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
    
```



注: このパネルの他の列を表示するには、「Right」機能キー (F11) を押します。

列の全リストについては、ご使用の Db2® バージョンの *DB2 for z/OS SQL 解説書* の “*Db2® catalog tables* (カタログ表)” を参照してください。

SEL

行コマンド域。

このパネルで使用できる行コマンドのリストについては、[表 22: オブジェクト・リスト行コマンド ページ 324](#) を参照してください。

親パネル

- [「Storage Group\(s\) \(ストレージ・グループ\)」 パネル ページ 840](#)

子パネル

このパネルの表示方法	使用または実行する機能
「Display Row (表示行)」 パネル ページ 644	行コマンド ROW

関連するタスク

- [処理、オブジェクト・リスト・パネル ページ 316](#)
- [行コマンド域 \(Cmd\) の使用法 ページ 323](#)

関連するタスク

- [SQL エクスプレインで使用される表の管理 ページ 443](#)

第 18 章. FM/Db2 コマンド

本章では、さまざまな FM/Db2 パネルで使用できる基本コマンドの構文とパラメーターについて説明します。

パネルのコマンド行に基本コマンドを入力します。

構文で複数オペランドの指定が可能な場合には、オペランド間の区切り文字に空白またはコンマを使用できます。

例えば、次は、両方とも正しいコマンドの指定です。

```
SORT col_num1 col_num2
SORT col_num1, col_num2
```

ABOUT 基本コマンド

ABOUT コマンドは、現在の FM/Db2 のバージョン番号および File Manager Db2® の「基本」コンポーネントの PTF 番号をウィンドウに表示します。また、このポップアップには、著作権情報と、製品と一緒に出荷されたメモがあれば、それも表示されます。

構文

▶ ABOUT ◀

使用箇所

すべてのパネル上で使用可能

関連するタスク

[ご使用の FM/Db2 バージョンの検査 ページ 30](#)

ALL 基本コマンド

ALL 基本コマンドは、1 次「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルに指定したすべてまたは 1 つの表からすべての列を選択するために使用します。

▶ ALL { * / #n } ◀

パラメーター

アスタリスク (*)

指定されたすべての表からすべての列を選択します。

#n

相関名 #n と関連した表からすべての列を選択します。

使用箇所

「Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)」パネル ページ 485

関連するタスク

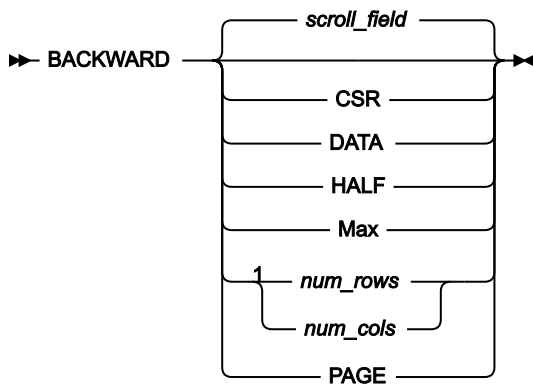
基本 SQL プロトタイピングの使用 ページ 402

BACKWARD 基本コマンド

BACKWARD 基本コマンドは、データを逆方向 (上方) にスクロールします。

スクロールの移動量 (列数) は、オプション・パラメーターによって決定されるか、パラメーターを入力しない場合は、「Scroll (スクロール)」フィールドに指定した移動量によって決定されます。

構文



注:

¹ *num_rows* は TABL 表示形式で使用可能です。 *num_cols* は SNGL 表示形式で使用可能です。

scroll_field

「Scroll (スクロール)」フィールドで指定する移動量だけ逆方向へスクロールする。パラメーターが使用されない場合はこれがデフォルト値になります。

CSR

カーソル位置まで逆方向へスクロールする。

DATA

1 ページ分より 1 行 (TABL) または 1 列 (SNGL) 少ないデータを逆方向にスクロールダウンする。

HALF

データの半ページ分逆方向へスクロールする。

Max

表の先頭までスクロールします。TOP コマンドと同じ効果があります。

num_rows

num_rows で示す行数だけ、逆方向にスクロールする。有効範囲: 1-9999。TABL 表示形式で使用可能です。

num_cols

num_cols で示す列数だけ、逆方向にスクロールする。有効範囲: 1-9999。SNGL 表示形式で使用可能です。

PAGE

データの 1 ページ分逆方向へスクロールする。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)

BOTTOM 基本コマンド

BOTTOM 基本コマンドは、データの最後のページまでスクロールします。

構文

▶▶ Bottom ◀◀

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」パネル ページ 868](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [スクロール ページ 162](#)

BROWSE 基本コマンド

BROWSE 基本コマンドは、新しいFM/Db2 Browse エディター・セッションを開始します。

構文

図 145. For editor panels

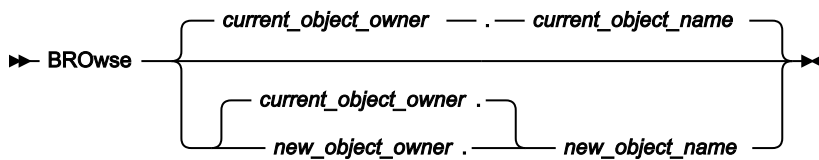


図 146. For Primary Option Menu panel

▶▶ B ▶▶

current_object_owner

現行 FM/Db2 エディター・セッションにおけるオブジェクトの所有者の名前。

current_object_name

現行 FM/Db2 エディター・セッションにおけるオブジェクトの名前。

new_object_owner

新規 FM/Db2 エディター・セッションの入力パネルに事前に入力されるオブジェクトの所有者の名前。

new_object_name

新規 FM/Db2 エディター・セッションの入力パネルに事前に入力されるオブジェクトの名前。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)
- [「Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)」 パネル ページ 756](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)

CANCEL 基本コマンド

CANCEL 基本コマンドは、変更があっても保存せずに、現行 FM/Db2 エディター・セッションを終了します。

エディター・セッションでは、CANCEL 基本コマンドは、現行 FM/Db2 エディター・セッションおよび関連したすべての従属セッションを終了します。編集の場合のみ、データに変更を加えていると、編集セッションを取り消してよいかどうかの確認を求められます。編集セッションを取り消すと (現行のセッションおよび関連した従属セッションでの)、データに対するコミットされていない変更はすべて失われます。

「[Enter Key Processing \(Enter キー処理\)](#)」 および 「[Commit Options \(コミット・オプション\)](#)」 オプション (「[Editor Options \(6 of 8\) \(編集オプション \(8 の 6\)\)](#)」 [パネル ページ 674](#) を参照) の現在の設定によっては、編集セッション中に

FM/Db2 が Db2® コミット・ポイントを発行することがあることに注意してください。コミット・ポイントが発行された場合に CANCEL コマンドを実行すると、最後のコミット・ポイント以降に行われた変更だけが破棄されます。

編集コミットで、「Whenever Enter is pressed (Enter が押されたとき)」というオプションを選択した場合、変更を行った後で Enter キーを押すと、Db2® 表が更新されます。この状態における CANCEL は、最後に Enter キーを押した時点より前に行われた変更があっても、その変更を取り消すことはできません。

QUIT は CANCEL の同義語です。

構文

▶ CANCEL ◀

使用箇所

大部分の FM/Db2 パネル上で使用可能。

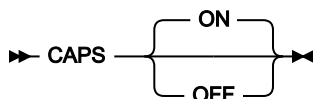
関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [テンプレートの処理 ページ 75](#)
- [SQL ステートメントの処理 ページ 402](#)

CAPS 基本コマンド

コマンドは、データ域内のデータを、入力時に大文字に変換するか (CAPS ON)、またはそのままにするか (CAPS OFF) を決定します。CAPS コマンドは、それ以前に出されたすべての CASE コマンドをオーバーライドします。デフォルトでは、小文字データは大文字に変換されません。

構文



CAPS ON

変更された行内のすべてのデータを小文字から大文字に上書きすることによって変換し、CHANGE コマンドに指定した置換データを小文字から大文字に変換します。

CAPS ON は、CAPS ON コマンドの入力後に変更された行のみに影響を与えます。

CAPS OFF

変更されたレコードを大文字に変換しません。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)

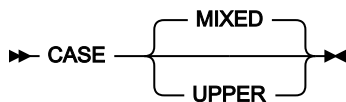
関連するタスク

- [CAPS に影響を与えるインストール設定 ページ 186](#)
- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)

CASE 基本コマンド

CASE コマンドは、データ域内のデータを、入力時に大文字に変換するか (CASE UPPER) またはそのまま変更しないか (CASE MIXED) を決定します。CASE コマンドは、それ以前に出されたすべての CAPS コマンドをオーバーライドします。デフォルトでは、小文字データは大文字に変換されません。

構文



CASE MIXED

変更された行または新規行を大文字に変換しません。

CASE UPPER

すべての新規レコードを小文字から大文字に変換します。また、変更レコード内のすべてのデータを、その変更内容にかかわらず、小文字から大文字に変換します。

使用箇所


- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)

関連するタスク

- [CAPS に影響を与えるインストール設定 ページ 186](#)
- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)

CHANGE 基本コマンド

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、CHANGE コマンドは、編集集中のデータから 1 回以上現れる文字ストリングまたは数値を探し出して置き換えるために使用します。

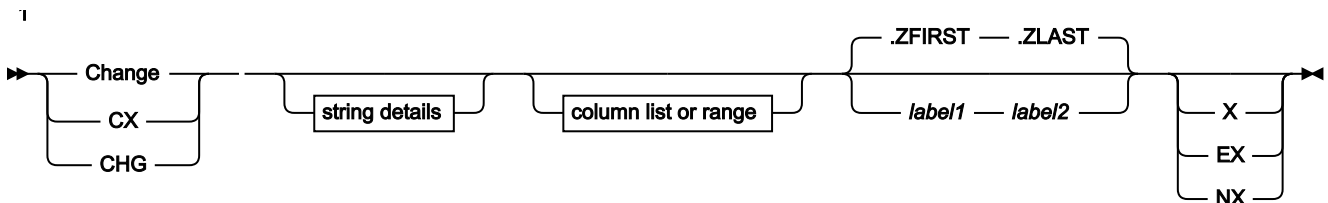
 **注:** (行制限または WHERE 文節のいずれかを指定することによって) FM/Db2 エディターにロードされる行数を制限している場合、CHANGE コマンドは、FM/Db2 エディター・セッション内のデータのみ適用されます。

ストリングを検出するだけで変更しない場合には、FIND 基本コマンドを使用します。

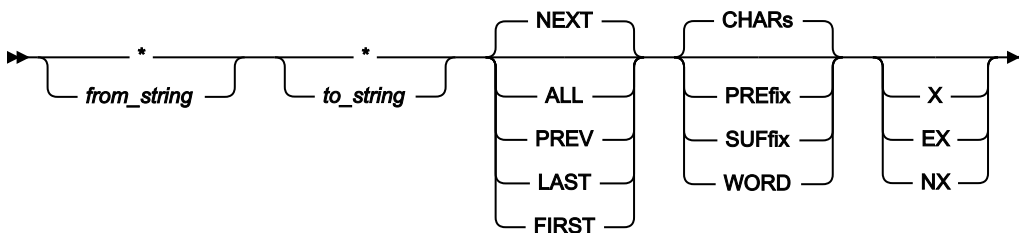
特定の行にズームインしていると、CHANGE コマンドはその行にのみ作用します。

CHANGE コマンドでデータが変更されると、FM/Db2 は変更されたストリングまたは数値データ・タイプ列の最後 (下方向スキャン中) または先頭 (上方向スキャン中) にカーソルを置きます。必要な場合には、FM/Db2 ストリングを表示するためにスクロールします。変更されたデータが除外行の中にある場合には、その除外行が表示されます。

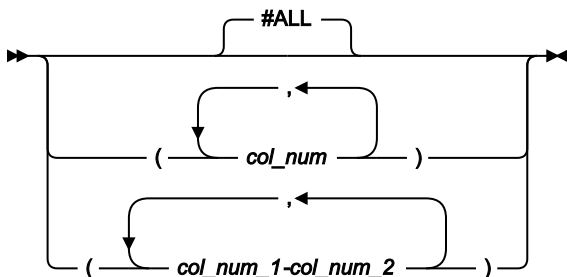
構文



string details



column list or range



注:

¹ パラメーターは、任意の順序で指定できます。

* (アスタリスク)

検索ストリングの代わりに使用された場合、検索ストリングとして、直前の CHANGE コマンドで指定された検索ストリングを使用します。

置き換えストリングの代わりに使用された場合、置き換えストリングとして、直前の CHANGE コマンドで指定された置き換えストリングを使用します。

CHANGE の場合、* の位置が重要になります。ストリングの前にある場合は、直前の検索引数を示します。つまり、最初のストリングとして扱われます。* の前にストリングがある場合は、2 番目のストリング (変更引数) として扱われ、直前の CHANGE コマンドの変更引数を使用します。直前の検索ストリングと直前の変更ストリングの両方を使用するには、CHANGE * * と指定します。

from_string

検索するストリング。このストリングの最大文字長は 100 文字で、以下のものを入れることができます。

- 一重引用符で開始または終了せず、空白またはコンマを含まない文字ストリング。ストリングの大/小文字は無視されます。同一文字の英大文字表記と小文字表記は一致します。例えば、次のコマンドは、ストリング [black]]、[Black]、および [BLACK] を変更します。

```
CHANGE black white
```

- 引用符で囲まれた文字ストリング。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングの大/小文字は無視されます。例えば、'Exact string' は 'exact string' と一致しません。
- [C] と、その後に引用符で囲まれた文字ストリング (C'Frog')、または、引用符で囲まれた文字ストリングと、その後に [c] ('Frog'C)。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングは (大文字/小文字も含めて) 完全に一致しなければなりません。例えば、C'Exact string' は C'exact string' と一致しません。
- P が前または後に付いている単一引用符または二重引用符で囲まれた、文字そのものではなく検索対象のストリングのタイプを表すピクチャー・ストリング。それ自体を表す空白、英字、および数字、あるいは、それぞれ文字のクラスを表す下記の任意の特殊文字を含めることができます。

=

任意の文字。

@

英字。

#

数字。

\$

特殊文字。

& notsym;

非空白文字。

.

無効文字。

- 非数値文字。
- <
小文字英字。
- >
大文字英字。

- 「X」と、一重引用符で囲まれた 16 進ストリング (x'c1c2')。
- 数値 (列番号を指定して検索を制限しているとき、および検索中の列が数値列であるときのみ)。

to_string

from_string と置き換えたいストリング。このストリングの最大文字長は 100 文字で、以下のものを入れることができます。

- 一重引用符で開始または終了せず、空白またはコンマを含まない文字ストリング。CAPS ON または CASE UPPER が有効になっている場合には、*to_string* は大文字に変換されます。
- 引用符で囲まれた文字ストリング。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。CAPS ON または CASE UPPER が有効になっている場合には、*to_string* は大文字に変換されます。ストリングはヌル・ストリング (') であっても構いません。
- 「C」と、その後に引用符で囲まれた文字ストリング (C'Frog')、または、引用符で囲まれた文字ストリングと、その後に 「c」 ('Frog'C)。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。大/小文字の区別は考慮され、保持されます。ストリングはヌル・ストリング (c') であっても構いません。
- P が前または後に付いている単一引用符または二重引用符で囲まれた、実行する変更内容を表すピクチャー・ストリング。大文字から小文字に、または小文字から大文字に文字を変更するか、あるいは下記のストリングの特殊文字を使用してフィールドをそのままにしておくことができます。

- =
任意の文字。
- <
小文字英字。
- >
大文字英字。

CHANGE コマンドで使用されるピクチャー・ストリングの例:

```
c p'< p'>' #3
```

列 3 を大文字にします。

```
c p'>' ' ' #2
```

大文字は「not 記号」列 2 に変更します (注: 「not 記号」には「to」字符串の特殊な意味がありません)。

```
c p'<#' p'>=' #1
```

列 1 のすべての小文字とその直後の数字を、大文字と検出された数字に変更します。

この表記が使用される場合、数字、ビット、およびユニコードのフィールド (SNGL および TABL 表示形式) は、検索処理から除外されます。

- 「X」と、一重引用符で囲まれた 16 進字符串 (x'c1c2')。大/小文字が区別されて保持されます (16 進値は指定されたとおりに正確に使用されます)。
- 数値。

NEXT

これはデフォルト設定です。カーソル位置 (カーソルがデータ表示部分にある場合) または表示されている最初の行の先頭から検索を開始して、次に現れる字符串を見つけるために前方へ検索していきます。字符串の次のオカレンスが除外レコード内にあり、検索を非除外レコードに制限しない場合は、この字符串を含む最初の除外レコードのみが表示されます。

ALL

データの最上部から検索を開始して、その字符串のすべてのオカレンスを検索して置き換えます。検索を非除外行に制限しないと、すべての行 (除外および非除外) で字符串が置き換えられます。変更の影響を受けたすべての除外行が再表示されます。

FIRST

表の先頭から開始して、下方へ検索します。

LAST

表の最後から開始して、上方へ検索します。

PREV

カーソル位置 (カーソルがデータ表示部分にある場合) または表示された先頭行から検索を開始し、字符串を見つけるために上方へ検索していきます。

CHARS

データ内の任意の場所で、その検索字符串に突き合わせます。

PREFIX

データ内の接頭部として出現する場所で、その検索字符串に突き合わせます。接頭部にするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があり、その後英数字が続く必要があります。

SUFFIX

データ内の接尾部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接尾部にするには、一致したテキストの前に英数字が付く必要があり、後に非英数字が続くか、一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

WORD

データ内のワードとして出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。ワードにするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があり、その後非英数字が続くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

#ALL

それぞれの列は、そのテンプレート属性に基づいて検索されます。

col_num

データ検索に含める列の Db2® 列番号 (#*n* として指定)。複数の列番号はコンマで区切るか、全体がブラケットで囲まれている場合にはブランクまたはコンマで区切る必要があります。

col_num_1

フィールドの範囲の最初のフィールド参照。添字にすることはできません。col_num_1 フィールド参照値が最低の表示フィールド参照値より小さい場合は、最低の表示フィールド参照値が使用されます。

col_num_2

フィールドの範囲の最後のフィールド参照。添字にすることはできません。col_num_2 フィールド参照値が最高の表示フィールド参照値より大きい場合は、最高の表示フィールド参照値が使用されます。

col_num_1 と col_num_2 のフィールド参照値はハイフン (-) によって区別する必要があります。ハイフンとフィールド参照値の間にスペースを使用することができます。

col_num_1 の値が col_num_2 より大きい場合は、オペランドを反転して検索処理が実行されます。

label1

レコード範囲の始まりを識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後に 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字 [Z] で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

label2

行範囲の最後を識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後に 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字 [Z] で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

EX

除外行のみ。

NX

非除外行のみ。

X

EX と同じ。

使用箇所

- [「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

関連するタスク

- [CHANGE コマンドによるデータの変更 ページ 188](#)

COL 基本コマンド

「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」オプション (4) を使用すると、COL 基本コマンドを使用できます。

- 「Plan Table Rows (プラン表行)」パネルで、コレクション ID が表示されるようにパネル・フォーマットを切り替えます。
- 「Statement Table Rows (ステートメント表行)」パネルで、コレクション ID が表示されるようにパネル・フォーマットを切り替えます。

構文

▶ COL ◀

使用箇所

すべてのパネル上で使用可能。 [「Plan Table Rows \(プラン表行\)」パネル ページ 752](#)

関連するタスク

[SQL ステートメントの処理 ページ 402](#)

CHARPOS 基本コマンド

SNGL 表示モードの場合に限り、CHARPOS コマンドは、長い文字列またはグラフィック列の “*character position range* (文字位置範囲)” を表示するか、または非表示にします。このコマンドは、“*column position range* (桁位置範囲)” 情報を動的にオン/オフするために使用します。

構文

▶ COLCHARPOS ◀

CHARPOS コマンドは切り替えコマンドです。コマンドを入力するたびに、“*column position range* (桁位置範囲)” の表示状況が反転します。

“character position range (文字位置範囲)” 情報は表示されるとき、長い列用のデータ表示に使用される 2 行目以降の列名の下に表示されます。ここに例を示します。

Column	Data
HIGH2KEY	(this row has data for chars 1-103 of column HIGH2KEY)
104-206	(this row has data for chars 104-206 of column HIGH2KEY)
207-309	(this row has data for chars 207-309 of column HIGH2KEY)

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

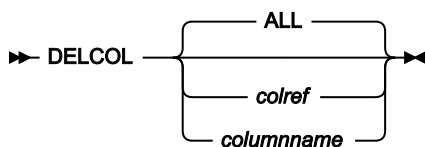
関連するタスク

- 列の位置決め ページ 144
- Db2 オブジェクトのリストの中で行または列を探し出す ページ 323

DELCOL 基本コマンド

File Manager テンプレート・エディタの行選択基準パネルにおいて、DELCOL コマンドは、1 つまたはすべての列に対して入力された列式を削除します。影響を受けた、編集可能な列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合は、「保護」に変更されます。また、DC 接頭部コマンドを列に対して入力すると、同じ結果を得ることができます。

構文



colref

1 つの列の参照 (例えば #4)。

columnname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。

パラメーターのない DELCOL は、すべての列式を削除し、すべての列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合) を「保護」に変更します。

列参照または列名のどちらかが指定された DELCOL は、指定された列の列式を削除し、指定された列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合) を「保護」に変更します。

使用箇所

- ・ [Row Selection Criteria (行選択基準)] パネル ページ 796

関連するタスク

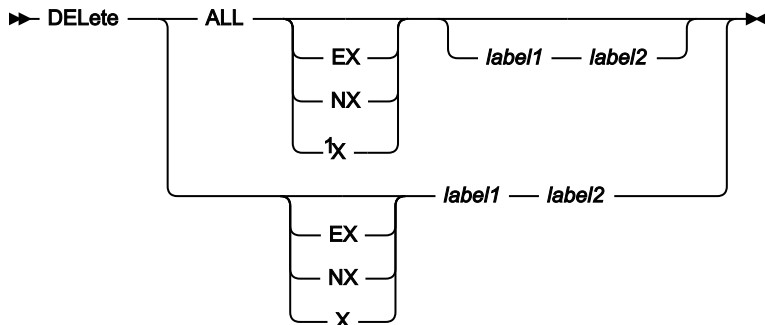
- ・ 列ごとの行選択 ページ 87

DELETE 基本コマンド

DELETE 基本コマンドは、編集中的数据から行を削除します。

構文

図 147. TABL display format



注:

¹ これらのパラメーター (EX、NX、または X) がどれも指定されないと、DELETE コマンドは除外行と非除外行の両方に適用されます。

図 148. SNGL display format

▶▶ DELEte ▶▶

ALL

DELETE コマンドは、指定された行範囲内 (範囲を指定していない場合は表全体) にあるすべての行 (またはすべての除外行あるいは非除外行) を削除します。

ALL パラメーターを指定しないと、DELETE コマンドは、指定された範囲内にある最初のレコード (または最初の除外行あるいは非除外行) のみを削除します。

EX

除外行のみ。

NX

非除外行のみ。

X

EX と同じ。

label1

レコード範囲の始まりを識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後に 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字「Z」で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

label2

行範囲の最後を識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後に 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字「Z」で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

使用箇所

- [「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

関連するタスク

- [行の削除 ページ 197](#)

DESCRIBE 基本コマンド

DESCRIBE 基本コマンドは、テンプレートの必要な説明を入力できる、Db2® の「Template Description (テンプレート記述)」パネルを表示します。

構文

▶▶ DESCRIBE ◀◀

使用箇所

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

関連するタスク

- [テンプレートの編集 ページ 84](#)

DESELECT 基本コマンド

拡張 SELECT プロトタイプピングでは、DESELECT 基本コマンドを入力する場合に、カーソルが現在表示されているフラグメントの要素に位置付けられていないと、現在表示されているフラグメントとその従属フラグメントが構文から除去され、制御は現在表示されているフラグメントの親に戻ります。現在表示されているフラグメントが最上位フラグメントである場合には、これには CANCEL または END と同じ効果があります。

カーソルを現在表示されているフラグメントのフラグメント・フィールドに位置付けて DESELECT 基本コマンドを入力すると、選択したフラグメントとその従属フラグメントが構文から除去され、制御は現在表示されているフラグメントに残ります。

選択解除されるフラグメントが繰り返しインスタンス内の最後の選択済み (または唯一) の項目である場合には、そのインスタンス全体が削除されます。

構文

▶ DESELECT ◀

使用箇所

[Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)] パネル ページ 462

関連するタスク

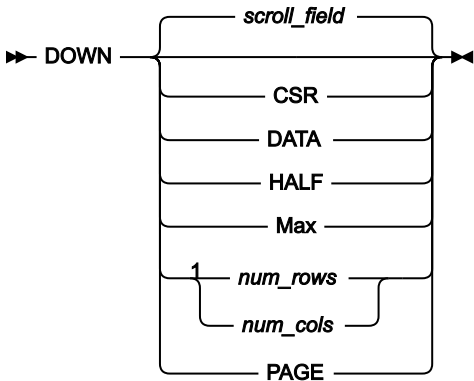
拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411

DOWN 基本コマンド

DOWN 基本コマンドは、データを下方 (前方) にスクロールします。

スクロールの移動量 (列数) は、オプション・パラメーターによって決定されるか、パラメーターを入力しない場合は、[Scroll (スクロール)] フィールドに指定した移動量によって決定されます。

構文



注:

¹ num_rows は TABL 表示形式で使用可能です。 num_cols は SNGL 表示形式で使用可能です。

scroll_field

[スクロール] フィールドで指示された移動量ずつスクロールダウンします。パラメーターが使用されない場合はこれがデフォルト値になります。

CSR

カーソル位置までスクロールダウンします。

DATA

1 ページ分より 1 行 (TABL) または 1 列 (SNGL) 少ないデータを下方向にスクロールダウンする。

HALF

データの半ページ分スクロールダウンします。

Max

表の末尾までスクロールする。BOTTOM コマンドと同じ効果があります。

num_rows

num_rows 行をスクロールダウンします。有効範囲: 1-9999。TABL 表示形式で使用可能です。

num_cols

num_cols 列をスクロールダウンします。有効範囲: 1-9999。SNGL 表示形式で使用可能です。

PAGE

データの 1 ページ分スクロールダウンします。

例

DOWN 8

8 行だけスクロールダウンします。

DOWN

[Scroll (スクロール)] フィールドに指定した行数分上へスクロールします。

DOWN M

データの最後のページまでスクロールダウンします。

使用箇所

- [\[Table Browse \(表ブラウズ\)\]](#) パネル ページ 855
- [\[Table Edit \(表編集\)\]](#) パネル ページ 857
- [\[Table View \(表表示\)\]](#) パネル ページ 868
- [\[Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン\)\]](#) パネル ページ 686

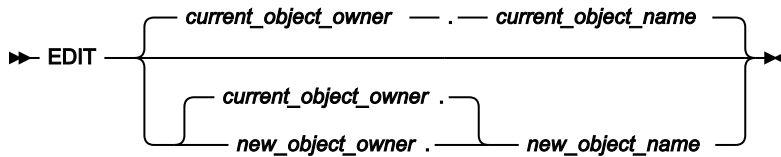
関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更](#) ページ 123
- [スクロール](#) ページ 162
- [SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン](#) ページ 437

EDIT 基本コマンド

EDIT 基本コマンドは、新規 FM/Db2 編集セッションを開始します。

構文



current_object_owner

現行 FM/Db2 エディター・セッションにおけるオブジェクトの所有者の名前。

current_object_name

現行 FM/Db2 エディター・セッションにおけるオブジェクトの名前。

new_object_owner

新規 FM/Db2 エディター・セッションの入力パネルに事前に入力されるオブジェクトの所有者の名前。

new_object_name

新規 FM/Db2 エディター・セッションの入力パネルに事前に入力されるオブジェクトの名前。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)

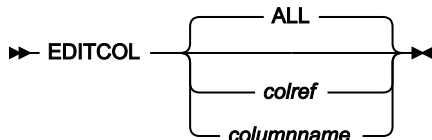
関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)

EDITCOL 基本コマンド

File Manager テンプレート・エディターの行選択基準パネルにおいて、EDITCOL コマンドは、列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合) を「protected (保護)」から「editable (編集可能)」に変更します。このコマンドでは、列名式を入力できます。また、EC 接頭部コマンドを列に対して入力すると、同じ結果を得ることができます。

構文



colref

1つの列の参照 (例えば #4)。

columnname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。

パラメーターのない EDITCOL は、すべての列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合) を「保護」から「編集可能」に変更します。

列参照または列名のどちらかが指定された EDITCOL は、指定された列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合) を「保護」から「編集可能」に変更します。

使用箇所

- [「Row Selection Criteria \(行選択基準\)」 パネル ページ 796](#)

関連するタスク

- [列ごとの行選択 ページ 87](#)

END 基本コマンド

END は FILE と同じ意味になります。

- 「表示」または「ブラウズ」では、END 基本コマンドは、
 - 表示またはブラウズ・エディター・セッションを終了します。
- 「編集」では、END 基本コマンドは、
 - すべてのコミットされていない変更を保管し、編集セッションを終了します。
 - FM/Db2 が編集セッションで行われた変更を保管しようとしたとき、または関連する表の従属編集セッションがある場合に、Db2® がエラーを報告すると、障害が発生します。
- テンプレートを編集する場合、END 基本コマンドは、以下を行います。
 - テンプレートを別の名前で保管できる、保管パネルを表示します。

構文

▶ END ◀

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)
- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」 パネル ページ 505](#)

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123
- テンプレートの処理 ページ 75

EXCLUDE 基本コマンド

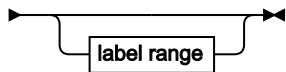
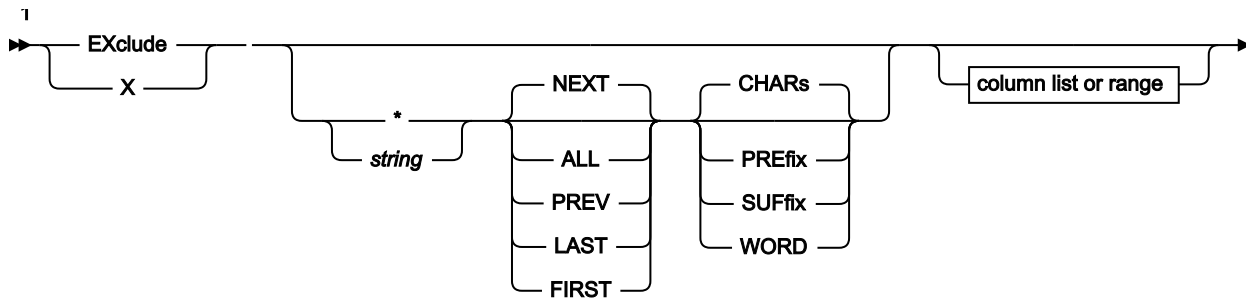
EXCLUDE 基本コマンドは、表示、ブラウズ、または編集しているデータ内の特定の行を表示対象から除外します。

EXCLUDE 基本コマンドを使用できるのは TABL 表示形式だけです。

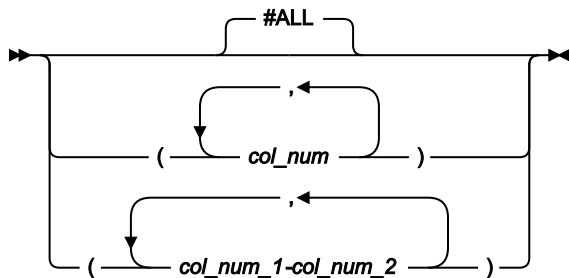
除外行を再表示するには、次のコマンドを入力します。

```
RESET
```

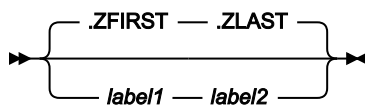
構文



column list or range



label range



注:

- ¹ パラメーターは、任意の順序で指定できます。

*** (アスタリスク)**

直前の EXCLUDE コマンドで指定した検索ストリングが、検索ストリングとして使用されます。

string

検索するストリング。他の EXCLUDE コマンド・パラメーターによって指定された制限内にある、このストリングを含む行は除外されます。ストリングは以下のいずれかが可能です。

- 一重引用符で開始または終了せず、空白またはコンマを含まない文字ストリング。ストリングの大/小文字は無視されます。同一文字の英大文字表記と小文字表記は一致します。例えば、「Mixed string」は「MIXED string」と一致します。
- 引用符で囲まれた文字ストリング。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングの大/小文字は無視されます。例えば、「Exact string」は「exact string」と同じです。
- 「C」と、その後に引用符で囲まれた文字ストリング (C'Frog')、または、引用符で囲まれた文字ストリングと、その後に 「c」 (Frog'C)。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングは (大文字/小文字も含めて) 完全に一致しなければなりません。例えば、「Exact string」と「exact string」は一致しません。
- P が前または後に付いている単一引用符または二重引用符で囲まれた、文字そのものではなく検索対象のストリングのタイプを表すピクチャー・ストリング。それ自体を表す空白、英字、および数字、あるいは、それぞれ文字のクラスを表す下記の任意の特殊文字を含めることができます。

- =
任意の文字。
- @
英字。
- #
数字。
- \$
特殊文字。
- & notsym;
非空白文字。
- .
無効文字。
- 非数値文字。
- <
小文字英字。

>

大文字英字。

EXCLUDE コマンドで使用されるピクチャー・ストリングの例:

```
ex p'.' #4
```

列 4 の無効文字を除外します。

```
ex p'###'
```

3 桁の数値を除外します。

```
ex '@1'p #1
```

列 1 のラベル a1、b1、c1、などを除外します。

```
ex p'<'
```

次の小文字英字を除外します。

```
ex p'~' #2
```

列 2 の次の非空白文字を除外します。

この表記が使用される場合、数字、ビット、およびユニコードのフィールド (SNGL および TABL 表示形式) は、検索処理から除外されます。

- 「X」と、その後に一重引用符で囲まれた 16 進ストリング。例えば、X'C1C2'。
- 数値 (列番号を指定して検索を制限しているとき、および検索中の列が数値列であるときのみ)。

NEXT

これはデフォルト設定です。カーソル位置 (カーソルがデータ表示部分にある場合) または表示された最初の行の先頭から検索を開始し、まだ除外されていない行にある次に現れる *string* を見つけるために、下方へ検索していきます。

ALL

検索はデータの最上部から始まり、*string* のすべてのオカレンスを検索します。これが指定されないと、カーソル位置 (カーソルがデータ表示部分にある場合) または表示された最初の行の先頭から検索を開始し、まだ除外されていない行にある次に現れる *string* を見つけるために、前方へ検索していきます。

コマンド EXCLUDE ALL は、すべての表示されたレコードを除外します。

FIRST

表の先頭から開始して、下方へ検索します。

LAST

表の最後から開始して、上方へ検索します。

PREV

カーソル位置 (カーソルがデータ表示部分にある場合) または表示された先頭行から検索を開始し、ストリングを見つけるために上方へ検索していきます。

CHARS

データ内の任意の場所で、その検索ストリングに突き合わせます。

PREFIX

データ内の接頭部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接頭部にするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があります、その後英数字が続く必要があります。

SUFFIX

データ内の接尾部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接尾部にするには、一致したテキストの前に英数字が付く必要があります、後に非英数字が続くか、一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

WORD

データ内のワードとして出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。ワードにするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があります、その後非英数字が続くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

#ALL

それぞれの列は、そのテンプレート属性に基づいて検索されます。

col_num

データ検索に含める列の Db2® 列番号 (#*n* として指定)。複数の列番号はコンマで区切るか、全体がブラケットで囲まれている場合にはブランクまたはコンマで区切る必要があります。

col_num_1

フィールドの範囲の最初のフィールド参照。添字にすることはできません。*col_num_1* フィールド参照値が最低の表示フィールド参照値より小さい場合は、最低の表示フィールド参照値が使用されます。

col_num_2

フィールドの範囲の最後のフィールド参照。添字にすることはできません。*col_num_2* フィールド参照値が最高の表示フィールド参照値より大きい場合は、最高の表示フィールド参照値が使用されます。

col_num_1 と *col_num_2* のフィールド参照値はハイフン (-) によって区別する必要があります。ハイフンとフィールド参照値の間にスペースを使用することができます。

col_num_1 の値が *col_num_2* より大きい場合は、オペランドを反転して検索処理が実行されます。

label1

レコード範囲の始まりを識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字 [Z] で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

label2

行範囲の最後を識別するラベル。ラベルはピリオド(.)で始まり、その後に1から4文字の英字(数字または特殊文字ではない)を続ける必要があります。文字「Z」で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)

関連するタスク

- [行の除外 ページ 164](#)

EXECUTE 基本コマンド

SQL ステートメントを処理する場合は、EXECUTE 基本コマンドを使用します。

基本 SELECT プロトタイピングでは、EXECUTE コマンドは SELECT ステートメントを実行します。



注: EXECUTE 基本コマンドを使用する前に、少なくとも1つの列を選択しておく必要があります。

拡張 SELECT プロトタイピングでは、EXECUTE 基本コマンドは、プロトタイプ化されたコマンドが構文的に完結していれば、そのコマンドを実行します。FM/Db2 は、SELECT ステートメントの「Browse (ブラウズ)」 パネルと類似の結果表を表示します。

「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン)」 パネルを使用すると、EXECUTE 基本コマンドは、ステートメント入力エリアで SQL ステートメントを実行します。EXECUTE 基本コマンドは、Enter キーを押し、コマンド行がブランクであったときに、デフォルトで実行されます。

構文

▶ EXECUTE ◀

使用箇所

- [「Basic SELECT Prototyping \(基本選択プロトタイピング\)」 パネル ページ 485](#)
- [「Advanced SELECT Prototyping \(拡張 SELECT プロトタイピング\)」 パネル ページ 462](#)
- [「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン\)」 パネル ページ 686](#)

関連するタスク

- [基本 SQL プロトタイピングの使用 ページ 402](#)
- [拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411](#)
- [SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン ページ 437](#)

EXPAND 基本コマンド

EXPAND 基本コマンドは、長い行の選択基準を入力または編集するためのパネルを表示します。このコマンドは、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネル(「**Row Selection Criteria (行選択基準)**」入力フィールドにカーソルを置く必要があります)から使用します。

構文

▶ EXPAND ◀

使用箇所

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

関連するタスク

- [行の選択 ページ 86](#)

EXPLAIN 基本コマンド

EXPLAIN 基本コマンドは、ステートメント入力域の SQL ステートメントをエクスペレインします。FM/Db2 は、ステートメント入力エリアの内容を使用して SQL EXPLAIN ステートメントを作成し、FOR 文節を作成します。適用できる場合には、FM/Db2 は、また、「**Query number (照会番号)**」オプションまたは生成された値の内容を使用して、SET QUERYNO 文節も作成します。

EXPLAIN 基本コマンドを使用すると、FM/Db2 は、生成した SQL EXPLAIN ステートメントによって入手された情報を「Plan Table Rows (プラン表行)」パネルに表示します。

構文

▶ EXPLAIN ◀

使用箇所

- [「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン\)」パネル ページ 686](#)

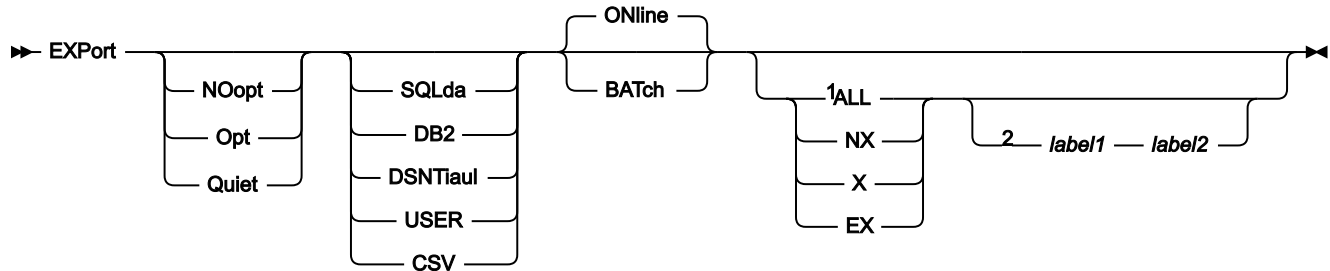
関連するタスク

- [SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン ページ 437](#)

EXPORT 基本コマンド

EXPORT 基本コマンドは、FM/Db2 エディター・セッションに現在表示されている結果表、または現行 FM/Db2 エディター・セッションでの行のいずれかをデータ・セットにエクスポートできるダイアログを開始します。

構文



注:

- ¹ TABL 形式に有効な NX、X、EX のみ。
- ² TABL 形式に有効なラベル範囲のみ。

NOOPT

「Editor Options (4 of 8)(編集オプション (8 の 4))」パネルで「**Show export options (エクスポート・オプションを表示する)**」オプションの現在の設定を指定変更します。「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルは表示されません。

エクスポートのデータ形式は次のように決定されます。EXPORT コマンドでデータ形式パラメーターが指定されている場合を除き、エクスポート・データ形式の現行値が使用されます。指定されている場合は、EXPORT コマンドで指定されたパラメーターにより、現行のエクスポート・データ形式値が指定変更されます。

OPT

「Editor Options (4 of 8)(編集オプション (8 の 4))」パネルで「**Show export options (エクスポート・オプションを表示する)**」オプションの現在の設定を指定変更します。「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルが表示されます。

QUIET

「Editor Options (4 of 8)(編集オプション (8 の 4))」パネルで「**Show export options (エクスポート・オプションを表示する)**」オプションの現在の設定を指定変更します。「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルは表示されません。また、このオプションは、「Export "To" (エクスポートの宛先)」パネルの表示を抑制します。「Export "To" (エクスポートの宛先)」パネルで指定される現行値は、EXPORT コマンドの処理に使用されます。

SQLDA

データは FM/Db2 内部 (SQLDA) 形式でエクスポートされます。これは、「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルで「**Data Format (データ形式)**」オプションに「1」を指定するのと同じです。

Db2®

データは Db2® アンロード形式でエクスポートされます。これは、「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルで「**Data Format (データ形式)**」オプションに「2」を指定するのと同じです。

DSNTIAUL

データは、DSNTIAUL サンプル・プログラムによって使用されるものと同じ形式でエクスポートされます。これは、「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルで「**Data Format (データ形式)**」オプションに「3」を指定するのと同じです。

USER

データはユーザー定義のデータ形式でエクスポートされます。これは、「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルで「**Data Format (データ形式)**」オプションに「4」を指定するのと同じです。

CSV

データは、コンマ区切りの変数 (区切り文字で区切られている) 形式でエクスポートされます。これは、「Export Options (1 of 3) (エクスポート・オプション (3 の 1))」パネルで「**Data Format (データ形式)**」オプションに「5」を指定するのと同じです。

ONLINE

エクスポートはオンラインで実行されます。

BATCH

Db2® オブジェクトまたは SQL SELECT ステートメントのエクスポートをバッチ・モードで実行する JCL デックを生成します。BATCH を指定するときに、ALL|NX|IX|EX はいずれも指定できません。

ALL

現行 FM/Db2 エディター・セッションのすべての行をターゲット・データ・セットにコピーします。

NX

現行 FM/Db2 エディター・セッションのすべての非除外行をターゲット・データ・セットにコピーします。

X

現行 FM/Db2 エディター・セッションのすべての除外行をターゲット・データ・セットにコピーします。

EX

X と同じ。

label1

処理する行範囲の先頭を識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後に 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字「Z」で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

label2

処理する行範囲の最後を識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後に 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字「Z」で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

使用箇所

- 「Table Browse (表ブラウズ)」パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」パネル ページ 868

関連するタスク

- 行の除外 ページ 164

FILE 基本コマンド

FILE は END と同じ意味になります。

- 「表示」または「ブラウズ」では、FILE 基本コマンドは、
 - 表示またはブラウズ・セッションを終了します。
- 「編集」では、FILE 基本コマンドは、
 - すべてのコミットされていない変更を保管し、編集セッションを終了します。
 - FM/Db2 が編集セッションで行われた変更を保管しようとしたとき、または関連する表の従属編集セッションがある場合に、Db2® がエラーを報告すると、障害が発生します。
- テンプレートを編集する場合、FILE 基本コマンドは、以下を行います。
 - テンプレートを別の名前で保管できる、保管パネルを表示します。

構文

▶▶ FILE ▶▶

使用箇所

- 「Table Browse (表ブラウズ)」パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」パネル ページ 868
- 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル ページ 505

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123
- テンプレートの処理 ページ 75

FIND 基本コマンド

FIND 基本コマンドは、データを検索して、文字ストリングまたは特定の数値を持つ数値フィールドを検出します。

File Manager/Db2 エディター・セッション、またはオブジェクト・リスト・ユーティリティーでは、以下のようになります。

- ストリングまたは数値が見つかったら、FIND コマンドはそのストリングまたは数値フィールドの先頭にカーソルを合わせて、必要なら自動的にスクロールして見つかったデータが見えるようにします。
- FIND コマンドは、現れたすべての検索ストリングまたは数値を強調表示します (FIRST、LAST、PREV、NEXT、EX、NX、または X を指定しているときも同様です)。強調表示をオフにするには、RESET FIND コマンドを入力します。

「Print Browse (印刷ブラウズ)」では、以下のようになります。

- 文字ストリングが見つかったら、そのストリングを含むレコードは最上部に表示されます。

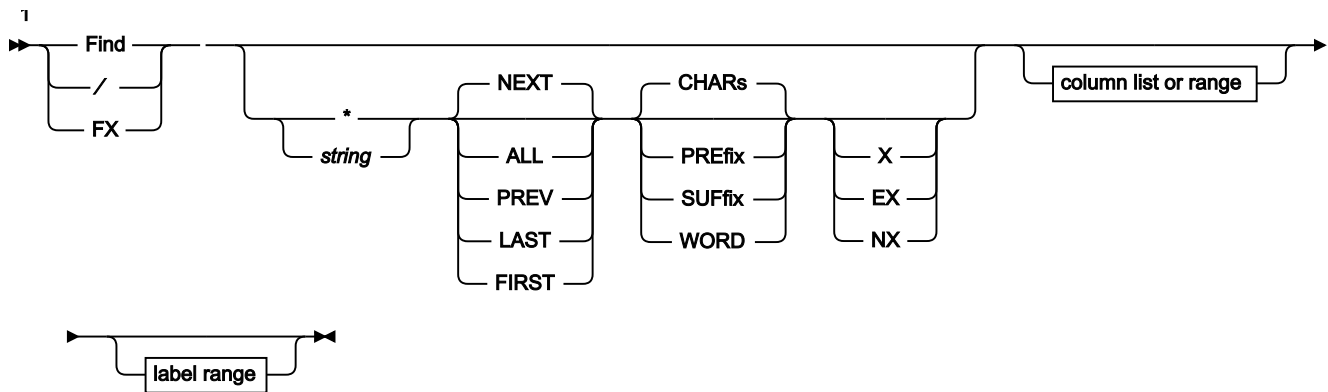
次に現れる同じストリングを検索するには、「RFind」機能キー (F5) を押し、FIND * と入力するか、パラメーターを指定しないで FIND コマンドを入力します。ストリングが見つからなければ、メッセージが表示されます。



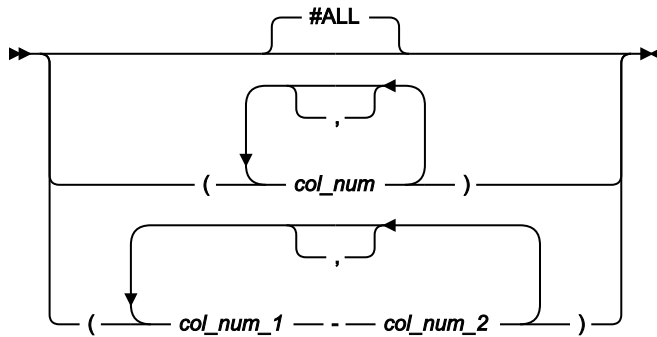
注: `FIND *` では、同じパラメーターを持つ前の `FIND` コマンドを繰り返しません。`FIND *` では、同じストリング引数を持つ `FIND` コマンドを繰り返しますが、他のすべてのパラメーターは、指定されない限りデフォルト値に戻ります。

構文

149. Editor session



column list or range (SNGL or TABL display format)



label range



注:

¹ パラメーターは、任意の順序で指定できます。

図 150. Object List utility

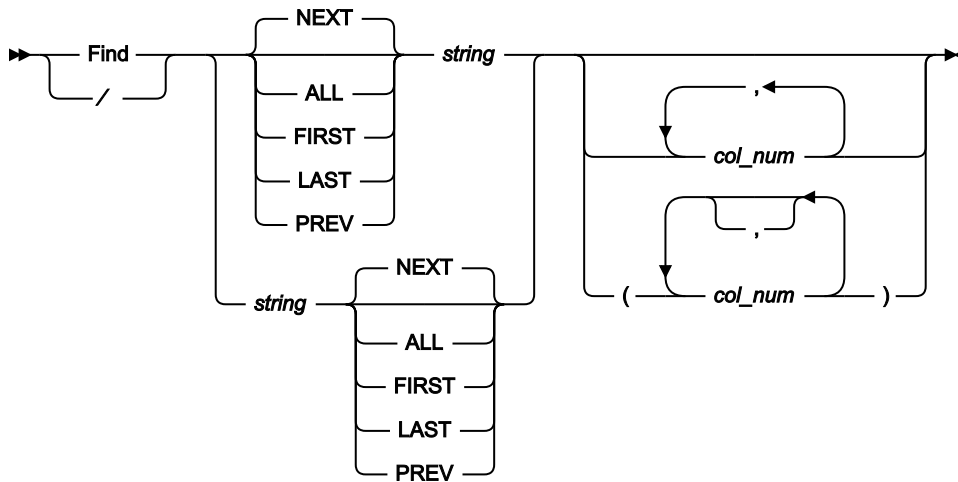
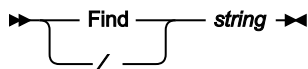


図 151. Print Browse



*** (アスタリスク)**

検索ストリングとして、直前の FIND コマンドに指定した検索ストリングを使用します。

string

検索するストリング。このストリングの最大文字長は 100 文字で、以下のものを入れることができます。

- 一重引用符で開始または終了せず、空白またはコンマを含まない文字ストリング。ストリングの大/小文字は無視されます。同一文字の英大文字表記と小文字表記は一致します。例えば、次のコマンドは、ストリング [black]、[Black]、および [BLACK] を検出します。

```
FIND black
```

- 引用符で囲まれた文字ストリング。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングの大/小文字は無視されます。例えば、'Exact string' は 'exact string' と一致します。
- [C] と、その後に引用符で囲まれた文字ストリング (C'Frog')、または、引用符で囲まれた文字ストリングと、その後に [c] ('Frog'C)。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングは (大文字/小文字も含めて) 完全に一致しなければなりません。例えば、C'Exact string' は C'exact string' と一致しません。
- P が前または後に付いている単一引用符または二重引用符で囲まれた、文字そのものではなく検索対象のストリングのタイプを表すピクチャー・ストリング。それ自体を表す空白、英字、および数字、あるいは、それぞれ文字のクラスを表す下記の任意の特殊文字を含めることができます。

=

任意の文字。

@

英字。

#

数字。

\$

特殊文字。

& notsym;

非空白文字。

.

無効文字。

-

非数値文字。

<

小文字英字。

>

大文字英字。

FIND コマンドで使用されるピクチャー・ストリングの例

```
find p'.' #3
```

列 3 の無効文字を検出します。

```
find p'###'
```

3 桁の数字 (例えば、101 は該当しますが、99 は該当しません) を検索します。

```
find '@1'p #1
```

1 桁目のラベル a1、b1、c1 などを検索します。

```
find p'<'
```

小文字英字を検索します。

```
find p'~' #2
```

2 桁目の非空白文字を検索します。

この表記が使用される場合、数字、ビット、およびユニコードのフィールド (SNGL および TABL 表示形式) は、検索処理から除外されます。

- X と、その後一重引用符で囲まれた 16 進ストリング。例えば、`x'c1c2'` です。
- (FM/Db2 エディター・セッションのみ。) 数値 (列番号を指定して検索を制限しているとき、および検索中の列が数値列であるときのみ)。

NEXT

これはデフォルト設定です。カーソル位置 (カーソルがデータ表示部分にある場合) または表示された最初の行の先頭から検索を開始して、次に現れる *string* を見つけるために下方へ検索していきます。

ALL

検索はデータの最上部から始まり、*string* のすべてのオカレンスを検索します。



注: 非表示またはシャドーイングされている非選択行は、ALL パラメーターが指定されていても、FIND コマンドでは処理されません。

FIRST

表の先頭から開始して、下方へ検索します。

LAST

表の最後から開始して、上方へ検索します。

PREV

カーソル位置 (カーソルがデータ表示部分にある場合) または表示された先頭行から検索を開始し、ストリングを見つめるために上方へ検索していきます。

CHARS

データ内の任意の場所で、その検索ストリングに突き合わせます。

PREFIX

データ内の接頭部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接頭部にするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があり、その後英数字が続く必要があります。

SUFFIX

データ内の接尾部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接尾部にするには、一致したテキストの前に英数字が付く必要があり、後に非英数字が続くか、一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

WORD

データ内のワードとして出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。ワードにするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があり、その後非英数字が続くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

#ALL

それぞれの列は、そのテンプレート属性に基づいて検索されます。

col_num

データ検索に含める列の Db2® 列番号 (#*n* として指定)。複数の列番号はコンマで区切るか、全体がブラケットで囲まれている場合にはブランクまたはコンマで区切る必要があります。

col_num_1

フィールドの範囲の最初のフィールド参照。添字にすることはできません。col_num_1 フィールド参照値が最低の表示フィールド参照値より小さい場合は、最低の表示フィールド参照値が使用されます。

col_num_2

フィールドの範囲の最後のフィールド参照。添字にすることはできません。col_num_2 フィールド参照値が最高の表示フィールド参照値より大きい場合は、最高の表示フィールド参照値が使用されます。

col_num_1 と col_num_2 のフィールド参照値はハイフン (-) によって区別する必要があります。ハイフンとフィールド参照値の間にスペースを使用することができます。

col_num_1 の値が col_num_2 より大きい場合は、オペランドを反転して検索処理が実行されます。

label1

(FM/Db2 エディター・セッションのみ。) 行範囲の先頭を識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後に 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字 [Z] で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

label2

(FM/Db2 エディター・セッションのみ。) 行範囲の最後を識別するラベル。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後に 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字 [Z] で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。

EX

除外行のみ。

NX

非除外行のみ。

X

EX と同じ。

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868
- すべての [Print Browse (印刷ブラウズ)] 表示パネル
- [Collections (コレクション)] パネル ページ 491
- [Columns (列)] パネル ページ 510
- [Databases (データベース)] パネル ページ 616
- [Database Request Modules (データベース要求モジュール)] パネル ページ 614
- [Distinct Types (特殊タイプ)] パネル ページ 645
- [Functions (関数)] パネル ページ 710
- [Indexes (索引)] パネル ページ 724

- [Application Packages (アプリケーション・パッケージ)] パネル ページ 480
- [Application Plans (アプリケーション・プラン)] パネル ページ 483
- [Schemas (スキーマ)] パネル ページ 807
- [Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)] パネル ページ 843
- [Synonyms (同義語)] パネル ページ 845
- [Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)] パネル ページ 875
- [Table Spaces (表スペース)] パネル ページ 866
- [Triggers (トリガー)] パネル ページ 884
- [Storage Group(s) (ストレージ・グループ)] パネル ページ 840

関連するタスク

- File Manager/Db2 エディター・セッションでのデータの表示 ページ 144
- FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342
- Db2 オブジェクトのリストでストリングを検出する ページ 323
- Db2 オブジェクトのリストの中で行または列を探し出す ページ 323

FMAP 基本コマンド

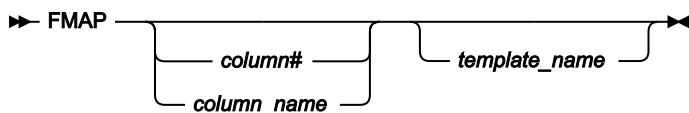
FMAP コマンドを使用すると、テンプレートを使用して表内の列を編集または表示することができます。マップする列が、テンプレート・マッピングより短い場合は、データを変更するときに警告メッセージが出され、マップされたフィールドに収まらなかったデータは無視されます。

FMAP コマンドの発行時には、マップする列が含まれている行を、画面の一番上に表示しておく必要があります。また、カーソルをその行に移動しておいても構いません。

列 ID パラメーターが指定されていない場合に、カーソルが列上にあると、その列が使用されます。それ以外の場合は、「Field List Selection」パネルが表示されます。

テンプレート名が指定されていない場合は、この情報を指定できるパネルが表示されます。

構文



column#

マップする列の参照番号。

column_name

マップする列の名前。

template_name

列のマップに使用するテンプレートの名前。部分的または完全に修飾されたデータ・セット名を、メンバー名とともに指定できます。

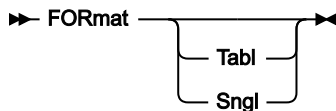
使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

FORMAT 基本コマンド

FORMAT 基本コマンドは、TABL (表) と SNGL (単一) の表示形式を切り替えます。「Format (形式)」フィールド (パネルの右上) を変更するのと同じことです。

構文



Tabl

SNGL 表示形式の場合、TABL 表示形式に切り替わり、パネルの最上部の現行行が置かれます。このパラメータはオプションです。

Sngl

TABL 表示形式の場合、SNGL 表示形式に切り替わり、それまでパネルの最上部に表示されていた行だけが表示されます。このパラメータはオプションです。

注:

1. FS および FT 基本コマンドを使用して TABL と SNGL の表示形式を切り替えることもできます。
2. 表示および編集で TABL 表示形式を使用しているときは、FS 接頭部 コマンドで行を SNGL 表示形式に変更して、その行を表示できます。

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

関連するタスク

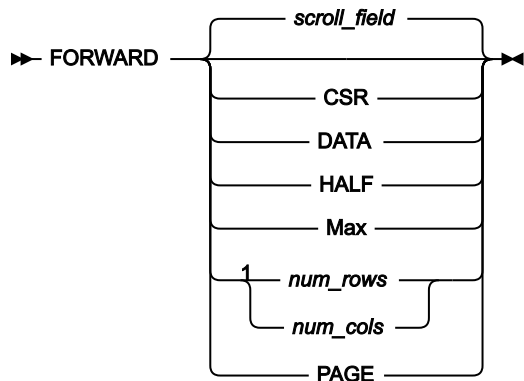
- Db2 データの表示と変更 ページ 123

FORWARD 基本コマンド

FORWARD 基本コマンドは、データを前方 (下方) にスクロールします。

スクロールの移動量 (列数) は、オプション・パラメーターによって決定されるか、パラメーターを入力しない場合は、**「Scroll (スクロール)」** フィールドに指定した移動量によって決定されます。

構文



注:

¹ *num_rows* は TABL 表示形式で使用可能です。 *num_cols* は SNGL 表示形式で使用可能です。

scroll_field

「Scroll (スクロール)」 フィールドで指定した移動量だけ前方へスクロールする。パラメーターが使用されない場合はこれがデフォルト値になります。

CSR

カーソル位置まで前方へスクロールする。

DATA

1 ページ分のデータより 1 行 (TABL) または 1 列 (SNGL) 少なく前方にスクロールする。

HALF

データの半ページ分前方へスクロールする。

Max

表の末尾までスクロールする。BOTTOM コマンドと同じ効果があります。

num_rows

下方に *num_rows* 行スクロールする。有効範囲: 1-9999。TABL 表示形式で使用可能です。

num_cols

num_cols 列前方向にスクロールする。有効範囲: 1-9999。SNGL 表示形式で使用可能です。

PAGE

データの 1 ページ分前方へスクロールする。

使用箇所

- 「Table Browse (表ブラウズ)」パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」パネル ページ 868

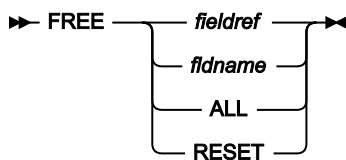
関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123

FREE 基本コマンド

FM/Db2 エディターにおいて、FREE コマンドは1つ以上の列に対するスクロール・ロックを解除します。HOLD エディター基本コマンドによって、またはテンプレート・エディターのH接頭部コマンドによって、スクロール・ロックを設定することができます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド仕様は #n です。n は正整数で、処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列数を超えないようにしてください。

fldname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。列名の前にポンド記号 (#) を付けることができます。システムの「Translate Db2® object names (オブジェクト名の変換)」オプションが選択されている場合、入力された値は大文字に変換されます。

例

```
FREE ALL
```

すべてのスクロール・ロックを解除します。

```
FREE RESET
```

すべてのスクロール・ロックを解除します。

```
FREE #4
```

列 #4 のスクロール・ロックを解除します。

```
FREE #9 #2
```

列 #2 および #9 のスクロール・ロックを解除します。

FREE #5-#9

列 #5、#6、#7、#8、および #9 のスクロール・ロックを解除します。

使用箇所

- Db2 「Browse (ブラウズ)」 パネル ページ 618
- 「Db2 Edit (編集)」 パネル ページ 622
- Db2 「View (表示)」 パネル ページ 639
- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」 (3.4) で 表示されるすべてのパネル

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123
- Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312

FS 基本コマンド

TABL 表示形式の場合は、FS 基本コマンドを使用して SNGL 表示形式に変更します。TABL 表示形式でパネルの最上部に現在表示されている行が SNGL 表示形式で表示されます。

FS 基本コマンドは、「**Format (形式)**」フィールド (パネルの右上) を “TABL” から “SNGL” に変更するのと同じことです。

構文

▶ FS ▶

使用箇所

- 「Table Browse (表ブラウズ)」 パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」 パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」 パネル ページ 868

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123

FT 基本コマンド

SNGL 表示形式の場合は、FT 基本コマンドを使用して、TABL 表示形式に変更します。SNGL 表示形式で現在表示されている行は、TABL 表示形式のパネルの最上部に表示されます。

FT 基本コマンドは、「**Format (形式)**」フィールド (パネルの右上) を “SNGL” から “TABL” に変更するのと同じことです。

構文

▶ FT ▶

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

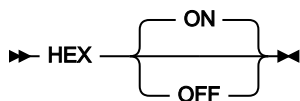
関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123

HEX 基本コマンド

HEX 基本コマンドは、16 進数表示形式を設定またはリセットします。

構文



(パラメーターなし)

正しい 16 進数表示状況を切り替えます。つまり、16 進数表示が現在 OFF の場合は ON に切り替え、16 進数表示が現在 ON の場合は OFF に切り替えます。

OFF

データを文字形式で表示します。

ON

データの 16 進数表記を縦方向に表示します (1 バイトあたり 3 行)

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

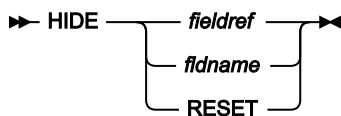
関連するタスク

- 16 進形式でのデータの表示 ページ 167

HIDE 基本コマンド

FM/Db2 エディターにおいて、HIDE コマンドは列をデータ表示から削除します。隠された列は、SHOW エディター基本コマンドによって、またはテンプレート・エディターの S 接頭部コマンドによって、再び表示することができます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド仕様は #n です。n は正整数で、処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列数を超えないようにしてください。

fldname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。列名の前にポンド記号 (#) を付けることができます。システムの「Translate Db2® object names (オブジェクト名の変換)」オプションが選択されている場合、入力された値は大文字に変換されます。

例

HIDE RESET

すべての隠された列を表示します。

HIDE #4

列 #4 を表示しません。

HIDE #7 #1

列 #1 および #7 を表示しません。

HIDE #2-#5

列 #2、#3、#4、および #5 を表示しません。

使用箇所

- [Db2「Browse \(ブラウズ\)」パネル ページ 618](#)
- [「Db2 Edit \(編集\)」パネル ページ 622](#)
- [Db2「View \(表示\)」パネル ページ 639](#)
- [「Object List Utility \(オブジェクト・リスト・ユーティリティ\)」\(3.4\) で表示されるすべてのパネル](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)

HINT 基本コマンド

「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」オプション (4) を使用すると、HINT 基本コマンドを使用できます。

- 「Plan Table Rows (プラン表行)」パネルで、ヒント ID および使用される ヒントが表示されるようにパネル・フォーマットを切り替えます。
- 「Statement Table Rows (ステートメント表行)」パネルで、ヒント ID および使用されるヒントが表示されるようにパネル・フォーマットを切り替えます。

構文

▶▶ HINT ◀◀

使用箇所

- 「Plan Table Rows (プラン表行)」パネル ページ 752
- 「Statement Table Rows (ステートメント表行)」パネル ページ 838

関連するタスク

[SQL ステートメントの処理 ページ 402](#)

HOLD 基本コマンド

FM/Db2 エディターにおいて、HOLD コマンドは 1 つ以上の列にスクロール・ロックを設定します。

TABL 表示形式での左方または右方へのスクロール時には、列が (スクロールする移動量とは無関係に) 常に画面の左側に表示されるように、それらの列を保持することができます。

FREE エディター基本コマンドによって、またはテンプレート・エディターの H 接頭部コマンドによって、スクロール・ロックを解除することができます。

構文

▶▶ HOLD *fieldref* ◀◀
 fldname
 RESET

fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド仕様は #*n* です。n は正整数で、処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列数を超えないようにしてください。

fldname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。列名の前にポンド記号 (#) を付けることができます。システムの「Translate Db2® object names (オブジェクト名の変換)」オプションが選択されている場合、入力された値は大文字に変換されます。

例

HOLD RESET

すべてのスクロール・ロックを解除します。

HOLD #4

列 #4 にスクロール・ロックを設定します。

HOLD #9 #2

列 #9 および #2 にスクロール・ロックを設定します。



注: 列は指定されている順序で保留されるため、画面には、保留されていない列が後に続いて、列 #9 および #2 が (左から右に) 表示されます。

HOLD #5-#9

列 #5、#6、#7、#8、および #9 にスクロール・ロックを設定します。

使用箇所

- [Db2 「Browse \(ブラウズ\)」 パネル ページ 618](#)
- [「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)
- [Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)
- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」 (3.4) で表示されるすべてのパネル

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)

INDEXINF 基本コマンド

INDEXINF 基本コマンドは、SNGL 表示形式で表示されているときに、各列の索引情報を表示または非表示にします。

SNGL 表示形式では、FM/Db2 は、基本キー、外部キー、および固有索引に関する情報を示す追加の列を (列名が入っている列の左側に) 表示します (INDEXINF 基本コマンドを TABL 表示形式で入力しても、画面は変わりません。しかし、SNGL 表示形式に変更すると、追加の列の表示状況が反転します)。

索引情報がすでに表示されているときに INDEXINF 基本コマンドを入力すると、その索引情報が画面から除去されます。



注:



1. 基本キー、外部キー、および固有索引に関する情報は、(ビューについてではなく) 表についてのみ表示されます。
2. 外部キー情報は、テンプレートを作成するときに、「**Retrieve foreign key information when building templates (テンプレートの作成時に FOREIGN KEY 情報の検索)**」オプションを選択している場合にのみ表示可能です。
3. INDEXINF 基本コマンドは、「**Show keys, indexes (キー、索引の表示)**」オプションを選択(または選択解除)するのと同じ働きをします。

構文

▶▶ INDEXINF ◀◀

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123

INSRPT 基本コマンド

繰り返しを挿入します。拡張 SELECT プロトタイピングでは、カーソルが繰り返し項目に位置付けられている場合には、FM/Db2 は、新規繰り返しインスタンスを作成して、カーソルが位置付けられていた要素を選択します。

構文

▶▶ INSRPT ◀◀

使用箇所

[Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)] パネル ページ 462

関連するタスク

拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411

LEFT 基本コマンド

- 「View (表示)」または「Edit (編集)」では

LEFT 基本コマンドは、TABL 表示形式では、データを左方向にスクロールします(LEFT は SNGL 表示形式では使用できません)。

スクロールの移動量 (1 ペネル分の列数) は、オプション・パラメーター、またはパラメーターを入力しない場合は、「Scroll (スクロール)」フィールドに指定した移動量によって決定されます。

- テンプレートの編集中は、以下ようになります。

テンプレートの編集中は、LEFT 基本コマンドは、以下のことを行います。

- 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル (LEFT 基本コマンドを発行するときに、カーソルをフィールドに置く必要があります) で「Row Selection Criteria (行選択基準)」フィールドをスクロールします。
- 「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルの (80 文字画面での) 表示を、「Column name (列名)」の詳細表示と、「Data type(length) (データ・タイプ(長さ))」の詳細表示とで切り替えます (LEFT 基本コマンドを発行するときに、カーソルを「Value (値)」フィールドに置いてはなりません)。

構文

図 152. FM/Db2 editor session

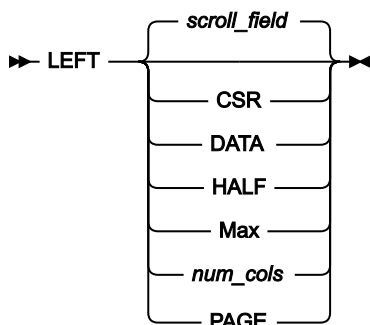


図 153. Template editing

▶▶ LEFT ▶▶

scroll_field

「Scroll (スクロール)」フィールドに指定した移動量だけ左にスクロールします。パラメーターが使用されない場合はこれがデフォルト値になります。

CSR

カーソル位置まで左へスクロールする。

DATA

1 ページ分のデータよりも 1 ペネル分少ない列数を左にスクロールする。

HALF

データの半ページ分左へスクロールする。

Max

行の先頭までスクロールする。

num_cols

num_cols パネル分の列を左にスクロールする。有効範囲: 1-9999。

PAGE

データの 1 ページ分左へスクロールする。

使用箇所

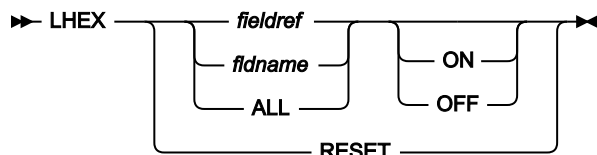
- 「Table Browse (表ブラウザ)」 パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」 パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」 パネル ページ 868
- 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」 パネル ページ 505
- 「Row Selection Criteria (行選択基準)」 パネル ページ 796

関連するタスク

- スクロール ページ 162
- 「Row Selection Criteria (行選択基準)」 フィールドのスクロール ページ 94
- 表示の変更 (80 文字画面のみ) ページ 91

LHEX 基本コマンド

FM/Db2 エディターにおいて、LHEX コマンドは、1 つ以上の列のデータを詳細 16 進形式で表示します。LHEX 形式では、文字はそれぞれ、左から右に表示される 2 つの 16 進文字として示されます。例えば、「1」は LHEX 形式では「F1」と表示されます。列 (VAR)CHAR、(VAR)GRAPHIC、DATE、TIME、および TIMESTAMP のみ影響を受けます。

構文**fieldref**

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド仕様は #n です。n は正整数で、処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列数を超えないようにしてください。

fldname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。列名の前にポンド記号 (#) を付けることができます。システムの「Translate Db2® object names (オブジェクト名の変換)」オプションが選択されている場合、入力された値は大文字に変換されます。

ON|OFF

LHEX オプションをオン/オフにするよう指示します。このパラメーターを省略すると、コマンドは切り替えとして機能します。フィールドの現在の LHEX 表示状況は逆になります。

例

```
LHEX ALL ON
```

すべての適格な列のデータを詳細 16 進数で表示します。

```
LHEX #4 ON
```

列 #4 のデータを詳細 16 進数で表示します。

```
LHEX #9 #2 OFF
```

列 #9 および #2 のデータを文字フォーマットで表示します。

```
LHEX #5-#7 ON
```

列 #5、#6、および #7 のデータを詳細 16 進数で表示します。

使用箇所

- [Db2 「Browse \(ブラウズ\)」 パネル ページ 618](#)
- [「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)
- [Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)
- [「Object List Utility \(オブジェクト・リスト・ユーティリティ\)」 \(3.4\) で表示されるすべてのパネル](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)

LOBBRWS 基本コマンド

LOBBRWS 基本コマンドは、LOB (BLOB、CLOB または DBCLOB) 列の新規 FM/Db2 LOB エディター・セッションをブラウズ・モードで開始します。処理される Db2® オブジェクトには LOB 列が含まれていなければなりません。

このコマンドは、カーソルの移動に影響されます。コマンドを入力し、カーソルを目的の LOB 列に移動して Enter キーを押します。カーソル位置にある LOB 列に対して、File Manager/Db2 エディター・セッションがブラウズ・モードで表示されます。

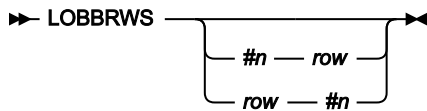
コマンドは、カーソルの移動なしに発行することもできます。その場合は、以下のパラメーターが必要な場合があります。

構文

図 154. In SNGL display format

```
▶ LOBBRWS [ #n ] ▶
```

図 155. In TABL display format

**#n**

有効な参照。#n のデータ・タイプは、BLOB、CLOB または DBCLOB である必要があります。Db2® オブジェクトに LOB 列が 1 つのみ含まれる場合には、#n を省略できます。Db2® オブジェクトに複数の LOB 列が含まれるときに #n を省略すると、FM/Db2 は最初の選択済み LOB 列を #1 から検索します。

row

エディター・セッション内の行を識別する番号。コマンドを SNGL モードで発行する場合は、行番号を指定できません。コマンドは、現在表示されている行に適用されます。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」](#) パネル ページ 855
- [「Table Edit \(表編集\)」](#) パネル ページ 857
- [「Table View \(表表示\)」](#) パネル ページ 868

LOBEDIT 基本コマンド

LOBEDIT 基本コマンドは、LOB (CLOB または DBCLOB) 列の新規 FM/Db2 LOB エディター・セッションを編集モードで開始します。BLOB の編集はサポートされていません。処理される Db2® オブジェクトには LOB 列が含まれていなければなりません。

このコマンドは、カーソルの移動に影響されます。コマンドを入力し、カーソルを目的の LOB 列に移動して **Enter** キーを押します。カーソル位置にある LOB 列に対して、File Manager/Db2 エディター・セッションが編集モードで表示されます。



注: LOB データは Db2 表で更新されないため、LOBEDIT セッションでは SAVE コマンドを使用しないでください。

コマンドは、カーソルの移動なしに発行することもできます。その場合は、以下のパラメーターが必要な場合があります。

構文

図 156. In SNGL display format

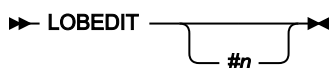
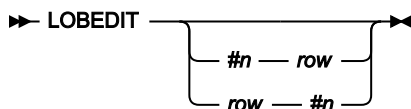


図 157. In TABL display format



#n

有効な参照。#n のデータ・タイプは、BLOB、CLOB または DBCLOB である必要があります。Db2® オブジェクトに LOB 列が 1 つのみ含まれる場合には、#n を省略できます。Db2® オブジェクトに複数の LOB 列が含まれるときに #n を省略すると、FM/Db2 は最初の選択済み LOB 列を #1 から検索します。

row

エディター・セッション内の行を識別する番号。コマンドを SNGL モードで発行する場合は、行番号を指定できません。コマンドは、現在表示されている行に適用されます。

使用箇所

- [「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

LOBLEN 基本コマンド

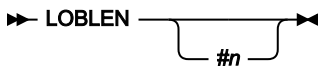
LOBLEN 基本コマンドは、LOB (BLOB、CLOB または DBCLOB) 列の長さを表示します。処理される Db2® オブジェクトには LOB 列が含まれていなければなりません。

このコマンドは、カーソルの移動に影響されます。コマンドを入力し、カーソルを目的の LOB 列に移動して Enter キーを押します。カーソル位置にある LOB 列の長さが表示されます。

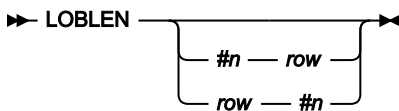
コマンドは、カーソルの移動なしに発行することもできます。その場合は、以下のパラメーターが必要な場合があります。

構文

☒ 158. In SNGL display format



☒ 159. In TABL display format



#n

有効な参照。#n のデータ・タイプは、BLOB、CLOB または DBCLOB である必要があります。Db2® オブジェクトに LOB 列が 1 つのみ含まれる場合には、#n を省略できます。Db2® オブジェクトに複数の LOB 列が含まれるときに #n を省略すると、FM/Db2 は最初の選択済み LOB 列を #1 から検索します。

row

エディター・セッション内の行を識別する番号。コマンドを SNGL モードで発行する場合は、行番号を指定できません。コマンドは、現在表示されている行に適用されます。

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

LOBVIEW 基本コマンド

LOBVIEW 基本コマンドは、LOB (BLOB、CLOB または DBCLOB) 列の新規 FM/Db2 LOB エディター・セッションを表示モードで開始します。処理される Db2® オブジェクトには LOB 列が含まれていなければなりません。

このコマンドは、カーソルの移動に影響されます。コマンドを入力し、カーソルを目的の LOB 列に移動して Enter キーを押します。カーソル位置にある LOB 列に対して、File Manager/Db2 エディター・セッションが表示モードで表示されます。

コマンドは、カーソルの移動なしに発行することもできます。その場合は、以下のパラメーターが必要な場合があります。

構文

図 160. In SNGL display format

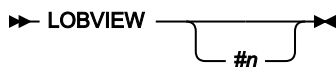
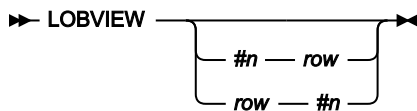


図 161. In TABL display format



#n

有効な参照。#n のデータ・タイプは、BLOB、CLOB または DBCLOB である必要があります。Db2® オブジェクトに LOB 列が 1 つのみ含まれる場合には、#n を省略できます。Db2® オブジェクトに複数の LOB 列が含まれるときに #n を省略すると、FM/Db2 は最初の選択済み LOB 列を #1 から検索します。

row

エディター・セッション内の行を識別する番号。コマンドを SNGL モードで発行する場合は、行番号を指定できません。コマンドは、現在表示されている行に適用されます。

使用箇所

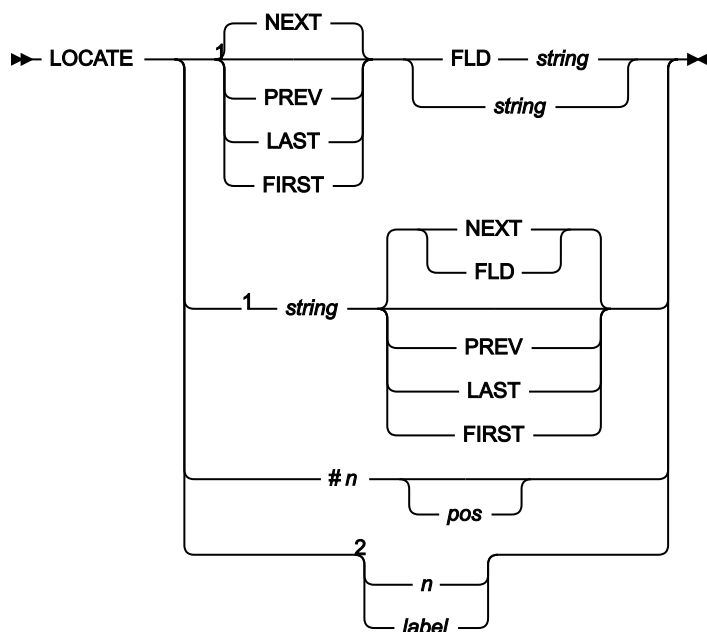
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

LOCATE 基本コマンド

- エディター・セッション、またはオブジェクト・リスト・ユーティリティーで LOCATE 基本コマンドを使用する場合は、以下のようになります。
 - FM/Db2 は画面を検索条件に一致する行または先頭の列に移動します。
 - 特定の行に移動するには、行番号を指定します。ラベルを指定してラベルが直前に割り当てられた行に移動します。
 - 特定の列を検索するには、列番号 (#4 など) または列名の一部またはすべて (SAL など) のいずれかを指定します。列名の一部またはすべてで検索するときは、検索の方向と開始点を指定するオプション・パラメーターを使用できます。あいまいになる可能性がある場合は、列名と Db2® 列番号とを区別するために FLD パラメーターを使用します。
- 「Print Browse (印刷ブラウズ)」(3.11) で LOCATE 基本コマンドを使用する場合は、以下のようになります。
 - 指定する行番号を表示の最上部に配置します。

構文

図 162. FM/Db2 editor session



注:

- ¹ これらの形式の locate コマンドは、列を検索します。
- ² これらの形式の locate コマンドは、行を検索します。

図 163. Object List utility

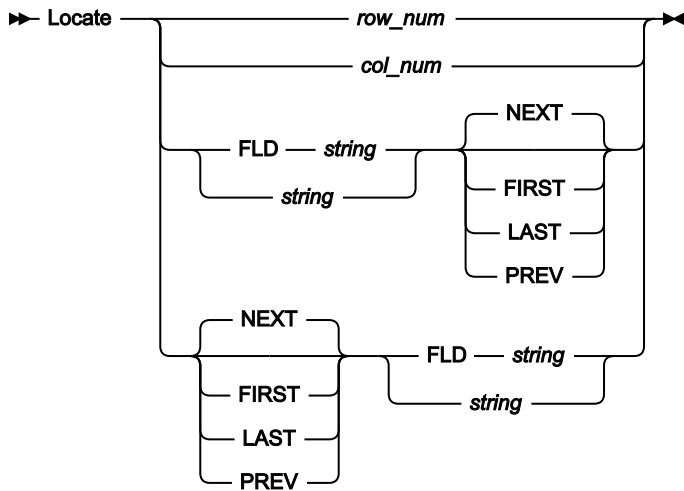


図 164. Print Browse

▶ Locate — *line_number* ▶

string

列名、または列名の一部。

#n

列に対する有効な参照。

pos

長い文字列 (50 を超える文字数) またはグラフィック列内の文字位置を表す整数。

n

行の順序番号。

label

ラベルの付いた行のラベル。label は、ユーザー・ラベルまたはシステム・ラベルになります。

row_num

探し出す行の番号です。行番号は、TABL 表示モードでは接頭部域に、SNGL 表示モードではパネルの右上に表示されます。例えば、次のコマンドは行番号 23 を探し出します。

```
LOCATE 23
```



注: 「Object List (オブジェクト・リスト)」ユーティリティーを使用してデータを表示した場合は、行番号は表示されません。

col_num

探し出す列の Db2® 列番号です (#n と指定します)。例えば、次のコマンドは列 #12 を探し出します。

```
L #12
```

label

既存のユーザー割り当てラベルまたはエディター割り当てのラベルで、探し出す行を指定します。ラベルはピリオド (.) で始まり、その後には 1 から 4 文字の英字 (数字または特殊文字ではない) を続ける必要があります。文字 “Z” で始まるラベルはエディター割り当てラベルを示します。例えば次のようになります。

`LOCATE .HERE` は、既存のラベル (.HERE) とマークされた行を探し出します。

`L .ZLST` 最後の行を探し出します。

FLD

FLD キーワードの後に続くストリング (*string*) が、検索対象の列名またはその一部であることを FM/Db2 に示します。例えば、次のコマンドは #ITEMS という名前の列を探し出します。

```
L FLD #ITEMS
```

(この場合、FLD パラメーターを省略してしまうと、# 記号の後は Db2® の列番号であると FM/Db2 は想定するため、コマンド `L #ITEMS` はエラーになります)。

string

探し出す列の名前 (一部またはすべて) です。ストリングは、列名のどこにでも出現できます。例えば、以下のどちらのコマンドも、“SALARY” という名前の列を探し出します。

```
L SAL
L ARY
```

NEXT

これはデフォルト設定です。TABL 表示形式では、*string* は、画面の左側に現在表示されている列 (その列は検索から除外されます) からスキャンが開始され、右方向に検索されます。SNGL 表示形式では、*string* は、画面の最上部に現在表示されている列 (その列は検索から除外されます) からスキャンが開始されて、下方向に検索されます。例えば、以下のどちらのコマンドも、名前にストリング “SAL” が含まれている次の列を探し出します。

```
L NEXT SAL
L SAL NEXT
```

FIRST

TABL 表示形式では、*string* は、Db2® オブジェクトの最初の列 (その列は検索から除外されます) からスキャンが開始され、右方向に検索されます。SNGL 表示形式では、*string* は、Db2® オブジェクトの最初の列 (その列は検索から除外されます) からスキャンが開始され、下方向に検索されます。例えば、以下のどちらのコマンドも、名前にストリング “SAL” が含まれている最初の列を探し出します。

```
L FIRST SAL
L SAL FIRST
```

LAST

TABL 表示形式では、*string* は、Db2® オブジェクトの最後の列からスキャンが開始され、左方向に検索されます。SNGL 表示形式では、*string* は、Db2® オブジェクトの最後の列からスキャンが開始され、上方向に検索

されます。例えば、以下のどちらのコマンドも、名前にストリング “SAL” が含まれている最後の列を探し出します。

```
L LAST SAL
L SAL LAST
```

PREV

TABL 表示形式では、*string* は、画面の左側に現在表示されている列からスキャンが開始され、左方向に検索されます。SNGL 表示形式では、*string* は、画面の最上部に現在表示されている列からスキャンが開始され、上方向に検索されます。例えば、以下のどちらのコマンドも、名前にストリング “SAL” が含まれている前の列を探し出します。

```
L PREV SAL
L SAL PREV
```

line_num

表示の最上部に配置したい行番号です。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)
- [「Collections \(コレクション\)」 パネル ページ 491](#)
- [「Columns \(列\)」 パネル ページ 510](#)
- [「Databases \(データベース\)」 パネル ページ 616](#)
- [「Database Request Modules \(データベース要求モジュール\)」 パネル ページ 614](#)
- [「Distinct Types \(特殊タイプ\)」 パネル ページ 645](#)
- [「Functions \(関数\)」 パネル ページ 710](#)
- [「Indexes \(索引\)」 パネル ページ 724](#)
- [「Application Packages \(アプリケーション・パッケージ\)」 パネル ページ 480](#)
- [「Application Plans \(アプリケーション・プラン\)」 パネル ページ 483](#)
- [「Schemas \(スキーマ\)」 パネル ページ 807](#)
- [「Stored Procedures \(ストアド・プロシージャ\)」 パネル ページ 843](#)
- [「Synonyms \(同義語\)」 パネル ページ 845](#)
- [「Tables, Views and Aliases \(表、ビューおよび別名\)」 パネル ページ 875](#)
- [「Table Spaces \(表スペース\)」 パネル ページ 866](#)
- [「Triggers \(トリガー\)」 パネル ページ 884](#)
- [「Storage Group\(s\) \(ストレージ・グループ\)」 パネル ページ 840](#)

関連するタスク

- [行の位置決め ページ 144](#)
- [列の位置決め ページ 144](#)
- [Db2 オブジェクトのリストでストリングを検出する ページ 323](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの中で行または列を探し出す ページ 323](#)

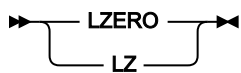
LZERO 基本コマンド

LZERO 基本コマンドは、テンプレートのグローバル先行ゼロ設定を切り替えます。

グローバル先行ゼロが ON に設定されている場合、適用可能な数値フィールドのデフォルトの先行ゼロ設定は YES で、現行パネルに状況インジケータ **LZERO** が表示されます。

グローバル先行ゼロが OFF に設定されている場合、適用可能な数値フィールドのデフォルトの先行ゼロ設定は NO で、状況インジケータはクリアされます。

構文



使用箇所

- [\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

NEW、NEWS 基本コマンド

NEW (または NEWS) 基本コマンドは、現行の FM/Db2 バージョンとリリースに関する一般情報を提供するパネルを表示します。

構文



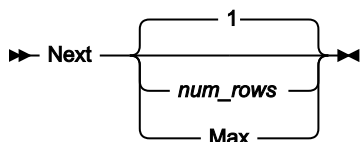
使用箇所

- すべてのパネル

NEXT 基本コマンド

指定された行数だけ下方にスクロールします。

構文



num_rows

下方に *num_rows* 行スクロールする。有効範囲: 1-999999999.

Max

最後の行を可視にするために前方にスクロールします。

使用箇所

- 「Table Browse (表ブラウズ)」 パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」 パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」 パネル ページ 868

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123
- スクロール ページ 162

NEXTRPT 基本コマンド

拡張 SELECT プロトタイピングでは、カーソルが構文内の繰り返し項目に位置付けられている場合には、NEXTRPT 基本コマンドは次の繰り返し項目を現行のものにします。

構文

▶▶ NEXTRPT ◀◀

使用箇所

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」 パネル ページ 462

関連するタスク

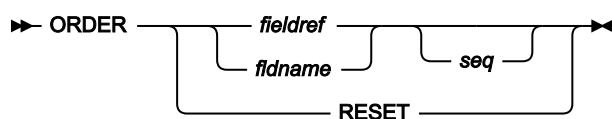
拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411

ORDER 基本コマンド

FM/Db2 エディターにおいて、ORDER コマンドは、TABL 表示フォーマットの 1 つ以上の列の表示順序を設定します。

保持列は、他の保持列に関連して順序付けされます。保持されていない列は、他の保持されていない列に関連して順序付けされます。

また、テンプレート・エディターを使用して、SEQ 列に数値を入力することによって、表示順序を指定することもできます。

構文

fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド仕様は #n です。n は正整数で、処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列数を超えないようにしてください。

fldname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。列名の前にポンド記号 (#) を付けることができます。システムの「Translate Db2® object names (オブジェクト名の変換)」オプションが選択されている場合、入力された値は大文字に変換されます。

seq

他の順序付きの列における、列の相対順序を示す正整数。

例

ORDER #9 #2

列 #9 および #2 を左側に表示します。

ORDER #4 0

順序付きの列のリストから #4 を削除します。

ORDER #6 2

2 番目の順序付きの列として列 #6 を表示します。

ORDER #5-#7 0

順序付きの列のリストから列 #5 から #7 を削除します。

使用箇所

- [Db2 「Browse \(ブラウズ\)」 パネル ページ 618](#)
- [「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)
- [Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)
- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」 (3.4) で表示されるすべてのパネル

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)

PB 基本コマンド

PB 基本コマンドを使用すると、印刷データ・セットに保持されている現行 FM/Db2 エディター・セッションからの印刷出力をブラウズし、さらにオプションとしてページすることもできます。

印刷出力をまだ作成していないときに PB 基本コマンドを入力すると、FM/Db2 は「Empty print data set (空の印刷データ・セット)」というメッセージを表示します。

構文

▶▶ PB ▶▶

使用箇所

すべてのパネル上で使用可能

関連するタスク

- [FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342](#)

PLAN 基本コマンド

「SQL Prototyping, Execution and Analysis (SQL プロトタイピング、実行と分析)」オプション (4) を使用すると、PLAN 基本コマンドを使用できます。

- 「Plan Table Rows (プラン表行)」パネルで、プラン名が表示されるようにパネル・フォーマットを切り替えます。
- 「Statement Table Rows (ステートメント表行)」パネルで、プラン名が表示されるようにパネル・フォーマットを切り替えます。

構文

▶▶ PLAN ▶▶

使用箇所

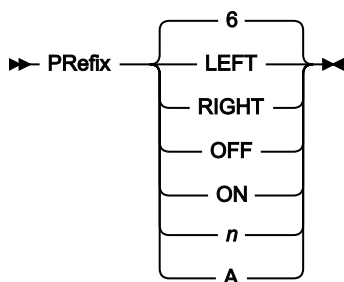
「Plan Table Rows (プラン表行)」パネル ページ 752

関連するタスク

[SQL ステートメントの処理 ページ 402](#)

PREFIX 基本コマンド

TABL 表示形式の場合のみ、PREFIX 基本コマンドは接頭部域の位置および表示状態を設定します。

構文

LEFT

接頭部域を左側に表示します。

RIGHT

接頭部域を右側に表示します。

OFF

接頭部域を表示しません。

ON

接頭部域を最後に設定された位置に、最後に設定された表示幅で表示します。

n

接頭部域を最後に設定された位置に、*n* 桁の表示幅で表示します。*n* は以下の範囲で指定します。6 から 9。

A

接頭部域を最後に設定された位置に、レコード番号全体を表示するために 6 桁または必要に応じてそれ以上 (9 桁まで) の表示幅で表示します。

使用箇所

- [「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)

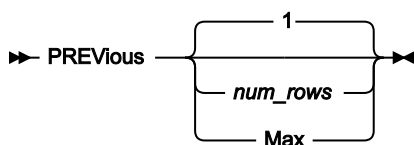
関連するタスク

- [接頭部域の管理 ページ 168](#)

PREVIOUS 基本コマンド

指定された行数だけ上方にスクロールします。

構文



num_rows

上方に *num_rows* 行スクロールします。有効範囲: 1-999999999。

Max

最初の行を可視にするために後方にスクロールします。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [スクロール ページ 162](#)

PREVRPT 基本コマンド

拡張 SELECT プロトタイピングでは、カーソルが構文内の繰り返し項目に位置付けられている場合には、PREVRPT 基本コマンドは直前の繰り返し項目を現行のものにします。

構文

▶ PREVRPT ◀

使用箇所

[「Advanced SELECT Prototyping \(拡張 SELECT プロトタイピング\)」 パネル ページ 462](#)

関連するタスク

[拡張 SQL プロトタイピングの使用 ページ 411](#)

PRINT 基本コマンド

「Print Browse (印刷ブラウズ)」では、PRINT 基本コマンドは、印刷データ・セットの内容を SYSOUT クラスに転送しません。

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルの **PRINTDSN** 入力フィールドを使用して印刷データ・セットを指定してください。

SYSOUT クラスは、以下のいずれか (最初に見つかったもの) によって決まります。

- 「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルの **PRINTOUT** 入力フィールドの **[SYSOUT=c]** で指定されたクラス (このフィールドに **[SYSOUT=c]** 以外の値が入っていない場合)
- デフォルトの TSO SYSOUT クラス (定義されている場合)
- SYSOUT クラス A (上記のいずれも適用されない場合)



注: 「Print Browse (印刷ブラウズ)」パネル以外の FM/Db2 パネルのコマンド行に「PRINT」を入力すると、それは ISPF システム・コマンド PRINT として解釈されて、物理画面イメージのスナップショットが印刷データ・セットに記録されます。

構文

▶ PRINT ◀

使用箇所

すべての「Print Browse (印刷ブラウズ)」表示パネル

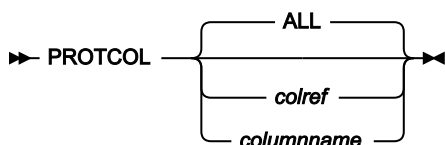
関連するタスク

- [FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342](#)

PROTOCOL 基本コマンド

File Manager テンプレート・エディタの行選択基準パネルにおいて、PROTOCOL コマンドは、列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合) を「large mode (編集可能)」から「protected (保護)」に変更します。列に入力されている列式は保持されます。また、PC 接頭部コマンドを列に対して入力すると、同じ結果を得ることができます。以前に入力された列式を意図しない変更から保護するには、このコマンドを使用してください。

構文



colref

1 つの列の参照 (例えば #4)。

columnname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。

パラメーターのない PROTOCOL は、すべての列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合) を「保護」に変更します。

列参照または列名のどちらかが指定された PROTOCOL は、指定された列名フィールドおよびデータ・タイプ・フィールド (表示されている場合) を「保護」に変更します。

使用箇所

- [「Row Selection Criteria \(行選択基準\)」パネル ページ 796](#)

関連するタスク

- [列ごとの行選択 ページ 87](#)

PURGE 基本コマンド

「Print Browse (印刷ブラウズ)」では、PURGE コマンドは、印刷データ・セットを消去することによって印刷出力を除去します。

構文

▶▶ PURGE ◀◀

使用箇所

「Print Browse (印刷ブラウズ)」表示パネル

関連するタスク

- [FM/Db2 セッションからの印刷出力の表示 ページ 342](#)

QUIT 基本コマンド

[CANCEL 基本コマンド ページ 905](#)を参照してください。

RCHANGE 基本コマンド

RCHANGE 基本コマンドは、直前の CHANGE 基本コマンドを繰り返して、次に現れるストリングまたは数値を変更します。

構文

▶▶ RChange ◀◀

使用箇所

- 「Table Edit (表編集)」パネル ページ 857

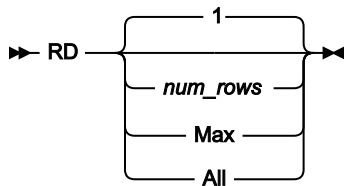
関連するタスク

- [CHANGE コマンドによるデータの変更 ページ 188](#)

RD 基本コマンド

RD (“Record Dump”: レコード・ダンプ) 基本コマンドは、指定された行数で、現在の表示形式 (TABL または SNGL) を使ってダンプ形式で印刷します。

構文



num_rows

現在の行から *num_rows* 行を印刷します。有効範囲: 1-999999999.

Max

現在の行から Db2® オブジェクトの最後まで残りのすべての行を印刷します。

All (すべて)

Db2® オブジェクトのすべての行を印刷します。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)

関連するタスク

- [Db2 表からの行の印刷 ページ 340](#)

REDIT 基本コマンド

参照整合性エラーに関する通知パネル内から REDIT 基本コマンドを発行すると、FM/Db2 は編集セッションを表示します。

File Manager/Db2 表示または編集エディター・セッション内から REDIT 基本コマンドを発行すると、FM/Db2 は、現在編集集中の表に関連する表についての情報がリストされた「Related tables (関連表)」パネルを表示します。



1. REDIT 基本コマンドは FM/Db2 ブラウズでは使用できません。
2. REDIT コマンドは Db2® 表のみを処理します。Db2® ビューではコマンドを使用できません。

構文

☒ 165. Syntax (when issued for a referential integrity error)

➡ REDIT ↩

図 166. Syntax (when issued from within a File Manager/Db2 editor session)

▶ REDIT ───────────▶
└── col_num ───┘

col_num

Db2® 列番号 (#*n* として指定)。

使用箇所

- 参照保全エラーに関する情報パネル内。
- File Manager/Db2 エディター・セッション内から。

関連するタスク

- [関連表の編集セッションの開始 ページ 201](#)
- [関連表のリスト ページ 199](#)

REFRESH 基本コマンド

REFRESH 基本コマンドは、「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」メニューで Db2® サブシステムのリストを最新表示します。

構文

▶ REFRESH ▶

使用箇所

[「Db2 Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 631](#)

関連するタスク

[複数の Db2 サブシステムが使用可能な場合のサブシステムの選択 ページ 32](#)

REFS 基本コマンド

REFS 基本コマンドは、SNGL 表示形式のときに、表示されている各列の番号を Db2® カタログの定義に従って表示または非表示にします。

構文

▶ REFS ▶

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

関連するタスク

- 列番号の表示 ページ 169

RESET 基本コマンド

File Manager/Db2 エディター・セッションでは、RESET コマンドを使用して、除外された行を再表示するか、FIND コマンドによって強調表示されたストリングをリセットします。また、RESET コマンドを使用して、保留中の接頭部コマンドをリセットするか、行からラベルを除去することもできます。

基本 SELECT プロトタイピングでは、RESET 基本コマンドは、「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルの上部にある SELECT ステートメントの SELECT、WHERE、および ORDER BY 文節から直前の情報を消去します。

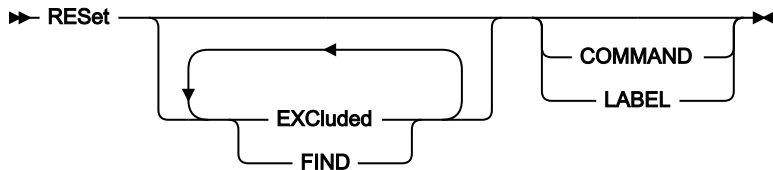
Db2® ユーティリティー・オプション・パネルを表示している場合、RESET 基本コマンドは各オプションの値をインストール・デフォルトに戻します。

構文

☒ 167. Standard

➡ RESET ➡

☒ 168. FM/Db2 editor session



COMMAND

保留されているすべての接頭部コマンドがリセットされます。

EXCLuded

すべての除外行が再表示されます。

FIND

FIND コマンドによって強調表示されたすべてのストリングがリセットされます。

LABEL

すべての行ラベルが削除されます。

使用箇所

- [Table View (表表示)] パネル ページ 868
- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Basic SELECT Prototyping (基本選択プロトタイピング)] パネル ページ 485

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123
- 基本 SQL プロトタイピングの使用 ページ 402
- Db2 ユーティリティーのオプションの設定 ページ 358

RFIND 基本コマンド

RFIND 基本コマンドは、直前の FIND 基本コマンドによって実行された検索を繰り返します。

構文

▶▶ RFind ◀◀

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

関連するタスク

- 検索の繰り返し ページ 148

RIGHT 基本コマンド

- [View (表示)] または [Edit (編集)] では

RIGHT 基本コマンドは、TABL 表示形式では、データを右方向へスクロールします(RIGHT は SNGL 表示形式では使用できません)。

スクロールの移動量 (1 パネル分の列数) は、オプション・パラメーター、またはパラメーターを入力しない場合は、[Scroll (スクロール)] フィールドに指定した移動量によって決定されます。

- テンプレートの編集中は、以下ようになります。

テンプレートの編集中は、RIGHT 基本コマンドは、以下のことを行います。

- 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネル (RIGHT 基本コマンドを発行するときに、カーソルをフィールドに置く必要があります) で「Row Selection Criteria (行選択基準)」フィールドをスクロールします。
- 「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルの (80 文字画面での) 表示を、「Column name (列名)」の表示と、「Data type(length) (データ・タイプ (長さ))」の詳細表示とで切り替えます (RIGHT 基本コマンドを発行するときに、カーソルを「Value (値)」フィールドに置いてはなりません)。

構文

図 169. View or Edit

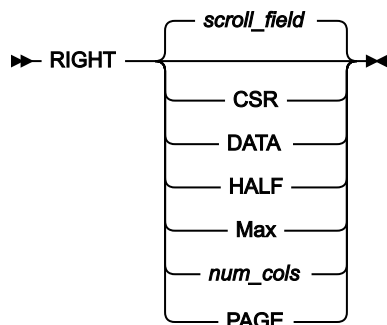


図 170. Template editing

▶▶ RIGHT ◀◀

scroll_field

「Scroll (スクロール)」フィールドに指定した移動量だけ右にスクロールします。パラメーターが使用されない場合はこれがデフォルト値になります。

CSR

カーソル位置まで右にスクロールします。

DATA

1 ページ分のデータより 1 パネル分の列だけ少なく右へスクロールします。

HALF

データの半ページ分右へスクロールします。

Max

行の末尾までスクロールします。

num_cols

num_cols パネル分の列を右にスクロールします。有効範囲: 1-9999。

PAGE

データの 1 ページ分右にスクロールします。

使用箇所

- 「Table Browse (表ブラウズ)」 パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」 パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」 パネル ページ 868
- 「Column Selection/Edit (列選択/編集)」 パネル ページ 505
- 「Row Selection Criteria (行選択基準)」 パネル ページ 796

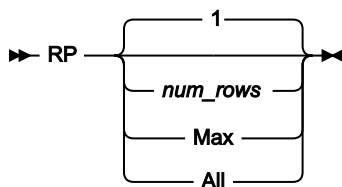
関連するタスク

- スクロール ページ 162
- 「Row Selection Criteria (行選択基準)」 フィールドのスクロール ページ 94
- 表示の変更 (80 文字画面のみ) ページ 91

RP 基本コマンド

RP (“Record Print”: レコード印刷) 基本コマンドは、指定された行数で、現在の表示形式 (TABL または SNGL) を使って文字形式で印刷します。

構文



num_rows

現在の行から *num_rows* 行を印刷します。有効範囲: 1-999999999。

Max

現在の行から Db2® オブジェクトの最後まで残りのすべての行を印刷します。

All (すべて)

Db2® オブジェクトのすべての行を印刷します。

使用箇所

- 「Table Browse (表ブラウズ)」 パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」 パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」 パネル ページ 868

関連するタスク

- [Db2 表からの行の印刷 ページ 340](#)

RUNTEMP 基本コマンド

RUNTEMP 基本コマンドは、行ったテンプレート変更を使用して現在の機能を実行しますが、変更は保管しません。RUNTEMP は、テンプレートを使用する機能を実行する場合のみ使用可能です。

構文

▶▶ RUNTEMP ▶▶

使用箇所

- [「Template Save \(テンプレートの保管\)」 パネル ページ 883](#)
- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」 パネル ページ 505](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [Db2 表の内容の印刷 ページ 337](#)
- [ある Db2 オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ページ 253](#)
- [VSAM または QSAM ファイルからのデータのコピー ページ 259](#)
- [VSAM または QSAM ファイルへのデータのコピー ページ 287](#)
- [Db2 表へのデータの追加 ページ 251](#)
- [LOAD ユーティリティー ページ 367](#)

SAVE 基本コマンド

「編集」では、SAVE 基本コマンドは、編集セッションを終了しないですべてのコミットされていない変更を保管します。

構文

▶▶ SAVE ▶▶

使用箇所

- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)

関連するタスク

- [File Manager/Db2 エディター・セッションの終了 ページ 135](#)
- [基本キーの更新 ページ 204](#)

SAVEAS 基本コマンド

テンプレートを編集する場合、SAVEAS 基本コマンドは、テンプレートを別の名前で保管できる、保管パネルを表示します。

構文

▶ SAVEAS ◀

使用箇所

- ・ [\[Column Selection/Edit \(列選択/編集\)\] パネル ページ 505](#)

関連するタスク

- ・ [テンプレートの処理 ページ 75](#)

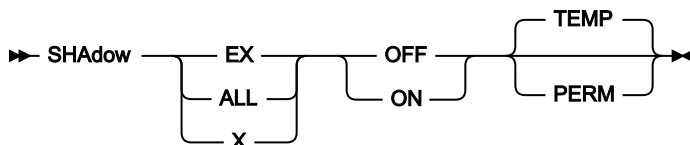
SHADOW 基本コマンド

SHADOW 基本コマンドでシャドー行の表示または非表示を行います。



注: シャドー行は、EXCLUDE 基本コマンドによって表示対象から除外された行を表します。

構文



EX

「除外」行のシャドー行を表示するか非表示にします。これはデフォルト設定です。

ALL

「除外」行のシャドー行を表示するか非表示にします。

X

EX と同じ。

OFF

「除外」行のシャドー行を非表示にします。

ON

「除外」行のシャドー行を表示します。

TEMP

シャドーの設定は、現行 FM/Db2 エディター・セッションのみに適用されます。これはデフォルト設定です。

PERM

シャドワーの設定は FM/Db2 プロファイルに保存され、変更されるまですべての FM/Db2 エディター・セッションに適用されます。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)

関連するタスク

- [行の除外 ページ 164](#)

SHOW 基本コマンド

SHOW コマンドは、「Db2® Subsystem Selection (サブシステム選択)」メニューに表示される Db2® サブシステムのリストを制限します。

構文

▶ SHOW { * | *partial_ID* } ▶▶

*

すべての Db2® サブシステムを表示します。

partial_ID

アスタリスク (*) で始まっているか、終わっているか (あるいはその両方の) Db2® サブシステムの部分 ID。ID が、指定された部分 ID と一致するすべての Db2® サブシステムが表示されます。

使用箇所

- [「Db2 Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」 パネル ページ 631](#)

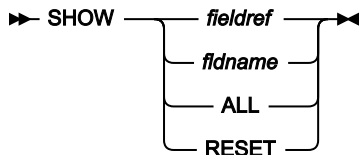
関連するタスク

- [Db2 サブシステムのリストの制限 ページ 36](#)

SHOW 基本コマンド

FM/Db2 エディターでは、SHOW コマンドは非表示列をデータ表示に追加します。HIDE エディター基本コマンドによって、またはテンプレート・エディターの S 接頭部コマンドによって、列を表示から隠すことができます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド仕様は #n です。n は正整数で、処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列数を超えないようにしてください。

fldname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。列名の前にポンド記号 (#) を付けることができます。システムの「Translate Db2® object names (オブジェクト名の変換)」オプションが選択されている場合、入力された値は大文字に変換されます。

例

`SHOW ALL`

すべての列を表示します。

`SHOW RESET`

すべての列を表示します。

`SHOW #4`

列 #4 のデータを表示します。

`SHOW #7 #1`

列 #1 および #7 のデータを表示します。

`SHOW #2-#5`

列 #2、#3、#4、および #5 のデータを表示します。

使用箇所

- Db2 「Browse (ブラウズ)」 パネル ページ 618
- 「Db2 Edit (編集)」 パネル ページ 622
- Db2 「View (表示)」 パネル ページ 639
- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」 (3.4) で表示されるすべてのパネル

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123
- Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312

SHOWCOB 基本コマンド

SHOWCOB コマンドでは、現在使用されている COBOL コンパイラを示す詳細が表示されます。

構文

▶ SHOWCOB ◀

使用箇所

すべてのパネル上で使用可能

関連するタスク

- [使用している COBOL コンパイラの確認 ページ 31](#)

SORT 基本コマンド

- 表示または編集では、SORT 基本コマンドは、TABL 表示形式でブラウズ中または編集中のデータの順序を変更しません。

FM/Db2 は、キーの階層を使用し、基本キーとして指定された最初の列から後続指定の重要性の低い列への順に、データをその 16 進表記に従ってソートします。階層は左から右へ指定します。

- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」(3.4) を使用してオブジェクトのリストを表示する場合は、ソートしたい列にカーソルを配置して SORT 基本コマンドを発行することによって、現在のオブジェクト・リストの列をソートすることができます。

構文

図 171. Syntax (View or Edit)

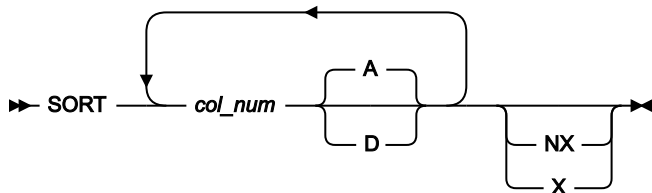


図 172. Syntax (Object List utility)

▶ SORT ◀

col_num

ソート・キーとして使用する列の Db2® 列番号 (#*n* として指定)。1 ~ 5 個の列番号を指定することができます。複数の列番号は空白で区切ってください。

A

データを昇順にソートします。これはデフォルトの順序です。

D

データを降順にソートします。

NX

非除外行のみ。除外行は存在していないものとして行をソートします。

X

除外行のみ。非除外行は存在していないものとして除外行をソートします。

使用箇所

- [Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)
- [Db2 「Browse \(ブラウズ\)」 パネル ページ 618](#)
- [「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)
- 「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」 (3.4) で表示されるすべてのパネル

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)

SQL 基本コマンド

SQL 基本コマンドは、処理中のオブジェクトに対する SQL SELECT ステートメントを表示します。この SELECT ステートメントを表示して、将来の参照のために ISPF データ・セットに保管することができます。

SQL コマンドを入力すると、SELECT ステートメントが標準の ISPF EDIT パネルに表示されます。ISPF CREATE コマンドを使用して、このステートメントを保管できます。実行する内容は次のとおりです。

1. コマンド行で「`CREATE`」と入力します。
2. SELECT ステートメントの先頭行の接頭部域に「`c9999`」と入力します。
3. Enter キーを押します。

SELECT ステートメントを保管するデータ・セットおよびメンバー名を指定するよう求められます。指定したデータ・セットが存在しない場合には、それを作成する割り振り属性を指定するよう求められます。表示された一時データ・セットの属性を使用することはできません。必要な属性はユーザー自身で指定しなければなりません。



注: 機能入力パネルからエディター・セッションを開始すると、テンプレートを編集し、1 つ以上の列を選択解除してあった場合でも、SQL ステートメントの SELECT 文節に表のすべての列が組み込まれます。

SQL ステートメントを処理する場合は、ISPF 編集セッションでコマンドに対して行った変更は、プロトタイプ機能に戻ったときにいずれも保存されません。

構文

▶ SQL ◀

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)
- [「Basic SELECT Prototyping \(基本選択プロトタイピング\)」 パネル ページ 485](#)
- [「Advanced SELECT Prototyping \(拡張 SELECT プロトタイピング\)」 パネル ページ 462](#)
- [「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン\)」 パネル ページ 686](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [SQL ステートメントの処理 ページ 402](#)

SQLID 基本コマンド

SQLID 基本コマンドを使用して、Db2® への接続の一部として使用されるように SQLID を変更することができます。

構文

▶ SQLID *DB2_sqlid* ◀

DB2_sqlid

Db2® への接続の一部として使用される必須 SQLID。

使用箇所

- SQLID コマンドは、大部分の FM/Db2 処理パネルで発行できます。

以下のパネルからは、SQLID コマンドを発行できません。

- ポップアップ・パネル
- チュートリアル・パネル
- ISPF によって表示されるパネル。例えば、「Audit log listing (監査ログ・リスト)」。

関連するタスク

- [SQLID の指定 ページ 52](#)

TEDIT 基本コマンド

TEDIT コマンドは、File Manager/Db2 エディター・セッションで「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルを表示します。

構文

▶ TEdit ◀

使用箇所

- 「Table Edit (表編集)」パネル ページ 857
- 「Table Browse (表ブラウズ)」パネル ページ 855
- 「Table View (表表示)」パネル ページ 868

関連するタスク

- テンプレートの編集 ページ 84

TOP 基本コマンド

TOP 基本コマンドは、データの先頭ページまでスクロールします。

構文

▶ Top ◀

使用箇所

- 「Table Browse (表ブラウズ)」パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」パネル ページ 868

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123
- スクロール ページ 162

TP 基本コマンド

TP 基本コマンドは、現在のテンプレートを印刷します。

構文

▶ TP ◀

使用箇所

- [「Column Selection/Edit \(列選択/編集\)」パネル ページ 505](#)

関連するタスク

- [テンプレートの印刷 ページ 78](#)

TYPE 基本コマンド

TYPE 基本コマンドは、SNGL 表示形式のときに、各表示列のデータ・タイプ (および非数値列の場合は、列の長さ) を表示または非表示にします。

構文

▶▶ Type ◀◀

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」パネル ページ 868](#)

関連するタスク

- [データ・タイプの表示 ページ 169](#)

UNDO 基本コマンド

UNDO 基本コマンドは、「Basic SELECT prototyping (基本選択プロトタイピング)」パネルの上部にある SELECT ステートメントに対して行った変更の直前のセットを元に戻すために使用します。

構文

▶▶ UNDO ◀◀

使用箇所

[「Basic SELECT Prototyping \(基本選択プロトタイピング\)」パネル ページ 485](#)

関連するタスク

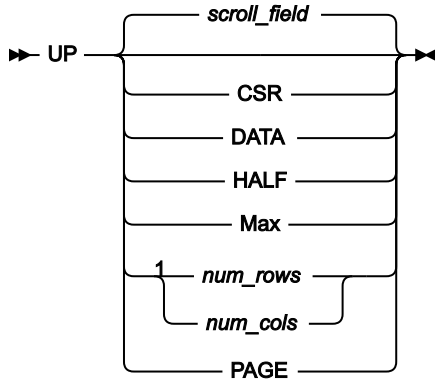
[基本 SQL プロトタイピングの使用 ページ 402](#)

UP 基本コマンド

UP 基本コマンドは、データを上方 (逆方向) にスクロールします。

スクロールの移動量 (列数) は、オプション・パラメーターによって決定されるか、パラメーターを入力しない場合は、**「Scroll (スクロール)」** フィールドに指定した移動量によって決定されます。

構文



注:

¹ *num_rows* は TABL 表示形式で使用可能です。 *num_cols* は SNGL 表示形式で使用可能です。

scroll_field

「Scroll field (スクロール・フィールド)」 に指定した移動量だけ上方へスクロールします。パラメーターが使用されない場合はこれがデフォルト値になります。

CSR

カーソル位置まで上方へスクロールします。

DATA

1 ページ分のデータより 1 行 (TABL) または 1 列 (SNGL) 少なく上方にスクロールダウンします。

HALF

データの半ページ分上方へスクロールします。

Max

表の先頭までスクロールします。TOP コマンドと同じ効果があります。

num_rows

num_rows 行をスクロールアップします。有効範囲: 1-9999。TABL 表示形式で使用可能です。

num_cols

num_cols 列をスクロールアップします。有効範囲: 1-9999。SNGL 表示形式で使用可能です。

PAGE

データの 1 ページ分上方へスクロールします。

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)
- [「Enter, Execute and Explain SQL Statements \(SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン\)」 パネル ページ 686](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [スクロール ページ 162](#)
- [SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスペレイン ページ 437](#)

VER 基本コマンド

VER 基本コマンドは、現行の FM/Db2 バージョン番号とそれぞれの FM/Db2 コンポーネントの PTF 番号を、ウィンドウに表示します。また、ウィンドウには、FM/Db2 が APF 許可されているかどうかを示されます。

構文

▶ VER ◀

使用箇所

すべてのパネル上で使用可能

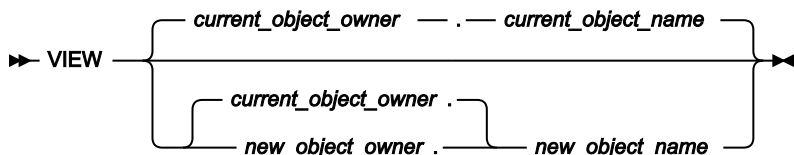
関連するタスク

[ご使用の FM/Db2 バージョンの検査 ページ 30](#)

VIEW 基本コマンド

VIEW 基本コマンドは、新規 FM/Db2 表示エディター・セッションを開始します。

構文



current_object_owner

現行 FM/Db2 エディター・セッションにおけるオブジェクトの所有者の名前。

current_object_name

現行 FM/Db2 エディター・セッションにおけるオブジェクトの名前。

new_object_owner

新規 FM/Db2 エディター・セッションの入力パネルに事前に入力されるオブジェクトの所有者の名前。

new_object_name

新規 FM/Db2 エディター・セッションの入力パネルに事前に入力されるオブジェクトの名前。

使用箇所

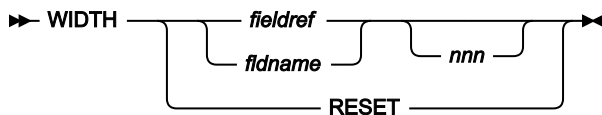
- 「Table Browse (表ブラウズ)」 パネル ページ 855
- 「Table Edit (表編集)」 パネル ページ 857
- 「Table View (表表示)」 パネル ページ 868

関連するタスク

- Db2 データの表示と変更 ページ 123

WIDTH 基本コマンド

WIDTH コマンドは、TABL 表示フォーマットにおける 1 つ以上の列の表示幅を設定します。また、テンプレート・エディターの列属性パネルにある出力幅フィールドに値を指定して、表示幅を指定することもできます。列属性パネルにアクセスするには、E 接頭部コマンドを使用してください。

構文**fieldref**

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド仕様は #n です。n は正整数で、処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列数を超えないようにしてください。

fldname

処理される Db2® オブジェクトまたは結果表の列の名前。列名の前にポンド記号 (#) を付けることができます。システムの「Translate Db2® object names (オブジェクト名の変換)」オプションが選択されている場合、入力された値は大文字に変換されます。

nnn

フィールドに望ましい表示幅を表す正整数。このパラメーターが省略されると、表示幅はデフォルト値にリセットされます。nnn の最小値は 6 です。nnn の最大値は、データ・タイプによって異なります。

表 26. さまざまなデータ・タイプのパラメーター *nnn* の最大値

データ型	<i>nnn</i> の最大値
DATE、TIME、または BINARY	30
2 進浮動小数点	35
TIMESTAMP	42
DECIMAL	45
10 進浮動小数点	52
ZONED TIMESTAMP	165
他のデータ・タイプ	表示長の値が 20 より小さい場合、 <i>nnn</i> の最大値は 30 です。その他の場合、 <i>nnn</i> の最大値は、表示幅に 10 を加えた値 です。

例

`WIDTH #9 30`

列 9 の表示幅を 30 バイトに設定します。

`WIDTH #5-#7 20`

列 #5 から #7 の表示幅を 20 バイトに設定します。

使用箇所

- [Db2 「Browse \(ブラウズ\)」 パネル ページ 618](#)
- [「Db2 Edit \(編集\)」 パネル ページ 622](#)
- [Db2 「View \(表示\)」 パネル ページ 639](#)
- [「Object List Utility \(オブジェクト・リスト・ユーティリティ\)」 \(3.4\) で表示されるすべてのパネル](#)

関連するタスク

- [Db2 データの表示と変更 ページ 123](#)
- [Db2 オブジェクトのリストの処理 ページ 312](#)

XMLBRWS 基本コマンド

XMLBRWS 基本コマンドは、XML 文書の新規 ISPF エディター・セッションをブラウズ・モードで開始します。処理される Db2@オブジェクトには XML 列が含まれていなければなりません。

このコマンドは、カーソルの移動に影響されます。コマンドを入力し、カーソルを目的の XML 列に移動して Enter キーを押します。カーソル位置にある XML 列に対して、ISPF エディター・セッションがブラウズ・モードで表示されます。

コマンドは、カーソルの移動なしに発行することもできます。その場合は、以下のパラメーターが必要な場合があります。

構文

図 173. In SNGL display format

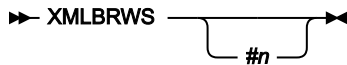
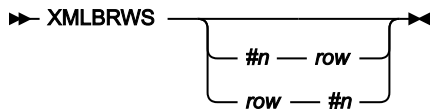


図 174. In TABL display format

**#n**

有効な参照。#n のデータ・タイプは XML である必要があります。Db2® オブジェクトに XML 列が 1 つのみ含まれる場合には、#n を省略できます。Db2® オブジェクトに複数の XML 列が含まれるときに #n を省略すると、FM/Db2 は最初の選択済み XML 列を #1 から検索します。

row

エディター・セッション内の行を識別する番号。コマンドを SNGL モードで発行する場合は、行番号を指定できません。コマンドは、現在表示されている行に適用されます。

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

XMLEDIT 基本コマンド

XMLEDIT 基本コマンドは、XML 文書の新規 ISPF エディター・セッションを編集モードで開始します。処理される Db2®オブジェクトには XML 列が含まれていなければなりません。

このコマンドは、カーソルの移動に影響されます。コマンドを入力し、カーソルを目的の XML 列に移動して **Enter** キーを押します。カーソル位置にある XML 列に対して、ISPF エディター・セッションが編集モードで表示されます。

 **注:** XML データは Db2 表で更新されないため、XMLEDIT セッションでは SAVE コマンドを使用しないでください。

コマンドは、カーソルの移動なしに発行することもできます。その場合は、以下のパラメーターが必要な場合があります。

構文

図 175. In SNGL display format

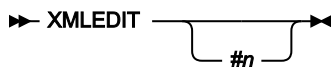
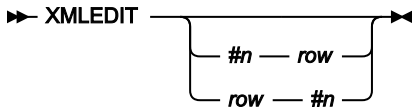


図 176. In TABL display format



#n

有効な参照。#n のデータ・タイプは XML であることが必要です。Db2® オブジェクトに XML 列が 1 つのみ含まれる場合には、#n を省略できます。Db2® オブジェクトに複数の XML 列が含まれるときに #n を省略すると、FM/Db2 は最初の選択済み XML 列を #1 から検索します。

row

エディター・セッション内の行を識別する番号。コマンドを SNGL モードで発行する場合は、行番号を指定できません。コマンドは、現在表示されている行に適用されます。

使用箇所

- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)

XMLLEN 基本コマンド

XMLLEN 基本コマンドは、XML 文書の長さを表示します。処理される Db2®オブジェクトには XML 列が含まれていなければなりません。

このコマンドは、カーソルの移動に影響されます。コマンドを入力し、カーソルを目的の XML 列に移動して Enter キーを押します。カーソル位置にある XML 文書の長さが表示されます。

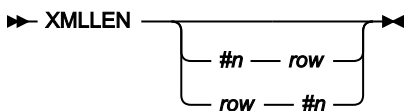
コマンドは、カーソルの移動なしに発行することもできます。その場合は、以下のパラメーターが必要な場合があります。

構文

図 177. In SNGL display format



図 178. In TABL display format



#n

有効な参照。#n のデータ・タイプは XML であることが必要です。Db2® オブジェクトに XML 列が 1 つのみ含まれる場合には、#n を省略できます。Db2® オブジェクトに複数の XML 列が含まれるときに #n を省略すると、FM/Db2 は最初の選択済み XML 列を #1 から検索します。

row

エディター・セッション内の行を識別する番号。コマンドを SNGL モードで発行する場合は、行番号を指定できません。コマンドは、現在表示されている行に適用されます。

使用箇所

- [Table Browse (表ブラウズ)] パネル ページ 855
- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

XMLVIEW 基本コマンド

XMLVIEW 基本コマンドは、XML 文書の新規 ISPF エディター・セッションを表示モードで開始します。処理される Db2®オブジェクトには XML 列が含まれていなければなりません。

このコマンドは、カーソルの移動に影響されます。コマンドを入力し、カーソルを目的の XML 列に移動して Enter キーを押します。カーソル位置にある XML 列に対して、ISPF エディター・セッションが表示モードで表示されます。

コマンドは、カーソルの移動なしに発行することもできます。その場合は、以下のパラメーターが必要な場合があります。

構文

図 179. In SNGL display format

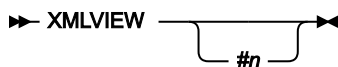
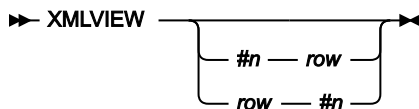


図 180. In TABL display format

**#n**

有効な参照。#n のデータ・タイプは XML であることが必要です。Db2® オブジェクトに XML 列が 1 つのみ含まれる場合には、#n を省略できます。Db2® オブジェクトに複数の XML 列が含まれるときに #n を省略すると、FM/Db2 は最初の選択済み XML 列を #1 から検索します。

row

エディター・セッション内の行を識別する番号。コマンドを SNGL モードで発行する場合は、行番号を指定できません。コマンドは、現在表示されている行に適用されます。

使用箇所

- [Table Edit (表編集)] パネル ページ 857
- [Table View (表表示)] パネル ページ 868

ZOOM 基本コマンド

TABL 表示形式では、ZOOM コマンドは、カーソルで選択された行、あるいは (カーソルがどの行にも位置付けられていない場合) 先頭の表示行にズームインします。

SNGL 表示形式では、ZOOM コマンドは現在行を表示します。テンプレートで一部の列が選択解除されている場合には、それらの列も表示します。

構文

▶ ZOOM ◀

使用箇所

- [「Table Browse \(表ブラウズ\)」 パネル ページ 855](#)
- [「Table Edit \(表編集\)」 パネル ページ 857](#)
- [「Table View \(表表示\)」 パネル ページ 868](#)

関連するタスク

- [1 行全部を表示するためのズームイン ページ 161](#)

第 19 章. FM/Db2 機能

本章では、バッチ・ジョブで実行できる FM/Db2 関数について説明します。

FM/Db2 バッチ・ユーティリティ制御ステートメント生成の優先方式によって、FM/Db2 が必要なステートメントを生成できます。

このセクションの構文図およびキーワードの説明は、参照の目的でのみ提供されています。

このリファレンス章の使用方法

この章には、FM/Db2 バッチ関数がアルファベット順にリストされています。

必要に応じて、各関数について以下のサブセクションがあります。

目的

この関数で実行できることの概要。

使用上の注意

関数の使用方法に関する詳細な説明。

構文

構文図と、それに続くパラメーター・リスト。パラメーター・リストはパラメーターを説明し、(該当する場合は) そのデフォルトとその他の可能な値を示します。関数に関係のないパラメーターを指定すると、File Manager はそれを無視します。同じパラメーターを 2 度以上指定すると、File Manager は最初に指定した値を使用します。

バッチ例

サンプル・バッチ・ジョブのリスト。

戻りコード

関数に固有の戻りコードのリスト。

関連関数

何らかの関係がある別の関数 (例えば、エクスポート関数とインポート関数は、Db2® システム間のデータの転送に使用されます)。

File Manager 機能を使用する際のパフォーマンスに関する一般的なヒント

File Manager 関数を使用するときのパフォーマンスを向上させるガイドとしてのヒントを以下に示します。

REXX の FASTREXX サブセットを使用する

ユーザー PROC が必要な場合は、フル REXX 言語ではなく REXX の FASTREXX サブセットを使用することを強くお勧めします。File Manager は、FASTREXX サブセットで多くの共通タスクを実行できるように設計された、外部 REXX 関数のセットを提供します。FASTREXX の詳細については、「File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」の、『第 14 章 Enhancing File Manager processing』を参照してください。

テンプレートとコピーブックの処理

ユーティリティー DBX および DBI を使用して、それぞれ、ターゲット/入力データ・セットにコピーブックまたはテンプレートを指定できます。ユーティリティー DBX、DBI、DBC、D2G、および DBP は、オプションで、処理する Db2® オブジェクトを記述する Db2® テンプレートを必要とします。これらの関数を使用するときは、次のパフォーマンス関連のポイントについて考慮してください。

- コピーブックの代わりにテンプレートを使用する場合、File Manager の効率が非常に高くなります。コピーブックを使用する必要がある場合は、コピーブックの言語を指定します。(最高のパフォーマンスを得るには、デフォルトの LANG=AUTO ではなく、LANG=COBOL、LANG=HLASM、または LANG=PLI を使用します。)
- テンプレート式を作成する場合は、可能な限り、File Manager 内部処理に適した式を使用してください。詳細については、「File Manager ユーザズ・ガイドおよびリファレンス」の『Improving performance using internal expression processing』を参照してください。

FM/Db2 バッチ関数

このセクションでは、バッチ・ジョブで使用できる FM/Db2 関数を説明します。これらの機能を使用する際について詳しくは、[Db2 表へのデータの追加 ページ 251](#)を参照してください。[データのコピー ページ 253](#)[印刷 ページ 337](#)

BATSQL (バッチ SQL) バッチ・コマンド

目的

直接発行することができる SQL ステートメント (DELETE、INSERT、または UPDATE) を実行します。ステートメントによって多くの行数が変更される場合があるため、ターゲット Db2® 表におけるロック・エスカレーションが問題になります。ロック・エスカレーション問題を避けるために、ステートメントは 3 ステージのプロセスで実行されます。

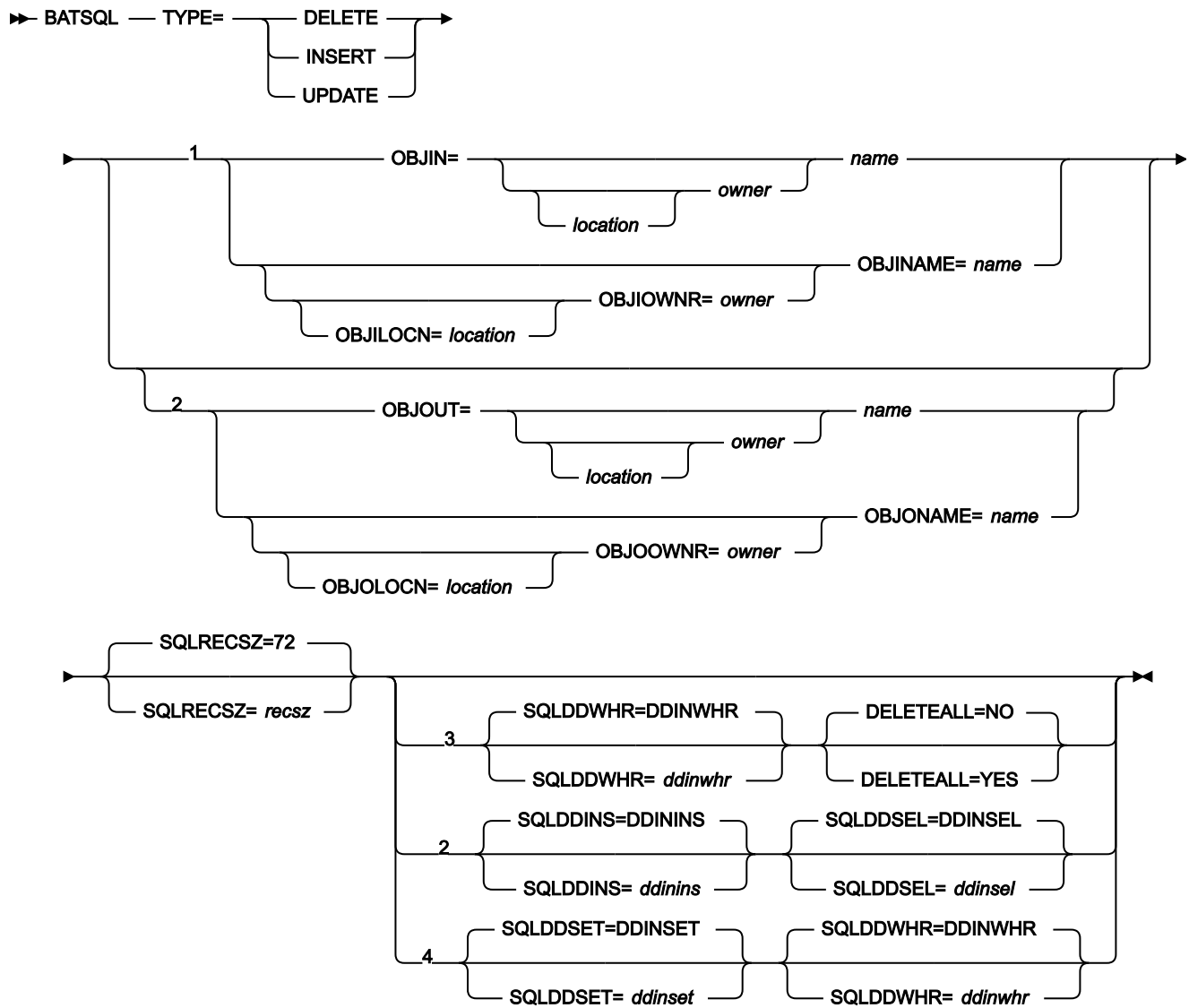
1. SQL SELECT ステートメントが生成されます。このステートメントの結果表には、DELETE、INSERT、または UPDATE の対象である行のすべてが入ります。
2. 結果表の行が取り出され、要求された操作 (DELETE、INSERT、または UPDATE) が行ごとに適用されます。行は一度に 1 つずつ取り出されるか、または行セットで (一度に複数の行が) 取り出されます。
3. 規定された行数が処理された後で、保留されているロックを解除するために Db2® コミットが出されます。

使用法

FM/Db2 バッチ SQL ユーティリティーは、以下のアクションを実行できます。

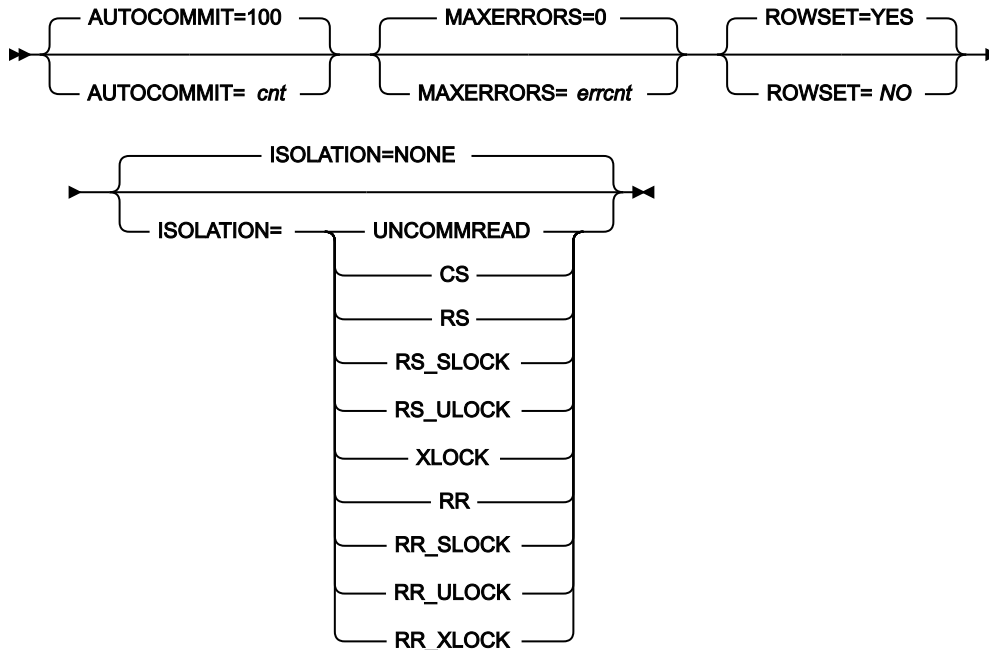
- 指定された表から行を削除します。WHERE 節が指定されていない場合、すべての行が削除される可能性があります。
- 指定された表の行を更新します。WHERE 節が指定されていない場合、すべての行が更新される可能性があります。
- 完全な SELECT による結果表を使用して、挿入される行を生成することによって、指定された表に行を挿入します。
- 指定された数の変更が行われた後で、Db2® コミットを出します。

BATSQL はバッチ専用の関数で、これに相当するフルスクリーン・オプションはありません。BATSQL 関数は**単一**の SQL DELETE、INSERT、または UPDATE 操作を実行します。



注:

- ¹ TYPE=DELETE、UPDATE
- ² TYPE=INSERT
- ³ TYPE=DELETE
- ⁴ TYPE=UPDATE



AUTOCOMMIT=*cnt*

自動 Db2® コミットが出されるまでに処理される正常な操作の数。値ゼロは、すべての行が処理されるまで Db2® コミットは出されないことを示します。有効な値は 0 から 2147483647 です。

行を結果表から読み取るために使用される Db2® カーソルは「WITH HOLD (保留)」で宣言されているため、Db2® コミットはこのカーソルをクローズしません。変更アクティビティーに関連付けられているロックは、Db2® コミットによって解除されます。

ISOLATION=*value*

結果表にアクセスするカーソルが宣言されている場合に組み込まれる、オプションの分離仕様。デフォルトは NONE です。

指定できる値については、SQL 解説書で SELECT ステートメントの isolation 節の説明を参照してください。

UNCOMMREAD (UR) は TYPE=DELETE、UPDATE に指定できますが、無視されて CS に変換されます。

MAXERRORS=*errcnt*

Db2® ロールバックが実行されて関数処理が終了するまでに発生できるエラーの最大数。行が処理されるとき、負の SQLCODE はエラーであると見なされ、エラー件数が 1 つ増えます。行セットが処理されるとき、負の SQLCODE はエラーであると見なされ、エラー件数は、現在の行セットにある行数の分だけ増えます。有効な値は 0 から 2147483647 です。

DELETEALL=<YES|NO>

すべての行を表から削除する意図を示す、削除処理の仕様。where 節のない TYPE=DELETE 処理では、DELETEALL=YES を指定する必要があります。

where 節なしで DELETE が指定されると、すべての行を表から削除しようと試みるため、このオプションは安全な機能です。

OBJIN=location.owner.name

以下の 3 つの項目を指定します。

- エクスポートされるオブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*、オプション)。
- オブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)。
- 処理されるオブジェクト名 (*name*)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) Db2® サーバーが使用されます。owner が指定されていない場合、オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJIN を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJILOCN、OBJIOWNR、OBJINAME キーワード (複数可) を使用して、オブジェクトを指定します。

OBJILOCN=location

エクスポートされるオブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*、オプション)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。

OBJIOWNR=owner

処理されるオブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。

OBJINAME=name

処理されるオブジェクトのオブジェクト名 (*name*)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。



注: TYPE=DELETE および TYPE=UPDATE には OBJIN、OBJILOCN、OBJIOWNR、および OBJINAME を指定します。

ROWSET=<YES|NO>

FM/Db2 が行を取り出す (また多くの場合、行を削除および更新する) ときに、行セット処理を使用するかどうかを示す仕様。

YES

行セット処理が使用されます。行セットごとの行数は、AUTOCOMMIT に指定されている値と同じです。AUTOCOMMIT キーワードが省略されると、行セットのサイズはデフォルト (100 行) になります。有効な行セットのサイズは 2 から 10000 です。AUTOCOMMIT 値がこの範囲にならない場合、単一行処理が自動的に選択されます。

NO

単一行処理を使用します。

OBJOUT=location.owner.name

以下の 3 つの項目を指定します。

- ターゲット・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*)。
- ターゲット・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)。
- 処理されるターゲット・オブジェクト名 (*name*)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) Db2® サーバーが使用されます。owner が指定されていない場合、ターゲット・オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJOUT を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJILOCN、OBJIOWNER、OBJIENAME キーワード (複数可) を使用して、ターゲット・オブジェクトを指定します。

OBJOLOCN=location

ターゲット・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*)。Db2 オブジェクト名の指定ページ 1031 を参照してください。

OBJOOWNER=owner

処理されるターゲット・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)。Db2 オブジェクト名の指定ページ 1031 を参照してください。

OBJONAME=name

処理されるターゲット・オブジェクトのオブジェクト名 (*name*)。Db2 オブジェクト名の指定ページ 1031 を参照してください。



注: TYPE=INSERT には OBJOUT、OBJOLOCN、OBJOOWNER、および OBJONAME を指定します。

SQLDDWHR=ddinwhr (TYPE=DELETE, UPDATE)

有効な SQL where 節を参照する、オプションの DD 名。

このキーワードが省略されると、where 節は、DD DDINWHR で指定されたものと想定されます。

TYPE=DELETE であれば、NULL の where 節を指定できますが、DELETE ステートメントを処理するためにキーワード DELETEALL=YES も組み込む必要があります。

SQLDDESET=ddinset (TYPE=UPDATE)ddinset

有効な SQL set 節を参照する、オプションの DD 名 (TYPE=UPDATE の場合のみ)。

このキーワードが省略されると、set 節は、DD DDINSET で指定されたものと想定されます。

SET 節を指定する必要があります。

SQLDDINS=ddinins (TYPE=INSERT)

次のような SQL insert ステートメントに対応する有効な列リストを参照する、オプションの DD 名。


```
INSERT INTO <object> (column name1, column name2, ..)
```

このキーワードが省略されると、列リストは、DD DDININS で指定されたものと想定されます。

列名のリストはオプションです。列名のリストが指定されないと、(SQLDDSEL を使用して指定された) SELECT ステートメントによる結果表には、ターゲット表の列と同じ数の列が入るはずですが、リストの中の列名はそれぞれ、ターゲット表の列名でなければなりません。

SQLDDSEL=ddinsel (TYPE=INSERT)

ターゲット・オブジェクトに挿入される行の結果表を指定する SELECT ステートメントを参照する、オプションの DD 名。

このキーワードが省略されると、SELECT ステートメントは、DD DDINSEL で指定されたものと想定されます。挿入される行を識別する SELECT ステートメントが必要です。

SQLRECSZ=recsz

すべての入力データ・セットのオプションのレコード・サイズ。デフォルトは 72 です。SQL 節がインラインで JCL デックに指定されている場合、72 より大きい値は指定しないでください。有効な値は 40 から 32760 です。

例

ヒント

2 から 10000 までの AUTOCOMMIT 値が指定されている場合、行セット処理が自動的に選択されます。

DELETE、INSERT、UPDATE 処理では、FM/Db2 は、1 回の取り出しで行セットの行数を取り出します。DELETE 処理および UPDATE 処理の場合のみ、FM/Db2 は 1 つの SQL ステートメントを使用して、行セットの行数を削除または更新しようと試みます。

INSERT では、それぞれの行が常に 1 行の INSERT ステートメントで挿入されます。

行セット処理で大きな行セット・サイズを使用する場合、大きな領域サイズが必要になる可能性があります。FM/Db2 は、指定された行セットの行数のデータを保管するために十分なストレージを必要とします。

行セットを使用する DELETE 処理および UPDATE 処理では、それらの行セットに対する DELETE 操作または UPDATE 操作が失敗する可能性があります。この障害が発生すると、FM/Db2 は単一行処理を使用して、行セットの行ごとに DELETE 操作および UPDATE 操作を再試行します。行セットの DELETE 操作または UPDATE 操作で検出されたエラーが、エラー・カウンターを増やすことはありません。ただし、単一行の DELETE または UPDATE に対するエラーは、エラー・カウンターを増やします。

例

例

これらの例は、以下の表定義を参照します。

```
CREATE TABLE RFM0681A."Names"
```

```

("Name_Identifier" INTEGER NOT NULL
,"Last_Name"      VARCHAR(16) NOT NULL
,"First_Name"     VARCHAR(16) NOT NULL
,"Second_Name"    VARCHAR(16) NOT NULL
,"Sex"            CHAR(1)      NOT NULL
,"Date_Of_Birth"  DATE         NOT NULL
);

CREATE TABLE RFM0681B."Names"
("Name_Identifier" INTEGER NOT NULL
,"Date_Of_Birth"   DATE
,"Sex"             CHAR(1)
,"First_Name"      VARCHAR(16)
,"Second_Name"     VARCHAR(16)
,"Last_Name"       VARCHAR(16)
);

```

例 1

有効な性別（「F」または「M」）を持っていない行のすべてを表から削除します。50 個の削除操作が完了するたびに、Db2® コミットを出します。何らかのエラーがあれば、停止します。

```

//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DFXX,SQID=XXXXXXX')
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//DDINWHR DD *
WHERE ("Sex" <> 'M'
AND "Sex" <> 'F')
/*
//SYSIN DD *
$$$FILEM BATSQI TYPE=DELETE,
$$$FILEM OBJIN=RFM0681A."Names",
$$$FILEM AUTOCOMMIT=50,
$$$FILEM MAXERRORS=1

```

例 2

以下の項目を持つ行のすべてを表で更新します。

- 姓 [Smith]
- 性別 [m]

これらの行を、以下の項目を持つように変更します。

- 姓 [SMITH]
- 名前 [JAMES]
- セカンドネームなし
- 性別 [M]

100 個の更新操作が完了するたびに、Db2® コミットを出します。10 個を超えるエラーがあれば、停止します。

```

//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DFXX,SQID=XXXXXXX')

```

```

//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//DDINSET DD *
SET ("Last_Name", "First_Name", "Second_Name", "Sex") =
    ('SMITH', 'JAMES', '', 'M')
/*
//DDINWHR DD *
WHERE "Last_Name" = 'Smith'
    AND "Sex" = 'm'
/*
//SYSIN DD *
$$$FILEM BATSQI TYPE=UPDATE,
$$$FILEM OBJIN=RFM0681A."Names",
$$$FILEM AUTOCOMMIT=100,
$$$FILEM MAXERRORS=10
/*

```

例 3

RFM0681A."Names" に対する SELECT を使用して行を RFM0681B."Names" に挿入し、結果表を作成します。

"Name_Identifier" の値が 100,000 以下である場合のみ、行を挿入します。

```

//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DFXX,SQID=XXXXXXX')
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//DDININS DD *
(
    "First_Name",
    "Second_Name",
    "Last_Name",
    "Sex",
    "Date_Of_Birth",
    "Name_Identifier"
)
/*
//DDINSEL DD *
SELECT
    "First_Name",
    "Second_Name",
    "Last_Name",
    "Sex",
    "Date_Of_Birth",
    "Name_Identifier"
FROM RFM0681A."Names"
WHERE "Name_Identifier" <= 100000
/*
//SYSIN DD *
$$$FILEM BATSQI TYPE=INSERT,
$$$FILEM OBJOUT=RFM0681B."Names",
$$$FILEM AUTOCOMMIT=50,
$$$FILEM MAXERRORS=100
/*

```

DBC (コピー) バッチ・コマンド

目的

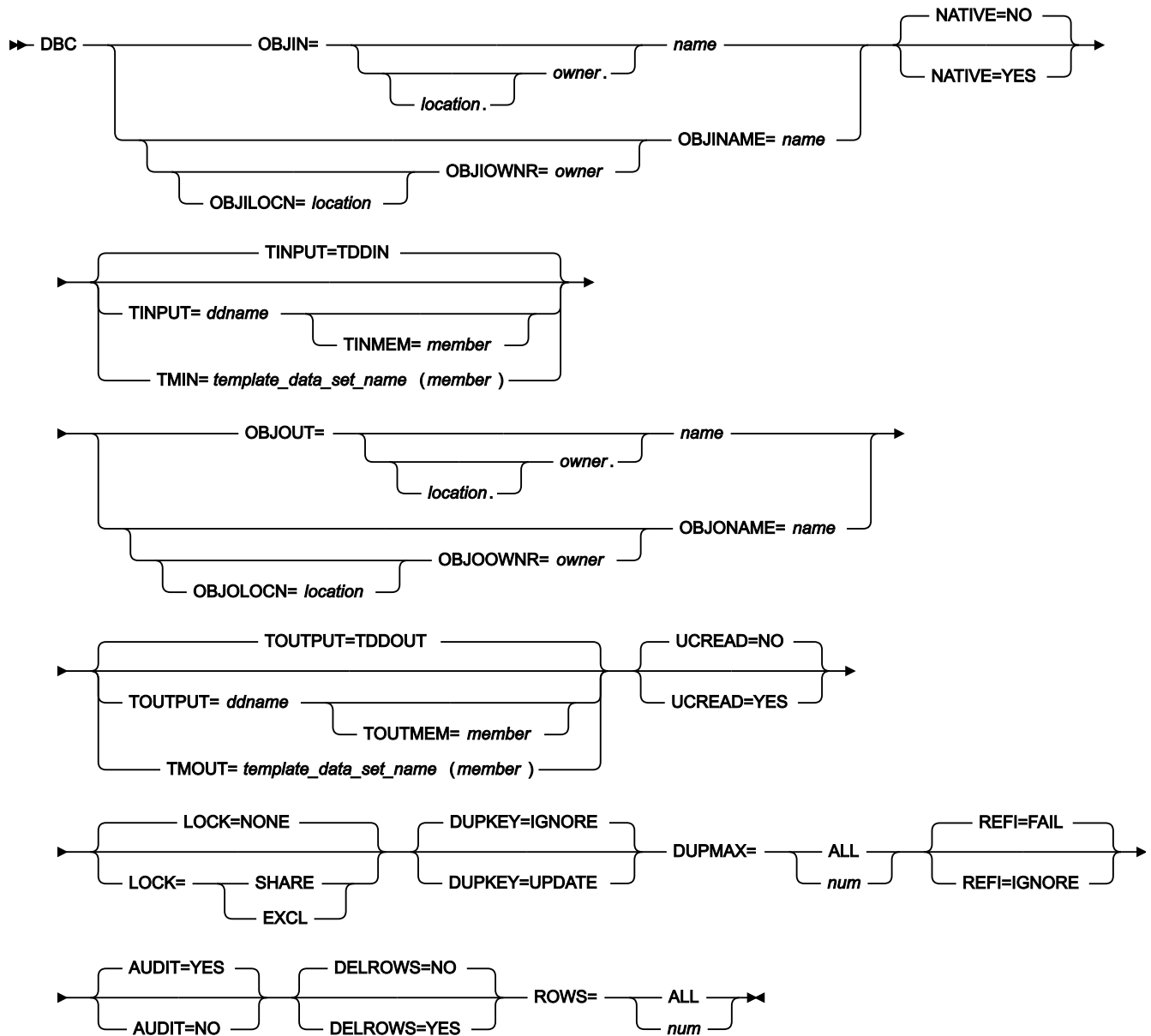
ある Db2® オブジェクトから別の Db2® オブジェクトへのデータのコピーします。両方のオブジェクトが、現在接続されている Db2® システムからアクセス可能である必要があります。

使用法

FM/Db2 コピー・ユーティリティーは、以下を実行できます。

- オプションで、データをコピーする前にターゲット表からすべての行を削除する。
- コピーする行と列を選択する。
- コピーする行の合計数を制限する。
- データの形式を 1 つ以上の新しい列に再設定する。
- 列を新しい値またはパターンで初期化する。

FM/Db2 コピー・ユーティリティーは、ソース Db2® オブジェクトで定義されている参照整合性関係を考慮しません。



OBJIN=*location.owner.name*

ソース・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*)、ソース・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*)、コピーされるソース・オブジェクトの名前 (*name*)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) Db2® サーバーが使用されます。 *owner* が指定されていない場合、オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。 FM/Db2 がユーティリティー制御ステートメントを生成する場合、 *owner* 値は非ブランクです。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJIN を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJILOCN、OBJIOWNR、OBJINAME キーワード (複数可) を使用して、オブジェクトを指定します。

OBJILOCN=*location*

ソース・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*、オプション)。[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

OBJIOWNER=*owner*

コピーされるソース・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*)。 [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

OBJINAME=*name*

コピーされるソース・オブジェクトのオブジェクト名 (*name*)。 [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

NATIVE

2 つの Unicode でエンコードされた表間でデータをコピーする場合、FM/Db2 が Unicode エンコード・データをネイティブに処理するかどうかを指定します。Unicode データのデフォルト処理が必要な場合、このオプションを無視することができます。すなわち、Unicode 表間でデータをコピーする場合、Unicode データがエラー文字に置き換えられる可能性があります。

YES

Unicode データをネイティブに処理します。

NO

Unicode データをネイティブに処理しません。これはデフォルトです。

TINPUT=*ddname*

コピーされるソース Db2® オブジェクトを記述した Db2® テンプレートが含まれているデータ・セットの DD ステートメントに対する参照を定義します。連結した DD を指定する場合は、メンバー名 (*member*) を TINMEM キーワードで指定する必要があります。 [Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

TINMEM=*member*

コピーブックまたはテンプレート・メンバーが DD ステートメントで指定されていない場合に、TINPUT パラメーターによって識別されるデータ・セットのコピーブックまたはテンプレート・メンバーの名前。このパラメーターは、TMIN パラメーターが指定されている場合は、指定しないでください。 [Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

TMIN=*template_data_set_name(member)*

コピーされるソース Db2® オブジェクトを記述した File Manager Db2® テンプレートの PDS (*template_data_set_name*) とメンバー名 (*member*)。 [Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

OBJOUT=*location.owner.name*

ターゲット・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*)、ターゲット・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*)、コピーされるターゲット・オブジェクトの名前 (*name*)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) Db2® サーバーが使用されます。owner が指定されていない場合、オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。FM/Db2 がユーティリティー制御ステートメントを生成する場合、owner 値は非ブランクです。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJOUT を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJOLOCN、OBJOOWNR、OBJONAME キーワード (複数可) を使用して、オブジェクトを指定します。

OBJOLOCN=location

ターゲット・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*)。Db2 オブジェクト名の指定ページ 1031 を参照してください。

OBJOOWNR=owner

コピーされるターゲット・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*)。Db2 オブジェクト名の指定ページ 1031 を参照してください。

OBJONAME=name

コピーされるターゲット・オブジェクトのオブジェクト名 (*name*)。Db2 オブジェクト名の指定ページ 1031 を参照してください。

TOUTPUT=ddname

ターゲット Db2® オブジェクトを記述した Db2® テンプレートが含まれているデータ・セットの DD ステートメントに対する参照を定義します。連結した DD を指定する場合は、メンバー名 (*member*) を TOUTMEM キーワードで指定する必要があります。Db2 オブジェクト用テンプレートの指定ページ 1032 を参照してください。

TOUTMEM=member

コピーブックまたはテンプレート・メンバーが DD ステートメントで指定されていない場合に、TOUTPUT パラメーターによって識別されるデータ・セットのコピーブックまたはテンプレート・メンバーの名前。このパラメーターは、TMOUT パラメーターが指定されている場合は、指定しないでください。Db2 オブジェクト用テンプレートの指定ページ 1032 を参照してください。

TMOUT=template_data_set_name(member)

コピーされるターゲット Db2® オブジェクトを記述した FM/Db2 テンプレートの PDS (*template_data_set_name*) とメンバー名 (*member*)。Db2 オブジェクト用テンプレートの指定ページ 1032 を参照してください。

UCREAD

FM/Db2 がソース・オブジェクトにアクセスするときに、非コミット読み取りを使用するかどうかを指定します。

YES

非コミット読み取りを使用します。この場合、Db2® はソース表のデータにアクセスするときにロックを行わないため、FM/Db2 に読み取られた後で行のデータが変わり、データの不整合が発生する可能性があります。

NO

非コミット読み取りを使用しません。これはデフォルトです。

LOCK

データをコピーする前に、ソース表をロックするかどうかを指定します。使用できるオプションは、次のとおりです。

NONE (なし)

デフォルトの推奨値です。UCREAD=YES で否定されていない限り、Db2® インストール・オプションとソース・オブジェクトの作成時に指定されたオプションに従って、Db2® がロックを行います。

SHARE

FM/Db2 は、データをコピーする前に、SHARE モードでソース・オブジェクトをロックします。このオプションは表に対してのみ有効で、ソース・オブジェクトがビューの場合は効果がありません。オブジェクトが SHARE モードでロックされている場合、他のユーザーがそのオブジェクトを読み取ることはできますが、更新することはできません。

EXCL

FM/Db2 は、データをコピーする前に、EXCLUSIVE モードでソース・オブジェクトをロックします。このオプションは表に対してのみ有効で、ソース・オブジェクトがビューの場合は効果がありません。オブジェクトが EXCLUSIVE モードでロックされている場合、非コミット読み取りを使用する場合を除き、他のユーザーはそのオブジェクトにアクセスできません。

DUPKEY

FM/Db2 が重複キー・エラーにどのように対応するかを指定します。

IGNORE

FM/Db2 はエラーを無視し、処理を続行します。重複キー・エラーの原因になった行は、ターゲット Db2® オブジェクトにコピーされません。

UPDATE

FM/Db2 は既存の行の更新を試みます。SQLCODE-803 エラーの原因になった固有索引の一部である表の列が、行の識別に使用されます。更新操作の前には、コピーされた行と既存の行の間で比較は行われません (すなわち、更新は、コピーされた行と既存の行が同じかどうかに関係なく行われます)。ターゲット表で複数の固有索引が定義されている場合は、更新を試みたときに SQLCODE-803 が発生する可能性があります。これは、更新エラーと見なされます。

DUPMAX

FM/Db2 がインポート処理を終了するまで許可される重複キー・エラーの数。

ALL または 0

制限なし。

num

許可される重複キー・エラーの数。最大で 2147483647 です。

REFI

チェック制約違反で発生するエラー (SQLCODE-545) を無視するかどうかを指定します。デフォルトは REFI=FAIL で、チェック制約エラーが発生した場合はコピー処理を終了します。そうでない場合 (REFI=IGNORE)、チェック制約エラーは無視されます。

AUDIT

FM/Db2 が FM/Db2 監査ログにレコードを書き込むかどうかを指定します。

YES

FM/Db2 監査ログにレコードを書き込む。これはデフォルトです。

NO

FM/Db2 監査ログにレコードを書き込まない。

このオプションは、ユーザーがインストール設定を変更できないようにするインストール監査オプションが設定されている場合、無視されることがあります。

DELROWS

FM/Db2 が、コピー操作を開始する前にターゲット表のすべての行の削除を試行するかどうかを指定します。

YES

すべての行の削除を試行します。

NO

行を削除しません。これはデフォルトです。

ターゲット表からの行の削除は、DELETE * FROM <object name> を使用して実行されます。行の削除で参照整合性関連のエラーが発生した場合、削除は失敗します。

ROWS

コピーする行の最大数。

ALL

ソース・オブジェクトのすべての行がターゲット・オブジェクトに書き込まれます。

num

コピーする行の最大数。有効範囲: 1-99999999。

例**例**

例 1: DSN8810.EMP 表をリモート・ロケーションにコピーします。データをコピーする前にターゲット表内の行すべてを削除します。DSN8810.EMP にアクセスするときは、非コミット読み取りを使用します。DSN8810.EMP へのアクセスを監査します。

```
//DBC JOB (acct),'name'
/* Copy DSN8810.EMP table to the same table at a remote location
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBC OBJIN="DSN8810"."EMP",
$$$FILEM OBJOUT=REMLOC."DSN8810"."EMP",
$$$FILEM UCREAD=YES,
$$$FILEM LOCK=NONE,
$$$FILEM DUPKEY=IGNORE,
$$$FILEM DUPMAX=ALL,
$$$FILEM REFI=FAIL,
$$$FILEM AUDIT=YES,
$$$FILEM DELROWS=YES,
$$$FILEM ROWS=ALL
/*
```

例 2: DSN8810.EMP 表を DSN8COPY.EMP にコピーします。重複キー・エラーを生成したターゲット表の行を更新します。重複キー・エラーは、最大で 100 件とします。

```
//DBC JOB (acct),'name'
/* Copy DSN8810.EMP table to a copy of the same table.
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBC OBJIN="DSN8810"."EMP",
$$$FILEM OBJOUT="DSN8COPY"."EMP",
$$$FILEM LOCK=NONE,
$$$FILEM DUPKEY=UPDATE,
$$$FILEM DUPMAX=100,
$$$FILEM REFI=FAIL,
$$$FILEM ROWS=ALL
/*
```

戻りコード

DBC 関数からの戻りコードは次のとおりです。

0

関数の処理が正常に完了しました。

16

重大なエラーが発生しました。

関連関数

DBI

順次ファイルまたは VSAM ファイルから Db2® 表へのデータのインポート ([DBI \(インポート\) バッチ・コマンド ページ 1003](#))

DBX

Db2® オブジェクトから順次ファイルまたは VSAM ファイルへのデータのエクスポート ([DBX \(エクスポート\) バッチ・コマンド ページ 1012](#))

D2G

Db2® データの作成 (生成) ([D2G \(データ生成\) バッチ・コマンド ページ 1025](#))

DBI (インポート) バッチ・コマンド

目的

QSAM または VSAM ファイルから Db2® オブジェクトに、さまざまな形式でデータをインポートします。Db2® オブジェクトは、現在接続されている Db2® システムからアクセス可能である必要があります。

使用法

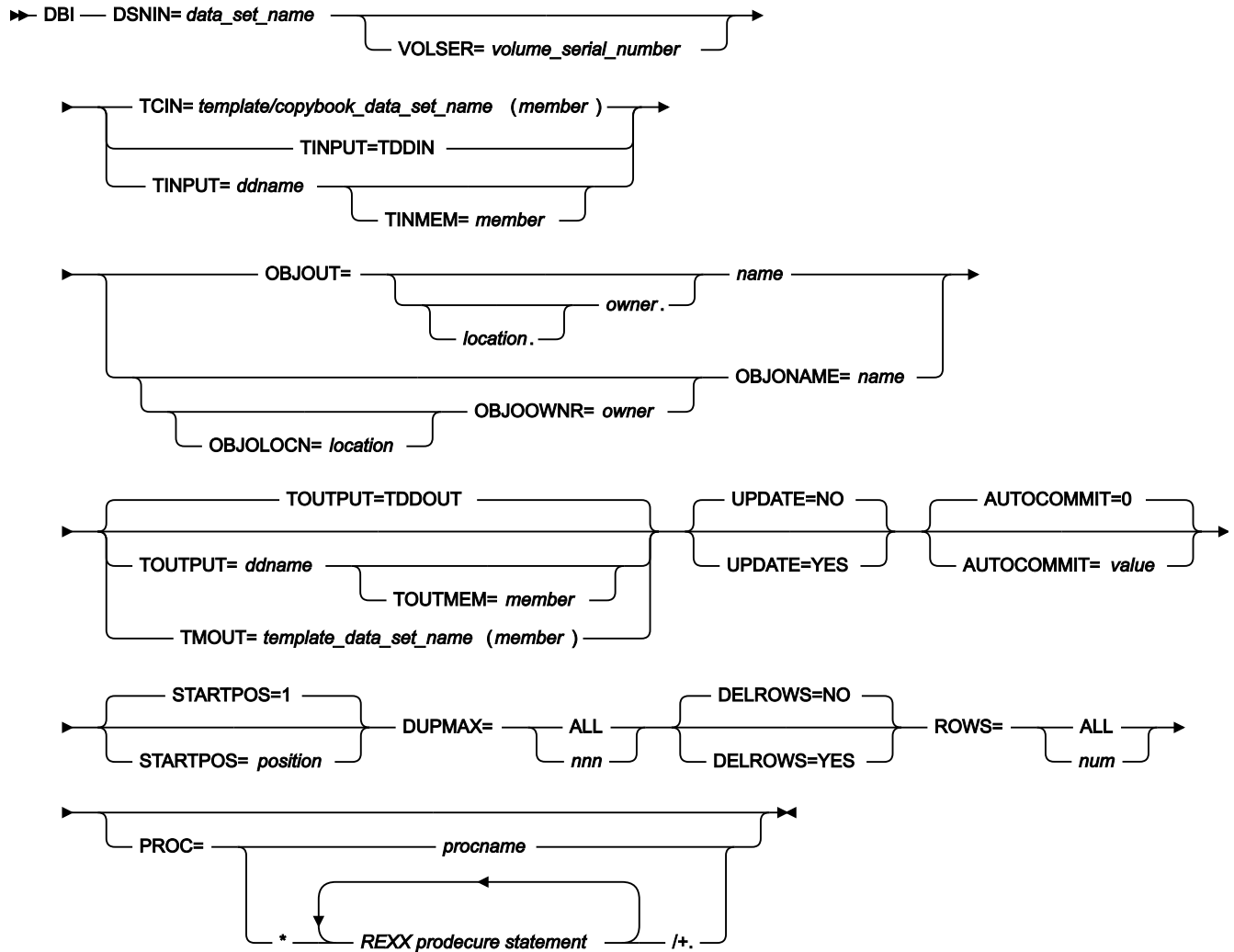
FM/Db2 インポート・ユーティリティーでは以下のことができます。

- オプションで、データをインポートする前にターゲット表からすべての行を削除する。
- インポートするレコードの数を制限する。
- インポートするレコードを選択する。
- 適切なデータ・タイプと長さの変換を行い、インポート・データ・セットのフィールドをターゲット表の列にマップする (テンプレート・マッピングを使用)。
- インポートされた行の固有索引列の値が既存の表の行と一致する場合に、既存の行を更新する (オプション)。

マップ済みおよび変換済みのデータを、ターゲット Db2® 表に挿入する前に変更するために、インポートの最中に REXX プロシージャを使用できます。この時点では、すべての REXX 関数を使用でき、REXX プロシージャを用いてレコードを除外するか、インポートを停止できます。

インポート処理の最後に、次の統計情報が表示されます。

- 正常にインポートされた行の数。
- 重複行エラーの数。
- 更新された重複行の数 (オプション)。
- 失敗した重複行更新の数 (オプション)。
- エラーが発生した行の数。
- テンプレート選択によってスキップされた行の数。
- REXX プロシージャで除外された行の数。



DSNIN=*data_set_name*

インポートされるデータを含んでいるデータ・セットの名前。データ・セットが区分されている場合は、メンバー名が必要です。

VOLSER=*volume_serial_number*

入力データ・セットのボリューム通し番号。このフィールドは、アンカタログされたデータ・セットにだけ必要です。

TINPUT=*ddname*

入力データのレコード構造を記述したテンプレート・メンバーが含まれているデータ・セットの DD ステートメントに対する参照を定義します。デフォルトは TDDIN です。

TINMEM=*member*

コピーブックまたはテンプレート・メンバーが DD ステートメントで指定されていない場合に、TINPUT パラメーターによって識別されるデータ・セットのコピーブックまたはテンプレート・メンバーの名前。TCIN パラメーターが指定されている場合、このパラメーターを指定することはできません。

TCIN=template/copybook_data_set_name(member)

インポートされるデータのレコード構造を記述したテンプレートまたはコピーブックの PDS (*template/copybook_data_set_name*) とメンバー名 (*member*)。FM/Db2 が生成する JCL では TCIN が指定されま
す。データ・セット用テンプレート/コピーブックの指定 ページ 1032 を参照してください。

OBJOUT=location.owner.name

ターゲット・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*)、ターゲット・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*)、コピーされるターゲット・オブジェクトの名前 (*name*)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) Db2® サーバーが使用されます。owner が指定されていない場合、オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。FM/Db2 がユーティリティー制御ステートメントを生成する場合、owner 値は非ブランクです。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJOUT を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJOLOCN、OBJOOWNR、OBJONAME キーワード (複数可) を使用して、オブジェクトを指定します。

OBJOLOCN=location

ターゲット・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。

OBJOOWNR=owner

インポートされるターゲット・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。

OBJONAME=name

インポートされるターゲット・オブジェクトのオブジェクト名 (*name*)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。

TOUTPUT=ddname

ターゲット Db2® オブジェクトを記述した Db2® テンプレートが含まれているデータ・セットの DD ステートメントに対する参照を定義します。連結した DD を指定する場合は、メンバー名 (*member*) を TOUTMEM キーワードで指定する必要があります。Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032 を参照してください。

TOUTMEM=member

コピーブックまたはテンプレート・メンバーが DD ステートメントで指定されていない場合に、TOUTPUT パラメーターによって識別されるデータ・セットのコピーブックまたはテンプレート・メンバーの名前。このパラメーターは、TMOUT パラメーターが指定されている場合は、指定しないでください。Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032 を参照してください。

TMOUT=template_data_set_name(member)

コピーされるターゲット Db2® オブジェクトを記述した FM/Db2 テンプレートの PDS (*template_data_set_name*) とメンバー名 (*member*)。Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032 を参照してください。

UPDATE

FM/Db2 が、SQLCODE-803 (重複キー) エラーを生成した行の更新を試行するかどうかを指定します。

YES

FM/Db2 は既存の行の更新を試みます。表内の列のうち、少なくとも1つの固有索引の一部である列のすべてが行の識別に使用されます。更新操作の前には、インポートされた行と既存の行の間で比較は行われません (すなわち、更新は、インポートされた行と既存の行が同じかどうかに関係なく行われます)。このオプションを使用するときは、ビュー名ではなく、Db2® 表名を指定することをお勧めします。FM/Db2 は、ビューに定義されたビュー内の既存の行の更新は試みません。

NO

行は更新されません。これはデフォルトです。

AUTOCOMMIT=*value*

FM/Db2 がインポート時に Db2® コミットを発行する頻度を示す数値を指定します。デフォルトはゼロです。ゼロは、インポート操作時に Db2® コミットが発行されないことを意味します。任意の正値を指定すると、インポート時にその値の回数の変更が正常に行われた後、FM/Db2 は Db2® コミットを発行します。変更が正常に行われるのは、レコードが正常に挿入される時、またはレコードの挿入を試行した結果、重複キー・エラーになった後で行が正常に更新される時のどちらかです。各 Db2® コミットが発行された後、カウンターがリセットされるので、複数の Db2® コミットが発行される場合があります。インポート時にエラーが発生するときに、1つ以上の Db2® コミットが発行されていた場合、最後の Db2® コミット点の次に行われた変更のみがバックアウトされます。

STARTPOS=*position*

インポートの開始レコードを示す数値を指定します。デフォルトは1です。これは、FM/Db2 がインポート・ファイルの最初のレコードからインポートを開始することを意味します。1より大きい任意の値を指定すると、FM/Db2 は *position*-1 のレコードをスキップしてから、インポートを開始します。

DUPMAX

FM/Db2 がインポート処理を終了するまで許可される重複キー・エラーの数。

ALL または 0

制限なし。

num

許可される重複キー・エラーの数。最大で 2147483647 です。

DELROWS

FM/Db2 が、コピー操作を開始する前にターゲット表のすべての行の削除を試行するかどうかを指定します。

YES

すべての行の削除を試行します。

NO

行を削除しません。これはデフォルトです。

ターゲット表からの行の削除は、DELETE * FROM <object name> を使用して実行されます。行の削除で参照整合性関連のエラーが発生した場合、削除は失敗します。

ROWS

インポートするレコードの最大数。

ALL

インポート・データ・セットのすべてのレコードがターゲット・オブジェクトに挿入されます。

num

インポートするレコードの最大数。有効範囲: 1-99999999.

PROC

REXX プロシージャ。

procname

インポート・レコードを処理するときに使用する REXX プロシージャの名前。

*

インライン・プロシージャ。* の後ろに 1 つ以上の REXX プロシージャ・ステートメントを記述し、[/+] で終了します。

例**例**

例 1: 順次ファイルから DSN8810.EMP にデータをインポートします。データをインポートする前に、DSN8810.EMP のすべての行を削除します。

```
//DBI JOB (acct),'name'
/* Import data from a sequential file into DSN8810.EMP.
/* Delete all the rows from the table before importing the data.
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBI DSNIN=ID1.EXPORT.EMP.EXAMPLE1,
$$$FILEM TCIN=ID1.FM.TEMPLATE(EMP),
$$$FILEM OBJOUT="DSN8810"."EMP",
$$$FILEM UPDATE=NO,
$$$FILEM DUPMAX=ALL,
$$$FILEM DELROWS=YES,
$$$FILEM ROWS=ALL
/*
```

例 2: 順次ファイルから DSN8810.EMP にデータをインポートします。REXX プロシージャ PROC1 を使用して、レコードを挿入する前に、順次ファイルの各レコードを処理します。重複キー・エラーを発生させた行を更新します。重複キー・エラーは、最大で 50 件までとします。

```
//DBI JOB (acct),'name'  
/* Import data from a sequential file into DSN8810.EMP.  
/*  
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')  
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR  
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR  
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR  
//SYSPRINT DD SYSOUT=*  
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*  
//SYSTEM DD SYSOUT=*  
//FMNEXEC DD DSN=ID1.EXEC,DISP=SHR  
//SYSIN DD *  
$$FILEM DBI DSNIN=ID1.EXPORT.EMP.EXAMPLE1,  
$$FILEM TCIN=ID1.FM.TEMPLATE(EMP),  
$$FILEM OBJOUT="DSN8810"."EMP",  
$$FILEM UPDATE=YES,  
$$FILEM DUPMAX=50,  
$$FILEM DELROWS=NO,  
$$FILEM ROWS=ALL,  
$$FILEM PROC=PROC1  
/*
```

戻りコード

DBI 関数からの戻りコードは次のとおりです。

0

関数の処理が正常に完了しました。

16

重大なエラーが発生しました。

関連関数

DBC

ある Db2® オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ([DBC \(コピー\) バッチ・コマンド ページ 996](#))

DBX

Db2® オブジェクトから順次ファイルまたは VSAM ファイルへのデータのエクスポート ([DBX \(エクスポート\) バッチ・コマンド ページ 1012](#))

D2G

Db2® データの作成 (生成) ([D2G \(データ生成\) バッチ・コマンド ページ 1025](#))

DBP (印刷) バッチ・コマンド

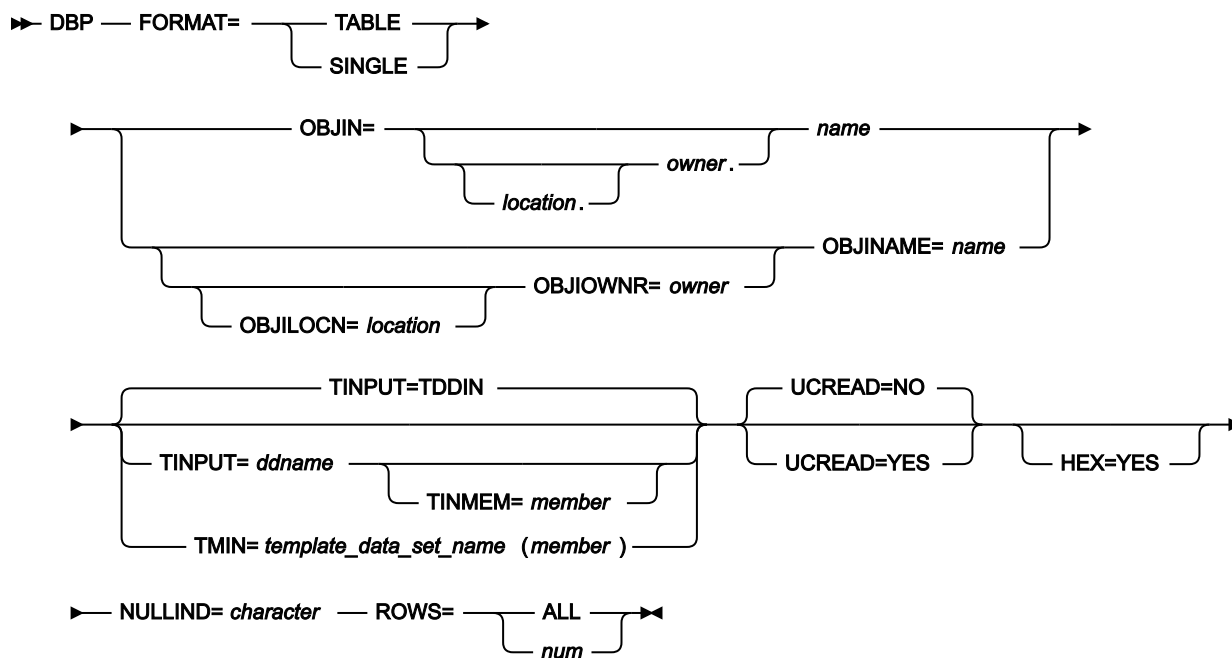
目的

Db2® オブジェクトの内容をさまざまな形式で印刷します。

使用法

FM/Db2 印刷ユーティリティ関数は、以下を行うことができます。

- データを表形式または単一形式で、文字または 16 進数として印刷する。
- 印刷する行と列を選択する。
- 印刷する行の数を制限する。



FORMAT

印刷データの形式の設定モード。

TABLE

表モードでは、表の各行が 1 行を使用し、列はページの左から右に印刷されます。

SINGLE

単一モードでは、表の各行が複数の印刷行を使用します。オブジェクトの最初の列が 1 行目と、場合によっては 2 行目以降にも印刷され、2 番目の列がその後の行に印刷され、以下同様に印刷されます。

OBJIN=location.owner.name

オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*、オプション)、オブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)、印刷されるオブジェクトの名前 (*name*)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) Db2® サーバーが使用されます。owner が指定されていない場合、オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。FM/Db2 がユーティリティー制御ステートメントを生成する場合、owner 値は非ブランクです。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJIN を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJILOCN、OBJIOWNR、OBJINAME キーワード (複数可) を使用して、オブジェクトを指定します。

OBJILOCN=location

印刷されるオブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*、オプション)。[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

OBJIOWNR=owner

印刷されるオブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)。[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

OBJINAME=name

印刷されるオブジェクトのオブジェクト名 (*name*)。[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

TINPUT=ddname

印刷されるソース Db2® オブジェクトを記述した Db2® テンプレートが含まれているデータ・セットの DD ステートメントに対する参照を定義します。連結した DD を指定する場合は、メンバー名 (*member*) を TINMEM キーワードで指定する必要があります。[Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

TINMEM=member

コピーブックまたはテンプレート・メンバーが DD ステートメントで指定されていない場合に、TINPUT パラメーターによって識別されるデータ・セットのコピーブックまたはテンプレート・メンバーの名前。このパラメーターは、TMIN パラメーターが指定されている場合は、指定しないでください。[Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

TMIN=template_data_set_name(member)

コピーされるソース Db2® オブジェクトを記述した File Manager テンプレートの PDS (*template_data_set_name*) とメンバー名 (*member*)。[Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

UCREAD

FM/Db2 がソース・オブジェクトにアクセスするときに、非コミット読み取りを使用するかどうかを指定します。

YES

非コミット読み取りを使用します。この場合、Db2® はソース表のデータにアクセスするときにロックを行わないため、FM/Db2 に読み取られた後で行のデータが変わり、データの不整合が発生する可能性があります。

NO

非コミット読み取りを使用しません。これはデフォルトです。

HEX=YES

FM/Db2 がデータを 16 進形式で印刷することを指定します。通常の印刷が必要な場合は、このオプションは省略します。

NULLIND=*character*

列の値が Db2® ヌル値であることを印刷データで示すために使用する文字を定義します。デフォルトは下線文字です。この文字の値は、エディターの「Null Column Indicators: (ヌル列標識:) Display (表示)」オプションを使用して設定します。File Manager ユーティリティー制御ステートメントで指定する場合、文字はコンマ以外の印刷可能文字にする必要があります。値を引用符で囲むことはできません。

ROWS

印刷する行の最大数。

ALL

ソース・オブジェクトのすべての行が印刷されます。

num

印刷する行の最大数。有効範囲: 1-99999999.

例**例**

例 1: DSN8810.EMP のデータを単一モードで印刷します。Db2® データにアクセスするときは、非コミット読み取りを使用します。データは、16 進形式で印刷します。

```
//DBP JOB (acct),'name'
/* Print table DSN8810.EMP in SINGLE format.
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBP FORMAT=SINGLE,
$$$FILEM OBJIN="DSN8810"."DEPT",
$$$FILEM UCREAD=YES,
$$$FILEM HEX=YES,
$$$FILEM NULLIND=_,
```

```
$$$FILEM ROWS=ALL  
/*
```

戻りコード

DBP 関数からの戻りコードは次のとおりです。

0

関数の処理が正常に完了しました。

16

重大なエラーが発生しました。

関連関数

なし。

DBX (エクスポート) バッチ・コマンド

目的

ローカルまたは分散 Db2® システムの Db2® オブジェクト (表、ビュー、同義語、または別名) あるいは SELECT ステートメントの結果表から、順次ファイルまたは VSAM ファイルにデータをエクスポートします。

使用法

FM/Db2 エクスポート・ユーティリティーは、次のいずれかの方法で、Db2® 表またはビューからデータをエクスポートします。

File Manager

出力データ・セットは、順次データ・セット、区分データ・セット、または VSAM ファイルです。

Db2® UNLOAD ユーティリティー

Db2® UNLOAD ユーティリティーによって、出力データ・セットは順次データ・セットに制限されます。出力データの形式の再設定は、Db2® UNLOAD ユーティリティーで実行されます。そのため、File Manager を使用した場合には使用できるテンプレート・マッピングおよび再フォーマット・オプションの一部が使用できません。

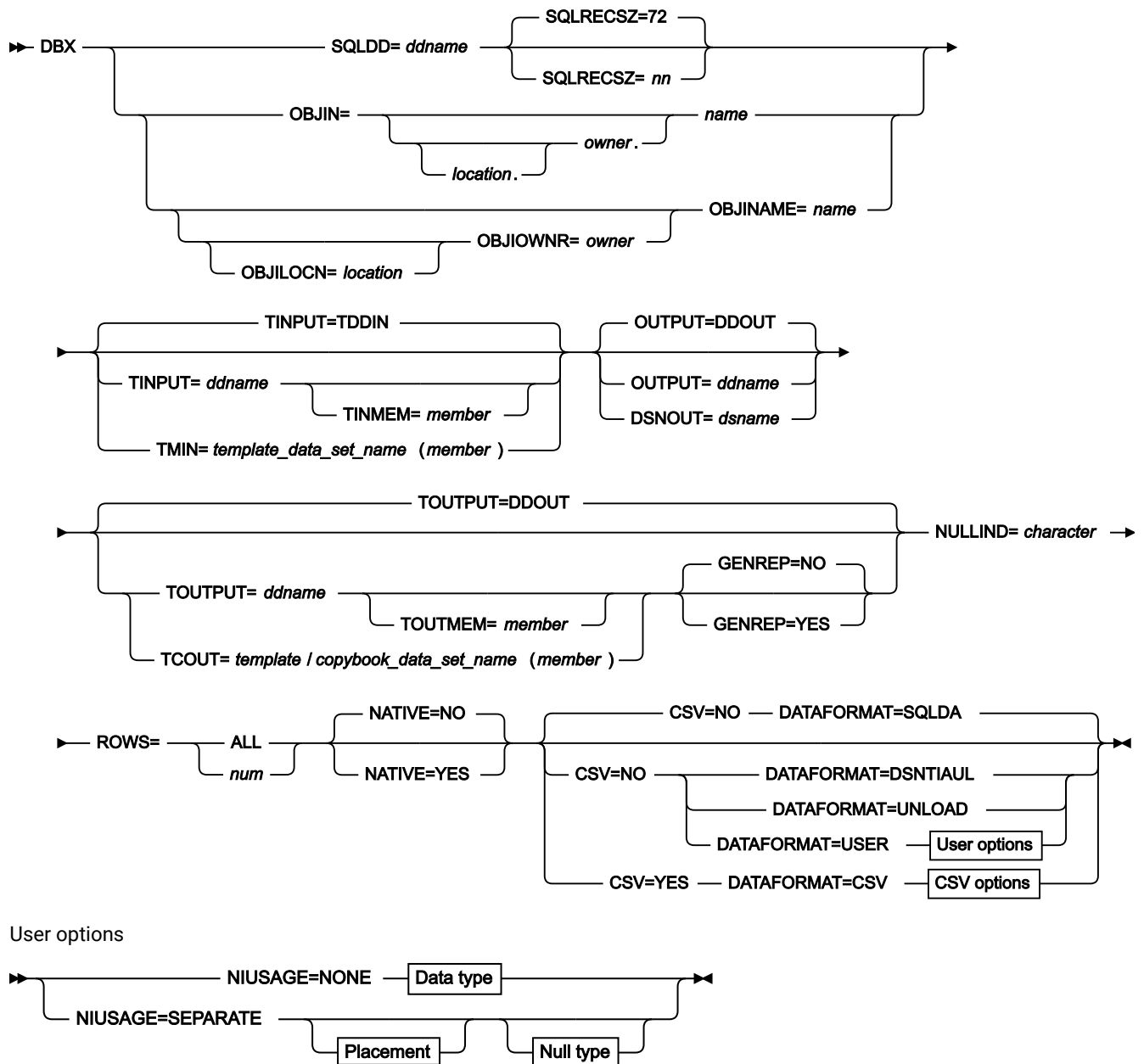
Db2® DSNTIAUL サンプル・プログラム

Db2® DSNTIAUL ユーティリティーによって、出力データ・セットは順次データ・セットに制限されます。出力データの形式の再設定は、Db2® DSNTIAUL サンプル・プログラム・ユーティリティーで実行されます。そのため、File Manager を使用した場合には使用できるテンプレート・マッピングおよび再フォーマット・オプションの一部が使用できません。

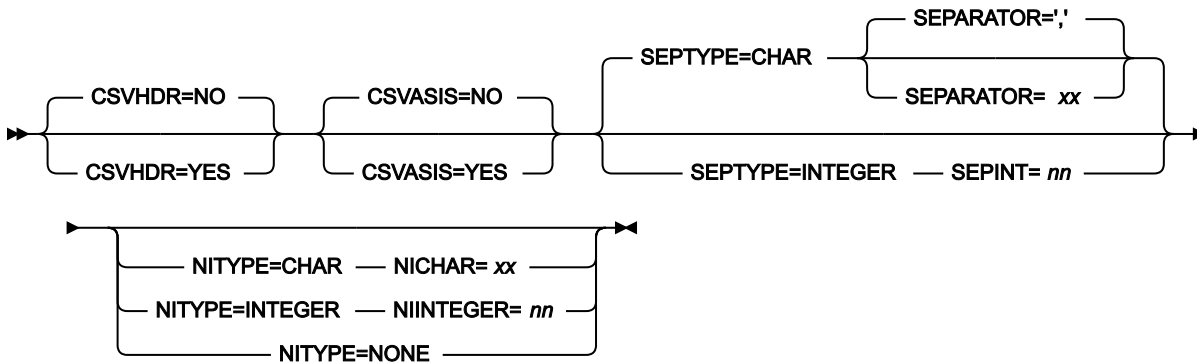
大量のデータをエクスポートするとき、Db2® UNLOAD ユーティリティーは File Manager または DSNTIAUL サンプル・プログラムと比較して、高いパフォーマンスを提供します。

定義済み (標準) エクスポート・データ形式を選択するか、コピーブックまたはテンプレートを使用してデータ形式を指定できます。File Manager でデータをエクスポートするか、Db2® ユーティリティまたはサンプル・プログラムでデータをエクスポートするかを指定できます。ユーザー定義のデータ形式では、Db2® ヌル標識の表現方法 (1 バイトまたは 2 バイト)、およびエクスポートしたデータの中でヌル標識を配置する場所を指定できます。区切り文字で区切られている形式 (コマ区切り変数) でデータをエクスポートするように指定することもできます。

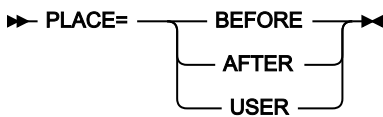
図 181.



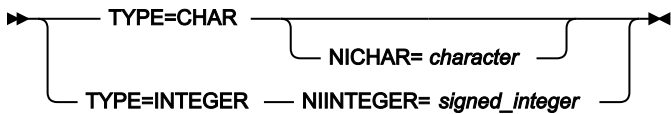
CSV options



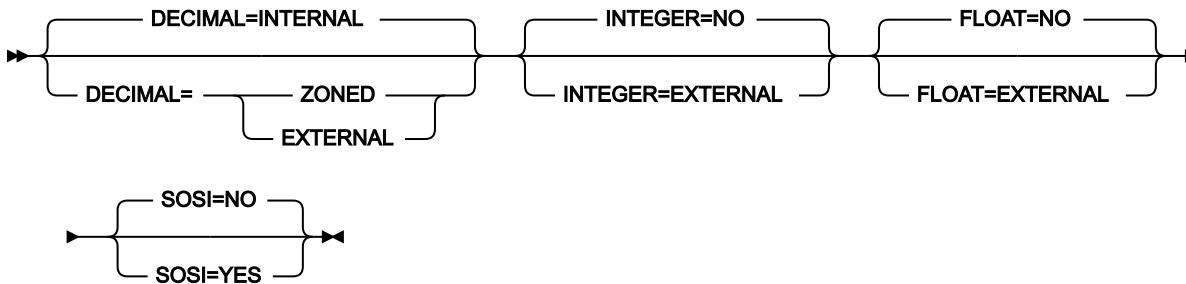
Placement



Null type



Data type



SQLDD=ddname

ddname は、JCL で指定される DDNAME であり、処理される SQL SELECT ステートメントを含むデータ・セット、またはインライン SQL SELECT ステートメントを指定するために使用される DDNAME を識別します。

SQLRECSZ=nn

nn は、SQL ステートメントの使用可能なレコード・サイズです。JCL で指定されるインライン SQL ステートメントの場合には、値 72 を使用して 73 桁から 80 桁における順序番号の問題を回避します。

データ・セットの場合には、適切な値を設定します。

OBJIN=location.owner.name

オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*、オプション)、オブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)、およびエクスポートされるオブジェクトの名前 (*name*)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) DB2® サーバーが使用されます。owner が指定されていない場合、オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。FM/DB2 がユーティリティー制御ステートメントを生成する場合、owner 値は非ブランクです。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJIN を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJILOCN、OBJIOWNR、OBJINAME キーワード (複数可) を使用して、オブジェクトを指定します。

OBJILOCN=location

エクスポートされるオブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*、オプション)。[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

OBJIOWNR=owner

エクスポートされるオブジェクトの所有者の名前 (*owner*、オプション)。[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

OBJINAME=name

エクスポートされるオブジェクトのオブジェクト名 (*name*)。[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

TINPUT=ddname

エクスポートされる Db2® オブジェクトを記述した Db2® テンプレートが含まれているデータ・セットの DD ステートメントに対する参照を定義します。連結した DD を指定する場合は、メンバー名 (*member*) を TINMEM キーワードで指定する必要があります。[Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

TINMEM=member

コピーブックまたはテンプレート・メンバーが DD ステートメントで指定されていない場合に、TINPUT パラメーターによって識別されるデータ・セットのコピーブックまたはテンプレート・メンバーの名前。このパラメーターは、TMIN パラメーターが指定されている場合は、指定しないでください。[Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

TMIN=template_data_set_name(member)

エクスポートされる Db2® オブジェクトを記述した FM/Db2 テンプレートの PDS (*template_data_set_name*) とメンバー名 (*member*)。[Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

OUTPUT=ddname

エクスポート・データ・セットの DD ステートメントに対する参照を定義します。このキーワードと DSNOUT キーワードを同時に使用することはできません。FM/Db2 が生成する JCL では、File Manager ユーティリティー制御ステートメントで OUTPUT=FMNOUT が指定され、JCL で適切な DD ステートメントが指定されません。

DSNOUT=dsname

エクスポート・データ・セットの名前またはエクスポート HFS ファイル (ディレクトリー) への絶対パスを定義します。このキーワードと OUTPUT キーワードを同時に使用することはできません。名前に、小括弧で囲んだメンバー名を含めることができます。HFS ファイル (ディレクトリー) への絶対パスは、アポストロフィで囲む必要があります。データ・セット名が 1 行に収まらない場合は、複数行に分けることができます。

TOUTPUT=ddname

出力データのレコード構造が記述されているコピーブックまたはテンプレートが入ったデータ・セットの DD または TSO ALLOC ステートメントに対する参照を定義します。デフォルトは TDDOUT です。

TOUTMEM=member

コピーブックまたはテンプレート・メンバーが DD ステートメントで指定されていない場合に、TOUTPUT パラメーターによって識別されるデータ・セットのコピーブックまたはテンプレート・メンバーの名前。TCOUT パラメーターが指定されている場合、このパラメーターを指定することはできません。

TCOUT=template/copybook_data_set_name(member)

エクスポートされるデータのレコード構造を記述したテンプレートまたはコピーブックの PDS (*template/copybook_data_set_name*) とメンバー名 (*member*)。FM/Db2 が生成する JCL では、出力コピーブックまたはテンプレートが必要な場合、TCOUT が指定されます。[データ・セット用テンプレート/コピーブックの指定ページ 1032](#) を参照してください。

GENREP

出力テンプレートを生成し、TCOUT キーワードまたは TDDOUT DD ステートメントに指定されたデータ・セットに保管するかどうか。

NO

生成も保管もしません。

YES

生成して保管します。

NULLIND=character

CSV 形式の場合のみ、列の値が Db2® nul 値であることをエクスポートされたデータで示すために使用する文字を定義します。デフォルトは下線文字です。この文字の値は、エディターの「**Null Column Indicators: (ヌル列標識) Display (表示)**」オプションを使用して設定します。File Manager ユーティリティー制御ステートメントで指定する場合、文字はコンマ以外の印刷可能文字にする必要があります。値を引用符で囲むことはできません。

NULLIND は、File Manager ユーティリティー制御ステートメントに必ず指定します。指定された値は、CSV 以外のすべての DATAFORMAT 指定で無視されます。

ROWS

エクスポートするレコード数です。

ALL

オブジェクトから選択したすべてのレコードがエクスポート・データ・セットに書き込まれます。

num

エクスポート・データ・セットに書き込まれるレコードの最大数。有効範囲: 1-99999999。

NATIVE

Unicode でエンコードされた表からデータをエクスポートする場合、FM/Db2 が Unicode エンコード・データをネイティブに処理するかどうかを指定します。Unicode データのデフォルト処理が必要な場合、このオプションを無視することができます。すなわち、Unicode 表間でデータをコピーする場合、Unicode データがエラー文字に置き換えられる可能性があります。

YES

Unicode データをネイティブに処理します。

NO

Unicode データをネイティブに処理しません。これはデフォルトです。

CSV

エクスポートされたデータを区切り文字で区切られている変数形式にするかどうかを指定します。

NO

エクスポート・データを区切り文字で区切られている形式にしません。これはデフォルトです。

YES

エクスポート・データを区切り文字で区切られている形式にします。

DATAFORMAT

エクスポートされたデータのデータ形式。

SQLDA

デフォルトです。ヌル可能列の前に、ヌル標識が入った 2 バイトの 2 進数フィールドが置かれます。列にヌル値がある場合、このフィールドには -1 が含まれます。ヌル値がない場合は、0 が含まれます。10 進数フィールドは、16 バイトが使用され、データはフィールドで左寄せされて、末尾が 2 進ゼロになります。グラフィックまたは可変長グラフィック・フィールドの後には、2 進数のゼロが入った 2 バイトが続きます。

UNLOAD

この形式では、ヌル可能列の前に、ヌル標識が入った 1 バイトのフィールドが置かれます。列にヌル値がある場合、このフィールドには 16 進数の「FF」が含まれます。ヌル値がない場合は、0 が含まれます。10 進数フィールドは、パック 10 進数フィールドのようにデータを表示するのに必要な最小バイト数を占有します。アンロードされたレコードの可変長列は、最大長になるまで埋め込まれ、埋め込みなしの場合の実データのサイズを示す 2 バイトの長さフィールド

が、埋め込まれたデータ・フィールドの前に置かれます。CCSID 変換はサポートされません。エクスポートされたデータは、FM/Db2 プランのバインドに使用する CCSID 形式になります。

DSNTIAUL

ヌル可能列の後に、ヌル標識が入った 1 バイトのフィールドが置かれます。列にヌル値がある場合、このフィールドには「?」が含まれます。10 進数フィールドは、パック 10 進数フィールドのようにデータを表示するのに必要な最小バイト数を占有します。

USER

データ形式はユーザー指定のコピーブックまたはテンプレートとテンプレート・マッピングによって定義されます。または、NIUSAGE、PLACE、TYPE (NICHAR、NIINTEGER)、DECIMAL、INTEGER、FLOAT、および SOSI キーワードを使用して、データ形式を定義できます。

CSV

データは区切り文字で区切られている変数としてエクスポートされます。デフォルトの区切り文字はコンマです。SEPARATOR キーワードを使用して、別の区切り文字を指定できます。コピーブックまたはテンプレートを使用して、区切り文字で区切られている変数データ形式を記述することはできません。

CSVHDR

CSV=YES が指定されているときに、エクスポート・ファイルの最初のレコードに列見出しが作成されるかどうかを指定します。考えられる値は以下のとおりです。

NO

列見出しは作成されません。

YES

列見出しは作成されます。

CSVASIS

CSV 分離文字または二重引用符が含まれている CSV データの自動カプセル化を無効にするかどうかを指定します。

YES

自動カプセル化を無効にします。

NO

自動カプセル化を有効にします。

このオプションは、純粋な DBCS データ (GRAPHIC データ型) 以外の文字データに適用されます。このオプションの用途の 1 つに、既に引用符でカプセル化されている文字データを DB2® 表に挿入する前に二重にカプセル化しないようにすることがあります。

SEPTYPE=CHAR/INTEGER

CSV 形式の場合にのみ、出力の各フィールドを分離するために使用する分離文字のタイプを指定します。

CHAR

1文字または2文字を使用して、各フィールドのデータを分離します。SEPARATOR キーワードを使用して、使用する文字を指定します。

INTEGER

符号付き整数を使用して、2バイトの分離文字を指定します。SEPINT を使用して、使用する符号付き整数を指定します。

SEPARATOR='characters'

CSV形式にエクスポートするときに各フィールドを分離するために使用する1文字または2文字を指定します。デフォルトはコンマです。

SEPINT=signed_integer

CSV形式にエクスポートするときに各フィールドを分離するために使用する符号付き整数を指定します。指定した値は、整数の2バイトの符号付き表現に変換されます。例:

- 1 は、2バイトの分離文字 X'FFFF' になります。
- 257 は、2バイトの分離文字 X'0101' になります。

PLACE

エクスポートされたデータでの Db2® ヌル標識フィールドの位置。

BEFORE

Db2® ヌル標識のフィールドは、列のデータの直前に置かれます。

AFTER

Db2® ヌル標識のフィールドは、列のデータの直後に置かれます。

USER

Db2® ヌル標識のフィールドは、コピーブックまたはテンプレートとテンプレート・マッピングを使用して定義します。

NIUSAGE

DATAFORMAT=USER の場合にのみ、エクスポートされたデータにヌル標識を含めるかどうかを指定します。CSV形式のヌル標識使用法を指定するには、NITYPE、NICHAR、NIINTEGER の各キーワードを使用します。

NONE

エクスポートされたデータに DB2® ヌル標識を含めません。ヌル可能列がある DB2® オブジェクトでこのオプションを使用すると情報が失われ、そのためにソース・レコードのヌル標識がエクスポートされません。

SEPARATE

エクスポートされたデータに DB2® ヌル標識を含めます。ヌル標識フィールドの位置およびデータ型は、PLACE、TYPE、NICHAR、NIINTEGER の各キーワードを使用して指定します。

TYPE=CHAR/INTEGER

ヌル標識フィールドのデータ形式 (DATAFORMAT=USER の場合のみ)。ヌル標識は、1 バイト (文字) または 2 バイト (符号付き整数) のフィールドです。DB2® ヌル値を示すために使用する文字または整数は、NICHAR (TYPE=CHAR) または NIINTEGER (TYPE=INTEGER) キーワードで指定できます。

NITYPE=CHAR/INTEGER

ヌル標識フィールドのデータ形式 (DATAFORMAT=CSV の場合のみ)。ヌル標識は、1 バイト (文字) または 2 バイト (符号付き整数) のフィールドです。DB2® ヌル値を示すために使用する文字または整数は、NICHAR (NITYPE=CHAR) または NIINTEGER (NITYPE=INTEGER) キーワードで指定できます。

NICHAR=*character*

列に DB2® ヌル値が入っていることを示すために使用する文字。NICHAR は、DATAFORMAT=USER および TYPE=CHAR の場合にのみ指定します。

NIINTEGER=*signed_integer*

列に DB2® ヌル値が入っていることを示すために使用する整数。NIINTEGER は、DATAFORMAT=USER および TYPE=INTEGER の場合にのみ指定します。-32767 から 32768 までの符号付き整数を指定できます。

DECIMAL

エクスポートされたデータでの 10 進数列のデータ形式を指定します。考えられる値は以下のとおりです。

INTERNAL

10 進データは、内部パック 10 進数形式で表されます。

ZONED

10 進データは、ゾーン 10 進数の数字のストリングとして表されます。

EXTERNAL

10 進データは、10 進数を表す文字のストリングとして表されます (「3.1415」など)。

INTEGER

エクスポートされたデータでの整数列のデータ形式を指定します。整数列は、SMALLINT、INTEGER、または BIGINT です。考えられる値は以下のとおりです。

NO

整数データは、2 バイト (SMALLINT)、4 バイト (INTEGER)、または 8 バイト (BIGINT) を占有する内部形式で表されます。

EXTERNAL

整数データは、整数を表す文字のストリングとして表されます (「42」、 「1000000」など)。

FLOAT

エクスポートされたデータでの浮動小数点列のデータ形式を指定します。浮動小数点列は、REAL、FLOAT、DOUBLE、または DECFLOAT 列です。考えられる値は以下のとおりです。

NO

浮動小数点データは、内部形式で表されます。

EXTERNAL

浮動小数点データは、数値を表す文字のストリングとして表されます
(「-1.0000000000000000E+00」など)。

SOSI

グラフィック・データ・タイプ列 (GRAPHIC、VARGRAPHIC) のデータをシフトイン・シフトアウト (sosi) 文字で囲むかどうかを指定します。考えられる値は以下のとおりです。

NO

グラフィック・データをシフトイン・シフトアウト文字で囲みません。

YES

グラフィック・データをシフトイン・シフトアウト文字で囲みます。

例**例**

例 1: Db2® サンプル表 DSN8810.EMP から順次ファイルに、SQLDA 形式でデータをエクスポートします。出力データ・セットはバッチ・ジョブで割り振られます。

```
//DBX JOB (acct),'name'
//* Export DSN8810.EMP table to a data set
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//FMNOUT DD DISP=(MOD,CATLG,DELETE),UNIT=SYSALLDA,
// AVGREC=U,
// LRECL=144,RECFM=FB,DSORG=PS,
// SPACE=(144,(42,4),RLSE),
// DSN=ID1.EXPORT.EMP.SQLDA
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBX OBJIN="DSN8810"."EMP",
$$$FILEM OUTPUT=FMNOUT,
$$$FILEM NULLIND=_,
$$$FILEM CSV=NO,
$$$FILEM DATAFORMAT=FMSQLDA,
$$$FILEM ROWS=ALL
/*
```

例 2: Db2® サンプル表 DSN8810.EMP から順次ファイルに、Db2® UNLOAD 形式でデータをエクスポートします。出力データ・セットはバッチ・ジョブで割り振られます。

```
//DBX JOB (acct),'name'
//* Export DSN8810.EMP table to a data set
```

```

/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//FMNOUT DD DISP=(MOD,CATLG,DELETE),UNIT=SYSALLDA,
// AVGREC=U,
// LRECL=101,RECFM=FB,DSORG=PS,
// SPACE=(101,(42,4),RLSE),
// DSN=ID1.EXPORT.EMP.UNLOAD
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBX OBJIN="DSN8810"."EMP",
$$$FILEM OUTPUT=FMNOUT,
$$$FILEM NULLIND=_,
$$$FILEM CSV=NO,
$$$FILEM DATAFORMAT=UNLOAD,
$$$FILEM ROWS=ALL
/*

```

例 3: Db2® サンプル表 DSN8810.EMP から順次ファイルに、Db2® DSNTIAUL 形式でデータをエクスポートします。出力データ・セットはバッチ・ジョブで割り振られます。

```

//DBX JOB (acct),'name'
/* Export DSN8810.EMP table to a data set
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//FMNOUT DD DISP=(MOD,CATLG,DELETE),UNIT=SYSALLDA,
// AVGREC=U,
// LRECL=101,RECFM=FB,DSORG=PS,
// SPACE=(101,(42,4),RLSE),
// DSN=ID1.EXPORT.EMP.DSNTIAUL
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBX OBJIN="DSN8810"."EMP",
$$$FILEM OUTPUT=FMNOUT,
$$$FILEM NULLIND=_,
$$$FILEM CSV=NO,
$$$FILEM DATAFORMAT=DSNTIAUL,
$$$FILEM ROWS=ALL
/*

```

例 4: スペースを含む長い名前の表から順次ファイルに、SQLDA 形式でデータをエクスポートします。出力データ・セットは事前に割り振られています。

```

//DBX JOB (acct),'name'
/* Export a table with a long name to a data set
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V910.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR

```

```
//          DD DSN=DB2.V910.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM   DD SYSOUT=*
//FMNOUT   DD DISP=MOD,
//          DSN=ID1.EXPORT.EMP.EXAMPLE4
//SYSIN    DD *
$$$FILEM DBX OBJIOWNR=ID1,
$$$FILEM OBJINAME='\$Very long table name to demonstrate how \$',
$$$FILEM '\$long names are handled\$',
$$$FILEM OUTPUT=FMNOUT,
$$$FILEM NULLIND=_,
$$$FILEM CSV=NO,
$$$FILEM DATAFORMAT=FMSQLDA,
$$$FILEM ROWS=ALL
/*
```

例 5: Db2® サンプル表 DSN8810.EMP から順次ファイルに、ユーザー定義のデータ形式でデータをエクスポートします。出力データ・セットは事前に割り振られています。ユーザー定義のデータ形式は、次のようになっています。

- ヌル標識を使用する (NIUSAGE=SEPARATE)
- ヌル標識は、列のデータの直後に置かれる (PLACE=AFTER)
- ヌル標識は 2 バイト (符号付き整数) フィールド (TYPE= INTEGER)
- 列に Db2® ヌル値が入っていることを示すためには、値 -55 を使用する
- DECIMAL データ・タイプ列は、外部形式で表す (「3.1414」など)
- INTEGER データ列は、外部形式で表す (「1234」など)
- 浮動小数点データ・タイプ列は、外部形式で表す

```
//DBX JOB (acct),'name'
/* Export DSN8810.EMP table to a data set
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//          DD DSN=DB2V910.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
//          DD DSN=DB2.V910.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM   DD SYSOUT=*
//FMNOUT   DD DISP=MOD,
//          DSN=ID1.EXPORT.EMP.EXAMPLE5
//SYSIN    DD *
$$$FILEM DBX OBJIN="DSN8910"."EMP",
$$$FILEM OUTPUT=FMNOUT,
$$$FILEM NULLIND=_,
$$$FILEM CSV=NO,
$$$FILEM DATAFORMAT=USER,
$$$FILEM NIUSAGE=SEPARATE,
$$$FILEM PLACE=AFTER,
$$$FILEM TYPE=INTEGER,
$$$FILEM NIINTEGER=-55,
$$$FILEM DECIMAL=EXTERNAL,
$$$FILEM INTEGER=EXTERNAL,
$$$FILEM FLOAT=EXTERNAL,
```

```
$$$FILEM ROWS=ALL
/*
```

例 6: Db2® サンプル表 DSN8810.EMP から順次ファイルに、CSV (区切り文字で区切られている変数) 形式でデータをエクスポートします。区切り文字は「!」文字です。出力データ・セットは事前に割り振られています。

```
//DBX JOB (acct),'name'
/* Export DSN8810.EMP table to a data set
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V910.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V910.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//FMNOUT DD DISP=MOD,
// DSN=ID1.EXPORT.EMP.CSV
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBX OBJIN="DSN8910"."EMP",
$$$FILEM OUTPUT=FMNOUT,
$$$FILEM NULLIND=_,
$$$FILEM CSV=YES,
$$$FILEM DATAFORMAT=CSV,
$$$FILEM SEPARATOR='!',
$$$FILEM ROWS=ALL
/*
```

例 7: Db2® サンプル表 DSN8810.EMP から順次ファイルに、CSV (区切り文字で区切られている変数形式) でデータをエクスポートします。区切り文字は x'FFFF' で、NIUSAGE、TYPE、および NIINTEGER キーワードで定義します。出力データ・セットは事前に割り振られています。

```
//DBX JOB (acct),'name'
/* Export DSN8810.EMP table to a data set
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V910.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V910.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//FMNOUT DD DISP=MOD,
// DSN=ID1.EXPORT.EMP.CSV2
//SYSIN DD *
$$$FILEM DBX OBJIN="DSN8910"."EMP",
$$$FILEM OUTPUT=FMNOUT,
$$$FILEM NULLIND=_,
$$$FILEM CSV=YES,
$$$FILEM DATAFORMAT=CSV,
$$$FILEM NIUSAGE=CSV,
$$$FILEM TYPE=INTEGER,
$$$FILEM NIINTEGER=-1,
$$$FILEM ROWS=ALL
/*
```


戻りコード

DBX 関数からの戻りコードは次のとおりです。

0

関数の処理が正常に完了しました。

16

重大なエラーが発生しました。

関連関数

DBI

順次ファイルまたは VSAM ファイルから Db2® 表へのデータのインポート ([DBI \(インポート\) バッチ・コマンド ページ 1003](#))

DBC

ある Db2® オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ([DBC \(コピー\) バッチ・コマンド ページ 996](#))

D2G

Db2® データの作成 (生成) ([D2G \(データ生成\) バッチ・コマンド ページ 1025](#))

D2G (データ生成) バッチ・コマンド

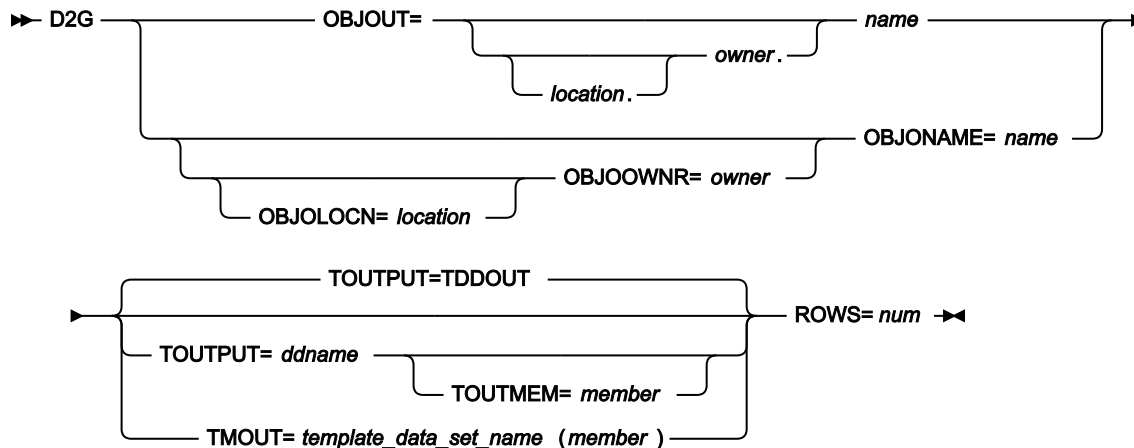
目的

Db2® オブジェクトにテスト・データをロードします。

使用法

FM/Db2 データ作成ユーティリティー関数は、以下を行うことができます。

- 作成する行の数を制限する。
- 列ごとに、行を初期化する方法を指定する。



OBJOUT location.owner.object

オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (location、オプション)、オブジェクトの所有者の名前 (owner、オプション)、およびオブジェクトの名前 (name)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) Db2® サーバーが使用されます。owner が指定されていない場合、オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。FM/Db2 がユーティリティー制御ステートメントを生成する場合、owner 値は非ブランクです。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJOUT を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJLOCN、OBJOOWNR、OBJONAME キーワード (複数可) を使用して、オブジェクトを指定します。

OBJLOCN=location

エクスポートされるオブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (location、オプション)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。

OBJOOWNR=owner

オブジェクトの所有者の名前 (owner、オプション)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。

OBJONAME=name

オブジェクトのオブジェクト名 (name)。Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031 を参照してください。

TMOU=template_data_set_name(member)

データが作成される Db2® オブジェクトを記述した FM/Db2 テンプレートの PDS (template_data_set_name) とメンバー名 (member)。Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032 を参照してください。FM/Db2 が生成する JCL では常に TMOU を指定します。

TOUTPUT=ddname

出力データのレコード構造が記述されているコピーブックまたはテンプレートが入ったデータ・セットの DD または TSO ALLOC ステートメントに対する参照を定義します。デフォルトは TDDOUT です。

TOUTMEM=member

コピーブックまたはテンプレート・メンバーが DD ステートメントで指定されていない場合に、TOUTPUT パラメーターによって識別されるデータ・セットのコピーブックまたはテンプレート・メンバーの名前。TCOUT パラメーターが指定されている場合、このパラメーターを指定することはできません。

ROWS=num

作成する行の数。有効な範囲は 1 から 99999999 です。

例**例**

例 1: 表 "ID1"."TABLE1" に、1000 行のテスト・データを作成します。表の各列の初期化情報は、テンプレート EMPDG に定義されています。

```
//D2G JOB (acct),'name'
/* Create rows in table ID2.TABLE1.
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM D2G OBJOUT="ID1"."TABLE1",
$$$FILEM TMOUT=ID1.FM.TEMPLATE(EMPDG),
$$$FILEM ROWS=1000
/*
```

戻りコード

D2G 関数からの戻りコードは次のとおりです。

0

関数の処理が正常に完了しました。

16

重大なエラーが発生しました。

関連関数**DBC**

ある Db2® オブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピー ([DBC \(コピー\) バッチ・コマンド ページ 996](#))

DBI

順次ファイルまたは VSAM ファイルから Db2® 表へのデータのインポート ([DBI \(インポート\) バッチ・コマンド ページ 1003](#))

DBX

Db2® オブジェクトから順次ファイルまたは VSAM ファイルへのデータのエクスポート ([DBX \(エクスポート\) バッチ・コマンド ページ 1012](#))

D2G

Db2® データの作成 (生成) ([D2G \(データ生成\) バッチ・コマンド ページ 1025](#))

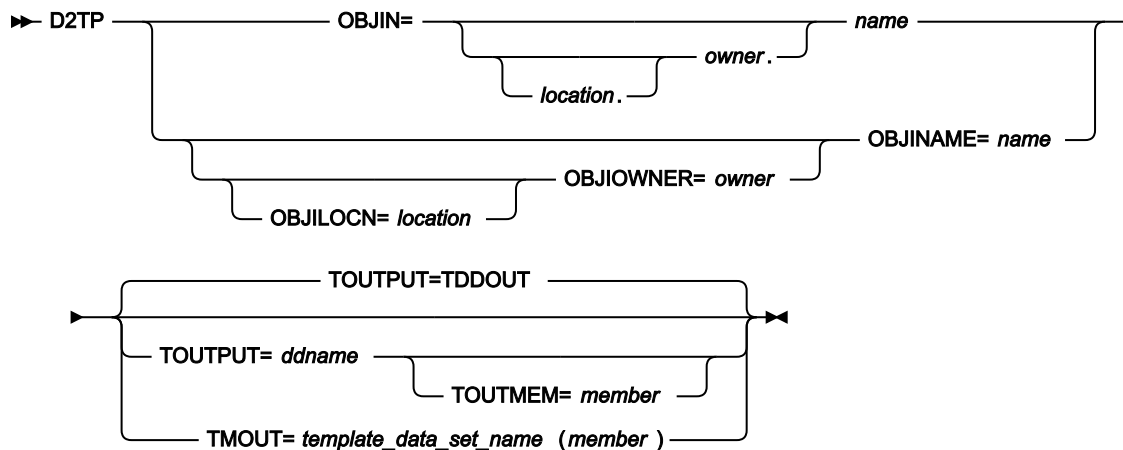
D2TP (テンプレート作成/更新) バッチ・コマンド

目的

1 つの Db2® オブジェクトに基づいてテンプレートを作成または更新します。オブジェクトは、現在接続されている Db2® システムからアクセス可能である必要があります。

使用法

FM/Db2 テンプレート作成/更新ユーティリティーは、テンプレートが存在しない場合はテンプレートを作成し、テンプレートが存在する場合はテンプレートを更新します。



OBJIN location.owner.object

ソース・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (location、オプション)、ソース・オブジェクトの所有者の名前 (owner、オプション)、およびソース・オブジェクトの名前 (name)。

location が指定されていない場合、現在の (ローカル) Db2® サーバーが使用されます。owner が指定されていない場合、オブジェクト名は現在の SQLID で修飾されます。FM/Db2 がユーティリティー制御ステートメントを生成する場合、owner 値は非ブランクです。

完全修飾名が JCL デックの単一行に納まる場合、OBJIN を使用してください。最後の使用可能列は列 71 です。完全修飾名が JCL デックの単一行に納まらない場合は、OBJILOCN、OBJIOWNER、OBJINAME キーワード (複数可) を使用して、オブジェクトを指定します。

OBJILOCN=*location*

ソース・オブジェクトがある Db2® リモート・サーバーの名前 (*location*、オプション)。[Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

OBJIOWNER=*owner*

ソース・オブジェクトの所有者の名前 (*owner*)。 [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

OBJINAME=*name*

ソース・オブジェクトのオブジェクト名 (*name*)。 [Db2 オブジェクト名の指定 ページ 1031](#) を参照してください。

TOUTPUT=*ddname*

ターゲット Db2® オブジェクトを記述した Db2® テンプレートが含まれているデータ・セットの DD ステートメントに対する参照を定義します。連結した DD ステートメントはサポートされません。参照されるデータ・セットがカタログされなければなりません。参照される DD ステートメントでメンバー名を指定しなかった場合、TOUTMEM キーワードを提供する必要があります。TOUTPUT または TMOUT パラメーターが提供されなかった場合、TOUTPUT=TDOUT が使用されます。 [Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

TOUTMEM=*member*

TOUTPUT または TMOUT パラメーターで識別されたデータ・セット内のテンプレート・メンバーの名前。メンバー名が DD ステートメントまたは TMOUT パラメーターに提供される場合、このパラメーターは無視されます。 [Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

TMOUT=*template_data_set_name(member)*

コピーされるターゲット Db2® オブジェクトを記述した File Manager テンプレートの PDS (*template_data_set_name*) とメンバー名 (*member*)。 [Db2 オブジェクト用テンプレートの指定 ページ 1032](#) を参照してください。

例**例**

例 1: TMOUT キーワードを使用した DSN8810.EMP の Db2® テンプレートの作成

```
//D2TPJOB (acct),'name'
//* Create template FMN.TEMPLATE(EMP) for DSN8810.EMP table
//*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM D2TP OBJIN="DSN8810"."EMP",
```

```
$$$FILEM TMOUT=FMN.TEMPLATE(EMP)
/*
```

例 2: TOUTPUT、TOUTMEM キーワードを使用した DSN8810.EMP の出力テンプレートの作成

```
//D2TPJOB (acct),'name'
/* Create template FMN.TEMPLATE(EMP) for DSN8810.EMP table
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//TOUT DD DSN=FMN.TEMPLATE,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM D2TP OBJIN="DSN8810"."EMP",
$$$FILEM TOUTPUT=TOUT,TOUTMEM=EMP
/*
```

例 3: TOUTMEM を指定したデフォルト出力 DD TDDOUT を使用した、DSN8810.EMP の出力テンプレートの作成

```
//D2TPJOB (acct),'name'
/* Create template FMN.TEMPLATE(EMP) for DSN8810.EMP table
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//TDDOUT DD DSN=FMN.TEMPLATE,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM D2TP OBJIN="DSN8810"."EMP",
$$$FILEM TOUTMEM=EMP
/*
```

例 4: メンバーを指定したデフォルト出力 DD TDDOUT を使用した、DSN8810.EMP の出力テンプレートの作成

```
//D2TPJOB (acct),'name'
/* Create template FMN.TEMPLATE(EMP) for DSN8810.EMP table
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//TDDOUT DD DSN=FMN.TEMPLATE(EMP),DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$$FILEM D2TP OBJIN="DSN8810"."EMP"
/*
```

例 5: 3つのテンプレートの作成

```
//D2TPJOB (acct),'name'
/* Create template TOUT1-3 for DSN8810.EMP table
/*
//FMNDB2 EXEC PGM=FMNDB2,PARM=('SSID=DSN1,SQID=ID1')
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
// DD DSN=DB2V810.DSN1.SDSNEXIT,DISP=SHR
// DD DSN=DB2.V810.SDSNLOAD,DISP=SHR
//TOUT1 DD DSN=FMN.TEMPLATE(T1),DISP=SHR
//TOUT2 DD DSN=FMN.TEMPLATE(T2),DISP=SHR
//TOUT3 DD DSN=FMN.TEMPLATE(T3),DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTEM DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$$FILEM D2TP OBJIN="DSN8810"."EMP",TOUTPUT=TOUT1
$$FILEM D2TP OBJIN="DSN8810"."EMP",TOUTPUT=TOUT2
$$FILEM D2TP OBJIN="DSN8810"."EMP",TOUTPUT=TOUT3
/*
```

Db2® オブジェクト名の指定

Db2® オブジェクト名を必要とするこれらのバッチ関数では、Db2® オブジェクトを指定する適切なキーワードを FM/Db2 が自動的に決定します。入力 Db2® オブジェクトでは、OBJIN、または OBJILOCN (場所)、OBJIOWNER (所有者)、OBJINAME (名前) です。出力 Db2® オブジェクトでは、OBJOUT、または OBJOLOCN (場所)、OBJOOWNER (所有者)、OBJONAME (名前) です。OBJIN/OBJOUT 値が単一行に収まらない場合、または所有者または名前の値に特殊文字 (英小文字など) が含まれている場合には、後者の値が使用されます。ここで、特殊文字とは、大文字の A から Z、数字の 0 から 9、各国語用の英字拡張として予約されている 3 文字 (@#\$)、下線文字 (_) 以外のすべての文字です。

所有者または名前の値が 2 行以上に分割される場合は、File Manager バッチ・パラメーターの継続規則に従ってください。完全な説明については、「*File Manager ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。簡単にまとめると、値の各部分をアポストロフィで囲み、各行の末尾にコンマを付けます。2 行目以降には、\$\$FILEM の後にスペースを入れ、その後にパラメーター値の次の部分をアポストロフィで囲んで含めます。所有者または名前の値に特殊文字が含まれている場合、FM/Db2 は、パラメーター値の固有の 2 文字の区切り文字を自動的に決定します。デフォルトは \ \$ で、所有者または名前に \ \$ が使用されている場合は、別の区切り文字を使用します。2 文字の区切り文字は、所有者または名前の値の先頭と末尾に使用されます。所有者または名前の値が 2 行以上にまたがる場合、2 文字の区切り文字は各行の先頭と末尾に使用されます。また、File Manager バッチ・パラメーターの継続規則に準拠するために、パラメーター値の各部分の先頭と末尾にアポストロフィが使用されます。独自のバッチ制御ステートメントをコーディングし、所有者または名前の値が 2 行以上にまたがる場合は、名前の各部分を個別に指定します。OBJIN/OBJOUT は使用しないでください。所有者または名前の値に特殊文字が含まれている場合は、2 文字の区切り文字をパラメーター値 (または、部分的なパラメーター値) の先頭と末尾に指定する必要があります。所有者または名前の値の中に区切り文字を入れてはいけません。また、区切り文字の最初の文字は、アポストロフィおよび引用符文字以外の特殊文字にする必要があります。2 文字の区切り文字を所有者または名前の値に使用する場合は、所有者または名前を正確に指定します。二重のアポストロフィまたは引用符文字を使用したり、スペースを省略したりしないでください。

Db2® オブジェクト用テンプレートの指定

Db2® オブジェクトの File Manager テンプレートは、FM/Db2 によって生成された File Manager/Db2 テンプレートである必要があります。File Manager Base とは異なり、コピーブックを使用して Db2® オブジェクトの構造を記述することはできません。

FM/Db2 がさまざまなバッチ関数に対して生成する JCL では、次のバッチ・キーワードが使用されます。

TMIN

入力 Db2® オブジェクトがある関数 (エクスポート、印刷、コピー、データ作成)

TMOUT

出力 Db2® オブジェクトがある関数 (インポート、コピー)

JCL ステートメントでテンプレートのデータ・セット名を指定する必要がある場合は、File Manager バッチ・キーワードではなく、代替キーワードである TINPUT および TINMEM を使用できます。

データ・セット用テンプレート/コピーブックの指定

データ・セットの構造を記述するには、次の方法があります。

- COBOL コピーブック
- HLASM コピーブック
- PL/I コピーブック
- File Manager テンプレート

FM/Db2 がさまざまなバッチ関数に対して生成する JCL では、次に説明する TCIN または TCOUT バッチ・キーワードが常に使用されます。

TCIN

入力データ・セットがある関数 (インポート)

TCOUT

出力データ・セットがある関数 (エクスポート)

JCL ステートメントでテンプレートまたはコピーブックのデータ・セット名を指定する必要がある場合は、File Manager バッチ・キーワードではなく、代替キーワードである TINPUT と TINMEM、または TOUTPUT と TOUTMEM を使用できません。

Appendix A. メッセージ

この節では、選択したバッチ・メッセージを英数字の順序でリストしてあります。メッセージごとに、次の情報が示されません。

- メッセージ ID
- メッセージ・テキスト
- メッセージの説明
- ユーザーが取るべき対応

「基本」 FM/Db2が発行するメッセージには、次の形式で一意的英数字 ID が付きます。

```
FMNDannn
```

各部の意味は以下のとおりです。

a

英字。

nnn

3桁の数字。

バッチ機能でメッセージが発行される場合、ID はメッセージ・テキストの前に印刷されます。

オンライン機能でメッセージが発行される場合、メッセージとともに ID が表示されることはありません。ただし、コマンド行で `MSGID` と入力して Enter キーを押すことで、メッセージの ID を取得することができます。このコマンドは、画面に表示されている、最後に発行されたメッセージのメッセージ ID を表示します。

オンライン・メッセージの多くは、短メッセージと長メッセージで構成されています。短メッセージは、パネルの右上に表示されます。長メッセージは、短メッセージが表示されたときに F1 キーを押した場合にのみ表示されます。

FM/Db2 メッセージ

FMNDA001

IBM® File Manager for z/OS® Version 14 Release 1

Explanation: File Manager のバージョンおよびリリース情報を示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDA002

IBM® File Manager for z/OS® Db2® Component

Explanation: File Manager のコンポーネント名全体を示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDA003

IBM® File Manager/Db2

Explanation: File Manager のコンポーネントの省略名を示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDA004

Db2® Component

Explanation: File Manager のコンポーネントの短縮名を示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDA009

IBM® File Manager for z/OS® Version 14 Release 1 Db2 Component Licensed Materials - Property of IBM® and/or HCL5655-Q42 Copyright IBM® Corporation 2001, 2017 - All Rights Reserved. Copyright HCL Technologies Ltd. 2017, 2023 - All Rights Reserved. Trademark of International Business Machines

Explanation: File Manager の Db2® コンポーネントの製品名および著作権情報を示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDA011

Panel *panel name* error. (短). PQUERY error processing ISPF panel *panel name* (長).

Explanation: パネル名 *panel name* に対する PQUERY サービスの発行時に ISPF エラーが発生しました。

User response: これは File Manager の内部エラーです。IBM® サポートに連絡して支援を受けてください。

FMNDA012

Installation error. Db2® catalog table *Db2 catalog table name* is not available. Some FM/Db2 functions will be inoperative. Contact your Systems Programmer.

Explanation: FM/Db2 が Db2® カタログ表 *Db2 catalog table name* にアクセスしようとして失敗しました。 *Db2 catalog table name* が存在しないため、アクセスは失敗しました。

User response: File Manager Db2® のコンポーネントが正しく最適に機能するためには、各種の Db2® カタログ表へのアクセス権限が必要です。このメッセージは、インストール関連の問題を示します。実際の所有者 (SYSIBM) の代わりにユーザー指定の所有者 (例えば、SYSIBMV) を使用して、Db2® カタログ表のビューを定義することが可能です。このエラーの原因の 1 つは、ユーザー指定の所有者を使用しているが、ユーザー指定の所有者による Db2® カタログ表の作成が存在しない (作成されていない) ことです。CATOWNER パラメーター、FMN2POPT モジュール内の FMN2POPI マクロを確認します。Db2® カタログ表のビュー (例えば、SYSIBMV.SYSTABLES) が存在していることを確認します。詳しくは、「File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド」の『FM/Db2 のカスタマイズ準備』を参照してください。。

FMNDA013

Installation error. SELECT access to Db2® catalog table *Db2 catalog table name* is required, but is not available. Some FM/Db2 functions will be inoperative. Contact your Systems Programmer.

Explanation: FM/Db2 が Db2® カタログ表 *Db2 catalog table name* にアクセスしようとした。そのアクセスは失敗しました。現行の FM/Db2 機能を完了するには、*Db2 catalog table name* へのアクセス権限が必要です。

User response: FM/Db2 が正しく最適に機能するためには、各種の Db2® カタログ表への SELECT アクセス権限が必要です。このメッセージは、インストールの問題を示しています。具体的には、FM/Db2 ユーザーによって使用される Db2® 許可 ID が、Db2® カタログ表 *Db2 catalog table name* への SELECT アクセス権限を持っていないという問題です。詳しくは、「*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイド」の『*FM/Db2* のカスタマイズ準備』を参照してください、およびチェックリストのポイント 8 『Db2® カタログへのアクセスを認可する - 必須』を参照してください。エラーが発生した FM/Db2 ユーザーに対して、*Db2 catalog table name* への SELECT アクセス権限が認可されている必要があります。

FMNDA014

Installation error. Access to column *column name* in Db2® catalog table *Db2 catalog table name* is required, but is not available. Some FM/Db2 functions will be inoperative. Contact your Systems Programmer.

Explanation: FM/Db2 が Db2® カタログ表 *Db2 catalog table name* の列 *column name* にアクセスしようとした。そのアクセスは失敗しました。現行の FM/Db2 機能を完了するには、*Db2 catalog table name* の列 *column name* への SELECT アクセス権限が必要です。

User response: FM/Db2 が正しく最適に機能するためには、各種の Db2® カタログ表へのアクセス権限が必要です。このメッセージは、インストール関連の問題を示しています。具体的には、FM/Db2 ユーザーによって使用される Db2® 許可 ID が、Db2® カタログ表 *Db2 catalog table name* の列 *column name* への SELECT アクセス権限を持っていないという問題です。「*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイド」の『*FM/Db2* のカスタマイズ準備』、およびチェックリストのポイント 8 『Db2® カタログへのアクセスを認可する - 必須』を参照してください。エラーが発生した FM/Db2 ユーザーに対して、*Db2 catalog table name* の列 *column name* への SELECT アクセス権限が認可されている必要があります。

FMNDA020

REQUIRED, BROWSE AUDITED

Explanation: 監査が必須で、ブラウズ機能は監査の対象です。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティー製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA021

REQUIRED, BROWSE NOT AUDITED

Explanation: 監査が必須で、ブラウズ機能は監査の対象ではありません。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティー製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA022

REQUIRED, SMF, BROWSE AUDITED

Explanation: 監査が必須で、監査レコードは SMF に書き込まれ、ブラウズ機能は監査の対象です。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* を参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA023

REQUIRED, SMF, BROWSE NOT AUDITED

Explanation: 監査が必須で、監査レコードは SMF に書き込まれ、ブラウズ機能は監査の対象ではありません。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* を参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA024

なし

Explanation: FM/Db2 コンポーネントは、監査レコードを書き込みません。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* を参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA025

SAF-RULE CONTROLLED

Explanation: FM/Db2 内の監査が SAF 規則を使用して制御されており、RACF® などのセキュリティ製品を使用して定義されています。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* を参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA026

SAF-RULE CONTROLLED, AUDITING NOT ALLOWED

Explanation: FM/Db2 内の監査が SAF 規則を使用して制御されており、RACF® などのセキュリティ製品を使用して定義されています。これらの規則は、FM/Db2 による監査レコードの書き込みを明確に防止しています。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* を参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA027

DEMAND, BROWSE AUDITED

Explanation: 要求監査が実施されており、ブラウズ機能は監査の対象です。要求監査では、現在のエディター・セッションが終了すると、監査レポートが自動的に印刷されます。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA028

DEMAND, BROWSE NOT AUDITED

Explanation: 要求監査が実施されており、ブラウズ機能は監査の対象ではありません。要求監査では、現在のエディター・セッションが終了すると、監査レポートが自動的に印刷されます。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA030

OPTIONAL, OFF, BROWSE AUDITED

Explanation: 監査はオプションで最初はオフにされており、ブラウズ機能は監査の対象です。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA031

OPTIONAL, OFF, BROWSE NOT AUDITED

Explanation: 監査はオプションで最初はオフにされており、ブラウズ機能は監査の対象ではありません。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA032

OPTIONAL, PROFILE, BROWSE AUDITED

Explanation: 監査はオプションで、現行値はユーザーの ISPF プロファイルに基づいて設定されています。ブラウズ機能は監査の対象です。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA033

OPTIONAL, PROFILE, BROWSE NOT AUDITED

Explanation: 監査はオプションで、現行値はユーザーの ISPF プロファイルに基づいて設定されています。ブラウズ機能は監査の対象ではありません。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA034

OPTIONAL, SMF, OFF, BROWSE AUDITED

Explanation: 監査はオプションで、監査レコードは SMF に書き込まれています。監査オプションは最初はオフにされており、ブラウズ機能は監査の対象です。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA035

OPTIONAL, SMF, OFF, BROWSE NOT AUDITED

Explanation: 監査はオプションで、監査レコードは SMF に書き込まれています。監査オプションは最初はオフにされており、ブラウズ機能は監査の対象ではありません。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA036

OPTIONAL, SMF, PROFILE, BROWSE AUDITED

Explanation: 監査はオプションで、監査レコードは SMF に書き込まれています。監査オプションの現行値は、ユーザーの ISPF プロファイルに基づいて設定されており、ブラウズ機能は監査の対象です。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA037

OPTIONAL, SMF, PROFILE, BROWSE NOT AUDITED

Explanation: 監査はオプションで、監査レコードは SMF に書き込まれています。監査オプションの現行値は、ユーザーの ISPF プロファイルに基づいて設定されており、ブラウズ機能は監査の対象ではありません。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティ製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。

くは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA038

DEMAND, SMF, BROWSE AUDITED

Explanation: 要求監査が実施されており、監査レコードは SMF に書き込まれ、ブラウズ機能は監査の対象です。要求監査では、現在のエディター・セッションが終了すると、監査レポートが自動的に印刷されます。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティー製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA039

DEMAND, SMF, BROWSE NOT AUDITED

Explanation: 要求監査が実施されており、監査レコードは SMF に書き込まれ、ブラウズ機能は監査の対象ではありません。要求監査では、現在のエディター・セッションが終了すると、監査レポートが自動的に印刷されます。監査オプションは、FMN2POPT モジュールで指定するか、RACF® などのセキュリティー製品を使用して外部で指定します。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイドを参照してください。このメッセージは、「Db2® connection Information (接続情報)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDA040

Recovered from Db2® abend (短). FM/Db2 has recovered from an abend in Db2®. The FM/Db2 function that was executing when the Db2® abend occurred has been terminated (長).

Explanation: 現行機能の処理中に Db2® 異常終了が発生しました。Db2® への接続に関与している File Manager サブタスクが強制終了され、新規のサブタスクが確立されました。異常終了が発生する前に FM/Db2 によって行われた変更のうちコミットされていない変更は、取り消されます。

User response: 異常終了が発生したときに使用されていた機能に関する情報を記録します。問題が再発生した場合は、システム・プログラマーに通知してください。異常終了を説明できる Db2 関連の問題がない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDA050

Object not found (ID) (短). No Db2® object of the appropriate type matches the combination of object details entered in Db2® system ID. Press Help for more information (長).

Explanation: このメッセージは、機能入力パネルで Db2® オブジェクト名が入力されたときに発行されます。しかし、そのオブジェクト名が存在しないことが Db2® から報告されています。Db2® SSID は、現在接続されている Db2® サブシステムの名前です。エラーの理由が判別されてエラーが修正されるまでは、機能は処理できません。

User response:

Help PF キー (デフォルトは PF1) を 2 回押すと、順番に長いメッセージ (上記参照) と拡張ヘルプ (パネル) が表示されません。ヘルプ・パネルには以下の情報が示されます。

- The specified Db2® object does not exist:
 - Is the spelling correct?
 - Are you connected to the correct Db2® system?
- There was an uppercase/lowercase mismatch. The Translate Db2® object name option is OFF, if the name that was entered contains lower case characters, it may not be recognized. To change the Translate Db2® object name option select option 0.0.2.
- If no OWNER was specified, FM/Db2 used *authid* to qualify the name.
- A synonym name was specified, but the owner of the synonym is not *authid*. A synonym name is only recognized when the current SQLID and the synonym owner match.
- The object name specified is too long to be displayed on the function entry panel. If you used EXPAND to enter a long name in a field, you must use EXPAND again to clear all parts of the name. Clearing the field on the function entry panel only sets the visible part of the field to spaces.

パネルに表示された情報を参照して、様々なエラーの原因を、その原因が判別されるまで順々に検討して行ってください。

FMNDA051

Invalid location (短). Location *LOC* is not defined in SYSIBM.LOCATIONS at the local server (長)

Explanation: このメッセージは、機能入力パネルで Db2® ロケーション値が入力されたときに発行されます。しかし、そのロケーションが見つからないことが Db2® から報告されています。 *Location* は見つからないロケーションの名前です。エラーの理由が判別されてエラーが修正されるまでは、機能は処理できません。

User response: ロケーション・フィールドに * を入力して Enter キーを押せば、ローカル・サーバーで定義されているロケーションのリストを表示できます。この機能は、製品インストーラーで無効にするように選択されている場合は使用不可になっている可能性があります。入力したロケーション値が無効になっている理由を判別できない場合は、Db2® 管理者に連絡してサポートしてもらってください。

FMNDA052

Object not found (短). No Db2® object at location *LOC* matches the combination of object details entered at Db2® system *ID*. Press Help for more information. Object not found (短).

Explanation: このメッセージは、機能入力パネルで Db2® オブジェクト名が入力されたときに発行されます。しかし、そのオブジェクト名が存在しないことが Db2® から報告されています。 *Db2 SSID* は接続されている Db2® サブシステムです。 *Location* は LOCATION エントリー・フィールドに入力された値です。エラーの理由が判別されてエラーが修正されるまでは、機能は処理できません。

User response: Help PF キー (デフォルトは PF1) を 2 回押すと、順番に長いメッセージ (上記参照) と拡張ヘルプ (パネル) が表示されます。ヘルプ・パネルには以下の情報が示されます。 Possible reasons why Db2® could not find this object include:

- The specified Db2® object does not exist:
 - Is the spelling correct?
 - Have you specified the correct location?
- There was an uppercase/lowercase mismatch. The Translate Db2® object name option is OFF, if the name that was entered contains lower case characters, it may not be recognized. To change the Translate Db2® object name option select option 0.0.2.
- If no OWNER was specified, FM/Db2 used *authid* to qualify the name.
- A synonym name was specified, but the owner of the synonym is not specified. A synonym name is only recognized when the current SQLID and the synonym owner match.
- The object name specified is too long to be displayed on the function entry panel. If you used EXPAND to enter a long name in a field, you must use EXPAND again to clear all parts of the name. Clearing the field on the function entry panel only sets the visible part of the field to spaces.

パネルに表示された情報を参照して、様々なエラーの原因を、その原因が判別されるまで順々に検討して行ってください。

FMNDA053

Check name (spaces) (短). The Db2® object name cannot be found. There are two or more consecutive spaces in the object name, this might indicate unwanted text in the non-visible parts of a scrollable field. Place the cursor on the object name field and press the Expand PF key to verify the contents (長).

Explanation: 名前フィールドに入力された値には、2つ以上の連続したスペースがあります。例えば、次のようになります。ABC FG. 名前フィールドは、ISPF スクロール可能フィールドであり、最大 128 文字を入力できますが、すべての文字が表示されるわけではありません。フィールドの表示されない部分に不要な情報が入力された可能性があります。FM/Db2 はフィールドの内容全体に基づいて DB2® 名を検証するため、“Object not found” というエラーが発生します。

Explanation: このメッセージは、機能入力パネルで Db2® オブジェクト名が入力されたときに発行されます。しかし、そのオブジェクト名が存在しないことが Db2® から報告されています。この Db2® オブジェクト名には 2 つ以上の連続するスペースが含まれています。これは有効であるとも考えられます。しかし、それ以上にエラーの原因を示している可能性があります。

User response: オブジェクト名フィールド上にカーソルを置いて、EXPAND に割り当てられている PF キー (デフォルトは PF4) を押し、フィールド内容全体を表示してください。EXPAND キーが使用不可の場合は、コマンド行で EXPAND コマンドを入力し、オブジェクト名フィールド上にカーソルを置いて、ENTER キーを押せば、フィールド内容全体を表示できます。不正なデータをすべて除去して、操作を再試行してください。

FMNDA054

Check owner (spaces) (短). The Db2® object name cannot be found. There are two or more consecutive spaces in the object owner, this might indicate unwanted text in the non-visible parts of a scrollable field. Place the cursor on the object owner field and press the Expand PF key to verify the contents.

Explanation: 所有者フィールドに入力された値には、2つ以上の連続したスペースがあります。例えば、次のようになります。ABC FG. 所有者フィールドは、ISPF スクロール可能フィールドであり、最大 128 文字を入力できますが、すべての文字が表示されるわけではありません。フィールドの表示されない部分に不要な情報が入力された可能性があります。FM/Db2 はフィールドの内容全体に基づいて DB2® 所有者を検証するため、“Object not found” というエラーが発生します。

User response: オブジェクト所有者フィールド上にカーソルを置いて、EXPAND に割り当てられている PF キー (デフォルトは PF4) を押し、フィールド内容全体を表示してください。EXPAND キーが使用不可の場合は、コマンド行で EXPAND コマンドを入力し、オブジェクト所有者フィールド上にカーソルを置いて、ENTER キーを押せば、フィールド内容全体を表示できます。不正なデータをすべて除去して、操作を再試行してください。

FMNDA055

No Db2® TABLE matches the value entered. It is possible a Db2® object (eg view) that matches the name entered exists - however the selected Db2® utility supports Db2® tables ONLY (長).

Explanation: このメッセージは、オブジェクトが見つからない状態が検出されたときに Db2® ユーティリティー機能によって発行されます。一部の Db2® ユーティリティーは、入力として表を要求し、ビューやシノニムなど、他のオブジェクトを処理しません。

User response: FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーを使用して、Db2® オブジェクトに関する情報を表示します。当該オブジェクトが存在するかどうかを判断し、そのオブジェクトのタイプ (表やビューなど) を判別してください。どのオブジェクト・タイプが使用されているのかを判別するには、適切なバージョンの Db2® 用の Db2® ユーティリティー資料を参照してください。

FMNDA100

Alloc. error *-unit* (短). The attempt to allocate a temporary data set for the SQL statement failed. UNIT *unit* is invalid. Check the temporary data set allocation option values (長).

Explanation: File Manager は、SQL または他の何らかの情報を格納するための一時データ・セットを割り振ろうとしました。割り振りは失敗しました。最も可能性が高い説明は「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプションの設定)」パネルで指定した UNIT パラメーターが無効であることです。このシステム・オプション・パネルは、FM/Db2 メインメニュー・パネルから 0.0.8 を使用してアクセスされます。

User response: 「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプションの設定)」パネルで UNIT パラメーターに指定した値を確認します。値を削除して、操作を再試行します。これで問題が解決する場合、システム・プログラマーに問い合わせ有効/無効な UNIT 値についてのアドバイスを求めてください。

FMNDA997

**** Limit of Rows Retrieved ****

Explanation: このメッセージは、行カウント値 (例えば 100) がエディター機能入力パネルで指定されており、FM/Db2 がエディター・セッションにその行数を読み取っても Db2® オブジェクトの最後まで到達していない場合に、File Manager/Db2 エディター・セッションの最下部に表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDA998

Internal Logic Error (*module name*) - *message*

Explanation: これは、内部エラー・メッセージで、Db2® 接続の処理の問題を示しています。

User response: IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB000

JESCT not available (短). JESCT control block currently not available for Db2® subsystem selection (長).

Explanation: これは内部エラーです。FM/Db2 が JESCT にアクセスしようとしたのですが、ポインターがゼロでした。

User response: IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB001

No Db2® subsystems (短). No Db2® Subsystems have been defined on this system. File Manager Db2 component can not run on this system (長).

Explanation: FM/Db2 が、現行の z/OS® システムで定義された Db2® システムを見つけることができませんでした。

User response: 現行の z/OS® システムで定義された Db2® システムがある場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB002

SSID *Db2 SSID* not matched (短). No Db2® Subsystems matching *Db2 SSID* are defined on this system (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 メインメニューの Db2® SSID フィールドにワイルドカードを使用した名前 (例えば、DSN*) が入力されている場合に、Db2® サブシステムの選択時に発行される可能性があります。一致する Db2® システムが見つかりませんでした。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。Db2® SSID を完全に消去して、すべての Db2® システムを表示します。

FMNDB003

Db2 SSID not defined to z/OS® (短). Db2® Subsystem/Group Db2 SSID is not defined to the local z/OS® system (長).

Explanation: Db2® システム *Db2 SSID* がローカルの z/OS® システムで定義されていません。このメッセージは、SSID XXXX のようなコマンドを使用して、現在接続されている Db2® システムの変更を試行したことに対する応答で発行される場合があります。

User response: *Db2 SSID* が正しく指定されているかどうかを確認してください。名前を修正して再試行してください。

FMNDB004

SSID Db2 SSID not active (短). Db2® subsystem/group Db2 SSID is not currently active (長).

Explanation: Db2® システムまたはグループ *Db2 SSID* は、ローカルの z/OS® システムで定義されていますが、非アクティブです (停止しています)。

User response: FM/Db2 は、非アクティブな Db2® システムに接続することができません。Db2® システムが非アクティブになっている理由を特定してください。Db2® システムが起動したら、接続を再試行してください。

FMNDB005

Already connected (短). FM/Db2 is currently connected to Db2® system Db2 SSID (長).

Explanation: FM/Db2 は既に Db2® システム *Db2 SSID* に接続されています。このメッセージは、SSID XXXX のようなコマンドを使用して、現在接続されている Db2® システムの変更を試行したことに対する応答で発行される場合があります。

User response: *Db2 SSID* が正しく指定されていない場合は不要。正しく指定されていない場合は、Db2® SSID を確認し、適切な修正を行ってから再試行してください。

FMNDB006

Cannot connect to Db2® Db2 SSID, RRSF function RC &RC. Reason reason code.

Explanation: Db2® RRSF 接続への呼び出しが失敗しました。*Db2 SSID* は、現在 Db2® システムに接続されていません。*function* は失敗した RRSF 機能で、*reason* は失敗した理由コードです。

User response: このエラーは、インストール・エラーを示しています。RRSAF 接続が必要であることを確認してください。通常は、CAF 接続がすべての要件を満たしていることを検出します。FM/Db2 で使用されている Db2® 接続は、FMN2POPT モジュールで指定されています。詳しくは、*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* を参照してください。適切な Db2® インターフェース・モジュール (DSNRLI) が FM/Db2 からアクセス可能であることを確認します。それでも問題が解決しない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB007

A Db2® Subsystem has not been specified.

Explanation: Db2® システムが指定されていません。FM/Db2 が実用的な処理を実行するには、前もって Db2® システムに接続されている必要があります。

User response: FM/Db2 メインメニューの「Db2® SSID」フィールドを使用して、Db2® システムの名前を指定します。

FMNDB008

Subsystem *Db2 SSID* does not identify a uniquely active Db2® subsystem

Explanation: Db2® SSID 値が指定されましたが、Db2® システムを一意的に識別できません。例えば、DSN* のように指定されています。

User response: 明確な値を指定してください。

FMNDB009

Db2® subsystem *Db2 SSID* is not currently active on this system.

Explanation: 指定された Db2® SSID 値 *Db2 SSID* は非アクティブです。

User response: Db2® システムを始動するアクションを実行してください。Db2® システムがアクティブになったら、操作を再実行してください。

FMNDB010

Row *Row value 1* of *Row value 2*

Explanation: このメッセージは、さまざまな選択リスト (Db2® サブシステム選択パネルなど) で表示されます。*Row value 1* は、表示される最初の行です。表示可能な行は、全部で *Row value 2* 行あります。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB011

Invalid selection (短). Enter "S" or "/" to select the required Db2® subsystem (長).

Explanation: Db2® サブシステム選択パネル上の項目に対して、「S」や「/」以外の文字が入力されました。項目の選択に有効な文字は、「S」と「/」のみです。

User response: 「S」または「/」を使用して、必要な項目を選択してください。

FMNDB012

SSID *Db2 SSID* not active (短). Selected Db2® subsystem *Db2 SSID* is not currently active on this system (長).

Explanation: Db2® サブシステム選択パネルから Db2® システム *Db2 SSID* を選択しようとした。この Db2® システムは、現在アクティブではありません。

User response: Db2® システムが非アクティブになっている理由を特定し、このシステムを始動するためのアクションを実行してください。Db2® システムがアクティブになったら、操作を再実行してください。

FMNDB013

Selection terminated (短) Db2® subsystem selection was terminated with the EXIT PF key command. File Manager Db2® is not currently connected to any Db2® subsystem (長).

Explanation: ユーザーが、Db2® サブシステム選択メニューで選択を行わずに EXIT PF key を押しました。FM/Db2 メインメニューが再表示されます。FM/Db2 は、どの Db2® システムにも接続されていません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。FM/Db2 機能を実行する前に、Db2® システムに接続する必要があります。

FMNDB014

Display refreshed (短). List of Db2® Subsystems has been refreshed using current information (長).

Explanation: ユーザーが、Db2® サブシステム選択リスト・パネルで REFRESH 基本コマンドを発行しました。表示される Db2® システムのリストが最新表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB015

SSID Db2 SSID displayed (短). Db2® Subsystems matching Db2 SSID are displayed (長).

Explanation: ユーザーが、Db2® サブシステム選択リスト・パネルで SHOW Db2 SSID コマンドを発行しました。SSID の指定に一致する Db2® システムのリストが表示されます。指定する SSID 値には、ワイルドカードを含む (例えば、DSN*) ことも可能です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB016

Command not active (短). The command to change the Db2® subsystem is not available from this panel (長).

Explanation: 現在接続されている Db2® SSID を変更するコマンドが、そのコマンドを使用できないパネルで発行されました。

User response: 現在接続されている Db2® SSID は、アクティブな FM/Db2 機能がない場合にのみ変更できます。機能入力パネルまたはメニュー・パネルに戻り、コマンドを再発行してください。

FMNDB017

SSID name required (短). Enter the Db2® subsystem name that FM/Db2 should connect to (長).

Explanation: 現在接続されている Db2® システムを変更するコマンドが、オペランドなしで発行されました。

User response: 現在接続されている Db2® システムを変更するコマンドには、オペランド (接続する必要がある Db2® システムの Db2® SSID) が必要です。必要な Db2® システムの SSID をオペランドとして使用して、コマンドを再発行してください。

FMNDB018

Invalid remote server (短). Remote server *Db2 server name* is not a Db2® UDB for z/OS® system. Connection to remote servers that are not Db2® UDB for z/OS® servers is not supported (長).

Explanation: FM/Db2 機能入力パネルのロケーション・フィールドに Db2® サーバー名が入力されました。ローカル Db2® システムで Db2® サーバー名がリモート Db2® サーバーとして定義されていますが、このサーバーは z/OS® システム用の Db2® UDB ではありません。FM/Db2 は、z/OS® サーバー用の Db2® UDB へのリモート接続のみをサポートします。

User response: このリモート Db2® サーバーへの接続はサポートされていません。別の名前を指定してください。

FMNDB019

Version *Db2 version* invalid (短). The remote Db2® version/release is *Db2 version*. Connection is supported for Db2® Version 9 and later systems only (長).

Explanation: FM/Db2 機能入力パネルのロケーション・フィールドに Db2® サーバー名が入力されました。リモート Db2® システムのバージョンは *Db2 version* です。このバージョンの Db2® への接続はサポートされていません。

User response: このリモート Db2® サーバーへの接続はサポートされていません。別の名前を指定してください。

FMNDB020

Operating System is unsupported. Can not run File Manager Db2 component.

Explanation: これは内部エラーです。MVS™ トークンの初期化中に、サポートされないバージョンの z/OS® が検出されました。このバージョンの z/OS® またはその先行製品に対して FM/Db2 を実行することはできません。

User response: ホスト・オペレーティング・システムのレベルが、プログラム・ディレクトリーで指定されたレベルであることを確認してください。ホスト・オペレーティング・システムがサポートされるレベルであることに間違いがない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB021

Error in *function* Callable Service Routine, Return code *return code*.

Explanation: これは内部エラーです。*function* への呼び出しが戻りコード *return code* で失敗しました。

User response: IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB022

Db2® Subsystem not set (短). Error invoking File Manager Db2 component. Db2® Subsystem has not been set (長).

Explanation: Db2® SSID 名が正しく指定されていないか、Db2® システムに接続されていない状態で、FM/Db2 を実行しようとした。

User response: メッセージがバッチで発生した場合は、Db2® SSID 値が JCL で正しく指定されていることを確認してください。それでも問題が解決しない場合は、FM/Db2 をオンラインで開始し、バッチ JCL を再生成してください。引き続きバッチ・ジョブが失敗する場合は、IBM® サポートに連絡してください。オンラインでメッセージが表示される場合は、FM/Db2 メインメニューに戻って、有効な Db2® SSID の名前を Db2® SSID フィールドに入力し、Enter キーを押して接続してください。

FMNDB023

Cannot connect to Db2® *Db2 SSID*, CAF function RC return code, Reason reason code.

Explanation: FM/Db2 が、機能 *function* を使用して Db2® CAF インターフェースを呼び出そうとしました。呼び出しは、戻りコード *return code* および理由コード *reason code* で失敗しました。

User response: このメッセージは、通常、インストールまたはセットアップの問題を示しています。最も考えられる原因は、次のとおりです。

1. デフォルトで FM/Db2 プラン (FMN2PLAN) をバインドしていない。
2. FMN2POPT モジュールで誤った Db2® プラン名が指定されている。

詳しくは、*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* を参照してください。

FMNDB024

Unable to load Db2® Interface module *module name*. Abend Code *abend code-reason code*. Check STEPLIB/LINKLIST for Db2® load libraries.

Explanation: FM/Db2 が、Db2® インターフェース・モジュール *module name* をロードしようとした。ロードは、異常終了コード *abend code* および理由コード *reason code* で失敗しました。

User response: ほとんどの場合、これは、カスタマイズまたはセットアップの問題です。異常終了コードが 806 (モジュールが見つからない) 場合は、次のことを行います。

1. 問題になっている Db2® システムの FMN2SSDM マクロで、Db2® ロード・ライブラリーが正しく指定されていることを確認します。
2. FMN2POPT に Db2® システムの Db2® ロード・ライブラリー名が含まれていない場合、その Db2® ロード・ライブラリーの該当する STEPLIB/JOBLIB および LINKLIST をすべて確認してください。Db2® ロード・ライブラリーは、LOAD マクロの標準の検索順序を使用してアクセス可能なライブラリー内に存在している必要があります。

その他の異常終了については、開始点としてポイント (1) を参照してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB025

Not currently connected to a Db2® subsystem.

Explanation: FM/Db2 は現在、どの Db2® サブシステムにも接続されていません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。FM/Db2 機能を実行する前に、Db2® システムに接続する必要があります。

FMNDB026

Subsystem: *Db2 SSID*, Db2® release: *Db2 VRM indicator*.

Explanation: FM/Db2 は、Db2® システム *Db2 SSID* に接続されています。この Db2® システムのバージョンは *Db2 VRM indicator* です。

User response: アクションは不要です。通知メッセージ。File Manager/Db2 バッチ・ジョブで発行されました。

FMNDB027

FM/Db2 plans: *Plan name 1*、 *Plan name 2*

Explanation: FM/Db2 プラン名は *Plan name 1* と *Plan name 2* です。

User response: アクションは不要です。通知メッセージ。File Manager/Db2 バッチ・ジョブで発行されました。

FMNDB028

説明: *user specified description*.

Explanation: このメッセージ *user specified description* は、「About Db2® (概要)」ポップアップ・パネルに表示されます。*user specified description* は、FMN2SSDM マクロで指定された値で、該当する Db2® システムの DESC パラメータです。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB029

Db2 SSID executing Db2® level *Db2 level 1*. Minimum supported level is *Db2 level 2*.

Explanation: このメッセージは、サポートされないバージョン/メンテナンス・レベルで Db2® システムに接続しようとした場合に発行されます。Db2® システム *Db2 SSID* のレベルは *Db2 level 1* です。サポートされる最小レベルは *Db2 level 2* です。

User response: この Db2® システムへの接続はサポートされていません。使用中の FM/Db2 バージョンでサポートされる Db2® バージョンについては、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイド および *File Manager for z/OS®* ユーザズ・ガイドおよびリファレンス を参照してください。

FMNDB030

Db2I unavailable (短). Unable to start Db2I. Check STEPLIB/LINKLIST for Db2® libraries (長).

Explanation: パネル DSNEPRI の ISPF PQUERY サービスが発行されましたが、要求は失敗しました。

User response: このエラーは、インストールおよびセットアップの問題を示しています。Db2® ライブラリーを FM/Db2 ユーザーが使用可能であることを確認してください。これを行うために推奨される方法は、FM/Db2 がアクセスする Db2® システムごとに FMN2SSDM マクロ項目内の Db2® ライブラリーをコード化することです。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイド を参照してください。

FMNDB031

SQL ID not authorized (短). You are not authorized to use the SQL user ID *Db2 authid* on Db2® Subsystem *Db2 SSID* (長).

Explanation: Db2® システム *Db2 SSID* の現行 SQLID を *Db2 authid* に変更しようとしてしました。しかし、処理は失敗しました。この失敗の一般的な理由は、FM/Db2 ユーザーに *Db2 authid* を使用する権限がないことです。

User response: Db2® 管理者またはセキュリティー管理者と、*Db2 authid* にアクセスができない理由について相談してください。

FMNDB032

You are not authorized to use the SQL user ID *Db2 authid*.

Explanation: 現行 SQLID を *Db2 authid* に変更しようとした。しかし、処理は失敗しました。この失敗の一般的な理由は、FM/Db2 ユーザーに *Db2 authid* を使用する権限がないことです。

User response: Db2® 管理者またはセキュリティー管理者と、*Db2 authid* にアクセスができない理由について相談してください。

FMNDB033

Auditing:*Audit status*:

Explanation: このメッセージは、現在接続されている Db2® システムの監査状況を表示するために使用され、「About Db2® (概要)」ポップアップ・パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB034

No Db2® subsystem with name *Db2 SSID*. CAF function RC return code, Reason reason code.

Explanation: CAF インターフェースに対する呼び出し (Db2® システム *Db2 SSID* の機能 *function*) が、戻りコード *return code* および理由コード *reason code* で失敗しました。指定した Db2® システムが存在していないことが理由です。

User response: Db2® システム名を確認して再試行してください。

FMNDB035

Db2® group/subsystem *Db2 SSID* is not active, CAF function RC return code, Reason reason code.

Explanation: CAF インターフェースに対する呼び出し (Db2® システム *Db2 SSID* の機能 *function*) が、戻りコード *reason code* および理由コード *reason code* で失敗しました。指定した Db2® システムがアクティブではないことが理由です。

User response: Db2® システムを始動します。操作を再試行してください。

FMNDB036

Not authorized to connect to *Db2 SSID*, CAF function *function* RC return code, Reason reason code.

Explanation: CAF インターフェースに対する呼び出し (Db2® システム *Db2 SSID* の機能 *function*) が、戻りコード *return code* および理由コード *reason code* で失敗しました。最も考えられる理由は、FM/Db2 ユーザーが指定された Db2® システムに接続する権限を持っていないことです。

User response: Db2® 管理者またはセキュリティー管理者と、FM/Db2 ユーザーが Db2® システム *Db2 SSID* にアクセスする権限を持っていない理由について相談してください。

FMNDB037

FM/Db2 not installed on *Db2 SSID*, CAF function *function* RC return code, Reason reason code.

Explanation: CAF インターフェースに対する呼び出し (Db2® システム *Db2 SSID* の機能 *function*) が、戻りコード *return code* および理由コード *reason code* で失敗しました。FM/Db2 が Db2® システム *Db2 SSID* にインストールされていないことが理由です。

User response: FM/Db2 が Db2® システム *Db2 SSID* にインストールされていることを確認します。操作を再試行してください。

FMNDB038

Unable to load options module *module name*. Probable installation error.

Explanation: FM/Db2 がモジュール *module name* をロードしようとした。しかし、処理は失敗しました。インストール・エラーが原因です。File Manager ユーザーが FM/Db2 ロード・ライブラリーを使用できません。

User response: 「TSO ISRDDN」(ISPF の下) などを使用している FM/Db2 ロード・ライブラリーの割り振りを確認してください。FM/Db2 ユーザーがアクセス可能なロード・ライブラリーに *module name* が配置されていることを確認します。

FMNDB039

FMN2POPI module invalid (短). The internal structure of FMN2POPT is invalid. Probable installation error (長).

Explanation: FM/Db2 が FMN2POPT モジュールをロードしましたが、コンテンツが破損しているか使用できません。

User response: FMN2POPT モジュールが古いバージョンの FM/Db2 を使用してアSEMBルされています。JCL 内の SYSLIB ステートメントに注意して FMN2POPT モジュールを再アSEMBルし、確実に正しいバージョンの FM/Db2 マクロが使用されるようにします。操作を再試行してください。

FMNDB040

SSID *Db2 SSID* not available (短). Installation settings prevent the selection of Db2® subsystem/group *Db2 SSID* (長).

Explanation: Db2® システム *Db2 SSID* に接続しようとした。この Db2® システムは、FMN2POPT インストール・モジュールで「Unavailable (使用不可)」とマークされています。Db2® システムを使用することはできません。

User response: 別の Db2® システムを選択してください。

FMNDB041

Incompatible connection already active, CAF *function*, RC *return code*, Reason *reason code*.

Explanation: FM/Db2 が CAF インターフェースの呼び出し (機能 *function*) を試行しました。戻りコード *return code* および理由コード *reason code* でエラーが発生しました。Db2® と呼び出し接続コードの間に互換性がないこと (リリース・レベルの不一致) が原因です。

User response: これはインストール・エラーです。FMN2POPT (該当する Db2® システムの FMN2SSDM マクロ) の Db2® ライブラリーの指定を確認します。その際、そのライブラリーのバージョン/メンテナンス・レベルと Db2® システムのバージョン/メンテナンス・レベルを注意して比較してください。

FMNDB042

Db2 SSID Release Minimum Release (短). *Db2 SSID* executing Db2® level *Release*. The minimum supported level of Db2® for this release of File Manager is *Minimum Release*. FM/Db2 may operate successfully with Db2® Version 8, however no support will be provided for any Version 8 specific problems that may be encountered.

Explanation: FM/Db2 が、バージョン *Db2 SSID*、リリース *Release* に接続しました。このバージョンの FM/Db2 でサポートされる最小の Db2® バージョン/リリースは、*Minimum Release* です。これは、*Release* より大きいバージョン/リリースです。

User response: アクションは不要です。通知メッセージ。FM/Db2 は、問題なく動作するはずですが、ただし、Db2® バージョン 8 の場合にのみ、問題が発生します。このバージョンはサポートされません。

FMNDB043

Db2 SSID *Release* *Maximum Release* (短). *Db2 SSID* executing Db2® level *Release*. This version and release of File Manager does not currently support connection to Db2® *Maximum Release* (or later) subsystems.

Explanation: バージョン *Db2 SSID*、リリース *Release* に接続しようとしてしました。このバージョンの FM/Db2 でサポートされる最大の Db2® バージョン/リリースは、*Maximum Release* です。これは、*Release* より小さいバージョン/リリースです。接続が確立されていないため、Db2® システムにアクセスできません。すべてのバージョンのソフトウェアが、他のソフトウェアの (バージョンおよびリリース・レベルの) 限定セットで動作するように設計されています。

User response: *Db2 SSID* の Db2® バージョン/リリースをサポート可能な、より新しいバージョンの FM/Db2 に関する情報については、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB044

Communications error (短). FM/Db2 encountered an SQL error *SQL error code* attempting to access the Db2® system at *Db2 location name*. This indicates that the remote Db2® system is not available, or that there was a security related problem (長).

Explanation: FM/Db2 がリモート Db2® サーバー *Db2 location name* に接続しようとしてしました。接続は、SQLCODE *SQL error code* で失敗しました。

User response: Db2® メッセージおよびコード資料で *SQL error code* を調べ、指示されているアクションを実行してください。このエラーは、セットアップの問題を示しています。1つの可能性として、ローカル Db2® サーバーで Db2® ロケーション名の DRDA® 定義が誤っている場合があります。

FMNDB045

|未定義|

Explanation: ロケーション・ニックネームが FMN2POPT モジュールで定義されていません。

User response: FMN2POPT モジュールの FMN2SSDM 定義を確認し、該当する項目にロケーション・ニックネームを追加してください。

FMNDB046

Defined but no location specified.

Explanation: ロケーション・ニックネームが指定されましたが、そのニックネームが参照するロケーションが指定されていません。

User response: 現在接続されている Db2® システムの FMN2SSDM マクロを確認してください。必ず、ロケーションとロケーション・ニックネームの両方を指定してください。

FMNDB047

Authorization error (短). FM/Db2 encountered an SQL error (-725) attempting to access the Db2® system at *Remote location name*. This can occur when the user has changed the SQLID at the local Db2® system, but the user does not have authority to use this SQLID at the remote Db2® system (長).

Explanation: 長メッセージを参照してください。

User response: ユーザーが、現在設定されている Db2® SQLID を使用してリモート Db2® システム *Remote location name* にアクセスする権限を持っていることを確認してください。

FMNDB048

FMN2DATA load failed (短). Unable to load FMN2DATA module. Probable installation error (長).

Explanation: FM/Db2 が、データ・モジュール FMN2DATA をロードしようとした。これは失敗しました。FM/Db2 は、このモジュールがないと作動できません。

User response: これは、カスタマイズまたはセットアップの問題です。FM/Db2 ユーザーがアクセス可能なロード・ライブラリー内に FMN2DATA が存在していることを確認してください。通常、このモジュールは SFMNMOD1 ライブラリー内に配置されています。

FMNDB049

FMN2DENU load failed (短). Unable to load FMN2DENU module. Probable installation error (長).

Explanation: FM/Db2 が、データ・モジュール FMN2DENU をロードしようとした。これは失敗しました。FM/Db2 は、このモジュールがないと作動できません。

User response: これは、カスタマイズまたはセットアップの問題です。FM/Db2 ユーザーがアクセス可能なロード・ライブラリー内に FMN2DENU が存在していることを確認してください。通常、このモジュールは SFMNMOD1 ライブラリー内に配置されています。

FMNDB050

ATTACH of FM/Db2 subtask program failed with return code *return code*.

Explanation: FM/Db2 が、Db2® アクセスに関与するサブタスクに接続しようとした。これは、戻りコード *return code* で失敗しました。FM/Db2 は、整合性のサブタスクがないと作動できません。

User response: これは内部エラーです。操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、インストール関連の問題がないかを確認し、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB051

Communications error (SQLCODE=SQL error code) accessing *Db2 SSID*.

Explanation: FM/Db2 が、*Db2 SSID* にアクセスしようとして通信エラー *SQL error code* を受信しました。

User response: Db2® メッセージおよびコード資料で SQL エラー・コードを調べ、指示されているアクションを実行してください。

FMNDB052

Db2® server *server name* is not a Db2® UDB for z/OS® server, code=*return code*.

Explanation: FM/Db2 (バッチ内) が Db2® サーバー *server name* に接続しました。この接続情報は、Db2® サーバーが z/OS® サーバー用の Db2® UDB ではないことを示しています。接続は、z/OS® サーバー用の Db2® UDB に対してのみサポートされます。

User response: z/OS® サーバー用の Db2® UDB の名前のみを指定してください。

FMNDB053

SET DECFLOAT ROUNDING MODE failed with return code *return code*.

Explanation: FM/Db2 が、DECFLOAT ROUNDING MODE を設定しようとしたましたが、戻りコード *return code* で失敗しました。

User response: Db2® システムが作動可能であることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB054

SSID Db2® SSID not defined (短). There is no definition (FMN2SSDM macro entry) for Db2® subsystem or group *Db2 SSID* in the FM/Db2 installation module (FMN2POPT). Contact the person who installed FM/Db2 (長).

Explanation: FM/Db2 が接続可能な Db2® システムを指定するために、FMN2POPT インストール・モジュールが使用されました。「*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド*」では、FM/Db2 が接続するすべての Db2® システムに対して、それぞれ FMN2SSDM マクロ項目を定義することを推奨しています。FMN2POPI マクロには、CONNECT オプション (デフォルト設定は DEFINED) が含まれます。CONNECT=DEFINED が設定されている場合、FM/Db2 は、FMN2POPT に FMN2SSDM 項目がある Db2® システムにのみ接続しようとします。FMN2SSDM 項目がない Db2® システムに接続しようとすると、このエラーが発生します。

User response: このエラーを解決するには、一般的に次の 2 つのアプローチがあります。

1. 「*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド*」で推奨されているように、FM/Db2 がアクセスするすべての Db2® システムに対して、FMN2SSDM マクロ項目を FMN2POPT に追加する。
 2. FMN2POPT の FMN2POPI マクロで CONNECT=ANY を指定する。これによって、FM/Db2 がすべての Db2® システムへの接続を試行できるようになりますが、必ずしも FM/Db2 が接続するすべての Db2® システムに対して、それぞれ FMN2SSDM マクロ項目を定義する必要がなくなるわけではありません。詳細なセットアップ情報については、「*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド*」を参照してください。
-

FMNDB055

Selection canceled (短). Db2® subsystem selection was canceled. Connection to the previously connected Db2® system has been re-established.

Explanation: ユーザーが、Db2® サブシステムおよびグループのいずれも選択せずに Db2® サブシステム選択パネルを終了しました。

User response: アクションは不要です。これは通知メッセージです。

FMNDB056

Selection canceled (短). Db2® subsystem selection was canceled. File Manager Db2® is not currently connected to any Db2® subsystem.

Explanation: ユーザーが、Db2® サブシステムおよびグループのいずれも選択せずに Db2® サブシステム選択パネルを終了しました。FM/Db2 は現在、どの Db2® サブシステムまたはグループにも接続されていません。

User response: アクションは不要です。これは通知メッセージです。FM/Db2 機能を実行する前に、Db2® システムに接続する必要があります。

FMNDB057

Db2® limits the output returned from a Db2® command. This limit has been reached and the output has been truncated.

Explanation: 大容量の出力を生成する Db2® コマンドが入力されました。Db2® は、生成される出力量に制限があります。制限を超過した出力は切り捨てられます。

User response: アクションは不要です。これは通知メッセージです。より限定した Db2® コマンドを入力してください。

FMNDB058

You cannot change the SQLID until FM/Db2 is connected to a Db2® subsystem or group.

Explanation: FM/Db2 がどの Db2® システムにも接続されていない状態で、ユーザーが FM/Db2 メインメニューの SQLID フィールドに新規の値を入力しました。どの Db2® システムにも接続されていない状態で、現行の SQLID を変更することはできません。

User response: Db2® SQLID をデフォルト値 (通常は、ユーザーの TSO ログオン ID) に戻してください。ここで、有効な Db2® SSID を Db2® SSID フィールドに入力し、Enter キーを押して Db2® システムへの接続を確立します。接続に成功したら、Db2® SQLID の変更を試行してください。

FMNDB059

** not defined in installation module.

Explanation: このメッセージは、FMN2POPT に FMN2SSDM マクロ項目がないすべての Db2® システムに対して、Db2® サブシステム選択パネルに表示されます。

User response: アクションは不要です。これは通知メッセージです。FMN2POPT モジュールの項目をコード化する方法について詳しくは、*File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* を参照してください。

FMNDB060

Unable to load Db2® Interface modulename. Abend Code *abend code-reason code*. Check STEPLIB/LINKLIST for Db2® load libraries.

Explanation: File Manager/Db2 バッチ・ジョブが、Db2® インターフェース・モジュール *name* をロードしようとした。ロードは、異常終了コード *abend code* および理由コード *reason code* で異常終了しました。

User response: バッチ・ジョブの STEPLIB ステートメントまたは JOBLIB ステートメントを確認してください。適切な Db2® ロード・ライブラリーが含まれていることを確認します。バッチ・ジョブが FM/Db2 オンラインを使用して生成された場合、該当する Db2® システムの FMN2POPT の FMN2SSDM マクロ項目で指定されていれば、それに従って Db2® ライ

ブラリーが自動的に組み込まれます。Db2® システムの FMN2SSDM マクロ項目がない場合や、FMN2SSDM マクロに Db2® ライブラリーが含まれていない場合には、これは行われません。

FMNDB061

Catalog table *table name* is missing.

Explanation: File Manager/Db2 バッチ・ジョブが、Db2® カタログ表 *table name*. にアクセスしようとした。このアクセスは、SQLCODE-204 (オブジェクトが見つからない) で失敗しました。

User response: Db2® カタログのビューが使用されている場合 (FMN2POPT モジュールの FMN2POPI マクロの CATOWNER=xxxx で、xxxx が SYSIBM ではない)、該当するビュー *xxxx.table name* が作成されていることを確認してください。

FMNDB062

No select access to catalog table *table name*.

Explanation: File Manager/Db2 バッチ・ジョブが、Db2® カタログ表 *table name* にアクセスしようとした。このアクセスは、SQLCODE-551 (権限の不足) で失敗しました。

User response: バッチ・ジョブに関連付けられた Db2® 許可 ID が、表 *table name* に対する SELECT アクセス権限を持っていることを確認してください。

FMNDB063

Cannot access *column* in catalog table *table name*.

Explanation: File Manager/Db2 バッチ・ジョブが、Db2® カタログ表 *table name* の列 *column* にアクセスしようとした。このアクセスは、SQLCODE-206 エラーで失敗しました。列 *column* が表 *table name* に定義されていません。

User response: Db2® カタログのビューが使用されている場合 (FMN2POPT モジュールの FMN2POPI マクロの CATOWNER=xxxx で、xxxx が SYSIBM ではない)、該当するビュー *xxxx.table name* が作成されていることを確認してください。また、列 *column* がビュー *xxxx.table name* に含まれていることを確認してください。

FMNDB064

Db2® Abend Code *abend code-reason code* accessing *name*. Notify your systems programmer.

Explanation: File Manager/Db2 バッチ・ジョブの実行中に Db2® 異常終了が発生しました。Db2® 異常終了コードは *abend code*、理由コードは *reason code*、アクセス対象の Db2® モジュールは *name* です。バッチ・ジョブは終了し、コミットされていない操作はすべて取り消されます。

User response: 「Db2 for z/OS メッセージおよびコード」で Db2® 異常終了コードと理由コードを調べてください。ほとんどの場合、このタイプのエラーは、バッチ・ジョブのエラー (例えば、間違った Db2® ライブラリーが指定されている) を示しています。該当する Db2® システム (FMN2POPT モジュール) の FMN2SSDM マクロ項目の Db2® ライブラリーの指定を確認してください。詳しくは、*File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイド オンライン関数を参照し、FM/Db2 を使用してバッチ JCL を再生成し、操作を再実行してください。

FMNDB065

GEN command failed (短). The FM/Db2 GEN command failed - RC=*return code*. Please see your Systems Support staff for assistance (長).

Explanation: SQL リバース・エンジニアリング機能 (GEN コマンド) が、戻りコード *return code* で失敗しました。

User response: 起こりうる障害には、GEN コードで使用されるデータ・セットでのスペース関連の異常終了 (x37) などがあります。このような場合、関連する異常終了が発行されます。この異常終了に応答するには、データ・セットを削除してから、より大きなスペースでデータ・セットを再作成し、操作を再実行します。

FMNDB066

No SSID parameter was passed to FMN2INEX. The last connected Db2® subsystem, if any, is used. Check that the connected Db2® subsystem is, in fact, what was intended.

Explanation: REXX EXEC FMN2INEX を使用して、外部呼び出しによって FM/Db2 を起動することができます。REXX EXEC には、各種パラメーター (FM/Db2 が接続する必要がある Db2® システムの Db2® SSID を含む) が必要です。このパラメーターが提供されませんでした。

User response: FMN2INEX EXEC を起動するために使用される方法を確認し、必ず Db2® SSID を指定してください。

FMNDB067

Invalid option code (短). The option code passed to FMN2INEX is either invalid or not supported. The option code has been discarded (長).

Explanation: REXX EXEC FMN2INEX を使用して、外部呼び出しによって FM/Db2 を起動することができます。この EXEC には、各種パラメーター (実行する FM/Db2 機能を指示する機能コードを含む) が必要です。提供された機能コードが無効です。

User response: *File Manager for z/OS®* カスタマイズ・ガイド に受け渡すことができる機能コードです。必ず、サポートされる機能コードを指定してください。

FMNDB068

Command not active (短). The command to change the Db2® subsystem is not available when FM/Db2 is invoked remotely (長).

Explanation: FM/Db2 は外部アプリケーションから呼び出されました。この状態では、現在接続されている Db2® SSID を変更することはできません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB069

Command not available (短). Db2® commands cannot be issued when FM/Db2 has been started remotely (長).

Explanation: FM/Db2 は外部アプリケーションから呼び出されました。この状態では、Db2® コマンドを発行することはできません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB070

Possible causes - Missing/invalid FMN2POPT module, eg invalid plan name.

Explanation: File Manager/Db2 バッチ・ジョブで、CAF 接続を使用しようとしたときにエラーが発生しました。

User response: 通常、このエラーの原因は、次のとおりです。

1. ターゲット Db2® システムに FM/Db2 がインストールされている
2. 使用されている FMN2POPT モジュールが無効なプラン名を指定している (指定したプランが存在していない、あるいはプランは存在しているが無効である、など)。

FMNDB071

Current® SQLID (短). The current SQLID is the value specified (長).

Explanation: 現行の SQLID を変更する SQLID コマンドが発行されました。しかし、指定された SQLID は現行の SQLID です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB072

SQLID value required (短). The SQLID command requires a value. Enter the new SQLID after the SQLID keyword, eg "SQLID FRANK" (長).

Explanation: オペランドなしで SQLID コマンドが発行されました。

User response: 例えば、次のように、目的の SQLID を SQLID コマンドの後に指定してください。

```
SQLID FRED
```

FMNDB073

SQLID cmd not available (短). The SQLID command is not available from this panel (長).

Explanation: コマンドがサポートされていないパネルから SQLID コマンドが発行されました。

User response: 上位レベルのパネル (例えば、機能入力パネルまたはメニュー・パネル) に戻り、コマンドを再発行してください。

FMNDB074

UNICODE conversion error codepage CCSID 1 to codepage CCSID 2.

Explanation: Unicode でエンコードされたオブジェクトの File Manager/Db2 エディター・セッションで、CCSID CCSID 1 と CCSID CCSID 2 の間の変換に失敗しました。

User response: このエラーの原因の 1 つとして、指定した CCSID のペアの z/OS® Unicode 変換サービスが設定されていなかったことがあります。システム・プログラマーに連絡してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB075

SQLID = SQLID (短). The current SQLID has been changed to SQLID (長).

Explanation: 現行の SQLID を変更するコマンドが発行されました。コマンドは正常に完了し、現行の SQLID は SQLID になりました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB076

*** Rollback occurred. Transactions since start of session or last commit have been backed out. ***

Explanation: Db2® ロールバックが発行されました。このメッセージは、監査ログ・レポートに表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB077

A Db2® commit has been issued.

Explanation: Db2® コミットが発行されました。このメッセージは、監査ログ・レポートに表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB078

UNICODE conversion error. UNICODE conversion error from codepage *CCSID 1* to codepage *CCSID 2*. Return code *return code*, reason code *reason code* from CUNLCNV routine.

Explanation: Unicode でエンコードされたオブジェクトの File Manager/Db2 エディター・セッションで、*CCSID CCSID 1* と *CCSID CCSID 2* の間の変換に失敗しました。変換を実行するために使用される CUNLCNV システム・サービスが、戻りコード *return code* および理由コード *reason code* を発行しました。

User response: このエラーの原因の 1 つとして、指定した *CCSID* のペアの z/OS® Unicode 変換サービスが設定されていなかったことがあります。システム・プログラマーに連絡してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB079

Change SSID first (短). An attempt to navigate to a File Manager/Db2 function was made while simultaneously changing the Db2® SSID. This is not supported. First change the Db2® SSID and then navigate to the required function (長).

Explanation: FM/Db2 メインメニュー・パネルでの処理には、SQLID フィールドに新規の値を入力することで現行の SQLID を変更する機能が含まれています。値を入力した後に Enter キーを押すことで、変更の妥当性検査が行われます。ISPF ショートカット接頭部「=」を使用して、他のいくつかの FM/Db2 機能にナビゲートすることができます。ただし、このショートカットの使用は、通常のパネル処理をバイパスするため、サポートされていません。

User response: Db2® データについては、「=」の使用は *File Manager for z/OS® カスタマイズ・ガイド* ではサポートされていません。一部の FM/Db2 機能を実行するために SQLID の変更が必要な状況では、最初に SQLID を変更し、次に必要な機能にナビゲートします。

FMNDB091

Invalid selection (短). Enter 'S' or '/' to select the required object type (長).

Explanation: オブジェクト選択リストの項目に対して、無効な文字が入力されました。項目の選択に使用できる文字は「S」および「/」のみです。

User response: 示された文字のいずれかを使用して、オブジェクトを選択してください。

FMNDB092

Invalid selection (短). Enter 'S' or '/' to select the required line command (長).

Explanation: オブジェクト選択リストの項目に対して、無効な文字が入力されました。項目の選択に使用できる文字は「S」および「/」のみです。

User response: 示された文字のいずれかを使用して、オブジェクトを選択してください。

FMNDB093

Invalid selection (短). Valid selections are 'S', '/', 'A', 'D', 'U', 'UO' and 'UW' (長).

Explanation: このコマンドは、基本 SQL プロトタイプ機能によって発行されます。「S」(選択) フィールドに無効なコマンドが入力されました。使用できる有効な文字は、長メッセージに示されている文字のみです。

User response: 長メッセージに示されている文字のいずれかを使用して、列を選択してください。

FMNDB094

OBJIN|OBJOUT Db2® object not found.

Explanation: このメッセージは、Db2® オブジェクト名が存在しない場合に、バッチで実行されている FM/Db2 機能によって発行されます。印刷、コピー、エクスポートなどで、入力した Db2® オブジェクト名が存在しない場合は OBJIN が使用されます。コピー、インポート、データ作成などで、出力先の Db2® オブジェクト名が存在しない場合は OBJOUT が使用されます。

User response: Db2® オブジェクト名を修正して、バッチ・ジョブを再実行依頼してください。

FMNDB095

OBJIN|OBJOUT Db2® object name error. The name specified returned multiple Db2® objects.

Explanation: このメッセージは、指定された Db2® オブジェクト名が複数の Db2® オブジェクトを返すときに、バッチで実行されている FM/Db2 機能によって発行されます。印刷、コピー、エクスポートなどで、入力した Db2® オブジェクト名にロケーションが含まれるときは OBJIN が使用されます。コピー、インポート、データ作成などで、出力先の Db2® オブジェクト名にロケーションが含まれるときは OBJOUT が使用されます。

User response: Db2® オブジェクト名を訂正して、あまり総称的でない Db2® オブジェクト名を指定し、バッチ・ジョブを再実行依頼してください。

FMNDB096

OBJIN|OBJOUT Db2® location not found.

Explanation: このメッセージは、Db2® オブジェクト名の一部として指定された Db2® ロケーションが存在しない場合に、バッチで実行されている FM/Db2 機能によって発行されます。印刷、コピー、エクスポートなどで、入力した Db2® オブジェクト名にロケーションが含まれるときは OBJIN が使用されます。コピー、インポート、データ作成などで、出力先の Db2® オブジェクト名にロケーションが含まれるときは OBJOUT が使用されます。

User response: 問題の Db2® ロケーション値を判別してください。この Db2® ロケーションに、PARM ステートメントで指定されている Db2® システムからアクセスできることを確認して、バッチ・ジョブを再実行依頼してください。

FMNDB098

Db2 SSID; executing Db2® level release. Maximum supported level is Maximum release.

Explanation: FM/Db2 が、Db2® バージョン *Db2 SSID* またはリリース *release* に接続しました。現行バージョンの FM/Db2 でサポートされる最大の Db2® バージョンまたはリリースは、*Maximum release* です。これは、*release* より小さいバージョンまたはリリースです。この Db2® システムへの接続はサポートされていません。

User response: バージョンまたはリリース *release* の Db2® システムをサポートする FM/Db2 のバージョンについては、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB099

Invalid Db2® SSID (短). The Db2® SSID is too long. Specify a 1-4 character value (長).

Explanation: 現在接続されている Db2® システムを変更するコマンドが発行されましたが、目的の Db2® システムに対して入力された値が長すぎます。有効な Db2® SSID の長さは、1 から 4 文字です。

User response: 指定した Db2® SSID を確認し、修正してください。操作を再試行してください。

FMNDB100

SQLCODE SQLCODE. Statement type (短). SQLCODE SQLCODE was encountered while issuing a Statement type statement.

Explanation: *Statement type* SQL ステートメントの実行中にエラーが発生しました。失敗した SQLCODE は *SQLCODE* です。

User response: 失敗した SQLCODE を「Db2 for z/OS メッセージおよびコード」資料で検索してください。ユーザー指定の SQL ステートメントの処理中にメッセージが発行された場合は、そのステートメントを調整して、操作を再試行してください。

FMNDB101

SQL error message

Explanation: File Manager/Db2 バッチ機能で、SQL ステートメントの実行中にエラーが発生しました。定形式の SQL エラー・メッセージが *SQL error message* に示されています。

User response: 失敗した SQLCODE を「Db2® Messages and Codes」資料で調べてください。ユーザー指定の SQL ステートメントの処理中にメッセージが発行された場合は、そのステートメントを調整して、操作を再試行してください。

FMNDB107

Remote server not found (短). FM/Db2 encountered an SQL error SQLCODE attempting to access the Db2® system at Db2 remote server. This might indicate that the remote Db2® system is not available or does not exist. Check the definitions in SYSIBM.LOCATIONS (長).

Explanation: FM/Db2 が、リモート Db2® サーバーに接続しようとして失敗しました。このサーバー名は、各種 FM/Db2 機能の入力パネルのロケーション・フィールドに入力されている可能性があります。この接続試行は、SQLCODE *SQLCODE* で失敗しました。接続は確立されていません。また、接続が失敗した原因が解決されるまでは、リモート Db2® サーバーでの操作は行えません。

User response: 「Db2 for z/OS メッセージおよびコード」資料で *SQLCODE* を調べ、推奨される一連のアクションに従ってください。このエラーは、以下の状況で発生する可能性があります (完全なリストではありません)。

1. DRDA® 定義に問題がある。
2. リモート Db2® システムが存在していない、アクティブではない、または使用不可である。
3. 通信の問題がある。

FMNDB108

Different Db2® release (短). The release level of the local Db2® system is different to the release level of the Db2® system which you have just accessed. The choice of Db2® object types has been refreshed to show those object types supported on the remote or local system. Press ENTER again to get the requested list (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが機能入力パネルのロケーション・フィールドの値を変更して Enter キーを押したときに、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーが発行します。FM/Db2 が、新規のロケーション値に接続しようとして (または、新規の値がブランクの場合は、ローカル・サーバーに再接続しようとして)。以前に接続していた Db2® システムの Db2® バージョンまたはリリースが、新たに接続した Db2® システムと異なっている場合、Db2® オブジェクト・タイプのリストを変更する必要がある可能性があります。オブジェクト・リスト要求は、次の 2 つのステップで処理されます。

1. オブジェクトのリストの更新およびこのメッセージの表示。
2. 選択したオブジェクト・タイプに関するオブジェクトのリストの表示。

User response: 要求されたオブジェクト・タイプが新規の Db2® システムでも有効であることを確認してください。要求されたオブジェクト・タイプに関する情報を確認するには、再度 **Enter** キーを押します。

FMNDB109

No matching locations (短). The location name specification does not match any locations defined to the local Db2® server (長).

Explanation: FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーの機能入力パネルのロケーション・フィールドに、ワイルドカードを含む Db2® サーバー名が入力されました。ワイルドカードの指定に一致する Db2® サーバー名がありません。

User response: ロケーションの指定を確認し、操作を再試行してください。ロケーション・フィールドに * を使用すると、指定可能なすべてのロケーションがリストされます。

FMNDB110

Internal error (ABEND) *Abend code*. Function terminated.

Explanation: FM/Db2 が、重大な内部エラーを検出し、それ以降の処理を回避するために内部異常終了を発行しました。内部異常終了コードは以下のとおり: *Abend Code*

User response: これは内部エラーです。File Manager の内部異常終了コードのリストは、外部使用については記載していません。異常終了が発生する環境を、*Abend code* も含めて詳しく記録し、サポートに連絡してください。

FMNDB118

Function active (短). The command to change the Db2® subsystem is not available while a File Manager/Db2 function is in progress.

Explanation: 現在接続されている Db2® SSID (例えば、SSID XXXX) を変更するコマンドが、そのコマンドを使用できないパネルで発行されました。File Manager/Db2 機能がアクティブであることが原因です。

User response: 機能入力パネルまたはメニュー・パネルに戻ることで、現行の FM/Db2 機能を終了します。Db2® システムを変更するコマンドを再発行します。

FMNDB119

Db2 authid not authorized (短). You are not authorized to use the *Db2 authid* on Db2® Subsystem *Db2 SSID* (長).

Explanation: SQLID コマンドを使用して現行の SQLID を変更する試行が行われました。このユーザーには、Db2® 許可 ID *Db2 authid* を使用する権限がありません。現行の SQLID を変更する試行は失敗し、既存の SQLID の値が保持されます。

User response: Db2® 許可 ID の使用を管理している規則は、Db2® 許可の制御に外部セキュリティー・サーバーを使用しているかどうか、および Db2® 許可出口を使用しているかどうかに応じて、複雑になる場合があります。ほとんどの場合、ユーザーが他の SQLID を使用するには、SYSADM 権限または同等の権限が必要です。Db2® システム管理者またはサイト・セキュリティー管理者に連絡して支援を受けてください。

FMNDB120

Inactivity time-out (短). The editor session ended because of inactivity. Any uncommitted changes have been rolled back. Contact your System's Administrator for more information.

Explanation: FM/Db2 エディター・セッションをキャンセルする前に非アクティブにできる期間には、サイトに課せられた制限があります。この制限を超過しています。現行エディター・セッションは取り消され、コミットされていない変更はロールバックされました。

User response: なし。

FMNDB145

Recursive alias (短). The object name entered is an alias that refers to an alias defined at the current server, which is not permitted. Specify an alias name that refers to an object, that is, not an alias (長).

Explanation: File Manager/Db2 機能入力パネルの所有者フィールドまたは名前フィールドに Db2® オブジェクト名が入力されました。入力された値は、ローカル Db2® サーバーで定義された別名を参照していますが、この別名は他の別名を参照しています。再帰的別名はサポートされていません。

User response: Db2® オブジェクト (表/ビュー/同義語) を参照する別名はサポートされます。入力された名前が参照するポイントが実際のオブジェクトになるように別名を解決して、その値を指定してください。あるいは、ターゲット・オブジェクト名を直接指定してください。

FMNDB147

Data sampling requires that FM/Db2 use a Db2 scrollable cursor, however, the use of Db2 scrollable cursors was disabled by the product installer. The operation cannot be performed (長).

Explanation: データ・サンプリングの使用が試行されましたが、製品インストーラーによって Db2 スクロール可能カーソルの使用が無効になっています。データ・サンプリングでは Db2 スクロール可能カーソルを使用する必要があります。そのため、要求された操作を実行できません。

User response: なし。

FMNDB149

Count of unknown

Explanation: このメッセージは、大規模モードで操作しているときに FM/Db2 エディターによって発行されます。Count は、現在表示されている最初の行の行番号 (TABL 表示モードの場合)、または現在表示されている行 (SNGL 表示モードの場合) を示しています。「大規模」エディター・モードについては、「FM/Db2 エディター・セッション on page 124」で詳しく説明しています。エディターを使用して結果表を表示する File Manager/Db2 機能の「Row count (行数)」フィールドに、ユーザーが 0 (または *、ALL) を入力すると、大規模エディター・モードが選択されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。大規模エディター・モードでは、結果表の行数は、ユーザーが Db2® オブジェクトの末尾までスクロールするまでは使用可能になりません。ユーザーが Db2® オブジェクトの末尾までスクロールすると、「unknown (不明)」が Db2® オブジェクト/結果表の行数に置き換わります。

FMNDB150

Table locking disabled (短). Table locking was requested but failed, as can occur with eg catalog tables (長).

Explanation: このメッセージは、データが最初に表示されたときに FM/Db2 エディターによって発行されます。ユーザーが、7 番目のエディター・オプション・パネルで表ロック・オプション (推奨されません) を指定しました。FM/Db2 が表のロックを試行したときに、操作が失敗しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。このメッセージは、Db2® カタログ表を編集するために選択すると発行される場合があります。

FMNDB153

Commit issued (短). All pending changes to the database have been successfully committed (長).

Explanation: このメッセージは、明示的に Db2® COMMIT が発行されると、FM/Db2 エディターによって (編集の場合のみ) 発行されます。Db2® COMMIT が、現行のエディター・セッションで行われた処理中の変更をすべて完了します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB154

Commit issued (Errors) (短). Successful changes committed, unsuccessful changes remain pending (長).

Explanation: このメッセージは、明示的に Db2® COMMIT が発行されると、FM/Db2 エディターによって (編集の場合のみ) 発行されます。Db2® COMMIT が、現行のエディター・セッションで行われた処理中の変更をすべて完了します。FM/Db2 エディターは、エディター・セッションのデータの変更を行ごとに処理します。そのため、一部 (すべてではない) の変更のみがコミットされている可能性があります。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。「e」接頭部コマンドを使用して、エラー状態の行を識別することができます。どの変更が完了しているかが不明な場合は、現行のエディター・セッションを終了してから再度開始します。

FMNDB155

Key information on (短). Key and index information will be displayed in single format (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 エディター・セッションで INDEXINF 基本コマンドを入力しました。その前の切り替えの状態はオフでした。データが SNGL モードで表示されている場合、表に対して定義されたキー (索引) の一部の桁を示している表示の左側に、追加の 1 桁が表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB156

Key information off (短). Key and index information will not be displayed in single format (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 エディター・セッションで INDEXINF 基本コマンドを入力しました。その前の切り替えの状態はオンでした。メッセージ [FMNDB155 on page 1063](#) も参照してください。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB157

Rollback issued (短). A Db2® rollback has been issued. Any uncommitted changes are lost (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーがエディター・セッションで CANCEL に割り当てられている PF キーを押した場合、または CANCEL を入力した場合に、FM/Db2 エディターによって発行されます。現行の FM/Db2 エディター・セッションが終了し、明示的に Db2® ROLLBACK が発行されます。最後の Db2® COMMIT の後に行われた変更は失われます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB158

Auxiliary Table (短). Edit or browse of an auxiliary table is not possible (長).

Explanation: 補助表の編集が試行されました。このアクションはサポートされていません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。Base Db2® オブジェクトのみを編集できます。

FMNDB159

count rows fetched.

Explanation: このメッセージは、データが最初に表示されたときに FM/Db2 エディターによって発行されます。このメッセージは、Db2® から取り出された行数および現在のエディター・セッションにロードされた行数を示しています。今メッセージは、ユーザーがゼロ以外の「row count (行数)」値を指定したこと、指定された行数がエディターにロードされたこと、および Db2® オブジェクトまたは結果表の最後まで達していないことを示しています。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。Db2® 表の一部の行が FM/Db2 エディターにロードされていません。したがって、すべての編集操作は、それらのロードされた行にのみ適用されます。

FMNDB160

Insufficient storage (短). There was insufficient virtual storage to edit/browse this object. Use the Rows to Retrieve option or specify a row selection criteria to limit the amount of data retrieved from Db2® (長).

Explanation: このメッセージは、Db2® オブジェクトまたは結果表のすべての行をメモリーにロードするために使用可能なメモリーが不足している場合に、FM/Db2 エディターによって発行されます。エディター操作は続行できません。

User response: 「[FM/Db2 が Db2 からロードするデータの制限 on page 140](#)」を確認してください。FM/Db2 エディターでのメモリー使用に関する記述があります。次のように、この問題を解決するためのさまざまなオプションがあります (完全なリストではありません)。

1. TSO 領域サイズを増やしてください。
2. FM/Db2 エディターを「大規模」モードで使用し、メモリー使用量を最小化する。

3. より小さい「row count (行数)」値を指定する。
4. レコード選択基準 (WHERE 文節) を使用して、ロードされる可能性がある行数を削減する。

FMNDB161

警告: USA time format (短). The Db2® object being edited contains at least 1 column with the TIME data type and the system options are set to display these columns in USA format (for example, HH:MM AM|PM). You may not be able to delete or update rows in this Db2® object because of the loss of information associated with the use of this format. See the Systems Options tutorial for more information (長).

Explanation: このメッセージは、TIME データ・タイプの列が 1 つ以上ある Db2® オブジェクトまたは結果表を処理しているときに、FM/Db2 エディターによって発行されます。さらに、TIME 列を米国形式で表示するように FM/Db2 システム・オプションが設定されます。このフォーマットは、すべての TIME 値の秒の部分を取り捨てるため、例えば、09:13:52 と 09:13:00 を区別することができなくなります。そのため、この表のデータを更新したり変更したりすることはできない可能性があります。

User response: この表で編集操作が必要な場合は、FM/Db2 システム・オプションで TIME 列を ISO または JIS 形式 (どちらも完全に秒の値を表示します) で表示するように変更することを検討してください。Db2® でサポートされる TIME の表示形式については、DB2 for z/OS SQL 解説書を参照してください。

FMNDB163

Copy Pending (短). Updates are not allowed to tablespace *table space name* in *database name* because the tablespace is marked as COPY PENDING. In order to edit the table you should cancel the current edit session, then take action to remove the copy pending status. One way to do this is to run the Db2® COPY utility. See the Db2® Administration Guide for a full explanation (長).

Explanation: このメッセージは、COPY PENDING とマークされている Db2® オブジェクトを編集しようとしたときに、FM/Db2 エディターによって発行されます。編集対象の Db2® オブジェクトは、*database name* の表スペース *table space name* に保管されています。Db2® 表は、その状況が COPY PENDING である間に変更できません。例えば、Db2® ユーティリティーを使用して初期データ・ロードを行った後に、特定のユーティリティー・オプションを指定すると、Db2® オブジェクトの状況が COPY PENDING に設定される可能性があります。

User response: COPY PENDING 状況を除去するために推奨される方法は、Db2® オブジェクトに対して Db2® COPY ユーティリティーを実行することです。続行するための最良の方法については、Db2® システム管理者に相談してください。

FMNDB164

Syntax error (短). The WHERE clause contains a syntax error (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザー指定の WHERE 文節で構文エラーが検出された場合に、テンプレート・エディター、または「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルによって発行されます。

User response: WHERE 文節を調査して、考えられるエラーがないかを確認してください。SQL 全体をクリップボードまたは一時データ・セットにコピーして、SQL 処理プログラム (FM/Db2 オプション 4.3、4.4、または SPUFI など) を使用してステートメントを実行することができます。ステートメントの SQL エラーもすべて報告されます。

FMNDB165

Invalid column name (短). The WHERE clause contains an invalid column name, *column name* (長).

Explanation: このメッセージは、WHERE 文節で無効な列名が指定された場合に、テンプレート・エディター、または「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルによって発行されます。Db2® オブジェクトにこの列名が存在しないか、あるいは結果表が処理中であることが原因です。

User response: WHERE 文節を確認し、*column name* の出現位置を見つけます。この列名が、Db2® オブジェクトまたは結果表の列の 1 つであることを確認してください。操作を再試行してください。

FMNDB166

Open quoted string (短). The WHERE clause contains an open quoted string (長).

Explanation: このメッセージは、WHERE 文節に開始引用符付きストリングが含まれている場合に、テンプレート・エディター、または「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルによって発行されます。開始引用符付きストリングの例には、次のものがあります。

1. WHERE EMPNO = '
2. WHERE EMPNO = "

User response: WHERE 文節を確認し、アポストロフィおよび二重引用符の数を数えます。それらが奇数の場合、問題があることを示します。修正して、操作を再試行してください。引用符付きストリングの規則は、「DB2 for z/OS SQL 解説書」で確認することができます。

FMNDB167

SQLCODE *SQLCODE* (短). Execution of the SQL statement will result in SQLCODE *SQLCODE* (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザー指定の WHERE 文節の妥当性検査中に、テンプレート・エディター、または「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルによって発行されます。FM/Db2 が使用する妥当性検査のプロセスは、ユーザー指定の WHERE 文節が異常終了した後に処理されている Db2® オブジェクトに対して、SELECT ステートメントを準備するためのものです。この準備は、多くの理由 (例えば、構文エラーや誤った列名など) によって失敗する可能性があります。また、この準備のステップは、その他の理由で失敗する可能性もあります。そのような場合、失敗を示す SQLCODE がユーザーに返され、アクションを要求します。

User response: 「Db2 for z/OS メッセージおよびコード」資料で SQLCODE を検索し、指示に従って応答してください。

FMNDB170

Dependent rows (短). This related edit session shows only those rows that would be affected by the change to parent table *Parent table name*. The foreign key columns are marked with a K in the scale line, and are shown on the left of the display in table display format. In general, the foreign key value must be changed, or the row deleted, for the operation on the parent table to proceed.

Explanation: このメッセージは、新規の関連編集セッションのデータが初めて表示され、新規表が従属表である場合に表示されます。

User response: 従属表を編集する理由は、親表内の対応する基本キーの削除を妨げている外部キー値を解決するためです。状況によっては、従属編集セッションが、親表の基本キーに一致する外部キーを持つ行だけでなく、すべての行を表示する場合があります。

FMNDB171

Parent table (短). In this related edit session the primary key columns are marked with a P in the scale line and are shown on the left of the display (table display format). You can use the IP prefix command to insert a new row with the primary key set to the foreign key value entered in the edit session of dependent table *dependent table* (長).

Explanation: このメッセージは、新規の関連編集セッションのデータが初めて表示され、新規表が親表である場合に表示されます。

User response: 親表を編集する理由は、新規の基本キーを追加して、その基本キーに一致する新規の外部キーを持つ従属表の行を追加できるようにするためです。

FMNDB173

All rows (短). This related edit session shows all rows of the table. Parent table *parent table name* is subject to a self referencing constraint such that deleting or changing a primary or parent key value may result in the recursive deletion of other rows in the parent table. FM/Db2 cannot determine which rows in table *dependent table name* will be affected by such an operation (長).

Explanation: このメッセージは、新規の関連編集セッションのデータが初めて表示され、新規表が従属表である場合に表示されます。

User response: 従属表を編集する理由は、親表内の対応する基本キーの削除を妨げている外部キー値を解決するためです。

FMNDB174

Commit issued (短). A Db2® commit has been issued (長).

Explanation: このメッセージは、File Manager/Db2 エディター・セッションの終了時に発行されます。このメッセージは、Db2® オブジェクトに対する処理中の変更をすべて完了するために Db2® COMMIT が発行されたことを示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB175

Invalid value (短). Valid values are TABL and SNGL. There are no unformatted edit modes in FM/Db2 (長).

Explanation: File Manager/Db2 エディター・セッションの「Format (形式)」フィールドに入力されたユーザーが無効な値です。

User response: 入力された値を確認してください。FM/Db2 エディターを使用する場合、次の 2 つの表示モードがあります。

1. TABL (T、TA、TAB に省略可能) このモードでは、画面上の各水平線に、処理中の Db2® オブジェクトまたは結果表の 1 行のデータが表示されます。
 2. SNGL (S、SN、SNG に省略可能) このモードでは、処理中の Db2® オブジェクトまたは結果表の単一行のデータが表示されます。各列のデータが表示され、左側に列名、右側にその列のデータが表示されます。
-

FMNDB176

Object/Alias not found (短). The specified object or alias was not found in the catalog, or the target of an alias does not exist.

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 機能入力パネルの「Owner (所有者)」フィールドと「Name (名前)」フィールドに Db2® オブジェクトの名前を入力しました。FM/Db2 が名前の解決を試行しましたが、その試行は失敗しました。このメッセージが発行された理由は、次の例に説明されています。Alias *ALIAS* is defined, this refers to *OBJECT*. However, *OBJECT* does not exist. ユーザーが、File Manager/Db2 機能入力パネルの「Owner (所有者)」フィールドまたは「Name (名前)」フィールドに *ALIAS* を入力します。FM/Db2 は、*ALIAS* 名を *OBJECT* に解決します。しかし、後者 (ID.OBJECT) が存在しないため、結果としてこのエラー・メッセージが発行されます。

User response: Db2® オブジェクト名が存在しない理由を判別してください。

FMNDB177

警告: USA time format (短). The Db2® object being exported contains at least 1 column with the TIME data type and the system options are set to externalize these columns in USA format (HH:MM AM/PM). The exported data will not contain seconds information because of the loss of information associated with the use of this format. See the Systems Options tutorial for more information (長).

Explanation: このメッセージは、次の場合に、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティーまたは FM/Db2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。

1. 処理中の Db2® オブジェクトに TIME データ・タイプの列がある。
2. 「External Format for TIME Data Type Columns (TIME データ・タイプ列用の外部形式)」システム・オプションが「Db2® DSNHDECP setting (DSNHDECP 設定)」に設定されている。
3. TIME 列の DSNHDECP 設定が「USA (米国)」である。

User response: これは通知メッセージです。長メッセージのテキストで示されているように、この状況では、エクスポートされた TIME 列のデータは秒の値を失います。この状況が、意図された (目的の) ものである場合は、アクションは不要です。情報を失わないことが要求される場合は、「External Format for TIME Data Type Columns (TIME データ・タイプ列用の外部形式)」の値を「ISO」または「JIS」のいずれかに変更することを検討してください (どちらの形式でも、秒の情報が含まれます)。

FMNDB178

警告: USA time format (短). The Db2® object being copied contains at least 1 column with the TIME datatype and the system options are set to externalize these columns in USA format (HH:MM AMPM). The data copied to the target table will not contain second's information because of the loss of information associated with the use of this format. See the Systems Options tutorial for more information (長).

Explanation: このメッセージは、次の場合に、FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行されます。

1. 処理中の Db2® オブジェクトに TIME データ・タイプの列がある。
2. 「External Format for TIME Data Type Columns (TIME データ・タイプ列用の外部形式)」システム・オプションが「Db2® DSNHDECP setting (DSNHDECP 設定)」に設定されている。
3. TIME 列の DSNHDECP 設定が「USA (米国)」である。

User response: これは通知メッセージです。長メッセージのテキストで示されているように、この状況では、コピーされた TIME 列のデータは秒の値を失います。この状況が、意図された (目的の) ものである場合は、アクションは不要です。情報を失わないことが要求される場合は、「External Format for TIME Data Type Columns (TIME データ・タイプ列用の外部形式)」の値を「ISO」または「JIS」のいずれかに変更することを検討してください (どちらの形式でも、秒の情報が含まれます)。

FMNDB179

Cancel recommended (短). Db2® has rolled back the current unit of work (SQLCODE -911) because of a deadlock with another task. ALL UNCOMMITTED CHANGES made during the current edit session have been lost. Consequently, the data displayed in the current edit session may not reflect the current state of the Db2® table. It is recommended that you cancel the current edit session and restart with a fresh copy of the data (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エディターが、ユーザーによって変更された行のデータの変更を試行して SQLCODE-911 エラーを受信したときに、エディターによって発行されます。Db2® が別のタスクでデッドロックを検出し、FM/Db2 ユーザーの変更をロールバックすることで、その状況を解決しました。これは、最後の Db2® COMMIT以降に行われたすべての変更が失われることを意味します。この状況では、FM/Db2 エディターに表示されたデータが Db2® に保管されているデータに反映されている保証はありません。現行のエディター・セッションを取り消して、再度開始することをお勧めします。

User response: 現行の編集セッションを取り消して、再度開始してください。1つの行で変更を行い、その変更の保管を試行してください。SQLCODE-911が再発生する場合は、Db2®システム管理者に連絡して、デッドロックが発生する理由の判別について支援を受けてください。

FMNDB180

Related edit failed (短). Initialization of the related edit session failed. The reason is that the product has not been installed correctly. If LIBDEFs are used to allocate the File Manager Db2 component libraries, the related edit session exec, FMN2RESS, should be installed in the same library as the exec used to allocate the libraries for, and start, the first File Manager Db2 component session. Refer to the File Manager Customization Guide for further information (長).

Explanation: 関連編集セッションの初期化処理が失敗しました。各関連編集セッションは、効率的に新規のFM/Db2を呼び出します。開始されると、ユーザーはISPFコマンドを使用して、別の論理セッションとの切り替えを行うことができます。呼び出しプロセス中に、REXX EXECのFMN2RESSが呼び出されます。ただし、LIBDEFを使用してFM/Db2ライブラリーが定義されている場合、このREXX EXECにアクセスできない可能性があります。

User response: FM/Db2をインストールした担当者に連絡してください。

FMNDB181

Browse substituted (短). The object being edited is a read-only view. In Db2® parlance a read-only view is any view that has at least one column marked as not updateable in the catalog. For this view every column is marked as not updateable. Consequently no edit operations of any kind are possible, and browse has been substituted for edit (長).

Explanation: このメッセージは、更新できないビューを処理しているときにFM/Db2エディターによって発行されます。ユーザーがオブジェクトを(表示/参照するためではなく)処理するために編集を選択している間は、編集操作を行うことはできません。混乱を避けるために、編集セッションが参照に変換されています。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB182

Table locking failed (短). Table locking was requested but failed. The object being edited is a view, and views cannot be explicitly locked (長).

Explanation: このメッセージは、ビューのデータが最初に表示されたときにFM/Db2エディターによって発行されます。ユーザーが、エディター・オプションで表ロック・オプションを設定しました。これは推奨されません。明示的にロックできるのは表のみです。したがって、ビューをロックする試行は失敗しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。表ロックは、デッドロックを引き起こす可能性があるため、行わないことをお勧めします。

FMNDB183

Read-only view (短). The object being edited is a read-only view. In Db2® parlance a read-only view is any view that has at least one column marked as not updateable in the catalog. For this view at least one column is marked as updateable. Those columns that are not updateable are protected. Some edit operations may fail (長).

Explanation: FM/Db2エディターによって処理されているオブジェクトは、1つ以上の列に更新可能とマークされていますが、読み取り専用ビューです。

User response: これは通知メッセージです。一部の読み取り専用ビューは、そのビューの一部の列が更新できない場合でも、正常に編集することが可能です。ただし、読み取り専用ビューの編集を試行することは、推奨されません。実際の表を直接編集してください。

FMNDB184

Non-updateable columns (短). The table being edited contains at least one column marked as not updateable in the Db2® catalog. This can occur when editing Db2® catalog tables. The not updateable columns are protected. Some edit operations may fail (長).

Explanation: 編集対象のオブジェクトには、Db2® カタログで更新不可 (SYSIBM.SYSCOLUMNS.UPDATES = 'Y') とマークされた列が 1 つ以上含まれています。これらの列は、エディター・セッションでは保護フィールドとして表示されます。このメッセージは、Db2® カタログ表のデータを表示するのに編集が使用された場合などに発行されます。

User response: これは通知メッセージです。更新不可とマークされたこれらの列のデータを変更することはできません。また、行を削除したり挿入したりすることもできません。

FMNDB185

Recursive alias (短). The object name entered is an alias that refers to an alias at a remote location, which is not permitted. Specify the alias name at the remote server directly (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 機能入力パネルの「Owner (所有者)」フィールドと「Name (名前)」フィールドに別名を入力しました。FM/Db2 は、その別名をリモート・ロケーションで定義された他の別名に解決しました。これはサポートされていません。解決した後、入力された別名は、ローカルまたはリモートで定義された実際の Db2® オブジェクトを参照する必要があります。

User response: ターゲット Db2® オブジェクト名を直接入力して、使用されているすべての別名が直接 Db2® オブジェクトを参照していることを確認してください。

FMNDB186

Not available (View) (短). The RE command is not available when editing a Db2® view. Edit the Db2® table directly to access related table edit processing (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 エディター・セッションで RE (関連編集) コマンドを入力しました。編集対象のオブジェクトがビューです。関連編集機能は、表のみ使用可能です。この操作を実行することはできません。

User response: 関連編集の処理が必要な場合は、すべてのオブジェクトが表を参照していることを確認してください。

FMNDB187

Command not available (短). Commands such as INSERT, REPEAT and COPY are not available in this edit session. The data for the Db2® object is stored in UNICODE format, but there is no conversion routine for graphic data type columns (長).

Explanation: このメッセージは、Unicode でエンコードされたグラフィック・データ・タイプの列を持つ Db2® オブジェクトを処理しているときに、FM/Db2 エディターによって発行されます。この状況では、これらの列のデータの処理中およびフィールド・コンテンツの初期化中に、データ破損が発生する可能性があります。この状況を回避するには、INSERT、REPEAT、および COPY コマンドを使用不可にします。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB188

The Db2® object being edited is stored in a UNICODE-encoded table space, and the object contains MBCS (mixed byte character set) data (GRAPHIC data type columns). The current application encoding scheme is not a known MBCS CCSID. Changing the GRAPHIC data type columns is not supported (長).

Explanation: このメッセージは、Unicode でエンコードされたグラフィック・データ・タイプの列を持つ Db2® オブジェクトを処理しているときに、FM/Db2 エディターによって発行されます。この状況では、これらの列のデータの処理中に、データ破損が発生する可能性があります。この可能性を防ぐために、グラフィック・データ・タイプの列の変更はサポートされていません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB189

Incompatible options (短). Read-only access can only be selected with concurrency options that do not specify that locks will be kept, that is all options except 4 "Read stability keep locks" and 6 "Repeatable read keep locks" (長).

Explanation: 7 番目のエディター・オプション・パネルで選択されたオプションとの間に競合があります。「read-only (読み取り専用)」オプションは、SQL SELECT ステートメントを処理するときに Db2® ロックが不要であることを意味します。しかし、並行性オプション「Read stability keep locks (読み取り固定保持ロック)」および「Repeatable read keep locks (反復可能読み取り保持ロック)」は、SQL SELECT ステートメントの処理中は、Db2® がロック状態を保持する必要があることを意味します。

User response: 例外を除くすべてのケースで、並行性オプションは「Uncommitted read (非コミット読み取り)」または「No with clause (with 文節なし)」に設定することをお勧めします。ロックが必要な並行性オプションを選択する必要がある場合は、「Read-only access (読み取り専用アクセス)」オプションを指定しないでください。

FMNDB190

Statement overflow (短). The SQL statement needed to update the table is too long (長).

Explanation: 表を更新するための SQL ステートメントの作成中に内部ステートメントのバッファ・オーバーフローが検出されました。この操作を実行することはできません。この状態は、標準的な Db2® オブジェクトの処理中には発生しません。非常に多い列名 (最大数 750) および多くの「長い」列名がある Db2® オブジェクトを処理するときに発生する可能性があります。列名の最大長は 30 文字です。

User response: 処理中の Db2® オブジェクトの作成に使用する DDL などの情報を収集してください。IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB191

Changes discarded (短). The invalid change to the Initial Display option has been discarded (長).

Explanation: ユーザーが、「Initial display format (初期表示形式)」エディター・オプションに対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押したか、END を入力しました。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDB192

Changes discarded (短). The invalid change to the Concurrency option has been discarded. Enter one of the listed values for the Concurrency option (長).

Explanation: ユーザーが、「Concurrency (並行性)」エディター・オプションに対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押したか、END を入力しました。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDB193

Changes discarded (短). The invalid change to the Enter key usage option has been discarded. Enter one of the listed values for the Enter key usage option (長).

Explanation: ユーザーが、「Enter key usage (Enter キーの使用法)」エディター・オプションに対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押したか、END を入力しました。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDB194

Use unique characters (短). The character used to indicate the "String delimiter (display)" must be different to the character used to indicate the "String delimiter (input)". Select a different character (長).

Explanation: ユーザーが、5 番目のエディター・オプション・パネルの「Input (入力)」および「Display (表示)」のストリング区切り文字に同じ文字を指定しました。ほとんどの文字を使用できますが、使用する文字は固有である必要があります。

User response: 「入力」および「表示」の標識および区切りに指定されている文字が固有であることを確認してください。

FMNDB195

Use unique characters (短). The character used to indicate the;"Null column display indicator" must be different to the character used to indicate the "Null column input indicator" Select a different character (長).

Explanation: ユーザーが、5 番目のエディター・オプション・パネルの「Input (入力)」および「Display (表示)」のヌル列標識に同じ文字を指定しました。ほとんどの文字を使用できますが、使用する文字は固有である必要があります。

User response: 「入力」および「表示」の標識および区切りに指定されている文字が固有であることを確認してください。

FMNDB196

Use unique characters (短). The character used to indicate the "Null column input indicator" must be different to the character used to indicate the "String delimiter (input)". Select a different character (長).

Explanation: ユーザーが、「Input (入力)」の NULL 列標識と「Input (入力)」のストリング区切り文字に同じ文字を指定しました。ほとんどの文字を使用できますが、使用する文字は固有である必要があります。

User response: 「入力」および「表示」の標識および区切りに指定されている文字が固有であることを確認してください。

FMNDB197

Use unique characters (短). The character used to indicate the "Null column display indicator" must be different to the character used to indicate the "String delimiter (input)". Select a different character (長).

Explanation: ユーザーが、「Display (表示)」のヌル列標識と「Input (入力)」のストリング区切り文字に同じ文字を指定しました。ほとんどの文字を使用できますが、使用する文字は固有である必要があります。

User response: 「入力」および「表示」の標識および区切りに指定されている文字が固有であることを確認してください。

FMNDB198

Use unique characters (短). The character used to indicate the "Null column input indicator" must be different to the character used to indicate the "String delimiter (display)". Select a different character (長).

Explanation: ユーザーが、「Input (入力)」のヌル列標識と「Display (表示)」のストリング区切り文字に同じ文字を指定しました。ほとんどの文字を使用できますが、使用する文字は固有である必要があります。

User response: 「入力」および「表示」の標識および区切りに指定されている文字が固有であることを確認してください。

FMNDB199

Use unique characters (短). The character used to indicate the "Null column display indicator" must be different to the character used to indicate the "String delimiter (display)". Select a different character (長).

Explanation: ユーザーが、「Display (表示)」のヌル列標識と「Display (表示)」のストリング区切り文字に同じ文字を指定しました。ほとんどの文字を使用できますが、使用する文字は固有である必要があります。

User response: 「入力」および「表示」の標識および区切りに指定されている文字が固有であることを確認してください。

FMNDB206

Not on remote object (短). The requested function can not be performed on an object at a remote location (長).

Explanation: このメッセージは、さまざまな環境で、要求されたコマンドが実行できないときに FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーによって発行されます。コマンドが実行できない理由は、オブジェクトがリモート・ロケーションにあることです。特定の SQL コマンド (例えば、GRANT および REVOKE) は、ローカル Db2® サーバーに接続されている場合にのみ発行することができます。

User response: リモート Db2® サーバーに直接接続し、コマンドを再発行してください。

FMNDb208

Not on catalog object (短). The requested function can not be performed on a Db2® catalog object (長).

Explanation: LISTCAT 行コマンドが Db2® カタログ・オブジェクトに対して発行されました。例えば、表あるいは索引スペースです。このコマンドは、Db2® カタログ・オブジェクトに対して発行することができません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB210

Invalid value (短). The valid values are 16, for an 8 byte number with 16 digit coefficient, or 34 for a 16 byte number with 34 digit coefficient (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト機能によって発行されます。DECFLOAT データ・タイプで定義された列では、16 または 34 以外の値が「PR」列に入力されます。

User response: 8 バイトの数値の場合は 16、16 バイトの数値の場合は 34 を入力してください。

FMNDB215

Unsupported data type (短). This File Manager Db2® function does not support columns of the specified data type. Supported data types are *List of data types* (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト機能によって発行されます。列のデータ・タイプを定義するときに、無効またはサポートされないデータ・タイプの値が入力されました。

User response: 入力されたデータ・タイプのスペルが正しいことを確認してください。サポートされるデータ・タイプのリストは、長いバージョンのメッセージに示されています。HELP に割り当てられた PF キー (デフォルトは PF1) を押してアクセスします。使用している Db2® のバージョンでデータ・タイプがサポートされていることを確認します。例えば、DECFLOAT データ・タイプは、Db2® バージョン 8 ではサポートされていません。

FMNDb216

Length error (短). The specified length, precision, or scale is not valid for the data type of the column (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト機能によって発行されます。値の長さ、精度、またはスケールに対して入力された値が無効です。

User response: 入力された値を確認してください。データ・タイプの長さの暗黙的値、指定することができるスケール値および精度値の詳細な情報については、「DB2 for z/OS SQL 解説書」資料で確認してください。

FMNDB217

Scale > precision (短). The scale of a decimal must be less than or equal to the precision of the number (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト機能によって発行されます。入力されたスケール値と精度値の組み合わせが無効です。

User response: 10 進数の場合、精度は 1 から 31 の数値が可能です。数値のスケールは、0 から p が可能です。ここで、p はその数値の精度です。

FMNDB220

Non updateable field (短). A field reference in a change command refers to a column that is not updateable (長).

Explanation: FM/Db2 エディターで、フィールド参照 (複数の場合もあります) を含む変更コマンドが発行されました。変更のターゲットの列は更新不可です。これは、提示された変更を行えないことを示します。

User response: フィールド参照が変更可能な列を示していることを確認してください。更新可能な列以外は、エディター表示で保護フィールドとして示されます。

FMNDB223

Start too large (短). The start position (*start position*) is larger than the number of rows (*number of rows*) in the result table.

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エディターによって発行されます。ユーザーが、Db2® 編集パネルの「Start position (開始位置)」フィールドに値 *start position* を入力しました。FM/Db2 が指定された開始位置へのスキップを試行したときに、結果表の末尾に到達しました。結果表の行数は *number of rows* です。

User response: これは、通知メッセージです。開始位置の値を *number of rows* 以下に減らし、操作を再試行してください。

FMNDb224

Start out of range (短). The first sample row is at row *row number*, which is larger than the number of rows, *number of rows*, in the result table. Reduce the start position and/or initial skip count values.

Explanation: このメッセージは、エディター・オプションでクラスター化サンプリングが選択されたときに FM/Db2 エディターによって発行されます。FM/Db2 が指定された開始位置へのスキップを試行したときに (「Start position (開始位置)」フィールドの値および「Initial skip count (初期スキップ・カウント)」フィールドの値で決定されます)、表の末尾に到達しました。結果表の行数は *number of rows* (n) です。

User response: これは、通知メッセージです。s+i+1 = n となるように「start positions」値と「Initial skip count」(i) 値の一方または両方を小さくしてください。

FMNDB240

Invalid collection (短). The collection must be different from the COPY collection (長).

Explanation: パッケージのコピーをバインドする場合、そのコレクションと COPY コレクションの値は異ならなければなりません。

User response: 別の値を指定してください。

FMNDB242

DASD data set required (短). This command can only be used on a row where DSNAME refers to a DASD data set (長).

Explanation: FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーによって表示されるイメージ・コピー項目に対して、「B」(Browse) コマンドが発行されました。browse コマンドは、DASD (ディスク) に保管されているイメージ・コピーのデータ・セットに関連付けられた項目に対してのみ入力することができます。このコマンドは処理できません。

User response: デバイス・タイプが非ブランクのイメージ・コピー・データ・セットに対してコマンドを発行してください。デバイス・タイプはテープ・タイプであってはなりません。

FMNDB245

No plan (短). The command is only valid when application plan is non-blank (長).

Explanation: PLAN 表の項目に対して DBRM コマンドが入力されました。このコマンドは、項目がアプリケーション・プランに関連付けられている (その行の APPLNAME 列が非ブランクである) 場合にのみ有効です。このコマンドは処理できません。

User response: APPLNAME 列の値が非ブランクであることを確認してください。

FMNDB246

No collection (短). The command is only valid when collection is non-blank (長).

Explanation: PLAN 表の項目に対して PACKage コマンドが入力されました。このコマンドは、項目がパッケージに関連付けられている (その行の COLLID 列が非ブランクである) 場合にのみ有効です。このコマンドは処理できません。

User response: COLLID 列の値が非ブランクであることを確認してください。

FMNDB247

No DBRM (短). The command is only valid when DBRM is non-blank (長).

Explanation: PLAN 表の項目に対して PACKage コマンドが入力されました。このコマンドは、項目が DBRM に関連付けられている (その行の PROGNAME 列が非ブランクである) 場合にのみ有効です。このコマンドは処理できません。

User response: PROGNAME 列の値が非ブランクであることを確認してください。

FMNDB250

Invalid SQL identifier (短). The value entered is not a valid SQL ordinary identifier (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーのさまざまな場所で発行されます。通常の SQL ID が必要なフィールドに値が入力されました。例えば、Db2® 許可 ID が「Owner (所有者)」または SQLID として使用されました。

User response: 通常の SQL ID には、A-Z、0-9、_、および国別文字以外の文字を含むことができません。また、先頭に数字を使用することはできません。厳密な定義については、Db2® SQL リファレンス・マニュアルを参照してください。各種タイプの Db2® 項目の有効値の完全なリストについては、付録『Db2® for z/OS® の制限』を参照してください。

FMNDb270

Invalid buffer pool (短). Valid buffer pool names are:List (長).

Explanation: バッファ・プールに対して入力された値が無効です。List は、入力可能な有効値を示しています。

User response: 入力された値と List の値を比較してください。入力された値を、List のいずれかの値と一致するように変更してください。操作を再試行してください。

FMNDb271

Db2® version invalid (短). Table constraints are only available when connected to a Db2® Version 8 or later system. Current® Db2® version is Db2 VRM indicator (長).

Explanation: FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーの表のリストに対して「CON」コマンド (表制約を表示します) が発行されました。Db2® バージョン 7 以前のシステムに接続されている場合、このコマンドは無効です。現在接続されている Db2® システムは Db2 VRM indicator で、「0800」未満です。コマンドを実行できません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDb272

Not valid for object (短). "line command" is not a valid command for this type of object (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーによってさまざまなコンテキストで発行されます。例えば、項目がビューではない場合に、Db2® 表/ビュー/別名のリスト内の項目に対して VS (ビュー SQL を表示します) を発行する場合などです。

User response: 入力されたコマンドが、その行に示されているオブジェクトのタイプに対して適切であることを確認してください。

FMNDb273

Not valid for function (短). "*Line command*" is only valid for external user-defined functions (長).

Explanation: このメッセージは、機能のリストを処理しているときに、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーによってさまざまなコンテキストで発行されます。行コマンドが入力された対象の行は、誤った機能タイプの行でした。このコマンドは、そのタイプの機能には適用されません。

User response: 機能のタイプは、「Type of Routine (ルーチンのタイプ)」列に示されます。適切なタイプの機能を示している行に対してコマンドを入力してください。

FMNDB274

No upgrade done (短). The PLAN_TABLE was already at the correct level (長).

Explanation: PLAN_TABLE をアップグレードするコマンドが発行されましたが、この表は既に正しいレベルでした。アクションはとられません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDb275

Not valid for column (短). "*Line command*" is not a valid command for this type of column. *List of types* (長).

Explanation: このメッセージは、列のリストを処理しているときに、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーによってさまざまなコンテキストで発行されます。行コマンドが入力された対象の行は、誤ったタイプの行でした。例えば、このコマンドは、ユーザー定義 (DISTINCT) のデータ・タイプで定義された列にのみ適用されます。コマンドを実行できません。

User response: アクションは不要です。通知メッセージ。 *List of types* には、コマンドを発行することが可能な列のタイプに関する情報が含まれています。

FMNDb276

Not valid for column (短). *Line command* is not a valid command for 'identity column' type sequence objects (長).

Explanation: FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーによって表示されるシーケンスのリスト内の行に対して、「COM」 (COMMENT) 行コマンドが発行されました。Db2® が使用する内部シーケンス・オブジェクトを表すシーケンスに対して、コメントを指定することはできません。コマンドを実行できません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB289

Data set required (短) This command can only be used on a row where DSNAME refers to a data set (長).

Explanation: ユーザーが、データ・セットに関連付けられていない FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーの「Recovery Information (リカバリー情報)」パネルのリスト内の項目に対して、「LC」 (LISTCAT) コマンドを発行しました。「Recovery Information (リカバリー情報)」パネルには、SYSIBM.SYSCOPY カタログ表内のすべての行が表示されません。LISTCAT コマンドのターゲットとして使用できるのは、完全イメージ・コピーおよび増分イメージ・コピーを示す行のみです。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。選択した行が完全コピーまたは増分コピーのいずれかを示していることを確認してください。例えば、データ・セットが削除されている場合など、コマンドが引き続き失敗する可能性があります。

FMNDB292

Invalid criteria (短). The criteria specified in the Additional Selection Criteria fields produced an invalid SQL SELECT statement WHERE clause. Db2® returned an SQL code of -199 to the SQL statement "SQL STATEMENT" (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーがパネルの「Additional selection criteria (追加の選択基準)」セクションに値を入力している場合に、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーによって発行されます。パネルのこのセクションを使用して、生成している SQL に単純な述部を追加することができます。例: 表をリストする場合に、EDITPROC を持つ表のみを表示します。これを実現するには、Column=EDPROC; Operator= ≠ Value = " を設定します。入力された式の結果として、SQLCODE-199 が発行され、続行することはできません。

User response: 「DB2 Administration Tool for z/OS User's Guide and Reference」で SQLCODE-199 を検索して、述部を変更し、操作を再試行してください。

FMNDB295

Invalid location (短). The location name is invalid or is not defined to the Db2® subsystem (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 機能入力パネルの「Location (ロケーション)」フィールドに値を入力しました。このリモート・サーバーに接続する試行は、SQLCODE-950 で失敗しました。

User response: 「Db2® SQL Messages and Codes」資料で SQLCODE-950 を検索してください。最も可能性が高い説明は、入力された値がローカル Db2® サーバーの列 SYSIBM.LOCATIONS.LOCATIONS に表示されないということです。値が誤っている場合は、その値を修正して操作を再試行してください。値が正しい場合は、Db2® システムの DRDA® 定義の保守責任者に連絡してください。

FMNDb296

No plan table (短). Plan table *owner.PLAN_TABLE* does not exist (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが「L」(List plan table rows) コマンドを実行したが、プラン表 *owner.PLAN_TABLE* が存在しない場合に、説明ユーティリティー機能によって発行されます。この操作を実行することはできません。

User response: PLAN_TABLE は、ユーザー定義の表です。説明ユーティリティーを使用すると、「owner (所有者)」値を指定することができます。この値が、ユーザーの PLAN_TABLE へのアクセスを妨げていないことを確認してください。FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーを使用して、PLAN_TABLE のすべての項目をリストすることができます。PLAN_TABLE が存在しない場合は、「C」コマンドを使用して作成してください。

FMNDB298

Incomplete quoted string (短). You entered an incomplete quoted string. Db2® returned an SQL code of -010 to the SQL statement *SQL Statement* (長).

Explanation: このメッセージは、生成された SQL ステートメントに構文エラー (具体的には、開始引用符付きストリング) が含まれている場合に発行されます。この SQL ステートメントを実行することはできません。

User response: SQL ステートメントを調査して、開始引用符付きストリングのソースを判別してください。入力された値を変更して問題を回避し、操作を再試行してください。

FMNDB299

Not COPY FULL (短). The RT command is only valid against an image copy entry (長).

Explanation: ユーザーが、データ・セットに関連付けられていない FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティの「Recovery Information (リカバリー情報)」パネルのリスト内の項目に対して、「RT」(Recover TOCOPY) コマンドを発行しました。「Recovery Information (リカバリー情報)」パネルには、SYSIBM.SYSCOPY カタログ表内のすべての行が表示されます。RT コマンドのターゲットとして使用できるのは、完全イメージ・コピーおよび増分イメージ・コピーを示す行のみです。

User response: 選択した行が完全イメージ・コピーまたは増分イメージ・コピーのいずれかを示していることを確認してください。

FMNDB300

No previous template has been used with this Db2® object (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが「Template usage (テンプレート使用法)」オプションに「Previous (直前の指定)」を指定した場合に、File Manager/Db2 機能入力パネルによって発行されます。しかし、現行の Db2® オブジェクトに対して以前に保管されたテンプレートがありません。

User response: 「Generate/Replace (生成/置き換え)」テンプレート使用法オプションを使用して、現行の Db2® オブジェクト用のテンプレートを生成して保管することができます。テンプレートが正常に保管されたら、「Previous (直前の指定)」オプションを使用してそのテンプレートにアクセスします。この場合、テンプレートのデータ・セット名あるいはメンバーを入力する必要はありません。

FMNDB301

Invalid FM/Db2 template (短). The specified template does not represent a FM/Db2 template. Specify a valid FM/Db2 template (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが Db2® オブジェクト用のテンプレートのデータ・セット名を指定し、その指定されたテンプレートを使用する必要がある場合に、File Manager/Db2 機能入力パネルによって発行されます。しかし、指定されたテンプレートが有効な FM/Db2 テンプレートではありません。テンプレートのソースに応じて、異なるタイプの File Manager テンプレートがあります。Base テンプレートを使用して、Db2® オブジェクトを記述することはできません。

User response: 「Generate/Replace (生成/置き換え)」テンプレート使用法オプションを使用して、現行の Db2® オブジェクト用のテンプレートを生成して保管することができます。テンプレートが正常に保管されたら、そのテンプレートにアクセスしたり、該当する FM/Db2 機能入力パネルで「Edit template (テンプレートの編集)」オプションを使用してテンプレートを変更したりすることができます。

FMNDB302

FM/Db2 template loaded (短). File Manager Db2 component template has been successfully loaded (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが Db2® オブジェクト用のテンプレートのデータ・セット名を指定し、その指定されたテンプレートを Db2® オブジェクトの処理中に使用する必要がある場合に、File Manager/Db2 機能入力パネルによって発行されます。指定されたテンプレートは正常にロードされ、Db2® オブジェクトに対して比較されました。それにより、Db2® オブジェクトの有効な記述が含まれていることが検出されました。

User response: アクションは不要です。通知メッセージ。

FMNDB303

Template not loaded (短). Loading of FM/Db2 template canceled by user. Row selection criteria for the template must be revised before proceeding (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが Db2® オブジェクト用のテンプレートのデータ・セット名を指定し、その指定されたテンプレートを Db2® オブジェクトの処理中に使用する必要がある場合に、File Manager/Db2 機能入力パネルによって発行されます。FM/Db2 で、ユーザーが指定したテンプレートと、FM/Db2 により Db2® カタログ内の情報を使用して生成されたテンプレートが比較され、相違が検出されました。通常、このメッセージの前に「Template not matched (テンプレートが一致しません)」パネルが表示されます。ユーザーが、「Template not matched (テンプレートが一致しません)」パネルで PF3 を押しました。ほとんどの場合、このエラーは、ユーザー指定のデータ・セット内のテンプレートが、機能入力パネルで指定されたのとは別の Db2® オブジェクトを参照していることを意味します。メッセージ FMN DB304 も参照してください。

User response: データ・セット・テンプレートと Db2® オブジェクトの間に相違がある原因を解決し、操作を再試行してください。FM/Db2 は、必ず Db2® オブジェクトのテンプレートを生成し、そのテンプレートをユーザー指定のテンプレートと比較します。その際に、前者のテンプレートが正しいと見なすことに注意してください。2つのテンプレートに不整合がある理由は多くあります (例えば、Db2® オブジェクトが異なる場合や、オブジェクトが除去、変更、および再作成された場合など)。

FMNDB304

Template mismatch (短). The selected template does not match the Db2® object. Press ENTER to replace selected template, or PF3/END to select another template or processing option (長).

Explanation: このメッセージが File Manager/Db2 機能入力パネルによって発行されるのは、ユーザーが Db2® オブジェクト用のテンプレートのデータ・セット名を指定する場合、およびそのテンプレートが Db2® オブジェクトの処理中に使用される必要があるとユーザーが指定する場合です。FM/Db2 で、ユーザーが指定したテンプレートと、FM/Db2 により Db2® カタログ内の情報を使用して生成されたテンプレートが比較され、相違が検出されました。通常、このメッセージと同時に「Template not matched (テンプレートが一致しません)」パネルが表示されます。

User response: 2つの選択項目があります。1. PF3 を押して、現行の機能を取り消します。その後、指定したテンプレートのデータ・セットが Db2® オブジェクトに一致しない原因を解決し、操作を再試行します。2. Enter を押して、データ・セット内のテンプレートを Db2® オブジェクト用の正しいバージョンに置き換えます。データ・セット・テンプレート内に保管されているカスタマイズは、すべて失われます。FM/Db2 は、必ず Db2® オブジェクトのテンプレートを生成し、そのテンプレートをユーザー指定のテンプレートと比較します。その際に、前者のテンプレートが正しいと見なすことに注意してください。2つのテンプレートに不整合がある理由は多くあります (例えば、Db2® オブジェクトが異なる場合や、オブジェクトが除去、変更、および再作成された場合など)。

FMNDB305

Template not updated (短). Loading of File Manager Db2 component template canceled by user as the specified template does not match the Db2® object. Specify another template or processing option (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが Db2® オブジェクト用のテンプレートのデータ・セット名を指定し、その指定されたテンプレートを Db2® オブジェクトの処理中に使用する必要がある場合に、File Manager/Db2 機能入力パネルによって発行されます。FM/Db2 で、ユーザーが指定したテンプレートと、FM/Db2 により Db2® カタログ内の情報を使用して生成されたテンプレートが比較され、相違が検出されました。ユーザーが、テンプレートのマージ処理を取り消しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB310

No statement table (短). Plan table *Owner.DSN_STATEMNT_TABLE* does not exist (長).

Explanation: このメッセージは、*Owner.DSN_STATEMNT_TABLE* へのアクセスが試行されたときに発行されます。ユーザー定義の表が存在しないため、この操作を実行することができません。

User response: FM/Db2 説明ユーティリティー機能を使用して、表を作成してください。EXPLAIN コマンドを使用して表を準備した後、操作を再試行してください。

FMNDB311

No function table (短). Plan table *Owner.DSN_FUNCTION_TABLE* does not exist (長).

Explanation: このメッセージは、*Owner.DSN_FUNCTION_TABLE* へのアクセスが試行されたときに発行されます。ユーザー定義の表が存在しないため、この操作を実行することができません。

User response: FM/Db2 説明ユーティリティー機能を使用して、表を作成してください。EXPLAIN コマンドを使用して表を準備した後、操作を再試行してください。

FMNDB330

Invalid row number (短). Either a row number has not been specified, or a specified value is invalid (長)

Explanation: ユーザーが LOB 列または XML 列を処理するコマンドを入力しました。コマンドの一部として指定された行番号が無効です。カーソル位置を使用すれば、問題の列がある行を指定できます。その場合、行番号は不要です。カーソル位置が使用されない場合は、行番号が必要になります。このメッセージは、無効な値 (数値以外) が行番号に対して指定されたときに発行される可能性があります。

User response: コマンドの構文を確認して、コマンドを再発行してください。

FMNDB331

Row *Row* not found (短). The specified row number *Row* does not exist in the Db2® object, or result table (長).

Explanation: ユーザーが LOB 列または XML 列を処理するコマンドを入力しました。コマンドの一部として指定された行番号は、現行エディター・セッションに含まれないため無効です。このコマンドは処理できません。

User response: 行番号値を調べて、その値が 1 から現行エディター・セッションでの最大行数までの範囲にあることを確認してください。

FMNDB332

Not on XML/LOB column (短). The cursor is not positioned on an XML/LOB column (長).

Explanation: ユーザーが LOB 列または XML 列を処理するコマンドを入力しました。表示のデータ域内にカーソルの位置が決められ、FM/Db2 がカーソル位置を使用して対象の列と行を識別しようとした。カーソルが位置する列は LOB 列でも XML 列でもありません。このコマンドは処理できません。

User response: カーソル位置を確認して、コマンドに適したタイプの列にカーソル位置が来るようにしてください。

FMNDB333

J command invalid (短). The J command is only valid in a File Manager/Db2 editor session of a LOB. (long).

Explanation: ユーザーが File Manager の編集/表示セッションで J 接頭部コマンドを入力しました。このコマンドは、LOB を処理するときに File Manager/Db2 コンポーネント・エディター・セッション (つまり、LOBVIEW コマンドまたは LOBEDIT コマンドで開始された表示/編集セッション) でのみ使用できます。このコマンドは処理できません。

User response: なし。これは通知メッセージです。

FMNDB334

SP command invalid (短). The SP command is only valid in a File Manager/Db2 editor session of a LOB. (long).

Explanation: ユーザーが File Manager の編集/表示セッションで SP 接頭部コマンドを入力しました。このコマンドは、LOB を処理するときに File Manager/Db2 コンポーネント・エディター・セッション (つまり、LOBVIEW コマンドまたは LOBEDIT コマンドで開始された表示/編集セッション) でのみ使用できます。このコマンドは処理できません。

User response: なし。これは通知メッセージです。

FMNDB335

Large table mode is not available when the object being processed contains LOB or XML columns. Specify a row count greater than zero to process this Db2® object (長).

Explanation:

このメッセージは、以下の場合に「FM/Db2 editor function entry」パネルで発行されます。

1. LOB 列または XML 列を含む Db2® オブジェクトの名前をユーザーが入力した場合。
2. 行カウント値が 0 (ほかに * または ALL) に設定されている場合。

この組み合わせはサポートされていません。Db2® オブジェクトに LOB 列や XML 列が含まれている場合は、大規模エディター・モードは使用できません。

User response: 行カウントを変更して、正整数値を指定してください。

FMNDB336

Non-updateable field (短). LOB (BLOB、CLOB、DBCLOB) および XML フィールドは、CHANGE コマンドを使用して変更できません。LOBEDIT または XMLEDIT を使用して、LOB/XML 列の内容を表示し、場合によっては変更します。

Explanation: LOB (CLOB、BLOB、または DBCLOB) または XML 列であるターゲット列を使用して変更コマンドが入力されました。これはサポートされていません。

User response: LOBEDIT コマンドまたは XMLEDIT コマンドを使用して、LOB/XML データを編集します。

FMNDB337

LOB/XML Columns (短). The result table for the SELECT statement contains either LOB or XML columns. Display of the result table is not supported. Use Browse, View or Edit of the Db2® object containing the LOB/XML columns to display, and possibly change, LOB and XML data (長).

Explanation: ユーザーが FM/Db2 オプション 4.1 から 4.4 までを使用して SELECT ステートメントを入力しました。SELECT ステートメントの結果表には LOB 列または XML 列が含まれています。結果表の表示はサポートされていません。この操作は実行できません。

User response: LOB データまたは XML データを表示し、場合によって変更するには、FM/Db2 エディター機能 (ブラウズ、表示、または編集) を使用して、LOB 列または XML 列を含む Db2® オブジェクトの名前を指定してください。

FMNDB338

XML Columns (短). Edit of objects with XML columns is only supported when the target Db2® system is at Db2® V10 NFM. The function cannot be performed (長)

Explanation: ユーザーが、FM/Db2 エディターを使用して、XML 列を含む Db2® オブジェクトを処理しようとした。ターゲット Db2® システムが Db2® V10 (またはそれ以降) の新規機能モードになっていません。Db2® オブジェクトの表示はサポートされていません。この操作は実行できません。

User response: XML データを表示し、場合によって変更するには、ターゲット Db2® システムが Db2® V10 以降の新規機能モードになっていなければなりません。

FMNDB339

Length error (短). *Len* The maximum length of the LOB *Len* has been exceeded. Either reduce the amount of data or cancel out of the LOB editor session (長).

Explanation: このメッセージは、File Manager/Db2 LOB エディター・セッションで変更された内容を保管するときに発行されます。LOB データの合計長が LOB 列の最大サイズを超えてしまいます。LOB エディター・セッションで変更された内容を保管できません。

User response: LOB データのサイズを減らすか、または CANCEL コマンドを発行して変更内容を破棄してください。元のエディター・セッションで TE コマンドを使用すれば、LOB の最大長を確認できます。元のエディター・セッションで LOBLEN コマンドを使用すれば、LOB 列の現行の長さを表示できます。

FMNDB340

Not a LOB column (短). The field reference does not identify a LOB column (長).

Explanation: LOB 列を処理するコマンド (LOBLEN、LOBBRWS、LOBVIEW、または LOBEDIT) をユーザーが発行しました。指定されたフィールド参照では、LOB 列は識別されません。このコマンドは処理できません。

User response: コマンドの一部として入力したフィールド参照を調べて、そのフィールドで LOB 列が識別されることを確認してください。コマンドを再発行してください。

FMNDB341

Not a LOB column (短). The column at the cursor position is not a LOB column (長).

Explanation: 対象となる行および LOB 列を識別するためにカーソル位置を使用して、LOB 列を処理するコマンド (LOBLEN、LOBBRWS、LOBVIEW、または LOBEDIT) をユーザーが発行しました。識別された列は LOB 列ではありません。このコマンドは処理できません。

User response: カーソルが LOB 列の境界内にあることを確認してください。コマンドを再発行してください。

FMNDB342

LOB Length = *Length* (短). The length of the LOB data (Row number = *Row number*, REF# = *Field Ref*) is *Length* (長).

Explanation: ユーザーが LOBLEN コマンドを発行しました。Length は、識別された列の長さです。Row number は、識別された列を含む行の行番号です。Field Ref は、LOBLEN コマンドで入力されたフィールド参照値です。

User response: なし。これは通知メッセージです。

FMNDB343

No LOB columns (短). The Db2® object does not contain any LOB columns (長).

Explanation: LOB 列を処理するコマンド (LOBLEN、LOBBRWS、LOBVIEW、または LOBEDIT) をユーザーが発行しましたが、処理対象の Db2® オブジェクトに LOB 列は含まれていません。このコマンドは処理できません。

User response: なし。これは通知メッセージです。

FMNDB344

LOBVIEW not available (短). LOBVIEW is not available. You may only view a LOB column from a view or edit session (not browse) of the parent table (長).

Explanation: ユーザーが File Manager/Db2 ブラウズ・セッションから LOBVIEW コマンドを発行しました。File Manager/Db2 ブラウズ・セッションで使用できる LOB 関連コマンドは LOBLEN および LOBBRWS のみです。このコマンドは処理できません。

User response: LOBBRWS コマンドを代わりに使用してください。LOBVIEW が必要な場合は、エディター・セッションを終了して、表示機能が編集機能を使用するエディターを再度呼び出してください。

FMNDB345

LOBEDIT not available (短). LOBEDIT is not available. You may only edit a LOB column from an edit session (not browse or view) of the parent table (長).

Explanation: ユーザーが File Manager/Db2 ブラウズ・セッションまたは FM/Db2 表示セッションから LOBEDIT コマンドを発行しました。File Manager/Db2 ブラウズ・セッションで使用できる LOB 関連コマンドは LOBLEN および LOBBRWS のみです。File Manager/Db2 表示セッションで使用できる LOB 関連コマンドは LOBLEN、LOBBRWS、および LOBVIEW のみです。このコマンドは処理できません。

User response: 説明にあるいずれかの使用可能なコマンドを使用してください。LOBEDIT が必要な場合は、エディター・セッションを終了して、編集機能を使用するエディターを再度呼び出してください。

FMNDB346

Empty LOB (短). The LOB has no data (長).

Explanation: このメッセージは、LOB 列のデータが FM/Db2 LOB エディターによって最初に表示されるときに発行されます。LOB 列にデータがありません。

User response: なし。これは通知メッセージです。

FMNDB347

Command not supported (短). XML フィールドは、CICS ではブラウズ、表示、または編集できません。(長)

Explanation: XML 列を処理するコマンド (XMLBRWS、XMLVIEW、または XMLEDIT) が発行されました。これらのコマンドは、FM/CICS インターフェースを使用する場合は使用できません。

User response: なし。

FMNDB348

No matching columns (短). The Db2® object contains LOB columns, however there are no selected LOB columns. You can use the TEdit command to change the selection status for a column (長).

Explanation: LOB 列を処理するコマンド (LOBLEN、LOBBRWS、LOBVIEW、または LOBEDIT) をユーザーが発行しましたが、オブジェクトのテンプレートが変更されて、一部の LOB 列が表示されなくなりました。このコマンドは処理できません。

User response: Tedit コマンドを発行して [Column Selection/Edit] パネル (テンプレート・エディター) を表示してください。対象の LOB 列の選択状況を変更して、結果の変更を保管してください。コマンドを再発行してください。

FMNDB349

BLOB edit not supported (短). Edit of a binary large object column is not supported (長).

Explanation: LOBEDIT コマンドが BLOB 列に対して発行されました。BLOB データの編集はサポートされていません。このコマンドは処理できません。

User response: なし。これは通知メッセージです。

FMNDB350

Not an XML column (短). The field reference does not identify an XML column (長).

Explanation: XML 列を処理するコマンド (XMLLEN、XMLBRWS、XMLVIEW、または XMLEDIT) をユーザーが発行しました。指定されたフィールド参照では、XML 列は識別されません。このコマンドは処理できません。

User response: コマンドの一部として入力したフィールド参照を調べて、そのフィールドで XML 列が識別されることを確認してください。コマンドを再発行してください。

FMNDB351

Not an XML column (短). The column at the cursor position is not an XML column (長).

Explanation: 対象となる行および XML 列を識別するためにカーソル位置を使用して、XML 列を処理するコマンド (XMLLEN、XMLBRWS、XMLVIEW、または XMLEDIT) をユーザーが発行しました。識別された列は XML 列ではありません。このコマンドは処理できません。

User response: カーソルが XML 列の境界内にあることを確認してください。コマンドを再発行してください。

FMNDB352

XML Length = Length (短). The length of the XML data (Row number = Row number, REF# = Field Ref) is Length (長).

Explanation: ユーザーが XMLLEN コマンドを発行しました。Length は、識別された列の長さです。Row number は、識別された列を含む行の行番号です。Field Ref は、XMLLEN コマンドで入力されたフィールド参照値です。

User response: なし。これは通知メッセージです。

FMNDB353

No XML columns (短). The Db2® object does not contain any XML columns (長).

Explanation: XML 列を処理するコマンド (XMLLEN、XMLBRWS、XMLVIEW、または XMLEDIT) をユーザーが発行しましたが、処理対象の Db2® オブジェクトに XML 列は含まれていません。このコマンドは処理できません。

User response: なし。これは通知メッセージです。

FMNDB354

XMLVIEW not available (短). XMLVIEW is not available. You may only view an XML column from a view or edit session (not browse) of the parent table (長).

Explanation: ユーザーが File Manager/Db2 ブラウズ・セッションから XMLVIEW コマンドを発行しました。File Manager/Db2 ブラウズ・セッションで使用できる XML 関連コマンドは XMLLEN および XMLBRWS のみです。このコマンドは処理できません。

User response: XMLBRWS コマンドを代わりに使用してください。XMLVIEW が必要な場合は、エディター・セッションを終了して、表示機能が編集機能を使用するエディターを再度呼び出してください。

FMNDB355

XMLEDIT not available (短). XMLEDIT is not available. You may only edit an XML column from an edit session (not browse or view) of the parent table (長).

Explanation: ユーザーが File Manager/Db2 ブラウズ・セッションまたは FM/Db2 表示セッションから XMLEDIT コマンドを発行しました。File Manager/Db2 ブラウズ・セッションで使用できる XML 関連コマンドは XMLLEN および XMLBRWS のみです。File Manager/Db2 表示セッションで使用できる LOB 関連コマンドは XMLLEN、XMLBRWS、および XMLVIEW のみです。このコマンドは処理できません。

User response: 説明にあるいずれかの使用可能なコマンドを使用してください。XMLEDIT が必要な場合は、エディター・セッションを終了して、編集機能を使用するエディターを再度呼び出してください。

FMNDB356

Invalid target column (短). FMAP cannot be used with BLOB, CLOB, DBCLOB, or XML columns. (長)

Explanation: FMAP コマンドが LOB (CLOB、BLOB、または DBCLOB) 列または XML 列に対して発行されました。これはサポートされていません。

User response: なし。

FMNDB358

No matching columns (短). The Db2® object contains XML columns, however there are no selected XML columns. You can use the TEdit command to change the selection status for a column (長).

Explanation: XML 列を処理するコマンド (XMLLEN、XMLBRWS、XMLVIEW、または XMLEDIT) をユーザーが発行しましたが、オブジェクトのテンプレートが変更されて、一部の XML 列が表示されなくなりました。このコマンドは処理できません。

User response: Tedit コマンドを発行して「Column Selection/Edit」パネル (テンプレート・エディター) を表示してください。対象の XML 列の選択状況を変更して、結果の変更を保管してください。コマンドを再発行してください。

FMNDB359

Error line *Line* (短). The Db2® XML parser reported an error on or near line *Line* (長).

Explanation: このメッセージは、XML エディター・セッションで変更された内容を保管しようとしたときに反応して発行されます。XML 文書に構文エラーがあり、更新された文書を Db2® オブジェクトに保管できません。*Line* は、構文エラーがある行の番号を示しています。構文エラーが修正されるまで、この XML 文書は保管できません。

User response: 指定の行番号を見つけて構文エラーを修正し、XML 編集セッションを再度終了してみてください。エラーを解決できない場合は、CANCEL コマンドを発行して変更内容を破棄してください。

FMNDB360

Invalid target column (短). FMAP cannot be used when the column cannot be updated, for example, columns defined with the GENERATED attribute

Explanation: GENERATED 属性を持つ列に対して FMAP エディター基本コマンドが発行されました。これはサポートされていません。

User response: なし。

FMNDB362

Null XML column (短). The XML column has the NULL value (長).

Explanation: XMLEDIT コマンドが XML 列に対して発行されました。The XML column has the Db2® NULL value.

User response: なし。

FMNDB363

Unable to process (短). The object being edited does not include all columns of any unique indexes defined on the base table. FM/Db2 is unable to uniquely identify rows in the result table using SQL - this is required for XMLedit functionality (長).

Explanation: XML 列に対して XML 編集操作が発行されました。処理中のオブジェクトは Db2® ビューです。ビューの列には、ビューの基本表に定義された固有索引のすべての列が含まれているわけではありません。この状態で、FM/Db2 は XML エディターの機能に必要な結果表内の行を一意的に識別することはできません。このコマンドは処理できません。

User response: ビューが参照する基本表を使用して、操作を再試行してください。

FMNDB364

Unable to process (短). An attempt to obtain the RID value for the row failed. The RID value is required for XMLedit functionality (長).

Explanation: XML 列に対して XML 編集操作が発行されました。処理中のオブジェクトは Db2® ビューです。FM/Db2 は、処理する XML 文書を含む行の RID 値を抽出しようとした。この操作は失敗しました。このコマンドは処理できません。

User response: ビューが参照する基本表を使用して、操作を再試行してください。

FMNDB367

LOB column(s) (短). Import/Copy of tables containing LOB (BLOB, CLOB or DBCLOB) columns is not supported (長).

Explanation: LOB (BLOB、CLOB、または DBCLOB) 列を含むデータのインポートまたはコピーが試行されました。これはサポートされていません。

User response: なし。

FMNDB368

XML column(s) (短). Import/Copy of tables containing XML columns is not supported (長).

Explanation: XML 列を含む表へのデータのインポートまたはコピーが試行されました。これはサポートされていません。

User response: なし。

FMNDB370

警告: Saving changes to the SQL statement invalidates any expression previously entered using the "Row Selection Criteria" panel (長).

Explanation: 「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルを使用して条件が指定された後で、テンプレート・エディターで SQL コマンドが発行されました。SQL コマンドと「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルを使用して発行された式は相互に排他的です。SQL コマンドを使用して入力された式を保存すると、「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルを使用して入力された式が破棄されます。

User response: これは、通知メッセージです。一般に、「SQL」パネルは、「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルを使用して入力できない式、またはネイティブ SQL の入力に慣れているユーザーを対象としています。

FMNDB371

Not allowed. (短). You cannot de-select columns when creating data using the FM/Db2 data create function. When a row is inserted, every column of the object is affected. (長)

Explanation: FM/Db2 データ作成ユーティリティーで指定された Db2 オブジェクトに対して、テンプレート内の列の選択解除が試行されました。これはサポートされていません。

User response: テンプレートのすべての列が選択されている必要があります。

FMNDB372

De-selected columns (短). You may not de-select columns when creating data using the FM/Db2 data create function. When a row is inserted, every column of the object is affected. (長)

Explanation: FM/Db2 データ作成ユーティリティーで指定された Db2 オブジェクトを持つ、選択解除されている列を持つテンプレートの使用が試行されました。これはサポートされていません。

User response: テンプレートのすべての列が選択されている必要があります。

FMNDB373

Command not available (短). Commands such as INSERT, REPEAT, COPY, and GET are not available when the editor is operating in large mode. (長)

Explanation: FM/Db2 エディター・セッションで、大規模編集モードで操作するコマンドが発行されました。この編集モードでは、エディター・セッションに行が追加されることとなります。例: INSERT、COPY、REPEAT、および GET。これはサポートされていません。

User response: 大規模表モードで編集する場合は、新規行を挿入できません。

FMNDB400

Incomplete clause (短). The syntax clause just exited is not yet complete (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが何も選択せずにコード・フラグメントの構文図を終了した場合に、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB401

Command command ignored (短). You entered the *Command* command but the cursor was not on a syntax element (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーがコマンドに割り当てられた PF キー (例えば、デフォルトで PF5 には INSRPT が割り当てられています) を押してもカーソルが該当する構文エレメントに移動しない場合に、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。このコマンドを実行することはできません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB402

Command command ignored (短). You entered the *Command* command with the cursor on a syntax element but the element is not in a repeat group (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーがコマンドに割り当てられた PF キー (例えば、デフォルトで PF5 には INSRPT が割り当てられています) を押してもカーソルが該当する構文エレメントに移動しない場合に、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。一部のコマンドは、反復可能な構文エレメントにのみ適用可能です。このコマンドを実行することはできません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB403

No data entered (短). No data was entered for the data entry syntax element (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが値を入力せずにデータ入力構文エレメントを終了した場合に、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。例えば、「table reference clause (表参照文節)」の「table (表)」オプションなどです。Db2® 表名 (DSN8x10.EMP など) が必要です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。このエレメントが SQL 構文の必須部分である場合、有効な値を入力して SQL SELECT ステートメントを完全なものにする必要があります。

FMNDB404

Statement empty (短). You entered a scroll command but there is no generated statement data (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーがスクロール・コマンドを入力した (または、スクロール・コマンドに割り当てられた PF キーを押した) が、スクロールするデータがない場合に、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB405

End of data (短). The last line of the generated statement is already displayed (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーがスクロールダウン・コマンドを入力した (または、スクロールダウン・コマンドに割り当てられた PF キーを押した) が、生成されたステートメントの最後の行が既に表示されている場合に、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。これ以上のスクロールはできません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB406

Top of data (短). The first line of the generated statement is already displayed (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーがスクロールアップ・コマンドを入力した (または、スクロールアップ・コマンドに割り当てられた PF キーを押した) が、生成されたステートメントの最初の行が既に表示されている場合に、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。これ以上のスクロールはできません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB407

Autoscrollled (短). The generated statement has changed, and the statement generation area has been scrolled to bring the end of the data into view (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。生成中の SELECT ステートメントが、ユーザー入力によって変更されました。生成されたステートメントの表示が自動的にスクロールされ、ステートメントの最後の部分が表示されました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB408

Statement too long (短). The length of the generated statement exceeds the maximum length allowed for the target system: execution failure expected (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。生成された SQL ステートメントの長さが、32765 バイト (この機能の制限) を超えています。ステートメントの実行は失敗することは予想されるため、試行しないでください。Db2® は最大 2M-1 の SQL ステートメントをサポートしますが、ISPF においては File Manager によって 32K-2 に制限されます。

User response: 現行の操作を取り消して、再度開始してください。

FMNDB409

Repeat separator invalid (短). A repeat separator cannot be entered because no elements of the repeat item have been selected (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが反復分離文字 (例えば、AND、OR など) の追加を試行したが、反復可能項目が選択されていない場合に、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。

User response: 反復分離文字の挿入を試行する前に、少なくとも 1 つの反復可能項目を選択してください。

FMNDB410

Nothing to execute (短). The EXECUTE command cannot be executed because no statement has been generated for execution (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。ユーザーが EXECUTE コマンドを入力したか、あるいは EXECUTE に割り当てられた PF キーを押しましたが、SELECT ステートメントが生成されていません。

User response: 実行を試行する前に、プロトタイプ機能を使用して、SELECT ステートメントを生成してください。

FMNDB411

Repeat separator invalid (短). There is no repeat separator associated with the last repeated element (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。反復分離文字の挿入が試行されましたが、最後に反復したエレメントに対する反復分離文字がありません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。疑わしい場合は、Db2® SQL リファレンス・マニュアルで SELECT の構文図を確認してください。

FMNDB412

Nothing to execute (短). The EXECUTE command cannot be executed because no statement has been entered for execution (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。ユーザーが EXECUTE コマンドを入力しましたが、SQL ステートメントの入力域が空白です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB413

Invalid statement type (短). An invalid statement or a statement that is not dynamically executable was found in the statement entry area (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが入力した SQL ステートメントが動的に準備/実行することができない場合に、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。例えば、'CONNECT TO server' などです。これは、アプリケーション・プログラムでのみコーディングできます。このステートメントを動的に準備および実行することはできません。この操作を実行することはできません。

User response: 動的に準備/実行することができる/できないステートメントについて詳しくは、Db2® SQL リファレンス・マニュアルを確認してください。

FMNDB414

Statement type statement executed (SQL cost *Cost*)

Explanation: このメッセージは、一部の SQL ステートメントの実行が正常に完了した後に、FM/Db2 機能によって発行されます。*Statement type* は SELECT、INSERT などです。*Cost* は、SQL ステートメントが準備されたときに Db2® から返される値のタイマーであり、そのステートメントを実行したときのコストの相対的な見積もりを示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB415

count statements executed (SQL cost *Cost*).

Explanation: このメッセージは、複数の SQL ステートメントの実行が正常に完了した後に、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。*Count* は、実行された SQL ステートメントの数です。それらのステートメントは、そのタイプがそれぞれ異なっている場合があります。*Cost* は、各 SQL ステートメントが準備されたときに Db2® によって返された値のタイマーの合計です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB419

Execution error (短). SQL execution failed. The cursor is placed on the start of the failing statement, or for a syntax error, on the token in error.

Explanation: このメッセージは、一部の SQL ステートメントの実行が失敗した場合に、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。エラーのタイプに応じて、カーソルが失敗した SQL ステートメントの先頭に移動したり、エラーがあると考えられる SQL ステートメント内の字句に移動したりします。

User response: 構文エラーの場合、カーソル位置は Db2® 構文解析プログラムで決定されているように、失敗した字句の場所です。実際のエラーは、ステートメント内でカーソル位置より前にある場合があります。例: SELECT FROM DSN8810.EMP が SQLCODE-104 を示し場合、カーソル位置は「DSN8810.EMP」の最後です。実際のエラーは、SELECT キーワードの後の「*」の欠落です。そのステートメントの構文図については、Db2® SQL リファレンス・マニュアルでステートメント・タイプについて確認してください。

FMNDB420

Data truncated (短). Data found beyond column 72 in the SQL edit session has been discarded (長).

Explanation: このメッセージは、SQL コマンドへの応答で表示された ISPF エディター・セッションをユーザーが終了した後に、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。ISPF エディター・セッション内で SQL ステートメントを変更することができますが、ステートメントは、列 1 から 72 に入力する必要があります。列 73 から 80 に入力されたデータは切り捨てられます (破棄されます)。

User response: SQL ステートメントを調査して、切り捨てが発生した場所を判別し、修正してください。

FMNDB421

SQL too long (短). The SQL data returned from the SQL edit session was too large for the execution buffer. Some lines have been discarded (長).

Explanation: このメッセージは、SQL コマンドへの応答で表示された ISPF エディター・セッションをユーザーが終了した後に、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。ISPF エディター・セッションで入力された SQL

ステートメントの一部が、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能の表示域にコピーされた可能性があります。ステートメントが長すぎます。

User response: ISPF エディター・セッションでの SQL ステートメントのコーディングに使用する行数を削減することで、この問題を回避できる場合があります。例えば、ステートメント内の空白スペースの一部を削除することによって行数を削減します。

FMNDB422

Nothing to edit (短). There is no SQL statement for the SQL command to edit (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 拡張 SELECT プロトタイピング機能によって発行されます。ユーザーが SQL コマンドを入力しましたが、ISPF エディター・セッションで表示する SQL がありませんでした。SQL コマンドは処理できません。

User response: SQL コマンドを入力する前に、SQL SELECT ステートメントの一部を入力してください。

FMNDB423

Select an option (短). Either edit or execute must be selected (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 編集/実行 SQL (データ・セット) 機能によって発行されます。「Edit data set (データ・セットの編集)」および「Execute SQL from data set (データ・セットから SQL を実行)」オプションのいずれも選択されていません。

User response: この機能を使用するには、「Edit data set (データ・セットの編集)」および「Execute SQL from data set (データ・セットから SQL を実行)」オプションのいずれかまたは両方を選択する必要があります。

FMNDB424

Statement type statement Action.

Explanation: このメッセージは、SELECT、DELETE、または UPDATE 以外の SQL ステートメントが処理されると、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。*Statement type* はステートメントのタイプ (例えば、SET) です。また、*Action* は操作のタイプを示します。例えば、「executed」です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB425

count statements Action

Explanation: このメッセージは、複数の SQL ステートメントが処理されると、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。*count* はステートメントのタイプです。また、*Action* は操作のタイプを示します。例えば、「executed」です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB426

SQL execution failed (*count* statement(s) executed successfully).

Explanation: このメッセージは、複数の SQL ステートメントが処理された後に、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。1 つ以上の SQL ステートメントの実行が失敗しましたが、*count* 個のステートメントは正常に処理されました。

User response: 処理された SQL ステートメントのリストを調査して、ステートメント (複数の場合があります) の実行の失敗が適切であるかどうか判別してください。

FMNDB427

No columns selected (短). The EXECUTE command cannot be executed because no columns have been selected from which to retrieve data (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 基本 SELECT プロトタイプ機能によって発行されます。ユーザーが SQL SELECT ステートメントの実行を試行しましたが、SELECT ステートメントが不完全で、実行することができません。SELECT 文節で列が指定されていません。

User response: ステートメントを実行可能にするには、SELECT ステートメントで、少なくとも 1 つの列を指定する必要があります。列の項目の横に「S」を入力して 1 つの列を選択するか、あるいは「ALL」を使用してすべての列を選択します。

FMNDB429

Value required (短). A value must be entered to build a where clause predicate (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 基本 SELECT プロトタイプ機能によって発行されます。ユーザーが、「Op」(演算子) 列に値を入力しましたが、対応する「Value (値)」列に値が入力されていません。有効な WHERE 文節を構成するには、COLUMN *operator value* の形式の値が必要です。

User response: WHERE 文節に組み込む列に適合する値を入力してください。

FMNDB431

Invalid operator (短). Enter a valid logical operator: AND, OR, NOT, NOR. NOT represents AND NOT and NOR represents OR NOT (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 基本 SELECT プロトタイプ機能によって発行されます。ユーザーが、「LOp」(論理演算子) 列に無効な値を入力しました。LOp 列は、論理演算子を指定するために使用します。この論理演算子は、プロトタイプ化する SQL ステートメントに対して指定された WHERE 文節の述部の間に使用します。

User response: 長いバージョンのメッセージに示されて値のいずれかを入力してください。値が指定されない場合、デフォルト値「AND」が自動的に選択されます。

FMNDB432

Invalid operator (短). Enter a valid expression operator: =, <,>,<=, >=,IN, NI, LI, NL. LI represents the SQL LIKE operator, NL represents NOT LIKE, and NI represents NOT IN (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 基本 SELECT プロトタイプ機能によって発行されます。ユーザーが、「Op」(演算子) 列に無効な値を入力しました。Op 列は、比較演算子を指定するために使用します。この比較演算子は、プロトタイプ化する SQL ステートメント追加される WHERE 文節の述部の間に使用します。

User response: 長いバージョンのメッセージに示されて値のいずれかを入力してください。値が指定されない場合、デフォルト値「=」が自動的に選択されます。

FMNDB433

Invalid margins (短). The left margin must be less than or equal to the right margin, and both values must be greater than zero (長).

Explanation:

このメッセージは、FM/Db2 編集/実行 SQL (データ・セット) 機能によって発行されます。ユーザーが「First column (最初の列)」フィールドおよび「Last column (最後の列)」フィールドに値を入力しましたが、その値が無効です。推奨値は次のとおりです。

- 固定ブロック・データ・セットで論理レコード長が 80、ISPF プロファイル設定が「NUMBER ON STD」を指定して編集するときのマージンに対応する (First column (最初の列)) および 72 (Last column (最後の列))。
- 固定ブロック・データ・セットで論理レコード長が 80、ISPF プロファイル設定が「NUMBER OFF」を指定して編集するときのマージンに対応する (First column (最初の列)) および 80 (Last column (最後の列))。

User response:

説明で概要が示されている推奨値を確認してください。入力されたすべての値が、次の要件を満たしている必要があります。0 < first <= last <= 論理レコード長。各部の意味は以下のとおりです。

- First は、「First column (最初の列)」フィールドに入力される値です。
- Last は、「Last column (最後の列)」フィールドに入力される値です。
- Logical record length は、編集するデータ・セットの LRECL (論理レコード長) です。データ・セットの LRECL を判別するには、ISPF オプション 3.2 を使用することができます。データ・セットの使いやすさを高めるためには、最後の値を最初の値よりかなり大きくする必要があります。

FMNDB434

Nothing to explain (短). The EXPLAIN command cannot be executed because no statement has been entered for explanation (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。ユーザーが EXPLAIN コマンドを入力しましたが、パネルの「SQL Statement (SQL ステートメント)」領域に SQL ステートメントがありませんでした。EXPLAIN コマンドを処理するには、SQL ステートメントが必要です。

User response: パネルの「SQL Statement (SQL ステートメント)」領域に SQL ステートメントを入力して、EXPLAIN コマンドを再発行してください。

FMNDB435

Invalid statement type (短). An invalid statement or a statement that is not explainable was found in the statement entry area (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。ユーザーが EXPLAIN コマンドを入力しましたが、入力された SQL ステートメントが「explainable」ではありません。

User response: 一部の SQL ステートメントが「explainable」ではありません。どの SQL ステートメントが説明可能であるかの詳細については、Db2® SQL リファレンス・マニュアルの EXPLAIN ステートメントに関する説明を参照してください。SELECT、MERGE、INSERT、および一部のタイプの UPDATE および DELETE ステートメントが「explainable」と見なされます。

FMNDB436

Statement executed, no rows deleted.

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。ユーザーが、DELETE SQL ステートメントを入力しました。このステートメントは実行されましたが、どの行も削除されなかったことを Db2® が報告しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB437

Statement executed, no rows updated.

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。ユーザーが、UPDATE SQL ステートメントを入力しました。このステートメントは実行されましたが、どの行も更新されなかったことを Db2® が報告しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB438

SQL execution halted (短). Execution of the SQL statement was halted because the user pressed CANCEL on the predictive governor (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 入力、実行、および説明 SQL 機能によって発行されます。SQL 予見ガバナー機能によって設定された値を超えたため、SQL ステートメントの実行が停止されました。この状況では、警告ポップアップ・パネルが表示され、ユーザーがステートメントの実行の取り消しを選択しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB439

CONNECT stmt. Invalid (短). A CONNECT statement cannot be executed. This statement can only be specified within an application program (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 編集/実行 SQL (データ・セット) 機能によって発行されます。入力データ・セットに、CONNECT SQL ステートメントが含まれています。このステートメントを動的に準備および実行することはできません。これは、アプリケーション・プログラムにのみ埋め込むことができます。このステートメントは実行できません。

User response: CONNECT ステートメントを削除し、操作を再試行してください。

FMNDB440

VIEW (clustered sampling)

Explanation: このメッセージは、クラスター化サンプリングを使用している場合に、FM/Db2 エディターによって表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB441

TABLE (clustered sampling)

Explanation: このメッセージは、クラスター化サンプリングを使用している場合に、FM/Db2 エディターによって表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB442

VIEW (random sampling)

Explanation: このメッセージは、ランダム・サンプリングを使用している場合に、FM/Db2 エディターによって表示されません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB443

TABLE (random sampling)

Explanation: このメッセージは、ランダム・サンプリングを使用している場合に、FM/Db2 エディターによって表示されません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB444

LOB

Explanation: このメッセージは、LOB データの処理時に FM/Db2 エディターによって表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB445

XML

Explanation: このメッセージは、XML データの処理時に FM/Db2 エディターによって表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB450

Copy not allowed (短). The index has not been defined with COPY YES, so it cannot be selected for copying (長).

Explanation: このメッセージは、FM の「Db2 Utilities」機能によって発行されます。ユーザーが、「COPY NO」オプションを使用して作成された索引をコピー用に選択しました。これは許可されません。

User response: Db2® 索引をコピーできるのは、そのオリジナルの索引が「COPY YES」オプションを使用して作成された場合のみです。詳しくは、「Db2® ユーティリティ・ガイドおよび解説書」を参照してください。

FMNDB451

Chng limits not allowed (短). Change limits cannot be specified because the table space has not been defined with TRACKMOD YES (長).

Explanation: このメッセージは、FM の「Db2 Utilities」機能によって発行されます。ユーザーが、「TRACKMOD NO」を使用して定義された表スペースに対して変更限界値を入力しました。これは許可されません。

User response: Db2® COPY ユーティリティーに変更限界値を指定できるのは、表スペースが「TRACKMOD YES」を使用して定義されている場合のみです。詳しくは、「Db2® ユーティリティー・ガイドおよび解説書」を参照してください。

FMNDB453

Cannot recover object (短). Either the Db2® object specified does not exist in the Db2® catalog, or no SYSCOPY entries exist for the Db2® object (長).

Explanation: このメッセージは、FM の「Db2 Utilities」機能によって発行されます。ユーザーが、表スペースまたは索引のリカバリーを試行しています。FM/Db2 が SYSIBM.SYSCOPY から項目のリストを取得したときに、どの行も返されませんでした。この問題は、データベース名のワイルドカード値と、表スペースおよび索引スペースの名前が、機能入力パネルで指定された場合に発生する可能性があります。一致する表スペースおよび索引スペースがありません。他の可能性としては、一致する表スペースおよび索引スペースはあるが、これらのオブジェクトに対して使用可能なイメージ・コピーがないために、RECOVER ユーティリティーを実行できない場合があります。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB454

Invalid change limit (短). The change limit must be an integer value between 0 and 100 (長).

Explanation: このメッセージは、FM の「Db2 Utilities」機能によって発行されます。COPY ユーティリティーの変更限界値は、パーセンテージ値 (0 から 100) として表されます。入力された値は範囲外です。

User response: 0 から 100 の範囲の値を指定してください。詳しくは、「Db2® ユーティリティー・ガイドおよび解説書」を参照してください。

FMNDB455

Function canceled (短). Load utility processing was canceled by user (長).

Explanation: このメッセージは、FM の「Db2 Utilities」機能によって発行されます。File Manager テンプレートを使用した LOAD ユーティリティーの処理時に、CANCEL に割り当てられた PF キーを押すか、CANCEL コマンドを使用しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB456

Function completed (短). Load utility processing has completed (長).

Explanation: このメッセージは、FM の「Db2 Utilities」機能によって発行されます。Db2® LOAD ユーティリティーの処理が正常に完了しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB457

Choose at least one item (短). For the given processing option, you must choose at least one item (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」 パネルによって発行されます。ユーザーが処理オプションの 4 「Options to be included (組み込むオプション)」 を選択しましたが、選択可能なオプションが何も選択されませんでした。少なくとも 1 つのオプションを選択する必要があります。

User response: オプション 「PREVIEW」 、 「LISTDEFDD」 、 「TEMPLATEDD」 、 および 「EVENT」 のうち 1 つ以上を選択してください。

FMNDB458

Null indicator mismatch (短). The source Db2® column *Column name* is not nullable and yet the corresponding target data set field is associated with a nullable field (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。ソース・オブジェクトの列と出力テンプレートのフィールドの間のマッピング中に、列 *Column name* とそれに対応するフィールドに不一致が検出されました。*Column name* は NOT NULL として定義されていますが、ターゲット・フィールドには関連付けられたヌル・フィールド標識があります。

User response: 通常、このメッセージはマッピングの問題を示しており、「NOT NULL」として定義された列のターゲット・フィールドには、ヌル・フィールド標識があってはなりません。ターゲット・テンプレートのコピーブックまたはテンプレートの定義を確認して、変更を加えてください。操作を再試行してください。

FMNDB459

Enter required field (短). The field where the cursor is positioned is mandatory (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」 パネルによって発行されます。ユーザーが処理オプションの 3 「KEY (キー)」 を選択しましたが、キー値を指定しませんでした。

User response: カーソル位置で示されたフィールドにキー値を指定してください。

FMNDB460

Function canceled (短). Unload table utility processing was canceled by user (長).

Explanation: このメッセージは、機能が完了する前に、ユーザーが CANCEL に割り当てられている PF キーを押した場合 (または CANCEL を入力した場合) に、FM/Db2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB461

Function completed (短). Unload utility processing has completed (長).

Explanation: このメッセージは、機能が通常の処理を完了したときに FM/Db2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB462

Settings failure (短). The TEMPLATE, LISTDEF, or OPTIONS settings for the current subsystem may be incorrect (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オプションの初期設定中に発行されます。ユーザーの ISPF プロファイル内の ISPF 表に値を保管しているときに、エラーが発生しました。

User response: 完全にログオフし、再びログオンして、操作を再試行してください。問題が続く場合は、ユーザー ISPF プロファイル・データ・セットから、すべての FMN2* メンバーの削除を試行してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB463

Setting failure (短). When you return from another subsystem, the changes that you made to LISTDEF, TEMPLATE, or OPTIONS settings may not be restored (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オプションの初期設定中に発行されます。ユーザーの ISPF プロファイル内の ISPF 表に値を保管しているときに、エラーが発生しました。

User response: 完全にログオフし、再びログオンして、操作を再試行してください。問題が続く場合は、ユーザー ISPF プロファイル・データ・セットから、すべての FMN2* メンバーの削除を試行してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB464

Null indicator mismatch (短). A null indicator byte maps to field name *field name* (column number), but the name does not contain 'NULL' (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。Db2® オブジェクトの列と、アンロード対象の File Manager (Base) テンプレート内の対応するフィールドとのマッピング時に、問題が検出されました。

User response: オンライン学習トピック「Null indicator byte processing」を参照してください。このトピックには、3.9.7.1.7 (「Utilities」 > 「Utilities」 > 「Unload Utility」 > 「Unload (table)」 > 「Null indicator byte processing」) の順にアクセスします。簡単にいえば、File Manager (Base) テンプレートを使用して UNLOAD データ・セットの形式を記述する場合、Db2® ヌル標識に長さが 1 バイトを超えるフィールドを使用することが可能ですが、自動的にマップするには、フィールド名にストリング「NULL」が含まれている必要があります。

FMNDB465

Null indicator mismatch (短). A null indicator byte maps to the byte before the first field (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。これは、「発生してはならない」エラーです。

User response: ターゲット (アンロード) データ・セットのテンプレートがアンロード対象の Db2® オブジェクトに対して適切であるかを確認してください。ソース・オブジェクトから生成された File Manager/Db2 テンプレートを使用して、アンロード対象のデータをマップすることを検討してください。これらのどちらの方法を使用しても問題が解決できない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB467

Null indicator mismatch (短). The null indicator byte *column name* maps to field *field name* (column number) which is mapped already to another table column (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。列 *column name* の Db2® スル標識のマッピングを処理中に、問題が検出されました。

User response: オンライン学習トピック「Null indicator byte processing」を参照してください。このトピックには、3.9.7.1.7 (「Utilities」 > 「Utilities」 > 「Unload Utility」 > 「Unload (table)」 > 「Null indicator byte processing」) の順にアクセスします。簡単にいえば、アンロード・データ・セットのテンプレートのフィールドは、単一の列または Db2® スル標識にのみマップすることができます。

FMNDB468

Utility service failed (短). FM/Db2 initiated an unload table utility operation from export. However, the unload table utility failed to initialize properly (長).

Explanation: このメッセージは、ISPF ファイル調整を使用して JCL デックを生成するときに問題が発生した場合に発行されます。これは、通常環境では「発生してはならない」エラーです。

User response: FM/Db2 のインストールおよび保守の責任者に連絡してください。このエラーの考えられる原因には、SFMNSLIB ライブラリーが FM/Db2 ユーザーに対して使用可能にされていないなど、セットアップ関連の問題が含まれます。

FMNDB469

Settings failed (短). The TEMPLATE, LISTDEF, or OPTIONS settings (for subsystem *Db2 SSID*.) cannot be loaded or the associated settings could not be found (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オプションの処理中に発行されます。このエラーは、オプション・モジュール (FMN2POPT) が欠落している場合、あるいは現行の Db2® サブシステムに対する定義がない場合などに発生します。

User response: FM/Db2 のインストール/保守の責任者に連絡してください。FM/Db2 がアクセスするすべての Db2® システムで、FMN2SSDM マクロ項目の定義は必須のインストールおよびカスタマイズのステップです。分析によって、FMN2POPT モジュールに明白な問題が示されない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB470

Init install settings (短). The installation-defined settings for this subsystem are used to set options TEMPLATE, LISTDEF, and OPTIONS (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オプションの処理中に発行されます。TEMPLATE、LISTDEF、または OPTIONS の処理中に、ユーザーの ISPF プロファイルに既に保管されているオプションがありませんでした。オプションの値は、FMN2POPT (インストール) モジュールで設定されたすべての値に基づいて初期化されています。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB471

Init FM/Db2 settings (短). The installation defined setting for this subsystem is: CONNECT = ANY. The FM/Db2 defaults are used for options TEMPLATE, LISTDEF, and OPTIONS (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オプションの処理中に発行されます。Db2® サブシステムへの接続を処理しているときに、CONNECT=ANY (FMN2POPI マクロのパラメーター) が設定されており、Db2® サブシステムの FMN2SSDM マクロ項目がないという状態が検出されました。この状況では、TEMPLATE、LISTDEF、および OPTIONS オプションのインストール設定はありません (これらの設定が定義された FMN2SSDM マクロ項目がないため)。FM/Db2 のデフォルトを使用して、オプションの値が初期化されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。「File Manager カスタマイズ・ガイド」には、FM/Db2 が接続する可能性があるすべての Db2® システムに対して FMN2SSDM マクロ項目を定義する必要がある必須ステップとしてリストされています。

FMNDB472

Init FM Db2 settings (短). FM Db2 default settings for options TEMPLATE, LISTDEF, and OPTIONS are used. Your installation defined settings uses an old version of the FMN2SSDM macro (長).

Explanation: これは、「発生してはならない」エラーです。使用中の FMN2POPT モジュールはバージョンが古いため、最新のマクロ・バージョンで再アSEMBルする必要があります。

User response: FM/Db2 のインストールまたは保守の責任者に連絡してください。「File Manager カスタマイズ・ガイド」の指示に従って、FMN2POPT モジュールを再アSEMBルしてください。SYSLIB DD ステートメントを注意深く調べ、現行バージョンの SFMNSAM1 ライブラリーが使用されていることを確認します。また、SYSLMOD DD ステートメントを注意深く調べ、出力モジュールが適切なライブラリー内にあることを確認します。

FMNDB473

Must provide name (短). A LISTDEF name must be provided when specification LISTDEF is selected (長).

Explanation: ユーザーが、FM/Db2 「Db2® Utilities」機能の入力パネルで「LISTDEF」の指定を選択しました。しかし、「LISTDEF name」フィールドに値が入力されませんでした。LISTDEF 指定を使用する場合は、非ブランクの LISTDEF 名が必要です。

User response: 有効な LISTDEF 名を入力し、操作を再試行してください。あるいは、指定を「Object name (オブジェクト名)」に変更してください。

FMNDB474

```
/* NULLABLE COLUMN MAPPING
```

Explanation: これは、FM/Db2 アンロード・ユーティリティーで JCL の作成時に使用されるメッセージ挿入です。

User response: アクションは不要です。このメッセージは、Db2® オブジェクト内のヌル可能 Db2® 列と、アンロードされたデータのテンプレート内にある対応するフィールドとのマッピングを文書化するときに発行される場合があります。

FMNDB477

```
/* F (FOOTNOTE) -
```

Explanation: これは、FM/Db2 アンロード・ユーティリティーで JCL の作成時に使用されるメッセージ挿入です。

User response: アクションは不要です。このメッセージは、Db2® オブジェクト内のヌル可能 Db2® 列と、アンロードされたデータのテンプレート内にある対応するフィールドとのマッピングを文書化するときに発行される場合があります。

FMNDB478

```
/* * = FIELD CORRESPONDING TO NULL INDICATOR BYTE IS LARGER
```

Explanation: これは、FM/Db2 アンロード・ユーティリティーで JCL の作成時に使用されるメッセージ挿入です。

User response: アクションは不要です。このメッセージは、Db2® オブジェクト内のヌル可能 Db2® 列と、アンロードされたデータのテンプレート内にある対応するフィールドとのマッピングを文書化するときに発行される場合があります。

FMNDB479

/* THAN ONE BYTE. INDICATOR MAPS TO LAST BYTE.

Explanation: これは、FM/Db2 アンロード・ユーティリティで JCL の作成時に使用されるメッセージ挿入です。

User response: アクションは不要です。このメッセージは、Db2® オブジェクト内のヌル可能 Db2® 列と、アンロードされたデータのテンプレート内にある対応するフィールドとのマッピングを文書化するときに発行される場合があります。

FMNDB480

WHERE clause too long (短). The WHERE clause is longer than 32767 bytes, and cannot be processed. Specify a shorter WHERE clause (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 テンプレート・エディター (「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネル) で WHERE 文節を指定するために使用された ISPF 編集セッションを終了するときに発行される場合があります。WHERE 文節が最大許容長の 32767 バイトを超えているため、処理することができません。

User response: 短い WHERE 文節を指定してください。WHERE 文節内の冗長な「空白文字」をすべて削除して、操作を再試行してください。

FMNDB481

Invalid reference (短). The correlation reference *Reference* is invalid. Valid values are #1 - *Maximum reference* inclusive (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 基本 SELECT プロトタイプ機能によって発行されます。明示的な表相関参照 (例えば、#n、n=1、2..) を使用する場合、機能が最初に開始されたときに入力された Db2® オブジェクトの数より n が大きい数値であってはなりません。また、「n」は数値でなければならず、例えば #F は無効です。

User response: 表相関参照を訂正し、操作を再試行してください。

FMNDB482

Invalid column name (短). *Column name* is not a column of the referenced table (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 基本 SELECT プロトタイプ機能によって発行されます。「Value (値)」列に修飾された列名が入力されました。おそらく、2つの列の間の結合を示します。表相関参照は有効ですが、列名は無効です。

User response: 入力した値にスペルまたは他のエラーがないか確認してください。列名が、表相関参照で示される表の列であるか確認してください。

FMNDB483

Ambiguous reference (短). This column name appears in more than one of the selected tables. Use a correlation reference, eg #1.COLNAME to identify the required (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 基本 SELECT プロトタイプ機能によって発行されます。「Value (値)」に入力された値が、プロトタイプ用に選択された Db2® オブジェクト内の複数の列名に一致しました。あいまいさを除去するには、表相関参照を使用する必要があります。

User response: 列名の前に表相関参照 (例えば、#n (「n」は正整数)) を付けてください。

FMNDB484

Ambiguous input (短). The value specified is a column name, but can also be interpreted as a constant. To specify a constant enclose the value in quotation marks. To specify a column use a correlation reference, eg #1.COLNAME (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 基本 SELECT プロトタイプ機能によって発行されます。「Value (値)」に入力された値が、プロトタイプ用に選択された Db2® オブジェクト内の列名に一致しました。入力された値には、次の 2 つの変換処理があります。

1. 列とストリング定数の間の比較。
2. その列と、入力された列名の結合。

User response: コンテキストに応じて、値を引用符で囲む (上記の 1 つ目の変換処理を示す) か、列名の前に表相関参照 (例えば、#n.) を付けて上記の 2 つ目の変換処理であることを示します。

FMNDB487

NOPAD specified (短). The DB2 UNLOAD NOPAD option is specified. FM/Db2 cannot generate a template that describes the data that will be unloaded. (長)

Explanation: このメッセージは、DB2 NOPAD オプションが選択されている場合に FM/Db2 DB2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。NOPAD オプションを指定すると、UNLOAD データが可変長になる可能性があります。これらのレコードの形式は File Manager テンプレートを使用して記述できません。

User response: これは、通知メッセージです。INLOAD データにテンプレートが必要な場合は、DB2 NOPAD オプションは選択しないでください。

FMNDB489

Member not found (短). Db2 カタログに記録されたデータ・セットに DBRM メンバーが見つかりません。これは、バインドの実行後にメンバーが DBRM ライブラリーから削除された場合に発生する可能性があります。

Explanation: FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーを使用して DBRM メンバーの内容のブラウズが試行されました。Db2 カタログ表に指定されたメンバーが見つかりませんでした。

User response: これは、通知メッセージです。この状態は、BIND コマンドの発行後に DBRM を含むメンバーが削除された場合に発生する可能性があります。

FMNDB490

Parameters have been reset to defaults.

Explanation: このメッセージは、File Manager/Db2 オプションのパネルで入力された RESET コマンドへの応答で発行されます。パネル上の値がデフォルト値にリセットされました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB491

RESET command failed.

Explanation: このメッセージは、File Manager/Db2 オプションのパネルで入力された RESET コマンドへの応答で発行されます。RESET 操作が失敗しました。これは、「発生してはならない」エラーです。

User response: FM/Db2 を完全に終了します。FM/Db2 を再度開始して、操作を再試行してください。問題が再発する場合は、ISPF 関連の問題 (ユーザー ISPF プロファイルのデータ・セットがいっぱいになっているなど) がないかを確認してください。明白な外部の問題がない場合は、IBM® サポートに連絡してください。

FMNDB500

Copying...

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行され、コピー操作が進行中であることを示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB501

number of rows rows

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行され、現在のコピー操作の進行状況を示します。*number of rows* は、処理が完了した行数です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB502

number of rows(s) copied (短). Number of rows row(s) copied from Db2® object source Db2 object to target Db2 object

Explanation: このメッセージは、コピー操作の完了時に FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行され、*source Db2 object* から *target Db2 object* にコピーされた行数を報告します。このメッセージは、重複キーや参照整合性エラーが発生しなかったことを示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB503

number of rows row(s) copied. insert string

Explanation: このメッセージは、コピー操作の完了時に FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行され、コピーされた行数を報告します。*insert string* には、追加情報 (通常は、メッセージ FMNDB504、FMNDB505、または FMNDB507) が含まれます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB504

count duplicate row(s) ignored.

Explanation: このメッセージは、コピー操作の完了時に FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行され、無視された重複行エラーの数を報告します。このメッセージは、メッセージ FMNDB503 の一部として発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB505

count RI/Constraint errors.

Explanation: このメッセージは、コピー操作の完了時に FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行され、発生した参照整合性エラーあるいは制約エラーの数を報告します。このメッセージは、メッセージ FMNDB503 の一部として発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB507

count duplicate row(s) updated.

Explanation: このメッセージは、コピー操作の完了時に FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行され、更新された重複行の数を報告します。このメッセージは、メッセージ FMNDB503 の一部として発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB510

Function canceled (短). Copy function was canceled by user (長).

Explanation: ユーザーが、CANCEL コマンドを発行して、FM/Db2 コピー機能を強制終了しました。通常、CANCEL コマンドを発行するには、PF12 PF キー (デフォルトで CANCEL に割り当てられている) を押します。

User response: アクションは不要です。

FMNDB511

Rollback completed (短) Copy of *source Db2 object* to *target Db2 object* was rolled back due to errors.

Explanation: このメッセージは、現行のコピー操作がエラーによって強制終了された場合に、FM/Db2 コピー・ユーティリティーによって発行されます。この状況では、Db2® ROLLBACK が自動的に発行され、すべてのコピー操作が取り消されません。

User response: コピー操作が終了した原因を判別し、エラー状態を解決して、操作を再試行してください。

FMNDB512

Copy canceled (短) Output object *target Db2 object* cannot be same as input object *source Db2 object*.

Explanation: FM/Db2 コピー・ユーティリティーの「From (取り出し元)」パネルと「To (宛先)」パネルに、同じ Db2® オブジェクト名が指定されました。コピー元のオブジェクト自体をコピー先にするにはサポートされません。コピー操作は取り消されました。

User response: 別のソースまたはターゲット Db2® オブジェクトを指定し、操作を再試行してください。

FMNDB519

Audit failure (短) Auditing to SMF failed - function terminated. BPX1SMF RC=*return code* (Dec) REASON CODE=*reason code* (Dec)

Explanation: FM/Db2 は、現行機能に関する監査レコードを SMF に書き込むようにセットアップされています。監査レコードを SMF に書き込もうとしたときに、障害が発生しました。BPX1SMF 呼び出しを行った結果、戻りコード *return code* および理由コード *reason code* が返されました。どちらのコードも 10 進数で表記されています。現行の FM/Db2 機能は強制終了されました。

User response:

このエラーは通常、セットアップの問題を示しています。SMF に対する監査失敗については、以下の原因が考えられません。

1. ユーザー ID に、SAF FACILITY クラス・プロファイル BPX.SMF に対する読み取り権限がある。
2. FMN2POPT モジュールで、SMFNO パラメーターに有効な番号が指定されていない。

システム・プログラマーに、エラーの原因を解決するための支援を要請してください。

FMNDB520

SQL statement too long (短) The SQL statement is > 32K-2 in length. The maximum length for an SQL statement for Db2® versions 6 or 7 is 32765 characters. The statement cannot be executed (長).

Explanation: FM/Db2 が、32K-2 の制限より大きい SQL ステートメントを検出しました。この制限は、Db2® バージョン 8 より前の Db2® バージョンに適用されます。

User response: SQL ステートメントを単純化して、操作を再試行してください。

FMNDB521

SQL statement too long (短) The SQL statement is > 2M in length. The maximum length for an SQL statement for Db2® versions 8 or later is 2097152 characters. このステートメントは実行できません。

Explanation: FM/Db2 が 2M (2097152) の制限より大きい SQL ステートメントを検出しました。この制限は、Db2® バージョン 8 以降に適用されます。この SQL ステートメントを実行することはできません。

User response: SQL ステートメントを単純化して、操作を再試行してください。

FMNDB600

Global Settings

Explanation: このメッセージは、一部の FM/Db2 オプション・パネルに表示され、グローバル・オプションが処理中であることを示します。FM/Db2 は、ほとんどの機能に対して次の 2 つのレベルのオプション設定を提供します。これらは、以下の通りです。

1. FM/Db2 メインメニューからオプション 0 を使用して選択するグローバル・オプション。これらのオプションは、ISPF PROFILE プール内にあるユーザーの ISPF プロファイル・データ・セットに保管され、各 FM/Db2 セッション間でも保持されます。
2. 機能入力パネル (「Edit options (編集オプション)」) から選択するローカル・オプション。これらのオプションは、ユーザーが現行の FM/Db2 機能を終了するまで保持され、有効なグローバル・オプションより優先されます。完全な説明については、「File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス (Db2® データ用)」を参照してください。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB601

Changes discarded (短) Invalid changes to the default high level qualifier have been discarded (長).

Explanation: 「default high level qualifier (デフォルトの高位修飾子)」フィールドに無効な値を指定してパネルを終了しようとしました。無効な値は破棄されました。

User response: 「default high level qualifier (デフォルトの高位修飾子)」の値を調査して、目的の値を再入力してください。パネルを終了する前に、Enter を押して値の妥当性検査を行ってください。

FMNDB602

Changes discarded (短) Invalid changes to the display width values have been discarded (長).

Explanation: 「Object List Options (2 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2/2))」パネルの「Display width for varying columns (可変列の表示幅)」フィールドのいずれかに無効な値を入力してパネルを終了しようとしました。無効な値は破棄されました。

User response: 各フィールドのフィールド・レベル・ヘルプを使用して(フィールドにカーソルを置いて HELP キー(デフォルトでは PF1)を押します)、各フィールドに有効な値を判別してください。新規の値を入力した後、パネルを終了する前に ENTER を押してその値の妥当性検査を行ってください。

FMNDB757

SQLCODE=SQLCODE, row count row(s) affected.

Explanation: これは、FM/Db2 監査レポート・ユーティリティーで使用されるメッセージ挿入です。SQLCODE は、1 つ以上の行が影響を受けた可能性がある SQL ステートメントに関連付けられた SQLCODE です。row count は、SQL ステートメントに影響を受けた行数を示します (Db2® によって報告されます)。参照整合性制約の影響を受けやすい Db2® オブジェクトに影響を与える SQL ステートメントの場合、row count の値には、SQL ステートメントの影響を受けた 1 次オブジェクト以外のオブジェクトで影響を受けた行は示されません。

User response: アクションは不要です。

FMNDB765

Privilege statements: count

Explanation: これは、FM/Db2 監査レポート・ユーティリティーで使用されるメッセージ挿入です。count は、Db2® 特権に影響する可能性がある FM/Db2 機能 (通常は、GRANT および REVOKE) によって発行された SQL ステートメントの数を示します。

User response: アクションは不要です。

FMNDB800

count rows exported (短). countrow(s) exported from Db2® object source Db2 object to file file name (長).

Explanation: このメッセージは、File Manager/Db2 エクスポート機能の終了時に発行されます。エクスポートされた行数 count、それらの行がエクスポートされた元の Db2® オブジェクト source Db2 object、およびエクスポートされたデータを含む出力ファイルの名前 file name が示されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDB801

Export canceled (短). Export function was canceled by the user, or error encountered while processing the copybook (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティーによって発行されます。現行の FM/Db2 エクスポート機能が取り消され、FM/Db2 エクスポート機能の入力パネルが再表示されます。

User response: ユーザーがエクスポート「To」パネルで END または CANCEL PF キーを押した場合は、なし。ユーザーがエクスポート「To」パネルで ENTER を押した場合は、コピーブックまたはエクスポート・データ・セット用に指定されたテンプレートにエラーがないかを調査してください。

FMNDB802

Exporting...

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティーによって発行され、エクスポート操作が進行中であることを示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB803

count rows imported (短). *count* rows imported, from file *input file name* to Db2® object *target Db2 object*. *duplicate count* duplicate rows not imported. *error count* rows in error not imported. *selection count* rows dropped via record selection. *REXX drop count* rows dropped by REXX proc (長).

Explanation:

このメッセージは、FM/Db2 インポート・ユーティリティーの終了時に発行され、インポート操作の統計の要約が示されません。

- *count* は、インポートされた行数です。
- *duplicate count* は、発生した重複行エラーの数です。重複行エラーの原因となったレコードは、インポートされていません。
- *error count* は、重複行エラー以外のエラーを生成したレコードの数です。エラーの原因となったレコードは、インポートされていません。
- *selection count* は、レコード選択の結果として除去されたレコード (行) の数です。
- *REXX drop count* は、REXX 手順でユーザー指定の処理が原因で除去されたレコード (行) の数です。「Import Report (インポート・レポート)」パネルにも同じ情報が提供されています。このメッセージは、重複キー・エラーの「Update (更新)」オプションが「Import Options (インポート・オプション)」パネルで選択されていない場合に発行されます。

User response: アクションは不要です。

FMNDB804

Import canceled (短). Import function was canceled by the user (長).

Explanation: ユーザーが、END または CANCEL PF キーを押して、インポート操作を取り消しました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB805

Importing...

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 インポート・ユーティリティーによって発行され、インポート操作が進行中であることを示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB806

Rollback completed (短) Import of *import file name* to *target Db2 object* was rolled back due to errors. *count* rows rolled back. *duplicate count* duplicate rows not imported. *updated count* duplicate rows updated. *not updated count* duplicate rows not updated. *error count* rows in error not imported. *drop count* rows dropped by record selection. *REXX drop count* rows dropped by REXX procedure. Note, that PF12/CANCEL on SQL error panel will skip each row in error.

Explanation: これは、FM/Db2 監査レポート・ユーティリティーで使用されるメッセージ挿入です。

User response: アクションは不要です。

FMNDB807

row count rows created (短) *row count* rows created, in Db2® object *output Db2 object name*. *duplicate count* duplicate rows not created. *error count* in error not created.

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 データ作成ユーティリティーによって発行されます。*row count* は、出力 Db2® オブジェクト *output Db2 object name* に挿入 (作成) された行数です。

- *duplicate count* は、重複キー (SQLCODE-803) エラーが原因で挿入できなかった行数です。
- *error count* は、重複キー・エラー以外のエラーが原因で挿入できなかった行数です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。複数の重複キー・エラーがある場合は、固有の索引キーの一部を形成する列用のテンプレートを編集し、その列の値を作成するときに使用するパターンを指定することができます。

FMNDB808

Create canceled (短) Create function was canceled by the user.

Explanation: ユーザーが、FM/Db2 データ作成機能を取り消しました。通常、これは CANCEL に割り当てられた PF キーを押して行います。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB809

Creating...

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 データ作成ユーティリティーによって発行され、データ作成操作が進行中であることを示します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB810

No rows created (短) Create of *row count* rows was rolled back due to error. Note, that PF12/CANCEL on SQL error panel will skip each row in error.

Explanation: 現行の FM/Db2 データ作成機能が、エラーのために強制終了されました。Db2® ROLLBACK ステートメントが発行されたため、出力 Db2® オブジェクトで行は作成されませんでした。これによって、コミットされていないすべての変更が取り消されました。機能が強制終了される原因となったエラー状態になる前に、出力 Db2® オブジェクトに *row count* 行が挿入されました。

User response: 機能がオンラインで実行された場合、失敗した操作は SQL エラーを生成します。このエラーは、SQL エラー・ポップアップ・パネルでユーザーに対して表示されます。示される SQLCODE を検索して、指示に従って応答してください。

FMNDB811

row count duplicate rows not imported.

Explanation: バッチ・モードで実行された FM/Db2 インポート・ユーティリティが、重複キー (SQLCODE-803) エラーが原因で *row count* 行をインポートしませんでした。

User response: これは、バッチ・モードで稼働中に FM/Db2 インポート・ユーティリティによって発行される可能性があるメッセージの 1 つです。重複キー・エラーが予期されないものであった場合は、入力データを調査して、エラーが発生した原因を判別してください。

FMNDB812

row count row(s) in error not imported.

Explanation: バッチ・モードで実行された FM/Db2 インポート・ユーティリティが、未特定の SQL エラーが原因で *row count* 行をインポートしませんでした。

User response: これは、バッチ・モードで稼働中に FM/Db2 インポート・ユーティリティによって発行される可能性があるメッセージの 1 つです。通常、このメッセージが存在している場合、入力データに問題があることを示します。入力データを調査して、エラーが発生した原因を判別する必要があります。

FMNDB813

row count row(s) dropped via record selection.

Explanation: バッチ・モードで実行された FM/Db2 インポート・ユーティリティが、レコード選択処理の一環として対応する入力レコードが除去されたことが原因で、*row count* 行をインポートしませんでした。

User response: これは、バッチ・モードで稼働中に FM/Db2 インポート・ユーティリティによって発行される可能性があるメッセージの 1 つです。入力テンプレートにレコード選択基準または REXX EXEC が指定されている場合、このメッセージは、1 つ以上のレコードがレコード選択基準を満たしていないか、あるいは REXX プロシージャ処理の一環として除去されたことを示します。REXX プロシージャが指定されていない場合は、このメッセージは、入力データとそれに関連付けられたテンプレートの間に不一致があることを示す場合があります。

FMNDB814

row count row(s) dropped via REXX proc.

Explanation: バッチ・モードで実行された FM/Db2 インポート・ユーティリティが、関連する REXX 手順の処理の一環として対応する入力レコードが除去されたことが原因で、*row count* 行をインポートしませんでした。

User response: これは、バッチ・モードで稼働中に FM/Db2 インポート・ユーティリティによって発行される可能性があるメッセージの 1 つです。ユーザー応答は、コンテキストに応じて異なります。レコードが除去されるのは妥当である場合があります。ただし、REXX プロシージャ処理の一環としてレコードが除去されてはならない場合は、入力データを調査して、レコードが除去された原因を判別してください。

FMNDB815

row count duplicate row(s) not created.

Explanation: バッチ・モードで実行された FM/Db2 データ作成ユーティリティが、FM/Db2 が新規に作成した行をターゲットの Db2® オブジェクトに挿入しようとしたときに重複キー・エラー (SQLCODE-803) が Db2® で発生したことが原因で、*row count* 行を作成しませんでした。

User response: これは、バッチ・モードで実行している場合に、FM/Db2 データ作成ユーティリティによって発行される可能性があるメッセージの 1 つです。ユーザー応答は、コンテキストに応じて異なります。Db2® は、固有制約に違反する行を常に拒否します。多数の重複行エラーを受信した場合は、入力パラメーターを調整して索引列の値の重複を回避することを検討してください。

FMNDB816

row count row(s) in error not created.

Explanation: バッチ・モードで実行された FM/Db2 データ作成ユーティリティが、FM/Db2 が新規に作成した行をターゲットの Db2® オブジェクトに挿入しようとしたときにエラー (SQLCODE-803 以外) が Db2® で発生したことが原因で、*row count* 行を作成しませんでした。

User response: これは、バッチ・モードで実行している場合に、FM/Db2 データ作成ユーティリティによって発行される可能性があるメッセージの 1 つです。通常、このメッセージはエラーを示しています。Db2® は、多くの理由から行の挿入を拒否する場合があります。Db2® によって発行された SQL エラーが SQLCODE-803 ではないことに注意してください。重複行エラーは個別に報告されます。このメッセージの原因となった可能性があるエラー SQLCODE の例として、-530、-531、および -532 (参照整合性エラー) があります。

FMNDB817

row count existing rows(s) updated.

Explanation: バッチ・モードで実行された FM/Db2 インポート・ユーティリティが、*row count* 行を更新しました。固有の索引キーの一部ではない列のみが更新されます。

User response: これは、バッチ・モードで稼働中に FM/Db2 インポート・ユーティリティによって発行される可能性があるメッセージの 1 つです。ユーザー応答は、コンテキストに応じて異なります。ほとんどの場合、既存の行を更新するのが最善です。ただし、インポート操作によって重複キー・エラー (SQLCODE-803) が発生することがないはずである場合は、入力レコードと Db2® オブジェクトを比較して、重複が存在する原因を見つけてください。

FMNDB818

row count existing rows(s) not updated.

Explanation: バッチ・モードで実行された FM/Db2 インポート・ユーティリティが、レコードの挿入操作が SQLCODE-803 (重複キー・エラー) で失敗した後に、既存の行の更新を試行しました。更新操作は失敗しました。

User response: これは、バッチ・モードで稼働中に FM/Db2 インポート・ユーティリティーによって発行される可能性があるメッセージの 1 つです。通常、このメッセージはエラーを示しています。Db2® は、多くの理由から行の更新を拒否する場合があります。このメッセージの原因となった可能性があるエラー SQLCODE の例として、-530、-531、および -532 (参照整合性エラー) があります。

FMNDB819

row count import/updt(d) (短) *row count* rows imported, from file *input data set name* to Db2® object *target Db2 object name*. *duplicate row count* duplicate rows updated. *duplicate error count* duplicate rows not updated. *error row count* rows in error not imported. *dropped record count* rows dropped by record selection. *Rexx drop count* rows) dropped by REXX procedure.

Explanation: このメッセージは、オンラインで実行された FM/Db2 インポート・ユーティリティーによって発行されます。このメッセージは、完了したばかりのインポート操作に関する統計を要約したものです。このメッセージは、「update existing rows (既存の行の更新)」オプションが選択されており、挿入または更新された行がない場合に発行されます。*row count* は、インポートまたは更新された行数です。この場合は、0 です。

- *duplicate row count* は、SQLCODE-803 (重複キー) エラーを生成したレコードの数です。
- *duplicate error count* は、既存の行の更新が失敗したレコードの数です。
- *error row count* は、INSERT 操作に対して SQLCODE-803 以外のエラーを生成したレコードの数です。
- *dropped record count* は、レコード選択の結果と見なされなかった (除去された) レコードの数です。
- *Rexx drop count* は、ユーザー指定の REXX 手順経由で除去されたレコードの数です。

User response: このメッセージは、挿入された行および更新された行がいずれもない場合に発行されます。ユーザー応答は、コンテキストに応じて異なります。挿入あるいは更新があるはずであった場合は、入力データを調査して、レコードが処理されなかった原因を判別してください。

FMNDB820

Import complete. *Row count* row(s) imported.

Explanation: このメッセージは、インポート・プロセスの完了時に FM/Db2 インポート・ユーティリティーによって発行されます。「Row count (行カウント)」行が正常にインポートされました。

User response: これは、通知メッセージです。

FMNDB821

Rollback complete. *Row count* row(s) rolled back.

Explanation: このメッセージは、インポート・プロセスの完了時に FM/Db2 インポート・ユーティリティーによって発行されます。1 つ以上の行が正常にインポートされませんでした。「Row count (行カウント)」行のインポートがロールバックされました。

User response: これは、通知メッセージです。

FMNDB822

Row count rows imported (短). *Row count* rows imported, from file *input data set name* to Db2 object *output object name*. *duplicate row count* duplicate rows updated. *Duplicate error count* duplicate rows not updated. *error row count* rows in error not imported. *dropped record count* rows dropped by record selection. *Rexx drop count* rows dropped by REXX procedure (長)

Explanation: FM/Db2 インポート (DBI) が完了すると、Db2 オブジェクトに行が挿入された際の統計を示すこのメッセージが表示されます。

User response: これは、通知メッセージです。

FMNDB823

update row count rows updated (短). *update row count duplicate rows imported from file input data set name* and updated in object *output object name*. *duplicate error count* duplicate rows not updated. *row count* rows imported. *error row count* rows in error not imported. *dropped record count* rows dropped by record selection. *Rexx drop count* rows dropped by REXX procedure (長).

Explanation: FM/Db2 インポート (DBI) が完了すると、Db2 オブジェクトで行が更新された場合の統計を示すこのメッセージが表示されます。

User response: これは、通知メッセージです。

FMNDB824

Rows imported/updated (短). *row count* rows imported from file *input data set name* to Db2 object *output object name*. *duplicate row count* duplicate rows updated. *duplicate error count* duplicate rows not updated. *error row count* rows in error not imported. *dropped record count* rows dropped by record selection. *Rexx drop count* rows dropped by REXX procedure (長).

Explanation: FM/Db2 インポート (DBI) が完了すると、Db2 オブジェクトに行が挿入または更新された場合の統計を示すこのメッセージが表示されます。

User response: これは、通知メッセージです。

FMNDB825

duplicate row count duplicate row errors.

Explanation: エラーが発生した重複行の行カウントです。

User response: これは、通知メッセージです。

FMNDB826

All columns selected (短) No columns were selected in the template for *Db2 object name*. Processing cannot proceed without at least one selected column. FM/Db2 has automatically selected all columns for processing.

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティーまたは FM/Db2 UNLOAD ユーティリティーによって発行されます。テンプレート・エディターを使用して、すべての列の選択解除が行われた後、変更したテンプレートを使用して機能の実行が試行されました。File Manager/Db2 機能では、続行するために少なくとも 1 つの列を選択する必要がありますため、すべての列が自動的に選択され、このメッセージが発行されました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。デフォルトでは、Db2® オブジェクトのすべての列が処理対象として選択されます。Db2® オブジェクト内の一部の列を選択解除することは有効ですが、すべての列を選択解除することは、「no-operation (操作なし)」状態になるために無効です。

FMNDB827

Import to view failed (短) The import operation has been canceled. Import to a view is only supported if the view is defined directly on a table. Repeat the operation using the actual table that the view refers to.

Explanation: FM/Db2 インポート・ユーティリティを使用して、Db2® ビューにデータがインポートされました。Db2® ビューは、複数の Db2® 表または 1 つ以上のビューを参照しています。このタイプのビューのインポートはサポートされていません。インポート操作は取り消されます。

User response: 通常、「SELECT * FROM Db2 table name」として定義された Db2® ビューへのインポートはサポートされます。複数の Db2® 表を参照するビューへのインポートは、サポートされていません。可能であれば、FM/Db2 インポート・ユーティリティでは従属ビューではなく表名を使用してください。

FMNDB828

Remapping required (短) No columns in the target table are mapped to any fields in the input template. This can occur if the column names in the target object are different to the field names in the input template. Edit the template for the target object to set the mapping between columns/fields in the target/input templates.

Explanation: FM/Db2 インポート・ユーティリティで、ターゲット Db2® オブジェクトのどの列とも一致しないフィールド名を持つ入力テンプレートが使用されました。FM/Db2 で使用される自動フィールド・マッピング処理は、入力テンプレートのどのフィールドがターゲット Db2® オブジェクトの列と対応するかを確実に判別することができません。入力テンプレートの各フィールドからターゲット Db2® オブジェクトの列への手動マッピングが必要です。

User response: このメッセージは、File Manager/Db2 インポート機能に対して誤った入力ファイル・テンプレートが指定された状況で発行される可能性があります。FM/Db2 インポート・ユーティリティの拡張使用により、ターゲット Db2® オブジェクトの各列を入力テンプレートの対応するフィールドに個別にマッピングすることが可能になります。列とフィールドの名前が一致する必要はなく、Db2® オブジェクトの列と入力レコードのフィールドの相対位置が一致する必要もありません。これが意図された使用法である場合は、テンプレート・エディター（「edit template mapping (テンプレート・マッピングの編集)」）を使用して、列とフィールドの間の関係を設定し、操作を再試行してください。

FMNDB829

Invalid value (短). The valid values are ALL or a number in the range 0-2147483647 (長).

Explanation: 「Copy Options (コピー・オプション)」パネルの「Max duplicates (最大重複数)」フィールドに無効な値が入力されました。有効な値は、「ALL」または 0 から 2147483647 の範囲の整数です。

User response: 無効な値を修正してください。

FMNDB831

Browse substituted (短) The Db2® result table is not updateable, specifically because not all columns of the first table named in the from clause are present, nor are all columns of any unique index(es) defined on this table. Browse has been substituted for edit (長).

Explanation: フリー・フォーム SQL ステートメントを処理することが可能な FM/Db2 機能の 1 つを使用して、SELECT ステートメントが入力されました。FM/Db2 がエディターを使用して SELECT ステートメントからの結果表を表示する場合、フリー・フォーム SQL ステートメントの編集操作を行うことはできません。このメッセージは、メッセージにリストされている条件が満たされていない場合に発生します。固有索引が定義されている表の場合、FM/Db2 は、固有索引を構成する列の値を使用して、表の行を一意的に識別することができます。ただし、これには、固有索引キーのすべての列が結果テーブルに表示されていることが必要です。確実な編集を行えない場合は、FM/Db2 は、編集セッションを参照に変換し、データ破損の可能性を回避します。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。結果表の編集操作が必要な場合、Db2® オブジェクトを直接編集する方法が推奨されます。

FMNDB832

Update not possible (短) FM/Db2 cannot update the data in the row(s) marked with =INERR. This error may occur attempting to edit the result table from an arbitrary select statement entered using option 4.2, 4.3 or 4.4. You should cancel the current edit session and then edit the underlying Db2® object directly.

Explanation: FM/Db2 オプション 4.2、4.3、または 4.4 を使用して入力された SQL ステートメントの結果表の行のデータの更新が試行されました。Db2® が更新を拒否したため、更新は失敗しました。このエラーが発生する理由には、結合の結果表の編集など、さまざまな理由があります。この更新操作を実行することはできません。

User response: 結果表の編集操作が必要な場合、Db2® オブジェクトを直接編集する方法が推奨されます。

FMNDB833

Delete not possible (短) FM/Db2 cannot delete the data in the row(s) marked with =INERR. This error may occur attempting to edit the result table from an arbitrary select statement entered using option 4.2, 4.3 or 4.4. You should cancel the current edit session and then edit the underlying Db2® object directly.

Explanation: FM/Db2 オプション 4.2、4.3、または 4.4 を使用して入力された SQL ステートメントの結果表の行の削除が試行されました。Db2® が削除を拒否したため、更新は失敗しました。このエラーが発生する理由には、結合の結果表の編集など、さまざまな理由があります。この更新操作を実行することはできません。

User response: 結果表の編集操作が必要な場合、Db2® オブジェクトを直接編集する方法が推奨されます。

FMNDB835

Parameter marker invalid (短) The SELECT statement contains one or more "?". Db2® interprets these as parameter markers, resulting in an SQL error. Replace the "?" with constants and rerun the statement.

Explanation: FM/Db2 オプション 4.3 または 4.4、および、場合によっては他のオプションを使用して SELECT ステートメントが入力されました。SELECT ステートメントに、Db2® パラメーター・マーカー (?) が含まれています。例えば、アプリケーション・プログラミング言語の使用時に Db2® パラメーター・マーカーを使用することは有効ですが、FM/Db2 によって処理される SELECT ステートメントで Db2® パラメーター・マーカーを使用することは無効です。

User response: SELECT ステートメント内の Db2® パラメーター・マーカーを見つけます。見つかったパラメーター・マーカーを適切なタイプの定数に置き換えます。ステートメントを再実行します。

FMNDB836

Browse substituted (短). This version of FM/Db2 does not support new Db2® data types introduced with Db2® version 9. Browse has been substituted for edit (長).

Explanation: FM/Db2 が、編集対象の Db2® オブジェクト内で、現在サポートされていないデータ・タイプを検出しました。データ破損の可能性を回避するために、FM/Db2 は編集を参照に置換しました。

User response: サポートされないデータ・タイプを含む列を判別してください。新しいデータ・タイプをサポートしている FM/Db2 のバージョンについては、IBM® サポートにお問い合わせください。

FMNDB837

XML column(s) (短) This version of FM/Db2 does not support the XML data type introduced with Db2® version 9. The function cannot be performed.

Explanation: FM/Db2 が、現行の FM/Db2 機能 (エディター、コピー、インポート、エクスポート、および印刷) によって処理されているオブジェクト内に 1 つ以上の XML 列を検出しました。XML 列はサポートされていません。この機能を実行することはできません。処理は強制終了されます。

User response: XML 列が含まれない Db2® オブジェクトを指定してください。

FMNDB838

Duplicate count reached (短) The specified duplicate count was reached. The import has been canceled (長).

Explanation: File Manager/Db2 インポートには、ゼロ以外の「Max duplicate (最大重複数)」が指定されています。入力データの処理中に、重複行エラーの数が指定された「Max duplicate (最大重複数)」の値に到達しました。インポート操作は取り消されます。

User response: 「Max duplicate (最大重複数)」の値は、「Import Options (インポート・オプション)」パネルで指定されています。このパネルは、インポート機能の入力パネルの「edit options (オプションの編集)」フィールドを使用して選択されます。応答は、重複行エラーが予期されるときにコンテキストに応じて異なります。「Max duplicate (最大重複数)」の値を増やした後、インポートを再実行してください。重複行エラーが予期されたものではない場合、入力データを調査して、重複行エラーが発生した原因を判別してください。

FMNDB839

Unable to process (短) The Db2® object contains one or more LOB columns. There is insufficient memory available for FM/Db2 to process data from this object, because of the large size of the LOB column(s). Refer to the Edit Tutorial, General information, Restrictions for additional information on how to avoid this problem.

Explanation: FM/Db2 は、LOB 列を含む Db2® オブジェクトの処理をサポートしていません。この機能を実行することはできません。処理は強制終了されます。

User response: LOB 列が含まれない Db2® オブジェクトを指定してください。

FMNDB840

Format not for template (短) The Data Format is not compatible with that used to create the template. Template is *template type*.

Explanation: このメッセージは、入力データを記述しているテンプレートとインポート・データ・セットのデータ・フォーマット・オプションとの間に不一致がある場合に、FM/Db2 インポート・ユーティリティーによって発行されます。インポートを処理することができず、インポートが取り消されます。The type of template specified is *template type*, which will be one of the following: Db2® Unload; Db2® DSNTIAUL; User defined; Base; FM/Db2 SQLDA; Other (長).

User response: 入力データ・セットのデータ・フォーマットは、「Import options (インポート・オプション)」パネルで指定されています。このパネルは、インポート機能の入力パネルの「edit options (オプションの編集)」フィールドを使用して選択されます。指定された値は、入力データの実際のデータ・フォーマットと一致している必要があります。また、インポート機能の入力パネルで指定されたテンプレートまたはコピーブックで指定されているテンプレートのタイプとも一致している必要があります。指定されたテンプレートが入力データを正しく記述していることを確認してください。入力データのデータ・フォーマットを判別し、その情報を使用して、「Import options (インポート・オプション)」パネルで適切なデータ・フォーマット値を設定し、インポート操作を再試行してください。

FMNDB849

Incompatible options (短) The data format must be 2 (Db2® unload format) when execution option 3 (Batch, using Db2® UNLOAD) is selected (長).

Explanation: FM/Db2 エクスポート機能を使用して、Db2® 表の Db2® UNLOAD ユーティリティを実行する Db2® ユーティリティ・ジョブを生成することができます。このオプションを選択した場合、出力データの形式は、Db2® によって決定されます。そのため、データ形式を「2」(Db2® アンロード形式)に設定する必要があります。出力データ・セットのデータ形式は、「Export options (エクスポート・オプション)」パネルで指定されています。このパネルは、エクスポート機能の入力パネルの「edit options (オプションの編集)」フィールドを使用して選択されます。

User response: 指示されたとおりにデータ形式を調整し、操作を再試行してください。FM/Db2 エクスポート機能を使用して、Db2® バッチ・ジョブを実行せずに「Db2® unload format (アンロード形式)」でデータをエクスポートすることもできます。これが意図したものである場合は、最初の「Export options (エクスポート・オプション)」パネルで実行オプションを「1」(オンライン)または「2」(バッチ)に設定し、操作を再試行してください。

FMNDB850

Must be sequential file (短). The Db2® UNLOAD utility does not support unload of data to a partitioned data set (長).

Explanation: FM/Db2 エクスポート・ユーティリティが、実行オプション「3」(バッチ、Db2® UNLOAD の使用)で実行されました。エクスポート「To」パネルで指定された出力データ・セットが、メンバー名を含む区分データ・セットです。FM/Db2 エクスポート・ユーティリティは、区分データ・セットのメンバーに Db2® アンロード形式でデータをエクスポートすることができますが、これは、Db2® UNLOAD ユーティリティではサポートされていません。

User response: 出力データ・セットに、区分データ・セット (PO のデータ・セット編成)ではなく、順次ファイル (PS のデータ・セット編成)を指定してください。操作を再試行してください。

FMNDB851

Must be sequential file (短) The Db2® UNLOAD utility requires that the unload data set be a sequential file (DSORG=PS).

Explanation: FM/Db2 エクスポート・ユーティリティが、実行オプション「3」(バッチ、Db2® UNLOAD の使用)で実行されました。エクスポート「To」パネルで指定された出力データ・セットが、順次データ・セットではありません。FM/Db2 エクスポート・ユーティリティは、非順次データ・セットに Db2® アンロード形式でデータをエクスポートすることができますが、Db2® UNLOAD ユーティリティでサポートされるデータ・セット・タイプは順次データ・セットのみです。

User response: FM/Db2 エクスポート「To」パネルで Db2® アンロード操作に対して指定された出力データ・セットのタイプを確認してください。順次ファイル (PS のデータ・セット編成)が指定されていることを確認してください。操作を再試行してください。

FMNDB852

Not required (短). A query number value is only required with the EXPLAIN primary command (長).

Explanation: SQL ステートメントと照会番号の値が「Enter, Execute and Explain SQL (SQL ステートメントの入力、実行、および説明)」パネル (FM/Db2 オプション 4.3) で入力されました。照会番号は、EXPLAIN 基本コマンドが発行された場合にのみ必要です。

User response: 照会番号を除去して、操作を再試行してください。SQL ステートメントの説明が目的であった場合は、コマンド行で「EXPLAIN」を入力して Enter を押してください。

FMNDB853

Delete failed (短). The deletion of all rows from the Db2® object failed - the import function has been canceled (長).

Explanation: File Manager/Db2 インポートに「Delete existing rows (既存の行の削除)」オプションが指定されました。FM/Db2 がターゲット Db2® オブジェクトからのすべての行の削除を試行したときに、Db2® が操作を拒否しました。インポートを続行することはできません。インポートは取り消されます。データはインポートされていません。

User response: Db2® が「DELETE * FROM *object name*」ステートメントを拒否する可能性がある理由は多数 (参照整合性エラー、ロックの問題、リソースが使用不可である場合など) あります。操作を再試行してください。問題が続く場合は、FM/Db2 オプション 4.3、4.4、あるいは Db2® SPUFI を使用して、直接「DELETE * FROM *object name*」を発行してください。この操作も失敗する場合は、SQLCODE を使用して、失敗の原因を判別してください。

FMNDB855

row count rows+hdr exported (短). Row countrow(s) and column header row exported from Db2® object *object name* to file *data set name* (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エクスポート機能によって発行されます。このメッセージは、CSV 形式を使用し、「Include column headers (列見出しを含む)」オプションが選択されたエクスポートに固有です。FM/Db2 が、Db2® オブジェクト *object name* からデータ・セット *data set name* に *row count* 行をエクスポートしました。エクスポートされた最初の行は見出し行で、この行には Db2® 列のデータの代わりに名前が含まれます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB856

Invalid character ' or " (短) The Delimited Variables (CSV) separator cannot contain either a single quote (') or double quote ("). Choose another value (長).

Explanation: ユーザーが、2 番目の FM/Db2 「Export Options (エクスポート・オプション)」パネルの「Separator character (区切り文字)」フィールドに値を入力しました。このフィールドは、「区切り文字で区切られている変数 (CSV)」エクスポート形式での区切り文字に使用する 1 文字または 2 文字の値を指定するために使用します。入力された値に、単一引用符または二重引用符が含まれています。これらは、サポートされていません。

User response: 区切り文字で区切られている変数 (CSV、コンマ区切り変数) 形式は、柔軟に定義されています。デフォルトの区切り文字 (コンマ) が不適切な状況の場合、FM/Db2 は、1 文字または 2 文字の代替値を指定することが可能です。区切り文字の値には、単一引用符および二重引用符のいずれも含むことはできません。これは、エクスポートされたデータにも単一引用符または二重引用符が含まれている場合 (データ内にある場合、またはデータをカプセル化するために挿入された場合) に、構文的なあいまいさを引き起こす原因になるためです。他の値を選択してください。

FMNDB858

Must be numeric, >0 (短). The value entered must be an integer in the range 1-2147483647 (長).

Explanation: エディター機能の入力パネルの「start position (開始位置)」フィールド、またはデータ作成機能の入力パネルの「create count (作成カウント)」フィールドに入力された値が無効です。数値が必須です。この数値は、1 から 2147483647 の範囲の正整数でなければなりません。

User response: 値を修正し、操作を再試行してください。

FMNDB859

Must be numeric, >=0 (短) The value entered must be an integer in the range 0-2147483647. You can specify 0, * or ALL to indicate all rows (長)..

Explanation: File Manager/Db2 機能の入力パネルのフィールドに入力された値が無効です。数値が必須です。この数値は、0 から 2147483647 の範囲の非負整数でなければなりません。このメッセージは、さまざまな「row count (行数)」入力フィールドに対して発行されます。0 の同義語として値「*」および「ALL」を入力することも可能です。これらの値は、処理する行またはレコードの数に制限がないことを示します。

User response: 値を修正し、操作を再試行してください。

FMNDB890

Db2® subsystem *Db2 SSID* not defined to z/OS®?.

Explanation: このメッセージは、Db2® システム *Db2 SSID* への接続が失敗した場合に、File Manager/Db2 バッチ・ジョブによって発行されます。このメッセージが発行される 1 つの原因は、*D2 SSID* が存在していない (ローカル z/OS® システムに定義されていない) ことです。これは、共用 DASD で複数の LPAR が稼働しているサイトで発生する可能性があります。そのようなサイトでは、Db2® システムは一部の z/OS® システムで使用することができますが、他の同システムでは使用できません。

User response: パラメーターとして指定された Db2® SSID が、バッチ・ジョブが実行された z/OS® システムに定義されているかを確認してください。これが問題ではない場合、Db2® コード資料で Db2® エラー・コード「00F30006」を検索し、そのエラーに関する指示に従ってください。

FMNDB900

Own authorization ID (短). An authorization ID cannot grant a privilege to itself (長).

Explanation: このメッセージは、許可 ID または役割が、「grantee」許可 ID または役割名のリスト内の項目の 1 つとしてその ID 自体が表示されている GRANT ステートメントの実行を試行した場合に、FM/Db2 特権機能によって発行されます。

User response: SQLCODE-554 に対する応答を行ってください。一般的な解決策は、ユーザーの現行の Db2® 許可 ID/役割をターゲット Db2® 許可 ID/役割のリストから削除することです。

FMNDB903

Identifier too long (短) The identifier is too long. See the SQL Reference for information about the maximum lengths for identifiers. Db2® returned an SQL code of -107 for SQL statement *SQL statement* (長).

Explanation: このメッセージは、SQL ステートメントに長すぎる ID が含まれている場合に発行されます。Db2® V8 以降のシステムに接続されている場合、このエラーが発生することはほとんどありません。Db2® V8 以降では、Db2® V7 の対応する値と比較して、大きい最大長が提供されているためです。

User response: SQLCODE-107 に対する応答を行ってください。

FMNDB904

Not authorized (短) Your authorization ID does not have the authority to change the privileges for this object. Db2® returned an SQL code of -551 for SQL statement *SL statement* (長)

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト特権ユーティリティーによって発行されます。現行ユーザーの Db2® 許可 ID には、オブジェクトを変更する権限 (GRANT または REVOKE) がありません。

User response: SQLCODE-551 に対する応答を行ってください。Db2® システム管理者にお問い合わせください。

FMNDB905

Object not found (短) The specified Db2® object does not exist. Db2® returned an SQL code of -204 for the SQL statement *SL statement* (長)

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト特権ユーティリティーによって発行されます。特権を変更する対象の Db2® オブジェクトが見つかりません (SQLCODE-204)。

User response: SQLCODE-204 に対する応答を行ってください。Db2® オブジェクト名を確認してください。

FMNDB907

Cannot be revoked (短). You cannot revoke the specified privilege because the revokee does not possess the privilege or because the specified Db2® authid did not grant the privilege. Db2® returned an SQL code of -556 for SQL statement *SL Statement* (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト特権ユーティリティーによって発行されます。特権を取り消すことができません。

User response: SQLCODE-556 に対する応答を行ってください。該当する Db2® バージョンの SQL コード資料を参照し、このエラーの考えられる原因の詳細なリストを確認してください。

FMNDB909

Not authorized (短) Your authorization ID does not have the privilege to issue a REVOKE statement with the BY clause. Db2® returned an SQL code of -552 for SQL statement *SL statement*. (長)

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト特権ユーティリティーによって発行されます。特権を取り消すことができません。

User response: SQLCODE-552 に対する応答を行ってください。

FMNDB910

Privilege conflict (短). One or more privileges conflict with one or more other privileges (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト特権ユーティリティーによって発行されます。このエラーの原因の例は、特権の「ALL」オプションが選択されただけではなく、「ALL」が指定されたときに含まれていた個々の特権の1つ以上が選択されている場合などです。

User response: 処理する特権の指定を修正してください。通常は、「ALL」を選択することは、「ALL」が指定されたときに含まれていたすべての特権を選択解除する必要があることを意味します。

FMNDB911

Not required (短). This field should be blank for the specified option (長).

Explanation: 「Alter Table - VALIDPROC (変更表 - VALIDPROC)」パネルで「type of VALIDPROC」が1に設定されており、「program name (プログラム名)」の値も指定されています。「program name (プログラム名)」の値は、「type of VALIDPROC」が2に設定されている場合のみ必要です。

User response: 「type of VALIDPROC」の指定を確認してください。NULL を指定したい場合は、「program name (プログラム名)」フィールドの値を削除し、操作を再試行してください。プログラム名を追加したい場合は、「type of VALIDPROC」の指定を 2 に変更し、操作を再試行してください。

FMNDB913

Invalid option (短) The selected option is not one of the listed values or the object type is not supported on the remote Db2® system you specified. This error can occur when you try to list certain Db2® objects on a remote Db2® system that is at an earlier release of Db2® than the system to which you are connected.

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト特権ユーティリティーによって発行されます。「object type (オブジェクト・タイプ)」フィールドに入力された値が無効です。この要求を処理することはできません。

User response: 「Object type (オブジェクト・タイプ)」フィールドに有効な値は、パネルにリストされています。リストされている値 (1 から 15) の 1 つを指定してください。

FMNDB914

Different Db2® release (短) The release level of the remote Db2® system is different than the release level of the Db2® system to which you are connected. The choice of Db2® object types has been refreshed to show those object types supported on the remote system. Press ENTER again to get the requested list (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーがリモート・ロケーションの値を入力した場合に、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーおよびオブジェクト特権ユーティリティーによって発行されます。FM/Db2 は、指定されたロケーションに接続し、リモート・ロケーションの Db2® バージョンと現在接続されている Db2® システムのバージョンを比較します。その値が異なっている場合、このメッセージが発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。Enter を押して、使用可能なオブジェクト・タイプのリストを最新表示します。

FMNDB915

Empty table (短). The Db2® object contains no rows, or no rows match the specified row selection criteria (長).

Explanation: このメッセージは、オブジェクトの結果表あるいは選択ステートメントに行が含まれていない場合に、FM/Db2 エディターによって発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB916

Excluded rows shadow is off. There are no unexcluded rows to display (長).

Explanation: File Manager/Db2 エディター・セッションで、除外された行のシャドー行がオフにされました。表示される行はありません。除外された行のシャドー行がオフにされると、即時に TABL モードでの表示の右上にある「Format」の左側にストリング「SHAD」が表示されます。ISPF シャドー行に精通している場合は、FM/Db2 エディターで「SHADOW X OFF」のようにコマンドを使用して、シャドー行標識の表示を抑制することができます。これは、ISPF エディターではサポートされていません。除外された行は、必ずシャドー行で示されます。除外された行のシャドー行がオフにされ、現行のエディター・セッション内のすべての行がシャドー行である場合、エディター表示は、表内に行がない(シャドー行標識がない)かのように見えます。このメッセージは、表示された行がない場合でも、実際には結果表に行があることをユーザーに警告するために表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。「SHADOW X ON」を使用してシャドー行標識をオンにすることができます。

FMNDB917

No rows to display.

Explanation: File Manager/Db2 エディター・セッションで、除外された行のシャドー行がオンにされています。表示される行はありません。FMNDB916 のメッセージの説明も参照してください。通常、このメッセージは、編集操作によってすべての行が現行のエディター・セッションから削除された場合に発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB918

Excluded rows shadow is off. Either no unexcluded rows to display, or no rows match the filter specification (長).

Explanation: File Manager/Db2 オブジェクト・リスト/特権表示で、除外された行のシャドー行がオフにされました。表示される行はありません。除外された行のシャドー行がオフにされると、即時に TABL モードでの表示の右上にある「Format」の左側にストリング「SHAD」が表示されます。FM/Db2 オブジェクト・リスト/特権ユーティリティーは、FM/Db2 エディターを使用して、オブジェクトおよび特権のリストを表示します。列に対してフィルター値が指定されている場合、エディター表示は、その列のフィルター値に一致する行のみを表示するように調整されます。一致しない行は、除外された行に変換され、これらの行はシャドー行を生成しません。これは、除外された行のシャドー行に関する現行設定に関係なく起こります。ISPF シャドー行に精通している場合は、FM/Db2 エディターで「SHADOW X OFF」のようにコマンドを使用して、シャドー行標識の表示を抑制することができます。これは、ISPF エディターではサポートされていません。除外された行は、必ずシャドー行で示されます。現行の表示内のすべての行がシャドー行である場合、エディター表示は、オブジェクト・リスト/特権表示内に行がない(シャドー行標識がない)かのように見えます。このメッセージは、表示された行がない場合でも、実際にはオブジェクト・リスト/特権表示に行があることをユーザーに警告するために表示されます。このメッセージは、以下のいずれかの場合に表示されます。

- 列に対して入力されたフィルター値に一致するものがない場合。または
- すべての行が除外されている場合。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB919

No rows to display, or no rows match the filter specification (長).

Explanation: File Manager/Db2 オブジェクト/特権表示で、除外された行のシャドー行がオンにされています。表示される行はありません。FM/Db2 オブジェクト・リスト/特権ユーティリティーは、FM/Db2 エディターを使用して、オブジェクトおよび特権のリストを表示します。FMNDB918 on page 1123 のメッセージの説明も参照してください。このメッセージは、列に対して入力されたフィルター値に一致するものがない場合に表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB921

No rows match key (短) There are no rows in the parent table that match the foreign key value. This can occur when a foreign key column(s) has the NULL value (長).

Explanation: 親表の関連編集セッションに、従属表の外部キーに一致する行がありません。

User response: アクションは不要です。長メッセージ・テキストで表記されているように、この状態は、従属表の外部キー値が NULL の場合に発生する可能性があります。

FMNDB922

No rows match key (短). There are no rows in the dependent table that match the primary/parent key value (長).

Explanation: 従属表の関連編集セッションに、親表の基本キーまたは親キーに一致する外部キーを持つ行がありません。

User response: アクションは不要です。外部キー値に関しては従属表に対応する行がない場合でも、親キー/基本キーの値は存在する場合があります。

FMNDB923

Already granted warning (短) At least one of the authid(s) or role(s) already possesses the privilege(s) from the grantor.

Explanation: このメッセージは、GRANT ステートメントが SQLCODE+562 を返した場合に、FM/Db2 オブジェクト特権ユーティリティによって発行されます。これは、1つ以上の特権/許可 ID/役割の組み合わせに対して GRANT が既に実行されていることを示す警告状態です。SQL ステートメントの実行は正常に完了します。以前に許可者からターゲット Db2® 許可 ID/役割に認可されていた特権は、すべて保持されます (変更されません)。指定された新規の特権は、すべて正常に認可されました。

User response: アクションは不要です。GRANT (認可) のターゲットとして複数の Db2® 許可 ID または役割がある場合、あるいは複数の特権が認可される場合、どの特権が以前に使用可能であったかを判別することはできません。

FMNDB924

Grant option warning (短). The WITH GRANT OPTION was ignored for one or more of the privilege(s) (長).

Explanation: FM/Db2 特権ユーティリティによって生成された GRANT ステートメントが実行されました。このステートメントには、「WITH GRANT OPTION」文節が含まれていました。Db2® は、SQLCODE+558 を返しました。これは、「WITH GRANT OPTION」文節が冗長であることを示す警告状態です。GRANT ステートメントは正常に実行されました。この警告状態を引き起こす操作の例には、「WITH GRANT OPTION」を使用して Db2® 許可 ID に SYSADM 特権の認可を試行した場合などがあります。FM/Db2 特権の「Grant (認可)」パネルを使用して、各種 Db2® 特権に対して「Y」または「G」を指定することができます。「Y」は「GRANT」に対応し、「G」は「GRANT」および「WITH GRANT OPTION」に対応しています。

User response: アクションは不要です。

FMNDB925

Not authorized (短) Your authorization ID does not have the authority to GRANT|REVOKE the *privilege type* system privilege. Db2® returned an SQL code of -552 for SQL statement *SL statement*.

Explanation: FM/Db2 特権ユーティリティが SQL ステートメント *SL statement* の実行を試行しました。Db2® が SQLCODE -552 を返して実行が失敗しました。このコードは、ユーザーがこのステートメントを実行する権限を持っていないことを示します。

User response: これはエラー状態です。Db2® セキュリティ管理者と相談し、ステートメントを実行するために必要な Db2® 権限を取得してください。

FMNDB926

Own authorization ID (短). An authorization ID cannot revoke a privilege from itself (長).

Explanation: FM/Db2 特権ユーティリティを使用して、REVOKE ステートメントが発行されました。Db2® が SQLCODE-555 を返してステートメントの実行が失敗しました。このエラーは、Db2® 許可 ID または役割からの特権の除去

を、同じ Db2® 許可 ID または役割が処理することが、REVOKE ステートメントに影響する場合に発行されます。これはサポートされていません。

User response: 被認可者を調査して、そのユーザーの現行の Db2® 許可 ID または役割に対応する Db2® 許可 ID または役割を削除してください。

FMNDB927

Invalid name (短) The name is invalid. A database/table space/plan name must be an SQL ordinary identifier - no lower case characters. See the SQL Reference manual for a definition. Db2® returned an SQL code of -113 for SQL statement *SQL statement*.

Explanation: FM/Db2 オブジェクト特権ユーティリティーを使用して入力されたデータベース/表スペース/プラン名が無効です。通常の SQL ID が必要です。定義については、SQL リファレンスを参照してください。通常の ID は、1 文字の大文字の後に、ゼロ個以上の文字が続きます。その各文字は、大文字、数字、または下線文字です。

User response: メンバー名を訂正し、操作を再試行してください。

FMNDB928

Insufficient authority (短). You cannot revoke this privilege. The current SQLID (*D2 authid*) does not have SYSADM or SYSCTRL authority. You can only revoke a privilege when the current SQLID (*Db2 authid*) originally granted the privilege (長).

Explanation: FM/Db2 特権ユーティリティーを使用して、REVOKE ステートメントの発行が試行されました。ユーザーの現行 Db2® 許可 ID *D2 authid* が、特権の付与に当初使用されていた Db2® 許可 ID と異なります。当初、別の Db2® 許可 ID によって認可されていた特権を取り消すことは可能ですが、これには、SYSADM または SYSCTRL 権限が必要です。現行の *Db2 authid* はこの権限を持っていません。このステートメントは実行できません。

User response: 一般的に、SYSADM 権限と SYSCTRL 権限のいずれもない場合は、別の Db2® 許可 ID によって認可された Db2® 特権を取り消すことはできません。Db2® セキュリティー管理者と相談し、ステートメントを実行するために必要な Db2® 権限を取得してください。

FMNDB939

LOB limit exceeded (短). A Db2® internal limit for the size of a LOB has been exceeded. Look up the SQLCODE-904 issued previously and respond as appropriate.

Explanation: Db2® は、データを LOB に追加しようとしたときに SQLCODE-904 エラーを報告しました。このエラーは XML エディターに固有のものです。現在のエディター・セッションは終了し、現在の作業単位はロールバックされます。最後の明示的な SAVE 以降に行われた変更はすべて失われます。

User response: このメッセージが出される前に、SQL エラー・ポップアップ・パネルが表示されます。メッセージの理由コードを調べて、必要に応じて応答してください。DSNTIJUZ に指定されている Db2® インストール値 LOBVALA を増やすことが必要な場合もあります。

FMNDB940

Invalid PIECESIZE (短). PIECESIZE in *Klobytes/Megabytes/Gigabytes* must be a multiple of 2 between *mn value* and *mx value* (長).

Explanation: 「Create Index (索引作成): Type (タイプ)」パネル (Db2® オブジェクト機能) の「Piecesize」に無効な値が入力されました。*mn value* および *mx value* は、指定されたスペース乗数 (キロバイト、メガバイト、またはギガバイトのいずれか) に使用できる最小値と最大値を示します。

User response: 示された 2 つの値の間で、2 の累乗である整数値を選択してください。キロバイトの場合、有効な値は 256、512、1024、.. 67,108,864 です。メガバイトの場合、有効な値は 1、2、4、.. 65,536 です。ギガバイトの場合、有効な値は 1、2、4、.. 64 です。

FMNDB941

Invalid combination (短) A VCAT name cannot be specified with a storage group name, primary, or secondary space requirements, or the ERASE option.

Explanation: Db2® オブジェクト機能を使用して表スペースまたは索引の作成を試行したときに、無効な値の組み合わせが入力されました。表スペースまたは索引を作成するとき、VCAT 名を指定することができます。これは、スペース割り振りをユーザーが制御できることを示します。あるいは、VCAT 名をブランクにして、ストレージ・グループ名を指定することができます。これは、スペース割り振りを Db2® が制御することを示します。後者の場合、1 次および 2 次スペース値も入力することができます。

User response: VCAT 名またはストレージ・グループ名のいずれが適切であるかを決定してください。前者の場合、ストレージ・グループ名、1 次および 2 次スペース割り振りの値は、いずれも指定しないでください。後者の場合、VCAT 名の値は指定しないでください。

FMNDB942

Storage group required (短) Primary and secondary space requirements, and the ERASE option can only be specified if a storage group name is also specified (長).

Explanation: Db2® オブジェクト機能を使用して索引の作成を試行したときに、無効な値の組み合わせが入力されました。以下のいずれかです。

1. 「Create Index: Allocation (索引作成: 割り振り)」パネルの「Primary space (1 次スペース)」または「Secondary space (2 次スペース)」に 1 つ以上の非ブランク値が指定されましたが、「Storage group name (ストレージ・グループ名)」の値がブランクです。スペース割り振り値を指定する場合は、「Storage group name (ストレージ・グループ名)」を入力する必要があります。
2. 「Create Index: Partitions (索引作成: 区画)」パネルの「Primary space (1 次スペース)」、「Secondary space (2 次スペース)」、または「Erase data (データ消去)」に 1 つ以上の非ブランク値が指定されましたが、「Storage group name (ストレージ・グループ名)」の値がブランクです。スペース割り振り値または「Erase data (データ消去)」の値を指定する場合は、「Storage group name (ストレージ・グループ名)」を入力する必要があります。

User response: 有効なストレージ・グループ名を入力してください。あるいは、「Primary space (1 次スペース)」、「Secondary space (2 次スペース)」、または「Erase data (データ消去)」の値を指定しないでください。

FMNDB943

Invalid selection (短) Select or deselect columns using the character "S". Order columns explicitly in the *key/index* using numerics.

Explanation: Db2® オブジェクト・ユーティリティの「Create Table (表の作成)」または「Create Index (索引の作成)」機能に無効な文字が入力されました。

User response: 該当するフィールドに「S」を入力することで、列を選択することができます。その他の文字はすべて無効です。列が以前に選択されていた場合は、該当するフィールドに「S」を入力することで、その列を選択解除することができます。列が選択されると、任意の数値 (1、2、3 など) を入力して、索引またはキーで列の順序を指定することができます。「Create Table (表の作成): Unique Constraints (固有制約)」パネルで、該当するフィールドに任意の数値を入力することで列を選択したり、該当するフィールドの数値を削除することで列を選択解除したりすることもできます。

FMNDB944

Already used (短). Order number *number* was already set for column *column name* on row *row number* of the display.

Explanation: Db2® オブジェクト・ユーティリティの「Create Table (表の作成)」または「Create Index (索引の作成)」機能に無効な数値が入力されました。複数の列を使用して索引あるいはキーを定義する場合、索引またはキー内での列の順序付けは、数値を使用して指定されます。したがって、3つの列 (COL4、COL7、および COL10) で構成される索引の場合、それら3つの列に対して数値1、2、および3を任意の組み合わせで入力することになります。

User response: 列に指定された数値は、既に他の列に使用されています。どの列を索引あるいはキーにするかを判別し、各列に固有の数値を割り当ててください。使用されている数値のうち、最小の数値を持つ列が索引またはキーで最初の列になり、数値が小さい列から順番に続きます。

FMNDB945

Maximum partitions (短). The insert (I) or repeat (R) command cannot be executed because the maximum number of partitions allowed by Db2® has already been defined (長).

Explanation: ユーザーが、次のパネルの254番目の行に対して、「I」または「R」コマンドを発行しました。「Create Index (索引作成): Partitions (区画)」パネル (Db2® オブジェクト・ユーティリティ内) 定義することができる区画の最大数は、254です (Db2® バージョン7の場合)。そのため、それを超える区画を追加することはできません。

User response: アクションは不要です。

FMNDB946

Invalid value (短). Enter one of the listed values:*list of valid values* (長).

Explanation: Db2® オブジェクト機能のフィールドに無効な値が入力されました。*list of valid values* には、エラーが発生したフィールドの許容値が記載されています。

User response: *list of valid values* に表示されている値を指定してください。

FMNDB947

Set columns/partitions (短). You must use option 2 to select the columns comprising the index and option 5 to define the partitions before assigning partition values (長).

Explanation: ユーザーが、Db2® オブジェクト機能の「Create Index (索引の作成)」パネルでオプション6を選択しました。索引を構成しているはずの列または索引の区画が定義されていません。区画値を割り当てる前に、両方のタスクが完了している必要があります。

User response: オプション2を選択して、索引を構成しているはずの列が識別されていることを確認してください。次に、オプション5を選択して、新規の索引の区画を定義してください。

FMNDB948

IT:Define &\$ITEM:TE &\$ITEM---17 T:You must use option &\$OPTN to define the &\$ITEM for the &\$OBJ :TE T:before using this option.:TE

Explanation: T

User response: I

FMNDB949

Table not found (短). The table to be indexed was not found in the Db2® catalog (長).

Explanation: ユーザーが、Db2® オブジェクト機能の「Create Index (索引の作成)」パネルで表名を入力しました。その表名は、現行のサーバー上に存在していません。

User response: 表名のスペルが誤っていないかを確認してください。必要に応じて、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーザーリテナーを使用して、現行の Db2® サーバーで定義されているすべての表名を表示することができます。表名を修正して、操作を再試行してください。

FMNDB950

Set partition values (短) Partitions have been defined for this index using option 5. You must set partition values using option 6 before you can define the index.

Explanation: このメッセージは、「Create Index (索引の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。区画化された索引の場合、オプション 5 (Partitions (区画)) を使用して区画の数を設定します。区画が定義されたら、オプション 6 (Partition values (区画値)) を使用して、各区画の最大値を設定する必要があります。区画値が指定されていない場合、索引を作成することはできません。

User response: 区画化された索引が必要な場合は、オプション 6 (Partition values (区画値)) を選択して、適切な値を指定してください。区画化されていない索引が必要な場合は、オプション 5 (Partitions (区画)) を選択して、1 つの区画項目を残してすべての区画を削除してください。

FMNDB951

Update partition values (短) The column selections or partition definitions have changed since the partition values were set. You must reset the partition values using option 6 before you can define the index.

Explanation: このメッセージは、「Create Index (索引の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。以前に指定されたすべての区画および列に対して区画値が設定されました。しかし、その後の変更によって区画値が無効化されました。次の 2 つの可能性があります。

1. 新規の索引に対して指定された列が変更された (列が追加または削除された)。
2. オプション 5 (Partitions (区画)) を使用して指定された区画が変更された。区画値が指定されていない場合、索引を作成することはできません。

User response: 区画化された索引が必要な場合は、オプション 6 (Partition values (区画値)) を選択して、適切な値を指定してください。区画化されていない索引が必要な場合は、オプション 5 (Partitions (区画)) を選択して、1 つの区画項目を残してすべての区画を削除してください。

FMNDB952

Conflicting selection (短) *value 1* > is not valid because *value 2*.

Explanation: このメッセージは、Db2® オブジェクト機能のダイアログの多くの場所で発行されます。オブジェクトの作成に使用される SQL 構文には、*value 1* および *value 2* のどちらの使用にも制限があります。多くの場合、*value 1* または *value 2* のどちらか (両方ではない) を指定することで、エラーを解決することができます。選択の競合が解決しなければ、オブジェクトを作成することはできません。

User response: 2 つの選択のうちどちらが適切であるかを判別し、不要な選択を削除して、操作を再試行してください。適切な選択を判別できない場合は、該当する Db2® バージョンの SQL リファレンス・マニュアルを参照してください。

FMNDB953

Errors retained (短) Invalid data has been saved because the CANCEL command was entered in response to an input verification message. The *statement type* statement may be invalid if executed: return to the previous panel and correct the error, or return to the *panel name* panel and start from the beginning.

Explanation: このメッセージは、Db2® オブジェクト機能のダイアログの多くの場所で発行されます。現行の CREATE または DROP 機能のオプション・パネルで無効な値が入力され、その後ユーザーが CANCEL (デフォルトでは PF12) を押し、現行の CREATE または DROP 機能のオプション選択パネルに戻りました。無効な値は未解決で、現行の CREATE または DROP 機能の実行が試行された場合、問題が発生する可能性があります。

User response: ほとんどの場合、上記のオプション・パネル (CANCEL が入力されたパネル) で選択を再度行い、入力された無効な値を修正することで解決できます。それでも問題が解決しない場合は、Db2® オブジェクト機能パネルに戻り、操作を再度開始してください。

FMNDB954

No suitable rows (短). The current table definition does not contain columns specified as not null. Use option 2 to define not null columns before defining :primary/unique keys (長).

Explanation: このメッセージは、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。ユーザーが、以前にオプション 1 (Columns (列)) を使用して新規の表の列を定義しているにも関わらず、「unique constraints (固有制約)」を選択しました。列が「NOT NULL」として定義されている場合、その列は固有制約にのみ含むことができ、新規の表に現在定義されている列に、この要件を満たしている列はありません。

User response: オプション 2 (Nulls/Default values (ヌル/デフォルト値)) を選択し、各列の NULL 状況を適切に設定してください。少なくとも 1 つの列に NN (NOT NULL) または ND (NOT NULL WITH DEFAULT) のいずれかを指定し、新規の表に固有制約を指定できるようにする必要があります。

FMNDB955

No suitable rows (短). The current table definition does not contain any non-ROWID, non-LOB columns specified as not null, nor any identity columns. Use option 2 to define not null columns, or option 8 to define identity columns before defining primary/unique keys (長).

Explanation: このメッセージは、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。ユーザーが、以前にオプション 1 (Columns (列)) を使用して新規の表の列を定義しているにも関わらず、「unique constraints (固有制約)」を選択しました。列が「NOT NULL」として定義されている場合、その列は固有制約にのみ含むことができ、新規の表に現在定義されている列に、この要件を満たしている列はありません。このメッセージは、ROWID、CLOB/DBCLOB、または BLOB として定義されている列がある場合に発行されます。

User response: オプション 2 (Nulls/Default values (ヌル/デフォルト値)) を選択し、各列の NULL 状況を適切に設定してください。少なくとも 1 つの列に NN (NOT NULL) または ND (NOT NULL WITH DEFAULT) のいずれかを指定し、新規の表に固有制約を指定できるようにする必要があります。オプション 8 (Generate values (値の生成)) を使用して、数値列を IDENTITY 列として定義することもできます。IDENTITY 列は、固有制約に含むことができます。

FMNDB956

Too many selections (短). You have already selected *Max column count* columns for this key, which is the maximum allowed by Db2® (長).

Explanation: このメッセージは、通常、1 次キーまたは表用に定義された他の固有制約に組み込む列を定義するときに、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。*Max column count* は、Db2® for z/OS® バージョン 8 から 10 までの場合は 64 です。

User response: 1 次キーまたは固有制約内の列の数を削減してください。

FMNDB957

Table/view not found (短). The model table/view was not found in the Db2® catalog (長).

Explanation: このメッセージは、モデル表名が入力されたが Db2® オブジェクトが存在しない場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。

User response: Db2® オブジェクト名を修正して、操作を再試行してください。オブジェクト・リスト・ユーティリティ (オプション 3.4) を使用して、ローカル・サーバーで定義されているすべての Db2® オブジェクト (表/ビュー/別名) を表示することができます。

FMNDB958

Too many constraints (短) Too many unique constraints have been found in model tables. Only the first three unique constraints found in the Db2® catalog have been loaded.

Explanation: このメッセージは、モデル表名が入力され、モデル表の情報のロードが要求された場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。「Create Table (表の作成)」ダイアログは、定義する表ごとに最大 3 個の固有制約をサポートしています。このメッセージは、4 個以上の固有制約が定義されている Db2® オブジェクトのロードに対して、あるいは複数のロードが要求された場合に発行されます。

User response: これは通知メッセージです。作成する表に 4 個以上の固有制約を定義する必要があるイベント (ほとんどありません) では、最初に 3 個の制約を持つ表を定義し、ALTER TABLE を使用して、追加制約を追加することを検討してください。

FMNDB959

Invalid option (短). Only column information can be loaded when the add option is selected and columns have already been defined or loaded (長).

Explanation: このメッセージは、モデル表名が入力された場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。ユーザーが、1 つのモデル表の情報をロードし、その後、別のモデル表の追加情報のロードを試行しました。2 個目以降のロードでは、「Basic table information (基本表情報)」および「Column information (列情報)」オプションのみを選択することができます。

User response: 指定された最初のモデル表では、「Primary key information (基本キー情報)」、「Unique key information (固有キー情報)」、「Referential constraints (参照制約)」および「Check constraint (検査制約)」の情報のみをロードすることができます。上記のオプションをすべて選択解除し、操作を再試行してください。あるいは、「Refresh or Add (最新表示または追加)」オプションを「Refresh (最新表示)」に設定し、操作を再試行します。これにより、既存のすべての情報が、現行のモデル表の情報に置き換えられます。

FMNDB960

Too many constraints (短) Too many table foreign keys have been defined for this table. The number of table foreign keys is limited to the number of ISPF tables named FMN2CTnn that can be created.

Explanation: このメッセージは、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。現行の表に対して、100 個を超える外部キーの作成が試行されました。Db2® には、外部キーの数に制限はありませんが、「Create Table (表の作成)」ダイアログでは、外部キーの数は最大 100 個に制限されています。

User response: 指定された外部キーの数を確認し、数を 100 未満に削減してください。

FMNDB961

Order required (短) A referenced column name has been entered for this column, but no order. An order is required if the column is to be included in the foreign key.

Explanation: このメッセージは、「Create Table (表の作成): Table Referential Constraint (表参照制約)」パネルで発行されます。複数の列を含む表参照制約を作成する場合 (通常は、複数の列の外部キーを定義するための使用法です)、定義する外部キーの一部であるすべての列に対して順序付けを指定する必要があります。

User response: 外部キーの一部となるすべての列に対して順序付けを指定してください。

FMNDB962

Ref. column required (短). If any of the foreign key columns reference a specific column in the parent table, then all of the foreign key columns must do so (長).

Explanation: このメッセージは、「Create Table (表の作成): Table Referential Constraint (表参照制約)」パネルで発行されます。複数の列を含む表参照制約を作成するときに (通常は、複数の列の外部キーを定義するための使用法です)、「Parent Key Column (親キーの列)」フィールドに対応する入力を行わずに、列の順序指定が入力されました。

User response: 外部キーの一部となるすべての列に対して、「Parent Key Column (親キーの列)」フィールドに列名を指定してください。

FMNDB963

No columns selected (短). No columns have been selected to define the foreign key for this constraint (長).

Explanation: このメッセージは、表の参照制約を作成 (Db2® オブジェクト機能の「Create Table dialog (表ダイアログの作成)」) するときに発行されます。ユーザーが、新規の制約名を作成して関係の親表を指定しましたが、外部キー列が指定されていません。

User response: 「s」コマンドを使用して、新規の制約項目を選択してください。「Create Table (表の作成): Table Referential Constraint (表参照制約)」パネルが表示されたら、外部キーを構成する列を選択し、親表の対応する列の名前を入力してください。

FMNDB964

Some data not loaded (短). The Db2® catalog did not contain any information for the model table or view for at least one of the model load options specified. For example, check constraints were requested but the referenced model table has no check constraints (長).

Explanation: このメッセージは、モデル表名が入力され、既存の Db2® オブジェクトの情報のロードが要求された場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDB965

No suitable rows (短) The current table definition does not contain any short string columns specified as not null. Use option 2 to define not null columns before defining Procedure Exits.

Explanation: このメッセージは、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。ユーザーが、オプション 7 (Procedure exits (プロシージャー出口)) を選択しましたが、プロシージャー出口を定義する

ことができる適切な列が定義されていません。適切な列が定義されていない場合、プロシージャ出口を定義することはできません。

User response: オプション 7 (Procedure exits (プロシージャ出口)) を使用して、表の適切な列に対して FIELDPROC を指定することができます。通常は、「NOT NULL」または「NOT NULL WITH DEFAULT」として定義された、長さが =255 の文字 (CHARACTER/GRAPHIC) の列のみが適切です。オプション 1 (Columns (列)) およびオプション 2 (Nulls/Default values (ヌル/デフォルト値)) を使用して適切な列を定義した後、オプション 7 を再度選択してください。

FMNDB966

External name required (短). Specify an external name for the *object type* using option *number* before using this option. This is required because the specified name exceeds eight characters (長).

Explanation: このメッセージは、Db2® オブジェクト機能の「Create Function (関数の作成)」および「Create Stored Procedure (ストアド・プロシージャの作成)」ダイアログによって発行されます。関数またはストアド・プロシージャの名前の長さが 8 文字を超えています。この状況では、関数の外部名も指定されている必要があります。*object type* は、オブジェクト機能に応じて、「function (関数)」または「stored procedure (ストアド・プロシージャ)」のいずれかです。*number* は、関数を作成する場合は 4、ストアド・プロシージャを作成する場合は 3 です。

User response: 指定されたオプションを選択し、関数またはストアド・プロシージャの外部名を入力してください。外部名の値として許容できる形式について詳しくは、該当する Db2® バージョンの「Db2® for z/OS® SQL リファレンス」を参照してください。

FMNDB967

String too long (短). The string constant specified as a default value is too long for the associated string column (長).

Explanation: このメッセージは、文字データ・タイプの列にデフォルト値を指定した場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。デフォルト値は長すぎます。例えば、CHAR(3) (長さが 3) の列にデフォルト値「ABCDE」(長さが 5) を指定した場合などです。

User response: デフォルト値のストリングの長さ、データ・タイプの長さフィールドで定義されているその列の最大長を比較してください。いずれかの値を適切に調整してください。

FMNDB968

Invalid data (短). The decimal number specified as a default value is invalid or out of range for the associated decimal number column (長).

Explanation: このメッセージは、DECIMAL データ・タイプの列にデフォルト値を指定した場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。指定されたデフォルト値は、その列に対して指定された精度およびスケールとの関連において無効です。

User response: DECIMAL 列の定義とデフォルト値からの暗黙の精度およびスケールを比較してください。列内のデータ・タイプ (精度およびスケール)、またはデフォルト値のいずれかを調整してください。

FMNDB969

Invalid DATE|TIME|TIMESTAMP (短) The format of the DATE|TIME|TIMESTAMP field or the data it contains is invalid.

Explanation: このメッセージは、DATE、TIME、または TIMESTAMP データ・タイプの列にデフォルト値を指定した場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。指定されたデフォルト値は無効です。

User response: 入力されたデフォルト値とその列のデータ・タイプを調査してください。このエラーの原因として、次の2つが考えられます。

1. 形式が無効です。例: 「12/10/2001」は TIME 列には無効な形式です。
2. 無効な値です。例: 「32/11/2001」は無効な日付です (32 が有効な日 (または月) ではないため)。

有効な DATE/TIME および TIMESTAMP 定数の詳細な説明 (サポートされる形式も含む) については、該当する Db2® バージョンの「Db2® for z/OS® SQL リファレンス」を参照してください。

FMNDB970

Date/time not validated (短). The default values for one or more date or time fields were not validated because the Db2® subsystem date/time format is LOCAL or unknown.

Explanation: このメッセージは、DATE または TIME 列にデフォルト値を指定した場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。DATE または TIME の形式の Db2® デフォルトは、「LOCAL (ローカル)」または「unknown (不明)」です。どちらの場合も、パネル・ロジックは、指定されたデフォルト値を妥当性検査することができません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。入力されたデフォルト値のいずれかが無効である場合、Db2® オブジェクトの作成が試行されると SQL エラーが発生します。

FMNDB971

Date/time not validated (短). The specified default date or time value was not validated because the Db2® subsystem date/time format is LOCAL or unknown (長).

Explanation: このメッセージは、DATE、TIME、または TIMESTAMP 列にデフォルト値を指定した場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。このメッセージは、ポップアップ・パネル「Create Table: Default Value (デフォルト値)」で発行されます。DATE または TIME の形式の Db2® デフォルトは、「LOCAL (ローカル)」または「unknown (不明)」です。どちらの場合も、パネル・ロジックは、指定されたデフォルト値を妥当性検査することができません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。入力されたデフォルト値のいずれかが無効である場合、Db2® オブジェクトの作成が試行されると SQL エラーが発生します。

FMNDB972

Invalid data (短). The floating point number specified as a default value is invalid or outside the range supported by Db2® (長).

Explanation: このメッセージは、2 進数浮動小数点の列 (REAL、FLOAT、DOUBLE) にデフォルト値を指定した場合に、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。指定されたデフォルト値は、Db2® がサポートする範囲外です。

User response: 浮動小数点定数の制限については、該当する Db2® バージョンの「Db2® for z/OS® リファレンス・マニュアル」の『Limits in Db2® for z/OS®』に記載されています。指定されたデフォルト値と資料に記載された値を比較し、適切に調整してください。

FMNDB973

GENERATED ALWAYS added (短). The GENERATED ALWAYS clause has been added to the definition of the column with a data type of ROWID. To change the GENERATED clause select option 8 (長).

Explanation: このメッセージは、ROWID 列の列定義を追加したときに、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。ほとんどの場合、ROWID 列の GENERATED 文節を変更する必要はありません。オプション 8 (Generated Values (生成値)) を使用することで、GENERATED 文節を変更することができます。

FMNDB974

Invalid database name (短). You cannot specify the name of an implicitly created database when creating a table. Implicitly created database names have the form DSNxxxxx, where xxxxx is any 5 numeric digits (長).

Explanation: このメッセージは、表の作成を試行したときに、「Create Table (表の作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。指定されたデータベース名は、形式が「DSNxxxxx」(xxxxx は 00000 から 99999) であるために無効です。この形式の名前は、暗黙的に作成されたデータベース名として Db2® が使用するために予約されています。表を作成することはできません。

User response: 別の Db2® データベース名を指定するか、あるいは暗黙的に必要なデータベースを許容できる場合は、そのデータベース名を完全に削除してください。

FMNDB980

Invalid value (A/D) (短). The valid values for the A/D field are A, for ascending; D, for descending, or blank (長).

Explanation: このメッセージは、「A/D」列に「A」または「D」以外の値が入力された場合に、「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルで発行されます。

User response: 「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルの「A/D」列を使用して、ORDER BY 文節に含まれている列のソート順を指定してください。有効な値は、昇順(デフォルト)の場合は「A」、降順の場合は「D」です。これらの値のいずれかを指定してください。あるいは、フィールドをブランクのままにすると、デフォルトの動作になります。

FMNDB981

Enter sort order (短). A sort order is required when a sort column is specified (A or D in the A/D field). Enter a number in the range 1..999 (長).

Explanation: 「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルの「Order」列を使用して、ORDER BY 文節に含まれている列のソート・シーケンスを指定してください。ユーザーは、「A/D」列に「A」または「D」を指定しましたが、「Order」列に値が指定されていません。

User response: 「A/D」列に非ブランク値が指定されているすべての列の「Order」列に数値を入力してください。

FMNDB990

Mutually exclusive value (短). Specify a JOBNAME value, or an ADDRESS value, but not both (長).

Explanation: このメッセージは、「Create Trusted Context (トラステッド・コンテキストの作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。JOBNAME および ADDRESS フィールドの両方に値が入力されましたが、許容できる値は 1 つのみです。

User response: JOBNAME 値または ADDRESS 値のいずれか 1 つのみを指定してください。CREATE TRUSTED CONTEXT SQL ステートメントの構文は、該当する Db2® バージョンの「Db2® for z/OS® SQL リファレンス・マニュアル」で確認することができます。

FMNDB991

Value required (短). Either a JOBNAME value or an ADDRESS value is required (長).

Explanation: このメッセージは、「Create Trusted Context (トラステッド・コンテキストの作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。JOBNAME および ADDRESS フィールドのどちらにも値が入力されていません。どちらか 1 つの値が必要です。

User response: JOBNAME 値または ADDRESS 値のいずれか 1 つのみを指定してください。CREATE TRUSTED CONTEXT SQL ステートメントの構文は、該当する Db2® バージョンの「Db2® for z/OS® SQL リファレンス・マニュアル」で確認することができます。

FMNDB992

Value not required (短). Do not specify a "Default Role Name" value when the "No Default Role" option is selected (長).

Explanation: このメッセージは、「Create Trusted Context (トラステッド・コンテキストの作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。ユーザーが、「No default role (デフォルトの役割なし)」オプションを選択し、「Default role name (デフォルトの役割名)」フィールドにも値を入力しました。これら 2 つの選択は相互に排他的です。

User response: デフォルトの役割名を指定する場合は、「No default role (デフォルトの役割なし)」オプションを選択解除してください。デフォルトの役割名を指定しない場合は、「Default role name (デフォルトの役割名)」を削除してください。

FMNDB993

Value not required (短). Do not specify a "Security Label Name" value when the "No Default Security Label" option" is selected (長).

Explanation: このメッセージは、「Create Trusted Context (トラステッド・コンテキストの作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。ユーザーが、「No default security label (デフォルトのセキュリティー・ラベルなし)」を選択し、「Security label name (セキュリティー・ラベル名)」フィールドにも値を入力しました。これら 2 つの選択は相互に排他的です。

User response: デフォルトのセキュリティー・ラベル名を指定する場合は、「No default security label (デフォルトのセキュリティー・ラベルなし)」オプションを選択解除してください。デフォルトのセキュリティー・ラベル名を指定しない場合は、「Security label name (セキュリティー・ラベル名)」を削除してください。

FMNDB994

Value not required (短). Do not select the "Without authentication" option when the "PUBLIC" option" is selected (長).

Explanation: このメッセージは、「Create Trusted Context (トラステッド・コンテキストの作成)」ダイアログ (Db2® オブジェクト機能) によって発行されます。ユーザーが、「PUBLIC (公開)」オプションを選択せずに、「Without authentication (認証なし)」オプションを選択しました。後者のオプションを選択する場合は、前者のオプションも選択されている必要があります。

User response: これら 2 つのオプション (「PUBLIC」と「Without authentication」) の有効な選択には、次のものがあります。1) 両方のオプションを選択しない。2) 両方のオプションを選択する。3) 1 つ目のオプションのみを選択する。

FMNDC014

Rows rows exported (短). Rows row(s) exported from SELECT statement (user-specified) to file data set name (長).

Explanation: これは、FM/Db2 エクスポート機能が使用するメッセージ挿入です。エクスポート機能によってエクスポートされた行の数 *rows* が示されます。ターゲット・データ・セットは *data set name* です。このメッセージは、FM/Db2 オプション 4.1 から 4.4 までを使用して最初に入力されたユーザー指定の SELECT ステートメントからデータをエクスポートする場合にのみ表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDC015

Rows rows+hdr expd (短). *Rows row(s) and column header row exported from SELECT statement (user-specified) to file data set name* (長).

Explanation: これは、FM/Db2 エクスポート機能が使用するメッセージ挿入です。エクスポート機能によってエクスポートされた行の数 *rows* が示されます。ターゲット・データ・セットは *data set name* です。このメッセージは、FM/Db2 オプション 4.1 から 4.4 までを使用して最初に入力されたユーザー指定の SELECT ステートメントから CSV 形式で列ヘッダー・データとともにデータをエクスポートする場合にのみ表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDC019

Not in large mode (短). The export command with the ALL|X|EX|INX parameter is not available in large editor mode (row count = 0) (長).

Explanation: ALL|X|EX|INX パラメーターが指定されたエディター EXPORT コマンドが大規模モードで File Manager/Db2 エディター・セッションから発行されました (行カウント = 0、ALL、*)。これはサポートされていないため、このコマンドは処理できません。

User response: 通常のエディター・モードを使用して操作を再試行してください。

FMNDC020

count row(s) exported from Db2® object source Db2 object to file file name. The open returned SQLCODE *sqlcode*. *trunc_count* rows had fetch SQLCODE +445 (truncation) warnings. *warn_count* other rows had fetch warnings (SQLCODE>0, but not +445).

Explanation: このメッセージは、Db2® からデータを取得するときに少なくとも 1 つの正の SQLCODE が受信された場合に、File Manager/Db2 エクスポート機能の終了時に発行されます。エクスポートされた行の数 *count*、エクスポートされた行が含まれていた Db2® オブジェクト *source Db2 object*、エクスポートされたデータが含まれる出力ファイルの名前 *file name*、OPEN カーソルの SQLCODE *sqlcode*、SQLCODE+445 警告を伴って取り出された行の数 *trunc_count*、および正の SQLCODE (+445 を除く) を伴って取り出された行の数 *warn_count* が示されます。SQLCODE+445 は、データが切り捨てられたときに発行される警告状態です。

User response: SQLCODE+445 警告に関しては、エクスポートしたデータを調べて、データが切り捨てられたことによって予期しない結果になっていないかを確認してください。必要に応じてアクションを実行してください。それ以外の警告 SQLCODE の場合、エクスポート操作をオンラインで実行していたのであれば、バッチ実行オプションを使用して操作を繰り返してください。結果のジョブを実行して、出力されるメッセージを調べてください。適切なバージョンの Db2® 用の Db2® for z/OS® SQL コード資料に記載されている SQLCODE を調べてください。必要に応じてアクションを実行してください。

FMNDC021

Row count row(s) and column header row exported from Db2® object *object name* to file *data set name*. The open returned SQLCODE *sqlcode*. *trunc_count* rows had fetch SQLCODE +445 (truncation) warnings. *warn_count* other rows had fetch warnings (SQLCODE>0, but not +445).

Explanation: このメッセージは、Db2® からデータを取得するときに少なくとも 1 つの正の SQLCODE が受信された場合に、FM/Db2 エクスポート機能によって発行されます。このメッセージは、CSV 形式と「Include column headers」オプションが選択されてエクスポートが行われる場合にのみ表示されます。エクスポートされた行数 *count*、エクスポートされた行が含まれていた Db2® オブジェクト *source Db2 object*、エクスポートされたデータが含まれる出力ファイルの名前 *file name*、OPEN カーソルの SQLCODE *sqlcode*、SQLCODE+445 警告を伴って取り出された行数 *trunc_count*、および正の SQLCODE (+445 を除く) を伴って取り出された行数 *warn_count* が示されます。SQLCODE+445 は、データが切り捨てられたときに発行される警告状態です。

User response: SQLCODE+445 警告に関しては、エクスポートしたデータを調べて、データが切り捨てられたことによって予期しない結果になっていないかを確認してください。必要に応じてアクションを実行してください。それ以外の警告 SQLCODE の場合、エクスポート操作をオンラインで実行していたのであれば、バッチ実行オプションを使用して操作を繰り返してください。結果のジョブを実行して、出力されるメッセージを調べてください。適切なバージョンの Db2® 用の Db2® for z/OS® SQL コード資料に記載されている SQLCODE を調べてください。必要に応じてアクションを実行してください。

FMNDC022

Rows row(s) exported from SELECT statement (user-specified) to file *data set name*. The open returned SQLCODE *sqlcode*. *trunc_count* rows had fetch SQLCODE +445 (truncation) warnings. *warn_count* other rows had fetch warnings (SQLCODE>0, but not +445).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 からデータを取得するときに少なくとも 1 つの正の SQLCODE が受信された場合に、Db2® エクスポート機能によって発行されます。エクスポート機能によってエクスポートされた行数 *rows* が示されます。ターゲット・データ・セットは *data set name* です。OPEN カーソルの SQLCODE は *sqlcode* です。SQLCODE +445 警告を伴って取り出された行数は *trunc_count* です。正の SQLCODE (+445 を除く) を伴って取り出された行数は *warn_count* です。SQLCODE+445 は、データが切り捨てられたときに発行される警告状態です。このメッセージは、FM/Db2 オプション 4.1 から 4.4 までを使用して最初に入力されたユーザー指定の SELECT ステートメントからデータをエクスポートする場合にのみ表示されます。

User response: SQLCODE+445 警告に関しては、エクスポートしたデータを調べて、データが切り捨てられたことによって予期しない結果になっていないかを確認してください。必要に応じてアクションを実行してください。それ以外の警告 SQLCODE の場合、エクスポート操作をオンラインで実行していたのであれば、バッチ実行オプションを使用して操作を繰り返してください。結果のジョブを実行して、出力されるメッセージを調べてください。適切なバージョンの Db2® 用の Db2® for z/OS® SQL コード資料に記載されている SQLCODE を調べてください。必要に応じてアクションを実行してください。

FMNDC023

Rows row(s) and column header row exported from SELECT statement (user-specified) to file *data set name*. The open returned SQLCODE *sqlcode*. *trunc_count* rows had fetch SQLCODE +445 (truncation) warnings. *warn_count* other rows had fetch warnings (SQLCODE>0, but not +445).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 からデータを取得するときに少なくとも 1 つの正の SQLCODE が受信された場合に、Db2® エクスポート機能によって発行されます。エクスポート機能によってエクスポートされた行数 *rows* が示されます。ターゲット・データ・セットは *data set name* です。OPEN カーソルの SQLCODE は *sqlcode* です。SQLCODE +445 警告を伴って取り出された行数は *trunc_count* です。正の SQLCODE (+445 を除く) を伴って取り出された行数は *warn_count* です。SQLCODE+445 は、データが切り捨てられたときに発行される警告状態です。このメッセージは、FM/Db2 オプション 4.1 から 4.4 までを使用して最初に入力されたユーザー指定の SELECT ステートメントから CSV 形式で列ヘッダー・データとともにデータをエクスポートする場合にのみ表示されます。

User response: SQLCODE+445 警告に関しては、エクスポートしたデータを調べて、データが切り捨てられたことによって予期しない結果になっていないかを確認してください。必要に応じてアクションを実行してください。それ以外の警告 SQLCODE の場合、エクスポート操作をオンラインで実行していたのであれば、バッチ実行オプションを使用して操作を繰り返してください。結果のジョブを実行して、出力されるメッセージを調べてください。適切なバージョンの Db2® 用の Db2® for z/OS® SQL コード資料に記載されている SQLCODE を調べてください。必要に応じてアクションを実行してください。

FMNDC026

Open cursor SQLCODE=*sqlcode*.

Explanation: このメッセージは、カーソルが開かれたときに正の SQLCODE が Db2® から受信された場合に、バッチ・モードで実行されている FM/Db2 エクスポート機能によって発行されます。

User response: 適切なバージョンの Db2® 用の Db2® for z/OS® SQL コード資料に記載されている SQLCODE を調べてください。必要に応じてアクションを実行してください。

FMNDC027

Fetch SQLCODE=*sqlcode* for row *row* (data truncation).

Explanation: このメッセージは、Db2® からデータを 1 行取り出すときに SQLCODE+445 が受信された場合に、バッチ・モードで実行されている FM/Db2 エクスポート機能によって必ず発行されます。SQLCODE+445 は、データが切り捨てられたことを示します。

User response: エクスポートしたデータを調べて、データが切り捨てられたことによって予期しない結果になっていないかを確認してください。必要に応じてアクションを実行してください。

FMNDC028

Fetch SQLCODE=*sqlcode* for row *row* (warning).

Explanation: このメッセージは、Db2® からデータを 1 行取り出すときに +445 以外の正の SQLCODE が受信された場合に、バッチ・モードで実行されている FM/Db2 エクスポート機能によって必ず発行されます。

User response: 適切なバージョンの Db2® 用の Db2® for z/OS® SQL コード資料に記載されている SQLCODE を調べてください。必要に応じてアクションを実行してください。

FMNDC030

Processing Db2® object name for DELETE.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の開始時に発行されます。FM/Db2 は、削除処理のためにオブジェクト名を処理しています。

User response: アクションは不要です。

FMNDC031

Inserting rows into Db2® object name.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の開始時に発行されます。FM/Db2 は、挿入処理のためにオブジェクト名を処理しています。

User response: アクションは不要です。

FMNDC032

Processing Db2® object name for UPDATE.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の開始時に発行されます。FM/Db2 は、更新処理のためにオブジェクト名を処理しています。

User response: アクションは不要です。

FMNDC033

Row count rows deleted.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の終了時に発行されます。FM/Db2 は、「row count (行数)」行をオブジェクトから正常に削除しました。

User response: アクションは不要です。

FMNDC034

Row count rows inserted.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の終了時に発行されます。FM/Db2 は、「row count (行数)」行をターゲット・オブジェクトに正常に挿入しました。

User response: アクションは不要です。

FMNDC035

Row count rows updated.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の終了時に発行されます。FM/Db2 は、「row count (行数)」行をオブジェクトから正常に更新しました。

User response: アクションは不要です。

FMNDC036

Batch DELETE canceled because of excessive errors (*errcnt,maxerr*).

Explanation: この通知メッセージは、TYPE=DELETE BATSQL 処理中に発行されます。ユーザー指定のエラー限界 *maxerr* (MAXERRORS キーワード) に達したため、FM/Db2 は行の削除を停止しました。実際のエラーの数は *errcnt* でした。発生したエラーの要約が続きます (メッセージ FMNDC039 および FMNDC060)。エラーが行セットの処理中に発生した場合、エラー件数は行セット内の行数分だけ増えることに注意してください。これにより、実際に報告されるエラーの数が MAXERRORS に指定された値を超えることがあります。

User response: エラーの要約を調べ、応答してください。

FMNDC037

Batch INSERT canceled because of excessive errors (*errcnt,maxerr*).

Explanation: この通知メッセージは、TYPE=INSERT BATSQL 処理中に発行されます。ユーザー指定のエラー限界 *maxerr* (MAXERRORS キーワード) に達したため、FM/Db2 は行の挿入を停止しました。実際のエラーの数は *errcnt* でした。発生したエラーの要約が続きます (メッセージ FMNDC039 および FMNDC060)。

User response: エラーの要約を調べ、応答してください。

FMNDC038

Batch UPDATE canceled because of excessive errors (*errcnt,maxerr*).

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の終了時に発行されます。ユーザー指定のエラー限界 (MAXERRORS キーワード) に達したため、FM/Db2 は行の更新を停止しました。発生したエラーの要約が続きます (メッセージ FMNDC039)。エラーが行セットの処理中に発生した場合、エラー件数は行セット内の行数分だけ増えることに注意してください。これにより、実際に報告されるエラーの数が MAXERRORS に指定された値を超えることがあります。

User response: エラーの要約を調べ、応答してください。

FMNDC039

Error count rows gave SQLCODE sqlcode.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の終了時に発行されます。機能の実行中に、削除/挿入操作または更新操作によって、エラー件数 SQLCODE sqlcode エラーが発生しました。異なる SQLCODE を受け取った場合 (例えば SQLCODE-803、SQLCODE-545)、このメッセージは異なる SQLCODE ごとに 1 回発生します。

User response: エラーの要約を調べ、応答してください。

FMNDC040

Row count pending deletes rolled back.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の終了時に発行されます。ユーザー指定のエラー限界 (MAXERRORS キーワード) に達したため、FM/Db2 は行の削除を停止しました。「row count (行数)」行は最後のコミット・ポイントの後に削除されました。これらの行に対する変更は、Db2® ロールバックの結果としてバックアウトされました。

User response: アクションは不要です。

FMNDC041

Row count pending inserts rolled back.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の終了時に発行されます。ユーザー指定のエラー限界 (MAXERRORS キーワード) に達したため、FM/Db2 は行の挿入を停止しました。「row count (行数)」行は最後のコミット・ポイントの後に挿入されました。これらの行に対する変更は、Db2® ロールバックの結果としてバックアウトされました。

User response: アクションは不要です。

FMNDC042

Row count pending updates rolled back.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の終了時に発行されます。ユーザー指定のエラー限界 (MAXERRORS キーワード) に達したため、FM/Db2 は行の更新を停止しました。「row count (行数)」行は最後のコミット・ポイントの後に更新されました。これらの行に対する変更は、Db2® ロールバックの結果としてバックアウトされました。

User response: アクションは不要です。

FMNDC043

Row count commit(s) issued prior to completion.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQ SQL 機能の終了時に発行されます。AUTOCOMMIT キーワードがゼロ以外の値を指定しました。FM/Db2 は、行が処理されたときに 1 つ以上のコミットを発行しました。行カウントには、機能の終了時に発行される最終のコミットまたはロールバックは含まれません。

User response: アクションは不要です。

FMNDC044

Required SET clause missing.

Explanation: このエラー・メッセージは、BATSQ SQL 機能の処理中に出されます。更新操作が要求されましたが、SET 文節が見つかりませんでした。

User response: SET 文節が指定されていることを確認し、機能を再実行してください。

FMNDC045

SET clause must begin with 'SET'

Explanation: このエラー・メッセージは、BATSQ SQL 機能の処理中に出されます。更新操作が要求されましたが、SET 文節が「SET」で開始されていません。

User response: SET 文節は更新ステートメントの有効な SET 文節でなければなりません。詳しくは、Db2® SQL リファレンス・マニュアルを参照してください。SET 文節が「SET」で始まっていることを確認し、機能を再実行してください。

FMNDC046

SET clause incomplete, it must contain an assignment for >= 1 column(s).

Explanation: このエラー・メッセージは、BATSQ SQL 機能の処理中に出されます。更新操作が要求されましたが、SET 文節には少なくとも 1 つの列の割り当てが含まれていません。

User response: SET 文節には「SET COL1=value」のように少なくとも 1 つの列の割り当てを含める必要があります。詳しくは、Db2® SQL リファレンス・マニュアルを参照してください。SET 文節を訂正して、機能を再実行してください。

FMNDC047

WHERE clause must begin with 'WHERE'.

Explanation: このエラー・メッセージは、BATSQ SQL 機能の処理中に出されます。更新操作または削除操作が要求されましたが、WHERE 文節が「WHERE」で開始されていません。

User response: WHERE 文節は更新ステートメントまたは削除ステートメントの有効な WHERE 文節でなければなりません。詳しくは、Db2® SQL リファレンス・マニュアルを参照してください。WHERE 文節が「WHERE」で始まっていることを確認し、機能を再実行してください。

FMNDC048

Isolation UR incompatible with delete or update, CS substituted.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の開始時に発行されます。制御ステートメントには、削除機能または更新機能のいずれかについての ISOLATION=UR が含まれています。位置指定された削除ステートメントまたは更新ステートメントが発行されたとき、アンコミット読み取りはサポートされません。この方法は、行の削除または更新のために BATSQL 機能によって使用される方法です。ISOLATION 値は CS (カーソル固定) に対するものです。

User response: ISOLATION キーワードに指定された値を確認してください。この値を「NONE」または「CS」に変更することを検討してください。

FMNDC049

DELETEALL=YES must be specified for a delete without a WHERE clause.

Explanation: このエラー・メッセージは、BATSQL の削除機能の処理中に出されます。削除機能の場合、where 文節を省略すると、表のすべての行の削除が試行されます。安全機能として、DELETEALL=YES も制御ステートメントに含める必要があります。

User response: BATSQL 機能の目的のアクションを確認してください。表内のすべての行を削除する意図がある場合は、DELETEALL=YES ステートメントを追加し、機能を再実行してください。

FMNDC050

Insert column list must be enclosed in (). Eg (Col1, Col2).

Explanation: このエラー・メッセージは、BATSQL の挿入機能の処理中に出されます。列の無効な挿入文節が検出されました。

User response: 列の挿入文節には、コンマ区切りの列名のリストを含める必要があります。リスト全体を括弧で囲む必要があります。詳しくは、Db2® SQL リファレンス・マニュアルを参照してください。列の挿入文節を訂正して、機能を再実行してください。

FMNDC051

Insert column list incomplete, it must contain >=1 column(s).

Explanation: このエラー・メッセージは、BATSQL の挿入機能の処理中に出されます。列の無効な挿入文節が検出されました。

User response: 列の挿入文節には少なくとも 1 つの列名が含まれている必要があります。さらに、その列名はターゲット表の列でなければなりません。詳しくは、Db2® SQL リファレンス・マニュアルを参照してください。列の挿入文節を訂正して、機能を再実行してください。

FMNDC052

Single row processing active.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQL 機能の開始時に発行されます。単一行処理はアクティブです。つまり、FM/Db2 はソース表から行を 1 行ずつ取り出します。

User response: アクションは不要です。

FMNDC053

Rowset processing (*nnn* rows) active.

Explanation: この通知メッセージは、BATSQ 機能の開始時に発行されます。行セット処理はアクティブです。つまり、FM/Db2 は一度に *nnn* 行ずつ取り出します。

User response: アクションは不要です。

FMNDC054

Required SELECT clause is missing or incomplete.

Explanation: これは、BATSQ 機能の処理中に出されるエラー・メッセージです。指定された SELECT 文節が指定されていないか不完全です。

User response: SELECT 文節のコーディングを訂正してください。SELECT 文節は「SELECT」で始まり、結果表を識別する必要があります。最短の有効な SELECT 文節は「SELECT * FROM <name>」です。ここで、<name> は修飾されていない Db2® オブジェクト名です。BATSQ 機能を再試行してください。

FMNDC055

SELECT clause must begin with 'SELECT'.

Explanation: これは、BATSQ 機能の処理中に出されるエラー・メッセージです。指定された SELECT 文節が「SELECT」で始まっていません。

User response: SELECT 文節のコーディングを訂正してください。BATSQ 機能を再試行してください。

FMNDC056

SELECT clause is invalid, SQLCODE=SQLCODE.

Explanation: これは、BATSQ 機能の処理中に出されるエラー・メッセージです。指定された SELECT 文節が無効であるため、Db2® はステートメントを準備しようとしたときに SQLCODE=SQLCODE を戻しました。

User response: 適切なバージョンの Db2® 用の Db2® コード資料に記載されている SQLCODE を調べ、指定した情報を使用して、SELECT ステートメントを訂正してください。BATSQ 機能を再試行してください。

FMNDC057

Column COLNAME is not a column of OBJNAME.

Explanation: これは、BATSQ 機能の処理中に出されるエラー・メッセージです。指定した列名 COLNAME が、Db2® オブジェクト OBJNAME に存在しません。

User response: 指定した列名が、指定した Db2® オブジェクトの列ではない理由を特定してください。原因のリストは以下のとおりです (完全なリストではありません)。

1. スペル・エラー
2. 大/小文字の問題
3. 誤った Db2® オブジェクト名の参照
4. 目的のシステムとは異なる Db2® サブシステム上の Db2® オブジェクト名を参照していること。

入力ステートメントを訂正し、BATSQ 機能を再試行してください。

FMNDC058

The requested function is not supported: XML columns.

Explanation: これは、INSERT BATSQ 機能の処理中に出されるエラー・メッセージです。XML 列が、ターゲットの Db2® オブジェクトまたはソースの SELECT ステートメントのいずれかで検出されました。TYPE=INSERT を指定した BATSQ 機能は XML 列をサポートしません。 The function cannot be performed.

User response: なし。要求された操作は実行できません。

FMNDC059

Switching to single-row processing because of multi-row errors.

Explanation: これは、DELETE または UPDATE BATSQ 機能の処理中に出されるエラー・メッセージです。行セット処理はアクティブですが、行セットの削除/更新の試行時に SQL エラーが発生しました。現在の行セット内のすべての行が変更されず、FM/Db2 は行セット内のすべての行を「in error」としてマークします。FM/Db2 は、次の行セットに移動し、その行セット内の各行を個別に処理しようとします。

User response: 出力オブジェクトを調べて、SQL エラーが発生した理由を判別してください。適切なアクションを取ってください。

FMNDC060

1 rowset gave SQLCODE *sqlcode*.

Explanation: このメッセージは、行セット処理がアクティブであるときに、DELETE または UPDATE BATSQ 機能の処理中に出されます。行セットを削除または更新しようとしたときに SQL エラーが発生しました。失敗した SQLCODE は *sqlcode* です。現在の行セット内のすべての行が変更されず、FM/Db2 は行セット内のすべての行を「in error」としてマークします。

User response: 出力オブジェクトを調べて、SQL エラーが発生した理由を判別してください。適切なアクションを取ってください。

FMNDC062

Invalid SET clause.

Explanation: このメッセージは、UPDATE BATSQ 機能の処理中に出されます。SET 文節が無効です。このメッセージは、以下の形式の SET 文節に固有のものです。

```
SET (Col1 , ...) = (Val1, ...)
```

SET 文節構文の詳しい説明については、該当する Db2® バージョンの「SQL リファレンス」を参照してください。このエラーの原因は、通常は以下のとおりです。

- 列または値リストのいずれかに括弧がない。
- 列と値リストの間に「=」がない。
- 列リストに列がない。
- 値リストに値がない。

User response: SET 文節を調べて、構文エラーを訂正し、機能を再試行してください。

FMNDC170

Changes discarded (短). The invalid change to the data format option has been discarded. 次のいずれかの値を入力します。1, 2, 3, 4 (長).

Explanation: ユーザーが、「Import option (インポート・オプション)」パネルの「Data format (データ形式)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、「Import option (インポート・オプション)」パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC171

Changes discarded (短). The invalid change to the duplicate key processing option has been discarded. 次のいずれかの値を入力します。1, 2 (長).

Explanation: ユーザーが、「Import option (インポート・オプション)」パネルの「Duplicate key processing (重複キーの処理)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、「Import option (インポート・オプション)」パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC172

Changes discarded (短). The invalid change to the maximum duplicates option has been discarded. 次のいずれかの値を入力します。*, ALL, or a number in the range 0-2147483647 inclusive (長).

Explanation: ユーザーが、「Import option (インポート・オプション)」パネルの「Max duplicates (最大重複数)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、「Import option (インポート・オプション)」パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC174

Changes discarded (短). The invalid change to the auto-commit count option has been discarded. Enter a number in the range 0-2147483647 inclusive (長).

Explanation: ユーザーが、「Import option (インポート・オプション)」パネルの「Auto commit count (自動コミット・カウント)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、「Import option (インポート・オプション)」パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC180

Enter a value (短). A value is required. Enter a frequency between 0 and 1 exclusive. As an example 0.1 will sample approximately 10% of rows (長).

Explanation: ユーザーが、FM/Db2 エディター・オプションのパネルで「random sampling (ランダム・サンプリング)」を選択しましたが、「sampling frequency (サンプリング頻度)」の値を入力しませんでした。ランダム・サンプリングを使用する場合、サンプリング頻度は必須です。

User response: 0.0 から 1.0 の間の10 進数値を入力してください。例えば、0.1 を入力すると、オブジェクト内の約 10% の行がサンプリングされます。これらの行は、FM/Db2 エディター・セッションに表示されます。大きい値を入力すると、多くの行がサンプリングされ、小さい値を入力すると、少ない行がサンプリングされます。

FMNDC181

Invalid value (短). Valid frequencies are 0.000000001 - 0.999999999 inclusive. Enter a value within these limits (長).

Explanation: ユーザーが、FM/Db2 エディター・オプションのパネルで「random sampling (ランダム・サンプリング)」を選択しましたが、「sampling frequency (サンプリング頻度)」に有効な値を入力しませんでした。有効なサンプリング頻度は、0.0 から 1.0 の間の10 進数で、小数点以下 9 桁の精度があります。

User response: 0.0 から 1.0 の間の10 進数値を入力してください。例えば、0.1 を入力すると、オブジェクト内の約 10% の行がサンプリングされます。これらの行は、FM/Db2 エディター・セッションに表示されます。大きい値を入力すると、多くの行がサンプリングされ、小さい値を入力すると、少ない行がサンプリングされます。

FMNDC182

Enter a number (短). Enter a number (seed) to start the generation of pseudo-random numbers, or 0 to use a seed derived from the system clock. Valid values are 0-2147483647 inclusive (長).

Explanation: ユーザーが、FM/Db2 エディター・オプションのパネルで「random sampling (ランダム・サンプリング)」を選択しましたが、「sampling seed (サンプリング・シード)」に有効な値を入力しませんでした。シード値を使用して、疑似乱数生成プログラムを開始します。

User response: 0 から 2147483647 の間の整数を入力してください。値 0 を入力すると、コンピューターのシステム・クロックの現行値に基づいてシード値が設定されます。システム・クロックは、マイクロ秒の精度があるため、ほとんどの目的で使用できるランダム値です。それ以外の値を入力すると、サンプリング対象の行の場合、特定の Db2® オブジェクトの動作が反復可能になり、サンプリング頻度が同じになります。

FMNDC183

Changes discarded (短). The invalid change to the Initial skip count has been discarded. The Initial skip count value must be in the range 0-999999999 (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Initial skip count (初期スキップ・カウント)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC184

Changes discarded (短). The invalid change to the Include count has been discarded. The Include count value must be in the range 1-999999999 (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Include count (組み込みカウント)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC185

Changes discarded (短). The invalid change to the Skip count has been discarded. The Skip count value must be in the range 0-999999999 (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Skip count (スキップ・カウント)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC186

Changes discarded (短). The invalid change to the Sampling limit has been discarded. The Sampling limit value must be in the range 0-999999999 (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Sampling limit (サンプリング制限)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC187

Changes discarded (短). The invalid change to the Sampling frequency has been discarded. The Sampling frequency value must be in the range 0.000000001 - 0.999999999 (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Sampling frequency (サンプリング頻度)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC188

Changes discarded (短). The invalid change to the Sampling seed has been discarded. The Sampling seed value must be in the range 0-2147483647 (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Sampling seed (サンプリング・シード)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC189

Changes discarded (短). The invalid change to the Change count before auto commit has been discarded. The Change count before auto commit value must be in the range 0-2147483647 (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Change count before auto commit (自動コミット前の変更数)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC190

Changes discarded (短). The invalid change to the Prefix Length option has been discarded (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Prefix length (接頭部の長さ)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC191

Changes discarded (短). The invalid change to the input/display characters has been discarded. The input/display delimiter characters must be non-blank and unique (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルのストリング区切り文字および/またはヌル列標識の入力/表示文字に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC192

Changes discarded (短). The invalid change to the Edit locking option has been discarded. Enter one of the listed values for the Edit locking option (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Edit locking (編集ロック)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC193

Changes discarded (短). The invalid change to the "Optimization for" value has been discarded. Enter a number in the range 0-999999 inclusive. Use 0 if no optimization clause is required (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Optimization for (最適化の対象)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC194

Changes discarded (短). The invalid change to the Keep locks option has been discarded. Enter one of the listed values for the Keep locks option (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Keep locks (保持ロック)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC195

Changes discarded (短). The invalid change to the Scrollable cursor type option has been discarded. Enter one of the listed values for the Scrollable cursor type option (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Scrollable cursor type (スクロール可能カーソル・タイプ)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプションのパネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC196

Changes discarded (短). The invalid change to the Data sampling type option has been discarded. Enter one of the listed values for the Data sampling type option (長).

Explanation: ユーザーが、エディター・オプション・パネルの「Data sampling type (データ・サンプリング・タイプ)」値に対して無効な変更を行い、END に割り当てられた PF キーを押しました (または、END を入力しました)。無効な値は破棄され、エディター・オプション・パネルが再表示されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。オプションを変更したら、ENTER を押して変更を確認してからパネルを終了してください。

FMNDC197

Enter a positive number (短). A positive number is required for this option when clustered sampling is selected. Enter a number in the range 1-999999999 inclusive (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 エディター・オプション・パネルで「clustered sampling (クラスター化サンプリング)」を選択しましたが、「Include count (組み込みカウント)」フィールドの 1 つに無効な値を入力しました。示された範囲の正整数値を入力する必要があります。

User response: 1 から 999999999 の範囲の正整数値を入力してください。

FMNDC198

Invalid value or number (短). A number is required for this option. Valid values are *range* inclusive (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 エディター・オプション・パネルで「clustered sampling (クラスター化サンプリング)」または「random sampling (ランダム・サンプリング)」を選択しましたが、他のサンプリング・フィールドの 1 つに無効な値を入力しました。示されたフィールドに有効な値は、メッセージの *range* に示されています。

User response: 長メッセージに示されている範囲の値を入力してください。長メッセージにアクセスするには、HELP に割り当てられた PF キー (通常は PF1) を押すか、コマンド行で HELP を入力して Enter を押します。

FMNDC199

Enter a number (短). A number is required for the optimization clause. Valid values are 0-999999 inclusive. Use 0 if no optimization clause is required (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 エディター・オプション・パネル「Optimize for (最適化の対象)」の値をクリアして Enter キーを押しました。このフィールドには値が必要です。

User response: 0 から 999999 の範囲の値を入力してください。0 を指定した場合、現行のエディター・セッションのデータを取り出すために使用する SELECT ステートメントに「OPTIMIZE FOR nn ROWS」文節が追加されません。状況によっては、小さい値 (1 など) を指定すると、データを取り出すときに Db2® が使用するアクセス・パスが変更される場合があります。それによって、応答時間が向上します。詳しくは、Db2® SQL リファレンス・マニュアルを参照してください。

FMNDC200

Invalid label range (短). The label range entered is invalid. Press help for more information (長).

Explanation: ユーザーが、EXPORT エディター基本コマンドをラベルと一緒に入力しました。指定されたラベルが無効です。export コマンドは実行できません。

User response: 指定されたラベルを慎重に確認してください。このエラーの一般的な原因の 1 つに、存在しないラベルが指定された場合があります。HELP に割り当てられた PF キー (デフォルトは PF1) を押して、このエラーに関するヘルプの詳細を表示できます。

FMNDC201

NX|X|EX invalid (短). The NX|X|EX parameters cannot be specified when in SNGL mode. Press help for more information (長).

Explanation: ユーザーが、EXPORT エディター基本コマンドに NX、X、または EX オプションを付けて SNGL モードで入力しました。除外行または非除外行オプションは、SNGL モードでは適用できません。export コマンドは実行できません。

User response: 表示モードを TABL に変更し、コマンドを再発行してください。あるいは、除外行または非除外行オプションを削除して、コマンドを再発行してください。HELP に割り当てられた PF キー (デフォルトは PF1) を押して、このエラーに関するヘルプの詳細を表示できます。

FMNDC202

Not in zoom mode (短). The export primary command is invalid in Zoom mode (長).

Explanation: ユーザーが、EXPORT エディター基本コマンドを ZOOM モードで入力しました。このモードはサポートされていません。export コマンドは実行できません。

User response: TABL または SNGL 表示モードに戻り、コマンドを再発行してください。HELP に割り当てられた PF キー (デフォルトは PF1) を押して、このエラーに関するヘルプの詳細を表示できます。

FMNDC203

No labels (短). Labels cannot be specified when in SNGL mode. Press help for more information (長).

Explanation: ユーザーが、EXPORT エディター基本コマンドにラベル範囲を指定して SNGL モードで入力しました。ラベルは、TABL 表示モードでの EXPORT コマンドにのみ指定することができます。export コマンドは実行できません。

User response: TABL 表示モードに戻り、コマンドを再発行してください。HELP に割り当てられた PF キー (デフォルトは PF1) を押して、このエラーに関するヘルプの詳細を表示できます。

FMNDC204

ALL|NX|X|EX missing (短). Labels cannot be specified unless ALL|NX|X|EX is also specified. Press help for more information (長).

Explanation: ユーザーが、EXPORT エディター基本コマンドにラベル範囲を指定して入力しましたが、ALL または NX|X|EX パラメーターをいずれも指定していません。ラベル範囲を指定する場合は、ALL、NX|X|EX オプションの 1 つを指定する必要があります。export コマンドは実行できません。

User response: HELP に割り当てられた PF キー (デフォルトは PF1) を押して、「構文図」の ALL|NX|X|EX パラメーターに関するトピックを確認してください。構文図の要件および EXPORT コマンドの用途を満たすようにコマンドを変更し、コマンドを再発行してください。

FMNDC206

Export failed (短). The export operation failed (長).

Explanation: ユーザーが、File Manager/Db2 エディター・セッションで EXPORT エディター基本コマンドを発行しました。コマンドが失敗しました。

User response: 出力データ・セットの割り振り/スペースおよび関連するエラーを確認してください。

FMNDC207

LRECL mismatch (短). The (RECFM=F) export data set has LRECL=LRECL 1. The required LRECL is LRECL 2. Specify a different export data set (長).

Explanation: ユーザーが、エクスポート操作を試行し、エクスポートされたデータと非互換の LRECL=F データ・セットを指定しました。このエクスポート操作を実行することはできません。

User response: LRECL=LRECL 2 のエクスポート・データ・セットを使用してください。

FMNDC208

Inconsistent selection (短). The template usage option should only be set to None when the export data format is set to CSV. Select another template usage option (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エクスポート機能によって「To」パネル上で発行されます。ユーザーが、「Template usage (テンプレートの使用法)」オプションに「5」(CSV)を入力しました。しかし、最初のエクスポート・オプションのパネルで設定されたエクスポート・データ形式のオプションが CSV ではありません。このエクスポートを続行することはできません。

User response: 最初のエクスポート・オプションのパネルで選択したエクスポート・データ形式によって、エクスポート「To」パネルで指定することができるテンプレートの使用法のオプションが制限されます。以下のリストは、各エクスポート・データ形式にどの「template usage option (テンプレートの使用法のオプション)」を指定できるかを示しています。

Export data format Template usage option FM/Db2 (SQLDA) format All except 5 (CSV) Db2 UNLOAD format All except 5 (CSV) DSNTIAUL format All except 5 (CSV) User defined All except 5 (CSV) Delimited variables (CSV) 5 (CSV) only.

FMNDC209

LRECL mismatch (短). The (RECFM=V) export data set has LRECL=LRECL 1. The required LRECL is at least LRECL 2. Specify a different export data set.

Explanation: ユーザーが、エクスポート操作を試行し、エクスポートされたデータと非互換の LRECL=F データ・セットを指定しました。このエクスポート操作を実行することはできません。

User response: LRECL=LRECL 2 のエクスポート・データ・セットを使用してください。

FMNDC220

NX|X|EX invalid (短). The NX|X|EX parameters cannot be specified when in browse mode. Press help for more information (長).

Explanation: ユーザーが、ブラウザ・セッションで EXPORT エディター基本コマンドを入力しました。EXPORT コマンドには、除外行または非除外行への参照が含まれています。これは、File Manager/Db2 ブラウズ・セッションではサポートされていません。

User response: EXPORT コマンドを変更し、除外行または非除外行への参照をすべて削除して、操作を再試行してください。目的とする使用法で EXPORT コマンドの一部として除外行または非除外行を使用する必要がある場合は、File Manager/Db2 ビュー・セッションを使用して処理を繰り返してください。

FMNDC221

No labels (短). Labels cannot be specified when in browse mode. Press help for more information (長).

Explanation: ユーザーが、ブラウザ・セッションで EXPORT エディター基本コマンドを入力しました。EXPORT コマンドには、ラベル参照が含まれています。File Manager/Db2 ブラウズ・セッションには接頭領域がないため、ラベルを入力することも参照することもできません。

User response: EXPORT コマンドを変更し、ラベルへの参照をすべて削除して、操作を再試行してください。

FMNDC230

Warning - fixed RECFM (短). The output data set has a fixed record format, which is not recommended when using CSV format. Specify a data set with RECFM=VB or RECFM=V (長).

Explanation: このメッセージは、CSV 形式が選択された場合に、FM/Db2 エクスポート・ユーティリティによって発行されます。出力データ・セットの属性が CSV 形式 (これにより可変長の出力レコードが生成される) と不整合です。

User response: 通常、RECFM=F や RECFM=FB は CSV 形式で使用できません。エクスポート「To」パネルで新規データ・セットの名前を指定することができ、FM/Db2 が正しい LRECL を計算します。

FMNDC500

Executed OK (短). The ALTER/COMMENT/CREATE/DROP/ GRANT/LABEL/REVOKE statement executed successfully. Db2® returned an SQLCODE of SQLCODE (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト・リストおよびオブジェクト特権ユーティリティーによって発行されます。SQL ステートメントが正常に実行されました。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDC510

No rows returned (短). No rows were fetched, SQL code = +100 (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト・リスト、オブジェクト特権、および説明ユーティリティーによって発行されます。SELECT ステートメントが実行されましたが、行が返されませんでした (SQLCODE+100)。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDC520

No allocation data (短). The PQTY/SQTY values in SYSIBM.SYSTABLEPART indicate that RUNSTATS has not been run. The primary and/or secondary space allocation data for the table space is unavailable (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーからアクセスする「Alter Table Space (表スペースの変更)」および「Alter Index (索引の変更)」パネルによって発行されます。FM/Db2 が Db2® カタログにアクセスして表スペースあるいは索引に対する現行のスペース割り振り値を判別しましたが、RUNSTATS ユーティリティーが実行されていないため、この情報を使用することができません。該当する表スペースまたは索引に対して RUNSTATS ユーティリティーを実行し、ALTER (変更) 操作を繰り返すことで、この問題を解決することができます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDC521

No allocation data (短). The PQTY/SQTY values in SYSIBM.SYSINDEXPART indicate that RUNSTATS has not been run. The primary and secondary space allocation data for the index space is unavailable (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト・リスト・ユーティリティーからアクセスする「Alter Index (索引の変更)」パネルによって発行されます。FM/Db2 が Db2® カタログにアクセスして索引に対する現行のスペース割り振り値を判別しました。しかし、RUNSTATS ユーティリティーが実行されていないため、この情報を使用することができません。該当する索引に対して RUNSTATS ユーティリティーを実行し、ALTER (変更) 操作を繰り返すことで、この問題を解決することができます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDC580

Must be blank (短). Specify one value or the other, but not both (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 特権機能によって発行されます。ユーザーが、相互に排他的な 2 つのオプションの両方を選択しました。

User response: どちらか 1 つのみを選択してください。コマンドに関連する構文図については、「SQL リファレンス・マニュアル」を参照してください。

FMNDC581

Cannot drop directly (短). An auxiliary table cannot be dropped directly. To drop an auxiliary table drop the table that uses the auxiliary table (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2Db2@ オブジェクト機能ユーティリティーによって発行されます。ユーザーが、「D」(Drop)とオブジェクト・タイプ 12 (補助表)の組み合わせを指定しました。この組み合わせはサポートされていません。

User response: 補助表を直接除去することはできません。補助表の除去は、補助表が属している表の DROP (除去)によって行う必要があります。補助表の使用に関する完全な説明については、「Db2@ SQL リファレンス」を参照してください。

FMNDC583

Reserved (短). Sequence number 1 is reserved for the SEL field. Specify a larger value (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト・リスト、オブジェクト特権、および説明機能 (集成的 ISQ 機能) から表示された「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」パネルによって発行されます。ISQ 機能のオブジェクト表示は、変更されたバージョンの FM/Db2 エディターを使用してデータを表示し、通常の FM/Db2 エディター・セッションと同じテンプレート・エディター機能の使用を可能にします (いくつかの制限があります)。「Seq」フィールドにシーケンス番号を指定することができますが、値 1 は「Sel」フィールド (ほとんどの ISQ パネルで表示されます)用に予約されています。

User response: 必要な順序付けを 1 ではなく 2 から開始して指定してください。

FMNDC584

Must be blank (短). Specify the ALL parameter, or one or more values, but not both (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 特権機能によって表示される各種「Revoke Privilege (特権の取り消し)」パネルによって発行されます。SYSADM 権限を使用して特権を取り消す場合、すべてのユーザーから特権を取り消したり、リスト 1 から 3 の個々の Db2@ 許可 ID から特権を取り消したりできます。これらのオプションは、相互に排他的です。「ALL」を選択し、個々の Db2@ 許可 ID も入力することはできません。

User response: すべての Db2@ 許可 ID から特権を取り消す場合は、「ALL」を選択してください。あるいは、1 つ以上の個々の Db2@ 許可 ID を入力してください。

FMNDC585

Must be selected (短). The PUBLIC selection field must be selected when the AT ALL LOCATIONS selection field is selected (長).

Explanation: このメッセージは、「Grant Table Privileges (表特権の認可)」および「Grant Column Privileges (列特権の認可)」パネルによって発行されます。ユーザーが、「AT ALL LOCATIONS」フィールドを選択しましたが、「PUBLIC」フィールドを選択していません。前者のフィールドを選択する場合、後者のフィールドも選択する必要があります。

User response: 「PUBLIC」フィールドと「AT ALL LOCATIONS」フィールドの両方を選択してください。

FMNDC586

Not with ROLE (短). The ROLE and PUBLIC options cannot both be selected. PUBLIC is a special Db2@ authid, not a valid role name (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが「ROLE」フィールドと「PUBLIC」フィールドの両方を選択した場合に、Db2® 特権ユーティリティによって発行されます。このユーティリティは、「PUBLIC」オプションと「ROLE」オプションの両方を同時に使用することはサポートしていません。

User response: 「PUBLIC」の特権を認可する/取り消すには、「ROLE」フィールドをクリアして、要求を処理します。同様に、「ROLE」の特権を認可する/取り消すには、「PUBLIC」フィールドをクリアして、要求を処理します。

FMNDC587

Not with ROLE (短). The ROLE and ALL options cannot both be selected. ALL can only be specified with Db2® authids (長).

Explanation: このメッセージは、ユーザーが「ROLE」フィールドと「ALL」フィールドの両方を選択した場合に、Db2® 特権ユーティリティによって発行されます。このユーティリティは、「PUBLIC」オプションと「ALL」オプションの両方を同時に使用することはサポートしていません。

User response: 特権を処理するすべての Db2® 許可 ID から特権を取り消すには、「ROLE」フィールドをクリアして、要求を処理します。同様に、「ROLE」から特権を取り消すには、「ALL」フィールドをクリアして、要求を処理します。

FMNDC588

Not AT ALL LOCATIONS (短). The *Privilege type* privilege cannot be granted to PUBLIC AT ALL LOCATIONS (長).

Explanation: このメッセージは、表特権または列特権の認可を行った場合に、Db2® 特権ユーティリティによって発行されます。「AT ALL LOCATIONS」は使用できません。

User response: 「AT ALL LOCATIONS」オプションを選択解除して、要求を処理します。

FMNDC651

Invalid data type (短). ROWID, CLOB, BLOB and DBCLOB columns cannot be specified in a global temporary table definition (長).

Explanation: このメッセージは、グローバル一時表 (GTT) の作成を試行した場合に、FM/Db2 オブジェクト機能ユーティリティによって発行されます。GTT 用に定義された 1 つ以上の列に、禁止されたデータ・タイプ (ROWID、CLOB、BLOB、または DBCLOB) があります。GTT を作成することはできません。

User response: ROWID、CLOB、BLOB、または DBCLOB として定義されたすべての列の定義を修正し、操作を再試行してください。

FMNDD000

Command list error (短). An error was encountered processing the list of valid commands for panel *panel_name*.

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。オブジェクトのリストに対して入力することができる行コマンドは、カスタマイズ・ストリングを使用して定義されています。パネル *panel_name* 用のこのストリングを処理しているときにエラーが発生しました。

User response: これは内部エラーです。IBM® サポートに連絡してください。

FMNDD001

Customization error (短). An error was encountered processing the template customization string for panel *panel_name* (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。オブジェクト・リストは、FM/Db2 エディターを使用して表示されます。このオブジェクト・リストのテンプレートは、表示する前に変更されます。テンプレート・カスタマイズは、カスタマイズ・ストリングを使用して定義されます。パネル *panel_name* 用のこのストリングを処理しているときにエラーが発生しました。

User response: これは内部エラーです。IBM® サポートに連絡してください。

FMNDD002

No line commands (短). There are no line commands for this panel (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。ほとんどの場合、オブジェクト・リストに表示されている各行に対して、1 つ以上の行コマンドを入力することができます。まれに行コマンドが使用できない場合があります。その場合、このメッセージが発行されます。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD003

VDEFINE error, RC=*Return code* (短). A serious ISPF error has been encountered. VDEFINE RC=*Return code* (長).

Explanation: FM/Db2 が、ISPF VDEFINE サービスの使用を試行しました。呼び出しは、戻りコード *Return code* で失敗しました。ほとんどの場合、現在の機能は強制終了されます。

User response: このエラーの原因には、次のものがあります。

- ISPF サービス呼び出しが失敗する原因となった ISPF 環境の問題。システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。
- 内部エラー。IBM® サポートに連絡してください。

システム・プログラマーが検討するポイントには、以下のものがあります。

- ISPF ライブラリーが誤って、あるいは不完全に割り振られている。
 - ISPF プロファイルのデータ・セットがフルである。
 - メモリー不足状態。他の ISPF アプリケーションは稼働しているか? 複数の ISPF 論理セッションがアクティブか?
-

FMNDD004

ISPF error, RC=*Return code* (短). A serious ISPF error has been encountered in FMN2IPSU. ISPF SELECT SERVICE RC=*Return code* (長)

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。ISPF SELECT サービス呼び出しへの応答で重大なエラーが発生しました (戻りコードは *Return code*)。ほとんどの場合、機能は強制終了されます。

User response: 通常、このエラーの原因は、次のとおりです。

- ISPF サービス呼び出しが失敗する原因となった ISPF 環境の問題。システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。
- 内部エラー。IBM® サポートに連絡してください。

システム・プログラマーが検討するポイントには、以下のものがあります。

- ISPF ライブラリーが誤って、あるいは不完全に割り振られている。
- ISPF プロファイルのデータ・セットがフルである。
- メモリー不足状態。他の ISPF アプリケーションは稼働しているか? 複数の ISPF 論理セッションがアクティブか?

FMNDD005

:ISPF error, RC=*Return code* (短). A serious ISPF error has been encountered in FMN2IPSU. ISPF CONTROL SERVICE RC=*Return code* (長)

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。ISPF CONTROL サービス呼び出しへの応答で重大なエラーが発生しました (戻りコードは *Return code*)。ほとんどの場合、機能は強制終了されます。

User response: 通常、このエラーの原因は、次のとおりです。

- ISPF サービス呼び出しが失敗する原因となった ISPF 環境の問題。システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。
- 内部エラー。IBM® サポートに連絡してください。

システム・プログラマーが検討するポイントには、以下のものがあります。

- ISPF ライブラリーが誤って、あるいは不完全に割り振られている。
- ISPF プロファイルのデータ・セットがフルである。
- メモリー不足状態。他の ISPF アプリケーションは稼働しているか? 複数の ISPF 論理セッションがアクティブか?

FMNDD006

VDELETE error, RC=*Return code* (短). A serious ISPF error has been encountered. VDELETE RC=*Return code*(長)

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。ISPF DELETE サービス呼び出しへの応答で重大なエラーが発生しました (戻りコードは *Return code*)。ほとんどの場合、機能は強制終了されます。

User response: 通常、このエラーの原因は、次のとおりです。

- ISPF サービス呼び出しが失敗する原因となった ISPF 環境の問題。システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。
- 内部エラー。IBM® サポートに連絡してください。

システム・プログラマーが検討するポイントには、以下のものがあります。

- ISPF ライブラリーが誤って、あるいは不完全に割り振られている。
- ISPF プロファイルのデータ・セットがフルである。
- メモリー不足状態。他の ISPF アプリケーションは稼働しているか? 複数の ISPF 論理セッションがアクティブか?

FMNDD007

No dynamic area (短). A serious error has been encountered. Panel *Panel name* oes not contain a dynamic area and therefore cannot be used to display ISQ editor output (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。ISPF パネルの表示を試行したときに重大なエラーが発生しました。

User response: これは内部エラーです。IBM® サポートに連絡してください。

FMNDD008

Command not available (短). The SQL command is not supported under CICS® (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 が CICS® で稼働しており、ユーザーが SQL コマンドを発行した場合に発行されます。CICS® で稼働している場合、SQL コマンドは使用できません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD009

VREP error, RC=RC (短). A serious ISPF error has been encountered. VREPLACE RC=RC (長).

Explanation: このメッセージは、基本 SQL プロトタイピング機能によって発行されます。このメッセージは、重大な ISPF エラーが発生したことを示しています。

User response:

通常、このエラーの原因は、次のとおりです。

- ISPF サービス呼び出しが失敗する原因となった ISPF 環境の問題。システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。
- 内部エラー。IBM® サポートに連絡してください。

システム・プログラマーが検討するポイントには、以下のものがあります。

- ISPF ライブラリーが誤って、あるいは不完全に割り振られている。
 - ISPF プロファイルのデータ・セットがフルである。
 - メモリー不足状態。他の ISPF アプリケーションは稼働しているか? 複数の ISPF 論理セッションがアクティブか?
-

FMNDD010

Invalid command *Command* (短). "*Command*" is not a valid File Manager Db2® command. *List of valid commands* (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。TSO コマンド行でコマンド (例えば XXXX) が発行されました。しかし、このコマンドは ISQ 処理プログラムでは認識されないため、実行することができません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD011

Too many parms (短). "*Command*"> is followed by one or more parameters. It is only valid without parameters. *PARMS=Parameters* (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。コマンド *Command* がパラメーター付きで TSO コマンド行に入力されました。*Command* にパラメーターは不要です。

User response: 無関係なパラメーターを削除して、コマンドを再発行してください。

FMNDD012

No SQL to display (短). There is no SQL statement to display (長).

Explanation: ユーザーが、SQL コマンドを入力しましたが、表示する現行の SQL ステートメントがありません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD018

Object not found (短). No Db2® object at location *Location* matches the combination of object details entered at Db2® system *SSID*. Press Help for more information (長).

Explanation: ユーザーが、Db2® オブジェクト名 (ロケーション、所有者、および名前を含む) を入力しました。このオブジェクトは存在しません。PF1 を押して、このエラーに関する追加のヘルプを参照することができます。

User response: PF1 を押し、エラーの詳細な説明を参照してください。このエラーの一般的な原因には、以下のものがあります。

- 指定されたオブジェクトが存在しません。スペルは正しいでしょうか？
 - オブジェクト名に英小文字が含まれている場合、オブジェクト名の自動変換がオフにされていることを確認する必要があります。「FM/Db2 システム・オプション」を参照してください。
 - オブジェクト名の自動変換がオフにされている場合、入力したオブジェクト名が実際のオブジェクト名と大/小文字が一致していることを確認してください。例えば、DSN81010.EMP は DSN81010.EMP と一致していますが、dsn81010.EMP は一致していません。
-

FMNDD020

Invalid selection (短). The value entered is invalid. Type '?' in the field to display a list of valid values (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。ユーザーが、行に対して行コマンドを入力しました。しかし、そのタイプのオブジェクトに有効な行コマンドではありません。

User response: タイプミスなどの明白な間違いがないかを確認してください。フィールドに「?」を入力して Enter キーを押せば、対象オブジェクトに有効なコマンドをリストで表示できます。

FMNDD022

No SQL to display (短). There is no SQL statement to display (長).

Explanation: ユーザーが、SQL コマンドを入力しましたが、表示する現行の SQL ステートメントがありません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD028

Requires Db2® V9 (短). This command can only be issued when connected to a Db2® version 9 (or later) system (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。Db2® バージョン 8 に接続されているときに、ユーザーが行に対して行コマンドを入力しましたが、この行コマンドは、Db2® バージョン 9 以降のシステムに接続されている場合にのみ有効です。このコマンドは処理できません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD029

Must be <= max value (短). The min value entered must be less than or equal to, the max value entered (長).

Explanation: ユーザーが、「FM/Db2 Object List Options (2 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2/2))」パネルの「minimum」フィールドに値を入力しました。入力された値が、対応する最大値より大きい値です。この値は無効です。

User response: 該当する列タイプの最小値および最大値を確認してください。最小値は、その列タイプの最小表示幅を設定し、最大値は、その列タイプの最大表示幅を設定します。最小表示幅が最大表示幅を超えることはできません。

FMNDD501

SQLCOST = Cst>.

Explanation: このメッセージは、SQL ステートメントが実行される直前に発行され、現行ステートメントの実行の比較費用 Cost を示します。コスト値は、実行する SQL ステートメントが準備されたときに Db2® によって返されます。より詳細な説明については、該当する Db2® バージョンの「SQL リファレンス・マニュアル」を参照してください。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD502

Invalid at remote server (短). "*Line ommand*" is only a valid command when entered against an object at the local server. For example, when the location field is blank (長).

Explanation: ユーザーが、FM/Db2 対話式 SQL (ISQ) 処理プログラム (オプション 3.4、3.5、および 4.5 では ISQ 処理プログラムを使用します) によって表示されたオブジェクトに対して、行コマンドを入力しました。一部の行コマンド (例えば、GRANT および REVOKE などの特権関連のコマンド) は、FM/Db2 がローカル Db2® サーバーに接続されている場合のみ有効です。コマンドを実行できません。

User response: リモート・サーバーに直接接続し、コマンドを再発行してください。

FMNDD503

Data refreshed

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 Interactive SQL (ISQ) プロセッサによって発行されます (オプション 3.4、3.5、4.5 で使用されます)。現在表示されているオブジェクト・リストのデータは最新表示されています。これは、例えば、現行パネルの項目に対して発行された行コマンドが項目の変更で使用された場合などに発生する可能性があります。オブジェクトの削除は、この一例です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD504

Invalid command (短). "*Line command*" is not a valid command. Valid commands are D(n), I(n), R(n), and S (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト機能ユーティリティーによって発行されます。例えば、列のリストが表示された場合、ユーザーは、そのリストの項目を変更するためのさまざまなコマンドを発行することができます。入力されたコマンド *line command* は無効です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD505

Invalid command (短). "Line command" is not a valid command. Valid commands are D(n), I(n), and R(n) (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト機能ユーティリティーによって発行されます。例えば、列のリストが表示された場合、ユーザーは、そのリストの項目を変更するためのさまざまなコマンドを発行することができます。入力されたコマンド *line command* は無効です。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD506

Invalid selection (短). Use S to select the column (長).

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 オブジェクト機能ユーティリティーによって発行されます。列のリストの項目に対して、無効な文字が入力されました。

User response: 「S」を使用して列を選択してください。

FMNDD507

Waiting for Db2® prepare ...

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エディターを使用して SELECT ステートメントの結果表を表示する FM/Db2 機能によって発行されます。FM/Db2 エディターは「Large」モードで実行されています。これは、Db2® スクロール可能カーソルが使用されていることを意味します。FM/Db2 エディターの 2 つの操作モードの詳細については、「[エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」または「大規模モード」 on page 125](#)」で説明されています。簡単にいえば、スクロール可能カーソルが使用されている場合、Db2® がデータにアクセスするために使用する SQL ステートメントを準備してオープンするときに、遅延が発生する可能性があります。メッセージ FMNDD508 も参照してください。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD508

Waiting for Db2® open ...

Explanation: このメッセージは、FM/Db2 エディターを使用して SELECT ステートメントの結果表を表示する FM/Db2 機能によって発行されます。FM/Db2 エディターは「Large」モードで実行されています。これは、Db2® スクロール可能カーソルが使用されていることを意味します。FM/Db2 エディターの 2 つの操作モードについては、「[エディター・セッション・モードの指定: 「通常モード」または「大規模モード」 on page 125](#)」で説明されています。簡単にいえば、スクロール可能カーソルが使用されている場合、Db2® がデータにアクセスするために使用する SQL ステートメントを準備してオープンするときに、遅延が発生する可能性があります。メッセージ FMNDD507 も参照してください。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDD510

Press enter to display the SQL for the view. You can modify/execute the SQL by selecting the "Execute SQL from data set" option.

Explanation: このメッセージは、ユーザーがオブジェクト・リスト表示のビューに対して VS (ビューの作成に使用する SQL を表示する) コマンドを入力した場合に発行されます。「Edit/Execute SQL (Data Set) (SQL の編集/実行 (データ・セット))」機能を使用して、結果の SQL を表示します。ユーザーが SQL 表示から END または CANCEL を押すと、オブジェクト・リストが再表示されます。

User response: ビューの作成に使用された SQL を確認するには、Enter を押してください。

FMNDD511

Enter the name of a database and table space defined with at least 8K pages. The Db2® Version 8 DSN_FUNCTION_TABLE requires a larger page size than previous Db2® versions.

Explanation: このメッセージは、ユーザーが「Explain Utilities (説明ユーティリティ)」パネルで機能表 (DSN_FUNCTION_TABLE) の作成を試行した場合に発行されます。この表には、ページ・サイズが 8K 以上の表スペースが必要であるため、データベース名と表スペース名の両方が必要です (デフォルトのデータベース/表スペースには、4K のページ・サイズがありますが、これは不十分です)。

User response: 8K 以上のページ・サイズを持つデータベースおよび表スペースの名前を入力してください。Db2® データベース/システム管理者に連絡し、これを行うための権限/情報について確認する必要がある場合があります。

FMNDD541

No RI relationships (短). The related edit (REDIT) command was issued. There are no referential integrity relationships defined on the table (長).

Explanation: ユーザーが、REDIT エディター基本コマンドを入力しました。編集対象のオブジェクトが参照整合性関係の一部である場合、このコマンドによって、関係内の他の Db2® オブジェクトが表示されます。編集対象のオブジェクトを含む RI 関係は存在しません。

User response: アクションは不要です。これは、通知メッセージです。

FMNDE495

No Db2® TABLE matches the value entered. It is possible a Db2® object (eg view) that matches the name entered exists - however the selected Db2® utility supports Db2® tables ONLY.

Explanation: このメッセージは、Db2® LOAD または UNLOAD ユーティリティ・ジョブを準備しているときに表以外の Db2® オブジェクト名が入力された場合に発行されます。Db2® LOAD/UNLOAD ユーティリティは、表オブジェクトのみをサポートします (ビュー、別名、シノニムなどはサポートしません)。

User response: 指定されている Db2® オブジェクト名が Db2® 表であることを確認してください。

FMNDJ999

File Manager Db2 component problem - message *Message number* found in table.

Explanation: このメッセージは、メッセージ *Message number* の発行を試行したが、そのメッセージ番号が見つからなかった場合に発行されます。これは「汎用」メッセージです。

User response: 通常の処理中にこのメッセージが発生した場合は、論理エラーが原因であることが考えられます。IBM® サポートに連絡して支援を受けてください。

サポート・リソース

これらのリソースを使用して、製品の詳細、フィックス、サポートを検索できます。

知識ベースの検索

- [IBM Publications Center](#) からプログラム・ディレクトリーをダウンロードできます。
- 以下の製品のインストール、カスタマイズ、使用に関する最新の詳細を入手できます。
 - [Application Delivery Foundation for z/OS Common Components カスタマイズ・ガイドおよびユーザーズ・ガイド](#)
 - [Fault Analyzer ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス](#)
 - [File Manager カスタマイズ・ガイド](#)
 - [File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス](#)
 - [File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス \(DB2 用\)](#)
 - [File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス \(CICS 用\)](#)
 - [File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス \(IMS 用\)](#)

最新の PTF の取得

- [ADFz Common Components](#)
- [Fault Analyzer for z/OS](#)
- [File Manager for z/OS](#)
- [z/OS Debugger](#)
- [IBM Developer for z/OS Enterprise Edition](#)
- [Application Performance Analyzer for z/OS](#)

診断データの収集

サポートに連絡する前に、これらの質問に答えられるようにしましょう:

- どのソフトウェア・バージョンを実行しているのか?
- 当該の問題に関連したログ、トレース、メッセージがあるか?
- 問題を再現できるかどうか。再現できる場合、どのように当該の問題を再現するのか?
- ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワークング・ソフトウェアを変更したか?
- 当該の問題の回避策はあるか?

サポートへの連絡

<https://www.ibm.com/mysupport> でケースをオープンしたり、サポートとチャットしたり、リソースとコミュニティーに接続したりすることができます。

特記事項

© Copyright IBM Corporation 2000, 2016. © Copyright HCL Technologies Limited 2017, 2023

本書は米国 HCL が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

IBM® 本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能なオファリングについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502 神奈川県大和市下鶴間1623番14号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外
2 バイト文字セット (DBCS) 情報についてのライセンスに関するお問い合わせは、お住まいの国の IBM Intellectual Property Department に連絡するか、書面にて下記宛先にお送りください。

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

〒242-8502 神奈川県大和市下鶴間1623番14号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用できますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書に含まれるパフォーマンス・データは、特定の動作および環境条件下で得られたものです。実際の結果は、異なる可能性があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者もしくは公開されているその他のソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求について IBM は検証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM File Manager for z/OS の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります。単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。したがって IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、保守容易性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. や HCL Ltd. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. 2000, 2016. © Copyright HCL Ltd. 2017, 2023.

プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するユーザーが File Manager のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

IBM®、IBM® ロゴおよび ibm.com® は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM® または各社の商標である場合があります。現時点での IBM® の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「著作権と商標情報」をご覧ください。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用条件

IBM® Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM® の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM® の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM® の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM® はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM® は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらのCookie とそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」では、個人情報を収集するために Cookie またはその他のテクノロジーを使用することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限りません。

このような目的での Cookie などの各種テクノロジーの使用については、「IBM オンラインでのプライバシー・ステートメントのハイライト」(<http://www.ibm.com/privacy/jp/ja/>)、「IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント」(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>)の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』というタイトルのセクション、および「IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement」(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>)を参照してください。

プログラミング・インターフェース情報

この「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」には、プログラムを作成するユーザーが File Manager のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

索引

記号

- see 下線 (L)

? 有効な接頭部コマンドをリストするコマンド 168

(1,*)、印刷オプション 824

(n,m)、印刷オプション 824

「Additional LISTDEF Statements (追加 LISTDEF ステートメント)」パネルの説明 460

「Additional TEMPLATE Statements (追加 TEMPLATE ステートメント)」パネルの説明 461

「Advanced SELECT Prototyping (拡張 SELECT プロトタイピング)」パネルの説明 462

「Application Packages (アプリケーション・パッケージ)」パネルの説明 480

「Application Plan Details (アプリケーション・プランの詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644

「Application Plan Privilege Details (アプリケーション・プラン特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764

「Application Plan Privileges (アプリケーション・プランの特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764

「Application Plans (アプリケーション・プラン)」パネルの説明 483

「Basic SELECT Prototyping (基本 SELECT プロトタイピング)」パネルの説明 485

「Bind Application Plan (アプリケーション・プランのバインド)」パネルの説明 490

「Bind Package (パッケージのバインド)」パネルの説明 490

「Children of Table (表の子)」パネルの説明 491

「Collection Privileges (コレクションの特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764

「Collections (コレクション)」パネルの説明 491

「Column Attributes (列属性)」パネル (DATE) の説明 497

「Column Attributes (列属性)」パネル (TIME) の説明 502

「Column Attributes (列属性)」パネル (TIMESTAMP) の説明 503

「Column Attributes (列属性)」パネル (英数字) の説明 492

「Column Attributes (列属性)」パネル (数値) の説明 498

「Column Details (列詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644

「Column Distribution (列の配分)」パネルの説明 505

「Column Part Statistics (列部分の統計)」パネルの説明 505

「Column Privilege Details (列特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764

「Column Privileges (列の特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764

「Column Selection/Edit (列の選択/編集)」基本パネル 86, 99

「Column Selection/Edit (列選択/編集)」パネルの説明 505

「Columns (列)」パネル、説明 510

「Columns in Index (索引の列)」パネルの説明 512

「Columns in Table (表の列)」パネルの説明 512

「Comment Column (列のコメント)」パネル、コメント・パネルとしての説明 512

「Comment Distinct Type (特殊タイプのコメント)」パネル、コメント・パネルとしての説明 512

「Comment Procedure (プロシージャのコメント)」パネル、コメント・パネルとしての説明 512

「Comment Specific Function (特殊関数のコメント)」パネル、コメント・パネルとしての説明 512

「Comment Table (表のコメント)」パネル、コメント・パネルとしての説明 512

「Comment Trigger (トリガーのコメント)」パネル、コメント・パネルとしての説明 512

「Commit when save issued (SAVE を出すときにコミット)」オプション 676

「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」パネルの説明 513

「Constraint Columns for」パネルの説明 515

「Copy Options (コピー・オプション)」パネルの説明 515

「Copy Utility "From" (コピー・ユーティリティの「元」)」パネルの説明 518

「Copy Utility ("To") (コピー・ユーティリティの「宛先」)」パネルの説明 526

「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」パネルの説明 522

「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティ (表スペース))」パネルの説明 529

「Create Alias (別名の作成)」パネルの説明 533

「Create audit trail (監査証拠の作成)」オプション 626, 653

「Create Auxiliary Table (補助表の作成)」パネルの説明 534

「Create Database (データベースの作成)」パネルの説明 535

「Create Distinct Type (特殊タイプの作成)」パネルの説明 537

「Create Function (関数の作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネルの説明 543

「Create Function (関数の作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」パネルの説明 539

「Create Function (関数の作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネルの説明 540

「Create Function (関数の作成): Parameters (パラメーター)」パネルの説明 545

「Create Function (関数の作成): Returned Data Type (戻りデータ・タイプ)」パネルの説明 546

「Create Function (関数の作成)」説明 245

「Create Function (関数の作成)」パネルの説明 542

「Create Index (索引の作成): Allocation (割り振り)」パネルの説明 551

「Create Index (索引の作成): Column Selection (列選択)」パネルの説明 552

「Create Index (索引の作成): Options (オプション)」パネルの説明 553

「Create Index (索引の作成): Partition Values (区画値)」パネルの説明 556

「Create Index (索引の作成): Partitions (パーティション)」パネルの説明 555

「Create Index (索引の作成): Type (タイプ)」パネルの説明 558

「Create Index (索引作成)」パネルの説明 549

「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameter Types (パラメーター・タイプ)」パネルの説明 563

「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (1/2) (オプション・リスト (1/2))」パネルの説明 561

「Create Procedure (プロシージャの作成): Option List (2/2) (オプション・リスト (2/2))」パネルの説明 562

「Create Procedure (プロシージャの作成): Parameters (パラメーター)」パネルの説明 565

「Create Procedure (プロシージャの作成)」パネルの説明 559

「Create Synonym (同義語作成)」パネルの説明 566

「Create Table (表の作成): Column Check Constraints (列検査制約)」パネルの説明 582

「Create Table (表の作成): Column Referential Constraints (列参照制約)」パネルの説明 583

「Create Table (表の作成): Columns (列)」パネル、説明 584

「Create Table (表の作成): Generate Values (値の生成)」パネルの説明 587

「Create Table (表の作成): Model Load (モデル・ロード)」パネルの説明 588

「Create Table (表の作成): Nulls and Default Values (ヌルとデフォルト値)」パネルの説明 590

「Create Table (表の作成): Options (オプション)」パネルの説明 594

「Create Table (表の作成): Procedure Exits (プロシージャ出口)」パネルの説明 596

「Create Table (表の作成): Table Check Constraints (表検査制約)」パネル、説明 597

「Create Table (表の作成): Table Referential Constraint (表参照制約)」パネルの説明 598

「Create Table (表の作成): Table Referential Constraints (表参照制約)」パネルの説明 600

「Create Table (表の作成): Unique Constraints (固有制約)」パネルの説明 602

「Create Table (表の作成)」説明 233

「Create Table (表の作成)」パネルの説明 567

「Create Table Space (表スペースの作成): Allocation (割り振り)」パネルの説明 572

「Create Table Space (表スペースの作成): Data Sharing Options (データ共用オプション)」パネルの説明 574

「Create Table Space (表スペースの作成): Data Storage Options (データ・ストレージ・オプション)」パネルの説明 575

「Create Table Space (表スペースの作成): Define Partitions (区画の定義)」パネルの説明 577

「Create Table Space (表スペースの作成): Locking Options (ロック・オプション)」パネルの説明 579

「Create Table Space (表スペースの作成): Type (タイプ)」パネルの説明 580
「Create Table Space (表スペースの作成)」パネルの説明 570
「Create Trigger (トリガーの作成): Details (詳細)」パネルの説明 604
「Create Trigger (トリガーの作成): Search Condition (検索条件)」パネルの説明 606
「Create Trigger (トリガーの作成): SQL statement (SQL ステートメント)」パネルの説明 607
「Create Trigger (トリガーの作成)」パネルの説明 603
「Create View (ビューの作成)」パネルの説明 608
「Data Create Utility (データ作成ユーティリティ)」パネルの説明 610
「Database Details (データベースの詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Database Privilege Details (データベース特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764
「Database Privileges (データベースの特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764
「Database Request Modules (データベース要求モジュール)」パネル、説明 614
「Database Structure (データベース構造)」パネルの説明 616
「Databases (データベース)」パネルの説明 616
「Db2 Browse (Db2 ブラウズ)」パネルの説明 618
「Db2 Edit (Db2 編集)」パネルの説明 622
「Db2 Location Selection (Db2 位置選択)」パネルの説明 628
「Db2 Object Functions (Db2 オブジェクト機能)」パネルの説明 629
「Db2 Save Error Action (Db2 保管エラー・アクション)」パネルの説明 631
「Db2 SSID」フィールド、Db2 サブシステムの変更 32
「Db2 Subsystem Selection (Db2 サブシステム選択)」パネルの説明 631
「Db2 Template Description (Db2 テンプレート記述)」パネルの説明 633
「Db2 Utilities (Db2 ユーティリティ)」パネルの説明 635
「Db2 View (Db2 表示)」パネルの説明 639
「Db2 Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルの説明 643
「DBRM Details (DBRM 詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Display prefix area (接頭部域を表示する)」オプション 663
「Display Row (表示行)」パネルの説明 644
「Distinct Type Details (特殊タイプの詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Distinct Type Privileges (特殊タイプ特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764
「Distinct Type Usage Privilege Details (特殊タイプ使用法特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764
「Distinct Types (特殊タイプ)」パネルの説明 645
「Drop Alias (別名の除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Drop Confirmation (除去確認)」パネルの説明 647
「Drop Database (データベースの除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647

「Drop Distinct Type (特殊タイプの除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Drop Function (関数の除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Drop Index (索引の除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Drop Stored Procedure (ストアド・プロシージャ除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Drop Synonym (同義語プロシージャの除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Drop Table Space (表スペースの除去)」パネル 647
「Drop Table Space (表スペースの除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Drop Trigger (トリガーの除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Drop View (ビューの除去)」パネル、除去パネルとしての説明 647
「Edit/Execute SQL (Data Set) (SQL の編集/実行 (データ・セット))」パネル、説明 648
「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネルの説明 651
「Editor Options (2 of 8)」パネルの説明 656
「Editor Options (3 of 8)」パネルの説明 661
「Editor Options (4 of 8) (編集オプション (8 の 4))」パネルの説明 667
「Editor Options (5 of 8) (編集オプション (5 の 4))」パネルの説明 671
「Editor Options (6 of 8)」パネルの説明 674
「Editor Options (7 of 8)」パネルの説明 677
「Editor Options (8 of 8) (編集オプション (8 の 8))」パネルの説明 683
「Enter and Execute Db2 Commands (Db2 コマンドの入力および実行)」パネルの説明 685
「Enter, Execute and Explain SQL Statements (SQL ステートメントの入力、実行、およびエクスプレーン)」パネルの説明 686
「Explain Utilities (エクスプレーン・ユーティリティ)」パネルの説明 688
「Export TO* (エクスポートの宛先)」パネルの説明 702
「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネルの説明 698
「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネルの説明 706
「Foreign Keys for Table (表の外部キー)」パネルの説明 709
「Free Application Plan (フリー・アプリケーション・プラン)」パネルの説明 709
「Free Package (パッケージの解放)」パネルの説明 710
「Function Details (関数の詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Function Privilege Details (関数特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764
「Function Privileges (関数の特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764
「Functions (関数)」パネルの説明 710
「Generate SQL From Db2 Catalog (Db2 カタログからの SQL の生成)」パネルの説明 712
「Grant Application Plan Privileges (アプリケーション・プラン特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Buffer Pool Privileges (バッファプール特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Collection Privileges (コレクション特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715

「Grant Column Privileges (列特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Database Privileges (データベース特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Distinct Type Privileges (特殊タイプ特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Function Privileges (関数特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Package Privileges (パッケージ特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Schema Privileges (スキーマ特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Sequence Privileges (シーケンス特権の付与)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Storage Group Privileges (ストレージ・グループ特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant Stored Procedure Privileges (ストアド・プロシージャ特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 715
「Grant System Privileges (システム特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 716
「Grant Table Privileges (表特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 716
「Import Options (インポート・オプション)」パネル、説明 716
「Index Details (索引の詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Index Parts (索引/パーツ)」パネルの説明 724
「Indexes (索引)」パネルの説明 724
「Indexes and Columns for (索引と列の該当表)」パネルの説明 726
「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネルの説明 727
「LISTDEF Options (LISTDEF オプション)」パネルの説明 728
「LOAD Utility - Using Templates (LOAD ユーティリティ - テンプレートの使用)」パネルの説明 735
「LOAD Utility (LOAD ユーティリティ)」パネルの説明 732
「LOAD Utility Options (LOAD ユーティリティ・オプション)」パネルの説明 737
「Manage Db2 Privileges (Db2 特権の管理)」パネル
 使用 349
 説明 740
「Object List Line Commands (オブジェクト・リスト行コマンド)」パネルの説明 741
「Object List Utility (オブジェクト・リスト・ユーティリティ)」パネルの説明 747
「OPTIONS Options (OPTIONS オプション)」パネルの説明 749
「Package Dependencies (パッケージの従属関係)」パネルの説明 751
「Package Details (パッケージの詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Package List (パッケージ・リスト)」パネルの説明 751
「Package Privilege Details (パッケージ特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764

「Package Privileges (パッケージの特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764
「Parents of Table (表の親)」パネルの説明 752
「Partitioned Table Statistics (区分された表統計)」パネルの説明 752
「Plan Dependencies (プランの従属関係)」パネルの説明 752
「Plan Enabled/Disabled Connections (接続使用可能/使用不可プラン)」パネルの説明 752
「Plan Table Rows (プラン表行)」パネルの説明 752
「Prefix Area (接頭部域)」オプション 662
「Prefix length (接頭部の長さ)」オプション 662
「Primary Key for Table (表の基本キー)」パネルの説明 756
「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」
「Db2 対話機能の開始」(オプション 5) 450
パネルの説明 756
「Print Utility (印刷ユーティリティ)」パネルの説明 760
「Print Utility Options (印刷ユーティリティ・オプション)」パネル、説明 758
「Procedure Details (プロシージャの詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Process (処理)」メニュー 456
「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」パネルの説明 769
「REBUILD Utility (Indexes) (REBUILD ユーティリティ (索引))」パネルの説明 773
「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER UTILITY (索引スペース))」パネルの説明 777
「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER UTILITY (表スペース))」パネルの説明 780
「Recovery Information (リカバリー情報)」パネルの説明 783
「Related tables (関連表)」パネルの説明 783
「Remote Db2 Location Selection (リモート Db2 ロケーション選択)」パネルの説明 787
「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティ (索引))」パネルの説明 788
「REORG Utility (Table Spaces) (REORG UTILITY (表スペース))」パネルの説明 792
「Revoke Application Plan Privileges (アプリケーション・プラン特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 795
「Revoke Buffer Pool Privileges (バッファプール特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 795
「Revoke Collection Privileges (コレクション特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 795
「Revoke Column Privileges (列特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 795
「Revoke Database Privileges (データベース特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 795
「Revoke Distinct Type Privileges (特殊タイプ特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 795
「Revoke Function Privileges (関数特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 795
「Revoke Package Privileges (パッケージ特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 795

「Revoke Schema Privileges (スキーマ特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 796
「Revoke Sequence Privileges (シーケンス特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 796
「Revoke Storage Group Privileges (ストレージ・グループ特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 796
「Revoke Stored Procedure Privileges (ストアド・プロシージャ特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 796
「Revoke System Privileges (システム特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 796
「Revoke Table Privileges (表特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 796
「Revoke Table Space Use Privileges (表スペース使用特権の取り消し)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 796
「Routine Parameters (ルーチン・パラメーター)」パネルの説明 796
「Row Selection Criteria (行選択基準)」パネルの説明 796
「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS UTILITY (索引))」パネルの説明 801
「RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS UTILITY (表スペース))」パネルの説明 804
「Schema Privilege Details (スキーマ特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764
「Schema privileges (スキーマ特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764
「Schemas (スキーマ)」パネルの説明 807
「Select Statement Browse (選択ステートメントのブラウズ)」パネルの説明 811
「Select Statement Edit (選択ステートメントの編集)」パネルの説明 811
「Sequences (シーケンス)」パネルの説明 811, 811
「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネルの説明 813
「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネルの説明 814
「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネルの説明 820
「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルの説明 821
「Set Processing Options (処理オプションの設定)」パネル、説明 824
「Set System Processing Options (システム処理オプションの設定)」パネルの説明 827
「Set Utility Processing Options (ユーティリティ処理オプションの設定)」パネルの説明 833
「Show excluded shadow lines (除外されたシャドウ行を表示する)」オプション 666
「Show export options (エクスポート・オプションの表示)」パネル・オプション 670
「Show SQLCODE (SQLCODE の表示)」オプション 663
「Sort Fields (ソート・フィールド)」パネルの説明 834
「Statement Table Rows (ステートメント表行)」パネルの説明 838
「Storage Group Usage Privileges (ストレージ・グループ使用特権)」パネルの説明 842

「Storage Group(s) (ストレージ・グループ)」パネルの説明 840, 840
「Stored Procedure Privilege Details (ストアド・プロシージャ特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764
「Stored Procedure Privileges (ストアド・プロシージャの特権)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 764
「Stored Procedures (ストアド・プロシージャ)」パネルの説明 843
「Synonym Dependencies (同義語の従属関係)」パネルの説明 845
「Synonym Details (同義語の詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Table Check Constraint Dependencies (表検査制約の従属関係)」パネルの説明 857
「Table Check Constraint Details (表検査制約の詳細)」パネルの説明 857
「Table Check Constraints (表検査制約)」パネル、説明 857
「Table Details (表の詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Table Privileges (表の特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764
「Table Selection (表選択)」パネルの説明 864
「Table Space Details (表スペースの詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Table Space Parts (表スペースのパーツ)」パネルの説明 866
「Table Space Use Privilege Details (表スペース使用特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764
「Table Space Use Privileges (表スペース使用の特権)」パネル、特権パネルとしての説明 764
「Table Space Use Privileges (表スペース使用特権の認可)」パネル、特権の認可パネルとしての説明 716
「Table Spaces (表スペース)」パネルの説明 866
「Table/View Privilege Details (表/ビュー特権の詳細)」パネル、特権の詳細パネルとしての説明 764
「Table/View/Alias Selection (表/ビュー/別名選択)」パネルの説明 873
「Tables, Views and Aliases (表、ビューおよび別名)」パネルの説明 875
「Template Mapping (テンプレート・マッピング)」パネルの説明 881
「TEMPLATE Options (1 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 1))」パネルの説明 877
「TEMPLATE Options (2 of 2) (TEMPLATE オプション (2 の 2))」パネルの説明 880
「Template Save (テンプレートの保管)」パネルの説明 883
「Trigger Details (トリガーの詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
「Triggers (トリガー)」パネルの説明 884
「UNLOAD Options (UNLOAD オプション)」パネルの説明 885
「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」パネルの説明 889
「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「From (元)」パネルの説明 891
「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」の「To (宛先)」パネルの説明 892

「Use row count value (行カウント値の使用)」オプション 657
 「Use/Keep exclusive locks (排他ロックの使用/保持)」オプション 682
 「Use/Keep share locks (共用ロックの使用/保持)」オプション 681
 「Use/Keep update locks (更新ロックの使用/保持)」オプション 681
 「Utilities (ユーティリティー)」メニュー 458
 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」パネルの説明 896
 「Utility Functions (ユーティリティー機能)」メニュー
 Export (エクスポート) (オプション 3.7) 297
 Print (印刷) (オプション 3.1) 340
 コピー (オプション 3.3) 253
 「View Details (ビューの詳細)」パネル、詳細パネルとしての説明 644
 「Volumes (ボリューム)」パネルの説明 900
 「Zoom」機能キー 162
 「コピーブック・ライブラリーの保持」オプション 514
 「列の選択/編集」基本パネル 85
 @
 see 国別文字
 *
 see アスタリスク (*)
 \= 行選択基準演算子 799
 \> 行選択基準演算子 799
 & 行選択基準結合子 798
 #
 see 国別文字
 %
 see パーセンテージ (%)
 < 行選択基準演算子 799
 <= 行選択基準演算子 799
 = 行選択基準演算子 799
 > 行選択基準演算子 799
 >= 行選択基準演算子 799
 ~< 行選択基準演算子 799
 ~> 行選択基準演算子 799
 ~> 行選択基準演算子 799
 ~BT 行選択基準演算子 800
 ~IN 行選択基準演算子 800
 ~LK 行選択基準演算子 799
 ~NL 行選択基準演算子 800
 | 行選択基準結合子 798
 / (FIND コマンドの同義語) 930
 \$
 see 国別文字
 位置決め
 ラベル (行に割り当てられた) 144
 ラベルの付いた行 144
 行 144
 列 144
 移動
 行 860, 871
 行 (行選択基準) 798
 一時データ・セット割り振り、オプション 67
 印刷
 Db2 表からの行 340
 Db2 表の内容 337
 テンプレート 78
 監査証跡報告書 344
 出力の表示 342
 印刷ユーティリティー・オプション 69
 印刷設定 65
 印刷不能文字の変換、印刷オプション 823
 英数字列 (オブジェクト・リスト・ユーティリティー) 319
 演算子のリスト、行選択基準 799

演算子行、オブジェクト・リスト 318
 下線 ()
 FM/Db2
 入力フィールドでの使用
 51
 フィルター操作、オブジェクト・リスト 319
 可変長列、処理オプション 184
 開始
 FM/Db2
 エディター・セッション
 124
 点、LOCATE 基本コマンド 146
 外部キー
 エディター・オプション 668
 オブジェクト (オプション 3.2) 240, 240,
 584, 590, 601
 システム・オプション 852
 スケール行、表示 662
 複数 669
 外部関数 WRITE 285
 概要
 FM/Db2
 機能
 24
 テンプレート 24, 75
 監査証跡 (オプション 3.10)、説明 344
 監査証跡報告書
 説明 346
 要約統計 347
 関数
 バッチ 988
 外部、によって提供される
 FM/Db2
 NCONTAIN 282
 PRTCOUNT 283
 外部、
 FM/Db2
 によって提供される
 CONTAINS 280
 FLD 281
 PRINT 282
 外部、
 FM/Db2
 によって提供される
 CHANGE 279
 外部、によって提供される
 FM/Db2
 RECSIN 283
 RECSOUT 283
 TALLY 284
 TM 285
 WRITE 285
 組み込み、REXX 274
 関数、
 FM/Db2
 BATSQ (バッチ SQL) 988
 DBC (コピー) 996
 DBI (インポート) 1003
 DBP (印刷) 1009
 説明 987
 関数
 FM/Db2
 、D2G (データ生成) 1025
 関数の作成
 オプション・リスト 1/2 247
 オプション・リスト 2/2 247
 パラメーター 246
 パラメーター・タイプ 246
 戻りデータ・タイプ 246
 関連

情報、
 FM/Db2
 xvii
 表、リスト 199
 表、編集 861, 871
 関連表の編集 861, 871
 基本オプション・メニュー
 Db2 対話機能の開始 (オプション 5) 450
 Set processing options (処理オプションの設定) (オプション 0) 63
 プロタイピング、実行、および分析 (オプション 4) 402
 ユーティリティー (オプション 3.9) 356
 作成 (オプション 3.8) 251
 設定 (オプション 0) 824, 829
 基本キー
 挿入 859, 870
 基本コマンド
 ABOUT 902
 ALL (SQL プロタイピング) 902
 BACKWARD 39, 39, 903
 BOTTOM 38, 904
 BROWSE 904
 CANCEL 905
 CAPS 906
 CAPS (editing) 195
 CASE 907
 CASE (編集) 195
 CHANGE 907
 CHARPOS 913
 COL 913
 DELCOL 914
 DELETE 915
 DESCRIBE 916
 DESELECT 916
 DOWN 38, 917
 EDIT 919
 EDITCOL 919
 END 920
 EXCLUDE 921
 EXECUTE 925
 EXPAND 926
 EXPLAIN 926
 EXPLAIN ステートメント・テーブル
 DK 838
 DP 839
 DQ 839
 I 839
 K 839
 P 839
 EXPLAIN ブラン表
 D 753
 DK 753
 DP 753
 DQ 753
 FR 753
 I 753
 IH 753
 K 753
 M 754
 P 754
 SR 754
 T 754
 UH 754
 X 754
 EXPLAIN ステートメント・テーブル
 M 839
 EXPORT 927
 FILE 929
 FIND 930
 FMAP 936

FORMAT 937
 FORWARD 38, 38, 937
 FREE 939
 FS 940
 FT 940
 HEX 941
 HIDE 941
 HINT 942
 HOLD 943
 INDEXINF 944
 INSRPT 945
 LEFT 945
 LHEX 947
 LOBBRWS 948
 LOBEDIT 949
 LOBLEN 950
 LOBVIEW 951
 LOCATE 144, 951
 NEW 956
 NEWS 956
 NEXT 956
 NEXTRPT 957
 ORDER 957
 PB 958
 PLAN 959
 PREFIX 959
 PREVIOUS 960
 PREVRPT 961
 PRINT 961
 PROTCOL 962
 PURGE 963
 QUIT
 see CANCEL 基本コマンド
 RCHANGE 963
 RD 963
 REDIT 964
 REFRESH 965
 REFS 965
 RESET 966
 RESET (編集セッション内) 193
 RFIND 967
 RIGHT 967
 RP 969
 RUNTEMP 970
 SAVE 970
 SAVEAS 971
 SHADOW 971
 SHOW 36, 972, 972
 SHOWCOB 974
 SORT 974
 SORT (オブジェクト・リスト) 332
 SQL 975
 SQLID 976
 SSID 34
 TEDIT 155, 977
 TOP 39, 977
 TP 977
 TYPE 978
 UNDO 978
 UP 39
 VER 980
 VIEW 980
 WIDTH 981
 XMLBRWS 982
 XMLEDIT 983
 XMLLEN 984
 XMLVIEW 985
 ZOOM 161, 986
 オブジェクト・リスト
 1 列をソート 333
 SORT 332
 複数列のソート 333
 既存データの置換、Db2 LOAD ユーティリ
 ティール・オプション 738
 既存のデータの再使用、Db2 LOAD ユーティ
 リティール・オプション 738
 機能
 FM/Db2
 DBX (Export) 1012
 機能、
 FM/Db2
 D2TP (テンプレート作成/更新) 1028
 機能キー
 Zoom 162
 規則、列マッピング 119
 起動
 FM/Db2
 29
 許可
 1 次キー・オプションの更新 667
 置換文字、Db2 LOAD ユーティリティール・
 オプション 738
 区画値オプション 245
 繰り返し
 行 861, 871
 行 (区画情報) 577
 行 (行選択基準) 798
 形式、例 155
 継続文字 444
 結合子のリスト、行選択基準 798
 検査制約、表の作成オプション 240
 検索
 ストリング 148, 323
 行 323
 数値列 154
 長いストリング 148
 方向、LOCATE 基本コマンド 146
 列 323
 言語の選択、コンパイラ言語選択オプショ
 ン 513
 固有制約、表の作成オプション 239
 更新不可の列、編集 196
 構文図、見方 xvii
 行
 オーバーレイ 861
 カウント、オプション 620, 624, 640
 クリップボードから検索 858, 869
 クリップボードから取得 858, 869
 クリップボードに保存 862, 872
 コピー 858, 868
 ラベル 152, 863, 873
 移動 860, 871
 印刷 340
 繰り返し 861, 871
 繰り返し (区画情報) 577
 削除 858, 869
 削除 (区画情報) 577
 使用、表示データを制限するための 152
 指定された番号へのスクロール 144
 除外を表示 858, 869
 選択
 エディター・セッションで表示 141
 表示 86
 挿入 858, 869
 挿入 (区画情報) 577
 表示から除外 863, 873
 表示されるデータの制限に使用 164
 変換
 小文字 860, 871
 大文字 862, 872
 行 (行選択基準)
 コピー 797
 移動 798
 繰り返し 798
 削除 797
 行コマンド
 ストアド・プロシージャ 844
 データベース 618
 関数 711
 索引 725
 照会 (オブジェクト・リスト・ユーティリ
 ティール) 329
 領域 (オブジェクト・リスト・ユーティリ
 ティール) 323
 行のオーバーレイ 861
 行の除外 164
 行をクリップボードに保存 862, 872
 行を表示から除外 863, 873
 行選択基準
 テンプレートに保管された情報 76
 演算子のリスト 799
 結合子のリスト 798
 接頭部コマンド、リスト 797
 国別文字 xvi
 混合 DBCS データ、Db2 LOAD ユーティリ
 ティール・オプション 739
 再開 (新規データの付加)、Db2 LOAD ユー
 ティリティール・オプション 738
 最後のページ、スクロール 38
 最初のページ、スクロール 39
 最大廃棄数、Db2 LOAD ユーティリティール・
 オプション 739
 最大戻りコード、COBOL コピーブックのコン
 パイル 815
 最大戻りコード、PL/I コピーブックのコンパ
 イル 821
 最適化オプション、SQL 172
 作成
 FM/Db2
 テンプレートからのコピーブック
 121
 列のデータ 118
 作成 (オプション 3.8)、説明 251
 削除
 既存の行、オプション 517
 行 858, 869
 行 (区画情報) 577
 行 (行選択基準) 797
 索引
 情報、エディター・オプション 669
 索引キーの数、Db2 LOAD ユーティリ
 ティール・オプション 738
 索引の作成 243
 割り振り 244
 区画 244
 索引 244
 索引タイプ 244
 索引列の選択 244
 索引を並列に構築、Db2 LOAD ユーティリ
 ティール・オプション 738
 参照制約
 表の作成オプション 239
 算術演算子、REXX 271
 使用許諾 mclxiv
 使用法、エクスポート・オプション 694
 自己参照制約 200, 203
 自動コミット・カウント、編集オプショ
 ン 676
 自動検出、コンパイラ言語選択オプショ
 ン 513
 式、REXX 266
 実行、
 File Manager/Db2

バッチ・モード 444
 実行、エクスポート・オプション 692
 実行時間が長い Db2 照会、取り消し 57
 実行時間が長い Db2 照会の取り消し 57
 取り消し
 特権 353
 終了 31
 重複キー処理、オプション 516
 出力クラス、印刷オプション 824
 出力データ・セット割り振り、オプション 67
 出力宛先、印刷オプション 822, 822
 出力幅、変更 106, 106
 述部
 指定 406
 処理
 オプション エディター
 ランダム・サンプリング 658
 処理オプション
 COBOL
 コンパイラ仕様 66
 置換オプション 815
 追加 SYSLIB データ・セット 814
 FM/Db2
 システム
 Db2 オブジェクト名の変換 848
 Db2 カタログへのアクセス時の非コミット読み取りの使用 852
 Display Format for DATE/TIME Columns 851
 FM/Db2
 「Object List Options (1 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 1))」パネル
 742
 FM/Db2
 「Object List Options (2 of 2) (オブジェクト・リスト・オプション (2 の 2))」パネル
 745
 FM/Db2
 「Systems Options (1 of 4) (システム・オプション (4 の 1))」パネル
 847
 FM/Db2
 「Systems Options (2 of 4) (システム・オプション (4 の 2))」パネル
 850
 FM/Db2
 「Systems Options (3 of 4) (システム・オプション (4 の 3))」パネル
 853
 FM/Db2
 「Systems Options (4 of 4) (システム・オプション (4 の 4))」パネル
 854
 テンプレートの構築時の外部キー情報の検索 852
 二重引用符による SQL ID のカプセル化 848
 任意の SQL SELECT ステートメント 850
 FM/Db2
 システム
 入力 SQL ステートメントの変換 848
 FM/Db2
 システム・オプション
 65
 HLASM
 DBCS 816
 NOALIGN 816
 ISPF 設定 68, 829

LISTDEF ユーティリティー・オプション 70
 PL/I
 コンパイラ仕様 66, 67
 追加 SYSLIB データ・セット 820
 アンロード・ユーティリティー・オプション 71
 エクスポート
 ネイティブ Unicode 処理 692
 エクスポート・ユーティリティー・オプション 70
 エディター
 1 次キーの更新の許可 667
 1 次キーの表示 668
 Commit when save issued (SAVE を出すときにコミット) 676
 Concurrency and locking options (並行性およびロック・オプション) 655
 Display prefix area (接頭部領域を表示する) 663
 Enter key and commit processing options (Enter キーおよびコミット処理オプション) 655
 Key, index and export options (キー、索引およびエクスポート・オプション) 655
 Optimization, large table and data sampling options (最適化、大きな表およびデータ・サンプリング・オプション) 654
 Prefix Area (接頭部領域) 662
 Prefix length (接頭部の長さ) 662
 Remove trailing spaces (末尾スペースの除去) 672
 Show end of string (ストリング終了の表示) 672
 Show excluded shadow lines (除外されたシャドウ行を表示する) 666
 Show export options (エクスポート・オプションの表示) 670
 Show prefix area on the right (右側に接頭部領域を表示する) 663
 Show SQLCODE (SQLCODE の表示) 663
 Table/Single format, prefix area and shadow options (表/単一形式、接頭部領域およびシャドウ・オプション) 654
 Use row count value (行カウント値の使用) 657
 Varying length and nullable column options (可変長およびヌル可能列オプション) 655
 with 文節なし 681
 インセンシティブ・カーソル・タイプ 658
 エディター CAPS 設定 652
 カーソル固定 681
 クラスター化サンプリング 658
 サンプリング・シード 660
 サンプリング・タイプ 658
 サンプリング頻度 660
 スキップ・カウント 659
 スクロール可能カーソル・タイプ 658
 ストリング終了区切り (入力) 672
 ストリング終了区切り (表示) 673
 スペースをヌルに変換 673
 センシティブ・カーソル・タイプ 658
 ヌル列入力標識 673
 ランダム・サンプリング 659
 外部キーの表示 668
 共用ロックの使用/保持 681
 更新ロックの使用/保持 681

行カウント 620, 624, 640
 索引標識の表示 669
 自動コミット・カウント 676
 初期スキップ・カウント 659
 初期表示 652
 組み込みカウント 659
 単一表示形式のオプション 664
 読み取り固定 681
 読み取り固定保持ロック 681
 排他ロックの使用/保持 682
 反復可能読み取り 681
 反復可能読み取り保持ロック 681
 表の表示形式 661
 並行性およびロック 678
 保管エラーがないときのみコミットするオプション 676
 オブジェクト・リスト・オプション 69
 オプション・ユーティリティー・オプション 71
 グローバル、設定
 FM/Db2
 824
 コピー
 RI/制約エラーの無視 517
 Use uncommitted read (非コミット読み取りの使用) 515
 ネイティブ Unicode 処理 517
 ロック 516
 既存の行の削除 517
 重複キー処理 516
 コンパイラ
 COBOL 513, 815
 HLASM 513
 PL/I 513, 820
 言語の選択 66, 513
 自動検出 513
 システム・オプション 64
 ジョブ・カード仕様 65
 データ・セット割り振り
 一時 67
 出力 67
 デフォルトの設定 63
 テンプレート・ユーティリティー・オプション 71
 トレース・オプション 67
 バッチ
 バッチ実行依頼ジョブ・ステートメント情報 813
 ユーティリティー 68
 ロード
 COPY 保留フラグを設定しない 738
 DBCS データ 739
 IEEE 浮動小数点の使用 738
 SBCS データ 739
 ログ変更 738
 既存データの置換 738
 既存のデータの再使用 738
 混合 DBCS データ 739
 再開 (新規データの付加) 738
 最大廃棄数 739
 索引キーの数 738
 索引を並列に構築 738
 制約の強制 738
 置換文字を許可 738
 未使用ページの事前形式設定 738
 印刷
 (1,*) 824
 (n,m) 824
 132 822
 80 822
 MOD 823

OLD 823
 REXX 822
 SYSPRINT 822
 データ・セット 822
 データ・セットDISP 823
 データ・セット名 824
 ページ・スキップ 823
 ページ当たりの行数 824
 レコード制限 824
 レコード長 822
 ワイド印刷 823
 出力クラス 824
 出力宛先 822, 822
 大文字メッセージ・テキスト 824
 端末 822
 不能文字の変換 823
 印刷処理オプション 69, 69, 70
 印刷設定 65
 表示オプション 68
 編集、監査証跡の作成 626, 653
 編集オプション 68
 処理オプションの設定
 HLASM 処理オプション 816
 初期スキップ・カウント・オプション 659
 初期表示オプション 652
 除外する行
 RESET を使用して再表示 966
 除外行
 エディター・セッションでのソート 167
 除去
 パネル
 リスト 646
 説明 646
 機能 250
 詳細パネル
 リスト 644
 説明 644
 情報
 テンプレートに保管 76
 数値
 フィールド、大きい 171
 列 (オブジェクト・リスト・ユーティリ
 ティ) 319
 列、検索 154
 数値、左揃え
 表の表示形式 665
 数値の左揃え、編集オプション 665
 制御ステートメント、継続 444
 制約の強制、Db2 LOAD ユーティリティー・
 オプション 738
 整数データ、エクスポート・オプション 697
 接頭部
 コマンド
 リスト 857, 868
 リスト、有効な 168
 行選択基準、リスト 797
 使用 192
 域
 有効なコマンドのリスト 168
 領域
 コマンドの使用 192
 接頭部コマンド
 O 861
 On 861
 OO 861
 接頭部域
 位置の設定 168
 接頭部域の位置決め 168
 設定 (オプション 0)、説明 824
 説明、テンプレートに追加 86
 先行ゼロ、表示 107

先行ゼロの抑止 107
 選択
 オプション
 FM/Db2
 パネル
 46
 行 141
 属性変更する列 104
 前提条件情報、
 FM/Db2
 xvii
 組み込みカウント・オプション 659
 組み込み関数、REXX 274
 挿入
 基本キー 859, 870
 行 858, 869
 行 (区画情報) 577
 属性
 英数字列の、変更 105
 数値列の、変更 106
 列の変更 117
 大きい
 数値フィールド 171
 大きな
 表オプション 172
 大規模モード・エディター・セッション、指
 定 125
 大文字、データを変換 195
 大文字メッセージ・テキスト、印刷オプシ
 ョン 824
 単一表示形式
 オプション 664
 説明 158
 端末、印刷オプション 822
 値リスト、データのスクランブル 111
 長いストリング
 検索 148
 変更 189
 通常モード・エディター・セッション、指
 定 125
 同義語
 オブジェクトの指定時に使用 50
 オブジェクトの指定時に使用 48, 50, 50, 50
 パネル、説明 845
 同義語の作成 245
 特権
 [Manage Db2 Privileges (Db2 特権の管
 理)] パネルの使用 349
 パネル、リスト 764
 パネルの付与、形式 716
 機能 348
 取り消し 353
 取り消しパネル、形式 796
 説明 764
 認可 351
 表示 351
 表示パネル、形式 765
 特権の取り消し、オブジェクトの
 パネルのリスト 764
 特権の取り消しパネル
 のリスト 795
 説明 795
 特権の認可 351
 特権の認可パネル
 のリスト 715
 説明 715
 読み取り
 固定オプション 681
 固定保持ロック・オプション 681
 読み取り専用ビュー 196

二重引用符による SQL ID のカプセル化処理オ
 プション 848
 入力 SQL ステートメントの変換 848
 任意の SQL SELECT ステートメント 850
 配置、エクスポート・オプション 695
 反復可能
 読み取りオプション 681
 読み取り保持ロック・オプション 681
 反復可能項目、構文図 xvii
 比較演算子、REXX 269
 非 Db2 データ、テンプレートの使用 78
 非除外行、エディター・セッションでのソー
 ト 167
 標識、エクスポート・オプション 695
 表
 大きな、次向けのオプション 172
 表示形式のオプション 661
 表スペース
 Db2 オブジェクト用、指定 50
 表スペースの作成
 データ
 ストレージ 232, 232
 ロック 232
 区画 232
 表スペース
 タイプ 231
 割り振り 231
 表の作成
 テーブル作成オプション
 値の生成 242
 モデルを使用 234
 モデルを使用しない 237
 表の作成 オプション
 固有制約 239
 表の作成オプション
 オプション 238
 ヌルおよびデフォルト値 238
 プロシージャー出口 241
 検査制約 240
 参照制約 239
 説明 237
 列 238
 表の表示形式 156
 表形式の表示形式
 see 表の表示形式
 表示
 1 次キー・オプション 668
 キー、索引 664
 スケール引オプション 662
 ストリング終了オプション 672
 データ・タイプ・オプション 661
 外部キー・オプション 668
 形式
 [Zoom] 機能キーの使用 162
 単一 (SNGL) 158
 表 (TABL) 156
 例 155
 索引標識オプション 669
 除外行 858, 869
 先行ゼロ 107
 特権 351
 表の表示形式 661
 列番号オプション
 単一表示形式 664, 664
 表の表示形式 662
 表示 (オプション 1)
 VARCHAR、処理オプション 184
 データのソート 167
 可変長列、処理オプション 184
 表示、印刷出力、ブラウズ時または編集
 時 155

表示オプション 68
浮動小数点データ、エクスポート・オプション 698
並行性
およびロック・オプション 678
別のセッションの開始
FM/Db2
エディター
137
変換
スペースをヌルにオプション 673
行の大文字を小文字に 860, 871
行を大文字に 862, 872
変更
スクランブル・タイプ 109
スクランブル・データ・セット名 111
スクランブル値オプション 109
スクランブル値列 110
スクランブル範囲値 111
出力幅 106, 106
数値列 191
先行ゼロの抑止 107
属性
英数字列 105
数値列 106
列 117
長さの異なるストリング 189
変更の検証、エディター・セッション 129
変更の保管、エディター・セッション 129
変数、構文図 xvii
編集
テンプレート 84
編集 (オプション 2)
VARCHAR、処理オプション 184
ズーム 161
データのソート 167
データを大文字に変換 195
可変長列、処理オプション 184
編集オプション 68
編集セッションの解釈エラー 207
編集モデル
例 446
編集モデル Db2
JCL で挿入 445
編集接頭部コマンド、リスト 857, 868
保管エラーがないときのみコミットするオプション 676
末尾スペースの除去オプション 672
未使用ページの事前形式設定、Db2 LOAD
ユーティリティ・オプション 738
戻りコード、COBOL コピーブックのコンパイル時の最大 815
戻りコード、PL/I コピーブックのコンパイル時の最大 821
有効なコマンド (オブジェクト・リスト・ユーティリティ) 330
要約統計 347
列
シーケンス、テンプレートに保管された情報 77
スクランブル・オプションを指定するための選択 108
スクロール時の保持 100
マッピング
規則 (データ・タイプ変換) 119
隣接する列 118
英数字、属性の変更 105
画面の選択 99
見出し
テンプレートに保管された情報 77
変更 105

固定属性、テンプレートに保管された情報 77
固定属性、テンプレートに保管されている情報 77
使用属性、テンプレートに保管された情報 77
指定された名前へのスクロール 144
数値、属性の変更 106
選択基準、テンプレートに保管された情報 76
属性変更のための選択 104
番号
LOCATE 基本コマンドに対する指定 145
表示 169
表の作成 オプション 238
名前、LOCATE 基本コマンドに指定する 145
列のリスト 149
列の範囲 149
論理演算子、REXX 273

数字

10 進数データ、エクスポート・オプション 697
132、印刷オプション 822
16 進、データの表示 167
80、印刷オプション 822

A

A 行コマンド
行選択基準 797
表、ビューおよび別名 876
表スペース 867
表編集 857, 868
ABOUT 基本コマンド 902
ADD 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
ALL 基本コマンド 902
ALS 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
AND 行選択基準結合子 798
APF 許可 30
AT 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
列 511

B

B 行コマンド
DBRM 615
行選択基準 797
表、ビューおよび別名 876
表編集 858, 868
BACKWARD 基本コマンド 39, 39, 903
batch processing (バッチ処理)
Utilities (ユーティリティ) (オプション 3.9) 362
BATSQL (バッチ SQL)、
FM/Db2
バッチ関数
988
BI 行コマンド
アプリケーション・プラン 484
BIGINT データ・タイプ、説明 452
BINARY データ・タイプ、説明 452
BLOB (ラージ・オブジェクト) 454
BOTTOM 基本コマンド 38, 904
BROWSE 基本コマンド 904
BT 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
BTW 800

C

C 行コマンド
行選択基準 797
表、ビューおよび別名 876
表編集 858, 868
CA-Panvalet
データ・セットを指定 53
非 Db2 データでのコピーブックの使用 80
CANCEL 基本コマンド 905
CAPS 基本コマンド 195, 906
CASE 基本コマンド 195, 907
CC 行コマンド 797
CDI 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
CH 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
CHANGE
外部関数 279
基本コマンド 907
Change Extended (CX) コマンド 189
CHAR データ・タイプ、説明 452
CHARPOS 基本コマンド 913
CHR 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
CK 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
CLOB (ラージ・オブジェクト) 454
COBOL
コンパイラ
オプション 815
言語選択オプション 513
仕様 66
戻りコード、最大許容 815
コンパイラ、詳細の表示 31
データ記述項目 79
置換オプション、COBOL 処理オプション 815
COL
基本コマンド 913
行コマンド
索引 725
表、ビューおよび別名 876
COM 行コマンド
ストアド・プロシージャ 845
トリガー 885
関数 712
特殊タイプ 646
表、ビュー、および別名 876
列 511
CONTAINS 外部関数
FM/Db2
CONTAINS 280
COPY 保留フラグを設定しない、Db2 LOAD
ユーティリティ・オプション 738
CR 行コマンド
シーケンス 812
ストアド・プロシージャ 845
データベース 618
トリガー 885
関数 712
索引 725
同義語 847
特殊タイプ 646
表、ビューおよび別名 876
表スペース 867
CRA 行コマンド
同義語 847
表、ビューおよび別名 876
Create (作成) (オプション 3.8)、説明 504
Create Alias (別名の作成) 242
Create Auxiliary Table (補助表の作成) 249
Create Database (データベースの作成) 230

Create Distinct Type (特殊タイプの作成) 245
Create Procedure (プロシージャの作成) 247
Create View (ビューの作成) 242
CRS 行コマンド
データベース 618
CRT 行コマンド
表スペース 867
CRX 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
CS 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
CX (Change Extended) コマンド 189

D

D 行コマンド
EXPLAIN プラン表 753
行選択基準 797
索引 725
表、ビューおよび別名 876
表スペース 867
表スペース区画接頭部コマンド 577
編集接頭部コマンド 858, 869
D 行コマンド
ストレージ・グループ 841
D2
オブジェクト名、パネルでの指定 47
D2G (データ生成)、
FM/Db2
バッチ関数
1025
D2TP (テンプレート作成/更新)、
FM/Db2
バッチ機能
1028
DATE データ・タイプ、説明 453
Db2
オブジェクト
リストの処理 312
作成および除去 213
コマンド、
FM/Db2
セッションから入力
205
サブシステム
「Db2 SSID」フィールドを使用した変更 32
SSID コマンドを使用した変更 34
サブシステム選択メニュー 35
選択 32
サポートされているリリース
FM/Db2
27
データ
サポートされるタイプ 452
共用環境 633
ユーティリティ
LOAD 367
REBUILD 375
RECOVER 378
REORG 382
RUNSTATS 386
UNLOAD 303, 391
コピー 364
生成 356
対話機能、インターフェース 450
特権、管理 348
表、内容の印刷 337
Db2 オブジェクトの所有者、指定 49
Db2 オブジェクトの場所、指定 48
Db2 オブジェクトの名前、指定 50

Db2 オブジェクト名の変換 処理オプション 848
Db2 カタログへのアクセス時の非コミット読み取りの使用処理オプション 852
Db2 サブシステムの選択 32, 37
Db2 データのタイプ 452
Db2 テンプレートを使用している「LOAD Utility (LOAD ユーティリティ)」パネルの説明 734
Db2 対話機能の開始 (オプション 5)、説明 450
Db2 表
追加 251
Db2 表へのデータの追加 251
DB2SYS コマンド
see SSID コマンド、Db2 サブシステムの変更
DBC (コピー)、
FM/Db2
バッチ関数
996
DBCLOB (ラージ・オブジェクト) 454
DBCS
データ、Db2 LOAD ユーティリティ・オプション 739
設定: LOAD ユーティリティ・オプション (オプション 0.5) 739, 739
表示または編集 72
DBCS 処理オプション 816
DBI (インポート)、
FM/Db2
バッチ関数
1003
DBP (印刷)、
FM/Db2
バッチ関数
1009
DBX (Export)、
FM/Db2
バッチ機能
1012
DD 行コマンド
行選択基準 797
表編集 858, 869
DECFLOAT データ・タイプ、説明 452
DECIMAL データ・タイプ、説明 452
DELCOL 基本コマンド 914
DELETE 基本コマンド 915
DEP 行コマンド
シーケンス 812
パッケージ 482
DESCRIBE 基本コマンド 916
DESELECT 基本コマンド 916
DI 行コマンド
列 511
Display Format for DATE/TIME Columns 処理
オプション 851
DK 行コマンド
EXPLAIN ステートメント・テーブル用 838
EXPLAIN プラン表の 753
DOUBLE PRECISION データ・タイプ、説明 452
DOUBLE データ・タイプ、説明 452
DOWN 基本コマンド 38, 917
DP 行コマンド
EXPLAIN ステートメント・テーブル用 839
EXPLAIN プラン表の 753
DQ 行コマンド
EXPLAIN ステートメント・テーブル用 839
EXPLAIN プラン表の 753
DR 行コマンド

シーケンス 812
ストアド・プロシージャ 845
データベース 618
トリガー 885
関数 712
索引 725
同義語 847
特殊タイプ 646
表、ビュー、および別名 876
表スペース 867
DROP、RETURN 戻り値 286
DS 行コマンド
データベース 618
表スペース 867
DS/DC 82
DSECT 82
DT 行コマンド
スキーマ 809
列 511

E

E 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
表編集 858, 869
Edit (編集) (オプション 2)
16 進形式でのデータの表示 167
エラー、処理 207
スクロール 162
表示されるデータの制限
行の除外 164
EDIT 基本コマンド 919
EDITCOL 基本コマンド 919
END 基本コマンド 920
Enter key and commit processing options (Enter キーおよびコミット処理オプション) 655
EQ 行選択基準演算子 799
EXCLUDE 基本コマンド
説明 921
EXECUTE 基本コマンド 925
EXIT ステートメント 276
EXPAND 基本コマンド 926
EXPLAIN
ステートメント・テーブル基本コマンド
DK 838
DP 839
DQ 839
I 839
K 839
M 839
P 839
プラン表基本コマンド
D 753
DK 753
DI 753
DQ 753
FR 753
I 753
IH 753
K 753
M 754
P 754
SR 754
T 754
UH 754
X 754
解釈パネル、説明 688
基本コマンド 926
Export (エクスポート) (オプション 3.7)
シナリオ 302
データの形式 293

バッチ実行 303
用法に関する注 296
設定、実行セッション用オプションの 290
説明 287
EXPORT 基本コマンド
説明 927

F

F 行コマンド
スキーマ 809
表編集 858, 869
FILE 基本コマンド 929
Find Extended (FX) コマンド 148
FIND 基本コマンド
オブジェクト・リスト・ユーティリ
ティ 323
説明 930
FIRST パラメーター、LOCATE コマンドの使
用 147
FK 行コマンド
表、ビューおよび別名 876
FLD
パラメーター、LOCATE コマンドで使用す
る 146
外部関数 281
FLOAT データ・タイプ、説明 452
FM/Db2
「Object List Options (1 of 2) (オブジェク
ト・リスト・オプション (2 の 1))」パネル
の説明 741
「Object List Options (2 of 2) (オブジェク
ト・リスト・オプション (2 の 2))」パネル
の説明 745
「Systems Options (1 of 4) (システム・オ
プション (4 の 1))」パネルの説明 847
「Systems Options (2 of 4) (システム・オ
プション (4 の 2))」パネルの説明 850
「Systems Options (3 of 4) (システム・オ
プション (4 の 3))」パネルの説明 852
「Systems Options (4 of 4) (システム・オ
プション (4 の 4))」パネルの説明 854
REXX プロシージャ、とのインター
フェース、説明 276
REXX プロシージャとのインターフェー
スの説明 287
サポートされている Db2 リリース 27
テンプレート、からのコピーブックの作
成 121
パネル
Db2 オブジェクト・オブジェクト名、指
定 47
Db2 オブジェクトの名前、指定 50
SQLID、指定 52
アクション・バー 39
オプションの選択 46
コマンド行 40
データベース、指定 50
パネル・タイトル 40
パネル本体 40
ファンクション・キー 40
レコード・カウント 40
所有者、指定 49
操作 39
表スペース、指定 50
フレーバー xv
外部関数
CHANGE 279
CONTAINS 280
FLD 281
NCONTAIN 282
PRINT 282

PRTCOUNT 283
RECSIN 283
RECSOUT 283
TALLY 284
TM 285
WRITE 285
関数
BATSQL (バッチ SQL) 988
D2G (データ生成) 1025
DBC (コピー) 996
DBI (インポート) 1003
DBP (印刷) 1009
説明 987
機能
D2TP (テンプレート作成/更新) 1028
DBX (Export) 1012
機能、概要 24
起動 29
終了 31
場所、指定 48
入力フィールド
パターン、使用 51
ワイルドカード、使用 51
FM/Db2
「Release News (リリース・ニュース)」パネ
ルの説明
709
FM/Db2
エディター
Db2 オブジェクトの指定 138
セッション・タイプの指定 125
セッションの開始 124
セッションの終了 135
確認、変更の保管 129
現行
FM/Db2
セッションの設定オプション
128
FM/Db2
によって提供される外部関数
CHANGE 279
FLD 281
PRINT 282
FM/Db2
エディター
別のセッションの開始 137
FM/Db2
セッション、別の開始
137
FMAP 基本コマンド 936
FMN
DB2
444
FORMAT 基本コマンド 937
FORWARD 基本コマンド 38, 38, 937
FR 行コマンド (EXPLAIN プラン表用) 753
FRE 行コマンド
アプリケーション・プラン 484
パッケージ 482
FREE 基本コマンド 939
FS
基本コマンド 940
行コマンド 858, 869
FT 基本コマンド 940
FX (Find Extended) コマンド 148

G

G 行コマンド
アプリケーション計画 484
コレクション 492
シーケンス 812

ストアド・プロシージャ 845
ストレージ・グループ使用特権 843, 843,
901
データベース 618
パッケージ 482
関数 712
特殊タイプ 646
表、ビューおよび別名 876
表スペース 867
表の編集 858, 869
列 511
GE 行選択基準演算子 799
GEN 行コマンド
スキーマ 809
ストアド・プロシージャ 845
データベース 618
リバース・エンジニアリング 333
関数 712
索引 725
特殊タイプ 646
表、ビューおよび別名 876
表スペース 867
GRAPHIC タイプ、説明 452
GT 799

H

H 行コマンド
列 511
HEX 基本コマンド 941
HIDE 基本コマンド 941
HINT 基本コマンド 942
HLASM
コンパイラ
仕様 66
データ記述項目 79
データ記述項目のサポート
DS/DC 82
DSECT 82
HLASM 処理オプション 816
HLASM、コンパイラ言語選択オプショ
ン 513
HOLD 基本コマンド 943

I

I 行コマンド
DBRM 616
EXPLAIN ステートメント・テーブル用 839
EXPLAIN プラン表の 753
アプリケーション・プラン 484
ストアド・プロシージャ 845
ストレージ・グループ使用特権 843
データベース 618
トリガー 885
パッケージ 482
プラン表行パネル 755
関数 712
索引 725
同義語 847
特殊タイプ 646
表、ビューおよび別名 876
表スペース 867
表スペース 区画接続部コマンド 577
表編集 858, 869
列 511
ICS 行コマンド
データベース 618
索引 725
表スペース 867
IEEE 浮動小数点を使用、Db2 LOAD ユーティ
リティ・オプション 738
IH 行コマンド (EXPLAIN プラン表用) 753
Import (インポート) (オプション 3.6) 259, 287

REXX プロシージャー、使用 265
シナリオ 302
説明 259

IN 行選択基準演算子 800

INDEXINF 基本コマンド 944

INSRPT 基本コマンド 945

INTEGER データ・タイプ
説明 452

IP 編集接頭部コマンド 859, 870

ISPF
精通 xvi
設定 68

J

JCL
実行
File Manager/Db2
バッチ・モード 444

K

K 行コマンド
EXPLAIN ステートメント・テーブル 839
EXPLAIN プラン表 753
プラン表行パネル 755

Key, index and export options (キー、索引およびエクスポート・オプション) 655

L

L 行コマンド
表編集 860, 870

LAB 行コマンド
表、ビューおよび別名 877
列 511

LAST パラメーター、LOCATE コマンドでの使用 147

LC 行コマンド
表編集 860, 870

LCC 行コマンド、表編集 860, 871

LE 行選択基準演算子 799

LEFT 基本コマンド 945

LHEX 基本コマンド 947

LISTCAT
出力表示パネル、説明 728

LISTDEF が指定された「REBUILD (Indexes for Table Spaces) (REBUILD (表スペースの索引))」パネルの説明 771

LISTDEF が指定された「REBUILD (Indexes) (REBUILD (索引))」パネルの説明 775

LISTDEF が指定された「RECOVER Utility (Index Spaces) (RECOVER ユーティリティ (索引スペース))」パネルの説明 778

LISTDEF が指定された「RECOVER Utility (Table Spaces) (RECOVER ユーティリティ (表スペース))」パネルの説明 782

LISTDEF が指定された「REORG Utility (Indexes) (REORG ユーティリティ (索引))」パネルの説明 790

LISTDEF ステートメント、Db2 ユーティリティ・ジョブでの生成 360

LISTDEF ユーティリティ
オプション 70

LISTDEF を指定した「COPY Utility (Index Spaces) (コピー・ユーティリティ (索引スペース))」パネルの説明 524

LISTDEF を指定した「COPY Utility (Table Spaces) (コピー・ユーティリティ (表スペース))」パネルの説明 531

LISTDEF を指定した「REORG Utility (Table Spaces) (REORG ユーティリティ (表スペース))」パネルの説明 794

LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility (Indexes) (RUNSTATS ユーティリティ (索引))」パネルの説明 803

LISTDEF を指定した「RUNSTATS Utility (Table Spaces) (RUNSTATS ユーティリティ (表スペース))」パネルの説明 806

LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Table Spaces) (UNLOAD ユーティリティ (表スペース))」パネルの説明 889

LISTDEF を指定した「UNLOAD Utility (Tables) (UNLOAD ユーティリティ (表))」パネルの説明 894

LK 行選択基準演算子 799

LOAD
Db2 ユーティリティの生成 367
オプション 70
元パネル、説明 730
設定、現行セッション用オプションの 373

LOB
説明 454

LOBBRWS 基本コマンド 948

LOBEDIT 基本コマンド 949

LOBLEN 基本コマンド 950

LOBVIEW 基本コマンド 951

LOCATE 基本コマンド
エディター・セッション 144, 144
オブジェクト・リスト・ユーティリティ 323
説明 951

LPT 行コマンド
アプリケーション・プラン 484
パッケージ 482

LT 799

LZ 基本コマンド
see LZERO 基本コマンド

LZERO 基本コマンド 956

M

M
行コマンド
EXPLAIN ステートメント・テーブル 839
EXPLAIN プラン表 754
アプリケーション・プラン 484
行選択基準 798
編集接頭部コマンド 860, 871

MM 行コマンド
行選択基準 798
表編集 861, 871

MOD、印刷オプション 823

N

NBT 行選択基準演算子 800

NCONTAIN 外部関数 282

NE 行選択基準演算子 799

NEW 基本コマンド 956

NEWS 基本コマンド 956

NEXT
パラメーター、LOCATE コマンドで使用する 146
基本コマンド 956

NEXTRPT 基本コマンド 957

NIN 行選択基準演算子 800

NL 行選択基準演算子 800

NLK 行選択基準演算子 799

NNL 行選択基準演算子 800

NOALIGN 処理オプション 816

NR 行選択基準演算子 800

NUMERIC データ・タイプ、説明 452

スキーマ 809

O 接頭部コマンド 861

Object List (オブジェクト・リスト) (オプション 3.4) 312

GEN 行コマンド 333

ROW 行コマンド 331

リバース・エンジニアリング 333

演算子行 318, 318
行コマンド
照会 329
説明 312
表示されるデータの制限 318
有効なコマンド 330

Object List (オブジェクト・リスト) (オプション 3.4)
ストリングの検索 323
基本コマンド
FIND 323
LOCATE 323
探し出す、行または列を 323

Objects (オブジェクト) (オプション 3.2)、説明 213

OLD、印刷オプション 823

On 接頭部コマンド 861

OO 接頭部コマンド 861

Optimization, large table and data sampling options (最適化、大きな表およびデータ・サンプリング・オプション) 654, 655

OR 行選択基準結合子 798

ORDER 基本コマンド 957

P

p 行コマンド
EXPLAIN ステートメント・テーブル 839
EXPLAIN プラン表 754
アプリケーション・プラン 484
コレクション 492
スキーマ 809
ストアド・プロシージャー 845
ストレージ・グループ 842
データベース 618
パッケージ 482
関数 712
特殊タイプ 646
表
スペース 867
編集 861, 871
表、ビューおよび別名 877
列 511

PA 行コマンド
表、ビューおよび別名 877

PAR 行コマンド
表、ビューおよび別名 877

PARM 行コマンド
ストアド・プロシージャー 845
関数 712

PB 基本コマンド
使用 342
説明 958

PK 行コマンド
表、ビューおよび別名 877

PKG 行コマンド
アプリケーション・プラン 484
コレクション 492
ストアド・プロシージャー 845
トリガー 885
関数 712
索引 725
表、ビューおよび別名 877

PKL 行コマンド
アプリケーション・プラン 484

O
o 行コマンド

- コレクション 492
- パッケージ 482
- PL 行コマンド
 - DBRM 616
 - コレクション 492
 - パッケージ 482
 - 索引 725
 - 表、ビューおよび別名 877
- PL/I
 - DECLARE ステートメント 80
 - コンパイラー
 - オプション 820
 - 言語選択オプション 513
 - 仕様 67
 - 戻りコード、最大許容 821
 - データ記述項目のサポート
 - REFER 82
 - VARYING 82
 - VARYINGZ 82
 - データ記述項目のサポート
 - サポートしない 83
- PLAN 基本コマンド 959
- PR 行コマンド
 - 表、ビューおよび別名 877
- PREFIX 基本コマンド 168, 193, 959
- PREV パラメーター、LOCATE コマンドでの使用 147
- PREVIOUS 基本コマンド 960
- PREVRPT 基本コマンド 961
- PRINT
 - 外部関数 282
 - 基本コマンド 961
- Print (印刷) (オプション 3.1) 337, 340
- Print Audit Trail (監査証跡の印刷) パネルの説明 757
- Print Browse (印刷ブラウズ) (オプション 3.11)
 - 基本コマンド
 - FIND 930
 - LOCATE 951
 - PRINT 961
 - PURGE 963
 - 説明 342
- Privileges (特権) (オプション 3.5) 348
 - 説明 348
- processing options (処理オプション)
 - コピー
 - 「Copy Options (コピー・オプション)」パネル 258
- PROTOCOL 基本コマンド 962
- PRTCOUNT 外部関数 283
- PS 行コマンド
 - ストアド・プロシージャ 845
 - トリガー 885
 - 関数 712
 - 特殊タイプ 646
- PT 行コマンド
 - ストレージ・グループ 842
 - スペース 867
 - 索引 725
- PTF レベル、表示
 - FM/Db2
 - 30
- PURGE 基本コマンド 963
- Q**
- QUIT 基本コマンド
 - see CANCEL 基本コマンド
- R**
- R
 - 行コマンド
 - xxx 484
 - アプリケーション・プラン 484
 - コレクション 492
 - スキーマ 809
 - ストアド・プロシージャ 845
 - データベース 618
 - パッケージ 482
 - 関数 712
 - 行選択基準 798
 - 特殊タイプ 646
 - 表、ビューおよび別名 877
 - 表スペース 867
 - 表スペース区画接頭部コマンド 577
 - 編集接頭部コマンド行 861, 871
 - R 行コマンド
 - ストレージ・グループ使用特権 843
 - RB1 行コマンド
 - アプリケーション・プラン 484
 - パッケージ 482
 - RCHANGE 基本コマンド 963
 - RD 基本コマンド 963
 - RDT 行コマンド
 - 関数 712
 - RE 編集接頭部コマンド 861, 871
 - REAL データ・タイプ、説明 452
 - REBUILD、Db2 ユーティリティの生成 375
 - RECOVER、Db2 ユーティリティの生成 378
 - RECSIN 外部関数 283
 - RECSOUT 外部関数 283
 - REDIT 基本コマンド 964
 - REFER 82
 - REFRESH 基本コマンド 965
 - REFS 基本コマンド 965
 - REORG、Db2 ユーティリティの生成 382
 - RESET 基本コマンド
 - 説明 966
 - RESET 基本コマンド
 - エディター・セッションでの 193
 - RETURN ステートメント 276
 - RETURN 命令、戻り値
 - DROP 286
 - STOP 287
 - STOP IMMEDIATE 287
 - REXX
 - 「Import (インポート)」(オプション 3.6)でのプロシージャの使用 265
 - Db2 スル標識の変換 311
 - ブール演算子 273
 - プロシージャ、インポートでの使用、説明 276
 - プロシージャの説明、インポートでの使用 287
 - 一般情報 266
 - 関数、組み込み 274
 - 算術演算子 271
 - 式 266
 - 組み込み関数 274
 - 比較演算子 269
 - 変数
 - INREC 277
 - OUTREC 277
 - 論理演算子 273
 - REXX、印刷オプション 822
 - RFIND 基本コマンド 967
 - RG 行選択基準演算子 800
 - RI/制約エラーの無視、オプション 517
 - RIGHT 基本コマンド 967
 - ROW 行コマンド
 - DBRM 616
 - アプリケーション・プラン 484
- オブジェクト・リスト (オプション 3.4) 331
- コレクション 492
- シーケンス 812
- スキーマ 809
- ストアド・プロシージャ 845
- ストレージ・グループ 842
- データベース 618
- トリガー 885
- パッケージ 482
- 関数 712
- 索引 725
- 同義語 847
- 特殊タイプ 646
- 表、ビューおよび別名 877
- 表スペース 867
- 列 512
- ROWID データ・タイプ、説明 453
- RP 基本コマンド 969
- RR
 - 行コマンド、行選択基準 798
 - 編集接頭部コマンド 862, 872
- RUNSTATS、Db2 ユーティリティの生成 386
- RUNTEMP 基本コマンド 970
- S**
- S
 - 行コマンド
 - アプリケーション・プラン 484
 - ストレージ・グループ 842
 - データベース 618
 - パッケージ 482
 - 表、ビューおよび別名 877
 - 編集接頭部コマンド 862, 872
 - SAF 規則で制御された監査
 - 説明 72
 - SAF 規則で制御される監査
 - 「Create audit trail (監査証跡の作成)」オプション
 - 「Copy Utility (From) (コピー・ユーティリティ (元))」パネル 521
 - 「Data Create Utility (データ作成ユーティリティ)」パネル 613
 - 「Db2 Edit (Db2 編集)」パネル 626
 - 「Edit/Execute SQL (Data Set) (SQL の編集/実行 (データ・セット))」パネル 650
 - 「Editor Options (1 of 8) (編集オプション (8 の 1))」パネル 653
 - 「Enter, Execute and Explain SQL (SQL ステートメントの入力、実行、および説明)」パネル 687
 - 「Export Utility (エクスポート・ユーティリティ)」パネル 701
 - 「Import (To) (インポート (宛先))」パネル 722
 - 印刷ユーティリティ・パネル 763
 - 監査証跡オプションの作成
 - Db2 オブジェクトの指定 139
 - SAF 規則で制御される監査 監査の作成
 - 「Create audit trail (監査証跡の作成)」オプション
 - 「Db2 View (Db2 表示)」パネル 642
 - SAVE 基本コマンド 970
 - SAVEAS 基本コマンド 971
 - SBCS データ、Db2 LOAD ユーティリティ・オプション 739
 - SCH 行コマンド
 - ストアド・プロシージャ 845
 - トリガー 885

関数 712
 特殊タイプ 646
 SEL 行コマンド
 表、ビューおよび別名 877
 SHADOW 基本コマンド 971
 Show prefix area on the right (右側に接頭部域
 を表示する) オプション 663
 SHOW 基本コマンド 36, 972, 972
 SHOWCOB 基本コマンド
 使用 31
 説明 974
 SMALLINT データ・タイプ、説明 452
 Sn edit 接頭部コマンド 862, 872
 SNGL 表示形式
 see 単一表示形式
 SORT 基本コマンド
 DBRM 616
 アプリケーション・プラン 484
 コレクション 492
 スキーマ 809
 スタード・プロシージャー 845
 データベース 618
 トリガー 885
 パッケージ 482
 関数 712
 索引 725
 同義語 847
 特殊タイプ 646
 表、ビュー、および別名 877
 表スペース 867
 表示または編集 974
 列 512
 SQL
 エラー 440
 キーワード 215
 コマンド
 アプリケーション・プラン 484
 ステートメント
 操作する 402
 プロトタイピング、実行、および分析 (オ
 プション 4) 402
 プロトタイピング、実行、および分析 (オ
 プション 4)、説明 402
 プロトタイピング、実行、および分析パネ
 ル、説明 836
 基本コマンド 975
 行コマンド
 コレクション 492
 トリガー 885
 パッケージ 482
 最適化オプション 172
 SQL プロトタイピング
 基本 402
 SQLID
 基本コマンド 976
 指定 52
 SR 行コマンド
 EXPLAIN プラン表 754
 プラン表行パネル 755
 SS 行コマンド
 表編集 862, 872
 SSID コマンド、Db2 サブシステムの変更 34
 STOP IMMEDIATE、RETURN 戻り値 287
 STOP、RETURN 戻り値 287
 SYN 行コマンド
 表、ビューおよび別名 877
 SYSLIB データ・セット
 COBOL 処理オプション 814
 PL/I 処理オプション 820
 SYSPRINT

REXX プロシージャー、TALLY 外部関
 数 284
 SYSPRINT、印刷オプション 822

T

T 行コマンド
 EXPLAIN プラン表 754
 アプリケーション・プラン 484
 データベース 618
 トリガー 885
 プラン表行パネル 755
 索引 725
 同義語 847
 特殊タイプ 646
 表、ビューおよび別名 877
 表スペース 867
 列 512
 TABL 表示形式
 see 表の表示形式
 Table/Single format, prefix area and shadow
 options (表/単一形式、接頭部域およびシャ
 ドー・オプション) 654
 TALLY 外部関数 284
 TB 行コマンド 482
 TE
 see TEDIT 基本コマンド
 TEDIT 基本コマンド 84, 155, 977
 TIME データ・タイプ、説明 453
 TM 外部関数 285
 TOP 基本コマンド 39, 977
 TP 基本コマンド 977
 TR 行コマンド
 スキーマ 809
 TSO 領域サイズ
 サポートされる最小 28
 ストレージの考慮事項 140
 大きな表またはビューの表示 141
 TYPE 基本コマンド 978

U

UC 編集接頭部コマンド 862, 872
 UCC 行コマンド 862, 873
 UH 行コマンド (EXPLAIN プラン表用) 754
 UNDO 基本コマンド 978
 Unicode データ 185
 UNLOAD、Db2 ユーティリティの生成 391
 UP 基本コマンド 39
 Use uncommitted read (非コミット読み取り
 の使用)
 コピー・オプション 515
 Utilities (ユーティリティ) (オプション 3.9)
 設定オプション 358
 UTL 行コマンド
 索引 725
 表、ビューおよび別名 877
 表スペース 867

V

V 行コマンド
 アプリケーション・プラン 484
 パッケージ 482
 表、ビューおよび別名 877
 VARBINARY データ・タイプ、説明 452
 VARCHAR
 データ・タイプ
 処理オプション 184
 説明 452
 処理オプション 184
 VARGRAPHIC データ・タイプ、説明 452
 VARYING 82
 Varying length and nullable column options
 (可変長およびヌル可能列オプション) 655

VARYINGZ 82
 VER
 基本コマンド 30, 980
 行コマンド
 パッケージ 482
 View (表示) (オプション 1)
 16 進形式でのデータの表示 167
 スクロール 162
 表示されるデータの制限
 行の除外 164
 VIEW 基本コマンド 980
 VOL 行コマンド
 ストレージ・グループ 842
 VS 行コマンド
 表、ビューおよび別名 877

W

WIDTH 基本コマンド 981
 with 文節なしオプション 681
 WRITE 外部関数
 FM/Db2
 によって提供される 285

X

X
 X 行コマンド
 EXPLAIN プラン表 754
 アプリケーション・プラン 484
 ストレージ・グループ 842
 データベース 618
 パッケージ 482
 表、ビューおよび別名 877
 列 512
 編集接頭部コマンド 863, 873
 XC 行コマンド
 表、ビューおよび別名 877
 XMLBRWS 基本コマンド 982
 XMLEDIT 基本コマンド 983
 XMMLLEN 基本コマンド 984
 XMLVIEW 基本コマンド 985
 XPT 基本コマンド
 ストレージ・グループ 842
 XX 行コマンド 863, 873

Z

ZCSR エディター割り当てラベル 153
 ZFST エディター割り当てラベル 153
 ZLST エディター割り当てラベル 153
 ZOOM 基本コマンド 162, 986

あ

アクション・バー
 FM/Db2
 パネルでの
 39
 プルダウン・メニュー、説明 456
 アスタリスク (*)
 FM/Db2
 入力フィールドでの使用
 51
 フィルター操作、オブジェクト・リス
 ト 319
 アテンション割り込みキー 57
 アンロード・ユーティリティ
 オプション 71

い

インセンシティブ・カーソル・オプシ
 ョン 658
 インポート
 データのスクランブル 301

え

エクスポート
「Options (2 of 3) (オプション (3 の 2))」
パネル、説明 694
「Options (3 of 3) (オプション (3 の 3))」
パネル、説明 691, 696
オプション
10 進数データ 697
batch data set creation (バッチ・デー
タ・セット作成) 693
グラフィック・データ 698
タイプ 695
データ形式 691
使用法 694
整数データ 697
配置 695
標識 695
浮動小数点データ 698
データのスクランブル 301
エクスポート・
オプション
実行 692
エクスポート・データ・セット、エクスポート・
オプション 693
エクスポート・ユーティリティー・オプション
70
エディター
ラベルの付いた行を検出する 144
位置決め
行 144
検索
ストリング 148
エディター・セッション
SQL 最適化オプション 172
Unicode データ 185
タイプの指定 125
データのビューの変更、表示された 154
位置決め
列 144
開始位置、指定 127
検索
数値列 154
制限、表示データの
行ラベル 152
大きい数値フィールド 171
大きな表オプション 172
エディター・セッションでのデータの制限
行の除外 164
行ラベル 152
エディター・セッションのモード、指定 125
エディター・セッションの開始位置、指
定 127
エディターの CAPS 設定 652
エラー
SQL ステートメント 440
編集セッション中の、処理 207
エンジニアリング、リバース 333

お

オブジェクト
名、パネルでの指定 47
オブジェクト・リスト (オプション 3.4)
オブジェクト・リスト・パネルの操作 316
ソート
1 列 333
複数列 333
基本コマンド
SORT 332
行コマンド
領域 323
オブジェクト・リスト・オプション 69
オブジェクト・リスト・パネルの操作 316

オプション
エクスポート、設定 290
メニュー 457
選択
FM/Db2
パネル
46
表の作成 237
表の作成オプション 238
オプション・パネル 63
オプション・ユーティリティー
オプション 71
オプションの
FM/Db2
エディター、設定
128

か

カーソル固定オプション 681

き

キー、アテンション割り込み 57
キーワード、構文図 xvii

く

クラスター化サンプリング・オプション 658
クラスター化データ・サンプリング 173
グラフィック・データ、エクスポート・オプション 698
クリップボードから行の検索 858, 869
クリップボードから行を取得 858, 869

こ

コピー
データのスクランブル 301
行 858, 868
行 (行選択基準) 797
コピー (オプション 3.3)
現行セッションのオプションの設定 258
説明 253
コピー・ユーティリティー・オプション 69
コピー、Db2 ユーティリティーの生成 364
コピーブック
CA-Panvalet ライブラリーに保存 53
FM/Db2
テンプレートからの作成
121
Library Management System Exit 53
コーディング 304, 310

こ

コマンド
継続 444
構文図の見方 xvii
コマンド、Db2、
FM/Db2
セッションから入力
205
コマンド行、説明 40
コメント
パネル
リスト 512
説明 512
コンパイラー、COBOL、詳細の表示 31
コンパイラー言語の選択 66

さ

サブシステム、Db2
サブシステム選択メニュー 35
選択 32
サンプリング・シード・オプション 660
サンプリング・タイプ オプション 658
サンプリング・データ
クラスター化 173

ランダム 175
サンプリング頻度オプション 660

し

システム・オプション 64, 65
シャドー行
ラベルの割り当て 863, 873
表示または非表示 971
ジョブ・カード仕様 65

す

ズーム 161
スキップ・カウント・オプション 659
スクランブル
オプション
スクランブル・タイプ、指定 109
値オプション、指定 109
値データ・セット名、指定 111
値リスト 111
値列、指定 110
範囲値、指定 111
スクランブル・オプションを指定するための
列の選択 108
スクロール 100, 162
パネル内での 38, 39
ラベルの付いた行へ 144
最後のページへの 38
最初のページに 39
指定の行へ 144
指定の列へ 144
スクロール可能カーソル・タイプ オプション
658
スクロール時の保持 100
ステートメントの継続 444
ストリングの検索の繰り返し 148
ストリング終了区切り
入力オプション 672
表示オプション 673
ストリング長い
長いストリング 189

せ

セッション、別の開始 137
セッションの終了
FM/Db2
エディター
135
センシティブ・カーソル・オプション 658

そ

ソート
データ 167
表示データ (オブジェクト・リスト) 332

た

タイプ、エクスポート・オプション 695

ち

チュートリアル用ヘルプ 58

て

データ
16 進形式でのデータの表示 167
エディター・セッションでソート 167
コピー 253
サンプリング 173
タイプ、VARCHAR 184
ラージ・オブジェクト (LOB) 454
形式、Export (エクスポート) (オプション
3.7) の出力データ 293
データのスクランブル
コピー、インポート、エクスポート 301
データ・セット DISP、印刷オプション 823

データ・セット、印刷オプション 822
 データ・セット名
 パネルでの指定 53
 データ・セット名、印刷オプション 824
 データ・タイプ
 規則、変換 119
 表示 169
 データ・タイプ、説明
 BIGINT 452
 BINARY 452
 CHAR 452
 DATE 453
 DECFLOAT 452
 DECIMAL 452
 DOUBLE 452
 FLOAT 452
 GRAPHIC 452
 INTEGER 452
 NUMERIC 452
 REAL 452
 ROWID 453
 TIME 453
 VARBINARY 452
 VARCHAR 452
 VARGRAPHIC 452
 データ・タイプ、説明SMALLINT 452
 データ、表示
 ビューの変更 154
 制限
 行の除外 164
 行ラベル 152
 データのコピー
 SQL ステートメントから 297
 VSAM または QSAM ファイルからの 259
 VSAM または QSAM ファイルへの 287
 ある Db2 オブジェクトから別の Db2 オブ
 ジェクトへの 302
 ある Db2 オブジェクトから別のオブジェ
 クトへ 253
 シナリオ 302
 現行
 FM/Db2
 エディター・セッションから
 297
 データの順序、変更 101
 データの制限 149
 データベース
 Db2 オブジェクト用、指定 50
 データをコピー
 FM/Db2
 使用するためのユーティリティー
 253
 データを大文字に変換 195
 データ記述記入項目のサポート
 PL/I
 REFER 82
 VARYING 82
 VARYINGZ 82
 データ記述項目のサポート
 HLASM
 DS/DC 82
 DSECT 82
 PL/I
 サポートしない 83
 データ共用環境 633
 データ形式、エクスポート・オプション 691
 テンプレート
 COBOL データ記述項目 79
 HLASM データ記述項目 79
 PL/I DECLARE ステートメント 80
 からのコピーブック の作成 121

マッピング
 データ 112
 による自動
 FM/Db2
 113
 規則 (データ・タイプ変換) 119
 使用できる場所 113
 指定 114
 印刷 78
 概要 24
 使用できる 25
 使用方法 75
 説明の追加 86
 選択
 属性変更する列 104
 表示する行 86
 表示する列 99
 操作 75
 定義 24
 非 Db2 データを使用 78
 編集
 スクロール時の列の保持 100
 説明 84
 表示されるデータの順序の変更 101
 列見出しの変更 105
 保管された情報 76
 テンプレート・ユーティリティー
 オプション 71
 テンプレートの構築時の外部キー情報の検索
 処理オプション 852
 テンプレートの使用 25

と

トリガーの作成
 SQL ステートメント 249
 検索条件 249
 詳細 249
 説明 248
 トレース・オプション
 設定 67

に

によって提供される外部関数 280
 によって提供される外部関数
 FM/Db2
 NCONTAIN 282
 PRTCOUNT 283
 RECSIN 283
 RECSOUT 283
 TALLY 284
 TM 285

ぬ

ヌルおよびデフォルト値、表の作成オプシ
 ョン 238
 ヌル可能列が入ったデータのエクスポ
 ート 310
 ヌル列入力標識
 オプション 673
 データでのエクスポート 310

ね

ネイティブ Unicode 処理、オプション 517,
 692

は

パーセンテージ (%)
 FM/Db2
 入力フィールドでの使用
 51
 パーセント記号 (%)

フィルター操作、オブジェクト・リス
 ト 319
 パターン、
 FM/Db2
 入力フィールドでの使用
 51
 バッチ・モード
 JCL 構文 444
 実行、
 File Manager/Db2
 444
 バッチ・モード Db2
 編集モデルの使用 445
 バッチ関数
 BATSQ (バッチ SQL) 988
 D2G (データ生成) 1025
 DBC (コピー) 996
 DBI (インポート) 1003
 DBP (印刷) 1009
 バッチ機能
 D2TP (テンプレート作成/更新) 1028
 DBX (Export) 1012
 バッチ実行依頼ジョブ・ステートメント情報
 処理オプション 813
 バッチ処理
 [Audit trail (監査証跡)] (オプション
 3.10) 258
 [Object List (オブジェクト・リスト)] (オ
 プション 3.4) 334
 [Utilities (ユーティリティー)] (オプシ
 ョン 3.9) 368
 Create (作成) (オプション 3.8) 613
 Export (エクスポート) (オプション 3.7) 296
 Import (インポート) (オプション 3.6) 264
 Object List (オブジェクト・リスト) (オプ
 ション 3.4) 335
 Print (印刷) (オプション 3.1) 340
 監査証跡 (オプション 3.10) 344
 前提知識 xvi
 パネル
 [Column Selection/Edit (列の選択/編
 集)] 86, 99, 99
 [Export Options (1 of 3) (エクスポート・
 オプション (3 の 1))] パネル、説明 691
 [Export Options (2 of 3) (エクスポート・
 オプション (3 の 2))] パネル、説明 694
 [Export Options (3 of 3) (エクスポート・
 オプション (3 の 3))] パネル、説明 697
 FM/Db2
 [Object List Options (1 of 2) (オブジェ
 クト・リスト・オプション (2 の 1))] パネ
 ル、説明
 742
 FM/Db2
 [Object List Options (2 of 2) (オブジェ
 クト・リスト・オプション (2 の 2))] パネ
 ル、説明
 745
 FM/Db2
 [Systems Options (1 of 4) (システム・オ
 プション (4 の 1))] パネル、説明
 847
 FM/Db2
 [Systems Options (2 of 4) (システム・オ
 プション (4 の 2))] パネル、説明
 850
 FM/Db2
 [Systems Options (3 of 4) (システム・オ
 プション (4 の 3))] パネル、説明
 853
 FM/Db2

「Systems Options (4 of 4) (システム・オプション (4 の 4))」パネル、説明 854
ISPF 設定パネル 829
オプションの選択 46
タイトル 40
レコード・カウント 40
操作 39
特権、管理 348
本体 40
列の選択/編集 85, 85
パフォーマンス
一般的なヒント 987

ひ

ビュー (オプション 1)
ズーム 161

ふ

ファンクション・キー
デフォルト設定 40
フィールド・レベル・ヘルプ 60
フィルター行、オブジェクト・リスト 318
ブール演算子、REXX 273
ブラウズ
更新不可の列 196
読み取り専用ビュー 196
フラグメント、構文図 xvii
ブルダウン・メニューのアクション・バー 39
フレーバー、以下に所属
File Manager
xv
プログラム・ディレクトリー mclxiii
プロシーチャーの作成
オプション・リスト 248
オプション・リスト (1/2) 248
パラメーター 247
パラメーター・タイプ 248
プロシーチャー出口、表の作成オプション 241
プロトタイピング、基本コマンド
UNDO 978
プロトタイピング、基本コマンド
ALL 902
CANCEL 905
DESELECT 916
EXECUTE 925
INSRPT 945
NEXTRPT 957
PREVRPT 961
RESET 966
SQL 975

へ

ページ
最後へのスクロール 38
ページ・スキップ、印刷オプション 823
ページ、スクロール
最初 39
ページ当たりの行数、印刷オプション 824
ヘルプ
アクセス 57
チュートリアル用 58
フィールド 60
メニュー 459

ま

マッピング
テンプレート、使用できる場所 113
テンプレートを使用したデータ 112
による自動
FM/Db2

113
指定 114
隣接する列 118

め

メンバー名
パネルでの指定 53
メンバー名、PDS
パネルでの指定 53

も

モデル表、表の作成ユーティリティーの使用
法 234

ゆ

ユーティリティー 68
ユーティリティー (オプション 3.9)
Db2 ユーティリティー・ジョブの生成 360
説明 356
ユーティリティー機能メニュー
Export (エクスポート) (オプション 3.7) 287
Import (インポート) (オプション 3.6) 259,
287
Object List (オブジェクト・リスト) (オプション 3.4) 312
Objects (オブジェクト) (オプション
3.2) 213
Print (印刷) (オプション 3.1) 337
Print Browse (印刷ブラウズ) (オプション
3.11) 342, 963
Privileges (特権) (オプション 3.5) 348
監査証跡 (オプション 3.10) 344

ら

ラージ
オブジェクト (LOB) 454
ラベル
エディター割り当て 153
行 863, 873
ラベルの付いた行
位置決め 144
ランダム・サンプリング・オプション 658,
659
ランダム・データ・サンプリング 175

り

リバース・エンジニアリング
GEN 行コマンド 333
オブジェクトのリスト 333
パフォーマンス上のヒント 335
説明 333
リリース、表示
FM/Db2
30

れ

レコード制限、印刷オプション 824
レコード長、印刷オプション 822

ろ

ログ変更、Db2 LOAD ユーティリティー・オプション 738
ロック
コピー・オプション 516

わ

ワイド印刷、印刷オプション 823
ワイルドカード、
FM/Db2
入力フィールドでの使用
51